講 義 内 容（2025 年 2 月時点）

※公開後の変更内容は反映されていません。最新情報はWebシラバスで確認してください。

自 動 登 録 科 目

科目名	必修基礎演習	曜日時限	クラス１～３３ 月2 or 火3 or 木3 or 金3
コーディネーター	文化構想学部　中澤　達哉		

自動登録科目

授　業　概　要

「必修基礎演習」は、大学での学修の基礎となる知識やスキルを習得することを目的としています。そのための課題を大きく2つ設定しています。

第1は、図書館の利用方法や情報検索の方法を身につけ、大学での活動において気をつけるべき事柄を理解することです。このために、オンラインのコンテンツを活用しながら関連する情報を習得し、さらにディスカッションによって理解を深めていきます。

第2に、「読む」力と「書く」力を養成することです。そのためにはおおよそ、次の3つのステップを経ることになります。

・一定以上の難度をもつ文章（論文・評論など）を読み、それを手がかりに、何らかの問い（論題）を立てる。
・問いに答えていくための情報（文献など）を収集する。
・集めた情報をもとに考察を加え、問いに対する答えを導き、一定以上の分量の文章（レポート）にまとめる。

「必修基礎演習」では、担当教員の指導のもとで、このような作業を進めていきますが、レポートをまとめる前に、その過程で調べたことや考えたことを教室で発表し、他の学生や教員とディスカッションを行います。自分の発表に対する質問に答えたり、他の学生の発表に対して積極的に質問を投げかけたりすることは、考えを練り上げていく上で大きな助けとなるはずです。

授業の到達目標

大学での学修の基礎となる知識やスキルを習得することを第1の目標とします。また、文献を読み解き、それをもとに論理的に考え、文章化する能力を身につけることを第2の目標とします。

教　科　書

『必修基礎演習ガイドブック』：文献を読み、レポートを書くための手引きです。授業には持参してください（学生証交付時に配布します）。

参　考　文　献

「必修基礎演習テキスト100」：「必修基礎演習」で読むにふさわしい文献として論系・コースから推薦された図書の一覧です。Waseda Moodle本科目「講義1」に掲載しています。

「基礎演習教材論文」：文学学術院の教員が執筆した論文で、「必修基礎演習」用にアレンジされています。MyMasedaの「基礎演習データベース」から検索できます。

その他、オンラインでの各種コンテンツが用意されていますので、コンテンツの説明をよく読んで活用してください。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しません。
●**レポート**　50%　　自分で問いを立て、文献を調べるなどして考察を進め、結論に至る道筋を示すことが必要です。
●**平常点**　50%　　発表やディスカッションに積極的に参加してください。
●**その他**　0%　　特にありません。

備考・関連ＵＲＬ

・「必修基礎演習」の担当教員が1年次のクラス担任となります。
・成績評価の目安として、「A+」は総履修者の10%以内、「A」は30%以内となります。

科目名	基礎演習（JCulP）1							
担当者名	高井　詩穂							
共通	2単位	春クォーター	月3時限	木3時限	1年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

This course is part of a sequence designed to help students develop the essential skills required to conduct research in the Humanities, with an emphasis on learning how to read academic articles and think critically and logically. Throughout the semester, students will become acquainted with and critically discuss various key articles on Japanese culture.

This is a required course for JCulP first-year Japanese students and will automatically be registered.

授業の到達目標

By the end of the course, students will be able to:

1) Acquire exposure to key articles on Japanese culture in English.
2) Summarize and critically discuss academic articles.
3) Convey ideas logically and coherently based on readings.

成績評価方法

20% Final Project
30% Attendance and Class Participation
50% Weekly Assignments and Presentations

科目名	基礎演習（JCulP）2							
担当者名	ピタルク　パウ							
共通	2単位	秋クォーター	月3時限	木3時限	1年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

This course is part of a sequence designed to help students develop the essential skills required to conduct research in the field of Humanities. Students will learn how to structure and write a research paper, how to find relevant secondary sources, interpret them and incorporate them in their own writing.

This is a required course for all JCulP first-year students and will automatically be registered.

授業の到達目標

By the end of the course, students will be able to:

1. Understand what an academic argument is, how to interpret it, and develop it.
2. Find and evaluate relevant secondary sources in the context of a particular research question.
3. Incorporate secondary sources in their writing, in dialogue with their own arguments.
4. Formulate and develop productive research questions of their own.

成績評価方法

40% Take-Home Written Assignments
30% In-Class Writing and Presentations
30% Attendance and Class Participation

備考・関連URL

You will need passing grades in all categories（Exams / Attendance & Participation / Responses & Presentations）in order to obtain a grade for the course.

科目名	基礎演習（JCulP）3							
担当者名	由尾　瞳							
共通	2単位	冬クォーター	月3時限	木3時限	1年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

This course is part of a sequence designed to help you develop the essential skills required to conduct research and write academically in the field of Humanities. Continuing with the theme of "Japanese Culture in a Global Context" from Required Core Seminar (JCulP) 2, you will learn the basics of academic writing, including how to critically analyze primary and secondary sources, build a compelling argument and structure, and write effective introductions and conclusions. At the end of the course, you will also work in groups and develop presentation skills through Multi-Modal projects.

This is a required course for all JCulP first-year students and will automatically be registered.

授業の到達目標

1. Gain the skills of close analysis of a primary text.
2. Learn the skills of using secondary sources to give evidence to an argument.
3. Draft, edit, peer-review, and polish an analytical paper.
4. Effectively use digital technology and develop presentation skills.

成績評価方法

1. Attendance & Participation (15%)
2. Assignments (15%)
3. Final Analytical Paper (45%)
4. Multi-Modal Project & Presentation (25%)

科目名	基礎講義	曜日時限	フルオンデマンド授業
コーディネーター	文化構想学部　中澤　達哉		

授　業　概　要

この授業は2年次に進級する文化構想学部6論系各プログラムの総合案内として、フルオンデマンド形式で提供される科目です。各自が何を学びたいのかを探る助けとなるように、各論系が作成したコンテンツが用意されています。そのうち30コンテンツ以上を、所定期間内に受講してください。なお、「文化構想学部総説」コンテンツをのぞく各論系の全コンテンツには「レビューシート」（小テスト）が設定されていますので、コンテンツを視聴のうえ、コンテンツごとに150字以上300字以内の感想を書き込むことが必須となります。（150字に満たない感想は、受講とみなされませんので注意してください。）

学期末にレポート課題一覧が出されますので、一つを選んでレポートを提出してください。

各コンテンツをしっかりと受講し、各論系の特徴をよく理解することが、進級先を決めるのに役立ちます。フォーラム（フリーディスカッション）を利用して、コンテンツの担当教員に質問することもできます。

授 業 の 到 達 目 標

受講者は、この基礎講義を通じて、文化構想学部で展開されるさまざまな学問領域について基礎的な知識を得て、さらに個々の講義の内容に基づいて教養を深めるとともに、2年次からの論系進級に向けて学習の指標を見出すことを目標とします。

教　　科　　書

なし。

参　考　文　献

本科目についてはとくにありませんが、各論系・各コースの専門領域に関しては「基礎演習データベース」に参考となる文献が掲載されています。

成 績 評 価 方 法

●**試験**　0%　　なし。

●**レポート**　50%　　学期末に掲出のレポート課題一覧から1つを選び提出（1800字-2200字）。

●**平常点**　50%　　30コンテンツ以上の出席（所定期間内の視聴＋レビューシートへの感想の書き込み（各150字以上300字以内））が必須です。

※「文化構想学部・文 学部総説」コンテンツには「レビューシート」の設定はありません。

●**その他**　0%　　成績評価はP（合格）、Q（不合格）の2種類です。

レポートと平常点評価の2つを併せて総合的に評価します。いずれかの条件を満たしていない場合はQ（不合格）となります。

備 考 ・ 関 連 U R L

（1）コンテンツの内容に関わる質問はフォーラム（フリーディスカッション）で受け付けます。

（2）レポート提出はWaseda Moodle上で行います。

科目名	1年フランス語（Step 1）イ・ロ・ハ・ニ（春学期） 1年フランス語（Step 2）イ・ロ・ハ・ニ（秋学期）	曜日時限	各クラスの曜日・時限は、開講科目一覧で確認してください
コーディネーター	鈴木　雅雄		

授　業　概　要

はじめてフランス語を学ぶ人たちを対象にした授業です。フランス語の文法事項と日常表現の習得を2本の柱として、「読む・書く・聞く・話す」の総合的な語学力を養成していきます。イ・ロ・ハ・ニ各クラスの基本的な内容は次のとおりです。イ・ハは文法の授業で、春学期・秋学期ともに同一の日本人教師が担当し、フランス語学習の骨格となる基本文法を、体系的・段階的に学んでいきます。ロ・ニはオーラル・コミュニケーションが中心で、春学期・秋学期ともに、ロはフランス語ネイティヴの教師が、ニは日本人教師が担当します。共通教材を用い、リレー形式で授業を行います。

なおイ・ハの授業は火曜1時限と金曜2時限、あるいは火曜2時限と金曜1時限ですが、このうち1時限目の授業はリアルタイム・オンラインで行います。また授業の進度はクラスによって異なることがあり、必要に応じて学習項目の加除を行うこともあります。

授業の到達目標

イ・ロ・ハ・ニ全体を通じて、フランス語の基礎知識の習得、および「読む・書く・聞く・話す」という4つの能力の総合的な養成をめざします。これはまた、2年次以降の中級・上級クラス（テクスト講読、文化紹介、会話、作文、等々）に対応できる基礎学力を身につけることでもあります。なお「1年フランス語」では、CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）の「A1～A2」（入門～初級）レベルにほぼ相当する語学教育を行います。

教　科　書

春学期イ・ハおよび秋学期イ・ハは『新システマティックフランス語文法』（早美出版社）、春学期ロ・ニおよび秋学期ロ・ニは『コンヴェルサスィオン・エ・グラメール』（アルマ出版）　＊再履修クラスの教科書については、担当教員から指示があります。

参　考　文　献

仏和辞典は必携です。『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）を推奨します。

成績評価方法

●**試験**　50%　　イ・ハは共通試験を、各学期の最後に実施するか、各学期数回に分けて行います。ロ・ニは個別の試験を、原則として各学期の最後に実施します。

●**レポート**　0%　　なし。

●**平常点**　50%　　出席を重視し、授業準備や授業態度、小テストの成績等を加味して総合的に判断します。

●**その他**　0%　　成績評価の目安として、「A+」を総履修者の10%以内、「A」を30%以内とします。これは自動登録科目（必修基礎演習、基礎外国語、必修英語）共通の評価基準です。

備考・関連ＵＲＬ

授業でわかりにくいところがあった場合は、もちろん担当教員に質問してくれればいいのですが、これ以外にも履修者の学習をサポートするためのラーニング・アシスタント制度があります。詳しくは4月以降、フランス語選択者に案内をします。

科目名	1年ドイツ語（Step 1）イ・ロ・ハ・ニ（春学期） 1年ドイツ語（Step 2）イ・ロ・ハ・ニ（秋学期）	曜日時限	各クラスの曜日・時限は、開講科目一覧で確認してください
コーディネーター	山本　浩司		

授　業　概　要

ドイツ語の基礎知識の習得を目標として，「読む・聴く・話す・書く」の4能力を総合的に養成する授業を行います。各科目の内容は以下の通りです。イ・ハ：週2回の授業を同一の日本人教員が担当。文法を学びます。イ・ハのうち片方はフルオンデマンドで文法説明、もう一方は教室対面で練習問題を解いて解説します（このため「1年ドイツ語」では1限の授業がありません）。文法を終えた後は，ドイツ語テキストの読解に進みます。ロ・ニ：週2回の授業をネイティヴ教員と日本人教員が連携して担当。国際標準の教科書を使って、さまざまな「場面」や「話題」に即したドイツ語の表現を学びます。なお，いずれの科目も授業計画については，必要に応じて，その項目の配列変更、項目の加除を行うことがあります。

授業の到達目標

ドイツ語の基礎知識の習得，および「読む・聴く・話す・書く」の4能力の総合的な養成。春学期と秋学期を続けて学習すれば、欧州共通参照レベルA1に到達します。

教　科　書

イ・ハに関してはクラスごとの文法教科書、ロ・ニに関しても全クラス共通の教科書（Schritte International NEU 1, 2）を使用します。

参　考　文　献

イ・ハに関してはクラスごとの文法教科書、ロ・ニに関しては全クラス共通の教科書（Schritte International NEU 1, 2）を使用します。

成　績　評　価　方　法

●**試験**　50%　　イ・ハ・ロ・ニそれぞれ個別の試験を原則として各学期の最後に実施します。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　50%　　イ・ロ・ハ・ニともに、出席状況、授業準備（予習）や授業態度のほか、クラス毎の小試験や中間試験によって平常点を評価します。
●**その他**　0%　　成績評価の目安として，「A+」を総履修者の10%以内，「A」30%以内とします。これは自動登録科目（必修基礎演習、基礎外国語、必修英語）共通の評価基準です。
また、成績評価方法の詳細は担当教員によって異なることがあります。その場合、担当教員からの説明をよく聞いておくこと。

備考・関連ＵＲＬ

欧州共通参照レベルについては以下を参照してください。
https://ja.wikipedia.org/wiki/ヨーロッパ言語共通参照枠

科目名	1年ロシア語（Step 1）イ・ロ・ハ・ニ（春学期） 1年ロシア語（Step 2）イ・ロ・ハ・ニ（秋学期）	曜日時限	各クラスの曜日・時限は、開講科目一覧で確認してください
コーディネーター	八木　君人		

授　業　概　要

ロシア語を初めて学ぶ学生を対象にした授業です。春学期イ・ニでは、日本人教員とともにロシア語の初級文法について学びます（教科書：『はじめてのロシア語』）。春学期ハは、イ・ニで学んだ文法知識を確実に運用できるようにするための授業です。日本人教員から文法事項の補足説明を受けながら、復習したり、練習問題を解いたりします。あわせて、語学学習のみならず、ロシア（語）に関係する文化についても理解を深めていきます。春学期ロでは、ロシア語ネイティブの教員のもとで正確な発音、基本的単語、構文、語順等を習得していきます（教科書：『ロシア語教程』）。秋学期イ・ニでは、春学期イ・ニの続きを学びます。秋学期ロでは、春学期ロの続きを学びます。秋学期ハでは、春学期ハの続きを学びます。

授 業 の 到 達 目 標

ロシア語の初級レベルの文法知識、および会話力の習得を目標にします。

教　　科　　書

1）桑野隆『はじめてのロシア語』（白水社）
2）狩野亨／A.アキーシナ『ロシア語教程』（ナウカ出版）
3）『新ロシア語習字帳』（日ソ） 辞書 『博友社ロシア語辞典』（博友社）

＊持ち運びに便利な電子辞書は2冊目の辞書としてはよいのですが、中・上級者向けで、初級者がそれだけで済ませるにはやや難があります。また、もし2年生以上もロシア語学習を長く続けていくならば、初級者向けではありませんが、辞書は『研究社露和辞典』（研究社）を購入しても良いと思います。

参　考　文　献

1）匹田剛『これならわかる ロシア語文法 入門から上級まで』（NHK出版）：1年生で学ぶことのみならず、基本的な文法事項が網羅的に説明されています。
2）桑野隆『初級ロシア語20課』（白水社）：授業で使う上記教科書と同レベルのものです。同じ著者のもので、練習問題なども重複していますが、万が一、授業についていけなくなったときの予習・復習には便利です。

成 績 評 価 方 法

●**試験**　50%　　但し、イ・ニ、ロ、ハは、それぞれ評価方法は異なるため、この数字はあくまで目安として考えてください。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　50%　　但し、イ・ニ、ロ、ハは、それぞれ評価方法は異なるため、この数字はあくまで目安として考えてください。
●**その他**　0%　　成績評価の目安として、「A+」を総履修者の10%以内、「A」30%以内とします。
上記は自動登録科目（必修基礎演習、基礎外国語、必修英語）共通の評価基準です。

備 考 ・ 関 連 U R L

＊各回の内容を記した「授業計画」はあくまで目安です。実際には、授業の理解度やクラスの雰囲気に応じて各回の授業内容は柔軟にかわります。語学の学習はきわめて地味なものですが、みなさんのこれからの勉強にとって重要な意味をもっています。ロシア語に限らず、語学学習の上で必要なのは、なんといっても地道な反復練習です。どうか授業を休まないで、遅刻もしないように心がけてください。そのためにも、何のために学ぶのかという動機づけを自分なりにはっきりさせることが、学習を長続きさせる決め手になるでしょう。授業では、アニメ・映画を観たり、音楽を聴いたり、モスクワ、ペテルブルクやロシア文化の話もしていきます。ときにはロシア料理を食べに行くこともあるかもしれません。

ひとりでは厄介なことでも、みんなで学べば楽しくなるものです！ロシア語クラスは和やかな雰囲気の中で学ぶことができるでしょう。教員と学生の距離が近いために、学生は気軽に質問ができ、教員は一人一人の学生のキャラクターを把握できます。これも、第二外国語でロシア語を学ぶ上での利点と言えると思います。

科目名	1年中国語（Step 1）イ・ロ・ハ・ニ（春学期） 1年中国語（Step 2）イ・ロ・ハ・ニ（秋学期）	曜日時限	各クラスの曜日・時限は、開講科目一覧で確認してください
コーディネーター	楊　達		

授　業　概　要

中国語を初めて学ぶ人のために、中国語の基礎知識の習得を目標とする。全クラス統一教材を用い、イ・ロ・ハ・ニをリレー式で授業を行う。週4回の授業はすべて教室での対面で実施する予定である。ただし、コロナ感染拡大の状況によっては、授業形態を変更することもあり得る。

授業の到達目標

春学期は、発音の基礎を定着させ、簡単な会話ができることをめざす。秋学期は、春学期で習得した基礎を前提とし、中国語運用能力の基本となる文法の習得、リスニング、会話、作文力の向上をめざす。

教　科　書

《ベーシックチャイニーズ1》《ベーシックチャイニーズ2》三修社出版

成績評価方法

●**試験**　50%　　すべてのクラスを対象に統一テストを実施する予定である。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　50%　　各クラスの担当教員が評価する。TESTUDY学習システムの進捗、出席、授業態度などが評価の基準になる。対面授業中の小テストも成績評価の目安となる。
●**その他**　0%　　「A+」を総履修者の10%以内、「A」30%以内とする。
上記は自動登録科目（必修基礎演習、基礎外国語、必修英語）共通の評価基準である。

備考・関連URL

コロナ感染などの状況次第、授業形式、試験形式および評価方法に変更が生じることもある。その際、必ず事前にMoodleで履修者全員に知らせる。

科目名	1年スペイン語（Step 1）イ・ロ・ハ・ニ（春学期） 1年スペイン語（Step 2）イ・ロ・ハ・ニ（秋学期）	曜日時限	各クラスの曜日・時限は、開講科目一覧で確認してください
コーディネーター	アスティゲタ　ベルナルド		

授　業　概　要

スペイン語を初めて学ぶ学生を対象に、様々な場面における幅広いトピックに対応できるスペイン語能力の基盤を作ります。4技能（聞く、話す、読む、書く）を使えるようにするとともに、スペイン語圏諸国への理解を深め、異文化能力を高める活動を行います。

週4コマ「イ」「ロ」「ハ」「ニ」のクラスで連携されます。

「イ」と「ロ」: 文法事項と語彙・表現を中心に学習し、応用練習（読む、聞く、話す、書く）も行います。

「ハ」:「イ」と「ロ」の学習事項を活かしながら、身近なテーマについて話したり聞いたりする活動を行います。

「ニ」:「イ」と「ロ」で学ぶ文法の補足の説明や演習を適宜行いながら、主に簡単な文を聞く・読む・書く活動を行うと同時に、スペイン語圏の文化を紹介し、異文化理解につなげる活動も行います。

授 業 の 到 達 目 標

ヨーロッパ言語共通参照枠A2レベル程度までのスペイン語基礎文法をとらえ、身近なテーマに関連する基本語彙と表現を使って、スペイン語を運用できるようになることを目指します。また、スペイン語圏の事情に対する関心を高め、理解する態度を養います。

1.「イ」と「ロ」: 初級文法を理解し、日常生活や身近な社会の問題に関連する語彙を身に付け、自己を表現できます。

2.「ハ」: 身近なテーマについて、自分の考えを述べたり相手の話を聞いたりして、口頭での簡単なやりとりができます。

3.「ニ」: 基本的なスペイン語を聞き取り、大意をつかんで訳を通さないでも理解できる。辞書を効果的に用いて身近なテーマの文を理解できる。学習した文法事項を用いて簡単な文を書くことがでます。

教　　科　　書

「イとロ」:四宮瑞枝他. 『アクシオン！<三訂版>』白水社

「ハ」:Juan Carlos Moyano, et al.『¡Muy bien! 1第2版』 朝日出版社

「ニ」:Juan Carlos Moyano, et al.『¡Muy bien! 1第2版』 朝日出版社
四宮瑞枝他 『アクシオン！<三訂版>』白水社

参　考　文　献

辞書は使用する場合は以下の4点から選んで用意する。『西和中辞典』小学館、『現代スペイン語辞典（改訂版）』白水社、『新スペイン語辞典』研究社、『クラウン西和辞典』三省堂

成 績 評 価 方 法

- **試験**　50%　　学期末に総合的な理解を問う試験（理解度の確認）を実施します。
- **レポート**　0%　　なし。
- **平常点**　50%　　中間試験や小テストなどを通じた習得過程の到達度、授業参加度、課題達成度などを総合的に判断します。
- **その他**　0%　　成績評価の目安として、「A+」を総履修者の10%以内、「A」30%以内とします。

上記は自動登録科目（必修基礎演習、基礎外国語、必修英語）共通の評価基準です。

備 考 ・ 関 連 U R L

フィードバックは授業中に行うか、あるいはMoodleを通じて行います。

平常点評価、事前事後学習の具体的な内容・行い方については担当教員と確認してください。

科目名	1年イタリア語（Step 1）イ・ロ・ハ・ニ（春学期） 1年イタリア語（Step 2）イ・ロ・ハ・ニ（秋学期）	曜日時限	各クラスの曜日・時限は、開講科目一覧で確認してください
コーディネーター	マッジャ　フェデリカ		

授　業　概　要

イタリア語を初めて学ぶ学生を対象に、「聞く、話す、読む、書く」の基礎的な能力が無理なく身につくよう、週4コマの授業を日本人教員とイタリア人教員が交互に担当し、同一の教科書を使用して共同で指導していきます。

必要な語彙と正確な文法に基づく会話の練習をペアあるいはグループで行い、実践的コミュニケーションを繰り返すことで、表現力の上達を図ります。

また、マルチメディアを活用して、イタリアの地理や歴史、映画や音楽、さらに多彩な食文化、各地に残る伝統的なお祭りといった、イタリアの諸事情に触れる機会も積極的に作っていきます。

授業の到達目標

基本的な文法や語彙を習得し、「旅行」、「仕事」、「家族」、「日常生活」、「レストランで」等の具体的なシチュエーションで、平易な会話が自然にできる表現能力を獲得すること、また、長い歴史の積み重ねや地域の多様性によって育まれたイタリア文化の豊かさについて理解を深めることを目指します。

CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）「A1～A2」（入門～初級）レベルの語学教育を実施します。履修後は、実用イタリア語検定5級あるいは4級、イタリア政府認定試験A1あるいはA2レベルのイタリア語能力試験に挑戦することができます。

教　科　書

＜全クラス共通教科書＞

★ D. Piotti – G. De Savorgnani – E. Carrara, 『UniversItalia 2.0 – A1/A2. 1』, Alma Edizioni, 2018.

★ プリント配布など。

参　考　文　献

＜辞　書＞

『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』、小学館、2001年。

成績評価方法

●**試験**　50%　　学習成果や理解度の確認のため学期末試験を実施します。詳細は授業内で説明。

●**レポート**　0%　　なし。

●**平常点**　50%　　出欠席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。

●**その他**　0%　　成績評価の目安として、「A+」を総履修者の10%以内、「A」30%以内とします。

上記は自動登録科目（必修基礎演習、基礎外国語、必修英語）共通の評価基準です。

備考・関連ＵＲＬ

▷春・秋学期とも、履修する授業（4コマ）のうち、3コマを対面、1コマをオンライン・リアルタイム配信で行う予定です（4月初めにMoodleで掲載されますので詳細の確認をお願いします）。

▷授業及び学習中に生じた疑問は担当教員に質問頂ける他、履修者の学習をサポートするためのラーニング・アシスタント制度があります。4月以降、案内しますので積極的に活用ください。

▷学習に役立つお奨めサイト：

イタリア文化会館 東京　https://iictokyo.esteri.it/iic_tokyo/ja/

イタリア文化会館は美術、音楽、映画、演劇、ダンス、ファッション、デザイン、写真等の多様な分野で文化催事を多数企画・開催しています（年間150以上のイベント）。また、日本の様々な大学や教育機関などとの長年にわたる協力関係のもとで、学術的な催事・講演会を共催し、日本の諸機関や企業などが主催するイタリア関連イベントの積極的な後援も行っています。

科目名	1年朝鮮語（Step 1）イ・ロ・ハ・ニ（春学期） 1年朝鮮語（Step 2）イ・ロ・ハ・ニ（秋学期）	曜日時限	各クラスの曜日・時限は、開講科目一覧で確認してください
コーディネーター	山崎　玲美奈		

授　業　概　要

週4回の授業は、4人の教師が共通のテキストを用いて、リレー形式で講義を行います。また、ネイティブの先生とは適宜テキストを離れてのフリートーキングや会話テストも行われます。

春学期の中旬までは文字・発音の習得に重点をおきながら、簡単な日常会話を通して基礎的な文法事項を学びます。春学期の後半は、初級の文法・文型を習得します。

秋学期は、実質的には初級後半・中級前半レベルとなりますが、秋学期の前半は、日常生活でよく用いられる表現を元にした例文を用い、基礎文法事項、および規則的な活用、語尾の習得に努めます。秋学期の後半は、より高度の文法事項、連体形、変格活用を習得します。K-POPを聞いたり、視聴覚教材を費用したり応用作文演習なども組み入れていき、表現の幅を広げます。

学習事項の定着と確認のため、適宜、小テスト・中間テスト等を行います。

韓国の歌、映画や文化についての映像など，できるだけヴィジュアル教材も用いたいと思っています。

授業の到達目標

朝鮮語をはじめて学ぶ学生を対象に、初級文法及び中級文法前半の習得を目標とします。1年後には、ハングル能力検定試験4級レベルの実力を身につけることを目指します。

教　科　書

布袋敏博・沈元燮・李美江『学ぼう韓国・朝鮮語　入門・初級編』アルク、2310円（税込）

【重要】

※必ず「12刷」を購入すること。(2025年1月発行版。12刷は訂正内容が反映されています)。戸山キャンパスの生協ブックセンターでは12刷のみを取り扱っていますので，こちらで購入することが推奨されます。

※早大生協ブックセンターにて1割引で購入できます。

参　考　文　献

電子辞書：小学館の『朝鮮語辞典』と『日韓辞典』の両方が収録されているものがカシオから出ています。

成績評価方法

●**試験**　50%　　イロハニそれぞれの授業において、中間・期末テスト、会話テスト、レポートなどで評価されます。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　イロハニそれぞれの授業において、出席、授業態度や参加度、小テスト、課題などを総合的に評価します。
●**その他**　0%　　成績評価の目安として、「A+」を総履修者の10%以内、「A」を30%以内とします。

上記は自動登録科目（必修基礎演習、基礎外国語、必修英語）共通の評価基準です。

備考・関連ＵＲＬ

早稲田大学では、韓国の協定校と提携して、夏季・春季短期留学プログラムを用意しています。積極的に活用して、語学習得に役立ててください。

授業によっては、必要に応じてオンライン（オンデマンドを含む）で実施されることがあります。

科目名	1年アラビア語（Step 1）イ・ロ・ハ・ニ（春学期） 1年アラビア語（Step 2）イ・ロ・ハ・ニ（秋学期）	曜日時限	各クラスの曜日・時限は、開講科目一覧で確認してください
コーディネーター	岡　真理		

授　業　概　要

☆アラビア語を初めて学ぶ人を対象とした授業です。一般的な文法学習と、表現、ネイティブ教員による会話の授業から構成されています。

・（イ・ロ）は文法の授業です。文字と基本文法を教えます。読み書きに必要な文法事項を学ぶ授業ですが、補助的にアラブ文化や口語についての説明を加えることもあります。

・（ハ）は表現の授業です。アラビア語を聞いて、読んで、書く練習を中心に行います。

・（ニ）はネイティブ教員が担当するアラビア語会話の授業です。イ・ロで学習した事項を生かしながら、会話で使用される表現の学習・練習を行います。

授業の到達目標

アラビア語文法の基礎を学び、4技能（話す、聞く、読む、書く）を通じて使えるようにすることを目指します。

・（イ・ロ）前期は、基本文法を学びつつ、文字および規則動詞の活用まで習得する。後期は、不規則動詞活用や派生形を含む基本文法を習得し、辞書を引けるレベルにまで到達する。

・（ハ）アラビア語を使って、CEFRのA1～A2レベルの以下の表現ができる。

①自分や家族を紹介できる。

②好きなものや趣味について話すことができる。

③旅行中や休みにしたことと感想を述べることができる。

④希望や予定を述べることができる。

⑤リハーサルをして、短いプレゼンテーションができる。

・（ニ）前期では、文字の書き方と正しい発音を学んでから、なるべく少ない語彙で名詞と前置詞を使って次の①～⑧の事項や表現ができるようになる。

①地名、自分や他人の名前を読んだり、書いたりすることができるようになる。

②基本的な挨拶。

③自己紹介。例えば、「私は…です」「あなたの名前は何ですか」

④人や物の属性を述べたり訊ねたりする。例えば、「この大学は有名です」、「彼は親切です」、「これはなんですか」「この本は簡単ですか」「大学の図書館は大きいです」など。

⑤人や物が存在する場所を述べたり、それを訊ねたりする。例えば、「あなたの大学はどこですか」、「私の大学は早稲田にあります」など。

⑥ある場所に存在する人や物を述べたり、それを訊ねたりする。例えば、「部屋には誰がいますか」、「部屋には学生がいます」など。

⑦自分や他人が所有する物やを述べたり、訊ねたりする。例えば、「私は自転車を持っている」、「あなたはペンを持っていますか」など。

⑧「行く」の過去形と現在形の使い方と時間・副詞の色々な言い方を使う。

後期では、春学期で勉強した名詞中心の文の否定の仕方や色々な動詞とそれに関連する語彙を学び、朝起きてから寝るまでにやっていることを表現できるレベルを目標とします。

教　科　書

・イ・ロは佐々木淑子『新版　アラビア語入門』（翔文社）を使用します。

・ハ、ニは教員作成の教材を使用します。

参　考　文　献

・（イ・ロ）新妻仁一著　『アラビア語文法ハンドブック増補新版』白水社、2022年

竹田敏之著　『アラビア語表現とことんトレーニング』白水社、2014年

Hans Wehr; J. Cowan (ed.), A dictionary of modern written Arabic (Arabic- English), 4th ed., Ithaca, NY: Spoken Language Service, 1994.

※もっと深く勉強をしたい方向けです。授業自体は教科書のみで問題ありません。これ以外の参考文献については各授業で担当教員が随時紹介します。

・（ハ）鷲見朗子ほか著『例文で学ぶアラビア語単語集』大修館、2019年

成績評価方法

●**試験**　50%　　但し、イ・ロ、ハ、ニは、それぞれ評価方法は異なるため、この数字はあくまで目安として考えてください。イ・ロは各期末に理解度を確認する試験を実施します。

●**レポート**　0%　　なし。

●**平常点**　50%　　出欠席、授業への参加意欲などをもとに総合的に判断します。

●**その他**　0%　　成績評価の目安として、「A+」を総履修者の10%以内、「A」30%以内とします。

上記は自動登録科目（必修基礎演習、基礎外国語、必修英語）共通の評価基準です。

備考・関連ＵＲＬ

・イ・ロでは、授業内容のフォローのため、単語テストを実施します（得点は成績評価対象にしません）。また、特段の理由なく出席が7割を切った学生の期末試験受験を認めていません。

・ハの期末試験では、自分自身について表現する発表をしてもらいます。毎回の授業後は、音声を聞きながらダイアログの音読練習をするとともに、自分について作文もして、表現できることを増やしていきましょう。

科目名	Academic Skills in English 1 Successfully Navigating your First-Year Experience							
担当者名	カール　スティーブン・ロドニー							
共通	2単位	春クォーター	月1時限	木1時限	1年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

The content of this course is designed to help you make a smooth transition to a university student. This course introduces the proper development of study habits, note taking skills, annotation, pre-writing, time management, growth mindset and AI ethics and plagiarism.

This course will focus on enhancing listening and reading skills. Students will be required to take quizzes, give oral summaries, do group presentations/projects and write a reflection essay.

授業の到達目標

- To make a positive transition into college life
- To learn and develop skills that enhance studying, coping, planning, and critical thinking
- To develop a support network
- To improve attitudes toward the teaching/learning process and toward teachers and learners involved in that process
- To feel more confident about writing, reading and speaking in an academic setting

成績評価方法

Assignments 15%
Quizzes　25%
Reflection Paper 20%
Presentations 20%
Attendance and Participation 20%

備考・関連URL

This is course is taught entirely in English and is required for all JCuIP students.

科目名	Academic Skills in English 2 The Rhetoric of Happiness							
担当者名	カール　スティーブン・ロドニー							
共通	2単位	春クォーター	月2時限	木2時限	1年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

This course is designed to help students develop academic speaking skills by exploring the central question “What is happiness?” From multiple cultural perspectives, you will learn to effectively communicate ideas into writing and develop your own distinctive voice by making conscious rhetorical decisions. Through the course, you will conduct primary research（surveys, interviews, observations）, engage with a variety of written and visual texts, and write an essay（reflection paper）. You will give 2-3 group presentations.

This course is taught entirely in English and all content will be in English. Strong class participation is essential.

This is a required course for JCuIP Japanese Students（JS）and will automatically be registered in their first year.

授業の到達目標

- Acquire familiarity with a range of writing genres and stylistic choices.
- Choose topics that are appropriate and relevant to the assignment.
- Present complex research in the form of group presentations.

成績評価方法

Presentations 50%
Writing Assignments 10%
Reflection Paper 25%
Attendance and Participation 15%

科目名	Academic Skills in English 3 Discussion and presenting your ideas in the classroom							
担当者名	大平　和希子							
共通	2単位	春クォーター	水1時限	水2時限	1年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

In this course, students will learn how to engage in academic discussions and present their opinions by exploring various materials, such as newspaper articles, scholarly articles, video clips, and blog posts. Themes vary from international affairs to cultural matters. Students will also participate in an individual or group presentation and develop essential academic skills in English through active class participation.

授業の到達目標

Through active participation in the course, students will be able to:
1. critically examine various kinds of materials.
2. develop skills to effectively present their opinions in academic discussions.
3. learn a basic format of academic presentations

成績評価方法

●**試験**　30%　Attendance and participation
●**レポート**　30%　Reflection paper
●**平常点**　40%　Presentations

●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	Academic Skills in English 4							
担当者名	由尾　瞳　他／カール　スティーブン・ロドニー							
共通	2単位	集春	無	その他	1年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

This intensive course is designed to enhance the academic skills in English that students acquired during 1Q. The theme of the course is "Tokyo's Linguistic Landscape," which allows students to explore the visibility of written languages in public spheres in several Tokyo neighborhoods. By conducting Linguistic Landscape activities over multiple excursions, students will learn to challenge the myth of Tokyo as a monolingual and homogeneous society, and discover instead a multilingual, multicultural, and multiethnic city.

Date:
2025/6/4・1限
2025/6/4・2限
2025/6/4・3限
2025/6/4・4限
2025/6/5・1限
2025/6/5・2限
2025/6/5・3限
2025/6/5・4限
2025/6/5・5限
2025/6/6・1限
2025/6/6・2限
2025/6/6・3限
2025/6/6・4限
2025/6/9・1限

授業の到達目標

- Become familiar with the concept of Linguistic Landscape.
- Gain firsthand experience of traversing through different Tokyo neighborhoods.
- Acquire understanding of Tokyo as a diverse and multilingual city.
- Situate Tokyo in a global context alongside other cosmopolitan cities.

成績評価方法

1. Attendance & Class Participation (30%)
2. Assignments (10%)
3. Group Work & Presentations (40%)
4. Final Reflection Paper (20%)

科 目 名	Academic Skills in English 5							
担当者名	由尾　瞳　他／カール　スティーブン・ロドニー							
共通	2単位	集春	無	その他	1年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

This intensive course is designed to enhance the academic skills in English that students acquired during 1Q. The theme of the course is "Tokyo's Linguistic Landscape," which allows students to explore the visibility of written languages in public spheres in several Tokyo neighborhoods. By conducting Linguistic Landscape activities over multiple excursions, students will learn to challenge the myth of Tokyo as a monolingual and homogeneous society, and discover instead a multilingual, multicultural, and multiethnic city.

Date:
2025/6/9・2限
2025/6/9・3限
2025/6/9・4限
2025/6/9・5限
2025/6/10・1限
2025/6/10・2限
2025/6/10・3限
2025/6/10・4限
2025/6/11・1限
2025/6/11・2限
2025/6/11・3限
2025/6/11・4限
2025/6/12・1限
2025/6/12・2限

授業の到達目標

- Become familiar with the concept of Linguistic Landscape.
- Gain firsthand experience of traversing through different Tokyo neighborhoods.
- Acquire understanding of Tokyo as a diverse and multilingual city.

- Situate Tokyo in a global context alongside other cosmopolitan cities.

成績評価方法

1. Attendance & Class Participation (30%)
2. Assignments (10%)
3. Group Work & Presentations (40%)
4. Final Reflection Paper (20%)

科目名	Academic Skills in English 6 Reading Cultural Criticism							
担当者名	カール　スティーブン・ロドニー							
共通	2単位	秋クォーター	月2時限	木2時限	1年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

This class will introduce students to several key works of cultural criticism that explore the idea of "cuteness" in contemporary popular culture. We will critically examine our cultural obsession with cuteness, and how certain minor emotions (or "ugly feelings") have become the prevalent mode of discourse in art, literature, film, television, and music in contemporary society. By introducing several scholarly works of cultural criticism, the course will guide students to read and use theoretical writing as a lens to develop their own argument. Through the course, students will give individual and group presentations, write annotations on criticism, and take quizzes for vocabulary and reading comprehension.

This course is taught entirely in English and all content (readings, films, discussions) will be in English. Strong class participation is essential.

This is a required course for JCulP Japanese students and will automatically be registered in their first year.

授業の到達目標

- Gain exposure to a variety of theoretical writing.
- Build academic vocabulary in English.
- Recognize and utilize sophisticated techniques for academic reading and writing.

成績評価方法

Group Presentations 1: 30%
Group Presentations 2: 35%
Quizzes: 10%
Mini-presentations: 10%
Participations and Attendance: 15%

科目名	Academic Skills in English 7 Essay Writing: Introduction to Creative Non-Fiction							
担当者名	カール　スティーブン・ロドニー							
共通	2単位	冬クォーター	月2時限	木2時限	1年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

In this course, students will read, write, and investigate an array of literary works in the genre of creative non-fiction. The class introduces students to various forms of the creative essay such as memoir, profile, lyric essay, and writings on popular culture. Throughout the course, students will respond to the course readings by producing their own creative work.

This course is taught entirely in English. Strong class participation is essential.

This is a required course for JCulP Japanese students and will automatically be registered in their first year.

授業の到達目標

- Learn the techniques of voice, scene, description, and structure.
- Learn meter and rhyme, and form and diction.
- Identify literary devices and utilize these techniques in your own work.
- Engage in rigorous, constructive, and encouraging peer critique.
- Learn how to assemble and revise a writing portfolio.

成績評価方法

Class Participation: 20 %
Writing Assignments: 20%
Essay #1: 15%
Essay #2: 15%
Essay #3: 30%

備考・関連URL

Weekly class schedules, readings, and homework assignments will be posted on Waseda Moodle.

科目名	必修English for General Communicationイ・ロ	曜日時限	各クラスの曜日・時限は、開講科目一覧で確認してください
コーディネーター	ライアン　スティーブン／笹山　尚子		

授　業　概　要

This course will cover four skills – speaking, listening, reading, writing – in English. Students will participate in class discussion, in pairs and in small groups, complete reading and writing tasks in class, and listen to audio and watch video materials. The units covered in the course textbook deal with a variety of global situations and current issues. Students are required to be active and responsive in class, and to take part fully in all tasks and activities.

授業の到達目標

Grammar and Functional English: students will learn to use a number of structures and functions in English Listening and Speaking: realistic audio and video materials; pair/group discussion to develop fluency in communicative skills Reading: students will improve vocabulary and fluency by reading several texts in each unit of the course Writing: small writing tasks will be included in each class, and longer written tasks for homework will be undertaken frequently throughout the course. Critical thinking: students will learn skills in a variety of critical thinking methods.

教　科　書

Life: Level 4 student book with Spark access, 2nd Edition 著者: Paul Dummet, National Geographic Learning.
※テキストは必ず生協戸山店を通じて購入してください。海外に在住するなどして生協を通じての購入ができない方のみ、次のISBN（国際標準図書番号）によって、通販サイトなどで購入してください。9798214331546

成績評価方法

●**試験**　20%　Mid-term 10 points
Final 10 points
●**レポート**　10%　Writing tasks will be given throughout the course.
●**平常点**　60%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　10%　Online Workbook ※この授業では、教科書に付属するシステムによって Online Workbook を平行して学習します。Moodle のアナウンスメントに添付される「Online Workbook 登録・学習マニュアル」に従ってアカウントを作成し、設定されたAssignment をスケジュールに沿って学習してください。

備考・関連ＵＲＬ

成績評価の目安として、「A+」を総履修者の10%以内、「A」30%以内とする。これは自動登録科目（必修基礎演習、基礎外国語、必修英語）共通の評価基準である。

科 目 名	必修English for General Communicationハ							
担当者名	笹山　尚子							
英語	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

This fully online course is designed for students to develop both their listening and reading skills. Each unit of the course is based around a core topic and contains two listening lessons and one reading lesson. The listening lessons feature short natural conversations between English speakers from all over the world. The reading lessons should be challenging for intermediate English learners.

授業の到達目標

To develop core English listening skills
To build an awareness of a range of English varieties and accents
To develop strategies for vocabulary building
To improve reading speed
To develop the ability to learn independently

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%
●**その他**　0%

備考・関連URL

成績評価はP（合格）、Q（不合格）の2種類です。15回の講義のうち10回以上の講義を完了（講義内のコンテンツをすべて視聴し、課題に答える）していない場合はQとなります。受講のしかたについては、Moodle に掲載される「受講上の注意」と「受講方法 Step-by-Step Guide」をよく読み、それに従ってください。
*授業計画は14回ですが、その中で、15回分の講義コンテンツを学習してください。

科 目 名	必修English for General Communicationニ							
担当者名	笹山　尚子							
英語	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

This fully online course is designed for students to develop both their listening and reading skills. Each unit of the course is based around a core topic and contains two listening lessons and one reading lesson. The listening lessons feature short natural conversations between English speakers from all over the world. The reading lessons should be challenging for intermediate English learners.

授業の到達目標

To develop core English listening skills
To build an awareness of a range of English varieties and accents
To develop strategies for vocabulary building
To improve reading speed
To develop the ability to learn independently

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%
●**その他**　0%

備考・関連URL

成績評価はP（合格）、Q（不合格）の2種類です。15回の講義のうち10回以上の講義を完了（講義内のコンテンツをすべて視聴し、課題に答える）していない場合はQとなります。受講のしかたについては、Moodle に掲載される「受講上の注意」と「受講方法 Step-by-Step Guide」をよく読み、それに従ってください。
*授業計画は14回ですが、その中で、15回分の講義コンテンツを学習してください。

講 義 内 容

選択基礎演習

（１年次のみ）

科目名	文化構想学部　選択基礎演習　1　『勝鬘経』を“精読”する～女性・如来蔵・一乗～							
担当者名	武本　宗一郎							
共通	2単位	秋学期	木曜日	3時限	1年のみ	—	—	フル【対面】

授業概要

文献を“精読”する技術は、卒業論文・卒業研究に向けて、文化構想学部の2年生以上の大学生が身に着けておくべき素養の一つである。ここで言う“精読”は、単にじっくり丁寧に読むことではなく、対象となる文献に記された情報をある問題意識のもと、調査・分析した上で、読解を試みることである。平たく言えば、“精読”とは、研究者的（学術的）な文献の読み方であり、一種の技能である。

本演習では、この“精読”の技術を体得することを目的として、求那跋陀羅訳『勝鬘師子吼一乗大方便方広経』（以下、『勝鬘経』）を輪読する。『勝鬘経』は、勝鬘夫人という女性が主人公の経典であるという特徴を有し、東アジアの仏教界において、一乗思想、如来蔵思想を説く経典としても重要な位置を占めている。また日本では、聖徳太子が撰述したとされる三経義疏の一つ、『勝鬘経義疏』（『勝鬘経』の註釈書）の存在によって広く知られる経典である。

本演習では、『勝鬘経』を受講者とともに“精読”していくことで、大乗仏教への理解を深めると同時に、学術的な問いの立てかた、調査・分析手法といった論文を執筆する際に必要となる基盤を涵養していく。

なお、近隣の美術館・博物館などで、会期中の「仏教」に関連する展示がある場合、希望者の多寡によってはエクスカーションを行うこともある。

授業の到達目標

『勝鬘経』の“精読”を通して、学術的な問いの立てかた、調査・分析手法といった素養を習得する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。
●**平常点**　100%　　3分の2以上（10回）の出席を必須とする。出席が不足している場合、原則として、成績評価の対象とならない。

授業に対する積極性（発言・指摘など）、文献講読の発表・レジュメの内容が評価の対象となる。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

※上記の授業計画は、参加人数により変更があります。

科目名	文化構想学部　選択基礎演習　2　多様な人間が生きて在るための							
担当者名	岡部　耕典							
共通	2単位	秋学期	金曜日	3時限	1年のみ	—	—	フル【対面】

授業概要

差別、命の選別、脳死と臓器移植、貧困、ヘイトスピーチ等を通底する問題の構造の考察を通じて、グローバリズムと資本主義を相対化し再分配と自由と平等が両立する新たな共同性の手がかりを得る。異なる心身と文化をもつ多様な人々が、その差異を毀損されずに生きて働く／参加することのできる社会と自分自身の生き方を構想する。

毎回の授業は講義及び関連する映像の視聴と受講者相互のディスカッションにより構成される予定である。期末レポートを課さないかわりに、毎回小レポートを書き、それを次回全員で共有することで互いの学びを深化させてほしい。

講義ではなく演習である。扱われる様々な問題を外側からまなざすことなく受け止め、相互に発する問いが〈自足する明晰の世界〉を突き崩し、自分自身の〈生き方の窓〉をひらくことを期待している。

授業の到達目標

多様な人間存在が多様なままで生きて在るための社会の在り方の構想を、自らの生き方の問い直しへと接続し、論系進級後に専門研究に取り組むための視座と基礎的な力を得る。

成績評価方法

Moodleフォーラムの小レポート及びディスカッションへの参画姿勢により総合的に評価する。（期末レポートは実施しない）

備考・関連URL

本演習は、現代人間論系「多様性を生きる人間」論プログラムで担当している専門演習のエッセンスを、学部初年次の学生を念頭におき再構成したものである。

科目名	文化構想学部　選択基礎演習　3　映画論を読む							
担当者名	川崎　佳哉							
共通	2単位	秋学期	金曜日	3時限	1年のみ	—	—	フル【対面】

授業概要

本演習では、映画論の基礎に触れ、映画について論じるとはいかなる実践かを学びます。物語の解釈から作品のスタイルの分析に至るまで、映画を語る切り口はさまざまに存在しています。それを読む前と読んだ後とでは、ある作品の見方がガラッと変わってしまう、そのような体験を与えてくれるものが、優れた映画論であると言えるかもしれません。

映画について書かれたテクストを複数準備するので、それらについてグループ発表をしてもらう予定です。映画を見て、その作品について書かれたテクストを読み、それらについて発表・ディスカッションをする、という流れを考えています。そのプロセスを通じて、学術的な作法を習得することを目指します。

授業の到達目標

文献の調べ方、発表の仕方、議論の深め方、等々の学術的な作法を習得すること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　授業の内容や先行研究を踏まえた上で、自分の意見を書けているかを評価します。
●**平常点**　50%　　出席、発表、ディスカッションへの参加度などを総合的に評価します。

●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

・上記の内容と予定は、受講生の人数や関心に応じて変更する可能性があります。
・映画作品によっては、過激な映像が含まれている可能性があるため、その点を了承した上で受講してください。

科 目 名	文化構想学部　選択基礎演習　4　高齢社会における生き方							
担当者名	久保田　治助							
共通	２単位	秋学期	月曜日	２時限	１年のみ	—	—	フル【対面】

授業概要

急激な現代社会の変化の中で、少子高齢化の問題が叫ばれるようになってから久しい、1989年の1.57ショックと呼ばれる少子化問題以降、高齢者が急増することとなる。団塊の世代と呼ばれる第一次ベビーブームの盛大が70歳代となり、今後の超高齢者かの問題として「2050年問題」が議論となっている。このような社会状況をどのように検討すればいいのかについて、少子化問題と高齢化問題の2つの視点で考えながら検討する。

少子化問題としては、①家庭の役割の変化とセクシャリティーの問題、②子育て支援と親支援、③子育て支援に関する制度理解、の3つの視点から検討する。少子化問題のなかで特に検討すべきは、少子化の問題を教育・福祉・経済・文化などそれぞれの観点から少子化問題の何が問題であるのかの所在について検討を深める。高齢化問題としては、①高齢者の社会保障に関する制度の歴史的変遷、②老いに関する思想と高齢者観、③高齢者と労働の問題、の3つの視点から検討する。高齢化問題については、高齢者と若者を比較しながら、高齢社会のなかで起こる高齢者自身に関する問題と、若者が考えなければならない問題との2つの視点から、今後の高齢社会においてどのような政策・実践を行なってゆけばいいのかを検討する。

授業の到達目標

・超少子高齢社会のこれまでの政策動向と社会保障の制度について理解する。
・超少子高齢社会の背景となる価値観やアイデンティティについて理解する。
・超少子高齢社会においてこれからの地域のあり方について考える力を養う。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　70%　　授業全体の理解度を確認するために学期末に行う
●**平常点**　30%　　講義の内容を受けて毎回リアクションペーパーを提出してもらう
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	文化構想学部　選択基礎演習　5　日本文化を知る							
担当者名	櫻本　香織							
共通	２単位	秋学期	木曜日	３時限	１年のみ	—	—	フル【対面】

授業概要

日本文化は、大陸の文化の影響を受けながら、人間の社会・生活・思考などが宗教・思想・文学・美術・芸能などの諸相において、具体的に表現され構築されてきたものです。

本演習では、日本文化の具体相について知り、学びます。すなわち、日本文化が日本の歴史の中で、どのように形成され、伝承されてきたかを考察していきます。

授業前半では、日本文化の歴史と諸相を、文献講読によって概観します。授業後半では、受講者が興味を持った日本文化を取り上げて、その背景を検討し、発表を行ってもらいます。また、日本文化に触れる体験学習も実施する予定です。

授業の到達目標

日本文化の歴史と具体相を知り、日本文化が大陸の思想や文化の影響を受けて、現在まで伝承されてきた背景を学びます。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　発表内容と授業態度により総合的に評価を行います。三分の二（9回）以上の出席が、単位授与の必要条件となります。
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

各回の授業計画は、受講者数や授業の進行状況などに応じて、変更する場合があります。

科 目 名	文化構想学部　選択基礎演習　6　谷崎潤一郎の作品を読む							
担当者名	清水　智史							
共通	２単位	秋学期	金曜日	３時限	１年のみ	—	—	フル【対面】

授業概要

本演習では、谷崎潤一郎の短編・中編を読み分析することを通して、作品読解およびプレゼンの基礎を身につけてもらいたいと思います。まずは資料調査の方法を学び、担当者によるレクチャーを行ったあと、受講者のみなさまに発表を行ってもらいます。その際、以下の作品を扱う予定です。「刺青」「少年」「幇間」「秘密」「異端者の悲しみ」「二人の稚児」「母を恋うる記」「柳湯の事件」「途上」「私」「白昼鬼語」

授業の到達目標

文学作品の読解の方法とプレゼンの基礎を実践を通じて身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　学期末にレポート提出
●**平常点**　50%　　出席とディスカッションへの参加

●**その他**　0%

備考・関連URL

授業内容、構成については受講者の人数などによって変更となる場合があります。

科 目 名	文化構想学部　選択基礎演習　7　社会調査の方法を学ぶ							
担当者名	清水　拓							
共通	2単位	秋学期	月曜日	2時限	1年のみ	—	—	フル【対面】

授業概要

社会調査は、社会を対象にデータを収集し、その実際を明らかにしようとする営みである。私たちは日常において行動するとき、社会がこうなっているという認識を前提にしている。しかし、その認識は根拠のない思い込みに過ぎず、誤っていることもある。そのような事態を避けるためには、社会的な事実を知り、事実が何であるかを確定させていくことが重要になる。社会調査はそのための道具であり、問いを立て、適切な手法でデータを収集し、分析して、結果を示す、という手順を踏む。社会的事実を把握するためには、調査を実施するスキルを身につけることが重要である。また、たとえ自ら調査することはなくても、世の中に数多く存在する調査の結果のなかから、信頼できる調査・データを選び取るためには、やはり社会調査に関する実践的知識が必要である。この授業では、前半は、社会調査法に関する基礎的な知識と、調査の進め方について講義形式で学ぶ。後半には、インタビュー調査の実習を通じて、その実査プロセスを学ぶ。

授業の到達目標

（1）社会調査に関する基礎的な知識を習得する
（2）社会調査の実施とそこで得られたデータの整理・分析に必要な基礎的なスキルを身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　40%　　期末レポート
●**平常点**　60%　　授業参加の積極度・課題提出。単位取得には全授業回数の3分の2以上の出席を必要とする。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

やむを得ない理由を除き、すべての回に出席するようにしてください。とくに後半の第7回～第13回は、実習としてインタビュー調査の準備・実施・分析・報告書作成をおこないます。欠席すると、実習の進め方が理解できず、期末レポートを執筆する際に不利になります。

科 目 名	文化構想学部　選択基礎演習　8　異文化の伝播と受容，変容							
担当者名	宮城　徳也							
共通	2単位	秋学期	金曜日	3時限	1年のみ	—	—	フル【対面】

授業概要

文化構想学部複合文化論系の超域文化プログラムで「趙育文化ゼミ（文化変容論）」を担当しています．2009年からゼミを担当し，その間プログラム名称には変更もありましたが，一貫して「文化変容論」をゼミ名に関して運営して来ました．基本は，異文化を伝播して，それを受容した文化の中で，変容していく現象に興味を持つ人たちが集まり，総計で300人近いゼミ生がそこで学び，ゼミ論を書いて巣立って行きました．その間ゼミ論に取り上げられたテーマは，文学，アニメ，映画，アイドル，ファッション，食文化，広告，神話，宗教，思想，絵画などの視覚芸術，言語，ジェンダーなどきわめて多様でした．もちろん，担当教員である私はこれらの分野の殆どに関して専門的知見を持っておらず，ゼミの担当教員としての基本的な考えは，学生が興味を持っていることをともに学んで，可能な限りの意見を言って，一緒にゼミ論の完成を目指すことというものです．この授業は一年生を対象としているので，特に複合文化論系に鍼灸師し，超域文化ゼミを選ぶ学生を特に想定せず，履修者のそれぞれの興味を持ち寄って，多角的な観点から異文化の受容と変容について考え，グループ発表と個人発表によって，それぞれの興味を深めてもらい，同時に他に人の関心にも興味を持ってもらうような授業にしたいと思っています．初回に履修者それぞれが興味を持っている分野について語ってもらい，それを参考にして，以後の授業の進め方を一緒に考えますが，基本は「映像鑑賞と講義」，「グループ発表」，「個人発表」で，それぞれ5回，4回，5回を考えていますが，履修者の数によって回数は変動する可能性があります．

授業の到達目標

異文化が伝播して，それを受容した文化との相互作用で変容し，新しい文化あ生まれていく現象に関して，さまざまな観点から考え，あわせて多文化共生や多様性に関しても，広く学び，深く考え，しっかりと理解していく姿勢の獲得を目指します．

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません．
●**レポート**　40%　　個人発表した題材で，2000字程度の学期末手ポートをまとめ，Moodleから提出してもらいます．
●**平常点**　60%　　毎回の授業の要約を200字程度でまとめ，Moodleから提出してもらい，出席，発表と共にそれを平常点として氷解します．
●**その他**　0%　　レポートと平常点で評価します．

科 目 名	文化構想学部　選択基礎演習　9　インターネット発達史							
担当者名	和田　修							
共通	2単位	秋学期	火曜日	3時限	1年のみ	—	—	フル【対面】

授業概要

わたしたちの生活とは切っても切れない関係になっているインターネット。その発達の歴史を振り返りながら、わたしたちのコミュニケーションがどのように変わったのか、あるいは音楽・映像の鑑賞にどのような変化が生じたのかを考えてみたいと思います。

予備知識はあまり必要ありませんが、デジタルコンテンツに興味がない人は厳しいかもしれません。

授業の到達目標

インターネットの基本的な技術を知るとともに、そのコンテンツの変遷について、認識を深めることを目的とします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しません。
●**レポート**　70%　　インターネットの発達と社会の変化についての理解度で評価します。
●**平常点**　30%　　出席と発表内容で評価します。
●**その他**　0%　　なし。

科目名	文化構想学部　選択基礎演習　10　文化構想学部で学際的に学ぶ　社会科学、地域研究、文学							
担当者名	森　元孝							
共通	2単位	秋学期	月曜日	2時限	1年のみ	—	—	フル【対面】

授業概要

学際的研究、領域横断的研究ということが言われ、いわゆる古典的な学問原理を超えるということが言われてきました。文化構想学部も、それを実現するために設立されました。文化構想学部に入学されて、4年間、どのように領域横断、学際的に学んでいくか、一緒に考えたいと思います。

私は、もともとは社会学者ということになっていましたが、経済学、政治学などの社会科学から、地域研究、文学者も対象としてきました。

フルオンデマンド講義で用いてきた映像を、YouTube経由で扱いながら、領域横断、学際的に学ぶために、どのようなことが必要かを、みなさんたちと議論していきたいです。

授業の到達目標

文化構想学部で、何を学んでいくか、その動機づけと、目標を決めていくための情報提供。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　20%　　演習をつうじて報告、議論、考察したことをもとに最終レポートを作成する。
●**平常点**　80%　　14回の参加と報告、そして議論への積極性を評価する。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

森　元孝のウェブページ　「ウィーンの森」の物語
社会構築論系　森ゼミのウェブページ　Prof. Mori's Seminar

科目名	文化構想学部　選択基礎演習　11　心理学をはじめて学ぶ、体験する							
担当者名	宮田　裕光							
共通	2単位	秋学期	木曜日	3時限	1年のみ	—	—	フル【対面】

授業概要

心理学は、その名の通り、「心」を直接の研究対象にしている学問です。心理学が文学や芸術、占いなどと異なるのは、自然科学として「心」を明らかにしようとする点です。心理学では、様々な方法を用いて、目に見えない「心」を目に見える形にすることで、知覚、記憶、認知、思考、感情、社会性など、私たち自身にとって身近なものを含む種々の心的現象を解明しようとする試みが行われています。

この演習では、大学ではじめて心理学に触れる1年生の皆さんを対象に、心理学の全体像を知るとともに、実際の研究がどのように行われているかを体験していただきたいと思います。授業前半では、心理学の歴史や、生理心理学、認知心理学、パーソナリティ心理学、臨床心理学、神経心理学などの代表的な心理学の分野について、文献講読によって概観します。授業後半では、介入実験や質問調査など、心理学で用いられる主要な研究方法について、実際にデータを取ってそれを検討してみることを含めて学びます。また、担当教員の研究領域である身体心理学、東洋的ボディワークの研究を踏まえて、音楽療法、茶の湯（茶道）、笑いの体操、マインドフルネス瞑想など、いくつかの実践とその研究に触れる機会も提供します。

授業を通して、私たち人間にとって本質的に大切な「心」を学問的に探求することの面白さや魅力、また心理学という学問の多彩な拡がりに触れていただければと思います。プログラミングや統計などの専門知識は前提とせず、初学者の方向けに授業を設計します。

授業の到達目標

（1）心理学の代表的な研究分野を概観し、全体像を知る。
（2）心理学で行われている研究について、実際に経験してみることで理解する。
（3）心身の健康と幸福に関わる実践を実際に体験し、主体的な理解を得る。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　発表資料、プレゼンテーション、提出課題を含む、授業への参加および受講態度を総合的に評価します。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

体験ワークの内容、外部講師を招聘しての授業回など、各回の内容は授業概要の趣旨に沿った範囲で更新する場合があります。受講上の必要事項がある場合は、授業中ないしWaseda Moodleを通して周知しますので、周知内容をよく確認してください。

本授業の関連内容や、担当教員の研究分野をさらに学習する意欲のある方には、講義「心身論」（春学期）、講義「生活世界と身体」（秋学期）、講義「現代人の身体」（春学期）、現代人間論系演習（心身の健康と幸福）（春学期）、現代人間論系演習（身体の実践と科学）（秋学期）、現代人間論系演習（ボディワークの理論と実践）（春学期）、「心身を生きる人間」論ゼミ（心身論）（春学期・秋学期）などと合わせての履修を推奨します。

研究室HP：https://miyata-lab.labby.jp/
教員紹介：http://www.waseda.jp/gendainingen/miyata.html

https://www.wasedapsychology.jp/teacher.html

科 目 名	文化構想学部　選択基礎演習　12　寺社縁起を読み解く							
担当者名	山吉　頌平							
共通	2単位	秋学期	木曜日	3時限	1年のみ	—	—	フル【対面】

授業概要

寺や神社がどのようにしてはじまり、どういう経緯を経て今ここに存在するのか。そのような寺社の来歴を縁起という。この講義では、寺社の縁起を読み解きながら、日本の宗教文化に対する理解を深めることを目標とする。参加者には最低一回の発表を課し、担当する寺社の縁起の考察をしてもらう。発表の方法や形態は自由とするが、基本的には、現代の縁起（寺社のパンフレットや公式ウェブサイトに載っているもの）を紹介したうえで、過去の縁起との比較および確認された差異の指摘とその考察を求めたい。なお、発表担当対象となる寺社については、第一回で一覧を提示する予定だが、特に希望するものがあれば自身で対象を設定してもよいこととする。

授業の到達目標

寺社縁起の読解から、高校までの日本史や国語では学習してこなかった日本の宗教史の一側面についての知識を獲得する。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　40%　　出席率や授業への寄与度
- **その他**　60%　　各自が担当する発表の成果や調査の量、資料の充実度などを評価する

講 義 内 容

講　　義

科 目 名	初級ギリシャ語1　ゼロから学ぶ古代ギリシャ語							
担当者名	福島　正幸							
共通	2単位	春学期	水曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

古代ギリシャ語は、主として紀元前5世紀前後ギリシャのアテナイを中心に用いられた言語です。西洋文学の起源であるホメロス、哲学ではプラトン、アリストテレス、歴史ではヘロドトスの著作、さらに新約聖書もこの言語で書かれています。「It's all Greek to me（それは私にとってギリシャ語だ＝ちんぷんかんぷんだ）」と言われるほど、難しい言語です。欧米人も真っ青な難解言語に大学で挑戦してみるのはいかがでしょうか。前期は名詞・形容詞の格変化と動詞の基本的な活用を学ぶことが中心となります。

授業の到達目標

本授業は、とりあえず古代ギリシャ語がどんなものか知りたい人から本格的に学びたい人まで、幅広い範囲の人たちを対象にします。短期間で古典ギリシア語の基礎知識を習得するのは容易なことではありませんが、少しずつ基本を確認し、語形を整理しながら進めます。最終的には独力で辞書を引きながら古典ギリシャ語の原典テクストを読めるようになることを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　100%　　学期末試験70%と小テスト（3回実施）30%の合計による評価とします。
授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　0%　　.なし。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

対面で実施します。

科 目 名	初級ギリシャ語2　ギリシャ語文法基礎の完成							
担当者名	福島　正幸							
共通	2単位	秋学期	水曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

春期（前期）科目「初級ギリシャ語1」で学んだことを前提として、より高次の文法知識を学んでいきます。ギリシャ語が難しいと言われる所以の一つは、暗記事項の多さです。しかし、「初級ギリシャ 1」を受講し、基礎を習得した方々であれば、「初級ギリシャ 2」で学ぶ文法事項にも抵抗はないと思います。後期は動詞の活用がメインとなります。とにかく覚えることが多いですが、語学は一にも二にも暗記です。大変ですが、頑張って覚えてください。アリストテレス先生も「メタ・リュペース・ヘー・マテーシス（学習には苦痛が伴う）」と言っています。

授業の到達目標

初等文法の基礎完成を目標とします。具体的には、リュシアスや新約聖書など比較的平易なギリシャ語散文講読に挑戦できるギリシャ語力の涵養を目指します。

成績評価方法

●**試験**　100%　　学期末試験70%と小テスト（3回実施）30%の合計による評価とします。
授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　0%　　なし。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	ギリシャ・ローマ世界入門　西洋思想と文化の根幹とその発展							
担当者名	宮城　徳也　他／内川　勇海／加藤　喜市／小石　絵美							
共通	2単位	春学期	無	フルOD	1年以上	オープン科目	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。

ギリシャ・ローマ世界は西洋の母胎であり、現代に生きるわれわれが、西洋世界の強い影響下にある以上、多くの人にとって興味の対象となるはずである。現代の「アメリカの平和」が古代における「ローマの平和」を連想させるばかりでなく、広域多民族国家であるアメリカ合衆国の国内の政治体制もまた共和制及び帝政のローマに似ている所が多い。

政治体制やローマ法、土木技術などにおいて後世に影響を与え、現代ヨーロッパの枠組みをも作ったローマに思想的、文化的支柱を与えたのが古代ギリシャであり、古代ギリシャ文化を意味するヘレニズムは、キリスト教を生み出したヘブライズムとともに欧米文化の思想的根幹を形成している。

こういったギリシャ・ローマ世界の思想と文化を、専門を異にする複数の研究者が半期で、分かり易くダイジェストするのが、本講義の趣旨である。「ギリシャ・ローマ世界入門」は古代ギリシャ・ローマ文化そのものの紹介を中心とし、「後世」への影響に関しては、秋期（後期）科目の「ギリシャ・ローマの思想と文化」が関連している。別の科目なので、どちらか片方でも、両方連続でも履修できる。

授業の到達目標

後世に大きな影響を与えたギリシャ・ローマ文化の多様性を、様々な側面からのアプローチによって理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　レポートと平常点で評価
●**レポート**　40%　　学期末に、2000字程度で、学習成果の報告を求める（Waseda Moodle提出）。レポートが提出されない場合は「不受験」Hの評価になります。
●**平常点**　60%　　毎回、Moodleでの課題の提出を求め，受講状態とともに平常点として評価します.

●**その他**　0%　　特にありません.

備考・関連URL

授業実施方法：オンデマンド（パワーポイント等による録画講義，課題による平常点評価）で行ないます.

多様な興味を持った広い範囲の受講者の積極的参加を期待します．期（後期）の「ギリシャ・ローマの思想と文化」は関連するが別内容なので、連続して両方でも、どちらか一方でも履修できます.

科 目 名	初級ギリシャ語（速修）　古典ギリシャ語文法の全体を1セメスターで修得する							
担当者名	兼利　琢也							
共通	４単位	春学期	火５時限	金５時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

このコースでは、1セメスター週2回計28回の集中学習で古典ギリシャ語文法の基礎を学びます。講読を行う秋学期の「中級ギリシャ語」等に接続し、計1年間でギリシャ語文献を読解するための基礎的な知識をつけるのが目標です。最初からしっかりギリシャ語を学びたい人、「入門ギリシャ語」や自習で学んだが基礎固めをしたい人を念頭に置いています。

西洋の文化を調べるとたいていどこかでギリシャ語につきあたります。西洋文化と教養の基礎に直接触れたい、自分にそれが必要だと感じる人にはこの言葉を学ぶことを勧めます。

ギリシャ語は古来むずかしい言葉の代表で、それはそのとおりです（学ぶ楽しみはとても大きいのですが）。戸山では週二回という恵まれた状況で学習でき、春学期の30回でも文法の全項目を網羅できずとも基礎は十分に学べます。秋学期は講読の合間に復習や補足をするので、年間を通して学べば古典ギリシャ語について全般的な理解が得られるでしょう。

なお、この授業で学ぶギリシャ語は現代ギリシャ語ではなく、西洋古典文学、つまり紀元前8世紀頃のホメロスに始まって紀元後5世紀頃まで続く古代文化が遺した膨大な言語遺産の言葉です。ギリシャ語は古典の傑作：叙事詩・叙情詩・劇・歴史・演説・哲学・小説などを生み出したことにつきません。今日に繋がる学問の礎はギリシャ人が築きました（数学や哲学など抽象度の高い学問はギリシャ語の独壇場で、古代ではラテン語は学術語でありません）。また，これら異教古代の遺産と並んで西洋文化の基礎をなすキリスト教は、ギリシャ語圏ユダヤ世界で生まれ，新約聖書はローマ時代の日常語のギリシャ語で綴られました。西洋の言葉と文化の知識を深めたいと思うのであれば、古典ギリシャ語を学ぶのがいちばんです。

授業の到達目標

古典ギリシャ語の基礎的文法と語彙の習得

成績評価方法

●**試験**　0%　　学期末試験はしません。

●**レポート**　0%　　期末の提出物はありません。

●**平常点**　100%　　毎回の練習問題の回答，変化形の書取りの出来、クイズの成績などです。

もしかしたら小さな課題を出すことがあるかもしれません。

●**その他**　0%　　とくにありません。

備考・関連URL

週2回の対面授業です。時間割に気をつけてください（片方だけだと挫折します）。

＊なお、この週2回のコースは昔から、古典ギリシャ語読解力の習得のため真剣な学習を願い覚悟する文学学術院の優秀な学生諸君を受講者に想定してきています（し事実そうです）。私の他の語学科目や古代神話に関わる講義とはレベルが違います。古典語を西洋の教養の一つとして気軽に学んでみたい人は、本学術院の他の講座か他学部の授業等を選択することを勧めます。

科 目 名	中級ギリシャ語1　古典ギリシャ語韻文散文の基礎講読							
担当者名	兼利　琢也							
共通	２単位	秋学期	金曜日	５時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

秋学期の「中級ギリシャ語2」は、春に「初級ギリシャ語（速習）」を履修した人、またはこれまでに「入門（初級）ギリシャ語」等を学んだか、それと同程度の古典ギリシャ語に関する基礎知識を持っている人を対象に、実際の文章に直接当たることで読解力を養成することを念頭に置いています。

講読なので文法の大枠を理解していることを前提にしますが、多くの人はまだ始めて3か月（半期）です（し夏の休止があります）から、基礎知識の説明と復習は常に繰り返します。平易な散文で読む意義の大きな古典を（可能であれば比較的速めに）読んで読解力を鍛えたいと思います。

この授業は一昨年までは、プラトンの初期か中期の対話篇（の一部）かホメロスからの抜粋を読んできましたが、昨年度から、初学者向けの撰文集を用いることにしました。

とはいえ、昔のグラマースクールの副読本のようなやさしい古典ギリシャ語に書き直したようなものではない、新しい撰文集です。

J. Morwood & S. Anderson, A Little Greek Reader, Oxford, 2014

今年度は、昨年度に読み終えた先から読んでいきます。26頁のクセノポーン『ギリシア史』からの抜粋からです。この撰文集は、古典古代の典型的な散文韻文を少しずつ学ぶもので、もちろんすべてよい文なのですが、それだけに、初めての人には少しむずかしいばあいが間々あります。注も付いていますけれど、何より文脈がありますから。ですが必要な程度はそちらも説明していきます。

講読ですから毎回少しずつ訳読します（あらかじめ割り当てをしておきます）。細かな文法的な説明をしますが、あわせて教科書や文法書の該当個所、変化や文法の復習をします。毎回ごとに復習と訓練を積み重ねていきますから、半年でもギリシャ語文法のほぼ全域を学べると思います。

大切なのは自分で形を確かめて暗記する努力をすることです。当然ですが聞いているだけでは理解はできるにせよ独力で読みこなせる力は身に付きません。予習復習を欠かさないでください。助力は惜しみません。単語と変化はあるレベルまで必ず覚えなければなりません。頑張って下さい。

授業の到達目標

古典ギリシャ語文献の読解の基礎的能力の養成

成績評価方法

●**試験**　0%　　テストは行いません.
●**レポート**　0%　　期末提出物はありません.
●**平常点**　100%　　毎回の訳読です.
●**その他**　0%　　なし.

備考・関連URL

対面授業で行います。

科 目 名	ギリシャ語講読1　プラトン『カルミデス』篇講読							
担当者名	高橋　雅人							
共通	2単位	春学期	金曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業は、ソクラテスの姿を生き生きと描くと同時に「知」をめぐる哲学的アポリアを析出する初期プラトン対話篇の『カルミデス』を、文法的に正確に読解すること、および哲学的に深く理解することを目指すものである。このことにより、ソクラテスおよび初期プラトン哲学の倫理学、認識論に分け入ってくことができるだろう。

『カルミデス』を読み終えたら、『クレイトポン』を読む予定である。この対話篇の内容はソクラテス批判であるので、ソクラテスの哲学、またプラトンのソクラテス理解について、別の角度からの検討が可能となるであろう。

授業の到達目標

・古典ギリシャ語の初級文法を一通り学んだ段階から始めて、ギリシャ語散文の一つの水準であるプラトンの初期対話篇を、文法的に正確に理解しつつ読解できるようになる。
・ソクラテスの哲学、およびプラトン初期哲学の基本枠組が理解できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　0%　　提出を求めない。
●**平常点**　100%　　ギリシャ語の読解力と議論への貢献度を軸に、総合的に評価する。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

・ギリシャ語文法を一通り学んでいることを前提とする
・対面授業
・昨年度からの続きであるので、『カルミデス』の途中から読むことになる。
・受講生の人数などによって、上に記したように進まない場合もある。その場合には、『クレイトポン』を読まない場合も、あるいは他の対話篇に変えることもありうる。

科 目 名	初級ラテン語1　ラテン語文法の学習							
担当者名	兼利　琢也							
共通	2単位	春学期	水曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

ラテン語とは、古代にイタリア半島中部のラティウム地方の都市ローマの言葉で、その拡張とともに使用域が広がり、前1世紀ローマ帝国と西地中海世界の共通言語となりました。同時期に文語として完成、数多の古典を生み出しました。帝国が滅びた中世以降もローマ・カトリック教会と法律と学術の言葉として西洋の普遍的教養の伝統を担い、19世紀初期頃まで西欧の学問の伝達手段でした。他方、古典古代の口語のラテン語（俗ラテン語）はしだいに変化して中世初期にロマンス諸語（イタリア語，スペイン語，フランス語など）へ変貌します。西洋の古文であるラテン語には（会話など現代の意思疎通のための）それ自体としての実用性はありませんが、西洋の言語と文化に関心のある人はぜひこの言葉を学ぶべきです。今のアメリカでも既修外国語としてスペイン語フランス語に次ぎます。英語の語彙も3/4がラテン語に由来するだけではありません。そもそも文法はすべてラテン語文法が元ですし、近代語学習に必ず役立ちます。

春学期の本科目では、教科書の半分程度（9課辺り）まで進む予定です。

授業の到達目標

ラテン語文法の段階的学習習得とラテン語による詩文と歌の観賞

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　毎回配信する課題（主に変化形書取り＋小クイズ）の評点の総計
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

完全な対面授業で行います。

科 目 名	初級ラテン語2　ラテン語文法の学習							
担当者名	兼利　琢也							
共通	2単位	秋学期	水曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

ラテン語は古代のローマ帝国、その西洋古典古代の西側地域の言葉です。前1世紀後半の共和政末期、カエサル、キケロー等によって技巧的な文語として完成、アウグストゥスに始まる元首政の2世紀の間に幾多の古典文学を生みました。歴史（サッルスティウス、リーウィウス、タキトゥス）、哲学（キケロー、セネカ）、文学（ルクレーティウス、ウェルギリウス、ホラーティウス、オウィディウス他）にわたる古典は、ルネサンス以降の西洋文化に深く広い影響を及ぼしています。またラテン語は、ロー

マ帝国滅亡後も教会と法と学術の言語として西洋の教養を担いました。それゆえ西洋のすべての学問と文化はこの言葉が源です。
秋学期は教科書の後半を進めます（第10課から第20課）。余裕があれば何らかの古典作品を読む予定（学習中に随時紹介する予定）。

授業の到達目標
ラテン語文法の学習習得、ラテン語詩文の観賞

成績評価方法
●**試験** 0%　なし
●**レポート** 0%　なし
●**平常点** 100%　毎回配布（配信）する課題（主に変化形書取り＋少クイズ）の評点の総計
●**その他** 0%　なし

備考・関連URL
対面授業で行います。
講読は予定通りいかないことが多いですが、時々詩文や歌の紹介をします。
この秋学期の授業は、春学期に私の「初級ラテン語1」を学んだ学生のみなさんを想定しています。
春学期でラテン語の根幹の名詞と動詞の変化は90%以上終わっています。以前に独習や他の講座で学んだことがあるのでしたらたぶん大丈夫かと思いますが、初めてだと困難がたいへん大きいです。春学期の勉強でラテン語の必要を感じて秋から学びたい方には申し訳ないのですけれど、ここに明記しておきますように、変化形の学習が終わったあとの、文法上の重要で高度な事柄の学習からになります。（それでよい方はもちろん歓迎です）。初級から学びたい方は、申し訳ありませんが、来年度の春に来てください。

科 目 名	初級ラテン語（速修） しっかり学ぶラテン文法							
担当者名	宮城　徳也							
共通	４単位	春学期	月４時限	金４時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
週二時間，計28回でラテン語の文法をしっかり学びます．ラテン語は，古代ローマで使われていた言語ですが，「ローマ帝国」の支配領域が広かったこともあり，古代世界崩壊後の中世の西ヨーロッパでも「共通語」としての役割を果たし，思想，歴史，文学，神学，科学などの著述は十七世紀になっても，デカルトやニュートンの主要作品を始めとしてラテン語で書かれました．二十一世紀の現在でも西欧では高等教育を受ける者の必須の基礎学力と考えられています．英語に比べると，名詞，形容詞などの格変化，動詞の活用が複雑に思え，一見近寄りがたいイメージがありますが，学んでみると，例外が少ない文法は，覚える苦労を厭わなければ，思ったより易しく，近代語にも深く影響していることから，ラテン語を学ぶことによって，他言語を学ぶ際の多くのヒントを得られます．文字も英語と同じ，英語がラテン語の子孫であるフランス語の影響を受けていることから，英語の知的な文章で使われる相当程度の語彙はラテン語と共通と言っても過言ではありません．もちろん，古典ギリシア語の影響を自家薬籠中のものとして形成されて行ったラテン語が生み出した，古代ローマの文学，思想，科学，宗教の文献を読むためにも，中世，ルネサンスの文献史料を読むためにも，ラテン語を理解することは必要です．ラテン語を学ぶことによって，ヨーロッパ文化の根幹を理解することができます，是非，週二時間でしっかりと学ぶことができる本授業でラテン語の初歩を確実に理解していきましょう．

授業の到達目標
週二回の授業によって，ラテン文法の七割を学ぶことができます．教科書である，中山恒夫『標準ラテン文法』(白水社，1987)の14課までを，全ての例文と，全ての練習問題をしっかりと理解することにより，より高次の文法事項である「接続法」（教科書の15課から19課までに説明されており，秋学期の「中級ラテン語」1を履修することにより，学ぶことができます）を除いた，全ての文法事項のうち，とりわけ大事な，名詞，形容詞，代名詞の格変化，動詞の活用（接続法を除く），「格」の用法，目的分詞，動名詞，動形容詞などより高次の文法事項までしっかりと学びます．目安としては，「能動相欠如動詞（形式受動相動詞）」，「絶対奪格」，「動形容詞による動名詞の代用」，「非人称受動」をしっかり理解できれば，ラテン文法の七割から八割をほぼ理解したことになりますので，それを目指します．

成績評価方法
●**試験** 0%　学期末試験は行いません．
●**レポート** 0%　レポートの提出を特に求めません．
●**平常点** 100%　毎回，課題の教室での提出を求め，授業への参加度（練習問題への積極的取組）とともに平常点評価します．
●**その他** 0%　上記の平常点により全ての評価とします．

備考・関連URL
授業で紹介します．

科 目 名	中級ラテン語1							
担当者名	宮坂　真依子							
共通	２単位	秋学期	金曜日	４時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
前期科目「初級ラテン語（速習）」を履修した人、あるいはすでに何らかのかたちでラテン語の初級文法を学んだ人を対象にした講座です。とくに後者に該当する人は、動詞とその分詞、そして名詞と形容詞の変化形を身につけていることを前提とします。
「中級ラテン語1」では接続法と呼ばれる、ラテン語読解には不可欠な動詞の用法について詳しく学びます。
具体的には『標準ラテン文法』（中山恒夫著、白水社）の15課以降の内容です。

授業の到達目標
課ごとに練習問題を解き、ラテン語の文法のさらなる理解を深めることが目標です。

成績評価方法

●**試験**　40%　　最後の授業で受講内容に関する小テストを行います。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　60%　　課ごとに練習問題を解いてきてもらい、授業中に発表してもらいます。また，課ごとにまとめの小テストを行ないます。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	**中級ラテン語2**　古典ラテン語の原書講読入門							
担当者名	宮坂　真依子							
共通	2単位	秋学期	月曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

「中級ラテン語2」は，ラテン語の初級文法を学び終えた人を対象にした、平易なラテン語で書かれた文献（散文）を使ってラテン語読解力の基礎作りを目標とする授業です。ラテン語の読解で無視できない存在が「接続法」と呼ばれる動詞の用法で、これを克服することなくしてラテン語が読めるようにはなりません。この用法を中心に学ぶための併設科目「ラテン語中級文法」に対して、本講座では実際のラテン語の文献にあたりながら、この接続法を学んでいってもらいたいと思います。内容は実際に授業で受講生の興味関心等を聞いた上で変更の可能性もありますが、まずはイソップのお話を手始めに、カエサルの『ガリア戦記』等の簡単なラテン語の散文を読む予定です。最後に、韻文の基礎も紹介できればと思っていますので、時間的に可能であれば、『アエネーイス』序歌に触れつつ、韻律分析の基礎を体験してもらおうと考えています。

授業の到達目標

初級文法を学んだ皆さんが古典ラテン語の実際の原文を読むことによって、読解力を向上させることが目標です。

他にも購読の授業があることを前提として、この授業では、講読の入門講座ということもあり、この授業はfestina lenteをモットーにし、多読よりも、文法事項に注目しながら精読（一つ一つの単語や、文法事項に注目）しながら、文章を正確に読むことを重視し、ラテン語がいかに論理的な言語かという点について実感を持ってもらうことがもう一つの目標です。

成績評価方法

●**試験**　40%　　受講人数にもよりますが、最終授業時に，読解力を判断する簡単なテストを実施したいと考えています（柔軟に対応する予定です）。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　60%　　授業に出席のうえ、順番にあらかじめ訳してきた内容について発表をしていただきます。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

受講者の人数や関心によって、購読内容を変更する可能性もありますが、ラテン語原典を文法事項に着目しながら精読していくという方針に変わりはありません。内容に関しては柔軟な対応をしたいと考えています。

精読の仕方については、授業の最初のオリエンテーションで説明するので、初回授業はできるだけ休まず参加してください。

科 目 名	**ラテン語講読1**　キケロを読む							
担当者名	土屋　睦廣							
共通	2単位	春学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

春学期科目「ラテン語講読1」は、「初級ラテン語」、「中級ラテン語」を学んだ人、もしくはそれと同程度のラテン語に関する基礎知識を持っている人が、古典ラテン語作品を原典で読むための科目です。

今期は、古代ローマを代表する散文作家であるキケロの作品を、文法的知識を踏まえながら、丁寧に講読します。短い作品なら半期で読了できますが、大きな作品の場合は、有名な箇所を抜き出して読むことになります。作品の選択は受講者の希望をできるだけ尊重するので、とくに希望がある場合は初講時に申し出てください。

受講者の語学力に応じて、毎回数十行を精読します。受講者には、数行ずつ区切りながら、音読して訳をつけてもらいます。接続法の用法など、基本的な文法事項も繰り返し確認しながら進めていきます。

前1世紀の代表的弁論家・政治家・思想家であるキケロのラテン語は、古典ラテン語の模範とされる名文です。古典作品を原典で読む喜びを、受講者の皆さんと分かち合いたいと思います。

授業の到達目標

ラテン語文法に関してはすでに大筋を理解していることを前提とし、基礎事項も繰り返し復習しながら、古典ラテン語の文献を独力で読めるようになることを目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　毎回の訳読により評価します。語学力だけでなく、積極的な取り組みと努力を評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

ラテン語に限らず、外国語の習得には多大な労力と時間を要しますが、努力をいとわぬ者には必ずやそれを上回る喜びが得られるはずです。ラテン語を学んだ経験のある人は、是非とも果敢に挑戦してください。

科 目 名	**初級サンスクリット語1**　初めて学ぶサンスクリット語							
担当者名	飛田　康裕　他／野武　美弥子							
共通	2単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

サンスクリット語は、宗教、文学、政治、法制等、古代インドのあらゆる分野の古典文献で使われて来た言語です。また、現

代インドの諸言語にも少なからぬ影響を与えており、「インド」を理解する上でとても有用な言語です。サンスクリット語はヨーロッパの諸言語とも起源を同じくし、そのなかでも古い言語の一つですので、言語に関心を持つ人にもサンスクリット語の知識は有益でしょう。授業では、サンスクリット語の基礎的な文法事項を学びながら、実際にサンスクリット語の短文を読んでいきます。文字と発音から始めて、サンスクリット語がどのような文法に則った言語であるのかを一通り理解できるようになることを目指します。また、古代インドの宗教・思想文献、あるいは、文学作品からの短い抜粋文をじっくりと読み、学習した文法についての理解をさらに深めることを目標とします。文法・抜粋文読解ともに丁寧に解説しながら授業を進めていきますので、語学の学習が苦手な方でも是非挑戦してみて下さい。

授業の到達目標

・インド文化におけるサンスクリットの位置付けを理解する。
・サンスクリットの発音に慣れ、また、初等文法知識を習得する。
・辞書を使って短文を解読できる。
・デーヴァナーガリー文字に親しむ。

成績評価方法

●**試験**　35%　　前半（第7回目予定）に一度簡単な中間小テストを行います。
●**レポート**　45%　　講読したテキスト等の逐語訳等を、最終回(第14回)に提出してもらいます。
●**平常点**　20%　　授業中に発音や名詞の曲用の練習、あるいは、文法の練習問題をしますので、これらへの取り組みも評価に加えます。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

まったくの初心者を対象に、言語への興味と思想への興味の両方を想定して授業を行います。サンスクリット語への関心がある人、また語学そのものが好きな人、インド文化全般に興味のある人も大歓迎です。

なお、初級サンスクリット語1 と初級サンスクリット語2 は独立の授業ですが、内容は関係していますので、なるべく続けて受講してください。

各授業回の担当者は以下のとおりです。
第1～7回：野武　美弥子
第8～14回：飛田　康裕

科 目 名	初級サンスクリット語2　はじめて読むサンスクリット語の文章							
担当者名	飛田　康裕							
共通	2単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

初歩文法を復習しながら（初歩文法を学びながら）インドの古典語であるサンスクリット語の文章を読みます。

この授業では、初歩文法の知識を復習しながら、一連のサンスクリット語の文章を講読します。古典語の場合には、文法を一通り学んだ後には、実際の文章を読んで、実践の中で文法の知識を深めていくことが実用的です。よって、文法の知識に不安のある場合でも、是非、挑戦してみてください。授業の終わりには、文法についての理解が深まったことをきっと実感できると思います。また、この授業では、主に、思想や宗教の文献を講読する予定です。思想や宗教の文献は、一見、難しそうに思われるかもしれませんが、文法事項は比較的易しく取り組みやすいものです。

なお、初級サンスクリット語2においては、初級サンスクリット語1では余り詳しく扱わない動詞についての文法事項を丁寧に説明する予定です。また、思想や宗教の文献に頻出する特有の表現についても、折に触れて、重点的に説明します。

授業の到達目標

初歩文法を復習しながら（初歩文法を学びながら）インドの古典語であるサンスクリット語の文章を読む。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　70%　　授業中に行う練習問題や授業中に扱うテキストの一部分を逐語訳して、最終回(第14回)にレポートとして提出してもらいます。
●**平常点**　30%　　授業中に、発音、名詞の曲用、あるいは、動詞の活用を練習し、機に応じて、小テストを行いますので、これらへの取り組みも評価に加えます。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

初級サンスクリット語1と初級サンスクリット語2は独立の授業ですが、内容は連続していますので、なるべく続けて受講してください。

なお、この授業は、サンスクリット語の初歩文法を一通り学習した人を対象としていますが、文法事項の復習をしながら進みますので、サンスクリット語が全く初めての人でも受講可能です。ただ、全く初めての人は多少の努力が必要であることを心にとめておいてください。

科 目 名	サンスクリット語基礎講読1							
担当者名	伊藤　瑞康　他／山部　能宜							
共通	2単位	春学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

サンスクリット原典を文法的に解析読解しつつ、インド仏教ならびにインド哲学における重要な教理・思想を学ぶことを目的とする。単なる知識の収集ではなく、テキストの内容を正確に理解するための文献学的方法論を学び、思想を学問的に考究する講義を目指す。

今期のトピックとしては、「空」の思想について考察する。具体的には、大乗仏典である『中論』をテキストとして講読する。また、サンスクリット原典の解読の一助として、漢訳文献を中心に『中論』の諸注釈の参照と比較考察も行う。さらには必要に応じて研究論文も読解参照する。

すなわち、単に知識を得るための講義ではなく、古典語を習得し原典を正確に読解してその思想を解釈する、という文献学的方法論を学び、その実践にふれるという学問的な経験が得られることを目標とするものである。
「講読」となってはいるが、初めの数回の講義で基礎的な文法事項の概説を行い、その後も基本的な文法を解説しながらテキストを読み進めていく。
とくに2023年度より講義時間が100分になったため、毎回の講義内で30分程度のサンスクリット語文法事項の学習をカリキュラムに含めて、理解度に応じた基本文法の復習と講読と併修することとする。
サンスクリット語文法を未習得の段階でも講義についてこられるように配慮するので、初学者も積極的に参加されることを期待する。
また、すでにサンスクリット語文法の講義を履修済みで基本文法を習得している者は文法のさらなる熟達を目指す。

授業の到達目標

1. サンスクリット語文法の習得、ならびに、簡単な文章の解読が可能となるようにする。
2. インド仏教における空の思想について、基本的な考え方を了得する。
3. 文献学の方法論の基礎を習得し、原典テキストの扱い方ならびに自力で読解する手法を学ぶ。
4. 学問的に思想や哲学を学ぶ意義について理解する。

成績評価方法

●**試験**　40%　　授業内容の理解度の確認
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　60%　　授業の参加状況、質疑応答の評価
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

授業計画についてはあくまで目安です。みなさんの理解度や習得状況に合わせて適宜授業の進展を調整するほか、既出事項の復習も行いますので、安心して参加してください。

科目名	サンスクリット語基礎講読2							
担当者名	伊藤　瑞康　他／山部　能宜							
共通	2単位	秋学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

サンスクリット原典を文法的に解析読解しつつ、インド仏教ならびにインド哲学における重要な教理・思想を学ぶことを目的とする。単なる知識の収集ではなく、テキストの内容を正確に理解するための文献学的方法論を学び、思想を学問的に考究する講義を目指す。 今期のトピックとしては、唯識思想について考察する。具体的には、大乗仏典である『唯識三十頌釈』をテキストとして講読する。また、サンスクリット原典の解読の一助として、諸注釈や他の唯識論書の参照と比較考察も行う。さらには必要に応じて研究論文も読解参照する。
すなわち、単に知識を得るための講義ではなく、古典語を習得し原典を正確に読解してその思想を解釈する、という文献学的方法論を学び、その実践にふれるという学問的な経験が得られることを目標とするものである。
「講読」となってはいるが、初めの数回の講義で基礎的な文法事項の概説を行い、その後も基本的な文法を解説しながらテキストを読み進めていく。
とくに2023年度より講義時間が100分になったため、毎回の講義内で30分程度のサンスクリット語文法事項の学習をカリキュラムに含めて、理解度に応じた基本文法の復習と講読と併修することとする。
サンスクリット語文法を未習得の段階でも講読にはついてこられるように配慮するので、初学者も積極的に参加されることを期待する。また、すでにサンスクリット語文法の講義を履修済みで基本文法を習得している者は文法のさらなる熟達を目指す。

授業の到達目標

1. サンスクリット語文法の習得、ならびに、簡単な文章の解読が可能となるようにする。
2. 唯識思想について、基本的な教理を了得する。
3. 文献学の方法論の基礎を習得し、原典テキストの扱い方ならびに自力で読解する手法を学ぶ。
4. 学問的に思想や哲学を学ぶ意義について理解する。

成績評価方法

●**試験**　40%　　授業内容の理解度の確認
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　60%　　授業の参加状況、質疑応答の評価
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

授業計画についてはあくまで目安です。みなさんの理解度や習得状況に合わせて適宜授業の進展を調整するほか、既出事項の復習も行いますので、安心して参加してください。

科目名	サンスクリット語講読　唯識の基礎文献を読む							
担当者名	齋藤　直樹　他／佐々木　亮							
共通	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

Vasubandhu（世親, ca. 400-480A.D.), Viṃśikā Vijñaptimātratāsiddhiḥ（唯識二十論）を読む。サンスクリット原典の講読を中心としながら、仏教を、宗教的もしくは実践的側面においてではなく、世界史上における一つの重要で顕著な思想的成果として捉えようとするときに重要となる諸概念の分析にも時間を割く。特に「因果関係」「空間」「全体と部分」「実体と属性」「現実性と可能性」といった哲学的な諸観念の解説に注力することで，広く人文科学一般の理解のための基礎付けにも役だつような授業構成となるであろう。

授業の到達目標

サンスクリット原典の読解を通じて、大乗仏教の教義の二大潮流の一つである「唯識」において展開された諸概念を理解する

こと。そのうえで、抽象的な思考を組み立てるための基本的な構図に習熟すること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　70%　　授業中に解読したサンスクリットテキストのローマ字表記とその和訳等。
●**平常点**　30%　　授業への取り組みかた。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

サンスクリット語の学習経験がまったくなくても，古典言語の文献講読もしくは仏教思想に関心をもつ学生であれば，どなたでも歓迎します.

各授業回の担当者は以下のとおりです。
第1回：齋藤　直樹
第2-4回：佐々木　亮
第5-14回：齋藤　直樹

科 目 名	古典ギリシャ文学　ギリシャ・ローマ文学の中のテーマとしてのエロス・・ギリシャ的「愛」							
担当者名	宮城　徳也							
共通	2単位	春学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。本年度は「エロス」をテーマとし、春期科目の「古典ギリシャ文学」では、プラトンの哲学作品『饗宴』（シュポシオン・・「一緒に」シュン、「酒を飲むこと」ポシオンの意味で、シンポジウムという日本語の語源です）で話題となった様々な「エロス」（性愛とその寓意としての愛の神）像と、ソクラテスが報告する上昇する階梯としての「愛の秘儀」を考察した後、ホメロスの「欲望」、ヘシオドスの「宇宙生成原理」など叙事詩に見られるエロス、女流詩人サッポーなどの抒情詩に見られる「愛」とその展開を考えます。トロヤ戦争の直接の原因はスパルタの王妃ヘレネに対するトロヤの王子パリスの不倫の愛でした。トロヤ戦争を背景とするホメロスの叙事詩『イリアス』、『オデュッセイア』に様々な「愛」の思想が見られるのは当然のことでしょう。

ギリシア語で「愛」を表す語として、エロス（性愛）、ピリア（友愛、親族愛）、アガペ（キリスト教的愛）があるのは良く知られていますが、エロスについて考えるには少なくともピリアに関する理解も必要で、アリストテレスの『ニコマコス倫理学』などに見られる「愛」の分析を参考に、ピリアとの対比からプラトン的エロス像を浮き彫りにし、ギリシャ的「愛」の本質を考察します。最終的にはそうした思想としての「愛」の影響が文学作品のどのように反映し、一方でどれほどの乖離が見られかも分析することを目標とします。ギリシャ文学に関しても、常にラテン文学との対比を意識します。教科書によって、ギリシャ文学からラテン文学への流れが、後世のヨーロッパ文学に大きな影響を与えたことを理解できることを目指すからです。

授業の到達目標

「エロス」（愛）をキーワードとして、古典ギリシャ文学の概要を理解する。

成績評価方法

●**試験**　30%　　毎回小テストを行ない，その平均点を基礎に成績を評価します。
●**レポート**　0%　　レポートは課しません。
●**平常点**　70%　　毎回，授業の要約と感想（200字程度）の課題提出を求め，動画視聴，資料参照を合わせて平常点として評価します。
●**その他**　0%　　試験（小テスト形式）と平常点（動画視聴，資料参照，課題：要約と感想）で評価します。

備考・関連URL

関連URL:
http://www.f.waseda.jp/tokuyam/index.htm

科 目 名	古典ローマ文学　ギリシャ的「愛」のローマ文学的展開							
担当者名	宮城　徳也							
共通	2単位	秋学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。

「古典ローマ文学」は紀元前3世紀から、紀元後5世紀くらいまでラテン語で書かれた文学作品を扱いますが、この時代にはギリシャ語でも文学作品が書かれ、ラテン語作品もギリシャ文学の影響を抜きにしては考えられません。本授業では、ローマ文学の中心ではある、叙事詩、演劇、恋愛詩をモデルとなったギリシャ文学と関連させながら、紹介します。

本年度は「エロス」をテーマとし、春期（前期）科目の「古典ギリシャ文学」では、プラトンの哲学作品『饗宴』のエロス論を出発点に、叙事詩に始まる古代ギリシャ文学の中のエロスを分析して、ギリシャ的「愛」に関する基礎知識を得ました。秋期（後期）科目である「古典ローマ文学」においては、このような思想が、言語を異にするローマ文学でどのように展開したかを考えます。エウリピデスの『メデイア』の主人公メデイアは裏切った夫イアソンへの復讐のために愛しいわが子たちを殺してしまいますが、この二人も出会ったときはエロスの神に祝福された幸せなカップルでした。その物語を描いたのが、前3世紀ヘレニズム時代の叙事詩『アルゴ船物語』ですが、この作品に見られるヘレニズム文学の特徴を指摘しながら、エロスが女性に及ぼす作用、「恋におちる女性」というモティーフを文学史を踏まえながら考察します。このモティーフは都市の洗練された世界文学としてのヘレニズム文学の特徴とともに前1世紀後半のローマの大詩人ウェルギリウスの叙事詩『アエネイス』の第四巻に引き継がれます。ここに描かれたディドーの悲恋は後のヨーロッパの絵画、音楽の主題となって、後世の文化に大きな影響を与えました。

ウェルギリウスの作品としては『アエネイス』の他に、『牧歌』と『農耕詩』があります。これらの作品がいかにヘレニズムの精神に満ちていながらローマ的独創性を発揮したものであるかは、授業で紹介しますが、『牧歌』に活かされた恋愛詩のモティーフ、『農耕詩』に取り上げられたオルフェウス伝説を分析することによって、彼の「恋愛」思想の背景にエピクロス哲学があることがわかります。エピクロスの思想をストア哲学などと対比しながら紹介して、ウェルギリウスのエロス観への影響を考察し

ます。

授業の到達目標

ギリシャの影響を受けた「エロス」（愛）の思想が、古代ローマでどのように展開したかをヒントにして、後世に大きな影響を与えた古典ローマ文学の概要を理解する

成績評価方法

●**試験**　30%　　毎回小テストを行ない，その平均点を基礎に成績を評価します。
●**レポート**　0%　　レポートは課しません。
●**平常点**　70%　　毎回，授業の要約と感想（200字程度）の課題提出を求め，動画視聴，資料参照を合わせて平常点として評価します。
●**その他**　0%　　試験（小テスト形式）と平常点（動画視聴，資料参照，課題：要約と感想）のみで評価します。

備考・関連URL

関連URL:
http://www.f.waseda.jp/tokuyam/index.htm

科 目 名	ギリシャ・ローマの思想と文化　ギリシャ・ローマ文化とその後世への影響							
担当者名	宮城　徳也　他／内川　勇海／加藤　喜市／小石　絵美							
共通	2単位	秋学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フル［オンライン］フルオンデマンド

授業概要

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。
「古典文化」と称されるギリシャ・ローマの文化はそれ自体としても、興味の尽きない存在だが、どの時代においても様々な文化に創造力の源泉を提供してきた。キリスト教はギリシャ哲学との葛藤を通じてその神学を築き上げたし、イスラムの文化が古典古代の文献を一部アラビア語に訳すなどしながら、多くのこと（哲学、医学、天文学、数学、法学）を学んで独自の文化を構築して、さらに中世ヨーロッパに大きな影響を与えたことは良く知られている。
本講義は春期（前期）科目の「ギリシャ・ローマ世界入門」と連動しながら、随時古典古代文化に言及しながら、主としてそれが後世に与えた影響に焦点をあて、様々な事例をわかりやすく紹介してゆく。中世、近代、現代の文化、芸術、思想、宗教、科学、政治その他にとってギリシャ・ローマの思想と文化がどのような意味を持つかを考える機会を提供したい。

授業の到達目標

ギリシャ、ローマの思想と文化が、後世に多様で重大な影響を及ぼしたことの理解を目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%　　レポートと平常点で評価。
●**レポート**　40%　　学期末に2000字程度で、学習の成果をまとめた報告を求める（Waseda Moodle提出）。レポートが提出されない場合は「不受験」Hの評価になります。
●**平常点**　60%　　毎回、課題の提出を求め、それを，受講状況（動画視聴，資料参照）とともに平常点として評価します。
●**その他**　0%　　特にありません。

備考・関連URL

授業実施方法：オンデマンド（パワーポイント等による録画講義，課題による平常点評価）で行ないます.
多様な興味を持った広い範囲の受講者の積極的参加を期待する。春期（前期）の「ギリシャ・ローマ世界入門」は関連するが別内容なので、連続して両方でも、どちらか一方でも履修できます.

科 目 名	サンスクリットの世界1　古代インドの宗教と思想							
担当者名	齋藤　直樹　他／野武　美弥子							
共通	2単位	春学期	水曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

現在、世界人口のほぼ半数がインド・ヨーロッパ語族に属する言語を使用している。その語族のインド・イラン語派に属するサンスクリットは「(知的に）整備された言語」であり、その言語によって恐るべき数の「文学」が生みだされた。そして南アジア全域における「普遍語」たるその言語で書かれたあまたの書物が周辺の地域に伝播し翻訳され、その一端がアジアの東端に位置する日本にまで到達した。ヨーロッパにおけるギリシア語あるいはラテン語に匹敵するような、アジアにおけるサンスクリットの知的ならびに文化的影響力の重要性は、現在もっと注目されてよい。齋藤担当の授業においては、その言語でかたられた神話と宗教的理論のなかからいくつかの論題を取りあげ、それらの解釈の可能性を提示して、インド的思考の基礎への理解を図っていく。たとえばヴァルナ、インドラといった神々にかかわる諸表象の分析、あるいは世界原理としてのブラフマンという観念への評価などである。また野武担当の授業においては、ヴェーダ聖典の二つの流れと、それを引き継いだ後代のバラモン哲学諸派が人間や世界をどのように見たのかということについて、適宜仏教やジャイナ教と比較しながら考える。

授業の到達目標

サンスクリットによってかたちづくられた諸宗教あるいは諸思想は、その言語的厳密さからもたらされる難解さや排他性ないしは保守性をもつ一方で、非常にふかい倫理性を湛えたものである。ダルマ（法)、すなわち正しい規範に則った行為を宗教的救済＝解脱の基本的な条件の一つとすることにおいて、インドの諸宗教は教理上のさまざまな差異を超えて共通する。その倫理的な基礎付けがいかなる思想的背景をもつのかを理解することは、倫理や道徳が変質し崩壊しつつあるように見えるわれわれの時代へのなんらかの指針を探りだすためにも、いくばくかの意義をもつことであると思われる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　75%　　期末の4千字程度のレポート
●**平常点**　25%　　授業への取り組みかた
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

サンスクリットの語学の授業ではありません。おもに古代のインド・ヨーロッパ語族において形成された思想と宗教にかかわ

る知識への初歩的な導入を主旨とします。
なお、各授業回の担当者は以下のとおり。
第1-7回：齋藤　直樹
第8-10回：野武美弥子
第11-14回：齋藤　直樹

科 目 名	サンスクリットの世界2　古代インド思想入門							
担当者名	林　慶仁　他／野武　美弥子							
共通	2単位	秋学期	水曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
サンスクリット語はインドの古典文化を中心的に担ってきた言語である。近代以前のインドの思想の多くはこの言語により表現されてきた。日本人になじみの深い仏典も、その多くはサンスクリットで伝えられてきた。その一方で、インドでは古代からサンスクリット以外の言語も使用されており、インド思想や文化全体を考える場合にはサンスクリット以外の言語も視野に入れる必要がある。このクラスでは、まずは、こうしたサンスクリットとその他のインド諸語の関係、および、それらの言語とインドの諸思想の関係を見る。その上で、これらの言語により展開されてきた古代インド思想の一端を紹介する。講座の前半では、仏典及びヒンドゥー教聖典をいくつか取り上げ、その和訳を講読する。仏教の中における異なった考え方や、仏教とヒンドゥー教の世界観の違いを、実際にテキストを読むことを通して発見し、思想史の大まかな流れをつかむことを目指す。講座の後半では、前半の文献講読の中に出てきた考え方を踏まえ、歴史的な位置関係を確認しながらインド思想の特色を解説する。特に、ヴェーダ聖典およびウパニシャッドにおける、梵（ブラフマン）と我（アートマン）の思想を検討する。講座の最後には、現代インドの思想にも触れる予定である。 なお、サンスクリット語については、必要に応じて適宜単語等を説明するにとどめる。

授業の到達目標
サンスクリット語のインド文化における位置付けについて理解する。インド古代思想史の大まかな流れを把握し、ヴェーダやウパニシャッドに特徴的な考え方について理解を深める。

成績評価方法
●**試験**　50%　　講義で得た知識を踏まえ、いかに自身の言葉で論ずることができるかどうかを問います。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　授業への取り組みかた
●**その他**　0%　　特になし

備考・関連URL
野武担当の最初の2週（第8－9回）はオンラインで実施します。

科 目 名	アラビア語から学ぶアラブ文化1							
担当者名	冨永　正人							
共通	4単位	春学期	火5時限	水5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
自分について語るために必要な現代標準アラビア語（フスハー）の基本表現を身につけていくと同時に、アラビア語を話す人々や地域、文化について学びます。

授業の到達目標
1. アラビア文字を読み、書くことができる。
2. 自分紹介など個人的な情報について、簡単なやり取りができる。（CEFRのA1レベル）
3. アラビア語が話されている地域や文化に関する知識と関心を高める。

成績評価方法
●**試験**　40%　　春学期に学んだことを活かして、自分についてアラビア語で発表。評価は、発表原稿を作る際のアラビア語作文と、発表の際のアラビア語の表現力（正確さ、流暢さ、聞き手への配慮）、プレゼンテーション能力などに基づいて行う。
●**レポート**　20%　　自分の身の回りからアラビア語やアラブ文化を見つけて、簡潔で魅了的なレポートにまとめる。アラビア語学習によって得た新たな視点や知識と、自らの経験や知識を結びつけ、独自の視点を提示できているレポートを高く評価。
●**平常点**　10%　　毎回の授業への出席や取り組みで評価。
●**その他**　30%　　授業で使用する音声教材の音読の習熟度で評価。評価は、正確さ、流暢さ、聞き手への配慮などの基準で行う。

科 目 名	アラビア語から学ぶアラブ文化2							
担当者名	冨永　正人							
共通	4単位	秋学期	火5時限	水5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
自分について語るために必要な現代標準アラビア語（フスハー）の基本表現を身につけていくと同時に、アラビア語を話す人々や地域、文化について学びます。

授業の到達目標
1. アラビア文字を読み、書くことができる。
2. 自分紹介など個人的な情報について、簡単なやり取りができる。（CEFRのA1レベル）
3. アラビア語が話されている地域や文化に関する知識と関心を高める。

成績評価方法
●**試験**　40%　　秋学期に学んだことを活かして、自分についてアラビア語で発表。評価は、発表原稿を作る際のアラビア語作文と、発表の際のアラビア語の表現力（正確さ、流暢さ、聞き手への配慮）、プレゼンテーション能力などに基づいて行う。
●**レポート**　20%　　自分の身の回りからアラビア語やアラブ文化を見つけて、簡潔で魅了的なレポートにまとめる。アラビ

ア語学習によって得た新たな視点や知識と、自らの経験や知識を結びつけ、独自の視点を提示できているレポートを高く評価。
●**平常点**　10%　　毎回の授業への出席や取り組みで評価。
●**その他**　30%　　授業で使用する音声教材の音読の習熟度で評価。評価は、正確さ、流暢さ、聞き手への配慮などの基準で行う。

備考・関連URL

春学期から引き続き履修の方も、秋学期からの新規履修の方も歓迎します。春学期の「アラビア語から学ぶアラブ文化1」とシラバスは同じです。しかし、春学期から継続して履修する方は、新しいクラスメイトと楽しくコミュニケーションをしながら、既習表現の定着を図り、表現の幅をさらに広げていくことが可能です。

科 目 名	初級チベット語1　中央アジア仏教圏の標準語を学ぶ							
担当者名	佐藤　晃							
共通	2単位	春学期	水曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

チベット語は文法構造が日本語に大変よく似ており、比較的習得しやすい言語の一つだと言えます。チベット語には口語と文語の二種類があります。口語には様々な方言や派生言語があり、チベット全域から、北インドのラダック、ブータン、ネパールに至るまで、大変広い地域で使用されています。これに対して文語は、モンゴル、ロシアなどの口語のチベット語を使用しない地域でも使用されており、それにより世界最大の仏教文献コレクションが形成されています。チベット語の基礎を習得することで、北インドからシベリアまで馬に乗って長い旅に出ることも決して夢ではなく、深淵な仏教哲学から密教にいたるまでの豊富な仏教文献群や歴史書を紐解くための入り口に立つこともできます。本講義では、まずチベット語の基礎となる文字・発音のマスターを目指します。そして、基本的な文法事項を学び、平易な日常会話、チベット語文献を読解するための基礎能力の習得を目指していきます。本講義は、まったくの初心者を対象とした講義です。受講者の理解度に応じて柔軟に授業を進めていきますので、語学学習に不安を感じる方も是非挑戦してみてください。

授業の到達目標

・チベット語の文字の読み書き、標準的な発音をマスターする。
・口語チベット語の基本を学び、チベット語の日常会話ができるようになるための土台をつくる。
・文語チベット語の基本を学び、チベット語の文章を読解するための土台をつくる。

成績評価方法

●**試験**　70%　　授業の内容全般についての理解度を評価します。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　30%　　授業の中で適宜課題を出したり、小テストを行ったりします。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

・まったくの初心者を対象に、チベット語への関心、チベット仏教への興味を想定して授業を行います。チベット語に関心のある方、仏教を含めチベット文化全般、また語学学習そのものに興味のある方の受講も歓迎します。
・受講者は本講義の続編にあたる「初級チベット語2」も続けて受講されることをお薦めします。
・チベット語はサンスクリット語で書かれた仏典を翻訳するために整備された言語でもありますので、サンスクリット語（「初級サンスクリット語1」等の講義があります。）と並行して学ぶことも推奨しています。

科 目 名	初級チベット語2　チベット語で読む仏教文献							
担当者名	佐藤　晃							
共通	2単位	秋学期	水曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本講義は、春期「初級チベット語1」の続編です。春期に引き続き、チベット語の基本的な文法事項を学び、平易な日常会話、チベット語文献を読解するための基礎能力の習得を目指していきます。本講義では、特に講読を中心に行います。チベット仏教史書、チベット大蔵経の中に含まれる仏教経典や論書等を取り上げる予定です。また、受講生の興味に応じて、サンスクリット原典とチベット語訳の比較なども適宜行います。本講義は初心者を対象とした講義です。文法、文例読解の解説を丁寧に行い、受講者の理解度に応じて柔軟に授業を進めていきますので、語学学習に不安を感じる方も是非挑戦してみてください。

授業の到達目標

・口語チベット語で日常的に最も頻繁に使用される基本的な文型と語彙を身に付ける。
・文語チベット語で頻繁に使用される基本的な文例を学び、文献の読解と和訳能力の基礎をつくる。

成績評価方法

●**試験**　70%　　授業の内容全般についての理解度を評価します。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　30%　　授業の中で適宜課題を出したり、小テストを行ったりします。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

・初心者を対象に、チベット語への関心、そして、特にチベット仏教への興味を想定して授業を行います。チベット語に関心のある方、仏教を含めチベット文化全般、また語学学習そのものに興味のある方の受講も歓迎します。
・ただし本講義は「初級チベット語1」との連続性を念頭においていますので、なるべく続けて受講してください。秋学期単独での受講も可能ですが、その場合には自主的な努力が求められます。
・チベット語はサンスクリット語で書かれた仏典を翻訳するために整備された言語でもありますので、サンスクリット語（「初級サンスクリット語1」等の講義があります。）と並行して学ぶことも推奨しています。

科 目 名	現代文化概論1 Culture, Heritage, and Globalization in the Context of Contemporary Indian Society in Comparison with Japanese Society							
担当者名	ホサイン　タニア							
多元	2単位	秋学期	火曜日	2時限	1年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

Every society has its culture, how people live and express themselves, and how they value objects and thoughts. India is also not an exception. It has its own culture and heritage. The study of Indian society has expanded rapidly since the late 20th century. This course will discuss contemporary Indian culture concerning contemporary Japanese society. Traditions, religions, festivals, music, dance, clothing, and movies are essential to modern Indian and Japanese society. At the same time, it will focus on how cultures are changing with globalization.

Indian Culture is one of the oldest cultures in the world. India had an urban civilization even during the Bronze Age. The Indus Valley Civilization(Harappa Civilization) dates back to 3300 BC – 1300 BC. Distinct cultures that are different from each other co-exist together in a single country. Thus, In India, there is unity amidst vast cultural diversity. The way people live in India is reflected in its culture. The study of Indian society has expanded rapidly since the late 20th century, reflecting India's heightened visibility in a globally interconnected cultural, economic, and political landscape. Students will learn many unknown aspects of India and Japan through this course. Along with the traditional culture, globalization also knocked on the Indian cultural doors and left its impact. Naturally, culture has started changing, and like many other places in the world, Indian people are undergoing an identity crisis.

Globalization is a process that connects countries of different cultures, castes, and heritages. Globalization has brought significant changes in the world. People's mentality has changed, and their food habits, culture, and languages have also been replaced. It has both positive and negative impacts on society. Some people argue that globalization is an enriching process; it opens the minds and views of the people. Others argued that it takes tradition and culture. This course aims to show how globalization has taken place in Indian and Japanese society and the positive and negative impacts on Indian culture.

授業の到達目標

This course aims to give the students an idea of the existing cultural patterns that are unknown to them. Students will learn various aspects of Indian culture and heritage, and at the same time, they will learn about the inequalities that exist in society. This course examines cultural issues at societal and global levels. It discusses the impact of globalization on Indian culture and identity. Students will think critically and write analytically, which will help them become global citizens. After attending this course, students can obtain sufficient knowledge of contemporary Indian and Japanese society and describe/explain the nature of major social issues

成績評価方法

Presentation: 20%
Paper: 40%
In-class/take-home exam Mid-term Assessment: 30%
Attendance and class participation: 10%

科 目 名	現代文化研究1 Globalization and Japanese Pop Culture							
担当者名	ホサイン　タニア							
多元	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

Globalization is usually considered the worldwide spread of Western—particularly American—popular culture. Yet, if one nation stands out in disseminating pop culture in East and Southeast Asia, it is Japan. Pokémon, anime, pop music, and television dramas such as *Tokyo Love Story* and *Long Vacation*—exporting Japanese media and culture is big business. In *Recentering Globalization,* this course explains how Japanese popular culture circulates in Asia and other continents. It discusses the rise of Japan's cultural power in light of decreasing globalization processes. It demonstrates how Japan's extensive cultural interactions with the different parts of Asia complicate its sense of being " in but above" or "similar but superior to"the region. Rich in empirical detail and theoretical insight, *Recentering Globalization* is a significant contribution to thinking about cultural globalization and transnationalism, particularly in the context of East Asian cultural studies.

授業の到達目標

Japan's culture, seamlessly integrating ancient traditions and futuristic innovation, has grown from a regional marvel to a global phenomenon. Across continents, the influence of Japanese culture has seeped into everyday life, reshaping industries, inspiring creativity, and offering a fresh perspective on balance and harmony. From the serene elegance of a traditional tea ceremony to the neon-lit vibrancy of Tokyo's Shibuya district, Japan's cultural exports captivate the imagination of millions. This course aims to explain how this island nation developed such a strong global influence. Why are people worldwide so enthralled by its practices, aesthetics, and innovations?

成績評価方法

●**試験**　30%　Presentation
●**レポート**　40%　Paper
●**平常点**　20%　In-class test
●**その他**　10%　Attendance /short test etc

科 目 名	イギリス民衆文化論 「人びと」の夢と現実							
担当者名	武藤　浩史							
多元	2単位	秋学期	木曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

日本とイギリスの文化の共通点として一つ挙げられるのは、「人びと」の文化の豊かさ、レベルの高さである。エリート文化に刺激を受け、それに憧れながらも、イギリス文化の豊饒さを支えているのは間違いなく「人びと」の文化である。本講義では、イギリス音楽の最高峰ビートルズ、20世紀最高のイギリス作家D・H・ロレンスの最高傑作『息子と恋人』、夏のロンドンで開催される国民的な大音楽祭プロムスのクライマックス「ラスト・ナイト」の3つに焦点を当てて、それらを楽しみながら、そこに現れる厳しい現実を生きながらも自分たちの理想と夢を追い求めるイギリス民衆の姿と形を、その光と影を考察したい。

授業の到達目標

イギリスの民衆文化の面白さを、ビートルズ、D・H・ロレンス、大音楽祭プロムスの3つの例の精査を通して、具体的に語り、単なる基礎知識にとどまらず、英国民衆文化の「深い」面白さを味わう力を身につけさせる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　筆記試験での評価は行わない。
●**レポート**　50%　　最終レポートの評価を、この「レポート」の評価とします。
●**平常点**　50%　　出席、授業内の発言、2回の小レポートの評価を、この「平常点評価」とします。
●**その他**　0%　　その他の方法での評価は行わない。

科 目 名	ポストコロニアリズム							
担当者名	チャン　エドワード　ケイ							
多元	2単位	秋学期	無	フルOD	1年以上	オープン科目	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

(NOTE: This class is now **full-on-demand** from 2024 going forward.) Postcolonialism is an intellectual school of thought and field of study that deals with the phenomenon of colonialism and its continuing effects on the cultures and peoples of the countries that are former colonies. Postcolonialism is practiced in several disciplines but came to prominence in Western universities mostly through literary studies, which will be the primary orientation for this course. The course will provide an overview of the various histories, theories, issues, and situations that constitute what we call "postcolonialism" and is offered as an *introduction* to postcolonial studies. The course is modeled after John McLeod's *Beginning Postcolonialism* (2010) and mostly focuses on "classic" postcolonial studies as it was applied to mostly European imperialism (particularly British). Class sessions will be conducted entirely in English. The material covered in the course can be difficult, so please consider your English-language abilities before registering for the course. Students will learn about the various aspects of postcolonialism and hopefully how to apply postcolonial theory to real-world situations. In order to pass the course, students must complete all assignments, including viewing video lectures and responding.

授業の到達目標

Students will learn about the various aspects of postcolonialism at an introductory level and how to apply postcolonial theory to texts, issues, and real-world situations. Students will also practice their English-language reading, writing, listening, and discussion skills.

成績評価方法

(subject to change)
Two exams: 60%
Final project: 20%
Online activities: 20%
TOTAL: 100%

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	アジアの近代 清朝から近代中国へ							
担当者名	柳澤　明							
多元	2単位	春学期	無	フルOD	1年以上	オープン科目	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

現代中国の領土・民族的枠組の原型となった清朝を扱う。全体の流れとしては、まず清朝の形成・拡大過程、清帝国を中心とした広域秩序の構造を俯瞰する。続いて、19世紀以降の国際関係の変動にともなって伝統的秩序が解体し、現代につながる「中国」が姿を現してくる過程を検討する。また、近代の到来とともに、人々を取り巻く「風景」がどのように変化したかを、都市・交通・通信・教育・ジャーナリズム・軍事などの側面を取り上げ、国際秩序の変動との関係も踏まえながら概観したい。

本科目は、「ディプロマポリシー」、「カリキュラムポリシー」にいう「講義」に該当する。

授業の到達目標

講義動画の視聴、各回の小テストへの解答、期末レポート作成を通じて、アジアにおける前近代から近代への移行のありかたに対する理解を深め、現代東アジアをめぐる諸問題の淵源を探る手がかりとする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　70%　　期末に授業内容に関連するレポートを課す。テーマ設定の明確さ、関連する先行研究・資料の読み込みの程度、論理構成、オリジナリティを総合的に評価する。
●**平常点**　30%　　各回に設定する小テストへの解答状況等による。

●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

※授業は基本的にオンデマンド配信で行います。詳細についてはWaseda Moodle上で連絡します。※図像資料などを利用して、わかりやすく進めていきたいと考えています。

科 目 名	アジア社会とイスラーム　「イラン」の歴史と文化							
担当者名	高木　小苗							
多元	2単位	春学期	無	フルOD	1年以上	オープン科目	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

この授業では、「アジア」の中でも「イスラーム」との関係性が深い「イラン」の歴史と文化について学びます。 イランは、かつてペルシアとも呼ばれた国で、近年では経済制裁やアメリカ・イスラエルとの関係に関する報道などで注目されることが多いですが、日本との外交関係開設95周年を迎える親日国でもあります。　「イラン」という地名は、歴史的には現在のイランの国土より広い地域を指しました。 また、現在のイランの国教であるイスラーム教は、7世紀以来、「イラン」の歴史・社会・文化に重要な影響を及ぼし、イランの公用語であるペルシア語は、イスラーム教の聖典『クルアーン』の言語であるアラビア語と共に、前近代から広大な地域で使用され、独自の文化を展開してきました。

14回の講義を通して、イスラーム教とペルシア語文化の展開に注意しながら、「イラン」の歴史と文化を概観し、さらに広域のアジア史・中東史の文脈に位置づけて把握することを目指します。※この授業は、フルオンデマンド形式です（全14回オンデマンド配信形式で実施します）。

授業の到達目標

（1）「イラン」の歴史・文化に関する基礎的知識を習得すること。
（2）イスラームという宗教とその文化の多様性・共通性を理解すること。
（3）「歴史的イラン世界」の展開を中東史・アジア史の文脈に位置づけて把握すること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　・実施しない
●**レポート**　60%　　・期末レポートを提出してもらいます。
・評価は，授業内容の理解度に加えて，授業で学んだことを応用して自分なりの考察を展開・深化させている度合いを重視して行います。
●**平常点**　40%　　・各回の講義の際に、Waseda Moodle上で提示する課題を提出してもらいます。授業を通して考察した内容や質問などを記述してもらうほか、教員が提示した問いに解答してもらうこともあります。
・評価は，解答内容の正否より、授業に対する積極性を重視して行います。
●**その他**　0%　　・特になし

備考・関連URL

・各回の講義は、Waseda Moodleによるフルオンデマンド方式で実施します。
・授業内容に関する質問は、課題に書き添えてください。教員に対する相談は、Waseda Moodleのメッセージ機能を利用して行ってください。
・授業の双方向性を高めるためにも、質問や相談・コメント等を積極的に行っていただければと思います。
・課題に対するフィードバックは、基本的に授業内で実施します。個人的な質問・相談についてはメッセージやコメント欄で回答する場合もあります。
・期末レポートに対するフィードバックは、必要に応じてWaseda Moodle上で行います。

科 目 名	伝統文化概論1　日本の絵解き							
担当者名	吉原　浩人							
多元	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	オープン科目	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

日本の絵解きについて、史資料や絵画を参照しながら、フルオンデマンド講義によって概説します。絵解きとは、物語性・思想性のある絵画の内容を解説・説明することです。宗教的な絵画を利用しながら、参詣者を教導したり、啓蒙したりすることを目的としていました。文字の読めない庶民にとって、絵画によって説明される宗教的事跡は、具体的なイメージが眼前に展開するため、理解しやすいものであったでしょう。まず、インド・中国・朝鮮半島などにおける絵解きの展開を概説した後、日本の絵解きについて、個別の事例を見ていきます。具体的には、『五趣生死輪図』『熊野観心十界曼荼羅』などの仏教的世界観を示す絵画、『道成寺縁起』などの寺社縁起・境内図、仏伝や『法然上人絵伝』『親鸞聖人絵伝』などの高僧伝、『苅萱親子御絵伝』など在地の物語について、吉原自身が撮影した貴重なビデオや、中世以来の絵画資料を利用しながら見ていきます。

なお初回授業では、本講義の前提となる仏教の世界観について概説します。日本思想・仏教・文学に関連する辞書の使用法、インターネットと図書館を利用した参考文献の検索、論文の書き方のコンテンツは、授業開始時から随時参照できるように設定します。

授業の到達目標

仏教の世界観や寺社の縁起・高僧の伝記などを、庶民にもわかりやすく説いた絵解きの歴史と実態についての基本的な知識を持ち、映像や絵画、各種文献資料を通して理解することを目的とします。

成績評価方法

レポート72%：期末に講義内容と関連するレポートを課します。詳細は、Waseda Moodleのアナウンスメント機能などによって指示します。

出席28%：規定により、三分の二以上の出席（9回以上）が単位授与の必要条件です。毎回、200字以上300字程度の学習内容を踏まえた感想文を課し、コンテンツ最後までの視聴とレビューシート提出をもって出席とします。第14回のコンテンツは、視聴を出席と数え、レビューシート提出は求めません。締切は、コンテンツを公開した一週間後の日曜日23:59です（休業中でもこの締切は変わりません）。ただし、第1回と第2回締切のみは、追加登録者があることを考慮し、第3回締切と同じ、5月4日（日）23:59とします。出席点（計28点）は、授業ごとに2点を付与しますが、内容が劣る場合は1点、欠席の場合は0点と

します。なお、動画コンテンツをただ流しただけで、実際には視聴していないにもかかわらず、内容空虚なコメントを提出した学生に対しては、厳しく対処します。

備考・関連URL

原典を提示して読解するので、高等学校卒業程度の古文・漢文の基礎知識が必要です。しかし、初学者でも不安を持つ必要はありません。意欲ある学生の受講を望みます。

科目名	伝統文化概論2　仏教の伝播・継承・変容							
担当者名	佐藤　晃							
多元	2単位	秋学期	水曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

インドで誕生した仏教思想は、その後、長い歴史の中でアジア諸地域へと伝播していきました。本講義では、特にインド、中国、チベットという地域に限定して、そこで展開される仏教思想の伝播・継承・変容について考えていきたいと思います。

仏教思想の中国初伝は後漢期（1世紀半ば）とも言われますが、中国では時代また地域、また王朝によってその伝播・受容の在り方に特徴が見られます。仏教典籍の翻訳、宗派の形成史等の観点から概観していきます。さらに、チベットへの仏教伝播にも目を向けます。チベットへの仏教初伝は6世紀頃、本格的な受容は8世紀後半とされます。そこで注目される点として、そのチベット仏教初期にインドのみならず中国からも仏教が伝播された点、チベットでの宗派形成に中国仏教の影響が見られる点、さらにチベットで成立した宗派・思想が元朝や清朝といった王朝に伝播し独特の仏教文化を展開させた点等が挙げられます。仏教思想の伝播には、時代・地域に応じた多様且つ複雑な文化的事象の展開が付随します。この講義でそのすべてを扱うことは難しいですが、可能な限り多くの事例を紹介したいと思います。

授業の到達目標

インド・中国・チベットで展開した仏教伝播の諸相を多角的に理解することを目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　60%　　学期末にレポートを課す。講義内容に基づき、各自テーマを設定して執筆する。詳細は教場で指示する。
●**平常点**　40%　　原則として3分の2以上の出席を前提とし、授業への取り組み（レビューシート等）を総合的に評価する。
●**その他**　0%　　特に無し

科目名	伝統文化研究1　仏教実践の諸相と、漢文禅観経典の成立背景							
担当者名	山部　能宜							
多元	2単位	春学期	火曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

インドにおこった仏教の禅定（禅観）実践は，やがて中央アジア（シルクロード）を経て東アジアに伝えられ，多彩な展開を遂げることとなる．本講義では，そのような実践の諸相を紹介したい．はじめに，初期仏教における代表的な修行法の一つである「念処」（注意深さ、mindfulness）の内容を概観したのち、仏教における実践のさまざまな側面を紹介する．講義の後半では，『観無量寿経』等漢文のみで現存する禅観経典に焦点をあて，それを関係するインド・中国文献，さらには中央アジア（シルクロード）の石窟壁画と比較検討することにより，その成立背景を解明することを試みる．そのような多角的な検討を通じて，シルクロードにおける東西文化交流の一端を明らかにするとともに，学際的な研究手法を身につけることを目指したいと思う．なお、最初の導入部分には一部「仏教概論」と重なる部分がある。また、国際教養学部で秋学期に開講されるBuddhism across Asiaと一部内容が重複する。

授業の到達目標

人文系の研究において，文献資料が重要な位置を占めることはいうまでもないことであるが，それ以外にも，石窟の構造・壁画の内容・現在の僧院に伝わる実践など，さまざまな手掛かりを使って，五世紀前後の中央アジアにおける行者達の実践形態を多角的に解明していきたい．そのための方法論を提示できればと思う．思想系の学生のみならず，美術史や心理学等を専攻する学生にも，参考となる授業にしたいと考えている．

成績評価方法

●**試験**　100%　　講義内容に関する理解を学期末に確認する。
●**レポート**　0%　　今回は原則として課さない。ただし、休講の補完措置としてレポートを課した場合には、評価に加味する。
●**平常点**　0%　　特に評価基準とはしないが、出席状況が不十分な場合、評価の対象としないことがある。
●**その他**　0%　　今回は適用しない。

備考・関連URL

一部の講義（特に第10回）で、インドの信仰に由来する性的なイメージに言及することがある。

科目名	伝統文化研究2							
担当者名	井上　文則							
多元	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

古代ローマ帝国で流行した宗教の一つにミトラス教がある。ミトラス教とは、ペルシアに起源をもつとされる密儀宗教で、その最盛期にはキリスト教最大のライバルであったとされている。しかし、4世紀末にキリスト教が国教化されると、ミトラス教は次第に衰微し、消滅した。ミトラス教の教義を記した経典なども今日残っていないため、この宗教には不明な部分が多い。本講義では、このようなミトラス教の実態について考察することを通して、キリスト教の伝統とは異なる、もう一つのヨーロッパの側面に迫りたい。

授業の到達目標

古代ローマ帝国の宗教についての知見を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　60%　　授業の理解度で評価する。
●**平常点**　40%　　レビューシートで評価する。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。

科 目 名	神道概論　日本における神観念の成立と展開							
担当者名	平澤　卓也							
多元	2単位	春学期	水曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

日本における神祇信仰は、仏教と複雑に絡み合いながら発展してきた。なかでも、仏・菩薩が衆生救済の為に神として現れたとする本地垂迹説は、平安時代中期から中世にかけて広く普及し、多くの神々に本地仏が定められた。また、古代神話に描かれた神々の物語も、中世には新たな視点から読み替えられ、古代とは異なる独自の神話が創りだされていく。日本人の宗教観は、このように柔軟で開かれたものだったのである。「神道」も、こうした時代思潮を背景に形成された思想・信仰であるといっていい。しかし明治維新後、神仏は分離され、神々の体系は近代日本の姿にあわせて再編された。その結果、前近代の人々と現代人の間には、神や「神道」に対する認識に大きな隔たりができてしまう。

本講義では、「神道」について考えるために、前近代の神話や縁起、説話、神道書などの資料を読み、日本における神観念の変遷について検討する。

授業の到達目標

日本の神に関する様々な資料を読み進めることで、「神道」をより深く理解するとともに、日本文化の基底にある宗教的世界観について、多面的、多角的に把握する力を養う。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　40%　　期末レポート（4000字以上）を提出してもらう。課題や作成方法などは、第九回の授業時に説明する。講義内容をふまえた上で、与えられた課題をどれだけ深く掘り下げて考察しているかを評価する。
●**平常点**　60%　　出席率と授業態度、リアクションペーパー（400字以上）の内容によって総合的に判断する。
●**その他**　0%　　特になし

備考・関連URL

・単位を修得するには、次の3つの条件を満たす必要がある。①全14回中10回以上の出席、②授業後のリアクションペーパー（400字以上）の提出、③期末レポート（4000字以上）の提出。
・2次登録、3次登録の受講生であっても、全14回中10回以上の出席という条件は同じ。第一回の授業に出なければ、その回は欠席扱いとなるので注意すること。
・出欠に関しては、教室に来て講義を受け、その後にリアクションペーパーを提出してはじめて出席したことになる。どちらか一方だけでは欠席扱いになるので注意すること。
・リアクションペーパーや期末レポートの提出はWaseda Moodleを使用する。
・詳しい授業の進め方については、初回の授業時に説明する。

科 目 名	日本の伝統文化　百鬼夜行の文化史							
担当者名	崔　鵬偉							
多元	2単位	秋学期	水曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

本講義では、かつて病をもたらすとされた鬼、とりわけ百鬼夜行を取り上げ、その信仰の様相を思想史・文学・民俗学・美術史などの領域を横断し概説する。十四回分のテーマごとに、関連する作品や絵画資料、および民間伝承や習俗を読み解いていきたい。人々は鬼への恐怖から脱け出すために、それを退治するなり、祭祀するなりして、様々な信仰形態が形成された。鬼はいつどこで現れるのか、またそれとどのように接すればよいのだろうか。近年の新型コロナウイルス感染症によるパンデミックによって、妖怪アマビエのような疫病退散の効果があるとされる鬼神の存在が注目を集めている。このような現象の背後には、どのような文化的営為があったのかを考えていきたい。

授業の到達目標

授業で、随時紹介する小説や絵画・映像など様々な資料をきっかけに、学生自身は原典資料に対して興味を持ち、進んで文献の解読を試み、自ら問題意識を発見しそれに取り込むことを期待したい。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　50%　　十四回授業のうち、受講者が関心のある話題を選び、4000字程度の期末レポートを執筆し、提出すること。
●**平常点**　30%　　出席状況。三分の二以上の出席が、単位授与の必要条件となる。
●**その他**　20%　　毎回の授業後、200~300字程度の授業の感想をレビューシートで提出すること。

科 目 名	チベット文化論							
担当者名	佐藤　晃							
多元	2単位	秋学期	水曜日	1時限	1年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

平均標高4500メートルを超え「世界の屋根」と称されるチベットは、我々日本人にとって地理的にも文化的にも非常に遠い

世界のように感じられるかもしれません。そのようなチベットの文化を理解するために、本講義では、ソンツェン・ガンポ王（6〜7世紀）の時代から現代に至るチベット仏教史の展開を軸に、講義を進めていきます。というのは、チベットの文化及び歴史は、仏教を重要な柱として展開してきたと言えるからです。また、言うまでもなく、仏教はインドで誕生しましたが、その後、アジア各地へと伝播していきました。チベットへ伝播は、インドからの直接的な伝播のみならず、中国を経由しての伝播もあり、そうした歴史的な経緯がチベット独自の仏教文化の展開を産むことになったと考えられます。さらに、チベットで育まれたチベット仏教文化は、モンゴルや中国の清朝へと伝播していくことになります。こうしたチベットと周辺地域との影響関係にも視野を広げて、チベット独自の文化・歴史を多元的・多角的に捉えていきたいと思います。

授業の到達目標

チベット仏教史を軸に、周辺地域との影響関係にも視野を広げて、チベット文化を多元的・多角的に捉えることを目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　60%　　学期末にレポートを課す。講義内容に基づき、各自テーマを設定して執筆する。詳細は教場で指示する。
●**平常点**　40%　　原則として3分の2以上の出席を前提とし、授業への取り組み（レビューシート等）を総合的に評価する。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	英米演劇の伝統と変容							
担当者名	谷岡　健彦							
多元	2単位	春学期	金曜日	2時限	2年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

ロンドンで幕を開けたイギリス演劇の新作が、1年も経たないうちに翻訳されて日本の舞台にかかることもあります。思っている以上に、イギリス現代演劇は日本の劇場文化にとって身近な存在です。この授業では、19世紀末から2020年代までのイギリス演劇の有名な劇作家とその作品を取り上げ、時代背景の説明も交えながら内容の紹介をしたいと思います。いくつかの戯曲を読むうちに、はっきりと言語化はしにくいものの、イギリス演劇らしさ（＝伝統）がぼんやりと浮かび上がり、それが少しずつ形を変えて受け継がれてゆくさまが見えてくればよいと考えています。

授業は基本的に講義形式で進めます。原文の台詞にふれてもらうこともありますが、現代の平明な文体の作品が多いので、とくに高度な英文読解力は必要ではありません。毎回、授業の終わりに手短なフィードバックを書いてもらい、その日の授業内容の定着を図るとともに、講師に意見や質問を伝える機会としたいと思います。

授業の到達目標

19世紀末以降のイギリス演劇のおおまかな見取図を頭の中に作ってもらうことが目標です。翻訳劇が日本の舞台にかかったとき、当該作品のイギリス演劇界での位置づけがわかるようになれば、観劇がいっそう楽しくなるでしょう。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　毎回、その日の授業内容を確認する質問を含むフィードバックのシートを提出してもらいます（5点×13回）。最終回は、授業全体のまとめとなるような質問を入れ、長めの回答を求めます（35点）。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	アジア・日本文化概論1　茶の湯の世界							
担当者名	櫻本　香織							
多元	2単位	秋学期	水曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本講義では、茶の湯（茶道）を取りあげます。アジアの中で茶の湯が日本独自の文化として、どのように形成され伝承されてきたかについて、茶の湯の世界を総合的に概説していきます。

茶の湯の起源は、鎌倉時代に栄西（1141〜1215）が茶種を持ち帰り、また中国浙江省杭州市の径山寺から格式の高い点前道具である台子が将来されたことに始まると言われてきました。しかし、最新の研究ではこれらは否定されています。これを踏まえつつ、中国唐代の喫茶文化と日本の平安以後から現代までの茶の湯の歴史を解説します。

一方、茶の湯とは、安土桃山時代の茶人である千利休（1522〜1591） が大成したとされ、亭主が客の目の前で点前を披露しながら一碗の茶をもてなす形式をもつものです。茶の湯すなわち茶会は、露地と草庵（茶室）という空間で行われます。その中で懐石や菓子を食し、また床の間に飾られた書や花、中国の唐物、朝鮮半島・ベトナム・フィリピンなどアジア由来の島物、およびわが国由来の和物と呼ばれる茶道具を鑑賞しながら、茶を飲み分ち、ひと時を過ごします。このような茶の湯を構成する露地・茶室・点前・懐石・菓子・道具などの諸相について、見ていきます。

さらに、茶の湯は仏教の思想によって理論づけられてきました。江戸元禄期の立花実山(1655〜1708)編纂『南方録』や同時代の「径山寺台子伝来譚」、および明治時代の岡倉天心（1863〜1913）『茶の本』には、茶の湯の思想やあり方について述べられています。

以上を踏まえ、現代に伝承される茶の湯の世界と魅力について、その歴史、構成の諸相、背景にある思想の各面から、総合的に講義します。

授業の到達目標

茶の湯の歴史と諸相の基礎知識を身につけ、茶の湯がアジアにおける日本文化の一つとして、現在まで伝承されてきた背景について学びます。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　期末に講義内容と関連するレポート（3000字程度）を課します。詳細は、授業時に指示します。
●**平常点**　40%　　毎回の授業時にコメントシートの提出をもって、出席点とします。三分の二（9回）以上の出席が、単位授与の必要条件となります。
●**その他**　0%

備考・関連URL

原典を提示して読解するので、高等学校卒業程度の古文・漢文の基礎知識が必要です。しかし、初学者でも不安を持つ必要はありません。

科 目 名	アジア・日本文化概論2　前近代の日本文化							
担当者名	河野　貴美子							
多元	2単位	秋学期	木曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

現在に至る日本文化の基底はいかにして形成されてきたのか。古代から近世まで、前近代における日本文化の諸相を概観する。

言語、思想、宗教、文学、芸術など、各方面における事象を通時的に見ていくとともに、それら相互の関連性にも目を配りながら、分野横断的、総合的に日本文化のありようを捉えていく。また、中国など、日本以外の地域との文化交流、影響関係も視野に入れつつ、日本文化の特質について見ていく。

なお授業では、歴史史料や文学作品などの文献資料や、美術品、遺物などを幅広く扱い紹介していきたい。

授業の到達目標

前近代における日本文化についての理解を深める。また、さまざまな資料や文物に触れ、それらに内包されている文化遺産としての意義を多角的に読み取っていくことができるようにする。

成績評価方法

●**試験**　50%　　理解度の確認
●**レポート**　0%　　行わない
●**平常点**　50%　　授業への主体的な参加度
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

※2012年度からこの科目は名称を変更しています。2011年度まで「日本文化概論1」において単位取得をしている場合、この科目を履修できません。

科 目 名	アジア・日本文化研究1　室町時代の講義と科学知識							
担当者名	川本　慎自							
多元	2単位	春学期	水曜日	4時限	2年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

日本の中世において、「学ぶこと」とは「漢文を読むこと」とほぼ同義でした。しかし、その漢文は現代の皆さんが高等学校までの授業で読んできた「漢文」のイメージとは大きく異なり、儒学や仏教の知識だけでなく、風景や名産などの地理知識、数学や医学などの科学知識、食や遊戯などの生活知識といった、古今東西のあらゆる知識を含み込んだものでした。

そこで本講義では、室町時代の禅宗寺院で行われた漢文の講義に着目します。前半で、禅宗寺院の講義がどのように成立したかを概観した上で、後半では講義の場で作成された「抄物」と呼ばれる史料（受講者が筆記したノートや講師が準備したメモにあたる）を読み解きます。さらに、その講義で得た知識が実際の室町時代の社会や文化にどのように反映されたかという点にも目を配ります。

室町時代の禅僧が受けた講義を追体験することによって、日本中世の人びとが何を知っていて何を知らなかったのかということを考えてみたいと思います。

授業の到達目標

室町時代の知識伝達のあらましを概観する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　100%　　期末レポートによる。課題等の詳細は講義中に説明します。
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

備考・関連URL

授業の進行にあわせて、各回のテーマは若干変更することがあります。

科 目 名	アジア・日本文化研究2　平安時代の僧侶たちが繰り広げるレスバトル！？							
担当者名	武本　宗一郎							
多元	2単位	秋学期	火曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

現代社会において、SNSやインターネット掲示板では、誰かと誰かの言い争い、所謂、「レスバトル」を至る所で見ることができる。「レスバトル」は、人間関係のもつれ、相手の価値観の否定、様々な事情によって発生するのであり、「レスバトル」のような現象は、なにも現代社会を生きる人々の間でのみ見られるものではない。

一見、「レスバトル」からかけ離れた存在に思える、古代の徳高い僧侶たちも、或る時は、人間関係のもつれから、或る時は、相手の思想より自身の思想が優れていることを主張するために、相手と論争や言い争いを行っている。

本講義では、空海や最澄といった、平安時代の僧侶たちが繰り広げる言い争いや論争を読み解くことで、受講者とともに、知られざる日本仏教の世界を掘り下げていく。

授業の到達目標

講義内で扱う書簡・典籍の読解を通して、日本仏教の思想の概略を把握・理解する。

成績評価方法

●**試験**　70%　　第2～13回の講義内容を出題範囲として、第14回に教場試験を行う。
問題は、短答形式・穴埋め形式・記述形式で出題する。

●**レポート**　0%　　レポートは課さない。
●**平常点**　30%　　3分の2以上（10回）の出席を必須とする。出席が不足している場合、原則として、成績評価の対象とならない。
　また、授業内で配布するリアクションペーパーの提出状況も平常点に加算する。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

【重要】講義資料は、すべてmoodleにアップロードいたします。こちらで印刷はいたしませんので、ご自身で印刷いただくか、タブレット・PCなどのデバイスにてご覧下さい。【重要】スケジュールに則った講義進行のため、適宜オンライン（オンデマンド動画配信）型講義を織り交ぜます。その際には、動画視聴とコメントを以て出席にかえます。

科 目 名	アジアの思想的基盤　『大学』・『中庸』を読む							
担当者名	林　文孝							
多元	2単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

『大学』・『中庸』は、『論語』・『孟子』とともに「四書」と称される儒教の経典であり、他の2書よりも簡約であるという特徴がある。この講義では『大学』と『中庸』を精読し、内容を解説する。そのさい、これらの文章に先人たち（近現代の思想家を含む）がいかなる思想的意義を見出し、どのような哲学的含意をそこから引き出していたのかに焦点を当て、学生自身の哲学的思考にとってのヒントとして提示するように努める。

授業の到達目標

この授業の到達目標は以下のとおり。
・アジアの思想的基盤をなしてきた諸思想について、原典資料を参照しながら、具体的な内容を理解すること。
・アジアの思想的テキストからどのような新たな思考の可能性が見出せるか、自力で考察する視座を得ること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし。
●**レポート**　60%　　最終レポートの内容を評価する。
●**平常点**　40%　　予習課題とリアクションペーパーの内容をもとに評価する。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	内陸アジア史　中央アジアのモンゴル政権、チャガタイ汗国の歴史							
担当者名	赤坂　恒明							
多元	2単位	春学期	金曜日	4時限	1年以上	―	合併科目	フル【対面】

授業概要

チンギス・ハンの次男チャガタイは1206年のモンゴル帝国建国に際し、軍民と牧地を分配され、チャガタイ・ウルス（チャガタイのくに）が発足しました。帝国の拡大に伴い中央アジア方面に勢力を拡げた同ウルスは、帝国の内部抗争で一時的に勢力を失墜させましたが、14世紀初頭に復興して、チャガタイ汗国が成立しました。同汗国のモンゴル人はテュルク・イスラム化が進み、チンギス・ハン以来の伝統を残しつつも変容しました。モンゴル帝国崩壊期、汗国西部にティムール朝、東部に東チャガタイ汗国が成立し、後者は17世紀まで政権を維持しました。本講義では中央アジアのモンゴル政権チャガタイ汗国とその継承諸政権の歴史を、政治史を中心に概観し、従来の定説的な歴史叙述に対する再検討を行います。

授業の到達目標

・モンゴル帝国と13～17世紀の中央アジア史の全体像を理解する。
・内陸アジアにおけるチンギス・ハン後裔の事蹟に関する知識を深める。
・ティムール帝国成立の前提と過程を把握する。

成績評価方法

●**試験**　100%　　15週目の定期試験日に、持ち込み不可の論述式による試験を実施します。授業の内容全般についての理解度を評価します。
●**レポート**　00%　　レポートは課しません。
●**平常点**　00%　　平常点は付けませんが、毎回、出席は取ります。
●**その他**　00%　　上記以外の成績評価方法はありません。

科 目 名	歴史と文学　外国人の前近代日本観							
担当者名	伊川　健二							
多元	2単位	春学期	火曜日	2時限	2年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

外国人は、平安時代末から戦国時代にかけての日本をどのように表現していたのか。基礎的な事柄を平易に解説しつつ、多地域に現存する原典史料の読み下し文、邦訳に表われた日本観を、文字、画像資料および地図などを駆使して概観する。

授業の到達目標

講義はパワーポイントおよび配布資料による講義形式である。この講義を受講することで、受講者は海外で作成、保存された歴史史料と文学作品を通じて、日本がどのように認識されていたかを説明できるようになる。講義には適宜原典史料を用いるが、基本的には現代日本語にて理解できるよう構成する。

成績評価方法

●**試験**　100%　　定期試験
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　0%　　なし
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

本科目は、コロナ禍により不可能と判断される場合を除いて、すべての回を対面により実施する。
授業当日（0時以降）の問い合わせには、原則として応対しない。欠席回における配布資料の取り置きは、事情の如何に関わらず実施しない。

科 目 名	**日本の英語教育** English Education in Japan							
担当者名	ライアン　スティーブン							
多元	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course will begin by looking at the historical background to English education in Japan and come up to date through discussions of the demands globalisation requires of Japanese learners and educators. While deepening understandings of the role of English as a language of international communication in the era of globalisation, the classes will consider the linguistic content and teaching approaches suitable for Japanese education. The seminar will also encourage students to reflect on their understandings of English education in Japan.

授業の到達目標

The main aim of the course is to develop an understanding of the linguistic content for primary and secondary level English education in Japan..

成績評価方法

Participation_ in class and online ……40%
Final written report and presentation in English. (Details to be explained in introductory class).....60%

備考・関連URL

At the time of writing the syllabus, the course is intended to be conducted in-person. However, some activities will be conducted online. It is recommended that students check the most recent information.

科 目 名	**ヨーロッパ文化概論** 預言者と預言から読むヨーロッパ史							
担当者名	白川　太郎							
多元	2単位	春学期	水曜日	5時限	2年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

ヨーロッパの歴史を「預言προφητεία/ Prophetia」と「預言者προφήτης/ Propheta」から切り離すことはできない。預言者とその言葉としての預言は、常に独自の権威と真理性を帯び、狭義の宗教史を超える幅広い役割を果たしてきた。他方で、カテゴリーとしての預言者・預言の内実や機能も、歴史を通じて大きく変容し続けた。千年王国主義や終末論については日本でもよく知られているが、歴史的キリスト教における「預言」は決してそこに留まるものではない。本講義では、この「預言者・預言」をめぐる問題系を追跡することで、ヨーロッパ史とキリスト教史に対する新たな分析の枠組を提示する。
対象となるのは、古代から20世紀初頭に至るヨーロッパ史（西欧・ラテン＝キリスト教世界史）である。
授業は基本的に通史形式である。ただし、後期中世から近世についてはテーマ史的な手法を採用する。

授業の到達目標

1. 権威・真理性の根拠ないし体現者としての「預言・預言者」がヨーロッパ史において果たしてきた役割とその重要性を理解すること。
2. 「預言」概念の変遷を理解し、それが同時代において有した意義を考察できるようになること。また、「預言」という知の形式が他の領域で援用される過程を理解すること。
3. ヨーロッパの歴史においてキリスト教由来の知的・実践的枠組が幅広く有した影響力を理解し、それが現代にまで及ぼしている影響力について自分なりに考察できるようになること。
4. 概念や知的枠組の歴史性・可変性という視点から、人文学や現代社会における市民生活にとって有益な問題意識を構築できるようになること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　学期末に課題レポートの提出を求める。
●**平常点**　30%　　各回の授業後にリアクションペーパーの提出を求める。
●**その他**　0%

科 目 名	**映画で見るヨーロッパの戦争と平和** 映画をつうじて学ぶ西洋現代史							
担当者名	前川　陽祐							
多元	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	オープン科目	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

映画を題材として、第一次世界大戦以降の西洋現代史を学ぶ。20世紀前半期に勃興した映画は、単なる娯楽にとどまらず、歴史を学ぶ上で格好の素材となる。毎回の授業で本の映画を取り上げる（時間の都合上、一本の映画を二回の授業に分けて取り上げることもある）。授業前半で当該の映画のハイライトシーンを中心に視聴し、授業後半でその映画から読み取れる歴史学的なトピックについて解説する。なお、担当教員の専門が近現代ドイツ史である関係上、取り上げる映画はドイツをテーマとしたものが中心となる。
毎週金曜正午に、Waseda Moodleに授業動画ファイルと授業レジュメ（PDFファイル）をアップロードする。プリントアウトした授業レジメを見ながら動画を一通り視聴したうえで、リアクションペーパーを指定期間内（アップロードから一週間以内）に提出すること。

授業の到達目標

映画をつうじて歴史に対する認識を深めるとともに、映画そのものを楽しむ。

成績評価方法

レポート：60%　学期末に授業内容に関するレポート課題を出す

平常点：40%　毎回提出してもらうリアクションペーパーの記入状況（リアクションペーパーの提出をもって出席と見なす）

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施する。視聴する映画には一部衝撃的なシーンも含まれていること、担当教員の専門が文学や映画学ではなく歴史学（ドイツ史）であることを十分に了解したうえで、受講されたい。

科 目 名	中東・イスラーム文化研究　多様な中東・イスラーム世界の文化・社会・歴史							
担当者名	山崎　和美							
多元	2単位	春学期	金曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この講義では、中東やイスラーム教徒(ムスリム／ムスリマ)の歴史と文化・社会について、幾つか焦点を絞って省察を深めます。

現代の国際社会における平和的共存、異文化理解、宗教間対話といった諸問題を考える上で、13 億人以上の信徒を持ち、世界中に拡大するイスラーム世界に関し、正しく客観的に理解することが必要不可欠です。

この講義では、イスラームの教義や世界観について知ると共に、ムスリム（イスラーム教徒）の日常生活や文化など現実の姿を、偏見を持つことなく理解することを目的とします。

イスラームと関わりの深い中東の文化・社会・歴史・政治について基本的知識を持つことも目標です。

前半（第8回）位までは、講義の前半で社会・歴史・政治について講義し、後半で、中東の多様な文化（建築、音楽・舞踊、伝統工芸、絵画、文学）について講義する予定です。

基本的には対面ですが、何度かオンライン（オンデマンド）形式で授業を実施します（初回オリエンテーション時に説明)。

授業の到達目標

中東やムスリム社会に対する偏見を一度取り払い、中東やイスラームに関する眼力と思考力を深めることができるよう努めます。

また、学生の側からも、主体的な参加が望まれます。

直接伝えたいことがあるために講義していますので、出席は必須です。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　40%　　授業の内容に関し、論文形式（文献リスト必須。出典・論拠を脚註形式で示す）で執筆して下さい。

●**平常点**　60%　　毎回授業後にWaseda Moodle経由でミニ課題（コメント）を提出していただきます。その内容を評価します。

●**その他**　0%

備考・関連URL

・初回のガイダンスには必ず参加すること。　・アラビア語・ペルシア語・トルコ語・ロシア語をはじめとする中東・イスラーム世界の言語を、他の授業で学習することが望ましい。

・なお、この講義は、基本的に教室での対面による授業形式を予定しています。ただし、一部オンライン配信形式(オンデマンド)で実施します。

・対面授業ですが、効果的な授業の実施のために、一部オンライン（オンデマンド）でも実施します（初回のガイダンスの時に詳述)。

・中東やイスラーム系の科目を受講していない方は、必要に応じて岩波『イスラーム事典』ないし平凡社『新イスラム事典』などを使ってイスラーム系の基本用語の確認を各自で行えば理解が深まります。

・下記の学会のホームページも見ておいて下さい。

日本中東学会HP, http://www.james1985.org/

日本イスラム協会HP, https://www.islamkyokai.org/

科 目 名	ヨーロッパ文化研究　「ヨーロッパ」世界の形成を歴史的に把握する							
担当者名	中澤　達哉							
多元	2単位	春学期	無	フルOD	1年以上	オープン科目	合併科目	フル(オンライン) フル(オンデマンド)

授業概要

ヨーロッパ諸国は現在、17世紀以来慣れ親しんできた国家システムから脱皮して、グローバル化時代に対応した新しい形態の国家へと変貌しようとしている。EUという超国家システムの出現は、まさに、そうしたヨーロッパ人の歴史的挑戦を端的に表している。ではなぜ、ヨーロッパ世界は従来の国家の枠組みを超える動きを展開しているのか。その理由はなにか。この講義はヨーロッパ世界の形成と発展を2期にわけて分析し、ヨーロッパ世界が背負い続けている歴史的課題を明らかにする。

授業の到達目標

この講義は、ヨーロッパの歴史的形成と発展を全2期（第1期＝「第一のヨーロッパ」(中世)、第2期＝「第2のヨーロッパ」(近世・近代）にわけて分析するが、その際に導きの糸となるのが「政体」のありようと「統治の技法」である。なかでも、ヨーロッパが生み出した2つの政体、「世襲王政」と「選挙王政」を軸に、ヨーロッパ諸国の統治の技法と特質、その問題点を把握できるようになることを目的とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は課さない。

●**レポート**　50%　　正確かつ論理的なレポートを作成することができる。試験は上記の「授業の到達目標」の達成度をみることを目的とする。

●**平常点**　50%　　25%　授業内容を理解し、質問などを通して、授業に積極的に参加している。

25%　リアクション・ペーパー・感想文で到達度を文章に表現することができる。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。 中澤達哉の公式X（旧Twitter）（@NakazawaTatsuya）

科 目 名	**東欧世界とその歴史**　近現代東欧を考える							
担当者名	中辻　柚珠							
多元	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

東欧と聞いて、民族問題を第一に想起する人は多いだろう。しかし、その具体的な実情は捉えがたく、複雑な地域として端的に片づけられがちである。

しかし、排外的な移民政策や多様性擁護に対するバックラッシュの動きが拡大する今日の社会において、ナショナリズムは他人事ではない。東欧のナショナリズムを理解することは現代社会のナショナリズム一般を理解する一助となる。

そもそも、「東欧」とは何だろうか。なぜ「東欧」はナショナリズムの排他的イメージをまとうのか。それはなぜ「西欧」から切り離して理解されるのだろうか。「東欧」の現代に生じた重要な出来事を概観するとともに、「東欧」という枠組み自体の考察を通じて、現在普遍的とされている諸理念の再考を目指す。

なお、可能な限り「東欧」全域に言及できるようバランスに注意するが、講師の専門上、旧ハプスブルク君主国領、とりわけチェコとスロヴァキアに比重が置かれる。

授業の到達目標

第一に、東欧におけるネイション概念の位置付けについて理解を深める。その際、「ネイションとは何か」を本質的に考えることを避け、「ネイションとは何であるとされているのか」を問うことに注力してほしい。こうした視点の置き方を、現代のナショナリズムを考える際にも応用できるようになることが第二の目標である。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　100%　　毎回実施するリアクションペーパーで評価する。
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	**現代中欧世界とその歴史**　メディアとしての都市　ーウィーンを知的に歩く							
担当者名	森　元孝							
多元	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

都市と人間、生活、文化という大きく抽象的な問題を素材にして、欧米においても、また日本においても、美しいとして好きになる代表的な都市「ウィーン」について講じていく。とりわけ19世紀後半の近代都市設計とその実践、またそれに深くかかわる思想とイデオロギーを取り出しながら、また毎回、私のオリジナルの写真類を多数示しながら、そもそも「都市」とは何かということを、過去、現在、そして未来に向けて考えていく。

早稲田大学のある東京と、根本的な点で何が異なるのか、また何が同じかということを考えつつ、都市についての理論的な思考のための材料を提供していくので、皆さんが知る東京、新宿、早稲田、所沢を思いながら、これからの都市と人間、都市と生活、そして文化ということを考えて、皆さんのオリジナルな意見提示の糸口となってくれれば幸いである。

授業の到達目標

たくさんの画像を提供する授業であるが、受動的鑑賞にならないように、適宜、課題に応えてもらいつつ、諸問題を現在に結びつけて考えていく能力を養う。

成績評価方法

●**試験**　0%　.
●**レポート**　25%　　最終課題レポートの内容。
●**平常点**　75%　　講義進行中に提出していただく小レポートの内容。
●**その他**　0%　.

備考・関連URL

1週間ずつ土曜日に更新していくフルオンデマンド授業です。
森　元孝のウェブページ　「ウィーンの森」の物語
社会構築論系　森ゼミのウェブページ　Prof. Mori's Seminar

科 目 名	**地中海文化概論**　古代ローマの文化							
担当者名	井上　文則							
多元	2単位	春学期	無	フルOD	1年以上	オープン科目	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

イタリア半島の一都市国家ローマは、その領土を地中海周辺域へ拡大すると共に、その文化も各地に広げていった。ローマ領となった地域では、ローマ文化と在地の伝統的な文化が融合し、新たな文化が生み出され、続く時代に継承されていった。本講義では、ローマ文化とそれが生み出した諸文化の様相を見ていきたい。

授業の到達目標

古代ローマの文化についての知見を深めるだけではなく、ヨーロッパの文化や歴史をより深く理解できるようにする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし

●**レポート**　60%　　授業の理解度によって評価する。
●**平常点**　40%　　レビューシートによって評価する。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連ＵＲＬ

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。

科 目 名	イスラーム文化世界							
担当者名	佐藤　尚平							
多元	２単位	秋学期	無	フルOD	１年以上	オープン科目	合併科目	フル(オンライン) フルオンデマンド

授業概要

現代の中東地域やイスラーム教徒の国家、社会、文化について考察します。初級レベルの授業であり、基礎的な内容から説明します。可能な範囲内でモノや映像・音声等を紹介します。授業全体を通じて、地球規模で人と情報が複雑に絡み合う時代を生き抜くための幅広い教養をもった人材を育成することを目指します。

授業の到達目標

中東やイスラーム教徒についての理解を深めること、及び各テーマについて調査する場合の基礎的な方法に触れることを授業の到達目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　80%　　レポートによって評価します。
●**平常点**　20%　　各回のコメントの積極性や授業全体への貢献を評価します。
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。
暴力や性にかかわる内容や表現を扱うことがあります。
授業の進捗状況や受講者の関心・状況に応じて、授業計画を適宜変更することがあります。

科 目 名	英語圏文化概論1　The English Language and Society							
担当者名	ホサイン　タニア							
多元	２単位	秋学期	無	フルOD	２年以上	オープン科目	合併科目	フル(オンライン) フルオンデマンド

授業概要

Differences across English worldwide go beyond just vocabulary and pronunciation. In this class, we will look at how English varies worldwide and at issues that affect language usage, such as age, gender, and class. The differences between countries and within countries will be considered. Additional topics will include the treatment of bilingualism in the English-speaking world and language standards. This course examines how social relationships and structures influence language and vice versa. It looks at language variations determined by region, sex, social level, and cultural groupings. The course is intended to encourage students to think about language issues in their own lives and to help them establish positions in the light of the findings of sociolinguistic research. In this course, you will attain an advanced understanding of the sociocultural nature of human language. Language may be studied at several structural or functional levels（such as phonology or syntax）. However, your attention in this course will be directed to the components of society and culture, the relationships between these components, and language variation within and across individuals. You will also be encouraged in the class to carefully examine your beliefs about your language and your attitudes toward the language varieties you and others use. Doing so will help you better understand the change that language constantly undergoes in personal and social use. Examining your beliefs and attitudes will also help you become more aware of the variation in language use from one group to the next and from one individual to the next.

授業の到達目標

Students will be able to understand how English varies according to social context, including class, gender, and culture. Students will be able to explain how language, whose primary function is to serve as an instrument of communication, serves secondarily to help establish aspects of the social identity of its speakers. They will be able to list aspects of social identity that correlate with linguistic identity—national, ethnic, class, geographical, sexual, and educational—and give specific examples of how language use supports or reinforces these aspects of social identity. Students will be able to explain the status of geographical variations in a language—dialects- and the social equivalent of such variation. They will gather data from their speech and that of their families and peers on how individual speakers switch among varieties and report these examples to the class. Students can give specific examples of how many people live and function with more than one language daily. Students can list societal issues when more than one language is widely spoken in a country. They will learn about the role of governments in establishing language policies— such as bilingual education and language immersion—and in protecting endangered languages.

General Education Learning Outcomes: Students will be able to Gather, interpret, and assess information from various sources and points of view. Evaluate evidence and arguments critically or analytically. Produce well-reasoned written or oral arguments using evidence to support conclusions.

Course Policies and Procedures: This course consists of activities and assessments to assist you in achieving the outcomes/objectives for the course and instructional units/modules. You will have a reading assignment every week, and every other week, you will work on various combinations of discussions, tasks, journals, a quiz, and two examinations.

成績評価方法

Opinion pape/short test/ Class Feed back-40%
Paper:60%

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	英語圏文化概論2 Britain in the 21st century... through the eyes of popular culture							
担当者名	ライアン　スティーブン							
多元	2単位	秋学期	月曜日	5時限	2年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

Britain is widely considered to be at the heart of the English-speaking world. To the outside world, England is often seen as society and culture based in tradition, but England, and Britain, are societies that are rapidly changing. This course looks at some of the major changes that are taking place in that society, the language, the people, and their cultural values. Using the lens of popular culture, the course will not only discuss changes in British society, it will also explore some of ways in which British people's understandings of themselves are changing.

授業の到達目標

At the end of the course, students should be able to:
1) Understand some of major changes taking place in British society and culture today
2) Understand the diverse cultural groups that make up modern British society
3) Understand how the changes occurring in Britain connect to the wider English-speaking world

成績評価方法

●**試験** 0%　No examinations
●**レポート** 60%　Final written report and presentation in English.（Details to be explained in introductory class）
●**平常点** 40%　Active participation both online and in-class
●**その他** 0%　No others

備考・関連URL

The main language of instruction, most materials and assignments for this course will be in ENGLISH. The class will be conducted in person but some discussions will take place online using WasedaMoodle.

科 目 名	英語圏文化研究1 20世紀イギリス大衆文化の隆盛							
担当者名	渡辺　愛子							
多元	2単位	春クォーター	無	フルOD	2年以上	オープン科目	合併科目	フル[オンライン]フルオンデマンド

授業概要

今でこそ文化とは、博物館や美術館にある過去の遺産や芸術鑑賞といったいわゆる高級文化のほかに、大衆文化、若者文化、サブ・カルチャーなど、わたしたちの身のまわりにあるあらゆる次元のあらゆる現象をあらわすようになったが、20世紀初頭までのイギリスでは、限られた人たちが、それまでに培われてきた高尚な伝統を継承、追求することが「カルチャー」であり、教養であった。しかし、第二次世界大戦を経ると国内における経済的荒廃と大英帝国の崩壊という事実が人々の喪失感を増長し、また地球規模におよぶマス・メディアの浸透によって、既成の価値概念が疑問視されはじめ、それまでほとんど「カルチャー」としてとらえられることのなかった「大衆(mass)」による新しい文化形態が広く許容され、生産・消費されるようになる。上流・中流の階級ではない労働者たちにも社交のためのコミュニティー(共同体)が存在し、日々の労働が終われば、パブ(酒場)に出かけてダーツを楽しむ。現代の若者がフットボールに熱中したり、それが乗じてフーリガンに走ったり、はたまたロックンロールやポップスに夢中になるのもみな、さまざまな文化の局面を語っているのである。この講義では、第二次世界大戦後、大衆による文化がイギリス国内にどのように興隆したのかを文化史的側面から概観し、それが当時の政治・社会状況とどのように関連し、どのような役割を果たしたのか、大衆文化論的観点から考察する。

週二回の本授業では、基本的に土曜日開講分で事例研究を行い、水曜日開講分で文化研究論について解説する。事例研究では、大体10年ごとに20世紀後半期を区切り、それぞれの時代の特性を当時の歴史的事象と併せて概観してゆく。その際に注目される政治・社会的事象のおもなものは「冷戦」、「(ニュー)メディア」、「グローバリズム」、脱植民地化、イギリス国内の多文化化であり、文化的事象としては、大衆映画、テレビの普及、ビートルズ旋風、パンクファッション、モンティー・パイソン、ブリットポップといった諸ブームの検証を予定している。理論編では、大衆文化(mass/popular culture)を考える上での理論的支柱を、「ジェンダー」、「階級」、「帝国・人種・エスニシティ」、「メディアとオーディエンス」、「ネイション」というテーマごとに理解する。各時代の特性を紹介する事例研究と理論で扱うテーマとが毎回合致するわけではないが、授業終了時には、20世紀後半のイギリス社会を理論的に相対化し、多角的に考察する視点が培われていることを期待したい。

授業の到達目標

・20世紀後半のイギリスの文化状況をとらえる。
・「文化」のはらむ政治性・イデオロギー性について考える。

成績評価方法

●**試験** 52%　選択式および論述形式を予定
●**レポート** 0%　なし
●**平常点** 48%　出席3分の2以上で、学期末に実施する試験（理解度の確認）の受験資格あり
各回小テスト
●**その他** 0%　なし

備考・関連URL

★Waseda Moodleを利用して様々な連絡・告知を行うため、メールを受信できるように各自設定しておくこと。

科 目 名	英語圏文化研究2　オーストラリアの演劇							
担当者名	澤田　敬司							
多元	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

オーストラリアの代表的な演劇作品を通して、オーストラリアの社会・文化・歴史について学ぶ。

英米演劇と違い、オーストラリア演劇は短い歴史しか持っていない。しかし、自己表現の手段として「演劇」というメディアを持っていなかった人々に、そのメディアが与えられたときに生じる新しさこそが、オーストラリア演劇の魅力である。そしてその中には、オーストラリアの先住民も含まれる。

授業では、この20年あまりで上演された演劇作品の中から代表的な舞台を選び、戯曲を実際に声を出して読んだ上で鑑賞し、社会的、文化的、歴史的背景について考える。

授業の到達目標

オーストラリア社会における多様で複雑な文化の形を理解する。

多文化社会やポスト植民地主義など、日本と共通する問題について理解を深める。

現代の舞台メディアが、社会をどのようにとらえ何を伝えようとしているのかを考える。

成績評価方法

●**試験**　70%　　記述式の試験を行い、授業内容の正しい理解に加えて、そこから自身の思考を発展させた答案を高く評価する。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　30%　　毎回の授業への参加度を評価する。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	アメリカ音楽の世界							
担当者名	チャン　エドワード　ケイ							
多元	2単位	春クォーター	火5時限	金3時限	2年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

In this course, students will learn about the history of American popular music, starting from the late 19th century into the 20th century. We will cover the various musical styles that have developed in the United States up to the 1970s, including jazz, Tin Pan Alley, the blues, R&B, rock, soul, and rap. (The framework of the course is based on the textbook *American Popular Music: From Minstrelsy to MP3s* by Larry Starr and Christopher Waterman.) The course will be conducted entirely in English. Please note that this is neither an ethnomusicology nor a musicology course, but more like cultural history and popular culture studies. It provides an overview of American popular music and an opportunity to think about its historical and social context.

授業の到達目標

Students will become familiar with the various forms of American popular music in their historical and social context. Students will also have the opportunity to develop their English-language reading, writing, listening, and discussion skills.

成績評価方法

(subject to change)
Two exams: two-thirds
Presentation: one-third
TOTAL: 100%

科 目 名	変貌する英語圏世界　時代と共に変わるもの、変わらぬもの							
担当者名	辻河　元及							
多元	2単位	春学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

100年前には当たり前だったものが、現在では当たり前ではなくなっていることはたくさんあります。また、昔と今ではテクノロジーも発達し、実現可能になったことがたくさんあります（その一方で、技術が失われたりして出来なくなったこともあります）。文学などの芸術作品はそうした社会の風潮や時代の変化を映す鏡。この授業では、英語で書かれた文学作品をいくつか一緒に見ていきながら、歴史と社会を理解し、感じていきましょう。とはいっても、みなさんの中には英語はおろか、日本語でも小説を読むことに慣れていない方もいるかもしれません。そこでこの授業では、上記の事柄を学びながら、ときに演習形式やグループ学習を取り入れて、英語で書かれた作品（の一部）を読むことを体験し、英語での文学表現やテーマを読み取ることの練習もしていきます。

より具体的には、この授業では、イギリスやその旧植民地で書かれた文学作品をいくつか紹介しつつ、時代毎にどのようなジャンルや思想が生まれてきたのかを学びます。講義一辺倒ではなく、グループ学習を中心とした演習形式の授業も積極的に取り入れていきます。文学の多様性にふれていきましょう。

授業の到達目標

この授業では以下のことを目指します。

1）英語で書かれた文学作品をある程度理解しながら読み、鑑賞できるようになる。

2）英語圏の歴史や文化について知識を身につける。

3）グループ学習やディスカッションを通じて、チームワークを学びつつ、他の参加者の意見に応じ、自分の意見を付け加える/反論できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　30%　　第14回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認をおこないます（試験の解説も同時間内におこないます）。

●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　70%　　小テストあるいは短いエッセイ課題があり、その点数を評価とします。
●**その他**　0%　　特になし

備考・関連URL

小テストについては同時間内に解説し、エッセイ課題についてはできる限りその翌週までにフィードバックをおこないます。

科 目 名	現代イギリス社会におけるスポーツ文化							
担当者名	ライアン　スティーブン							
多元	2単位	春学期	月曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

Sport is central to modern life, influencing everything from national identity to daily conversation. A full understanding of any contemporary society must include a discussion of the role of sport in that society. This course explores the development of sporting culture in Britain, which is of particular interest since so many of the world's major sports originated in Britain. Through a consideration of the development of sporting culture in Britain, this course will deepen students' understanding of twenty-first century British society, its values, customs and practices.

授業の到達目標

At the end of this course, students should be able to:
1) Understand the connections between sport, society and cultural values
2) Understand the development of major sports in Britain
3) Understand some of the major issues concerning sport in Britain in the 21st century

成績評価方法

●**試験**　0%　　No examination
●**レポート**　60%　　Final written report and presentation in English.（Details to be explained in introductory class）
●**平常点**　40%　　Active participation including online participation
●**その他**　0%　　No others

備考・関連URL

The main language of instruction, most materials and assignments for this course will be in ENGLISH. The class will be conducted in person, but class discussions will take place online using WasedaMoodle.

科 目 名	多元文化特論2　思想から見る西洋音楽史							
担当者名	三浦　領哉							
多元	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

わたしたちはなぜ、高校までの授業で「音楽」という科目を学んできたのでしょうか。何のために中学・高校には「芸術」の授業があり、なぜその中に「音楽」があったのでしょうか。そして、その授業を通じて一体何を学ぶべきだったのでしょうか。

この講義では西洋音楽（主にいわゆるクラシック音楽）の歴史に対して、楽譜や作曲家の名前を中心に置くのではなく、思想という側面からアプローチしていきます。音楽作品からきこえてくる「音そのもの」だけを追うのではなく、「思想」を媒介として文学や美術などの他ジャンルの文化現象と結びつけて考えることによって、これまで習った音楽の知識を文化史の中に位置づけてみましょう。

授業の到達目標

1. 「人間は何を考えて音楽をつくり、聴いてきたのか」を考える
2. 「クラシック音楽」の何が「クラシック」なのか、自分なりの考えを持つ
3. 音楽を文化史の中に位置づけ、既存の知識と結びつける

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　50%　　本講義の全体の内容から、各々が関心を持つ任意のトピックを設定し論じる学期末レポートを課す（6,000字程度を予定）。
適切な文献を3冊以上参照し、参考文献リストを設けるなど、レポートの作法に従うこと。
●**平常点**　40%　　授業内容の理解度を確認・評価するため、また受講生の関心や疑問を把握するため、毎回の講義に対してリアクションペーパーを提出してもらい、平常点とする。
●**その他**　10%　　授業外学習として、2025年度秋学期の間にクラシック音楽の演奏会に1回足を運ぶこと（有料・無料を問わない）。その「演奏会評（800字程度）」を提出することにより成績評価の10%とする。東京には数百のアマチュア演奏団体があり、プロとあわせて毎週末ごとに数十に上る演奏会が開かれている。本学にも複数のオーケストラや室内楽の団体・サークルが存在し、また受講者の最寄りの自治体のホールなどでも毎週のようにさまざまな団体による演奏会は開催されているので、その機会を生かすことを期待する。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	多元文化特論3　東アジア仏教思想のダイナミズム							
担当者名	武本　宗一郎							
多元	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

インドで誕生した仏教は、東アジア地域へと伝播し、独自の発展を遂げる。その発展は、思想自体の高度化のみならず、政治・文学・美術などの文化的な諸相と密接に関連したダイナミックなものであった。

本講義では、中国と日本で展開される複数の仏教思想を鳥瞰し、それに付随する文化的事象を多角的に把握することで、受講者とともに、仏教を土台とした東アジアの思想と文化について考えていく。

本講義で取り扱う仏教思想は、主に隋代～宋代（中国）、奈良時代～鎌倉時代（日本）の華厳学・三論学・天台学・法相学という4つの思想体系を主軸に据えているが、講義内では、可能な限り、その他の仏教思想にも触れたい。

授業の到達目標

東アジアで展開する仏教思想の概略を把握する。その上で、前近代の東アジアでは、仏教思想が、政治・文学・美術などの文化的営為の基盤としての役割を果たしていたことを理解する。

成績評価方法

●**試験**　70%　　第2～13回の講義内容を出題範囲として、第14回に教場試験を行う。

問題は、短答形式・穴埋め形式・記述形式で出題する。

●**レポート**　0%　　レポートは課さない。

●**平常点**　30%　　3分の2以上（10回）の出席を必須とする。出席が不足している場合、原則として、成績評価の対象とならない。

また、授業内で配布するリアクションペーパーの提出状況も平常点に加算する。

●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

【重要】　講義資料は、事前にWaseda Moodle上にアップロードする。

講義資料は、受講者自身で印刷・PC・タブレット等で確認できる状態にして、授業に臨むこと。

科 目 名	日本史・世界史再発見　「あっ」と驚く、歴史の世界にようこそ！							
担当者名	渡辺　愛子　他/井上　文則/垣内　景子/河野　貴美子/坂庭　淳史/高井　詩穂/高屋　亜希/武本　宗一郎/中澤　達哉/ホサイン　タニア/由尾　瞳/吉原　浩人/リーブズ　クリストファー/渡邉　義浩							
多元	2単位	春学期	無	フルOD	1年以上	オープン科目	合併科目	フル(オンライン)フルオンデマンド

授業概要

この講義は、文化構想学部多元文化論系専任教員が中心となって行うオムニバス形式の授業です。「日本史・世界史再発見」と題し、斬新な視点から、さまざまな論点を提供して、学生とともに深く考えます。

私たちは、教科書やマスコミなどから得られる知識によって、何となく持っている「常識」を共有しています。この講義では、その「常識」が、時として歴史的な事実とかけ離れている場合もあることを示しながら、学問の深さについて再発見する契機となることを目指します。

一回完結のオムニバス形式の授業になりますが、各教員によるさまざまな切り口を楽しんでください。日程は「シラバス」に記載されていますが、諸事情による変更もあり得ますので、メール配信を通じての連絡に注意してください。

授業の到達目標

日本史・世界史について、さまざまな方面・角度から知識を得て、学問の方法について、ともに深く考えることを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　80%　　講義テーマから 2 つを選び、期末レポート（2000字程度）を 2本提出（詳細については改めてアナウンスします）。

●**平常点**　20%　　※注意※

・3 分の 2 以上の出席がなければ、成績評価の対象となりません。

・レポート執筆のため、7月3日より、それ以前の動画を再公開する。ただし、再公開を閲覧しても、出席にはならない。

・出席は動画の視聴完了95%以上の視聴、または 完了判定で判定します。

・出席判定システムの都合、途中で閲覧デバイスを変えたりしないこと。

●**その他**　0%

備考・関連URL

初回に、受講に際しての諸注意を行います。 また、ムードルのアナウンスを用いて一斉メールを送ることもありますので注意してください。

授業について質問がある場合は、多元文化論系室（33-906）に常駐する助手に、遠慮なく問い合わせてください。

科 目 名	東アジア仏教へのいざない1　“経典の王者”『法華経』の世界							
担当者名	武本　宗一郎							
多元	2単位	春学期	火曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

インドで誕生した仏教は、東アジア地域へと伝播し、独自の発展を遂げる。その発展は、思想自体の高度化のみならず、文学や美術といった文化への影響を伴ったものであった。とりわけ、鳩摩羅什訳『妙法蓮華経』（以下、『法華経』）の東アジア地域における影響力は絶大であり、それは文字通り、“経典の王者”と呼べるほどである。

そこで本講義では、『法華経』の中に説かれる譬喩（ひゆ）と、それに付随する文化的事象を掘り下げることで、受講者とともに、仏教という切り口から東アジア世界について考えていく。具体的には、『法華経』中に説かれる代表的な譬喩、所謂、「法華七喩」を中心に原典を読解しつつ、その内容や表現が、東アジア仏教でどのように解釈されたか、文学や美術、儀礼といった文化的事象にどのような影響を及ぼしたかを総合的に学んでいく。

授業の到達目標

『法華経』に説かれる譬喩とその思想の概略を把握する。その上で、『法華経』が、東アジアの文化的営為の一つの基盤としての役割を果たしていたことを理解する。

成績評価方法

●**試験**　70%　　第2～13回の講義内容を出題範囲として、第14回に教場試験を行う。
問題は、短答形式・穴埋め形式・記述形式で出題する。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。
●**平常点**　30%　　3分の2以上（10回）の出席を必須とする。出席が不足している場合、原則として、成績評価の対象とならない。
また、授業内で配布するリアクションペーパーの提出状況も平常点に加算する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

【重要】　講義資料は、事前にWaseda Moodle上にアップロードする。
講義資料は、受講者自身で印刷・PC・タブレット等で確認できる状態にして、授業に臨むこと。

講義

科目名	東アジア仏教へのいざない2　「翻訳」と「註解」のテキスタイルを味わう							
担当者名	武本　宗一郎							
多元	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

インドで誕生した仏教は、次第に東アジア地域へと伝播した。それに伴って、サンスクリット語などで記された経典などの典籍も、当時の中国で用いられていた中国古典語（漢文）に「翻訳」され、漢地に広まっていく。そして東アジア世界では、それら漢訳仏典に「註解」を施すことで、時代を超えて仏教を継承し、その思想を深化させてきた。いわば、東アジア仏教は、「翻訳」の横糸と「註解」の縦糸によって編まれたテキスタイル（織物）である。

本講義では、この「翻訳」と「註解」という切り口から、受講者とともに、東アジア仏教の世界を掘り下げる。本講義の前半回では、「翻訳」について、翻訳を担った訳経僧の事業と、それぞれの訳文の違いを見ていく。後半回では、「註解」について、前半に取り上げた典籍が、東アジア仏教でどのように註釈され、思想的に展開したかを学んでいく。

授業の到達目標

講義内で扱う仏教思想の概略を把握し、東アジア地域で仏教が展開する上で、「翻訳」と「註解」が果たしていた役割を理解する。

成績評価方法

●**試験**　70%　　第2～13回の講義内容を出題範囲として、第14回に教場試験を行う。
問題は、短答形式・穴埋め形式・記述形式で出題する。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。
●**平常点**　30%　　3分の2以上（10回）の出席を必須とする。出席が不足している場合、原則として、成績評価の対象とならない。
また、授業内で配布するリアクションペーパーの提出状況も平常点に加算する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

【重要】
講義資料は、事前にWaseda Moodle上にアップロードする。
講義資料は、受講者自身で印刷・PC・タブレット等で確認できる状態にして、授業に臨むこと。

科目名	比較文学入門　「比較文学」の中の「伝統」と「革新」							
担当者名	宮城　徳也							
複合	2単位	秋学期	無	フルOD	1年以上	オープン科目	合併科目	フル（オンライン）フルオンデマンド

授業概要

今年度は全回オンデマンド授業とします．「比較文学」に対する考えは多様で、様々な「比較文学」が存在するが、時代、地域による差異や共通性が注目されるのは共通していると言えよう。「比較文学」の考え方を、まず教科書的に整理し、その上で、具体例として、小説，悲劇，喜劇，冒険物語，怪奇小説，SF小説，ピカレス小説，寓話，童話，を取り上げ、共通のモティーフと影響関係、顕著な差異と独自性に注目しながら、「文学」を楽しんで、その背景にある「文化」を考える授業にしたい。「放浪（漂流）→冒険→帰還」を骨子とする「冒険物語」の要素を持つ『オデュッセイア』や、その影響を受けたり、独自に展開した諸作品、絵画、彫刻、音楽、映像について考えていく。最終的には「比較文学」的視点から，西欧文学，日本文学におけるギリシア・ローマ文学の影響を整理，考察する．

授業の到達目標

諸作品を「比較文学」の視点から考察することにより、それぞれの背景にあるギリシャ・ローマ文化についての知見を深める．

成績評価方法

●**試験**　30%　　毎回小テストを実施します．
●**レポート**　30%　　学期末に授業で学んだことを踏まえた2000字程度のレポートの提出を求めます。レポートが提出されない場合は「不受験」Hの評価になります
●**平常点**　40%　　毎回，授業の要約と感想（200字程度）の課題提出を求め，受講状況（動画視聴，資料参照）と合わせて平常点として評価します。
●**その他**　0%　　その他はありません．

備考・関連URL

関連URL:
http://www.f.waseda.jp/tokuyam/index.htm

科 目 名	神話の世界　古代ギリシャの神話と宗教							
担当者名	兼利　琢也							
複合	２単位	春学期	水曜日	４時限	１年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

神話は、人類が太古の昔から普遍的に抱いてきた世界観の表明、物語の形で表された原初の哲学です。それは素朴なだけに喚起力に満ちた強いメッセージを今も人間に伝えています。本講義では、西洋文化の重要な一部分を形成する古代ギリシャの宗教と神話を扱い、名前だけはなじみ深い神々について、その機能や祭儀や物語を解説します。あわせてそれに対する近現代の神話分析を紹介し、その意義の解明に関する様々なアプローチを解説する予定です。

授業の到達目標

西洋古典古代、古代異教（非キリスト教）世界の宗教と神々に関する歴史的に正確なイメージの獲得、神話学の歴史と方法に関する知識の習得

成績評価方法

●**試験**　100%　　講義内容の理解を問う記述式の学期末テスト（「理解度の確認」）です。
●**レポート**　0%　　なし。なお出席不足等の代わりのレポートの申し出は受け付けていません。
●**平常点**　0%　　（出席は評価の前提ですので。）
●**その他**　0%　　とくにありません。

備考・関連URL

上に記しました毎回の予定はずれてしまうことが多く、ぜんぶを話せないことが間々ありますが宜しくお願いします。そのさいは秋学期の「神話と芸術」に回すことが多いです。

普通の対面授業で行います。教場に来ない人は欠席になります（以下のように、原則的にあとで録画を見られるようにはしますけれども。）

2021年から授業をキャプチャソフトで録画してMoodle上のこの授業の毎回の講義に載せてきています（忘れる時もありました）。ですが、これは、出席した人の復習や欠席者が授業を見られるようにとの配慮からです。このMoodle上の録画を見ても出欠には関係しません。

繰り返しますが、授業自体は対面方式で、TAさんが配布回収する出席票で出欠が付きます。多人数の講義ですので、毎回の出席管理に関わる課題等を課して処理する余裕はありません。質問のある方は授業後に来て下さい。よろしくお願いします。

科 目 名	神話と芸術　西洋近現代におけるギリシャ・ローマ神話の変容							
担当者名	兼利　琢也							
複合	２単位	秋学期	水曜日	４時限	１年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

ギリシャ神話を基礎におく古典古代文化の多種多様な姿形は、西洋世界において中世にその大部分が衰滅したものの、ルネサンス（古代再生）期――現代文化の思春期――に蘇りました。以来それらは、18世紀前期までは古代ローマの文学芸術を通じて、18世紀後期以降は（ローマの文物に加えて）古代ギリシャの芸術が、各時代の文化的模範として仰がれました。本講義では、西洋文化の影響と関係性に直接的な連関の明らかないくつかの主題について芸術全般にわたり現代に到るその受容と変容をたどります。

20世紀後半より以前では、西洋の文化教養の基礎と頂点がギリシャローマの古典なので、どの時代どの国も、その時その場にのみ可能な形で特定の神話や観念を再生させ、再発見・再創造を行いました。この講義で取り上げる事例も、基本的にどれも各時代の芸術家の自覚的な取り組みと創造ですから、それ自体が各専門家の研究対象です。ですが、古典学徒としての私個人の趣向と関心に基づいて、その独自な変形を時代を縦断する形で探ります。基本的に近代から20世紀初期までを扱う．20世紀の大衆文化（おもに映画）との連関では，古代ローマが中心になるため神話より古代異教文化全般に関わる。古典の普遍的な影響力を認識してもらうことがこの講義の到達目標ですが、そこから古代そのものに対する新たな理解が拓けることを願っています。

授業の到達目標

古典古代文化の普遍的な影響力の再認識

成績評価方法

●**試験**　100%　　授業期間の最終回に定期試験とほぼ同じ仕方の、持ち込み不可（もちろんPC スマホ他も時計としても禁止）、机の上は問題用紙と解答用紙と鉛筆と消しゴムだけの1時間の試験とします。
●**レポート**　0%　　この秋学期の講義は長らくレポートにしてきたのですが、一昨年度から春学期と同じ形式の教場試験に変えました。
●**平常点**　0%　　出席は成績評価の前提とされています。
●**その他**　0%　　とくにありません。

備考・関連URL

＊上のシラバス通り進まないことが多いです（春学期「神話の世界」で残した重要な神を話すため、昨年度は神話学の歴史に関する概論を省きました）。内容を別のものに変えるかもしれません。オイディプースまで話せるかやや不明です。また、オイディプースをやめて別の神話の受容の話に変える可能性もあります。

＊この講義は、普通の対面授業で行います。教場に来ない人は欠席になります。21年から授業をキャプチャソフトで録画してMoodle上のこの授業の毎回の講義に載せてきています（忘れる時もありました）。ですが、これは、出席した人の復習や欠席した人が授業を見られるようにとの配慮からです。このMoodle上の録画を見ても出欠には関係しません。繰り返しますが、授業自体は対面方式で、TAさんが配布回収する出席票で出欠が付きます。

科 目 名	異文化受容と文学の変容　異文化受容に文学はどのように関わるか（ヘレニズムの東漸とその変容）							
担当者名	宮城　徳也							
複合	２単位	春学期	無	フルOD	１年以上	オープン科目	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

本年度は全回オンデマンド授業として実施します．独自の文化を持つ集団が，異文化と接触し，それを受容することによって，自身の文化にも変容が生まれ，新しい文化が創造されます，例えば，日本の場合は古代には中国と朝鮮半島の先進文化を受容しましたが，その中にはインドで生まれた仏教もありました．また，中国やインドもシルクロードなどを通じて，西方世界の影響を受け，それを独自の文化形成に活かしています．16世紀に大航海時代が現出し，東西の交流が盛んになり，日本では南蛮文化と呼ばれる西洋の影響が流行しました．幕末から明治維新，第二次世界大戦後の大変革など，現代に至るまで，日本は様々な外来文化を受容し，それを独自に変容させて新たな文化を創り上げてきました．これは，日本だけに限りません．ヨーロッパ文化の根幹と言えるヘレニズムとキリスト教の影響に焦点を当てながら，詩や小説に限定されない広義の「文学」（演劇，歴史，思想を含む）が，異文化の受容と，新たな文化の創造にどのような力を持ったかを考察したいと思います．

授業の到達目標

文学に見られる異文化受容と，それによる文学の伝統の変容を，幾つかの作品，ジャンルの場合を検証しながら，考察します．

成績評価方法

●**試験**　30%　　毎回小テストを実施します．

●**レポート**　30%　　授業で学んだことを踏まえて，2000字程度以上のレポート提出を求めます．。レポートが提出されない場合は「不受験」Hの評価になります。

●**平常点**　40%　　毎回，授業の要約と感想（200字程度）のMoodleでの課題提出を求め，受講状況と合わせて平常点として評価します。

●**その他**　0%　　その他はありません．

備考・関連ＵＲＬ

評価は課題，小テストによる平常点評価，学期末レポートで行ないます．

関連URL:

http://www.f.waseda.jp/tokuyam/index.htm

科 目 名	芸術と社会　都市と美術							
担当者名	坂上　桂子							
複合	２単位	秋学期	月曜日	３時限	１年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

美術と社会の接点を、都市を切り口にみていきます。都市は私たちの暮らしにおける基本であり、私たちが豊かな生活を送るための最重要基盤であるにもかかわらず、案外、無頓着に過ごしている人も多いでしょう。地震や集中豪雨などの自然災害、そしてパンテミックなど、都市をめぐる状況には多くの問題が山積しています。ポストコロナの時代において、私たちの生活の基盤となる都市には何が求められるのでしょうか。これからは、今までにも増して、経済的効率性、実利的な側面に加え、都市における美的体験や感性の充足が求められることは間違いないでしょう。都市における美術の役割は、言うまでもなくこれまで以上に重要になると想像できます。本講義ではそうした未来を視野にいれ、都市に暮らす人々が安全な生活を確保しつつ、より豊かな日常を過ごせるための要素として、アートはどのような役割を担いえるのか考えていきます。こうした考察を導くべく、ここではとくに、パリ、そしてにニューヨークの現在の状況について詳しくみていきます。具体的には都市が形成された歴史的な背景、都市計画、土木、建築など都市の概観を、すなわち都市の「かたち」である特徴をまずは捉えた上で、都市を代表する美術館やコレクション、その他の芸術的空間、パブリックアート、アートプロジェクトなどについて、美術の内容にまで立ち入って見出していきます。とりわけ主要な美術館の特徴を知るために、美術館建築、代表的作品の内容や、展示手法、展示空間についてとりあげます。また美術館やアート作品以外にも、都市を豊かにしている芸術的、美的要素は何かについて考察していきます。最終的には、これらの都市の状況を把握し、現在の東京について認識することで、日本の都市の未来の可能性について考えます。

授業の到達目標

世界の代表的都市を、美術と人びとの生活の「質」を視点に考察するなかで、私たちの住む日本の環境と比較検討し、日本における都市のありかたを考え、人びとの生活を豊かにするものとは何かについて自分なりの見解をもつことができるようにするのが目標です。同時に、美術とは何か、その力について考えることができるようにします。

成績評価方法

毎回、授業内容の理解度を確認するため、Moodle 上から必ず簡単な小テストや課題をしてもらいます。これらを規定時間内（基本的に授業時間内）に行わなかった場合には評価はできません。これらを総合し、評価します。

備考・関連ＵＲＬ

基本的な授業の流れに変更はありませんが、多少内容が変わったり、順番が前後することがあります。

科 目 名	芸術論争の歴史　「展覧会」が生み出す芸術潮流							
担当者名	和田　佐知子							
複合	２単位	春学期	無	フルOD	１年以上	オープン科目	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

アートの価値は絶対ではありません。政治体制や世界情勢、常識の変化により、かつては高く評価されていた作品が忘れ去られる、反対に再評価を受けて価値が高騰することも珍しくありません。芸術作品の持つ意味や価値、さらに作家自身は、作品が世に発表された瞬間から、常に論争の渦中に巻き込まれているのです。芸術作品は作者の意図や人生だけで生み出されるものではなく、作家自身が社会に身を置き、周囲と関係を築くことで多層的に創り出されるものといえるでしょう。同時にアートを取り巻く環境や批評もまた、複合的な要素を内包して成立しています。

本講義では、芸術作品の価値を「変化／転換」させる契機となった歴史上の展覧会や美術界の出来事に着目し、その背景と諸

相について考察します。講義を通じて作品に関する知識も深めることで、美術館に足を運ぶ新たな機会にしたいと考えています。

授業の到達目標

芸術作品の価値が転換するきっかけとなった歴史的展覧会や出来事を検証することにより、芸術の価値が時代によって変化することを意識し、現代社会における芸術の意味を考察すること。国内に収蔵される美術作品への関心を高める機会とすることを目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　30%　　講義期間中に開催されている展覧会を一つ以上鑑賞し、講義内での論考を交えて考察すること。詳しくは授業中に説明します。

●**平常点**　70%　　必ず全講義を視聴すること。原則特例は認めません。各講義の視聴期間は1週間とします。

●**その他**　0%

備考・関連URL

※授業の進度等に応じて、取り上げる内容が変わる可能性はあります。

※美術史学を履修している必要はありませんが、近現代美術史を下敷きとした講義となります。

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

講義

科 目 名	**翻訳とその諸問題**　日本児童文学界における外国文学作品（主にロシア文学）の翻訳をめぐって							
担当者名	南平　かおり							
複合	2単位	秋学期	無	フルOD	1年以上	オープン科目	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

本授業はオンデマンド授業である。

本授業では、「日本児童文学界における外国文学翻訳作品」の諸問題について取り上げる。

日本の児童文学界の中で「翻訳」をめぐる問題は大変重要であり、検討すべき要素をはらんでいる。

大正7（1918）年の「赤い鳥」誌誕生から、昭和25（1950）年に日本の児童文学の世界に新風を巻き起こした「岩波少年文庫」創刊までの時期を中心に、「翻訳」の在り方の歴史を辿る。「原語からの直接訳でなければならないのか」、「抄訳ではなく完訳であるべきなのか」、さらには「翻訳者による再話は許されるのか」という大きな問題について、様々な角度から検討していく。具体的には、主だった翻訳者を取り上げ、その翻訳方法について考察しながら、授業を進めていく。

この授業では、特にロシアの児童文学作品を例にとって学んでいくが、折に触れ他の外国作品についても取り上げる。

児童向けの翻訳の場合は、漢字の使い方や、言葉の言い回しなど大人向けの翻訳とは違った心遣いが必要になってくる。「花」を「お花」といえば、児童文学になるわけではない。

児童文学についての知識も学びながら、「翻訳」における様々な問題についてじっくり考えていきたい。 受講生には積極的に「翻訳」と向き合ってもらいたいと考える。

授業の到達目標

「日本児童文学界におけるロシア文学作品の翻訳の歴史」を理解した上で、児童文学における外国作品の翻訳の在り方について様々な視点から考察し、

自ら問いを立て、考える力を養うことを目指す。

簡単に答がでなくても、答を導き出そうとする努力を続けてほしい。

そして学んだことを各々の研究テーマに応用し、深めることを到達目標としたい。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しません。

●**レポート**　60%　　テーマについては第7回の授業内に提示します。

授業の内容をしっかり理解した上で、独自の視点から論を展開してください。

レポートの提出は必須です。

レポートが期限内に提出されていない場合は、単位取得はできません。

●**平常点**　40%　　オンデマンド授業ですが、受講生との双方向の授業を目指しています。そのため、

毎回の授業の意見・感想をmoodleに提出してください。

期限内に意見・感想シートを提出して初めて出席となります。

尚、授業は3本の動画で成り立っています。3本全て視聴した上で、感想シートを提出して「出席」となります。

部分的に視聴して感想シートを提出しても「出席」にはなりません。

●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

毎回の授業の感想・意見の内容に関しましては、次の回の授業でフィードバックします。提出していただく授業の意見・感想シートを活用し、受講生同士で考えが深められる機会を作ります。

科 目 名	**言語学入門**　ことばの科学とは何か。ヒトは、どのようにして「ことば」に迫ったか							
担当者名	森田　彰							
複合	2単位	春学期	木曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

設置学部のディプロマポリシーに基づき、本講座では、言語とその使用者である人間の多様性に目を向けていきます。言語は、人々が日々、半ば無意識のうちに使用しているものです。そして、人々はその中に魔的なものをみたり、identity のよりどころにしたり、単なるコミュニケーションのツールと見なしたり、時には差別の対象ともしてきました。また、言語の方も人間の思考や世界観に影響を与えていると言われています。「言語学」は言語をその研究の対象にしているのですが、言い換えれば、ヒトが言語をどのように見ているか、また、ヒトとことばとの関わりを体系的に論じたものです。また、ある意味で、ヒトとは何かを問うものです。ヒトが、言語にどのように迫り、言語とは何かを、どのような「記述」方法によって説明しようとしてきたか、これらを振り返ることによって、言語学の目指した、そして目指すものを考えていきます。

言語も他の人間活動と同様、大層複雑なものなので、その実態をより正確に捉えようとするには、様々な切り口が必要です。そうした様々な切り口の主要なものを整理しながら、この地球でヒトにのみ備わったと思われる言語の姿と言語を操る力に焦点を当てて論じていきます。その中には、ヒトがどのように言語を習得するか（したか）も含まれます。それと同時に、言語学がどのような方法で言語を説明しようとし、発展してきたかを見ていきます。

言語の研究は何よりも「例示」が大切です。多くの受講生の既習外国語である英語と日本語は当然その中心となりますが、主としてヨーロッパの他の言語についても触れていきたいと思っています。

なお、この講座は、言語学の特定の理論を通して言語のあり方に迫るものではありません。しかし、近代的言語学の黎明から、20世紀の後半くらいまでの言語学、言語へのアプローチの流れを見ていくので、そこまでの言語理論から見た（違った視点による）言語の姿を語ることになります。

授業の到達目標

講義、またはゼミの活動を通して主に以下の事を学びます。

・言語の探求を通じて、科学とは何かを理解すること
・言語学の目指しているものについて理解できること
・言語の記述の様々なあり方を知ること
・人間と言語の関係を自分のものとして考えることができること
・言語学の諸理論のあらましについて理解できること
・構造 structure と体系 system について理解できること
・言語学の発展を通して、ある探求分野がどのように生まれ、発展してきたかを知ること

成績評価方法

●**試験**　80%　「理解度の確認」。講義の内容の範囲で、言語学のなしてきたことを整理し、言語学の目指すものを理解できているかどうか。所謂「定期試験」と同じ準備と態度で臨むこと。状況に応じてレポートになる可能性もあります。ただし、単位取得の条件として10回以上の出席が求められます。なお、ゼミ形式の場合、この割合は低下し、授業での発言など授業への参加度がに振り分けられます。備考欄を参考にしてください。

●**レポート**　0%　　上記および備考欄参照

●**平常点**　20%　　毎回、授業に対する反応を Moodle にアップしてもらいます。そこでの問題意識などを positive な評価材料とします。また、講座への参加度は、理解度の確認、レポートなどの設問によっても問われます。

●**その他**　0%　　10回以上の出席が履修の条件となります。出席の取り方は履修者数によって変わります。

備考・関連ＵＲＬ

［本科目は早稲田キャンパスで実施する可能性があります］履修者の数が15人を切った場合には、ゼミ形式に近い形で行います。この場合は、当然毎回発言が求められます。それ以上の場合は、講義形式になります。講義形式でも発言を求める事はあります。ゼミ形式の場合は、評価の方法も変ります。講座への積極的な発言や質問、また、発表が課せられれば、その成果が問われます。つまり、試験（それに代わるレポート等）の比率が下がり、平常点評価の比率が上がります。教科書を指定するかもしれません。どの形式で講座を行うかは、初回の講義で履修者の状況を見、調整を行います。ゼミ形式、講義形式ともに、学生諸君の積極的な関わりを期待します。講義形式の場合も出席をとりますが、それは単位を保証するものではなく、主たる目的は諸君の自己管理のためなので、過大に考えないように。ただし、欠席超過者には、単位は与えられません。これも、試験、レポート等の評価方法とともに第1回講義で詳細を解説します。授業計画の項目は、講座の内容で、概ねこのように進めますが、ビデオなどの教材も使用する予定です。毎回の課題のフィードバックは授業中に、最終課題は必要に応じ Moodle でフィードバックを行います。講義形式の場合でも、発言を求める事があります。

科 目 名	ヨーロッパのことばと文化							
担当者名	酒井　智宏							
複合	２単位	秋学期	火曜日	５時限	１年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

印欧比較言語学の方法論に基づき、さまざまな時代のさまざまな言語のデータを丁寧に分析することを通じて、今日の日本人の思考が無意識のうちに時間的にも地理的にも遠く隔たったヨーロッパのことばと文化の影響を受けていることを論じます。たとえば、「英語はラテン語から派生した言語である」という定番の誤解が生じるのはなぜでしょうか。tooth/teethの形容詞形がdentalで元の名詞と似ていないのはなぜでしょうか。名詞にsをつけると複数形になる気がするのはなぜでしょうか。「チャイルド」の複数形が「チャイルドレン」ではなく「チルドレン」であるのはなぜでしょうか。フランス語のマンション名が「洗練されている」感じがするのはなぜでしょうか。こうしたことを理解するためには、印欧比較言語学の厳密な思考法をふまえつつ、ノルマン征服以降の仏語圏と英語圏の関係、絶対王政期以降のフランスの国際的地位、言語政策など、言語(学)の外にある要因をも理解する必要があります。このように、「現在の日本」との見えないつながりという観点から「ヨーロッパのことばと文化」を捉えなおしていきます。

授業の到達目標

1. ヨーロッパの言語のあいだの系統的な関係を理解する。
2. ヨーロッパの言語のあいだの文化的な関係を理解する。
3. ヨーロッパのことばと文化を「現在の日本」との関係で捉えられるようになる。
4. 論理的に議論を組み立てる力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　70%　　第14回の授業時間中に教場にて理解度の確認を行います。一学期の学修を通じて知識と思考力がどれだけ伸びたかを重視します。

●**レポート**　0%

●**平常点**　30%　　毎回、課題の解答をWaseda Moodleのレビューシートに記入していただきます。当該回までの内容が十分に身についていると認められる解答に対して平常点が加算されます。

●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

1. この講義で扱う言語は時代的にも地理的にも広範囲にわたりますが、受講にあたって(大学受験程度の)現代英語以外の知

識は必要ありません。2. この講義で扱われる言語の例: ヒッタイト語、トカラ語A・B、古ノルド語、現代アイスランド語、スウェーデン語、ノルウェー語、ドイツ語、古英語、中英語、古教会スラヴ語、ロシア語、ポーランド語、ラテン語、スペイン語、イタリア語、フランス語。これらの言語のデータと丹念に向き合い、各言語がたどった変化を追跡します。

3. この講義では、言語文化の歴史的(通時的)考察に重点を置き、理論言語学的(共時的)考察は最小限にとどめます。理論言語学的(共時的)考察に関心のある人は、春学期開講「フランス語学概論」などをあわせて履修するとよいでしょう。

4. 言語学は突き詰めて考えることにより少しずつ面白さがわかってくる学問分野です。結論を急がず、粘り強く、論理的に一歩一歩思考を進める厳しさと楽しさ、「思考の途中式」を丁寧に書き出すことの重要性をこの講義で身につけていただきたいと思います。

科 目 名	世界の言語と日本語　言語類型論からみた日本語							
担当者名	吉田　健二							
複合	2単位	春学期	木曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

言語類型論（Linguistic Typology）は、世界の言語の特徴をできるかぎりひろくしらべ、ヒトの言語にとって普遍的な要素はなにか（普遍的な要素はあるのか）、言語はどこまで多様に異なりうるのかなどの問題を探求する研究分野です。この授業では、世界の言語の類型論的な傾向にてらしたときの日本語の位置・特徴を考察し、さらに、日本語研究からえられる知見が、ヒトの言語の研究一般にどのような洞察をもたらすかも検討します。

使用するテキストは、ドイツのMax-Planck研究所のWorld Atlas of Language Structure Online（WALS Online）という言語類型論の研究者むけオンライン書籍/データベース（英文）です。WALSは、言語の構造タイプ（類型）にかんする144の項目について、総数2697、平均約400言語の情報を分類し、地図上にしめしたもので、インターネット上で公開されています。授業計画の数字は予定している章番号です。各回、この内容に関連した講義と討議を行います。

授業の到達目標

・「日本語は特殊な言語である」という「神話（根拠なく事実だと信じられている言説）」を克服するため、信頼ある情報源を知り、適切な学術的手続き・考え方についての理解を深める。

・類型論的視点からみた日本語の特徴についての洞察を深める。

・言語類型論の研究上の目標と研究方法を理解し、類型論の視点をとりいれた言語研究を計画・実行するための基礎知識を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しません。

●**レポート**　80%　　期末レポート　A4文書5ページ以内　WALSから1章（または複数）をえらび、その内容を参照して日本語（あるいは興味のある言語）の特徴を論ずる。

●**平常点**　20%　　授業内容に対するコメントや質問を受け付けます。その提出状況や内容を評価に加える予定です。

●**その他**　0%　　.

備考・関連URL

質問などは kenjiyo.work@gmail.com まで

科 目 名	ことばの統計　コーパスを用いた日本語研究の初歩							
担当者名	市村　太郎							
複合	2単位	秋学期	無	フルOD	1年以上	オープン科目	合併科目	フル(オンライン)フルオンデマンド

授業概要

本講義では、言語研究に関心のある文科系の学生を想定し、コンピュータやコーパスを利用して日本語を言語学的に研究するための初歩的な方法を学ぶ。

主として国立国語研究所で作成されたコーパスを例に、コーパスとは何かを理解し、コーパスを検索し、集計・分析する基本的な方法を身に着ける。また実際に簡単なコーパスを作成する方法を学ぶ。そのうえで、日本語研究（言語研究）に応用する方法を検討する。

授業の到達目標

コーパスを利用するための基本的な知識を身に着け、日本語研究に活用することができる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しません。

●**レポート**　80%　　コーパスを利用した日本語の分析を適切に行うことができる。

●**平常点**　20%　　授業への参加状況。

●**その他**　0%　　その他は特にありません。

備考・関連URL

・Webコーパス等を使用するため、PCを使用します。

・本講義は言語学的なコーパスの利用入門を想定しており、情報工学的な自然言語処理や統計そのものを主対象とするものではありません。

【授業方法のお知らせ】

この授業は、基本的にコーパス（電子資料）の使い方を講義する授業ですので、話しを聞くというよりは、パソコンに向かって手を動かして試していただくことになります。

したがって、インターネットに接続できるパソコン（WEBブラウザ、エクセル等の表計算やエディタを使います）をご用意いただく必要があります。

オンデマンド講義を基に、ご自身でPCを動かしていただき、確認課題（Googleフォームを予定）に回答していただく形をとる予定です。

科 目 名	ことばと社会							
担当者名	山岡　華菜子							
複合	２単位	秋学期	無	フルOD	１年以上	オープン科目	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

この講義では、日本語のバリエーションについて考えていきます。具体的には、近代以降の日本語社会における「方言」を巡る動きを中心にしながら、外国語としての日本語など、現代社会にあらわれる日本語の様相について取り上げます。それらが社会のあり方とどのように関わるのか、みなさんと観察したいと思います。

授業の到達目標

① 日本語を様々な観点から見ることができるようになる。
② 身近な言語事象を観察し、日本語に関する知識を深める。
③ 言語という視点から社会を捉える方法を獲得する。

成績評価方法

●**試験** 0%　実施しません。
●**レポート** 70%　学期末レポートを課します。
●**平常点** 30%　ミニ課題・課題の提出状況・内容から評価します。
●**その他** 0%　とくになし。

備考・関連URL

授業はオンデマンド形式でおこないます。毎週決まった曜日（休講日は大学暦・学部暦に従う）に動画をアップロードしますので、それを閲覧していただきます。

講義

科 目 名	文化人類学の最前線1　文化人類学的研究の広がりを学ぶ							
担当者名	箕曲　在弘　他／海老澤　圭／軽部　紀子／三浦　恵子／山本　まゆみ							
複合	２単位	春学期	無	フルOD	１年以上	オープン科目	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

19世紀後半から20世紀初頭にかけて主にアメリカやイギリス、フランスにおいてそれぞれ独自に生まれた文化人類学（社会人類学・民族学）は、今日まで大きく姿をかえながら展開してきた。「未開社会」の宗教儀礼や親族構造、贈与交換のあり方などを、フィールドワークを通して包括的に捉えることを得意としてきた文化人類学は、機能主義や象徴主義といった、他者を記述する方法を次第に洗練させながら、今日まで数々の民族誌（エスノグラフィ）を生み出している。

しかし、グローバル化の波が世界の隅々にまで押し寄せるなかで、これまで人類学者が研究対象としてきた、周囲の社会から閉ざされた「未開社会」なるものは現実には存在しなくなった。現代における文化人類学は、国民国家や市場経済、科学技術といったグローバル化にともなって広まる知識や技術が、多様な歴史的背景をもつ人間集団のなかにいかに結び付き、それが人間社会にとって何をもたらすのかという問いを探究するようになってきている。

こうした探求は、たんに私たちにとって遠く隔たった異郷に住む他者の世界を理解するだけでなく、私たちの思い込みを解体し、思考の自由を獲得していくことにつながる。本講義では、広がりゆく文化人類学の世界について、できるかぎり最新の成果を踏まえながら解説していくことをめざす。春学期に開講する本講義では、おもに「歴史」「民族舞踊」「食」「世界遺産」について文化人類学の観点から理解を深める。

なお、本講義はオムニバス授業であり、原則的に3回ごとに担当教員が変わる。各教員の専門領域について、初学者でも分かるように解説することを心がける。毎週土曜日に新たな講義コンテンツが追加されていくので、各自決められた期限のなかでそれを視聴し、担当教員が与える課題に答えていくことが求められる。

授業の到達目標

文化人類学はどのような学問であるのかを自分なりに説明できるようになること。
文化人類学のものの見方を身につけること。

成績評価方法

●**試験** 0%　試験は行わない。
●**レポート** 80%　授業内容の理解度を評価の対象とする。
●**平常点** 20%　出席状況を評価の対象とする。
●**その他** 0%　特記事項なし。

備考・関連URL

本講義を受講する前、あるいは授業と並行して、文化人類学の基礎的な講義を受講しておくことが望ましい。また、この講義は、秋学期に開講する「文化人類学の最前線2」の授業と対になっているため、「文化人類学の最前線1・2」両講義とも受講することを推奨する。

科 目 名	文化人類学の最前線2　文化人類学の多様なアプローチを学ぶ							
担当者名	箕曲　在弘　他／牛山　美穂／海老澤　圭／黒崎　岳大／三浦　恵子							
複合	２単位	秋学期	無	フルOD	１年以上	オープン科目	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

19世紀後半から20世紀初頭にかけて主にアメリカやイギリス、フランスにおいてそれぞれ独自に生まれた文化人類学（社会人類学・民族学）は、今日まで大きく姿をかえながら展開してきた。「未開社会」の宗教儀礼や親族構造、贈与交換のあり方などを、フィールドワークを通して包括的に捉えることを得意としてきた文化人類学は、機能主義や象徴主義といった、他者を記述する方法を次第に洗練させながら、今日まで数々の民族誌（エスノグラフィ）を生み出している。

しかし、グローバル化の波が世界の隅々にまで押し寄せるなかで、これまで人類学者が研究対象としてきた、周囲の社会から閉ざされた「未開社会」なるものは現実には存在しなくなった。現代における文化人類学は、国民国家や市場経済、科学技術といったグローバル化にともなって広まる知識や技術が、多様な歴史的背景をもつ人間集団のなかにいかに結び付き、それが人間社会にとって何をもたらすのかという問いを探究するようになってきている。

こうした探求は、たんに私たちにとって遠く隔たった異郷に住む他者の世界を理解するだけでなく、私たちの思い込みを解体し、思考の自由を獲得していくことにつながる。本講義では、広がりゆく文化人類学の世界について、できるかぎり最新の成果を踏まえながら解説していくことをめざす。秋学期に開講される本講義では、おもに「文化政策」「東南アジア」「医療」「観光」といったテーマについて文化人類学的の観点から理解を深めていく。

なお、本講義はオムニバス授業であり、原則的に3回ごとに担当教員が変わる。各教員の専門領域について、初学者でも分かるように解説することを心がける。毎週土曜日に新たな講義コンテンツが追加されていくので、各自決められた期限のなかでそれを視聴し、担当教員が与える課題に答えていくことが求められる。

授業の到達目標

文化人類学はどのような学問であるのかを自分なりに説明できるようになること。
文化人類学のものの見方を身につけること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　80%　　授業内容の理解度を評価の対象とする。
●**平常点**　20%　　出席状況を評価の対象とする。
●**その他**　0%　　特記事項なし。

備考・関連URL

本講義を受講する前、あるいは授業と並行して、文化人類学の基礎的な講義を受講しておくことが望ましい。また、この講義は、春学期に開講する「文化人類学の最前線1」の授業と対になっているため、「文化人類学の最前線1・2」両講義とも受講することを推奨する。

科目名	文化人類学1　文化人類学の基礎を学ぶ							
担当者名	國弘　暁子							
複合	2単位	春学期	木曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

人類学（Anthropology）とは、anthropos（ギリシャ語で人間を意味する）について研究する学問（logy）である。アメリカの文化人類学（Cultural Anthropology）、イギリスの社会人類学（Social Anthropology）、フランスの民族学（Ethnology）など、名称は地域によって異なり、また学史的な違いもあるが、今日では研究の射程における違いは然程見られなくなっている。文化人類学1の授業では、西洋で誕生した人類学の発展に貢献してきた先駆者たちの業績を紹介しながら、それらが現代社会に生きる私たちにとってどのような意義があるのかについて考える。異文化に生きる人々の生活に関する人類学的研究の蓄積を通じて、私たちの身近にある出来事のなかに彼らとの共通項をどのようにして見出すことができるのか。諸文化の多様性のなかに普遍性を見出す為に不可欠な比較の視座の持ち方について学ぶことを目指す。本授業は、初回授業（オリエンテーション）はオンデマンド配信型授業として実施し、2回目以降は、教室で実施します。

授業の到達目標

人類学で求められる思考力を鍛えると同時に、自らの研究テーマを構想するための視野を得ることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　50%　　課題は第7回の授業で提示します。与えられた課題の意図を理解できているか、授業内容の視点と絡めて考察できているかを評価します。剽窃や過去のレポートの盗用などの不正行為は処分の対象となるので注意すること。
●**平常点**　50%　　理解度の確認のため、わせポチ（クリッカー）への参加、そしてランダムコールによる個別の発言を求めます。授業中の発言、わせポチ回答数、そして、授業後のフォーラム（Waseda Moodle）への投稿回数を総合的に評価します。原則として、わせポチ回答数が全回数の3分の2に達している者をレポートの採点対象とします。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

・履修者からの疑問や質問に応答しながら各回の講義テーマを適宜変更いたします。・授業中は海外で製作された映像資料（英語、その他の外国語）を多数使用します。
・わせポチ（クリッカー）を使用しますので、参加するためのツールを持参してください。

科目名	文化人類学2　嗜好品の文化人類学							
担当者名	大坪　玲子							
複合	2単位	秋学期	金曜日	2時限	1年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

嗜好品は文化人類学らしいテーマと考えられがちだが、実は研究が進んでいない。理由の1つに嗜好品という言葉を持たない言語が多く（試しに手元のスマホで検索してほしい）、そのため学際的な研究が成立しにくいのである。

本講義では嗜好品研究の現状と問題、人類学者たちがフィールドで出会った具体的な事例を多く紹介し、人類学における嗜好品研究を考えていきたい。前半は世界各地の嗜好品の事例、後半は担当教員が調査してきた嗜好品の事例を紹介する。現代の日本では嗜好品はコンビニエンスストアで買えるものだが、フィールドでは作るところから始まる嗜好品も多々ある。嗜好品という言葉は日常生活で使わないかもしれないし、最近の若者は（そしてかつての若者も）嗜好品離れが進んでいるとも言われる。嗜好品という言葉の持つ柔軟性も視野に入れて議論していきたい。

授業の到達目標

嗜好品研究の現状と問題点を理解する。
身近にある嗜好品がコンビニエンスストアに並ぶまでの過程を説明できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　60%　　授業内容の理解度を問う。
●**レポート**　30%　　学期中にレポートを提示する。
●**平常点**　10%　　普段の出席状況や積極的な参加態度などを総合的に評価する。

●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	**環境と人間1（マクロな視点）** 人間と環境の多様なかかわり方を学ぶ							
担当者名	箕曲　在弘							
複合	２単位	春学期	無	フルOD	２年以上	オープン科目	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

いまや人類は地球の地質や生態系に大きな影響を与える存在となっている。熱帯林破壊や海洋汚染に言及するまでもなく短期的な視点で経済発展のみを追求できる時代はすでに終わっている。本講義では、広義の環境と人間の関係を人類学の視点から捉えなおしてみる。人類学は人間の環境利用の仕方に関する多様なフィールドの知見を収集してきただけでなく、われわれの自然観に変容をもたらすさまざまな概念を提示してきた。 本講義では、人類史という大きな視点から、狩猟採集や牧畜、農耕といった環境に強く依存した生活を送る者の視点、自然とともに生きる人びとの実践知、近年の人類学の理論に至るまで多様な議論の成果をかみ砕いて解説していく。同時に、本講義では、哲学や社会学、考古学の知見を取り入れながら、これらの学問と人類学の接点を探る。

授業の到達目標

西洋中心的な自然観や環境観を相対化させ、人間と自然との多様なかかわり方について理解し、自然および環境に関する現代社会の諸課題について批判的かつ建設的に考察できるようになること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　60%　　期末レポートの内容により評価する。
●**平常点**　40%　　毎回提出するリアクションペーパーの内容により評価する。
●**その他**　0%　　特になし。

講義

科 目 名	**環境と人間2（ミクロな視点）** 東南アジアの環境と人間社会							
担当者名	三浦　恵子							
複合	２単位	秋学期	無	フルOD	２年以上	オープン科目	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

本講義は、環境と人間社会の相関関係を、主に東南アジア社会の事例を取り上げて、人類学的観点から総合的に学んでゆく。まず、東南アジア地域の異なる環境で生活するさまざまな人々の暮らし（ミクロな視点）について紹介する。次に、第2回から第6回までは、それぞれの異なった環境における民族社会の環境順応と生存（生活）戦略について考察する。第7回と第8回は、環境が人間社会へ及ぼす現象や実践面での影響について考察する。第9回から第14回までは、人間の活動や政策が環境に与える影響と、環境変化が人間社会に投げかけるさまざまな問題について歴史的視点を踏まえて考察する。

授業の到達目標

1. さまざまな自然環境における人間の順応の過程と、変化への対応について理解する。
2. 自然環境と人間社会の相互作用とメカニズムを理解する。
3. 異なった環境と多様な社会に住む人々の生活や現象の関わりについて理解する。
4. 東南アジアの環境と社会について基礎的な知識を習得する。
5. 環境と人間社会の関係性について多角的に議論するための基礎知識、方法論や観点を習得する。
6. 日本人の生活と東南アジアの環境問題との関係について理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　70%　　レポート課題は、第2回から第14回までの課題（各回にアップロード）の中から1つを選択すること。事前に相談なく、自分で設定した課題で書いたレポートは不可。適切な学術文献を3冊・本以上参照し、文化人類学的に説得力をもって書いてあること。参照文献リストは必ず添付すること。インターネットからダウンロードした文献などのコピー・切り張り（コピペ）は不可。4,000～5000字。
●**平常点**　20%　　課題への記述が授業内容を反映しているかを評価する。
●**その他**　10%　　課題への応答（出席にカウント）を評価する。

備考・関連ＵＲＬ

英文の文献を読みこなし、英語のビデオ・DVDやその他の映像メディアも大方理解できることが重要である。前期の授業「環境と人間1：マクロな視点」も併せて受講すると理解がより一層深まる。

科 目 名	**異文化の伝播と受容** 近代の日本美術							
担当者名	河田　明久							
複合	２単位	秋学期	水曜日	３時限	１年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

絵を描き、ものをつくる営みには用途を超えた次元がありうるという「美術」の考え方を、日本は近代の始まりとともに西洋から学んだ。日本の近代美術にはそれゆえ、二つの視覚文化が出会い混交する際に生じた様々な葛藤を見て取ることができる。本講義ではそれらをたどりつつ、幕末から昭和期にいたる近代日本美術の様子と、美術を背後で支えた近代日本の視覚文化の広がりについて考える。授業はおおむね年代を追うかたちで進めるが、毎回具体的なトピックを設けるので、かならずしも網羅的な通史とはならない。

授業の到達目標

近代日本美術史の知見を自身の問題意識に引き付けて考えることができる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　レポート課題は、講義内容をふまえてたうえで受講生各自の問題意識が反省されるようなものを予定し

ている。
●**平常点**　50%　　出席状況、受講姿勢等により総合的に判断する。
●**その他**　0%

科 目 名	音楽文化論1							
担当者名	小沼　純一							
複合	2単位	春学期	月曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
基本的には「音楽」のさまざまなありようをみていきます。
その点では、春学期／秋学期ともに変わりはありません。
1年かけても無数にある音楽の一部しか扱えませんが、あまり学生諸君がふだん触れることのないようなものを扱いたいと考えています。また、楽曲を聴く、というだけではなく、音楽をなりたたせているもろもろのことにアプローチするはずです。そして、隠しテーマとして、音楽と「場」というのは想定されているかもしれません。

授業の到達目標
従来の「音楽」観が揺らいでくれることが望ましい。

成績評価方法
出席はとりません。
試験のみで成績評価をおこないます。

科 目 名	音楽文化論2							
担当者名	小沼　純一							
複合	2単位	秋学期	月曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
基本的には「音楽」のさまざまなありようをみていきます。
その点では、春学期／秋学期ともに変わりはありません。
1年かけても無数にある音楽の一部しか扱えませんが、あまり学生諸君がふだん触れることのないようなものを扱いたいと考えています。また、楽曲を聴く、というだけではなく、音楽をなりたたせているもろもろのことにアプローチするはずです。「音楽文化論1」の延長上ではありますが、切り口が変わります。おそらく、場所や固有名と結びつけたかたちで展開してゆくはずです。

授業の到達目標
従来の「音楽」観が揺らいでくれることが望ましい。

成績評価方法
出席はとりません。
試験のみで成績評価をおこないます。

科 目 名	国民国家と文化							
担当者名	寺崎　秀一郎							
複合	2単位	春学期	火曜日	1時限	2年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要
21世紀を生きる多くの人びとにとって「国民国家」は所与の存在であり、帰属すべきものとされている。しかし、長い人類の歴史を見れば「国民国家」がきわめて新しい枠組みであり、人類社会が築き上げてきた「文化」という枠組みと必ずしも一致しない、という事態も生じている。現在、世界各地で起きている民族紛争は、こうした矛盾に起因するとも考えられる。そこで、本講義においては、「国民国家」の中で「文化」がどのように変容し、あるいは、抵抗し、今の世界を形作ったのかを考える。そのため、本講義で取り扱う領域は、人類学はもとより、考古学、歴史学、場合によっては政治経済システムまで多岐にわたる。

授業の到達目標
本講義では，国民国家が人類社会の進化の過程でいかにして誕生したのかを踏まえた上で，植民地経験をもつラテンアメリカ地域における国民国家生成プロセスを参照しながら，急速に変わりゆく世界の中で従来の枠組みを改めて見つめ直し，受講生のみなさんにとって、世界の在り方を問い、自らの未来を切り拓く契機となることことを期待したい。

成績評価方法
●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　50%　　期末レポートを実施します。課題については教場で指示します。
●**平常点**　50%　　出席状況。なお、受講生は受講後にWaseda Moodle上のフォーラム機能を利用して各講義後に課される課題を提出すること。この課題の提出をもって出席とする。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	感性の哲学							
担当者名	峯尾　幸之介							
複合	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要
感性の哲学的研究は、ふつう、哲学的学科のうち、美学に分類される。しかし、哲学的美学においては哲学的認識論などが前提されており、たとえば、カントの『判断力批判』を読解するためには、かれの『純粋理性批判』を読解しておかなければならないのである。そこで、この授業では、哲学と美学という枠組みに拘束されることなく、感性を主題とする哲学と美学について入門的かつ横断的な講義をする（そのため、感性と直接的な関係をもたない内容もあつかう）。より具体的には、感性を、第一

に認識能力という観点において、第二に美を感じる能力（そしてそれによって感じられた美）という観点において取り扱い、ソクラテス＝プラトン、デカルト、バウムガルテン、カント、現象学の哲学と美学を取り上げる。

授業の到達目標

・感性を主題とする哲学と美学を理解し、説明できるようになる。
・哲学と美学の方法と知識を応用して、みずからの力で感性的なものについて考えられるようになる。

成績評価方法

●**試験**　100%　　第14回の授業中に試験を行い、上記の到達目標の達成度を確認する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

科 目 名	生活環境美学							
担当者名	宮崎　薫							
複合	2単位	春学期	金曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

本講義では、「美」や「感性」について、わたしたちの生活環境の場面に、結びつけながら考察します。
衣食住や日本に関わる事象を取り上げ、身のまわりのさまざまな事柄が、「感性」に関わることに気づき、日常生活に潜む美、感覚世界の多様性を探ります。本講義は、ディプロマポリシーの中の「多様な学問・文化・言語・価値観の交流」に対応し、人間と社会の本質に迫り、新しい時代にふさわしい文化を構想する力を養います。
本授業は教室対面授業とし、一部、オンライン（リアルタイム配信1回、オンデマンド配信1回）実施します。

授業の到達目標

本講義では、日常のさまざまな事象に意識を働かせ、「美」や「感性」との関わりを見い出し、考察・批判することを通じて、問題認識力と思考力を高めることを目指します。
学問の広がりを体験し、自らの独創的な研究テーマを構想するための視野を得ることを目標とします。
本講義を通じて、感性的経験を広げ、美学が創造的に生きるための一助になることを理解します。

成績評価方法

●**試験**　0%　　－－－
●**レポート**　0%　　－－－
●**平常点**　100%　　毎回、授業終了後に,,Waseda Moodleに、コメントや感想を入力してもらいます。
その際、授業内容の理解度、自己の見解の有無、記述の的確さ等を評価基準とします。
評価を集積して総合的に成績を判断します。
＊レポート・試験（授業内の理解度の確認テスト）はありません。
●**その他**　0%　　－－－

備考・関連URL

ゲスト等の招聘で、授業計画を変更する場合があります。Waseda Moodleを使用します。（連絡、授業終了後のコメント入力）【教室対面授業】とし、一部、オンライン（リアルタイム配信・オンデマンド配信）の形式とします。
教室では、毎回、貴重資料、映像・音源等、五感体験を提供します。

科 目 名	死の諸相　〈死〉をめぐる表現の諸相							
担当者名	堀内　正規							
複合	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

人間にとって〈死〉はもっとも基本的なものの一つでしょう。どう生きるかという問題は〈死〉とのかかわりにおいて、強く意味を持ってきます。
この講義では、〈死〉というテーマをめぐって、日本ではどのようなすぐれた表現があるのかを、わたしなりの（かたよった）視点から、具体的な事例に即して考え、それぞれ固有の問題からより大きな問題を考える糸口を探ってみたいと思います。感性の面にあらわれた〈死〉の諸相を、芸術創造の表現と結びつけながら、しかし芸術論の枠からずれる形で、とらえてみます。
とはいえ、〈死〉のような問題について、わたしが学問上のディシプリンを持って何かを「教える」ようなことはとても不可能ですし、わたしが学生のみなさんよりも〈死〉のことを深く知っているということもないでしょう。
その意味で、体系だった教育とはほど遠く、いつも手探りの姿勢で〈死〉というファクターから表現されたものに近づいていく試みをする講義になります。
客観的な、あるいはアカデミックな考証をともなうような〈死〉についての知識を求める方は、この授業を履修しないようにしてください。
さまざまな表現者の〈感性〉を通して、命題的な思想内容と重なりながらもそこから逸れた、表現によってしか形にならないような部分に着目してみます。
そのような講義であるので、一段高いところから〈教える〉ような性質の授業ではなく、「こんなふうに考えられると思いますがみなさんはどうでしょうか」という姿勢で、できれば講義を通じて聴いているみなさんが、部分的にではあっても、毎回何かを感じたり考えたりするヒントやきっかけを提示できればと思っています。だからこの授業の目標は、みなさんをいい意味で刺激することです。
とりあげる予定の作品の順番は、各回のシラバスの順序から変更することがありますので、あらかじめご容赦ください。またシラバスにない作品を対象にする可能性もゼロではありません。最後はフィードバックの回にします。
身近な人の死、自らの死、一般的な人間の死、大量死、物体としての死（死体）、生命の死、普遍的な死の観念など、死に向き合うポイントはさまざまですが、ひとが身に迫る感覚とともに死と向き合う機会は、〈わたしが死ぬ〉ということか、さもなければ〈愛する者が死んだ〉といった事態ではないか――そんな仮説から出発して、できるだけ偉そうな物言いをしないようにして、そのつどの試みのように話してみます。自分で感じ考えたい人に履修してほしいと思います。

授業の到達目標

学生個々人が〈死〉を観念や情報としてでなく、感性の次元でとらえ、自ら思考を働かせる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はしません。

●**レポート**　50%　　自分なりの視点を打ち出せているかどうか。真摯に思考しようとしているかどうか。論理的にアウトプットができているかどうか。

●**平常点**　50%　　出席は11回以上を必須とします。4回休むと単位が与えられませんのでご注意ください。
その上で、3週ごとにMoodle上の課題として感想を400字程度で書いていただき、それを平常点評価の対象とします。

●**その他**　0%　　その他はありません。

備考・関連URL

出席11回以上、3週ごとに感想の課題を書くことを必須としますので、ご注意ください。

科 目 名	グローバリゼーションとメディア							
担当者名	高橋　利枝							
複合	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	オープン科目	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

私たちはこれまで経験したことがないような変動の時代に生きています。加速するグローバル化とデジタル化、AI（人工知能）化によって、日常生活はチャンスとリスクに満ちています。この授業では、このような時代を生きる受講生の皆さんのために、グローバル化、デジタル化、AI化された現代社会について理解を深めることを目標としています。

現代社会においてメディア（ソーシャルメディアやAIを含む）は、ビジネス、政治、経済、教育、医療、スポーツなど至る所に入り込んでいます。スマートフォンやインターネットは私たちの日常生活において様々な人や文化を結びつけ、グローバル化を推し進めています。人工知能（AI）やロボット、モノのインターネット（IoT）などによる技術革命は、第4次産業革命や、Society5.0などと呼ばれています。

このような変動する現代社会の中で夢を叶えるには、まず、自分を取り巻いている社会からの力学を知ることが大切でしょう。現代を生きる私たちが社会から受ける力学として、主に3つの要因が考えられます。グローバルな力、ナショナルな力、デジタル化やAI化などの科学技術による力です。授業を通して、グローバル時代、デジタル時代、AI時代における新たなチャンスを最大限に享受し、リスクを最小限にしながら、現代社会をより強く生き抜く為の力を身につけていきましょう。

授業の到達目標

第1に、グローバル化やデジタル化、AI化に関する必要な知識を習得し、その基礎能力を身につける。この講義では、テキストで用いている概念や理論モデルを、来るべきAI/ロボット時代において発展させていきたいと思います。

第2に、グローバルなデジタル時代、AI時代におけるチャンスとリスクを知る。

第3に、変動する現代社会において自己実現するために、「自己創造」の概念を習得する。

成績評価方法

●**試験**　100%　　理解度の確認によって評価します。

●**レポート**　0%　　—

●**平常点**　0%　　—

●**その他**　0%　　—

備考・関連URL

フルオンライン方式（オンデマンド配信）にて授業を行います。ツールはMoodleを使用します。尚、授業計画は変更する場合がありますので、Moodleを参照してください。

科 目 名	語用論入門　人間のコミュニケーションを科学する							
担当者名	酒井　智宏							
複合	2単位	春学期	火曜日	5時限	1年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

「ことばの意味」を研究する学問分野には「意味論」のほかに「語用論」があります。「意味論」はその名のとおりですが、どうしてこれとは別に「語用論」なる分野が存在するのでしょうか。それは、言語表現が実際のコミュニケーションの中で用いられることにより、プラスαの意味が伝わることがあるためです。そこで、言語学では「意味論 = 言語表現の辞書的意味（文脈独立的意味）を扱う分野」、「語用論 = 言語表現が文脈中で使用されたことによって伝わるプラスαの意味を扱う分野」という棲み分けが行われることになります。この講義では、意味論と語用論の関係に留意しながら、含み、前提、言語行為などの語用論の基本概念を論じ、人間のコミュニケーションのあり方について理解を深めます。

授業の到達目標

1. 意味の研究において、意味論とは別に語用論が必要とされる理由を理解する。
2. 日常のコミュニケーションの実態に即しつつ、語用論の基本概念を理解する。
3. 論理的に議論を組み立てる力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　70%　　第14回の授業時間中に教場にて理解度の確認を行います。一学期の学修を通じて知識と思考力がどれだけ伸びたかを重視します。

●**レポート**　0%

●**平常点**　30%　　毎回、課題の解答をWaseda Moodleのレビューシートに記入していただきます。当該回までの内容が十分に身についていると認められる解答に対して平常点が加算されます。

●**その他**　0%

備考・関連URL

言語学は突き詰めて考えることにより少しずつ面白さがわかってくる学問分野です。結論を急がず、粘り強く、論理的に一歩一歩思考を進める厳しさと楽しさ、「思考の途中式」を丁寧に書き出すことの重要性をこの講義で身につけていただきたいと思

います。

科 目 名	認知言語学入門							
担当者名	酒井　智宏							
複合	２単位	秋学期	木曜日	３時限	１年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

生成文法と並んで現代言語学の二大潮流をなす認知言語学の基礎を学びます。「ことばの研究」と聞いて真っ先に思いつくものは何でしょうか。この問いに対して「ことばの意味の研究」という答えを思いつく人がいるかもしれません。しかし、意外なことに、欧米の言語学では、意味の研究は後回しにされ、長いあいだ、語の形態や文の構造といった「ことばの形式の研究」ばかりが行われていました。非常におおざっぱに言えば、「ことばの形式を先に研究して、それに後から意味をくっつければ言語の分析が完成するはずだ」と考えられていたのです。この考え方に真っ向から勝負を挑んだのが「認知言語学」と呼ばれる立場です。認知言語学は、「ことばの形式にはことばの意味が反映されており、意味と独立に形式だけを研究したのでは、ことばの本質を捉えることはできない」と考えます。さらに、「ことばの意味はありのままの現実を写し取ったものではなく、人間の世界の捉え方を反映している」と考えます。この講義では、そうした認知言語学の言語観を、従来の理論との相違に注目しながら論じます。

授業の到達目標

1. 一般言語学および認知言語学の基本概念を理解する。
2. 認知言語学と他の言語理論との異同を理解する。
3. 論理的に議論を組み立てる力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　70%　　第14回の授業時間中に教場にて理解度の確認を行います。一学期の学修を通じて知識と思考力がどれだけ伸びたかを重視します。

●**レポート**　0%

●**平常点**　30%　　毎回、課題の解答をWaseda Moodleのレビューシートに記入していただきます。当該回までの内容が十分に身についていると認められる解答に対して平常点が加算されます。

●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

言語学は突き詰めて考えることにより少しずつ面白さがわかってくる学問分野です。結論を急がず、粘り強く、論理的に一歩一歩思考を進める厳しさと楽しさ、「思考の途中式」を丁寧に書き出すことの重要性をこの講義で身につけていただきたいと思います。

科 目 名	文化の哲学							
担当者名	小林　信之　他／足立　恵理子／田原　彰太郎／峯尾　幸之介							
複合	２単位	春クォーター	土３時限	土４時限	１年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

さまざまな文化的営為を哲学的に考察します。他者経験と倫理、美的経験と感情、詩や言語文化と記号、知覚や身体感覚と想像力、性愛と死の文化などをキーワードとし、思想上の問題として主題化します。

とくに体系的な知識を順序だてて伝授するような講義ではありません。考え、感じることの自由な可能性を構想することがこの講義のめざすところです。

授業の到達目標

なにか実利的な到達目標が設定されているわけではありません。文化の多様な表現にふれ、理論的・哲学的思考と感受性を鋭敏に働かせることで、いっそう深くものごとを見つめるための訓練として考えてください。

成績評価方法

●**試験**　60%　　授業内容の理解度、自己の見解の有無、記述の的確さ等を評価基準とします。

●**レポート**　0%

●**平常点**　40%　　授業の各単元終了後のレビューシート、出席状況等から判断します。

●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

煩瑣な哲学的議論もふくみますが、何より、ものを考えるわたしたちの力を研ぎ澄ませることに主眼があります。

なお、各授業回の担当者は以下のとおりです。（変更の可能性があります）。

第1回（3限）：小林　信之
第1回（4限）：小林　信之
第2回（3限）：足立　恵理子
第2回（4限）：小林　信之
第3回（3限）：田原　彰太郎
第3回（4限）：小林　信之
第4回（3限）：田原　彰太郎
第4回（4限）：田原　彰太郎
第5回（3限）：峯尾　幸之介
第5回（4限）：峯尾　幸之介
第6回（3限）：足立　恵理子
第6回（4限）：峯尾　幸之介
第7回（3限）：足立　恵理子
第7回（4限）：小林　信之

科 目 名	アジアのジェンダーとセクシュアリティ　文化人類学的視点からのアプローチ							
担当者名	國弘　暁子							
複合	２単位	秋学期	木曜日	２時限	１年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

ジェンダー研究の領域において、非西洋社会に生きる人々のジェンダーやセクシュアリティはどのように記述されてきたのか。この授業では、西洋の研究者たちによって特殊なジェンダーとして取り上げられてきたインドのヒジュラに関する事例を中心に、西洋の帝国主義的発想が与えた非西洋社会のジェンダー、セクシュアリティに係わる研究のあり方について学び、さらには、ジェンダー研究と他の研究領域との関連性について考えることを目的とする。本授業は、初回授業（オリエンテーション）はオンデマンド配信授業として実施し、2回目以降は、教室で実施します。

授業の到達目標

西洋社会の土壌で生まれたジェンダー、セクシュアリティの概念が非西洋社会に与えた具体的な事例の理解を通じて、私たちの生のあり方について今までとは異なる視点から考え直すことの重要性について学び、さらに、自らの研究テーマを構想するための視野を得ることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　50%　　課題は第7回目の授業で提示します。与えられた課題の意図を理解できているか、講義内容の視点と絡めて深く考察できているかを評価します。剽窃や過去のレポートの盗用などは処分の対象となるので注意すること。
●**平常点**　50%　　理解度の確認のため、わせポチ（クリッカー）への参加、そしてランダムコールによる個別の発言を求めます。授業中の発言、わせポチ回答の回数、そして、授業後のフォーラム（Waseda Moodle）への投稿回数を総合的に評価します。原則として、わせポチ回答の回数が全体の3分の2に達している者を、レポートの採点対象とします。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連ＵＲＬ

・履修者からの疑問や質問に応答しながら各回の講義テーマを適宜変更いたします。・授業中は海外で製作された映像資料（英語、その他の外国語）を多数使用します。
・わせポチ（クリッカー）を使用しますので、参加するためのツールを持参してください。

科 目 名	近代日本の思想空間							
担当者名	小林　信之　他／長谷川　琢哉／横地　徳広							
複合	２単位	秋クォーター	月５時限	無フルOD	１年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】ハイブリッド（対面授業中心）以上

授業概要

この講義は、近現代日本の思想家が、古代以来の西欧哲学の基本的な枠組みを受容し、それと対峙しつつ、どのように自己の思想を構築してきたのかをあらためて今日的視点から再検討することをめざすものです。とくに文化の哲学と美学上の諸テーマに焦点をあわせ、テキストをていねいに読みこむことをつうじて、主要な論点をうかびあがらせます。そしてそこから、近現代日本の思想家が共通して、あるいは独自に、どのような課題に直面し、解決をみちびきだしてきたのかを考察します。
内容的には、西欧哲学の基礎的知識をふまえて、京都学派の哲学や芸術思想、さらには戦後の思想潮流まで、広範な議論がふくまれています。

授業の到達目標

講義は、主として日本における文化形成の原理を、西欧哲学の光源から照らしだすことで深く省察することをめざしています。したがってなにか実利的な到達目標が設定されているわけではなく、ただ哲学的思考と感受性を鋭敏に働かせるための訓練の場と考えてほしいと思います。

成績評価方法

●**試験**　60%　　授業内容の理解度、自己の見解の有無、記述の的確さ等を評価基準とします。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　授業の各単元終了後のレビューシート、出席状況等から判断します。
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

なお、教場授業の各授業回の担当者は以下のとおりです（変更の可能性あり）。
長谷川　琢哉：第1回（10/6）～第3回（10/20）
横地　徳広：第4回（10/27）～第6回（11/10）
小林　信之：第7回（11/17）

科 目 名	音から見ることばと文化　楽しい音と音声の世界							
担当者名	竹内　京子							
複合	２単位	春学期	金曜日	４時限	１年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

音とことば、そして文化とのつながりを様々な観点から探る。例えば、ことばで使われる音声も耳の聴こえもひとりひとり違うのに、なぜお互いに解できるのか。よく聞こえない時、人はどうする？日常的に共通した音を聞いていると集団になるのか？音声だけでなく、音が我々の生活の中でどのように存在し、我々をつなぐよう機能しているのか、それらを受講者と一緒に考えるきっかけになるような内容を目指す。

授業の到達目標

音や音声に関する様々な分野の存在を知り、理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　20%　　第14回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行う。
●**レポート**　30%　　課題は初回の授業で説明する。第14回授業が提出期限である。

●**平常点**　50%　　授業中の小テストなど
●**その他**　0%

備考・関連URL

http://francais.la.coocan.jp/　フランス語の部屋

科 目 名	現象学への導入							
担当者名	長坂　真澄							
複合	2単位	春学期	水曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

現象学とは何か、それはなぜ、いかにして、誕生したのか。本講義では、現象学が樹立されるにいたる背景となった近代の哲学史的文脈から出発し、哲学史における現象学の革新性を解説する。とりわけ、現象学を理解する上で欠くことのできない、デカルト、ライプニッツ、ヒューム、カント、フレーゲの関連する議論を概観しつつ、フッサールがこれらの哲学から何を学び、何を問題とし、自らの方法論を彫琢していったのかを考察する。

授業の到達目標

いかなる哲学的問題に導かれて現象学が要請されるにいたったのかを理解することにより、現象学を哲学史の中に位置づけつつ、その意義を理解することができるようになることを目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%　　-
●**レポート**　50%　　レポート
●**平常点**　50%　　講義への参加度
●**その他**　0%　　-

備考・関連URL

https://researchmap.jp/masumi_nagasaka/Courses/

科 目 名	カント哲学と現代　現代における定言命法の展開							
担当者名	田原　彰太郎							
複合	2単位	春学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

本講義では、現代のカント主義的倫理学を取り上げます。具体的には、大きく分けて、二つの主題に取り組みます。

一つ目の主題は、クリスティーン・コースガードが『義務とアイデンティティの倫理学』において提示しているカント主義的倫理学です。コースガードは、現代の代表的なカント主義者の一人です。コースガードの主著のひとつが『義務とアイデンティティの倫理学』です。この著作でコースガードは、目的自体としての人間性と自律というカントの考えを、独自の仕方で再構築したうえで自説に組み込み、展開しています。本講義では、この『義務とアイデンティティの倫理学』をカント的着想の現代的展開として読み解きます。この考察の際には、現代哲学においてカント的遺産の一つとして見なされている超越論的論証にも触れることになります。

二つ目の主題は、普遍化可能性です。カント倫理学の基礎的原理は定言命法であり、その一つの方式は、大まかに言って、「普遍的法則として意欲可能な格率に従ってのみ行為せよ」という内容を持ちます。この命令内容が、現代において「普遍化可能性（universalizability, Universalisierung）と呼ばれ、カント的倫理学を代表するもののひとつとして考えられています。この普遍化可能性論を、オノラ・オニールの「行為における一貫性」（『理性の構成』所収）に即して考察します。本講義では、この普遍化可能性が現代倫理学のどのような文脈の中でどのように解釈されているのかを読み解いていくことになります。

カント倫理学についてある程度の知識を持っている人はここまでの記述ですでにお気づきかと思いますが、普遍化可能性（カント自身はこの言葉自体は使ってはいませんが）だけではなく、目的自体も自律も、定言命法に属するものとしてカントが提示した概念です。現在でも出版活動などを行っている現役の哲学者によるこれらの概念の再構築や解釈を扱う本講義は、全体として、定言命法の現代的展開について考察するものとなるはずです。

本講義では、たんに教員が解説をするだけではなく、受講生各自がテクストを読み、自分の意見をまとめる時間を設ける予定です。この授業はオンデマンド型であり、しかも受講生各自が自分自身でテクストを読解することを内容として含んでいますので、自発的な学習がとくに必要になります。

授業の到達目標

まず、この授業で扱う概念と論証を正確に理解することを目指してください。そのうえで、受講生各自がそれぞれの研究活動の中でこの授業で学んだ概念と論証とを活用できるようになってください。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しません。
●**レポート**　80%　　期末レポートを課し、その点数で評価を行います。
●**平常点**　20%　　3分の2以上の出席を単位取得の条件とし、期末レポートで評価を行います。
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	西洋中世思想の発掘　トマス・アクィナスの神学の哲学的意義							
担当者名	上枝　美典							
複合	2単位	秋学期	火曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

代表的な西洋中世思想であるトマス・アクィナスの神学を取り上げ、その中に見られる哲学的なアイデアや主張を取りだし、その意義について概説する

授業の到達目標

西洋中世思想の大まかな特徴を、トマス・アクィナスの神学を拠り所にして学び、その中に重要な哲学的思索が含まれている

ことと、現代に至る哲学的な影響について理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　70%　　最終回に試験を筆記実施して、講義内容についての理解を評価します。
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　30%　　毎回の講義内容について提出するコメントによって、各回の参加を評価します。
●**その他**　0%　　特になし

備考・関連URL

担当者のホームページ(ueeda's lab) https://ueeda.sakura.ne.jp/
講義要項やWebシラバスの記載内容は、登録された受講生の人数や理解度，進捗状況に応じて、授業開始後に変更となる可能性があります。

科 目 名	解釈学への導入　古代から現代哲学まで							
担当者名	齋藤　元紀							
複合	2単位	秋学期	木曜日	2時限	1年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業のねらいは、古代・中世・近世における解釈学思想を踏まえつつ、近代および20世紀以降の現代思想において一大潮流をなす「解釈学」の考え方とそれをめぐる諸問題を学びます。授業では、さまざまな哲学者・思想家の著作に触れながら、解釈学の多様な考え方について学んでいきます。なお、テーマに応じて映像資料等を視聴し、思考力を深める授業回も予定しています。

授業の到達目標

(1) 西洋哲学における解釈学思想についての基本的な知識が習得できている。
(2) (1) をふまえ、文化・社会・政治を含めた現代における思想的問題点を批判的に見出し、みずから哲学的に思考する力が身についている。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　60%　　授業内容の理解度、自己の見解の有無、記述の的確さ等を評価基準とします。
●**平常点**　40%　　毎授業回終了後のレビューシート、出席状況等から判断します。
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	プラグマティズムへの導入							
担当者名	加藤　隆文							
複合	2単位	夏季集中	無	その他	1年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

欧州の近代哲学のさまざまな側面を受け継ぎつつ19世紀後半に北米で確立したプラグマティズムの思想は、その後百数十年の歴史を経て、いま再び注目を集めている。過去にはネオプラグマティズムの旗手リチャード・ローティがドナルド・トランプの台頭を予言していたとのことで注目を浴びたが、さらに現代の新しいプラグマティズムの議論は、政治哲学のみならず、ローティとも距離をとった新しい展開も見せている。本授業では、プラグマティズムの歴史をその揺籃期から現代に至るまで概観したうえで、実際に極めて多様な分野で盛り上がりを見せるプラグマティズム思想応用の姿を紹介する。

なお、本授業は以下の日程で実施する。
2025年8月25日（月）3-5限
2025年8月26日（火）2-4限
2025年9月1日（月）3-5限
2025年9月2日（火）2-4限
2025年9月3日（水）2-3限

授業の到達目標

プラグマティズムの歴史を理解し、現在のプラグマティズム研究の学際的展開を把握するとともに、今後の社会においてプラグマティズム思想が持ちうる意義を見通せる視座を獲得する。さらに、こうした学びを通してダイナミックな学問の広がりを体験し、基礎教養を深めるとともに、自らの研究テーマを構想するための広やかな視野を得る。

成績評価方法

●**試験**　50%　　最終日に行う総合試験の結果で、知識と、それに基づいた主体的な思考力を評価する。
●**レポート**　40%　　授業内で課すミニレポートの内容を評価する。
●**平常点**　10%　　授業への参加（出席）態度をもとに評価する。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	偽書・贋作・仮託							
担当者名	山吉　頌平							
複合	2単位	春学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

偽書とはその名の通り、作者や成立の経緯を偽って生み出された書物を指す。偽書は世界各地で制作されたが、日本でも膨大な量が生み出され、中には、西行に仮託された『撰集抄』のように、近代に至るまで真作と信じられ、多くの読者を獲得した例もある。

偽書はその性質上、近代以降の日本文学研究では長らく研究対象から排除され、活字化されることもほとんどなかった。現在でも、古典の授業で偽書から取られた文章を読解することは、まずないといえる。しかしながら、偽書の中には、政治的な事件に関与することになった文書や、現代でも支持者を集める「超古代史」の記録などがあり、日本の政治史や文学史を語る上で欠

かせないものも存在する。
本講義では、日本の古代から近現代までに生み出された偽書や、書物以外の贋作を扱い、その概説を行うとともに、なぜ偽作が行われたのかという時代背景や、偽作と認定されるに至った研究史を紹介し、日本の歴史を異なる角度から再考することを目指す。

授業の到達目標

高校までの学習では基本的に知識を獲得することのない日本史上における「偽」なるものの役割について理解する。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 60%　学期末に3000字程度のレポートを課す予定
●**平常点** 40%　出席率を評価します
●**その他** 0%

科 目 名	正統性の創出							
担当者名	山吉　頌平							
複合	2単位	春学期	月曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

古今東西において、ある人物や集団が権力や権威を持つことを担保するために、正統性を主張する多様な根拠が創出されてきました。たとえば、近代以前の天皇を例にとると、その統治が正当化される理由として、血脈や「天壌無窮の神勅」という神聖な権威、さらに三種の神器の継承などが主張されました。日本においては、天皇のみならず、寺社や職能集団なども、現在持っている（あるいは持つべき）特権の正当性を説くために、さまざまな言説を生み出してきました。ときには荒唐無稽と思われるような神秘的出来事による権威の付与や、系図の偽造によって貴顕との結びつきを主張するなど、正統性を確立するために多様な試みがなされ、多くの書物や古文書等が製作されました。
この講義では、日本国内に対象を絞り、特定の個人や集団の正統性を主張する文献を紹介・読解していきます。過去における正統性創出の試みを概観することで、それらが現代においても、形を変えつつも続いていることが理解できるでしょう

授業の到達目標

主に日本で形成された様々な正統性をめぐる言説に関する知識を獲得する。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 60%　任意の文献を選択し、そこに描かれる「正統性」に関する考察を求めます。対象は、異本的には江戸時代以前の日本の文献とすることが望ましいですが、学生各自の関心に合わせます。
●**平常点** 40%　授業態度を評価します。
●**その他** 0%

科 目 名	読み替えられる古典							
担当者名	山吉　頌平							
複合	2単位	秋学期	金曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

古典を読み替えるという営みは、現代においても盛んに行われている。古典作品の映像化や漫画化、現代語訳は、新たな解釈を伴う創造的な行為であり、古典の再生とも言える。このように、先行する文学作品を再解釈する試みは、現代に限った事象ではない。能や歌舞伎などでは、先行する物語を巧みに読み替え、新たな劇的世界を生み出していたが、それとは異なる次元での読み替えも存在していた。たとえば、中世においては、『源氏物語』や『伊勢物語』に宗教的なモチーフや秘儀が隠されていると主張する荒唐無稽にも見える註釈書や、実在しない文章を引用していると称する宗教書などがあった。これらは、現在の文章執筆の規範から大きく逸脱したものではあるが、このような「曲解」「誤読」が様々な思想や教義の新展開を促してもいた。本講義では、現代の文学研究では誤読とされるような論理の飛躍や意図的な曲解を取り上げ、古典の「読み」という営みの多層性・多義性を明らかにする。

授業の到達目標

高校までに学習してきた、一種常識的な日本文学への知識を深化・拡張し、「古典」の多様な姿を認識する

成績評価方法

●**試験** 60%　内容は授業中に説明します。
●**レポート** 0%
●**平常点** 40%　出席率や授業への寄与を評価します。
●**その他** 0%

科 目 名	メディア論1　歴史から見るメディア							
担当者名	チェン　ドミニク　他／岡室　美奈子／長谷　正人／藤本　一勇							
表象	2単位	春学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

この講義は、メディア論プログラムへの入門編として、表象・メディア論系の教員4名が交替でそれぞれの専門分野からメディアをめぐる諸問題について概説する。
「メディア」という言葉から、たとえばマス・メディアが連想されるかもしれない。が、「メディア」とはメッセージや情報の伝達媒体であるとともに、知識や感情を共有する手段でもあり、その意味では、書物、新聞、雑誌、ラジオ、テレビ、映画、マンガ、インターネット、携帯電話、iPod等はもちろん、人間の身体もまたメディアであると言える。（実際、メディアの単数形メディウムには、死者の言葉を伝達する霊媒という意味もある。）したがって、メディア論の研究対象はきわめて広く多種多様である。

この講義では、身体、テクノロジー、オカルティズムなど多角的な視点から、私たちを取り巻くさまざまなメディアのありようについて考察する。対象とするのは、テレビ、映画、演劇、文学、音楽、アニメ、メディアアート、CG、ロボット、ヴァーチャル・リアリティ、写真、地図、広告、落書きなど、私たちを取り巻くさまざまなメディアとその周辺の事象である。講義の内容は、当然、表象・メディア論系の身体論プログラム、イメージ論プログラムと密接な関わりを持つことになるだろう。

メディア論1では、歴史に目を向け、現在のメディアがどのように成立し発展してきたかを考察する。

＊この授業はオンデマンドでおこないます。

授業の到達目標

メディアの多様性を理解する。

成績評価方法

●**試験** 0% 0

●**レポート** 70% 最終回にレポートを提出する。各教員がそれぞれの講義に基づいて出題し、受講者は計5題の中から1題を選択して論じる。

●**平常点** 30% 出席状況を見る。

●**その他** 0% 0

科 目 名	メディア論2 メディアの現代的展開							
担当者名	岡室 美奈子 他／チェン ドミニク／長谷 正人／藤本 一勇							
表象	2単位	秋学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

この講義は、メディア論プログラムへの入門編として、表象・メディア論系の教員4名が交替でそれぞれの専門分野からメディアをめぐる諸問題について概説する。

「メディア」という言葉から、たとえばマス・メディアが連想されるかもしれない。が、「メディア」とはメッセージや情報の伝達媒体であるとともに、知識や感情を共有する手段でもあり、その意味では、書物、新聞、雑誌、ラジオ、テレビ、映画、マンガ、インターネット、携帯電話、iPod等はもちろん、人間の身体もまたメディアであると言える。（実際、メディアの単数形メディウムには、死者の言葉を伝達する霊媒という意味もある。）したがって、メディア論の研究対象はきわめて広く多種多様である。

この講義では、身体、テクノロジー、オカルティズムなど多角的な視点から、私たちを取り巻くさまざまなメディアのありようについて考察する。対象とするのは、テレビ、映画、演劇、文学、音楽、アニメ、メディアアート、CG、ロボット、ヴァーチャル・リアリティ、人工知能、写真、地図、広告、落書きなど、私たちを取り巻くさまざまなメディアとその周辺の事象である。講義の内容は、当然、表象・メディア論系の身体論プログラム、イメージ論プログラムと密接な関わりを持つことになるだろう。

メディア論2では、メディアのリアルとは何か、メディアのポリティックスおよびメディアの現在と、それを取り巻く社会などについて考察する。

＊授業はフルオンデマンドで行います。

＊設定された一週間のあいだに各コンテンツを視聴し、そのつどコメントシートを提出してください。

＊各コンテンツは毎週木曜日の4限から一週間公開されます。

授業の到達目標

メディアの現代的展開を理解すること。

成績評価方法

●**試験** 70% 授業の理解度を問う

●**レポート** 0% 0

●**平常点** 30% 出席点

●**その他** 0% 0

科 目 名	メディアの思想と倫理 1 AI哲学とAI倫理、そしてネオ・ヒューマニズムへ（1）							
担当者名	藤本 一勇							
表象	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

人間は長い間、知性存在として、物や動物に対して優位を主張してきた。それは人間の精神的優位性の基盤でもあった。しかし、今日AIの発展によって、この人間の知性的優位が崩れようとしている。AIが人間の知性を超える、もはや引き返すことのできない人類史上の特異点（シンギュラリティ）が到来するとの予言がなされ、また生成AIが作り出す情報世界によって、真と偽、現実とフィクションの区別が曖昧になり、世界全体がフェイク化していくなかで、人間の存在意義や現実の意味が大きく問い直されている。

こうした人類史上画期的な転換点において、伝統的に「真理」や「現実」や「理念」を主張しつづけてきた哲学や倫理学も変容せざるをえないし、またそれだけでなく、真偽や虚実の区別が厳密に可能であり、真理や現実は（生命までも含めて）技術的に「工作」不可能という前提で作られてきた従来のさまざまな社会制度（政治・経済・法律・文化その他もろもろ）も、大きく作り替えていかなければならないだろう。

しかし、こうした巨大な環境変化が起きている（今後さらに起きていく）から今だからこそ、時代の環境変化（とくに技術変化）に対応し、さらにはそれを超えていく新たな思考（哲学）や倫理学が求められている。むしろ、今こそ哲学や倫理学の出番である。

この講義では、AIがもたらす社会変動に右往左往したり、むやみに恐怖するのではなく、AIの可能性と限界をしっかりと見極めたうえで、AI時代に、さらには先端科学技術時代に可能な、新たなAI哲学やAi倫理学、そしてそれらを基盤にした新しい人間学（ネオ・ヒューマニズム）の構築を目指す。もちろん、このネオ・ヒューマニズムは、人間主義の単なる復古でもなければ、技術宗教的なポストヒューマン論でもなく、それらを超えたテクノ＝ヒューマン・ルネサンスとなるはずである。

授業の到達目標

Aiテクノロジーの可能性と限界、その社会・文化的な意義を理解すること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　80%　　3000字～4000字程度のレポート（詳しくは教場で指示する）。
●**平常点**　20%　　毎回授業後にコメントシートをムードルに提出することで出席とみなす。ただし、この出席点は、レポートで合否すれすれの人の救済措置として用いる。成績はほぼレポートの出来次第。
●**その他**　0%

科 目 名	メディアの思想と倫理 2　AI哲学とAI倫理、そしてネオ・ヒューマニズムへ（2）							
担当者名	藤本　一勇							
表象	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

人間は長い間、知性存在として、物や動物に対して優位を主張してきた。それは人間の精神的優位性の基盤でもあった。しかし、今日AIの発展によって、この人間の知性的優位が崩れようとしている。AIが人間の知性を超える、もはや引き返すことのできない人類史上の特異点（シンギュラリティ）が到来するとの予言がなされ、また生成AIが作り出す情報世界によって、真と偽、現実とフィクションの区別が曖昧になり、世界全体がフェイク化していくなかで、人間の存在意義や現実の意味が大きく問い直されている。

こうした人類史上画期的な転換点において、伝統的に「真理」や「現実」や「理念」を主張しつづけてきた哲学や倫理学も変容せざるをえないし、またそれだけでなく、真偽や虚実の区別が厳密に可能であり、真理や現実は（生命までも含めて）技術的に「工作」不可能という前提で作られてきた従来のさまざまな社会制度（政治・経済・法律・文化その他もろもろ）も、大きく作り替えていかなければならないだろう。

しかし、こうした巨大な環境変化が起きている（今後さらに起きていく）から今だからこそ、時代の環境変化（とくに技術変化）に対応し、さらにはそれを超えていく新たな思考（哲学）や倫理学が求められている。むしろ、今こそ哲学や倫理学の出番である。

この講義では、AIがもたらす社会変動に右往左往したり、むやみに恐怖するのではなく、AIの可能性と限界をしっかりと見極めたうえで、AI時代に、さらには先端科学技術時代に可能な、新たなAI哲学やAi倫理学、そしてそれらを基盤にした新しい人間学（ネオ・ヒューマニズム）の構築を目指す。もちろん、このネオ・ヒューマニズムは、人間主義の単なる復古でもなければ、技術宗教的なポストヒューマン論でもなく、それらを超えたテクノ＝ヒューマン・ルネサンスとなるはずである。

＊本講義は「メディアの思想と倫理1」と関連しているが、扱う素材や内容は異なる。「1」を取った人にとっては「1」で学んだ内容をさらに深めることになるだろうし、「1」を受講していない人にとっても、「1」の内容を振り返りしつつ講義するので、「1」をとっていなくても心配ない。

授業の到達目標

Aiテクノロジーの可能性と限界、その社会・文化的な意義を理解すること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　80%　　3000字～4000字程度のレポート（詳しくは教場で指示する）。
●**平常点**　20%　　毎回授業後にコメントシートをムードルに提出することで出席とみなす。ただし、この出席点は、レポートで合否すれすれの人の救済措置として用いる。成績はほぼレポートの出来次第。
●**その他**　0%

科 目 名	映像メディアの社会学							
担当者名	長谷　正人							
表象	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

映像メディア文化はいま大きな変化を遂げようとしています。20世紀を支配したハリウッド映画産業の大量生産式映画の大衆的受容体験やテレビ放送による生中継の国民的視聴体験といったようなマスコミュニケーション形式は、インターネットやデジタル放送やDVDなどのデジタル複製技術の隆盛によって変容しつつあります。大衆文化はいまやパーソナルな文化としてその姿を変えようとしているかのようです。この現代の映像文化の歴史的変容の意味を、過去の歴史的出来事を振り返って考え直してみようというのがこの授業の目的です。

まず最初に映画というメディアについて考えます。最初に映画を見た観客がどのような反応を示したかを見ることで私たちの常識とは違った映画受容のありようへの想像力を働かせます。さらにその後の映画がいかにして大衆を熱狂させるメディアとして成長していったかを考えます。

次に写真というメディアがいかなる社会的機能を果たしてきたかを、私的な写真と大量複製写真とを比較することによって考えます。

最後にテレビについて考えます。テレビというメディア文化がいかに20世紀後半の社会を作り出してきたかを考えます。

授業の到達目標

映像文化が19世紀における写真と映画の発明以来、どのような歴史的経緯を経て現在のような文化になったかを理解すること。

成績評価方法

●**試験**　80%　　授業内容の理解度を問う
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　20%　　出席点
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	現代映画論　ハリウッドの現在							
担当者名	藤井　仁子							
表象	2単位	春学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

1990年代以降のハリウッド映画は、CG技術の普及、人種的・性的マイノリティからの権利主張を受けての政治的公正さ（PC）の導入などにより、内容面で深刻な変化を強いられました。それに加えて、DVDやケーブルテレビ、インターネット配信等の普及によって受容面においても、また複数の産業が業種・国家の境界を越えて結びつき巨大メディア・コングロマリットを形成したことによって産業面においても、根本的な変化が引き起こされました。本講義では、こうした新しい事態について具体的な作品分析の実践を通して考察します。講義形式によりますが、受講生は授業と並行して各自で教科書を読み進めなければなりません。また、受講生は課題作品を事前に各自で必ず見てから講義に臨むように（自分の眼で見ることなしに出席だけしても学習効果は期待できません）。学部ディプロマポリシーに謳われるとおり、「人と情報が地球規模で交流し、文化が複雑に絡まりあい、多面的な様相がみられる時代を生き抜くための幅広い教養をもった人材」の育成を目指します。

授業の到達目標

上記のような現代の映画を取り巻く新しい状況にかんする知識と方法論はもちろんのこと、併せて映画学の基本発想についても学んでもらいます。

成績評価方法

●**試験**　80%　　授業最終回に「理解度の確認」として論述式の試験を対面で行ないます。
●**レポート**　0%
●**平常点**　20%　　毎回、授業内容の振り返りを実施し、それに解答することをもって出席と見なします。3分の2以上の出席を義務づけます。
●**その他**　0%

備考・関連URL

100年を超える映画史の遠近法のなかに「現代映画」を位置づけることを目指すので、ただたんに最近の映画だけが好きという人には向きません。

科 目 名	アジア映画論　中国語映画の代表作を読み解く							
担当者名	韓　燕麗							
表象	2単位	秋クォーター	土3時限	土4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

秋クォーターに毎週2コマで「上映と講義」をおこなう。上映作品は第五世代以降の中国映画を中心に、台湾と香港の映画も取り上げる。上映の前後に教員による解説、グループ分けの討論も行う予定である。講義と議論の内容に踏まえ、自らの理解と感想を毎回リアクションペーパーを記入して提出していただく。なお、講義参加者のこれまでの中国語圏映画の鑑賞経験に合わせ、上映作品を変更する可能性もある。

授業の到達目標

社会的・歴史的諸力の絡み合いを考えながら、中国語映画に対する多面的な理解を試みる。
芸術的教養を身につけると同時に、中国近現代史の大枠を理解すること、多角的に考える力・多様な発想力を育つことを目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　60%　　期末レポート。
●**平常点**　40%　　毎回提出するリアクションペーパーの内容。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	映像アーカイブ							
担当者名	玉田　健太							
表象	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

映画とその関連資料を網羅的に収集し、散逸や劣化等から防ぐために、安全な環境で保護し、長期保管を行なう映画アーカイブの役割とその実際について、収集・保存・復元・公開などの具体例を示しながら、概説していく。

授業の到達目標

デジタル時代における映画アーカイブの使命と役割について理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　40%　　期末レポート（2000字）提出
●**平常点**　60%　　毎回受講を原則とする。※全回、対面講義の予定（欠席回の代替として、国立映画アーカイブで映画を鑑賞したうえレポート2000字を提出することにより、充当することができる）
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	写真論　日本を中心とした写真の歴史入門							
担当者名	戸田　昌子							
表象	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

19世紀初頭に発明された写真の新しい視覚経験は、芸術一般だけでなく、人間のものの見方や考え方に大きな影響を与えて

きた。そうした文化、社会との関係から写真表現の200年弱におよぶ歴史をたどる。日本の写真史が中心であるが、適宜、外国の写真表現の動向についても触れる。

授業の到達目標

写真史の概略を学ぶことで、写真を見るための基本的な知識を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　学期末に1度、レポートを課す。場合によっては授業期間中に1～2回、小レポートを課す。
●**平常点**　30%　　出席は全体の3分の2以上が必要。
●**その他**　0%

備考・関連URL

特になし

科 目 名	テレビ文化論							
担当者名	長谷　正人							
表象	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	―	合併科目	フル【対面】

授業概要

テレビとは何かを、具体的な番組のありようを通して考える。たとえば音楽を聴くのに、それを歌っている人間の姿を見ながらというのは、邪魔ではないか。しかしテレビを通してだからこそ表現される歌のありようが、沢田研二や山口百恵を通して実践されてきた。あるいはテレビは演芸場とは異なった「お笑い」を主要なジャンルとして確立させてきた。このようにいま私たちが自明のものとしてみなしているテレビ文化を自明でないものとして見なすことを目的としながら、テレビの多様な表現を見渡していく。取り上げるのは、スポーツ中継番組、歌番組、クイズ番組、旅番組などである。

授業の到達目標

現在のテレビ文化がどのような歴史的経緯を経て現在のような文化になったのかを理解すること。

成績評価方法

●**試験**　80%　　授業の理解度を問う
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　20%　　出席点
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	サブカルチャー論1　「サブカルチャー」という認識枠の歴史を消費社会から考える							
担当者名	石岡　良治							
表象	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	―	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

※本授業は全回オンデマンド授業として実施します。

インターネット環境が普及し、スマートフォンによる動画視聴が日常の一部となっている現代を、多様なサブカルチャーが交錯する「文化的多元性の時代」とみなすことができるだろう。だが従来の「正統的」文化研究と比べると、サブカルチャーについての批判的かつ学術的考察は、その社会的影響力に比して体系的な研究が不足している状況にある。

本講義は消費社会におけるサブカルチャーの役割について、理論的問題をふまえつつその歴史的形成を辿ることで、現代文化における「カルチャー」の理解を深める契機となることを目指す。

講義前半では、「サブカルチャー」についての認識枠を、第二次世界大戦後のユースカルチャーの勃興から20世紀後半の様々な歴史的事例を検討することで、現代のポップカルチャーへと通じている側面・すでに「過去」となった側面・今なお汲み尽くされていない側面（未来の要素）について考えていきたい。主として英語圏と日本語文化圏を扱う関係上、象徴となるアイコンを「ビートルズ」と「寺山修司」に置きつつ、美術や音楽・文学などの伝統的「ハイカルチャー」との関係を検討したい。これらの文化的アイコンを通じて、大衆文化と前衛芸術の交差という20世紀後半の特徴的な文化現象について考察する。

次に、「雑誌カルチャーの時代」における若者の文化実践と、そこで形成された「センス」をめぐる抗争の諸相を考察し、マーク・フィッシャーの「資本主義リアリズム」をめぐる批評の意義などを検討する。いずれも「現代の視点からの再解釈」を重視した系譜学的なものとなるだろう。

講義後半では、今世紀の視座から見直したときの20世紀文化の「負の側面」を検討したい。特に1990年代日本における「サブカル」という語の特殊な用法とその文化的意味作用について、当時の雑誌メディアにおける言説分析を通じて考察する。そこから浮かび上がってくるのは、サブカルチャーが持つ「文化の転覆性」についての認識が、しばしばある種の「侵犯美学」と結びついてきたことの加害性という側面である。この問いは文化的表象における権力関係の問題として検討される必要があるだろう。また、近年のサブカルチャー表象における「ポリティカル・コレクトネス」をめぐる議論（そもそもこの語が「ポリコレ」として揶揄的に用いられやすい点にも注意が必要である）についても考えてみたい。

授業の到達目標

サブカルチャーをめぐる理論と歴史を学ぶ
過去の文化の魅力と陥穽について批判的に検討する
現代文化における「カルチャー」の役割を分析する

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　学期末レポート
●**平常点**　30%　　コメントシートやアンケートの内容で判断
●**その他**　0%

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	サブカルチャー論2　若者のビジュアル・コミュニケーションの変遷							
担当者名	久保　友香							
表象	2単位	秋学期	水曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本授業では、若者たちの視覚的な自己表現「ビジュアル・アイデンティティ」に注目し、それを他者と共有する場である「メディア環境」との関係の変遷をたどる。若者たちはしばしば、メディア技術の提供者が意図しなかった独創的な使い方をし、その結果として生まれたビジュアル・アイデンティティの文化は、地域や属性、さらにコミュニティごとに多様な発展を遂げてきた。授業では、その歴史的な流れを技術と文化の相互作用という観点から分析し、さらに未来におけるビジュアル・コミュニケーションの可能性についても考察する。

授業の到達目標

現在の日常生活で行われているビジュアル・コミュニケーションの背景や歴史を理解し、それをもとに現代および未来の課題や可能性について議論できるようになること。

成績評価方法

●**試験**　60%　　授業内容の理解度
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　40%　　リアクションペーパーの提出
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	オカルト芸術論　闇の文化史							
担当者名	朴　夏辰							
表象	2単位	秋学期	金曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

いわゆる「オカルト」は人を惹きつけてやまないと同時に、うさん臭いものと考えられがちである。が、実は文化の深層に地下水脈のように流れる知の源泉として、今日に至るまで多くの芸術家に思想的影響を与えてきた。オカルティズムは合理主義への強烈なアンチテーゼと言えるが、また同時に、たとえばかつては化学と錬金術が不可分であったように、幻燈や映画が死者や亡霊を視覚化する技術であったように、あるいは降霊術や念写が科学的な調査の対象であったように、オカルトは科学やテクノロジーとも密接に関わっている。

この講義では、ルネサンスから近現代までを視野に入れつつ、オカルティズムという闇の文化史について学術的に考察する。「錬金術」「魔術」「心霊主義」などの概念を押さえつつ、心霊写真やファンタスマゴリア、さらにはテレグラフ、ラジオ、テレビといった（どこか遠くにいる何者かと交信する）通信のメディア・テクノロジーとオカルトの関係を分析する。オカルティズムは必ずしもホラーと結びつくものではないが、この講義ではメディア・テクノロジーの「不気味さ」に焦点を当て、ホラーに分類される作品に潜む不気味さやぞっとする感覚がなぜ生じるのかを、オカルティズムの延長として考えてみたい。そのため、オカルトやホラーと関連する小説、演劇作品、ゲーム、映画、テレビドラマ・番組など多様なジャンルの作品を考察し、「ひとはなぜ亡霊を見てしまうのか（見たと思ってしまうのか）」という問題にも迫っていく。

＊講義ではホラーの要素を含む作品を多く扱い、ホラー映画やドラマなどの映像作品を視聴するので、了承の上受講してほしい。

＊講義内容は社会情勢の変動や受講者の反応等によって変更することがあり、シラバスの授業計画通りに進まないこともありうるが、その点も了承いただきたい。

授業の到達目標

UFOや超常現象などさまざまなメディアで安易に消費されがちな「オカルト」ではなく、ヨーロッパのオカルティズムの主要概念である「錬金術」「降霊術」「心霊主義」等を文化史のなかで正しく理解する。メディア・テクノロジーに潜む不気味な側面を考察し、「幽霊を見たい」「死者と交流したい」人々の欲望とオカルティズムやホラーとの結びつきを欧米や日本の芸術作品に見出し、なぜ多くの芸術家がオカルティズムに魅せられたのかを明らかにする。

成績評価方法

●**試験**　80%　　講義で解説した、オカルティズムに関する基本的な知識や概念を理解し、それを自分自身の思考に発展させられるかどうかを問う。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　20%　　3分の2以上の出席が必要。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

・毎回出席カードにコメントを書いてもらう。
・ホラー作品を扱うので、授業中にホラー映画・ドラマを部分的に視聴することを了承の上、受講されたい。

科 目 名	メディア・アートとデジタル表現　表現メディアの過去、現在、そして未来							
担当者名	チェン　ドミニク							
表象	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

なぜ人はものを創り、事象を表現するのか。この原初の問いを考えるためには、人がどのように創る方法そのものを鍛えてきたかという歴史を知ることが重要である。

メディア・アートとは、メディア（媒体）と人間の関係を浮き彫りにするような、自己言及的な表現全般を指す。

この意味において、メディア・アートはデジタル表現に限定されない。だから、ペンと紙のような太古から存在するメディアを使ってもメディア・アート的表現は可能である。

その上で、デジタル技術を用いた表現は何が特殊なのか。このことを深く理解するためには、現代のデジタル技術の新奇性に注目するだけではなく、人間がメディアとどのような関係性を構築してきたのかという歴史を知り、常に変容し続ける人間の知

覚と認識、そして社会状況に注意を向ける必要がある。
　この講義では、多くの作品やプロジェクトや研究成果を通じて、身体と言語という原初の「技術」の考察から始めて、文学、音楽、現代美術、そしてメディア考古学の視点を経由しつつ、現代のインターネット以降のスマートフォンやVRディスプレイといった情報インタフェース、バイオテクノロジーに至るまでの歴史を振り返りながら、これからの時代の表現（アート）と技術（アルス）の可能性に光をあてていく。

授業の到達目標

　表現とは、メディアアートとは何か、どのような表現やメディアがあるのか、その存在理由はどこにあるのかについて理解を深めると同時に、デジタル技術がどのように使われ、われわれの社会や文化をどのように変えつつあるのか、科学技術の発展と文化はどのような関係にあるのか、自分で気づき、考える力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　60%　　期末試験を行う。講義内容を踏まえた上で自分の考えがきちんと展開されていることを重視する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　講義映像の視聴完了とコメントシートの提出を重視する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

　本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	デジタル・メディアと社会　技術と文化から探る現代情報社会							
担当者名	瀧　健太郎							
表象	2単位	春学期	月曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

　私たちの生活空間に溢れる情報とイメージ。これらを可能にする技術の一端を担うデジタルメディアを当該授業では探ります。主に弾道計算や暗号解読を目的に第二次世界大戦中開発されたコンピュータの演算技術は、1980年代に個人用に市販され、1990年代にネットワークが整備され、2000年代にはモバイル化、更に今後AIなど人間の認知・思考を覆す存在として急成長を遂げています。こうした技術革新は、私たちの生を豊かにする社会デザインである一方で、情報の隠ぺい・改ざん、デマや流言による情報格差や分断、検閲や監視など政治的・経済的な課題を引き起こしていると指摘できます。当該授業では映画、アート、文学、哲学など文化的側面から、こうした社会問題に対する批判的な言説機能に注目していきます。具体例を挙げながらデジタル・メディアを文化的な側面から社会の構成要素として読み解くと同時に、デジタル・メディア上に成立する平均化や平板化する社会への対抗的文化から捉え直してみたいと考えます。この授業では現在進行形の社会的事象や現象を取り上げ、明確な答えではなく、問題提起型の場の形成を試みます。

授業の到達目標

　技術と文化の両面からデジタル・メディアを捉え、批判的な視点から次の可能性を探求する視座を持つこと。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません。
●**レポート**　50%　　授業内でのコメントシート。
●**平常点**　50%　　出席と授業への参加度。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

　講師のWEBサイト
　www.takiscope.jp

科 目 名	身体論1　身体/リアル/バーチャル							
担当者名	坂内　太　他／菊地　浩平／中島　那奈子／和田　修							
表象	2単位	春学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

　この講義は、身体論プログラムへの入門編として、表象・メディア論系の教員4名が交替で各々の専門分野から身体をめぐる諸問題について概説します。授業はオンデマンド形式で行います。
　波瀾万丈な物語の最後が「全ては夢でした」と締めくくられることがあります。こうした結末の付け方は、夢と現実との境界が明瞭に認識される場が存在することを前提としています。しかし、物語の初めから「全ては夢の中の話」という仕掛けが明かされていながら、極めて「リアルな」感覚を与えるような物語もあるでしょう。あるいはまた、主人公が死者やバーチャルな世界の住人に出会ったり、自分の身体が異世界での変容を被ったりしていながら、それら一つ一つのディテールにおいて、この上なく「リアル」だと感じさせるような芸術作品に出会ったことはないでしょうか？　実生活の睡眠においても、「自分は夢を見ている」と半ば自覚しながら、リアルな感覚を伴う夢を見ることもあるように思われます。
　我々の身体にとって「リアル」とは何でしょうか？　我々の身体を巡る「リアル」にはどのような多様性があり、逆にまた、どれほど多様なコンテクストに、我々の身体のリアルさは位置づけられているのでしょうか？　こうした問いを一つの鍵としながら、本講座では、リアルとバーチャル、人間機械論、身体の精神分析、人間と異形の者との接触や変身、幽霊、サイバーパンク、アニメ作品における〈ゴースト〉など、人間身体を巡る〈虚と実〉や〈夢幻と現実〉の境の探求を試みます。

授業の到達目標

　上記の概要に沿って展開される講義を十全に理解した上で、身体論1の対象となりうる様々な作品・事象に関し、「身体/リアル/バーチャル」の視点から、独自の観察・批評が出来るようになることを、受講生の各々が目指して欲しい。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　50%　　講義コンテンツを十全に理解した上で、身体論1の対象となりうる様々な作品・事象に関し、自分独自の観察・批評を行っているかどうか。なお、レポートにおける不正行為に対しては、大学のルールに従って厳しい処分がなされるので注意すること。

●**平常点**　50%　　本授業では各回のオンデマンドコンテンツに受講生がアクセスすることで出席とカウントする。原則として出席回数が全体の3分の2に達している者のみを、学期末レポートの採点対象とする。
●**その他**　0%　　とくになし。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	**身体論2**　仮面/変身/人形							
担当者名	坂内　太　他／菊地　浩平／中島　那奈子／和田　修							
表象	2単位	秋学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

本授業は、フルオンデマンド授業として実施します。この講義は、身体論プログラムへの入門編として、表象・メディア論系の教員4名が交替で各々の専門分野から身体をめぐる諸問題について概説するものです。とりわけ、演劇や芸能といった立場から身体の意味を論ずること、テクノロジーの進展につれて変わりつつある私たちの身体の意義を問い直すことという、二つの方向性で身体論について学びます。演劇や芸能、パフォーミング・アーツは身体をメディアとする芸術です。戯曲そのものの文芸性と実際の舞台の芸術性とは、そこに身体が関わるか否かによって異なります。舞台の芸術性を支える要素にはどのようなものがあり、その中で身体はどのような重要性を担うのでしょうか。また、私たちはなぜ、演劇や芸能といった身体を使用したアートを必要とし、それを享受するのでしょうか。

また、現代では、テクノロジーが私たちの身体に入り込みつつあります。たとえば整形手術。これは、身体が自在に変更可能となることを意味しています。つまり、身体はソフトウェアとなるのです。身体は、もはや確実でリアルなものでなくなっていくのであり、ヴァーチャル化されるわけです。その他の様々なテクノロジーの進展についても、身体との関わりにおいて、私たちはどのように対処していくべきなのでしょうか。また、それらの問題が、様々な芸術作品や社会的な事象の中で、どのように表象されてきたのでしょうか。

こうした様々な点をふまえた上で、秋期の身体論は、とくに「人間の身体」と「仮面/変身/人形」というテーマの探求を試みます。

授業の到達目標

上記の概要に沿って展開される講義を十全に理解した上で、身体論2の対象となりうる様々な作品・事象に関し、「身体/仮面/変身」の視点から、独自の観察・批評が出来るようになることを、受講生の各々が目指して欲しい。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　50%　　講義を十全に理解した上で、身体論2の対象となりうる様々な作品・事象に関し、自分独自の観察・批評を行っているかどうか。なお、レポートにおける不正行為に対しては、大学のルールに従って厳しい処分がなされるので注意すること。
●**平常点**　50%　　本授業では各回のオンデマンドコンテンツに受講生がアクセスすることで出席とカウントする。原則として出席回数が全体の3分の2に達している者のみを、学期末レポートの採点対象とする。
●**その他**　0%　　とくになし。

科 目 名	**身体メディア論**　日本伝統芸能の身体							
担当者名	和田　修							
表象	2単位	秋学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

近代以前、芸術的表現のメディアとして、文字・絵画・彫刻などとともに、身体が重要だったことはいうまでもない。
日本の伝統芸能は、中世・近世の身体メディアの特徴を現代まで伝えている。
伝統芸能のさまざまな身体的特徴のなかから、いくつかのキーワードをとりあげて、その特色を考察する。
レポートでは、講義期間中に実際に日本伝統芸能を見て、その写真（実演写真以外も可）を添えて、身体表現について考察していただく。

授業の到達目標

日本の伝統芸能についての理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　90%　　日本伝統芸能の身体についてのレポートにより評価する。
●**平常点**　10%　　各回の閲覧状況やコメントなどを評価する。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

授業はフルオンデマンドで実施する。コンテンツは木曜日に更新するので、原則として1週間以内にコメントを送信されたい。

科 目 名	**ダンス論**　ダンス論入門							
担当者名	中島　那奈子							
表象	2単位	秋学期	月曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業では、ダンスする身体の周辺アイテムや形式から、ダンスを考えます。履物や衣装といったアイテムやソロといった形式は、ダンスする身体にどう影響するのでしょうか。舞踊のさまざまな時代や様式、テクニックやエピソードを文化横断的に紹介することでダンス的身体の諸相に多面的にアプローチします。

授業の到達目標

様々なジャンルにわたるダンスを、アイテムと形式から概観し、ダンスについての理解を深めます。

成績評価方法

●**試験**　50%　　授業の内容を理解できているかどうかを確認します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　授業に出席し、積極的に議論に参加しているかどうかで判断します。適宜、コメントシートを記入して提出してもらいます。出席点の足りない人はテストは受けられません。
●**その他**　0%

備考・関連URL

授業は、基本的に対面授業で実施しますが、Zoomによるリアルタイム配信も行う予定です。履修者は、Wasedaメールアドレスによる Zoomアカウントを取得し、またZoomアカウントは、正確な氏名を記入してください。

科 目 名	芸能論　伝統芸能の「中央」と「地方」							
担当者名	和田　修							
表象	2単位	春学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

日本の伝統芸能というと、能狂言・歌舞伎・人形浄瑠璃などがすぐに思い浮かびますが、これはかつて行われていた多数の芸能が、中央（都市）で生き残った結果に過ぎません。

近世までの都市で次々と新しい芸能が生まれて地方に伝えられ、それぞれの土地の文化のなかで独自の展開を遂げて今日に伝えられているものが少なくありません。

現在、民俗芸能と総称される各地の芸能を通覧すると、かつて都市で行われていた芸能の姿を知ることもできます。

この授業では、中世から近世の日本の芸能文化を、中央と地方という視点からとらえてみたいと思います。 レポートでは、授業期間内に地方で行われている伝統芸能を実際に見に行き、その写真を添付した上で、中央と地方の伝統芸能について考えていただきます。

授業の到達目標

「中央」と「地方」という観点から、日本の民俗芸能・古典芸能の特色を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　90%　　日本の伝統芸能の歴史的・地域的展開について理解しているかどうかを評価する。
●**平常点**　10%　　各回の閲覧状況やコメントの内容を評価する。
●**その他**　0%　　とくになし。

備考・関連URL

授業はフルオンデマンドで実施します。コンテンツは木曜日に更新するので、原則として1週間以内にコメントを送信して下さい。

科 目 名	パフォーマンス・スタディーズ　アイルランド現代演劇：書かれたテクストから、演じられる舞台へ							
担当者名	坂内　太							
表象	2単位	秋学期	木曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

パフォーマンス・スタディーズは、様々な芸術ジャンルと関わりながら成り立っていて、ジャンルとして厳密な定義を下すのが難しいほど複雑に展開しているが、各々のアーティストが持つ身体が重要な点では共通している。パフォーマンスとは基本的にはアーティストと観客が「いま、ここで」を共有する時間芸術・空間芸術だが、そのパフォーマンスは撮影・記録され、様々なメディアに流され、むしろ時間と空間を共有しなかった「より多くの第三者」の視線に晒される芸術でもある。同時にまた、リアルタイム配信や記録映像の配信などによって、アーティストと観客・聴衆が「いま、ここで」を共有しない在り方も発展してきている。 本講義では、言葉と身体の芸術が豊かに発展してきたアイルランドの現代演劇を集中的に取り上げ、書かれたテクストとしての戯曲、及び、それが俳優・演出家・舞台美術家・衣装／照明デザイナーなどによって舞台上に（あるいはその他の演技空間に）作り上げられたパフォーマンスについて分析・検討する。

授業の到達目標

上記の概要に沿って展開される講義を十全に理解した上で、パフォーマンス・スタディーズの対象となりうる様々な作品・事象に関し、独自の観察・批評が出来るようになることを、受講生の各々が目指して欲しい。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　0%　　実施しない。
●**平常点**　100%　　出席、及び授業の進行に合わせて取り組んでもらう課題から総合的に判断する。なお、出席回数が3分の2に満たない受講生は評価の対象とせず、単位を付与しない。
●**その他**　0%　　とくになし。

備考・関連URL

対面授業を基本とするが、扱う内容や授業の進行に応じてオンデマンド授業を併用したり、扱う作品の順番を入れ替えたりすることがある。また、扱う作品の中には、過去のトラウマや暴力的な表現を含むものがあるので、受講に際して留意すること。

科 目 名	ドラマトゥルク論　舞踊学実践理論							
担当者名	中島　那奈子							
表象	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

日本でも舞台芸術の分野で活躍するようになったドラマトゥルクと呼ばれる仕事を歴史的地域的に概観し、その後、それぞれのドラマトゥルクの仕事をその著作とともに紹介していきます。また、学期中には現役のドラマトゥルクを招聘して話を聞く回

を設ける予定です。

授業の到達目標

ドラマトゥルクの歴史的な成り立ちと共に、舞台芸術で果たしてきた役割を理解すること。出来るだけ沢山の舞踊作品を見て、現在様々な地域や社会でおきていることと舞踊を重ねて考える習慣をつけるようにしてください。また、講義の前後にノートや配付資料、参考文献、参考サイト等を参照し、講義内容の十分な把握に努めてください。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　期末にレポートを提出してもらいます。出席点が足りない人はレポートは提出できません。
●**平常点**　50%　　授業内の講義や議論に積極的に参加しているかで判断します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

ドイツドラマトゥルク協会（Die Dramaturgische Gesellschaft（dg））https://dramaturgische-gesellschaft.de/
アメリカドラマトゥルク協会（Literary Managers and Dramaturgs of the Americas）https://lmda.org/
アジアドラマトゥルクネットワーク：https://www.asiandramaturgs.com/publications/adn-book
授業は、基本的に対面授業で実施しますが、Zoomによるリアルタイム配信も入る予定です。履修者は、WasedaメールアドレスによるZoomアカウントを取得し、またZoomアカウントは、正確な氏名を記入してください。

講義

科目名	イメージ論1　イメージを考える							
担当者名	石岡　良治　他／川崎　佳哉／関　直子／溝口　彰子							
表象	2単位	春学期	月曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

「現代はイメージの時代である」と言われだしてから久しいのですが、イメージとは何かということを考え始めると、意外にわかっていないことに気がつきます。確かに、自分や恋人のイメージ（心像）、画像や映像のイメージ、比喩表現としてのイメージ、大学や企業のイメージ（印象）、夢の形象性、シミュラークル・ハイパーリアリティとしてのイメージといった具合に、イメージはわれわれの生活の隅々にまで拡く深く浸透しています。それにもかかわらず、またそれゆえに、イメージはかぎりなく捉えがたいのです。イメージが捉えにくいのは、それが物質、知覚、観念、表象のいずれでもなく、そしてこれらのいずれでもあるからです。このヌエ的なものがイメージなのです。そして、われわれにとって重要なのは、イメージが想像力に導かれてやってくることです。想像力と緊密に結びついているために、イメージはわれわれがリアルと考えるものからつねにズレたりブレたりします。このズレ、ブレの中に、リアルなものを考えるための重要な手掛かりも隠されています。イメージを共通テーマとしながら、4人の講師がそれぞれに具体的なイメージ表現について語ってゆきます。

「映画のイメージを形作るもの」（川﨑佳哉）：19世紀末に白黒、サイレントで誕生して以来、映画はさまざまな技術革新を取り入れつつ大きく変化してきました。そうした変化の意味を「カメラ」「スクリーン」「俳優」という三つのキーワードを用いて考察します。これらのキーワードをもとにして、私たちが映画のイメージを受容する経験がいかに変化してきたかを捉え直します。

「展示表象について考える」（関直子）：様々な時代の創造活動が文脈化される美術館では、作品の意味は、展示空間で実際に鑑賞する行為を通してかたちづくられてきましたが、ウェッブ空間でのデジタル画像や言説の拡張は、そのあり方に大きな変化をもたらしています。また、近年では社会的な課題をめぐるコミュニケーションを重視するプロジェクト型の展示も増えています。そのような変化の意味を、2020年代の視点から、具体例を通して考えます。

「イメージの背景：支持体の問題」（石岡良治）：洞窟壁画が壁面を必要としているように、イメージの歴史は同時に「イメージが何に描かれてきたのか」についての歴史でもある。絵の支持体の形状、額縁、装飾文様などについて考えることで、イメージの背景に目を向けることをめざす。

「LGBTQA+が商業劇映画で表象されるということ」（溝口　彰子）：性的マイノリティであるLGBTQA+（レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、クィア、アセクシャル/アロマンティック）が、その葛藤も喜びも含めて立体的な存在として劇映画で表象されることは当事者をエンパワーしうる。そのことを具体的作品例をあげて考察する。14回目では映画製作者をゲストに招き、溝口との対談形式の授業を実施する予定。

授業の到達目標

イメージ研究のための基礎知識の獲得および応用的思考の養成

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　100%　　4人の教員それぞれの課題についてミニレポートを提出してもらいます。
●**平常点**　0%
●**その他**　0%　　授業へのリアクションコメント（任意）によって、ボーナス加点を獲得する可能性があります。

科目名	イメージ論2　イメージを考える							
担当者名	石岡　良治　他／川崎　佳哉／関　直子／溝口　彰子							
表象	2単位	秋学期	月曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

「現代はイメージの時代である」と言われだしてから久しいのですが、イメージとは何かということを考え始めると、意外にわかっていないことに気がつきます。確かに、自分や恋人のイメージ（心像）、画像や映像のイメージ、比喩表現としてのイメージ、大学や企業のイメージ（印象）、夢の形象性、シミュラークル・ハイパーリアリティとしてのイメージといった具合に、イメージはわれわれの生活の隅々にまで拡く深く浸透しています。それにもかかわらず、またそれゆえに、イメージはかぎりなく捉えがたいのです。イメージが捉えにくいのは、それが物質、知覚、観念、表象のいずれでもなく、そしてこれらのいずれでもあるからです。このヌエ的なものがイメージなのです。そして、われわれにとって重要なのは、イメージが想像力に導かれてやってくることです。想像力と緊密に結びついているために、イメージはわれわれがリアルと考えるものからつねにズレたりブレたりします。このズレ、ブレの中に、リアルなものを考えるための重要な手掛かりも隠されています。イメージを共通テーマとしな

がら、4人の講師がそれぞれに具体的なイメージ表現について語ってゆきます。
「映画のリアリズム」（川﨑佳哉）：映画におけるリアリズムは、ある意味で大変厄介な概念です。カメラの前の現実の光景を捉えたからといって、観客がそのイメージにリアルを感じてくれるわけではなく、その反対に徹底的に作り込まれたデジタル映画やアニメーションにリアリズムが見出されることもしばしばあります。具体的な作品を鑑賞しつつ、このような厄介さを持つ映画におけるリアリズムの問題を問い直します。
「都市とイメージ」（関直子）：近年、新しい創造活動は、専用の文化施設ではなく、都市空間の中で展開する機会が増えています。それぞれの場の記憶や固有の空間と切り結ぶことで成立するこれらの作品の構想から制作、受容までのプロセスと課題を、都市とイメージの関係を軸に、様々な都市で展開するアーティストの具体的な試みを通して考察します。
「イメージの背景：背景知識と陰謀論」（石岡良治）：現代社会におけるイメージの氾濫状況を把握するためには、イメージの由来についての批判的考察を必要とするだろう。写真イメージに対する「信頼」を用いた未確認動物などの諸問題に触れつつ、映画・ビデオ・デジタルイメージのそれぞれにおいて異なる様相を呈する「陰謀論」について映像作品の分析を行う。
「何が(what)描かれているかではなくどのように(how)を見る」（溝口彰子）：例えば『我が青春に悔いなし』（黒澤明、1946）のラストで主人公を農村へ乗せていくトラックの運行が画面の下から上の運動として見せられるために観客は「前向き」「肯定的」な印象を受けるなど、「何が」ではなく「どのように」で映像はメッセージを伝えている。そのような例を、製作年や国籍を問わず、様々な映画から紹介する。

授業の到達目標
イメージ研究のための基礎知識の獲得および応用的思考の養成

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　100%　　4人の教員それぞれの課題についてミニレポートを提出してもらいます。
●**平常点**　0%　　。
●**その他**　0%　　授業へのリアクションコメント（任意）によってボーナス加点を得る可能性があります。

科 目 名	イメージのリテラシー2							
担当者名	竹田　恵子							
表象	2単位	秋学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要
インターネット環境が普及し、スマートフォンによる動画の視聴が日常の一部となっている現代は、イメージの氾濫する時代と言ってよいであろう。しかし、文字の読み書き教育（リテラシー）と比べてイメージの批判的考察である「イメージのリテラシー」は相対的に立ち遅れる傾向にある。そこで、本講義では現代社会における視覚イメージについて的確に分析を行えること、すなわち「イメージのリテラシー」を高めることを目指す。
現代社会におけるマジョリティ/マイノリティについて主にジェンダー／セクシュアリティの視点から基礎的知識を学んだうえで、アート、ポピュラーカルチャーや広告、メディアにおける視覚イメージの考察を具体的事例を用いながら行う。

授業の到達目標
歴史的な論点、理論をふまえながら、現代社会における視覚イメージのリテラシーを獲得することを目指す。イメージと同時代の社会的文脈をどのように調査・分析するかも含めて学習を行う。

成績評価方法
●**試験**　50%　（Moodleを通じて行う）
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%
●**その他**　0%

備考・関連URL
オンライン授業実施に伴い、授業形態は毎週特定の曜日更新のオンデマンド形式とする。配布資料がある場合は、授業動画と同時に配布する。
何曜日が更新日か等の情報は、Moodleに公開する。そのほか、緊急連絡事項もMoodleを通じて知らせる。

科 目 名	ジェンダーとイメージ　クィア映画論							
担当者名	溝口　彰子							
表象	2単位	秋学期	火曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
表象が「現実」をそのまま描くものでないことは当然だが、表象が誰かの「現実」に影響力を持ちうることも事実である。本授業では、この表象の政治性について映画における同性愛、トランスジェンダー、そしてBL表象を通して考察していく。「クィア(queer)」とはもともとは、英語圏において男性同性愛者に対する苛烈な蔑称だったが、1990年代に入って、オープンリー・レズビアンの映画研究者が、いわば「ポジティヴ変換」した用法を提案した。それまでのように、「ゲイとレズビアン」などと安易に並列にするのではなく、さらに性別だけでなく人種などにも配慮する交差性（インターセクショナリティ）を持ちながらさまざまなマイノリティの人権を求める戦略への変換だったといえる。また、「レズビアン当事者ならレズビアンを正確に描けるはず（あるいは、異性愛者にはゲイを正しく描けないはず）」といった「本質主義」ではなく、異性愛規範や家父長主義がどのように機能しているか、に着目する転換でもあるだろう。
本授業では、この意味での「クィア」を軸として、「LGBTQA+」を主人公にした映画やBL実写映画を考察していく。
また、「何が描かれているか(what)」だけではなく、「どのように描かれているか(how)」を編集、カメラワーク、音声などを具体的に分析する訓練も行っていく。
今年度は新たな試みとして、5回から8回（11月）の授業を、ワシントン州シアトルのワシントン大学(UW)David Goldstein教授の出張クラスと合同で行います。この4回の主な使用言語は英語になり、ディスカッションも予定しています。アメリカ人学生とコミュニケーションをとる意欲のある人を歓迎します。
（授業計画は変更になる場合があります）

授業の到達目標

クィア理論、表象理論、フェミニズム映画理論の知見をベースに、映画におけるクィア表象を多面的に考察し、社会的現実とファンタジーが斬りむすぶ場としての表象の政治性を批判的に分析する力を養う。

成績評価方法

平常点(50%)（出席の上、ディスカッション参加およびリアクションコメント）
試験(50%)

備考・関連URL

初回授業には必ず出席してください。15分以上遅刻した人は、正当な理由がない限り入室できません。

科 目 名	戦争とイメージ　戦争を「視る」ということ。							
担当者名	奥間　政作							
表象	2単位	春学期	水曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

戦争は、自分の身近にあるものではなく、どこか遠い場所で起きていることと感じる方は多いでしょう。日本人のなかで身近な戦争の記憶を有する人は少なくなりました。一方で私たちは歴史上の戦争について、書物を通じて知ることができます。また、戦場に置かれた兵士たちのヒロイックな姿なども映画を通じて認知していますし、ニュースではウクライナなどの戦争や空爆の映像に接しています。そうした状況からすれば、案外に私たちは身近に戦争のイメージと接しているのかもしれません。意外かもしれませんが、かつての日本人の大多数にとっても、戦争はイメージとともにありました。それらはは戦争遂行の重要な要素とみなされるばかりか、個人と社会とをむすぶ力も発揮してきました。例えば、戦争において人々は勝利と栄華の夢を見ますが、それは同時にだれかを殺すこと、殺されること、しかも大量に、という暴力と死のイメージに結びついています。戦争のイメージは、この夢をいかに見せ、そして避けられない死（だれかの／自分の）にどのように直面させるか、または隠蔽するのかに深くかかわってきます。つまり、イメージ自体が、大きな力を発揮するのです。

本講義では戦争と共に生みだされたイメージのありようや、それらを「視ること」がどのようになされたのか、等を考察することによって、戦争とイメージの地平をとらえようと試みます。

授業の到達目標

本講義は、美術史や視覚文化論、表象文化論、メディア論、文化社会学といった領域を戦争という具体的な観点から横断的にむすび、イメージの有する政治的・社会的な性格へ注目しながらその力学をとらえる、イメージ学の応用的ケース・スタディをおこないます。したがって、戦争というテーマにもとづく複合的な視点の獲得を第一の目標とします。最終的には、自分自身の、また私たちの社会の、見えるもの・見えないものについての批評的観点のを獲得することを目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行いません。
●**レポート**　60%　　学期末レポートを課します。
●**平常点**　30%　　授業参加の状況を評価します。
●**その他**　10%　　その他、コメントシートなどの内容から総合的に判断します。

備考・関連URL

本講義は応用的な授業であるとはいえ、史実と虚構をともに重視しながら、それらを結ぶ具体的なイメージをとりあげて考えるこころみです。したがって、イメージについて学ぶ初心者にとっても理解しやすいかと思います。歴史と社会とイメージについて、戦争という場にたちあがる夢と現実に興味のある方の受講をはばひろく歓迎します。

科 目 名	イメージと祝祭　「観ること」をめぐって、イメージと祝祭・イメージと厄災について考える							
担当者名	菅　香子							
表象	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

この授業は全回オンデマンド授業として実施します。

イメージ（図像）は常に「観られる」ために作られ、存在する。イメージを観ることは、私たちに何をもたらしてきたのか。絵画はどのようにして生まれ、私たちに何を見せてきたのか。絵画のイメージの変遷を辿りながら、絵画について「描くこと」と「観ること」の両方の観点から考察し、イメージと祝祭との関係性について、また時にはイメージと厄災との関係について検討する。 また、ジェンダーと表象という観点から、「観ること」とは何かについて検討する。

授業の到達目標

絵画のイメージを意識的に捉え、イメージとは何なのかを自分で考えることができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　20%　　簡単な確認テストを行います。
・1-5回の授業の内容について；5月中旬締切
・6-10回の授業の内容について；6月中旬締切
・11-14回の授業の内容について；7月中旬締切
●**レポート**　70%　　3回レポートを提出していただきます。各回1000字から4000字を目安とします。
・1-5回の授業の内容について；5月中旬締切
・6-10回の授業の内容について；6月中旬締切
・11-14回の授業の内容について；7月中旬締切
詳細については最初の授業の際にお伝えします。
●**平常点**　10%　　平常点（動画視聴2/3以上必須）
●**その他**　0%　　-

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。動画の配信スケジュールおよびレポートの詳細については4月の最初の配信の際にお伝えします。

動画の視聴が難しい方にはテキストを配布します。
レポートの作成の際に生成AIを利用することは禁止します。

科 目 名	デザイン論　Design of WHAT ?							
担当者名	加島　卓							
表象	２単位	春学期	木曜日	５時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

デザインとは、自分で作れないものを誰かに作ってもらうことである。こうしたギャンブルみたいなことを、私たちは当たり前のようにやっている（グラフィックデザイン、プロダクトデザイン、インテリアデザイン…）。本講義ではデザインのこのような特徴に注目し、私たちはデザインという名において一体何を達成しているのかを具体的に検討しながら、デザインの基礎知識や考え方を論じていく。

この科目は、学生がディプロマポリシーで示す「人間と社会の本質に迫ることによって、新しい時代にふさわしい文化を構想する」力を修得することを目的としている。

本授業は教室授業を基本とし、一部オンデマンド授業で6回まで実施します（木曜日5限に公開予定。閲覧期間を限定するのでご注意ください）。

授業の到達目標

この授業では、社会学の立場からデザインを論じる（デザインの作り方ではなく、デザインへの考え方を論じる）。授業の前半では、デザインの基礎知識および社会学やメディア論的な考え方を身につけることが目標である。授業の中盤では、事例を通じてデザイナーという職業への理解を深めることが目標である。授業の後半では、現代のさまざまな課題とデザインと関連づけて考えられるようになることが目標である。これらを通じて、デザインという言葉を使い続ける社会について理解を深めることが最終的には目指される。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　70%　　講義の内容を踏まえ、自らの考えを展開できるかどうかを評価します。
●**平常点**　30%　　出席点やコメントなどで評価します。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連ＵＲＬ

音声付きパワーポイントを再生できる環境を必ず用意して受講してください。

科 目 名	広告イメージ論　日本近代の広告史							
担当者名	西山　純子							
表象	２単位	秋学期	水曜日	６時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

広告とイメージは、常に不可分な関係を結びながら歴史を刻んできた。広告の送り手は商品を新鮮なイメージとともにアピールし、受け手は商品とイメージの一致や乖離を推し量りながら商品を選ぶ―。そこでは、商品をめぐる送り手と受け手の欲望や駆け引きから、数多の歴史に残るイメージが生まれて来たと言える。広告が何を宣伝し、どのような媒体であり、誰を対象とし、いかなる「絵」で作られているかに思いを巡らせるならば、たとえば一枚のポスターの背景に、大衆文化史や印刷史、メディア史、版画史、デザイン史などが渾然として存在することが理解できるだろう。さらに、広告が常に尖端を追うこと、美術が近代になって切り捨てた俗趣や率直な好奇心を残存させていることも特筆すべきである。広告イメージとは、実に雑然としながら総合的な、豊かなイメージの群れなのである。

本講義では、主として日本の近代（明治期～戦中期）における、紙媒体の広告イメージを扱う。日用品から、出版物や大衆娯楽、企業や旅、戦争に至るまでを、あの手この手で先端的な「絵」により宣伝するさまは、現代の広告状況に直接つながるものであり　我々にも決して無関係ではない。ぜひ広告イメージの多様なあり方とそれぞれの展開を、自身にひきつけて見つめ、考えてほしい。

授業の到達目標

日本近代の広告イメージの流れを、背景となる印刷史や美術史を参照しながら、また現状との比較を常に意識しながら理解することを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　50%　　課題は第8回の授業で発表する。与えられた課題を、講義内容を理解した上で考察できているか、また自身の関心に引きつけ、自身の言葉で述べているかどうかを評価する。
●**平常点**　50%　　出席状況や授業への積極性を評価する。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連ＵＲＬ

成績評価について：平常点も評価の対象ではあるが、単位を取得するにはレポート提出は必須と考えてほしい。

科 目 名	アニメーション文化論　アニメーションの中の「アニメ」							
担当者名	石岡　良治							
表象	２単位	秋学期	無	フルOD	２年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

※本授業は全回オンデマンド授業として実施します。

多種多様なアニメーション表現を、実写映像との緊張関係をふまえつつ概観したあと、マンガやゲームなど他分野と密接な関係をもつ日本の「アニメAnime」の特性について考える。しばしば静止画像が多用されるなど、「平面の美学」を発達させてきたといわれてきた「アニメ」表現は、CG表現の普及によって大きく様相を変えている。そこでは従来の「実写vsアニメーション」

という対比も再定義を余儀なくされるだろう。本講義はこうした展望に基づき、主として物語表現の媒体としてマンガやゲーム文化と結びつき展開してきた「アニメ」を、視聴覚イメージとして検討する。産業論やアニメビジネスについては扱わない。歴史的系譜を重視しつつ、現代のアニメーション文化への再定位を随時行う予定である。

授業の到達目標

1現在のメディア状況を踏まえつつ、アニメーション史のなかのアニメについて考察し、現在起きている表現上の変容を捉える

2「無生物に魂を吹き込むこと」を原義とする"Animation"の歴史における「アニメAnime」に顕著な性質を、日本特殊論に陥ることなく批評的に捉え返す

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　60%　　学期末レポート

●**平常点**　40%　　コメントシートやアンケートの内容。および小レポート。小レポート提出を学期末レポートの条件として課す。

●**その他**　0%

備考・関連URL

本講義はフルオンデマンド配信となります。

科 目 名	実物のアウラ　「もの」の力を見つめ、味わい、考える							
担当者名	岡戸　敏幸							
表象	2単位	秋学期	金曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

現代に生きる私たちは、インターネット環境に囲まれて生活している。コロナ感染症拡大後の社会にあって、SNSが占める比重はますます増大し、私たちは、居ながらにして、多くの「もの」―絵であれ、彫刻であれ、建築であれ、音楽であれ、映画であれ、書物であれ、風景であれ、そして人であっても―に容易に触れる経験ができる。具体的な「もの」を展示し、来館者が直接、「もの」に触れることを本質とする美術館や博物館であってさえ、SNS上に仮想の展示空間を用意する例が数多くある。しかし、そこで私たちが得るものは「情報」であって、「もの」そのものではない。「情報」には、「もの」自体からこぼれ落ちてしまうものが多数ある事実に自覚的であることが私たちに求められている。近年、実際の「もの」と「情報」の境目がますます曖昧になり、両者が混同されることが目立つようになった。オンラインコミュニケーションが急速に普及し、日常化した昨今は、よりいっそう、その傾向を強めている。これは、「もの」に即し、そこから学びを始めていくすべての学問にとって危機的な状況である。本講義では、「実物」が、時と場を超えて、いま私たちの眼の前にあることを明確に認識することから出発し、その力を味わい、これを他者と共有可能となるよう言葉にしていくことを実践していく。可能な限り毎時間、講師が「実物」を教室で提示することを予定している。これをしっかりと見つめ、その「画像」と比較することによって、「実物」のみがもつ力―アウラについて、一人ひとりが考えてほしい。Waseda　Moodleを通じて毎回の講義資料を事前提示し、講義回によっては事前課題を課すことがある。

また、特定の美術館・博物館見学、作品鑑賞を課題とすることも検討しているが、感染症流行拡大等、社会状況の変化によっては変更の可能性もある。

授業の到達目標

複製メデイア、インターネット上の「情報」では伝達不能な、「実物」のみがもつ力―アウラを実感することを土台に、これを分析、言語化して、自分以外の他者に伝えうる能力を培うことを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　現時点で実施の予定はありませんが、状況によっては実施の可能性があります。

●**レポート**　80%　　講義で取り上げた内容（考察すべき課題や、方法論など）を十分に理解した上で、レポート課題につき、自分の頭で考え、自分の言葉で論じられているか、という視点から評価します。

先行研究、文献からの無断引用、剽窃など学術的文章のルールに抵触する場合は勿論、単純な引用のみで構成され、受講者自身のオリジナルな文章と認められないものは、単位認定を行いません。レポート提出のない場合は、単位取得の意思がないものとみなし不可とします。また、提出期限に遅れたものは理由の如何によらず受理しないので充分に注意すること。

●**平常点**　20%　　出席確認はパスワード入力により毎回行います。講義開始後10分を経過した後は遅刻、30分経過後は欠席の扱いとなります。遅刻2回で、欠席1回分として扱います。学期末に出席・遅刻・欠席を点数化しますが、出席回数が、全体の2／3に満たない場合には、レポートが提出されても成績評価の対象としません。講義中の討論参加、必修課題の記述も評価の対象とします。

●**その他**　0%　　特にありません。

備考・関連URL

※本科目の趣旨、特性に鑑みて、初回から教室での対面授業を実施します。

講義には積極的、能動的態度で臨むことを強く希望する。

展覧会は、特別展、常設展示を問わず、機会をとらえ出来るだけ数多く鑑賞すること。

会津八一記念博物館、演劇博物館など、学内の展示にも積極的に触れることを勧める。

科 目 名	コンテンポラリー・アート							
担当者名	関　直子　他／石井　香絵／金長　隆子							
表象	2単位	春学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

コンテンポラリー・アートの講義では、2020年代の視点に立ち、近年の世界美術史の動向を踏まえ、日本とその他の地域との関係性を軸に、多様な創造活動の展開について、その意味を考察する。ここでは、影響はもとより、対話や曲解、断絶といった様々な視点から、他者との関係の変化を考えていく予定である。

＊対面での実施を予定。

授業の到達目標
同時代の創造活動の意味を分析し、自身の言葉で語ること。

成績評価方法
●**試験** 0%　レポートが不可能になった場合には試験を課すこともある。
●**レポート** 50%　授業で見た作品の理解度を基本とする評価
●**平常点** 50%　出席やコメントシートの提出などを総合的に判断する。
●**その他** 0%　なし

備考・関連URL
毎時間、パワー・ポイントを使用。

科 目 名	比較イメージ論　1945年以前のアメリカの視覚イメージ							
担当者名	瀧井　直子							
表象	2単位	秋学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
本講義は、1945年以前のアメリカの視覚イメージを多角的に分析することによって、その視覚文化の諸相を紐解いていく。具体的には絵画、彫刻、版画を中心に、写真、出版物の挿絵、装飾美術、日用品などを取り上げ、それらをジェンダー、人種、民族、地域、階級の違いに基づき、あるいは外国の視覚文化と比較しながら分析する。
アメリカの視覚イメージは、アメリカという国家の多民族・多文化的成り立ちゆえに、社会・政治的な観点から分析されることが多い。その議論はしばしば自己と他者という二項対立の構図(二元論)に当てはめられ、アイデンティティやナショナリズムの問題に集約される傾向にある。講義では受講生のみなさんとともにアメリカにおける視覚文化の「多元性」について考察していきたい。
なお、詳細なシラバスは第一回目の講義で配布する。
また、授業の内容や進捗度は受講生の関心や理解度に応じて変更することがある。

授業の到達目標
本講義では以下のことを目指す。
1) アメリカの視覚文化について知識を得、理解を深める。
2) 視覚イメージを言語化し、分析する力を身につける。

成績評価方法
●**試験** 0%
●**レポート** 60%　出席回数が全授業回数の60%に満たない学生はレポートの成績評価の対象にならないので注意すること。
●**平常点** 40%　出席、授業態度、リアクション・ペーパーの内容。
●**その他** 0%

科 目 名	演劇文化論1　ミュージカル入門							
担当者名	藤原　麻優子							
表象	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要
この講義では、「ミュージカルを観るのを上手くなる」ことを目指します。
ミュージカルとは、どんなジャンルなのか。英米ではどのようなジャンルとされており、日本ではどのように考えられているのか。これらの違いを意識しながら、ミュージカルについて学んでいきましょう。
まず、ミュージカルというジャンルの特性について学びます。次に、具体的な作品の分析から、ミュージカルを分析・考察する視点を学びます。

授業の到達目標
・ミュージカルの特徴を理解する
・ミュージカルを分析する視点を理解する
・ミュージカルを比較する視点を理解する

成績評価方法
●**試験** 0%
●**レポート** 50%　期末に、レポートを課します。授業で扱った内容を理解し、応用できているかを評価します。
●**平常点** 50%　授業の理解度・感想についてのコメント課題、作品視聴レポートなど。なお、課題提出数が2/3に満たない場合は評価の対象としません。
●**その他** 0%

備考・関連URL
・本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。 ・定期配信方式で、毎週月曜日に講義資料を掲示、金曜日までに課題を提出するというスケジュールを予定しています。
・受講生は、授業時間外にもDVDや配信等で作品を視聴することが必要な場合があります。
・分析対象作品によって、性的・暴力的な描写を扱う可能性があります。

科 目 名	演劇文化論2　人形とホラー							
担当者名	菊地　浩平							
表象	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要
一般的に人間と「人形」の間には、有機物と無機物という越えられない壁がそびえ立っていると考えられています。

その一方で、我々は「人形」を見てしばしば、「彼ら」がその一線をもしかしたら越えてくるんじゃないかという不安や喜びに駆られてしまいます。そうした話を聞くと、1988年に公開された傑作人形ホラー『チャイルド・プレイ』のように、持ち主の少年アンディの肉体を奪おうと凶器を手に襲いかかる「チャッキー」を思い浮かべる人がいるかもしれません。

もちろんチャッキーもとても重要（だし私も大好き）なのですが、例えばAさんにとって極めて重要な「人形」が存在するとして、それを知らないBさんが「人形」をぞんざいに扱い、Aさんはとても気分を害したとします。そのことが原因で両者の関係が悪化、するばかりかAさんから何らかの「リアクション」がなされた場合、Bさんは「不安」を覚えるでしょう（取り返しのつかない事態になることもあるかもしれません）。その場合、Bさんにとって「人形」は単なる「モノ」ですが、Aさんにとっては全く異なる「モノ」以上の存在であり、十分に「一線」を越えているといえます。

つまりこの「人形」にはAさんの主観が投影されており、本来触ることも見ることもできないはずのものを垣間見ることが出来るのです。人間の主観を言語化するには一定のハードルが付きまとうものですが、それをしていくためのひとつの手がかりとして「人形」について考察することは一定の意義があると考えました。

というわけで本講義では諸作品、諸事象をじっくり鑑賞／観察し、とりわけそこで「人形がどんな役割を担い、なにを媒介しているのか」を検討することで、「われわれ」について考察してみたいと思います。

取り上げる対象となるものの一例としては、人形劇、わら人形、腹話術、蝋人形、お化け屋敷などです。

※なお受講者の反応や人形をめぐる社会情勢等によって講義内容を変更することがあり、シラバス掲載の授業計画通りに進むとは限りませんので、その点はご了承ください。

講義

授業の到達目標

「人形」や「ホラー」について学術的にとらえるための基盤をつくること

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しません。

●**レポート**　50%　　講義で扱った内容を踏まえ、期末レポートを書いていただく予定です。（文字数は受講者数によって決定します。）

●**平常点**　50%　　3分の2以上の出席は最低条件ですが、それに加え、各講義の最後にコメントシートの提出を義務付けています。

●**その他**　0%　　特にありません。

科 目 名	ポスト／モダニズム論　〈論理〉と〈実存〉の問題を考える							
担当者名	浅野　修平							
表象	2単位	春学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

ドゥルーズやデリダなど、現代フランスの哲学者たちがヘーゲルの哲学との対決を通して思索を深めてきたことはよく知られている。我々にとって未知なものとしての〈外〉の要素を、〈内〉における既知の要素の組み合わせにより理論的に説明することで既存の知識体系の内に包摂することは、学問的進歩の根幹にある野望であろう。ヘーゲルの哲学が19世紀後半にフランスに輸入され始めたときも同じく、この哲学はあらゆる〈外〉の要素を語り尽くすことを目論む〈学〉の体系であると捉えられた。だがフランスとドイツには複雑な歴史的経緯が存在していたため、ヘーゲルの哲学が、ただ単に未知の対象を理論的に解明する認識論的な意味で最新の思想というだけではなく、同じ論理の機制のもとで、かけがえのない実存を有しており、決して他のものによって代表されることも、語られることも不可能でなければならないとされてきた「個人」の存在をも理論的に語ることで、「個人」を〈内〉に存在する現存のドイツ国家に帰属／包摂することを強制し、一個人と一国民とがあたかも同一であるかのような、そのような強制を正当化する思想のように捉えられてしまったという経緯が存在することは押さえておかなければならない点である。言い換えれば、あらゆるものを語ることを目指すヘーゲルの論理、要するに、ヘーゲルの「論理学（Logique）」は未知の事柄に学的な説明を与えるという表向きの体裁のもとで、個人の尊厳を例外なく「国家」に回収することを推し進め、〈内〉の領域を「（外なき）閉域（clôture）」にまで高めることを狙った思想ではないかという疑念が生じたのであり、そのような疑惑が十分には払拭されることがないままに、ヘーゲルの哲学はフランスの知的土壌の中に持ち込まれたのである。しかし、その後の展開を見れば、フランスの哲学がヘーゲル的な〈内〉の閉域から脱出を図ることを共通の旗印とすることでこそ独自の仕方で思索を深めることになったことは一つの事実として見逃されてはならないだろう。このようにフランスにとって20世紀は、ヘーゲルの哲学の困難な受容と表裏一体の事態として〈外〉への脱却を可能とする重要な方法が数多く考案された多産な時期に他ならない。

本講義では、フランスの現代哲学とヘーゲルの哲学が織りなす思考の布置連関を、「論理と実存」の問題系と捉え、この問題系の解明に努めたい。〈論理〉が〈外〉の要素を〈内〉に回収することを目指す立場であるとすれば、逆に〈実存〉はそのような論理に対抗し、語られるがままにならない〈外〉の要素の存在を主張する立場である。

解明の作業の中では、イポリットの『論理と実存』（1952）を中心に読解を進める。この書物はヘーゲルの論理学を分析するものでありながら、タイトルの設定には奇妙な点が存在する。その奇妙さは、『論理と実存』があらゆるものを語りの運動の中に回収するヘーゲルの〈論理〉を提示することを目指す書物であるにもかかわらず、タイトルの設定に「論理」ではなく「論理と実存」が採用され、二つの立場をあたかも対等であるとイポリットが考えていると受け取られてもおかしくないような名前がタイトルにつけられているという点にある。このことは、実のところ、**ヘーゲルの論理学にあってさえ〈論理〉と〈実存〉という二つの立場がその内部で拮抗しており、〈論理〉の立場をただ追求すればヘーゲルの哲学が解明されるというほどに問題が単純ではなかったということ**を示しているように思われる。ここに現代哲学に連なる一本の思考の軌跡が存在する。本講義では、イポリットの『論理と実存』を紐解きながら、以上の奇妙さに介入することで、現代哲学へと引かれた思考の線を追うことを試みる。

以上の点を踏まえ、本演習では、授業の指針として次の三つの問いを設定する。

①フランスにおけるヘーゲルのイメージはどのようなものか？（ヴァール／コジェーヴ／イポリット）

②ヘーゲルの導入によりフランスの知的土壌の中に生まれた思考の布置連関、つまり〈論理〉と〈実存〉の問題系はどのようなものか？

③なぜ、イポリットは自身のヘーゲル研究に、〈論理〉と〈実存〉を対等に扱っていると理解されてもおかしくないようなタイトルをわざわざつけたのか？

以上三つの問いに答えつつ、現代哲学の系譜を浮き彫りにすることをこの授業での最重要課題としたい。このような作業の中

で、「モダン／ポストモダン」の間に引かれた文節線の妥当性に関してもおのずと批判的に検討されることになるだろう。

授業の到達目標

イポリット『論理の実存』の内容をよく理解し、自分自身の関心に応用できるようになること。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　70%　　中間レポート（5000字程度）と学期末レポート（5000字程度）から総合的に評価する（受講者数等が判明してから、正式な字数を決定します）。

●**平常点**　30%　　平常点とは、出席、授業態度、等々のことを指す。出席は授業後に提出するコメントシートによって取る。成績はレポートの点が基準で、それに平常点を加味して決定する。

●**その他**　0%

備考・関連URL

授業で扱うテクストの性質上、フランス語ができることが好ましいが、原則として翻訳を読み進めることにしたい。原文は場合により参照する。フランス語履修者でなくても、関心があれば、専門が哲学かどうかに関係なく受講してほしい。

科 目 名	マンガ文化論　作品としての「マンガ」の歴史を学ぶ							
担当者名	石岡　良治							
表象	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

※本授業は全回オンデマンド授業として実施します。

「コミックス」「バンドデシネ」「グラフィックノベル」などの総称としての「マンガ」は、文字と画像が組み合わされ「コマ」を読解の単位とした「連続的芸術（sequential art）」（ウィル・アイズナー）とみなされる。現代日本のマンガでは「視線誘導」など可読性を重視したエンタメ作品が多く、マンガの読解コードに慣れ親しんだ者は素早く読むことができるが、時代や地域など慣習の異なる「マンガ」表現に接するとき、読解コードの自明性は揺らぎ、ときには「難解」に思えるかもしれない。本講義は総称としての「マンガ」表現の広がりをその歴史とともに概観しつつ、古典的マンガ作品の魅力をひもといていく導入となることを目指す。

受講者には、以下に挙げたリストを参考に、「二十世紀の慣れ親しんでいない」マンガ作品に触れ、中間レポートを提出することが求められる。そのうえで、学期末レポートでは別の作品（こちらでは現代マンガも可とする）を分析することで、これまで自明視していた「マンガ」の読解コードを意識した上で、多種多様なマンガ表現の魅力にふれてもらいたい。

二十世紀の古典作品リスト（例）
手塚治虫『火の鳥』
白土三平『カムイ伝』
高森朝雄＆ちばてつや『あしたのジョー』
永井豪『デビルマン』
諸星大二郎『暗黒神話』
荒木飛呂彦『バオー来訪者』
楳図かずお『わたしは真悟』
松本大洋『ピンポン』
萩尾望都『ポーの一族』
竹宮恵子『風と木の詩』
大島弓子『綿の国星』
山岸凉子『日出処の天子』
紡木たく『ホットロード』
高野文子『棒がいっぽん』
岡崎京子『リバーズ・エッジ』 よしながふみ『大奥』
ロドルフ・テプフェール『M.ヴィユ・ボワ』
ウィンザー・マッケイ『リトル・ニモ』
エルジェ『タンタンの冒険』シリーズ
フランク・ミラー『バットマン: ダークナイト・リターンズ』
アレハンドロ・ホドロフスキー＆メビウス『アンカル』
アラン・ムーア＆デイブ・ギボンズ 『ウォッチメン』
マルジャン・サトラピ『ペルセポリス』

授業の到達目標

・マンガ作品の分析における、「内在分析」（イメージの読解やシナリオの構造分析）と「外在分析」（社会的要因や時代相との関連）の双方の重要性を認識する
・現在の人気配信マンガだけではなく、過去のマンガ作品を分析できるようになる
・「マンガが好きである」ということの内実が「アニメ版の支持」である場合、マンガ表現の魅力に気付くようになること
・無根拠な「日本マンガ中心主義」を相対化する

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　60%　　学期末レポート

●**平常点**　40%　　コメントペーパーやアンケートを含む。
小レポートの提出を学期末レポート提出条件とする

●**その他**　0%

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	身体行為論							
担当者名	山本　敦							
表象	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

わたしたちはさまざまな環境下で、他者と互いに声を交わし、身体を動かしながら何らかの相互行為を達成していく。そのとき、お互いの身体はいつ、どのように動くのか。それらはどのように理解され、お互いにどのような調整が行われるのか。発声はそこにどう関わるのか。この講義では、さまざまな環境内で行われる相互行為を取り上げ、その多様性を紹介するとともに、わたしたちの相互行為を作り上げている認知的制約、環境による制約について考える。

授業の到達目標

・身体をとりまく環境が個体の認知と物理的環境の相互作用によって生じていることを理解できるようになる。
・身体の動いている環境に注目し、ヒトがそこからどのような手がかりを得ているかを考えることができるようになる。
・身体の動きを、単なる個人の表現としてではなく、他者との相互行為として捉えることができるようになる。
・声と身体の相互作用を、時間に沿って考えることができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない
●**レポート**　40%　　小レポートを課す。課題は講義中に説明する。
●**平常点**　60%　　毎回、レスポンスペーパーを課し、次回講義でフィードバックを行う。
●**その他**　0%　　行わない

科 目 名	テレビ史　ドラマの歴史：草創期から現在まで							
担当者名	岡室　美奈子							
表象	2単位	春学期	火曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

若者のテレビ離れが言われるようになって久しいが、テレビドラマは依然として私たちの身近にあり、根強い人気を誇っている。テレビドラマの魅力や役割とはなんだろうか。

本講義では、昭和から平成を経て令和までの日本のテレビドラマの歴史を、90年代以降を中心に主だったドラマや脚本家に着目して概観し、ドラマの魅力と可能性を探る。平成はバブル経済で幕を開けたが、90年代に突入するとバブルが崩壊し湾岸戦争が起こるなど、不穏な空気が漂い始める。90年代半ばには阪神淡路大震災や地下鉄サリン事件が起き、さらに神戸連続児童殺傷事件などいわゆる「劇場型犯罪」も増え、そうした理不尽な事件がさらに暗い影を落とす。それに呼応するように、ドラマにもデヴィッド・リンチの『ツイン・ピークス』などのアメリカン・カルト・ドラマの影響下にカルトドラマ、サイコドラマが頭角を現す。その一方で北川悦吏子による『愛していると言ってくれ』、『ロング・バケーション』などの日常的な恋愛ドラマが人気を博し、連来ドラマ全盛期となる。ゼロ年代にはいって長い不況で世相が混迷を極め日常のドラマが成り立ちにくくなった時、宮藤官九郎が登場して非日常を通して日常を描くという方法を獲得してゆく。だが、刑事ものや病院ものなど、非日常だけを描くドラマも増えてゆく。2011年の東日本大震災後は、家族の幽霊が登場するドラマが増える。これらのドラマでは、生と死が断絶ではなく連続したものとして描かれ、大震災後の視聴者の心情を反映させたものとなっている。このようにドラマは常に社会を映す鏡であり続けてきた。この講義では、ドラマが時代をどう可視化してきたかを通じて、テレビドラマが社会の中で果たしうる役割について考察する。

毎回、各時代の代表的なドラマを一部視聴するが、「代表的なドラマ」とは必ずしも視聴率の高かった番組を指すのではなく、評価の高かったドラマや、年月を経ても人々の心に残るドラマを中心に選ぶ。視聴する際には、ストーリーよりもテレビというメディアの固有性や表現方法を重視し、テレビとは何か、テレビドラマとは何かを併せて考えたい。

★なお、講義は対面で行いますが、Moodle上でコメントシートを提出してください。コメントシートの提出をもって「出席」としますので、コメントシートの出し忘れにご注意ください。締切を過ぎてからの提出は認めないので、余裕をもって提出してください。コメントシートは、出席していたことがわかるように具体的な内容に必ず触れてください。

授業の到達目標

日本のテレビドラマの歴史を理解し、制作現場においてテレビというメディアがどのように意識され、映画や演劇などの近接ジャンルとどのように差異化されながら発展してきたかを把握することを目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　80%　　日本のテレビドラマの歴史について一通りの知識を身に着けた上で、独自の分析や考察ができるかどうかを問う。
●**平常点**　20%　　出席状況やコメントシートから判断する。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

◆コメントシートの提出をもって「出席」とします。出し忘れに注意！
◆基本的に地上波で放送されたドラマを取り上げるため過激な表現は少ないですが、時には性的、あるいは暴力的な表現が含まれる場合もあることを了承の上、受講してください。

科 目 名	イメージ文化のポリティクス　キャンプと異性装							
担当者名	溝口　彰子							
表象	2単位	春学期	火曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

2019年、NY、メトロポリタン美術館コスチューム・インスティチュートによる展覧会オープニング、通称「METガラ」のテーマとなったことで一躍認知度が上がった「キャンプ(camp)」という感覚。どのセレブのファッションが「キャンプ」か、単に「ファニー」や「ビューティフル」か、を談義する記事を見た人も多いだろう。

本授業では、「キャンプ」を始めて理論的に定義づけたとされるスーザン・ソンタグの「『キャンプ』についてのノート」（1964）を精読しながら、「キャンプ」を軸に、さまざまな異性装を考察し、「キャンプ」をその複雑な内容を複雑なままに把握することを試みる。考察対象は映画『ヘアー・スプレイ』（ジョン・ウォーターズ監督、1988）、『プリシラ』（ステファン・エリオット監督、1994）、『ダイヤモンド・アワー』（D.K.ウラヂ監督、1994）などの映画に加え、京劇、宝塚、ドラァグクイーン、ドラァグキングなど。

なお、「LGBTQA+」や「SOGI」など、多様な性自認、性的指向をめぐる用語も、基礎知識として学ぶ。

（授業計画は変更になる場合があります）

授業の到達目標

「キャンプ」を、その複雑さのままに、有用な感覚として把握する。

成績評価方法

平常点（50%）（出席の上ディスカッションなどに貢献、および、リアクションコメントなど）

試験（50%）

備考・関連ＵＲＬ

授業開始後15分以上の遅刻者は、正当な理由がない限り、入室できません。

初回授業およびゲスト講義回には必ず出席してください。

科 目 名	人形メディア学入門　人形メディア学への招待							
担当者名	菊地　浩平							
表象	２単位	春学期	金曜日	３時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

わたしは、「人形」が作品や文化事象においてどのように表象されているか、またその背景には何があるかを考察し「われわれ」について再検討する営みを「人形メディア学」と名付けました。この講義では、様々な人形を取り上げ、人形メディア学的視点からとらえ直していきたいと思います。ちなみに、ここでいう「人形」とは「ひとのかたち」をしているとは限りません。詳しくは初回の授業でお話しますが、我々の身の回りにあるあらゆるものが人形たりえます。

ためしに、講義内で言及する対象を列挙してみましょう。

巨大人形が市街を闊歩するパフォーマンスで知られるロワイヤル・ド・リュクスや、テオ・ヤンセンのストランド・ビースト、石黒浩、アンドロイド演劇、オリンダ歴史地区のカーニバル、未来派やバウハウスなどのモダニズム期芸術、ゴードン・クレイグの超人形、オリエント工業のラブドール、初音ミク、ハンス・ベルメール、四谷シモン、ふなっしー、『ひょっこりひょうたん島』、『Detroit: Become Human』、『ガラスの仮面』（実写版）、『くまのプーさん』、『トイ・ストーリー』などなど……実に多岐に渡ります。

こうしたものを正面から扱い時に脱線しながら、学術的／分析的／批評的なまなざしをもって、「人形」について共に学んでいけたらと思っています。なお受講者の反応や人形を巡る社会情勢等によって講義内容を変更することがあり、シラバス掲載の授業計画通りに進むとは限りませんので、その点はご了承ください。

授業の到達目標

人形メディア学に関する自分なりの視座を得ること

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しません。

●**レポート**　50%　　人形と深く関わる作品や事象を一つ取り上げ、2,000字以上で論じてもらう予定です。

●**平常点**　50%　　3分の2以上の出席は最低条件ですが、それに加え、各講義の最後にコメントシートの提出を義務付けています。

●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	エッセイ映画論							
担当者名	川崎　佳哉							
表象	２単位	春学期	火曜日	５時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

映画の歴史は主に、スタジオなどで集団的に製作されるフィクション映画によって形成されてきました。映画が大衆文化となったのは、古典的なハリウッド映画から現代日本の怪獣映画に至るまで、フィクションを求める観客の期待に映画産業が応えてきたからであると言えるでしょう。しかし、映画史の周縁には、大手映画会社によって作られる主流の作品とは異なるタイプの映画が存在してきました。そのなかでも近年、映像による個人のエッセイと呼び得る実践が注目されています。それらの作品では、作り手である監督がペンの代わりにカメラを、文字の代わりに映像と音を用いて、自身が関心を持つ問題やテーマなどについて思索を展開しているのです（時には、監督自らがカメラの前に立って語りかけます）。本講義では、そのような「エッセイ映画」と呼ばれる作品群を取り上げ、映像でエッセイを綴るとはいかなることかを考察します。文学におけるエッセイが客観的な事実の記録でも完全な創作物でもないように、エッセイ映画の多くはドキュメンタリーとフィクションのどちらにも分類できないという特徴が指摘されてきました。作り手としてクリス・マルケルやアニエス・ヴァルダといった名前がしばしば挙げられますが、それ以外にも、有名無名を問わず多くの映画監督や映像作家たちがエッセイと呼び得る作品を残しています。現代では個人が動画でメッセージを発信することはほとんど日常的な光景となりましたが、エッセイ映画について学ぶことで、本講義は最終的にはそうした今日の実践を捉え直すための手がかりについて考えます。

授業の到達目標

エッセイ映画の歴史と理論を学ぶことを通して、映像で思考することの可能性について自らの意見を述べることができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　50%　　授業の内容や先行研究を踏まえた上で、自分の意見を書けているかを評価します。

●**平常点**　50%　　出席、コメントシートを通した参加度などを総合的に評価します。

●**その他**　0%

備考・関連URL

・上記の内容と予定は、受講生の人数や関心に応じて変更する可能性があります。
・映画作品によっては、過激な映像が含まれている可能性があるため、その点を了承した上で受講してください。

科 目 名	映像メディアとアダプテーション							
担当者名	川崎　佳哉							
表象	2単位	秋学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本講義は、映像メディアによって既存の物語や作品を翻案したアダプテーション作品を取り上げ、そうしたメディア横断的な実践が持つ意義を歴史的かつ理論的に考察します。シェイクスピアの戯曲の映画化から大衆小説のテレビドラマ化、そしてマンガのアニメ化に至るまで、映像メディアは異なるメディアとの交流を通してその表現の幅を大きく広げてきました。興味深いのは、原作に忠実であることが成功の要因となるとは限らず、その逆に大胆な脚色が高く評価されることがしばしばあるという点です。濱口竜介監督の『ドライブ・マイ・カー』（2021年）が村上春樹による原作小説の設定や展開を大胆に変更した結果、世界的に高い評価を受けたことは記憶に新しい事例です。したがって、アダプテーションについて考察するためには、忠実さのみを基準とするのではなく、いかなる方針のもとで原作が翻案され、それがどのようにして受容されてきたかを作品毎に分析する必要があります。

上記の『ドライブ・マイ・カー』を含め、扱う映像作品は映画を中心とすることを考えていますが、テレビ・ドラマやアニメーションも取り上げる予定です。本講義では、他メディアに原作を持つさまざまな映像作品を取り上げ、それらが形成してきた翻案の歴史を概観します。さらに、理論的な言説を参照しつつ具体的な作品を分析することによって、映像メディアによるアダプテーションが持つ豊かな可能性を学びます。

授業の到達目標

映像メディアとアダプテーションの関係を歴史的かつ理論的に説明する力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　授業の内容や先行研究を踏まえた上で、自分の意見を書けているかを評価します。
●**平常点**　50%　　出席、コメントシートを通した参加度などを総合的に評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

・上記の内容と予定は、受講生の人数や関心に応じて変更する可能性があります。
・映画作品によっては、過激な映像が含まれている可能性があるため、その点を了承した上で受講してください。

科 目 名	短詩型文学論1　近代短歌を読む							
担当者名	菊池　有希							
文ジャ	2単位	春学期	火曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本授業では、近代短歌の代表的な歌人を取り上げ、その作品を丁寧に鑑賞し評釈をしてゆく。その際、それぞれの歌人の歌論や彼らが生きた時代の文化的・社会的コンテクストとの関わりなどを押さえながら解釈を施し、必要に応じて周辺の他の歌人の作品との対比や関連のあるテクストの紹介なども行い、理解を深める。一首一首の〈小さな世界〉に潜入し、それぞれの歌人の作品世界の一端を垣間見、短歌という詩的ジャンルに対して親しみを持てるようになることが本授業のねらいである。

授業の到達目標

・近代短歌の代表的な歌人の作品の鑑賞を通して、彼らの作品世界に対する知識を得る。
・短詩型文学の一ジャンルとしての短歌の鑑賞の作法を修得する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　60%　　学期末レポート課題で算出する。
●**平常点**　40%　　出席状況と各回授業内で行う小課題で算出する。
出席しただけで加点することはしない。
小課題は各回の授業を聴いて考えたことを書いてもらい、内容に応じて加点する。（授業を聴いて書いていないと判断されるもの、誠実に取り組んでいないと判断されるものには減点をする場合がある。）
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

本授業は基本的に対面で行うが、社会状況その他の事情でオンライン授業の形態をとることもあり得る。その際はMoodleで告知を行う。

科 目 名	短詩型文学論2　現代短歌を読む							
担当者名	菊池　有希							
文ジャ	2単位	秋学期	火曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本授業では、現代短歌（1930年代後半から1950年代後半を中心とする）の代表的な歌人を取り上げ、その作品を丁寧に鑑賞し評釈をしてゆく。その際、それぞれの歌人の歌論や彼らが生きた時代の文化的・社会的コンテクストとの関わりなどを押さえながら解釈を施し、必要に応じて周辺の他の歌人の作品との対比や関連のあるテクストの紹介なども行い、理解を深める。一首一首の〈小さな世界〉に潜入し、それぞれの歌人の作品世界の一端を垣間見、短歌という詩的ジャンルに対して親しみを持ってもらうことが本授業のねらいである。

授業の到達目標

・現代短歌（1930年代後半から1950年代後半を中心とする）の代表的な歌人の作品の鑑賞を通して、彼らの作品世界に対する知識を得る。

・短詩型文学の一ジャンルとしての短歌の鑑賞の作法を修得する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし

●**レポート**　60%　　学期末レポート課題で算出する。

●**平常点**　40%　　出席状況と授業内で行う小課題で算出する。

出席しただけで加点することはしない。

小課題は、各回の講義を聴講して考えたことを書いてもらい、内容に応じて加点する。（授業を聴いていないと判断されるもの、誠実に取り組んでいないと判断されるものは減点する場合がある。）

●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

本授業は基本的に対面で行うが、社会状況その他の事情でオンライン授業の形態をとることもあり得る。その際はMoodleで告知を行う。

講義

科 目 名	現代小説表現1　インドネシアと日本近現代文学							
担当者名	追田　好章							
文ジャ	2単位	春学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本授業では、戦後から現代にかけての日本文学におけるインドネシア表象を分析する。ポストコロニアル理論をはじめとする批評理論を学び、援用して、授業で取りあげる各作品のなかでインドネシアの人々や社会がいかに描かれているのかを分析する。文学を読むことをとおして、インドネシアという空間が日本文学の形成にいかなる意味を持ってきたのか、インドネシアと日本とがいかなる歴史的関係を作りあげてきたのかを考えたい。

授業の到達目標

「インドネシアと日本文学」というテーマは、高等学校までの国語教育をはじめとして、文学に触れる場面の多くであまり前景化されてこなかったと思われる。そこで履修者には、各回の授業を経て、インドネシアと日本文学の関係性について知識を得て、認識を深めていくことを期待する。また、批評理論を文学の分析に効果的に活かす方法、先行研究との対話をとおして自分自身の解釈を構築する方法、分析の結果をわかりやすく論文にまとめる方法を身に着けることも目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし。

●**レポート**　50%　　以下の8つの観点から評価する。

・授業内容を理解して書いているか。

・課題を理解し、課題に即して論述できているか。

・作品について、独自の問いを立てられているか。

・問いに対して明確な答え（意見・主張）を導き出しているか。

・意見・主張を作品の先行研究を踏まえて練り上げられているか。

・主張の正当性を論証し、説得力のある議論を展開できているか。

・自分の主張を他人が理解できるようにわかりやすく伝えられているか。

・期限・体裁・引用の方法・文献リスト等の論文執筆のルールを守っているか。

●**平常点**　50%　　割合は以下の通りである。

授業への参加度・授業内課題 40%

発表 10%

●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

本授業のテーマにかんする事前知識は必要としない。

批評理論や文学研究への視野を広げるため、日本語だけでなく英語の文献にも当たる。

科 目 名	現代小説表現2　モダニズムと20世紀の世界文学							
担当者名	アスアヘアラモ　マヌエル							
文ジャ	2単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本講義の目的は、20世紀の英語圏でおそらく最も重要で、かつ影響力のある文学運動、すなわちモダニズムの歴史的な背景とその文学的な試みを紹介し、受講生に理解していただくことである。20世紀の変わり目から始まる現代世界の出現に直面して、英語圏（とりわけアメリカ、アリルランド、そしてイギリス）の文学がどのように変化したかを理解するために、以下の著者の作品を読み、受講生たちと分析していきたい。20世紀を決定付けた第一次と第二次世界大戦を跨いだ英語圏のモダニズムはまた、世界各地の文学にも多大な影響を及ぼし、同じ手法を使った作品が世界中に次々と発表された。世界的な規模で目立ったこの文学的潮流は、近年「グロバール・モダニズム」Global Modernismと呼ばれるようになり、世界文学研究にも脚光を浴びている分野の一つになっている。本講義で読む作品はどれもアメリカ、アリルランド、そしてイギリスを母国とする作者祥のものではあるが、授業で彼らの作風がグロバール・モダニズムとどのような関係にあるかということについても考えていきたい。

授業の到達目標

海外文学読書の実践に役立つ世界文学論についての基礎知識を取得し、モダニズム文学の手法を理解してほしい。現在の文学まで受け継がれているモダニズム文学の魅力と歴史的背景を理解し、歴史と文学がいかに関係しているかを説明できるようになること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　35%　　期末レポートがあります。講義内容の理解を反映したレポートを与えられるテーマに沿って執筆します。
●**平常点**　30%　　出席して、積極的に授業に参加すること。講義での作品朗読に参加すること
●**その他**　35%　　本授業で扱う文学者たちとそれらの作品についてのプレゼンテーション

備考・関連URL

理想としては英語で授業の作品を読んでほしいが、扱う作品はどれも邦訳があるので、邦訳の資料も配るようにする。英語能力をこれから身につけたい受講生は、邦訳を参照しながら作品を読んでください。文学とは、読むことの愉しみから生まれてくるので、まずは快楽を感じる言語で読んでみてください。

科 目 名	**現代小説表現3**　ロシア文学を読む							
担当者名	奈倉　有里							
文ジャ	2単位	春学期	金曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

「自分がふだん暮らしている世界とはまったく違う、はるか遠くに感じられる時代・場所のものごとにじかに触れるためには、いったいどうしたらいいのでしょう。

たとえば19世紀のロシアで描かれた文学作品。一般にいわれているイメージの向こうには、やはり人間がいて体温のある生命があります。

この授業では、あなたという読者を主体とし、ロシア文学を素材として体験することによって、社会とは、愛とはなにかを考えます。」（教科書より引用、一部加筆）

※授業は基本的に対面形式でおこないます。

授業の到達目標

毎回の課題図書の背景、読解のポイントなどを学習し、翻訳文学への理解を深めます。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　学期末にレポートを提出します。
●**平常点**　40%　　毎回、リアクションペーパーを配布します。
●**その他**　0%

科 目 名	**大衆小説論1**　ヴィラン（Villain）で読み解く大衆小説							
担当者名	小松　史生子							
文ジャ	2単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本講義では、19世紀半ば以降のいわゆる〈大衆小説〉と目されたテクストの代表作を、ヴィラン（Villain）表象を紡ぐ言説コードを軸に分析する。

18世紀の産業革命を契機に世界のメディア動向が大きく変化したのに伴い、小説の読者層も爆発的に拡大していった。大衆読者の誕生である。時代を映す大衆の欲望は小説のモードに甚大な影響を与え、〈大衆小説〉が文芸市場に立ち現れてくる。

そうした〈大衆小説〉の読者に愛されたキャラクター像の一つに、ヴィラン（Villain）がある。倫理性が強く作用する〈大衆小説〉において、なぜヴィラン（Villain）のキャラクター像に読者は惹かれるのか。

ヴィラン（Villain）表象を紡ぐ言説コードに潜在する〈大衆小説〉特有のテクスト構造やナラティヴについて考察し、理論的に解析する。

授業の到達目標

①〈大衆小説〉の成り立ちを学際的・体系的に学ぶことで、既存の文学史に囚われない価値観を追究する思考力が身につく。

②日本の近現代を推進してきた欲望の歴史を学ぶことで、現代社会に通じる時事的な政治・経済問題へも言及する力が身につく。

③海外小説との比較検討を行うことで、日本の近現代文学を国際的視野で捉え直すことができる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　30%　　期末レポート
●**平常点**　70%　　授業ごとのコメント・シート提出の総合計
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

事前・事後学習に、かなりの読書量を要求されるので、その旨の確認が必要。

科 目 名	**大衆小説論2**　秘境で読み解く大衆小説							
担当者名	小松　史生子							
文ジャ	2単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本講義では、19世紀半ば以降のいわゆる〈大衆小説〉と目されたテクストの代表作を、秘境表象の言説コードを軸に分析する。

18世紀の産業革命を契機に世界のメディア動向が大きく変化したのに伴い、小説の読者層も爆発的に拡大していった。大衆読者の誕生である。時代を映す大衆の欲望は小説のモードに甚大な影響を与え、〈大衆小説〉が文芸市場に立ち現れてくる。

そうした〈大衆小説〉は、近代交通機関の発達により娯楽としての旅行と観光をテーマとして扱うようになると同時に、どれほど近代化されても至れない秘境への憧憬も強くなっていく。

〈大衆小説〉はどういう土地・場所を秘境としてまなざしてきたのか？　秘境の表象を紡ぐ言説コードに潜在する〈大衆小説〉

特有のテクスト構造やナラティヴについて考察し、理論的に解析する。

授業の到達目標

①〈大衆小説〉の成り立ちを学際的・体系的に学ぶことで、既存の文学史に囚われない価値観を追究する思考力が身につく。
②日本の近現代を推進してきた欲望の歴史を学ぶことで、現代社会に通じる時事的な政治・経済問題へも言及する力が身につく。
③海外小説との比較検討を行うことで、日本の近現代文学を国際的視野で捉え直すことができる。

成績評価方法

●**試験** 0% なし
●**レポート** 30% 期末レポート
●**平常点** 70% 授業ごとのコメント・シートの提出の総合計
●**その他** 0% なし

備考・関連URL

事前・事後学習ともに、かなりの読書量を要求されるので、その旨を確認しておくこと。

科 目 名	**児童文学** 児童文学の変遷――童話の成立からライトノベルまで							
担当者名	久米 依子							
文ジャ	2単位	春学期	火曜日	2時限	1年以上	―	合併科目	フル【対面】

授業概要

児童文学は、〈大人〉と〈子ども〉が区分されていく近代社会において成立した。この講義では欧米の児童文学の成立を確認後、明治時代の学制制定後に発生し、時代の情勢に応じて発展した日本の児童文学の軌跡を、社会の変化を踏まえながら追う。明治期には立身出世する子ども、大正期には童心主義による無垢な子ども像が主流となり、昭和期にはリアリズムの手法が取り入れられ、第二次大戦後には、より子ども読者に接近した、活発な成長する子ども像が描かれる。やがて80年代以降の社会の変容に従い、描かれる〈大人〉と〈子ども〉の関係も揺らぎ始め、児童文学は新たな表象に向けて模索し、それまで暗黙のタブーとされてきた死、いじめ、親への疑義、クラスでの孤立など、成長神話を相対化するような要素を次々と取り上げていく。しかし先鋭的作品群が生まれた後、確たる方向性が掴みにくい時代に入り、そこに、大衆的児童文化としてのライトノベルやアニメーションなど、サブカルチャーが青少年文化として隆盛する事態が重なった。現在の児童文学は、ライトノベルとの境界をふまえて考えなければならない状況を迎えている。1世紀の歴史を超えた日本の児童文学を、今後どのように考えるべきか――過去の主要作品をたどった上で、後半の授業では、今日的問題としてライトノベルとの関係に特に注目し、受講者と共に考えてみたい。
（この授業は、各国の児童文学の歴史と社会現象との関連を学ぶことで、多元的・複合的な文化の様相と構造を解明し、諸表象を分析し、人間と社会の本質に迫るという学部の理念に即します。またライトノベルのような新文化を考察することで、新しい時代にふさわしい文化を現代の課題から照らし、これまでの学問領域を越え、広領域的アプローチを実践するという学部の目標に近接しています。）

授業の到達目標

日本の児童文学の変遷と現在の青少年文化の状況を理解し、受講者自身が見解を持つことを目標とする。欧米と日本の多様な児童文化の歴史を理解し、それが新しい時代の中で変容する様相を知り、近現代の児童文化に対し見識を持つことができるようになる。

成績評価方法

●**試験** 0% 試験は行わない。
●**レポート** 70% 授業期間中の課題と、最終レポート。期間中の課題は授業をふまえて回答すること。最終レポートは授業で取り上げた日本の作家の児童文学作品を読み、どのような時代的意義があったかを授業内容をふまえて論述する。感想文ではないので注意。
●**平常点** 30% 授業で出す課題の回答状況と出席。5回以上の欠席は原則として単位不認定。出席を満たしていても、授業課題・レポートの提出状況と内容によっては単位不認定の可能性がある。
●**その他** 0% 特になし。

備考・関連URL

後半は教科書を使用した授業を行う。授業期間中に、教科書を使用して課題を出すので、教科書は必須。
また通常の課題以外に、児童文学を読んで、最終レポートを書いてもらう予定。

科 目 名	**横断文学論** ラテンアメリカ文学入門/ラテンアメリカ文学から見た世界文学							
担当者名	アスアヘアラモ マヌエル							
文ジャ	2単位	春学期	木曜日	5時限	2年以上	―	合併科目	フル【対面】

授業概要

本授業は、現代ラテンアメリカ文学を読むことを通して、日本文学など世界文学がラテンアメリカ文学にどのような影響を及ぼしてきたかを考える講義です。21世紀の世界文学研究の基礎的な論考に触れながら、20世紀に書かれたラテンアメリカ文学の短編作品を読んでいきます。
講義の前半ではホルヘ・ルイス・ボルヘス、フリオ・コルタサル、ロベルト・ボラーニョの作品を中心に読みながら、彼らが海外文学からどのような影響を受けたかについて考えます。
講義の後半ではラテンアメリカ大陸における日本文学の翻訳と受容をケーススタディとして取り上げる。日本発祥の短歌、俳句と連歌という詩型と、『源氏物語』、『おくのほそ道』『豊饒の海』『ねじまき鳥クロニクル』といった日本文学の各時代を代表する作品が20世紀のラテンアメリカという舞台でどのように読まれてきたかを読み解いていく。

授業の到達目標

海外文学読書の実践に役立つ世界文学論についての基礎知識を取得し、ラテンアメリカにおいて日本文学のイメージが辿ってきた変遷を理解してほしい。

成績評価方法

●**試験** 0% 特になし

●**レポート**　65%　　講義内容の理解を反映したレポートを与えられるテーマに沿って執筆します。
●**平常点**　35%　　出席して、積極的に授業に参加すること。
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	マイナー文学論　ジャンルとしてのマイナー文学とは何か							
担当者名	陣野　俊史							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

いわゆるメジャーな文学とは何か、という問いがすぐに浮かぶのだが、ここではまず様々な意味で「マイナー」を定義しておきたい。言語的・人種的・性的指向性あるいはジェンダー的な意味でのマイノリティを意識しつつ、そうした「文学」に目を向けたい。授業内容は以下に示す通りうだが、順番は入れ替わる可能性がある。初回の授業時に話す内容を含め、指示する。

授業の到達目標

それぞれのテーマの説明を十分に理解し、かつそこを入口にしてできるかぎりの文献から、そのテーマの真の姿を描き出すこと。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない
●**レポート**　60%　　講義を正確に理解し、自分なりにその理解を深めているか、時間をかけて丁寧に資料を読み、アウトプットできているか、最終的にそうしたことを、長く書けているか、60%という評価はそのアウトプットです。オンラインになった場合も基本的にはレポート重視です。
●**平常点**　40%　　積極的に授業に参加したか、リアクション・ペーパーなどを緻密に書いたか。平常点は、オンライン授業の場合に重視します。毎回、授業の後、数日、リアクションシートを提出する期間を作ります（通常、次の授業の前まで）。この間に講義で話したことを反芻し、幾つか調べ物をしてください。それを提出してもらい、毎回の点数とします。それの累積が「平常点評価」ということです。
●**その他**　0%　　特に定めない。

科 目 名	文学とジェンダー2　フェミニズム批評、クィア批評の展開ー社会運動、歴史的な出来事との関連を中心に							
担当者名	岩川　ありさ							
文ジャ	2単位	秋学期	月曜日	4時限	1年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

この講義では、普段の生活の中で触れているジェンダー、セクシュアリティをめぐる様々な事象を批判的に分析するための視座を身につけます。文学テクストにはジェンダーと関連した様々な力学が表象されています。これらを知るための手がかりとして、フェミニズムとクィア批評の視点をとりいれます。講義の前半でフェミニズムの歴史的な展開についてまとめます。その後、性、身体、欲望の規範的なあり方を問うクィア・スタディーズの基礎的な知識について学びます。ジェンダーの視点から、歴史的・社会的な文脈の中で、文学テクストを読み、考える力を養います。特に、フェミニズム批評、ジェンダー批評、クィア批評が、社会運動や歴史的な出来事と関連があるということについて学びます。

授業の到達目標

(1)フェミニズム批評、ジェンダー批評、クィア批評についての基礎的な知識を身につける。
(2)ジェンダーの視点から文学テクストや表象文化を批判的に読む力を養う。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　70%　　以下の2問に答えてください。
締め切り：2026年1月28日（水）23:59
wordかPDFファイルにて提出。すべての問題をひとつのファイルにまとめてください。
第1問、広義の言語芸術（小説、詩、短歌、俳句、映画、ドラマ、マンガ、アニメ、演劇、歌詞など）作品を対象として、この授業で学んだことをもとにして、フェミニズム批評、クィア批評を行なってください。作品を比較したい場合は、2つ以上をとりあげてもかまいません。
第1問では、参考文献を5つ以上調べてください。参考文献は、書籍、論文、雑誌などの書評、新聞記事などとし、まとめサイトなどは不可とします。参考文献一覧をつけてください。(3,000文字以上。40点)
第2問、以下の①から④から2つ選び、記述してください。どの問いを選んだか、「第2問　①」といった形で書いてから、それぞれに解答をしてください。 各2,000文字以上。15点×2問=30点。
①映画「パレードへようこそ」を観ました。それを踏まえ、「連帯」とは何を意味するか、映画にそくしてまとめた上で、自身の考えを書いてください。
②映画「ガタカ」を観ました。映画にそくしてまとめた上で、科学技術や生命科学の発達にともない、現代社会において必要な生命倫理について考えを述べてください。
③トランスジェンダーと物語について授業で取り上げた例を踏まえて、マイノリティと物語の関係について論じてください。
④さまざまなフェミニズムについて話をしました。ご自身が興味を持ったトピックを選び、具体例をあげながら、現代社会においてフェミニズムに何ができるか具体的に論じてください。
第2問でも、参考文献をそれぞれの問題に対して3つ以上調べてください。参考文献は、書籍、論文、雑誌などの書評、新聞記事などとし、まとめサイトなどは不可とします。参考文献一覧をつけてください。
●**平常点**　30%　　初回、最終回、映画視聴をする回をのぞく10回×3点の出席・参加を合計30%で評価します。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

・いただいたコメントは個人が特定されないかたちで紹介することがあります。質問についても、個人が特定されないかたちで、適宜、授業中に答えます。
・マイクロアグレッションやハラスメントについて初回授業で説明します。相互尊重（アサーティブ）な学びを目指し、ハラ

スメントの基礎的な知識、マイクロアグレッション、ヘイトスピーチ、アウティングなどについて学びます。それらについてしっかりと知ったうえで授業をはじめます。
以下を確認してください。
・世界人権宣言（国際連合広報センター）
https://www.unic.or.jp/activities/humanrights/document/bill_of_rights/universal_declaration/
・LGBTの権利について（国際連合広報センター）
https://www.unic.or.jp/activities/humanrights/discrimination/lgbt/
・東京大学における性的指向と性自認の多様性に関する学生のための行動ガイドライン
https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/actions/sogi.html

科 目 名	暴力と文学2　文学を通して、亡命・難民・収容所について考える							
担当者名	松永　美穂							
文ジャ	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
この授業では、人の移動と文学、というテーマのなかでも、「強制的な移動」と「強制的な滞留」、つまり自由な移動を阻まれた経験が文学にどのように反映されているか、20世紀以降の文学を中心に見ながら、個人と国家の問題について考えていきたい。

授業の到達目標
亡命や難民の体験を記した文学について知り、現代にも多く見られるそのような状況について、当事者の言葉が発話される状況について、また、それが書かれ、読まれることの意味について、考察を進めていく。基礎教養を深め、将来卒論などで取り組むテーマのヒントを見つけていく。

成績評価方法
●**試験**　50%　　最終回に教場試験の形で行う。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　毎回、レビューシートで出席を確認する。
●**その他**　0%

科 目 名	現代小説表現6　イタリア文学の流れ、これは読みたい小説5作							
担当者名	土肥　秀行							
文ジャ	2単位	秋学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
コースの前半ではイタリア文学（詩の歴史、14世紀のダンテから20世紀まで）についての概要をまず知り、後半においてイタリア統一（1961）以降の文学について、具体的に散文作5作（邦訳あり）とりあげてみていく。小説が映像化された作品（『同調者』、『生命ある若者』）も、部分的とはなるが、実際に鑑賞してみる。授業のはじめには、イタリア文学と文化に関連する「最近のニュース」を紹介することがあるl。

授業の到達目標
1. イタリア文学の流れを把握できる。2. イタリアの現代小説の代表作を知る。3. 映像化の例を通してメディア間翻訳の実際を知る。

成績評価方法
●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　72%　　『イタリアの文化と日本』第三章と、とりあげた5作品のうち1作品を読み、あわせて2000字以内で論じる。
●**平常点**　28%　　講義内容をふまえての授業後のコメント（印象に残ったこと、その理由、疑問点）
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	現代小説表現5　イスパノアメリカの文学とその背景							
担当者名	内田　兆史							
文ジャ	2単位	秋学期	木曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
イスパノアメリカと呼ばれる地域、そして広くラテンアメリカが生み出した文学作品を、そこに暮らす人びとの歴史と、その中で生まれた暮らしやメンタリティ、政治との関わりとともに考察する。
イスパノアメリカについて、まずはその成り立ちや、歴史に基づいたモザイク模様を織りなす文化を概観し、20世紀から今世紀にかけてのこの地域の代表的作家とその作品を取り上げ、それぞれの作家、作品を、地域や時代の特徴をとらえる。また、そうした文学作品をきっかけに制作された映画についても考察する。

授業の到達目標
いわゆる「ラテンアメリカ」地域を，それ以外のアメリカやヨーロッパと比較し，またそれぞれの関係をとらえられるようになり，そのうえでイスパノアメリカの代表的作家たちの意識や作品に対する理解を深める。

成績評価方法
●**試験**　0%　　行いません
●**レポート**　30%　　イスパノアメリカの文学作品に関するレポート
●**平常点**　70%　　リアクションペーパー（30%）・小レポート（40%）に基づく
●**その他**　0%　　とくにありません

備考・関連URL
授業は対面で行います。
授業を受けてリアクションペーパーを提出（リアクションペーパーはMyWaseda使用します）、200字以上

テキストの短篇を読んで感想を提出、200字以上
これが主な課題となります。
教科書（『20世紀ラテンアメリカ短篇選』岩波文庫）をなるべく早めに購入してください。

科 目 名	世界文学論　世界に介入する文学――アラブ文学を中心に							
担当者名	岡　真理							
文ジャ	２単位	春学期	月曜日	４時限	１年以上	―	合併科目	フル【対面】

授業概要

世界文学としてのアラブ文学から、私たちが生きるこの現代世界について考えます。そもそも「世界文学」とは何か？「アラブ文学」の「アラブ」とは何を意味するのか。「世界文学」にはさまざまな定義がありますが、「文学」を、「文学する」という営みと解釈するならば、「世界文学とは何か」と自らに問いかけるところから、すでに「世界文学」は始まっていると言えるでしょう。またアラブ文学を、アラブ世界で生み出される文学と定義するなら、アラブ文学それ自体がすでに、一国文学を超えた世界文学（超域文学）です。

本講義ではまず、「世界文学とは何か」について考えます。次いで、「アラブ文学とは何か」について、その複雑さを考察します。そして、いくつかのテーマに沿って、具体的な作品をとりあげながら、必要に応じて中東やそれ以外の世界の作品、のみならず映画やアートなども適宜参照しつつ、それらの作品を通して作家たちが訴える、アラブ世界における人間の生きられた経験を介して、この現代世界の相貌と、人間はいかに「世界」と切り結びながら生きているかについて考えます（ここでいう「文学」とは主に小説のことですが、詩や、映画やアートなど文学以外の作品もとりあげます）。論じる作品はアラビア語原著のものが主となりますが、可能な限り、英訳や日本語訳があるものを紹介します。

授業の到達目標

・アラブ中東イスラーム世界の歴史とそこに生きる人々の経験について知る。
・アラブ中東イスラーム世界の人間と彼らの経験について、そして、自身が生きる、この現代世界について、これまでとは異なる新たな理解をもたらす視座を得る。
・それらの視座や知を踏まえて、現代世界のありようと、そこにおける自分自身の生の意味と、自分と世界の明日について考えることができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　ありません。
●**レポート**　60%　　授業中に、みなさんに考えていただきたい問いを随時、提起します。それらの中で、自身がもっとも関心をもったものについて、具体的な作品をとりあげて論じてください。詳細は授業や Waseda Moodle 等でお知らせします。
●**平常点**　40%　　授業への積極的参加と、適宜、提出課題を課しますので、それへの真摯な取り組み。
●**その他**　0%　　ありません。

備考・関連ＵＲＬ

以下で中東現代文学研究会編『中東現代文学選2012』、『同2016』、『同2021』の内容について知ることができます。アラブをはじめ中東の現代文学作品の解題が収録されています。http://www.projectwatan.jp/publication

科 目 名	文芸批評理論１　文芸批評理論：基礎と応用							
担当者名	岩川　ありさ							
文ジャ	２単位	春学期	火曜日	４時限	１年以上	―	合併科目	フル【対面】

授業概要

この講義では、言葉によって表現された芸術を広範囲にわたり対象として、文学研究や批評を行うさいに必要な理論について学びます。そのために、文芸批評理論が発表された時代背景を知り、文芸批評理論の歴史を知ります。また、文芸批評や理論を書いた論者が何を読者に伝えようとしたのか、現代を生きる私たちが置かれている状況から紐解きます。幅広い表現を扱い、それぞれの受講者が、自身の学びに向かうための基礎的な知識や方法を身につけます。言葉によって表現された芸術は、社会や歴史との密接な関連性を持っており、文芸批評は、現代社会における諸問題との関わりにおいて、その実践を行う必要があります。自らの足場そのものを問うような実践をとおして、研究や批評や創作を行うための言葉を探し出してください。

授業の到達目標

(1)文芸研究や批評を行うための基礎的な知識を身につける。
(2)文芸批評理論を応用できるようになる。
(3)さまざまな文芸批評理論について理解し、具体的な文学テクストを分析できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　70%　　学期末レポート: 70%
締め切り2025年7月25日(金)23:59
word、PDFのいずれかのファイルで提出。＊問題ごとにファイルをわける必要はありません。
次の2問すべてに答えてください。
1、この授業では文学理論について学びました。印象に残っている理論や論者をあげて、その内容についてまとめたうえで、その理論が文学や文化の読解にどのように応用可能かについて構想を述べてください。具体的な作品などの例を示した記述、理論的な展開についての記述、現代社会の諸問題とつなげるなどの形式など、ご自身で考えて論述してください。(2,000文字以上。オーバーする分にはいくらオーバーしてもよい)
2、広義の言語芸術(小説、詩歌、マンガ、アニメ、映画、演劇、ゲームなどなんでもよい)を1つ以上とりあげ、この授業で学んだことを踏まえながらも、自由に解釈し、分析してください。その作品の意味やこの時代や社会における意義がわかるように書いてください。(4,000文字以上。オーバーする分にはいくらオーバーしてもよい)
問1、問2ともに、それぞれ、参考文献を5つ以上調べ、参考文献一覧を書くこと。参考文献は、書籍、論文、雑誌の書評、同時代評、新聞記事などとする。まとめサイトなどは不可とする。
●**平常点**　30%　　初回、第2回、最終回、映画視聴をする回をのぞく10回×3点の参加度（出席をとります）の合計30%。

●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

・いただいたコメントは個人が特定されないかたちで紹介することがあります。質問についても、個人が特定されないかたちで、適宜、授業中に答えます。

・マイクロアグレッションやハラスメントについて初回授業で説明します。相互尊重（アサーティブ）な学びを目指し、ハラスメントの基礎的な知識、マイクロアグレッション、ヘイトスピーチ、アウティングなどについて学びます。それらについてしっかりと知ったうえで授業をはじめます。

以下を確認してください。

・世界人権宣言（国際連合広報センター）

https://www.unic.or.jp/activities/humanrights/document/bill_of_rights/universal_declaration/

・LGBTの権利について（国際連合広報センター）

https://www.unic.or.jp/activities/humanrights/discrimination/lgbt/

・東京大学における性的指向と性自認の多様性に関する学生のための行動ガイドライン

＜p class="MsoNormal" style="margin: 0mm; text-align: justify;" ＜a="" fref="">https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/actions/sogi.html

講義

科 目 名	文芸批評理論2　文学作品を読んで批評を実践する							
担当者名	小川　公代							
文ジャ	2単位	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

文芸批評とは何か、また読書感想文ではない「批評」を実践するためには何が必要かといった問いをとおして文学作品を読解する。本科目では、4つの文学批評について学ぶ。1） 精神分析理論、2） ポストコロニアリズム批評、3） エコクリティシズム批評、4）フェミニズム、ポスト・フェミニズム批評、これらの理論の解説および具体的な作品解釈をとおして実践の仕方を学ぶ。

授業の到達目標

授業の到達目標は、4つの文学批評の学習と実践である。その最終的な成果物として学期末に4つの文学批評から「一つ」のアプローチを選び、具体的な作品を批評した1000〜1500字程度のレポートを提出してもらう。その準備として、ディスカッションと小テストを2回行う。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　60%　　レポート（1000〜1500字）を提出のこと。
●**平常点**　40%　　発表と出席
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

レポートで分析するテーマは学期の最初の週に決めること。作品は発表までに決めて準備すればよいが、読んで準備するためになるべく早く決めておくこと。2回行われる小テスト（記述式）では、二つの批評理論について理解したことをそれぞれ記述すること。その際に、具体的な作品を必ず一つ取り上げること。

科 目 名	イメージと批評1　写真論							
担当者名	橋本　一径							
文ジャ	2単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

※本講義は2024年まで開講されていた講義科目「写真論」（同じ教員の担当による）と内容的に重なる部分が大きいため、同科目をすでに履修したことのある人の履修はお勧めしません。

広告、グラビア、新聞、写メール……。私たちの身の回りには、さまざまな種類の写真があふれている。このように身近なはずの写真も、その本質は何なのかと、改めて問い直してみると、実は答えることが非常に難しい。同じ写真といっても、たとえばパスポートや学生証の証明写真と、火星探査機が宇宙から送信してきた画像との間に、共通点を見つけだすことは難しいだろう。このように被写体や環境の変化によって多様な姿を見せる点こそが、むしろ写真の本質なのだと言うこともできるのかもしれない。

そこで本講義は、19世紀に発明されたこの技術の、さまざまな応用例を歴史的に概観しながら、「写真とは何か」という問いに対する答えを見つけだすことを試みていく。それはすなわち、「写真」と呼ばれるものを通して、私たちが何を見てきたのかを問うことでもある。デジタル写真が隆盛を極める現代は、写真技術の歴史にとって決定的な変化がもたらされている時代である。この変化は、私たちが写真を通して見るものをも、これまでとは別の何かに変えてしまうのだろうか。写真の歴史を学ぶことで、本講が最終的に問い直すことを目指すのは、このような現代的な問いかけである。

授業の到達目標

写真史の大まかな流れを理解し、「写真」という言葉で名指されるイメージの多様性について考察を深め、その考察に基づいたレポートや写真作品を制作する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　レポートを提出してもらいます。課題や締切は授業内で指示します。
●**平常点**　30%　　コメントシート等によるフィードバックを総合的に評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	イメージと批評2　ファッション文化論							
担当者名	橋本　一径							
文ジャ	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

※本講義は2024年度まで「ファッション・モード論」として開講されていた講義（同じ教員の担当による）の内容と重なる部分が大きいため、同講義をすでに履修した人の履修はお勧めしません。

女性の身体を締め付けていたコルセットからの解放が、革命的な事件として象徴的に語られるように、ファッション・モードの歴史は、皮膚を覆っていた過剰な装飾を取り払い、「身体そのもの」へと向かおうとする流れとして要約されることが多い。しかしこの「身体」が単なる「裸」とは異なるものである以上、近代のファッションやモードが、精緻な技工を凝らしながら、限りなく「素肌」に近づこうとするという、倒錯的な動きを目指すことになるのは必然的であった。この授業では、主として18世紀末から20世紀初頭にかけてのヨーロッパにおける、ファッション・モードにまつわるトピックを取り上げながら、「身体そのもの」を目指す服飾史の流れをたどり直す。こうした流れがたどり着いた「身体」がいかなるものであったのかについての考察を深めることが、本授業の最終的な目標となる。

授業の到達目標

今日のファッションやモードを批判的に論じるための歴史的・身体論的な視座を獲得し、自分で説明できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　30%　　学期末に小レポートを提出してもらいます。

●**平常点**　70%　　毎回の授業後にMoodle上で、授業の内容に対するコメントや質問からなるコメントシートを提出してもらいます。その内容や提出状況によって成績を評価します。出席しないまま小レポートを提出することを防ぐために、毎回出席をMoodle上で取りますが、出席自体は成績評価の対象ではありません。

●**その他**　0%

科 目 名	非文字媒体論　日本とフランスのポピュラー音楽比較史　（音楽と政治）							
担当者名	陣野　俊史							
文ジャ	2単位	春学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

1980年代以降の、フランスと日本のポピュラー音楽の歴史を、「音楽と政治」という視点から捉えてみたいと考えています。80年代以降、といおう時代を区切っていますが、それ以前の時代への言及もあるかもしれません。主に扱うジャンルは、ヒップホップです。アメリカを経由しないで、どんなふうにヒップホップを語ることができるか、多くの学生は疑問に思うかもしれませんが、世界中の国では、その国独自の発展を遂げていると思うので、この音楽の浸透ぶりを、日本とフランスに限定して取り出したいと思います。なお、とくにフランス語ができる必要はありません。それから、音楽だけではその背景を存分に説明できないので、フランスの「郊外」を描いた映画もたくさん参照したいと考えています。

授業の到達目標

ラップ・ミュージックを通して、ひとつの歴史観を持つこと。あるいは、「郊外」を映画や音楽がどう表象しているのか、知見を持つこと。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません。

●**レポート**　60%　　学年末のレポートは、学期中に扱った素材をもとに思索を深めることを前提とします。基本的には、量をまず書くようにしてください。

●**平常点**　40%　　授業中にどれくらい積極的に参加したか、によって平常点を決します。

●**その他**　0%　　ありません。

備考・関連URL

毎回、授業前にレジュメをアップします。それを読み、講義を聴いて、小さいレポートを授業後に毎回、書いてもらいます。長いものではありません。これを5〜6点で採点し、それを「平常点」として扱います。期末にはそれに加えて、期末レポートを課します（これは、だいたい40点未満）。

科 目 名	日本近代文学とマスメディア1　女性とマスメディア							
担当者名	李　珠姫							
文ジャ	2単位	春学期	水曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業では、近代国家の形成期である19世紀末から、第二次世界大戦直後の1940年代末までの日本文学（特に小説）を、それらが出現したマスメディアの性格や隣接ジャンルとの関係を中心に考察します。特にこの授業では、時代ごとのマスメディアにおける女性の描かれ方と、大量出版時代における女性読者の位置づけ、および女性作家の執筆活動の問題を、新聞と雑誌、映画などのメディアを中心に考えます。

授業の到達目標

1）20世紀前半の日本文化史をジェンダーの観点から眺められるようになる。
2）文化研究に必要な批評理論と様々なアプローチ方法に慣れる。
3）論文作成に必要な調査スキールと基礎知識を身に付ける。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　20%　　学期中に提出したリーディング課題に加筆・修正を行って学期末に再提出。

●**平常点**　80%　　出席（30%）、ミニ課題（10%）、リーディング課題（40%）。

リーディング課題の担当者は、前週の金曜日までにリーディング課題（2500字程度）をMoodleへ提出します（一人一回）。

課題には、あらすじのまとめと、印象に残った二つの場面についての紹介（ページについての情報を添えること）、そしてそれについての感想と意見を含めてください。
課題を提出したうえで、授業でそれを読み上げる形で発言を行っていただきます。
●**その他**　0%

科 目 名	日本近代文学とマスメディア2　初期の東芝日曜劇場							
担当者名	鳥羽　耕史							
文ジャ	2単位	秋学期	火曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
「東芝日曜劇場」とは、1956年にTBS系列局ではじまり、2002年から「日曜劇場」と改題して、現在も続くテレビドラマ枠である。現在では連続ドラマの枠になっているが、1993年までは単発ドラマ枠であり、TBSの他、北海道放送、中部日本放送、毎日放送、RKB毎日放送、朝日放送が制作に関わった。今回は、この枠で放送されたドラマの中から、現存する最初期の12本を取り上げてみたい。この時期のドラマには、長谷川伸、平岩弓枝、安部公房、遠藤周作、寺山修司、安岡章太郎といった文学者の他、映画脚本家の白坂依志夫、新藤兼人、劇作家の秋元松代、作曲家の山本直純、林光、佐藤慶次郎、間宮芳生、浜口庫之助など、テレビ界以外の様々な人物が関わった。「愛と死をみつめて」や「天国の父ちゃんこんにちは」など実話を元にしたフィクションも人気を博し、前者はラジオドラマや映画にもなり、後者は1978年までに21作が制作されるシリーズとなった。制作局のTBSテレビ、RKB毎日放送、北海道放送は、演出家として実相寺昭雄、今野勉、久野浩平、小南武朗ら、プロデューサーとして石井ふく子、武敬子らを輩出した。大衆メディアの主役が映画からテレビに移行していったこの時期の、「東芝日曜劇場」の幅広いドラマを検証してみたい。

授業の到達目標
既存の文学史や文学観にとらわれず、テクストへの新しいアプローチを考えられるようになる。テレビドラマを分析する作業を通じ、応用可能な文学研究の基礎を身につける。

成績評価方法
●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　70%　　講義での議論を踏まえた上で、自分なりの読解ができているか。
●**平常点**　30%　　毎回の講義に積極的に参加しているか。講義内容を理解してコメントできているか。
●**その他**　0%　　実施しない。

科 目 名	現代文芸・文化論1　メディア・編集論（春）――メディア・コンテンツ・社会をリバース・エンジニアリングする							
担当者名	市川　真人							
文ジャ	2単位	春学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】ハイブリッド（対面授業実施以上）

授業概要
情報化が進んだ21世紀の社会で私たちは、それまでの「近代」よりはるかに多い情報にとりまかれるようになりました。その反面、社会のさまざまな制度設計は、いまだ数百年続いた「近代」と「ポスト近代」の移行期にあります。
ほぼ21世紀生まれのデジタル・ネイティヴのみなさんですらも、社会構造や教育あるいは社会常識とされるものや考え方等々、みなさんをとりまく環境の少なからずはいまもなお、長らく続いた「近代」の影響下にあります。
たとえばニュースひとつとっても、2020年のアメリカ大統領選挙をめぐる混乱がそうであったように、多様で相互に矛盾する情報が無数に流通するなかで、どの情報を信頼するかはそれぞれの「私」に委ねられています。
ある観点からは真偽以前に荒唐無稽に見える情報でも、別の観点からは信じて疑わないものに映ったりしますが、その根底には、近代のメディアが築いた「ニュースとは（ほぼ無条件に）信じられるものだ」という思い込みがなおあり、その盲信が異なる情報を遮断したり、自分が信じたい情報だけを信じる根拠となってしまったりします。他方、さまざまなポータルサイトやキュレーション・メディアは、そうした過渡期的な属性を利用して、各ユーザーが好む情報だけを選び出して与え、そこに広告を忍び込ませる（つまり、情報を与える目的が、表面的なものとは別の場所にある）こともあります。
そうした混迷した状況は、いずれは技術的に乗り越えられてゆくはずですが、現在のところでは、「リテラシー」という名のもと、ユーザー各自の取捨選択に委ねられています。いわば、各自に届く情報をどう「エディット」するかが、（あまりに膨大で処理が不可能なほどであるにもかかわらず）ユーザー個人に委ねられてしまっているわけです。
しかし、そのことをより根源的に考えるならば、そもそも私たちの「思考」自体が、（それが言葉によってなされる限り。そしてそのようなものを「思考」とふだん私たちは呼ぶわけですが）逃れようもなく、「他者の言葉」の「再構成」でもあります。「近代」においてもそれ以前も、私たちは無意識に、自分たちに届く情報を取捨選択し、それぞれの「世界」を認識してきました。たとえどれだけ「言葉」や「情報」が膨大化しても、そこで行われていることの原理は、かつても今日も変わりません。かつてフランスの哲学者ロラン・バルトらが強調したように、あらゆる「言葉」や「文章」は引用の織物にほかならない、そんな状況がテキストを超えて社会全般にどんどん広がっているのが現代であり、その極端かつ偏った動きが、エコー・チェンバーやフィルターバブルという名で呼ばれるようになった、ということでもあります。
そのような意味で、私たちはふだん、誰もが無意識にその行為＝エディットを行なっています。この授業では、そうした「エディット」の様態を、言葉やメディアやコンテンツ、さらには社会のいくつかの側面で観察し、多層的・多角的な視野を獲得するための入門的な講義を行います。
※本授業は教室授業（リアルタイム配信も行うハイフレックス型）を基本とし、一部オンライン（オンデマンド）授業を7回まで実施します。詳細は「備考」欄を参照してください。

授業の到達目標
・社会や文化、作品はじめ社会全体を「メディア」として分析・再構築する視点で観察し、それらがどのような構造でできているかを解像度とレイヤーを切り替えながら理解することで、より深くそして多様に理解できることを学ぶ。
・サンプルとするコンテンツや社会構造への理解をもとに、リバース・エンジニアリング的に、コンテンツや社会の設計に生かす方法について思考できるようになる。

成績評価方法
●**試験**　0%　　なし

●**レポート**　80%　　講義の理解度と、それを応用しての思考・論述力、オリジナリティなど。
●**平常点**　20%　　出席状況を参照します。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連ＵＲＬ

【履修について】
本講義は、秋学期「現代文芸・文化論2」との連続履修をおすすめします。
【実施方法について】
1．感染症対応とともに生じた社会システムの変動、ならびに授業内容も鑑み、この講義は対面ハイフレックス方式で行います。
2．原則として教室からの配信を行い、履修者は教室での対面受講とzoomでのリアルタイムオンライン受講が可能です。
3．一部の授業回（7回を上限とします）で、リアルタイムオンラインのみでの配信や。収録のうえmoodleにアップロードした動画授業、あらかじめ用意・指示した動画を授業時間外に履修者全員が視聴していることを前提とした反転形式で行うことがあります。
4．履修者は、授業の回ごとに対面受講とリアルタイムオンライン受講を選択することができますが、授業内容によって「対面受講を原則とする」「オンライン受講を推奨する」などの回があります。上記のような場合は、事前に授業内やアナウンスメントでお知らせします。
5．対面参加の場合も、コメント・チャット機能を活用した質疑やレスポンスを行いますので、端末を持参してください。
6．卒業単位への参入の規定から、オンラインでの出席は7回（教員からの指示回を含む）を上限とします。
7．各回の授業は、zoomの録画機能を用いて記録されます。欠席者は事後的に録画を参照可能です。
8．上記授業録画は、復習にも用いることができます。また今年度から試験的に、授業内容のAI要約を導入します。詳細は講義内で説明します。
9．初回授業は教室で行いますが、体調などの理由でリアルタイムオンラインでの出席を希望する人は事前にmoodleのメッセージ機能から担当教員に連絡してください。
【改正障碍者差別解消法に基づく合理的配慮について】
1．授業内容の事後的な確認が容易となるよう、録画視聴機能を使用します。再生速度調節もご利用ください。
2．授業内容を、AIによって要約した記録を試験的に提供可能です。（ただし自動生成のため、要約生成に影響しない範囲でのAIの聞き取り違いなどが多々ありますので、原則として大学の学習支援サービスを利用してください）

科 目 名	**現代文芸・文化論2**　メディア・編集論（秋）――コンテンツ構造と読者や観客による認知、そしてメタバースとAI							
担当者名	市川　真人							
文ジャ	２単位	秋学期	金曜日	５時限	１年以上	―	合併科目	フル(対面) ハイブリッド(対面授業半数以上)

授業概要

私たちの思考はつねに、逃れようもなく「他者の言葉の再構成」です。それと同時に、かつてフランスの哲学者ロラン・バルトたちも口にしたように、あらゆるテキストは「引用の織物」であり、「私の文章」「私だけの思考」などといったものは、仮にそれが存在するとしても、「引用の集積でしかない」というギリギリの認識の先に、はじめてかそけくあるにすぎません。

しかし近代の社会では、それ以前の社会と比較して、個人の「主体」を強調することが選ばれました。その結果、画一的な回答を求める一方で個性を重視するという教育の矛盾をはじめ、さまざまな場所で社会のゆがみが生じています。しかし同時に、そうした矛盾こそが、近代の社会を安定させるとともに多様で豊かなものにしてきたことも、事実です。

そうした複雑さは、コンテンツにおいても、象徴的に現れてきました。ひとつの作品を多数の人間が鑑賞する非対称な構造と、その価値や評価がメディアによって一定の流れとしてかたちづくられつつ、個人がそれぞれの感想や感情を抱くという、近代以降を生きた私たちにとっていわば自明のコンテンツ消費は、「この作品」と」「それを鑑賞する私」のあいだにある同一性と矛盾とを際立たせます。さらには、同じ作品を違う角度、違う解像度、違うレイヤーで見たときに、私たち自身に生じる感情や印象の変化にも、そうした特徴を見いだすことができます。

その全体像をつかむためには、ミシェル・フーコーが語った「作者の死」と同時に、「読者（観客）としての「私」の仮死」もいったんは受け入れなければならない。そのうえで、作者からも読者（観客）からも切り離された「変換装置」としての「コンテンツ」の独立性を見出し、そのあともういちど「作者」と「読者（観客）」について考えることで、コンテンツ全体を「メディア」として俯瞰することができます。

この授業では、コンテンツのさまざまなレイヤーにおける分割・再構成の様態を、様々な表象の実例を見てゆきます。文学・コミック・映像と複数のカテゴリーにまたがったいくつかの作品を対象に、「思考をエディットする者」としての感覚を（自覚の有無とは別に）伴って書かれた作品とそうでない作品、それぞれの特質や魅力、退屈さなどについてみてゆくほか、それらが「作品」として形成されてゆく過程、さらにはメディア化されてゆくさまと、その背景にどのようなメディアの進化や社会構造があるかなど、その一連の流れと、それらがどのようにひとつの世界を構築してゆくかについて追ってゆきます。のみならず、生成AIにおけるアルゴリズム自体に、そうした「分割・再構成」および「認識主体による意味づけ」の機構があることをふまえ、メタバースや2・5次元といった概念との連続性や、そこから再分析される「過ぎ去りし近代」と「訪れつつあるポスト近代」についても、思考を伸ばしてゆきます

※本授業は教室授業（リアルタイム配信も行うハイフレックス型）を基本とし、一部オンライン（オンデマンド）授業を7回まで実施します。詳細は「備考」欄を参照してください。

授業の到達目標

・コンテンツにおいて、作品内および作品外における様々な要素が、どのように連動して観客や読者に働きかけるかについての実例を学び、様々なコンテンツの分析と再構成を学生自身も手掛けられるようになる。
・「XR」や「メタバース」といった新規概念について、在来の文学や哲学、現象学といったジャンルとの連続性と切断を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　80%　　講義の理解度と、それを応用しての思考・論述力、オリジナリティなど。
●**平常点**　20%　　出席状況を参照します。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

【履修について】

本講義は、春学期「現代文芸・文化論1」との連続履修をおすすめします。

【実施方法について】

1．感染症対応とともに生じた社会システムの変動、ならびに授業内容も鑑み、この講義は対面ハイフレックス方式で行います。

2．原則として教室からの配信を行い、履修者は教室での対面受講とzoomでのリアルタイムオンライン受講が可能です。

3．一部の授業回（7回を上限とします）で、リアルタイムオンラインのみでの配信や。収録のうえmoodleにアップロードした動画授業、あらかじめ用意・指示した動画を授業時間外に履修者全員が視聴していることを前提とした反転形式で行うことがあります。

4．履修者は、授業の回ごとに対面受講とリアルタイムオンライン受講を選択することができますが、授業内容によって「対面受講を原則とする」「オンライン受講を推奨する」などの回があります。上記のような場合は、事前に授業内やアナウンスメントでお知らせします。

5．対面参加の場合も、コメント・チャット機能を活用した質疑やレスポンスを行いますので、端末を持参してください。

6．卒業単位への参入の規定から、オンラインでの出席は7回（教員からの指示回を含む）を上限とします。

7．各回の授業は、zoomの録画機能を用いて記録されます。欠席者は事後的に録画を参照可能です。

8．上記授業録画は、復習にも用いることができます。

9．初回授業は教室で行いますが、体調などの理由でリアルタイムオンラインでの出席を希望する人は事前にmoodleのメッセージ機能から担当教員に連絡してください。

【改正障碍者差別解消法に基づく合理的配慮について】

1．授業内容の事後的な確認が容易となるよう、録画視聴機能を使用します。再生速度調節もご利用ください。

2．授業内容を、AIによって要約した記録を提供可能です。（ただし自動生成のため、要約生成に影響しない範囲でのAIの聞き取り違いなどが多々ありますので、原則として大学の学習支援サービスを利用してください）

科目名	**出版文化論**　近代日本の出版の歩み							
担当者名	清水　智史							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本講義では、日本の近代の出版文化の歴史を文学とのかかわりから概観していきます。

明治時代に入ってから印刷技術が向上して以降、情報環境は一変していきました。新聞などのメディアの読者層は拡大し、紙面には種々雑多な企業広告が並ぶことになります。こうしたなかで小説家たちも作品を発表していきますが、そこでは、単純に「作品」を単独で自立したものとみなすことはできないでしょう。新聞連載であれば限られた紙幅でぶつ切りに作品を発表していくことになるし、企業の広告とのタイアップとなれば自由に題材を選べるわけでもありません。作品は外的な制限を受けるなかで出来しているのです。そこで、本講義では「文学のインフラ」「文学と出版資本」「消費文化と出版メディア」「戦時下の出版メディア」の4つのトピックに注目し、作品が置かれた出版の同時代的状況をふまえながら文学史を追っていくことで、出版と日本の近代文学の分かちがたい関係性を詳らかにしていきたいと思います。

授業の到達目標

文学作品の「外部」に視線を向け、作品を総合的に捉えられるようになる。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　50%　　学期末にレポート提出
- **平常点**　50%　　出席とコメントシートの記述
- **その他**　0%

備考・関連URL

授業内容、構成については受講者の人数などによって変更となる場合があります。

科目名	**翻訳文化論**　翻訳という行為についてさまざまな角度から考える							
担当者名	小野　正嗣							
文ジャ	2単位	春学期	木曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

※基本的に対面授業です。新型コロナウィルスの感染の拡大など、状況によりオンラインに切り替えることもあります。

この授業では、「翻訳」行為全般について考察します。とりわけ近現代の文学の領域において「翻訳」が果たした創造的な役割について見ていきます。

どうしても二つの言語のあいだでなされる文芸翻訳が中心的に関心の対象とはなりますが、文学作品の他ジャンル（映画など）への「アダプテーション」についても考察します。授業の基本的な構成としては、以下となります。

1）前回の授業の振り返り

2）授業担当者による講義（各回の主題についての説明）

3）各回の主題に関するグループ・ディスカッション／ワークショップ

備考・URL欄にも記載しましたが、受講者の人数や授業の進展に応じて、この構成通りにならないことがあります。

この授業は、翻訳に関するさまざまな考え方を包括的に学び、それらの違いを理解することも目的のひとつですので、すべての回に参加していただく必要があります。

ですので、以下のような方たちに受講をおすすめします。

1）文学（とりわけ海外文学）や翻訳に興味がある。

2）翻訳をすることに興味がある。

3）ある程度の長さの読書課題をいとわずに読むことができる。

4）グループでの議論を楽しむことができる（他の参加者の意見に真剣に耳を傾け、自分の意見をていねいに説明できる）。

なお、14回中のうち少なくとも1回は、ゲストを招き、日本の翻訳出版についてお話を伺う予定です。日程が確定次第、授業時間中およびMoodleにおいて詳細を掲示いたします。

授業の到達目標

1）翻訳に関する基礎的な学術的知見を獲得する。
2）翻訳という観点から、私たちを取り巻く文化作品や文化事象を考察できるようになる。
3）（よい翻訳とは翻訳であることを意識させないものであるとしても）海外文学の翻訳作品を読む際に、翻訳者の工夫を意識できるようになる。

成績評価方法

50パーセント：理解度の確認（第14回に授業教室で行ないます）。
50パーセント：授業への参加度および課題
授業の構成と性質上、授業への出席と積極的な参加がきわめて重視されます。履修者はすべての回に出席・参加することが望まれます。欠席や遅刻、消極的な参加姿勢は成績評価に深刻な影響を及ぼします。正当な理由での欠席、遅刻の場合は、証明書類の提出が求められます。
課題については、締切より一日遅れるたびに、10パーセント減点されます。提出が3日遅れた場合は受けつけません。締切に間に合わない事情（病気やご身内の不幸）が生じた場合には、Moodleを通じて至急お知らせください（事前の連絡が不可能な場合は、遅くとも締切から5日以内にご連絡ください）。

備考・関連URL

Moodleを通じて読書課題を含めた課題が提示されます。授業のスケジュールおよび各回の内容・構成は、受講者の人数や習熟度、その他の要素（公衆衛生上の問題――たとえば新型コロナウィルスのような感染症の拡大）などに応じて変更する可能性があります。
グループワークのときには、以下の点を注意してください。
・具体例にもとづく明確でていねいな説明を心がける。
・他の受講生に対して敬意を持って接し、その意見に真摯に耳を傾け、建設的な応答をする（攻撃的かつ否定的なコメントは絶対にしない）。

科目名	現代文芸・文化論3　ユートピアと性							
担当者名	草野　慶子							
文ジャ	2単位	春学期	無	フルOD	1年以上	―	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

＊本講義は2022年度までの講義「ユートピアと性」の内容を引き継いでいます。「ユートピアと性」を受講した学生は登録しないでください。
＊本講義はフルオンデマンド授業となります
本講義では、近代ロシア文学と思想を中心にいくつかのユートピア像を紹介し、そこで性愛がどう扱われているかを検討し、考察していきます。そのなかで、われわれが日頃当然のものと受けとめている、恋愛や結婚や家族のあり方について、受講者の皆さんが再考する機会を受けとってくださったら、担当者としてこれ以上の幸せはありません。
ロシア語やロシア文化に関する知識はまったく必要としません。

授業の到達目標

上記授業概要の内容について一定の知見を得ること。同時に、それを自らの生、生の表現にとって親しい主題として考えていく素地をつくること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　期末レポートを課します。講義内容の理解を前提に、受講者各人の思考の展開を見させていただきます。
●**平常点**　40%　　毎回の講義動画に関する課題が出ます。各回200字から300字の課題です。出席調査も兼ねています。
●**その他**　0%

科目名	現代文芸・文化論4　越境する女性の文学							
担当者名	草野　慶子							
文ジャ	2単位	秋学期	無	フルOD	1年以上	―	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

＊本講義は2022年度までの講義「越境する女性の文学」の内容を引き継いでいます。「越境する女性の文学」を受講した学生は登録しないでください。
＊本講義はフルオンデマンド授業となります
20世紀以降の、主として欧米と日本の女性作家・詩人たちを毎回とりあげ、その作品を読み解き、各々の詩学や文学観を考察します。
具体的には、ヴァージニア・ウルフ、シルヴィア・プラス、マーガレット・アトウッド、尾崎翠、津島佑子、松浦理英子、吉本ばなな、絲山秋子、角田光代、川上未映子、そして科目担当者の専門であるロシア語圏の女性作家と詩人　などこうした作家・詩人たちの作品を、「フェミニズム」「結婚と家族」「妊娠と出産」「共感覚」「自己表象」「皮膚」「衣装」「女性の絆」「病」「ユートピア／ディストピア」といったテーマに照らして論じていきます。

授業の到達目標

上記授業概要の内容について一定の知見を得ること。同時に、それを自らの生、生の表現にとって親しい主題として考えていく素地をつくること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　期末レポートを課します。講義内容の理解を前提に、そこからの個々の考察の展開のオリジナリティを評価します。

●**平常点**　40%　　毎回の講義動画に課題が出されます。各回200字から300字の課題です。
●**その他**　0%

科 目 名	現代文芸・文化論5　ファンタジーの源泉としての中世文学の世界							
担当者名	竹田　千穂							
文ジャ	2単位	春学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

近年、ゲーム・映画・漫画・ライトノベルなどの娯楽作品において「中世ヨーロッパ」風の世界を舞台に据えた「異世界」ものへの人気が高まっています。これらの作品でよく登場する「浄化」「聖女・聖人」「魔術」「モンスター」などの発想は、実際にはどこから来ているのでしょうか。また、中世に生きた人々も現代の私達同様に「幻想的な物語」を楽しんでいたのでしょうか。そして、それらの「ファンタジー」とはどのような物語であったのでしょうか。また、それらの物語はどのような社会背景のもとで生み出され、どのように受容されていたのでしょうか。中世フランスやイングランドに流通した文学を通して、中世世界にわけ入り、私達と似ているようで似ていない、似ていないようで似ている中世人達が紡いだ「ファンタジー」に触れ、物語ることとは何かを考察していきます。

授業の到達目標

中世文学を通して中世ヨーロッパの死生観・宗教観・女性観に親しみ、西洋中世の時代精神を理解すること。
創作活動に新たな題材や視点を加えること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　講義内容を踏まえて、授業の中で取り上げた作品を読了の上、学期末にレポートを提出していただきます。（テーマは教場で指示します。）
●**平常点**　50%　　出席（3分の2以上）、作品の読了・読解
●**その他**　0%

備考・関連URL

授業計画は受講者数や興味に応じて一部変更になることがあります。
5回以上の欠席は単位取得となりませんのでご注意ください。

科 目 名	現代文芸・文化論6　文芸・ジャーナリズム論系オムニバス講義							
担当者名	市川　真人　他／アスアヘアラモ　マヌエル／岩川　ありさ／岡　真理／小野　正嗣／菊池　有希／草野　慶子／小松　史生子／十重田　裕一／橋本　一径／松永　美穂							
文ジャ	2単位	春学期	水曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

文芸・ジャーナリズム論系の教員11名によるオムニバス講義。それぞれの教員が現代文芸・文化に関するそれぞれのテーマ、たとえばいまもっとも関心を持っている事柄について、継続する研究主題について、あるいはきわめて現代的と思われるテーマについて、講義を行います。文芸・ジャーナリズム論系を進級先に考えているみなさん、文芸・ジャーナリズム論系に進んだ2年生のみなさんには、とくにおすすめしたい講義ですが、もちろん、文化構想学部と文学部のすべての学生に開かれた内容をもつ講義です。現代のさまざまな政治・社会問題への視座を含んだ文芸・文化論の講義です。私たちの生の諸相についての考察に、この講義は接続されています。

授業の到達目標

現代文芸・文化に関する基礎的な知見を獲得するとともに、それを深化させること。履修後に受講学生が各々の学問的課題を発見し、その課題に着手するための手段を発見すること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　期末レポートを課します。各教員がレポート課題を示しますので、そのなかから1つの課題を選択し、レポートを提出します。
●**平常点**　30%　　各回の講義で、講義の感想を記して、提出していただきます。これは出席調査も兼ねるものです。
●**その他**　0%

科 目 名	応用倫理学							
担当者名	村松　聡							
人間	2単位	春学期	月曜日	4時限	1年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

倫理的な問題にはどんな問題があるのか、皆さんが一度は聞いたことがあるトロッコ問題など、
身近な問いから、どのような問い、どのような考え方があるのか、紹介します。
たとえば、自己愛は倫理に反するのか、悪いことしかできないときどうすればいいのか、
死刑をどう考えるか、などの私たちを悩ます根本的な問題を取り上げていきます。

授業の到達目標

現実に問題にぶつかったときのため、広い視野、重層的なものの見方を養い、
的確な判断ができる倫理的な視点を形成することが目的です。
多岐にわたる応用倫理学の問題に触れることで、倫理学のさまざまな分野の知識、
洞察へのオリエンテーションをつけます。

成績評価方法

試験：100パーセント　期末の試験で決まります。ただし、出席が足りない場合は、試験を受けることができません。

備考・関連URL

出席は3分の2以上していることが基本です。

授業は対面で行いますが、状況によってハイブリッドで行う場合があります。
先立つ週に前もって、 Moodleでお知らせしますので注意してください。
細かい説明は、最初のイントロダクションの際に行います。
最初のイントロダクションの授業と、最終回の理解度の確認（教場での試験）は
対面で行いますので、そのように準備してください。

科 目 名	哲学的人間学　生き方の倫理学							
担当者名	立花　幸司							
人間	２単位	春学期	無	フルOD	１年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

この授業では、「人生」や「生き方」を切り口に、倫理学の諸理論やその展開を学んでいきます。とりわけ、義務論や功利主義と対比される徳倫理学の考え方を学びながら、科学・技術が発達した現代に生きる私たちにとっての「生き方」について検討します。

授業の到達目標

（1）倫理学の三大理論である義務論・功利主義・徳倫理学について学ぶことで、倫理学の基本的な知識を得ること、また、（2）その知識を用いて、「人生」や「生き方」に関する諸問題を自分なりの視点から解きほぐすことが出来るようになること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　授業内で提示される課題の提出率および提出された課題の出来に基づいて評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	公共性の哲学思想　公共性再考							
担当者名	浜野　喬士							
人間	２単位	秋学期	水曜日	２時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

・公共性の問題は、哲学、倫理学、社会思想等の各領域において、この数十年、非常に重要な問題として扱われてきた。それは近年各国で見られる民主主義の動揺、グローバル資本主義の圧倒的席巻、移民・難民問題の深刻化という事態を前に、深刻の度を増している。本講義ではこうした今日的現象を、広く思想的な観点から再考するために、そもそも公共性とはどのようなものとして位置づけられるのかを再定義してみようと思う。その作業は参考となる哲学者の基礎的な文献を辿り、問題への手がかりを探す、というものになるだろう。主要検討対象としては、ホッブズ、ロック、ルソー、カント、フィヒテ、ヘーゲルという線から、マルクス、ブロッホ、オルテガ・イ・ガセット、ジェイムズ、アーレント、ハーバマス、ロールズ、ローティといった系列が中心になるだろう。
・難しい問題を、できるだけ平易に扱ってみたいと思います。
・相手の論理に付き合う、という態度さえあれば問題ありません。相手の論理に付き合う、とは、一読したとき、今日を生きる我々にはなじみがなく、その思想がどんなに奇異に感じられたとしても、たとえばフィヒテにはフィヒテの、ブロッホにはブロッホの一貫した理屈があるのだろう、と信じ、それに付き合ってみる、という姿勢のことです。自分に腑に落ちる腑に落ちない、ではなく、まずは客観的に読んでみる、という姿勢ともいえます。

授業の到達目標

・公共性の問題を、哲学的な観点から立体的に省察するための批判的思考力を養う。

成績評価方法

●**試験**　70%　　最終回に理解度の確認を行う。
●**レポート**　0%　　実施しない。
●**平常点**　30%　　毎回レビューシートを配布する。レビューシートの一部は授業の冒頭で紹介し、それにこちらで応答していく。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連ＵＲＬ

担当教員の学術上の略歴については下記を参照のこと。https://researchmap.jp/read0158434

科 目 名	論理的思考法　考える・伝えるための論理的思考法（ロジカルシンキング）							
担当者名	小関　健太郎							
人間	２単位	春学期	水曜日	３時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業では、論理的に考え、それをさまざまな仕方で表現する力を高めることを目指します。
論理的に考えるための基本的となる概念を丁寧に学び、論理的な分析・読解力と表現力を身につけることは、文章や他者の意見を理解し吟味することや、レポートや論文で論理的な文章を書くことにも役立ちます。
授業は『新版 論理トレーニング』（野矢 茂樹著）を教科書として、講義の内容を教科書で復習することで同書を最後まで通読できるように進めます。（講義では教科書外の内容も適宜扱います。）
また、応用的な内容として、図や表を用いた論理構造の分析、日常やビジネスの場面における論理的なコミュニケーションや問題解決の実践についても最後に取り上げる予定です。
各回の時間配分は、講義50分、演習（もしくは人数に応じてディスカッション）50分を想定しています。

授業の到達目標

・論理的な考え方の基本となる諸概念を理解し、議論や文章の構成において実践的に活用できる。
・議論や文章の論理的な構造を把握し、論証としての正当性を評価できる。

（ディプロマ・ポリシーとの関連：基礎教養を深める）

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　60%　　学期後半に課題を提示します。論理的思考に基づく読解力と表現力の観点から評価します。
●**平常点**　40%　　一部の回を除き、指定した練習問題を解いて次回までに解答を提出してもらいます。授業内容の理解度の観点から評価します。
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	論理学							
担当者名	山崎　紗紀子							
人間	2単位	秋学期	火曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

論理学とは、正しい推論についての考察を行う学問です。論理学を学ぶことで「どのような推論が正しいのか」を判定する力、さらには、論理的に考える力を身につけることができるようになります。論理学を通じて身につけた力は、他の学問分野について学ぼうとする際にも役に立つはずです。この授業では、証明論と意味論という二つの異なるアプローチに基づいて、自然演繹・シークエント計算などを中心に、主に命題論理と述語論理について学びます。

授業の到達目標

結合子と日本語との対応づけを行うことができる。
それぞれの体系等の証明などを構成する力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　100%　　15週目の定期試験日に実施します。授業の内容全般についての理解度を評価します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

備考・関連URL

特別な予備知識は仮定しないので、積極的に学ぶ意欲のある学生の参加を期待します。

科 目 名	コミュニケーション論　個人化する社会における人間関係							
担当者名	石田　光規							
人間	2単位	秋学期	月曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

現在の社会はとりわけ「個人」を重視する。「個人」を重視する傾向は、円滑な人間関係と時に鋭く対立する。この講義では、人びとの人間関係およびコミュニケーションがどのように変わりつつあるのか、具体的事例を用いながら解説してゆく。そのさい、学術的な理論を基礎に、現在公開されている統計データおよび映像から日本社会の人間関係の実情を学んでゆく。

授業の到達目標

対人的なコミュニケーションといったミクロな視点ではなく、マクロな視点から私たちの人間関係および生活空間を捉えなおす。

成績評価方法

●**試験**　0%　　とくに実施する予定はない
●**レポート**　60%　　期末レポート
●**平常点**　40%　　授業内課題、出席状況
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	大人のこころ（発達心理学）　人生の後半を見渡す							
担当者名	小塩　真司							
人間	2単位	秋学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

従来、発達心理学は青年期以降を発達的変化の「完成」とみなし、生まれてからその「完成」に向けての変化を追究する心理学の研究領域であった。しかし現在では、人間の平均寿命の伸びとともに、生まれてから成長し、老い、死に至るまでの発達的変化を研究の対象とするようになっている。また「生涯発達心理学」と呼ばれるように、従来は「乳幼児心理学」「児童心理学」「青年心理学」など時期による研究の区分が行われてきたが、現在では人生の一連の変化を統合的に捉えようと試みられてもいる。

この授業では、この生涯発達心理学的な視点に立ちつつ、特に青年期以降から成人期、老年期にかけての人間の発達に注目する。この講義は，すべての回をオンデマンドで行う。Waseda Moodleに書かれた指示をよく読み，指示に従って受講すること。

授業の到達目標

人間の発達について幅広い視点を持ち，統合的に理解することができる
人と情報が地球規模で交流し，文化が複雑に絡まりあい，多面的な様相がみられる時代を生き抜くための幅広い教養を得る

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　40%　　毎回の講義受講後に小テストを実施し，感想や疑問、質問を提出する。
●**その他**　60%　　Waseda Moodle上で最終試験を実施する。詳細は授業内で指示する。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	人間の発達と進化　進化心理学入門							
担当者名	福川　康之							
人間	２単位	秋学期	金曜日	３時限	２年以上	―	合併科目	フル【対面】

授業概要

個としての人の発達と種としてのヒトの進化との結びつきについて，国内外の研究成果を紹介しながら論じていく．

授業の到達目標

「適応」という概念を理解し，自身の考えを深めることができるようになる．また，自身の考えを他者に説明することができるようになる．

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　22%　　講義スケジュールのなかで小レポートを課す．
●**平常点**　78%　　毎回（小レポート回を除く）授業時間内に提示するテーマに沿ったリアクションコメントを提出してもらいます．出席回数が10回に満たない者は，成績評価の対象外とします．
●**その他**　0%

備考・関連URL

基本は対面授業だが，時にオンライン授業となる場合がある（事前に連絡します）．
授業の性質上，ときに性別，年齢，人種，障害などの形態学的・心理行動的差異に関する話題を取り上げることがあるので，気になる学生は受講を控えてください．
就学上の困難が懸念される場合は，「合理的配慮」に関して大学事務に相談してください．

科 目 名	障害学　ディスアビリティ・スタディーズ							
担当者名	岡部　耕典							
人間	２単位	春学期	無	フルOD	１年以上	オープン科目	合併科目	フル［オンライン］フルオンデマンド

授業概要

障害（disability）とは、その人の心身の機能や能力の問題ではなく、社会との関係のなかで立ち現れる「できないこと（dis-ability）」である。そのように考えるとき、「障害をもつ人（person with disability）」は、差別や偏見や配慮の欠如を含む社会環境によって不利益が集中し、「できなくされている人（disabled person）」としてたちあらわれる。障害学（disability studies）とは、このような「障害の社会モデル」の考え方を手掛かりとして、障害をめぐる既存の知を問い直し、私たちの新たな生き方や現代社会の別の在り方の提示をめざす知の体系である。

本年度は、まず、障害の概念、そして障害の在る人たちが抗いつつも支えられる福祉制度や政策の概要やその歴史について概観する。障害者権利条約が求める差別禁止の射程はその焦点となるだろう。さらに当事者の語りを聴き、その助けも借りつつ、〈施設〉ではなく地域で自律／自立して生きて暮らすために必要な「新たな福祉のかたち」について検討する。

最終的に本講義がめざすのは、障害（できない／できなくされること）について知り／考えることを通じて、差別・人権・支援・共生・再分配をめぐる現代社会の閉塞と私たちひとりひとりの生き方の窓をひらくことである。

・障害の社会モデル／障害学
・障害者権利条約／差別禁止の射程
・障害当事者の語りを聴く
・障害が在って、生きて／働き／アートすること
・障害福祉の歴史／施設（total institution）という問題
・障害者総合支援法と区分され規律される「自立」
・障害者運動／自立生活運動の実際
・〈支援〉はそもそもズレている　―知的障害／自閉の人たちの自律／自立生活
・「発達障害」という記号
・脱病院と精神科医療
・ALSと「尊厳死」
・障害者と「感動ポルノ」

授業の到達目標

障害（できない／できなくされること）について知り／考えることを通じて、差別・人権・支援・共生・再分配をめぐる現代社会の閉塞と私たちひとりひとりの生き方の窓をひらく。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　期末レポートにより評価する
●**平常点**　40%　　Moodleレビューにより評価する
●**その他**　0%

備考・関連URL

・本講義は、**毎週火曜日**を視聴開始日とする**フルオンデマンド講義**である。
・レビューの投稿締切は初回を除き**その週4日後の金曜日**となる。
・出席はレビューの提出と映像の視聴・資料のダウンロードで確認する。
・質問はMoodleのメール機能を使って随時応答する。
岡部耕典研究室　https://k-okabe.w.waseda.jp/

科 目 名	生命倫理							
担当者名	村松　聡							
人間	２単位	秋学期	火曜日	３時限	１年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

生命倫理は、急速な生命科学の発展、とりわけ、遺伝子の解明、再生医療の進展によって、
20世紀後半から大きなテーマとなってきた分野です。
この講義では、安楽死問題、妊娠中絶、遺伝子操作など生命倫理の諸問題を取り上げ解説します。

授業の到達目標

目標は二つあります。生命倫理の諸問題についてオリエンテーションをつけることが第1の目標。
倫理的な問題に対してどのように議論を行っていくのか、その作法を実際の議論から理解することが第2の目標。

成績評価方法

成績は一回の試験で決定しますので、注意してください。
出席は3分の2以上していることが基本です。出席が足りない場合、試験を受けることができません。

備考・関連ＵＲＬ

受講人数が多い場合、教室、試験の関係から、受講制限を行うことがあるので、必ず、最初の回出席してください。
（受講制限する場合、最初の回に出席していない学生は受講資格対象外となる可能性があります。）
授業は対面で行いますが、状況によってハイブリッドで行う事もあります。
その場合、先立つ週に前もってMoodleでお知らせしますので注意してください。
細かい説明は、最初のイントロダクションの際に行います。
最初のイントロダクションの授業と、最終回の理解度の確認（教場での試験）は、必ず対面で行います。
出席が2／3に達しなかった場合、レポートを書くことで認めるといった例外はありません。

科 目 名	個性の発達と差異　我々はこころの個人差をどのように捉えるのか							
担当者名	小塩　真司							
人間	２単位	春学期	無	フルOD	１年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

人々は互いに異なる存在であり，それぞれに個性がある。しかしその「個性」をどのように捉えるのかを考える機会は多くはない。たとえば，人が自分や他者を評価する際には，どのような評価軸で見るのだろうか。また，その評価軸は時代や文化によってどのように変化するのであろうか。さらにその評価軸を「良い」「悪い」と判断する際に我々はどのようなことを考えるのであろうか。以上のことを踏まえこの授業では，個性の捉え方に関して，(1)個人差の捉え方についての考え方，(2)個人差の測定方法，(3)個人差把握の歴史，(4)個人差把握の先入観と実際，について講義を行う。心理学，特に個人差を扱う「パーソナリティ心理学（性格心理学・人格心理学）」と心理的な発達を扱う「発達心理学」の研究に立脚しつつ，歴史や社会状況も考慮しながら論じる。本講義はすべての回をオンデマンド方式で実施する。Waseda Moodleの指示をよく読み，毎回の授業を受講すること。

授業の到達目標

人間が自分や他者をどのように捉えるのか，またその歴史的変遷がどのようなものであるのかいついて理解することができる
人間の物事の捉え方，望ましいあり方についてメタ的な視点から考えることができる
人と情報が地球規模で交流し，文化が複雑に絡まりあい，多面的な様相がみられる時代を生き抜くための幅広い教養を得る

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　40%　　毎回の授業において出題される小テストと提出された感想を評価の対象とする。
●**その他**　60%　　Waseda Moodle上で最終試験を実施する。詳細は授業内の指示に従うこと。

備考・関連ＵＲＬ

小塩研究室：https://oshio.kinsta.cloud
本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	情報社会論　メディアの現在・過去・未来							
担当者名	辻　泉							
人間	２単位	秋学期	月曜日	４時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

情報化社会と言われる今日、インターネットやスマートフォンなどに代表される新たなメディアの普及が進み、メディアに対する社会的関心は、ますます高まっている。この講義では、これらの新しいメディアから、これまでの古いメディアにいたるまで、メディアに関するさまざまな現象を社会学的に考えていくことを目的としている。

我々が日々接するメディアに関心を向けることからスタートして（"現在"）、そうしたメディアやそれにまつわる主な研究の歴史を振り返りつつ（"過去"）、これからのメディアについても考えていきたい（"未来"）。

授業の到達目標

この講義では、メディア論について学ぶことを目的とするが、特に、メディアを「なんとなく使う」、あるいはメディアに「使われてしまう」のではなく、各自が主体的にメディアを「使いこなせるようになること」を最終目標としたい。そのためには、①どんなメディアにも「功罪」があることに気づくこと、②そしてそれがこれまでの社会にどのように影響してきたのかを知ること、が重要である。そしてその上で、③これからどうすればよいのか、という点について、自分自身の考え方を展開できるようになってほしい。

成績評価方法

●**試験**　90%　　第14回目の授業時間中に論述式の試験を実施する予定です。

●**レポート**　0%　　.
●**平常点**　10%　　授業後に、毎回コメントを提出してもらい、優れたものについて加点をする予定です。
●**その他**　0%　　.

備考・関連URL

授業後に提出されたコメントについては、次回授業の冒頭で、優れたものを中心に適宜紹介し、フィードバックを行う予定である。

なお、講義中の私語やスマホ・携帯電話の使用などは、他の学生の迷惑になるので厳禁。また講義では板書を多用するが、スマホなどを用いてのその撮影も厳禁。

受講生数など、開講後に明らかになる諸事情によって、授業の予定などが変更されることがある。

科 目 名	発達障害の心理臨床							
担当者名	池田　吉史							
人間	2単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

発達障害の心理臨床に関する理論とその応用について講義します。注意欠如・多動症、自閉スペクトラム症、限局性学習症等を取り上げ、子どもの発達の多様性を踏まえた支援アプローチについて基礎的理解を得ることを目的とします。

授業の到達目標

包括的なアセスメントの視点とそれに基づいた支援方法を理解するとともに、背景にある発達観や障害観について考察を深めることを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません。
●**レポート**　60%　　期末レポートとして、講義の内容を踏まえて、自分で新たな文献を探し、まとめてもらいます。自分が興味を持ったトピックについて、体験や主観レベルの理解で終わらず、先行研究を吟味して論理を展開できるかどうかを評価します。
●**平常点**　40%　　リアクションペーパーにより、授業の理解度、着眼の鋭さを評価します。
●**その他**　0%　　特にありません。

科 目 名	福祉社会論　ケアと再分配の新たなかたちのために							
担当者名	岡部　耕典							
人間	2単位	秋学期	無	フルOD	1年以上	オープン科目	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

市場経済至上主義・新自由主義の進展と医療や社会保障の財政危機が喧伝されるなかで、格差や社会的排除、貧困の拡大とケアと再分配をめぐる政策のほころびが顕在化している。

本講義では、まず閉塞する〈福祉国家〉の現在を確認する。医療・福祉・労働の領域における現代社会の課題を概観し、ケアや政策を読み解く理論や思想への架橋を試みる。そのうえで、〈当事者〉概念を手掛かりとしつつ、「援助の対象者」としてまなざされる人々の生と主体性の視座からケアの政策と実践をとらえ直していく。

このような営みを通じて最終的にめざされるのは、社会の多様な構成員にとって望ましい社会／世界の在り方とバルネラブルでプレカリアスな生に寄り添う〈新たな福祉のかたち〉の構想である。

・「福祉国家」の閉塞／「健康と医療」の政策と理論
・〈ソーシャルワーク〉の脱構築／臨床の場とケア社会問題と社会政策
・福祉政策／福祉社会のアポリア／「新たな福祉のかたち」を求めて
・ニーズとはなにか？／必要の社会的構築／ケアの自律
・ベーシックインカムと分配する最小国家

授業の到達目標

福祉社会の現在進行形について学び、そのあるべき姿を構想する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　期末レポートにより評価する
●**平常点**　40%　　Moodleレビューにより評価する
●**その他**　0%

備考・関連URL

・本講義は、**毎週火曜日**を視聴開始日とする**フルオンデマンド講義**である。
・レビューの投稿締切は初回を除き**その週4日後（金曜日）**となる。
・出席はレビューの提出と映像の視聴・資料のダウンロードで確認する。
・質問はMoodleのメール機能を使って随時応答する。

岡部耕典研究室　https://k-okabe.w.waseda.jp/

科 目 名	セクシュアリティの社会学　性愛とポルノグラフィへの社会学的アプローチ							
担当者名	服部　恵典							
人間	2単位	春学期	木曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

誰かを好きになること、誰かと性的関係を結ぶこと、あるいは独りで性的妄想に耽ること……これらは極めてプライベートで、個人的な事柄のように思えます。しかし、性や愛、ジェンダーやセクシュアリティは社会的な構造と密接に関わり、歴史や国が違えば様々なかたちがあります。本授業はこうした社会学的な立場から、フェミニズムやクィア・スタディーズの基礎を理解し

ていきます。 ジェンダー・セクシュアリティ研究の多様なトピックのなかでも、性的マイノリティ、親密性、性表現などを中心的なテーマとて扱います。

授業の到達目標

①ジェンダーやセクシュアリティに対する社会学的アプローチが、生物学・心理学・経済学・哲学など他の学問領域の何を引き継ぎ、何を批判してきたのかを理解すること

②ジェンダーやセクシュアリティが、一見して個人的でも社会構造の影響を受けて構築されたものであると学び、「自己」の性を相対化した視点で捉えられるようになること

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 70% 授業内容を踏まえて、いくつかの小問からなる、3,500字程度のレポートを執筆してもらう予定です。
●**平常点** 30% 毎回の授業の終わりにリアクションペーパーを記入してもらいます。
●**その他** 0%

備考・関連URL

・授業計画・内容は授業の進捗状況、受講生の理解度・興味関心によって変更する場合があります。
・ポルノグラフィや性的に露骨なコンテンツも、セクシュアリティ研究の重要なテーマとして授業中に扱います。それと呼ばれるような画像・映像は使用しない計画ですが、それでも人によっては極めて不快に感じる場合があることをご了承ください。
・論理的な質問や批判は歓迎しますが、意図的な差別発言を繰り返す受講者がいた場合、他の受講生の履修の権利を侵害する可能性があるため、退席を求める可能性があります。
講師連絡先：kd-hattori@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

科 目 名	クィア・スタディーズ入門							
担当者名	井芹 真紀子							
人間	２単位	秋学期	水曜日	５時限	１年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

本演習では、ジェンダーやセクシュアリティをめぐるさまざまな規範に対して批判的介入を行ってきたクィア・スタディーズという学問領域が、どのような社会的背景から、どのようなテーマを、どのような視点によって論じてきたかを包括的に学ぶ。クィア理論における中心的な論点を学修し、それらを用いて具体的な文化的・社会的事象について批判的に考察するための視座を養う。

演習を通じて、クィア・スタディーズの「広領域的・学融合的アプローチ」（ディプロマポリシーより）を学び、社会や文化を理解する上で欠くことのできないジェンダー、セクシュアリティに関する議論を適切に理解するための学問的基礎を身につける。

授業の到達目標

・ジェンダー・セクシュアリティに関する議論を理解する上で必要となる、基本的な用語や概念、トピックを理解する。
・ジェンダーやセクシュアリティについて議論を行う際に不可欠な基本姿勢と批評的アプローチを身につける。
・クィア理論が展開してきたさまざまな批評実践を、それぞれの歴史的・社会的文脈に位置づけながらその意義を正確に理解する。また、それらの視座を適切に用いて、現在のジェンダー・セクシュアリティをめぐる社会的・文化的事象について批判的に分析・考察することができるようになる。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 50% 期末レポート
●**平常点** 20% 全14回の授業の3分の2以上に出席がない場合、成績評価の対象外となります。
●**その他** 30% 小テスト

備考・関連URL

・本演習は、ジェンダー・セクシュアリティに関する議論の学修を目的として、多くの性的なイシューや表現を扱い、論じるものであるため、履修の際は十分に留意すること。
・授業中（moodleの投稿等も含む）、意図的に差別発言を繰り返す・嫌がらせを行うなどの悪質な言動を、講師の警告を受けてもなお続ける受講者がいた場合、退室を求める、あるいは授業への出席を認めない可能性がある。その場合、授業の単位は与えられない。
・授業内容については、履修者の人数などに応じて進度や内容、成績評価の割合が多少変更される可能性がある。履修希望者は必ず初回授業に出席すること。

科 目 名	心身論 心と身体の心理学とウェルビーイング（健康と幸福）							
担当者名	宮田 裕光							
人間	２単位	春学期	無	フルOD	１年以上	オープン科目	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

現代においては、SNSによるコミュニケーションやAI（人工知能）、ビッグデータ、ICT、IoT などの科学技術が発達し、私たちを取り巻く人間関係や社会との関わり方が急速に変容していますが、その一方で、ストレスやトラウマによる精神疾患、医療と健康、ジェンダーなどをめぐる心の問題も多様化、複雑化しています。このような時代の中で、人間の心と身体の関係やあり方はどのように捉えられ、また私たちは心身のウェルビーイング（健康と幸福）とどう向き合っていくべきでしょうか。

本講義では、臨床心理学、認知心理学、生理心理学、脳神経科学、哲学などの幅広い学問分野を基礎から概観しつつ、心と身体にかかわる現代の諸問題についての見取り図を提示します。またそれらに基づいて、心身とそのウェルビーイング（望ましいあり方）についての統合的、調和的な見方を科学がどのように創りあげていくべきか考えます。

本講義は、全回フルオンデマンド授業として実施します。具体的には、表情、呼吸や対人空間などの身近な心身の問題や、ストレス低減やうつの予防、心理的健康や幸福の増進に役立つとして近年注目を集めているマインドフルネス、感情・情動と身体をめぐる心と脳の科学、東洋と西洋の心身観などを紹介します。また授業内で、3分間瞑想やマインドフルネスなど、いくつか

の実践を実際に体験する機会も提供します。これらを通して、ストレス管理や心身の健康など、日常生活にも応用できる実践の基礎的理解を得ることを目指します。いずれも予備知識は必要とせず、初めてでも学習、参加できる内容とします。

授業の到達目標

（1） 心と身体にかかわる主題について、心理学、脳神経科学、哲学などを含む幅広い学問分野の視点から、基礎的な知識と理解を得る。

（2） マインドフルネスや瞑想などの実践技法について、各自の日常生活にも活かせるように、基本となる内容を体験する。

成績評価方法

●**試験** 0%　なし

●**レポート** 30%　期末レポート課題を課します。課題内容は開講期間中に授業内で指示します。

●**平常点** 70%　毎回の授業において小レポートを課し、出席記録を兼ねます。授業実施回の2/3以上の出席を成績評価の前提とします。

●**その他** 0%　なし

備考・関連ＵＲＬ

本講義は、すべてWaseda Moodleによりフルオンデマンド形式で実施します。授業の進め方や課題など、必要な点はWaseda Moodleから履修者の方に周知しますので、周知内容をよく確認してください。

本講義の関連内容をさらに学習する意欲のある方には、講義「生活世界と身体」（秋学期）、講義「現代人の身体」（春学期）、現代人間論系演習（心身の健康と幸福）（春学期）、現代人間論系演習（身体の実践と科学）（秋学期）、現代人間論系演習（ボディワークの理論と実践）（春学期）などと合わせての履修を推奨します。

研究室HP：https://miyata-lab.labby.jp/

教員紹介： http://www.waseda.jp/gendainingen/miyata.html
https://www.wasedapsychology.jp/teacher.html

科 目 名	**生活世界と身体** 心と身体の実践と科学							
担当者名	宮田　裕光							
人間	２単位	秋学期	無	フルOD	１年以上	オープン科目	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

現代においては、SNSによるコミュニケーションやAI（人工知能）、ICT、IoT などの科学技術、情報技術が発達し、私たちを取り巻く人間関係や他者、社会との関わり方が多様な変容を遂げていますが、私たちは自身はやはり生身の身体を持ち、生活世界を日々生きる存在です。心と身体の多様なあり方から人間を統合的に捉え、私たちの健康と幸福（ウェルビーイング）を考える試みは、ますます重要性を増しているといえます。

本講義は、全回フルオンデマンド授業として実施します。まず前半では、主に東洋のさまざまな身体的実践（ボディワーク）について紹介します。具体的には、武道・禅・マインドフルネス、整体・マッサージ・東洋医学、ヨガ・瞑想、天台宗比叡山、断食（ファスティング）・自然食、笑いの体操などの具体的内容を、ビデオ映像も交えて説明し、それらに底流する心身観について考えます。講義後半では、脳と心、身体に関わる心理学や脳神経科学の研究を紹介するとともに、実践と科学を統合する視点について考察します。さらに、こうした心身の研究が心理学、哲学、医学、生命科学、健康観など、さまざまな学問分野にも関連、影響する可能性について、発展的に展望します。

心と身体の研究は、複数の学問分野を横断する学際的な性質を持っています。そのため、本講義では、心理学、生命科学、東洋医学、脳神経科学、哲学など、さまざまな分野の知見を取り上げます。これらのいずれも、予備知識は必要とせず、初めてでも学習、理解ができる内容とします。また、日常生活にも活かせる実践的、学術的知識を提供したいと思います。

授業の到達目標

（1）主に東洋のさまざまな身体的実践の内容を具体的に知り、日常生活にも活かすことができる。

（2）心理学や脳神経科学からの心と身体についての知識、理解を深める。

（3）心と身体とそのウェルビーイング（健康と幸福）に関連する主題について、幅広い学問分野の視点から展望できる。

成績評価方法

●**試験** 0%　なし

●**レポート** 30%　期末レポート課題を課します。課題内容は開講期間中に授業内で指示します。

●**平常点** 70%　毎回の授業において小レポートを課し、出席記録を兼ねます。授業実施回の2/3以上の出席を成績評価の前提とします。

●**その他** 0%　なし

備考・関連ＵＲＬ

本講義は、すべてWaseda Moodleによりフルオンデマンド形式で実施します。授業の進め方や課題など、必要な点はWaseda Moodleから履修者の方に周知しますので、周知内容をよく確認してください。 本講義の内容は、講義「心身論」（春学期）と連動し、応用、発展させたものと位置づけられますが、どちらかの事前の履修は必須ではありません。

本講義の関連内容をさらに学習する意欲のある方には、講義「心身論」（秋学期）、講義「現代人の身体」（春学期）、現代人間論系演習（心身の健康と幸福）（春学期）、現代人間論系演習（身体の実践と科学）（秋学期）、現代人間論系演習（ボディワークの理論と実践）（春学期）などと合わせての履修を推奨します。

研究室HP：https://miyata-lab.labby.jp/

教員紹介： http://www.waseda.jp/gendainingen/miyata.html
https://www.wasedapsychology.jp/teacher.html

科 目 名	**現代人と居場所** リスク社会における心の拠り所							
担当者名	寺田　光成							
人間	２単位	春学期	月曜日	１時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

スマホを眺め、イヤホンを装着さえすれば、目の前の現実から距離を取り、快適な個人空間を作り出すことができる。ときと

して、目の前の事象に対して無関心でいる（ふりをする）ことも容易になった。
　このような個人快適化・最適化は近年急速に進行し、集団性・共同性といった旧来の価値観を否定しながら、多様性と技術革新とともに浸透し、「自分らしく生きる」社会の実現を後押ししてきた。しかし現在、我が国は孤独大国となり、むしろ不安に苛まれ、過度な自己実現に息苦しさを感じる状況が生まれている。個人の内面的な課題が膨れ上がるだけでなく、集団性・共同性の喪失により、地域の関係や慣習が失われ、多様な課題が山積している。
　本講義では、リスク社会における現代の諸課題とともに、現代人のWell-beingを支え、心の拠り所となる「居場所」について理解を深める。子どもや若者の居場所に焦点を当て、社会科学・空間計画学・運動生理学の知見と実践事例の紹介、双方向的なワークショップやグループディスカッションを通じて、受講生一人ひとりが自身の価値観を相対化し（学びほぐし）、独自の居場所観を構築することを目指す。

授業の到達目標

（1）【知　識】居場所に関する見方・知識を習得し、地域の諸問題の解決と合わせて自分なりに思考・考察できる。
（2）【理　解】受講生同士での意見交流を通じて、自身の居場所に対する考えを分析し、記述することができる。
（3）【志向性】居場所を通じた文化・地域づくりに関する自らの志向を持ち、記述することができる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　55%　　中間レポート25%、最終レポート30%。双方、関心のあるテーマについて、受講生自身の経験・考え、エビデンスを用いて論じてもらいます。
●**平常点**　45%　　各講義のリフレクションの記入してもらいます。
●**その他**　0%　　特になし

備考・関連URL

※1 意見交流は基本的に参加を求めるが、発達特性や心理的に困難な状況にある場合はその限りではない。
※2 オンデマンドを実施予定であり、該当回を第1回に伝達する。
※3 受講生の興味・関心・要望に基づきながら、授業展開や方法を変更する可能性もある。
※4 ゲスト講師の予定により、順序が前後する場合がある。

科 目 名	グローバリゼーションと性　日本の性の「当たり前」を問い直す							
担当者名	服部　恵典							
人間	2単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

〈性〉は、大学の授業であらためて学ぶ必要もない、「自然」や「本能」の領域に位置づけられる現象のように思えるかもしれません。しかし、たかだか数百年や数十年ほど歴史を遡ってみるだけで、あるいは日本国外のことを知ってみるだけで、実にさまざまな〈性〉のあり方があることに気づかされます。
　この授業では、グローバリゼーションを性の視角から、そして性をグローバリゼーションの視角から捉え、多様なトピックを考察します。M.フーコーやK.クレンショーなどジェンダー・セクシュアリティ論の古典と呼ばれる基礎的な理論を学びつつ、グローバルな接触・合流・衝突・交渉の事例を扱います。
　極めて個人的なものに見える〈性〉が、現在のグローバル社会においてどれほど社会的に構成されているかを学びます。〈性〉が「自然」でも「本能」でもない流動的なものだと理解することは、いま・ここには異なるより良い社会を構想することに繋がるはずです。

授業の到達目標

①グローバリゼーションとジェンダー・セクシュアリティとの交差点に存在する問題群について、基礎的な知識を習得すること
②セクシュアリティが、多大に時代的・空間的影響を受けて構築されたものであると学び、「自己」の性を相対化した視点で捉えられるようになること

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　授業内容を踏まえて、いくつかの小問からなる、3,500字程度のレポートを執筆してもらう予定です。
●**平常点**　30%　　毎回の授業の終わりにリアクションペーパーを記入してもらいます。
●**その他**　0%

備考・関連URL

・授業計画・内容は授業の進捗状況、受講生の理解度・興味関心によって変更する場合があります。
・ポルノグラフィや性的に露骨なコンテンツも、セクシュアリティ研究の重要なテーマとして授業中に扱います。それと呼ばれるような画像・映像は使用しませんが、それでも人によっては極めて不快に感じる場合があることをご了承ください。
・論理的な質問や批判は歓迎しますが、意図的な差別発言を繰り返す受講者がいた場合、他の受講生の履修の権利を侵害する可能性があるため、退席を求める可能性があります。
講師連絡先：kd-hattori@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

科 目 名	エスニシティ論　国民国家と移民の関係を中心に							
担当者名	有賀　ゆうアニース							
人間	2単位	秋学期	水曜日	1時限	1年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

今日の日本社会に暮らしている人間の間では，「日本」や「日本人」という概念はきわめて日常的かつ一般的に使われています。曰く，日本人は協調性がある，曰く，日本は外国よりも閉鎖的である，日本人ならば然然の振る舞いをすべきである，あのひとは日本人である／ではない，等々。しかしそれらが具体的に何を意味するのか，そもそもそうした「○○人」という分類や意味がいつ・どのようにして成立したのか，それがわたしたちの生き方にどう影響しているのかといったことを考え出すと，わたしたちの理解は意外に貧弱であることに気付かされます。社会学，心理学，政治学などの分野では「エスニシティ」や「ナショナ

リズム」,「国民国家」といった概念をもとに，こうした論点について豊富な視点と知識を蓄積してきました。こうした視点や知識は，とくに外国人や外国にルーツをもつ人が増加し，国境を超えた人やモノの移動が活発になっている現代において，そして現在も戦争や虐殺といった問題が進行中の現代において，問題の現状や原因や未来を考えるうえで欠かせない資源です。この授業ではこうした観点から，エスニシティ，国民国家，ナショナリズム，移民といったトピックについて学習します。とくに，昨今の社会情勢をふまえ，移民と受け入れ社会の関係を中心に扱います。抽象的な理論や概念を学ぶだけではなく，それらを今日的な情勢や，具体的な歴史・出来事とも関連づけることで，わたしたちのくらすこの社会のあり方がエスニシティによってどのように規定されているのかを多面的に理解できるようになることをめざします。

授業の到達目標

エスニシティ，および関連する諸トピックについて基礎的な知識・視点を習得すること。その知識・視点を応用し，現代日本における移民統合やナショナリズムの問題について構造的・批判的に理解できるようになること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　40%　　自由論題の期末レポートを課す。
●**平常点**　60%　　授業内容の適切な理解や応用を要求する小課題を複数回にわたって課す。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

高校レベルの世界史・日本史の近現代史，ならびに公民の知識があると望ましい。
シラバスの内容は執筆時点のものであり，進度に応じて微修正される可能性がある。

講義

科 目 名	子ども文化論　子ども文化から子どもと教育について考える							
担当者名	加藤　理							
人間	2単位	春学期	木曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

子どもの文化を視点にしながら現在の子どもと教育の諸課題について考えていく。子どもたちの日々の文化体験が自己形成にどのように関わっているのか、大人と子どもは文化をめぐってどのような関係にあるのか、さらに、現代の子どもたちが直面しているさまざまな問題について、子ども文化を事例に考察を加える。特に、遊びと語りの文化から考えられる子どもという存在、子どもと社会の関係、教育の諸課題を中心に考察していく。

授業の到達目標

子ども文化を分析することで、従来の教育学では得られない子どもへの理解に到達し、子ども理解のための多様な視点と方法を習得でき、子どもと教育について新たな視点から考えを深めることができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　20%　　第14回目の授業中に、これまでの授業を振り返って考えたこと、感じたこと、これからの学習課題として見つけたことをまとめてもらう。
試験の区分欄に書いていますが、試験ではなく、毎時間書いてもらうリアクションペーパーの拡大版です。
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　80%　　毎回の授業において考えたことや理解したこと、質問などを授業中に配布するリアクションペーパーに記入してもらい、これを評価の中心にする。
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	聖なるものと人間　ユダヤ人によってつながるユダヤ・キリスト・イスラームのメシアニズムと終末論							
担当者名	法貴　遊							
人間	2単位	春学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

ユダヤに関連するモチーフは、『新世紀エヴァンゲリオン』や『真・女神転生（またはペルソナ）』シリーズ、『FGO』、カバラー数秘術などを見れば明らかなように、現代の日本のポップカルチャーに溢れている。しかし、現在の日本において、ユダヤの歴史や思想について学ぶ機会は少ない。ユダヤをポップカルチャーとして消費している日本人は、本当にユダヤを理解しようと思ったことがあっただろうか。Youtube上では、あれほど日本人は嬉々として「ユダヤの陰謀論」なる差別的言説を「都市伝説」と名づけてカモフラージュして楽しんでいるのに。

この講義は、古代ユダヤで生まれたメシアニズムないし終末論という思想の系譜に焦点を当てる。これらの思想は一見すると、ファナティックなカルトという印象を与えるかもしれないが、長い歴史のある豊かな思想伝統である。この思想伝統がなければキリスト教は誕生しなかったし、イスラームも誕生しなかったし、一部の植民地における抵抗運動も発展しなかった。そしてこのメシアニズムにおいて、ユダヤ・キリスト・イスラームという3宗教間の豊かな文化的交流が見られるのである。

この講義は、古代から現代に至るユダヤ人の活動に注目しつつ、ユダヤ・キリスト・イスラームの間でのメシアニズム／終末論における思想交流の歴史を概観する。中東からアフリカ、ヨーロッパに至る様々な地域／時代の政治的・社会的背景を概観したあとで、その時代と場所でどのような思想が展開したのか、その思想においてどのようなユダヤ・キリスト・イスラーム間の交流が見られたのかを解説する。

授業の到達目標

古代から中世にかけて、信徒集団の成立や教義の確立を通して、ユダヤがいかに形成されたのか、そしてユダヤのメシアニズムを1つの要因として、いかにキリスト教とイスラームが誕生したのかを理解する。さらに、主にユダヤ人の活動に注目しつつ、ユダヤ・キリスト・イスラーム間でメシアニズム／終末論を巡る交流がいかになされたのかを理解する。

成績評価方法

●**試験**　100%　　15周目の定期試験日に実施。講義内容から問題を出題する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

備考・関連URL
本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	子ども・若者支援と共生社会の形成							
担当者名	鈴木　晶子							
人間	2単位	春学期	木曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
本講義では、子ども期・若者期の課題や困難、それに対する支援・政策を外観し、共生社会を形成するために必要なことについて検討していく。

授業の到達目標
子ども・若者を取り巻く社会状況を理解し、支援する人、される人の枠組みを超え、子ども・若者の権利が保障される共生社会の担い手として、自らが何ができるのか、わがこととして考えていく視点を持つ。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　講義の理解度、及び内容に関する検討の度合いを勘案し採点します。
●**平常点**　40%　　出席、講義への主体的取り組み状況を見て採点します。
●**その他**　10%　　事前・事後学習等の取り組み状況を見て採点します。

科 目 名	性暴力の社会学　社会構造と歴史から考える							
担当者名	熱田　敬子							
人間	2単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要
性暴力はセックスではない、暴力である。
この暴力は性と性暴力に対する社会の認識、社会構造を反映し、権力関係の中で起きる。
したがって、性暴力について考察するためには、性暴力を生み出し、性暴力を軽視する社会について知らなければならない。性暴力被害者の回復もまた、加害や被害に対する社会的な対応抜きに、個人の心理に還元することはできない。性暴力を引き起こす構造の変革は、被害者を「弱者」と見なし、無力化することではなく、被害者が声をあげ、社会変革を求めた行動を価値あることと見なして受けとめる社会運動によってしか成り立たない。
そして、性暴力の被害者は多様である。ジェンダー、セクシュアリティ、エスニシティ、ディスアビリティなど様々な社会的差別の要素は、性暴力と交差し、セカンド・レイプを引き起こす。
こうした性暴力を生み出す構造を分析すれば、公娼制、戦時性暴力、性奴隷制、基地など、その社会や国家の歴史的に作られた枠組みと直結していることが分かる。性暴力は、ジェンダー秩序が社会や国家の基礎に関わるものであることを知るために、最も良い事例なのだ。
本講義では、上記の視点から、個人をめぐる権力関係からはじめ、国家にまでいたる性暴力の構造を理解することを目指す。

授業の到達目標
歴史、社会の視点から性暴力について考察できるようになる。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　期末レポートを課す
●**平常点**　30%　　コメントシート記入で評価する
●**その他**　20%　　小課題および中間課題で評価する

備考・関連URL
＊授業内容は時事問題を取り入れる必要や、受講生の理解度によって変更する可能性がある。
＊本講義は対面で行うが、場合によってオンラインでのリアルタイム講義を数回取り入れる可能性がある。どちらでも対応できるようにしておくこと。

科 目 名	高齢社会とコミュニティ							
担当者名	久保田　治助							
人間	2単位	春学期	火曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
急激な現代社会の変化の中で、少子高齢化の問題が叫ばれるようになってから久しい、1989年の1.57ショックと呼ばれる少子化問題以降、高齢者が急増することとなる。団塊の世代と呼ばれる第一次ベビーブームの盛大が70歳代となり、今後の超高齢者かの問題として「2050年問題」が議論となっている。このような社会状況をどのように検討すればいいのかについて、少子化問題と高齢化問題の2つの視点で考えながら検討する。
少子化問題としては、①家庭の役割の変化とセクシャリティーの問題、②子育て支援と親支援、③子育て支援に関する制度理解、の3つの視点から検討する。少子化問題のなかで特に検討すべきは、少子化の問題を教育・福祉・経済・文化などそれぞれの観点から少子化問題の何が問題であるのかの所在について検討を深める。高齢化問題としては、①高齢者の社会保障に関する制度の歴史的変遷、②老いに関する思想と高齢者観、③高齢者と労働の問題、の3つの視点から検討する。高齢化問題については、高齢者と若者を比較しながら、高齢社会のなかで起こる高齢者自身に関する問題と、若者が考えなければならない問題との2つの視点から、今後の高齢社会においてどのような政策・実践を行なってゆけばいいのかを検討する。

授業の到達目標
・超少子高齢社会のこれまでの政策動向と社会保障の制度について理解する。
・超少子高齢社会の背景となる価値観やアイデンティティについて理解する。
・超少子高齢社会においてこれからの地域のあり方について考える力を養う。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　70%　　授業全体の理解度を確認するために学期末に行う
●**平常点**　30%　　講義の内容を受けて毎回リアクションペーパーを提出してもらう
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	生と死の教育							
担当者名	久保田　治助							
人間	2単位	秋学期	火曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

超高齢社会において、生と死についての学習を深めることは必須にも関わらず、学校教育において生と死について学習する機会とその教育方法や実践についての深まりはこれからであると言える。「命の教育」についても、特別の教科道徳や特別活動、総合的な学習の時間、その他各教科において学ぶこととなるが、それぞれが連携し体系的に学ぶことは難しい。また、生と死についての学習領域について考えると、出産・老死だけでなく、過労死や自死・他殺、災害などによる災害死など様々であり、さらに、個人の死と身の回りの家族や動物・植物の死、そして生きることの意味、イジメや差など、多岐に渡っている。多岐に亘っている。

そこで、これまで「生」と「死」に関わる思想の歴史的変遷について文献を紐解きながら理解しつつ、これまで学校のなかでどのように生と死の教育がなされてきたのかについて、全国の授業実践を参考にしながら理解する。その際に、自己と他者の価値観の違いについて理解し、発達段階に即してどのような学びを行なってゆくのかについて検討する。特に、高齢期の学習に関して、地域社会において生と死がどのように語られてきたのかについて、地域の文化や慣習・生活経験に即して考えながら、高齢期特有の学習である老いと死の教育の学習内容と学習方法について理解する。

そのうえで、自分で生と死の教育実践について学習内容を検討し、主体的に学習計画を立案する。＊本授業は、授業内容のなかで合理的配慮が必要な場合は、事前にもしくは適宜連絡や相談をしてください。

＊ゲスト講師を呼ぶ際は、ZOOMや教室などを使用して授業を行う場合もあります。詳細は、適宜事前に行います。

授業の到達目標

・生と死についてどのように理解されてきたのかについて歴史的変遷を踏まえて考える力を養う。
・学校において命の教育や死生観・高齢者理解がどのようになされてきたのかについて理解する。
・現代の社会的課題と実践について理解し、自分で生と死の教育について発信できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　50%　　授業全体の理解度を確認するために学期末に行う
●**平常点**　50%　　講義の内容を受けて毎回リアクションペーパーを提出してもらう
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	現代人の身体　主に身体心理学と宗教心理学の観点より							
担当者名	久保　隆司							
人間	2単位	春学期	水曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

現代、自分自身の身体も含めて、身体を「もの（物）」としてみる風潮がある。そこから派生して、「物」なので「自分」のその時の意思で好き勝手に扱っても（手を加えても）よいという考えにもなる。この「近代的な考え」は適切であろうか？　一面的であり、全面的な肯定にはどこか違和感を持つ人もいるのではないだろうか？

20世紀後半以降、欧米では（日本の一部でも）、ボディ・マインド・スピリットという主要な三つの面から、人間を全体的（ホリスティック）に捉えようとする見方も注目されてきた。スピリット（スピリチュアリティ：精神性や霊性、宗教性）の面は馴染みが薄いかもしれないが、たとえば、伝統的な「身心一如」という禅的な概念はこれら三つの面を含んでいる。また近年、世界的に広がっている「マインドフルネス」などの仏教的瞑想に由来する概念が、現在、心理療法など日本でも多くの非宗教的場面で受け入れられている。私たちの「身体」とは、単なる物質的存在ではなく、多重的・統合的存在であるとの見方は大切である。

以上の基本的観点を踏まえ、本クラスでは、純粋に医学生理学的、すなわち物質的な肉体としての「身体」（動物的身体）を基盤に、個人の内的な心理や情動との関係における「身体」、歴史や文化・風土などの「環境」との関係における「身体」（社会的身体、風土的身体）など、多層的・包括的な観点から、「身体」または「心身」関係の理解を深めていきたい。具体的な学問領域として、主に「身体学／ボディワーク」、「身体心理学／ソマティック心理学」、「宗教心理学／ユング心理学」の諸領域を扱う。

「講義」に分類される授業であるが、できれば学生間の話し合いやその他「体験的ワーク」の機会も設けられればと思う。学生のクラスへの積極的参加に期待し、出席や意見のシェアを重視する。ただし、受講人数その他の環境を配慮の上、内容や進行状況を調整／変更する場合がある。＊応用的な内容でもあるので、心理学や宗教学の基礎的な知識や関心を持っていることが望ましい。

授業の到達目標

（1）現代における身体／身体性を、心と身体とのつながりをベースに学際的に考えることができるようになる。
（2）神経生理学（脳科学）と心身関係性の学問領域「ソマティック（身体）心理学」の基礎を理解できるようになる。
（3）21世紀的な文脈における「宗教心理学」の基礎概念を理解できるようになる。
（4）「身体」に対する三人称的な見方に加えて、一人称的＆二人称的な見方（すなわち、統合的な観点）に親しめるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　30%　　期末レポート：課題内容は授業内で指示する。1500字程度。書式等の詳細は授業中に指示する。
＊期末レポートの提出を単位評価の前提とする。
●**平常点**　70%　　＊授業の出席および授業への積極的な参加態度。
＊毎週クラス後のフィードバックの提出（moodle経由）をもって、出席の完了とする。

＊授業実施回数の2／3以上の出席（＝欠席は最大4回まで）を単位評価の前提とする。
＊その他、初回授業、オリエンテーションにて説明する。
●**その他**　0%　　特になし

備考・関連URL

授業計画は、受講者数、その他の諸事情で調整・変更する場合がある。本授業での「身体心理学」は、臨床的な「ソマティック心理学」を主に意味する。
本授業での「宗教心理学」は、臨床的な「宗教学的宗教心理学」を主に意味する。
関連HP：ソマティック・リソース・ラボ
somaticworld.org

科目名	AIと人格							
担当者名	谷辺　哲史							
人間	2単位	春学期	月曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本講義では、人工知能（AI）という科学技術をキーワードとして、以下の2つの話題について講義を行う。
・人工知能（AI）という言葉を日常的に見聞きするようになって久しい。新たな技術の発達は私たちの生活の質を向上させてくれるが、同時に、新たな問題を生じさせることもある。本講義ではAIやロボットが社会の中に浸透している現状を紹介し、それに伴って生じている、または将来生じうる課題を考察する。・また、AIについて考えることは、人間の心とは何か、道徳とは何かといった古くからある問いに対して、新たな視座を持つきっかけにもなる。そこで本講義では、AIやロボットに関わる問いをヒントとして、より幅広く心理学や倫理学の分野で扱われてきた問題を紹介する。
本講義の受講にあたって、AIやロボットの開発に関する事前知識は要求されない。

授業の到達目標

・人工知能（AI）をはじめとした科学技術の発達が人間の生活に与える影響を理解する。
・科学技術に関する社会的・倫理的課題について考察する理論的な枠組みを獲得する。
・人工知能（AI）についての考察をきっかけとして、心や道徳といった人間に関わる問いについて、新たな視座を獲得する。

成績評価方法

●**試験**　70%　　授業の理解度を評価する。詳細については授業内で説明する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　リアクションペーパーの提出、受講態度などによって授業への貢献を評価する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

出席回数が授業回数の3分の2に満たない場合は原則として成績評価の対象とならないため注意すること。

科目名	科学リテラシー論							
担当者名	谷辺　哲史							
人間	2単位	秋学期	月曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本講義では、科学に関する情報を適切に扱う能力（科学リテラシー）を獲得することを目指す。
怪しげな健康食品の広告をはじめとして、科学的な正しさを装う情報は身の回りにあふれている。また、新興感染症への対応のように、誰も正解を知らない中で意思決定を迫られる課題も存在する。このような社会の中で暮らしている限り、科学の専門家でない人々にとっても、科学的な情報を適切に理解することは重要だろう。
しかし、個々の問題を取り上げて「これは正しい」「これは間違い」という正解を覚えるだけでは、新たな問題が現れたとき自力で対処することはできない。
本講義では、個別の問題を取り上げつつ、それをきっかけとして、もう少し抽象的なレベルで科学とは何かを考察する。授業内で扱う話題は、科学に関する情報をどのように読み取ればよいのかという身近な問題から、科学の目的は何かというそもそも論まで幅広い。
なお、本講義の受講にあたって、自然科学分野の事前の知識（高校の理科で学ぶような内容）は要求されない。

授業の到達目標

・科学に関する情報を適切に収集・理解するための基礎的な知識を習得する。
・自らも一市民として科学とどう向き合うか、考察を深めるための理論的枠組みを獲得する。

成績評価方法

●**試験**　70%　　授業の理解度を評価する。詳細については授業内で説明する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　リアクションペーパーの提出、受講態度などによって授業への貢献を評価する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

出席回数が授業回数の3分の2に満たない場合は原則として成績評価の対象とならないため注意すること。

科目名	障害とルッキズム　外見差別を考える							
担当者名	西倉　実季							
人間	2単位	春学期	金曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

「ルッキズム（lookism）」とは、外見に基づく差別を意味する言葉であり、学術研究においては2000年代以降に用いられるようになった。本授業では、ルッキズムとは何か、ルッキズムはなぜ問題なのかについて、英語圏で蓄積されてきた議論をふま

えて概観し、さまざまな社会的場面におけるルッキズムに焦点を当てて検討する。また、障害学（disability studies）において身体的外見の異なりがどのように問題化されてきたのかを確認しつつ、障害問題とルッキズムとの関連について考察する。
外見をめぐる問題は、ともすると個人化されがちである。よって、ルッキズムについて検討するには、個々の経験に通底する社会的な要因を把握したり、自分とは異なる社会的位置にある他者の視点を踏まえたりすることが有効である。こうした考えから、この授業では、基本的には毎回、グループでのディスカッションの時間を設けるので、履修者は積極的・主体的に参加することが求められる。

授業の到達目標

・外見をめぐって自身の身のまわりで起こっていることを、社会学や障害学の知見を用いて反省的・批判的に検討することができる。
・障害問題をルッキズムという視点で考察することができる。
・ルッキズムの問題を不当に個人化・自己責任化せずに、構造的に理解したうえで、よりよい社会を構想することができる。

成績評価方法

●**試験**　60%　　自らテーマを設定し、必要な情報を取集・整理したうえで論理的に考察できているかどうかを評価する。授業最終回に対面で実施する。詳細については授業内でアナウンスする。
●**レポート**　0%　　特になし。
●**平常点**　40%　　講義内容を的確に理解し、それを活用して思考することができているかどうかを評価する。
●**その他**　0%　　特になし

講義

科 目 名	スピリチュアリティと世界							
担当者名	小村　優太							
人間	２単位	春学期	無	フルOD	１年以上	—	合併科目	フル［オンライン］フルオンデマンド

授業概要

本講義では、「スピリチュアリティ」という視点から、私たちの世界観を形成する精神、物語、世界、時間といったテーマを横断的に探求する。宗教的な枠組みを超えて、より幅広くスピリチュアリティと呼ばれるものに惹かれる現代人の感覚が示すものを手がかりに、古代から現代に至るまでのスピリチュアルな思考や実践を考察する。
まずは「精神」のテーマにおいて、元型や象徴、通常では考えられない力、特定の土地の霊性、いわゆるパワースポットなどに焦点を当てる。「物語」のテーマにおいては、神話、都市伝説、偽史といった語りの力が、どのように人々の現実認識を形成してきたのかを検討する。「世界」のテーマでは、土地の記憶や異世界との接点、光と闇が交差する象徴的世界を扱い、物質的世界の背後に広がる異質な領域を探る。最後に「時間」のテーマにおいて、伝承される記憶、運命を視るさまざまな試み、世界の終わりにたいする人々の物語に着目し、時間とスピリチュアリティの交差を考える。
私たちが盤石だと思っている日常の世界は、実のところ非常に薄い膜一枚で向こう側と隔てられている。本講義は、その不安定な日常に安住せず、その境界線を「半歩」超えたところに広がる世界への感度を高める試みでもある。

授業の到達目標

・スピリチュアリティに対する幅広い理解を深め、それが私たちの世界観に与える影響を批判的に考察できるようになる
・物語や象徴的世界が、現実と非現実の境界をどのように形作るのかを分析し、日常の見方を広げることができるようになる

成績評価方法

●**試験**　50%　　学期末にMoodle上で実施する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　授業への参加度によって評価する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	貧困と社会的排除							
担当者名	大西　連							
人間	２単位	春学期	月曜日	３時限	１年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

本授業では、現在の日本社会に拡がる「貧困」と「社会的排除」について、それらの問題の理解を深めるとともに、その背景、社会的課題、政策の現状について検討する。特に、「ホームレス」「生活保護」「孤独・孤立」「子どもの貧困」に着目し、当事者が抱える困難さ、支援現場で起きていること、社会的背景や政策的課題について、講義、ディスカッション等を通じて学ぶ。

授業の到達目標

・「貧困」「社会的排除」という概念を理解する。
・「ホームレス」「生活保護」「孤独・孤立」「子どもの貧困」についての基本的な知識を習得する。
・それらが起きる社会的背景について、社会的課題について、印象や思い込み、偏見などで語るのではなく、文献をあたり、現状を分析し、能動的にその解決を検討することを通して、自らの見解を持つことができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　50%　　レポートの内容により評価する。
●**平常点**　50%　　報告・コメントを含む授業への参画姿勢により総合的に評価する。（備考にあるように欠席の上限を設ける）
●**その他**　0%　　特になし

備考・関連URL

・本授業は出席を重視する。1／3以上を欠席した場合、単位は不可とする。
・本授業は期末にレポートの提出を課す。レポートを指定した期限内に提出しない場合、単位は不可とする。
・受講人数により、講義やディスカッションの授業構成上の比重は柔軟に変化するものとする。
・フィールドワークの機会を提供するが自由参加とする。フィールドワークへの参加は評価に含まれない。

科 目 名	西洋市民社会史　近代市民社会の比較史的考察							
担当者名	松園　伸　他／石川　華子／紀　愛子／前川　陽祐							
構築	２単位	春学期	無	フルOD	２年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

本講義では4名の講師により、近代市民社会の形成過程を比較史的に考察する。講師の関心に従い、分担し講義する。平明な講義を心がけるが、その中でヨーロッパ社会の本質を理解できればと考えている。今年度は、イギリス（イングランド、スコットランド、北アイルランド）およびドイツに的を絞って講義する。

（松園伸）18世紀以降の新聞、雑誌などのメディアの発達、都市の成長と関連づけて市民社会の成長を論じる。その際、イングランド中心史観に陥ることなくスコットランドの状況にも触れていきたい。

（石川華子）アイルランドの新聞と市民社会　アイルランドにおける市民社会の発達について考察する。（前川陽祐）ドイツにおける市民社会に関して、19世紀を軸に論じる。「なぜドイツ近代史で市民社会について問うのか」という問題意識を念頭に、ドイツ統一と市民社会との関わりに着目する。

（紀愛子）　第一次世界大戦以降のドイツにおける市民社会について、戦争・ジェンダー・市民運動の視点から講義する

授業の到達目標

イギリス、ドイツなどを軸に広くヨーロッパ市民社会の形成について理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　70%　　論題などは教室で指示する
●**平常点**　30%　　出席状況
●**その他**　0%　　実施しない

備考・関連ＵＲＬ

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	軍隊と国家　西洋軍事史の観点から							
担当者名	岡田　泰介							
構築	２単位	春学期	無	フルOD	１年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

この授業では、「国家と軍隊」というテーマを縦糸として西洋（欧州・米国）の軍事史を概観する。具体的には、横糸として、それぞれの時代を代表する戦争とその政治的、社会経済的、技術的背景を論じるなかで、軍・国家関係の多岐にわたる諸相を見ていく。

各回の授業内容には、適宜、内容の変更や順序の入れ替えの可能性がある。

授業の到達目標

西洋軍事史のなかで国家と軍隊の関係がどのような意味を持っていたのかを理解する。

成績評価方法

●**試験**　100%　　毎回の授業時に行うミニテストの素点の合計によって評価する。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　0%　　なし。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連ＵＲＬ

毎回の講義に関してコメントシートをとるが、任意であり、成績には関係しない。

科 目 名	近現代政治社会思想論　近代イギリスの政治文化の観点から							
担当者名	正木　慶介							
構築	２単位	秋学期	月曜日	３時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本講義では、近代イギリスにおいてどのような政治文化がみられたのか、またあるべき政治社会がどのように構想されたのかについて検討します。この作業をつうじて、近現代イギリスの政治文化・政治社会を見通します。

第2回・第3回までは、近代イギリスを考える上での前提についていくつかの角度から確認します。第4回以降はある程度通史的な分析にはなりますが、テーマを絞って近代イギリスの政治文化にアプローチします。哲学者が個室で練りあげた抽象的な思想よりはむしろ、集団的な運動・活動のなかで示された理念や世界観により焦点をあてます。後半では映画視聴も取り入れます。

近代に生まれた様々な理念や考え方は、21世紀の現在にも大きな影響を与えています。本授業でも、この点を意識しながら、今を生きる私たちの足元を見直す作業を行えたらと思います。

科目名はとてもおかたいのですが、政治思想・社会思想に興味がある方のみならず、イギリス（やヨーロッパ）の歴史についてより深く知りたいという方はぜひお越しください。

授業の到達目標

近現代のイギリスに関する理解を深めるだけでなく、本講義で得た知識を応用して、現代国際社会（日本を含む）のあり方を批判的に見通す知見を獲得することを目指します。

成績評価方法

●**試験**　60%　　第14回の授業で教場レポートを書いてもらいます。詳細については、授業中にお知らせします。
●**レポート**　0%　　実施しません。
●**平常点**　40%　　毎回授業後に提出してもらうコメントシートをもとに評価します。
●**その他**　0%　　特にありません。

備考・関連URL
毎回授業冒頭で、前の週に書いてもらったコメントシートの内容（授業に対する感想・考察、質問・疑問点）にお答えします。

科 目 名	経済と国家　近現代日本経済史							
担当者名	森田　貴子							
構築	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要
近現代の日本経済について、経済と社会の関連に注目しながら検討を行う。
時系列的に講義を進めながら、研究史上、何が問われ、何が明らかにされ、何が今後の課題として残されているのか、についても考える。

授業の到達目標
本講義は、日本経済を歴史的にとらえ、研究史上、重要な課題とされてきた問題について理解を深め、広い視野と現代社会を主体的に考察する視角を得る。

成績評価方法
●**試験**　0%　　—
●**レポート**　20%　　学期末のレポート1回
●**平常点**　80%　　毎回の小レポート
＊小レポートの提出回数が全体の2／3に満たない者は成績評価の対象外とする。
＊成績評価には、学期末レポートと毎回の小レポートの両方が必須である。
●**その他**　0%　　—

科 目 名	労働と国家							
担当者名	園田　薫							
構築	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
社会学という学問は、一人ひとりの労働にかかわるミクロな現象から、国家のあり方にかかわるマクロな社会の仕組みまで、非常に広い分析対象を射程に含んでいます。
本講義は日本における労働現象とそこに関連する国家の仕組みについて、社会学という視点から総体的にみることを目的とします。社会学というレンズを通して労働や国家のあり方について考えてみることで、そこから現代社会を批判的に俯瞰する能力を養い、社会の望ましいあり方を主体的に見出してもらえたら幸甚です。授業ではGoogleフォームにてその場で皆さんのコメントをいただき、後半の授業に反映させるという方式をとっていますので、学生の皆さんには積極的に自分の知りたいこと・疑問に思ったことなどを言語化する能力を期待しております。

授業の到達目標
以下の3点が、本講義における大きな目標です。
（1）社会学的な知見の獲得を通して、様々な領域に対する広い教養を修得する。
（2）他者の振る舞いや視点を理解し、社会の成員としての態度を身につける。
（3）現代社会を俯瞰し、主体的に批判する力を身につける。

成績評価方法
●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　60%　　講義内容に関連するテーマを、各自の関心に即して自由に設定してもらいます。授業内外で吸収した知識をもとに、自らの思考を駆使して社会科学的に考え抜いた痕跡がどれだけ反映されているかという点を評価のポイントとします。詳細については初回授業で説明します。
●**平常点**　40%　　「フォーラム」（Waseda Moodle）への投稿回数・内容、授業への積極的参加、提出物の提出状況・内容などにもとづいて、授業参加の積極度を総合的に評価します。詳細については初回授業で説明します。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL
学生からの授業アンケートなどに鑑み、学生たちからの主体的な意見・疑問に答える時間を極力設け、できるだけ講師による講義と学生との双方向的なコミュニケーションをハイブリッドに取り入れたスタイルで授業を進行していきます。

科 目 名	国家形成論　天皇制・王権を考える							
担当者名	川尻　秋生							
構築	2単位	春学期	月曜日	4時限	1年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要
天皇制や王権を考える場合、近現代だけでは解決できない問題が数多くある。そこで本講義では、近現代の儀礼や行事から遡って、その意味、そして起源や目的、時代的な変遷を明らかにしようと思います。
たとえば、天皇はなぜスポーツ観戦をするのか、天皇はなぜ宮中で米をつくるのか、などといった一見すれば些細で身近な話題からはじまって、天皇制や王権の特質を考えようというものです。
また、近代日本では、多くの「古代」的儀礼が復活しました。その理由についても検討したいと思います。
なお、最後の数回は、現代と「武士」など武士論に触れるつもりです。グループ討議などは行いません。

授業の到達目標
天皇制や王権についての基本的な知識を身につけ、現代の問題点や将来の課題などについて見通す力を身につけることを目標とします。

成績評価方法
●**試験**　0%

●**レポート**　50%　　学期末に提出していただきます。
●**平常点**　50%　　出席によります。
●**その他**　0%

科 目 名	**前近代政治社会思想論**　日本中世における神社と国家・社会							
担当者名	徳永　健太郎							
構築	2単位	春学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
　この授業では、日本中世における神社のあり方とその展開を考えていきます。特に、権力者による神社を介した支配、民衆による神社を介した自立・抵抗とに留意しながら、日本中世神社像を構築していきたいと考えます。

授業の到達目標
　日本の前近代社会における宗教の果たした役割を把握し、前近代社会についての認識を深めていきます。また日本中世の大まかな流れと歴史学（中世史）における重要な論点・争点を把握できるようになります。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　前近代の国家や社会のなかに神社を位置づけていく上での歴史的な論点を授業に即して理解し、神社と国家や社会との関係とその変容について、各自が自分なりの観点から具体的に把握できているかどうかを評価します。提出方法などくわしくは授業において告知します。
●**平常点**　40%　　レビューシートの提出状況とその内容を含め、授業への参加度を評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	**民衆世界論**　生活・慣習・環境の歴史学							
担当者名	似鳥　雄一							
構築	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
　本講義はタイトルを「文化史」と設定しました。それでは「文化」とはいったい何でしょう。例えば高校の日本史教科書をみたとき、「文化史」が対象としているのは学問・文学・芸術・宗教といった領域が中心ですが、これらは狭義の文化史といってもよいでしょう。
　それに対して本講義であつかうのは、身分の上下を問わず、中世日本で日々を暮していた人々の生活様式、慣習・習俗など、すなわち広義の文化史というべき分野です。これにより、様々な方向から「文化」にアプローチすることが可能となります。
　また加えて、彼ら中世人の生き方、さらにいえば精神性に大きな影響を及ぼしたであろう自然環境、あるいは災害の実状についてもみていきます。それら諸相のなかに、現代と共通する面と、全く相違する面がそれぞれあることが理解されるでしょう。

授業の到達目標
　中世日本にみられる広義の文化事象について幅広く学び、その歴史的な特質を把握する。
　それによって現代に通用する常識を相対化し、それらもまた歴史の所産であることを理解する。

成績評価方法
●**試験**　70%　　第14回目の授業時間中に試験を実施し、理解度を確認する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　出席状況、および出席カード裏面へのコメントをもとに評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	**アジア地域社会論**　エスニック集団からみるアジア地域社会―苗族（ミャオ・Hmong）を事例に							
担当者名	張　勝蘭							
構築	2単位	春学期	月曜日	3時限	2年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要
　私たちが暮らすアジア地域について学ぶには、まずその多様性を理解する必要がある。本講義は、一つのエスニック集団を取り上げ、様々な側面から具体的に見ていくことで、アジア地域社会の多様性に対する理解を深め、今日における国際社会の諸事象をより広い観点で見ることができるようになることを目的とする。
　事例として選んだ苗族は、多民族国家中国の南部の代表的な少数民族である。現在、約1106万人で貴州省を中心にほぼ中国全国に分布している。また、同系統の人々は、東南アジアにも居住しおり、モン（Hmong）と呼ばれている。1975年以降はラオスのモンの政治難民化によって、欧米にも広く分布するようになっている。
　その苗族は中国の最も古い民の一つとされ、様々な「他者」が共存する地域社会で生き抜き、内部の多様性と「苗族」の独自性を保ってきた。このような苗族について、サブグループ次元（地域社会）に焦点を当て、特にその伝統社会と文化の変遷を考察する。ひいてはアジア地域の多様性について再考する。

授業の到達目標
　1、多様性を構成する要素の一つである民族について、苗族を事例に様々な視点からその形成の歴史を再考する。
　2、民族・エスニック集団、民族的アイデンティティと地域社会との関係について理解できるようになる。
　3、アジア地域の多様性、そこに内包する社会的文化的問題の本質を理解し、今日の国際情勢を多面的に読み解く力を養う。

成績評価方法
●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　50%　　期末に課す。
●**平常点**　50%　　リアクションペーパー：25%、授業での発言・発表：25%
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL
授業の理解度を高めるために、図像・音声・映像を使用する予定。

科 目 名	西洋地域社会論　18世紀以降のスコットランド政治、経済、社会を考察する							
担当者名	松園　伸							
構築	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要
スコットランドは英国の中にあって、イングランドなどとは異なった歩みをたどってきた。本講義では1707年のイングランドとの国家連合成立後のスコットランド政治、経済、社会について考察する。とりわけ20世紀後半から顕著になったスコットランド自治獲得、独立運動についても注目していく。

授業の到達目標
スコットランド近現代における社会の変容を理解するとともに、「複合国家」としてのイギリスを理解する

成績評価方法
●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　70%　　期末に実施する
●**平常点**　30%　　毎回リアクションペーパーの提出を求める
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL
本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	日本社会の動態　近代日本における制度・政策、経済、社会							
担当者名	森田　貴子							
構築	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要
幕末期の開港によって、政治的・軍事的・経済的に近代化を迫られた日本は、明治以降、封建的な制度を撤廃し、近代的な制度を急激に形成した。多様な法律・規則が制定・改廃され、多くの社会的な変動と改革がなされた。
本講義では、明治初年から第二次世界大戦までの日本について、経済・社会・教育などの多角的な制度変革の観点から、近代日本の社会を歴史的事実に基づき理解する。

授業の到達目標
本講義では、明治初年から第二次世界大戦までの日本について、経済・社会・教育などの多角的な制度変革の観点から、日本の近代を歴史的事実に基づき理解し、広い視野と主体的に考察する視角を得る。

成績評価方法
●**試験**　0%　　—
●**レポート**　20%　　学期末のレポート1回
●**平常点**　80%　　毎回の小レポート
＊小レポートの提出回数が全体の2／3に満たない者は成績評価の対象外とする。
＊成績評価には、学期末レポートと毎回の小レポートの両方が必須である。
●**その他**　0%　　—

科 目 名	市民意識論　市民は社会をどのように捉えているのか？							
担当者名	山本　英弘							
構築	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要
我々市民は、どのような価値をもち、社会をどのように捉えているのだろうか。また、社会が変化するに伴い、市民の価値意識はどのように変化してきたのだろうか。人々のもつ価値意識は社会からの影響を受けて形成されるのと同時に、個々人の意識と行動が社会を形作っている。また、民主主義社会においては人々の意思こそが政治を動かす原動力である。そこで本講義では、前半において市民意識／社会意識についての理論的視座について概説し、後半ではそれに基づいて種々のデータを参照しながら現代日本の市民意識の実態とその変化について考察する。

授業の到達目標
・市民意識／社会意識に関する基本的な研究動向について理解を深める。
・市民意識を捉えるための方法について理解を深める。
・理論的背景をもとに、現代日本の市民意識について分析的に考察できるようになる。
・学術的な議論をもとに、自らの価値意識を相対化し、異なる考えをもつ他者とも有意義なコミュニケーションを行うことができる。

成績評価方法
●**試験**　0%　　試験は課さない。
●**レポート**　50%　　授業内容に基づいた期末レポート課題を課す。
●**平常点**　50%　　毎回の授業時に小課題を課す。それを合計した点数をもって平常点評価とする。
●**その他**　0%　　動画を視聴しているかどうかは平常点評価とともに確認している。

備考・関連URL
本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	地域・都市の歴史　近代都市形成の諸相							
担当者名	森田　貴子							
構築	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

明治初年から第二次世界大戦までの日本の都市を取り上げ、近代都市がいかに形成されてきたのか、前近代から近代への移行について、都市計画、都市財政、都市行政、都市と社会問題、インフラストラクチャーなど、近代都市形成について多角的な観点から取り上げる。

授業の到達目標

本講義は、近代日本において、都市がいかに形成されてきたのか、歴史的事実に基づき考察する能力を習得する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　—
●**レポート**　20%　　学期末のレポート1回
●**平常点**　80%　　毎回の小レポート
＊小レポートの提出回数が全体の2／3に満たない者は成績評価の対象外とする。
＊成績評価には、学期末レポートと毎回の小レポートの両方が必須である。
●**その他**　0%　　—

科 目 名	地域・都市論							
担当者名	渡邊　隼							
構築	2単位	春学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本講義では、現代社会の都市・地域をめぐる諸問題について、社会学の研究知見を中心に理解を深めることを目的とする。具体的には、都市・地域を学術的にとらえるための基礎概念、社会理論、社会調査、歴史的背景、現代社会の都市・地域の問題といった主題を中心に講義する。講義では、主として都市・地域にかんする社会学の研究知見を詳しく紹介するほか、都市・地域を対象とするさまざまな研究領域（歴史学、経済学、都市計画、建築学など）の知見も適宜参照し、都市・地域を学術的な観点から検討するための手がかりを提示する。本講義のねらいは、受講者にとって身近に感じられる都市・地域の問題を考察するうえで有用な学術的知見を提供することにある。

授業の到達目標

（1）都市・地域に関連する社会学の研究知見（知識、概念、理論、方法）を理解し、説明できる。
（2）これまでの日本や諸外国の社会でみられた都市・地域をめぐる問題・事例を歴史的に理解し、説明できる。
（3）都市・地域に関連する総合的な研究知見の習得から、これからの社会で求められる都市・地域のありかたを検討できる。

成績評価方法

レポート（毎回提出，評価割合：100%）
【注意事項】
・本講義では全授業回でレポート提出が求められる。
・毎回提出のレポートのほかにも不定期にレポートを出題する可能性がある。
・授業内で出題するレポートは、すべて提出する必要がある。未提出のレポートがひとつでもある場合は成績評価の対象とならないので履修にあたって十分注意すること。
・成績評価方法の詳細については初回の授業時に説明するので必ず出席すること。

備考・関連URL

・授業内容、成績評価方法の詳細については第1回で説明する。履修希望者は必ず出席すること。
・履修者の人数によっては授業内容や授業実施方法を一部変更する可能性がある。

科 目 名	環境変容と地域・都市の社会変動　環境問題と災害の社会学							
担当者名	西城戸　誠							
構築	2単位	秋学期	無	フルOD	1年以上	オープン科目	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

本講義では、自然環境や生活環境の変容と地域・都市における社会変動の関連について、主に日本国内の事例を用いて解説する。

講義の前半は、日本における環境問題の歴史と環境破壊の社会的なメカニズムを把握するための環境社会学の分析視角を学ぶとともに、地域・都市の社会変動が環境問題を引き起こした側面と、環境問題の解決のために地域の人々がどのような対応をし、地域・都市がどのように変動したのか（公害反対運動、反・脱原発運動など）という点に着目し、具体的な事例を紹介しながら講義する（前者については産業公害・大規模開発公害、生活公害の事例、後者は反・脱原発運動の事例を紹介する）。

講義の後半は、東日本大震災と福島第一原発事故に関する「被害」の状況と、復興プロセスや、今後の防災にあり方に関して地域社会学、環境社会学、災害社会学の知見を紹介する。

授業の到達目標

環境問題や環境破壊のメカニズムに関する環境社会学の概念、分析視角について理解できること。
環境変容に対する地域社会の人々の動態について理解を深めること。
自然災害（地震、津波）と原子力災害における「被害」の諸相と、復興過程や防災のあり方に対する社会学的な視点を理解できること。

成績評価方法

試験：60%、平常点（コメントペーパーなど）：40%。試験ができない場合はレポートとする。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

本授業は教場試験（記述式）を実施する（日程は、文学学術院の定期試験日。なお、資料の持ち込みは可能）。
以前の授業アンケートの中でフルオンデマンドにもかかわらず教場試験（対面試験）を実施する理由について提示してほしいという回答があった。教場試験（対面試験）の方が本人の理解度を測るためには有効であると判断していること、フルオンデマンドであるから教場試験を実施しないという理由はないことが挙げられる。なお、e-スクール受講者や、その他、教場試験に参加できない（大学が規定している）正当な理由がある場合は、時間制限付きのオンデマンドのテストで代替する。

科 目 名	建築史・都市計画論　建築史1：日本の建築の通史を考える							
担当者名	小岩　正樹							
構築	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

アジア的環境下において建築文化を築いてきた日本を対象に、先史から近世および近代にいたるまでの建築の歴史を、形式、技術、社会背景などに着目しながら辿ってゆく。特に、現代においても、日本の伝統建築に対する評価はいまだに曖昧なままであり、様式概念のみでもノスタルジーのみでも語り尽くせない可能性が潜在している。その可能性の所在を探り、どのように現代や自分にとって展開できるか、受講者各自が考える時間とする。

※建築史のうち、西欧建築は、秋期科目「社会デザイン論 - 建築史2：イタリアにみる共同体とその歴史 -」にて取り上げるため、あわせて受講することを勧める。

授業の到達目標

日本建築の通史をみることで、歴史的事柄の理解と知識の蓄積を通じて、それぞれの時代性が建築へと結実する仕組みを考え、現代へと続く建築史観を受講者各自で構築できるようになることを目標とする。受講後には、自分なりの建築観（建築への見方・考え方・感じ方）ができていることを目指す。

成績評価方法

各回の小課題と期末レポートを提出。これらレポートの合計評点で最終評価を行う。

1．各回小課題（全部を合わせて配点70%、各回Moodle上にて簡単に書く。必ずしも全回分が揃っていなくとも採点の対象となる）

2．期末レポート（配点30%、A4版3～4枚程度を予定）

・期末レポートを未提出の場合は、配点上自動的に不可となるので注意すること。

・期末レポートは期日内に提出すること。期日後の提出は原則不可。健康上の理由等事情によっては受理する場合がある。

・具体的な課題については講義中に発表する。

科 目 名	コミュニティとコンフリクト　戦後沖縄における対立の歴史							
担当者名	小松　寛							
構築	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本講義では戦後沖縄史に表出する多様な対立に焦点を当てる。冷戦の始まりとともに沖縄は軍事安全保障上の重要拠点として位置づけられ、米国の施政権下におかれた。その処遇については日米間で交渉が重ねられ、1972年に沖縄は日本に返還された。しかし、在日米軍基地の7割が集中し「構造的差別」とも言われる状況は今日まで続いている。これに対して沖縄では社会的公正の実現と自治権の拡大を求める民衆運動が幾度となく高まり、その世論を背景に沖縄の政治指導者は日米両政府と折衝を重ねてきた。その過程で沖縄は日本や米国と対峙するのみならず、沖縄内においても保守対革新、日本復帰派対反復帰派、新たな米軍基地建設への賛否など様々な対立が展開された。

冷戦構造およびポスト冷戦下でなされた日米両政府による政策は沖縄にどのような影響を与え、そして沖縄側の反応がどのようなものであったのか。グローバルな政治変動に呼応する国家の動きとそれ対する地域社会からの要求の間に生じる様々な対立を通して、沖縄、日本そしてアジアという共同体そのもののあり方までを含めて問い直す。

授業の到達目標

・戦後沖縄史を事例として、コミュニティとコンフリクトの関係について考察できる能力を習得する。

成績評価方法

●**試験**　70%　　授業最終日に理解度の確認として試験を行う。
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　毎授業ごとにレビューシートの提出を求める。
●**その他**　0%

科 目 名	ジェンダー論							
担当者名	豊田　真穂							
構築	2単位	春学期	金曜日	2時限	1年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

本講義は、ジェンダーに関して基礎から学びたいと考える人向けの「ジェンダー論」です。ジェンダー論に関して網羅的に学ぶことはできませんが、ジェンダー論を学ぼうとしている人にとっての導入になることを目指します。ジェンダーやセクシュアリティの視点を用いることは、社会現象や身のまわりの出来事を理解し、見落としがちな差別やそれに伴う暴力について考え、世界を今までとは違う視点で見ることにつながるでしょう。講義では、わたしたちがふだん疑うことのない「常識」にひそむ矛盾や思いこみに気づき、それらを打ち破っていくことを目指します。

※本講義では、全回にわたって性的な事象を扱い、暴力的な事象を扱う回も複数あります。※本講義では対面授業のうえ、毎回の講義内でディスカッションを実施し、ディスカッション内容を「わせポチ」等で表示する予定です。

授業の到達目標

「ジェンダー」や「セクシュアリティ」という分析概念を理解し、駆使できるようになること。

成績評価方法

毎回の小テスト（5点×12回）　60%
出席　40%

備考・関連ＵＲＬ

初回講義は、成績評価に関する説明をしますので出席してください。

科 目 名	エスニシティ・ナショナリズム論							
担当者名	鄭　康烈							
構築	２単位	春学期	火曜日	２時限	１年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

そもそも「国家」とはなんなのか。それはいつごろ、いかにして現在ある形になったのか。関連して、そもそも「日本人」「外国人」という区分はなんなのか。「私たち」と「かれら」という境界線は絶対的なものなのか。そうでないとしたら、それはなぜいかにしてつくられているのか。

日本では、多くの人びとがこうした問いについて特別疑問を抱くことなく生活を送っています。一方で、国民国家や人種、民族、はたまたエスニシティというものが私たちの生活を強く規定していることは紛れもない事実です。ニュースをみれば様々な国の名前が聞こえてくるだけでなく、オリンピックといったスポーツ大会では国を単位とした競争が繰り広げられます。旅行に行くときに欠かせないのは国籍が記されたパスポートですし、ひとたび国境を越えれば、日本で当然のように享受できた権利がなく不便な思いをしたという経験を持つ人も少なくないでしょう。また、「外国人」を目にする機会は増えたと感じている人は多いのではないでしょうか。人種やエスニシティといった基準で区別される集団間に対立や葛藤がみられることは世界各地の民族紛争や人種差別の問題をみれば明らかです。他方、そうした問題を乗り越えようとする人びとのたしかな実践も、たしかに存在しています。

本授業では、冒頭に示したような問いを考えるための諸概念・諸理論を欧米諸国や日本の具体的事例も紹介しつつ学び、社会を今よりもさらにクリアに眺められるようになるための一歩を踏み出すことを目指します。

授業の到達目標

・ナショナリズムおよびエスニシティというテーマに関連する諸理論・諸概念について理解し、履修前よりも社会をよりよく理解できるようになること
・授業内容から自らレポートクエスチョンを提起し、先行研究を引用しながら、問いに論理的・説得的に応答する期末レポートを学習成果としてまとめること

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　70%　　期末レポート（4000字程度）を課します。レポートの作成はテーマを担当が与えるのではなく、授業で扱った内容のなかから各自の関心に即した問いを自身で立ててもらい、執筆にあたってもらいます。レポートを評価する際には、①授業の内容を踏まえたうえで問いが立てられているか、②問いに関連する学術書を読み引用しているか、③問いへの応答が論理的・説得的に展開されているかを評価します。
●**平常点**　30%　　毎回授業終了時に、授業で得た学びや気づき、感想、疑問点などをコメントペーパーに記入・提出してもらいます。授業では、履修者に簡単な作業（ミニクイズへの回答記入など）をしてもらう時間や、隣の人と意見を述べ合う時間を設けます。また、教室内でマイクを回し、作業してもらった内容を全体に共有・発表してもらうことがあります。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連ＵＲＬ

対面形式を前提としますが、最大7回以内でオンライン（Zoom）で実施する可能性があります。授業参加に際して合理的配慮が必要な場合は相談に応じます。

科 目 名	グローバル時代の戦争とジェンダー　ジェンダーで読み解く戦争							
担当者名	豊田　真穂							
構築	２単位	秋学期	金曜日	３時限	２年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

「戦争の世紀」と呼ばれた20世紀を経た現在、わたしたちは戦争を、人々に人殺しを要求するこの行為を、どのように理解すれば良いのでしょうか。本講義では、ジェンダーの視点から戦争を理解することを目指します。

人類史上最大の世界戦争を二度にわたって経験した国際社会は、グローバル時代の名にふさわしく、法や制度あるいは価値観などを世界的に共有できるよう努力を重ねてきました。例えば、現在の国際社会では、戦時／紛争下の性暴力は、「人道に対する罪」として国際刑事裁判所（ICC）で訴追される犯罪とされています。しかし1945年に初めて「人道に対する罪」が規定された時には、性暴力やレイプがこの罪にあたるとして訴追されることはありませんでした。20世紀後半になり、世界各地で発生した暴力的事件を通して性暴力やレイプが戦争・紛争時の戦略的な道具とされたことが明らかになり、国連を中心とした国際介入がはじまり2003年のICC設置にいたります。2018年12月にナディア・ムラドさんとデニ・ムクウェゲさんの2人がノーベル平和賞を受賞したのは、こうした国際社会の流れの象徴といえます。現在、高度に政治問題化している、いわゆる日本軍「慰安婦」問題も、こうした流れのなかで理解する必要があるでしょう。

本講義では、しかしながら、女性が常に戦争の被害者であったわけではないこと、戦争あるいは軍隊への参加は女性（またはマイノリティ）にとって「一級市民」への第一ステップでもあったことにも注意を払いながら、戦争とジェンダーの関係を考えていきます。※本講義では、性的事象・暴力的な事象を取り扱う回が複数あります。

※本講義では対面授業のうえ、毎回講義内でディスカッションを実施し、ディスカッション内容を「わせポチ」で記入してもらいそれを授業内で共有する予定です。

授業の到達目標

ジェンダーの視点から戦争の問題について歴史的に考察できる

成績評価方法

レスポンス・ペーパー（3部につき1回Moodleに提出）　60%

出席　10%
期末レポート（Moodle上で実施）　30%

備考・関連URL

成績評価については初回講義で説明しますので、出席してください。

科 目 名	社会システム論　理論社会学　—社会構築のための媒体と論理							
担当者名	森　元孝							
構築	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

私たちは「社会」という言葉を使い、つねに一定のイメージを持っている。しかしながら、それがどのようであるかについて、一般論として述べてみることはたいへん難しい。

社会システム論は、20世紀に前半に生まれてきた考え方である。しかしながら、20世紀は科学と技術の急速な発展を見た100年でもあり、その間に「社会」は、その形を大きく変化させ、現在21世紀の前半にある。

そうした大きな変化を一般的水準で十分に捉えつつ、「社会のかたち」について理論的で精密な研究を行うための概念装置を学び、これから10年先、20年先を見透す眼を持つための講義である。

2年生の初学者には少し難しいところもあるが、やってやれないことはない。社会学についての概説、概論、入門などについて学んだことがあれば、多少役に立つかもしれないが、この授業は、「社会システム論」であり、いわゆる「社会学」の一分野ではなく、独立したもっと壮大な学問領域であるので、ほとんどの人が初学者であるとも言える。

春学期の「社会理論」と対をなしている。そちらが、かなり具体的な社会についての講義であるのに対して、こちらは徹底的に抽象的で理論的なものとなっている。「社会」を知り、そして語るには、両方を学ぶ必要があるからである。

授業の到達目標

「社会」ということを、感覚的、情緒的、感情的、イデオロギー的に表現するのではなく、すなわち、好き嫌い、難しい、辛いなどという表現で語るのではなく、徹底的に論理的に表現していくための認識、論理、作法を習得する。

成績評価方法

●**試験**　0%　.
●**レポート**　25%　最終レポートの内容。
●**平常点**　75%　講義進行中に回答していただく小課題の内容。各回の期限内に繰り返し回答が可能。
●**その他**　0%　.

備考・関連URL

1週間ずつ月曜日に更新していくフルオンデマンド授業です。
森　元孝のウェブページ　「ウィーンの森」の物語
社会構築論系　森ゼミのウェブページ　Prof. Mori's Seminar

科 目 名	社会理論　現象としての石原慎太郎：　日本の政治・経済・社会　1955年から2021年							
担当者名	森　元孝							
構築	2単位	春学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

政治家であり作家でもある石原慎太郎について、その全体像を捉える試みである。1950年代から現在まで、この人の存在は、日本にとって間違えなく大きなものがある。一方で多くの信奉者、他方で多くの批判者を生んできた、この人の「フィロソフィー」について、社会科学データとともに、この人の作品を追いながら、再構成をしていく。

一橋大学に社会科学を学ばんと入学したが、希有の作家として、そして政治家として活動してきた半世紀を超える事実は、戦後復興、バブル崩壊、世界における地位低下など、20世紀後半から現在にいたるまでの日本と、今、現在、未来に向けて日本を考える糸口を提供してくれるはずである。

断っておくが私は、この人の信奉者ではない。「人」を、ひとつの社会事象として、社会科学的に捉えた講義をする。

授業の到達目標

社会学、経済学、そして政治学を代表とする社会科学は、原理上、理想主義モデルを前提に理論、思想を創り上げることを常としてきた。これに対して、不条理、反主知主義を軸にした作品に人と人のつながり、日本とその質を提示してきた代表的作家、政治家を主題として、現代日本をどう考えるべきか、その拠り所について理解してもらう。

成績評価方法

●**試験**　0%　.
●**レポート**　30%　最終レポートの提出
●**平常点**　70%　適宜、まとめの意味で、小テストを行う。
●**その他**　0%　.

備考・関連URL

1週間ずつ火曜日に更新していくフルオンデマンド授業です。
森　元孝のウェブページ　「ウィーンの森」の物語
社会構築論系　森ゼミのウェブページ　Prof. Mori's Seminar

科 目 名	グローバル社会と教育　国際教育概論							
担当者名	小野寺　美奈							
構築	2単位	秋学期	金曜日	2時限	2年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

現在、貧困や環境破壊、民族紛争、人権侵害など、地球規模で数多くの問題が顕在化し深刻化しています。これらの問題を人類が乗り越える上で、教育はどのような役割を果たすことができるのでしょうか。また、これまでどのような指針が定められ、

どのような取り組みがされてきたのでしょうか。 国際教育とは、私たち一人ひとりが地球的視野に立って、従来の国際化・グローバル化を批判的に捉える視点から諸問題の様相や原因を理解し、解決に向けて方策を考え、実際に解決に向けての行動に参加することをめざす教育と言えます。また、国際教育は、これまでそれぞれの社会的文脈の中で独自の展開を見せてきた平和教育、人権教育、開発教育、国際理解教育、環境教育、多文化教育などを総称する概念でもあります。

本講義では、国際教育の歴史をふまえつつ、国際教育の実践を「グローバル」「地球市民」「人間関係づくり」「文化理解」「問題解決」「未来想像」「ことば」などの視点から読み解きます。さらには、国際教育の分野で提起されている教育目標・教育内容・教育方法、教師・指導者観などへの理解を深めた上で、これまでの教育との比較から今後のあるべき教育に向けた改革の方策を描き出すことをねらいとしています。

※履修生の人数や理解度などに応じて、授業計画を適宜変更する可能性があります。

※本授業は基本的に、前半を講義形式、後半をワークショップ形式で行います。

授業の到達目標

・国際教育の歴史や内容について理解する。

・地球的諸問題に対する教育実践のこれまでを理解し、その到達点と課題を批判的に読み解くことができる。

・これまでの国際教育の動向をふまえて、今後のあるべきグローバル社会における教育の姿を構想し論理的に言語化できるようになる。

成績評価方法

●**試験** 0% 実施しません。

●**レポート** 50% 最大4,000字程度の学期末レポートを提出していただきます。

●**平常点** 50% 出席、授業への積極的な参加状況、レスポンスシートの記載内容等を加味し、総合的に評価します。4回を超える欠席には単位を与えません。

●**その他** 0% 特になし。

備考・関連URL

この授業は講義科目ではありますが、双方向のコミュニケーションを重視して授業を進めたいと考えています。主体的に参加できる学生の受講を望みます。

科目名	市民活動論							
担当者名	中村 絵乃							
構築	2単位	春学期	水曜日	2時限	1年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

貧困や格差、環境問題や人権問題など、現代社会における地球的課題は、全て私たちの生活と密接にかかわっています。こうした課題に対して、国際機関や国家、自治体、企業とは別に、市民としての個人や団体が、様々な形で問題解決に積極的にかかわっています。それらの力は社会を大きく変える原動力にもなっています。

ボランティアをはじめとして、NGO／NPOなどの市民活動の背景や具体的な取り組み、そこで重視される市民性や社会性、公共性、参加などのキーワードを議論・整理していきます。後半は、具体的な市民活動や組織運営についても考えていきます。授業は全て参加型で行い、参加者同士が、対話し、考えを深める場の設定・運営も実践します。

※【実践的な授業科目】

この科目は主として実践的な教育が行われる科目です。

授業の到達目標

①現代社会の地球的課題の構造や私たちの暮らしとのつながりを理解する

②市民活動の背景や具体的な取り組み、重視されるキーワードなどについて理解したうえでに、自分の意見を述べることができる。

③市民活動の基礎として、多様な意見を出し合い、対話を進めるための姿勢や技術を身につける。

成績評価方法

●**試験** 0% 試験は行いません。

●**レポート** 30% 課題レポート 30% 詳細は授業内に説明します

●**平常点** 70% 授業参加（グループワークへの参加も含む）、グループ発表、毎回のコメントシート、定期的な小課題の提出

●**その他** 0% 特になし

備考・関連URL

・本授業では、参加者同士の意見交換やグループワークを中心にすすめます。出席を重視します。 ・既に市民活動やボランティアへ参加している人には、グループまたは全体で、活動報告などをしてもらう場合があります。

・積極的に参加したいと考える方の履修を望みます。 ・ボランティア・市民活動をこれからやろうとしている人も歓迎です。

科目名	平和・人権論 歴史から考える平和と人権と「わたし」							
担当者名	石岡 史子							
構築	2単位	春学期	金曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

政治、経済、文化、私たち一人ひとりの暮らしは、ますます地球規模で密接に関わり合っていきます。そのなかで、今なお続く差別や暴力、社会的弱者の人権侵害に私たちはどう向き合い、共生の時代を歩んでいけばいいのでしょう。この講義では、歴史を教材にして、人間の差別や偏見を探求し、平和と人権という価値を創造する意味とその主体を考えます。社会の課題として、「わたし」と他者の幸福や生きる権利の問題として捉える視点を獲得します。前半では、ナチズムとホロコースト、後半ではアジアの戦争の歴史や紛争・難民問題に取り組む国際協力NGO/NPOの事例も取り上げます。問いづくり（Question Formulation Technique）や対話などのアクティブラーニングや視聴覚教材を取り入れて実施します。

※【実践的な授業科目】

この科目は主として実践的な教育が行われる科目です。

授業の到達目標

① 平和と人権をめぐる課題について理解を深め、自分の考えを展開できる
② 問いを立て、思考し、身近な平和と人権をめぐる課題について自ら探求できるようになる
③ 異なる意見を尊重しながら、対話や議論に主体的に参加できる

成績評価方法

●**試験** 0% なし
●**レポート** 40% 中間および期末レポート
●**平常点** 60% 授業の出席と参加度、毎回の提出物(事前課題やリアクションペーパー、Waseda Moodlemも活用予定)
●**その他** 0% なし

備考・関連URL

・本授業は対面を基本とします。必要に応じてオンライン授業の回を設ける場合は、授業内およびMoodleでアナウンスします。
・第12回または第13回はゲストスピーカーを予定しています
・教科書ではありませんが、講師の関連図書として履修登録の際の参考にしてください。
『ハンナのかばん』(児童書、ポプラ社、2006年)
『「ホロコーストの記憶」を歩く〜過去をみつめ未来へ向かう旅ガイド』(子どもの未来社、2016年)

講義

科目名	社会構築論1 東アジア共生論―隣国との葛藤を乗り越えるために―							
担当者名	川尻 秋生 他／熱田 敬子／飯山 知保／金 敬黙／豊田 真穂／藤野 裕子／柳澤 明							
構築	2単位	春学期	無	フルOD	1年以上	―	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

現在、日本と近隣諸国との関係は良好ではない。このような関係になってしまった原因を過去に学び、現状を分析し、将来を展望することは、現代を生きる我々にとって喫緊の課題であると言える。

そこで、本講義では、社会構築論系ならびに東アジアに関心を持つ教員が集まり、過去・現在・未来の3つのクラスターに分けて講義を実施する。すなわち、①日本が東アジアの国々と歴史的にどのような関係を築き、日本が近代化する過程でその関係がどのように変化し、どんな影響を与えたのかという点を検証し(東アジアの歴史を考える)、②現代の日本と近隣諸国との間に横たわっている問題点を洗い出し(東アジアの歴史認識を考える)、③将来、日本がこれらの国々と共生し、より良き関係を築くための方法(東アジアの共生を考える)を、受講生とともに模索したいと考える。

なお、本講義は、社会構築論系ならびに社会構築論系の副専攻「東アジア共生論」の導入科目も兼ねている。 グループワークは特に想定していない。

＊本授業は、定期配信(毎週木曜日に開講、2週間の受講期間)によって、全回オンデマンド授業として実施します。

授業の到達目標

現在、アジア諸国に対するヘイトをはじめ負の情報が溢れ、一定の支持を集めているようにも思われる。しかし、こうした見解は、自分で考え、検証したものではなく、メディアなどによるステレオタイプの言説を鵜呑みにしている場合が少なくない。

本講義では、知識の吸収はもちろん、自分自身で今の東アジアに横たわる諸関係を読み解き、他者の見解に惑わされず、将来への展望についての意見を持つことをめざす。

成績評価方法

●**試験** 40% 東アジアの歴史を考える・東アジアの歴史認識を考えるに小レポートを課します。
●**レポート** 40% 学期末に課します。
●**平常点** 20% 出席点
●**その他** 0% なし

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科目名	アジア社会の動態 近代「満洲」と日本							
担当者名	大野 太幹							
構築	2単位	春学期	金曜日	1時限	1年以上	―	合併科目	フル【対面】

授業概要

「満洲」とは、概ね現在の中国東北地方および東部内モンゴルの一部に相当する地域であったが、現代の日本では想像がつかないほど、日本との関係が深い地域であった。他方、中国では地域名として「満洲」という呼称はなく、時期によって「関東」(山海関の東の意)、「関外」(山海関の外の意)、「東三省」・「東北」などと称され、山海関以南の中国本土とは異なる歴史・文化を有する土地であった。また、英語圏やロシアではManchuria(マンチュリア)と呼称され、世界的に認知された地域でもあった。

それでは、「満洲」は日本や中国、さらにはロシアなど他の国々にとって、どのような意味を持つ地域だったのか？本講義では、主に20世紀の「満洲」について、日本との関わりを中心としながらも、中国・ロシア・モンゴルおよび欧米諸国との関係といった多角的な視点からも考察していきたい。

本科目は、「ディプロマポリシー」、「カリキュラムポリシー」にいう「講義」に該当する。

授業の到達目標

「満洲」の歴史に対する全般的な理解を深めるとともに、近代日本の歴史を国際的な文脈の中で読み解く視座を養うことを目標とする。

成績評価方法

●**試験** 0% 実施しない
●**レポート** 70% 期末に授業内容に関連するレポートを課す。テーマ設定の明確さ、関連する先行研究・資料の読み込みの程度、論理構成、オリジナリティを総合的に評価する。
●**平常点** 30% 各回に設定する小テストへの解答状況による。
●**その他** 0% 特になし

科 目 名	トランスナショナル関係論　日韓関係の過去、現在、未来							
担当者名	金　敬黙							
構築	２単位	春学期	木曜日	５時限	１年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

本講義ではトランスナショナリズムの理論的な側面と実証的な分析を行います。授業の到達目標　具体的な事象を活用しながら、手触りのある人、モノ、情報、カネの移動と脱国家関係の進展を理解することを意識します。政府組織や企業などの経済活動に加え、市民社会や文化交流などを通じたトランスナショナルな事象が日本と韓国、そして東アジアと世界で展開されています。草の根や非政府の視座からトランスナショナルな関係を再考することが本授業のねらいです。　中でも、東アジアにおける民主主義と市場経済という価値規範を共有する日本と大韓民国をとりまく日韓関係を軸にトランスナショナル関係論について学びます。2025年は国交正常化60周年を迎えます。戦後、1965年以降、21世紀以降などいくつかの軸に分けて考えます。

韓流や日流の文化交流は果たして歴史認識や過去問題を克服することができるのでしょうか。過去を知らずに本当に交流と和解は実現するのでしょうか。このようなモヤモヤする認識を受講者と一緒に考えて探究することがねらいでもあります。

授業の到達目標

国家単位に限らず、市民社会や個人、企業などの取り組みを重視することから21世紀における現象を検証します。

国際文化論やトランスナショナル関係論の文脈から分析します。事前・事後学習の内容　講義の前後に別途お知らせします。授業計画　アジア、ネーション、関係という概念を相対化してみましょう。

人文学や社会科学の視点に基づきながら、新しい時代における日韓関係を模索しましょう。

成績評価方法

出席にくわえ、授業開始前までの事前学習レポートがほぼ毎週あります。60%

そして、中間レポートや期末レポートなどが予定されています。40%

科 目 名	国際協力・人間の安全保障論　「国際協力」と「人間の安全保障」実践者（Practitioners）の視点から							
担当者名	金　敬黙　他／畠山　澄子／師岡　康子							
構築	２単位	秋学期	木曜日	５時限	１年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

国内外で起きる様々な問題について、国際協力や人間の安全保障というキーワードをゆるやかにあてはめながら考察をしていきます。本授業は、金敬黙が7回担当し、弁護士である師岡康子が3回、そして国際NGOピースボートの共同代表である畠山澄子が4回担当します。現場の視点からみえる景色をもとに、履修者とともに思考を深めます。授業の最終盤には履修者が関心のある課題について主体的にアクションに取り組みます。

【実践的な授業科目】

※この科目は主として実践的な教育が行われる科目です。

授業の到達目標

理論と実践を踏まえて履修者が今社会・世界で起きている「国際協力」や「人間の安全保障」に関係する問題について自分の意見や視点を持つことを目指します。

成績評価方法

●出席と各回の授業のおわりに時間を設けて取り組む「振り返りシート」の提出《20%》

●グループワークやディスカッションへの貢献度《20%》

●通常課題としてのレポート《60%》

科 目 名	サステナビリティ論　世界で起きていること、早大生ができること							
担当者名	高野　孝子							
構築	２単位	秋学期	金曜日	２時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

「未来」はいつの時代も不透明で予測不能なものだ。その中で、人は懸命に前を向いて歩いていく。あらゆる将来設計や夢も、この社会が、変化はあっても基本的にはこのまま続いていくことが前提だ。しかし実は今、その基盤がぐらつき始めており、文明の存続すら危ぶまれている。人類が今、何を優先して決断し、何を変えていくかで、未来は変わる。このことを表現する言葉が「サステナビリティ」だ。

この授業では、「サステナビリティ」の概念について理解するとともに、これが重要な議題として国際政治の舞台に登場してきた背景をたどる。それが地球共通の課題であり、環境課題と経済、社会、政治、文化の密接な関係性について認識する。

関連して、地球の現状を、気候変動やエネルギー、汚染、資源と廃棄物、生物多様性、食料と水、安全や経済格差などから概観する。遠い彼方で起きている、自分の日常とは無縁と思われる問題が、実は自分とつながっていることを、幾つかのトピックを取り上げて検討する。

持続可能な社会を構築するためにどのようなことが必要なのか、「経済成長」や「開発」など、一般的に「良い」とされているコンセプトを多角的に考察し、価値観を問い直す機会を持つ。大きすぎて自分には何もできないと思うような地球規模のテーマに関して、身の回りでアクションを起こしている事例はないかを調査し、自分でも取り組んでみる。そうした調査や経験を踏まえ、これまで見てきたさまざまな課題に対し、日常で一人でできるアクションは何か、同じ志を持った何人かでできることは何かなど、グループディスカッションを通して考えていく。

広い視野で価値観の転換も含めて考察し、行動へのスタートラインに立つのがこの科目の目的だ。

授業は導入的ではあるが学際的で、生態学や開発学、地理学、人類学、社会学などの視点が入ってくる。授業運営は一方通行の講義ではなく参加型で、課題を踏まえてのディスカッションや発表など、履修生の積極的な参加が必要となる。小グループでの話し合いは対面授業においてはほぼ毎回実施される。 本授業は教室での対面を基本とし、一部オンデマンドにより3回ほど実施を予定する（変更になることがある）。

授業の到達目標

1）「サステナビリティ」の議論が起きる背景について説明できる。

2）サステナビリティの概念について理解し、「持続可能な開発」との違いを説明できる。
3）世界の現状を理解し、自分の日常との関連について説明できる。
4）日常のできごとについて、多角的な視点を獲得する。

成績評価方法

●**試験**　10%　　14回授業時の教場レポート試験における理解度
●**レポート**　20%　　調査課題の提出
●**平常点**　70%　　出席、授業への積極的参加、提出課題（毎回の授業後、指示された題目に沿ってmoodleから提出する）
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

＊オンデマンド（3回ほど）も予定しているが進行状況によって、変更があり得る。オンデマンドの際は講義中心だが、教室ではディスカッションや発表を中心に実施していく。
＊履修生の関心、進行状況によって、柔軟に授業内容を変更していく。
＊4回以上の欠席は単位を認めない。

科 目 名	**包摂・排除論**　日本社会のマイノリティにおける「同化」と「異化」							
担当者名	小松　寛							
構築	２単位	秋学期	金曜日	２時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本講義では日本社会のマイノリティに焦点をあて、その歴史と現在の課題について考察する。いまだに日本社会は単一民族であるとの考え方が散見されるが、日本政府はアイヌを先住民族として認めており、また沖縄の人々も先住民族として捉えることもできる。また日本帝国による植民地支配の結果として、多くの在日コリアンが日本社会の一員として生活している。加えて、近代日本が生み出した身分的差別である被差別部落問題もいまだに解消されていない。

そこで本講義では近代以降、重要な社会的課題として論じられきたそれぞれのマイノリティに対する差別の問題の変遷とその解消を目指す営みの展開を追う。その際にはそれぞれのアイデンティティの表出に着目しながら、マジョリティとしての日本社会による「包摂」と「排除」がどのような力学で作用し、マイノリティ側はどのように「同化」もしくは「異化」を選択したのかに焦点を当てる。

授業の到達目標

・日本社会のマイノリティの問題がどのように形成され、その解消が目指されてきたのかを理解する。
・マイノリティの問題について、自分の意見を自らの言葉で説明できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　70%　　授業最終日に理解度の確認として試験を行う。
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　毎授業ごとにレビューシートの提出を求める。
●**その他**　0%

科 目 名	**グローバル・イシューとコミュニティ**　環境と地域の持続性を考える							
担当者名	西城戸　誠							
構築	２単位	春学期	無	フルOD	２年以上	オープン科目	合併科目	フル(オンライン) フルオンデマンド

授業概要

本講義ではグローバルイシューとローカルレベルのコミュニティとの関わりについて、連字符社会学としての「環境社会学」と、サステイナビリティスタディーズを意識した「環境と社会」学による事例研究の知見を解説する。

具体的には、グローバルイシューとコミュニティを交差させて議論することはどのようなことなのか、グローバルイシューとコミュニティを交差させる観点の一つである「サステイナビリティ」という概念を再考する。次に、グローバルイシューの影響を受けたコミュニティの課題について、水害、核廃棄物などを事例として、グローバルイシュー対応するコミュニティの課題について講義する。さらに、コミュニティの諸実践がグローバルイシューの課題解決に資することを、気候変動対策としての再生可能エネルギーの地域への導入や、生物多様性や生態系サービスとコミュニティとの関連などを事例にして解説する。

授業の到達目標

グローバルイシューとそのコミュニティへの影響や対応策の実践について具体的に理解すること。
環境社会学と「環境と社会」学の基本的なアプローチを理解すること。

成績評価方法

●**試験**　50%　　教場試験を実施する
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　コメントペーパー、講義中の課題
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。　本授業は教場試験（記述式）を実施する（日程は、文学学術院の定期試験日。なお、資料の持ち込みは可能）。

以前の授業アンケートの中でフルオンデマンドにもかかわらず教場試験（対面試験）を実施する理由について提示してほしいという回答があった。教場試験（対面試験）の方が本人の理解度を測るためには有効であると判断していること、フルオンデマンドであるから教場試験を実施しないという理由はないことが挙げられる。なお、e-スクール受講者や、その他、教場試験に参加できない（大学が規定している）正当な理由がある場合は、時間制限付きのオンデマンドのテストで代替する。

科 目 名	民族と国家							
担当者名	小田　悠生							
構築	２単位	秋学期	金曜日	５時限	２年以上	―	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業では、アメリカ合衆国の歴史的文脈に当てはめながら、主権国家とネーション・ステイト（国民国家）、シティズンシップ、国際的な人の移動と国家主権という3つの視点から、「民族と国家」について検討します。

The United States of America という国名を考えてみましょう。state は「国家」（例：sovereign state＝主権国家、nation state＝国民国家）を意味する言葉であると同時に、アメリカ合衆国のような連邦国家における「州」も意味します。

この国名には、18世紀末、13の英領北米植民地が独立し、13の独立邦（thirteen states）を形成したのちに、一つの国家を形成した経緯が現れています。連邦と州という二つの大きな政府の今日まで続くせめぎ合いは、

国家について多層的に考察する視座を与えます。では、USA を日本語では「合州国」ではなく「合衆国」と表すのは、なぜでしょうか。先達が表そうとした、合衆国憲法の原理とは何かといった問題についても考えていきます。

18世紀末以降に形成される近代国家は、国民を主権者に据えるとともに、その国民が一定度の共通性・一体性をもつことを前提あるいは要件としてきました（国民一国家）。では、さまざまな先住民、植民者、奴隷とされた人々、

世界各地からの移民、合衆国の拡張によりその領土に取り込まれた人々と、その歴史の中で常に新たな構成員を抱えてきた、アメリカ合衆国におけるネーション形成とは、どのようなものだったのでしょうか。

誰が構成員となりうるのかという境界は、歴史的に、そして今日の合衆国において、どのように問われているのか検討していきます。

授業の到達目標

・アメリカ合衆国の成り立ちについて説明できること
・主権国家とネーション・ステイトについて説明できること
・シティズンシップについての基本的概念を説明できること
・民族、人種、ネーション、エスニシティについて説明できること
・グローバリゼーションと国家主権、シティズンシップの変容について説明できること

成績評価方法

●**試験**　65%　　第14回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。

評価基準：
・授業で学んだ概念を適切に用いた論述であること
・資料分析の正確性
・歴史的な文脈の把握

●**レポート**　25%　　教室内での講義のほかに、1回、授業でのテーマに関連する公開シンポジウム・研究会・セミナーに参加し、リスポンスペーパーを書きます。

評価基準：各回の講義と配布資料を結び付けて、課題を考察できること

●**平常点**　10%　　授業中の発言と遅刻率・出席率を総合的に判断します。

●**その他**　0%

科 目 名	コミュニティ創造論　「地域の危機」と地域再生							
担当者名	西城戸　誠							
構築	２単位	春学期	無	フルOD	１年以上	―	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

本講義では日本国内の事例を中心に、地域社会やコミュニティにおける現在のさまざまな課題と、その課題を解決しようとする諸実践を紹介し、今後、どのようなコミュニティを創造するべきか考えていく。具体的には、地域社会・コミュニティに対する基本的な分析視角を確認した後、都市郊外における市民活動、地方部を中心とした地域社会の危機と地域再生の状況、「縮小社会」における問題（人口・行財政・地域経済・自然環境）とその対策について講義する。また、コミュニティの課題解決のための合意形成の方法についても議論する。以上の内容を踏まえて、よりよいコミュニティを創造するための基本的な考え方についての理解を深める。

授業の到達目標

コミュニティ／地域社会に対する社会学的な視点、分析概念について理解すること。
日本におけるコミュニティ／地域社会における現在の課題やその対応策に関する具体的な事例への理解を深めること。
コミュニティ／地域社会における諸問題の解決に向けた実践の背景にある考え方、思想についての理解を深めること。

成績評価方法

●**試験**　50%　　教場試験
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　コメントペーパー・授業中の課題など
●**その他**　0%

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。
本授業は教場試験（記述式）を実施する（日程は、文学学術院の定期試験日。なお、資料の持ち込みは可能）。
以前の授業アンケートの中でフルオンデマンドにもかかわらず教場試験（対面試験）を実施する理由について提示してほしいという回答があった。教場試験（対面試験）の方が本人の理解度を測るためには有効であると判断していること、フルオンデマンドであるから教場試験を実施しないという理由はないことが挙げられる。なお、教場試験に参加できない（大学が規定している）正当な理由がある場合は、時間制限付きのオンデマンドのテストで代替する。

科 目 名	グローバル福祉論							
担当者名	藤屋　リカ　他／長谷部　貴俊							
構築	２単位	春学期	火曜日	２時限	１年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

グローバルヘルスが根本的に目指している健康格差の是正という思想と変遷を学び、健康と福祉の密接に関わる文化、社会、経済など様々な外的要因を含め、包括的にかつ国際的な視点から考える。また、構造的な社会の問題から健康や福祉が脅かされている状況について理解し、その中で生きる人々の知恵や国際社会の取り組みや援助の実際について学ぶ。開発は誰のためにあるものかという問いを持ちながら、保健福祉分野における開発のあり方について、事例を基に議論を行い、考察を深めていく。

【実践的な授業科目】

※この科目は主として実践的な教育が行われる科目です。

授業の到達目標

グローバルヘルス・福祉について理解し、事例を通して考えることができる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しません。
●**レポート**　60%　　第9回の講義時に具体的な内容は提示します。
●**平常点**　40%　　出席、講義への積極的な参加、グループワークへの貢献などについて、評価します。
●**その他**　0%　　予定していません。

科 目 名	コミュニティと歴史認識　戦後日本外交における歴史認識問題							
担当者名	小松　寛							
構築	２単位	秋学期	月曜日	４時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

20世紀は帝国主義による植民地の獲得が展開され、その帰結として二度の世界大戦を経験した、戦争の世紀であった。植民地支配と戦争被害は戦闘員のみならず一般市民に対しても多大な犠牲を強いることになったが、戦争が終結した後もその痕跡は消えることなく、当事者および当事国の間で再び問題として表出する。それが日本の場合、歴史教科書問題、靖国への公式参拝、従軍慰安婦、徴用工（強制労働）といった問題であった。21世紀に入っても依然として重要な課題としてあり続けている歴史認識問題を克服するためには、まさにその歴史の基本的な事実を学び、その解釈が分かれる争点を理解することが必要不可欠であろう。本講義では戦後日本外交史を軸にアジア諸国との歴史認識問題にフォーカスを当てることにより、これらの問題を考える。

授業の到達目標

・歴史認識問題に関する学術的な知見を理解する。
・歴史認識問題について論理的に議論する能力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　70%　　授業最終日に理解度の確認として試験を行う。
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　毎授業ごとにレビューシートの提出を求める。
●**その他**　0%

科 目 名	コミュニティ研究　「コモンズ」から考える地域社会							
担当者名	舩戸　修一							
構築	２単位	春学期	無	フルOD	１年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

「草原・森林・牧草地・漁場などの資源を共同で利用・管理する仕組み」または「共同で利用・管理する資源そのもの」は「コモンズ」と呼ばれる。本授業では、具体的な事例から、このような資源がどのように利用・管理されてきたのか、そして現在どのような利用・管理状況にあるのかを説明する。そのうえで今後の地域社会（農山村）における自然環境や資源の共同利用・共同管理のあり方について考える。

授業の到達目標

まず「コモンズ」研究がどのような背景で成立し、どのように発展してきたのかを理解する。次に様々な地域資源やそれに関する実践活動から資源の持続可能的な利用や地域社会の持続可能性について理解する。最終的には「コモンズ」研究の立場から今後の地域社会のあり方を構想することができるようになることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　20%　　授業内容を踏まえたレポートを学期末に提出する。与えられた課題を授業内容の視点と絡めて深く考察しているかどうかを評価する。
●**平常点**　80%　　授業内容についてのリアクションペーパーを授業後に提出する。授業内容の理解と考察内容を評価する。
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

受講者には授業への積極的な参加と自主的な学習を求める。

科 目 名	国際メディア・情報リテラシー論 「世界が動く　自分も変わる」・・・何を知り、どう伝えるべきか							
担当者名	金　敬黙　他／アラバスター　ジェイ　フェリックス／水野　孝昭							
構築	２単位	春学期	金曜日	４時限	１年以上	オープン科目	合併科目	フル【対面】

授業概要

世界中で起きている様々な出来事を、「それがどういう意味があるのか」を示して人々に伝えるのがメディアの役目です。メディアという言葉は「媒体」という意味ですが、この授業では主に「ニュースの報道、解説、評論というジャーナリズム」をテーマにします。

世の中の出来事を「伝える」＝報道には3つの柱があります。何が起きているのか、その事実を伝える「報道」、その原因や背景を探る「解説」、ではどうしたらよいのか、その指針を示す「評論」です。

ジャーナリズムは、ニュース報道を通じて「今の世界＝自分たちが作っている社会の在り方」を人々が問い直す材料や機会を提供することが役割です。

ですから、「民主主義の基盤（インフラストラクチャー）」として欠かせないのです。

この授業では、日々の国際ニュースを主な材料に「ニュース読み解きのスキル」を身につけます。二人の教員が前半（水野）、後半（アラバスター）を分けて担当して最終回に全体を総括します。

【実践的な授業科目】

※この科目は主として実践的な教育が行われる科目です。

授業の到達目標

①世界中の様々な出来事に関するニュースを、自分の視点で読み取り、フォローできる「ニュース読解力」を養う
②遠い世界と自分の身の回りの日常とに共通する課題や論点を見つける「公共性＝パブリックな視点」を身につける
③自らメディアで発信し、他者のメッセージを評価するプロセスを通じて「メディアの技法」を学ぶ

成績評価方法

- **試験**　0%　　なし
- **レポート**　60%　　事前課題の準備や授業後のコメントなど
- **平常点**　20%　　議論への参加、発言、質問、コメントなどを総合的に評価する
- **その他**　20%　　自主プロジェクトや外部のリソースの紹介など個別に評価する

備考・関連ＵＲＬ

＜担当予定＞　3人の教員が担当して、初回と最終回は金敬黙、2回から7回は水野、8回から13回はアラバスターの担当です。

科 目 名	環境と開発論							
担当者名	アラバスター　ジェイ　フェリックス							
構築	２単位	春学期	金曜日	３時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

「環境」を守りながら、「開発」を継続していくことは可能なのでしょうか？

この2つの概念は相反するとまで考えられますが、近年、日本を含む世界各国が、経済開発を積極的に推し進めながら、環境保護に取り組むという新しいアプローチを進めています。さらに、2015年9月に開催された国連総会において、全会一致で、持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals、SDGs）が採択されました。

これからの未来を左右する重要な課題ですので、講義中にグループワークやディスカションなどを実施していきます。

基本的に、授業は日本語で実施します。ただし、国際的な課題を多く取り扱うことから、一部、英語の記事や映像を活用して授業を進めていきます。

授業の到達目標

重要な概念である「環境」と「開発」について理解して、議論できるようになる。

成績評価方法

グループワーク: 35% 期末発表の作成など
平常点評価: 45% 出席、授業参加、試験、定期課題など
出席、授業参加など: 10%
その他: 10% 特別課題など

科 目 名	社会デザイン論　建築史2：イタリアにみる共同体とその歴史							
担当者名	奥田　耕一郎							
構築	２単位	秋学期	火曜日	５時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

1）「社会デザイン」とは、さまざまなレベルの共同体が抱える各種の課題あるいは共同体そのものを、「デザイン」を立脚点に広汎な分野を横断しながら改善、解決、発見していく諸活動および知的営みの総体と捉えられる。

この認識のもと、人間による社会的実践の膨大な蓄積として出現する建築と都市に着目し、その歴史的な歩みを確認していく。建築や都市がどのような背景や要因、意図から発生し、いかに構想・設計・建設・活用され、継承・持続し、また失われていったのかについて、すなわち地域やコミュニティにおける物理的環境の変化・変遷について、実例をもとに理解を深め、その長期的なパースペクティブの獲得を目指す。

2）イタリアの事例を主な対象として上記を試みる。

授業各回のテーマをもとに、イタリアの文化遺産や諸都市をオムニバス的に巡りながら、その特徴や歴史を確認することで、共同体の諸問題に対する受講者各自の視点を養っていく。

建築史学の一端としては、春期科目「建築史・都市計画論（副題：建築史1 -日本の建築の通史を考える-）」と問題意識を共有しており、この講義では広く西欧の建築の歩みについて、イタリアを軸にその基礎的理解と知識の蓄積を目指す。

授業の到達目標

文化構想学部および文学部ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の3点とする。

1）西欧の都市型の共同体について、その基本的な計画手法や主な構成要素、工法の特徴など、工学および建築学の初歩的な知見に基づきながら、歴史的な読解や解釈ができる。
2）1をもとに、国内外のさまざまな地域や時代の実例について、それらを相互に比較、分類し、その優れた点や問題点を指摘できる。またそれを説明し、他者との共有と対話ができる。
3）1と2を起点に、現代の共同体における各種の課題を再考し、受講者各自の未来に向けた構想や展望へと応用、展開し、自ら行動できるようになる。

成績評価方法

1. 複数回の小レポートと期末レポートを提出。これらレポートの合計評点で最終評価を行う。
   ・小レポート（配点30%・学期中に2回出題）
   ・期末レポート（配点70%・学期末に1回出題）
2. これらレポートを全て提出した場合に、上記配点に基づいて評価を行う。1つでも未提出の場合は不可とする。
3. 各レポートは期日内に提出すること。期日後の提出は原則不可。健康上の理由等事情によっては受理する場合がある。
4. 具体的な課題については講義中で発表する。

科 目 名	エネルギー産業と社会							
担当者名	清水　拓							
構築	2単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業では、石炭産業を題材にエネルギー産業と社会のかかわりについて学ぶ。石炭は人間とのかかわりにおいて長い歴史をもつエネルギーである。近代化と密接にかかわる産業革命において、石炭はその主役だった。石炭は過去のものと思われがちで、現代社会とは一見関係のないようにみえるが、石炭産業が先行事例として積み上げてきた経験（たとえば、産業政策、離職者対策、地域振興など）は、現在の日本社会を理解するうえでも多くの示唆に富んでいる。さらに近年は「軍艦島」に代表される産業遺産としての関心も高まっている。なにより石炭は現在でも日本の電力の3割を担っている。全14回の授業を通じて、様々な切り口から石炭というエネルギーと人間の営みの関係をみていく。エネルギー・資源をめぐる今日的な課題についても考えるきっかけとしたい。

授業の到達目標

総合産業である石炭産業の学習を通じて、エネルギー産業と社会のかかわりについて理解を深める。また、世界的に脱炭素社会への転換が急速に進行している現在において、エネルギー・資源をめぐる今日的な課題についても知識を修得する。くわえて、全14回の講義において石炭産業を様々な切り口から学習することを通じて、具体的に何かを対象にして事例研究をおこなう際に、多様な視点が存在することを理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　40%　　期末レポート
●**平常点**　60%　　授業参加の積極度・課題提出。単位取得には全授業回数の3分の2以上の出席を必要とする。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	産業・労働社会学							
担当者名	清水　拓							
構築	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

産業・労働社会学は「働くこと」に関する社会学である。第1～2回は、その学問領域と隣接領域について学ぶ。第3～8回は、テーマごとに産業・労働社会学と隣接領域の知見を学ぶ。第6～8回では古典的調査研究の方法と知見に触れ、第9～13回は具体的なトピックから戦後日本の産業社会をみていく。第14回は全体のまとめである。全14回の授業を通じて、「働くこと」への視点を通じて社会をまなざすことができるようになることを目指す。

授業の到達目標

（1）産業・労働社会学に関する基礎的な知識を習得する。
（2）産業・労働と社会のかかわりについて多角的な視点から検討できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　40%　　期末レポート
●**平常点**　60%　　授業参加の積極度・課題提出。単位取得には全授業回数の3分の2以上の出席を必要とする。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	哲学専門講義1（ドイツ哲学／現代哲学）「哲学」とはなにか							
担当者名	鹿島　徹							
哲学コース	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この講義はこれまで「哲学」と呼ばれてきた・いまでもそう呼ばれているものにひとがなにを託すことができるかを考えようとするものです。「哲学」とはそもそも自明なものを問い直す営みを内に含んでいます。そうであるなら当の「哲学」こそ、まずもってこの問い直しの対象となるべきものでありましょう。

とはいえ「哲学」には、そのつどの論じ手によって大きく異なった意味が与えられています。普遍的な、誰もが認める定義など存在しないにちがいありません。すると「「哲学」とはなにか」という問いは、「哲学」という営みがもつ多様な側面を可能なかぎり視野に収め、そこに胚胎する諸可能性を明らかにする作業であることになるでしょう。

この作業が「諸哲学」のカタログ作りのようなものにならないために、三つの古典的テクストに支柱の役割を託したいと思い

ます。アリストテレス『形而上学』・デカルト『省察』・ハイデガー『存在と時間』がそれです。この講義は学説史を意図するものではありませんので、これらを思想的な支柱にして「哲学の意味・多面性・可能性」を考えてゆくことになります。
講義担当者の視野は言うまでもなく狭く、知識もまた限られていますが、以下に挙げるもの以外にも、上記の課題に応えるための参照文献を取り上げることになりましょう。その意味で以下のスケジュールは暫定的なものに留まり、講義の進展につれて意想外のテクストを取り上げるかもしれないことを、あらかじめ御了解ください。

授業の到達目標
「哲学」とはなにかについて各自が考える手がかりをえること。

成績評価方法
学期末提出のレポートによる

科 目 名	哲学専門講義2（英米哲学／現代哲学） 分析哲学入門							
担当者名	伊藤　遼							
哲学コース	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
19世紀の終わりから現在に至るまで英語圏を中心に行われてきた哲学の営みは「分析哲学」と呼ばれる。もちろん「分析哲学」と一口に言っても、その内実は多様であり、扱われるトピックも多岐にわたる。この授業では、こうした多様性を踏まえて、「分析哲学」という営みにこれまで現れた主要な考えをトピック毎に紹介する。
受講者には、抽象的な概念や議論について理解を深めてもらうために各回ワークに取り組んでもらう。

授業の到達目標
・分析哲学において論じられてきた哲学的諸問題を理解する。
・哲学的諸問題に対して、論理的に考察する習慣をつける。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　期末レポートという形で、授業内容を正確に理解できているか、関連する資料を参照することができているか、自らの考えを論理的に述べることができているか、この三つの基準で評価する。
●**平常点**　60%　　初回を除く各授業で行うワークへの取り組みと授業参加の姿勢を評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	哲学専門講義3（中世哲学） トマス・アクィナスの徳倫理学							
担当者名	辻内　宣博							
哲学コース	2単位	春学期	火曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
トマス・アクィナス『アリストテレス『〔ニコマコス〕倫理学』註解』（SLE）第6巻〔＝思考の徳／知性的な徳〕を概観する。

授業の到達目標
トマス・アクィナスおよびアリストテレスの「思考の徳／知性的な徳」の全体像を理解すること。

成績評価方法
●**試験**　72%　　試験を実施します。授業の内容全般についての理解度を評価します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　28%　　授業期間内に2回の課題を課し，その論理的整合性や内容面について評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL
講義要項やWebシラバスの記載内容は、登録された受講生の人数や理解度，進捗状況に応じて、授業開始後に変更となる可能性があります。

科 目 名	哲学専門講義4（フランス哲学／現代哲学） 思考のプラクセオロジー							
担当者名	西山　達也							
哲学コース	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
私たちは、なぜ、どのような時に、「思考する」という行為（プラクシス）をおこなうのだろうか。
なぜ私たちは、時として思考停止に陥り、あるいは突然、何かに取り憑かれたように思考を開始するということがあるのだろうか。思考はそもそも何を〈為す〉のだろうか。
フランス近現代の哲学は、思考するという行為（プラクシス）をめぐって、たえず自己反省を積み重ねてきた。そのよく知られた例がデカルトの「コギト」であり、パスカルの「パンセ」であるが、これらの探究によって明らかになったのは、思考という行為が「論理的」「合理的」「主観的／客観的」「超越論的／経験的」「人間的」といった性質・二項対立には還元されないという当たり前のような事実であった。そこで、本講義においては、現代フランスの哲学者たちが「思考というプラクシス」をめぐって展開した様々な論理（プラクセオロジー）を概観することで、私たちの思考を様々な言説的磁場から解放し、上述の当たり前のような事実にたどり着くことを目指す。 講義の第一の課題は、諸学説の内容を理解し、比較検討する技法を身に着けることであり、第二の課題は、それらの学説がいかなる歴史的文脈において形成されたのか、哲学以外の領域（人文科学の隣接領域、自然科学、芸術、宗教思想、等々）からいかなる影響を受けたのか、そして新たな時代にいかなる発展可能性を有するかという点を意識化することにある。

授業の到達目標
20世紀フランス哲学の特殊性と普遍性を学ぶことで、（1）フランス哲学の基礎的な一次文献を読み解き、（2）自分なりに解釈し、（3）レポートにまとめる力を身に着けることが授業の目標である。こうした能力は、混沌とした現代世界を考え抜く思考力の涵養に寄与するものである。

成績評価方法
●**試験**　0%　　実施せず。
●**レポート**　70%　　期末レポートによって評価する。課題は授業時に指示する。
●**平常点**　30%　　毎回の授業（講義形式で行う）に対するレスポンスカードの内容、授業時の積極的な問題提起（質問等）を成績評価の対象とする。
●**その他**　0%　　とくになし。

科 目 名	哲学専門講義5（宗教哲学／キリスト教思想）							
担当者名	阿久戸　義愛							
哲学コース	2単位	秋学期	木曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
この授業の目的は、キリスト教思想の歴史的展開とその主要な諸問題の理解を通して、キリスト教思想の基本的な内容を学ぶことである。

授業の到達目標
受講生は、キリスト教思想との関わりで宗教哲学の意義を学び、自らの研究テーマを宗教哲学的視点で再考することができるようになる。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　期末レポートを課す。以下の点を評価の基準とする。
1.授業で取り扱った内容を踏まえている。
2.関連する文献を独自に調べている。
3.文献に基づき、自らの主張を提示している。
●**平常点**　40%　　課題提出（毎回の講義内容のまとめ、感想と疑問を提出）
●**その他**　0%

科 目 名	哲学専門講義6（古代ギリシア哲学）　アリストテレスの第一哲学							
担当者名	岩田　圭一							
哲学コース	2単位	秋学期	水曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
この授業では、まず、アリストテレスの第一哲学の構想と、初期自然哲学者からの影響を見た上で、第一哲学の基礎とも言えるカテゴリー学説について、『カテゴリー論』の重要な箇所を読みながら考察する。「ある」ものの分類やカテゴリーの列挙など基本的なところから、ウーシアー（実体）、量、関係的なもの、性質的なものに関する論述まで見る。その後、アリストテレスの第一哲学が展開される『形而上学』中心巻の最初の巻である第7巻を部分的に取り上げ、「ある」ものを「ある」ものとしての限りにおいて研究する学（第一哲学）の展開を見ることにする。

授業の到達目標
アリストテレスの第一哲学における重要な諸概念をテクストに即して理解し、多様な解釈の可能性に注意しながら理解することを目標とする。

成績評価方法
●**試験**　50%　　教場での論述試験によって評価する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　主体的な授業参加度によって評価する。具体的には、リアクションペーパーによって授業の理解度の確認を行う。この理解度の確認は、毎回の授業においてではなく、対面授業の中の3回で行う。
●**その他**　0%

備考・関連URL
授業計画の内容は授業の進度によって前後することがありうる。
出席状況は毎回の出席カード提出によって確認する。
この授業のレベルは「中級レベル（発展・応用）」である。哲学に関する他の授業を履修中で（あるいは履修したことがあって）、ある程度、哲学の概念に親しんでいることを前提としている。

科 目 名	西洋思想史1（古代）　古代ギリシア哲学							
担当者名	岩田　圭一							
哲学コース	2単位	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
古代ギリシアの哲学者たちの思想を取り上げ、彼らの問題意識に注意しながら古代ギリシア哲学の全体像を明らかにする。この世界の原理は何か、真に存在するものは何か、人間はいかに生きるべきか、幸福とは何かといった哲学の諸問題に、古代ギリシアの哲学者たちがどのように取り組み、どのような答えを出しているのかを、各哲学者の学説に即して見るとともに、彼らの学説が先行哲学者からどのような影響を受け、また後の哲学者にどのような影響を与えているかを考察する。この講義では、まず、ミレトス派から多元論者に至るまでの自然哲学を取り上げ、その上で、ソクラテス、プラトン、アリストテレスの哲学を詳しく見ることにする。プラトンの対話篇とアリストテレスの著作については、主要なものを部分的に取り上げ、テクスト（日本語訳）のコピーを配布して読解する。

授業の到達目標
古代ギリシアの哲学者たちがいかなる問題意識をもってそれぞれの学説を提示したのかを理解し、哲学的思考の基礎を身につけることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　50%　　教場での論述試験によって評価する。

●**レポート**　0%

●**平常点**　50%　　主体的な授業参加度によって評価する。具体的には、リアクションペーパーによって授業の理解度の確認を行う。この理解度の確認は、毎回の授業においてではなく、3回の授業で行う（つまり、複数回分の授業内容をまとめて理解度を確認する）。

●**その他**　0%

備考・関連URL

授業計画の各回の内容は授業の進度によって多少前後することがありうる。 出席状況は、毎回の出席カード提出によって確認する。

科 目 名	**西洋思想史2（中世）** 神との対話							
担当者名	山口　雅広							
哲学コース	2単位	秋学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

西洋中世思想の約1,000年にわたる歴史は、キリスト教を背景に展開された、プラトン主義哲学とアリストテレス哲学の相克の歴史として特徴づけることができます。

西洋中世の初期には、アウグスティヌスの思想に見られるように、プラトン主義哲学が主流を占めていました。しかし13世紀になると、アリストテレス哲学の全体が再発見され、世界の合理的理解に資するその思想が、キリスト教神学との総合を目指すトマス·アクィナスのようなスコラ学者によって、積極的に取り入れられるようになりました。しかしそのご15世紀になると、プラトン主義哲学が復興し、クザーヌスのような思想家の重要な着想源となりました。

本講では、以上のような西洋中世を代表する思想家に焦点を当て、自然と恩恵の関係や、普遍論争、それに神の存在証明のような中心的主題を紹介します。本講を通して、中世思想の多様性とその意義を理解できるようになることを目指します。

授業の到達目標

1. 西洋中世の主要な思想家（たとえばアウグスティヌスやトマス・アクィナス）が直面した問題やその背景を理解し、説明できる。

2. 西洋中世思想の重要概念（たとえば恩恵、自然、普遍、神）の意味を把握し、この概念がどのように使用されたのかを説明できる。

3. 西洋中世の主要な思想家の議論の構造を論理的に分析し、批判的に物事を考えるための基礎的な力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし。

●**レポート**　50%　　期末レポートを、締切日時までに提出してもらいます。その評価基準は以下の通りです。

1. 問題や背景の理解（15%）
2. 概念や議論の把握（15%）
3. 論述の明確さ（20%）

※適切な引用形式や言語表現の正確さも評価に含まれます。

●**平常点**　50%　　各回の講義動画を視聴したあと、指示された課題にかんする要旨（200字程度）を、締切日時までに提出してもらいます。この要旨の評価は、講義内容の理解度と、要点を適切にまとめる力を基準に行います。

●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	**西洋思想史3（近代）** パッションとは何か：その歴史と現在							
担当者名	西山　達也							
哲学コース	2単位	春学期	木曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

「パッション」とは情熱、熱意、激情、情念、情欲、受苦、受難といった多様な語義をもつ語であり、古代ギリシア語の「パトス」に由来する。それは精神の受動的な状態をあらわすものと一般には定義されているが、情熱や熱意という語義からも分かるように、より能動的・活動的な側面もあわせもっている。西洋哲学は「パッション」というこの不思議な現象を問い続けてきた。

この問題を扱う部門として伝統的に「情念論」という分野が存在し、古代以来の哲学における重要な部門をなした。

現代哲学においても、パッションをめぐる問いは、論理的思考と感情の関係、自己／他者、精神／身体、人間／動物の関係、自由意志の定義、共感の限界といった諸問題に直結している。

本講義では、（1）古代・中世の情念論の基本的な枠組みと、（2）これを継承した近代初期の情念論の考え方を概観しながら、（3）現代の哲学によって情念論がどのようなかたちで刷新されているかを検討し、「パッション」をめぐる思考の新たな可能性を探究する。

本講義を通じて、西洋思想の歴史における蓄積を引き受け、新たな時代の中で発展させる力を習得することを目指す。

授業の到達目標

西洋近代哲学史の様々な学説を理解し、比較・吟味する能力を身に着ける。

近代哲学において特定の問いがどのように展開し、現代的な課題として継承されているかを理解する。

成績評価方法

授業評価は基本的に期末レポートによる評価とする（8割程度）。

授業中に提出するミニアンケートや授業終了時に提出するレスポンスカード、授業時の積極的な質問、討議への参加も成績評価の対象とする（2割程度）。

科 目 名	西洋思想史4（近現代） 分析哲学の発展と論理学の進歩							
担当者名	伊藤　遼							
哲学コース	2単位	秋学期	火曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

現在英語圏を中心に広く受け入れられている研究のスタイルである「分析哲学」の特徴を、その成立と発展の歴史に即して紹介する。その歴史はさまざまな起源を持ち、さまざまな方向へと向かうものであるが、この授業では、その歴史をその背景にある現代論理学の成立と進歩という観点からまとめる。ただし、現代論理学の知識を前提としない。 各回の授業では、ワークに取り組んでもらう。この取り組みを通じて、一見抽象的でわかりづらい哲学の概念や論理学の概念になじんでもらうためである。

授業の到達目標

（1）「分析哲学」とよばれる研究スタイルのいくつかの特色を理解する。
（2）現代論理学の初歩（述語論理の記法、素朴集合論の記法、真理値表、真理の再帰的定義、可能世界意味論のエッセンス）を理解する。

成績評価方法

●**試験**　40%　　学期末の試験において講義全体の内容の理解度を評価する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　60%　　各回の授業で取り組んでもらうワークをもとに、各回の講義内容の理解度を評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	美学　西欧近代美学の基本的問題構成を学んで、現代に生きる人間にふさわしい教養を深める							
担当者名	小川　真人							
哲学コース	2単位	春学期	水曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業では西欧近代哲学の一学科として創建された「美学」Aestheticaの基本的な考え方を、現代的視点を考慮しつつ批判的に考察します。前半では西欧近代における「美」の理論を、古代中世との対比や日本文化との違い、あるいは現代の人間科学的知見の参照によって批判的に検討します。後半では、西欧近代に成立した「芸術」の概念の成立と展開、その概念理解の基本構成を学ぶとともに、近代的「芸術」概念に対する現代的批判の動向について検証します。

授業の到達目標

近代美学における美と芸術の理論の基本的構造とその問題点について自分のことばで説明することができる。

成績評価方法

●**試験**　50%　　60分程度の筆記試験（持ち込み不可）を教室対面で実施し、解答状況を確認する
●**レポート**　20%　　アンケート的な質問に簡潔にこたえる点を評価する
●**平常点**　20%　　事後学習のオンライン小テストの実施解答状況を確認する
●**その他**　10%　　授業内での積極的なとりくみなどを評価する

科 目 名	哲学1　近代西洋哲学　概論							
担当者名	繁田　歩							
哲学コース	2単位	春学期	金曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業は大学1～2年生を対象としており、内容は初級です。授業の目的は、17-18世紀を中心とした、いわゆる近代の西洋哲学を概観することです。哲学を概説するうえでは思想史的な順序も重要ですが、この授業ではむしろ重要概念に着眼することで、テーマごとに授業を進めていきます。具体的には主観と客観、心と身体、個人と社会、正常と異常、といった概念対を軸に据えて議論を進めていきます。

教科書は使用しませんが、最終的な課題となるレポートに取り組むためには、授業内で紹介された哲学者の作品を邦訳版でもよいので各自読むことが必要不可欠です。

授業の到達目標

・近代哲学の枢軸的な論点について説明できるようになること。
・近代哲学の議論がもつ特徴について整理できるようになること。
・近代哲学者のテキストを適切に読解できるようになること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　本授業で取り扱ったテーマに関連した論点について、自分なりに近代哲学の特性と限界と可能性について論じるレポートを書く課題を課します。このレポート課題は、14回授業日に、教場にて自筆のレポート試験として実施します。なお、哲学者の著作からの引用に立脚した議論を組み立ててもらうために、哲学者の著作（翻訳可）に限って2冊まで持ち込みを許可します。その他、ノートやパソコン等電子機器の持ち込みは一切不可とします。
●**平常点**　30%　　全14回のうち10回の授業で出席調査を（3点満点）を実施する。
代筆は一切認めず、不正行為があった場合には厳正に対処する。
●**その他**　0%

科 目 名	哲学2　「小さな哲学」を考える							
担当者名	山内　志朗							
哲学コース	2単位	秋学期	火曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

哲学の基本的な枠組みを示し、哲学とは何を行う学問であるのか、他の諸学問に対してどのような位置にあるものなのか、ま

た基礎学としての在り方を検討する。その際、哲学的な理論の枠組みとして、大所高所から大きな概念を提示して世界全体を俯瞰しようとする哲学のあり方が主流を占めてきた。この授業では、「小さなもの」を基礎として哲学を考えていきたい。「小さいもの」「卑しいもの」は自らの姿を隠しているのかもしれない。個体、偶然性、偶有性など、哲学において周辺的な場面に置かれてきた諸概念を考察していく。

授業の到達目標

哲学的な基本問題について、自分でその問題の在り方を考察し、それを自分の問題意識にとりこみ、文章によって表現できるようになる。

成績評価方法

試験の評価配分は50%。授業内容についての理解度を確認するための記述試験を行う。

リポートについては、授業内容の簡単な簡単な報告（一枚の記入用紙によるアクションペーパー）を数回提出してもらう。評価配分は20%。平常点として出席状況や授業への関わりを評価に加える。30%で行う。

科 目 名	宗教学							
担当者名	小村　優太							
哲学コース	2単位	秋学期	月曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

21世紀に入り、世界のさまざまな箇所において宗教がにわかに活性化しているように思われる。啓蒙の時代から20世紀にかけて、宗教が衰退すると思われていた状況からの転換が著しい。現代社会に生きる我々も、一見すると宗教とまったくかかわりなく生きているように感じられるかもしれないが、我々の日々の生活のそこかしこにさまざまな宗教の影響を見て取ることができる。

この授業では古今東西の宗教について、前半では個別宗教を取り上げ、それぞれの基礎知識を学ぶ。後半ではトピックごとに取り上げ、横断的に論じる。

授業の到達目標

・個別宗教にかんする基礎知識を学ぶ。
・現代社会に生きる我々と宗教のさまざまな関係を学ぶ。

成績評価方法

●**試験**　50%　　学期末にMoodle上で試験を課す。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　授業に出される問いへの回答、および授業参加。
●**その他**　0%

科 目 名	インド哲学特論　大乗仏教「空」思想の形成と展開							
担当者名	佐藤　晃							
東哲コース	2単位	春学期	水曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

「色即是空　空即是色」という一節、またこれが示される『般若心経』という仏教の経典名を耳にしたことのある人も多いでしょう。実に、ここに示される「空」は、インドで誕生した大乗仏教の代表的な思想の1つと言えます。大乗仏教の「空」思想は、1世紀頃から登場したとされる般若経典の中に現れ、その理論化は2世紀頃のナーガールジュナによってなされます。その後インドでは、彼の主著『中論』を拠り所とする「中観派」という学派が形成され、「空」とは如何なる概念か、それを悟るにはどうすべきか（認識論、修行論、救済論）、また他者に語る方法はどうあるべきか（論理学、論争術）等の点が議論されました。さらに「空」思想は、中国、チベット、そして、日本等の周辺諸国・諸地域へも伝播し、インドとは異なる特徴的な思想的展開を見せるに至ります。本講義では、インド大乗仏教における「空」思想の形成及び展開を、中観派思想史に則して理解することを目指します。また、中国、日本、チベットといった周辺の諸国・諸地域の議論にも触れていきたいと思います。

授業の到達目標

インド大乗仏教の根本的な思想である「空」思想を理解し、その展開を思想史的に理解できるようにする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　60%　　学期末にレポートを課す。講義内容に基づき、各自テーマを設定して執筆する。詳細は教場で指示する。
●**平常点**　40%　　原則として3分の2以上の出席を前提とし、授業への取り組み（レビューシート等）を総合的に評価する。
●**その他**　0%　　特に無し。

科 目 名	中国哲学特論　南宋陸学の盛衰							
担当者名	中嶋　諒							
東哲コース	2単位	春学期	火曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

中国南宋時代、朱熹（1130～1200）が集大成した朱子学は、後世への影響力の大きさから考えても、東アジアの思想を語るうえで避けては通れない。けれども南宋時代は、朱熹のみならず、多くの思想家たちが活躍した時代であった。とりわけ朱熹の論敵として知られる陸九淵（1139～1192）は、主としてその本拠地である江西地域や、当時の文化の中心地でもあった浙東地域に広がり、盛んに学ばれていた。本講義では、陸九淵やその後継者たちの思想を紹介することで、陸学の隆盛と衰滅の歴史をたどり、朱熹を中心としない、もうひとつの南宋思想史を描くことを試みたい。

授業の到達目標

中国南宋陸学について、自身の考えを深めることができる。そのうえで、自身の考えを他者に説明することができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし。
●**レポート**　60%　　講義内容を踏まえて、期末にレポートを課す。
●**平常点**　40%　　講義に対する積極性、および各回終了後に提出するリアクションペーパーにより評価する。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	日本思想特論　栄西『喫茶養生記』を読むー密教の視点からー							
担当者名	大鹿　眞央							
東哲コース	2単位	春学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業は、日本臨済宗の開祖として知られる栄西（1141~1215）の生涯とその著作『喫茶養生記』について、密教の視点から読み解くことを目的とします。

具体的には、以下の二つの点を学びます。

①2003年以降に発見された新出資料にもとづく最新の研究成果を踏まえつつ、栄西の生涯を丁寧にたどります。「権力志向があった」と揶揄されることもある栄西と朝廷・幕府との関係や、比叡山と禅宗との交流・対立を学ぶことで、これまでの栄西に対する評価を再考し、日本仏教史において栄西がどのような役割を果たしたのかを多角的に理解していきます。DP「豊かな学問的蓄積を受け止めて、新しい時代のなかで発展させるとともに、伝統的な学問体系をより洗練して確固たる学問として確立する。」に関連。

②栄西における密教の重要性を確認し、密教の視点を軸に『喫茶養生記』が文化複合的な資料であることを把握します。そして、栄西が『喫茶養生記』で真に伝えたかった点について迫っていきます。DP「人間・世界を深く探り、言語・文学・表現の本質を解明し、人間・社会を歴史的に究明する。」に関連。

授業の到達目標

①学生が栄西の生涯や思想に関する基本的な情報を理解し、自らの言葉で正しく説明することができる。
②仏教および日本思想の教理・文化について、学生が辞書などにより調べることができる。
③先行研究論文について、学生が自らの力で読み解くことができる。

成績評価方法

●**試験**　60%　　第14回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　40%　　毎回のリアクションフォームへの投稿や平常時の授業への取り組み方（遅刻率・出席率）を見て、総合的に判断します。
●**その他**　0%　　特になし

備考・関連URL

授業に積極的に取り組む姿勢を重視します。
Waseda Moodleをこまめにチェックして下さい。
また受講生の習熟度に応じて、各回の内容を変更する可能性があります。

科 目 名	東洋思想特論　中国仏教史							
担当者名	久保田　正宏							
東哲コース	2単位	秋学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

周知のように、中国仏教は、東アジア全体の仏教において極めて中心的且つ重要な地位を占めていた。インドで起こった仏教は、中国に伝来することで大きく変容した。すなわち、中国では、伝来した仏典が漢文に翻訳されるだけでなく、そうした漢訳仏典が基となってインド仏教とは異なる思想が形成され、多様な宗派が生まれたのである。そして、このような変貌と発展を遂げた中国仏教が、朝鮮・日本をはじめとする東アジア地域に伝播した。したがって、東アジアの各地域の仏教を理解する上でも、その基礎となる中国仏教を理解することが必要不可欠となるのであり、中国仏教史を学ぶことの意義は大きいと言える。

本講義では、仏教の伝来初期から近代に至るまで、上記のような仏典の漢訳に兆す変容に加え、儒教や道教などの中国在来の思想と衝突・調和し、また、各時代の政権・王朝から決定的な影響を受けつつ展開した中国仏教の思想と歴史を概観する。概ね時代順に解説していくが、第3回から第11回の各回では、諸宗派が興った隋・唐代の仏教史を、天台宗・華厳宗などの宗派ごとに見ていくこととする。

授業の到達目標

中国における仏教の変容と、諸宗派の成立・発展という中国仏教史全体の流れを押さえた上で、各々の宗派の教学・思想に関する特色を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし。
●**レポート**　70%　　学期末にレポートを提出してもらう。講義の内容に関するテーマを授業で提示する。
●**平常点**　30%　　参加状況やレビューシートのコメントなどを考慮する。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	インド思想史　インドの諸学派における理論と実践							
担当者名	山部　能宜　他／須藤　龍真							
東哲コース	2単位	秋学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

多くの日本人にとってもっとも馴染み深いインド思想は仏教思想であろうが，仏教思想がそれを取り巻くインド思想の大きな流れの中から出てきたものであることもまた論を俟たないところである．ヴェーダの権威を承認する主流の諸学派とそれを否定

する仏教・ジャイナ教のような非主流の諸学派の間の議論の応酬を一つの軸としてインド思想は展開してきた．そのような諸学派の思想の概要を紹介する．インド思想のもつ哲学的な側面と信仰的な側面の双方に注意を払う。

授業の到達目標

インド諸学派における考え方の違いを理解し，そのことを通じて仏教の諸論書に展開される議論の背景をつかむ.

成績評価方法

●**試験**　100%　　講義内容を消化し，それを自分の言葉で説明できているかどうかを基準に評価する.
●**レポート**　0%　　今回は課さない.
●**平常点**　0%　　今回は課さない．ただし，休講課題を課した場合は，平常点として評価に含める.
●**その他**　0%　　今回は課さない.

備考・関連URL

ウパニシャッド思想およびシヴァ信仰との関係で、一部性的なイメージ（五火二道説、リンガ崇拝）に言及し、また『マハーバーラタ』等との関係で､戦闘のイメージに言及することがある。資料は原則として日本語のものを用いるが、一部英文の参考資料を使うことがある。なお、第11回「ニヤーヤ学派の論理学」は須藤龍真、その他の回は山部能宜が担当する。

科 目 名	中国思想の世界　近代日本の漢学・中国学							
担当者名	西山　尚志							
東哲コース	2単位	秋学期	水曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

江戸後期から第二次世界大戦終結まで近代日本における漢学・中国学の展開を学ぶ。さまざまな意見・議論を概観しながら、日本の社会が中国の学問（漢学・中国学）をどのように位置づけようとしたのかを考える。

授業の到達目標

近代日本における漢学・中国学の展開を軸にしながら、歴史・思想史・文学史などを理解する。
「漢文教育の必要性」をめぐる問題について、過去のさまざまな議論を見つめながら考え直す。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　3000字以上のレポートを課し、その内容から授業の理解度・思考力を測る。
●**平常点**　50%　　頻繁に質問をします。正しく回答できなくても決して成績に影響はありあません。しかし、質問内容を理解していなかったり、聞いていない場合は減点対象とする。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

特になし

科 目 名	仏教漢文の世界							
担当者名	師　茂樹							
東哲コース	2単位	春学期	金曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

インドで生まれた仏教は、中国語に翻訳（漢訳）されることで東アジア（中国・朝鮮半島・日本列島など）に伝わり、新たな展開を遂げることになりました。歴史学者の西嶋定生（1919-1998）は、東アジア文化圏／漢字文化圏という枠組みを提唱し、その特徴を漢字・儒教・仏教（漢訳仏教）・律令としましたが、ここからも東アジアの思想や文化を理解するうえで仏教がいかに重要かがわかります（この枠組みには批判もあります）。また仏教語は日本語の一部となり、「以心伝心」「有頂天」「我慢」「金輪際」「醍醐味」など、現在でも日常語として多くの語が用いられています。仏教は、前近代の列島の人々が思考する際の基盤となり、幕末維新期に西洋文化を受容する際にも仏教の教養がベースとなりました。

本講義は、漢文で書かれた仏教文献に触れながら、私たちの文化や思考に大きな影響を与えてきた仏教の論理や思考方法、倫理観などについて探索することを目的とする授業です。担当教員による講義に加え、毎回テーマに沿った文献を読んでいきます。受講生には仏教漢文（文献の一部）を訓読してもらい、原典から「人間・社会を歴史的に究明する」（DP）楽しさを味わってもらいたいと思います。また、文献の内容について受講生それぞれが解釈したものを、ペアになって共有、議論し、さらに教室全体でシェアすることを通じて、非西洋的、非近代的な哲学・思想のロジックに親しむことも目的としています。それにより、受講生が「互いに切磋琢磨して人間性を高め、久遠の理想を目指して努力する」（DP）ことができるようになればと思います。

授業の到達目標

・東アジアにおける仏教や漢文の重要性、東アジア仏教の研究状況について説明できるようになる。
・基礎的な漢文読解能力を身につけることで、訓読や現代語訳を用いながら仏教文献の原典を読めるようになる。
・仏教文献に書かれているロジックに親しむことで、非西洋的、非近代的な伝統に基づいた思考に慣れる。

成績評価方法

●**試験**　30%　　学期末に、授業で読んだ箇所を試験範囲として漢文読解の試験を行います。
●**レポート**　30%　　学期末に授業に関連するテーマでレポートを提出してもらいます。
●**平常点**　40%　　ペアワーク等を行いますので、授業への積極的な参加を評価します。授業内で訓読、現代語訳を指名されたり、テキストの内容について意見を求められたりしたときは、積極的に応答すること。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	仏教概論　禅定を軸とした仏教思想の展開について							
担当者名	山部　能宜							
東哲コース	2単位	春学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

仏教は釈尊の菩提樹下での禅定（坐禅）による正覚を原点とすると伝えられており，その後の仏教の展開においても禅定は重

要な位置を占めている．本講義では，禅定を軸として仏教の展開を実践的観点から論じる．その際，仏教の実践のもつ身体的・心理的な側面に注意を払いつつ，さらには教理と信仰の両方の側面を視野に入れて，実践的な仏教思想展開史の構築を試みてみたい．古典語の資料は和訳で提示し，特に仏教に関する予備知識を前提とすることなく講義を進めるので，専門外の学生の受講も歓迎する．

授業の到達目標

仏教に対する先入観を除き，生きた人間の問題解決の道として仏教をとらえなおすこと．抽象的な理論面のみにとどまらず、身心相関的な観点から仏教の実践を再考察し、仏教のもつ現代的意義を提示してみたい。

成績評価方法

●**試験**　100%　　講義内容を消化して，自らの言葉で説明できているかどうかを基準として評価する
●**レポート**　0%　　今回は課さない．
●**平常点**　0%　　今回は課さない．ただし，休講課題を課した場合は，平常点として評価に含める．
●**その他**　0%　　今回は課さない．

備考・関連ＵＲＬ

授業は原則として対面で行なう。

講義

科 目 名	儒教概論　出土文献を用いて儒教経典の展開を論ず							
担当者名	西山　尚志							
東哲コース	２単位	春学期	水曜日	４時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

近年中国では地下から古代出土文献が大量に発見されている。これらの出土文献を用いて主に先秦から前漢にかけての儒教経典にまつわる「成書」「形成」といった問題や、経典に記されている歴史的「事実性」や「学派」といった問題について考える。

授業の到達目標

・中国古代出土文献の扱い方を学ぶ
・複数の資料を用いてどのような研究が可能であるのかといった方法論を再考する。
・思想史研究の他に、歴史学・考古学など隣接する領域の理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　レポートで採点する
●**平常点**　50%　　事前に配布した資料を読み、
授業に発言して積極的に参加することを期待します。授業中に頻繁に当てて質問します。間違えたからと言って減点することは決してありません。しかし、質問内容を理解していなかったり、質問自体を聞いていない場合は減点対象とします。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連ＵＲＬ

特になし

科 目 名	道教概論　知られざる中国の宗教的伝統							
担当者名	森　由利亜							
東哲コース	２単位	秋学期	火曜日	２時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

道教は儒教、仏教とならぶ中国の最も根本的な宗教的伝統のひとつです。しかし、重要であることが当然とされる割には、儒教や仏教に比べて研究の歴史も浅く、いまだに謎に満ちた宗教であるといってよいでしょう。特に、教義・教理によるしばりが少なく、信仰者たちの懐くイメージによってさまざまな形をとってきたため、移り変わりが激しく、ひとつかみに把握することは至難です。しかし、それでもそこには重要な核となる内容がやはりそなわっています。この授業では、中国で展開した道教の歴史とその信仰の内容について、なるべく分かりやすくお話しすることに努めます。この授業を通じて、受講生の皆さんが中国の伝統文化に興味をもち、また宗教という謎にみちた対象に想像力を働かせていただけるようになることを願っています。

授業の到達目標

道教の歴史的な概略と、信仰のあらましについて理解し、中国の伝統文化への理解を広げることを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　90%　　期末レポートを課す。
●**平常点**　10%　　授業で回収するレビューシートの内容や、授業時の発言に基づいて評価を行う。なお、全授業の三分の二以上出席していることを合格の最低条件とする。これを満たしていない場合は落第とする。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	日本思想概論　聖徳太子信仰と中世の秘事口伝							
担当者名	吉原　浩人							
東哲コース	２単位	秋学期	無	フルOD	２年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

日本思想史を研究することは、日本人としてのアイデンティティを探求することでもあります。また、外国籍の学生にとっても、日本人の拠って立つ根源の部分を理解することは、今後の人生にとって重要なこととなるでしょう。 今期は、日本古代の信仰の中から、聖徳太子信仰に焦点を当てて、その発生と展開の諸相についてフルオンデマンド講義によって概観していきます。2022年には、聖徳太子薨後1400年を記念して、関係各所でさまざまな法要やイベントが企画されました。本講義は、盛り上がりを迎えた聖徳太子信仰についての理解を深めるため、特に中世の秘事口伝について重点を置いて見ていきます。その荒唐無稽な内容は、近代においては史実に反するものとして斥けられてきたため、通常の聖徳太子伝記の解説では、まったく触れられ

ることがありません。古代・中世には、数々の不可思議な伝承が形成されますが、現代に生きる私たちは、それらを知る機会もなく過ごしています。しかし、今は語られなくなったそれらの言説にこそ、太子信仰の本質があると考えます。

聖徳太子信仰とは、実在した人間を観音菩薩として祀り、またさまざまな超常的な現象を、実際にあったものとして信じ仰ぐ行為です。人を菩薩として祀るには、どのような理由があるのか、現実にあり得ないような事績を、どのように受容してきたのか、最新の学説も紹介しながら、史資料や絵画の読解を通じて考えていきます。なお、太子信仰の各論に先立ち、日本思想史の基本知識として必要な、仏教と神道の大略についても概説します。

授業では、漢文・古文の原典を用いますが、高校卒業程度の学力があれば、問題なく理解できると思います。また、文学作品や絵画史料なども使用するので、日本思想・宗教研究ばかりでなく、日本文学・歴史・美術史等の研究のためにも有益となるでしょう。

なお、日本思想・仏教・文学に関連する辞書の使用法、インターネットと図書館を利用した参考文献の検索、論文の書き方のコンテンツは、授業開始時から随時参照できるように設定します。

授業の到達目標

日本古代の宗教思想、特に聖徳太子信仰の成り立ちとその諸相など、日本の伝統的な思想についての基本的な知識を持ち、古典史料や絵画を読解する能力を養います。

成績評価方法

レポート72%：期末に講義内容と関連するレポートを課します。詳細は、Waseda Moodleのアナウンスメント機能などによって指示します。

出席28%：規定により、三分の二以上の出席（9回以上）が単位授与の必要条件です。毎回、200字以上300字程度の学習内容を踏まえた感想文を課し、コンテンツ最後までの視聴とレビューシート提出をもって出席とします。第14回のコンテンツは、視聴を出席と数え、レビューシート提出は求めません。締切は、コンテンツを公開した一週間後の日曜日23:59です（休業中でもこの締切は変わりません）。ただし、第1回と第2回締切のみは、追加登録者があることを考慮し、第3回締切と同じ、10月26日（日）23:59とします。出席点（計28点）は、授業ごとに2点を付与しますが、内容が劣る場合は1点、欠席の場合は0点とします。なお、動画コンテンツをただ流しただけで、実際には視聴していないにもかかわらず、内容空虚なコメントを提出した学生に対しては、厳しく対処します。

備考・関連URL

原典を提示して読解するので、高等学校卒業程度の古文・漢文の基礎知識が必要です。しかし、初学者でも不安を持つ必要はありません。意欲ある学生の受講を望みます。

科目名	漢文講読1 『老子』を読む							
担当者名	森　由利亜							
東哲コース	2単位	春学期	火曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

皆さんは「大器晩成」「天網恢々」あるいは「素朴」「自然」といったことばの典拠が『老子』にあることをご存じですか？ 『老子』は、『論語』と双璧をなす最も基本的なアジアの古典です。孔子の思想がどこまでも人の社会、人々相互の関係に基盤を置く倫理思想を説いたのに対し、『老子』は宇宙そのものにそなわる規範に基づく倫理を中国で最初に提唱した書物です。その後の儒教は、『老子』に端を発する自然的な世界観を摂取することで、その様相を大きく変えていきます。また、後世の道教も『老子』を重要な経典として重視しながら発展します。中国の思想・宗教を考える上で『老子』は必ず踏まえていなくてはならない書物といえるでしょう。また、中国のみならず、日本を含むアジア世界に広く受容され、広い地域で人々の教養を支えてきました。この授業では、江戸時代の伝統的な版本をテキストとして用いながら、『老子』の思想を漢文で読み解きます。漢文訓読入門としても役立つ授業にしたいと思います。 なお、昨年度は第三十八章から第五十五章までを読んだので、今年度は『老子』の後半部の冒頭第五十六章から読み始めます。『老子』の章はどこから読んでも構わないものですので、途中から読み始めることが理解の劣化につながることはありません。ただし、第一章についてはイントロダクションの段階で教員が読解し、その内容を分析します。最終日は、授業で読んだ箇所を対象に、漢文訓読と現代語訳の試験をします。また、『老子』の思想について、レポートも提出してもらいます。

授業の到達目標

以下の3点を目指します。（1）中国思想のみならず、東アジアの古典である『老子』に触れることで、アジアの思想の源流を理解する糸口を得る。（2）道家思想の原点を知ることで、老荘や道教への理解の基礎を作る。（3）哲学的な漢文を読解することで、漢文理解力に奥深さを加える。

成績評価方法

●**試験**　30%　　学期末に、授業で読んだ箇所を試験範囲として漢文読解の試験を行う。
●**レポート**　60%　　学期末にレポートを提出する。
●**平常点**　10%　　毎回の授業では、予習にもとづいて漢文テキストの訓読と現代語訳を行ってもらう。事前に発表者を決めたりはしないので、毎回予習し指名された時に訓読と現代語訳ができるように準備しておく必要がある。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

特になし。

科目名	漢文講読2 『大乗起信論』を読む							
担当者名	師　茂樹							
東哲コース	2単位	秋学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

中国・韓国・日本などの東アジア文化圏（漢字文化圏）においては、近代以前、漢文（古典中国語）を用いて哲学的、宗教的な思索が積み重ねられてきました。この授業でとりあげる『大乗起信論』は、南北朝時代の中国で作られた文献であり、「一心」や「真如」という概念によって、私たちが生きる現象世界と、それを超えた真理の世界とを統一的に説明することを試みるものです。この思想は、東アジア諸地域の哲学・思想・宗教だけでなく、芸術などの諸文化にも大きな影響を与えました。この授業

では、仏教漢文で書かれた『大乗起信論』の思想を漢文で読み解くとともに、「東洋哲学の共時的構造化」を目指した井筒俊彦（1914–1993）の解釈を批判的に検討したいと思います。加えて、サンスクリット語などの影響を受けた漢文である仏教漢文についても、入門的な講義を行いたいと思います。

漢文を読めるようになれば、仏教を含む膨大な哲学・思想の遺産にアクセスすることができるようになり、東アジアの文化・伝統、世界観・人間観・自然観などをより深く理解できるようになります。また現在、非西洋の哲学的伝統に基づいて哲学する「世界哲学」などの取り組みが国際的に行われていますが、東アジア仏教はそこでも大きな存在感を示しています。この授業が、東アジアを中心とした「人間・社会を歴史的に究明する」（DP）とともに、仏教という「豊かな学問的蓄積を受け止めて、新しい時代のなかで発展させる」（DP）端緒となればと思います。

授業の到達目標

・基礎的な漢文読解能力を身につけることで、訓読や現代語訳を用いながら仏教文献の原典を読めるようになる。
・『大乗起信論』の講読を通じて、東アジア仏教の思想について説明できるようになる。
・『大乗起信論』に基づく現代哲学を批判的に検討することで、西洋哲学以外の伝統に基づいた哲学的思考に慣れる。

成績評価方法

●**試験**　30%　　学期末に、授業で読んだ箇所を試験範囲として漢文読解の試験を行います。
●**レポート**　50%　　学期末に『大乗起信論』の思想に関するレポートを提出してもらいます。
●**平常点**　20%　　授業への積極的な参加を評価します。授業内で訓読、現代語訳を指名されたり、テキストの内容について意見を求められたりしたときは、積極的に応答すること。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	日本中世思想							
担当者名	松本　知己							
東哲コース	2単位	春学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

院政期から鎌倉時代にかけて、社会の枠組に大きな変動があったことは知られている。大陸からの伝来以降、人々に哲学的基盤を提供してきた仏教は、変革期にどのように対応したのだろうか。本講義では、二つの観点から考察する。

まずは、天台宗を軸に平安中期までの仏教諸派の教学を概観した上で、朝廷や武士といった世俗の権力と仏教の関係を論ずる。その一環として、東大寺の宗性（1202～1278）が残した記録をもとに、南都（東大寺・興福寺）北嶺（延暦寺・園城寺）の僧侶が一堂に会して行われた、大規模な法会における論義の実態を明らかにし、仏教思想史上の意義に言及する。

次に、いわゆる鎌倉新仏教の祖師達が打ち出した思想の意義を解説する。彼らの出現によって、日本仏教における主要な教理がほぼ出揃うことになる。その共通の母胎は、講義の前半で取り扱う日本天台の教学である。両者の関係に留意しながら、思想史の流れの中で各自の独創性を論ずる。

授業の到達目標

院政期から鎌倉時代における仏教諸宗の動向を知り、それが日本仏教の多様な思想的展開の基盤を形成したことを理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　50%　　講義内容に関連する題目について作成したレポートの主題や構成、参考文献の活用範囲など、理解度を総合的に評価する。
●**平常点**　50%　　3分の2以上の出席を前提に、リアクションペーパーのコメントなど、授業への参加度を評価する。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

本授業は対面授業（教室授業）である。

科 目 名	日本近世思想　外来思想受容をめぐる諸問題							
担当者名	清水　則夫							
東哲コース	2単位	秋学期	月曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

近年ではその著しい経済発展などで存在感を示している中国は，かつて東アジアで最高水準の文化を誇り，他国はそれを積極的に摂取した。日本においても、政治制度から思想・文化に至るまで、中国文化の影響は顕著である。儒教もその一つであり，とくに江戸時代に広く普及した。しかし受容は同時に反発をも伴い、その両面が「日本」という観念の形成にも強く関与した。

本講義では近世思想史を題材に、外来思想の受容と反発、さらには定着へと至る展開の諸相を検討する。

授業の到達目標

現代の「日本」を相対化する視点を獲得する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　期末に与える課題に対し、授業内容を踏まえた報告を作成・提出してもらい、それに基づき評価する。
●**平常点**　30%　　主としてリアクションペーパーをもとに、講義とそのテーマに対する積極性を判断し、評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	心理統計学1（心理学統計法）							
担当者名	豊田　秀樹							
心理コース	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

心理学の研究を進めるために必要となる統計学を教授する。

授業の到達目標
統計学的な考え方を身につける。
成績評価方法
出席・宿題の出来栄え、などの平常点で成績を付ける。
備考・関連URL
出席し、授業内レポートを提出することが大切である。

科 目 名	心理統計学2（心理学統計法）							
担当者名	豊田　秀樹							
心理コース	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
心理データ解析の知識を学習する。
授業の到達目標
心理データ解析の知識を身に着ける。
成績評価方法
出席・宿題の出来栄え、発表の出来などの平常点で成績を付ける。
備考・関連URL
出席し、授業内レポートを提出することが大切である。

科 目 名	学習心理学							
担当者名	神前　裕							
心理コース	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要
私たちが何かを感じたり行動するとき、私たちは一体なぜ・どのようにして、今自分がそうするように感じ、行動するのでしょうか？
「心」に関するこの根源的な問いは、古来からの哲学的な問いであると同時に、現代の自然科学としての心理学・神経科学における最先端の問いでもあります。私たちが普段、私たち自身のものとして主体的に経験し、自明のものとして受け入れている「心」を、自然科学の手法で腑分けし、その普遍的な仕組み――メカニズム――を解き明かす鍵は、実は「学習」と呼ばれるプロセスにあります。
私たちの心や振る舞いは決して生まれた時から不変ではなく、日々の経験を通じて、世界の仕組みと同調しあるいは相互作用しながら次第に形成されていきます。このように、心やその表れとしての行動が経験を通じて変容していくことを、「学習」と呼びます。つまり私たちは、私たちを取り巻く環境のさまざまな出来事がどのように結びついているか、どのようなルールで生じるのかを学習し、また自身の行動が環境に対してどのような働きを持つかを学習し、それらを通じて私たちそれぞれに固有の（しかしある程度普遍性のある）心を形成していくのです。したがって「私たちはどのように学習するのか」を科学的に解き明かすことは、私たちの心がどのような仕組みでできあがっているのか、私たちがなぜ今そうするように感じ振る舞うのかを解き明かすことに他ならないのです。
本講義では、このような「学習」という根源的な問いについて、それをヒトを含む動物に広く備わった適応の根源的な形態として理解し、そのメカニズムを科学的・客観的な手法で解明する研究分野――学習心理学、あるいは学習と行動の科学――を対象として、その長い歴史の中で発見されてきた基本的な原理や理論を中心に紹介していきます。さらに、それらがいかにして私たちが日常的に「心」と呼ぶ捉えどころのない現象やその異常・機能不全を理解する切り口となるのかについて、具体的な研究トピックや応用的研究の紹介を通じて考えます。
より具体的には、講義の前半では、学習という現象が持つ生物学的な機能、つまり進化・適応上の意義を強調しながら、パヴロフによるイヌの条件反射の発見から始まった条件づけ研究が、情報処理理論としての現代連合学習理論へと発展していくまでを、その分野の足跡を辿りながら紹介します。これを通じて、私たちが「心」と呼ぶ反射の集合――極めて複雑で精緻に作り上げられた、反射の集合――がいかにして動作するのかについて、基本的な知識や考え方を身につけます。
講義の中盤では、我々の自発行動が環境との相互作用を通じて形成され変容するプロセス、すなわち道具的条件づけあるいはオペラント条件づけについて、やはりソーンダイクによるネコの問題箱実験を端緒として積み重ねられてきた膨大な研究の歴史を簡単に辿りながら、それがより認知的・情報処理的な色彩を帯びた行動研究へと展開するまでを紹介します。これらを通じて、我々の「意図」や「欲求」、あるいは「自己主体感」や「動機づけ」といった心理学的概念について、それらを客観的に定義し測定することを学び、あるいはそうした概念に頼らずにより記述的な形で行動を予測し制御することを学び、それらの複合的な視座を通じて、我々の行動を支配する原理について科学的な理解を深めます。
これらの基本的な現象の理解にもとづいて、講義の終盤では、時間・空間に関する認知と学習、複雑な概念の形成、記憶やその消去、さらにより応用的な問題として精神疾患や発達障害の根底に存在する異常の仕組み、そして社会的な場面における認知や学習――社会関係の形成や観察学習、共感性など――を取り上げます。
なお14回の講義という限られた時間の都合上、また文学部・文化構想学部の2年生以上を広く対象とする科目であり、実験心理学や神経科学の基本的な知識に履修者の間で例年大きなばらつきが見られることも考慮して、各トピックについてなるべく基本的な事柄を中心に分かりやすい形で紹介していきます。しかし同時に、履修者がこうした分野のより専門的な研究（例えば卒論や修論）に取り組むことになった際にも、その手助けとなるような、その土台となるような知識と考え方をある程度体系的な形で身につけることも重視して講義を行います。
本講義全体を通じて、「私たちはなぜ今自分がそうするように行動するのか？」「その行動はどのように形成され、何故今生じるのか？」「私たちの行動はどこまで自由意志の産物なのか？」といった人間の意識・行動に関する根源的な問いに対して、実験科学としての心理学・神経科学がどのように回答しうるかについて学び、同時にその背後にある究極的要因としての進化・適応の原理について理解します。こうした問題について、最終的には履修者自身が適切なアプローチを用いながら柔軟に考え、あるいは研究を進めていくきっかけを提供することを目標とします。

授業の到達目標

・ヒトを含む動物の学習・行動について基本的な知識を身につけ、同時に、それを通じて高次な認知や心的現象をより単純なプロセスに還元し腑分けする方法を学ぶ。

・学習と行動の科学における研究で用いられる基本的な手法・概念・用語について適切に理解する。

・客観的に観察可能な行動を指標として用いながら手で触れることのできない心的過程・内的な心の働きを捉えるアプローチや具体的研究方法について学ぶ。

・様々な場面でヒトやヒト以外の動物がなぜ・どのようにしてそのように行動するのか、「主観的な心を説明原理として用いない」自然科学的方法を学ぶ。

・学習・行動を支える神経生物学的基盤について、基礎的な知見を習得する。

成績評価方法

●**試験**　30%　　授業時間中に行う試験（理解度の確認）

●**レポート**　0%

●**平常点**　70%　　確認テスト、小課題、およびMoodleでの質問とコメント（授業への積極的な参加）

●**その他**　0%

備考・関連URL

フルオンデマンド形式の授業です。

講義

科 目 名	**経済心理学**　行動経済学および消費者行動論の心理的基礎							
担当者名	玉利　祐樹							
心理コース	2単位	春学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

経済心理学の中でも、特に消費者心理学に焦点を当て、マーケティングや行動意思決定理論との関係について論じる。たとえば、「なぜ卵やキャベツなどの特売商品が売られていると、わざわざ遠くまで買いに行く消費者いるのか？」、「なぜ教科書を買うのは痛いのに、コンパの料金はそれより高いのに痛くないのか？」、「なぜ旅行に行くと気前がよくなるのか？」、「コンビニの商品の陳列を変えるとどうして売り上げが伸びるのか？」、「ジャムの品数を多くしたほうがかえって売り上げが落ちたのはなぜか？」、「WEBの背景の模様で売り上げが変わるのはなぜ？」といったような身近な問題に、この授業では答えていく。　講義動画などを利用して、授業時では動画の補足、議論を中心に行う。

このような身近な問題は、2002年のノーベル経済学賞の受賞者のカーネマンらの経済心理学やプロスペクト理論と深く関係しており、授業でもこの研究についても取り上げる。また、近年の意思決定の脳科学などとも、経済心理学は深い関係を持っており、そのような研究についても紹介する。

授業では、経済学における効用理論との関係、プロスペクト理論、消費者意思決定過程、店舗内消費者行動などのトピックについて学習する。

授業の到達目標

経済心理学は、経済状況における人々の判断、意思決定、行動を説明し、予測するための学問である。本講義では、特に消費者行動の問題に重点をおいて、行動意思決定理論の理論的側面、マーケティングや行動経済学との関係についても考察しながら、経済心理学の基礎知識を習得することを目標とする。この授業を履修することにより、経済心理学の専門誌を理解できるようになることを目標とし、実務的な思考もできることも目指す。

成績評価方法

●**試験**　50%　　授業時に行う予告なし小試験と最終日に行う総合試験の結果で知識を評価する

●**レポート**　20%　　授業時に課すいくつかのレポートの内容を評価する

●**平常点**　30%　　出席、実験参加、調査参加、授業態度をもとに評価する

●**その他**　0%

備考・関連URL

高校数学（実数値関数の基礎概念、無限級数、微積分など）、統計学の基礎知識を受講に際して学生に要求する。

授業中は、学生間のディスカッションの時間なども多く設ける。

また、授業時に、レポートや予告なし試験なども行う予定である。

関連URL

竹村和久研究室竹村 和久（Kazuhisa Takemura）- マイポータル - researchmap　Kazuhisa Takemura - Google Scholar

研究者詳細 - 竹村　和久（waseda.jp）

（http://www.waseda.jp/sem-takemura/）

科 目 名	**言語心理学（学習・言語心理学）**　言語への認知心理学によるアプローチ							
担当者名	日野　泰志							
心理コース	2単位	秋学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

言語は、私たちにとって重要なコミュニケーションの媒体であるとともに、私たちの思考を支える媒体でもある。また、言語を使用する能力は、人という種に固有の能力であるとも言われている。私たちの言語はどのような構造を持っているのだろうか。また、私たちの言語を運用するとき、そこにはどのような心の仕組みが関わっているのだろうか。この授業では、言語（特に単語）処理に関わる諸問題について，認知心理学の視点を中心に，発達・バイリンガル・単語の認知という観点から主に紹介する。

授業の到達目標

言語心理学がどのような研究領域なのかを紹介するとともに、実際の研究がどのように行われているのか、人が持つ情報処理システムをどのように把握しようとしているのか等を理解してもらうことを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　80%　　成績評価は、試験の成績を80%、授業への出席状況を20%として評価する。

●**レポート**　0%
●**平常点**　20%　　授業への出席状況を評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	感情・人格心理学　人間のパーソナリティを理解する							
担当者名	小塩　真司							
心理コース	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

この授業では，人間の心理学的な個人差を研究する心理学の研究領域である人格心理学（パーソナリティ心理学）および感情に関する研究を行う心理学の研究領域である感情心理学について概説する。人格，性格，パーソナリティという用語は混乱しがちであるが，これらに決定的な違いがあるわけではない。近年，パーソナリティに関する研究は，心理学のみならずその周辺研究領域も巻き込みながら発展を続けている。この授業では，パーソナリティ心理学の歴史，パーソナリティの把握方法，類型的把握と特性的把握の相違点，個別のパーソナリティ理論と概念，パーソナリティの形成過程，感情に関する理論および感情の生起過程，感情と行動との関連，そして最新の研究動向について学ぶ。本講義は，すべての回をオンデマンドで行う。Waseda Moodle上の指示に従い，すべての回を受講すること。

授業の到達目標

パーソナリティ心理学および感情心理学の歴史と知識を学び，人間のパーソナリティについての理解を深める
学問の広がりを体験し，基礎教養を深めるとともに，自らの研究テーマを構想するための広やかな視野を得る

成績評価方法

・小テスト（毎回の講義動画視聴後に実施），感想（毎回の授業で疑問・質問を提出する）（合わせて40%）
・Waseda Moodle上での試験：Waseda Moodle上で，知識の確認を中心とした試験を行う。アクセス開始から制限時間を設け，一定の時間内に回答を求める（60%）

備考・関連URL

小塩研究室：https://oshio.kinsta.cloud
本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	神経・生理心理学							
担当者名	片平　建史							
心理コース	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

「心」の働きの基盤には、脳や神経系を中心とした「身体」の働きが存在している。神経・生理心理学では身体の働きを生理学的手法によって捉え、それを通じて心の働きに迫ろうとする。この講義では、神経系をはじめとした身体の働きの基礎知識を学ぶとともに、感覚と知覚、学習と記憶、感情などの心の働きをとりあげ、これらを支える神経メカニズムについて解説する。

授業の到達目標

心の生物学的基盤としての脳や神経系の構造と仕組み、およびその機能について理解する。
認知や感情などの心的機能を支える中枢神経系・末梢神経系のメカニズムを知る。
生理心理学の研究を進めるための測定手法や解析手法に関する基礎知識を得る。

成績評価方法

●**試験**　30%　　毎回の授業後にWaseda Moodle上の小テスト機能を用いて確認ワークを実施し、達成度を評価します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　　毎回の授業と確認ワークへの参加度を評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	精神疾患とその治療　精神医学							
担当者名	加藤　隆							
心理コース	2単位	秋学期	土曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル[対面] ハイブリッド(対面授業特別以上)

授業概要

健常な人のこころの成り立ちを知ろうとするのがPsychology(心理学)であれば、「異常な」こころの働きからその仕組みを探ろうとするのがPsychiatry(精神医学)である。とはいえ「健常なこころ」を明確に規定できないことからも、両者は切っても切れない関係にあり、こころの理解には双方の理解が必須である。本講義では、精神科学が扱う様々な疾患と、その背景に推定される脳やからだの機能障害を概説する。特に後半では、実際に臨床場面で見かける症例の提示からその諸症状・状態像の把握のしかたを学び、背景に存在する精神病理学的な理解を深めたい。臨床場面をありありとイメージできるような症例提示を行い、学生自らが当事者としてどのように接するべきか、また実際の問診の手技・手法についても「実践的に」学ぶことを目標とする。

授業の到達目標

本講義を通じて受講生は精神医学の基礎を理解し、代表的な精神疾患についてその成因・症状・診断法・治療法・経過について把握する。授業計画のうち精神科総論では、精神症候学や診断基準などを学び、その神経基盤についても理解を深める。精神科各論では、精神医療が扱う代表的な疾患についてその症状・病態像について理解し、本人や家族への支援の観点から説明でき、かつどのような場合に医療機関への紹介が必要か説明できることを目標とする。また治療場面においてしばしば用いられる向精神薬についてもその心身への影響を理解する。授業全般において、教科書的な「知識」を問うことはせず、精神医学への興味・関心を喚起することを第一の目的とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　教科書的「知識」は問わない。総論的な精神医学に対する関心の有無を評価する。
●**レポート**　50%　　了解不能な現象に遭遇した際の、個々人の説明的解釈を求めたい。
●**平常点**　50%　　授業への出席状況やディスカッションの参加等により判断する。
●**その他**　0%　　欠席時の理由など適宜参照する。

科 目 名	知覚・認知心理学							
担当者名	田中　雅史							
心理コース	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン]フルオンデマンド

授業概要

本講義では、秋期の講義「行動の科学」が脳の出力である「行動」をとりあげるのに対し、脳の入力である「感覚」を支えるメカニズムを概説します。

私たちは、外界の物体や出来事を、目や耳などの感覚器を通して検出し、その情報を脳で処理することによって知覚・認知しています。ヒトは、大きい脳を進化させた結果、高い認知能力をもつようになり、限られた外界の情報から多くのことを推察できるようになりましたが、ときにその柔軟な脳のふるまいが裏目に出て、間違って外界を理解してしまうこともあります。本講義では、さまざまな錯覚や認知バイアスを紹介し、こうした誤りがなぜ生じるのか考えつつ、最新の研究成果を紹介して、ヒトの知覚・認知、そしてそれらを支える意識・注意・記憶などの脳メカニズムについても論じる予定です。

授業の到達目標

1. ヒトの情報処理を脳や体の働きから理解する
2. ヒトの知覚・認知の複雑性や不完全性を確認する
3. 最新の心理学・神経科学の成果や実験的手法に慣れ親しむ

成績評価方法

小テスト： 70%
平常点： 30%
*）成績優秀者が多数の場合、上位の一部が相対評価となる可能性があります。
*）平常点については原則として授業コンテンツの視聴状況をもとにしたコンテンツ内パスワードの適切な入力で評価しますが、相対評価などで平常点に加点余地があるケースではコンテンツ視聴状況や小テスト理解度、授業での貢献度なども総合的に判断して評価する可能性があります。

備考・関連URL

本授業は、基本的にオンデマンドにて行う予定です。受講者は、Moodle上で 1）講義動画の視聴、2）レジュメ(pdf)閲覧、3）リアルタイム配信への参加 4）フォーラムなどでの質問 を自由に組み合わせて学習し、期日までに小テストに回答してください。

科 目 名	司法・犯罪心理学							
担当者名	藤野　京子							
心理コース	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン]フルオンデマンド

授業概要

我が国の犯罪や非行の現状やその処遇の流れについて解説する。つづいて、犯罪や非行について、これまでどのような理論づけがなされてきたかについて解説する。また、非行少年や犯罪者の個別事例を取り上げ、その実情についての臨床的理解を深める。加えて、非行や犯罪に走った者への社会適応や犯罪予防に向けての心理学的働きかけのいくつかの手法を取り上げる。このほか、犯罪被害者への支援や犯罪捜査等の刑事司法過程において、心理学の知見がどのように生かされてきたか、また今度どのような役割を果たせる可能性があるかについても併せて考える。本授業はフルオンデマンド授業として実施。アップされたものは随時視聴可能な設定にするが、受講ペースは週1回、授業カレンダーの火曜日までに受講し、その回で扱った内容のうち新たに知ったこと、さらに深めて調べてみたいと思ったことを記すことをもって受講確認を行う。

授業の到達目標

司法・犯罪分野に関連する心理学の学部レベルにおける基礎知識の習得をめざす。

成績評価方法

●**試験**　0%　　該当なし
●**レポート**　40%　　最終レポートの提出を求めます。
●**平常点**　60%　　各回で扱った内容のうち新たに知ったこと、さらに深めて調べてみたいと思ったことを書き込むことで出席とみなします。その記載内容も評価対象とします。
●**その他**　0%　　該当なし。

備考・関連URL

各回、授業カレンダーにそって火曜日までに受講すること。Moodle上に質問コーナーを用意しますので、質問を掲載すればフィードバックします。

科 目 名	臨床心理学概論							
担当者名	越川　房子							
心理コース	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

臨床心理学は、人間の精神に関する理論、科学的知見、実践を統合して、クライエントの問題（悩み）の解決や精神的な成長をサポートするとともに、不適応やこころの悩みの原因を研究し、問題を予測し、加えてそれらの問題を軽減、解消することを目指す心の科学である。本講では、心の問題のアセスメント方法、精神疾患、および臨床心理学の主要理論とその技法について学ぶ。取り上げる理論としては、精神分析、分析心理学、クライエント中心療法、交流分析、認知行動療法、マインドフルネスなどを予定している。

授業の到達目標

心の問題のアセスメント方法、主要な精神疾患、および臨床心理学の主要理論とその技法について理解する。

成績評価方法

●**試験** 60%　60点：日常生活への応用も含めて、学習した内容をよく理解している、50点：学習した内容をよく理解している、40点：学習した内容をかなり理解している、30点：学習した内容をある程度理解している、20点：学習した内容の理解が不十分である、10点：学習した内容を全く理解していない、0点：試験を欠席した

●**レポート** 0%　実施しない。

●**平常点** 40%　出席回数と出席カードに自由に記入するコメントを基に評価する。

●**その他** 0%　特になし。

備考・関連URL

基本的に対面授業を予定していますが、オンデマンド教材による学習を併用する可能性があります。諸連絡はWaseda Moodle のアナウンスメントを利用して行いますので、適宜確認をお願いします。

受講生に臨むこと

授業中に担当教員から質問が出され、周囲の学生と一緒にその回答を考え、発表を求められる場合があります。パス（回答しない）を認めていますが、積極的に取り組むことを希望します。

講義

科 目 名	行動の科学							
担当者名	田中　雅史							
心理コース	2単位	秋学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

本講義では、春期の講義「知覚・認知心理学」が脳の入力である「感覚」をとりあげるのに対し、脳の出力である「行動」について概説します。

ヒトを含めた動物の行動は、ほとんど全てが脳・神経系の活動がひきおこす筋収縮によって制御されていますが、そのふるまいは、歩行から攻撃、遊びにいたるまで実に多様です。また、同じ歩行にしても、朝に大学に向かっているときと、夕方に家に帰っているときでは、その体の状態はまったく異なっていますし、同じサークルに属する仲間でも、空腹時には餌を奪い合う敵になるかもしれません。さらに、私たちの脳や体は常に変化を続けていて、思春期には初めての恋を経験して人生観が変わったかもしれませんし、その後もさまざまな経験を通して、新しい行動を学習していきます。そして、一人ひとり異なる行動を獲得した私たちが、ひとたび集まって集団を形成すると、個々の行動からは予測できない奇妙なふるまいを見せることもあるのです。本講義では、こうした動物行動の様々な側面をとりあげ、そのメカニズムと機能について考えながら、ヒトという、巨大な社会で極めて複雑な価値体系を構築した動物の行動についても考察していく予定です。

授業の到達目標

1. 動物の行動を遺伝や脳・神経系の働きから理解する
2. ヒトを含めた動物の行動の複雑性・多様性を確認する
3. 遺伝学・動物行動学・神経科学の研究法に慣れ親しむ

成績評価方法

小テスト： 70%

平常点： 30%

*）成績優秀者が多数の場合、上位の一部が相対評価となる可能性があります。

*）平常点については原則として授業コンテンツの視聴状況をもとにしたコンテンツ内パスワードの適切な入力で評価しますが、相対評価などで平常点に加点余地があるケースではコンテンツ視聴状況や小テスト理解度、授業での貢献度なども総合的に判断して評価する可能性があります。

備考・関連URL

本授業は、基本的に**オンデマンド**にて行う予定です。受講者は、Moodle上で 1）講義動画の視聴、2）レジュメ(pdf)閲覧、3）リアルタイム配信への参加 4）フォーラムなどでの質問 を自由に組み合わせて学習し、期日までに小テストに回答してください。

科 目 名	心と体の世界　知られざる心と体の関係を探る							
担当者名	駒田　陽子							
心理コース	2単位	春学期	金曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

心と体の関係を理解するための基盤として、私たちの体に存在する生体時計、脳のメカニズムについて概説します。気分の落ち込みや疲労感、身体の不調はどのように発生しているのでしょうか。心と体はどのように関係し合っているのでしょうか。現代社会における「心と体」の問題、健康状態と生理機能の問題、医療における心身の問題、睡眠負債と生体リズム、意識と無意識の奥深さなどを考えるきっかけを提供できればと考えています。

授業の到達目標

生物的 - 心理的 - 社会的存在としての人間を「心と体」、「生体リズム」、「睡眠学」の側面から理解できるようになる。

成績評価方法

●**試験** 30%　理解度を確認します。

●**レポート** 35%　課題は授業内に提示します。与えられた課題について、独自に検討を行ったことについて評価します。

●**平常点** 35%　講義支援システムやリアクションペーパーを用いて出席状況、受講者の理解度や関心を把握します。

●**その他** 0%　なし

科 目 名	心を測る　心理学研究のための多変量解析							
担当者名	大橋　洸太郎							
心理コース	２単位	秋学期	金曜日	４時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

心理学の研究では実験や調査から得られたデータに対して様々な統計解析手法を適用し，心理的な側面の把握が試みられます。本授業では，構造方程式モデリング(Structural Equation Modeling, SEM)の概要説明・応用を主眼としながら、心理学研究においてしばしば利用される解析手法を取り上げていきます。したがって、段階的に分析手法の理論背景を説明するとともに、データへの適用例から分析結果の解釈の仕方について示していきます。

授業の到達目標

・解析手法の使用目的を理解する
・解析手法の理論の概要を把握する
・データに対して解析手法を正しく適用できるようになる
・出力結果を適切に解釈できるようになる

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　60%　　ほぼ毎回，簡単なと学習した内容に関連した課題を提示します。問題に対する取り組みの姿勢を評価します。
●**平常点**　40%　　授業への出席状況。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連ＵＲＬ

心理統計学に関する基礎知識を有している場合、円滑に受講することができますが，統計知識の学び直しや，心理・態度を測定することに興味を持った学生についても受け入れられるような内容としたいと思います。このため，心理学コースの学生の他の学生の履修も歓迎しますが，統計に関する基礎知識を補うための学習努力が求められます。

科 目 名	心理学の歩み							
担当者名	鈴木　朋子							
心理コース	２単位	秋学期	無	フルOD	２年以上	—	合併科目	フル(オンライン) フルオンデマンド

授業概要

心理学がどのように生まれ、どのように発展し、どのように役立ってきたかを知る学問が心理学史である。現在の心理学は、社会や文化との相互作用の中で形づくられてきた。これは他の分野でも同様であり、学問の発展の背景には社会や文化が大きく作用している。本講義を通して、心理学とは何か、どのような研究を行っているのかという知識を身に着けてもらいたい。加えて、学史を研究する意義とは何かについて考え、その発展の背後にはどのような社会的要請があったかを歴史的観点から考えるきっかけとしてもらいたい。 本講義は、文学部ディプロマ・ポリシー「人間・世界を深く探り、言語・文学・表現の本質を解明し、人間・社会を歴史的に究明する」について、心理学の観点から学ぶものである。

授業の到達目標

人間・社会を歴史的に究明する思考を学ぶ。複雑な世界をみる視点の一つとして、学史研究の意義を理解する。自分の関心のあるテーマについて、歴史的観点を含めて説明することができる。心理学の発展を時代の流れと地域の特色に照らし合わせ理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はありません。
●**レポート**　50%　　レポート2本を予定しています。映画を視聴し考察するレポートを1本（2つの映画のうち1本)、期末レポート1本です。指定された方法での提出のみ評価対象とします。
●**平常点**　50%　　毎回の授業後に出席を兼ねた小テストがあります。授業動画をすべて視聴し学習した場合のみ、小テストの得点を評価対象とします。
●**その他**　0%　　その他の評価はありません。

備考・関連ＵＲＬ

※本授業は、全回定期配信のフルオンデマンド授業となります。※授業は、授業実施日にあたる月曜日から1週間配信されます。ただし、第1回・第2回は、授業実施日から10月27日までの期間で配信されます。

科 目 名	健康・医療心理学							
担当者名	福川　康之							
心理コース	２単位	春学期	金曜日	３時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本講義では，特に人の健康や適応と関連する様々な要因とその影響メカニズムを概説する．各回のテーマに即した国内外の研究成果を紹介しながら論じていく．

授業の到達目標

種種の病気や不適応にと心身の関係について概説できる．
医療現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できる．
さまざまな保健活動において必要な心理に関する支援について説明できる．
災害時等に必要な心理に関する支援について他者に説明できる．

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　80%　　講義内容について，専門用語と自分の言葉を駆使して説明できるか，確認する
●**平常点**　5%　　どこかでリアクションペーパーを課す

●**その他**　15%　　小テストを実施する.

備考・関連URL

第1回から第6回まではオンデマンドの授業とします．授業カレンダーの通りに決められた曜日と時間に動画と関連資料をMoodle上にアップロードします．順番に視聴してください.

第7回は小テストを行います．上記と同様のスケジュールでMoodle上で課題を出すので，指示に従って小レポートを提出してください.

第8回からは対面授業を行うので，指定の時間に教室に集合してください.

授業の性質上，性別，年齢，人種，障害などの形態学的・心理行動的差異に関する話題を取り上げることがあるので，気になる学生は受講を控えてください．また，就学上の困難が懸念される場合は，「合理的配慮」に関して大学事務に相談してください.

科 目 名	人体の構造と機能及び疾病							
担当者名	冨田　太一郎							
心理コース	2単位	春学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

私たちの心身の健康は，人体を構成する細胞，組織，器官の構造や器官系の機能が正常な範囲に維持されて初めて成り立っている。本授業では，それぞれの器官についての位置や形状，構造についての理解（解剖学）と，各器官系の機能および身体全体として各器官を調和させる働き（生理学）を中心に，人体の正常機能と構造について講義形式で学ぶ。また，がん，糖尿病，循環器疾患，遺伝性疾患など，心理的支援が求められる主要な疾病に関しても概説する。

授業の到達目標

1. 人体の成り立ちに関して、細胞から組織、臓器、個体に至る各部の正常な構造と機能を理解し、説明できる。
2. 人体の正常な機能や構造からの逸脱が、どのように異常を引き起こして疾病に至るかを理解し、説明できる。
3. 人体の誕生から老化に至る過程において、身体的あるいは精神的な変化をきたす基本的な機序を理解し、説明できる。
4. 心理的支援が求められる疾患に関して、その予防や治療、現状の課題について理解し、説明できる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　本講義では試験に代えて、期末にレポートによる評価を行います。

●**レポート**　80%　　第13回講義で課題を提示します。

課題に関して、講義内容を踏まえて考察することを求めます。

レポートの<内容>、<説明のわかりやすさ>、<オリジナリティ>を均等に評価します。

●**平常点**　20%　　講義に関して、理解度を確認するための小テスト課題を課します。

小テスト課題の得点自体は評価には含めませんが、期限内の提出回数を評価に含めます。

●**その他**　0%　　評価割合は示しませんが，受講期間内の視聴の有無を評価に考慮します。

科目登録期間に配信する講義分については、後日の視聴も可としますが（2次、3次登録者）、科目登録前に配信された講義はできるだけ速やかに視聴してください。

備考・関連URL

・公認心理師等の資格試験の受験を予定する者は、それぞれ受験資格の必要要件（必要単位など）についてあらかじめ確認しておくこと。

・本授業は 全回オンデマンド方式の動画配信による講義 の形式で実施します（Waseda Moodle経由で、基本的に週1回のペースで定期配信し、受講期間は1週間とします）。各自、講義を視聴してください。また、課題は必ず提出期限内に提出してください（課題と提出期限および提出方法は講義動画と一緒に掲示します）。不明な点があれば、Moodleから連絡してください。

・本講義に関する連絡は、随時WasedaMoodleの本講義のページに掲示します。最新の情報を確認するようにしてください。

・科目登録期間に配信する講義に関しては後日の視聴も可とします。ただし、2次、3次登録者については、科目登録前に配信された講義も速やかに視聴することを求めます。小テスト課題に関しても同様に速やかに提出のこと。

科 目 名	宣伝文研究　宣伝広告のおもしろさを学びます							
担当者名	上條　典夫							
心理コース	2単位	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

・広告は、企業と人、人と人を結びつける現代社会のコミュニケーションにおいて重要な役割を果たしている。

・コミュニケーションメディアは、テレビ・新聞などのマスメディアだけでなく、ソーシャルメディアに代表される新しいメディアの時代へと拡大しており、広告の形態も多岐にわたり進化を遂げている。

・本講座では、メディアの変化を踏まえ、「生活者の心理・価値観の変化」や「ライフスタイルの変化」を把握し、宣伝広告によって生活者の意識や消費行動がどのように影響を受けていくか、を明らかにしていく。

・実際の広告の映像・画像を分析しながら、宣伝広告を構成するヘッドラインやボディコピー、ビジュアルや音楽・ネーミングまで、広く広告制作の仕組みを習得する。

・広告だけでなく、企業・自治体が取り組む、広報・PR領域の研究も行う。

※なお、対面授業を基本としますが、状況に応じてZOOMによるオンライン授業も併用します。

授業の到達目標

・受講者は、広告コミュニケーションが人間社会の中でどのような役割を果たし、どのように機能しているのかを理解し、それが創り出され、送り出されるメカニズムを知る。

・その背後にある送り手側の意図を読み解き、日常的に接する広告に対して主体的な「判断力」を養い、情報社会における優れた「リテラシー」を身につけることを目標とする。

・さらに、社会人となって役に立つ、自分の意思をいかにして伝えるかという「コミュニケーション能力」習得へのヒントを掴む。

成績評価方法

●**試験**　60%　　授業内容の理解度・広告／コミュニケーションへの見識の拡がり。

●**レポート**　10%　　ミニレポートも検討しています。
●**平常点**　20%　　出席状況
授業内容の理解度と自ら持つ独自の視点・考え。
●**その他**　10%　　授業態度

備考・関連URL

・広告・PR・メディア・マーケティング・クリエイティブ・ライフスタイル・価値観変容などに関心のある学生の受講を望みます。
・講師は、広告会社電通のマーケティング部門・営業部門において、多くの広告キャンペーン・開発プロジェクトの企画・立案・実践に従事の実践のプロです。

科 目 名	認知のシステム　情報処理システムの構造							
担当者名	日野　泰志							
心理コース	2単位	春学期	金曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

我々は、眼を開いただけでそこにあるものを見ることができるし、耳をすませば周囲から発せられる様々な音を聞くことができる。しかしこの知覚のプロセスは外界をそのままに写し取ってくるわけではない。そこには複雑な解釈のプロセスが介在しており、また我々は、既に保持している知識を利用することによって、速やかかつ適切に外界を認識することができる。物理的世界の中に存在する様々な情報をどのようにして我々の心は認識するのだろうか。さらに、知覚入力のプロセスを通して獲得した知識をどのように貯蔵し、その結果、どのように世界を認識しているのだろうか。この授業では、我々が持つ情報処理システムの構造について考察するとともに、外界の認識を支える知覚のシステムと知識との間の交互作用がどのように行われているのかという問題を考察する。

授業の到達目標

視覚情報処理のシステムがどのようにして実現されているかについて、理解してもらうとともに、認知心理学が人の情報処理システムをどのような枠組みでとらえようとしているのかを理解してもらう。

成績評価方法

●**試験**　80%　　穴埋め形式の試験を実施する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　20%　　授業への出席状況を考慮する。
●**その他**　0%

科 目 名	心理学概論1							
担当者名	田中　雅史　他／小塩　真司／神前　裕／越川　房子／豊田　秀樹							
心理コース	2単位	春学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

心理学（psychology）という言葉は，ギリシャ語の魂や心などを意味するpsykheと，理性や学を意味するlogosに由来し，心について学理的に探求することを指す。特に近年，心理学の学問領域は急速に発展し多岐にわたるものとなり，その範囲は人間のみならず人間以外の動物における行動全般におよぶ。本科目は，複数の教員がそれぞれ2回あるいは3回ずつ担当して構成されるオムニバス講義である。心の働きや行動に見られる法則性やパターン，関係性，個人差等について，担当教員の専門領域に沿って話題が提供される。具体的内容は授業計画を参照されたい。授業はオンデマンド形式で行われる。Waseda Moodle上の指示に従って履修すること。

授業の到達目標

心理学の諸領域をそれぞれの担当者が紹介することで，心理学がどのような研究領域を含むものであるのかを理解する。また心理学の基礎的な考え方を身につけ，実社会の解釈に用いることができるようになる。

成績評価方法

毎回の課題（小テスト・感想提出；50%）と最終レポート（50%）により評価する。

備考・関連URL

早稲田大学文学学術院心理学教室　https://psychol.w.waseda.jp/　各教員の研究業績や書籍などを確認すること。

科 目 名	心理学概論2							
担当者名	宮田　裕光　他／片平　建史／谷辺　哲史／日野　泰志／福川　康之／藤野　京子							
心理コース	2単位	秋学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

心理学がどのように進展してきたかについて、心理学の分野ごとに解説していく。
思考心理学領域：動物、ヒト乳幼児、および成人の思考や問題解決、計画能力に関する実験的研究について、各研究領域の視点から紹介する（宮田裕光）。感性心理学領域：感性の心理学的研究をその応用領域とともに概説し、感性の働きを神経・生理学的プロセスから理解する取り組みを紹介する（片平建史）。社会心理学領域：人間が他者の心や行動を認知する過程について、人間以外の対象（動物、ロボット）に対する認知とも関連づけながら論じる（谷辺哲史）。言語心理学領域：語の読みのメカニズムに関する基本的なモデルを紹介した上で、日本語の読みのメカニズム、特に、漢字語と仮名語の処理差の問題を中心に紹介する（日野泰志）。高齢者心理学領域：高齢者の心理的特徴や適応、また、高齢社会において生じる様々な心理学的問題について論じる（福川康之）。犯罪心理学領域：臨床心理学的アプローチにより、非行少年の診断・査定の実際を紹介するほか、非行少年への介入及びそれによる変化について扱う（藤野京子）。

授業の到達目標

心理学における様々な分野についての知見を広め、心理学とは何かについて理解を深める。

成績評価方法

各講師の担当回の終了後、1週間以内に600字程度のレポートを書いて、Waseda Moodle上のレポート提出Boxに提出してもらう。レポート課題は各講師が担当回の終わりまでに周知する。計6本のレポートの成績を総合的に判断して最終評価とする。4本以上のレポートの提出を成績評価の前提とする。

備考・関連URL

本講義は、Waseda Moodleによりオンデマンド形式で実施する。授業の進め方や課題など、必要な点はWaseda Moodleから履修者の方に周知するので、周知内容をよく確認すること。

科 目 名	産業・組織心理学							
担当者名	福川　康之　他／大塚　泰正							
心理コース	2単位	春学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

・① 職場における問題（キャリア形成に関することを含む）に対して必要な心理に関する支援，②組織における人の行動について解説する.

・職場のメンタルヘルスに関する一次予防から三次予防までの幅広い話題（カウンセリング，教育研修，職場復帰支援など）について学び，産業・組織心理学領域で活躍できる心理実践家としての基礎を身に付けることを目標とする.

授業の到達目標

（1）産業・組織心理学の基礎的知識を学ぶ

（2）職場のストレスの実際を理解し今後の職業生活に活かす手掛かりを得る.

そのうえで自身の考えを他者に説明することができる.

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　50%　　理解度を確認する

●**平常点**　36%　　各回（ガイダンスと小テストの回を除く）の視聴後，Moodleでリアクションペーパー（受講により学んだことや感じたことなどを200字程度で記述）を提出することで平常点を評価する。リアクションペーパー8回未満の提出者にはレポート評価に関わらず単位が与えられない.

●**その他**　14%　　小テストを実施する.

備考・関連URL

就学上の困難が懸念される場合は，「合理的配慮」に関して大学事務に相談してください.

その他受講中の疑問点などがあれば，Moodleのメッセージ機能を利用して担当講師（大塚泰正）に連絡すること.

＜担当予定＞

福川：第1回，第8回，第14回

大塚：第2回～第7回，第9回～第13回

科 目 名	社会・集団・家族心理学　個人、集団、家族、社会における認知・判断・行動の理解							
担当者名	竹村　和久							
心理コース	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本講義では、広義の社会心理学を取り扱う。すなわち、社会心理学は、政治、経済、経営、日常生活などの社会的状況における人間の知覚、認知、判断、意思決定、行動の仕組みを解明する学問であると考えることができる。例えば、社会心理学では、以下のようなことが問題になる。なぜみんなで充分な話し合いをすると、本当に良い社会的決定ができるのであろうか？　日本は安心社会なのか？　人間の社会行動や心理過程をどのように表すことができるのか？　などである。

本講義では、社会心理学、集団心理学、の基礎的考え方と方法論・理論、そして研究知見を総合的に概説する。また、本講義では、方法論や理論などに力点を置きながらも、社会政策や経営・経済政策などの実務的な観点をも考慮した講義を行い、学生に「社会心理学がどんな役に立つか」ということを積極的に考えていただくことを目指している。

テキストは1冊であるが、かなりの分量を学習してもらうことになると思われる。その分、備考欄にも書いたように、学生には、充分な予習や復習をしていただくことを講義の前提としている。本講義を受講することによって、人間の社会的行動への理解が促進し、社会心理学、集団心理学、家族心理学関係の学術雑誌や学会発表もある程度理解でき、研究の具体的応用を考察できるようにすることを目標とする。講義動画も利用し、対面授業時はその補足的説明と議論を中心に行う。

授業の到達目標

本講義を受講することによって、人間の社会的行動への理解が促進し、社会心理学、集団心理学、家族心理学関係の学術雑誌や学会発表もある程度理解でき、研究の具体的応用を考察できるようにすることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　50%　　単元ごとの授業時の予告なし試験、授業終了時の試験での理解力をみる

●**レポート**　20%　　平常のレポート課題の内容を評価する

●**平常点**　30%　　授業への出席状況、授業での態度

●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

初回の講義の段階では、社会心理学についての知識は前提としない。ただし、一般心理学や心理学研究法についての初歩的知識、多変量解析や実験計画などの統計解析に関する初等的知識、微積分、多項式関数、ベクトルに関する高校で履修可能な数学的知識、新聞で入手可能な時事問題に関する初歩的知識を前提とする。また、積極的な授業への参加を期待する。テキスト以外に、指定した参考文献なども次回の授業までに読んで来るように随時指示を与える。また、授業時間中に、学生同士のディスカッションや社会心理学に関連した実験参加募集なども行う予

関連URL:　http://member.nifty.ne.jp/highway/dm/decbooks.htm　http://www.soc.nii.ac.jp/jssp/

科 目 名	社会学概論1							
担当者名	池田　祥英							
社会コース	2単位	春学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

社会について理論を作り上げようという動きは太古の昔からあったが、それが独立した学問分野として成立したのはそれほど昔のことではない。フランス革命で王権が打倒され、それに代わる新たな秩序を模索していた19世紀のフランスにおいて「社会学」という言葉が編み出され、それが各国に広まっていくことになる。そしてフランスのデュルケーム、ドイツのヴェーバー、アメリカのパーソンズというように、それぞれの言語圏で傑出した社会学理論が生み出された。これらの学説は、現代の社会を考えるうえでそのまま適用されることはないが、彼らが作り出した概念図式は修正されながらも利用され続けており、現代の社会学理論を作るうえでの土台となっている。本講義では、このような主要な社会学理論を取り上げ、単に社会学者の名前と概念を結びつけて覚えようというのではなく、どのような時代背景があってそうした理論が生み出されたのかを中心に考えていく。

授業の到達目標

1．社会学における基本的な概念について理解し、説明できる。
2．社会学的な思考を用いて、現代社会が抱える問題点について論理的に議論を展開できる。

成績評価方法

●**試験**　80%　　社会学に関する基本的な概念について理解しているかどうか、社会学的な考え方を用いて、社会問題について論理的に説明できるかどうかを評価する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　20%　　各回終了後のフォーラム（Waseda Moodle）等への参加度、コメント内容の論理性によって評価する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

原則として毎回対面で講義を行う。教科書を持っているという前提で授業を進める。必要に応じて補助教材を配布する（プリント、またはデータ）。出席回数が全体の3分の2に満たない場合は、「G」評価とする。

科 目 名	社会学概論2							
担当者名	池田　祥英							
社会コース	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

「社会学概論1」での学習を背景に、本講義ではもう少し具体的な場面においてどのような社会学的概念が用いられているのかを考察するために、「社会集団」について取り上げる。人間は生まれてから死ぬまで、つねに何らかの集団に属している。たとえ学校や会社に属さず、共に暮らす家族がいないという人でも、かつては家族や施設、義務教育の学校の一員であったはずであるし、あるいは少なくとも今住んでいる地域の一員としての立ち位置から逃れることはできない。その集団のなかでわれわれは直接的に協力しあう場合もあれば、顔を合わせず、また特定の誰ともわからないまま同じ目標に向かって協力しあう場合もあるだろう。この授業では、そうしたさまざまな局面から見た人間の集団について考察する。

授業の到達目標

1．社会学における社会集団研究の分析視点を理解できる。
2．家族や地域といった個別の社会集団について、これまでの変化についての議論と現代における動向を理解し、それらを説明できる。

成績評価方法

●**試験**　80%　　授業で扱った重要な概念について理解し、文章で説明できるかどうか、社会集団の変容に伴う問題点について論理的に説明できるかどうかを評価する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　20%　　各回終了後のフォーラム（Waseda Moodle）等への参加度、コメント内容の論理性によって評価する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

原則として毎回対面で講義を行う。Moodleに事前学習用の資料をアップする。出席回数が全体の3分の2に満たない場合は、「G」評価とする。

科 目 名	社会調査法1							
担当者名	岡本　智周							
社会コース	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

社会学は様々な方法で社会を認識した上で成立する学問である。社会を観察し認識するための主要かつ有効な方法の一つが社会調査である。社会調査の領域では、具体的な社会事象を客観的に把握するため様々な手法が開発され、また多くの先行研究が蓄積されてきた。本講義は、先行研究例をふまえつつ、調査の基礎的な知識・技法や調査倫理を修得するとともに、社会調査全般についての理解を深めることを目的とする。また、実践に向けて調査データを読みこなすための基礎的な力をつけることを目的とする。なお、本講義は社会調査法2と併せて履修することが望ましい。

授業の到達目標

1. 社会調査の発展の歴史をふまえ、その用途や意義を理解する。
2. 調査結果を正しく読み解き、また、自分で調査を実施するために必要となる、社会調査のプロセスに関する基礎的な知識や技法を修得し、調査を行う際の注意点（調査倫理）を理解する。
3. 社会調査法1においては、とくに調査票を作成するスキルの修得を目標とする。

成績評価方法

●**試験**　50%　　期末試験の結果を評価する。

●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　授業内で提示する課題への取り組みを評価する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

授業の内容は継続的に進行するので、安易な欠席は認められない。

科 目 名	社会調査法2							
担当者名	岡本　智周							
社会コース	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

まず、量的調査におけるサンプリングから実査後の集計までの手順を学習する。変数間の関連性についての社会学的想像力を駆使した集計が、社会現象についていかに多くの知見を提供してくれるのかを理解する。実践に向けて調査データを読みこなすための基礎的な力をつけることを目的とする。次に、質的調査の具体的な方法論を学習する。社会調査の領域における定量的研究と現象学的な定性的研究という、異質な方法論についての学びを通して、それらが実証研究において相互補完的であることを理解する。なお、本講義は社会調査法1と併せて履修することが望ましい。

授業の到達目標

1. 社会調査の基礎的な知識・技法を修得し、調査の過程と構成についての理解を深める。
2. 量的調査・質的調査の双方にわたる社会調査の諸類型と特性を整理し、それらに共通する社会調査の基礎的な考え方を理解する。
3. 社会調査法2においては、とくにクロス集計結果の理解の仕方の修得を目標とする。

成績評価方法

●**試験**　50%　　期末試験の結果を評価する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　授業内で提示する課題への取り組みを評価する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

授業の内容は継続的に進行するので、安易な欠席は認められない。

科 目 名	データ解析2（質的分析）　質的調査法							
担当者名	笠原　良太							
社会コース	2単位	秋学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本講義では、社会調査における質的調査の特徴を理解したうえで、質的データ収集方法の設計・準備・実査・分析・報告のサイクルについて学ぶ。具体的には、インタビュー調査、参与観察、文書資料調査を扱う。それぞれの方法を用いた先行研究や担当教員が参加するプロジェクトの例を紹介しながら進める。また、実際のデータを分析して具体的かつ実践的に学習する。なお、本講義は社会調査士標準カリキュラムF科目に該当する。

授業の到達目標

・質的調査の基本的な知識、考え方を習得し、研究・調査目的にあわせて適切な調査方法を選択できるようになる
・自ら調査を設計し、実査・分析・報告までできるようになる

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　学期末の最終レポートの評価
●**平常点**　50%　　出欠、授業内個人・グループワーク、課題の評価
●**その他**　0%

科 目 名	社会学研究1（グローバリゼーション論1）　グローバリゼーションとは何か？							
担当者名	田辺　俊介							
社会コース	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

グローバリゼーション（あるいはグローバル化）は、現代社会を論じる際に多用される言葉の一つである。しかしその「グローバリゼーション」という言葉は、論者や文脈によって意味内容が異なることも多く、使用上の混乱が多い概念でもある。さらに社会に対する影響についても、論者の立場や思想によって、その意見は大きく分かれる。世界全体を塗り替え、国民国家を解体させる強力な社会変動と考える論者も多い。だが一方で、伝統的な国民国家の社会的影響力を大きく損なうような力ではない、と断ずる研究者も、実は少なくないのである。さらに2010年代からはBREXITやトランプ大統領の登場（そして再登板）のように、「反」もしくは「脱グローバリゼーション」と考えられるような政治的動きも目立ってきている。

そこで本講義では、まずグローバリゼーションという言葉の内実について、それを複数の側面に分けた上で、その影響力や実態を学ぶ。その上で、グローバリゼーションと関連深いと考えられる諸概念（例えば、移民、マクドナルド化やネオリベラリズム）や対立するとされる概念（反グローバリゼーション運動やナショナリズム、ポピュリズム）についての議論を学習する。それらを通じて、グローバリゼーションと呼ばれる社会変動に関する理論とその実態に関する幅広い知識と認識を得ることを目的とする。

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。

授業の到達目標

グローバリゼーションとその関連諸概念に関する複数の理論を学ぶことで、グローバリゼーションに関する議論を、自分なりに整理するための社会学的な視点の獲得を目指す。さらに可能な限り、グローバリゼーションに関する諸理論を深く知るプロセ

スを通じて、同じように曖昧に語られやすい社会に関する諸概念についても、それらをまず理論的に理解し、その上で自分なりに論じる力を身につける「方法論」を身につけて欲しい。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　期末に出す課題レポートへの評価。
●**平常点**　25%　　オンデマンドコンテンツの視聴やそれに対するコメントなどから総合評価。
●**その他**　25%　　各種課題への取り組みやフォーラムでの議論の参加度などから総合評価。

科 目 名	社会学研究2（グローバリゼーション論2） グローバリゼーションとナショナリズムの相互関連							
担当者名	田辺　俊介							
社会コース	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

グローバリゼーションの進展にともなって、「政治的な単位と文化的あるいは民族的な単位を一致させようとする思想や運動」（Geller 1983=2000）と定義されるナショナリズムが衰退する、との予想もされていた。しかし21世紀の現代社会においては、アメリカファーストを唱えるトランプ大統領の誕生と再登板、英国のEU離脱、欧州における移民排斥を主張する政党の伸張、東アジア諸国間の相互不信など、ある種のナショナリズムに基づいた社会現象は頻出し続けている。そのため、グローバリゼーションにともなって、むしろ特定の種類のナショナリズムは強まっているかにも思われる。このようなナショナリズムは、「賛成派」と「反対派」の間でとかく感情的な議論になりやすい対象である。しかし、そもそもお互いの用いる「ナショナリズム」の意味が異なったままの、不毛な議論も少なくない。そこで本講義では、まずナショナリズムに関する古典的理論を学ぶ。その上で、ナショナリズムとグローバル化の関連を読み解くために必要な諸概念（日本人論や多文化主義など）に関する理論的・実証的諸研究を学ぶ。

授業の到達目標

ナショナリズムやグローバリゼーションのような「国」にまつわる様々な現象についての基礎理論や実証研究を学ぶことで、受講者各自が、それら現象を相対的・複眼的視点から理解・検討できるようになることを目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　期末に出す課題レポートへの評価。
●**平常点**　25%　　オンデマンドコンテンツの視聴やそれに対するコメントなどから総合評価。
●**その他**　25%　　各種課題への取り組みの程度やオンラインのフォーラムでの発言などから総合評価。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	社会学研究5（集団・組織論1） 集合的アイデンティティ研究1							
担当者名	山田　真茂留							
社会コース	2単位	春学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

集団なるものは、行為と制度とをつなぐきわめて重要な結節点と言えるが、最近の社会学の基礎理論においては、残念なことにこの次元が閑却されることが少なくない。そこで本講義では、集団をめぐる様々な問題を取り上げながら、集団現象についての原理論的な検討を行っていく。その際、従来集団論や組織論の俎上に載せられてきたトピックは勿論のこと、他の領域の素材であっても集合的な現象に関わるものであれば積極的に取り上げていくことにしたい（例えば下位文化や宗教団体等をめぐる諸問題）。

《全て「教室授業」で実施する予定ですが、社会情勢等によって一部をオンデマンドで代替する可能性もあります。》

授業の到達目標

社会学的集団論の射程を刷新しつつ、結果として集団現象についてのより深い理解を得ることを大きなねらいとする。授業全体が終わった際、受講者1人ひとりが集団現象の様々なトピックに通暁し、またその根底に潜む共通の問題を抉り出すセンスが身についていることを願う。

成績評価方法

●**試験**　70%　　最終試験の比率はそれなりに高いが、それだけで決まるわけではないので注意すること。
●**レポート**　30%　　中間レポートとして実施する。レポート課題は、授業期間中に提示するが、教科書として掲げた『集団と組織の社会学』をもとにする予定。レポート提出期日は学期末ではなく、中間的な日程になるので注意（授業期間中に伝達する）。
●**平常点**　0%　　平常点評価を加味する可能性もある。
●**その他**　0%　　−

備考・関連URL

担当者が所属する複合文化論系（文化構想学部）ならびに当科目を管理する社会学コース（文学部）以外の方々の受講も大歓迎です。

なお評価は中間レポートだけでも最終試験だけでも決まらないので注意してください。例えば試験以外の評価がゼロの場合、試験が85点でも、これに0.7を乗じれば59.5点となってしまうため、合格点には達しなくなります。

科 目 名	社会学研究6（集団・組織論2） 集合的アイデンティティ研究2							
担当者名	山田　真茂留							
社会コース	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

諸個人の生活世界における意味は、各人が所属ないし帰属している集合体によって備給されることが少なくない。それでは、

集団の存立それ自体は、そもそもどのような基盤によっているのであろうか。また、諸個人が集合体に対してアイデンティファイするというのは、いったいいかなる現象なのか。そして、集合体の有する境界ならびに文化は、かかるアイデンティフィケーションとどのように関連しているのか。本講義では、社会学的集団論の系譜を批判的に検討したうえで、社会心理学における自己カテゴリゼーション論ないし社会的アイデンティティ論の最新の展開を導きの糸としながら、これらの問題にアプローチしていく。

《全て「教室授業」で実施する予定ですが、社会情勢等によって一部をオンデマンドで代替する可能性もあります。》

授業の到達目標

生活の私事化が急速に進行するなか、それでもなお、いやそうであればこそ強く希求される集団帰属意識（ないし社会的カテゴリー帰属意識）の根幹に迫るというのが、本講義の大きなねらい。とくに成員性に関する原理的な考究の仕方を身につけることを重要な到達目標とする。

成績評価方法

●**試験**　70%　　最終試験の比率はそれなりに高いが、それだけで決まるわけではないので注意すること。
●**レポート**　30%　　中間レポートとして実施する。レポート課題は、授業期間中に提示するが、教科書として掲げた『集団と組織の社会学』をもとにする予定。レポート提出期日は学期末ではなく、中間的な日程になるので注意（授業期間中に伝達する）。
●**平常点**　0%　　平常点評価を加味する可能性もある。
●**その他**　0%　　－

備考・関連URL

担当者が所属する複合文化論系（文化構想学部）ならびに当科目を管理する社会学コース（文学部）以外の方々の受講も大歓迎です。

なお評価は中間レポートだけでも最終試験だけでも決まらないので注意してください。例えば試験以外の評価がゼロの場合、試験が85点でも、これに0.7を乗じれば59.5点となってしまうため、合格点には達しなくなります。

科目名	社会学研究7（現代家族論1）　歴史のなかの家族：産業・地域の変動と家族							
担当者名	嶋崎　尚子							
社会コース	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

われわれは、基礎的な社会関係として家族関係をもっている。「人間にとっての家族」「社会にとっての家族」について整理し考察する家族研究は、社会学の重要なテーマであり、社会構造を知るための多くの示唆をあたえてくれる。現代家族の種々な現象・課題への社会学的接近が、種々の理論的立場から活発に展開されている。一方で、家族は時間的志向性を含んだものである。家族のライフコースはもちろんのこと、社会制度としての家族、実態としての家族は、歴史的、文化的規定と相互作用を繰り返しながら多様な形態で現出してきた（たとえば「家族が崩壊している」という言説は日本では大正時代からすでにみられる）。時間次元をとりこむことは、現代家族を考察する際に不可欠であり、社会変動を知るてがかりとなる。ここでは、家族をめぐる社会制度、社会規範水準の変化（家族変動）に焦点をあて、歴史のなかに家族を位置づけ考察することで、現代社会における家族の普遍性と特異性へ接近したい。

手順として、研究・観察対象として家族をとらえる際の基本的概念を整理し、そのうえで具体的な考察を加えたい。こうした作業をとおして、われわれが通常抱く家族に関する認識が、いかにステレオタイプな言説に影響されているかが明らかになる。

授業の到達目標

家族を観察する際の基本的概念と方法を理解する。その際、歴史的な視点を組み込むことで、現代家族への洞察を深化させる。

成績評価方法

●**試験**　100%　　第14回に実施する「理解度の確認」結果を用いて評価する
●**レポート**　0%
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

科目名	社会学研究8（現代家族論2）　ライフコースと家族過程：家族の個人化をめぐって							
担当者名	嶋崎　尚子							
社会コース	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

「家族が個人化している」といわれて久しい。そこには「家族が崩壊し、それは社会にとって望ましくない状況だ」という含意があるようだ。確かに家族生活や家族関係のありようは、人間発達過程における重要な因子と考えられている。しかし、近年その家族による影響は過剰に評価・判断される傾向にある。あたかも、個人は家族生活・家族関係から一方的に影響・刺激を受けているかのようにみなされていている。 他方で、家族自体も変化している。その変化には、家族の発達過程における変化（家族過程）と家族をめぐる社会制度、社会規範水準の変化（家族変動）とがある。個人の発達過程においては、とりわけ前者の家族過程が重要となる。なぜなら、家族過程は家族成員の発達過程の相互作用によってなされるからである。

本講義では、個人のライフコースと家族過程との相互作用を考察し、そこから現代社会の諸現象の解明（家族の個人化、ライフスタイル中立論など）へと接近する。

授業の到達目標

現代日本で標準的にみなされている人間発達、家族過程の諸局面を理解する。

成績評価方法

●**試験**　100%　　第14回に実施する「理解度の確認」結果から評価する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

科 目 名	社会学研究11（現代社会への視角1）「社会問題」と個人の「問題経験」への社会学的接近							
担当者名	草柳　千早							
社会コース	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

現代社会で生活することは容易ではない。解決不可能と思えるような困難が常態化している。社会的な問題・課題が山積している。個々人はさまざまな問題を抱えている。

本講義では、社会学は「社会問題」と個々人の「問題経験」に対してこれまでどのようにアプローチしてきたかを学びながら、その知見を踏まえ、現代社会における私たちの生きづらさに対して社会学はどのようにアプローチしうるのかを考えたい。

授業のポイントは3つである。第一に、社会学は社会の諸問題を研究するという課題にいかに取り組んできたかを、理論・学説を中心に概説する。その上で、第2に、1で得る学説・理論的知見から、現代日本社会において私たちが直面する問題事例について考える。具体的に取り上げる問題は、その時期の社会状況を見ながら決める。私たちの生活に関わりの深い問題に目を向けたい。第3に、社会問題、諸個人の問題経験・生きづらさに対する取り組み、さまざまなアクションの可能性について考える。以上を考えていくことは、私たちが埋め込まれている現代社会の「当たり前」の「日常」を問いなおすことと繋がっている。履修生には、それぞれが日常感じる違和感や疑問を大切にし、それらが社会学的研究の契機となることを感得してほしい。

授業の到達目標

社会問題および諸個人の生きづらさへの社会学的まなざしとアプローチを学ぶことを通して、現代社会とそこでの私たちの日常生活に対する分析的・批判的思考を鍛えていく。

成績評価方法

●**試験**　40%　　授業内容の理解度と応用力
●**レポート**　0%　　評価対象外
●**平常点**　60%　　授業への取り組みを授業時の小課題（小レポート、小テスト、レビュシート等）によって評価する。
●**その他**　0%　　評価対象外

備考・関連URL

講義は、オンデマンド形式で実施の予定。毎週木曜日1限に、新しい講義を公開し、視聴期間を1週間とする。週毎に進行の予定。

科 目 名	社会学研究12（現代社会への視角2）日常を問いなおす							
担当者名	草柳　千早							
社会コース	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

本講義では、現代社会において問題とされている社会事象、および私たちの生きづらさに対して、社会学はどのようにアプローチしうるのかを考える。「現代社会研究11」ではその基本を教科書に基づいて概説するが、12では、特に相互作用論、すなわち社会を成員間の相互作用過程として研究していく方法的観点、および社会的構成主義の方法的視点を取り上げ、日常生活を改めて社会学の視点から見直していく。内容としては3つを盛り込む。第1に、相互作用論および社会的構成主義の理論・学説について概観し、この方法的観点から社会と個人、および私たちのコミュニケーション、社会的現実に目を向ける。第2に、より具体的な問題・事象について、相互作用論を応用して考えていく。自己アイデンティティ、身体、社会的リアリティをめぐる葛藤、排除と差別等を取り上げたいと考えている。第3に、社会問題、諸個人の問題経験・生きづらさに対する取り組み、さまざまなアクションの可能性を相互作用論の観点から考える。以上を考えていくことは、私たちが埋め込まれている現代社会の「日常」と「常識」を問いなおすこと、さらには自らの日常的な実践とその可能性について考えることである。

授業の到達目標

社会問題および諸個人の生きづらさへの社会学的まなざしとアプローチを学ぶことを通して、現代社会とそこでの私たちの日常生活に対する分析的・批判的思考をさらに鍛えていく。

成績評価方法

●**試験**　40%　　授業内容の理解度と応用力
●**レポート**　0%　　評価対象外
●**平常点**　60%　　授業への取り組みを授業時の小課題（小レポート、小テスト、レビュシート等）によって評価する。
●**その他**　0%　　評価対象外

備考・関連URL

講義は、オンデマンド形式で実施の予定。
毎週木曜日1限に、新しい講義を公開し、視聴期間を1週間とする。週毎に進行の予定。

科 目 名	社会学研究15（比較社会学1）							
担当者名	竹中　均							
社会コース	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

民藝運動の創始者の一人、柳宗悦の思想と行動を、比較社会学者と見立てて、読み解いていく。民藝という言葉からは、日本の地方の無名の工芸品というイメージが湧いてくる。確かにその通りかもしれないが、他方で、柳宗悦は、日本以外の場所からの様々な思想的・美的・社会的インパクトから、民藝という立場を作り出したのも事実である。それゆえに民藝には、今現在実現しているかどうかは別として、比較社会的な視点の可能性が散りばめられていると思われる。それらの可能性の萌芽を見つけ出すことを試みたい。

この授業は全回、フルオンデマンド形式で実施する。

授業の到達目標

工芸という具体的な物を通して一種の比較社会的な視点が可能であることを、理論的側面に強調点を置きながら学ぶこと。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　0%　　実施しない。
●**平常点**　100%　　毎回のビデオ授業視聴の後、各回ごとのミニレポートを書いて、各回ごとの提出締切期限までにオンラインで提出してもらう。それらの提出回数、更に、その回の授業内容を理解するための努力をしたかどうかの確認と、授業内容を受講生各自が自分なりに消化した上で、短い文章として構成出来たかどうかが評価の中心である。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

本授業は全回、オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。
双方向性を確保するためのフィードバックの機会は書き込みなどで行います。
平常点評価についてのメモ
講義ビデオの各回をムードルにアップした時点から、その回のミニレポート提出締切までの期間は、一週間程度とする予定です（現時点での予定）。また、その回のミニレポート提出締切と同じタイミングで、各回の講義ビデオをムードル上から削除する予定です。つまり、各回とも、約一週間以内に講義ビデオを視聴した上でミニレポートを提出する必要があります。（各回の締切後には原則的に当該回のミニレポート提出は出来ません。したがって、学期末にまとめて複数回分のミニレポートを提出することは出来ません。）

科 目 名	社会学研究16（比較社会学2）							
担当者名	竹中　均							
社会コース	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

民藝運動の創始者の一人、柳宗悦の思想と行動を、比較社会学者と見立てて、読み解いていく応用編。しかし、春期の「社会学研究15（比較社会学1）」を受講していなくてもそれなりに理解出来るように、最初の数回は、柳と民藝についての紹介を行う。扱うトピックは、郷土・環境・茶道・無意識などと、春期に比べて多彩であるが、それらすべての中心には、柳の比較論的な文化と社会へのまなざしがあると思う。
この授業は全回、フルオンデマンド形式で実施する。

授業の到達目標

工芸という具体的な物を通して一種独特の比較社会的な視点が可能であることを、さらに多面的に学ぶこと。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　0%　　実施しない。
●**平常点**　100%　　毎回のビデオ授業視聴の後、各回ごとのミニレポートを書いて、各回ごとの提出締切期限までにオンラインで提出してもらう。それらの提出回数、更に、その回の授業内容を理解するための努力をしたかどうかの確認と、授業内容を受講生各自が自分なりに消化した上で、短い文章として構成出来たかどうかが評価の中心である。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。
※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。
双方向性を確保するためのフィードバックの機会は書き込みなどで行います。
平常点評価についてのメモ
講義ビデオの各回をムードルにアップした時点から、その回のミニレポート提出締切までの期間は、一週間程度とする予定です（現時点での予定）。また、その回のミニレポート提出締切と同じタイミングで、各回の講義ビデオをムードル上から削除する予定です。つまり、各回とも、約一週間以内に講義ビデオを視聴した上でミニレポートを提出する必要があります。（各回の締切後には原則的に当該回のミニレポート提出は出来ません。したがって、学期末にまとめて複数回分のミニレポートを提出することは出来ません。）

科 目 名	社会統計学1							
担当者名	津田　好美							
社会コース	2単位	春学期	火曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

社会調査によってえられたさまざまな形式のデータを整理、分析するために必要となる基礎的な手法を学ぶ。量的調査から得られたデータを処理する基本的な方法を扱い、次にデータの分布を記述する指標の読み方や算出の仕方を扱う。その上で、2変数間の相関関係を読み解く方法や統計量、疑似相関などの概念について講義する。社会統計学の基礎的な分析結果の統計的意味や社会的含意を理解できるようになることを目指す。データの分布、記述統計量を理解し、社会調査のリテラシー（読み書き能力）を習得する。

授業の到達目標

データの分布、記述統計量を理解し、社会調査のリテラシー（読み書き能力）を習得する。

成績評価方法

●**試験**　70%　　期末試験
●**レポート**　0%
●**平常点**　0%
●**その他**　30%　　授業時に提示する課題

科 目 名	社会統計学2							
担当者名	津田　好美							
社会コース	2単位	秋学期	火曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

社会調査から得られたデータが標本のデータである場合、母集団に関する一般的な結論を導出するには、推定ならびに検定とよばれる統計的処理を経る必要がある。この講義では、確率論の基礎、確率分布、検定・推定の基礎、平均の差の検定、カイ二乗検定、相関係数や回帰分析について、その理論と実践的な意味の両面について扱う。受講生は、推測統計の基本的な考え方が理解できるようになること。その上で代表的な統計的検定の結果を適切に解釈できるようになることが期待される。

授業の到達目標

推測統計の基本的な考え方が理解できるようになること。その上で代表的な統計的検定の結果を適切に解釈できるようになること。

成績評価方法

●**試験**　70%　　期末試験
●**レポート**　0%
●**平常点**　0%
●**その他**　30%　　授業時に提示する課題

科 目 名	社会学特論1　社会調査の歴史社会学―「社会へのまなざし」とリサーチ・ヘリテージー							
担当者名	小林　多寿子							
社会コース	2単位	春学期	水曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本授業は、社会調査の歴史社会学を主題とします。近代以降の社会調査の歴史をあとづけながら、「社会へのまなざし」が社会調査の方法をいかに発展させてきたか、そのプロセスをとらえ、社会調査の理解をめざします。社会調査の歴史的経緯と理論的バックグラウンドを論じつつ、各回で、歴史的系譜に沿って、具体的な社会調査の研究例をとりあげて、社会調査のさまざまな技法と調査プロセスをとおして社会調査の発展を学びます。各領域における古典的調査をもとにして、とくに20世紀の「社会へのまなざし」を学び、現代社会をとらえるためのリサーチ・ヘリテージという考え方を理解する。

授業の到達目標

・社会調査の系譜を学ぶことで、社会調査の歴史社会学的理解を深めます。
・リサーチ力の基礎を培う、リサーチセンスを養う、リサーチ・リテラシーを高めることをめざします。現代社会を理解するための自分の「社会へのまなざし」を磨く基礎的な力を養成します。

成績評価方法

●**試験**　40%　　授業内容の理解度と考察する力を問う
●**レポート**　30%　　レポートで授業の進捗に合わせた理解度を問う
●**平常点**　30%　　授業への取り組みをリアクション・ペーパーや小レポート等によって評価する
●**その他**　0%

科 目 名	社会学特論2　質的社会学の系譜と実践							
担当者名	小林　多寿子							
社会コース	2単位	秋学期	水曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本授業は、質的な社会学的研究の系譜をたどり、現代の質的研究の成果を概観しながら、質的調査研究の事例をとおして多様な質的方法の歴史と現状について学びます。質的調査の技法、調査対象の設定や調査企画からフィールドワークの実践など、質的調査研究のすすめ方やモノグラフなど成果の提示を具体的に検討し、人間の経験を社会学的にとらえる質的調査研究の可能性を理解します。

授業の到達目標

質的社会学の歴史的経緯と研究事例を学ぶことによって、経験を社会学的にとらえるための基礎力と実践力を身につけることをめざします。

成績評価方法

●**試験**　40%　　授業の理解度と実践的な諸問題を考える力をみる
●**レポート**　30%　　具体的な事例を考察する力をみる
●**平常点**　30%　　授業に関するリアクション・ペーパーやコメントペーパーなどの提出などをふくむ出席点
●**その他**　0%

科 目 名	現代社会論1							
担当者名	竹中　均							
社会コース	2単位	春学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

現代社会の中で生きるという視点から自閉症者の世界を捉えようと試みる。現代社会の中で生きる自閉症者の姿から何が読み取れるか。それは、自閉症についての理解というだけでなく、現代社会に関する考察の面でどのような示唆を与えてくれるのだろうか。

この授業は全回、フルオンデマンド形式で実施する。

授業の到達目標

社会学の枠組みを越えた広範な問題について学ぶことによって、逆に、社会学的考察の必要性を実感できるようにすること。

個別的知識の習得を主な目的とはしない。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　0%　　実施しない。
●**平常点**　100%　　毎回のビデオ授業視聴の後、各回ごとのミニレポートを書き、各回ごとの締切期限までにオンラインで提出してもらう。それらの提出回数、そして、その回の授業内容を理解するための努力をしたか、更に、授業内容を自分なりに消化した上で、その理解を短い文章として構成できたかどうかを評価する。
●**その他**　0%　　実施しない。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。
双方向性を確保するためのフィードバックの機会は書き込みなどで行います。
平常点評価についてのメモ
講義ビデオの各回をムードルにアップした時点から、その回のミニレポート提出締切までの期間は、一週間程度とする予定です（現時点での予定）。また、その回のミニレポート提出締切と同じタイミングで、各回の講義ビデオをムードル上から削除する予定です。つまり、各回とも、約一週間以内に講義ビデオを視聴した上でミニレポートを提出する必要があります。（各回の締切後には原則的に当該回のミニレポート提出は出来ません。したがって、学期末にまとめて複数回分のミニレポートを提出することは出来ません。）

科目名	現代社会論2							
担当者名	津多　成輔							
社会コース	2単位	秋学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

多様性や格差はともに個々人の「違い」に起因するものであるが、現代社会では、多様性は尊重されるべきものであるとされる一方で、格差は問題であるとされる。本講義では、まず我々の生きる現代社会における多様性と格差の現状を理解することを目指す。その上で、個々人の「違い」を多様性や格差とするものとして、特に現代の学校教育の作用について理解を深める。これらを通して、各人が自らの属する社会への理解を深めるとともに、自分が社会とどのように関わっているのかを社会学的に考える基盤を得ることを目的とする。

授業の到達目標

①現代社会における格差と多様性について理解し、他者に説明することができる。
②学校教育の社会的機能を理解した上で、教育と社会の関係について社会学的に考えることができる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　58%　　学期末に講義内容に関するレポートの提出を求め、その内容から本講義への理解度を評価する。
●**平常点**　42%　　各回の事後学習として設定している簡単な課題に取り組んだ内容について、その内容から各回で取り扱った内容への理解度を評価する。なお、各回1回あたりの配点は4点とし、全14回で56点分での評価を行う。
●**その他**　0%

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。
レポートについては、中間レポートと学期末レポートの2回を課す。具体的な配点は下記のとおりです。
試験:0%実施しない。レポート:58%中間・学期末に講義内容に関するレポートの提出を求め、その内容から本講義への理解度を評価する。平常点評価:42%各回の事後学習として設定している簡単な課題に取り組んだ内容について、その内容から各回で取り扱った内容への理解度を評価する。なお、各回1回あたりの配点は3点とし、全14回で42点分での評価を行う。

科目名	社会学の考え方1							
担当者名	土屋　淳二							
社会コース	2単位	春学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

本科目では、社会学をはじめて学ぶ学生を対象に、社会学の重要トピックスを拾いながら、その基本的な考え方を俯瞰し、「社会学的に考える」ことの意味や今日的な意義、その学問姿勢にみられる特徴について解説する。社会学をひとつの道具として、時代の流れや世界の広がりのなかで繰り広げられる人間と社会の営みについて考察していきたい。**※本授業は全回オンデマンド授業として実施します.**

授業の到達目標

社会学の基礎的な概念を理解し、社会学的な考え方や見方を習得すること。

成績評価方法

講義最終回（第14回目）に課題提出（レポート）を課し，その点数にて評価する.

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科目名	社会学の考え方2							
担当者名	土屋　淳二							
社会コース	2単位	秋学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

本科目では、社会学をはじめて学ぶ学生を対象に、社会学の重要トピックスを拾いながら、その基本的な考え方を俯瞰し、「社会学的に考える」ことの意味や今日的な意義、その学問姿勢にみられる特徴について解説する。社会学をひとつの道具として、

時代の流れや世界の広がりのなかで繰り広げられる人間と社会の営みについて考察していきたい。**※本授業は全回オンデマンド授業として実施します.**

授業の到達目標

社会学の基礎的な概念を理解し、社会学的な考え方や見方を習得すること。

成績評価方法

講義最終回（第14回目）に課題提出（レポート）を課し，その点数にて評価する.

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	社会学原典講読2 「食の社会学」入門書を読む							
担当者名	平野　直子							
社会コース	2単位	春学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

「食」（食物あるいは食べること）は、近年人文社会科学の広い範囲で注目を集めるテーマであり、学際的な研究領域「フード・スタディーズ」が世界で盛り上がっています。この授業では、英国で発行された「食の社会学」の教科書、Introducing the Sociology of Food & Eating（Murcott 2019）を用いて「食」に対する社会学的な視点を学び、また「食」を通して社会学的な問いや研究方法とはどのようなものかを考え、論じあいます。

授業の到達目標

1．文献を一冊読みとおすことで英文読解能力を向上させる
2．「食」に対する社会学的論点を知り、理解する
3．「食」を通して社会学的な問いや方法とはどのようなものかを再確認する

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　40%　　講読した文献の内容を的確に把握しているかを確認する。
●**平常点**　60%　　報告の担当や授業内の議論に積極的にかかわることを評価する。
●**その他**　0%　　特になし

備考・関連URL

英語文献を読む授業ですが、当該諸は現地の学部生を対象としたもので、身近な対象を扱い文章も平易です。授業の性質上、履修にあたってはある程度の予習・復習と（特段の事情がない限りの）全回出席が大前提となりますが、一緒にがんばりましょう。

科 目 名	教育学概論1							
担当者名	山辺　恵理子							
教育コース	2単位	春学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本授業では、教育を多角的な視点で分析・考察する力を育成することを目指す。とりわけ日本と西洋の教育思想・教育実践を歴史的な観点を含めて学ぶことで、現代日本の教育を相対化して見つめる姿勢と、より深い教育の探究に向けた基礎的な素養を養う。授業内では、様々な地域および時代の教育思想および教育実践について学び、現代的な課題についても考えながら、「子どもとは何か」、「教育とは何か」、「教育は誰のためのものか」など、これまでに議論されてきた多くの教育学の基礎的な問いを協働的に探究する。ディスカッションへの積極的な参加とともに、2つのエッセイ課題の提出が求められる。

授業の到達目標

1）基本的な教育思想を理解できる
2）歴史的視点から、現代日本の教育を相対化して分析することができる
3）国際的視点から、現代日本の教育を相対化して分析することができる
4）教育に関する探究を方向づける問いを自ら組み立て、自分の思考を論理立てて書くことができる

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　問いの設計、論理性、文章構成力
●**平常点**　40%　　通常課題の提出、ディスカッションへの貢献
●**その他**　0%

科 目 名	教育制度論　教育学概論2							
担当者名	沖　清豪							
教育コース	2単位	秋学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本講義は、広範な領域をカバーする教育学全体のうち、制度面に関する領域の概論として位置づけられる科目である。特に「公教育」概念を理解し、現在の教育改革の進捗状況を確認するために、毎回の授業では論点を1つ設定し、関連する議論や情報を組み合わせて説明する。合わせて、主に教員免許取得を希望する学生にとって履修が必要とされている「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」について理解し修得することを主たる目的とする講義を実施することで、単に免許取得のためだけでなく「教育・教育学とは何か」という教育学の原点となる課題を考察する機会となる授業として構成されている。日本の現状を表層的な評論ではなく、深く理解するために歴史的な視点及び国際比較的な観点も踏まえて講義を進める。

授業の到達目標

(1)教育に関する社会的事項として、現在の教育危機と呼ばれる状況を把握し、教育改革の状況を説明できる。
(2)教育に関する制度的事項として、学校教育の現在・実情を理解し、課題を説明できる。

(3)教育に関する制度的事項として、公教育の意義と課題について自分の言葉で説明できる。
(4)教育に関する経営的事項として、学校経営の視点を理解し、現在の課題を説明できる。

成績評価方法

●**試験** 80%　定期試験として、教育制度に関する基礎的な知識を確認する選択問題と、授業全体を通じての課題に関する論述問題を出題する試験を実施します。
●**レポート** 0%
●**平常点** 20%　毎回の授業での作業・小課題への取組み状況を評価します。
●**その他** 0%

備考・関連URL

(1)本講義は教育学概論1と合わせて履修することが望ましい。特に教職課程を履修する場合は注意すること。(2)評価方法の詳細については、第1回講義で説明する。(3)オンデマンド形式での講義を提供する場合がある。(4)授業計画は国内の教育改革の進捗状況に応じて一部修正される可能性があるので、秋学期科目登録の際にシラバス当該欄で変更の有無を確認すること。
※自宅のPCでオンデマンド授業が受講ができない場合には、学内のPC教室で受講してください。

科 目 名	教育哲学							
担当者名	山辺　恵理子							
教育コース	2単位	秋学期	火曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本授業では、教育に関する諸問題を哲学的に探究する力を育成することを目指す。とりわけ日本と西洋の近代以降の教育思想を学びながら、先人たちが教育に投げかけてきた問いや、構想してきた善い教育像について考察する。そのうえで、「教育をどう定義するか」、「教育の平等が意味するものは何か」「教育のグローバル化に賛成か反対か」など、学生が自分自身の考えをまとめ、言語化し、互いと対話する。ディスカッションは哲学対話形式で行われ、ディスカッションへの積極的な参加とともに、2つのエッセイ課題の提出が求められる。

授業の到達目標

1)　哲学的探究の入り口となる問いを自ら設定することができる
2)　自分自身の経験や常識を相対化し、批判的に見つめることができる
3)　自分とは異なる考えをも精読・傾聴し、理解に努めることができる
4)　自分自身の考えを言語化し、論理的な文章で表現することができる

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 70%　問いの設計、論理性、文章構成力
●**平常点** 30%　ディスカッションへの貢献
●**その他** 0%

科 目 名	教育史学　近現代学校制度改革史							
担当者名	沖　清豪							
教育コース	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

学校はなぜ、どのように現在のような特徴を有することになったのであろうか。時代の変化に応じて、学校の制度や機能はどのように変化し、それはどのように現在へとつながっているのであろうか。大学で学び、働いている私たちにとって学校や大学での経験を支えている歴史的な課題は何であろうか。本講はこうした問題意識に基づいて、近現代日本の学校制度の変容について、いくつかの重要な文書にもあたりながら学び、考えていく時間としたい。授業の前半は日本において初等教育（小学校）や中等教育（中学校や高等学校）がどのような経緯で生まれ、日本社会においてどのような役割が期待されてきたのかを考える。また、後半では個別テーマに注目して、19世紀中盤から20世紀末までの初等・中等教育や高等教育の機能の変化を考えてみたい。

授業の到達目標

(1)　日本の近代学校制度がなぜ、どのようなプロセスと歴史的経緯でできたかを理解する
(2)　近代学校制度に関する特に重要な史資料を読み、その内容と意義を理解する
(3)　教育史学の知見を踏まえて、現在と将来の教育を想像する

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 0%
●**平常点** 100%　講義ごとに課される課題の内容を踏まえて評価する。
●**その他** 0%

備考・関連URL

(1)　本授業は全回オンデマンド授業として実施します。授業期間の毎週木曜日8時にコンテンツが公開されます。翌週の水曜日24時までに履修を完了し、課題を提出してください。
(2)　評価方法の詳細については、第1講で説明します。

科 目 名	比較・国際教育学（教育改革の視点とその方策）　人権を軸にして							
担当者名	矢内　琴江							
教育コース	2単位	秋学期	月曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

今日、私たちの社会は、人、資本、情報などの移動が激化し、多様な文化的背景を持った人どうしが同じ地域や組織の中で生

活したり、働いたりしています。国も地域における「他文化共生」や企業における「ダイバーシティ・マネジメント」を推進しています。しかし、日本社会では、ヘイトスピーチ問題、外国人労働者に対する差別問題など、多くの問題を抱えています。多文化的状況の中で私たちが互いを尊重し合って生きていくために必要なことは何でしょうか。この科目では、教育の観点から、多文化共生の実現に向けた課題と、その克服に向けた取り組みについて、国内外の事例を取り上げて考えます。この授業は毎回、前半は講義、後半はグループワークで進めます。

授業の到達目標

（1）日本または他国における多文化共生実現をめぐる諸問題を提示することができる
（2）（1）の諸問題にある歴史的・社会的背景を説明できる
（3）（1）で提示した問題を克服していくために求められる教育のあり方に関する意見・考えを提示できる

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　課題は初回の授業で提示する
●**平常点**　60%　　グループへの主体的な参加、ふり返りシートの提出
●**その他**　0%

科 目 名	教育法・教育行政							
担当者名	沖　清豪							
教育コース	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

学校教育をめぐる法規は、公教育の基盤となるものであるが、一般的に学ぶことが忌避されがちなものとなっている。また文部科学省や教育委員会が学校や教職員、そして教育内容にどのように関係しているのかについても、教育学を学ぶ際に後回しにされがちである。しかし教育問題を考えるうえで、原則となる法規や現実を規定している行政の機能やその限界を理解することは、日本の学校教育を理解するのに不可欠な条件であろう。本講義は日本の学校教育を支える教育法と教育行政の基礎を学び、教育改革の過去・現在・将来を見通すための知識と技能を修得してもらうことを目的として、論点を絞りつつ出来る限り多面的に検討する。

※この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

授業の到達目標

（1）教育制度を支える教育法の重要性を理解し、必要に応じて法規にあたって教育課題を考えることができるようになる。
（2）教育行政の特性を理解し、教育改革の方向性とそれへの対応について考えることができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　毎回の授業内で実施する課題の提出状況と内容に基づいて評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

（1）この講義の内容の一部は、教育制度論（旧教育学概論2）の制度・行政に関する授業内容を、より専門的な観点から詳しく説明するものですので、教育制度論と合わせて履修すると関連領域に関する理解が深まります。
（2）授業内容の一部は、教育改革の進捗状況を踏まえて修正される可能性があります。
（3）評価方法の詳細については、第1講で説明します。
（4）各講とも授業実施期間の毎週木曜日8時にコンテンツが公開されます。翌週水曜日24時までに履修を完了する必要があります。

科 目 名	教育福祉論　教育福祉と子ども・若者が育つ権利							
担当者名	山田　恵子							
教育コース	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

人は家庭・学校・地域・制度といった社会のあらゆる影響を受けながら育っていきますが、自らの生きる環境の選択権をもちづらい子ども期は特にその影響が大きいといえます。

子ども・若者に対する社会的支援は、「教育」「福祉」「文化」「司法」といった領域ごとに分かれ、法と行政の分断や連携の貧弱さが「制度の谷間」に落ちる子ども・若者を生み出しているという現実と、彼らへの支援が十分に行われないという問題が存在します。

そのような「制度の谷間」にいる子ども・若者の生きづらさや困難を考えていくための視点を教育福祉の観点から検討していきます。

※【実務経験のある教員による実践的な授業科目】
この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして実践的な教育を行う科目です。

授業の到達目標

・教育と福祉の谷間にある問題について考える。
・教育と福祉の権利の統一的保障の意義について説明することができる。
・子ども観・人間観を豊かにする。

成績評価方法

●**試験**　50%　　第14回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　50%　　授業への参加度、毎回の授業終了後に提出してもらうレビューシートへ記載内容等。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	障害と教育　インクルーシブな社会に向けて							
担当者名	堤　英俊							
教育コース	２単位	春学期	火曜日	４時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業では、障害を有する子どもの理解に関して「発達・認知」「内面世界」「社会・文化的文脈」の3つの視点から考える。さらに、特別支援教育・インクルーシブ教育に関する基礎的事項の講義を交えつつ、学校や地域におけるインクルーシブ教育の実質化に向けてどのような実践を展開していけばよいかについて検討することをねらいとする。学校教育を基軸に据えるものの、受講学生の課題関心に基づき、適宜、家庭教育、社会教育・生涯学習、障害者福祉、障害者雇用などの関連領域に関わるトピックも取り上げていく予定である。

※【実務経験のある教員による実践的な授業科目】

この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして実践的な教育を行う科目です。

授業の到達目標

この授業では、障害を有する子どもを多角的・包括的に理解する力量を高めるとともに、主として教育学の観点から、日本における特別支援教育・インクルーシブ教育の具体的方策について説明できることを目標としている。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない
●**レポート**　60%　　最終提出レポート（まとめのレポート）
●**平常点**　40%　　毎回のリアクションペーパー
●**その他**　0%　　特になし

備考・関連URL

ディスカッションを多く取り入れます。主体的な参加を期待しています。

科 目 名	教育とジェンダー　ジェンダー平等社会に向けた教育とは							
担当者名	近藤　牧子							
教育コース	２単位	秋学期	無	フルOD	２年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

本講義では、社会的・文化的性差であるジェンダーの形成過程とその問題点および課題解決に向けての道筋を主として教育（主に学校教育）という観点から受講生と共に考えていく。

受講生自身の中にある、そして身近にとりまく「ジェンダー」を意識化していくために、「性別二元制」のもとにある「差異」「境界線」などを問う。フェミニズム運動が獲得しようとしてきたことや、性暴力を含む女性問題を捉えつつ、男性学にもふれる。そのうえで日本の教育の歴史をたどっていく。明治以降、男女別学体制が形成されていく過程とその背景、および女子に対する良妻賢母主義教育について考えるとともに、現代との連続性を考える。次いで、戦後の憲法改正および男女共学の実施、新しい家庭科の出発から高校における女子のみ必修、さらに男女共修にいたる過程、性的マイノリティに関する教育現場の対応、リプロダクティブ・ヘルス＆ライツについて考えていく。そして、現代のジェンダーの問題に取り組む教育実践について考え、主として女性・男性を取り巻く様々な問題・新たな国際的動向について共に考えていく。

以上を通じて、新たな人間関係に基づく社会を作り出していく手がかりを得ることを目指したい。

※【実務経験のある教員による実践的な授業科目】

この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして実践的な教育を行う科目です。

授業の到達目標

①ジェンダー不平等の視点から物事を考える力を養う。
②ジェンダー観の形成と教育内容・方法、制度の関係を学ぶ。
③性やジェンダーを学ぶことの重要性を理解する。
④国際的比較の中から日本のジェンダー平等への取り組みに必要なことを考える。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　各回授業での課題提出とその内容。授業内容の理解をはかる。課題の提出をもって出席とみなす。毎時提出した課題をとりまとめたものを最終提出し、出席要件を満たした場合にそれを採点する。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	教育・学校心理学　子どもの発達と学習のしくみ							
担当者名	宮脇　郁							
教育コース	２単位	春学期	無	フルOD	１年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

子どもは発達に応じて変化していきます。このため効果的な教育を行うためには、発達の流れについて知識を身につけ、子どもの発達レベルを把握しなくてはなりません。また、教科教育において子どもの学びをサポートするには、学習・記憶の仕組みを理解し、これらの仕組みに沿った指導を行う必要があります。そこでこの授業では、発達と学習・記憶について基礎的な知識を身に付け、教育場面への応用を考えていきます。さらに、学力、学級集団、学習評価についても学び、教育に生かす方法を考えます。

授業はフルオンデマンドで実施します。講義動画は毎週火曜までにアップするので、皆さんは週1回のペースで受講してください。講義動画視聴後、確認クイズに回答するとともに、授業内容の要約および感想を提出することで出席とみなします。提出の期限は、講義動画公開後1週間以内です（初回のみ授業登録の関係で期間を若干延長します）。

授業の到達目標

子どもの発達の流れを説明できる。
学習と記憶のしくみについての知識を身につけ、上手な学び方を考えられる。
学力の今日的なとらえかたを知り、自ら学ぶ力を養う方法を考案できる。
学級内の人間関係を把握・促進するための方法を説明できる。
教育における評価の必要性を理解し、評価の種類を挙げられる。

成績評価方法

●**試験**　35%　　授業内容の理解度を確認するため、毎回確認クイズを行います。期限を過ぎた提出はできません。
●**レポート**　30%　　期末に授業全体をふりかえるレポートを提出してもらいます。期限を過ぎた提出はできません。
●**平常点**　35%　　各回の授業内容の要約および感想の提出をもって出席とみなし、その内容を評価対象とします。期限を過ぎた提出はできません。未提出は欠席とみなすので、5回以上未提出があった場合は単位取得不可となります。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。 質問がある場合は、Moodle上の質問コーナーに投稿してください。
個別の相談等はMoodle上のメッセージ機能を利用してください。

科 目 名	教職論							
担当者名	沖　清豪							
教育コース	2単位	春学期	水曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本講義は、教職に就くということについて多様な観点から考察し、学生自身の教職への意欲を確認し、その適性を自ら考え、進路を判断するために必要となる知識を提供することを目的とする。また、教員養成の世界的動向や今後の教員養成システム改革の動向も踏まえつつ、現代社会における教職および教員養成の重要性とそれに伴う社会的評価・責任を理解し、教職の職務の多様性、およびキャリアとしての教職の独自性に関する理解を受講生が深められることを目指す。以上の目的を踏まえて、「教職の制度論的・教師論的探求」「教職の社会学的探求」「直面する課題と希望」の三部構成で講義を展開し、適宜受講生相互のペアワーク、グループワークで理解を深める。

授業の到達目標

（1）教職の意義、教員の役割、教員の職務内容に関する法制、国内外の教員養成や教職に関する改革動向などの知識を獲得する。
（2）教職希望者が現状において教員が抱えている課題を理解し、説明できる。
（3）教職を将来の選択肢にすることの希望を抱き、多様な課題に対応する覚悟を育む。
（4）教職の意義に関する知識に基づいて一定の分量・水準の文章をまとめる力量を獲得する。

成績評価方法

●**試験**　50%　　定期試験を実施します。特に重要な基礎知識の習得と、（授業内で触れるように）教職についてデータに基づいて議論する資質能力を評価します。
●**レポート**　30%　　GW明けに800字程度の感想文を提出してもらい、それを利用してグループ作業を実施し、その全体を評価します。詳細については第1回の講義で説明します。
●**平常点**　20%　　授業での作業等に対する主体的・積極的な参加状況を評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

（1）本科目は教員免許取得のための教職課程履修の入門的性格を有しています。履修登録前に資格科目に関する手引きなどでこの科目の位置づけ、内容についての説明を把握しておくと良いでしょう。（2）出席が求められる回数の3分の1以上の欠席がある場合には、単位は認定されません。また故なき遅刻は平常点に反映されます。（3）この授業に関する情報は適宜、moodle経由でお知らせします。メールをきちんと受信し、内容を確認する習慣をつけておいてください。

科 目 名	生涯学習概論1　教育と学習に関する諸概念の再考・再構築							
担当者名	古市　将樹							
教育コース	2単位	春学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

生涯学習という言葉が使われるようになってから久しいが、一般的にその理解が進んでいるかどうかは疑わしい。もともとユネスコで提唱された生涯教育の考えにもとづく生涯学習構想は、日本の教育の組み直しを図るものであったが、それは制度的な改変のみを意味するのではない。生涯学習の考え方には、その目的、内容、方法他、従来の学校教育とは異なる教育や学習のあり方が示される。つまり生涯学習は学校教育中心的な教育観の転換を迫るものであり得るはずであった。ところが、そうした理解が進んでいないのは、日本では未だに学校教育中心的な教育観が根強く残り、さらにそれが、実際に社会的に機能しているからでもあろう。この授業では、生涯学習が求められるようになった現在の教育や学習の諸問題を視野に入れるために、日本における〈教育〉の誕生から現在のそれが形成されてきた過程を、主に、明治期から1980年代までの歴史にそってみていくことで、現在的な教育観が成立してきた過程を確認する。特に、それにあたっては、学校教育とならんで、教育の大きな領域である社会教育についての基礎的な理解をすすめていく。なお、社会教育全般においてはもちろんのこと、特に、授業予定の自由大学運動には、文化構想・文学部のDPにある文化や学問の交流の具体的なあり方を看取できる授業を意識するつもりである。また、本授業は、やはりDPにおける人材育成（社会教育に関する人材育成）に関係している。

授業の到達目標

日本における教育・学習の変遷についての受講者の理解の深まりに基づいて、教育や学習のあり方を分析・評価できること。さらに、受講者自身体験したり経験してきた自身の教育・学習観を見直し、今後の教育や学習のあり方を創案できることが最終的な目標である。

成績評価方法

●**試験**　0%　　おこなわない。
●**レポート**　90%　　平常点と合わせて最低基準（60%）以上を合格とする。
●**平常点**　10%　　ディスカッション（相互講評）の参加状況（Moodleのフォーラムへのコメント投稿の状況）やそれ以外の課題の提出状況。
【注】割合は10%となっているが、これは必須課題であり、ディスカッションへの参加やコメントの提出は（最終）レポートの評価の前提条件になっている。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

【注意】 本授業は全回オンデマンド授業として実施します。ただし授業期間中に複数回提出期限のある課題(Moodleのフォーラム機能を使ったディスカッションへの参加やそれ以外の課題の提出など）を出す予定ですので（昨年度は計4回)、本授業は、何回分かをまとめて視聴できるような、全回にわたって視聴スケジュールが自由なオンデマンドとはいえないでしょう。くれぐれもその点に注意してください。課題は評価全体の10%ですが、それだけではなく、(最終）レポートの評価の前提となります(つまり課題の不参加・未提出の場合レポートは評価の対象外となります)。その他詳細は初めのガイダンスや授業開始前のアナウンスでおこなう予定条件です。受講者はそれらを必ず確認してください。また、授業の質問や意見、フィードバックなどに使うアドレスやメールの方法も初回授業（やアナウンスメント）でお知らせします。 本授業は秋期の生涯学習概論2と内容的に連携しているため（1は学説的説明中心・2は実践的説明中心)、受講者は、可能な限りぜひそちらもあわせて受講してもらいたいです。 なお、使用する資料の都合、および受講者の人数によっては、シラバスの順番・内容に変更の可能性があることを承知しておいてください。

科 目 名	**生涯学習概論2**　教育・学習の問い直しとその具体化としての生涯学習講座企画							
担当者名	古市　将樹							
教育コース	２単位	秋学期	無	フルOD	１年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

本授業では、1960年代以降、生涯学習の考え方が登場した経緯を、特に、ちょうどその時期にさかんに論じられた学校教育批判の各論とともに確認する。もともと生涯学習の考え方には、従来の学校教育への批判の観点が含まれていた。しかしながら、日本の生涯学習においては、そこからの学校教育の大きな見直しが実際に行われてきたとはいいにくい。それどころか、生涯学習は、学校教育的な教育観から位置づけられているところも見受けられる。と同時に、生涯学習では、学校教育的な教育／学習の枠に収まりきらない実践も行われている。そこで、生涯学習を考えるにあたって、近代学校教育批判の各論や、実践からふり返っての、その問題点と先駆性の両方を考えていきたい。また、教育の現代的課題、特に、近年主題化してきた、「教育における他者」の問題に注目し、その観点からの、現行の生涯学習の検討もおこなう。そして、後半では、講義内容をふまえて生涯学習の講座を企画・立案するワークショップをおこなう予定にしている。また、本授業は、DPにある学問・文化・言語・価値観、また社会教育の人材育成などに関係する内容を予定している。
なお本授業は、全回オンデマンドでその一部に動画配信がある（予定）（下記備考欄注意)。

授業の到達目標

近代学校批判の各論を乗り越え、教育の現代的課題を踏まえながら、今後の生涯学習のあり方を考案・創案できること。そしてその考案・創案の具体化を、講座の企画としておこなえること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　おこなわない。
●**レポート**　90%　　平常点評価と合わせて最低基準（60%）以上を合格とする。
●**平常点**　10%　　ディスカッション（相互講評）の参加状況（Moodleのフォーラムへのコメント投稿の状況）やそれ以外の課題の提出状況。
【注】割合は10%となっているが、これは必須課題であり、ディスカッションの参加・コメント提出は（最終）レポートの前提条件になっている。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

【注意】 本授業は全回オンデマンド授業として実施します。ただし授業期間の途中で複数回提出期限のある課題（Moodleのフォーラム機能を使ったディスカッションやその他提出物など）を出す予定です（昨年度は計4回）ので、本授業は、何回分かをまとめて視聴できるような、全回にわたって視聴スケジュールが自由なオンデマンドとはいえないでしょう。くれぐれもその点に注意してください。上記「成績評価方法」にあるように、課題は評価全体の10%ですが、それだけではなく、課題は（最終）レポートの評価の前提条件となります（課題の不参加・未提出の場合レポートは評価の対象外となります)。その他詳細は初めのガイダンスや授業開始前のアナウンスメントでお知らせする予定です。受講者はそれらを必ず確認してください。また、授業の質問や意見、フィードバックなどを受けるアドレスやメールの方法もアナウンスで告知します。　本授業は春期の生涯学習概論1から連続しているため、受講者は、可能な限り、ぜひそちらもあわせて受講してもらいたいです。
繰り返しになりますが、本授業では4回分の動画配信を予定しています。動画配信のスケジュールに注意してください。全体のスケジュールは第1回のガイダンスの時に発表します。
なお、招聘講師による特別授業が可能な場合は、また、受講者の人数によっては、シラバスの順番や内容（特にディスカッションに関して）に変更があり得ることを承知願います。

科 目 名	**教育社会学2**　教育課題の社会学-日本型教育システムの課題							
担当者名	沖　清豪							
教育コース	２単位	秋学期	木曜日	３時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

教育が語られる際に当然視されている通念を教育社会学の技法や理論を用いて検証します。本科目では、公教育、とりわけ学校教育が直面している課題やそれに付随する通念としての学歴社会論を対象として、教育社会学の考え方の「基礎」を身につけ

てもらうことを目指します。
　教育社会学は、その出生の事情から教育学の下位領域であり、かつ社会学の下位領域でもあるという特殊性を有しています。この授業ではどちらか一方の特性にこだわることはしませんが、技法や課題の設定において、この特殊性を意識してもらうことが多くなるものと思います。大学で教育社会学を学んだといえるかどうかは、個人の教育体験をどのように客観視し相対化できるかにかかっていると科目担当者は考えています。教育学でしばしば見られる単なる「べき論」や体験談に留まらず、かつ「体温の低い」類の社会学の立ち位置に拘りすぎずに、教育課題をめぐる多様な論点・考え方・そして解決の可能性について考えてもらう機会になれば幸いです。なお、14回の授業は前半で理論的な議論を、後半で具体的問題を扱います。

授業の到達目標

　履修を通じて、
　(1)教育・教育事象を客観的な視点で捉え直すことができるようになる。
　(2)日本における学歴論の特質を理解し、自分自身の生き方を省察する。
　(3)ルーブリックを活用しつつ、社会科学系の論文執筆の方法・原理に習熟する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　90%　　授業内容を踏まえたテーマを設定し、学期末に4000字以上のレポートを課します。評価の観点は授業内で説明します。
●**平常点**　10%　　授業内での活動への主体的・積極的参加を評価の一部に組み込みます。
●**その他**　0%

備考・関連URL

　教育社会学は近年、特に教育格差とメディア・ネットに注目した研究が増えています。この授業内でも関連する情報と参考書を紹介します。

講義

科目名	社会教育実習							
担当者名	阿比留　久美　他／村田　晶子							
教育コース	2単位	集通	水5-6時限	土3-4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

　社会教育とは学校教育・家庭教育以外のあらゆる学びを指し、その学びや活動の内容や形態は地域や学びの主体のあり様に即して多様である。この授業では、社会教育における学びとその支援のあり方を社会教育実習を通して学習していく。それによって、社会教育主事（社会教育士）に必要な資質、能力を総合的・実践的に習得していくことを目的とする。
　授業は【事前指導】【実習】【事後指導】の3つの構造から成り立っている。まず、夏学期に事前指導を行い、団体や活動についての学習、自分自身の実習目的を明確化する学習を実施した上で、夏季休業期間に社会教育に関する実習を30時間以上実施する。この際、実習先は社会教育施設・福祉関係施設・NPO活動等社会教育にかかわるあらゆる領域での実習を想定している。その後、実習での気づき・省察を丁寧に実施して、実習で得た学びを言語化させていく。
　【オリエンテーション・事前指導】4月から7月の水曜5時間目に実施。 第1回(4月23日・水・5限)　 オリエンテーション
①授業の目的、社会教育実習とはなにか、希望する実習先の調整
　第2回(6月4日・水・5限)　 オリエンテーション②実習にあたっての諸注意、社会教育実習の具体例の紹介
　第3回(7月2日・水・5・6限)　実習準備　自分の実習の目的を明確化する。実習準備②実習先や関連分野について調査をおこなう
　※万一授業に出席できない場合は、早めに相談してください。
　【社会教育実習】
　夏季休業期間中に社会教育実習（1日6時間×5日＝30時間以上）
　【事後指導】については、授業計画を参照のこと。
　※【実務経験のある教員による実践的な授業科目】
　この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして実践的な教育を行う科目です。

授業の到達目標

・実習を通して学びたいことを明確にする
・学びたいことを体験できる実習の受入先を探し、その実習先や実習現場の状況等を調査・研究する
・現場での社会教育実習を実施する
・実習の記録を作成する
・実習報告のプレゼンテーションを行う
・他の報告者のプレゼンテーションを聴く
・全体総括としてのレポートを作成する

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　30%　　実習のふりかえりレポートの作成。
●**平常点**　20%　　グループワークや話し合いへの積極的な参加を評価する。
●**その他**　50%　　実習および実習記録を評価する。

備考・関連URL

　授業実施曜日が一部変則になります。

科目名	社会教育・成人教育学―社会教育課題研究　現代社会と社会教育の役割							
担当者名	村田　晶子							
教育コース	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

　第二次大戦後の民主主義社会の形成は、社会を構成する判断主体、法を作る主体を育てることが鍵であった。それはおとなの

学びを通して実現されることである。社会教育法立法当時の社会教育課長寺中作雄は、社会教育を「国民の自己教育・相互教育」と表現した。今日、人々の生活の基盤である地域コミュニティの崩壊に直面し、若者や女性の貧困、格差社会、少子高齢化、災害等は、私たちに人と人との豊かな関係とそれを支える学びあうコミュニティの創造を求めている。知識基盤社会の形成と地域のコミュニティの再生のキーワードは「学びあうコミュニテイを培う」ことにある。これらの社会教育の課題について、日本社会が培ってきた社会教育の理論、各種の社会教育実践に出会いながら考察する。具体的には、公民館、博物館等の施設、生活記録運動や識字、夜間中学運動、女性問題学習、ジェンダー平等やセクシュアル・マイノリティの学習等をとりあげ、それらに内在するおとなの学びの価値やその方法論が意味することを教育学の課題としてとりあげていく。

※【実務経験のある教員による実践的な授業科目】

この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして実践的な教育を行う科目です。

授業の到達目標

社会教育、生涯学習、成人教育の理論を習得する。
日本における社会教育実践について学ぶ。
社会教育の諸課題について考える力を習得する。
おとなが学ぶことの意味や価値について考える機会を持つ

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　社会教育、成人教育に関する基礎的認識の習得、課題意識の構築、論理的な記述の能力
●**平常点**　50%　　平常点（グループワークでの活動を含む）、出席
●**その他**　0%　　なし

備考・関連ＵＲＬ

本講は、社会教育主事養成課程が改正されたことに伴い新設する科目である。2020年度より社会教育主事（任用資格）養成課程修了者は「社会教育士」の称号を名乗ることができることになった。従来の教育委員会のみならず、自治体、指定管理者、NPO、民間企業等で活躍することが期待されている。。

講義

科 目 名	ダイバーシティ教育実践のデザイン　人権を軸にして							
担当者名	矢内　琴江							
教育コース	２単位	春学期	月曜日	４時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

多様性の尊重は、基本的人権の尊重であり、民主主義社会の構築の基盤です。しかしながら今日、多様性の尊重が否定されるような国際的な社会の動向があります。このような潮流に流されることなく、1人ひとりが尊重され、共に支え合って生きる社会の形成主体となっていく人間形成のあり方を私たちはどのように構想できるのでしょうか。多様性の尊重を基軸とした教育実践と思想は、世界各地で、そして長い歴史を持って編まれてきています。そうした営みから学び、人権と真の意味での多様性の尊重の観点から、教育実践のあり方を考えます。

この授業は毎回、前半は講義、後半はグループワークを行い、授業の参加者どうしの話し合いを通して考えを深めていくことを目指しています。

授業の到達目標

（1）今日の社会が抱えるダイバーシティに関わる問題について教育との関係において言語化できる
（2）ダイバーシティ教育実践の具体例について、その考え方、視点、方法などを示しながら説明することができる

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　講義やディスカッションを通して考えたことを自分なりに言語化できている
●**平常点**　60%　　グループワークへの主体的な参加、リフレクション・ペーパーの提出
●**その他**　0%

科 目 名	日本語日本文学研究1（上代文学）「古事記神話」を読む							
担当者名	松本　直樹							
日文コース	２単位	春学期	無	フルOD	２年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

この授業は、フルオンデマンドで実施する。 和銅5年（712）年，現存最古の史書『古事記』が成立した。『古事記』は，天皇を中心とした大和王権による天下支配の歴史の記録として編まれた書物である。その上巻がいわゆる「神話」であり，その主題は天皇による天下統治の由来と正当性を説くことにある。天地開闢，イザナキ・イザナミの国生み，皇祖アマテラスとスサノヲの誕生，アマテラスのイハヤ籠り，スサノヲのヲロチ退治，イナバのシロウサギ，オホクニヌシの国作りと国譲り，皇祖ニニギの降臨，ニニギとコノハナサクヤビメの結婚，海さち山さちの兄弟争い，そして初代とされる神武天皇の誕生までが，皇祖神の系譜を中心とした時間軸の上に展開する。極めて政治色の濃い，作られた「神話」である。ただ，その素材には，多く民間で伝承されていた純粋な神話があったと思われる。例えば，スサノヲのヲロチ退治は，世界中に伝えられるペルセウス・アンドロメダ型神話であり，またコノハナサクヤビメの神話はインドネシア等に多いバナナタイプと呼ばれる神話であり，もとより政治的目的で作られた訳ではない。前者は，祭祀による自然の克服を，後者は人の死の起源を説く神話であった。『古事記』はそうした神話を利用しながら，天皇による天下統治の正当性を主張する神代（かむよ）の歴史を仕立て上げたのである。

原型としての神話の層と，『古事記』という大和王権の史書としての層，これらを意識しながら『古事記』の「神話」を立体的に読んでゆきたい。あわせて，中巻・下巻を概観して，3巻を貫く『古事記』の主題について考える。

授業の到達目標

神話がどのような力をもって大和王権の史書に記載されるにいたったのか、大和王権はなぜ神話を用いて、王権国家の成り立ちを説いているのかを考え、神話と権力との関係を見極める。

成績評価方法

授業実施期間中に実施する試験（中間・期末）またはレポート（85%）、出席状況や授業への参加態度などの平常点（15%）

で評価する。
なお、授業回数の3分の2以上の出席を単位認定の必須条件とする。

備考・関連URL

この授業はWaseda Moodleからオンデマンド形式で実施する。
講義の性格上、続けて欠席をすると理解できなくなるので、努めて出席するように心がけてもらいたい。
基礎から解説するので、初めて本格的に『古事記』を読む学生も安心して受講してほしい。

科 目 名	日本語日本文学研究2（中古文学） 空海の文学							
担当者名	河野　貴美子							
日文コース	2単位	秋学期	火曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

空海の『三教指帰』を読む。遣唐使に随って唐に渡った空海は、当時最先端の中国の学問・思想・文化を学び伝えた、奈良末・平安初期における一流の知識人である。この授業では、漢文による著述に熟達した空海の作品の講読を通して、日本文学史・文化史における空海の著作の意義を考えるとともに、古代日本において中国の学術と文化の受容がいかに行われ、日本の漢文作品がいかにして生み出されたのか、古代の知の世界を見ていきたい。授業では、空海の人と時代などについて概観した後、『三教指帰』を読み進める。『三教指帰』は、登場人物の言葉をかりて、空海が儒教、道教、仏教の何たるかを説き、またそれら三教に対する自らの考えを述べていくものである。まずは序文から始め、巻上・亀毛先生論（儒教の立場）、巻中・虚亡隠士論（道教の立場）、巻下・仮名乞児論（仏教の立場）の中から幾つかの場面、段落を選び読んでいく。対象が漢文であるため、日本のみならず中国の文献にもしばしば触れることになろうが、漢文を扱う際の基本的な工具書なども適宜紹介しながら進めていきたい。

授業の到達目標

日本古代の漢文学への理解を深め、漢文の読解に必要な基本的知識を身につけることを目指す。

成績評価方法

●**試験**　50%　　理解度の確認
●**レポート**　0%　　行わない
●**平常点**　50%　　授業への主体的な参加度
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	日本語日本文学研究3（中世文学） 中世私家集への展開							
担当者名	兼築　信行							
日文コース	2単位	秋学期	月曜日	4時限	3年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

中世への和歌の展開を、主に私家集の歴史を辿りながら考究する。和歌を集めて編集したテクストが歌集だが、それは、さまざま歌人の作を編した撰集（天皇または上皇の命で作られた勅撰集と、それ以外の私撰集に分かつ）と、原則として個人の単位で詠作を編した家集（私家集）に分類される。私家集は、すでに万葉時代からその存在が知られるが、平安期以降さまざまな形態の集が編まれた。これを巨視的に検討することで、それぞれの時代の和歌的状況を把握することが可能となる。本講義では、最終的には12世紀以降、13世紀にかけての中世前期の私家集への展開に焦点を当てながら、その問題を考察する。

授業の到達目標

和歌ならびに私家集の歴史と展開について知識を獲得し、その意義が理解できようになること。

成績評価方法

●**試験**　80%　　理解度の確認のquizを実施する。
●**レポート**　0%　　該当なし。
●**平常点**　20%　　レビューシートの内容など。
●**その他**　0%　　該当なし。

科 目 名	日本語日本文学研究4（近世文学） 題画文学を中心とする近世近代の書画研究							
担当者名	池澤　一郎							
日文コース	2単位	春学期	無	フルOD	3年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

題画文学とは、絵画に書き付けられた詩詞文章のことである。もともと中国の唐宋に淵源があり、明清に盛行し、日本では中国の影響下、中世五山文学や近世近代の山水画に盛んに書き付けられた。絵巻物や俳画に書き付けられた詩歌文章、浮世絵の狂歌などはそのバリエーションであり、日本化したものである。本講義では、これらの中から近世と近代に亘る時代のものを、適宜選んで紹介し、漢詩文を中心とする題画文学を綿密に解読し、絵画の世界との関係を開示したい。また近世近代の日本人は、現在のように文字をパソコンスマホで綴るのではなくして、筆を執って墨に浸してから、和紙や絹布に書き綴り、布字の速度を保つために、ほとんどの文字はくずし字か草書である。現在は明朝活字を基礎とする楷書で漢字を書き綴るが、当時は草書が一般であった。現在のわれわれはほとんど草書を書かないし、読まないので、題画文学の常態である草書の漢詩文は欧米語以上に縁遠いものとなっているが、近世近代の日本人は草書やくずし字で日本語を書き綴るのが常態なので、楷書を忘れてしまう場合すらあったのである。この現代と近世近代との常態の変化は、われわれを古典どころか、祖父母の時代に毛筆で書き綴られた文字すら読めなくしていて、歴史や古典との断絶という非人間的状況を現出している。この反省に立って、講義の中ではゆっくりと丁寧に草書やくずし字の、題画文学を読解する。受講者はほぼ全員初学の段階にあると思われるので読解方法については基本から伝授したいと考えている。

授業の到達目標

従来、美術史や中国文学の領域とされていた書画、題画文学について、日本文学史に組み込むことを志す。受講者には近代以降の西欧中心に形成されたジャンル意識がどれほど題画文学のような総合藝術の実態把握を困難なものにしてしまっているかに

ついての認識を高めてもらいたい。同時にくずし字や草書の読み方、印章の篆書や漢詩文の訓読法などについての基礎力を、高等学校までに積み上げた蓄積を更に向上させてもらいたいと考えている。

成績評価方法

●**試験**　30%　　講義内で扱った資料に基づく課題を課したレポート形式の学期末課題を提出してもらう。
●**レポート**　35%　　毎回の講義の中で随時短いレポートを課して理解度を確かめる。ムードルで課題提出欄を設けるのでそこから提出されたい。
●**平常点**　35%　　出席は毎回の講義内容に基づく短い課題提出によってカウントする。ズームによるフルオンデマンド授業なので、接続しただけでは出席にはならないことに留意されたい。
●**その他**　0%　　上記の三要素で成績判断するので「その他」はない。

科 目 名	日本語日本文学研究5（近代文学）　安部公房研究							
担当者名	鳥羽　耕史							
日文コース	2単位	春学期	火曜日	2時限	3年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

安部公房生誕100年の2024年に続き、私の研究の原点でもあり、その後の研究の起点にもなった、安部公房の多彩な活動について、改めて振り返ってみたい。この授業では、昨年出版した『安部公房　消しゴムで書く』を教科書とし、安部公房の生誕から死没までの人生と仕事を概観し、現在、そのような作家論的なアプローチで考察する意義について考える。各自の研究テーマへの応用を考えながら参加してもらいたい。

授業の到達目標

文学、演劇、ラジオドラマ、テレビドラマ、映画と多岐にわたった安部公房という作家の人生と仕事について理解する。そうした知識をもとに、各自の研究テーマについて、自分なりの考察を表現できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　70%　　授業内容を理解してオリジナリティのある内容が論じられているか。
●**平常点**　30%　　毎回のコメントシートと、授業での議論への参加ができているか。
●**その他**　0%　　実施しない。

科 目 名	日本語日本文学研究6（日本語学）　上代日本語研究の方法と考え方							
担当者名	澤崎　文							
日文コース	2単位	秋学期	水曜日	1時限	3年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

日本語において、まとまった言語資料となる文献が初めて存在したのは、上代であった。上代語は日本語の起源を探る上でも高い価値をもち、また日本語史の原点としても必ず言及されるべきことばである。しかし、上代語の文献は今日における現代日本語を書きあらわしたものとは大きく隔たりがあり、一見してどのようなことばが反映されているのかわかりにくい。

この授業では、上代語を反映する文献について、まずそこにどのようなことばがどのように書かれているのかを知るために、資料の読み解き方を中心として説明する。このことを通じて、音韻・語彙・文体など、そこに見える日本語のすがたと、それを明らかにする方法も示していく。文献の性格や扱い方、問題点などを概説した上で、文献にあらわれた具体的な言語事象を確認していくことで、日本語史資料としての「みかた」を身につけられるようにしたい。

授業の到達目標

・文献それぞれの日本語史における資料的性格を理解できるようになる。
・文献にあらわれた日本語学的現象の解釈ができるようになる。
・日本語学における問題点の設定と仮説の立て方を理解する。
・日本語学的な分析の観点を身につける。

成績評価方法

●**試験**　70%　　教場で試験を行う予定です。
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　毎回、授業内容についてのコメントを求め、評価に入れます。
●**その他**　0%

備考・関連URL

この授業は原則として対面で行う授業ですが、一部、オンデマンドやZoomを使ったリアルタイムオンラインの形式をとる場合があります。形式はシラバスの各回に反映させているほか、第1回のガイダンスにて詳細をお伝えします。 この授業は全授業回数の2／3以上の出席が必要です。

科 目 名	日本語日本文学特論1　古典籍の書誌学							
担当者名	兼築　信行							
日文コース	2単位	春学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

日本の古典籍、写本や版本を調査・研究するための基礎知識と、基本的な手順を習得する。この講義では、写本・版本を取り扱い、実際に調査を行う手順に従いながら、書誌学の基礎を講義する。書誌学の知見は、日本の古典文学を学び、研究する学生にとって、必須のものである。

その内容は、伝本リストの作成、装丁、調査の準備と実施、調査記録の扱いといった項目となる。あくまでも具体的かつ実際的な内容を織り込みたい。

専門性が高い講義内容なので、事前の課題を出す場合がある。また、講義内容の復習に相当の時間を要するか。

授業の到達目標
写本・版本の基本を理解するとともに、調査を実際に行い、書誌報告を書くことができるようになること。

成績評価方法
●**試験** 50%　最終回に理解度の確認を実施する。
●**レポート** 25%　各自の関心に従い、任意の写本または版本を調査し、報告を提出する。
●**平常点** 25%　出欠ならびに普段の課題への取り組みなどを評価する。
●**その他** 0%　該当なし。

備考・関連URL
この科目を受講するためには、変体仮名・くずし字の読解能力を習得しておことが望ましい。変体仮名・くずし字が読めない人は、「くずし字を学ぶ」（フルオンデマンド／兼築信行・宗像和重担当）を受講し、あらかじめ読解力をつけておくことを勧めたい。

科 目 名	日本語日本文学特論2　文献学研究の基本							
担当者名	兼築　信行							
日文コース	2単位	秋学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
日本語日本文学特論1の連関科目となる。特論1で学んだ書誌学的知見をもとに、本講義では、文献学的研究方法を習得する。いわば、書誌学がテキストの物理的な容器に関する学問であるのに対し、文献学はテキストの中身自体を対象とする学問と捉えることもできるだろう。
古典テキストは、伝来の過程で、さまざまな理由から変容を生じる。研究の方向性としては、テキストの原態の復元という企図があり得るが、成立から長い時間が経過したテキスト、古典として広く受容されたテキストであればあるほど、成立原態は復元不能、また復元の意義を喪失している場合も多い。しかし、書写、出版などのプロセスを経て伝来し、受容されていく動態の中で、テキストが変化していく機制を理解することは、特に古典文学作品を取扱い、研究し、論ずるためには、必須の知見である。
本講義を受講するためには、書誌学の基本的知識があること、くずし字・変体仮名の読解能力を有することが求められるが、必ずしも関連科目（「日本語日本文学特論1」「くずし字を学ぶ」など）の受講を前提とはしない。必要最低限度の知見は、本講義を「いきなり」受講する学生にも、ある程度補うことができるよう配慮するので、安心して受講して欲しい。

授業の到達目標
文献学的研究方法の基本を習得し、古典テキストが伝来する過程で生じる変容の機制を理解できるようになること。

成績評価方法
●**試験** 70%　最終回に理解殿確認を行う。
●**レポート** 0%　該当なし。
●**平常点** 30%　提出課題による。
●**その他** 0%　該当なし。

科 目 名	日本語日本文学特論3　語彙研究							
担当者名	田中　牧郎							
日文コース	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
日本語の語彙について、実際に使用された文章の中での語の頻度や用法を観察することを通して、研究します。その観察の手段として、近年の日本語研究の中心的な方法になってきたコーパスを用います。はじめに現代語彙を研究し、その後、語彙の歴史を研究します。

授業の到達目標
（1）言語学の枠組みで語彙を捉えることができるようになること
（2）コーパスを用いて語彙の調査や分析ができるようになること
（3）語彙の観察を通して日本語と日本社会や日本文化との関わりについて考えることができるようになること

成績評価方法
●**試験** 0%　特になし
●**レポート** 70%　2000～4000字のレポートを2回提出してもらいます。
●**平常点** 30%　第3回、第6回、第11回
●**その他** 0%　特になし

科 目 名	日本語日本文学特論4　変革する文体 ― もう一つの明治文学史							
担当者名	木村　洋							
日文コース	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
19世紀末に徳富蘇峰は思想界の指導者として君臨した。二葉亭四迷、北村透谷、国木田独歩など、多くの文学青年は蘇峰に魅了された。まずこの蘇峰による文化再建の企てを論じたい。
さらに同じ頃の蘇峰の思想的な同伴者や賛同者たちの試み（二葉亭、森田思軒、樋口一葉、志賀重昂など）、またそれを乗り越えるかたちで、新たな文学的冒険に乗り出した1900～1910年代の試み（高山樗牛、自然主義者、平塚らいてうなど）を辿る。それによって日本のなかに新たな討議空間を築きあげていった明治文学史の展開を明らかにする。

授業の到達目標
個々の文学作品の特質だけでなく、それをとりまく思想的、政治的な文脈などもふまえながら、明治時代の文学史を学習する。現在の文学や思想がどのような歴史的な蓄積のもとに成り立っているかを理解し、併せて文学研究の基礎的な方法を習得する。

成績評価方法

●**試験**　90%　　最終回に理解度の確認を実施する。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　10%　　出欠ならびに普段の課題への取り組みなどを評価する。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

二葉亭四迷『浮雲』、北村透谷「人生に相渉るとは何の謂ぞ」、樋口一葉「にごりえ」、国木田独歩「牛肉と馬鈴薯」、高山樗牛「美的生活を論ず」を前もって読んでおいていただきたい。

科 目 名	神話と伝説の世界　『万葉集』に詠まれた神話と伝説							
担当者名	高松　寿夫							
日文コース	2単位	春学期	月曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

神話・伝説を素材とする『万葉集』所収の和歌をとおして、上代（奈良時代以前）の日本の神話・伝説の種々相を紹介する。

授業の到達目標

『万葉集』およびその同時代の他文献（『古事記』『日本書紀』風土記など）にどのような神話・伝説が記録されているか、基本的な情報についてひととおり把握する。また、それらの文献に記録された神話・伝説を理解するために必要な知識・情報についても身に付ける。

成績評価方法

●**試験**　50%　　最終回の授業時に理解度の確認を行う。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　出席状況、授業に対するリアクション。
●**その他**　0%

科 目 名	物語文学の世界　『源氏物語』紫の上の物語を読む							
担当者名	小泉　咲							
日文コース	2単位	秋学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

この授業では、『源氏物語』という長編物語について、本文を読みながら考える。『源氏物語』全体の内容をおおよそ押さえた上で、特に、主要な女君の一人として知られる「紫の上」を中心とした物語を取り上げる。同時代の物語作品にも目を配りつつ、紫の上を中心とした物語がどのように生成され、展開しているのかを考えてゆくことになるだろう。あわせて、「物語」という語の有する意味、物語の話型、作中の人々の噂、物語の読者たち、といった問題にも注目する。

授業の到達目標

『源氏物語』という物語の概要を知り、本文に即してその展開のあり方について考えられるようになること。また、その考えを自分の言葉で説明できるようになること。

成績評価方法

●**試験**　50%　　第14回の授業で行う理解度の確認テストによって評価する。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　50%　　・出席状況等によって評価する。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。
・国文学研究資料館　http://www.nijl.ac.jp
・JapanKnowledgeLib　https://japanknowledge.com/library/

科 目 名	和歌文学の世界　万葉集入門							
担当者名	高松　寿夫							
日文コース	2単位	秋学期	月曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

日本最古の和歌集である『万葉集』を読むための基礎的な事柄について講義する。
発生から奈良時代（7世紀前半から8世紀後半）までの和歌について、時代を追って話題にしつつ、『万葉集』とはどのような歌集なのか、古代の和歌とはどのようなものなのかを解説する。

授業の到達目標

『万葉集』を中心とした、奈良時代以前の和歌の概要を理解するとともに、古典和歌を解釈・鑑賞するための基本的な知識・方法を身につける。

成績評価方法

●**試験**　50%　　最終授業日に理解度の確認を行う。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　出席・レビューシートの内容。
●**その他**　0%

科 目 名	鎌倉・室町の文学　物語文学の受容・享受・翻案・再生・改作・転成といった観点から、能楽（謡曲・狂言）の作品を考察・分析する。							
担当者名	岩城　賢太郎							
日文コース	２単位	春学期	金曜日	４時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

日本中世の芸能・演劇である能楽（能・狂言）の作品は、先行する和歌文芸、漢籍、寺社縁起、説話・伝承、等々を出典（素材）として成立していますが、本講義ではその出典のうち、物語文学を出典とする作品の幾つかについて、そのテキスト（詞章・ししょう）を物語文学のテキストと比較・検討しながら読み解いて行きます。

※ 授業時間中に履修者間や小グループでの情報・意見交換や問題・課題の考察を行います

※芸能作品や絵画資料の鑑賞・分析のため、映像の視聴・画像の鑑賞等を多く行います

授業の到達目標

○日本中世の謡曲（能楽）の代表的な作品の幾つかの詞章（テキスト）を精読する。

○謡曲作品（能楽）と物語文学の関係、及びその特質について理解し、説明することが出来る。

○物語文学から舞台芸能への展開、そして舞台芸能から他ジャンルや各種メディアへの展開を追跡する中で、自分なりにその展開史を捉える、或いは問題や課題を見出すことが出来る。

成績評価方法

●**試験**　40%　　理解度の確認（筆記・論述）

●**レポート**　0%

●**平常点**　30%　　授業参加度と受講への姿勢

●**その他**　30%　　毎授業毎に提出するコメントシート

備考・関連ＵＲＬ

「授業計画」は受講者アンケートの結果、及び各授業回のディスカッションやコメントカードの内容・反応から、受講者に説明・確認の上、講義内容や対象作品、学修順序等を調整・変更して行きます。

小学校教諭を志す人、中学校・高等学校の国語科免許の履修を志している人の履修も推奨します。授業では、学校教育各社教科書で扱われている作品等の紹介・活用・応用等の話題も扱います。

科 目 名	近世小説と俳諧　書簡資料と読む近世俳諧							
担当者名	藤冨　史花							
日文コース	２単位	春学期	金曜日	２時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

近世俳諧を代表する俳人、松尾芭蕉、宝井其角、与謝蕪村の発句等を中心に解読します。中でも、唐宋の漢詩文を踏まえて作られた作品を取り上げ、俳諧文学の魅力が和漢古典の伝統を継承し融合する「雅俗往還」に基づく重層性と多義性にあることを呈示します。それらに関連して連歌、俳文、俳画、紀行文、川柳、近現代俳句などにも触れ、近世俳諧の特質を理解してもらうことを目指します。

特に、松尾芭蕉や与謝蕪村については集成された書簡資料をもとに、それらを作品と共に読解することで作者の人柄や句の成立背景にも触れ、作品世界についての理解をより深めます。また同時に、くずし字（草書体）や候文で書かれた資料に親しむことも目標とします。

授業の到達目標

・俳諧という短詩型文学の面白さを知り、俳諧文学の鑑賞・解釈の方法を習得する

・くずし字や書簡特有の候文の文体、語彙・用語に親しむ

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　60%　　講義の内容を踏まえ、学期末レポートを作成してもらいます。

●**平常点**　40%　　出席と、出席カードとして提出してもらうリアクションペーパーの内容などで評価します。

※出席カードは講義開始から30分経過した時点で配付します。この時点で教室にいない場合は、欠席扱いとします。

●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

授業実施にあたり内容を一部変更、あるいは前後する場合があります。

科 目 名	近代の文学と文化　〈サラリーマン〉の文化史							
担当者名	鈴木　貴宇							
日文コース	２単位	秋学期	火曜日	１時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

日本近代の文学は、学校教育の発展とほぼ同時期に起きていることから、「学歴」という問題がしばしばクローズアップされ、ひいては学歴獲得による階層上昇と、近代社会の中で生き抜くことへの焦慮がテーマとなっています。「近代化」が「西洋化」と同義の意味を持った日本社会にあって、最も大衆化された「近代」の表象は「月給取り」、すなわち「サラリーマン」となることでした。文学とサラリーマンという組み合わせは、受講生の皆さんからすると違和感を持つかもしれませんが、実は日本近代文学には多くの「サラリーマン」（この言葉は大正半ばに登場します）が出てきます。例えば明治時代の文学を代表する夏目漱石の作品には、しばしば「高等遊民」が登場しますが、この概念自体、「就職」することが知識層にとって前提となった社会の出現が不可避なものです。「サラリーマン」とは日本社会にあって、階層としてよりもむしろ「安定」や「平均」といった価値観を象徴する価値観として機能しています。「文学」に関わる人たちは、そうした価値観に対しての抵抗や違和感を作品として発表してきました。本講義は、1880年代から1930年代の半世紀（明治20年代から昭和初期）を対象に、文学作品の中に登場する「サラリーマン」とその変容を考えるものです。

授業の到達目標

「文学」という営みはいつの時代でも実学に対する虚学として、時には憧れの対象に、そしてしばしば「不要の学問」という

レッテルを貼られてきました。しかし、実際には文学作品の成立には出版資本主義の完成や、リテラシーを持った読者が不可欠な以上、その社会の発展と密接に関わるものです。「文学部」で文学を学ぶみなさんは、これから社会に出るにあたり、自分が学ぶ学問と、社会の接点をどのように持とうと考えていますか。労働と文学の問題は昭和初期にはプロレタリア文学というかたちで展開されましたが、そこで問題とされた「社会と個人」の問題は、2020年代の今日にあっても色褪せるものではありません。「サラリーマン」という「平均人」の描かれ方を通して近代日本社会を考察することで、「文学」に反映された「自分らしく生きること」への欲望と葛藤を、受講生の皆さんが自分の問題として、考えられるようになることを目標とします。それは座学として文学の講義を受講するのではなく、みなさんの生きた経験として、文学作品との対話を試みる姿勢にもつながるものだと期待しています。

成績評価方法

●**試験**　0%　　本講義は試験は実施しません。
●**レポート**　70%　　期末レポートを実施します、本講義に関する理解度を評価の対象とします。テーマは開講時に指示しますが、「働くことと愛すること」をどのように解釈するかが一つの軸となります。
●**平常点**　20%　　出席状況と講義参加時の態度を評価対象とします。
●**その他**　10%　　毎回、出席カードの裏にコメントを書いてもらいます。そこに反映された講義への積極度を評価対象とします。

備考・関連URL

教員に関する情報はこちらをご覧ください：https://researchmap.jp/1930bauhaus/

科目名	現代の文学と文化1　ノンフィクション論――ポスト真実の時代に抗う							
担当者名	鈴木　貴宇　他／加古　陽治／田村　景子／辻　吉祥／吉田　敏浩							
日文コース	2単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	―	合併科目	フル【対面】

授業概要

21世紀に入ってから、社会と人間の闇に鋭くきりこむノンフィクションの登場が、つよく、つよく求められています。わたしたちは現在、コロナ禍と戦争のなか、情報・文化から政治・経済にいたるまで、混沌とした世界に直面しています。もちろん、多様性と共存がうみだす豊かな混沌ではありません。いたるところで顕著な対立と分断、差別と排外が、互いの憎悪をかきたて、暴力へ、戦争へと人びとを誘う黒々とした混沌です。

思わず眼をそむけたくなる混沌とはいえ、こんなときこそ一つ一つの事実を直視したい。暴言や妄言、フェイクニュースなどに逆らって、事実をねばりづよく追い、真実を見極めたい。「ポスト・ファクト（事実）」「ポスト・トゥルース（真実）」と呼ばれる今だからこそ、すぐれたノンフィクションが求められるのです。

ただし、ノンフィクション（ルポルタージュ）は、事実をただ記述する事実追認型のジャンルではありません。個々のノンフィクション作家（ライター）が、確固とした思想と、独自の取材方法と、独特な文体によってつくりだす事実発見型のジャンルであり、その発見にもとづく事実批判型（さらに「事実をのせている構造」批判型）のジャンルなのです。

本講座は、社会と人間の闇に鋭くきりこんできたノンフィクションを、その歴史、その方法、その具体的な実践、その様々なテーマなどから明らかにします。講師は、個性的なノンフィクション作家の中でもとりわけ個性的な作家、現役の新聞記者、ノンフィクションを研究対象にしている文学研究者です。

活躍中の作家、新聞記者、編集者に接するまたとない機会になるでしょう。

この講座をきっかけに、ノンフィクションのおもしろさ、意義、そして可能性をつかみ、今日のノンフィクション読者から、明日のノンフィクション作家へ、また、明日のノンフィクション評論家、研究者へ、その第一歩をふみだしてください。

（コーディネーター・鈴木貴宇）（下記の講義内容・講義計画は、授業効果を考えて変更される場合があります。）

※【実務経験のある教員による実践的な授業科目】

この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして実践的な教育を行う科目です。

授業の到達目標

ノンフィクション作家・研究者の話を聞き、ノンフィクション作品を読み、かつ理論と歴史を学んで、ノンフィクションの実践または評論、研究の第一歩をふみだす。

成績評価方法

試験　0%

レポート　50%　成績評価においては、その成績をA+（優）、A（優）、B（良）、C（可）、F（不可）の五段階評価とし、C以上を合格とする。A+、A、B、Cについては、課題に対する理解度、独創的視点の有無、文章表現の巧拙を総合して判定する。

出席（受講期間＝二週間中の視聴）　50%　　その他　0%

科目名	現代の日本語　日本語は乱れているか							
担当者名	笹原　宏之							
日文コース	2単位	秋学期	水曜日	4時限	1年以上	―	合併科目	フル【対面】

授業概要

「近頃の日本語は乱れている」という指摘がしばしばなされている。しかし、日本語の歴史を振り返れば、古い時代にも言語の「乱れ」を嘆く声はある。また、「乱れ」とされるものには、実際には「揺れ」と見るべきものが少なくない。「揺れ」と「乱れ」とを分ける基準は何なのか。

現代の日本語について問題とされるさまざまの現象について、変化と変異、原理化と合理化と効率化、体系化と個別化、規範意識と歴史的動態などの視点を日本語学などの研究成果から加えつつ、その意識と背景にあるもの、多様性のもつ意味の解明を進める。

音声・音韻・語彙・文法・敬語・方言・文字・表記・地名・姓名など、現代の日本語全般にわたるトピックを、原則として下記の計画に沿って広く扱っていく。毎回、レビューシートを活用し、講義に相互方向性を持たせるとともに、観察・内省と思考・分析を続けていく習慣を身に付け、問題を自ら見出し、真実に迫り、解答を創り出す力を養成する。

授業の到達目標

日本語とその文字・表記に対して、希薄な根拠による硬直した規範意識に囚われることなく、客観的に対座し、観察、内省、

考察する姿勢と、使用と受容・鑑賞に際して適切な判断を行うための分析・調査の方法とを身に付ける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　70%　　テーマ違い、枚数不足、引用不備は採点対象外となりかねないので、注意して下さい。
●**平常点**　30%　　提出物、探究姿勢、受講姿勢など。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

関連URL:
http://www.iwanami.co.jp/hensyu/sin/sin_kkn/kkn0601/sin_k274.html
http://dictionary.sanseido-publ.co.jp/dicts/ja/ateji_ateyomi/

科 目 名	日本語の文化史　文字・表記・語彙から見る日本語の歴史							
担当者名	宮本　淳子							
日文コース	2単位	秋学期	月曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

⑴或る犬肉叢を含んで川を渡るに，その川の真ん中で含んだ肉叢の影が水の底に映ったを見れば，己が含んだよりも，一倍大きなれば，影とは知らいで，含んだを捨てて水の底へ頭を入れて見れば，本体が無いに因って，即ち消え失せてどちをも取り外いて失墜をした。

(2)ある犬、肉をくはへて川を渡る。真ん中ほどにて、その影水に映りて大きに見えければ、「我がくはふるところの肉より大きに見えければ「我がくはふるところの肉より大きなる」と心得て、これを捨ててかれを取らむとす。かるがゆゑに二つながら、これを失ふ。

上記文章は、いずれも『伊曽保物語』からの引用である（1「犬が肉を含んだ事」、2「犬と肉のこと」）。2は中学校の国語教科書にも取り上げられていることから、懐かしく思う方もいるだろう。この文章の漢字「肉叢」を何と読んだだろうか。

『伊曽保物語』は種類により2つに大別されるが、その1つ、キリシタン版とも称される『天草版伊曽保物語』（1593 年刊行）が手がかりを与えてくれる。古代ギリシャの寓話、イソップ物語を翻訳し、当時の平易なことばをもって記された、この文献に「xiximura」（ししむら）とあるのである。ポルトガル式ローマ字であるため、現在のローマ字とは異なるが、こうした表記は、当時の日本語を知るうえで、日本語学研究上の貴重な資料とされている。

本講義では、上記ローマ字文献を含め、上代から現代に至る言語資料をとりあげつつ、日本語の様々な特質を取り上げる。アプローチとしては漢字、平仮名、片仮名、アルファベットなどの文字、句読点、仮名遣い、書字方向など表記に関わる事項を中心に扱うが、内容に合わせて日本語の語彙についても触れる。一見、当たり前のように見える事象も、歴史を遡ると異なる様相を見せる。講義を通じ、日本語の特徴や歴史的側面（連続性）を学び、現代日本語に見られる身近な言語事象を捉え直す機会にしてもらいたい。

授業の到達目標

ステージ1　基礎（5週）
世界の文字と照らし合わせつつ、日本語の文字・表記の発達のプロセスに関心を持ち、主体的に学習できるようになる。
言語学的思考や日本語に関する基礎的講義と確認を通じて，次のステージの助走とする。
ステージ2　応用（5週）
講義回とグループ活動を取り入れた回とで、課題意識をもって学習が進められるようにする。受講生は配布資料を読み，記述したり、グループに分かれ，資料をもとに情報を共有したりと、活動の中で、言語や文字の機能と特性を理解し、説明できるようになる。
ステージ3　発展（4週）
ケースメソッドの手法を用い、学習した内容を活用できる形にすることを目指す。日本語の特質や、歴史的背景に関しての理解を深める。
問題意識を持ち、提案したり、自身の考えを表現したりできるようになる。
（今年度は3部構成のケースメソッド法を導入し、より関心、学習意欲が湧く形になることを目指します。）

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　論述形式のレポート課題を授業期間（第10回頃を予定）に提示します。毎回の講義内容を理解し、与えられた課題に対して、その視点が活用できているか、問題意識を持って考察できているか、を評価に加える。詳細は初回および授業期間中に授業にて説明する。
●**平常点**　30%　　Waseda Moodleのレビューシートに授業をふまえたコメントを入力をしてもらい、理解度を確認のうえ、評価に加える。
●**その他**　0%

備考・関連URL

受講希望者は、必ずにMoodleで連絡がとれるよう登録,メールを確認するようにしてください。
・大学の方針に従い原則【対面】で実施いたします。
・講義資料はPDFで事前にMoodleに設置,配布する予定です。
・講義中に出席の確認をいたします。また課題や感想を提出していただくことで補完的に確認、講義の出席完了とみなします。
・受講生の関心・理解に合わせて、順序、内容を追加・変更することがあります。授業にてあらかじめ、お伝えします。
・世界の文字や日本語の文字、書記、語彙に関心のある学生はもちろん、文字景観・デザイン、社会背景、書道に関心のある他分野の学生、留学生の聴講も歓迎しています。

科 目 名	日本の文学論　奈良・平安期の作品を通してみる「文」の概念							
担当者名	河野　貴美子							
日文コース	２単位	春学期	火曜日	５時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

日本の文学はいかにして形成されたのか。また、そもそも「文学」あるいは「文」とはいったいいかなるものか。 本授業では、奈良・平安期に生み出された各種の著述、著作を通して、当時、ことばをつむぎ、文をつづっていくことが、いかなる営みとして行われ、またそこにいかなる意義が見出されていたのかについて考察する。

「文学」の語は、literature の訳語としての意味を付与される近代以前の段階においては、「学問」「学術」の意を内包していた。その具体相を、奈良・平安期の漢文、和文作品を通して検討し、「日本の文学」を捉え直すとともに、日本文学史、文化史の特質に迫りたい。

授業の到達目標

日本古代文学に関する基本的事項を学ぶとともに、日本文学、日本文化に対する理解を深める。特に、漢文および和文によるさまざまな著述に触れることで、古代の和漢文献を扱うための基本的知識とスキルを身につけることをめざす。

成績評価方法

●**試験**　50%　　理解度の確認
●**レポート**　0%　　行わない
●**平常点**　50%　　授業への主体的な参加度
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	くずし字を学ぶ　古典から近代まで							
担当者名	兼築　信行							
日文コース	２単位	春学期	無	フルOD	１年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

くずし字を解読する力を身につける。古典から近代までの文字資料を教材に用いながら、各時代の文字の特色や、書写上の要点、資料の内容についても説明する。授業はフルオンデマンド形式で実施する。変体仮名は、今から百十年余ほど前に仮名字体が統一されるまでは、日常生活の中でごく普通に用いられていた。くずし字も、毛筆を使うことが少なくなった現代では、読むことが難しくなっている。しかし、日本の古い文献や資料を取り扱い、専門的に研究するためには、変体仮名やくずし字を読解する力が必須となる。本講義では、独自のワークブックを使用しながら、昔の文字を読むことができるよう練習を重ねていく。学習方法が会得できたら、各自の関心にしたがい、さまざまな文字を読む応用訓練もできるだろう。オンデマンド授業の利点として、理解できなかった点は、何度でも繰り返し受講することが可能である。意欲と根気さえあれば、変体仮名・くずし字を読解する力は、必ず身につけることができる。 当該科目は2023年度まで、前半を兼築信行が担当し、主として鎌倉時代から江戸時代までの写本・版本等の文字扱い、後半は宗像和重現名誉教授が担当し、主として近代の文学資料の文字を扱ってきた。2023年度をもって宗像教授が定年退職したことにともない、同教授の許諾にもとづき、その授業コンテンツをそのまま継承、利用して、2024年度以降、兼築信行が単独で担当するにいたったという経緯がある。この点を了解のうえ、受講されたい。

事前学習と、各講の課題を行うため、事前事後に90～120分程度の学習が必要となる。

なお、講義回数の外枠で、受験期間（数日間）設定のオンデマンド型の試験を実施する。

授業の到達目標

くずし字のうち、少なくとも変体仮名については、「主要仮名変体表」等を参照しながら、完全に読解できるようになること。

成績評価方法

●**試験**　90%　　Waseda Moodle上、講義回とは別枠で、期間設定のうえ（数日間）、オンデマンド形式の試験を実施する。
●**レポート**　0%　　該当なし。
●**平常点**　10%　　受講状況、課題、BBSへの参加などを評価する。
●**その他**　0%　　該当なし。

備考・関連ＵＲＬ

オンデマンド授業受講環境をよく確認すること。

※自宅のPCでオンデマンド授業が受講ができない場合には、学内のPC教室で受講してください。なお、すべての授業コンテンツのうち3分の2以上を、所定期間に受講していない場合は、たとえ試験を受けても評価は「不可」となる。バックナンバーでの受講は、出席としてカウントされないので、注意すること。

科 目 名	日本語学概論１　日本語学の諸分野を学ぶ							
担当者名	澤崎　文							
日文コース	２単位	春学期	無	フルOD	２年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

※本授業は全回オンデマンド授業として実施します。

※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

日本語学の各分野・領域について概観する。秋学期に開講する「日本語学概論2」とあわせて受講することで、日本語学の基礎的な知識を総合的に学習できる内容となる。本授業では日本語の音声・音韻、文字・表記と社会言語・方言を取り扱う。主に現代日本語について説明しつつ、各分野に関する日本語の歴史にもふれ、日本語の成り立ちと変遷への理解も深める予定である。

授業の到達目標

・日本語の音声・音韻、文字・表記、方言について、基礎的な知識を習得する。
・自らの使用することばについて、日本語学的な観察眼をもって考えることができる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　100%　　学期中に2回、研究計画を考える小レポートを課し、学期末にそれを元にしたレポートを作成してもら

う。計3回のレポート提出は必須なので注意すること。
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。 本授業の出欠に関しては、オンデマンドコンテンツ動画の視聴完了をもって出席と見なします。春学期授業期間内に動画全体の2／3以上が視聴完了となっていない場合は、レポートの採点対象となりません。

科 目 名	日本語学概論2　日本語学の諸分野を学ぶ							
担当者名	澤崎　文							
日文コース	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。
※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。
日本語学の各分野・領域について概観する。春学期に開講される「日本語学概論1」とあわせて受講することで、日本語学の基礎的な知識を総合的に学習できる内容となる。本授業では日本語の文法、語彙、待遇表現、文章・談話を取り扱う。主に現代日本語について説明しつつ、各分野に関する日本語の歴史にもふれ、日本語の成り立ちと変遷への理解も深める予定である。

授業の到達目標

・日本語の文法、語彙、待遇表現、文章・談話について、基礎的な知識を習得する。
・自らの使用することばについて、日本語学的な観察眼をもって考えることができる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　学期末にレポートを課す。
●**平常点**　50%　　毎回、授業に関する小テストを出す。
●**その他**　0%

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。 本授業の出欠に関しては、オンデマンドコンテンツ動画の視聴完了をもって出席と見なします。秋学期授業期間内に動画全体の2／3以上が視聴完了となっていない場合は、レポートの採点対象となりません。

科 目 名	日本語史1　ことばの内外の力が駆動する歴史							
担当者名	加藤　大鶴							
日文コース	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

日本語における言語変化を理解するためにトピックスごとに歴史を通覧する。日本語史1では、A日本語史の方法論等、B文字、C語彙、D音韻を主として扱う。

授業の到達目標

日本語の歴史を、文字（表記）・語彙・音韻等に着目し、それが文献や方言等の資料からどのように具体的的に説明されるのかを「出来事」として理解する（したがって文献資料を丁寧読解しながら進めることになる）とともに、日本語の変化を駆動する「メカニズム」について考えさせることを目的とする。
本授業では、日本語史の主たるキーワードを元に事象が説明できるようになるだけではなく、なぜ変化するのかという視点から日本語の歴史を説明できるようになることを目指す。

成績評価方法

●**試験**　50%　　日本語史に関わる重要なキーワードから事象が説明できるようになること、および変化のメカニズムが説明できるようになることが重要である。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　Moodle上で行われる毎回の小テストとコメントによる。積み上げ式なので、受講し回答し続けることが重要である。
●**その他**　0%

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。なお試験はオンラインで行う。日程については時期が近づいたら別途調整&指示するが、平日の夜（21:00-23:00）を想定している。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	日本語史2　言語内・外の力が駆動する歴史							
担当者名	加藤　大鶴							
日文コース	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

日本語における言語変化を理解するためにトピックスごとに歴史を通覧する。日本語史2では、A文法、B文法と音韻、B外来語と近代漢語、C文体、D近代語と言語政策を扱う。

授業の到達目標

日本語の歴史を、文法・語彙・文体・等に着目し、それが文献や方言等の資料からどのように具体的的に説明されるのかを「出来事」として理解する（したがって文献資料を丁寧読解しながら進めることになる）とともに、日本語の変化を駆動する「メカニズム」について考えさせることを目的とする。日本語史2はさらに前近代から近代にかけての言語政策の中でどのように制度的な変化を経ていくのかについても扱う。

本授業では、日本語史の主たるキーワードを元に事象が説明できるようになるだけではなく、なぜ変化するのかという視点から日本語の歴史を説明できるようになることを目指す。

成績評価方法

●**試験**　50%　　日本語史に関わる重要なキーワードから事象が説明できるようになること、および変化のメカニズムが説明できるようになることが重要である。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　Moodle上で行われる毎回の小テストとコメントによる。積み上げ式なので、受講し回答し続けることが重要である。
●**その他**　0%

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 試験はオンラインで行う。日程については時期が近づいたら別途指示するが、平日の夜（21:00-23:00）を想定している。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	日本文法1　日本語文法の形態論を中心とした検討							
担当者名	森山　卓郎							
日文コース	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

「文法」といえばややこしいことを覚える分野と思われがちです。が、まったく違います。考えていくのは、「無意識に使っている日本語」に秘められた「規則性」の発見。

学校文法にも配慮しつつ、語形態を中心とした日本語文法の諸現象について検討します。「よんだ。書いた」のように「た」が「だ」になるのはどんな時かといった基礎的なところから、語と発音、品詞論の見直し、古典語文法と現代語文法の違い、現在の言語表現への応用、方言文法のおもしろさ、といった様々な観点まで、広く取り上げていきたいと思います。

現代共通日本語を中心としますが、適宜古典語や方言にもふれたいとおもいます。国語教育的な観点や日本語教育的な観点にも配慮します。※フルオンデマンドで実施します。

授業の到達目標

日本語文法の形態的側面について研究の現状の基本的事項を把握する。
あわせて学校文法などの知識もその問題も含めてたしかなものにする。

成績評価方法

●**試験**　15%　　授業での内容の理解を見ます。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　85%　　オンデマンドなので毎回の視聴による課題を重視します。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。 ふりかえり課題を講義時期終了近くに提示し、簡単な学びのチェックとしたいと思いますので注意して下さい。

科 目 名	日本文法2　文論							
担当者名	森山　卓郎							
日文コース	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

日本語文法研究の各種のトピックを、できるだけ包括的に、なるべく広い視点と関連させながら考えます。
※フルオンデマンドで実施します。
・例えば「おいしそうだ」と「おいしいようだ」「おいしいらしい」はどう違うのでしょう。日常言語の奥にある使い分けを考える記述的日本語研究の現状を概説しつつ、言語についての考え方を深めていくことを目指します。
・「は」「が」の使い分けなど、いろいろな問題を深めていきたいと思います。
・日本語教育の文法や国語教育の文法にも配慮します。
・授業にあたっては、受講者との対話や受講者どうしの対話を重視します。
・2は文論的なアプローチを中心とします。

授業の到達目標

現代語を中心とした文法研究現状を理解し、自分なりに文法的に言語表現について考えられるようにすること。

成績評価方法

●**試験**　15%　　ふりかえり課題で学びのあとを評価します。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　85%　　毎回の学習状況を重視します。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

オンデマンドですが、授業期間最終月に簡単なふりかえり課題を出していただき、学びのあとを評価したいと思います。

科 目 名	日本文学概論1　語り直される古典文学							
担当者名	中西　智子							
日文コース	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本授業では、日本の古典文学がいかにして読み継がれ、同時に語り直され、再生を繰り返してきたのかということについて、特に上代～中世の作品を例に、時代性とのかかわりの面から捉えます。講義を通じて、時代ごとの社会的・文化的な背景が人々

の古典文学の受容に与えた影響を概観します。その中で、「古典」とは何か、また「古典」を読む・知ることの意味とは何かといった問題を新たに考えてゆきたいと思います。

授業の到達目標

古典文学の内容と特質を認識した上で、その受容と時代性との連関の諸相を知り、日本文学の展開に関する深い理解を獲得することを目標とします。

成績評価方法

●**試験** 70% 第14回の授業で理解度の確認のための筆記試験を行います。
●**レポート** 0%
●**平常点** 30% 出席状況および毎回のレビューシート。
●**その他** 0%

備考・関連URL

レビューシートに対するフィードバックは翌週の授業冒頭で行います。レビューシートは出席の確認も兼ねているので注意すること。

授業の内容や順序は、多少変更する可能性があります。

対面授業を原則としますが、場合によりオンライン授業に切り替えることがあります。

講義

科目名	日本文学概論2 日本古典文学の創造・受容・研究							
担当者名	兼築 信行							
日文コース	2単位	秋学期	水曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

日本古典文学の作品がどのように創造され、受容されてきたか、またその研究の方法や成果を紹介しながら、前近代における日本文学を俯瞰し、その特徴について講義する。近代以降の文学、演劇や美術といった領域との関係などについても、言及をおこなう。本講義は、和田琢磨教授がオンデマンドで担当していた科目であるが、2025年度、同教授が特別研究期間適用のため、代購として兼築信行が対面により担当するものである。和田教授の講義内容にできるかぎり即したかたちで構成することを承知されたい。。

授業の到達目標

日本の古典文学の多様性について知見を獲得し、それが現代まで継承され、読み続けられていることについての深い理解に到達することを、到達目標とする。

成績評価方法

●**試験** 90% 第14回に実施する理解度の確認の得点が、6割以上でることを、単位認定の最低線とする。
●**レポート** 0%
●**平常点** 10% Waseda Moodleを使った課題などへの取り組みを評価する。
●**その他** 0%

科目名	日本文学史1（上代文学）							
担当者名	高松 寿夫 他／石丸 純一							
日文コース	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

日本上代文学（奈良時代以前の文学）について概説する。文献名でいえば、万葉集・古事記・日本書紀・風土記といったものが話題の中心となるであろうが、それらを個々にとりあげるのではなく、文学史の〈流れ〉といったものに配慮しながら、文献や作品どうしのつながりや時代性を重視した講義になる。

授業の到達目標

奈良時代以前の日本文学の流れについてひととおり理解する。併せて、文学史上の諸作品を、個々の作品としてとらえるだけではなく、ひとつの歴史的流れの中で捉える見方・態度を養う。

成績評価方法

●**試験** 50% 授業内容の理解度を総合的に確認する。
●**レポート** 0%
●**平常点** 50% 受講状況、毎回の授業時の「小テスト」の得点等。
●**その他** 0%

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科目名	日本文学史2（中古文学） 平安時代の文学史はいかに叙述されてきたか							
担当者名	陣野 英則							
日文コース	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

この講義では、「日本古典文学」という伝統的な学問分野を深く学びつつ、人間文化の本質に迫ってゆくために必要な学知の涵養をめざす。特に、平安時代の文学史を扱う。これまでの文学史の叙述において自明とされてきたことを見なおしつつ、おさえておくべき作品、人物、思潮などを整理する。 平安時代の文学は、「中古文学」とも「古代後期文学」とも「王朝文学」とも呼ばれてきた。しかし、講義担当者は、これら三つの呼び方のいずれに関しても積極的に用いることをためらいつづけてきた。その理由については、第1回の講義で話す。まずは、この呼称の問題を入り口にして、平安時代の文学のとらえなおしを試みる。

また、ここまで「文学」という言葉を当たり前のように用いてきたが、もちろん、平安時代の日本において近代以降に用いられる「文学」という概念はない。たしかに、文(ぶん・ふみ)、詩（からうた）、和歌（うた）、物語、日記などと呼ばれるものは古くからあった。ただし、それら個々のジャンルについても、一筋縄ではとらえきれない問題がある。

以上のような問題意識を常に保ちつつ、一方では平安時代の文学とその展開に関する基礎的な知識をしっかりと身につけられるよう配慮して講義する。

さらに、一連の授業の終盤では、近代以降、学問分野として重視されるようになった「文学史」そのものを批判的に検証してみる。

授業の到達目標

二つの目標がある。一つは、教科書的な平安時代文学史の刷新を心がけながら、必要な知識を身につけること、そしてもう一つは、近代以降において「文学史」が必要とされるようになった経緯をおさえた上で、「文学史」というものの今日的な意義を考えてみることである。

成績評価方法

●**試験**　50%　　最終回に実施する理解度の確認テスト（50点満点）による。理解度の確認テストは、書き込み式のファイルを配信し、時間を限って応答してもらうこととする。

●**レポート**　0%

●**平常点**　50%　　計三回の小テスト（各10点満点）、および計十回の簡単なクイズ（各2点満点）による。

●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

〈関連URL〉　国文学研究資料館　http://www.nijl.ac.jp/

科 目 名	日本文学史3（中世文学）							
担当者名	山吉　頌平							
日文コース	２単位	秋学期	木曜日	２時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

中世の日本文学史を扱います。「中世」「日本」「文学」という語のいずれも、明確な定義をするとなると簡単ではありませんが、そうした問題についても適宜取り扱う予定です。

授業の到達目標

中世の日本文学に関する知識の獲得と「文学史」に関して自分なりの考えや疑問を持てるようになることを目指します。難解な内容を扱うわけではなく、また、古文の基礎的な読解力があれば内容に不安を持つ必要はありません。

成績評価方法

●**試験**　70%　　教場試験

●**レポート**　0%

●**平常点**　30%　　出席率や参加態度を評価します（9回以上の出席を単位取得の必須条件とします）

●**その他**　0%

科 目 名	日本文学史4（近世文学）　近世日本漢詩文について―近代作家の漢詩趣味について―							
担当者名	池澤　一郎							
日文コース	２単位	秋学期	金曜日	２時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

近世から近代にかけての日本文学の一ジャンルとしての漢詩文を扱う。森鷗外、永井荷風、佐藤春夫、那珂秀穂、三好達治、石川淳、井伏鱒二の小説、エッセイや翻訳の中から、唐宋の漢詩や日本の漢詩を論評したものを選んで読む。しかる後に、菅茶山、頼春水、頼山陽、廣瀬淡窓、廣瀬旭荘、柏木如亭、大窪詩佛、菊池五山などのわかりやすく、興味深い題材内容お漢詩を選んで丁寧に読解する。

授業の到達目標

高校までの漢詩文には、訓点（句読点、返り点、送り仮名）がついていたが、ここでは白文の漢詩文を抵抗なく訓読できるようになることを目ざす。さらに餘力のある受講生は、草書行書の漢詩文を読めるようになってほしい。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない予定である。

●**レポート**　80%　　授業内容を反映するテーマでレポートを課すので、授業における理解度を受講生はレポートに反映させる必要がある。

●**平常点**　20%　　全体の三分の二程度の出席が望ましい。

●**その他**　0%　　とくにない。

科 目 名	日本文学史5（近代文学）　明治・大正時代の文学から日本の近代性を考える							
担当者名	鈴木　貴宇							
日文コース	２単位	春学期	火曜日	１時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

日本「近代」文学という名称は、すでにその中に考察に値する二重性を含んできます。第一に、「近代」という普遍的な歴史区分が用いられていながらも、実際には「明治」「大正」という、天皇制に基づく日本固有の時代区分が作品解釈の指標とされている点であり、次は「日本」という地理的限定を前提としながらも、そこには「近代性」が反映されているという点です。世界史の文脈では西洋に比べ後発の近代化を遂げた日本ですが、東アジアにあっては最も早く産業化を遂げ、また帝国という地政学的な拡大も経験します。それでは、そのとき「感情」や「思想」を言葉で表現する文学作品は、大きな社会的、文化変動の中で生きた当時の人々の葛藤や希望をどのように描いているのでしょうか。「文学史」という学問は、歴史と文学を相対させる試みですが、それは「文学」と「歴史」を固定したものとして解釈するのではなく、両者が接近し時には融合するダイナミズムを見るものです。先に指摘した「二重性」は、日本社会の近代化はじめに生きた文学者にとっては、「文体」の問題として大きく立ちはだかりました。やがてそれは、個人として自由を模索する欲動と、近代国家で生き抜くための社会規範に対する抵抗という「立身出世」の物語へ集約していきます。「近代」とは「移動の自由」を個人に与える時代であり、帝国として拡張する国家

の物語も必要とします。そのとき、作家たちはどのように「移動する個人」の物語を書こうとしたのでしょうか。本講義では、「移動」という近代の普遍性をテーマに、1880年代から1920年代半ば、明治20年代から大正末期までの文学作品を社会思想や文化状況との関連で考察していくものです。授業計画は以下の通りですが、受講者の皆さんの関心に応じて、適宜、変更する可能性もあります。

授業の到達目標

明治・大正という和暦を前提としてしまうことの問題は、日本国内だけで閉じた歴史を描いてしまうことです。1980年代半ばから始まった、学問領域を越境する学際的研究の展開によって、今日では西暦を用いることも増え、本講義も基本的には西暦にて考察していきます。世界との同時性はじめ、何よりも地政学的な視野を西暦での導入は可能にするからです。しかし、注意したいことは、学際性を過度に強調してしまった場合、それは普遍主義となり「日本」の文学という輪郭を把握することが難しくなります。「明治」「大正」「昭和」という区分により象られる「日本」近代文学と、1880年代から1920年代という世界史的な文脈で考察したときに見えてくる日本「近代」文学は、どのように異なるのか、受講生が自分の視点で考えられることを目標とします。それは、国際化の必要が盛んに議論されている時代にあって、「文学」を通して自分のアイデンティティーを考える作業でもあります。本講義が対象とする時代は、日本近代史の中でも、大きな変動期にあたります。その時代を生き抜いた人々の感受性を、作家の言葉から考えることは、「ポストコロナ」という、同じく社会変動期に生きる皆さんにとって、多くの示唆に富むものでもあると期待しています。

成績評価方法

●**試験**　0%　　本講義は試験は行いません。
●**レポート**　70%　　期末レポートを課します。1880年代から1910年代までの日本社会を対象に、各自、文学作品を選び、講義での知見をどれだけ反映しているかが評価対象となります。
●**平常点**　20%　　出席および受講態度で評価します。
●**その他**　10%　　毎回、出席カードの裏に講義に関するコメントを書いてもらいます。その内容で評価します。

備考・関連URL

教員の研究について関心を持たれた方はこちらをご覧ください。https://researchmap.jp/1930bauhaus/

科目名	日本文学史6（現代文学）　1920年代～2010年代の文学							
担当者名	鳥羽　耕史							
日文コース	2単位	秋学期	火曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

1923年の関東大震災にはじまり、日中戦争と太平洋戦争を経て、2011年の東日本大震災にいたる時代の文学の流れについて講義する。授業の中では、それぞれの時期の文学をプリントで紹介しつつ、文学史の展開を考えていきたい。

授業の到達目標

現代文学史の流れをつかんだ上で文学を読むことができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　70%　　現代文学史を理解した上で自分なりに文学の読解ができているか。
●**平常点**　30%　　毎回の講義に積極的に参加できているか。講義を理解してコメントが書けているか。
●**その他**　0%　　実施しない。

科目名	中国近現代文学史1（作品で読む中国20世紀文学）　作品で読む中国20世紀文学史							
担当者名	郭　済飛							
中文コース	2単位	夏クォーター	月4時限	木3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本科目は20世紀初頭から1930年代前半（日中戦争）までの中国近・現代文学の流れを概観します。

じつは、「近・現代」も「文学」も19世紀（すなわち近代以降）に形成された概念にほかなりません。では、新たに生まれた近・現代の「文学」とは、それまでの物語や詩とどう異なり、どんな特徴を持っているのでしょう。

講義では、実際に作品を読みながら、中国で「近・現代文学」がどのように誕生し、どのように変遷し、どのような課題を抱えてきたかを、最新の成果を交えて考察します。

文学テクストだけでなく、多様な資料を手がかりに、文学の「生産」「消費」「再生産」行為としての側面や、文学とともに中国の近・現代文化を構成している諸事象、社会的背景についても考察します。

児童文学・華人文学・映画・マンガ・アニメなどの関連分野、同時代の日本文学・世界文学との関わりにも言及することになるでしょう。対面授業を基本としますが、状況を見て、一部をリモートもしくはハイフレックスで行う可能性があります。

授業の到達目標

20世紀初頭から1930年代までの中国文学について、基本的な知識と概観できる視野を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　30%　　期末には、授業に出た作品、作家、または文学や文化事象について、自らテーマを確定して参考資料を探し、800字ほどのレポートを提出してもらう。
●**平常点**　70%　　出欠状況、授業態度、授業での報告、発言、議論などを基準に総合的に評価する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

※2か月で完結する授業です。週に2回行います。対面授業を基本とし、状況を見てzoomによるリアルタイム配信授業を併用します。詳細は授業開始前に連絡します。

原典はもちろん、翻訳も利用してできるだけ多くの作品に接し、自分なりの文学観・文学史観を形作っていただきたいと思います。活発な議論を期待します。

受講者は、あわせて秋学期（秋クォーター）科目「中国近現代文学史2」を受講することが望ましい。

関連URL:（中国近・現代文学作品の原文が読めるサイトの一部） 中国青少年新世紀読書網：http://gd.cnread.net/cnread1/（「文学」の項） 新語絲：http://www.xys.org/library.html 網絡新時代：http://www.mypcera.com/（「現代文学」「名家小説」の項）

科 目 名	中国近現代文学史2（作品で読む中国20世紀・21世紀文学） 作品で読む中国20世紀・21世紀文学史							
担当者名	郭 済飛							
中文コース	２単位	冬クォーター	月４時限	木３時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本科目は1930年代後半から今日までの中国近・現代文学の流れを概観します。

じつは、「近・現代」も「文学」も19世紀（すなわち近代以降）に形成された概念にほかなりません。では、新たに生まれた近現代の「文学」とは、それまでの物語や詩とどう異なり、どんな特徴を持っているのでしょう。

講義では、実際に作品を読みながら、中国で「近・現代文学」がどのように誕生し、どのように変遷し、どのような課題を抱えてきたかを考察します。

文学テクストだけでなく、多様な資料を手がかりに、文学の「生産」「消費」「再生産」行為としての側面や、文学とともに中国の近・現代文化を構成している諸事象、社会的背景についても考察します。

華人文学・ライトノベル・映画・マンガ・アニメなどの関連分野、同時代の日本文学・世界文学との関わりにも言及することになるでしょう。対面授業を基本としますが、状況を見て一部をリモートもしくはハイフレックスで行う可能性があります。

授業の到達目標

1930年代後半から現在までの中国文学について、基本的な知識と概観できる視野を身につける。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 30% 期末には、授業に出た作品、作家、または文学や文化事象について、自らテーマを確定して800字ほどのレポートを提出してもらう。
●**平常点** 70% 出欠状況、授業態度、授業での報告、発言、議論などを基準に総合的に評価する。
●**その他** 0%

備考・関連URL

※2か月で完結する授業です。週に2回行います。対面授業を基本とし、状況を見てzoomによるリアルタイム配信授業を併用します。

原典はもちろん、翻訳も利用してできるだけ多くの作品に接し、自分なりの文学観・文学史観を形作っていただきたいと思います。活発な議論を期待します。

受講者は、春学期（夏クォーター）科目「中国近現代文学史1」を受講していることが望ましい。

関連URL: 中国近・現代文学作品の原文が読めるサイトの一部） 中国青少年新世紀読書網：http://gd.cnread.net/cnread1/（「文学」の項） 新語絲：http://www.xys.org/library.html 網絡新時代：http://www.mypcera.com/（「現代文学」「名家小説」の項）

科 目 名	中国幻想怪異小説史							
担当者名	岡崎 由美							
中文コース	２単位	夏クォーター	無	フルOD	２年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

小説史は名作を時系列で覚えることではありません。ある文化に内在する価値基準や文化規範に基づいて、文化の生成と変容を体系化する行為の一部となります。幻想と怪異は、人とそれを取り巻く天地自然の環境との関りや、人そのもののあり方一生死や人生を解釈する方法のひとつであり、中国文化の価値観を反映して、現代まで継承されています。従って、本講義では、時系列順の小説形成史の形式は取らず、幻想と怪異をテーマとして、文学作品に現れた文化規範や価値観の特徴を14回のトピックとして講義します。具体的には授業計画をご覧ください。 本講義はいわば現実離れした奇想の系譜を辿ることになりますが、本講義と隔年で設置された「中国歴史世情小説史」は、現実社会の様相を直接的に反映するものとして、歴史ものや世話物のジャンルを取り上げ、本講義と併せて中国古典小説史を形成します。両方を受講すると一層中国古典小説の特色が理解できます。

また、本講義で取り上げる中国小説は日本文学にも大きな影響を与えています。例えば、江戸の読本（よみほん）の形成は中国古典小説を抜きにしては語れません。日本文学・文化を振り返る視点からも、中国の小説に目を向けて欲しいと思います。

授業の到達目標

中国の小説史の特徴やその背景となる文化規範を体系的に理解する。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 60% 学期末レポート
●**平常点** 40% 出席点と作品レビューなど
●**その他** 0%

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	中国語学史2 漢語の歴史的変遷を体感しよう							
担当者名	荒木 典子							
中文コース	２単位	秋クォーター	無	フルOD	２年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

この講義では中国語（漢語）、特に白話と称される口頭語の歴史的変遷を学びます。元代（14世紀）から遡り、実例に基づいて漢語の語彙、語法における変化を体感します。

文献を講師の解説のもとで読み進めながら、現代語との違い、書き言葉とは異なる白話の特徴や役割を学びます。
本講義で用いる文献は、経書の解説書、戯曲、語り物のシナリオ、語録、正史ではない歴史書などいろいろなジャンルのものを読みます。文言が正統という価値観の中で、どのような場合に白話が現れるのか、現在の標準語ができるまでにどのような取捨選択があったのかを考えながら読んでください。

授業の到達目標

・文言とは少し異なる白話または文白混交の文体が読めるようになる。
・漢語とその周辺言語の接触について理解が深まる。
・現在の普通話の成り立ちが、歴史的経緯の偶然であり、ほかの姿もあり得たことを知る。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　50%　　課題は授業内およびWaseda Moodle内で指示します。①漢語口頭語史の研究に必要な資料には何があるか、②それぞれどんな言語的特徴があるか、③それらは漢語史上どのような位置づけであるか、が理解できているかどうかを評価します。
●**平常点**　50%　　各文献を読み終わった回において、自身の理解度や質問事項を　Waseda Moodle　に入力してもらいます。
●**その他**　0%　　行わない。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。 なお、1年以上の中国語履修経験もしくはそれと同等の中国語力が必要です。

講義

科 目 名	中国比較文化論1（中国民族文化の諸相(南部編)）							
担当者名	廣田　律子							
中文コース	2単位	春クォーター	月4時限	無フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[対面] ハイブリッド[対面授業等制以上]

授業概要

多様な学問・文化・言語・価値観の交流を育む教育（ディプロマポリシー）を実現するために本講では中国の民族文化について日本の民族文化と比較する観点から明らかにする。
中国は歴史的に漢字・漢文化を紐帯とし遊牧民族と農耕民族が王朝交替を繰り返し多様な文化を醸成して現在に至っている。多民族国家中国は漢族を中心に50を超える少数民族が存在し、多くは周辺地域、特に南部に居住している。中でも本講では中国および東南アジア大陸部に居住する瑤族（ヤオ）の生活信仰文化を事例として取り上げる。
歴史的に見れば日本民族も漢民族の周辺民族と位置付けられる。この点では瑤族と日本民族は共通しているといえる。瑤族と日本民族の生活信仰文化を比較することで漢族を中心とする東アジア世界の文化の交流の実態に焦点を当てて論じる。

授業の到達目標

受講生は本学の教育理念に照らして東アジアの中で自己の文化を位置付けられるようになるための知識を習得する。

成績評価方法

レポート：30%　第14回の対面時課題についてレポート（1600字以上）を提出。
その他：70%　対面時毎回の小レポート（300字以上）を提出。

備考・関連URL

小レポートおよびレポートはコメントを付し返却する。

科 目 名	中国比較文化論2							
担当者名	廣田　律子							
中文コース	2単位	秋クォーター	月4時限	無フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[対面] ハイブリッド[対面授業等制以上]

授業概要

多様な学問・文化・言語・価値観の交流を育む教育（ディプロマポリシー）を実現するために本講では中国の文化について日本の文化と比較する視点から明らかにする。
アジアは芸能の宝庫である。アジアの芸能は、種々な表現様式、形態で伝承され、伝承する民族の文化や風土を反映している。芸能は本来神を祀る祭祀の場から発生し、神を招き、神を喜ばせる表現であり、信仰と切り離すことはできない。本講では、能や歌舞伎といった舞台を上演の場とし、「型」によって身体表現が定型化・様式化されている、伝統芸能の対極にある、祭りの場で上演される民俗芸能を取り上げる。祭りの場では、人々の希求する祓い清めや招福を意図する祭祀が執り行われ、神と人が一体となり跳躍や旋回の舞踊が行われ、招き寄せられた神々の素性が歌われる。ここには人々の精神文化が顕現されている。東アジアの中国・日本の民俗芸能を比較し、どのように神が祀られ、どのように身体表現が行われ、どのように伝承されているか、アジアの視点からアプローチを試み、アジアの人々の精神世界を明らかにしたい。

授業の到達目標

受講生は本学の教育理念に照らして東アジアの中で自己の文化を位置付けられるようになるための知識を習得する。

成績評価方法

レポート：30%　第14回の対面時課題についてレポート（1600字以上）を提出。
その他：70%　対面時毎回の小レポート（300字以上）を提出。

備考・関連URL

小レポートおよびレポートはコメントを付し返却する。

科 目 名	中国伝統演劇概論　現代中国の伝統演劇							
担当者名	岡崎　由美							
中文コース	２単位	春クォーター	無	フルOD	２年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

フルオンデマンド授業で実施する。 京劇を中心に、現代も演じられている伝統演劇を対象とし、形式や役柄、音楽、歌唱、パントマイムや立ち回りから衣装や小道具、舞台装置、劇場まで含め上演のあり方を見渡して、伝統演劇の本質的なコンセプトを理解し、全体的なイメージを形成することを目的とする。そのため、伝統演劇独特の舞台のあり方を生み出した文化的背景や演劇に対する考え方にも言及する。

授業の到達目標

（1）現代中国の伝統演劇の概要を理解する。
（2）現代演劇と伝統演劇を相対的に見る目を養う。
（3）アジアの演劇を多様な視点から眺める契機を作る。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　60%　　学期末レポート
●**平常点**　40%　　出席状況を対象とする。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連ＵＲＬ

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	中国詩歌概論1（古代の詩歌と文化）							
担当者名	紺野　達也							
中文コース	２単位	冬クォーター	無	フルOD	２年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

【重要】本授業は、全回オンデマンドで実施する。
中国古典詩（漢詩）は中国を代表する文学形式の一つであるとともに、漢字文化圏に広く波及した。この授業では、『詩経』から唐詩までを主に取り上げる。作品を鑑賞、分析して、中国古典詩とその文化的背景に対する基礎的な知識を修得するとともに、それを考えるにあたっての諸課題を提示する。
※本講義は、取り上げる作品等、中国詩歌概論2（唐詩を読む）と一部内容的に重複する部分があります。当該科目を受講済みの学生はご留意ください。

授業の到達目標

・『詩経』から唐詩までの中国古典詩（漢詩）を鑑賞、分析することで、それらに対する基礎的な知識を修得する。
・個別の詩人の生涯や詩風、文化的背景や研究上の課題を多角的に理解することで、中国古典詩全体への理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　一過性の試験は実施しない。
●**レポート**　70%　　授業時にレポートの課題を提示する。
●**平常点**　30%　　出席および授業態度、コメントシートで評価する。（三分の二以上の出席を要す）
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連ＵＲＬ

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	英文学講義Ideas in Context1　19世紀イギリス小説とめぐる旅							
担当者名	皆本　智美							
英文コース	２単位	春学期	無	フルOD	２年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

文学作品は作品が生み出される土地やその環境と深い関係にあることが多い。本授業では19世紀のイングランドで書かれた小説を中心に、その小説とゆかりのある場所について解説し、両者の関係について考察を深めてもらう。19世紀に大きな変化を遂げたイギリスの各地をめぐることによって、社会変化とともに変容する小説の様態についても知識を深めてもらいたい。

授業の到達目標

社会変化と小説の様態についての知識を修得し、小説と「場所」の関係について考察を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　0%
●**レポート**　40%　　授業中にレポート課題を指示し、授業内容の理解度を中心に評価する。
●**平常点**　60%　　授業への積極的な参加。
●**その他**　0%　　0%

備考・関連ＵＲＬ

オンデマンド授業を主とする。詳細は授業中にアナウンスする。「授業計画」で記した各項目は、扱うテクストや授業進度によって、若干の変更が加えられたり順序が前後したりする場合があるが、その場合は授業中にアナウンスする。

科 目 名	英文学講義Ideas in Context2　アメリカの短編小説を英語で読む							
担当者名	都甲　幸治							
英文コース	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

19世紀から1970年代までのアメリカ作家たちが書いた短編を毎週読みながら、アメリカ文学を読むとはどういうことかを考えていきたい。

授業の到達目標

アメリカ文学の面白さを体感する。

成績評価方法

レポート70%平常点30%

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	英文学講義Ideas in Context3　アメリカのロマン主義							
担当者名	堀内　正規							
英文コース	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

この講義では、19世紀のいわゆる「アメリカン・ルネサンス」と呼ばれるアメリカ文学について、ロマン主義という大きな時代の文脈の中で紹介しながら、重要なポイントをつかみとってもらいたいと思います。オンデマンド授業の特質を生かして、大事なところを繰り返し視聴したり、一時停止で立ち止まったりして内容を把握していただけるといいのですが。

19世紀半ばのアメリカ合衆国には、たとえば「黒猫」や「アッシャー家の崩壊」で知られるエドガー・アラン・ポーや『緋文字』の作者ナサニエル・ホーソーン、『白鯨』を書いたハーマン・メルヴィル、『自然』をはじめとしたエッセイで有名なラルフ・ウォルドー・エマソンや『ウォールデン』のヘンリー・D・ソロー、『草の葉』の詩人ウォルト・ホイットマンや、生涯ほとんど作品を公けにせず、自宅の敷地から一歩も外に出ないで1800近くの詩を書き続けたエミリー・ディキンスンなど、きわめて重要な書き手たちがいっせいに登場しました。

それは、18世紀終盤にアメリカ合衆国がイギリスから独立してまだそれほど間もない時代の、いわばアメリカ独自の文学の最初の（といってもいい）豊かな実りでした。（彼らの多くは南北戦争後まで書き続けましたが、この授業の中心になるのは南北戦争以前になります。）

その世界は罪や悪といったダークなものから、人間のnatureに善なるものを見て、おおらかにどこまでも広がる世界を歩むような明るいものまで、実にコントラストに富んでいます。

いずれも、いま在る〈ありのまま〉の社会（世界）の現状には満足できず、想像力の世界、紙の上の世界で理想をとことん追求するような、〈反 - 現実〉の側面を強く持っています。それはある意味では、アメリカ合衆国建国の理想が実現されていない現状の社会の在りように対する批判でもあり、〈ここではないどこか〉から現実を逆照射するような機能を持っていました。

本講義では、こうした書き手たちの主要なテクストの「極めつけ」のところを原文で紹介しながら、「自然」、「想像力」、「革命」、「民主主義」といった言葉をキーワードとして、今のアメリカにもつながる〈原点〉のようなものを提示したいと思います。

出席は講義を視聴した感想を100字以上でMoodle上に書いていただくことで可とします。

授業の到達目標

19世紀アメリカ文学についての理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はしません。
●**レポート**　50%　　授業で出された論点を理解しているか、自分なりの視点を持っているか、論理的に書けているか。
●**平常点**　50%　　出席は10回以上を必須とします。毎週期限を区切って公開するので、公開期間中に視聴してください。毎回、課題として感想を400字以上で書いていただき、それを評価の対象とします。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

オンデマンド講義となります。出席として、動画を視聴した感想を、毎回課題として書いてください。

科 目 名	英文学講義Ideas in Context4　原文読解を通じてアメリカ現代詩の世界を探る							
担当者名	山内　功一郎							
英文コース	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

この授業では、1950年代から現代にかけて登場したアメリカ詩人たちの代表作を原文の英語で精読し、アメリカ詩が「いまここで」（here and now）どんな意義を持っているかを探る。履修者の皆さんには英文資料を熟読してもらい、さらに日本語訳の作成等も行ってもらうことになるだろう。なお対象となるアメリカ詩人たちの属するグループは、概ね次のとおりである：

① ビート・ジェネレーション
② 告白詩・ニューヨーク派等
③ 現代の詩人の詩と批評

講義科目の範囲内でできるだけ双方向的な授業を展開できればと考えている。学期中にレポートを提出してもらうことになるので、履修者の皆さんが授業の中で知識を吸収すると共に、能動的に自論を展開するよう促したい。

授業の到達目標

・英語で書かれた詩（または英訳された詩）を正確に読み解く力を身につけること。
・英文の批評を原文で読み解き、作品解釈に役立てる力を習得すること。
・オリジナルな解釈を確立し、それを効果的に表現する文章能力を身に着けること。

成績評価方法

平常点50%、レポート50%。平常点は出席、授業時に行うコメントペーパー等を含む。出席10回を必須とする。

備考・関連URL

＊基本的にこの講義は、Moodleを介した資料の事前配布によって実施します。
＊ただし学期を通じてバランスよく段階的に講義内容を理解してもらうために、**各授業回で締切日時を設定し、皆さんからミニレポートを提出していただきます。** そして**ミニレポートの期限内の提出をもって、各授業回の「出席」とします。**
＊資料はMoodleによって次のように配布します。
・授業用資料を毎週火曜日の午前10：40までにアップします。
・予習用資料を前週火曜日の正午までにアップします。
＊基本的に英文資料を原文で読解する授業です。日本語訳や要約などにも取り組んでもらいます。

科 目 名	英文学講義Ideas in Context5　世界文学の短編を英語で読む							
担当者名	都甲　幸治							
英文コース	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

文学作品はヨーロッパやアメリカ、東アジアだけで書かれているのではない。広くアジア地域、中南米、アフリカ諸国などの作家たちが書いた4ページから12ページほどの短編を毎週読む。Daniel Halpern, ed. *The Art of the Tale*. Penguin, 1986. .から選んだ作品を扱いながら、世界文学を読むとはどういうことかを考えていきたい。

授業の到達目標

世界文学の面白さを体感する。

成績評価方法

レポート70%、平常点30%。

備考・関連URL

授業はすべてmoodle上の動画で行う。

科 目 名	英文学講義Ideas in Context6　ジョージ・スタイナーに學ぶ							
担当者名	岡田　俊之輔							
英文コース	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

本講義は全回オン・ディマンドにて實施する（が、木曜2限配信を目安とする）。
『トルストイかドストエフスキーか』（1959）、『言語と沈默』（1960）、『悲劇の死滅』（1961）、『青鬚の城にて――文化の再定義に向けての若干の覺書』（1971）、『バベル以降』（1975）、『眞に現前するもの』（1991）等の著者であり、つい最近まで精力的に批評活動を續けてゐたジョージ・スタイナー（1929-2020）の諸論攷を讀む。文學と文化に關する本質的思索の所産である彼の批評文はいづれも、現代文明に對する強烈な危機意識に裏打ちされてをり、袋小路に陷つた感のある徒に難解で不毛な現代の文學批評（家）に反省を迫る、生きた文章と言へる。そこでは、例へば以下のやうな事が論じられてゐる：
・教養は野蠻に對する防波堤たりうるか？
・言葉の空洞化・無效化の進行
・「大いなる物語」の消滅による現代社會の平準化と斷片化
・ホロコーストはヒットラーがゐなければ起らなかつたか？
……等々。

授業の到達目標

スタイナーを手掛りにして「歴史」「傳統」「古典」等についての理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　90%　　Waseda Moodle より提出
●**平常点**　10%　　参加度、等
●**その他**　0%

備考・関連URL

課題提出等については Waseda Moodle上の通知に注意すること。

科 目 名	英文学特殊講義1　原文読解を通じてカリフォルニア詩の世界を探る							
担当者名	山内　功一郎							
英文コース	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

20世紀以降のアメリカ詩を語るなら、カリフォルニアの詩人たちによる作品と思想に触れない訳にはいかない。文壇やアカデミズムの世界が東海岸ほどエスタブリッシュされていなかった西海岸は、それ故に既成概念にとらわれない「新しいアメリカ詩」が誕生する震源地となったと言えるだろう。この授業では、Kenneth Rexroth から現在活躍中の詩人たちまでを取り上げ、カリフォルニアにおいてどのように詩の運動が生まれ、詩の世界が形成されていったかを探る。講義科目の範囲内でできるだけ双方向的な授業を展開できればと考えている。学期中にレポートを提出してもらうことになるので、履修者の皆さんが授業の中で知識を吸収すると共に、能動的な自論展開を進めるよう促したい。

授業の到達目標

・20世紀以降のアメリカ詩に親しみ、その展開と詩人の多様性について一定の理解を得ること。
・英語の原典を正確に読解する能力を身に着けること。

・英文の批評を原文で読み解き、作品解釈に役立てる力を習得すること。
・オリジナルな解釈を確立し、それを効果的に表現する文章能力を身に着けること。

成績評価方法

平常点50%、期末レポート50%。平常点は出席、コメントペーパー等を含む。出席10回を必須とする。

備考・関連URL

＊各授業回ごとに締切を設定し、ミニレポートを提出してもらいます。そしてミニレポートの期限内の提出をもって、各授業回の「出席」とします。
＊基本的に英文資料を原文で読解する授業です。原文朗読、日本語訳や要約などにも取り組んでもらいます。
＊期末レポートは次の点を評価します：①授業で学んだ論点を理解しているか②独自な視点を持っているか③論理的に記述できているか。

科 目 名	英文学特殊講義2　T. S. エリオットの代表的な批評を讀む							
担当者名	岡田　俊之輔							
英文コース	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル【オンディマンド】

授業概要

本講義は全回オン・ディマンドにて實施する（が、金曜2限配信を目安とする）。
「傳統と個人の才能」（1919）から『文化の定義に向けての覺書』（1948）へと至る、20世紀英米文壇の雄T. S. エリオット（1888-1965）の代表的な批評を丹念に讀む。批評の對象は、初期に於ては專ら文學それ自體であるが、徐々に變遷して、後年は廣く現代社會の諸問題に及ぶ。文學と文化に關する本質的思索の所産であるエリオットの批評文はいづれも、現代文明に對する強烈な危機意識に裏打ちされてをり、袋小路に陷つた感のある徒に難解で不毛な現代の文學批評（家）に反省を迫る、生きた文章と言へる。さういふ文章を讀む事によつて吾々現代日本の讀者も、現代に於て自明の理とされてゐる事どもを一旦は疑つてみる事を餘儀なくされるであらう。

授業の到達目標

エリオットを通して西洋文化の本質に觸れる事を目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　90%　　Waseda Moodle より提出
●**平常点**　10%　　参加度、等
●**その他**　0%

備考・関連URL

課題提出等については Waseda Moodle上の通知に注意すること。

科 目 名	英文学特殊講義3　シェイクスピアの悲劇と喜劇							
担当者名	梅宮　悠							
英文コース	2単位	秋学期	木曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

【本授業は2024年度までオンデマンドでしたが、担当者の変更に伴い2025年度以降は対面で行われます】
シェイクスピアの戯曲は歴史劇、悲劇、喜劇の三種類に加えて問題劇やロマンス劇のジャンルがあるが、内容としては喜びか悲しみに終わる2種類に大別される。しかし、終始笑いに溢れているわけでもなく、悲哀に沈んでいるわけでもない。ハッピーエンドにもどこか影が残り、バッドエンドにも前向きな展望がほの見える。シェイクスピア劇の特徴こそが我々の人生をそのまま映しているのではないだろうか。勝者あれば敗者もあり、成功の裏には失敗が、未曾有の惨事も復興の希望に転じていく。本講義ではシェイクスピアの作品のいくつかを紹介しながら、そのような世の中の明暗に敏感な感性を育んでいきたい。
授業では、舞台・映画の映像を使いながら視覚的に要点のイメージを提供し、台詞の細かな解釈を多面的に展開してく。これによって「言葉」の表面上の意味を越えた深い暗示を知覚する力と、優れた修辞法の理解力とを同時に深めてもらえたら幸いである。何よりも先入観や固定観念を脱し、自由な想像力で作品に向かい合い、古典作品に残されて現代にも通じる普遍性を堪能してもらいたい。

授業の到達目標

・シェイクスピアの劇について、非喜劇に含まれる諸要素を知り、読み解く力をつける。
・シェイクスピアの非喜劇の解釈を通じて、物事の二面性を理解する。

成績評価方法

試験: 0%　　なし
レポート:　0%　　なし
平常点評価: 100%　　出席と授業時のコメントによる。
その他: 0%　　なし

備考・関連URL

シェイクスピアの戯曲にこれまで触れてこなかった学生さんも、より深く読んでみたいという皆さんも、また現代の問題を文学から読み解くアプローチに興味がある諸君も歓迎します。

科 目 名	英文学特殊講義4　英語と日本語で世界文学の名作をつまみ食いする							
担当者名	栩木　伸明							
英文コース	2単位	秋学期	金曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この講義では、世界文学の〈名作〉と見なされている作品のサワリをたくさん読む。ホメロス、サッポー、オウィディウス、『古事記』、ダンテ、シェイクスピア、デフォー、エミリー・ブロンテ、メルヴィル、ホーソーン、ポー、ボードレール、ツルゲー

ネフ、カフカなど、誰でも知っている（はずの）作家の作品（のごく一部分をつまみぐいするように）（英語作品以外は英訳で）読み、邦訳と照らし合わせていく。どうしても英語圏の詩が中心にはなるけれど、国で括ることはなるべくしないで、英語で文学テクストを読むコツを一緒に学んでいきたい。テクストの手強さや詩の長さに応じて進度は流動的になるので、授業計画はあくまで予定である、と理解していただきたい。ハーバード大学の比較文学者デヴィッド・ダムロシュいわく、「世界文学とは翻訳を通して豊かになるものである」。このことばをモットーとしてひとつひとつの詩から多様な魅力を引き出していけたら、と思っている。なお、教科書には1ページ程度の英語テクストに拙訳と解説をつけ、50作品を集めたアンソロジーを用いる。

授業の到達目標

文学テクストをより深く読めるようになるためには、流し読みしない忍耐を身につけ、語学的な理解力と字面の奥を見通す感性を臨機応変に発動させる機敏なセンスが必要である。この講義では、文学テクストを批評的にとりあつかう〈建築家〉となるための準備段階として、まずはマテリアルを熟知した〈大工〉になれるよう、みなさんに必要なスキルを身につけてもらうことを目的とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし

●**レポート**　70%　　この授業のレポートとしては「日本語英語対訳による世界文学つまみ食いアンソロジー」を作成してもらう。そのアンソロジーがオリジナルな作品として、内容・形式ともに整っているかどうかを評価する。

●**平常点**　30%　　出席回数（3分の2以上を必須とする）を評価する。

●**その他**　0%　　なし

科目名	イギリス文学史1　イギリス文学とは何か							
担当者名	栩木　伸明　他／梅宮　悠／桑子　利男／皆本　智美／吉田　雅之							
英文コース	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

イギリス文学と一口に言っても対象とする作品はきわめて多く、また連綿と今に続く長い伝統がある。この授業ではその中から代表的な、またこれをぜひ知ってほしいという作品・作家を取り上げ、イギリス文学を概観する。まずチョーサーの時代から始めて、シェイクスピア、ミルトン、コールリッジ等を経て、18世紀、19世紀の小説へと至る大きな流れを、各専門分野の教員がリレー方式で講義してゆく。それぞれの講義内容は以下の「授業計画」を参照のこと。

授業の到達目標

イギリス文学を広く、深く理解することが最終目標である。本目標を達成するために、時代別、ジャンル別に各講義を配し、全体としてイギリス文学とはどのような特徴を持つものなのかを理解できるようにしてゆく。

成績評価方法

各担当教員がおこなう授業への参加度、課題・小テストの評価などを集計し、総合的に評価する。期末試験や期末レポートはない。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科目名	イギリス文学史2　イギリス文学とは何か（続）							
担当者名	栩木　伸明　他／梅宮　悠／岡田　俊之輔／渡辺　愛子							
英文コース	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

イギリス文学の大きな流れを、各専門分野の教員がリレー方式で講義する。

授業の到達目標

イギリス文学を広く、深く理解することが最終目標。

成績評価方法

各担当教員がおこなう授業への参加度、課題・小テストの評価などを集計し、総合的に評価する。期末試験や期末レポートはない。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科目名	アメリカ文学史1　17世紀から20世紀初めまで							
担当者名	堀内　正規　他／チャン　エドワード　ケイ／山内　功一郎							
英文コース	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

17世紀から20世紀初めまでのアメリカ文学について、複数の教員が交替で講義します。

一回ごとに代表的な詩人、作家、思想家を取り上げ、主要な著作を紹介します。

注目すべき出来事、社会情勢、文学運動などにもふれながら、作品や作家がアメリカの歴史や社会のどんな文脈において理解されるべきかを示します。アメリカ文学のいろいろな作家・詩人たちの魅力への入門的な内容です。

ここで知ったことから、できればみなさんがそれぞれの関心を伸ばして、広いアメリカ文学の世界に入っていってください。

オンデマンド講義なので、毎回公開期間中に講義を視聴して、感想を100字以上（英語の場合は200単語以上）で課題として書いていただきます。動画の公開期間は2週間で、毎週1回ずつ順番に公開が始まります。

授業の到達目標

アメリカ文学の基礎知識を学びながら、単なる名前の羅列ではなく、連続性や断絶の歴史としてイメージできるようになること。アメリカ文学の多様な世界への入門を通じて、更に広い世界に興味がわくようになること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。

●**レポート**　50%　　講義でとりあげたものについて、テキストを読んでいるか、自分の考えがあるか、論理性があるか。
●**平常点**　50%　　出席（課題）、10回以上を必須とする。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連ＵＲＬ

オンデマンド講義。出席は動画を視聴した感想を課題として書いていただきます。

科 目 名	**アメリカ文学史2**　20世紀初め以降のアメリカ文学							
担当者名	堀内　正規　他／チャン　エドワード　ケイ／都甲　幸治／山内　功一郎							
英文コース	２単位	秋学期	無	フルOD	２年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

20世紀初めから以降のアメリカ文学について、複数の教員が交替で講義します。

一回ごとに代表的な詩人、作家、思想家を取り上げ、主要な著作を紹介し、注目すべき出来事、社会情勢、文学運動などにもふれながら、作品や作家がどんな文脈において理解されるべきかを教えます。さまざまな作家、詩人、作品への入門的な役割を果たします。

基本的には「アメリカ文学史1」と連続した講義ですが、これだけを履修してもかまいません。

オンデマンド講義なので、公開期間中に課題として感想を100字以上（英語の場合200単語以上）で書いていただきます。公開は毎週1回ずつ順番に開かれます。期間は2週間なので、ご注意ください。くわしくはアナウンスメントによってお知らせをします。

授業の到達目標

アメリカ文学の基礎知識を学びながら、単なる名前の羅列ではなく、連続性や断絶の歴史としてイメージできるようになること。アメリカ文学の多様な世界への入門を通じて、更に広い世界に興味がわくようになること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　50%　　講義でとりあげたものについて、テキストを読んでいるか、自分なりの考えがあるか、論理性があるか。
●**平常点**　50%　　10回以上必須とし、課題を提出していただきます。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	**英米比較文化論1**　American Subcultures							
担当者名	チャン　エドワード　ケイ							
英文コース	２単位	春学期	金曜日	２時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course will provide an introductory survey of a variety of different subcultures in the United States in categories such as entertainment, music, lifestyle, sports, etc. I am NOT an expert on most of these subcultures; thus, our goal is to begin to understand the many other aspects of America beyond mainstream culture connected to the chosen subcultures and hopefully spark students' interests in further researching these subcultures. The course will be conducted entirely in English.

授業の到達目標

Students will learn at an introductory level about various American subcultures, and how to study popular culture in an academic fashion. Students will also develop their English-language reading, writing, listening, and discussion skills.

成績評価方法

(subject to change)
Two exams: 60%
Presentation: 30%
Participation/In-class activities/Attendance: 10%
TOTAL: 100 %

科 目 名	**英米比較文化論2**　グローバル化（とその終わり？）から見直すイギリス文学・英語文学							
担当者名	大谷　伴子							
英文コース	２単位	秋学期	金曜日	４時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

旧来のナショナルなイギリス文化論・文化史を批判的に学び直すことにより、ローカル／グローバルな英米文化の歴史的展開・空間的転回の過程を学び、19世紀以降の英国演劇とショップ・ガールすなわち大衆化時代の米国型小売業（デパートメント・ストアやチェイン・ストア）を中心に取り上げる。その過程で、21世紀現在のグローバル化する多国籍企業とその文化の意味にも目を向けながら、文化の多様性および異文化交流の意義について、体験的に、理解する。

授業の到達目標

19世紀以降の英国演劇とショップ・ガールすなわち大衆化時代の消費文化の歴史に関するいくつかのテクストついて、ナショナルだけでなく、ローカル／グローバルにも、理解することができる。

成績評価方法

●**試験**　50%　　期末に実施する理解度の確認の結果あるいはその代替となる期末レポート
●**レポート**　30%　　中間レポート
●**平常点**　20%　　主体的な授業参加度(出席と小テストなどの提出物を含む)
●**その他**　0%　　その他

備考・関連URL

講義資料や課題提出については、WasedaMoodleを通じて提示する予定。
また、コロナ等の状況によっては、リアルタイム配信による授業を実施する可能性もある。
質問等は、授業時に受け付けます。
文学・文化と経済・政治（マネー・パワー）との対立・区別をフレキシブルに乗り越えながら、英国・ヨーロッパの初期近代の過去とグローバル化とネオリベラリズムに特徴づけられる21世紀現在との関係についての歴史的センスを、少しでも身につけるよう関心をもってほしい。

科 目 名	英語の歴史1							
担当者名	堀　美里							
英文コース	2単位	春学期	木曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業では、*Essentials of Early English: An Introduction to Old, Middle, andEarly Modern English*をもとに、英語の歴史を通時的に学びます。ブリテン島の歴史を学びながら、英語がどのような起源を持ち、どのように変化してきたのか、または変化せずに残っている特徴はどのようなものか、語彙、文構造などの言語的特徴のみならず、どのように言語が記録され、どのような文字で、どのようなかたちで残されているのかというフィジカルな側面にも光を当てることを目標とします。
春学期は主に、古英語(700-1100年、Old English)の文法を学び、実際に聖書や文学作品を読むことに挑戦します。また、J. R. R. トールキンの『ホビットの冒険』を主に読み、古英語の文学作品が現代英文学に与えている影響についても考えます。
古英語は現代英語とまったく異なるように思えますが、言語・文学的着想という両方の点において、その歴史の延長線上に現代英語、現代の人々の文学的基盤があるのだということを知ることを目指します。

授業の到達目標

この授業では、古英語から初期中英語(古英語の終わりから中英語への転換期)までの英語の言語的変化を観察し、実際にテクストを読んで、英語の歴史の理解を深めることを目標とします。同時に、現代の作品への影響も合わせて知ることを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　70%　　古英語から初期中英語への過渡期までの英語史に関する知識および古英語・古英語文学に関する理解度、トールキンの『ホビットの冒険』との関係性に関する理解度および古い文体についての理解度
●**レポート**　15%　　授業の内容と関連する英語史的テーマの選択、分析力・考察力を評価
●**平常点**　15%　　授業における貢献、予習の完成度および出席
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	英語の歴史2							
担当者名	堀　美里							
英文コース	2単位	秋学期	木曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業では、Essentials of Early English: An Introduction to Old, Middle, and Early Modern Englishをもとに、英語の歴史を通時的に学びます。ブリテン島における文化史を学びながら、英語がどのように変化してきたのか、または変化せずに残っている特徴はどのようなものか、語彙、文構造などの言語的特徴のみならず、どのように言語が記録され、どのようなかたちで残されているのかというフィジカルな側面にも光を当てることを目標とします。特に中世後期には印刷技術の導入によって書物の大量生産が可能になりました。しかし、「正しい英語」が定着するまでには、辞書の編纂というプロジェクトの登場を待つ必要がありました。
秋学期は、古英語をさらったうえで中英語(1100-1500年、Middle English)へどのように変化したのか、文法や文構造を学び、実際に文学作品を読むことに挑戦します。英詩の父とうたわれるジェフリー・チョーサーの『カンタベリー物語』より「バースの女房の話」を読みます。また、中世英語ロマンス『オルフェオ卿』を読むことを予定しています。
初期近代英語の時代を迎えると、かなり現代英語に近いものになってきます。世界共通語としての英語についても、資料を用いて議論します。

授業の到達目標

この授業では、初期中英語から初期近代英語の言語的変化を観察し、実際にテクストを読んで、英語の歴史の理解を深めることを目標とします。同時に、現代英語にいたるまでの道のりや英語のこれからについて、論文を読みながら考えて議論することを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　70%　　中英語から現代英語までの英語史に関する知識および後期中世英文学、その後の文学や文学史に関する理解度、英語の今と今後について考えるための知識や論点の理解度
●**レポート**　15%　　授業の内容と関連する英語史的テーマの選択、分析力・考察力を評価
●**平常点**　15%　　授業における貢献、予習の完成度および出席
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	英語学1　英語のなりたちと英文法の実相を知る							
担当者名	森田　彰							
英文コース	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

設置学部のディプロマポリシーに基づき、本講座「英語学」では、春学期（英語学2）、秋学期（英語学2）を通じ言語としての英語の姿を浮き彫りにし、文化的背景も含めたその特徴を理解していくことを目的としています。春学期には、ヨーロッパの「孤立言語」と言って良い英語とその語彙・文法（また発音）の姿を、高校までの学習とは違った見方で考えて行きます。まず、

英語の言語としての歴史・変遷に着目します。英語は、極めて短期間に大きな変遷を遂げた言語です。その結果として、英語はrules である grammar と使われ方 usage （慣用）が癒着した状態で、所謂「英文法」を構成している、と言って良い状態になりました。この癒着の状態を歴史的に解きほぐし、現在の英語の文法と言語活動の中心（核心）部分に迫ります。次に、英語、特にその文法を form の視点から再整理し、文法とな何か、また英文法（＝英語）の特質 design features を考えていきます。それらを通して学生諸君が得た知見や考え方を基に、英語教育（学習）において、学習者が基本として理解すべき点と、言語活動を通して習得すべき点を明確にし、学習者の困難を理解したより良い教育・教授法、学習法の在り方も考えて行ってもらいます。本講座の核心は、英語とその運用形態の探求となりますが、言語としての英語の姿を理解する事は、言語一般を理解する事に繋がっているのは、言うまでもありません。が、いわゆる「文法理論」に関する講座ではないので、その点は注意してください。秋学期には、構造体としての言語の諸要素のうち、特に意味を伝達する基本となる音と語をどのように捉えるのかを中心に扱います。なお、特に教職を希望する学生は、より良い理解のため秋学期「英語学2」の履修が期待されます。

授業の到達目標

・高校までの（受験）英文法学習とは異なった視点で英語の文法をとらえることができる。
・英語の特性 design features とも言える文法上の特徴を理解できる。
・世界語としての英語の在り方に理解を示すことができる。
・英語の変遷を知り、現代英語の諸現象との因果関係を理解できる。
・Non-native の英語の運用について、自分なりの意見を持てるようになる。
・Non-native、特に日本語話者の英語学習上の問題点を考え、その克服方法を考えることができる。
・一つの個別言語を通して、言語一般の在り方について一定の理解を示すことができる。
・英語に対する親しみ、慈しみ度が増す（はずです）。

成績評価方法

履修者の人数によって、授業形態が変わります（備考参照）。それに従って、理解度の確認（テスト）やレポートなど、評価の資料は変わりますが、大まかに言って、テスト（理解度の確認）やレポート等の成果が80%、講座での積極的な発言や質問など講座への参加度が20%程度とします。人数が少なくゼミ形式になれば、発表等（回数は履修者の数によります）、講座への参加度の比率が増します。講座への参加度は、理解度の確認、レポートなどの設問によっても問われます。なお、評価の割合は、履修を全うした時のものであって、累積的なものではないので、注意してください。毎回の講座のまとめをする学生を指名します。このような「作業」も真摯に行ってください。10回以上の出席が履修の条件となります。点呼までに教室に入ってください。

備考・関連URL

履修者の数が15人（程度）を切った場合には、ゼミ形式に近い形で行います。ゼミ形式の場合は、特に講座の後半は、それぞれの項目で学生の発表を軸に議論を進めていきます。履修者がそれ以上の場合は、講義（的）形式になります。ゼミ形式の場合は、評価の方法も変ります（上記参照）。また、追加の教科書を指定するかもしれません。どの形式で講座を行うかは、初回の講義で履修者の状況を見、調整を行います。ゼミ形式、講義形式ともに、学生諸君の積極的な関わりを期待します。試験、レポート等の評価方法など重要な授業内容を（相談の上）決めるので、第1回、第2回授業には必ず出席してください。また、履修状況を見て、講座の途中での調整もあるので（相談の上です）、注意してください。授業計画にある項目は扱いますが、進度には変更があり得ます。英語辞書は毎回持参のこと。ほぼ毎回、学生の発言を求めます。Moodle を定期的かつ頻繁に参照してください。課題等のフィードバックは、原則授業中に、場合により Moodle で行います。

科 目 名	英語学2　言語としての英語の在り方を理解する							
担当者名	森田　彰							
英文コース	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

設置学部のディプロマポリシーに基づき、本講座「英語学」では、春学期（英語学1）、秋学期（英語学2）を通じ言語としての英語の姿を浮き彫りにし、文化的背景も含めたその特徴、を理解していくことを目的としています。秋学期には、構造体としての言語の諸要素のうち、特に意味を伝達する基本となる音と語をどのように捉えるのかを中心に扱います。また、英語は、語彙の言語です。他の欧州の言語と比べても、その「基本語彙」と言われる語彙の数は多いものです。英語教育・学習においても、語彙の獲得は学習指導上最重要課題と言えるでしょう。講座では、英語の音に関する理解に次いで、語彙論と形態論(語形成の在り方)という2つの観点から、語彙そのものに対する理解と関心を高め、語彙の獲得が効果的に行われるための素地づくり、方法論も検討していきます。本講座の核心は、英語とその運用形態の探求となりますが、もちろん、言語としての英語の姿を理解する事は、言語一般を理解する事に繋がっているのは、言うまでもありません。なお、特に教職を希望する学生は、より良い理解のため春学期「英語学1」の履修が期待されます。

授業の到達目標

・科学的ものの見方とは何かを知る。
・コトバを知るとはどういうことかが理解できる。
・言語としての英語の姿を理解でき、それを自分でも解説できる。
・英語における「言語活動」の姿を知る。
・英語で用いられる音声の体系を理解し、指導にも繋げられる。
・語彙の獲得の効果的学習指導法について考え自分の答えを出す。
・コトバ(語)はどのように形成されるか、英語を例に知る。
・英語に対する親しみ、慈しみ度が増す（はずです）。

成績評価方法

履修者の人数によって、授業形態が変わります（備考参照）。それに従って、理解度の確認（テスト）やレポートなど、評価の材料は変わりますが、大まかに言って、テスト（理解度の確認）やレポート等の成果が80%、講座での積極的な発言、質問など講座への参加度が20%程度とします。人数が少なくゼミ形式になれば、発表等（回数は履修者の数によります）、講座への参加度の比率が増します。講座への参加度は、理解度の確認、レポートなどの設問によっても問われます。なお、評価の割合は、履修を全うした時のものであって、累積的なものではないので、注意してください。毎回の講座のまとめをする学生を指名します。このような「作業」も真摯に行ってください。10回以上の出席が履修の条件となります。点呼までに教室に入ってください。

備考・関連URL

履修者の数が15人（程度）を切った場合には、ゼミ形式に近い形で行います。ゼミ形式の場合は、それぞれの項目で学生の発表を軸に議論を進めていきます。履修者がそれ以上の場合は、講義（的）形式になります。ゼミ形式の場合は、評価の方法も変ります。また、追加の教科書を指定するかもしれません。どの形式で講座を行うかは、初回の講義で履修者の状況を見、調整を行います。ゼミ形式、講義形式ともに、学生諸君の積極的な関わりを期待します。試験、レポート等の評価方法など重要な授業内容を（相談の上）決めるので、第1回、第2回授業には必ず出席してください。また、履修状況を見て、講座の途中での修正もあるので（これも相談の上です）、注意してください。授業計画にある項目は扱いますが、進度には変更があり得ます。Moodle でのチェックを怠らないように。英語辞書は毎回持参のこと。いずれの場合にも、ほぼ毎回、学生の発言を求めます。課題等のフィードバックは、原則授業中に、場合により Moodle で行います。

科 目 名	イングリッシュ・スタディーズへの招待　英語によって表現されたあらゆるものを研究対象に							
担当者名	都甲　幸治　他／梅宮　悠／岡田　俊之輔／笹山　尚子／栩木　伸明／堀内　正規／山内　功一郎							
英文コース	２単位	秋学期	無	フルOD	１年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

イングリッシュ・スタディーズ（English Studies）とは、英語と英文学の研究を意味する。対象となる地域としては、イギリスの他に、旧イギリス植民地である、アメリカ合衆国、カナダ、アイルランド、カリブ海諸国などの英語圏地域が含まれる。8名の専任教員がそれぞれトピックを選んで、毎回入門的な講義を行い、専門とする領域を具体的な例を用いながら紹介する。担当者によっては、イングリッシュ・スタディーズの学問としての成立過程と現状の課題についても言及し、イングリッシュ・スタディーズが発生した歴史的背景、英文学教育における性役割分担、英語教育と英文学の分化、アメリカ文学の認知、文学から文化へのシフトなどの問題を取り上げる。半年間の講義で「顔見せ」できる内容は限られるが、通して聴けば、イングリッシュ・スタディーズの基礎から専門的な研究の面白さまで、一通り垣間見ることが出来るように工夫してある。

授業の到達目標

イングリッシュ・スタディーズに入門してもらい、その様々な問題の広がりについて理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　60%　　興味を持った1回分について Waseda Moodle 等より提出
●**平常点**　40%　　出席3分の2以上必須
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

授業はmoodle上の動画で行われる。動画による授業の出席確認はmoodle上に各自がアップした100字コメントで行う。これは授業内容を反映したものにすること。そうでない場合、コメントをアップしても欠席とみなす。動画の公開期間は授業日から2週間であり、したがって100字コメントも2週間以内にアップする必要がある。

科 目 名	シェイクスピアと現代　シェイクスピア劇から見る現代							
担当者名	梅宮　悠							
英文コース	２単位	春学期	木曜日	１時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

【本授業は2024年度までオンデマンドでしたが、担当者の変更に伴い2025年度以降は対面で行われます】

シェイクスピアが活躍した16-17世紀ははるか昔のように思われます。テクノロジーの類はまだ登場していなかった頃で、『ロミオとジュリエット』のすれ違いもその時代ならではのものと言えます。悲劇の引き金となった通信事件も、現在のスマートフォンなどがあれば起こり得ないでしょう。しかし一方、当時の日常生活には今に通じる諸問題がすでにありました。人種の坩堝と化したヨーロッパ屈指の大都市ロンドンには昨今のような内外の摩擦が見え隠れし、また女優の登壇を許さなかったイギリスの舞台には今日にもつながる性の意識が付き纏っていたことでしょう。異性装が織りなす同性愛が異性愛の名目のもとに表現されていたわけです。それを受容した社会には家父長制が表立っていたとあれば、なんとも混沌たる背景が窺えます。そこには抑圧と反発を繰り返す人間の姿が垣間見え、現代のさまざまな事象を想起させます。本講義では、シェイクスピアの手がけた四大悲劇に他の数篇を加え、現存する社会や人間の問題の源泉に想いを傾け、「今」を考えていく予定です。

授業は簡単なあらすじの紹介から始め、原文、翻訳、映像資料を併用しながら、要点の提示と解説を行います。すでにシェイクスピア作品に触れたことのある受講生は定説化された読みを今一度確かめ、新しい解釈の可能性を探ってほしいところです。文学作品を常に深読みし、今昔の文化的な関連性、現代とのつながりを実感してもらえればと思います。

各回で扱われる戯曲を事前に読んでおくと、より理解が深まりますが、必須事項ではありません。本講義は英文学およびシェイクスピア劇への導入と捉え、豊かな感受性をもって戯曲に向き合い、現代の状況と比較してみてください。本講で取り扱われた作品は、各自の興味に応じて受講後に精読することを推奨します。質問や疑問点は出席調査を兼ねるレビューシートで受け付け、適宜授業内で返答します。

授業の到達目標

・シェイクスピアの劇を英語と日本語両面で部分的に読み、劇の内容を超えた作者の言葉を知る。
・文学史の中での意味づけだけでなく、シェイクスピア（古典）作品が現代に繋がっているか理解できるようになる。

成績評価方法

試験: 0%　　なし
レポート:　0%　　なし
平常点評価: 100%　　出席と授業時のコメントによる。
その他: 0%　　なし

備考・関連URL

シェイクスピアの戯曲にこれまで触れてこなかった学生さんも、より深く読んでみたいという皆さんも、また現代の問題を文学から読み解くアプローチに興味がある諸君も歓迎します。

科 目 名	イギリスの神話と伝説　英語文学に見られる神話と伝説の「物語」性							
担当者名	宮城　徳也							
英文コース	２単位	秋学期	無	フルOD	１年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

本授業は全回オンデマンド授業として実施します.

「イギリス」(イングランド，スコットランド，ウェールズ，北アイルランドなど「連合王国」領，また便宜的にこの場合に限って「アイルランド共和国」も視野に入れる）における神話，伝説という場合に，ギリシャ・ローマ神話，北欧神話に代表されるゲルマン民族（アングロ・サクソンはゲルマン民族）の神話，伝説，ケルト民族（スコットランド，ウェールズ，アイルランド，コーンウォール地方）の神話，伝説と，それらが混在し，影響し合っての伝承が考えられますので，複雑な様相を呈しており，わからないことも多く存在しますが，文学と伝承童謡に現れた，これらの要素を整理，分析，紹介して，全体としての「イギリスの神話と伝説」について考察します.「イギリス」という存在は，先住民族たちの基層の上にケルト人であるブリトン人，ゲルマン人でアングロ・サクソン，さらにゲルマン人なのにフランス語話者であるノルマン人の征服があり，言語にも大きな影響を及ぼしました．さらにそれ以前から浸透していたキリスト教にも，神話，伝説の要素があり，政治との葛藤や宗教改革を経て，「イギリス」のキリスト教文化も変容していきます．こうした文化，言語，宗教を背景として「イギリス」文学が形成されて行くので，「イギリス」文学自体が多様ですが，その重要な構成要素の一端を担う神話，伝説も多様で独自の要素を持っています．授業では必要に応じて，英語の原文を示しますが，基本的に翻訳を用いて授業を進めます.

授業の到達目標

「授業概要」で言及しているイギリス文学の多様性を理解して，それを楽しむために，構成要素の一つに過ぎないとは言え，重要な意味を持つ「神話と伝説」の面から，「イギリス」文学を考察し，少しでも理解を深めることを目標とします.

成績評価方法

●**試験**　0%　　オンデマンドなので，教室での試験は行ないません.

●**レポート**　40%　　学期末に，授業で学んだことをもとにしてレポート（2000字程度）を作成してもらい，Waseda Moodleで提出してもらいます.

●**平常点**　60%　　毎回，授業の要約と見解（200字程度）を課題として提出してもらい，あわせて小テストを実施して（課題20%，小テスト40%），動画視聴，資料参照と合わせて平常点として評価します.

●**その他**　0%　　その他は特にありません.

備考・関連URL

授業で紹介します.

科 目 名	イギリス小説の愉しみ　ジェイムズ・ジョイス(James Joyce)の『ユリシーズ(Ulysses)』を「通読」する							
担当者名	小林　広直							
英文コース	２単位	秋学期	火曜日	１時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

20世紀で最も優れた小説（のひとつ）と称される、ジェイムズ・ジョイスの『ユリシーズ』（1922）は、2022年に出版100周年を迎えました。この機会に、独力ではなかなか読み通すことの難しい本作品を、ぜひ一度紐解いてみましょう。本講義では、毎週各挿話（各章）のあらすじと読みどころを解説しますので、これで読んだフリ（？）もできますし、もしあなたが関心を持たれたならば、翻訳を入手して、原文と共に「通読」してみてください。

まず、この小説を簡単に紹介します。

ジョイスが後に妻となる女性、ノーラ・バーナクルと初めてのデートをした、1904年6月16日アイルランドのダブリン――このたった1日の出来事をジョイスは、ホメロスの『オデュッセイア』に擬えつつ（神話的平行関係）、「意識の流れ」やモンタージュ、パスティーシュやカタログ化といった文学的技法を駆使して、実に事細かに描き尽くします。カトリック教会による宗教的支配と大英帝国による政治的支配、（ポスト）コロニアルな問題系を含みこむ『ユリシーズ』は、まず2人の男性主人公――1904年当時の作者の分身(alter ego)であるカトリック・アイリッシュのスティーヴン・デダラス(22歳)と、ユダヤ系アイルランド人レオポルド・ブルーム(38歳)――の朝8時から始まります。朝食を食べ、家を出た彼らの彷徨（街歩き）は、臨時講師としての授業、ミサへの参加、浜辺での思索、葬儀への参列、新聞社での仕事、幸福な過去を回顧しながらの昼食、図書館でのシェイクスピア談議、食後の散策、ホテルのバーでの音楽鑑賞、ナショナリズムを巡る酒場での政治的議論、浜辺での手淫（！）、産院での酒宴と馬鹿騒ぎ、幻覚の渦巻く「夜の街」での乱痴気騒ぎ、改めての互いの自己紹介へと続き、ブルームは自宅にスティーヴンを招き入れ、歓待したのち、別れ、やがて妻、モリー（33歳）が眠るベッドへと「帰還」します。そして深夜、彼女はこの日に起きた愛人との情事を思い出しながら、過去と今と未来と、様々なことに想いを馳せ、眠りに就きます。

難解と名高い『ユリシーズ』は、しばしば百科事典に擬えられますが、そのこころは、人間に関するありとあらゆることが描かれているということに尽きます。ですから、テクストを読みながら私たちの「日常生活(everyday life)」を常に参照することで、ジョイスを読む難しさは「愉しみ」へと変換されることでしょう。そして、「『ユリシーズ』を読むことはできない。できるのは再読することだけだ」というジョゼフ・フランク(Jeseph Frank)の言葉にあるように、私たち文学部や文化構想学部の学生が日常的に行っている「読む」という行為を再考してみましょう――読むとはどのような営みか、何故に読むことができ、読むことができないのか。

私自身、ジョイスの専門家ということに一応（？）なっていますが、（言うまでもなく）まだまだたくさん学ぶことが多いと自覚しています("I have much, much to learn")。決して汲みつくすことのできない『ユリシーズ』の魅力を、皆さんと一緒に学んでいきたい、と思います。

授業の到達目標

1. 英語で書かれた文学作品の精読の方法を習得する
2. 『ユリシーズ』を通じて、イギリス文学の歴史、延いてはヨーロッパ文化の総体を（大まかに）理解する
3. 単なる感想文ではなく、文学作品を分析したレポートが書けるようになる

とにかく難解な『ユリシーズ』です。難しさやわからなさを楽しめるようになることが最終到達目標です（だって、人生がそうですものね）。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし

●**レポート**　50%　　期末レポート（日本語で2000字以上、もしくは英語で800字以上）：リサーチペーパーとして、内容・形式ともに整っているかどうかを評価する（内容・形式・論理・文章・締切の5項目、各10点）。

●**平常点**　50%　　出席点（毎回の講義の簡単な感想をGoogle Formで記入してもらう）

●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

https://www.stephens-workshop.com/

科 目 名	1960年代アメリカ　アメリカ文化の60年代							
担当者名	堀内　正規							
英文コース	2単位	秋学期	金曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

アメリカ合衆国の1960年代は大きな変化の時代でした。

政治的にはキューバ危機、黒人公民権運動、ケネディ暗殺、ヴェトナム戦争、人種暴動、学生運動といった大きな指標がありますが、文化的に見ても実に重要なことが起こっていたのがこの時代です。現代の文化を考えるときにも、この領域の影響は絶大でした。

この講義では、アメリカの60年代のさまざまな文化的事象を、わたしなりに紹介してみます。

文化的事象とはいっても、そのほとんどが当時の政治的・社会的な状況となんらかの形でつながっているので、その点も考慮しながら進めます。予備知識は必要ありません。

あらかじめお断りしておかねばならないのは、この講義でこの時代のアメリカ文化が万遍なく、全方位的にカヴァーされているわけではないということです。自分なりにある程度確信をもって話ができそうなことがらに絞った内容になりますが、入り口を作るという意味で受けとめていただければと思います。できるだけ、みなさんには〈本物〉に直に触れてもらいたいと思っています。

トピックとしては、文学・音楽・映画それに政治の分野から、人種を扱った小説、ビート、ロックンロール、フォーク、ロック、サイケデリック、フラワームーヴメント、ソウル、カウンターカルチャー、アメリカン・ニューシネマ、黒人公民権運動、キングとマルコムX、ヴェトナム戦争など。実際の音楽を聴き、映像を観てもらって、遠い昔の知識としてではなく、現在のわたしたちにびりびりと響いている力を伝えたいと思います。教室で一つの体験として大きなサウンドで音楽を聴くということも味わっていただけるとうれしいです。

授業の到達目標

アメリカの1960年代文化についての理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はしません。

●**レポート**　50%　　授業で出された論点が理解できているか、自分なりの視点が打ち出せているか、論理的に書けているか。

●**平常点**　50%　　出席は11回以上を必須とします。4回休んだら単位がとれないので、ご注意ください。

その上で、3週ごとに感想を400字程度で書いていただき、それを平常点評価の対象とします。

●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

出席11回以上必須、3回ごとに感想の課題を書くことも必須です。

科 目 名	政治と文学　ジョージ・オーウェルの評論							
担当者名	岡田　俊之輔							
英文コース	2単位	秋学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

本講義は全回オン・ディマンドにて實施する（が、金曜2限配信を目安とする）。

ジョージ・オーウェル（1903-1950）が活躍したのは左翼思想全盛の政治の季節で、自らも政治には多大なる關心を寄せた。けれどもオーウェルは、自分なりの政治的理想を持ちつつも、決してイデオロギーの虜にはならず、あくまでも一人の作家として、政治に翻弄される人間の姿を描いたのである。評論に於ても小説に於ても、彼が政治を論ずる場合、それは只の政治現象論ではなく、人間や文化の在り方にも目を向けた本質論となつてゐる。

人は誰しも「政治」と無縁ではあり得ない。「政治的動物」たる人間が二人以上集れば、そこには必ず「支配／被支配」の關係が生ずる。それまで支配されてゐた者たちが權力を握れば、今度は彼等の間にもまた同じやうな情況が生れる。それは革命の歴史を見ても明らかであり、傑作小説『動物農場』の主題でもある。

本講義ではピーター・デイヴィソン編『オーウェルと政治』から興味深い文章を適宜選んで讀み進め、その今日的意義を再確認したい。例へば今日、オーウェルが徹底的に批判した共産主義者の精神的祖國ソヴィエト聯邦は既に存在しないが、それに代る諸國家は吾國の近郷に儼存するし、彼の論じ方そのものは今なほ大いに應用が利くからである。 最初は自傳的エッセイから始めて、最後は知識人論（いはゆる「平和主義者」たちの僞善をあばく苛烈な批判も含む）に至る豫定。いづれも精讀するので、同時に英文解釋のお勉強にもなるであらう。英語散文のお手本とも屢々稱せられるオーウェルの見事な英文を味讀すべし。

授業の到達目標

オーウェルがあばく知識人たちの無節操を反面教師として、知的誠實とはどういふ事かを考へる。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　90%　　Waseda Moodle より提出

●**平常点**　10%　　参加度、等

●**その他**　0%

備考・関連URL

課題提出等については Waseda Moodle上の通知に注意すること。
取敢へず「共産主義」について、*Wikipedia* でも構はないから閲覧しておくこと。
https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%85%B1%E7%94%A3%E4%B8%BB%E7%BE%A9

科 目 名	アイルランドへの招待　アイルランド文学紀行							
担当者名	栩木　伸明							
英文コース	２単位	春学期	金曜日	１時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業では、アイルランド各地にゆかりのある詩・小説・戯曲・映画・歌などを紹介した拙著『アイルランド紀行――ジョイスからU2まで』を読みながら、古今の文学・文化を概観する。アイルランドは数百年間の植民地支配を経験した、ヨーロッパ西端の小さな島国である。現在でもアイルランド共和国と英領北アイルランドの間には国境があり、通貨（ユーロとポンド）が異なる。言語はアイルランド語と英語の二言語が使用され、宗教的にもカトリックとプロテスタントが並び立つ島である。悲惨で暴力的な歴史に翻弄された場所であると同時に、歌や演劇や詩や小説が盛んに生み出されてきた土地でもある。中世の詩からスウィフト、ワイルド、イェイツ、ジョイス、ヒーニー、ヴァン・モリソンやU2にいたる文学作品の抜粋を読み、アイルランドが登場するいくつかの映画をつまみ食いし、それらにあらわれた現地のようすなども紹介しながら、この島で熟成された濃厚な言語文化を味わってみたいとおもう。

授業の到達目標

文学作品、映画、音楽などを、社会的・歴史的背景とともに味わい、解釈することに慣れることにより、アイルランドをめぐるトピックについて、受講者それぞれの視点から語れるようになることを目標とする。さらに欲を言えば、異文化を見るさいのひとつのものさしをこしらえることをめざす。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　70%　　オリジナルなリサーチペーパーとして内容、形式ともに整っているかどうかを評価する。
●**平常点**　30%　　出席回数（3分の2以上を必須とする）を評価する。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	カナダへの招待　多文化主義に至る道のりを文学とともにたどる							
担当者名	馬場　広信							
英文コース	２単位	春学期	木曜日	２時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

カナダは「幸福」を感じている国民の割合が高いことで知られており、好感を抱いている人が日本でも少なくないようです。しかし、2014年に対 IS 空爆参加を表明した結果、テロの標的となり悲惨な事件が起きています。それでも他の国々とは異なり、カナダ連邦政府は2024年末現在、「多文化主義（multiculturalism）」を「失敗」だと宣言していません。イギリス・合衆国・オーストラリアで「多文化主義」「多様性（diversity）」という語は、絵空事のようにやや批判的文脈において用いられるのに対し、カナダの場合は異なります。それは我が国で昨今唱えられている「多様性を重んじる社会」とも全く別の形態です。本講座はその理由を、「カナダ」史と英語で書かれた文学を通じ、理解することを目的とします。

まず日本で根強い人気を持つ小説『赤毛のアン』は、カナダの国民的文学なのか、という問題を入り口として、カナダについて考えるための基礎知識を学びます。そしてかつてイギリスとフランスの植民地支配を受け、現在英語とフランス語を公用語としているカナダの歩みを、18世紀から20世紀のトピックを中心に講義してゆきます。

またカナダは、合衆国に先立ち先住民の土地所有権を認める傍ら、第二次大戦中に日系の国民を「敵国民（enemy alien）」とみなし、強制収容所に入れた歴史も持ちます。それが20世紀後半に少数派の権利を重んじる "multiculturalism" 政策へと大きく舵を切り、カナダ連邦政府は差別撤廃施策を徐々に採用してゆきました。

カナダを知ることを通じ「国家とは何か？」「国民とは何か？」という問を改めて考えることも、この講義の目的となります。また、カナダへの留学やホームステイを検討している皆さんに、有用な情報を提供することも試みます。

採り上げる文学作品は英語原文と邦訳のハンドアウトを配布します。英語が苦手な学生にも配慮して講義を進めます。ただし高校の世界史レベルの知識があることを前提として展開します。

授業では多くの知識を学びます。講義終了時のレヴュー・シートは、感想を書くのではなく、講義内容を正確に理解できているかの確認作業となります。毎回集中力をもって講義に臨んでください。

＊　授業展開の都合上、第4回以降は順序変更、繰り上げ指導、ないし複数トピックを併せて1回の講義で採り上げる可能性があります。変更する場合は原則2回前の授業で予告します。

授業の到達目標

文学と歴史を中心にカナダという国家が持つ特徴を学び、カナダ地域研究ないし他の国家と比較して考察する基礎を身につけることを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行いません。
●**レポート**　100%　　毎回講義の最後に、当日の講義で何を学んだか、20分でレヴュー・シートに書いて提出してもらいます。各回のレヴュー・シートを評価し、平常点とします。詳細は第1回講義で説明します。

期末レポートは課しません。毎回のレヴュ・シートのみで評定を出しますので、毎回の授業を真剣に受け、作成してください。
●**平常点**　0%　　毎回講義後のレヴュー・シート提出をもって、平常点評価に代えます。
●**その他**　0%　　課しません。

備考・関連URL

＊　教場には鉛筆ないしシャープペンと消しゴム、ノートを持参してください。レヴュー・シートは他の筆記用具で書いた場合無効です。

＊　レヴュー・シート執筆時は、携帯電話・スマートフォンは必ずマナー・モードに設定して鞄などにしまってください。い

かなる電子機器も使用を認めません。電子辞書使用も不可です。

科 目 名	英文学特殊講義5　19世紀イギリス女性作家の系譜をたどる							
担当者名	皆本　智美							
英文コース	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

主に19世紀イギリス女性作家の小説を中心に扱う。彼女たちの文学者としての軌跡をたどりつつ、授業では抜粋とならざるをえないが作品を紹介するので、その読解を通して当時のイギリス社会や女性および女性作家が置かれた状況についての理解を深める。本講義では、彼女たちの作品の特徴をつかみながら、作家の特質や当時の社会について考察する。

授業の到達目標

19世紀という時代と小説との関連について理解を深める。
ジェンダーと文学との関係について考察を深めつつ、小説分析の基礎を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　0%
●**レポート**　30%　　授業中にレポート課題を指示し、授業内容の理解度を中心に評価する。
●**平常点**　70%　　授業への積極的な参加。
●**その他**　0%　　0%

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。
上記の授業計画は、授業の進度によって多少の変更が加えられることがあります。

科 目 名	イギリス小説の諸相　19世紀イギリス小説とその映画（アダプテーション）							
担当者名	小林　広直							
英文コース	2単位	秋学期	火曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

しばしば19世紀は「小説の時代」と言われます（20世紀は「映画の時代」であるとすれば、21世紀は「メタバースの時代」でしょうか）。本講義では19世紀のイギリス小説の古典的名作(canon)の中から、女性作家が書いた下記の4作品を扱い、それらの作品が現在の私たちが直面している諸問題（個人的、あるいは社会的）とどのように通じているのか、あるいはどのように異なっているかを確認してゆきます。 本講義で扱うのは、ジェイン・オースティン『高慢と偏見』(1813)、メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』(1818)、シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』(1847)、エミリー・ブロンテ『嵐が丘』(1847)の4作品です。どの作品も今読んでも抜群に面白いですが、長篇ゆえに退屈に感じる部分もあるかもしれません。しかし、その退屈さは何故なのか、と考えることで、改めて外国語で書かれた、異文化を背景にした小説（海外文学／世界文学）を読むことの意義を共に考えてゆきたいと思います。

同時にこれらの作品は映画化（TVドラマ化）もされていますので、各回10～15分ほど、名シーンを鑑賞し、小説を映像化することの意義を、（基礎的な）アダプテーション理論を参照しながら、考えていきます。よって、小説を読むのがお好きなあなたも、映画を観るのがお好きなあなたも、大歓迎です。

※授業では英語原文も参照しますが、基本的には翻訳を扱いますので、英語が苦手な学生も参加できます。

授業の到達目標

1. 英語で書かれた文学作品の精読の方法を習得する
2. 19世紀の小説（を映像化された作品）を通じて、イギリスの文化や歴史を（大まかに）理解する
3. 単なる感想文ではなく、文学作品を分析したレポートが書けるようになる

※成績の50%ぶん占める期末レポートについては、上記4作品の中から1作品を選び、執筆してもらいます（①小説のみ②映画のみ③小説と映画の比較（言うまでもなく、上記の作品同士の比較も可能））。よって、少なくとも1作品は授業外の時間に「読む」あるいは「観る」ことが求められる、と理解しておいてください。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　期末レポート（日本語で2000字、もしくは英語で800字以上）：リサーチペーパーとして、内容・形式ともに整っているかどうかを評価する（内容・形式・論理・文章・締切の5項目、各10点）。
●**平常点**　50%　　出席点（毎回の講義の簡単な感想をGoogle Formで記入してもらう）
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	アメリカ詩への招待　原文読解を通じてアメリカ詩の世界に親しむ							
担当者名	山内　功一郎							
英文コース	2単位	春学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

文字通り「アメリカ詩への招待」を試みる。アメリカという国家をめぐる重要な概念の一つが「多元性」であることは、改めて強調するまでもないだろう。その点を確認するために、19世紀以降の各時代を代表するアメリカ詩人を取り上げ、彼らの詩作品とそれらをめぐる批評をじっくりと精読する。受講者の皆さんには、英語原文の資料を丹念に読解してもらうことになるだろう。フルオンデマンドの講義科目の範囲内で、可能な限り双方向的な授業を展開できればと考えている。学期中にレポートを提出してもらうことになるので、履修者の皆さんが授業の中で知識を吸収すると共に、能動的な自論を展開するよう促したい。その過程の中で、受講生のみなさんと共にアメリカの詩を学ぶ意味を探りたいと考えている。

授業の到達目標

・アメリカ詩に親しみ、その展開と詩人の多様性について一定の理解を得ること。
・英語の原典を正確に読解する能力を身に着けること。

・英文の批評を原文で読み解き、作品解釈に役立てる力を習得すること。
・オリジナルな解釈を確立し、それを効果的に表現する文章能力を身に着けること。

成績評価方法

平常点50%、期末レポート50%。平常点は出席、ミニレポートを含む。出席10回を必須とする。

備考・関連URL

＊各授業回ごとに締切を設定し、ミニレポートを提出してもらいます。そしてミニレポートの期限内の提出をもって、各授業回の「出席」とします。

＊基本的に英文資料を原文で読解する授業です。原文朗読、日本語訳や要約などにも取り組んでもらいます。

＊期末レポートは次の点を評価します：①授業で学んだ論点を理解しているか②独自な視点を持っているか③論理的に記述できているか。

科 目 名	フランス語学概論　一般言語学から見たフランス語							
担当者名	酒井　智宏							
仏文コース	2単位	春学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

「フランス語学概論」は「言語学概論」の一つのあり方です。フランス語学とはフランス語を主たる対象(の一つ)とする言語学の分野です。基礎外国語科目等の外国語科目が「フランス語を身につける」ことを目標とするのに対して、フランス語学の講義では「言語学的観点からフランス語について考える技術を身につける」ことが目標となります。「フランス語について考える」ためには、「フランス語以外の言語について考える」視点も必要になります。そのような一般的な視点を提供してくれるのが(一般)言語学という学問です。言語学的な視点のもとでフランス語を捉えてはじめて、(つぶやきやエッセイの水準ではなく)学問的な水準で「フランス語について考える」ことができるようになります。そこで、本講義では、言語学の下位分野である音韻論、形態論、統語論(統辞論、構文論)、意味論の基本概念を身につけることが第一目標となります。

授業の到達目標

1. 一般言語学(音韻論・形態論・統辞論・意味論)の基本用語の意味を一通り説明できるようになる。
2. 一般言語学の観点からフランス語の特徴を捉えられるようになる。
3. 論理的に議論を組み立てる力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　70%　　第14回の授業時間中に理解度の確認を行います。一学期の学修を通じて知識と思考力がどれだけ伸びたかを重視します。

●**レポート**　0%

●**平常点**　30%　　毎回、課題の解答をWaseda Moodleのレビューシートに記入していただきます。当該回までの内容が十分に身についていると認められる解答に対して平常点が加算されます。

●**その他**　0%

備考・関連URL

1. 受講にあたってフランス語の運用能力は要求されません。「フランス語は(基礎外国語等で)いくらか勉強したことがある」「講義と並行して少しずつ学ぶつもりでいる」という程度でも大丈夫です。

2. この講義は語学スキル科目ではなく、フランス語を主たる対象(の一つ)とする言語学の講義です。3. ブリッジ科目に「言語学入門」は存在しますが、「言語学概論」は存在しません。そのためこの講義は「言語学概論」を兼ねています。

4. この講義を「言語学概論」のつもりで履修したいという人も歓迎します。フランス語だけでなく、日本語や英語のデータも扱われます。5. フランス語の歴史的な成り立ちや社会文化的背景については、「フランス語史」および「ヨーロッパのことばと文化」で扱われますので、この講義ではオリエンテーションでふれるにとどめます。

6. 語用論については、「語用論入門」で扱われますので、この講義では最低限しか扱われません。

7. 言語学は突き詰めて考えることにより少しずつ面白さがわかってくる学問分野です。結論を急がず、粘り強く、論理的に一歩一歩思考を進める厳しさと楽しさ、「思考の途中式」を丁寧に書き出すことの重要性をこの講義で身につけていただきたいと思います。

科 目 名	フランス語史　フランス語の成り立ちを学びましょう							
担当者名	井上　櫻子							
仏文コース	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

現在用いられているフランス語はどのようにして成立したのでしょうか。この授業では、中世から18世紀にかけてのフランスの歴史や文学史の流れをたどりつつ、フランス語の変容の過程を追っていきます。 この授業で取り上げるさまざまな時代のフランス語の中でも、特に中世に使用されていた古フランス語は、現代のフランス語とはかなり異なっていますが、文法解説と併せて現代フランス語訳も配布しますし、理解を助ける日本語の文献も紹介します。その後、中期フランス語を経て、17〜18世紀のフランス語は現代フランス語の文法知識でもかなり読みこなせるようになってきます。フランス語の歴史を知ることで、現代フランス語もまた新たな視点から捉え直すことができるでしょう。フランス語についての知識を深めたいというみなさんは、ぜひ受講してください。また、取り上げる時代や文学作品に関連する映像資料や音声資料も紹介していきますので、楽しみながら時代の雰囲気を感じ取ってください。 この授業は、講義と文献講読を織り交ぜていく予定です。そのため、フランス語の初級文法を既に学習している（あるいは学習中である）ことが望ましいですが、フランス語の既習者ではなくても、欧米系の言語や文化に関心を持ち、履修を希望する学生にはできるだけ柔軟に対応したいと思いますので、授業担当者に相談してください。

授業の到達目標

「フランス文学史1」で取り上げる作家の原文テクストに触れながら、フランス語の変容についての知識を深めることを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　出席状況と授業への参加度、さらに与えられた課題への取り組み方を総合して評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	フランス文学史1　中世から19世紀まで							
担当者名	小黒　昌文　他／井上　櫻子／O. デュスッド							
仏文コース	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン]フルオンデマンド

授業概要

どの言語による文学も豊かな歴史を持っているはずだが、フランス文学の魅力はそのなかでも際立っているように思われる。英文学ならシェイクスピア、ドイツ文学ならゲーテ、スペイン文学ならセルバンテス、イタリア文学ならダンテと、フランスの周辺にある国々を例にとると、それぞれに代表的な文学者がいるものである。

いっぽうフランス文学に目を向けると、ひとりを挙げるのが困難なほど多くの存在が固有な輝きを放っていることがわかる。それほどまでに豊穣なこの文学をひとことでいえば、繊細にして洒脱、深遠かつドラマティックな大人の文学といえるかもしれない。

その内容と歴史的な流れを、中世から始めて「近代＝現代性」の成立する19世紀末まで、時代ごとの社会的・文化的な背景に留意しつつ、できるだけ分かりやすくたどってみる。

無味乾燥な講義は避けて、受講者が紹介された作品を是非とも読んでみたいと思うような授業にしてみたい。

具体的には、3名の専任教員が各人の専門分野をいかして、時代順にリレー方式で6回＋5回＋3回で講義をおこなう。

時代の分担は以下のとおり　—

オディール・デュスッド：中世から17世紀まで

井上櫻子：18世紀から19世紀前半まで

小黒昌文：19世紀後半

（なお、この授業は定期配信型のオンデマンド授業として実施します。毎週1回分のコンテンツを視聴してもらいますが、具体的な視聴の期限などについては、履修登録者に改めてお知らせします。また「授業計画」に挙げた項目は変更する可能性があります。）

授業の到達目標

秋学期開講の「フランス文学史2」とあわせて受講することで、千年以上にわたってフランス語という言語で書かれてきた「フランス文学」についての必須の知識が確実に得られることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　70%　　学期末にレポートを課します。担当者3人がそれぞれ問題を出すので、その中から1問を選んでレポートを作成してください。分量は4000字以上とする予定です。
●**平常点**　30%　　レポート評価に平常点（視聴状況等）を加味する。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

概要にも記載した通り、本授業は全回オンデマンド形式で行います。毎週、指定されたコンテンツを視聴することで出席として扱います。それぞれのコンテンツは、必ず指定された期間（1週間）のうちに視聴してください。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	フランス文学史2　フランス文学にとっての20世紀							
担当者名	鈴木　雅雄　他／小黒　昌文／藤本　一勇							
仏文コース	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン]フルオンデマンド

授業概要

「フランス文学史1」のあとを受けて、20世紀においてフランス文学（および思想）がいかなる課題を負い、いかなる変貌を遂げたのかを概観する。

まずは「小説」というジャンルをとおして20世紀文学の流れを総括する。その流れが世紀を超えた現在に投げかける問いとインパクトについても考えていきたい。

次に、しばしば同時代の文学的前衛を代表していたとみなされるフランス現代詩のさまざまな動向を、20世紀における文学言語の課題とは何だったかという問いを念頭に置きながら解説する。またこうした動向とも関係の深い、バタイユやレリスの散文作品にも触れる。

最後に、第二次世界大戦以後のフランスの文学・批評の流れを、サルトル、ヌーヴォー・ロマン、ヌーヴェル・クリティック、クレオール文学に焦点を当て概観する。

なおこの授業は、定期配信型のオンデマンド授業として実施します。毎週1回分のコンテンツを視聴してもらいますが、具体的な視聴の期限などについては、履修者にあらためてお知らせします。

授業の到達目標

20世紀フランス文学について考えるための大まかな見取り図を持てるようになることが目標だが、この過程で学生がさまざまな作家や詩人、思想家に出会い、こうした領域で研究していきたいと思うテーマを見つけるための助けになるよう、努力したい。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　学期末にレポートを課します。担当者3人がそれぞれ問題を出すので、その中から1問を選んでレポートを作成してください。分量は4000字以上とする予定です。
●**平常点**　30%　　コンテンツの視聴とレビューシートへのコメント。

●**その他**　0%

備考・関連URL

概要に記した通り、この授業はオンデマンド形式で行います。毎週指定されたコンテンツを視聴し、レビューシートにコメントを書き込むことで、出席として扱います。それぞれのコンテンツは、必ず指定された期間（1週間）のうちに視聴してください。

科 目 名	フランス中世・ルネサンス文学							
担当者名	山本　佳生							
仏文コース	2単位	秋学期	月曜日	5時限	3年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

「フランス文学」と聞いて一般的にイメージされることがないであろう中世・ルネサンスの文学作品について概略的な知識を得るとともに，それらの背景にある事柄について理解を深めるための授業です。とくに十六世紀後半に活躍したミシェル・ド・モンテーニュの『エセー』を読解の対象として，この作品の魅力やモンテーニュを取り巻く政治・宗教・文化について学びます。実際に『エセー』から気に入った章を取り上げ発表したりレポートの形にまとめることで，主体的に文学作品に向き合う練習をおこないます。

授業の到達目標

①フランス中世・ルネサンス文学の特徴や背景について知る
②フランスルネサンスの政治・宗教・文化・教育について知見を深める
③作品の要約，説明，考察をまとめ発表する力を養う

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　出席率，発表や議論における取組みを評価する
●**その他**　50%　　発表をする学生は，その発表内容を質・量の面から評価する
それ以外の学生はレポート提出でその代わりとし，発表と同様に質・量において評価する

科 目 名	フランス詩							
担当者名	瀬尾　周平							
仏文コース	2単位	春学期	月曜日	3時限	3年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本授業では、フランス文学の一大ジャンルである「詩」に関して、ボードレール、ランボー、マラルメ等19世紀の詩人を出発点に、ポンジュ、アルトー、ミショー等の現代詩を経由して、「ラップ」や「スラム」のような今日の若者たちにも愛される、フランス語で書かれた詩的テクストを読み、聴き、そしてこの言語芸術の世界と「出会う」ことを目指します。

フランスにおける詩の文化は、その音楽性も重要であるため、授業ではネイティブの朗読（時には作者本人による朗読！）や、フランス詩が引用される映画などの映像作品なども参考にしつつ、その奥深さを一緒に味わいましょう。

また、フランス詩は、それぞれの作品が生まれたフランスの社会状況とは切っても切り離せない関係にあるので、詩作品の鑑賞を通じて、この国の文化や歴史、様々な社会問題について学生の皆さんと一緒に議論できればうれしいです。

本授業では、詩におけるフランス語表現の解説などもおこないますが、必ずしもフランス語履修者を対象とした授業ではないため、適宜日本語訳を参照するので安心してください。

授業計画はあくまでも予定で、受講者の興味関心にそって扱うテクストは変更する可能性もあります。

授業の到達目標

フランス詩の世界の奥深さと現代性と出会い、作品について履修者それぞれが「詩」を通じた読書の体験を言語化することを目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　期末のレポートにて評価します。
●**平常点**　30%　　授業への参加の度合いにて評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	フランス小説　プルーストとその時代 ――『失われた時を求めて』を読む							
担当者名	小黒　昌文							
仏文コース	2単位	秋学期	木曜日	3時限	3年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

フランス近代文学を代表する小説家マルセル・プルースト（1871-1922）が著した『失われた時を求めて』（1913-1927）は、19世紀小説の集大成であると同時に20世紀小説の先駆けでもあり、いわば「象徴的な分水嶺」とも位置づけられる長編小説です。

この授業では、作品の執筆背景や中心主題を概観したうえで、各巻の重要な場面についての紹介と解説を進めてゆきます。その際には、同時代の文化的・社会的なコンテクストとの関連を考えるとともに、プルーストが自らの創作に先行する文学作品をどのように吸収し、さらには後に続く世代の作家にどのような影響を与えたのか、そしてその革新性はどこに見出すことができるのか、という点についても検討したいと思います。

授業の到達目標

ひとつの作品に取り組むことで開けるさまざまな思考の可能性を実感し、各自の研究に接続させることを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　学期末にレポートを提出してもらいます。

●**平常点**　50%　　出席状況とレヴューシートへのコメント内容を踏まえて評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	**フランス思想**　ジャック・デリダ入門							
担当者名	藤本　一勇							
仏文コース	２単位	秋学期	月曜日	３時限	３年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

フランスの哲学者ジャック・デリダの脱構築思想の基礎を解説します。

デリダは、初期の現象学批判や言語哲学批判のなかで、独自のエクリチュール概念、テクスト概念、差延や散種といった新しい概念を生み出しましたが、その基本メカニズムと思想史の背景を初心者でもわかりやすく解説します。そして初期の理論が中期から後期の亡霊論や来たるべきデモクラシー論、さらには動物論のなかでどのように発展していくかを論じます。

本講義では、デリダ思想の骨格をなす「現前の形而上学」の脱構築を軸にしつつ、彼の思想の広がりとアクチュアリティを概観できるように講義します。

授業の到達目標

デリダ思想の全体像を掴み、その基礎理論を理解すること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　学期末にレポートを提出してもらいます。字数は2000字から4000字程度（受講者数等が判明してから、正式な字数を決定します）。成績はレポートの点を基準にし、それに平常点を勘案して決定します。
●**平常点**　30%　　平常点とは、出席、授業態度、等々のことを指します。出席は授業後に提出するコメントシートによって取ります。成績はレポートの点が基準で、それに平常点を加味して決定します。
●**その他**　0%

科 目 名	**フランス文学の現在**							
担当者名	堀　千晶							
仏文コース	２単位	春学期	木曜日	２時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本講義では20世紀後半のフランス語文学を中心に、歴史的な状況に留意しながら概説します。その前提として、20世紀冒頭の第一次世界大戦から両大戦間期までの状況も確認しつつ（ときにさらに遡りつつ）、20世紀後半にどういった主題が、どういった文脈のなかで問題になっているのかを、具体的な作品とともに考えてゆきます。なお、必要に応じて映画も見る予定です。

授業の到達目標

文学史と社会史の観点から20世紀後半とその後の状況を把握するための基礎知識を得ること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　100%　　中間レポート・期末レポート
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

科 目 名	**フランス表象文化論**　ポスター、絵本、ストーリー・マンガ――「語るイメージ」の近代を考える							
担当者名	鈴木　雅雄							
仏文コース	２単位	春学期	木曜日	４時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

マンガのイメージの本質とは何か、考えたことはあるでしょうか。たとえばマンガのコマについて、私たちはしばしば、映画のフィルムから切り取った一コマのような、ある一瞬のイメージだと考えがちです。しかし実はマンガのコマには、複数の時空間が共存し、さまざまに関係しあっているのです。そしてこうした構造は、実はマンガだけでなく、ポスターや絵本など、近代的な静止イメージメディア全体に共通するものかもしれません。

この授業では、そのような視点から、近代的なイメージのあり方を再検討し、そこには見る者に対し、自ら時間や出来事、物語を作り出すよう仕向けるためのさまざまなしかけが隠されていることを明らかにしていきます。いわゆる大衆的なメディアを中心的に取り上げますが、それはファインアートよりむしろそこにこそ、近代的なイメージ経験の核心が表現されていると考えるからです。とりわけ私たちが今「キャラクター」と呼びならわしている不思議な対象が、いかに伝統的なイメージと異なるものであるかを考えることは、この授業の重要な課題となるはずです。フランスを中心とした欧米の事例を取り上げつつ、頻繁に現代日本のマンガ表現も参照していくことになるでしょう。

授業ではまず近代的イメージにおける時間表現についての総説からはじめ、ポスター、絵本、ストーリー・マンガといった媒体を順次扱っていきます。授業の最後の方では、これらのメディアにおける表現と同時代の美術との関係についても考えるつもりです。こうした作業を通じて、一方に物語を語ることを拒否した現代芸術があり、他方には近現代におけるフィクションの担い手として特権的な重要性を持つ映画がある、という図式では捉えられない、イメージの歴史のもう一つの様相に迫っていきましょう。

授業の到達目標

やや漠然とした表現ですが、身の回りにあるさまざまなイメージを、意識的に捉え直すような態度を身に着けること、またそのことで、それぞれがイメージという問題について、独自の見取り図を持てるようになることを目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　学期末に、授業で扱ったテーマに関するレポートを課する。
●**平常点**　30%　　出席とレビューシートのコメントによって評価します。

●**その他**　0%

備考・関連URL

授業形態はごく普通の講義ですが、レポートがやや書きにくいものになることは了解しておいてください。決まった内容を調べれば書けるといったものではなく、「自分でこの授業の内容に関係があると思ったことを自由に書いてください」といった、いささか漠然としたレポート題目になることが予想されます。どんなレポートが書けそうか、いろいろ考えながら授業を聞いてください。

科 目 名	フランスの映画・映像論							
担当者名	福島　勲							
仏文コース	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

映画は時代や場所を超えてグローバルに享受される文化でありながら、その作品の一つひとつには、映画作家や演者たち、撮影される具体的な場所やもの、また、彼らやそれらが位置していた文化的・歴史的環境が分かちがたく刻印されています。

本講義では、とくにフランスという文化的・歴史的環境に着目し、その中から生み出されていった映画作品とその批評を扱っていきます。フランス映画史のアウトラインは意識しつつも、むしろ個々の監督や批評家に着目する作家論（作家主義）、ないしは、作品論（作品分析）に重きを置いて進んでいきます。

映画誕生の地でもあるフランスは、どんな作品と監督を生み出してきたのか。映画をめぐるどんな批評や思想を生み出してきたのか。世界の映画に対してどんな影響を与えたのか。さらにもっと進んで、そもそも、映画とは人類にとって何なのか。こうした問いも視野にいれながら、フランス映画に限らず、映画全般を観るための、考えるための力を養って行きましょう。

授業の到達目標

フランス映画史の概要をつかむこと。映画を視聴する目と耳をみずから獲得すること。

成績評価方法

中間レポート、期末レポート、授業で必要に応じて出す小課題、視聴履歴

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	フランス比較文化論　フランス語圏のマンガ／フランスとポップミュージック							
担当者名	鈴木　雅雄							
仏文コース	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

近現代の世界にとって決定的な重要性を持った文化現象のなかから、この授業ではマンガ表現とポップミュージックを取り上げ、それらのジャンルでフランスないしフランス語圏の果たした役割はどのようなものだったか、またそれは他の文化圏における現象とどのような相互関係を持っているのかを考えていきます。この作業を通じ、20世紀の文化全体を考えるためにも役立つようなパースペクティブを見出すことが（やや大げさにいえば）授業の目標です。

前半7回はマンガ表現を扱います。近代的なメディアとしてのマンガは、19世紀前半、フランス語圏スイスでロドルフ・テプフェールによって発明されたと言われることが多いわけですが、その後のマンガ表現の歴史は単線的ではなく、19世紀終わりから20世紀初頭のアメリカで大きく変貌を遂げます。その成果をも取り込むような形で、20世紀のフランス語圏のマンガ、すなわちバンド・デシネは形作られていきました。ここでは19世紀から現在にいたるまでのフランス語圏のマンガ表現を、20世紀終わり以降明確になった日本マンガの影響までを視野に入れつつ、国際的なネットワークのなかで捉えたいと思います。鍵となるのは、フレームとキャラクターをめぐる近代的な捉え方の形成と変化という問題です。

後半7回はポップミュージックを扱いますが、日本でシャンソンとかフレンチ・ポップスと呼ばれるようなジャンルではなく、ジャズやブルースからヒップホップにいたる、アメリカで生まれた黒人音楽のフランスでの受容と展開、および「ワールドミュージック」と総称される音楽のなかで、フランスを経由して世界に広まったアフリカのポップミュージックを中心に据え、20世紀のポップミュージックの歴史と意義を、英語圏を中心に見るのとはいくらか異なった視点から捉えてみたいと思います。ポール・ギルロイが「ブラック・アトランティック」という表現で集約したような問題群を、フランス語圏も共有しているはずですが、それはどのような形においてだったのか、できる限り具体的な音楽作品に寄り添いながら、考えていきましょう。

授業の到達目標

マンガとポップミュージックを切り口として、フランス語圏の文化を国際的なネットワークのなかで捉えるようなパースペクティブを得ること、またそこにおける外国文化の受容のあり方を考える作業を通じ、最終的には日本の文化を相対化するための視点を手にすることが目標です。また、マンガ表現やポップミュージックを論じるためにはどのような方法があるか、いろいろ考えてもらうことも授業の目的です。

成績評価方法

●**試験**　0%　　—

●**レポート**　70%　　授業で扱ったテーマのいずれか（マンガあるいはポップミュージック）について、学期末に4000字以上のレポートを書いてもらいます。

●**平常点**　30%　　コンテンツの視聴とレビューシートの提出によって評価します。

●**その他**　0%　　—

備考・関連URL

概要に書いた通り、この授業はオンデマンド形式で行います。毎週、指定されたコンテンツを視聴することで出席として扱います。それぞれのコンテンツは、必ず指定された期間（1週間）のうちに視聴してください。

後半はポップミュージックを扱いますが、音楽を授業で本格的に扱うのははじめてのことで、正直なところ自信はありません。試行錯誤の授業になるかもしれませんが、努力していくので、つきあってもらえれば嬉しく思います。

科 目 名	フランスの歴史と社会　フランス文化の歴史を探ってみましょう							
担当者名	井上　櫻子							
仏文コース	２単位	秋学期	無	フルOD	１年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

高校の世界史の授業は、たとえば百年戦争やフランス革命など、歴史上の大きな出来事をたどるスタイルで進められますが、実は歴史へのアプローチの方法は多様です。この授業では、文学や文化を通してフランスの歴史をたどっていきます。

みなさんは、「フランス」という国やその首都「パリ」という固有名を聞いたとき、どのようなイメージを抱くでしょうか。「芸術の中心地」であるとか、「長い伝統と歴史を誇る国」であるとか、あるいは「花の都パリ！」というイメージを想像する人が少なくないと思います。しかし、フランスが「芸術の中心地」と言われるのはなぜか、フランスの誇る「伝統と歴史」とはどのようなものか、さらにパリがいつから「花の都」になったのか、という問いに対してはすぐに答えられないかもしれません。この授業では、こうした問いへの回答を示すことを試みます。フランスの文化の歴史を知ることで、この国を旅する機会が得られたときにも、旅行ガイドブックの紹介とは異なった視点から楽しめるでしょう。

また、大学に入ってフランス語を学び始めたみなさんには、この授業を通して、フランス語を使ってどのような世界を探求できるかを知っていただければと思います。

授業の到達目標

フランスの文化史についての基礎的な知識を身につけることを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　期末レポートを課します。
●**平常点**　40%　　規定時間以上の聴講を行なっていることと、コメントの内容を総合して評価します。
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	ドイツ文学概論1　Introduction into Literary Theory							
担当者名	クラヴィッター　アルネ							
独文コース	２単位	春学期	無	フルOD	２年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

In this course, students will be introduced to some of the most influencing thinkers of 20th century like Roland Barthes, Michel Foucault, Jacques Lacan, and Jacques Derrida. In this class, we will explore the various schools of modern literary criticism. Students will also be introduced to the various ways in which scholars of literature have tried to interpret texts, and will learn how to read texts using the methods they have developed.

この授業では、ミシェル・フーコー、ジャック・ラカンやジャック・デリダなどの20世紀において影響力のあった思想家たちについて紹介しながら、文芸批評の様々な流派に触れてもらう。さらに、文学者たちが用いたそれらの分析方法をつかって、どのようにテクストが読解できるのかを学んでもらう。

The class will be online (video on demand lectures).

マルチメディア課題を動画コンテンツとして用意してあります。

授業の到達目標

Students will be introduced to critical thinking and will learn how to read and understand theoretical texts. Additionally, we will apply some of the critical methods we learn to select readings of fiction.

この授業の目標は、批判的な考え方を身につけ、理論的なテクストの読み方と理解の仕方を学んでもらうことにある。さらに、それらの理論をつかったテクストの解釈方法を学んでもらう。

成績評価方法

●**試験**　0%　　no
●**レポート**　50%　　report
●**平常点**　50%　　出席（25%）、授業への参加度（25%）
●**その他**　0%　　no

備考・関連ＵＲＬ

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	ドイツ文学概論2　100分de名著を語る							
担当者名	武田　利勝							
独文コース	２単位	秋学期	木曜日	２時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

某番組のパクリでは？と思ったそこのあなた。違うのです、deはここでは国名コード、いや、現在のオーストリアや東欧一部地域も含むという意味では、一つの文化圏コードであると思ってください。

すなわちこの授業では、毎回100分を費やし、ドイツ語圏の文学作品を一つ一つとりあげて語り尽くそうというわけです。

この講義は「概論」となっていますが、それぞれの作品についての概論的は話にはなりません。また、特に分析の方法も限定しません（だから文学理論的な話にもなりません）。各作品ないしはテクストに内在する決定的なポイントに狙いを定めて、必要とあらば思想史的・社会史的・文化史的な領域から補助道具を借用しつつ、ひたすら深掘りすることとします。なにぶん講義ということで、私一人が話し倒すことになりそうですが、まずは紙芝居のつもりで聞いていただければ幸いです。

なお、「授業計画」にある作品について変更がある場合は、講義開始時にお伝えします。

授業の到達目標

ドイツ文学についての理解を深める。文学作品を読み込むための実践力を身に着ける。

成績評価方法

●**試験**　50%　　試験は「教場レポート」となります。講義で扱った12作品のうち一作品を選び、それについて論述してもらいます。

●**レポート**　0%

●**平常点**　50%　　毎回講義の最後にレスポンス・ペーパーをお配りしますので、こちらにコメントをお書きください。講義の理解度や積極性をみて、評価します。

●**その他**　0%

科 目 名	ドイツ言語文化論　フランツ・カフカの文学世界							
担当者名	川島　隆							
独文コース	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

フランツ・カフカ(1883-1924)は、生前はあまり有名な作家ではありませんでしたが、第二次世界大戦後に世界的なカフカ・ブームが起き、それ以来、常に新たな読者を獲得しつづけています。平凡なサラリーマンがある朝、巨大な「虫けら」になった姿で目覚める『変身』、「何も悪いことはしていない」銀行員が突然逮捕され、裁判にかけられる『訴訟(審判)』など、カフカ作品はどれも不可解な要素をはらみ、どこにも解決や救いがない世界が描かれていますが、にもかかわらず多くの読者の共感を呼びつづけている理由は何なのか。この講義では、カフカの人生にも目配りしつつ、その文学の魅力の源泉を考えます。なお、カフカ作品は数多く日本語に訳されており、特に代表作『変身』は何度も繰り返し訳されています。それらの訳を相互に比較し、なぜ訳の違いが生まれてきているのか、その違いにどのような意味があるのかも考えます。

授業の到達目標

・カフカの文学の特長を把握し、それらの作品が生まれてきた背景を知る

・カフカ作品を例に、文学作品の翻訳とはどのような営みであるかを知り、自国の文化の中で翻訳が果たしている役割を意識的に見る目を養う

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　50%　　授業内容を把握したうえで、自分自身の考えを展開できているかを評価する。

●**平常点**　50%　　授業内容を把握したうえで、自分自身の考えを展開できているかを評価する。

●**その他**　0%

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	ウィーン文化論　華やかでいて死の臭いのする街ウィーンを味わいつくす							
担当者名	武田　利勝　他／飯田　道子／岩谷　秋美／山本　浩司							
独文コース	2単位	春学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

魅力的でいてどこか冷たく、華やかでいて死の臭いのする街、中欧の土の匂いとカフェの甘い香り、永遠に「昨日の世界」であるかのような保守性とそれを鋭く切り裂く革新性。このように様々な顔を持つ都市ウィーンの文学・美術・音楽・建築・思想・映画に関して、早稲田の内外の専門家が講義を行う、【文学部ドイツ語ドイツ文学コース主催】の総合講座です。 ●オリエンテーションでは本科目のコーディネーターが大雑把にこの都市の成り立ちと精神風土についてお話しし、導入として、誰もが知るウィーン古典派のスーパースター、W.A.モーツァルトをめぐる物語をお聞かせします。●ウィーンは繰り返し映像作品の舞台となってきました。映画の分野では、戦前から現在まで銀幕の中でウィーンがどのように表象されてきたか、その変遷を跡づけます。●美術の分野では、まずウィーンを代表する中世から近代までの建築を考察し、建築における伝統と革新について考えます。その後、クリムトとシーレという世紀末ウィーンを代表するふたりの画家にフォーカスして、その美術史における意義を検証します。●文学をめぐる最後の四つの講義では、とくに第二次世界大戦後のウィーンにおける文学シーンを扱います。

各回の詳細は「授業計画」を参照して下さい。

授業の到達目標

世界的な文化都市ウィーンについての洞察を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません。

●**レポート**　60%　　字数は3,000字以上とします。

●**平常点**　40%　　出席状況を重視します。また担当教員から要請のあった場合は「アンケート」に答えて下さい。

●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

「フルオンデマンド方式」で行います。

科 目 名	ドイツ比較文化論　ドイツ語圏文化を拠点に「あいだ」についてまじめに考えてみる							
担当者名	山本　浩司　他／荒又　雄介／岡山　具隆／尾崎　有紀子／前川　一貴							
独文コース	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

本オムニバス講義では「比較文化」を広くとり、ヨーロッパと日本の「あいだ」はもとより、文化的ジャンル（映画、美術、音楽、文学）の「あいだ」、哲学や科学や文学など学問領域の「あいだ」まで含めて考えてみようと思います。比較と言うと、あたかも「ドイツ文化」や「日本文化」、「思想」と「文学」などが実体としてあるように考えてしまいがちですが、そんなものは幻想に過ぎないと考える縁になるかもしれません。オムニバス講義の利点を生かして、ドイツ文学、ドイツ思想、美術史の専門家を講師に迎え、ドイツ語圏文化を拠点に「あいだ」についてまじめに考えてみましょう。具体的には●ノーベル賞作家グラ

スのメディア横断的試みにおける「あいだ」、過去との取り組みにおける世間とグラスの「あいだ」●ニーチェにおける詩と哲学と生理学の「あいだ」●絵画表現におけるイタリアとドイツ・オーストリアの「あいだ」●文学におけるドイツ・オーストリアとイタリアの「あいだ」●言語と言語の「あいだ」というテーマを取り上げます。

授業の到達目標

他文化との比較から、ドイツ語圏文化についての洞察を深める。
ドイツ語圏文化の具体例をもとに、メディア間やディシプリン間の相互作用についての洞察を深める。

成績評価方法

●**試験** 0%　なし
●**レポート** 80%　レポート
●**平常点** 20%　出席点
●**その他** 0%　なし

備考・関連URL

フルオンデマンド形式でムードルから映像コンテンツを試聴してもらいます。毎週火曜日の16時30分までにコンテンツを所定の回にアップロードします。**一週間後の16時30分までに閲覧を済ませてください。担当教員によっては課題を課す場合がありますので、その指示に従ってください。初回のみ登録期間を考慮して2週間の閲覧期間をとります。**

講義

科目名	ドイツ語圏の文学　な め た ら い か ん ぜ よ——ドイツ文学にみる戦闘美少女たち							
担当者名	山本　浩司							
独文コース	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

なめたらいかんぜよ——1980年代はじめの日本では女任侠夏目雅子（『鬼龍院花子の生涯』）が切る啖呵に誰もが痺れたものです。18世紀末以降のドイツ文学にも戦闘美少女が多数出現しますが、保守的なジェンダー規範に縛られた時代だからこそ、スクリーンや本のページ上の夢の産物に期待が寄せられたのでしょうか。本講義ではドイツ語圏文化に出現する戦闘美少女幻想の意味を問います。

実は伝統的な性役割分担は19世紀に作られた新しい伝統に過ぎず、フランス革命期は男女同権の可能性が開かれていました。文豪シラーがそれまで魔女扱いされていたジャンヌ・ダルクを救国の英雄に高め（『オルレアンの乙女』1801）、ベートーヴェンのオペラ『フィデリオ』（1805）では男装の麗人が監獄から夫を果敢に救出します。しかしすでにその3年後には時代を先駆ける異端者クライストが戦闘マシーンに人体改造したアマゾネス女王が愛する敵アキレウスの肉を食うカニバニズム的倒錯を描いて、両性の和解が不可能なことを示しました（『ペンテジレーア』1808）。19世紀ブルジョワ社会が危機に瀕する世紀末には宿命の女（ファム・ファタール）やマゾヒズムなど男性作家たちの被虐願望において性愛と暴力がますます深く絡みあうようになります（ワイルド『サロメ』1983、ヴェーデキント『ルル』2部作1897/1904、マゾッホ『毛皮のヴィーナス』1870）。そして20世紀になると、これまでの神話形象や架空の戦闘美少女ではなく、リアルな女性革命家が政治の舞台に登場してきます。白色テロに倒れた革命家ローザ・ルクセンブルクに取材したツェランやデーブリンの作品を取り上げて、革命とテロルの歴史とフィクションの交錯についても考えてみるつもりです。

授業の到達目標

ドイツの戦闘美少女たちに詳しくなる。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 80%　作品論を書いてもらう。その巧拙が評価基準。
●**平常点** 20%　出席と感想文の内容
●**その他** 0%

科目名	ドイツ語圏の思想　感性と思考の20世紀ドイツ思想系譜学							
担当者名	前田　良三							
独文コース	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル［オンライン］フルオンデマンド

授業概要

20世紀の思想において、感性は重要なトポスのひとつと言えます。感覚体験・知覚体験を決定的な契機として展開する思想の系譜は、「精神」や「意識」を起点とする伝統的な思考機制を乗り越えようとする運動であり、さらには「言語」を出発点とする思想とも緊張関係を伴いつつ、現代のポスト・ヒューマンな思想や人間学につながってゆきます。講義では、都市、メディア、身体、技術、神話などのテーマを手がかりに、20世紀ドイツ語圏の思想の連関を浮かび上がらせることを試みます。ゲオルク・ジンメル、ジクムント・フロイト、ヴァルター・ベンヤミン、フリードリヒ・ニーチェ、ジークフリート・クラカウアー、エルンスト・ユンガー、カール・シュミット、テオドール・W・アドルノ、ヴィレム・フルッサー、ニクラス・ルーマン、フリードリヒ・キットラーといった人々のテクストを、あくまで「非体系的」かつ「非網羅的」に逍遥するというスタイルで論じていきます。

授業の到達目標

近・現代ドイツの文化論・美学思想についての基本的な知識を獲得するとともに、現代の社会と文化に知的に向き合うために必要な問題意識・方法意識の涵養をめざします。

成績評価方法

●**試験** 0%　試験は行わない。
●**レポート** 55%　課題レポートを2回提出してもらう。第1回レポート20%、第2回レポート35%で評価。
●**平常点** 45%　講義の内容についてのリアクションペーパーを3回提出してもらい、平常点とする。
●**その他** 0%　なし。

備考・関連URL

授業はすべてオンデマンド方式とします。受講方法などは，WasedaMoodleに事前に告知するので，必ず確認して履修してください。

科 目 名	ドイツ語圏の文化　ヴァイマル映画入門							
担当者名	柳橋　大輔							
独文コース	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

ドイツ映画史の黄金時代と呼ばれるヴァイマル共和国期（1918-1933年）の映画については、ジークフリート・クラカウアーの古典的研究書『カリガリからヒトラーへ』（1947年）以来、のちの第三帝国成立を可能にしたドイツ国民の集団心理を映し出すものと見做されてきました。こうした事後的な目的論的解釈から完全に自由になることは困難だとしても、ヴァイマル期の映画を当時の社会的・文化的・政治的文脈のなかで捉え返すことによって、これらの映画に潜んでいるより多層的な意味論を読み取ることができるはずです。そこではむしろ、第一次世界大戦（1914-1918年）における敗戦および革命という、ヴァイマル期に先立つ時期からつながるコンテクストが浮かび上がってきます。

本講義では、ヴァイマル映画の代表作を取り上げ、これらをその制作時における社会的・文化的・政治的文脈において、以下の5つの観点から分析していきます：

1） 戦争の傷、革命のトラウマ
2） 戦争はペストのように荒れ狂う
3） 工場という戦場、〈群衆〉というマトリックス
4） 断片化する身体、分裂する自我
5） 記憶のなかの戦争、来たるべき〈戦争〉

――まず、オンデマンド講義によってそれぞれの観点からヴァイマル映画を検討します。その次の回では、対面授業のかたちで当該テーマに関連する映画作品の抜粋を視聴したのち、前回オンデマンド講義について受講生のみなさんが提出してくれたリアクションペーパーをもとにディスカッションを行ないます。学期の最後には、受講生のみなさんにヴァイマル映画について短いグループ発表を行なってもらい、これをもとにレポートを提出してもらいます。

授業の到達目標

・ 1920年代・30年代のドイツ語圏における文化状況についてその概略を的確に理解し、その内容を相手にわかるように表現することができる。
・ 映画を手がかりに、芸術作品が同時代の社会的・文化的・政治的文脈と取り結ぶ相互関係について具体的に説明することができる。
・ 文化的なコンテンツを対象としたリサーチとプレゼンテーションのスキルを実地に学ぶことができる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　20%　　グループ発表の内容をもとに自分の考えを論理的にまとめてください（レポートが提出されない場合は単位を認定できません）。
●**平常点**　80%　　各回の授業後に提出してもらうリアクションペーパーの内容やグループワークないしディスカッションへの貢献ぶりなどをふまえ、授業に対する参加度や積極性を評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

・ 履修生の人数等によっては、授業運営の方法を変更する可能性があります。上記の授業計画はあくまで目安と考えてください。
・ 授業回数の3分の2以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。
・ 連絡やリアクションペーパーの提出などにWaseda Moodleを使用します。また、オンライン授業を行なう回がありますので、Zoom が使用できるよう、PCとネット環境を準備しておいてください。
・ 授業であつかう映像のなかには、場合によっては一部の人にとってショッキングなものに思われる内容が含まれている可能性がないわけではありません。あらかじめ了承のうえ受講してください。

科 目 名	ロシア語学　実践ロシア語トレーニング							
担当者名	三浦　清美							
露文コース	2単位	秋学期	木曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

初級文法を終えた学生に対して、ロシア語を実践的に運用するのにあたって有益と思われる知識を伝授する。完了体・不完了体は、ロシア語初級、中級文法でもっとも重要な分野で、不完了体、完了体の用法を着実にマスターすることによって、ロシア語の読解はきめこまやかなものとなり、作文の表現力も増す。不完了体、完了体の使い分けがもつ表現の可能性を、プーシキン、レールモントフの詩を検討することによって学習する。授業後半では、レフ・トルストイの寓話、民話の講読を加え、ロシア語の表現全般について学ぶ。

授業は原則対面で行うが、授業内容は実質的に中級文法で、飛沫の拡散を伴う発音練習を含むので、コロナの感染状況に応じて7回以下でリアルタイム配信のオンライン授業で行うこととする。

授業の到達目標

ロシア語を実際の場で使えるようになる。

成績評価方法

試験（70%）、主体的な授業参加度（30%）。

科 目 名	ロシア語史							
担当者名	丸山　由紀子							
露文コース	２単位	秋学期	木曜日	４時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

ロシア語の歴史を概説します。現代ロシア語を学ぶ際に不規則なものとして丸暗記しなければならなかった文法事項も、その歴史的由来を知れば、理解が深まると同時に興味深いものへと変わるはずです。

授業では、ロシア語史、また現代ロシア語を理解するために不可欠なスラヴ祖語および古教会スラヴ語についても、かなりの時間を割いて説明します。現代ロシア語に見られる音・文法現象にはスラヴ祖語期に生じた変化に端を発するものが少なくありません。その道筋を考察することは現代ロシア語の文法をよりクリアーに理解する助けにもなります。

授業計画には記載していませんが、適時、古教会スラヴ語および古東スラヴ語、中世ロシア語のテクストを紹介します。授業で扱った歴史的変化が実際の文献でどのように現れるか、実例を見て確認します。

授業は言語そのものに生じた変化（歴史文法）が中心になりますが、必要に応じて、文化的・歴史的背景に関する解説も行います。

ロシア語史を理解するためには、現代ロシア語の確かな知識が不可欠です。文法に自信がない人は、授業前に一通り復習しておいてください。

授業の進捗状況により、扱う内容と範囲に変更が生じる可能性があります。以下の授業計画はあくまでも目安とお考えください。

授業の到達目標

ロシア語の歴史を学ぶと同時に、歴史的変遷を知ることで現代ロシア語の文法事項等をより深く理解することを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　100%　　定期的に出される課題の出来映えと、授業での出席、貢献度によって総合的に判断します。

課題は毎回、100点満点で点数を出します。未提出の場合は0点です。課題の平均点が評価を決定する大きな要素となりますので、必ずすべて提出するようにしてください。授業に出席していても課題を提出しない場合は単位を認定できませんので、注意してください。

●**その他**　0%　　なし。

備考・関連ＵＲＬ

定期的に授業内容に沿った課題を出し、理解度をチェックします。皆さんからの提出物を添削した上で返却し、翌週の授業冒頭で解説をします。歴史的変化を追っていく授業なので、一度でも欠席してしまうと理解が難しくなります。授業には毎回出席するよう心がけてください。

科 目 名	ロシア中世文学　ロシア的伝統の形成とロシア中世文学							
担当者名	三浦　清美							
露文コース	２単位	春学期	無	フルOD	２年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

19世紀におけるロシア文学の爆発的開花は、プーシキン、ゴーゴリ、ドストエフスキイ、トルストイ、チェーホフといった大作家の名前とともに記憶されるが、それを準備した中近世ロシア文学の独自の伝統が存在したことを忘れてはならない。それは、キリスト教正教の価値観が支配的でビザンツの影響が強い記述文学と、キリスト教正教の枠内にとどまらない独自の文化的伝統が息づいている口承文芸の2つの軸からなっており、両者の併存が中世ロシア文学の特徴であった。ロシアの文字文化は、10世紀末のキリスト教受容にはじまったが、両者が融合を遂げるのはようやく17世紀のことであり、ピョートル改革を経験した18世紀にはおもに西欧の影響下でロマノフ家の宮廷を中心に今までの時代と異なる性質の文学が開花した。

この授業ではロシア中世文学の伝統を比較文学的な考察をも交え、イコノロジー、民俗学、歴史学などの関連諸分野にも目を配りながら、おもにキリスト教黎明期の中世ロシア文学について学んでいく。

授業の到達目標

ロシア中世文学を成立させた宗教的なファクター（ロシア正教の伝統）に十分な注意を払いながら、キリスト教黎明期の文学的伝統の特徴を、時代を追って把握し、前近代ならびに近現代ロシア文化の基層部分にたいする理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はしない。
●**レポート**　20%　　より良い成績を目指す人は力を傾けてほしい。
●**平常点**　80%　　授業内容の要約、感想、質問を書かせる毎回のリアクション・ペーパーを、以下の観点から評価する。①テクストと向き合えているか。②テクストと向き合うことを通じて自分の考えを持ち得ているか。③それを的確な日本語で表現できているか。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連ＵＲＬ

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	ロシア現代文学　ロシア語で執筆する作家たち							
担当者名	高柳　聡子							
露文コース	２単位	秋学期	月曜日	３時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この講義では、まず革命後のソ連の文壇の状況を俯瞰し、20世紀後半から現在までのロシア語文学の代表的な作家や作品、事象を紹介・解説していきます。

ソ連時代には、「社会主義リアリズム」というイデオロギーによるジャンルの一元化の試みがあり、一方で、それに反する作

家たちの文学裁判、亡命文学、地下文学の隆盛など独自の出来事があり、創作が常に政治と密接な関係にありました。そうした歴史的背景を知ることは、テクストの理解の一助にもなります。また、ソ連崩壊後は、多様なジャンル、作品が登場し、イデオロギーと距離を置いた自由な創作の時代が到来したように思える時期もありましたが、ここ数年は、LGBTQコミュニティの弾圧や、ウクライナでの戦争などもあって、再び芸術の自由が脅かされる事態となっています。そのため、国外へ出た作家も少なくありません。そうした最新の文学事情と作品を紹介しながら、文学とは何か、ロシア語で書くことの意味とは何か、政治と文学の関係、ジャーナリズムとはいかにあるべきか、といった問題について深く考える場となる講義にしたいと思います。

使用するテクストはできる限り（抜粋であれ）、Moodle上で共有し、事前に読んできてもらえるようにします。ロシア語やロシアの歴史などに関する知識は不要。初めてロシア文学に接する人にもわかるよう解説します。文学と戦争、文学と思想、文学とフェミニズム、作家の亡命、言語実験など、文学に関心のある人たちにとって、いま世界で共通している問題を考える機会にもなればよいと思います。

授業の到達目標

ソ連時代から現在に至るまでのロシア文学の歴史を知り、作品を理解するための基礎知識を身につけ、新たなテクストに対応できる読解力を磨く。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　最後の授業時に教場でレポートを執筆（すべて持ち込み可）
●**平常点**　40%　　出席と毎回のコメントシートの内容を評価に加味します
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

質問などはメールでいつでも受け付けます
takayanagi@aoni.waseda.jp

講義

科 目 名	ロシア文学と現代　ロシア文学の読み方							
担当者名	高柳　聡子							
露文コース	２単位	春学期	月曜日	５時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

ロシアには、ドストエフスキーやトルストイをはじめとする19世紀の文豪もいれば、ソ連時代に労働者のために作品を書いた多くの作家たち、あるいは、アンダーグラウンドの非公式芸術で自由な創作も手掛けた人たちもいます。時代と政治体制によって、文学のテーマや形式は大きく変わってきましたが、一方で、いつの時代にも変わらぬ普遍的なものもあり、それは文学そのものの普遍性とも捉えることができます。

今現在のロシアは、政治的には、ウクライナと戦争をしている国として良い印象を与えません。そのロシアには、今も昔も、戦争や当局と闘う多くの詩人や作家がいます。履修者の皆さんは、いろいろな印象をもったまま参加してください。

この授業は、①ロシア文学を読んでみたい、②ロシアに限らず文学の読み方を知りたい、③言葉の可能性を考えてみたい、④さまざまな人間のありかたを知りたい…という学生たちとの出会いを想定しています。もちろん、14回の講義を終えた暁には、ロシア文学の基本的な作品と主要なテーマだけでなく、少しレアな作品や作家にも詳しくなっていることでしょう。関心のある作家や作品を見つけたら、どんどん本を読んでいってください。プーシキン、ゴーゴリ、ドストエフスキー、トルストイから、まだ日本には翻訳もない現在の若い作家・詩人たちまで登場します。ふだん読んでいる日本の作家との共通点も見えてくるでしょうし、授業内でも比較文学的に取り上げていきます。ロシア、そしてソ連について、まずは文学・文化の視点から見るための視座を、この授業で手に入れてください。それは他の国の文学作品にも応用できるスキルになるはずです。

授業で扱う作品は、事前に読んでいれば非常に良いですが、読んでいないことを前提にお話しします。また、ロシアの歴史や地理などについても予備知識のない学生たちを対象に解説を加えていきます。ロシア語の知識も不要です。

※14回目の授業は講義に変わる可能性があります。その場合は、「理解度の確認」をレポートに変更します。

授業の到達目標

芸術や文化（とりわけ文学）に対するアプローチの仕方を学びます。同時に、作品の背景にあるロシア／ソヴィエトの基礎知識も知っていきます。さらに、ロシア文学に通底する思想や精神性、政治との関係を知り、今現在のロシアで起きている問題とのアクチュアルなつながりを見出せるようになります。きっと日本の今とも共通するものが見えてくるでしょう。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　期末に教場でレポートを執筆・提出、または後日レポート提出をしてもらいます。関心のある作家や作品を取り上げ、テーマを設定して自由に論じてください（2000字程度）。
●**平常点**　50%　　出席と、各回に書いてもらうコメントシートの内容を評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	ロシア文化理論と現代　文化的テクストを読み解くために（旧名：身体とメディアの基礎理論）							
担当者名	貝澤　哉							
露文コース	２単位	春学期	金曜日	３時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業は、1.「物語」と「終末」、2.「声」と「歌」、3.映像・イメージ：視覚と身体、4.「食物」と「ゴミ」、5.「探偵」などのテーマを手がかりとしながら、文化的テクストを読み解くための基礎となる理論をなるべくわかりやすく紹介することを目的とする。

授業では、ロシアだけでなく世界の文化理論の成果をなるべくわかりやすく紹介するが、その内容は必ずしも簡単ではない。現代の思想・文化理論の難解な問題にも触れていくので、上で挙げた各テーマに関心がないと、授業についていくのに困難を感じるかもしれない。登録のさいにはじゅうぶん注意すること。

しかし、せっかく大学に入ったのに、高校までのような、たんなる知識の詰め込みや、すぐに答えの出る問題だけをやっているのでは、大学に来た意味がない。高校までではけっして教えてくれない、むずかしいが重要な問題をとりあげる場所であるこ

と――そこに大学の存在意義があるのだ。この授業は、高校までの授業ではけっしてでてこない、文化の仕組みにかんする重要な理論を学ぶ場なのである。

授業の到達目標

「物語」、「声」と「歌」、「映像・イメージ」、「身体」の基礎理論を習得し、文化的テクストの読解のスキルを高めることが目標である。

そのためには、高校生的な「お勉強」ではなく、自分の頭でものを考え、自分独自の見方を自分の言葉で、しかし他の人にわかるように表現することが重要だ。

成績評価方法

●**試験**　0%　　下記を参照
●**レポート**　0%　　下記を参照
●**平常点**　0%　　下記を参照
●**その他**　100%　　授業状況により、出席とレポート、コメントシート等で総合的に評価する。

科 目 名	ロシア芸術の現在1							
担当者名	八木　君人　他／安達　紀子／梶山　祐治／村山　久美子							
露文コース	2単位	春学期	月曜日	2時限	1年以上	―	合併科目	フル【対面】

授業概要

ロシアは文学のみならず、音楽、美術、映画、演劇などの芸術諸ジャンルにおいてもきわめて魅力的な活動を続けている国です。本講義の目的は、これら多様なロシアや旧ソ連圏の国々の芸術諸ジャンルの最前線の状況・活動について紹介していくことです。春学期に行われるこの「ロシア芸術の現在1」では、具体的には演劇、ポップス、バレエ、映画などについて、その分野に精通した講師たちが講義を担当していきます。以下、ごく簡単にラインナップを示します。

村山久美子　(4/14, 4/21, 4/28, 5/12)　：バレエ
梶山　祐治　(5/19, 5/26, 6/2, 6/9)　：映画
安達　紀子　(6/16, 6/23, 6/30, 7/7)　：演劇
八木　君人　(7/14, 7/21)　：ポップス

授業は基本的には対面授業で行いますが、梶山祐治の担当回のみ、視聴動画によるオンデマンド配信になる予定です。

授業の到達目標

ソ連時代を含めた、広い意味での「ロシア芸術の現在」について知識を得た上で、それぞれの分野において「ロシア芸術の現在」についての自分なりのイメージをもてるようになることが目標です。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　担当教員それぞれが出す課題の中から一つを選択し、2000字程度のレポートを提出してもらいます。
●**平常点**　50%　　授業への参加態度。毎回、講義に対するレビューシートを提出してもらいます。なお、大学の規定である、授業回数全体の3分の2以上の出席は必須になります。
●**その他**　0%

備考・関連URL

ロシアや旧ソ連圏の文化全般に関する積極的な興味・関心を持って受講してもらいたいと思います。

科 目 名	日露比較文化1							
担当者名	坂庭　淳史　他／上野　理恵／桜井　厚二／杉浦　かおり／塚原　孝							
露文コース	2単位	春学期	水曜日	5時限	2年以上	―	合併科目	フル【対面】

授業概要

ロシアは古くから「日本に最も近いヨーロッパ」として、日本と密接な文化的関係・交流を保ってきました。しかし現在の日本においても（むしろ2022年のロシア軍によるウクライナ侵攻以降、現在においてはますます）、その歴史や実状、意義が十分に検討されていないように思われます。この講義では担当の複数教員が日露交流の様々な局面に光をあてて、日本とロシアの文化的関係・交流を新たに、そして多角的に考察していきます。「近くて遠い国ロシア」をニュートラルに捉えられるように、そしてまた二つの国の文化的関係・交流の豊かさを認識し、そこに心血を注いだ先人たちの努力について学ぶことを目的としています。

具体的に扱うテーマは、ロシア映画と日本・日本映画とロシア、暦法からみる日・露・欧の社会制度と宗教・文化、日本近代文学におけるドストエフスキイ受容、ヨーロッパにおけるジャポニズムとロシアにおけるジャポニズムの差異と共通性、などです。各回で取り上げていくテーマをはじめ、「日露比較文化」「ロシア文化」についてすでに関心を持っている人はもちろんですが、予備知識が全くないという人も歓迎します。なお、この講義では、ロシア語の知識は特に必要としません。

授業の到達目標

日本とロシアの文化的相互交流の歴史について、その概要と注目すべきトピックの詳細を理解してもらいます。そして、それらの理解と知識にもとづいて、履修者それぞれが異文化交流についての確かでしなやかな視座を構築することを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　各担当教員が提示する題目から任意のものを選び、レポートを提出してもらいます。
●**平常点**　30%　　授業への取り組み姿勢などを総合的に評価します。全14回のうち3分の2以上の出席が、全体評価の前提条件となります。
●**その他**　0%

備考・関連URL

この授業のカリキュラムは、秋期の「日露比較文化2」と合わせて履修することでより効果的かつ全体的に理解できるように設計されています。もちろん「1」のみの履修も歓迎しますが、可能であれば「1」「2」両方の履修をおすすめします。

科 目 名	日露比較文化2							
担当者名	坂庭　淳史　他／粕谷　典子／高柳　聡子／南平　かおり／籾内　裕子							
露文コース	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

ロシアは古くから「日本に最も近いヨーロッパ」として、日本と密接な文化的関係・交流を保ってきました。しかし現在の日本においても（むしろ2022年のロシア軍によるウクライナ侵攻以降、現在においてはますます）、その歴史や実状、意義が十分に検討されていないように思われます。この講義では担当の複数教員が日露交流の様々な局面に光をあてて、日本とロシアの文化的関係・交流を新たに、そして多角的に考察していきます。「近くて遠い国ロシア」をニュートラルに捉えられるように、そしてまた二つの国の文化的関係・交流の豊かさを認識し、そこに心血を注いだ先人たちの努力について学ぶことを目的としています。

具体的に扱うテーマは、二葉亭四迷による翻訳『あひゞき』の持つ意義の解明、明治・大正の女性と来日ロシア人との文化交流、チェーホフと日本、イデオロギーとジェンダー・フェミニズム、などです。各回で取り上げていくテーマをはじめ、「日露比較文化」「ロシア文化」についてすでに関心を持っている人はもちろんですが、予備知識が全くないという人も歓迎します。なお、この講義では、ロシア語の知識は特に必要としません。

授業の到達目標

日本とロシアの文化的相互交流の歴史について、その概要と注目すべきトピックの詳細を理解してもらいます。そして、それらの理解と知識にもとづいて、履修者それぞれが異文化交流についての確かでしなやかな視座を構築することを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　各担当教員が提示する題目から任意のものを選び、レポートを提出してもらいます。
●**平常点**　30%　　授業への取り組み姿勢などを総合的に評価します。全14回のうち3分の2以上の出席が、全体評価の前提条件となります。
●**その他**　0%

備考・関連URL

この授業のカリキュラムは、春期の「日露比較文化1」と合わせて履修することでより効果的かつ全体的に理解できるように設計されています。もちろん「2」のみの履修も歓迎しますが、可能であれば「1」「2」両方の履修をおすすめします。

科 目 名	ロシア思想史　ロシア、そのアイデンティティを中心に							
担当者名	小俣　智史							
露文コース	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル［オンライン］フルオンデマンド

授業概要

プーシキンやドストエフスキー、トルストイ、チェーホフといったロシアの作家たちの作品を読んだことがあるけれども、ロシアの「思想」については具体的なイメージが浮かばないという人は少なくないでしょう。しかし、実はロシアにおいて「思想」と「文学」は密接に結びつきながら発展してきました。そのため、ロシア文学を理解する上でロシア思想についての知識は重要だと言えます。

この講義では、ロシアがギリシャから正教を受け入れた10世紀末から20世紀はじめまで、その思想の歴史を概観します。時代としては19世紀、テーマとしてはロシアのアイデンティティ、宗教、社会、ロシアとヨーロッパの関係を中心に取り上げ、その周辺にも目を向けていきます。

ロシアについて予備知識がない受講者や、ロシア語の知識がない受講者もいるという前提で授業を進めていきます。

本授業は全回オンデマンド授業（定期配信）として実施します。

授業の到達目標

ロシア思想史を全体的にとらえることによって、文学をはじめとするロシアの芸術作品について表面的な意味だけでなく、その根源にある精神性を理解する。

成績評価方法

●**試験**　50%　　学期末のレポート
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　出席、授業への参加度（レビューシート）
●**その他**　0%

備考・関連URL

毎週金曜日（0時）に講義動画をWaseda Moodle上にアップロードし、視聴可能にします。動画を視聴した後、課題としてレビューシート（感想・質問など）を提出して下さい。レビューシートの提出は、翌週の火曜日締め切り（23時59分まで）とします。提出されたレビューシートをまとめたファイルは、次の回の講義動画等と同じタイミングでMoodle上にアップロードします。

科 目 名	ロシア・アヴァンギャルド文化論							
担当者名	八木　君人							
露文コース	2単位	春学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

その範囲を広くとれば、世紀転換期から1930年代前半にかけてロシア／ソ連で展開された革新的な芸術活動を総称して、「ロシア・アヴァンギャルド」と呼びます。この時期に、文学、映画、演劇、美術、音楽、建築、ダンスといったあらゆる「芸術」ジャンルでさまざまな動きが興ったわけですが、しかし、誤解のないようにいえば、その運動の担い手たちが「ロシア・アヴァンギャルド」を標榜したわけではありません。つまり、「ロシア・アヴァンギャルド」というひとつの運動があったわけではなく、それぞれのジャンルにおける複数の運動が、そのジャンル内で、あるいは異なるジャンル間で、集合離散を繰り返しながら進展していった、不断の運動体として捉えるべき芸術運動といえます。

そうした運動体としての生命を保ちえた大きな要因のひとつとして（あくまで「ひとつ」です）、ロシア革命による政治的・社会的変動が挙げられます。こうした転形期における芸術活動の多くは、国家や政治、社会とどのように対峙するかという問いにつねに直面することになります。それは、のちのソ連体制が喚起する通俗的な「国家によって抑圧される芸術」といったイメージに還元されるようなものではなく、たとえば、芸術家が世界や社会を造形する可能性を、現実的なものとして捉えて活動するということです。

また、それと無関係なことではありませんが、多くのそうした芸術家たちが十月革命後に創設される学術機関において研究・教育活動にたずさわっていること、あるいは、立体未来派による革新的な詩のインパクトをひとつの大きな要因として生成した、新しい文芸理論であるロシア・フォルマリズムや新しい言語学などを考慮すれば、「ロシア・アヴァンギャルド」には、人文科学・芸術学の革新をも含まれるといえるでしょう。

こうした「ロシア・アヴァンギャルド」は、ロシアやソ連の枠内にのみとどまることのない、20世紀の芸術史的・文化史的出来事です。

この授業では、まず前半で、「ロシア・アヴァンギャルド」を（ある意味では教科書的に）概観し、ある種の見取り図を獲得したのち、後半で、いくつかの観点を立てて、その運動体を微視的に見ていきたいと思います。

授業の到達目標

「ロシア・アヴァンギャルド」に関する知識を得た上で、その歴史的・文化史的意義を理解しながら、現代におけるアクチュアリティを検討し、通俗的なイメージを超えた自分なりの「ロシア・アヴァンギャルド」観をもつことを目指します。

成績評価方法

●**試験**　50%　　14回目の授業時に「理解度の確認」を行います。その課題は事前に提示します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　各回、コメントシートを提出してもらいます。

ただし、大学の規定により、単位を出すには授業回数全体の3分の2以上の出席は必須となりますので、その点はご注意ください。

●**その他**　0%

備考・関連URL

この授業の理念にあたる「授業概要」や「目標」に則った具体的な授業運営によって、上記「授業計画」は、状況に応じて変更される可能性があります。

科 目 名	ロシア芸術の現在2							
担当者名	八木　君人　他／上田　洋子／小澤　裕之／神岡　理恵子／長井　淳							
露文コース	2単位	秋学期	火曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

ロシアは文学のみならず、音楽、美術、映画、演劇などの芸術諸ジャンルにおいてもきわめて魅力的な活動を続けている国です。本講義の目的は、これら多様なロシアや旧ソ連圏の国々の芸術諸ジャンルの最前線の状況・活動について紹介していくことです。秋学期に行われるこの「ロシア芸術の現在2」では、具体的にはクラシック音楽、アニメーション、美術、パフォーマンス芸術などについて、その分野に精通した講師たちが講義を担当していきます。ごく簡単にラインナップを以下に記します：

長井　淳　（10/7, 10/14, 10/21, 10/28）：クラシック音楽
小澤　裕之（11/4, 11/11, 11/18）　：アニメーション
神岡　理恵子（11/25, 12/2, 12/9, 12/16）：美術
上田　洋子（1/13, 1/20, 1/27）　：パフォーマンス・アート

授業の到達目標

ソ連時代を含めた、広い意味での「ロシア芸術の現在」について知識を得た上で、それぞれの分野において「ロシア芸術の現在」についての自分なりのイメージをもてるようになることが目標です。

成績評価方法

●**試験**　0%　　-
●**レポート**　50%　　担当教員それぞれが出す課題の中から一つを選択し、2000字程度のレポートを提出してもらいます。
●**平常点**　50%　　授業への参加態度。毎回、講義に対するレビューシートを提出してもらいます。なお、大学の規定である、授業回数全体の3分の2以上の出席は必須になります。
●**その他**　0%　　-

備考・関連URL

ロシア文化全般に関する積極的な関心を持って受講してもらいたいと思います。

科 目 名	ロシア民衆文化論　ロシア民衆の世界観と死生観への展望							
担当者名	三浦　清美							
露文コース	2単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

ロシアについてのイメージには、「寒い、広い、怖い」というものがある。ロシア政府によるウクライナ侵攻はこのイメージを強めてしまったが、ロシア政府、軍とロシア国民、民衆は分けて考えるべきであろう。ロシア文化に親しみ、彼らの生活を成り立たせている世界観や善悪のバランス感覚に洞察が効くようになると、ロシア人もまた日本人と同じ人間であり、日本人の世界観とはかなり異なるものではありながら、同じような喜怒哀楽、同じような人間的な感情をもって暮らしていることに気づく。にもかかわらずなぜ、ロシア政府が今回の戦争のような行動に踏み切ったか、それをロシア国民がなぜ黙って見ているのかは深く考察すべき対象であると考える。ロシア民衆独自の、このような世界との対し方は、長い時間をかけて形成された。この授業ではまず、自らの意志ではどうにもならない「運命」というものをスラヴ人がどう捉えてきたかを、第1世代から第3世代にわたる研究者たちがどう追ってきたのか、その考察のプロセスを見ていきたい。こののち、そうした運命の一つとして、統治者を「神の代理人」として捉えるロシアの統治者観の形成について考える。中世ロシアで書かれた実際の作品を、日本語訳で読むことで、ロシア人の感覚を理解することを目標としたい。毎回リアクションペーパーを書いてもらい、次回の授業ではそれらを紹

介して学生諸君の理解を確認しながら、授業を進めていきたい。

授業の到達目標

ロシアの歴史に十分配慮しながら、ロシア人の生活の基層をなすロシア民衆文化への理解をはぐくむ。

成績評価方法

●**試験**　70%　　学期末に「理解度の確認」をおこなう。テクストと向き合えているか、テクストと向き合うことを通じて自分の考えを形成できているか、自分の考えを的確な日本語で表現できているかを精査し、評価する。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。
●**平常点**　30%　　出席の状況、授業中の音読（音読を聞けば理解の度合いはわかる）、授業の感想等（時々書かせる）によって総合的に判断する。
●**その他**　0%　　その他の評価基準はない。

備考・関連ＵＲＬ

特になし。

科 目 名	ソ連と世界の全体主義文化　ソ連、ドイツ、イタリアにおけるファシズム・全体主義期の芸術文化（旧名：全体主義文化論序説）							
担当者名	貝澤　哉							
露文コース	２単位	秋学期	金曜日	３時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

革命後のソヴィエト・ロシアでは、スターリンの権力掌握以降、特に1930年代から、「社会主義リアリズム」といわれる公認の芸術様式が、文学、美術、建築、音楽、映画などあらゆる領域で発達したが、奇妙なことに、この芸術様式は、ソヴィエトの社会主義とイデオロギー的に対立していたはずのナチス・ドイツ、ファシスト期のイタリアの芸術文化ときわめて似たスタイルを持っていた。また、毛沢東時代の中国や戦時中の日本でも、類似の芸術様式や文化統制が行われていた。

ロシアにおいては、社会主義リアリズム様式は、社会主義政権が崩壊した現在でも、現代美術や文学のなかできわめて重要な役割を果たしている。

そこで、この講義では、当時の芸術作品や映画などを実際に見ながら、これまであまり取り上げられることのなかった、20世紀文化のなかでもきわめて特異でまた興味深いこうした現象を、主にソヴィエトとドイツ、イタリアの芸術との比較のなかで明らかにし、その文化史的な意味を考えたい。

授業では、スライドショーやビデオなどを使い、ふだん触れる機会のないこの時期の珍しい作品をできるだけ多く紹介する。

授業の到達目標

これまであまり触れられる機会のなかった全体主義、文化統制下の文化について、少しでも多く具体的なその作品や文化現象に触れ、その出現の意味や、現代の私たちにとって持つ意義を自分で考えることが、この授業の目標である。

そのためには、高校生的な「お勉強」ではなく、自分の頭でものを考え、自分独自の見方を自分の言葉で、しかし他の人にわかるように表現することが重要だ。

成績評価方法

●**試験**　0%　　下記を参照。
●**レポート**　0%　　下記を参照。
●**平常点**　0%　　下記を参照。
●**その他**　100%　　授業状況により、レポートと出席により評価する。

科 目 名	演劇研究入門							
担当者名	児玉　竜一							
演映コース	２単位	秋学期	火曜日	３時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

演劇を研究するための初歩を学ぶ。

基本的には、東洋と西洋の古典演劇について知ってもらうことを中心とするが、ミュージカルから現代演劇までを視野に収めた上で、演劇とはなにか、演劇を研究するとはいかなることか、をめぐって考察する予定である。

ギリシャ悲劇から近代劇、中国の京劇まで、日本では能楽・文楽・歌舞伎を中心に、いずれも戯曲のあり方や、それを肉づけする様式、伝承と変容について、基本的な知識を身につけることをめざす。

さらに、演劇の構成要素として欠くことのできないのは、観客である。演劇について考察することは、必然、観客について、すなわち我々自身について考察することにもつながる。

授業の到達目標

演劇についての諸条件を学ぶことを通して、演劇という文化がいかに多岐にわたって偏在しているかを知る。

あわせて、演劇を学ぶための基本的な条件について知見を広げる。

成績評価方法

●**試験**　50%　　理解度の確認をおこなう。
●**レポート**　0%　　課さない。
●**平常点**　50%　　感想・質問シートを以て、出欠調査に代える。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	日本演劇史1							
担当者名	児玉　竜一							
演映コース	２単位	春学期	月曜日	５時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

日本の演劇の歩みを概観する。日本の演劇史は、古代から近現代までの演劇ジャンルが重層的に現存しているところに特色があるとされる。

だが、たとえば今日の能は、中世の能と全く同じわけではなく、現在の宝塚と大正時代の草創期宝塚は、およそ異なるジャンルといってもいいほどに違う。
あらゆるジャンルは、それが最前衛であった時代の記憶をとどめながら、伝承の過程で変容しつつ、現在に至っている。
この面倒くさい歴史を解きほぐしながら、今日に至る道筋をともに考えてゆく。
春期は、演劇の濫觴から人形浄瑠璃までを予定している。

授業の到達目標

現在は歴史の果てであると同時に、歴史は現在の目によって再編成される。その関係を、演劇という現在性から離れられない事例を題材として認識すること。
あわせて、日本の文化史のなかにおける演劇の占める位置を認識すること。

成績評価方法

●**試験**　70%　　理解度の確認をおこなう。
●**レポート**　0%　　課さない。
●**平常点**　30%　　感想・質問シートを以て、出欠調査に代える。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	日本演劇史2							
担当者名	児玉　竜一							
演映コース	2単位	秋学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

日本の演劇の歩みを概観する。日本の演劇史は、古代から近現代までの演劇ジャンルが重層的に現存しているところに特色があるとされる。
だが、たとえば今日の能は、中世の能と全く同じわけではなく、現在の宝塚と大正時代の草創期宝塚は、およそ異なるジャンルといってもいいほどに違う。
あらゆるジャンルは、それが最前衛であった時代の記憶をとどめながら、伝承の過程で変容しつつ、現在に至っている。
この面倒くさい歴史を解きほぐしながら、今日に至る道筋をともに考えてゆく。
秋期は、歌舞伎の濫觴から現代演劇までを予定している。

授業の到達目標

現在は歴史の果てであると同時に、歴史は現在の目によって再編成される。その関係を、演劇という現在性から離れられない事例を題材として認識すること。
あわせて、日本の文化史のなかにおける演劇の占める位置を認識すること。

成績評価方法

●**試験**　70%　　理解度の確認をおこなう。
●**レポート**　0%　　課さない。
●**平常点**　30%　　感想・質問シートを以て、出欠調査に代える。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	西洋演劇1　ヨーロッパの演劇の歴史　日本現代演劇の起源							
担当者名	藤井　慎太郎							
演映コース	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

古代ギリシアから現代に至るまでのヨーロッパの演劇の歴史のエッセンスを半年間に凝縮して講義する。演劇の歴史は、おもしろい戯曲とすぐれた劇作家の歴史だけではない。演劇はどの時代にあっても生きた芸術であり（それゆえにその記録はつねに不完全なものでしかない）、観客の感覚（とりわけ視線）と理性に訴えかける芸術であり、もっとも人間らしく社会的な芸術であり、19世紀に至るまではもっとも社会的な影響力の強いメディアでもあった。それゆえ、演劇をときに擁護し、ときに規制し、ときに利用しようとした権力との政治的な関係も見過ごすことができないし、国の盛衰と演劇の盛衰とはしばしば一致を見せている。舞台機構や照明、近年では映像やコンピュータなど、上演を支える技術的条件が進歩するのに応じても、演劇はその姿を変えていった。演劇の歴史のダイナミズムを感じとってもらいたい。
演劇学を究めたい学生にも、一般教養として演劇を知っておきたい学生にも、受講をお薦めしたい。西洋演劇2と内容は連続しておらず、西洋演劇1のみを受講することは充分に可能であるが、合わせて受講することが望ましい。

授業の到達目標

・西洋演劇の歴史の基本知識を身につける。
・演劇が歴史上、生み出してきたすぐれた才能と作品を知り、その特徴を理解する。
・演劇を特徴づけている美学的規範、文化的生産条件が時代と地域に応じていかに変化するのかを理解する。
・所与の社会において、演劇がいかに位置づけられ、実践され、受容されてきたのか、政治的・社会的な変化が演劇にいかなる影響を与えてきたのかを知る。

成績評価方法

授業参加と試験によって総合的に評価する。感染状況によっては試験はレポートに代える。

科 目 名	西洋演劇2　現代演劇の理論							
担当者名	藤井　慎太郎							
演映コース	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

現代アートは概して分かりにくいと言われる。「ポストドラマ的」と形容される現代演劇もまた、その例外ではない。戯曲のない演劇、台詞のない演劇、ダンスのような演劇、劇場以外の場所で行われる演劇、俳優のいない演劇、たった一人で経験する

演劇・・・、今日では演劇の意味は拡大し、旧来の「演劇」が存続する一方で、演劇らしからぬ演劇が大きな存在感を示している（小説における書物と読者の関係、映画におけるスクリーンと観客の関係とちがって、演劇においては見る者と見られるものとの関係が固定されておらず、その「関係性」の構築も作品の一部をなしていることがその一因だといえるだろう）。そんな現代演劇を見て、読み、理解するために必要になると思われる理論的な知識を、検討に値する具体例（一般的に高く評価されている戯曲・作品記録映像、演劇論・演劇理論）を通じて講義する。演劇学を究めたい学生にも、一般教養として演劇を知っておきたい学生にも、受講をお薦めしたい。西洋演劇1と内容は連続しておらず、西洋演劇2のみを受講することは充分に可能であるが、できれば合わせて受講してもらいたい。

授業の到達目標

・西洋演劇理論の基本知識を身につける。
・テクスト、空間、身体、社会との関係の観点から演劇の特徴を理解する。
・演劇を規定してきた美学的規範、社会的生産条件を理解する。

成績評価方法

授業参加、レポートによって総合的に評価する。

科 目 名	日本の現代演劇							
担当者名	高橋　宏幸							
演映コース	2単位	春学期	水曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

「日本の現代演劇」を考えるために、いくつかの軸をもって日本の現代演劇なるものの位置を措定していきます。ひとつは、明治以後の日本の近代演劇の歴史です。狭義では日本の現代演劇は1960年代以後のものと思われていますが、そもそも、そのような見方がなぜ発生したのか。その歴史軸を検証します。ふたつめは、同時代の海外での演劇の動向も視野にいれます。多くの地域で同時代的に現れた実験演劇と呼ばれた動向には、日本の演劇も入っていました。そのため、国際的な関係のなかで、日本の演劇も見る必要があります。最後に演劇を批評理論をもとに論じます。たとえば国家論、ポスト・コロニアリズム、クィア・スタディーズなど、日本の現代演劇を考える上で必須のものです。日本の現代演劇の現場では、理論や歴史、海外との同時代性などは看過されていることが多いことを思えば、状況を説明するだけでもいいような気もしますが、それらが本来、アートそのものを成立させる基盤であるという前提をもとに講義します。いわば、時代の表象や世相の反映として日本の現代演劇があるだけではないという視点を作るのが授業の趣旨です。

授業の到達目標

俗説的に語られる新劇、アンダーグラウンド演劇、第一世代〜第三世代の世代論的演劇観など、それらの用語が作ってしまったわかりやすい演劇史の見取り図を解体していくことによって、歴史という磁場が形成されたことの目的と意図を批判的に検証します。とくに戦後以後の演劇の歴史や巷に溢れるそれぞれの年代についての世代論的演劇論や文化論的な本を批判的に考える。少なくとも歴史や理論の基底をおいて、はじめて演劇と批評が成り立つことを考える。それを到達目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません
●**レポート**　50%　　期末レポートを書いていただきます。レポートの内容としては基本的に独創性とそれを支える文献調査などがきちんと行われているかを評価の基軸とします。
●**平常点**　50%　　みなさんに毎回いくつか質問をしますが、必ず積極的な発言をしてください。またリアクションペーパーも時々書いていただきます。
●**その他**　0%　　とくにないです。

科 目 名	テクストと演出							
担当者名	井上　由里子							
演映コース	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

19世紀末に演出家という職能が誕生すると、20世紀前半をつうじて文学から自律した演出の芸術性が追求されるようになり、1960年代から70年代にかけて演劇創作のあり方が変化するなかで演出家の重要性は増し、その役割も多様化していきます。

1960年代から今日までの主要な上演におけるテクストと演出の関係の諸相をとらえること、それが本講義の目標です。まず、演出家がテクストの新たな解釈を示し、今・ここに結びつけて古典的テクストの読み替えをおこなう上演をとりあげ、テクストと舞台の「読み方」を学びます。そのうえで、新しい俳優術の開拓や失われた演技法の再現を試みる上演、演出を内包するテクスト、そしてテクストと演出を分けて考えることができない共同創作などをもとに、テクストと演出のあいだにどのような化学変化が起こるかを探ります。

授業はパワーポイントを用いた講義形式で進めますが、適宜グループワーク（戯曲テクストの音読、上演映像についての意見交換）をとりいれます。

授業の到達目標

現代演劇の基礎知識を習得するにとどまらず、テクストと舞台の分析手法の基礎を身につけ、演出の芸術性を理解することを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　50%　　授業内容の理解度、自分自身で思考する能力を中心に評価します。
●**平常点**　50%　　授業への参加態度と感想・コメントをもとに評価します。
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	舞踊史							
担当者名	中島　那奈子							
演映コース	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業では、前半は舞踊の歴史を通してダンスとは何かを考えていきます。欧米と日本、アジアの舞踊ジャンルである、バレエ、表現舞踊、タンツテアター、モダンダンスからコンテンポラリーダンス、日本舞踊、暗黒舞踏などを時代を追いながら取り上げます。学期中には、ダンス作品を鑑賞する回を一回挟み、その上演について分析してもらいます。後半はテーマに沿って、芸術の枠組みを越えるダンスについてさらに理解を深めます。バレエの世界史に関する教科書に加えて、適宜資料を配布します。

授業の到達目標

沢山のダンス作品やダンスの映像をみて，新しい知識を得ながら，地域や社会でおきていることと，ダンスを重ねて考えます。舞踊とは何かを考えることによって，自分と社会や環境との関わりや，他者への理解に繋げていくことを目指します。欧米と日本，アジアの舞踊史を概観しつつ，それを理論的に分析し議論する過程で，舞踊への理解を深めます。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　期末レポートで判断します。
●**平常点**　50%　　授業内の講義や議論に積極的に参加しているかで判断します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

授業は、基本的に対面授業で実施しますが、Zoomによるリアルタイム配信も行う予定です。履修者は、Wasedaメールアドレスによる Zoomアカウントを取得し、またZoomアカウントは、正確な氏名を記入してください。

講義

科 目 名	映画研究入門							
担当者名	角井　誠							
演映コース	2単位	秋学期	月曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業は、映画研究という学問への入口となる講義です。映画は身近な娯楽、芸術の一つですが、それはまた真剣に論じることのできる、論じられるべき学術的＝批評的対象でもあります。じっさい、映画研究（フィルム・スタディーズ）は世界各地の大学で学問分野として確立されています。映画研究と言うと堅苦しく聞こえるかもしれませんが、ここではさしあたり、映画を見て「面白い」で済ませるのでなく、なぜその作品が「面白い」のかを技術、表現、歴史、理論など様々な観点から分析していく学問だとしておきましょう。それは、映画の楽しみを損なうのでなく、別の仕方で楽しむことを可能にしてくれる学問だと言えます。この授業では、映像表現を分析するための基本的な用語や知識を身につけるとともに、映画のもつ豊かな歴史、あるいは映画をめぐる理論的な考察の一端に触れることで、映画研究という学問分野を概観していきます。原則として、講義形式で進めますが、随時、小課題（抜粋の分析の練習）なども取り入れます。

授業の到達目標

・映画を学術的に分析するために必要となる知識（用語、歴史、理論）を習得し、それを今後の映画鑑賞に生かせるようになること。
・映画研究という学問分野を通じて、学術的な思考やその作法を習得し、それを今後の学びに生かせるようになること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　授業を踏まえたうえで、自身の分析、考察が論理的かつ明晰に展開されていること（課題は授業内で指示します）。
●**平常点**　60%　　出席状況(原則として3分の2以上の出席を必須とします)、リアクションペーパー、小課題などから総合的に判断します。
●**その他**　0%

科 目 名	映画史1　無声映画史（1）							
担当者名	小松　弘							
演映コース	2単位	春学期	土曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

映画はどのようにして生まれたのか、映画前史から映画の発明を経て、いわゆる初期の映画に至る過程を実際の映像を見ながらわかりやすく説明します。

授業の到達目標

映画の起源に何があったのかを理解し、映画史を批判的に考える思考を養います。

成績評価方法

●**試験**　50%　　最終回に試験を行います。
●**レポート**　0%　　レポートは特に課しません。
●**平常点**　50%　　出席を重要視します。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

対面授業をします。

科 目 名	映画史2　無声映画史（2）							
担当者名	小松　弘							
演映コース	2単位	秋学期	土曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

第一次大戦以降、映画はどのように変化したのか、各国映画史におけるトーキーの出現までの過程を実際の映像を見ながらわかりやすく説明します。

授業の到達目標

無声映画史のディテールを調査しながら、映画史を批判的に考える思考を養います。

成績評価方法

●**試験**　50%　　最終回に試験を行います。
●**レポート**　0%　　レポートは特に課しません。
●**平常点**　50%　　出席を重要視します。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

対面授業をします。

科 目 名	映画理論1							
担当者名	角井　誠							
演映コース	2単位	春学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

19世紀末に映画が発明されて以来、実作者、批評家、研究者、哲学者など多様な人々が、映画とは何かを考えてきました。「映画理論」は、そうした多種多様な思考からなっており、映画研究、映像研究の根幹をなしています。「映画理論1」では、サイレント時代から1960年代頃までの映画理論の流れを概観します。60年代に映画学が学問分野として成立する以前の映画理論は、しばしば「古典的映画理論」と呼ばれますが、様々な角度から映画というメディアの本質を問うそれらの思考は、今なお映画や映像について考えるための手がかりを与えてくれます。講義では、概念や人名を説明するとともに、可能な限り関連する映画作品を参照を参照することで、理論的な思考に親しむことができるよう進めていきます。

授業の到達目標

・映画理論について、最低限知っておくべき基本的な知識を修得すること。
・映画についての理論的な文献をみずから読む力を身につけること。
・理論的な知識に基づいて、映画について思考する力を身につけること。

成績評価方法

●**試験**　60%　　講義内容を正しく理解し、映画について理論的に考えることができているか確認します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　出席状況（原則として三分の二以上の出席を必須とします）、リアクションペーパー、小テストなどから総合的に判断します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

秋学期の「映画理論2」とあわせて受講することを推奨します。

科 目 名	映画理論2							
担当者名	藤井　仁子							
演映コース	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

アンドレ・バザンまでを扱う「映画理論1」を引き継ぎ、その後の映画理論について概説します。これはすなわち、スタジオ主導のジャンルとスターのシステムにのっとった伝統的な映画づくりが当たり前ではなくなり、さまざまな競合メディアの登場によって大衆文化における映画の優位が根底から揺るがされた時期に該当します。そうした転形期における映画の諸実践と、理論はどう切り結んできたのでしょうか？　そのもっともコアな流れを、人と諸概念の変遷の両方に着目してたどります。学部ディプロマポリシーに謳われるとおり、「伝統的な学問分野を体系的に深く学び、時代の波に翻弄されることなく、確かな視点から人間の本質にアプローチするために必要な学力」の会得を目指します。

授業の到達目標

世界的に映画理論の衰退が叫ばれていますが、映像のテクノロジーとそれをめぐる状況とが激変し、映画の定義が根本から揺らいでいる今日のような時代においてこそ、一時の流行に惑わされることなく、問題の本質を精緻に見極めることがこれまで以上に求められています。一般に、われわれが何か新しいことを考えついた気になっているときでも、そうした考えは過去においてすでに十分吟味されている場合がほとんどです。古臭く見えるかもしれない先人たちの思考の歴史に学ぶことの最大の意義はここにあります。目まぐるしく移り変わる現代のメディア環境に腰を据えて向きあうための理論的背骨を鍛えることが本講義の最終的なねらいです。

成績評価方法

●**試験**　80%　　授業最終回に「理解度の確認」として論述式の試験を対面で行ないます。
●**レポート**　0%
●**平常点**　20%　　毎回、授業内容の振り返りを実施し、それに解答することをもって出席と見なします。3分の2以上の出席を義務づけます。
●**その他**　0%

備考・関連URL

できるだけ「映画理論1」から続けて受講するようにしてください。いきなり本講義から受講することを妨げるものではあり

ませんが、そのために生じる不利益は各人の努力によって補うこと。

科 目 名	映画作家論　作家主義の歴史と現在							
担当者名	藤井　仁子							
演映コース	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

集団で製作され、しかも複製されて広まることが前提となっている映画において、誰が作家であるかを特定することは本来不可能です。しかし、批評上の目的からあえて特定の作り手（通常は監督）をそのフィルムの「作家」（auteur）と見なすことがあります。このような批評方針は「作家主義」と呼ばれますが、世界映画史の決定的な転換点であるヌーヴェル・ヴァーグの実践とも切り離すことができない作家主義とは、いったいどのような意義を持つものだったのでしょうか？　本講義では、作家主義の歴史的意義を、その限界までも露呈させるようなクリティカルな事例を通して考察し、現時点での一定の総括を行ないます。「作家」概念が新たなかたちで強化されつつある現状についても視野に入れます。学部ディプロマポリシーに謳われるとおり、「伝統的な学問分野を体系的に深く学び、時代の波に翻弄されることなく、確かな視点から人間の本質にアプローチするために必要な学力」の会得を目指します。

授業の到達目標

映画における「作家主義」の問題を、その限界まで見定めたうえで、それでもなお何が可能なのか、実践的に探究してもらいます。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　80%　　講義内容をふまえ、まとまった分量（4,000〜5,000字程度）の作家論の執筆に受講生自ら挑戦してもらいます。

●**平常点**　20%　　毎回、授業内容の振り返りを実施し、それに解答することをもって出席と見なします。3分の2以上の出席を義務づけます。

●**その他**　0%

備考・関連URL

特に文学部・文化構想学部以外の学部から履修される場合は、映画学の専門的な講義である点（初学者向けの入門的な内容ではありません）、日本語での長大なレポート執筆を求められる点に留意してください。

科 目 名	映画ジャンル論　古典的ハリウッド映画の発達とその背景							
担当者名	谷口　紀枝							
演映コース	2単位	秋学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

ジャンル映画は、ハリウッドを代表とする映画スタジオ、そのシステムにおいて、製作・配給・興行された作品を主とした映画群であり、映画ジャンルは、映画をグループ分けする最も代表的な方法の一つといえます。本授業においては、これまで当然と認識されてきた映画のタイプについて新たに問い直し、その歴史も含め改めて考えていきます。具体的には、古典期のハリウッドにおけるジャンル映画の変遷を年代順に確認し、その後、複数のジャンル映画を製作した作家ハワード・ホークスと、固定のジャンル内で仕事をした作家ヴィンセント・ミネリを取り上げ、ジャンル映画における作家性について考察します。最終回はまとめとともに、比較対象として日本における映画の類型について紹介します。

授業の到達目標

映画製作、視聴過程において支配的指標でありつつもその定義が曖昧であるとされた映画ジャンルについての考察を通じ、映画学における実践法の一端を学ぶ。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし

●**レポート**　60%　　授業内容に関連したレポート（2000字程度）を執筆してもらい、授業の理解度と受講者が提起する意見の独創性を評価します。

●**平常点**　40%　　出席とリアクション・ペーパーによる総合判断

●**その他**　0%　　なし

科 目 名	大衆映画論　サラリーマン映画を中心に							
担当者名	角尾　宣信							
演映コース	2単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

大衆映画とは、当該社会の大衆に積極的に受容された映画作品やそのジャンルを指します。そのため、大衆映画の研究は当該作品を受容する社会の構造や文化的価値観を探り、そこから映画自体の解釈を再考する、作品世界と現実の社会や歴史とを不断に往還するものとなります。この授業では、高度経済成長期に隆盛し、その後も断続的に日本社会で受容されてきたサラリーマン映画を題材に、具体的な映画分析を通じて、映画作品と近現代社会とを双方向的に研究する手法を探っていきます。大衆映画の研究は、映画の分析に留まりません。映画に表象されるモチーフの歴史的背景や政治的事象の吟味、また映画を受容する大衆心理に関する知見も動員することで、一つの映画なりジャンルなりが分析可能となります。サラリーマン映画の場合、敗戦後という歴史的背景において、象徴天皇制や日米関係といった政治的事象、敗戦後のサラリーマンたちが置かれた経済体制に関する経験、そしてまさに戦争や敗戦といった大規模な暴力が人々に与えたトラウマの表象など、様々な要素が刻まれています。授業では、これら映画と関連する多様な観点を紹介しながら、その都度、映画の分析を深めていきます。それは、象徴天皇制と法人資本主義体制という敗戦後の政治体制および経済体制が現代も継続しているからこそ、単なる歴史的知見ではない、現代に活かしうる認識をかたちづくるものとなるでしょう。

今回は、まず、当該ジャンルの嚆矢である『三等重役』シリーズ、続く長期ヒットシリーズである『社長』シリーズ、そして

当該ジャンルに謎めいた抵抗を示唆した『無責任』シリーズを分析し、敗戦後日本のサラリーマン映画の定型とそのイデオロギー的機能を考察します。その上で、現代のサラリーマンをめぐる映像表象としてドラマ『半沢直樹』シリーズや『VIVANT』シリーズを分析します。

授業の到達目標

大衆映画に関する課題に対し、作品と現実社会とを相互に視野に入れつつ客観的に分析し、的確に作品の社会的意義やイデオロギー性を析出する手法を身に着けることを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　60%　　課題は第1回の授業で提示します。大衆映画作品に関して、授業で提示した分析手法を踏まえ、的確かつ鋭利かつ斬新な解釈を析出できるかを評価します。

●**平常点**　0%

●**その他**　40%　　授業数回おきに、期日を定め、コメントペーパーを提出してもらいます。課題内容・提出方法・提出期限については、第1回の授業で提示します。

備考・関連URL

回によっては、受講生同士のディスカッションのパートが設定される場合があります。授業内で示したテーマに関して相互に意見交換し、授業内容の理解を深めるものです。

科目名	演劇映像研究1　映画分析の方法							
担当者名	藤井　仁子							
演映コース	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本講義では、テクスト分析の実践を通じてごく基本的なところから映画を問いなおすことにより、まずはいかにわれわれが映画のことを知らないか、思い知っていただきます。具体的には、毎回テーマを設定し、古今東西あらゆるジャンルの映画を取り上げて分析を加えます。受講生は、そこから各々のやり方で映画に接近するためのヒントを掴んでください。学部ディプロマポリシーに謳われるとおり、「伝統的な学問分野を体系的に深く学び、時代の波に翻弄されることなく、確かな視点から人間の本質にアプローチするために必要な学力」の会得を目指します。

授業の到達目標

われわれを圧倒的に取り囲んでいる現代の映像文化に対する批判的な視線を鍛えるため、その来歴をしっかり見据えて、現代のわれわれが当たり前だと思い込んでいる事柄を絶えず歴史化し、脱=自然化していくような姿勢の獲得を目指します。そこからどこへ赴くかは受講生各人に任されます。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　80%　　講義内容をふまえ、まとまった分量のフィルム分析に受講生自ら挑戦してもらいます。

●**平常点**　20%　　毎回、授業内容の振り返りを実施し、それに解答することをもって出席と見なします。3分の2以上の出席を義務づけます。

●**その他**　0%

科目名	演劇映像研究2　演劇と公共性　パブリック／プライヴェートの対比の視座から							
担当者名	藤井　慎太郎							
演映コース	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本講義では、演劇にとっての「公共性」、「パブリック」な性質について考えてみたい。パブリックなものとは、まず「みんなのもの」や「みんなに関係するもの」のことである（プライヴェートなもの、言い換えれば「私個人／私生活／プライヴァシー／私有財産に関わるもの」「民間企業に関わるもの」との対比において考えられる）。それゆえに「開放」「共有」「公開」「公益」を好み、「排除」「独占」「秘密」「私益」をきらうのだといえる。国家もみんなのものであることから「行政が関与しているもの」という意味合いも生まれる（日本で「公共」といったときには、この意味合いがまず連想されるだろう）。そして、ややこしいことに、その両者の境界線は入り組んでいる上につねに変化し続けている。しかし、単純ではないが掘り下げて考えると実に興味深い問題と関わっているのに気づいたのが、この講義の出発点である。

パブリックなものとプライヴェートなものが多様かつ複雑なかたちで交差する中を私たちは生きている。「公共性」というと堅苦しく、縁遠く感じられるかもしれない。だが、実は非常に身近な問題とも関わっているのであって、毎日のように公共性に関わる問題はメディアで報じられている。早稲田大学のような「私立」大学は、国公立大学からは区別されるが、しかし「公教育」の一翼を担い、教育・人材育成という「公益」に資する高い公共性を帯びた存在である（逆に国公立大学は、政府の政策もあって「民営化」の道を進んでいるようにも見える）。劇場もまた、大勢の観客が集う、みんなに開かれた場所である、という意味においてそもそも「公共空間」のひとつとして捉えられるが、そこにも税金で運営される公共劇場とそうではない民間劇場が存在するし、民間劇場の中にも非営利に近く、公共性を強く意識した活動を展開する劇場も多く存在する。演劇をはじめとする芸術は、芸術家の内面に秘められていたプライヴェートな何かを、観客や読者に向かって目に見えるかたちでパブリックなものに転じさせる契機のことでもある。おもしろい作品、考えさせられる作品の中には、パブリック／プライヴェートの境界線がしばしば主題化、問題化されているのも確認できるだろう。

実際、パブリック/プライヴェートという補助線を引いて演劇や芸術、文化を捉え直してみると、興味深い論点がたくさん出てくる。この授業では、7つの多様な観点から演劇におけるパブリック／プライヴェートの境界線を論じてみたい。2週間を単位としてひとつのトピックを扱い、1週目の学生諸君の反応を見て、2週目で取り上げる内容を調整していきたいと思う。いつもとはちがう視点から演劇を捉え直してみたい学生にも、卒業論文・ゼミ論文・卒業研究の論点を探している学生にとっても、有益な視座がきっと見つかるはずである。

授業の到達目標

・演劇全体に対する理解を深め、国際的に共通する特徴、それに対する日本舞台芸術の独自性を把握する。

・演劇の場合と比較しながら、それ以外の芸術（舞踊、音楽劇、美術、映画・・・）における公共性の問題についても理解を深める。

成績評価方法

授業参加、発表、レポートによって総合的に評価する。

科 目 名	女性と映画							
担当者名	入倉　友紀							
演映コース	２単位	春学期	金曜日	２時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

近年「女性映画」という言葉を頻繁に目にするようになってきている。これは女性によって製作された映画のことなのか、それとも主に女性観客のために製作された映画のことだろうか。この授業では、どちらの視点も取り入れ、映画と女性の関わりを幅広い視点から考えていく。前半は、初期の映画製作に参画した女性映画人たちを取り上げる。後半は、女性観客を意識した映画ジャンルに着目し、その歴史的な変遷を追う。

授業の到達目標

映画という娯楽をアカデミックな視点から考える能力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行いません。
●**レポート**　50%　　期末にレポートを提出してもらいます。レポートのテーマは授業内で提示します。
●**平常点**　50%　　3分の2以上の出席が必要です。
●**その他**　0%　　特にありません。

備考・関連URL

授業内容は多少変更する可能性があります。

科 目 名	美術史専門講義1（日本美術）　近世初期風俗画を再読する。							
担当者名	舘野　まりみ							
美史コース	２単位	春学期	火曜日	３時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本講義では、近世初期風俗画のうち16世紀末から17世紀前半にかけて制作された洛中の人々の遊楽や当時新出の芸能であった歌舞伎に注目した作品を中心に取り上げる。近世初期に流行した新たな風俗の一面を描いた絵画として論じられてきたこれらの作品の中には、単なる遊楽図、歌舞伎図として括ることのできない内容を持った作品がある。それらの絵を詳細に分析し、同時代の文献資料を活用することによって、さらに興味深い真の主題の発見への道筋を探り、同時に作品に期待された機能や制作背景を考察する。

授業の到達目標

1.描かれたものをよく見て考え、それを言葉で表現する力を養う。2.主題を仮説的に考察し、それを実証することが絵画史研究の目標のひとつである。近世初期風俗画の実例を通してその方法を学ぶことを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　60%　　60点以上を合格の目安とする。
●**レポート**　0%
●**平常点**　10%　　出席10回以上を目安とする。
授業への積極性を評価する。
●**その他**　30%　　インクラスエッセイ（授業後数回を予定）。

科 目 名	美術史専門講義2（東洋美術）　日本彫刻史の諸問題、文化財研究の考え方							
担当者名	川瀬　由照							
美史コース	２単位	秋学期	無	フルOD	２年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

東洋、日本美術史や文化財を学習、研究するにあったってこれまでに得られた研究成果やいくつかの視点を示すことによって美術史における見方・考え方について講義する。とくに日本彫刻史における諸問題のなかから重要なテーマや視点などについて講述し、美術作品からさまざまなことが読み取れることを紹介していく。

授業の到達目標

美術作品や文化財を通してどのように考えていくのか理解することによって非文字資料の分析方法を習得する。文化財研究の基礎を身につける。また従来の彫刻史の概説書とは異なる新たな視点から彫刻史を理解することができる。

成績評価方法

●**試験**　85%　　授業で取り上げたテーマについて選択や記述の問題を授業の最終週に行う。
●**レポート**　0%　　行わない。
●**平常点**　15%　　授業内容の各回の視聴状況（重視）。5回以上未視聴の場合には試験の採点を行わない。
●**その他**　0%　　行わない。

備考・関連URL

★フルオンデマンド授業で行います。教員との連絡・相談方法については初回の授業でお知らせいたします。

科 目 名	美術史専門講義3（西洋美術） 聖なる空間、奇蹟の聖像							
担当者名	児嶋　由枝							
美史コース	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

前半では、聖なる空間はどのように生成し、演出されるのか、西欧中世からバロックにかけての重要な聖地ならび聖堂建築を取り上げて考察する。最初の2回では基礎知識として中世からバロックの聖堂建築の流れを概観する。

後半では、対抗宗教改革期における奇蹟の聖像の誕生の背景と図像について検討する。また、宣教によってこれらの聖像のコピーが中南米や日本に伝播した状況について検討する。

なお、授業計画内容は状況に応じて少々変更される場合もある。

授業の到達目標

西欧中世からバロックにかけての聖なる空間と聖像の生成と受容について理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　50%　　オリジナリティ、論理的な文章構成、参考文献の理解。
●**平常点**　50%　　基本的に出席とリアクションペーパー
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

成績評価欄に当初はレポートを記しましたが、最終授業でのノート持ち込み可の教場テストに変更します。詳しくは授業中にお話します。

科 目 名	美術史専門講義4（西洋美術） 美術史におけるシュルレアリスム							
担当者名	長尾　天							
美史コース	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル［オンライン］フルオンデマンド

授業概要

詩人アンドレ・ブルトンの『シュルレアリスム宣言』（1924年）によって発足したシュルレアリスム（超現実主義）は、しばしば20世紀最大の芸術運動と称されます。本講義ではこのシュルレアリスムを、美術史という枠組みにおいて考えてみたいと思います。シュルレアリスムを美術史に位置付けようとすると、多くの問題が生じます。シュルレアリスムの美術には美術史の基本的方法論（様式論や図像学）では捉え難い部分が存在するからです。そこで本講義では、記号、イメージ、無意味／多義性などの観点からシュルレアリスムの美術を捉え、その美術史上の意義を考えてみたいと思います。

講義の流れとしては、まずシュルレアリスムとはどのようなものかを紹介し、シュルレアリスムの美術を語る上で生じる問題を確認します。そしてシュルレアリスム美術の前史として何人かの画家と美術動向を押さえた後、シュルレアリスムの代表的画家を取り挙げ、美術史にシュルレアリスムを位置づける試みを行います。

講義では紹介と考察を半々ぐらいで行う予定です。シュルレアリスムに関心を持つ方だけでなく、謎めいたもの、不可思議なものの表象をめぐる問題や、イメージとは何かという問題に興味を持つ方、また既存の美術史の方法論とは別の思考方法によって美術史について考えてみたい方を歓迎します。

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。

授業の到達目標

シュルレアリスムの美術及び背景となる20世紀美術史についての知識を修得した上で、自分自身の問題意識を持ち、それについて参考文献を用いながら論理的かつ説得的な方法で分析し、結論を導き出すことができる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　70%　　課題は第1回に提示します。文献等の引き写しではなく、自分自身でどれだけ批判的に思考しているか、また思考した内容を論理的に表現しえているかを評価します。
●**平常点**　30%　　毎回コメントシートを提出してもらい、その内容によって評価します。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。

科 目 名	美術史専門講義5（日本美術） 近世初期風俗画と南蛮絵画							
担当者名	成澤　勝嗣							
美史コース	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

対面授業で実施。本講義は、安土桃山時代から江戸時代までの近世日本絵画史について、外国からの影響という視点から取り上げて検討する。桃山時代にポルトガルやスペインとの交流を通じて生まれた南蛮屏風や初期洋風画のような近世初期風俗画、あるいは江戸期に長崎を通じて入ったきた異国趣味の絵画（中国の影響を受けた黄檗絵画や南蘋派、オランダの影響を受けた洋風画など）を中心として、時代思潮の変遷と近世絵画史の関わりを重視しながら探っていきたい。スライド画像による部分図を数多く用いて、くわしく説明していく。

授業の到達目標

安土桃山～江戸時代の日本絵画史の国際性を理解するとともに、日本人の思考パターンの特性や、異文化に対する受容姿勢の多様さを知る。

成績評価方法

●**試験**　50%　　授業内容に即した解答を評価します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　出席3分の2以上を合格の目安として評価します。

●**その他**　0%

科 目 名	美術史専門講義6（日本美術）　やまと絵の技法と主題							
担当者名	山本　聡美							
美史コース	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

平安時代に成立し、中・近世を通じて描き継がれたやまと絵について、各時代の代表的作品を取り上げながら、技法と主題についての理解を深める。

授業の到達目標

1. やまと絵の成立と展開を、絵画様式・主題・絵師・注文主・コレクション形成などの観点から理解する。
2. テキスト（詞書）とイメージ（絵）との相関関係を分析できるようになる。
3. 関連する文献史料（日記、文学、経典など）を通じて、絵巻の典拠や成立環境を分析できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　60%　　学期末の課題レポート。講義を通じて理解したやまと絵の特性について、特定の絵師や作品を取り上げ、5,000字程度で論じる。
●**平常点**　40%　　各回の講義で示す課題について、Moodle上に300字程度のコメントを提出する。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	美術史専門講義7（東洋美術）　尊像別に見る仏教美術							
担当者名	羅　翠恂							
美史コース	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

日本の博物館や寺院では、紀元2、3世紀頃のインドに始まり、実に幅広い地域、時代の仏教美術を目にすることができます。これらは信仰対象であるだけでなく、かたちを通してアジア世界の文化的交流について学ぶことができる、貴重な文化遺産でもあります。仏像の背後にある豊かな歴史や文化を紐解くには様々な予備知識が必要ですが、中でも仏像の尊種（種類）に関する知識を身につけると、鑑賞を通して得られる気づきが一気に広がります。この授業ではインドから日本へ仏教美術が伝わるまでの基本的な流れについても学んだ上で、仏像を種類毎に取りあげて、仏教の世界におけるそれぞれの役割や、期待された功徳を造形化するにあたってインド、中央アジア、中国、日本などでどのような工夫が為されたかを観察します。その過程で、仏像のかたちにこめられた意味を自ら見出しその興味深さを味わう視点を養いつつ、各国の仏像を理解する上で役立つ土台作りを行います。

授業の到達目標

・如来、菩薩、天部といった尊像を視覚的な特徴により判別できるようになること。
・自分にとっての仏像鑑賞のポイントを見出すこと。
・寺院や博物館、美術館で仏像を目にした際に、像の構成や仏教の世界における役割分担について自身で考え、より豊かで深みのある学びを得られるようになるための基礎知識を身につけること。

成績評価方法

●**試験**　60%　　学期中に2回、Moodleにて論述形式のテスト（提出期間は原則1週間）を実施し、授業の理解度を評価します。期末テストはありません。
●**レポート**　0%　　レポートは課しません。
●**平常点**　40%　　毎回の出席、ならびに授業への主体的な参加姿勢をもって評価します。
●**その他**　0%　　特に無し。

備考・関連URL

授業の進捗状況や展覧会の開催状況により、場合によっては、美術館・博物館での関連する展覧会の見学に振り替える可能性もあります。

科 目 名	美術史専門講義8（西洋美術）　西洋中世の聖堂壁画							
担当者名	益田　朋幸							
美史コース	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

中世の教会は、フレスコやモザイクで美しく装飾された。描かれた絵画は、文字の読めない信者に、キリスト教の教義を教える役割を果たした。いくつかの聖堂を例にとり、まず壁画全体を眺めた後で、そこに含まれる情報を読みとる。主題はひとつひとつ独立した意味をもちながら、聖堂の複雑な壁面に配されることによって、単独ではもち得ない意味を獲得する。その装飾プログラムにも議論は及ぶだろう。 本講義は隔年で「西洋中世の聖堂壁画」と「旧約聖書の美術」を交互に行います。興味のあるほうをどうぞ。

授業の到達目標

基本的なキリスト教主題を理解し、中世の様式に慣れること。近代美術と異なる中世様式は、決して未熟や稚拙なものでなく、必然的な要素をもっていた。

成績評価方法

●**試験**　70%　　キリスト教図像に関する基本的な知識を問う試験を行う（オンデマンド）。聖堂名や年代等の暗記は必要ない。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　30%　　出席（聴講）状況を加味する。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL
本講義はフルオンデマンド形式で行います。

科 目 名	幕末・明治の日本絵画　十九世紀の日本絵画を俯瞰する							
担当者名	岡戸　敏幸							
美史コース	2単位	春学期	木曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
幕末から明治に至る時期、江戸幕府の瓦解と明治新政府の成立に象徴される、社会構造上の大きな変革があったのは周知の事実である。これに伴って、文化史一般において江戸と明治の間に断絶を認め、両者を個別に論じられることが長く行われてきた。しかし、人間の精神的営為が、社会の枠組みに呼応して瞬時に変化、変質することは困難であり、大きくかつ微細に眺めればそこに連続性が見えてくる。日本美術史の領域でも、この三十年程の研究の深化と対象領域の拡大によって、それまで等閑視されがちであった作品やテーマに光が当てられ、江戸と明治の美術を連続するものと捉える視点が一般化してきた。本講義では、幕末・明治の日本絵画を、「19世紀の絵画」として俯瞰し、その流れと特質を具体的作品と資料に沿って考えていく。江戸から明治への流れだけでなく、近代の側から江戸を逆照射することも試みる。講義で紹介する作品画像を熟視することは無論、教室において適宜提示するオリジナルな作品や文献資料にも積極的に触れて欲しい。講義科目ではあるが、受講者各自の「眼と思考」を自分自身の「言葉」に纏め、他の受講者との共有を試みる機会も積極的に設けていく。【コロナ感染症拡大等の社会状況を見極めた上で、自主参加による課外見学会の実施も検討したい。】

授業の到達目標
幕末・明治の日本絵画の流れを概観し、「19世紀日本絵画」としての連続性と特質を理解することを目標とする。

成績評価方法
●**試験**　0%　　実施の予定はありません。
●**レポート**　80%　　学期末に提示された課題についてレポートを提出してもらう。テーマは講義中に指示する。受講者自らが提示した問題を、自分自身の言葉で具体的、論理的に記述できているかが評価の基準となる。他の先行文献、WEB等からの出典表記のない引用、剽窃、盗用などの不正が疑われる場合には直ちに最終成績評価を「不可」とする。レポートの提出がない場合は、単位取得の意思がないものとみなし「不可」とする。なお、提出期限に遅れたものは、理由の如何を問わず受理しないので充分に注意すること。
●**平常点**　20%　　出席確認は毎回行う。講義開始後、10分を経過後は遅刻、30分を経過後は欠席の扱いとする。平常点は、出席・遅刻・欠席を点数化したものを基礎に、講義中の小課題への解答、受講態度等を勘案し評価とする。なお、出席回数が、全体の、2／3に満たない場合には、レポートが提出されても成績評価の対象とならないので各自十分に注意すること。
●**その他**　0%　　特にありません。

備考・関連URL
講義には積極的、能動的態度で臨むことを強く希望する。
毎回の講義を、日本美術により親しみ、考える契機として活用してほしい。

科 目 名	仏教美術の歴史　北伝仏教美術の歴史							
担当者名	森　美智代							
美史コース	2単位	秋学期	金曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
古代インドで生まれた仏教の文化体系は、各地で在来の文化と出会い、新たな展開を遂げながら汎アジア的に伝播しました。その過程で、仏教の美術も、驚くほど多様な形を生み出してきました。仏教外部の視覚文化が取り込まれ、大胆な翻案・アップデートが行われることもあれば、原点回帰に大きく振れることもあり、あるいは特定の形が権威付けられ、固定化されることもあり・・・。
この授業では、紀元前のインドからおおよそ10世紀頃の中国まで、北伝仏教美術の流れを概観します。本来、常人には理解が及ばず表すこともできないとされたほとけの姿や仏教の理想的世界が、どのように希求され、具現されてきたのか、アジアを舞台とする壮大な試行のリレーを辿ります。
なお授業は教室において対面で行います。

授業の到達目標
①授業で扱う北伝仏教美術の作品について、基本的な図像やテーマ、地域・時代ごとの様式を見分けることができる。
②北伝仏教美術の大きな歴史的な流れを把握し、説明することができる。

成績評価方法
●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　60%　　期末レポートを課します。
●**平常点**　40%　　毎回、授業の内容に関する簡単な課題やレビューをMoodleに提出してもらい、それを以て出欠と授業への積極的な取り組みを確認するとともに、理解度を確認・評価します。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	中国の美術　美術史から読み解く中国の歴史・文化・世界観							
担当者名	稲葉　秀朗							
美史コース	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
本講義では中国美術史にまつわるいくつかのテーマを設定し、毎回、関連するさまざまな造形作例や遺物・遺構、あるいはそれらに見出される図像を手がかりに、時には文献史料も依用しつつ、主に美術史学的なアプローチを通じて中国の歴史や文化、さらにはその背景にある世界観を学び、考えていく。
水墨山水画、青花磁器、墓中の壁画や副葬品、石窟寺院、碑帖の書、各種工芸、建築や庭園。「中国の美術」という言葉から、

何らかの具体的な作例をイメージすることは容易だろう。しかし、「中国の美術」という言葉自体がなかなかに難しく、奥深い。
何しろ、「中国」の地理的な範囲は、それを中華人民共和国の国土と考えるのか、歴代の中国王朝の版図と考えるのかによって大きく異なるし、外来の文化との接触や交流を通じて生み出された作例も少なくない。また、「美術」という語もしばしば指摘されているとおり明治期の日本で生み出された訳語であり、中国語の「美術」もこれに由来する。そして、新たな作例の発見や研究の進展は、中国美術史に対する我々の知見を日々更新しつつある。
このように、「中国の美術」は思いのほかに流動的で、ゆえに論究すべき課題と新たな発見の可能性に満ち溢れた領域であるといえるかもしれない。受講生各位には「中国の美術」を既成の、あるいは自身が想定する枠組みの中で学ぶだけではなく、講義を通じてむしろ我々が「中国の美術」と呼んでいるところのものの実態は何であるのか、そしてそれらがいかなる原動力に突き動かされて生み出されてきたのかという、根本的な問題を考える機会としていただきたい。
なお、講義は原則として対面で実施するが、悪天候、災害、感染症の拡大など、やむを得ない場合は必要に応じてZoom等を利用したオンライン授業に切り替えることがある。

授業の到達目標

・中国美術史にまつわる主要作例やその意義を理解する
・中国美術史に対する自分なりの問題意識を持ち、作例に対する解像度を高める
・美術史学的な方法論やアプローチを学び、鑑賞や研究等に資する視座を涵養する

成績評価方法

●**試験** 60%　最終日に期末試験を実施し、その結果をもって授業の理解度を評価する。
●**レポート** 0%　特になし
●**平常点** 40%　毎回の出席および授業に対する取り組み姿勢に基づき評価する。
●**その他** 0%　特になし

備考・関連URL

授業計画は進捗状況や理解度に応じて変更する場合がある。

講義

科目名	絵画の見方 「絵を見る」とはどういうことか							
担当者名	益田　朋幸							
美史コース	2単位	秋学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

絵が目の前にあれば、それを「見る」ことは簡単である。しかしそこで受けとる内容は、ひとりひとり異なっており、深くもあり、浅くもある。
主として西洋美術を題材にして、古代から現代までの作品をとりあげ、何をどのように見ればいいのか、具体的に考える。絵を見るためには、知識（作品の技法、図像学など）も必要だが、何よりも自分の頭で考えることが重要である。この講義は、その「考え方」のレッスンでありたいと願う。
まず西洋絵画の技法を簡単に紹介したのち、遠近法とは何か、詳細に検討する。現実の三次元世界を、絵画という二次元に閉じ込めるためには、何らかの形で遠近表現が不可欠だからである。
それを踏まえて、「時間」を絵画の中にどのように表現するか、そのさまざまな方法を概観する。
「だまし絵」は、「芸術的でない」として軽んぜられる傾向があるが、二次元と三次元のイリュージョンの問題を考えるのに最適のジャンルである。古代から近代にいたるだまし絵の系譜をたどり、そこに何が起こっているかを言語化する訓練をする。
「自画像」は絵画の中でも特殊なジャンルであり、メタ絵画的性格が強い。古今の自画像を考察しながら、絵画の仕組みについて考える。西洋絵画の中で重要な意味をもつ「ヌード」、「鏡」といったテーマについても考察する。

授業の到達目標

西洋美術の技法については、基本的な知識を身につけること。
絵画作品の解説に依存するのではなく、自分の目で見て、自分の頭で作品の内容を解釈する（言語化する）ことができれば、言うことはない。

成績評価方法

●**試験** 60%　Moodle上の「小テスト」機能によって、簡単な試験をします。
●**レポート** 0%　なし
●**平常点** 40%　出席（聴講）状況を加味します。
●**その他** 0%　なし。

備考・関連URL

本講義はフルオンデマンド形式で行います。Moodle上に視聴期間が記されているので、厳守してください。期間終了後に再視聴の申し出があっても、認めません。視聴期間は原則2週間です（理由があってそれより長い場合もあります）。

科目名	美術史への招待1 美術作品をどう見るか							
担当者名	益田　朋幸　他／川瀬　由照／児嶋　由枝／坂上　桂子／成澤　勝嗣／肥田　路美／山本　聡美							
美史コース	2単位	春学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

「美術史」とは、どのような学問の分野なのでしょうか。美術の歴史？　しかしそれは、作品の制作年代を覚えることではありません。中学・高校の課程に 「美術史」はないので、馴染みのない人も多いかも知れません。美術史を専門とする全教員が担当し、それぞれの立場から「美術作品を見る」とはどういうことか、考えるのがこの講義です。
各教員が専門とする時代や作品について、毎回視点を変えてお話しします。外国語の文章を読むときに、わからない単語は辞書を引きますが、美術を見るときには何もしなくとも「見る」ことができるような気がします。しかしちょとしたコツや知識をもって作品を見れば、今まで見えなかった側面がきっと見えてくるでしょう。そのための具体的なレッスンをしましょう。毎時間、多数のスライドを鑑賞します。なお、この授業は全てWaseda Moodleを利用したオンデマンド配信で実施します。
初回授業のガイダンスで履修方法等を説明しますので、必ず受講してください。

授業の到達目標

ある美術作品を見て、それが日本・東洋（中国）、西洋のいつ頃の時代のものか、おおよそ見当がつくようになりましょう。さらに一歩進んで、その作品はどのような意味をもっているのか、その意味を考えるためにどのような手続きが必要なのか、鑑賞の技法を身につけて下さい。

成績評価方法

●**試験**　50%　　授業の最終回に理解度の確認の試験を行ないます（Waseda Moodleを利用したオンラインテストとして実施）。

各回の授業内容から各1～2問程度、選択式の問題が出題されます。

●**レポート**　0%　　レポートは課さない。

●**平常点**　50%　　出席。課題提出を行う回もあります。

●**その他**　0%　　特に無し。

備考・関連ＵＲＬ

オムニバス授業の順番は変更することがあります。

科 目 名	現代アート入門							
担当者名	桝田　倫広							
美史コース	２単位	秋学期	水曜日	３時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本授業は20世紀後半以降から現在にかけての芸術動向について焦点を当てます。20世紀前半の前衛芸術運動を引き継ぎ、20世紀後半には抽象表現主義、ポップ・アート、ミニマリズム、コンセプチュアリズムなど、さまざまな表現手法が生まれました。特に1980年代後半からは東西冷戦の終結、情報技術の発展、グローバリゼーションによって世界が多極化していくなかで、芸術の担い手や表現手段、そしてその受け手はますます多様化してきます。本講義は戦後美術から現代アートへと至る連続と断絶を見ていくことで、現在の芸術表現を考えるための視座をみなさんと考えることを目的にしています。

私は「現代アート」、あるいは「contemporary art」を、狭義の意味では1980年代後半の芸術と定義します。しかしながらこの狭義の意味における「現代アート」を、過去の芸術を切り離して捉えることは難しく、近過去との連関において考える必要があります。この授業は「入門」ということもあり、19世紀後半の美術の歴史から始めることにします。

この現代アートと呼ばれているものを、前半期の週1回程度の講義で紹介し尽くすこと不可能です。世界各地でいまこのときにも生み出される芸術的諸実践のすべてを網羅することは到底できません。そこで本授業は、実際に私が見た、あるいは経験した作品を重点的に見ていくことになります。このやり方を採用するのは、私の鑑賞体験を話の基点とすることで、受講者のみなさんにも、いまだ評価の定まっていない現代アートに直接触れ、そして考えることの面白さを感じてもらいたいからです。したがって、みなさんひとりひとりが授業に主体的に取り組むことを期待します。授業の進め方も、できるだけ一方通行にならないように心がけたいと思いますが、作品を鑑賞し、じっくりと考える経験を大事にして欲しいと考えています。 過去から学ばない現代作家などほとんど存在しません。私たちの鑑賞体験もまた、美術の歴史を知れば知るほど豊かになっていくものです。この授業が、皆さんひとりひとりが自分なりの現代アートの入り口を見つけるきっかけになれば幸いです。

＊本授業は講義形式を採用しますが、取り扱う資料の著作権問題などに鑑みて対面で行われます。

授業の到達目標

・美術における諸実践、あるいはそれを鑑賞するという行為は、所与の感性やセンスのみによってなされるものではなく、きわめて知的な営みであることを理解すること。

・アートが視覚、知覚の快楽のみならず、現実や社会と密接につながる実践であることを理解すること。

・芸術鑑賞するための手掛かりを身につけ、ひとりでも、あるいは友人たちと作品を鑑賞し、学び、解釈し、楽しむ習慣を身につけること。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　50%　　2025年4月から7月にかけて開催された、当該授業に関連する内容の展覧会を訪れ、そこで実際に見た作品をひとつ取り上げ、考察をすること。具体的なレポート作成の手続きについては、オリエンテーションにてお示します。

●**平常点**　50%　　授業終了直後に手書きのコメントシートを提出してもらいたいと考えています。

●**その他**　0%

科 目 名	日本美術史入門　社会の中の美術							
担当者名	山本　聡美							
美史コース	２単位	春学期	無	フルOD	１年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

高校までに学んだ、主として国語・日本史の知識を再確認し、各時代の文化を特徴づけた政治・経済・文学・宗教的な背景を理解する。

その上で、縄文時代からはじまり、奈良・平安・南北朝・鎌倉・室町・江戸・明治・現代の美術について、それぞれの時代を代表する作品・作家・注文主・受容史へと関心を広げていく。日本美術史の展開を知り、社会において造形が果たしてきた役割についての考察を深める。

なお本講義では、アート活動を通じSDGsへの取組を実践するNPO法人Studio FLAT（障がいあるなしにかかわらず、アートを通じて地域社会の連携を目指す取り組み）と協力し、社会とつながる美術の実践事例を紹介する（ゲストスピーカーによる講義1回）。

これを通じて、美術・文化財が単なる過去の遺産ではなく、新たな価値創出の可能性を秘めた現代社会の共有財産であることへの理解を促す。

授業の到達目標

各時代の文化を特徴づけた政治・経済・宗教的背景を理解した上で、それぞれの時代を代表する作品・作家・注文主についての基礎的知識を得ている。

また、縄文時代からはじまり、奈良・平安・南北朝・鎌倉・室町・江戸・明治・現代へと至る日本美術史の展開を理解し、社会における造形の役割について自ら思考することができる。

成績評価方法

●**試験**　60%　　試験内容はガイダンス時に指示する、60点以上を合格の目安とする。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　40%　　毎回Moodle上にコメントを提出。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	ルネサンス・バロック美術							
担当者名	児嶋　由枝							
美史コース	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

15世紀フィレンツェを中心に開花したルネサンス美術は、西洋美術の歴史のおける一つの頂点であり、また当時にあっては全く新しい革新的な美術であった。今日的な意味での「芸術家/アーティスト」という観念もこの時代に登場している。従来、画家や彫刻家、建築家は職人であった。しかしルネサンス期にはじめて、特別な創造的な営みに従事する人々という意識が出てくるのである。このルネサンス美術は、大航海時代の幕開けと宗教改革·対抗宗教改革の波に洗われて16世紀から大きく変質し、マニエリスムやいわゆる対抗宗教改革美術が登場する。そして16世紀末から17世紀にかけては、カトリック体制の再興と絶対主義体制の確立を機を同じくしてバロック美術が現れる。

このようなルネサンスからバロックにかけての美術の流れを、授業においては単なる概説としてではなく、毎回テーマを設定して論じる。

授業の到達目標

ルネサンスからバロックにかけての美術の基礎知識を身につけるとともに、その本質を理解する。

成績評価方法

●**試験**　50%　　スライドを用いた試験を実施。60点以上を合格点とする。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　50%　　基本的に出席とリアクションペーパーをもとに評価。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	西洋近代美術　19世紀パリの美術研究							
担当者名	坂上　桂子							
美史コース	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本講義は、近代都市パリの成立と美術とのかかわりを視点として、西洋近代美術の特質を見いだすものです。19世紀のパリでは、新しい都市の整備とともに人びとの生活環境が大きく変化し、美術もまた、そうした社会を反映し新しい動向を次々とみせていきました。近代都市と社会の確立に伴う市民層の台頭、機械文明、消費社会の拡大といった社会的基盤の変容は、美術にも変革をもたらし、それまでのアートの方向性や価値観を大きく転換したのです。その意味で19世紀美術は、20世紀以降の現代アートを導く起点となるものであり、造形芸術の歴史を辿る上でもっとも興味深く、もっとも豊かな作品群を有するといえます。またパリでこの時代に展開された新しい美術は、各国から多くのアーティストたちをひきつけ、西欧諸国はもとより、日本の美術にまで影響を及ぼすことになり、異文化接触の視点からも興味深いものです。ここではこうした19世紀パリにおけるアートの状況を踏まえ、近代西洋美術の特質を浮き彫りにすべく、代表的アーティストとアートをとりあげ、諸問題を検討していきます。

授業の到達目標

19世紀美術の本質を理解し基礎知識を身につけると同時に、作品をいかに読み解くか、美術史の基本的アプローチの手法を学ぶことが目的です。

成績評価方法

毎回、授業内容に関する小テスト、および課題を課し、それらを総合して評価します。

備考・関連URL

・授業内容について

19世紀の流れに沿い、前半から後半にかけてみていきます。基本的流れが大きくかわることはありませんが、展覧会の状況などに応じ、内容を変更したり、順番が入れ替わることもあります。

科 目 名	日本彫刻史　東アジアにおける日本彫刻史の流れ							
担当者名	川瀬　由照							
美史コース	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

わが国の彫刻は飛鳥時代より数多くの作品が制作され、大陸からの影響を受けながら日本特有の作風を形成してきた。しかも脆弱な材質でつくられているにもかかわらず保存状態良くこんにちに伝わっており、移動や滅失などあるが各時代を代表する優品が現存している。こうした作品の観照と学習によって日本彫刻史の作風展開や特徴について詳述し、さらには日本文化やその背景にあるアジア文化をも視野に入れて講義を行いたい。

本講義では日本彫刻史の流れを理解してもらうために、様式変遷と時代背景を中心にして講述する。外来文化の影響を受けながら、取捨選択、独自の展開をしている様相を彫像の形状の変化、作風展開の上からパワーポイント等を用いた画像中心の講義とする。あつかう作品の多くが仏像や神像であるが、優れた作品が残る動物彫刻と仮面についても概要を講述する。

専門用語や基礎知識は美術史を知らない受講生にも配慮して説明する。
【実務経験のある教員による実践的な授業科目】
※この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして実践的な教育を行う科目です。

授業の到達目標

日本の彫刻の特徴を理解し、造形に対する歴史感覚を身につける。
日本の彫刻の様式観を身につける。

成績評価方法

●**試験**　90%　　作品選択や図版の並び替え、術語の説明など。試験は選択式を中心とする方式ですが授業の充分な理解なしには解けません。ご注意ください。
事項を記憶することよりも日本の彫刻の様式を理解する試験が中心となります。他の授業とは異なる難しさがあることを十分ご承知下さい。
●**レポート**　0%　　行わない。
●**平常点**　10%　　出席等含めた平常点評価。
●**その他**　0%　　行わない。

備考・関連URL

教員との連絡・相談方法については初回の授業でお知らせいたします。試験によって成績が決まります。 試験内容は美術史にとって重要な作風・様式を問う問題が中心となります。語句の理解や事項を覚えるだけでは不十分で、作品の理解、習熟などの復習を充分に行わないと正答できません。卒業予定者は十分ご注意ください。
日頃から図版を多く見ることや展覧会等で作品を多く見るようにして下さい。

科 目 名	日本史講義1（古代）							
担当者名	井上　正望							
日史コース	2単位	春学期	金曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

日本の古代史は、天皇を中心として進んでいくと言っても過言ではありません。その天皇は、時代が下るごとに実権を失っていったことがよく知られますが、その一方で、天皇は現代に至るまで途絶えたり滅ぼされたりすることなく存続しています。天皇ほど永く続く君主は、様々な外国の君主と比べても他に例がありません。それでは、天皇が実権を失っていきながらも中世以降も存続したのはなぜでしょうか？これは天皇・日本史を考えるうえで常に付きまとう、古くて新しい問題です。
そこで本授業では、7世紀から13世紀にかけての大王・天皇のあり方の変遷を軸として、その特質を把握することを目指します。昨今、皇位継承や改元を機に、今後の天皇制のあり方を巡る議論が世間を賑わせていますが、日本国憲法で日本国・日本国民統合の象徴とされている天皇・天皇制の今後について考える材料を得るためにも、その元となった古代を中心とする時期の天皇の特質を、時には映像資料も交えつつ改めて考えてみたいと思います。
なお、本授業は教室での対面授業を基本としますが、第5回のみオンライン授業とする予定です（備考欄も参照。第6回は教室での対面授業予定）。

授業の到達目標

・7～13世紀にかけての天皇のあり方とその特質を捉えることができる。
・天皇を、皇位に就く個々人の連続として捉えるのではなく、天皇という存在自体がどのように変遷して続いてきたかを考察することができる。
・歴史を単なる「事実」の羅列と捉えるのではなく、その「事実」にはそれぞれ根拠となっている史資料が存在することを知り、史資料批判も含め、史資料に基づく考察をすることができる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　70%　　.テーマ設定も含めて評価する。詳細は授業の中で案内する。
●**平常点**　30%　　.コメントペーパーや課題の提出による出席確認や、その内容によって評価する。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

・毎回、授業の感想や、授業内で解決しなかった疑問点をコメントペーパーに書いて提出する。その内容によっては、次回以降の授業内で教員からのリプライを行う。
・第5・6回は皇位継承に関する映像資料をもとに授業を行う予定。但し授業の進行状況などによって、ほかの回と順番を入れ替える場合あり。

科 目 名	日本史講義2（中世）　日本中世史の諸問題							
担当者名	下村　周太郎							
日史コース	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

日本中世史の諸問題について、授業担当者のリアルタイムの問題意識に基づいて講じる。

授業の到達目標

日本中世史の研究において、どのような視点・論点・争点が存在しているのか、史料と先行研究を吟味する中で理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　80%　　学期末に行う。必ず受験すること。
●**レポート**　0%
●**平常点**　20%　　授業内でリアクションペーパーを配布するので、回答すること。
●**その他**　0%

備考・関連URL

授業の内容と進め方については初回の授業で具体的に説明します。

科 目 名	日本史講義3（前近代史料学）							
担当者名	下村　周太郎							
日史コース	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

歴史学の研究は史料に基づいてなされなければならない。特に、現実の体験者がおらず、また、今日まで伝わっている史料の数が限られている前近代史の研究にあたっては、論拠となる史料をいかに収集し読解し分析するかが極めて重要となる。本講義では、前近代の史料にはどのような種類のものがあり、それぞれについてどのように取り扱うべきであるかについて講じる。

授業の到達目標

史料には様々な種類があり、それぞれに異なる特性を有し、それぞれに取り扱いにあたっての留意点があることを理解する。また、一つの史料に対しても、見方や分析視角を変えることで、多様な情報を引き出すことができることを学び、卒業論文執筆に向けた専門的知見の習得につなげる。

成績評価方法

●**試験**　80%　　必ず試験を受けなければならない。
●**レポート**　0%
●**平常点**　20%　　随時、リアクションペーパーを配布し、そこに書かれた意見・質問によって、平素における授業への出席状況や理解の度合いを見る。
●**その他**　0%

科 目 名	日本史講義4（近現代史料学）							
担当者名	真辺　将之							
日史コース	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

学問としての「(近現代）史料学」は、「(古）文書学」や「アーカイブズ学（記録史料学)」に大きな影響を受けながら、しかしそれとは明確に区別された独自の方法論を持って近年発達を遂げた学問です。具体的には、近現代の非現用文書を対象に、その文書処理の過程を再現し、史料群の形成過程や組織の意思決定プロセスを把握することを目的とする学問であるということができるでしょう。ただしまだ誕生したばかりの学問であるため、今後別種の方法論が出てくる余地はおおいにありうると考えられます。

ですが、まだ一次史料に触れた経験の少ない学部学生を対象とする本講義において、いきなり上記のような意味での史料学を講義しても、多くの学生には敷居が高すぎて理解できないであろうと考えます。本講義では、「近現代の史料に関する講義」という意味において「近現代史料論」といったほうが適切なような、より広い意味での史料に関する講義を行い、日本の近現代史（明治維新-現代）を研究するために必要な史料（主として文献史料）について、さまざまな史料所蔵機関とその利用方法、各機関所蔵史料の内容、史料の分類や用語・様式などについての一般的知識を学んでもらうことを中心的内容としたいと思います。

また毎回、近現代史料の解読作業に時間を取り、活字史料のみならずくずし字史料の基礎的な解読能力をも身につけてもらいたいと考えています。

その上で、一通り、近現代史料の知識を得ることができた段階で、冒頭で述べたような（狭義の）「(近現代）史料学」の入口にあたる部分についても講義し、さらなる発展への道筋をつけてもらえればと思います。

授業の到達目標

（1）日本近現代史に関する主要史料の所在を知る。
（2）日本近現代史に関する史料の初歩的解読能力を習得する。
（3）日本近現代史に関する史料批判の方法を習得する。
（4）近現代史料学の方法に関する基礎的知識を獲得する。

成績評価方法

●**試験**　50%　　文書（くずし字）の読解を中心に理解度の確認を行います。
●**レポート**　0%　　くずし字読解に不安な学生を対象に、レポートを作成・提出してもらいます。（任意提出）
●**平常点**　50%　　出席状況、授業後の質問などの勉学態度、レビューシートの内容などを加味します。
●**その他**　0%　　特に無し。

科 目 名	日本史講義5（近世）　西周から明治維新史を再考する―軍事史的観点の導入							
担当者名	谷口　眞子							
日史コース	2単位	春学期	木曜日	1時限	3年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

3年次生以上を対象とする上級レベルの本講義では、西周の目を通して江戸時代から明治時代への転換、すなわち明治維新史を再考する。西周は、「哲学」をはじめとして数多くの翻訳語を造った、「近代哲学の父」ともいわれる人物で、その著作物は多岐にわたり、哲学、教育学、文学など多様な分野で考察されてきた。しかし、彼が幕臣から明治政府の官僚として仕え、軍人勅諭の最初の草稿を書いたことも影響して、これまで歴史学ではあまり注目されてこなかった。本講義では、幕末維新期における内外の政治状況や、当時の啓蒙思想にも配慮しながら、主として西がかかわった軍事関連分野の著作物を分析する。幕藩体制下で育った人物が、どのような発想や人脈の中で新たな政体を構想し、軍事のあり方を考えたのか検討したい。

授業の到達目標

本講義では軍事史的観点を導入することにより、これまで哲学や教育学などで主に研究されてきた西周の思考に迫る。江戸時代の幕藩体制においては、そもそも「政治」という言葉は存在しなかった。武士は軍人であり、その中から奉行などの役職につく者が選ばれ、幕府や藩の統治の一端を担う体制になっていた。「日本」としての一体感、アイデンティティもまだ十分に醸成されておらず、維新期には文章を書くために、国字（いろは）と洋字(アルファベット)と漢字のどれを使うかが、議論されたほどである。

しかし、従来の明治維新史論は一国史観のもと、幕藩体制の崩壊と新政府樹立、立憲制への過程というように、政治体制の転

換を主として論じており、このような江戸時代の政体や武士の性格、社会環境をあまり配慮していない。江戸時代の人々の発想や社会のあり方から、どのように新たな政体が模索されるのか、受講生にはそのリアルタイム感覚を身につけてもらいたい。そして現代の我々が、いかなる価値観によって物事を見ているのか、その視線がもつ歴史性も認識してもらいたい。

成績評価方法

●**試験** 60%　第14回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行う。
●**レポート** 0%
●**平常点** 40%　毎回の授業で質問や意見をレビューシートに書いてもらい、その内容で評価する。
●**その他** 0%

備考・関連URL

出席10回未満の者は特別な理由がない限り、成績にかかわらず単位を与えない。毎回、レビューシートに質問や意見などを書いてもらい、授業時間内でディスカッションを行い、さらに次の授業冒頭で教員が答えることで、前回授業のリフレクションを行い、内容理解を深めた上で講義を進める積み上げ方式をとる。なお、参加者の質問によって、講義予定に変更が生じる可能性がある。 ★授業はすべて教室での対面形式で行なう。木曜日の1時間目だが、頑張って出席するように。

科 目 名	日本史講義6（近現代） 近代日本の議会政治							
担当者名	袁　甲幸							
日史コース	2単位	秋学期	火曜日	2時限	3年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

近年の日本では、選挙がある度に、「誰に投票すればいいのかが分からない」、「選挙に行っても何も変わらない」など、議会政治のあり方に疑問を示し、ひいては民主主義そのものに失望する声が聞こえます。しかし、歴史を振り返ってみれば、150年前に西洋の政治制度に接し、衝撃を受けた多くの人びとが、多大な熱意をかけて、日本における議会制度の実現のために奮闘してきました。この150年のあいだに、当時の熱意を失わせる何が起きたのでしょうか。

本授業では、明治維新から帝国議会が開設されるまで、議会政治を夢見た人びとがそれを実現させた過程と、帝国議会成立から敗戦まで、国民の代表を選出する選挙と、その代表による意思決定（すなわち議会運営）の実態はどのようなものかに焦点を当てて、政治史的な視点を中心に据えて講義します。加えて、議会政治をめぐる思想的・社会的な変化にも目を配る予定です。なお、選挙・議会に関する史料の調べ方や読み方についても、随時紹介していきます。

本講義を通して、みなさんが一主権者として、現代の議会政治や民主主義についてより深く考えるようになれることを期待します。

授業の到達目標

講義内容や参考文献を学習し、近代の議会政治の制度、実態、思想の変化や、現代につなぐ問題点などを自分の言葉で短時間のなかにまとめられること

成績評価方法

●**試験** 60%　論述形式（筆記持ち込み可能、授業内容の理解度、文章の完成度を評価基準とする）
●**レポート** 0%　なし
●**平常点** 40%　出席状況と授業時の態度で評価する
●**その他** 0%　なし

科 目 名	日本史講義7（日本文化史1）「空間」の近代化と文化の変容							
担当者名	袁　甲幸							
日史コース	2単位	春学期	無	フルOD	3年以上	—	合併科目	フル［オンライン］フルオンデマンド

授業概要

明治維新以降、西洋文化の流入や科学技術の発展などにつれ、人びとが政治、経済、社会活動を行う空間そのものが大きく変化してきました。そして、空間の変化は、時間や他者に対する感覚をも変えていき、新しい政治文化、地域文化、生活文化が開花していきます。本授業では、実在する空間をキーワードとして、大きくいえば国家・都市空間、小さくいえば居住空間の変化を通して、近代日本における文化の変容の一側面を提示します。文献資料の閲覧に止まらず、史跡見学を通して、空間を実際に体験していただくこともあります。そのうえで、どんな身近な事象も歴史学の考察対象になりうることを理解していただき、また、地理学、都市工学、建築学、技術史、経済史などの知見も取り入れることによって、物事をより複合的な考える実践をしていただきます。

※4.14～、毎週月曜日09:00～テキスト資料と講義動画をMoodleで公開します。日曜日の夜24:00まで視聴してアンケートや理解度確認の質問を回答してください。

※Moodleの掲示板での積極的な発言が求められます。

※履修者からのいただいた質問は、Moodleの掲示板で随時回答します。

授業の到達目標

・授業動画を視聴し、内容を理解した上で、理解度確認の質問に回答すること

・興味のあるテーマに関しては、授業中紹介された参考文献を読み、あるいは実地に見学して、その感想をMoodleでほかの履修生と共有すること

・履修者同士の情報交換や議論を通して、空間・文化・歴史に対する新たな視点を見出すこと

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 30%　見学レポート（観察力、背景知識についての調査力）
●**平常点** 50%　出席状況、各回の理解度確認
●**その他** 20%　Moodleの掲示板での議論の参加度

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	日本史講義8（日本文化史2） 学校と学生生活・行事を通して学ぶ日本近現代史							
担当者名	上山　由里香							
日史コース	2単位	秋学期	金曜日	2時限	3年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

身近な存在の歴史について考えたことはありますか？学校は、みなさんにとってどのような存在でしょうか。現代を生きる私たちにとって、とても身近な存在のひとつではないでしょうか。

本授業では、みなさんの身近にある学校や学生生活・行事をひとつの切り口として、日本の近現代史について学びます。前半（第2回～第5回）では、学校の歴史を中心に扱い、時期別の学校の特徴や変化について理解を深めます。

後半（第7回～第13回）では、学校生活・行事に関わる内容を取り上げ、個別テーマ（教科書、給食、運動会、修学旅行、制服、試験、就活）の歴史を掘りさげます。

授業の到達目標

1. 今の自分たちと関わりのある/あった事柄に対する歴史的背景を学びながら、過去と現在のつながりを考える。
2. 自ら関心のあるテーマを見つけ、関連する資料（文字資料、絵、図、写真、公文書など）などを自ら収集し分析する力を養う。
3. 受講生同士での情報交換、議論を通して、各テーマについて様々な視点に触れる。
4. 自ら問い（気になった疑問）を立て、学習し、それを通してわかったことを客観的に論理立てて説明する力を養う。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しません。

●**レポート**　60%　　第7回～第13回の授業で扱う個別テーマ（教科書、給食、運動会、修学旅行、制服、試験、就活）、もしくはその他学校や学生生活に関わるテーマについてレポートを作成する。

自ら問い（気になった疑問）を立て、学習し、それを通してわかったことを客観的に論理立てた内容で構成する。

●**平常点**　40%　　毎回、授業後の感想、意見、疑問などの提出をもって出席とします。

不定期に実施する事前学習課題（事前に指定された資料についての質問、疑問などの<アンケート>による提出）も平常点に含めます。

●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

受講人数により、形式は検討する予定ですが、適宜グループでのディスカッションやグループワークなども取り入れる予定です。

科 目 名	歴史学							
担当者名	荒船　俊太郎							
日史コース	2単位	春学期	水曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

みなさんはアーカイブズ（archives）という言葉をご存知でしょうか。Instagramやyoutubeの「機能」としておなじみかもしれません。ニュースやインターネット上で散見されるようになったこの言葉には、記録・記録保管所・古文書・デジタルデータといった多様な意味が含まれています。より専門的には、アーカイブズとは、将来にわたって保存すべき大切な文書や記録類を指し、それらを管理保存する公文書館等の施設、さらに文書館の機能や文書管理システム全体を指す言葉としても用いられており、これらを多角的に研究することをアーカイブズ研究（記録史料学）といいます。本研究領域は、近年（とりわけこの30年間に）その重要性が喚起され、急速に議論が深められてきました。現在では、歴史学専攻（さらに大学院以上に進学し資料保存機関で働くことを考えている方）、司書課程・学芸員資格を目指す方は、この学問領域についての知見が必須になってきています。

そこで本講義では、この研究領域の中で特に重要な、①アーカイブズの沿革（歴史）、②アーカイブズを管理保存する公文書館とその業務、③文書館の担い手である専門職員（＝アーキビスト）、④大学アーカイブズ、⑤その他（アーカイブズをめぐる近年の動向）にしぼって、映像資料や新聞資料を交えて講義します。それにより、アーカイブズの果たす役割を学び、本学問の今後の可能性について検討します。

※受講生の人数や講義の進度により、シラバスの内容を変更する場合があります。ゲストの都合により、10回目と11回目は入れ替わる場合があります。

授業の到達目標

本講義では、歴史学と密接にかかわるこの研究領域にかかわる諸問題を紹介・検討し、当該領域に関する基礎的な知識の修得を目指します。

これにより、公文書館の制度や文書資料の管理体制、そこで働く専門職員（＝アーキビスト）に対する理解を深め、公文書を軸とする記録管理の徹底が民主主義社会の成熟と発展に寄与する可能性を持つとの認識を深めていただくことを目的とします。

・アーカイブズ（archives）が持つ「複数の意味」（3つ）を正確に理解する。
・近現代の日本における、公文書を中心とする記録管理の沿革と現状を把握する。
・昨今の時事問題に、本研究領域が密接に関わっていることを理解し、説明できるようになる。
・戦後民主主義の成熟と運用に、本学問が密接に関わっていることを理解する。

成績評価方法

●**試験**　70%　　学期末に実施する教場試験です（70点満点）。平常点と合計し60点以上を合格とします。但し、授業回数の3分の2以上出席が単位習得の条件となります（9回以上参加が成績評価の最低条件）。ご注意ください。

●**レポート**　0%

●**平常点**　30%　　毎回出席確認を兼ねたリアクションペーパーを実施します（全13回、moodle）、感想・疑問・質問等を記入していただきます。それをもとに理解状況の判断に利用します。的確なご意見には1～3点をします（＝平常点、最大30点）。教室で直接リアクションペーパーに記入していただく場合もあります。

●**その他**　0%

科 目 名	日本対外関係史　イタリアにおける天正遣欧使節							
担当者名	伊川　健二							
日史コース	２単位	秋学期	火曜日	４時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

1582年に長崎を出港し、ローマなどヨーロッパでの滞在を経て、1590年に長崎へ帰着した一団を天正遣欧使節という。この概要のみを知る者は少なくない。他方で、北イタリアの諸都市には彼らにまつわる古文書や印刷物が膨大に保存され、絵画や詩、演劇のなかに登場し、その足跡を詳細に追跡できることを知るものは少ない。今年度の本講義では、現地での踏査、文献調査の成果を踏まえて、イタリアでの滞在に焦点を当て、その詳細を描き出すとともに、彼らの派遣の意義を広い観点から考察する。以下の内容には、在外研究中の成果の成否によって若干の変更が生じることがありうる。

授業の到達目標

講義は日本語のみでも内容理解に支障が出ないように進められる。受講者はパワーポイント、教科書および配布資料による講義を通じて、天正遣欧使節の原典史料に触れ、その具体像と歴史的意義を説明できるようにする。

成績評価方法

●**試験**　100%　　定期試験
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　0%　　なし
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

本科目は、コロナ禍により不可能と判断される場合を除いて、すべての回を対面により実施する。
授業当日（0時以降）の問い合わせには、原則として応対しない。欠席回における配布資料の取り置きは、事情の如何に関わらず実施しない。

科 目 名	日本戦争史　様々な立場から考える近代の戦争							
担当者名	上山　由里香							
日史コース	２単位	春学期	無	フルOD	２年以上	—	合併科目	フル[オンライン]フルオンデマンド

授業概要

19世紀末以降、日本は近代国家としての歩みを進める過程で、様々な戦争を経験します。戦争に至る背景や経過、影響などを理解する際、日本や日本の民衆だけではなく、周辺諸国やその民衆のとの関連も無視することはできません。
本授業では、近代に入り、日本が関わった戦争の歴史的事実にのみ焦点を当てるのではなく、周辺諸国（主に、中国や朝鮮）や民衆への影響や、周辺諸国（主に、中国や朝鮮）や民衆の立場から見た戦争体験について考えます。

授業の到達目標

1. 日本が関わった戦争を、様々な立場から考える。
2. 文字資料だけではなく、絵、図、写真、日記など様々な資料に触れ、分析する力を養う。
3. 受講生同士での情報交換、議論を通して、各テーマについて様々な視点に触れる。
4. 自ら問い（気になった疑問）を立て、学習し、それを通してわかったことを客観的に論理立てて説明する力を養う。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しません。
●**レポート**　60%　　授業を通して関心を持ったテーマを選び、自ら問い（気になった疑問）を立て、学習し、それを通してわかったことを客観的に論理立てた内容で構成する。
●**平常点**　40%　　毎回、授業後の感想、意見、疑問などの提出をもって出席とします。
不定期に実施する事前学習課題（事前に指定された資料についての質問、疑問などの<アンケート>による提出）も平常点に含めます。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施しますが、受講生との双方向性の授業を目指します。そのため、毎回提出していただく感想、意見、疑問などを活用し、受講生同士での情報共有や議論ができる機会も作る予定です。
毎回提出された感想、意見、疑問については、フィードバックします。
※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	日本民俗学							
担当者名	鶴見　太郎							
日史コース	２単位	春学期	無	フルOD	１年以上	—	合併科目	フル[オンライン]フルオンデマンド

授業概要

民俗学とは、われわれの生活の中で伝承される習俗や信仰、心の持ちようについて、それらの意味や機能をさかのぼって明らかにする学問である。たとえば、何故、春・秋それぞれの祭がことなっているのか、贈答品にはなぜ熨斗紙が付されるのか、なぜ日用雑器の中で自分の茶碗や箸を持っているのかーこうした民間から生まれる生活上の疑問は、文字に書かれた資料からだけでは分析できない側面がある。以上のことを念頭におきながら本講義では、1）民俗学と歴史学の関係、、2）民俗的な自我意識とはなにか、3）祭の起源と受け継がれ方、4）沖縄・南西諸島の民俗、5）北の民俗とその特色、5）「民藝」の起源とその運動、6）仏教民俗学の成り立ち、などのテーマを設けて検討を行っていく。また、柳田国男、折口信夫をはじめとする、草創期の日本民俗学の基礎を作った人物たちの成果についても適宜、参照する。本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フル OD」となり、教室は配当されません。

授業の到達目標

自分たちが普段、生活の中で行っている主だったいくつかの日常的な事柄（無意識の領域も含む）について、その由来を説明することができる。草創期の民俗学において業績を残したt主だった学者たちの仕事について概要を把握することができる。

成績評価方法

●**試験**　80%　　学期末の試験に、平常点を加味する。
●**レポート**　20%　　2〜3回を予定。下の平常点に加算する。
●**平常点**　0%　　特に行わない。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	日本環境史							
担当者名	鶴見　太郎							
日史コース	2単位	秋学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

「環境」から連想される言葉は、恐らく「自然」という印象が強い。しかし本来、「環境」とは我々を取り巻いている周囲の世界に包含されるいくつもの要素によって構成されており、「自然」とはそのひとつに過ぎない。それ以外にも、信仰、伝承、地理的条件など、多くの事象が「環境」を形作っている。共通しているのはそれらが普段、周辺から目立たない形で中心部分を規定していることにある。日本が列島によって構成されていること、明確に四季があること、自然宗教への信仰が根強いこと、稲作主体の生活のリズムが基調となっていることなど、無数の事柄が周囲から「環境」を規定している。本講は衣食住、思想、信仰生活などを取り上げながら、背後から歴史を規定している事象を検証していく。素材となるのは、1）美意識を構成する自然観、、2）稲作と雑穀文化、3）伝説・民話に生きる人間観、4）切り取られた「環境」と文化の在り方ーなどを予定している。 本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フル OD」となり、教室は配当されません。

授業の到達目標

「環境」という形で日常生活を背後から規定しているいくつかの事象について、その由来を歴史的に説明できる。

成績評価方法

●**試験**　80%　　学期末の試験にレポート・平常点を加味する。
●**レポート**　20%　　2〜3回を予定。下の「平常点」の中に加算する。
●**平常点**　0%　　特に行わない。
●**その他**　0%　　特に行わない。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	日本史特論2　近世の女性たち							
担当者名	久保　貴子							
日史コース	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

講義では、近世（江戸時代）の女性たちの動向について、「家」をキーワードに考えていきます。江戸時代は、「家」を基盤とする社会です。嫁入り婚が定着したため、一般に女性は妻として「家」を支えることになりました。もちろん、公家や武家の「家」には、妻以外の女性たちが多数おり、彼女たちも「家」を支える重要な存在でした。なお、この階層の女性たちは、嫁いだのちも、実家とのつながりが強いのが特徴です。一方で、社会全体の傾向から言えば、離婚も珍しいことではなく、不義密通も見られます。「家」のために身を売る女性たちもいます。そうしたさまざまな女性の生き方を学ぶことで、近世という時代を探求したいと思います。

そこで、授業では、公家・武家の女性を代表する天皇家と将軍家の女性たち、町家・農家の女性たち、娼婦となった女性たちなど、幅広い層を取り上げます。

授業の到達目標

女性史・ジェンダー史を学ぶことの意義を理解し、説明することができる。
各階層の女性たちの動向から、近世社会の時代的特徴を説明することができる。
文献（史料や論文）の読解力を習得し、文章構成力を上げる。

成績評価方法

●**試験**　70%　　第14回目の授業中に試験を実施し、理解度の確認を行います（試験の解説も同時間内に行います）。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　30%　　2回程度を予定している文献講読に基づく小レポート（出席者が対象）と、出席率・遅刻率を総合的に評価します。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

提出された小レポートについては、授業中にフィードバックを行います。3分の2以上の出席率を求めます。

科 目 名	日本史特論1　日本中世の海上交通と港町							
担当者名	黒嶋　敏							
日史コース	2単位	秋学期	水曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

日本中世の海上交通と、それを支えた港町について考察していく。海上交通は大量の物資を運びうる物流インフラであり、当時においても社会経済の基礎となっていた。船の出入りがしやすい場所には港町が成立し、物流拠点として繁栄するが、時には地理的な制約を乗り越えて港湾拠点を形成しようとする政治権力も現れる。日本各地の港町を巡りながら、海上交通を取り巻く状況を観察し、中世という時代特有の問題を考えていきたい。

授業の到達目標

中世の海上交通の変遷を、荘園公領制から戦国期の地域的経済圏を経て、近世幕藩制社会に至る社会構造の変化と関連づけて理解する。その際、海上交通は対外関係による影響を受けることにも留意し、アジア世界の状況と合わせて複眼的に理解していく。また、日本中世史を考えるうえでの基礎的な素材となる古文書・古記録・絵図などの史料類についても基本的な読み方を身につけていく。

成績評価方法

●**試験**　60%　　第14回目の授業時間中に試験を実施し、授業全体の理解度の確認を行います。試験後に、解説も同時間内に行います。

●**レポート**　0%　　特になし

●**平常点**　40%　　毎回の授業に出席後、自身の理解度や授業の感想などをWaseda Moodleのレビューシートに入力してもらい、出席状況や入力内容などを総合的に評価します。

●**その他**　0%　　特になし

備考・関連ＵＲＬ

授業では日本史の史料を用いますが、現代語訳をしながら進めていきますので、やる気を持って取り組んでもらえる人なら抵抗はないと思います。

科 目 名	**日本史概論1**　日本史の古代・中世を考える							
担当者名	川尻　秋生							
日史コース	２単位	春学期	月曜日	３時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本講義では、教養としての日本歴史の知識や考え方の獲得をめざし、その概要を解説します。

現在の歴史学は世界的、とくに東アジアからの視点は欠かすことができません。また、文学など歴史学の周辺にある諸分野との協業も必要です。本講義でも、これらの成果を積極的に取り入れ、新たな時代像を描き出したいと思います。

とくに、グループワークは行いません。

授業の到達目標

日本史に関する基礎的知識の獲得を目指します。

成績評価方法

●**試験**　50%　　学期末に行う確認テストによります。

●**レポート**　0%

●**平常点**　50%　　出席によります。

●**その他**　0%

科 目 名	**日本史概論2**　日本史の近世・近代を考える							
担当者名	川尻　秋生							
日史コース	２単位	秋学期	無	フルOD	２年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

本講義では、教養としての日本歴史の知識や考え方の獲得をめざし、その概要を解説します。

現在の歴史学は世界的、とくに東アジアからの視点は欠かすことができません。また、文学など歴史学の周辺にある諸分野との協業も必要です。本講義でも、これらの成果を積極的に取り入れ、新たな時代像を描き出したいと思います。とくに、グループワークは行いません。

＊本授業は、定期配信（毎週火曜日に開講、2週間の受講期間）によって、全回オンデマンド授業として実施します。

授業の到達目標

日本史に関する基礎的知識の獲得を目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　50%　　期末レポートによる。

●**平常点**　50%　　出席および課題提出による。

●**その他**　0%

科 目 名	**近代の天皇と天皇制**　象徴天皇制への道							
担当者名	荒船　俊太郎							
日史コース	２単位	秋学期	水曜日	２時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本講義では、近現代の天皇制について講じます。より具体的には、日本において近代天皇制国家がどのように形成されたのか、を軸に時代ごとの特徴（政治・外交・軍事・社会）を掘り下げて検討します。時期区分では、幕末から説き起こし、明治・大正・昭和戦前期の天皇の機能（役割など）を抽出しながら、参加者の皆さんとともに、この国の「かたち」がより明確に築き上げられていく経過を確認したいと思います。

あわせて、各回で具体的な史料（画像）を提示し、歴史研究に対する心構えや手法をやさしく論じます。歴史的な物の考え方に触れ、現代と過去を比較し相違点を探ることでその大切さを理解し、現代社会を主体的に捉えるまなざしを培っていただきたいと思います。講義中は、レジュメやノートなどに要点をメモするようにしてください。到達度確認のヒントを出すこともあります。

※履修者の人数や授業の進捗状況により、シラバスの内容を一部変更する場合があります。

授業の到達目標

歴史学は受験のための「暗記科目」ではありません。それで終わってしまうには、あまりにも惜しいものです。歴史を学ぶ醍

醐味とは、主体的に文献・史料をひもとき、過去の事象から新たな知見を「発見」し、将来の指針やヒントを得ることです。本講義では、歴史を学ぶ（考える・研究する）上での基礎的なルールを紹介しつつ、歴史的な物の考え方や考え方・資料批判の方法等を修得することを目指します。

成績評価方法

●**試験**　70%　　最終回（14回目）に論述形式（数問）の到達度確認を行います（70点満点）。この他平常点（30点分）を総合して、60点以上を合格とします。ただし、出席が授業総回数の3分の2（全14回なら9回）に満たない者は、成績評価の対象になりません。注意してください。

●**レポート**　0%

●**平常点**　30%　　出席確認を兼ねて毎授業の最後にリアクションペーパーを実施します。内容次第で若干の加点をする予定です（各回最大3点、14回分で最大30点分）。

※リアクションペーパーはmoodleで実施予定ですが、参加人数により、教室で直接書いて提出していただくこともあります。

●**その他**　0%

科 目 名	アジア史特殊講義1（中国古代史）　中国古代の文化とその影響							
担当者名	小倉　聖							
ア史コース	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

本講義では中国古代の文化、特に「科学」と「占術」について検討します。先秦以来、自然哲学・自然科学方面の探求は盛んに行われ、陰陽五行説といった基礎理論が構築されました。中国科学（天文・暦・医学等）は基礎理論・説明原理が易の理論や陰陽五行説等に依拠している上、科学と占術が混在し、宗教や思想と交叉する領域に、中国科学の先進性・独自性を生み出したパラダイムが潜んでいます。

「科学」と「占術」と並列した場合、両者は相反する概念で「占術」は迷信に属するものであるとされる方も多いと思います。しかし先述のように、中国「科学」と「占術」の関係は密接でありますので、「占術」は単に迷信と切り捨てて良いものではなく、これと科学を検討すること学術文化の理解に資するでしょう。　本講義では、文献のみならず、出土文字資料を活用することで、最新の研究もご紹介します。また「占術」・「科学」理論を図・表を用いることで丁寧にお伝えし、これらの日本への影響もお話します。

授業の到達目標

・中国古代の科学的思考・占術を理解する
・中国古代の学術文化を理解する

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし・資料は各授業において

●**レポート**　100%　　出席3分の2を満たす者をレポート提出の対象者とします。成績は期末レポートで採点します。レポートの内容は授業（第5回・第10回）でお伝えします。

●**平常点**　0%　　特になし

●**その他**　0%　　特になし

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	アジア史特殊講義2（朝鮮前近代史）							
担当者名	植田　喜兵成智							
ア史コース	2単位	春学期	火曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本講義では、朝鮮前近代史、特に古朝鮮から朝鮮時代後期に至るまでの展開を学ぶ。朝鮮社会の歴史的推移を東アジアの国際情勢と関連づけながら解説する。基本史料である『三国史記』、『三国遺事』、中国正史東夷伝、『高麗史』などの伝世文献や、広開土王碑、武寧王碑、真興王碑などの石刻史料や、最新の出土文字資料も駆使して朝鮮の歴史に対する理解を深める。

授業の到達目標

（1）古朝鮮から朝鮮時代後期までの朝鮮史について正確な知識を修得する。
（2）朝鮮史の展開を東アジアの国際情勢のなかで把握し、その推移と変化の背景を説明できる。
（3）基礎的史料および出土史料を用いて朝鮮の歴史について思考できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。

●**レポート**　70%　　期末レポート。授業全体の学習内容についての理解度で評価する。

●**平常点**　30%　　授業への参加状況、レスポンスシートの内容で評価する。授業終了後1週間以内にWaseda Moodleにレスポンスシートを提出しなければ欠席となります。

●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	アジア史特殊講義3（中国前近代史）　変革期を生きる士大夫官僚の一生――宋代中国における政治・社会・軍事の諸相							
担当者名	鄒　笛							
ア史コース	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

10~13世紀の中国社会は、唐宋変革を経て、科挙試験により選抜された士大夫官僚が支配者層となる「文治国家」を形成させた。一方、ほぼ同時期より、遊牧世界と農耕社会がそれぞれ新たな展開を見せ、領土紛争や大義名分をめぐる軍事的競り合いが繰り広げられていた。東アジア地域では、政治・経済・社会の様々な面において激変が起きており、中でも、1120年代に起きた宋金戦争を発端に、華北地域、ひいては中国全域が北方民族の統治者に支配されるようになりつつあった。12世紀に起き

ていた様々な変化は、その時代のみならず、それ以降の中国社会にも決定的な影響を及ぼした。本講義は、そのような時代を生きる一個人の視点に立ち、一人の士大夫官僚の人生を通して、当時の政治・社会・軍事の諸相を検討する。

授業の到達目標

人物研究という歴史研究の中の基本手法の一つを通し、前近代中国の支配秩序、及び社会の様々な面で起きた変化を大きな枠組みから考え、近現代中国社会の原像を理解する。

成績評価方法

●**試験** 0%　なし
●**レポート** 60%　参考文献の検討を踏まえ、自分なりの見解の論述を評価する。
●**平常点** 40%　出席及びその都度提出するレビューシートにより講義内容の理解度を確認・評価する。
●**その他** 0%　なし

科 目 名	アジア史特殊講義4（東アジア近現代史） 20世紀前半の東アジア情勢とモンゴル人社会							
担当者名	青木　雅浩							
ア史コース	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

20世紀の東アジアでは、広域統治を敷いていた2つの帝国―清朝とロシア帝国―の崩壊により、旧来の統治体制が解体されていきました。一方、これら帝国の後継国家による統治が、旧来の帝国統治に沿う形で再び確立されていきます。また、新たに日本が勢力拡大を強めていきました。広域的な帝国統治の崩壊と再生、新勢力の拡大の中で、その統治下にあった多様な人々が、自社会の将来のあり方を模索するようになっていったのです。

モンゴル人はその代表例と言えます。当時の中央ユーラシアのモンゴル人社会では、「モンゴル人」の統合と自立を模索した多様な活動が、転変する東アジア情勢と、モンゴル人社会に内在する諸問題の影響のもとで展開されました。この20世紀のモンゴル人社会の歴史的歩みは、現代世界における地域情勢・国際関係とエスニシティの問題を考える際にも、重要な示唆を与えてくれるでしょう。

この授業では、20世紀前半に展開されたモンゴル人の統合と自立を模索する様々な活動を、「諸外国との関係、国際関係」と「モンゴル人の地域性（地域的差異）」の2つの視点から分析し、当時のモンゴル人の活動の特質について説明していきます。

授業の到達目標

・近現代モンゴル社会の歴史的な歩みと、その東アジア情勢との関係に関する専門的知識を習得する。
・モンゴルの例を通じて、近現代史上における地域情勢・国際関係とエスニシティ問題の関係性に対して、理解を深める。

成績評価方法

●**試験** 50%　第14回授業において教場試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート** 0%　レポートは実施しません。
●**平常点** 50%　授業への参加度（コメントシートの内容）
●**その他** 0%　特になし。

科 目 名	フィールド歴史学（東アジア） 資料の「史料化」学							
担当者名	飯山　知保　他／植田　喜兵成智／水間　大輔							
ア史コース	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

21世紀の歴史研究は、近代歴史学＝「国民国家の歴史学」の相対化を底流に展開している。東アジア史も例外ではない。本講義は研究手法と史料学の視点からこの底流を検証する。具体的には、「フィールドで獲得した資料はどのようにして史料となりうるのか」という問題意識に基づき、各担当者が出土木簡や石刻・碑文や少数民族地域などの現場で獲得した「資料の史料化作業」を通して、東アジア史研究の主流である文献実証史学再構築をめざす。「泥臭い早稲田」の「汗をかく歴史学」である。

授業の到達目標

史料が所与のものとしての史料ではなく、創造的に「資料を史料化」することによって新しい歴史学が生まれることを理解する。

成績評価方法

出席三分の二以上を満たす者に対してレポート課題を課す。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	朝鮮近現代史 女性たちの歴史から朝鮮の近現代史を考える							
担当者名	崔　誠姫							
ア史コース	2単位	秋学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

東アジアは長らく家父長制に支配され、今もなお男女間の分断・対立が生じている。本講義ではそのような視点から、朝鮮半島の近現代史を女性の視点からとらえ、現代社会が抱える問題の根源となる歴史を学ぶ。本授業は基本的に対面で実施するが、2～3回ほどオンデマンド形式で実施する。オンデマンドで実施する授業については、授業中に案内する。

授業の到達目標

朝鮮半島の近現代史を学ぶことで、現在の東アジアが抱えている歴史問題の背景を理解できる。さらに女性の視点からの歴史を学ぶことで、歴史がいかに男性中心に論じられてきたか、その問題点や不可視化されてきた女性の歴史を理解し、より広い視野で歴史をとらえることができる。

成績評価方法

●**試験** 0%　なし
●**レポート** 50%　期末レポートの課題について規定の文字数に沿って提出する。課題は授業中に提示する。

●**平常点**　30%　　授業への出席、リアクションペーパーの内容について総合的に評価する。
●**その他**　20%　　ミニレポートとして、読書レポート・映画レポート・博物館及び資料館訪問レポートを提示する。詳細は授業中に提示する。

備考・関連URL

授業についての案内はポータルサイトを確認すること。大阪からの出勤のため、天候不良などで交通機関がストップした場合、当日に休講になる可能性が生じるため、ポータルサイトはマメにチェックすること。

科 目 名	東南アジア史　山地から見たアジアの歴史							
担当者名	岡田　雅志							
ア史コース	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本授業では東南アジアの歴史を山地世界の視点から論じる。山地、とりわけ東南アジアの山地世界といってもなじみがないかもしれない。世界史の表舞台に現れることが少なく周縁的な位置づけを与えられてきた東南アジア山地世界であるが、多民族が当たり前に共生し、生態環境に応じた特徴的社会を育んできた独自の歴史を有する地域である。近年、当該地域を扱い、世界の歴史学界で話題となったジェームズ・スコット『ゾミア–脱国家の世界史』の議論も取り上げながら、山地世界に焦点を当てることで、既存の歴史叙述の問題点を探るとともに、その先に見えてくる歴史像を考える。

授業の到達目標

・東南アジア史の基本的な知識及び流れを理解する。
・東南アジアの山地世界の歴史的特徴と世界史における位置づけを理解し、説明できる。
・歴史叙述のバイアスがどのように生まれるのかを理解する。
・生態環境・地政学的視点とグローバルな視野をあわせ持って歴史を見る態度を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　60%　　授業内容をふまえているかどうか。
適切な根拠や例を出しながら明確に論理を展開しているかどうか。
●**平常点**　40%　　原則毎回のリアクションペーパーとグループワーク等の授業への主体的な参加度合い
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	基礎漢文1　漢文史料から読み解く前近代の東アジア							
担当者名	峰雪　幸人							
ア史コース	2単位	春学期	金曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本講義では散文体で書かれた漢文をとりあげて、その読解方法を学ぶ。読解の対象としては高校漢文で取り扱われるレベルの漢文のなかでも歴史に関連する漢文（漢文史料）を用い、読解するうえで必須となる文法・句法を確認する。その際には、文法・句法を単なる暗記事項として紹介するのではなく、その歴史的背景（訓読方法の歴史等）や日本語と中国語の違い等についても解説を行う事で、高校の漢文教育で教材研究などを行うための基礎的な知識を提供する。
また、歴史史料として漢文に接することで史料考証の方法についても学ぶ。

授業の到達目標

（1）辞書を適切に用いた基本的な漢文の読解方法を習得する。
（2）歴史資料を読解するうえで必要となる初歩的な史料考証の方法を理解する。
（3）高校の漢文教育における教材研究を行う上で必要な知識・技術を修得する。

成績評価方法

●**試験**　60%　　第14週に教場にて試験を行う。
●**レポート**　0%　　特に想定していないが、場合によっては教場で指示する。
●**平常点**　40%　　教場での漢文訓読の状況や、授業への参加度によって評価する。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

毎回、授業時には漢和辞典を必ず用意しておくこと（電子辞書可）。
また、漢文の訓読に自信がない者は、高校で使用した漢文・古文の副読本を「発掘」し、準備しておくこと。

科 目 名	基礎漢文2							
担当者名	高井　康行							
ア史コース	2単位	秋学期	金曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本講義では散文体で書かれた史料をとりあげる（唐宋代の散文を中心とした、高校漢文教科書に収録される文章を用いる予定）。一口に散文体の史料といっても、正史に代表される編纂史料、裁判記録や行政文書などの一次史料、あるいは虚実の入り混じった筆記・随筆など、様々なスタイルのものがある。これら多様なスタイルの史料の特徴を紹介し、その講読を通じて基礎的な漢文の読解力を身に付けてもらいたい。また、漢文の読解はただ書かれている文字を解釈するだけではなく、その記述内容から読み取れる様々な事実や背景を明らかにすることにある、それが史料を読むことの面白さでもある。この「面白さ」を講義を通じて感じ取ってもらいたい。

授業の到達目標

1. 工具書（辞書・事典）などを適切に用いた基本的な漢文の読解方法を修得する。
2. たんに漢文の字面の意味を理解するだけでなく、漢文を歴史学的に考証する方法の基礎を修得する。
3. 高校の漢文教育における教材研究を行う上で必要な知識・技術を修得する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験実施予定はありません。
●**レポート**　70%　　漢文史料の読解および考証の度合いにより評価する。なお、レポートは学期末に提出してもらう予定。
●**平常点**　30%　　授業の3分の2以上の出席を求めます、出席がこれを下回った場合、特別な理由がない限り評価の対象外とします。
　また、授業中の質疑への対応などから総合的に評価する。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	アジア史概論1　東アジア世界の形成と展開							
担当者名	飯山　知保　他／植田　喜兵成智／水間　大輔							
ア史コース	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

　全体は三部から構成され、第一部（第1回～第5回）では古代の東アジア世界の形成と展開について検討する。第二部（第6回～第10回）では10世紀から13世紀までの東アジア世界を対象とし、伝統中国をめぐる諸問題を検討し、13世紀以降の中国への影響を考える。第三部（第11回～第14回）では東アジアにおける朝鮮半島と日本列島をめぐる諸問題について検討する。

授業の到達目標

　中国を中心地域とする「東アジア世界」（中国文明の世界）がどのようにして形成され、展開していったかという、東アジア史の基本問題を、中国古代史を起点として、中世・近世から近現代、そして朝鮮半島における歴史展開に主に焦点を合わせ、同時に周辺地域も複合的に考察して、動態的な理解を深めることを目的とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし。
●**レポート**　80%　　講義を行う3人の教員が各々一問ずつ課題を出す。受講生はそのなかから一題を選び、レポートを執筆すること。
●**平常点**　20%　　出席日数、三分の二以上を要す。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

　本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	アジア史概論2　アジアの多様なひろがり							
担当者名	植田　喜兵成智　他／五十嵐　大介／孔　徳維／柳澤　明							
ア史コース	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

　授業概要：アジアは広大かつ多様な空間で、単一の歴史世界として概括的に描き出すことには困難がともなう。そこで、この講義では、西アジア、東アジア、東南アジアという大きな地域区分を設定し、各地域の歴史的特徴をとらえる上で鍵となるような時代・対象に焦点を当てて詳論する。その際、他の時代や地域との関係性にも目を配り、講義全体を通してアジア史の全体像の一端を浮かび上がらせることを目指したい。 具体的な講義内容は以下のとおりである。 1. エジプトから見るイスラーム史（五十嵐大介）：7世紀半ばに始まるイスラーム共同体の勃興と拡大は、人類の政治・文化・宗教思想地図を一変させ、その流れを大きく変えた世界史上の大事件であった。本講義では、7世紀のアラブの大征服以降イスラーム文明の重要な担い手となったエジプトを座標軸に据え、イスラーム時代の西アジア・中東の歴史を概観する。
　2. 清帝国から近代へ（柳澤明）：中国最後の王朝であると同時に、中央ユーラシアの一部をも包摂した清朝を取り上げ、その多元的な姿の中に、中国歴代王朝からの継承性と「中央ユーラシア型国家」としての特性がどのように表れているかを検討する。その上で、19世紀以降における清帝国の解体・再編を通じて、現代につながる東アジアの国際秩序が形成されてきた背景を探る。
　3. 辺境からみる東南アジア大陸部（Hung Tak Wai）：東南アジア大陸部にはタイ人やラオ人と呼ばれるタイ系諸族の王国がいくつもあったが、その周辺には複数のマイノリティ集団が暮らしていた。本講義では、一般的にみられる王国の変遷をたどる歴史ではなく、マイノリティ集団に焦点をあて、東南アジア大陸部における統治権力への抵抗の歴史について概観する。
　本科目は、「ディプロマポリシー」、「カリキュラムポリシー」にいう「専門講義」に該当する。

授業の到達目標

　講義動画の視聴、各回の課題への解答、期末レポートの作成を通じて、アジアの歴史をさまざまな角度からとらえ、その多様性に対する理解を深めることを通じて、アジア史の全体像を巨視的にとらえる視座を養うことを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　50%　　期末に1本のレポートを課す。テーマ設定の明確さ、関連する先行研究・資料の読み込みの程度、論理構成、オリジナリティを総合的に評価する。
●**平常点**　50%　　各回に設定する課題への解答状況等による。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

　※授業は基本的にオンデマンド配信で行います。詳細についてはWaseda Moodle上で連絡します。

科 目 名	サブカルでよむ東洋史入門							
担当者名	永島　育							
ア史コース	2単位	秋学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

　私は、東洋史、もっと言えば歴史学とサブカルの関係について興味があります。というのも、（私の思い過ごしなら良いですが）大学において東洋史は必ずしも人気がある学問とは言えない一方で、東洋史を題材にしたサブカル作品はたくさんあり、人気を

博しています。東洋史研究者である私としては、東洋史に触れる人が多いほうが良いわけですから、サブカルというのは非常に重要な手段だと考えています。そこで本講義では、サブカルを手がかりに、大学で東洋史を研究することの面白さを伝えるとともに、東洋史という学問がより多くの人に受け入れられる方途をみなさんと一緒に考えられればと思います。
歴史に興味がある方はもちろん、サブカルやエンタメ業界に興味のある方の受講も歓迎します。

授業の到達目標

東洋史という学問について理解する。
東洋史という学問がより多くの人に受け入れられる方途について分析・説明できるようになる。

成績評価方法

●**試験** 0%　特になし
●**レポート** 70%　授業最終回までにレポート（詳細は授業内で発表します）を提出
●**平常点** 30%　毎回のリアクションペーパー
●**その他** 0%　特になし

科 目 名	アジア史特殊講義5（中国近現代史）							
担当者名	劉　傑							
ア史コース	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

中国はどこに向かうのか。このことは隣国日本のみならず、世界の関心事である。現代中国を理解するには、近現代史を把握することは不可欠である。19世紀後半以降の中国は「伝統」と「近代」の間を往復しながら国のあり方を模索してきた。「改革開放」の時代が終了したと言われる現在も、この営みは止まらない。本講義は日本における「中国学」の伝統を継承、発展し、アヘン戦争から現在に至る中国の歩みを「知のエリート」が構想する「国家像」を通して捉えてみたい。中国近現代史は幾度もターニングポイントを通過した。1911年の辛亥革命、1949年の中華人民共和国の成立、1976年の文化大革命の終焉はその代表的なものであるが、今日の中国につながる「変わらないもの」は何か、これを皆さんと一緒に探り、歴史のなかの現代中国に対する理解を深めていきたい。

授業の到達目標

①現代中国を理解するための基本文献の調査、解読、分析能力を身に付けること。
②中国近現代史を理解するキーワードと視座を発見すること。
③ディスカッションを通して現代中国を歴史的に捉えることの重要性を確認すること。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 50%　毎回レヴューシートを提出してもらい、課題の完成度で評価する。
●**平常点** 50%　出席状況や討論への参加などで評価する。
●**その他** 0%　特にありません。

科 目 名	西洋史研究1（西洋近現代史） 近現代ドイツの歴史							
担当者名	小原　淳							
西史コース	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

本授業は、近現代ドイツの歴史を概観する。ドイツ地域は19〜20世紀に分裂と統合を繰り返し、また度重なる政治体制の変化を経験しつつも、「世界強国」へと変貌していった。その影響力は、EUの中心を占めるこんにちのドイツのように、ヨーロッパの一体化と安定に寄与する方向に発揮される場合もあるが、反対に二度の世界大戦の時代のように、独裁と暴力をもたらす過去もあった。そして、こうしたドイツ史の複雑さと両義性は、同国をモデルの一つとして進められた日本の近代化とも無縁ではない。本授業では、現在のドイツ国家・社会の姿を過去に投影するのではく、むしろ歴史のなかでのドイツの領域的な伸縮、国家体制や社会制度の変化、地域や宗派に起因する多様性を重視し、また、政治史・事件史のみならず人々の生活文化や意識、行動様式をも視野に入れ、さらには日本とのつながりや比較を意識して、講義を行う。なお、毎回の授業ではナショナリズム、国民国家、市民社会、産業革命、帝国主義、ユダヤ人、民族、社会主義・共産主義、大衆民主主義、ファシズム、ジェンダー、環境といった、近現代史の理解に欠かせない諸問題も適宜取り上げる。

授業の到達目標

受講者が、近現代ドイツ史の把握をつうじて、第一に現在のドイツがどのような歴史的過程を経て形成されたのかを理解し、第二に西洋世界、そして日本を含めた世界全体にドイツがいかなる影響を及ぼしたのかを検討し、第三にそこから得られた知見をもとに、現代世界を歴史学的な視点から考える力を養うことを目的とする。

成績評価方法

●**試験** 0%　なし。
●**レポート** 100%　授業内容の理解度を問う。詳細は授業内で指定する。
●**平常点** 0%　なし。
●**その他** 0%　なし。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	西洋史研究2（西洋近現代史） フランス革命はなぜ起こったか							
担当者名	貝原　伴寛							
西史コース	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

1789年に始まったフランス革命は、西洋近代の幕開けを告げる世界史的な大事件だと言われています。

この革命は中世以来のフランス王権を打倒しただけでなく、人権宣言という近代世界の道標も示しました。
ではその革命はどうして、どのように起こったのでしょうか。
この授業では、フランス革命の要因をめぐって提示されてきた学説の数々を紹介します。
その検討作業を通じて、革命が起きた18世紀のフランス（そして広く西洋）についての理解を深めることを目指します。
ひいては、ひとつの論題に関して多角的な視点からアプローチする歴史学の面白さを味わってほしいと思います。
なお、本授業では頻繁にコメント課題の提出を求めますので、履修にあたってはその旨をご了承ください。

授業の到達目標

フランス革命の特質と要因について多角的な説明を行うことができる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　導入以後の授業で毎回課すリアクションペーパーの提出状況と内容を評価対象とします。詳細は授業中に説明します。
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

講義

科 目 名	西洋史研究3（西洋中世史） 中世ヨーロッパ世界の成立と発展							
担当者名	甚野　尚志							
西史コース	２単位	春学期	無	フルOD	３年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

中近世ヨーロッパ世界は。ゲルマン文明とキリスト教文明を融合する形で、ビザンツ帝国が勃興し、カロリング朝フランク王国が台頭する時代にその原型が形作られた。その後、紀元1000年以降には、農業革命と商業交易の発展により、フランス、イングランド、ドイツなどの地域に新しい国家体制が生まれ、同時に、教会改革により、教皇権や修道院などの宗教権力も社会で大きな役割を果たすようになった。さらに、十字軍などの宗教運動をきっかけにして中世ヨーロッパ世界は、イベリア半島や東欧などのスラヴ人地域にも拡大していく。この授業では、中世ヨーロッパ世界の成立と発展について政治、経済、宗教などの様々な視点から考察する。

授業の到達目標

中世ヨーロッパ世界がどのようにして成立し、発展・拡大していったのかについて理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　60%　　講義の内容に沿ったテーマでのレポートを提出する。
●**平常点**　40%　　毎回、動画を視聴することが出席となる。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	西洋史研究4（西洋近現代史） 19-20世紀イギリスの政治と社会							
担当者名	松園　伸							
西史コース	２単位	秋学期	木曜日	５時限	３年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

授業計画にあるように、主に4つのテーマを扱う
1　19世紀ヴィクトリア期社会とはなにか
2　19-20世紀イギリスの民主化
3　両大戦間期のイギリス
4　イギリス帝国主義とはなにか
これらを柱に講義するが、1～4のポイントの比重は、受講者の希望を受けて変更することがあります。したがって、シラバスにも変更はあり得ます。

授業の到達目標

・授業概要にあげたテーマを理解することで、近現代イギリスの政治、社会とは何であったかを考える。
・授業にあたって、英文（平易なものを選びます）、和文の文献、史料を読んでもらうので、予習が必要である。
・また随時、BBC制作の歴史教育プログラムを視聴する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　70%　　随時提出するもの。期末のレポートはありません。
●**平常点**　30%　　出席状況など。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	西洋史特別研究1 政治と宗教の相克からみた中近世ヨーロッパ世界							
担当者名	甚野　尚志							
西史コース	２単位	秋学期	無	フルOD	２年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

中近世ヨーロッパ世界では、政治と宗教をめぐる激しい抗争のなかから、新しい政治体制が生み出された。この授業では、中世ヨーロッパに固有の政治体制のありかたを理解するために、世俗の王権（皇帝権）と教会権力（教皇権）との対立と和解の過程を、初期中世から宗教改革期にいたるまでたどる。 授業ではとくに、中世における政治と宗教の相克を象徴的に示す教権と俗権の争いを中心に考察するが、同時に、このような対立を考察しながら、聖俗両方の統治機構や政治理念がいかに発展したか

についてもみていきたい。

授業の到達目標

中近世ヨーロッパ世界では、政治と宗教をめぐる対立と抗争の中から、新しい政治・国家・宗教の体制が生み出されたことを理解する。

。

成績評価方法

●**試験** 0% なし。
●**レポート** 60% 授業の内容に沿ったテーマを自分で設定しレポートを書いて提出する。
●**平常点** 40% 毎回、視聴することが出席点となる。
●**その他** 0% なし。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	西洋史特別研究2 スコットランド史							
担当者名	松園 伸							
西史コース	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

「イギリス史＝イングランド史」であった時代はもはや過去になりました。1960年代以降北海油田の成功もあって、スコットランドは経済的に自立できるとの確信を強め、1997年ついに自治議会の開会に成功しました。そして2014年にスコットランドの完全独立をめぐって住民投票が実施され、これは僅差で否決され連合王国残留が決まりました。しかし英国のEUからの離脱（Brexit）に多くのスコットランド人は不満であり、独立について再度住民投票が行われる可能性は十分にあります。

本講義は、激変するスコットランド状勢が歴史的にいかに生じたかを考察します。中心は近現代史に置かれますが、古代・中世についても触れます。

以下の授業計画で示された、古代、中世、近代、演題のバランスは、受講者の希望も聞きながら、若干変更する場合があります。

授業の到達目標

これまでイギリス史の中で傍流的な位置づけであったスコットランド史について深く学びます。

成績評価方法

●**試験** 0% 実施しない
●**レポート** 70% 期末レポートを課します。積極的に参考図書を読んでまとめたレポートを高く評価したいと思います。
●**平常点** 30% 毎回、授業後に簡単なレビューシートを提出してもらいます。
●**その他** 0% なし

科 目 名	西洋史概論1							
担当者名	甚野 尚志 他／井上 文則／貝原 伴寛／小森 宏美							
西史コース	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

ヨーロッパの古代から現代までの歴史の流れについて、4人の教員がそれぞれの専門の立場から概説を行います。内容はあくまで入門的なものですが、現在の西洋史研究の動向を反映した概説となります。これから西洋史を深く学びたい学生だけでなく、教養として西洋史の知識を身に付けたい学生にとっても受講して十分理解できる授業です。

授業の到達目標

ヨーロッパ史の古代から現代への歴史の流れを理解する。

成績評価方法

●**試験** 0% なし
●**レポート** 50% Waseda Moodleを使い、最後にレポートを提出する
●**平常点** 50% 動画を視聴する
●**その他** 0% なし

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	西洋史概論2 西洋近世・近現代史を鳥瞰する							
担当者名	小原 淳 他／高津 美和／中澤 達哉／松園 伸							
西史コース	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

西洋史学の対象は時代的にも地理的にも多岐にわたるので、この西洋史概論では、学生諸君に西洋史に対してできるだけ幅広い視野を養ってもらうことを目的に、西洋史専攻の教員8名が、古代から近現代まで、それぞれの専門分野を中心に講義する。とくに西洋史コースの2年生は是非とも履修することが望ましい。なお本年度西洋史概論2は、西洋近現代史が専門の、高津美和（イタリア史）、松園伸（イギリス近現代史）、中澤達哉（東欧史）、小原淳（ドイツ近現代史）が順次担当する。

授業の到達目標

西洋の近世から近現代に至る歴史についての全般的な知識と個別の諸問題についての考察方法を学ぶ。

成績評価方法

レポートを評価の70%、授業への参加度・リアクションペーパー・課題の評価などを30%とし、総合的に評価する

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	史学概論　歴史学方法論序説							
担当者名	中澤　達哉　他／井上　文則／甚野　尚志							
西史コース	２単位	春学期	無	フルOD	１年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

古代・中世・近代史家の事例を挙げつつ、歴史学の方法を検討する。
内訳：
第1回：オリエンテーション：歴史・歴史学・歴史叙述とはなにか（担当：中澤達哉）
第2～第5回：古代の歴史叙述（担当：井上文則）
第6～第9回：中世の歴史叙述（担当：甚野尚志）
第10～第14回：近代の歴史叙述（担当：中澤達哉）

授業の到達目標

「歴史とはなにか」「歴史学とはなにか」を主題としつつ、歴史を叙述することの意味を考える。歴史学の方法を学ぶ。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　70%　　授業内容に関するレポートを課す。
●**平常点**　30%　　授業への参加・取組み・リアクションペーパーを重視する。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	西洋史学発達史							
担当者名	小原　淳　他／今村　労／大森　北文／加藤　義明／蝶野　立彦							
西史コース	２単位	秋学期	無	フルOD	１年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

近代歴史学は、19世紀ドイツにおいて、歴史家レオポルト・フォン・ランケが創始した。しかし言うまでもなく、人間や社会の歩みを洞察し、記録し、解釈するという営みはランケのはるか前から行われてきたし、ランケ以降の歴史学にも紆余曲折があった。

本授業では、中世から現代にいたるまでの西洋歴史学の歩みを様々な観点から論じ、その特質を考える。本年度は、蝶野立彦（ドイツ近世史）、大森北文（ドイツ近代史）、今村労（ロシア近代史）、加藤義明（ドイツ近現代史）が順次担当する。

授業の到達目標

西洋史学の展開の過程とその背景にある歴史的事象についての知識を得るとともに、西洋史学の思考法を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　100%　　授業内容に関するレポートを作成する。
●**平常点**　0%　　なし。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	西洋史特論1　戦争と社会							
担当者名	松園　伸　他／赤松　道子／中園　恒明／早川　理穂／松原　俊文							
西史コース	２単位	春学期	無	フルOD	２年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

戦争によって社会や国家がどう変化するか、戦争はどのように記憶され、その記憶は社会にどのような影響を与えているか、あるいはある社会の戦争観などを、研究史も踏まえつつ、特定の戦争を取り上げながら論じていく。4人が講義を担当する。予定している順序と内容は下記のとおり。

（1）古代ローマの戦争と平和　　松原俊文
（2）フランス革命期の独裁と戦争　早川理穂
（3）ブラジルの「国民」形成と領土紛争：シスプラティナ問題とパラグアイ戦争　中園恒明
（4）戦争とロシア・ソ連社会　赤松道子

授業の到達目標

ヨーロッパ社会において、戦争やコンフリクトのもつ意味を再検討することで、講義を通じて、戦争が社会に与えた影響のほどを理解できるようにする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はしない
●**レポート**　70%　　授業内容に関するレポート作成
●**平常点**　30%　　出席状況
●**その他**　0%　　とくになし

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	西洋史特論2　近現代ドイツ史ードイツ史におけるナチズムを考えるー							
担当者名	紀　愛子							
西史コース	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	―	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

本講義では、近現代ドイツの歴史、特にナチ体制期の歴史を取り扱う。その際、通史的な理解だけでなく、ホロコースト、ナチズムにおける性、優生学など、回ごとに様々なトピックを扱いながら、一つの時代を多角的視点から捉えることを目指す。全14回の授業のうち、まず第2回～第5回において、ヴァイマル共和国期からナチ体制の崩壊までを通史的に概観する。その後、第6回～第12回の授業では、ユダヤ人、同性愛者、障害者など、ナチ政権による迫害の対象となった種々の集団に焦点を当てながら、それぞれの集団とナチ体制との関わりについて講義する。第13回では、迫害の対象とならなかったマジョリティの側に視点を移し、ナチ体制下における「普通の人びと」についても検討する。

＜※ 本講義は、全回「フルオンデマンド授業」にて実施する。詳細については、「備考欄」も参照のこと。＞

授業の到達目標

ナチ体制期の歴史についての基礎知識を習得するのはもちろんのこと、近現代ドイツ史や現代世界において、ナチズムの過去がどのような重要性を持つのかを理解できるようになることを目指す。さらに、歴史的事象を多角的視点から検討する姿勢を養う。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　60%　　学期末に、授業内容に関するレポートの提出を求める。レポートの課題内容については、第1回のオリエンテーションにて提示する。
●**平常点**　40%　　授業内で4回、講義内容に関する小課題の提出を求める（提出回は、第4回、第8回、第11回、第14回）。1回につき10点満点として採点し、平常点に加算する。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

本講義は、全回「フルオンデマンド授業（事前収録による動画配信）」にて実施します。 授業動画と資料を、毎週「木曜18時」に公開しますので、翌週の木曜18時までに受講してください。

科 目 名	西洋古代史　ユーラシア史の中のローマ帝国							
担当者名	井上　文則							
西史コース	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	―	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

ヨーロッパ古代史、あるいは地中海世界史として捉えられてきたローマ帝国史を、より広くユーラシアの歴史の中で再考し、新たなローマ帝国史像の構築を目指す。

授業の到達目標

本講義では、ローマ帝国史の基礎的な理解に加えて、広い視野で歴史を考える力を養うことを目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　60%　　学期末レポート
●**平常点**　40%　　レビューシート
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。

科 目 名	西洋中世史2　中世西欧の歴史的諸相							
担当者名	田中　史高　他／奥村　優子／出口　裕子							
西史コース	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	―	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

西欧中世史上の主要なトピックを、その回ごとに適宜取り上げます。今年度は専門的研究者3人（田中史高、奥村優子、出口裕子）による分担講義のかたちをとります。第1回から第7回までは田中（総論、中世中期・後期）、第8回から第11回まで奥村（中世初期）、第12回から最終回までを出口（中世中期・後期）がそれぞれ担当します。

授業の到達目標

この講義は、人類史上における西洋中世の重要性について認識を深め、グローバル世界で活動するための力、異文化地域としての西洋の歴史への理解と洞察力を深めることを目標としています。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はおこないません。
●**レポート**　50%　　学期末に西洋中世史についてレポートを提出してもらいます。
●**平常点**　50%　　出席状況、授業への取り組みを中心に評価します。
●**その他**　0%　　上記2項目により最終評価を出します。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	西欧史　スペインの現代史／内戦の背景							
担当者名	渡辺　雅哉							
西史コース	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】リアルタイム配信

授業概要

1936年から39年にかけて内戦の悲劇に見舞われたスペイン。21世紀の今日では、折からの内外の危機の深まりと相まって、1970年代半ばに始まった民主化の過程が問い直されているかにも見えるスペイン。そんなスペインについて、歴史的な視点からあれこれ考える。

授業の到達目標

ピレネーの南に関して、各人が歴史を踏まえたイメージを持つこと。考察の対象は、主として19世紀の初頭から内戦までの現代史。さまざまな側面を扱うが、特に19・20世紀のアンダルシアに目を向けてみることにしたい。「自由主義」をその看板に掲げる国民国家の形成へ向けてひとまずは「離陸」を果たしながらも、国民の共生には失敗したスペイン。1936年に勃発した内戦こそは、その端的な証しだった。この「兄弟殺し」の破局へとスペインがのめり込んでいったプロセスのなかに大土地所有制下のアンダルシアが占めた比重には、とりわけ大きなものがあったように思われる。

成績評価方法

割合　レポートその他の課題70%と授業へ取り組みの姿勢（授業中、あるいは授業後のメールを通じてのやり取り）30%の比率で評価する。課題の内容その他については授業中に指示する。

備考・関連URL

担当者が基礎疾患（糖尿病）を抱えているため、授業は同時配信のオンライン形式にて実施します（Collaborateを使用）。この点、あらかじめお詫びを申しあげておかないといけません。

科 目 名	近現代ロシア史　帝政ロシアの国家と社会							
担当者名	草野　佳矢子							
西史コース	2単位	春学期	水曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

1917年革命以前のロシアの政治文化の様相や社会構造を歴史的に考察する。＊文学部ディプロマ・ポリシー「人間・世界を深く探り、言語・文学・表現の本質を解明し、人間・社会を歴史的に究明する」、文化構想学部ディプロマシー「文化の様相と構造を解明し、表象の分析と文芸の創造に取り組み、人間と社会の本質に迫ることによって新しい時代にふさわしい文化を構想する」に関連。

主にロシア帝国の歴史を、特に国家と社会の関係や、統治制度改革、政治改革をめぐる問題に焦点を当てて論じる。関連する映像の視聴も適宜行う。

授業の到達目標

帝政崩壊までのロシア史の流れ、キエフ・ルーシ、モスクワ・ロシアの特徴、ロシア帝国成立後に関しては各皇帝の治世の概要や主要な事件・改革の内容、ロシア社会の特徴などについて、西ヨーロッパとの比較も含めて歴史的に説明できるようになる。

成績評価方法

期末レポート80%、リアクションペーパーの提出とその内容　20%。ただし、リアクションペーパーの提出が10回に満たない場合、成績評価の対象としません（しかるべき理由のある場合は考慮します）。

レポート、リアクションペーパーはwaseda Moodleに提出。

科 目 名	科学史　16～17世紀の西欧における「科学」と世界観の変化							
担当者名	山本　大丙							
西史コース	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

16～17世紀の地図には、実在しない場所が姿を見せることがある。アメリカ大陸を横断するアニアン海峡、北極の磁石山、北大西洋上の幻島フリスランド、これらは少なくとも一時期には地理学者によって実在が信じられていた。当時は、科学が大いに発展した時代でもある。地動説の登場、ケプラーの法則、新大陸への到達、それらは科学の発展に大いに貢献した。神話や伝説が残存し、かつキリスト教の力が強かった時代に、近代科学の基盤は形成されたのである。「科学」は時には伝説や宗教と対立し、時にはそれらと溶けあった。講義では、こうした背景を踏まえ、天文学史、地理学史、言語学史、キリスト教的タイムスケール（世界は聖書が示すように六千年前に神によって創造されたという考え方）をめぐる問題を取り上げ、近世における「科学」と宗教・伝説の複雑な関係に光を当ててゆきたい。

授業の到達目標

西欧近世における科学の発展、当時の「科学者」たちの世界観、キリスト教・伝説と科学の関連について学ぶ。

成績評価方法

●**試験**　50%
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%
●**その他**　0%

科 目 名	西洋史特別研究3　ソ連における政治権力							
担当者名	池田　嘉郎							
西史コース	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

帝政期および現代ロシアとの比較を視野に入れつつ、ソ連の政治権力の構造と動態について説明する。

授業の到達目標

ソ連史についての基本的な理解を習得する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%
●**平常点**　30%　　5回以上欠席した場合はそれだけで不合格とする
●**その他**　0%

科 目 名	**西洋史特別研究4**　ハンムラビ王による統合支配体制－古バビロニア時代の歴史的意義・世界最古の民営化社会と『ハンムラビ法典』－							
担当者名	川崎　康司							
西史コース	2単位	春学期	水曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

古代メソポタミア世界の支配者が頻繁に「法典」を編纂するようになったウル第三王朝成立（前三千年紀末）からバビロン第一王朝崩壊（前二千年紀中頃）に至る約500年の歴史を概観し、彼らが何故「法典」を布告するに至ったのかをこの時代に起こった社会経済史的な変革に焦点を当てて考察する。新たな大転換期を迎えた前二千年紀前半の社会を伝える代表的史料『ハンムラビ法典』の本質と各条項のもつ社会経済史上の意義を講義する。

バビロン市の王ハンムラビ（在位前1792～1750年）は古代メソポタミア史上3番目の統一国家を築き、新たな統治体制の指針として『ハンムラビ法典』（以下、法典）を編纂させた為政者として有名である。近年、彼の生きた時代は古代メソポタミア史のみならず人類史上の一大変革期であったことが明らかになり、また、最新の資料研究に基づく彼の事績に関する総括的な研究書も再び増えつつある。しかしながら、彼の事績研究において最大の史料であるはずの『法典』の特徴づけは未だ伝統的な法制史解釈に偏り、彼が目指した統合支配体制の実態解明には十分に活かされていないと考える。本講義は『法典』の内容理解を主題とするが、そのような見解に至る理由を明らかにするため、まずはその成立の背景となるウル第三王朝期から古バビロニア時代までの歴史の流れを詳述することから始めてみたい。その後、原文から邦訳した『ハンムラビ法典』を利用して、全280条あまりの法令と前文・跋文を受講者とともに系統的に分析しながら、その特徴と内容を理解していく。「目には目を」あるいは身分法的特徴という漠然とした（刑法）イメージで知られるこの歴史的な史料の持つ真の意味が、果たしてそうなのかを検証するとともに、それ以外の条項（訴訟法・土地制度法・債権法・商法・家族法・契約法）の真意を、様々な副次的史料（プリント配布予定）を活用しながら検討していく。講義の回数が短いため、全てを明らかにすることは難しいと思われるが、最終的には、当時の都市社会に起った社会的・政治的そして経済的変化と『法典』の各条項の相関性、そしてハンムラビの統一国家運営の理念を理解してもらいたい。

なお、本講義は原則として対面式で講義を行うものとする。

授業の到達目標

1．古代メソポタミア文明の世界で展開された歴史の概要とその特徴を知る。
2．古代世界の歴史的な展開とその特徴を具体的な史料から読み解くための思考法を修得し、古代史研究におけるより専門的な史料読解や史料批判の方法、
　専門研究に必須となる基礎知識や歴史用語を身につける。
3．最新の研究状況を知り、歴史研究におけるテーマの立て方や分析の仕方、レポートの作製法を学習する。
4．社会経済史研究の方法論を学ぶ。

成績評価方法

●**試験**　0%　　・試験は行わずレポートと平常点評価で採点します。
●**レポート**　70%　　・第14回目の講義日前後に最終レポートを作成・提出してもらいます（事務所提出）。
・レポート課題の詳細は、6月の授業中に詳細を提示します。
・本講義で身につけた知識から独自のテーマを導き出し、的確に探求しレポート出来るかを評価します。
・5月末締め切り（第7回）で簡単な「課題図書読後感想文」を提出してもらいます。
●**平常点**　30%　　・毎回出席を確認します。出席を評価の対象とします。
・毎回の講義前や講義中に質問や発言時間を設けます。積極的な質問や発言を評価します。
●**その他**　0%　　・平常の発言などを最終的な採点に加味します。

備考・関連URL

関連URL
http://www.oi.uchicago.edu/OI/DEPT/RA/ABZU-REGINDX-MESO.HTML（シカゴ大学オリエント研究所のホームアドレス・但し英文のみ）など。
備考
講義で使用するレジュメは毎回配布する予定なので、整理用にA4版ファイルを用意してください。

科 目 名	**西洋中世史1**　中世キリスト教世界とヨーロッパの形成							
担当者名	鈴木　喜晴							
西史コース	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

近代ヨーロッパは、17世紀以降の産業化、世俗的な市民社会形成を経つつも、いまなお中世のキリスト教世界から多くの遺産を受け継いでいます。この中世的な諸要素は、おおよそ11世紀までには明確な姿を現し、その後、現代の我々が「ヨーロッパ」と呼ぶ地域全体へと広がっていきました。授業ではこうした諸要素を多角的に分析し、受講者に重層的なヨーロッパ像を提示したいと思います。授業では特に、この時期から教皇と皇帝を軸として急速に発展した教会組織について論じ、その政治的・社会的様相について検討します。講義で扱う地理的範囲はイタリアを中心とした地中海世界と、フランスやドイツに該当するアルプス以北に限られますが、時間の許す範囲で他の地域とのかかわりについても触れていきます。

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。コンテンツの配信は週1回、水曜日（配信期間は1週間）を予定していますが、詳しくは開始時期に連絡します。

授業の到達目標

・ヨーロッパの成立・統合過程を前近代に遡って理解すること。
・中世キリスト教世界について一般的知見（学部レベルの教養、または西洋史コースの専門講義を理解するための予備知識）を得ること。
・教会組織が当時の社会に及ぼしていた影響力を理解すること。
・中世社会の秩序や人々の生活について当時の性質や現代との相違を理解すること。
・その他の諸問題についても、受講者自身が自ら知見を深めていくための足掛かりをつくること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　80%　　学期末に授業内容の理解度を確認するため、課題レポートを課します。
●**平常点**　20%　　コンテンツ視聴と視聴後にリアクションペーパーの提出を求めます。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	考古学概論　考古学の基礎と考え方を身に付ける							
担当者名	山崎　世理愛							
考古コース	2単位	春学期	土曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本講義では、考古学史や調査の流れ、考古学におけるものの見方を学ぶことで、考古学の基礎や考え方を身に付けます。広い視野で考古学を捉え理解を深めるため、国内外の具体的な例を用いながら解説します。さらに、文献史学など周辺領野との関係性やエンタメと考古学の過去・未来なども取り上げ、考古学という学問の役割や責任、立ち位置を考えます。講義形式で進めますが、コメントシートへの記入やWaseda Moodle上での議論など、受講者の皆さんから意見を求める機会を多く設け、それに対するフィードバックも行います。

授業は基本的に下記のように進めますが、回によって時間配分は多少変わります。

・導入（前回の復習・コメントシートへのフィードバック等）：10分
・当該回の方向性明示と目標設定：5分
・講義：70分／振り返り5分
・コメントシートへの記入：10分

授業の到達目標

考古学の学史や基礎的な学習を通して、現在の考古学への理解を深めることを最終目標とします。また、考古学的な考え方を身に付け、それをもとに自らの意見を言えるようになることを目指します。

成績評価方法

●**試験**　40%　　第14回目に理解度の確認として試験を実施します。授業内でフィードバックも行います。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　60%　　出席率、コメントシートの内容、Waseda Moodle上のコメント内容、授業への貢献度等を総合的に評価します。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

教員の経験を活かした具体例を入れて解説してほしいという声を踏まえ、国内に限らず海外も含めた例を豊富に用いる内容に改善しました。

科 目 名	日本考古学概説							
担当者名	長崎　潤一　他／城倉　正祥／中門　亮太							
考古コース	2単位	春学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フル（オンライン）フルオンデマンド

授業概要

発掘された遺跡・遺構、あるいは土中から出土する考古遺物を駆使して、人類が辿ってきた遥かな道のりを考究する学問が考古学である。本講義では、日本考古学、特に旧石器時代から古代までを対象とし、最新の発掘成果や最先端の研究成果を踏まえて各時代の特色を講義する。日本列島では、高度経済成長期に進んだ開発に伴う発掘調査によって、膨大な考古学的資料が蓄積されている。しかし、考古遺物の分析が精緻化するほど研究も細分化され、通時的な歴史像が描き難くなっているのもまた事実である。本講義では、人類がなぜ立ちあがり、狩猟・採集・漁労の時代を経て稲作へと進んだのか、そして巨大な古墳を作る時代から寺院・都城を造営する国家体制へと変貌を遂げていくのか、各時代の歴史的特色を明らかにする作業を通じて列島に生きた人々の営みとその道のりを通時的に描き出すことを目的とする。なお、本授業はフルオンデマンドで実施する。

授業の到達目標

本講義では、受講者が日本考古学に関する基礎的な知識を得ると同時に、列島における人々の営みを通時的に位置付ける視点を養うことを目標とする。

成績評価方法

オンデマンド授業の進展に合わせて小テストを課する。備考欄に記した見学レポートを課す場合がある。また、授業の最後には理解度を確認するための試験（またはレポート）を実施するが、実施方法についてはWaseda Moodleで通知するため、チェックすること。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。
学内博物館施設、展示施設、学外博物館などの見学レポートを課す場合がある。

科 目 名	世界の考古学　東南アジアの考古学							
担当者名	川島　秀義							
考古コース	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

東南アジアの考古学を中心に取り扱います。東南アジアは、熱帯モンスーン気候帯に属し、島嶼と大陸という大きな地理的・歴史的なまとまりをもっていますが、その歴史や文化は、現在の国境線でとらえることはできず、地域として理解する必要があります。また、その成り立ちを理解するためには、さらに広い地域まで視野に入れる必要があります。授業では、このような前提にたち、旧石器時代から初期国家の成立までを中心に、それぞれの地域での調査成果と定説、最新の解釈などについて講義します。また、東南アジアの世界文化遺産や民族考古学についても講義をします。

授業の到達目標

東南アジア地域の生態学的環境や歴史的脈絡を理解したうえで、代表的な時代区分、文化、遺跡、遺物、年代観などを身につけ、東南アジアの考古学を地域として俯瞰して理解できることを目標とします。

成績評価方法

出席（聴講）：割合30%・中間レポート：割合30%・最終レポート：割合40%で評価します。
中間レポートの課題は第7回目の授業で、最終レポートの課題は第14回目の授業で提示します。
それぞれ与えられた課題の内容を深く考察し、自身の意見を述べているかどうかを評価します。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。
受講の前に、利用環境等などについて、Moodleの学生向けマニュアルを熟読してから受講してください。とくに、ボタン押し忘れ等の操作ミスが多いです。操作には十分注意してください。
受講環境には十分注意してください。操作、エラーに関することは、教員ではなくヘルプデスクに問い合わせてください。

科 目 名	現代社会と考古学　現代社会における考古学の役割							
担当者名	小原　俊行							
考古コース	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

フルオンデマンドで行う。考古学は過去の歴史的な事象について扱う学問であるが、考古学の扱う『遺跡』は現代にまで残ってきた文化財（文化遺産）であり、この文化財としての『遺跡』は現代に属するものである。この授業ではこうした『遺跡』の有する現代的な意義について考える。

近年ではこうした『遺跡』は人類共通の遺産として世界遺産に登録されたり、文化遺産（文化資源）として観光にも活用されたり、地域で一定の役割を果たしている。一方で現代人の建設・開発行為によって日本でも多くの遺跡が失われてきたし、現在でも発掘された後にはほとんどの遺跡は壊される。こうした埋蔵文化財問題についても扱う。

また日本では考古学関連の報道が多く報道によって遺跡の保存の方向性が決まったりもする。考古学と報道の関係はある部分危ういし、ある部分は依存的である。また国家や地域住民のアイデンティティと遺跡が結びつく場合や、考古学的な解釈が国家に都合良い形で利用されてしまうことがある。こうした事例についても解説する。

●考古学についての専門知識を必要としないので、他学部の諸君の受講を歓迎する。

授業の到達目標

考古学が現代社会においてどのような役割を演じているのか理解できるレベルを目標とする。遺跡が語るメッセージを現代社会がどのように受けとめるのか、また文化資源としての遺跡の価値、考古学報道に対するリテラシーを養成する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　0%　　期末レポートは実施しない。
●**平常点**　90%　　動画を視聴し小テストに回答することで出席とし、小テストを成績評価の対象とする。10回以上の出席が必要である。なお小テストで過半数を取れていない場合、その回は動画を視聴していないとみなし欠席とするので注意して受験すること。
●**その他**　10%　　フォーラムへの書き込みは通常加点の対象としない。書き込みを義務としない。フォーラムにおいて優れた質問、コメントが書かれた場合のみ加点対象とする。また博物館見学課題を課した場合、レポートは加点対象とする。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。
講義と関連した、学内博物館、展示施設、学外博物館等の見学と見学レポートの提出を課する場合がある。
※　小テストの正答率が50%以下の場合、ビデオをしっかり視聴しないで小テストを受けたものとみなす（欠席扱いとするので注意）。
※　5回欠席（小テスト低得点の回を含む）すると、出席不良のため単位は与えられないので注意すること。

科 目 名	アジア考古学交流　東アジア古代都城の比較考古学							
担当者名	城倉　正祥							
考古コース	2単位	秋学期	金曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

多極化が進む現代社会において、東アジア各国の結び付きはますます深く、そして濃密になりつつある。しかし、歴史的にみれば、東アジア世界は常に相互に深い関係を保ちながら発展の道をたどってきた。特に、中国で隋唐帝国が出現する6-8世紀には、東アジア各国が中国の最先端の文化・文物を競って取りいれたことが知られる。都城と呼ばれる中国式の都市もその一つである。皇帝（天皇）の居住空間であると同時に政治・経済・行政の中枢である宮城と皇城、その周囲に整然と区画された碁盤目状の街区で構成される都市空間（里坊）、東アジア各国における都市の成立は、まさに唐帝国を模倣した中央集権体制の成立（日本の律令制など）と不可分の関係にある。本講義では、隋唐期に頂点を迎える都城という都市機能が中国においてどのように成

立し発展したか、そして隋唐期の都城がどのように東アジア各国に伝播し、各国の伝統と結びつきながら受容されたかを考古学の発掘成果に基づいて比較検討する。我々の地下に眠る古代都市の復原を通して、文献史学とは異なる角度から古代東アジアの国際交流を考えてみる。

授業の到達目標

本講は、考古学からみた古代東アジアの国際交流について理解を深めると同時に、受講者自身が東アジアの視点で歴史を捉える力をつけることを目標とする。レポートの作成を課題とする。

成績評価方法

●**試験** 0%　なし。
●**レポート** 30%　授業の内容を踏まえ、特定課題のレポートを義務づける。その内容により評価する。
●**平常点** 70%　授業への出席状況より評価する。
●**その他** 0%　なし。

科 目 名	文化財の保存と活用							
担当者名	中門　亮太							
考古コース	2単位	春学期	無	フルOD	3年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

文化財は、所在する地域の歴史や特色を色濃く反映しており、その重要性から「国民共有の財産」とも言われるが、それらを守り伝えていくためには、多くの人々の理解と協力が不可欠である。しかし、文化財の維持管理にかかる費用の問題をはじめ、人口減少や過疎化といった社会情勢、地震や豪雨といった自然災害など、文化財の保存と活用を取り巻く環境は、厳しい状況にある。近年は、インバウンド需要の増加もあり、文化財には観光資源としての期待も寄せられているが、こと文化財においては、適切な活用は適切な保存があってこそである。 本講義では、文化財の保存と活用に関わる歴史や様々な制度、実践例を紹介するとともに、その沿革や過去の社会情勢にも目を向けることで、我が国が文化財の保存と活用にどのように取り組んできたのかを学ぶ。

なお、本授業はフルオンデマンドで実施する。

授業の到達目標

日本における文化材の保存と活用の歴史、制度、今日的な課題などを理解することを目指す。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40%　期末レポートを課します。レポート作成にあたっては、各自で国指定史跡・名勝等の見学をしてもらいます。レポートテーマの詳細については、Waseda Moodle上で指示します。
●**平常点** 60%　各回で動画の理解度を確認するための小テストを設けます。小テストの正解が半分に満たない場合は、動画をきちんと見ていないとみなし、欠席扱いとなります。

動画は、視聴期間を設定するので、期間内に必ず視聴・小テストの回答をしてください。制限期間外の視聴はできません。

各回にレビューシートを設定するので、質問や感想はそちらに書き込んでください。ただし、質問や感想の提出は必須ではありません。

●**その他** 0%

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	原始古代の社会と宗教（アジア）							
担当者名	深山　絵実梨　他／中門　亮太							
考古コース	2単位	秋学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

アジア地域における宗教と社会について、日本および東南アジアの考古学から解き明かす。特に先史時代から古代にかけての社会動態は前近代の基層社会を形成しただけに重要視される。当時の文化と社会が大きく宗教的側面との関わりで形成され、その変化に際しても大きな影響力をもっただけに、当時の精神世界を詳しく検討する必要がある。講義では日本と東南アジアの原始古代に光を当てて、原始信仰や成立宗教などとがどのように影響を及ぼしながら社会を形成したのかについて、考古学の立場から遺跡、遺構、遺物の実態を解明する。

授業の到達目標

考古学を通じて原始古代の文化と社会について、宗教的側面から理解することに努める。特に現代の日本社会、東南アジアの社会とは相当に異なる側面が明らかにされるが、なぜそのように理解されるのか、理論と宗教的論理に基づいて理解できるようにする。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 50%　期末レポートを課す。
●**平常点** 50%　出席点を評価する。
●**その他** 0%　なし。

備考・関連URL

前半（中門担当回）、後半（深山担当回）ともに、オンデマンドで実施する。新型コロナウイルス感染症流行によっては、大学の行動指針に伴う授業形態やスケジュールの変更がありうるが、そうした場合はMoodle上でアナウンスする。

科 目 名	原始古代の社会と宗教（エジプト・マヤ） マヤとエジプトの考古学							
担当者名	寺崎　秀一郎　他／山崎　世理愛							
考古コース	２単位	春学期	月曜日	２時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

考古学研究は物質文化を通じて、過去に存在した社会の復元を目指すことを原則としているが、人類の営為のすべてが物質的残滓として、現在を生きる私たちの前に存在するとは限らない。むしろ、多くの情報はすでに失われてしまっていることも多い。そこで、物質文化＝考古資料を手がかりに、遠い過去に暮らした人びとが何を考え、どのような社会に生きていたのかを解き明かしていくことが必要となる。本講義では、考古学の手法をもとに宗教や信仰などの精神文化を含む過去の社会の“実像”を描き出す。本年度は、前半にマヤ文明について、後半にエジプト文明に関する講義をおこなう。

授業の到達目標

時間的空間的に遠く隔たったマヤとエジプトを比較し、人類社会の多様性と普遍性について考えられることが目標である。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　期末レポートを課す。詳細は教場で指示する。
●**平常点**　50%　　出席（備考参照）、受講態度等から総合的に判断し採点する。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

毎回の授業後に受講生はWaseda Moodle上のフォーラム機能を活用し、講義内容に関する意見や質問等を記入すること。フォーラムへの投稿をもって出席とする。

科 目 名	環境と考古学　環境考古学の基礎を学ぶ							
担当者名	馬場　匡浩							
考古コース	２単位	秋学期	金曜日	２時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

考古学では、主に土器や石器などの遺物、住居址や墓などの遺構から過去を復元する。しかし、遺物や遺構からだけでは十分に理解することができない。人は自らが生活する周辺の自然環境に適応または改変する中で必要に応じて様々なものをつくりだす。つまり、遺物や遺構と自然環境をあわせて考えることではじめて過去社会の具体像を理解することができる。また、人類史の大きな流れをみても地球環境の影響は少なくない。人が文化を創出する環境の基盤を明らかにし、さらに人と環境の相互関係を考える学問が環境考古学である。

本講義では、まず環境考古学を学ぶ意義について述べたうえで、過去の自然環境や人間の動植物資源利用を復元する基礎的な方法について説明する。そして後半では、古代文明と環境の関係を扱う。

授業の到達目標

考古学を学ぶうえで必要となる基礎的な環境考古学の知識を身につけ、環境史を学ぶ意義を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　50%　　授業後半に課すレポート（1回）の内容を評価する。
●**平常点**　50%　　出席状況および授業における積極性を重視する。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	考古学方法論　考古学の基礎知識・方法論							
担当者名	杉山　洋							
考古コース	２単位	秋学期	無	フルOD	２年以上	—	合併科目	フル［オンライン］フルオンデマンド

授業概要

考古学の研究を進めていく上で必須となる研究方法や研究手法を紹介し、習熟してもらうことを目的とします。

授業の到達目標

紹介した研究方法や研究手法を用いて、自ら決めた研究課題に当該の方法や手段を適切に応用して研究を進めていけることを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　30%　　講義の途中で適宜レポートの提出を求めます
●**平常点**　70%　　オンデマンドコンテンツの視聴を出席として評価します
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	文化財行政学　文化財保護の制度と行政							
担当者名	御堂島　正							
考古コース	２単位	春学期	土曜日	１時限	３年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

わが国における文化財保護制度と行政の実務について基礎的な知識が身につくよう、文化財保護の基本的事項や各種文化財の保護制度について、文化財保護法をもとに、できるだけわかりやすく解説する。

【実務経験のある教員による授業科目】

※この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

授業の到達目標

わが国の文化財保護の制度と行政実務、課題を理解することができる。

地方公共団体等の文化財専門職員として必要な基本的知識を得ることができる。
文化財保護法の意義や専門用語を説明できる。
各種文化財の保護の手法について説明できる。

成績評価方法

●**試験**　40%　　第14回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を対面で行う（試験の解説も同時間内に行う。）。
●**レポート**　0%
●**平常点**　10%　　授業に対する取り組み姿勢（積極的な発言や質問、受講態度など）を評価する。
●**その他**　50%　　第1・13・14回を除き、基本的に毎回の授業後にMoodleでのリアクションペーパーの提出を求める。リアクションペーパーの内容により評価する。リアクションペーパーへの記載事項は、①授業の概要、②授業内容に関する質問・意見・感想等とする。

備考・関連URL

授業資料は、Waseda Moodleに掲示する予定。リアクションペーパーは、様式を提示するので、それに記述する。
リアクションペーパーに記された質問に対する回答及び試験の解説は授業時間内に行う。

科目名	野外考古学概論　野外調査の実際と考古学の研究プロセス							
担当者名	土屋　隆史							
考古コース	2単位	秋学期	月曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

考古学は物質資料から、過去人類を研究する学問である。本講義では、考古学が基盤とする野外調査の実際を紹介する。野外調査は研究対象となる資料を収集するための手段であり、遺跡の発掘調査、測量調査、踏査などがある。これらの調査からどのように研究を進めていくか、担当者が実施してきた天皇陵古墳の調査事例などを中心に、説明する。

また、野外調査によって収集された「モノ」すなわち「遺物」や、過去の調査記録の資料調査も、考古学の主要な研究手段である。資料調査を通した古墳時代の研究プロセスについて、担当者が実施してきた日本と海外での調査事例を中心に、説明する。

【実務経験のある教員による授業科目】
※この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

授業の到達目標

1. 考古学における野外調査の重要性についての理解を深める。
2. 野外調査によって収集された資料からどのように過去人類を研究するのか、考古学の研究に対するイメージを固める。
3. 本講義でとりあげる具体的事例と、受講者各自の関心領域とを関連づけることができる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　予定しない。
●**レポート**　70%　　自身で野外調査を実践できたかを重視する。
●**平常点**　30%　　出席状況および受講態度（レスポンスペーパーの内容）による。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

本講義は基本的に対面形式で実施しますが、数回はオンデマンドになる可能性があります。

科目名	理論考古学　先史考古学の理論形成史							
担当者名	佐藤　宏之							
考古コース	2単位	春学期	木曜日	4時限	3年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

科学としての考古学は、対象としての考古資料とそれを説明し解釈するための理論の体系によって構成されている。近代考古学は他の近代科学同様19世紀後半の西欧で確立するが、成立の系譜の異なりから、大きく古典考古学と先史考古学に二分される。本講義では、主として先史考古学を対象とし、先史考古学成立前後の理論形成を概観したのち、旧石器考古学の進展に焦点を絞り、諸理論の発展とその研究の現状について講義する。考古学を理解し実践していくためには、その根拠となる考古学理論およびその理論間の関係を理解することが重要となる。講義では、代表的な考古学や周辺科学の理論を紹介しながら、その時々の社会の思潮と密接に関連して考古学理論が展開してきたことに注目したい。

授業の到達目標

講義を通して考古学理論の基礎を習得することを期待したい。

成績評価方法

●**試験**　80%　　第14回目の授業期間中に試験を実施し、理解度の確認を行う。
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　20%　　授業への出席を評価する。
●**その他**　0%　　特になし

科目名	考古学と関連科学　A　ヒトはいかにしてヒトになったか							
担当者名	藤田　尚							
考古コース	2単位	春学期	火曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

われわれ人類は霊長類に属し、いわゆるサルと近縁であることは誰しも知っているであろう。初期人類の定義は確立しているわけではないが、二足歩行を始めた時点を多くの人類学者は基準としており、700万年ほども前に、二足歩行をする初期人類が存在していた。したがって人類の歴史は、700万年前ごろまで遡ることができる。高校や中学の教科書で習ったアウストラロピテクスは400万年ほど前に、ホモ・エレクトスは200万年ほど前に出現した。我々ホモ・サピエンス（現生人類）はわずか20−30万年前にアフリカで誕生したと考えられている。このように人類の進化史を概観すると、我々ホモ・サピエンスの出

現は、地球の歴史上もごく最近の出来事である。しかし、ホモ・サピエンスは文化・文明を発達形成させ、現在のような高度な社会を作り上げた。

本講義では、人類の進化史を学習するとともに、過去のわれわれの祖先から学ぶべきことを講義し、現代社会と自然人類学の接点を考えてもらいたい。欧米では、考古学の専攻者は自然人類学を必ず学習しているが、文系理系と別れたわが国では、自然人類学を学ばずに巣立つ考古学研究者も多い。受講生諸君には、自然人類学の基礎知識と面白さを是非本講義を通じて学んでほしい。遺物であれ遺構であれ、それは我々の祖先のホモ・サピエンスが作ったものである。ホモ・サピエンスのことを理解することは、考古学専攻者にとって必須であることを銘記し、今後の学習に役立たせてほしい。

授業の到達目標

人類進化の概要とホモ・サピエンスの生物学的・社会的特徴を理解する。そのことから、これからの社会を担う諸君らが、どう生きどのような社会を創っていくことが必要か、まで考えて欲しい。

成績評価方法

●**試験**　100%　　試験は筆記試験とし、詳細は後半の授業で指示する。100点満点とし、その点数を授業の評価（成績）とする。
●**レポート**　0%　　特に課さないが、必要によって1、2回のレポートを課す場合がある。
●**平常点**　0%　　平常点は特に評価しない。
●**その他**　0%　　プラスαとして出席点30%＊

備考・関連URL

＊出席点はありませんが、毎回出席を取ります。2/3以上の出席が無い受講生は試験を受けられないので、注意をお願いします。また、各種事情で欠席の場合、適切な方法で（交通機関の場合「支援証明書」、体調不良の場合「診断書・医療機関の領収書」など）教員に申し出てください。その場合の欠席は考慮します。

科 目 名	考古学と関連科学　B							
担当者名	佐々木　由香　他／小林　謙一／下岡　順直／樋泉　岳二							
考古コース	2単位	春学期	土曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

遺跡の発掘調査で出土する様々な自然遺物は、動植物遺体から石材、炭化物など多様なものからなっており、それらは年代や文化、社会を探る上で重要な情報源となる。自然遺物をどのように扱い、そこからどのような情報を引き出すかは専門的な知識と技術を必要とする。講義では、年代、植物遺体、動物遺体、火山灰編年学等について、それぞれの専門研究者が実際の資料をもとに、方法論、分析法、解釈の仕方などについて講義する。

【実務経験のある教員による授業科目】

※この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

授業の到達目標

考古学研究における関連科学の知識・技術の必要性び関連科学を援用した研究方法・成果を理解できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　80%　　試験またはレポート（各担当者ごとに課す評価を合計する）80%、試験・レポートの別は、講義の際に各担当者が指示する。なお、4名の担当者による理解確認の課題評価を、それぞれ受けなければ成績評価されないので注意されたい。
●**レポート**　0%　　-
●**平常点**　20%　　出席8割以上を必要とする。
●**その他**　0%　　-

科 目 名	中東・イスラーム研究入門							
担当者名	佐藤　尚平							
イスコース	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

この講義は、中東やイスラームについてこれから本格的に学ぼうとする方を対象としています。中級レベルの授業であり、基礎的な知識を確認した上で、様々な分析視角を検討し、将来的に卒業論文や卒業研究に取り組むための基礎を養います。可能な範囲でモノや映像・音声等を紹介します。授業全体を通じて、地球規模で人と情報が複雑に絡み合う現代社会を生き抜くための幅広い教養をもった人材を育成することを目指します。

授業の到達目標

中東地域とイスラームについて基礎的な知識を得ること。その上で、自分の関心に応じて調査する方法について学ぶこと。さらに、各テーマについて、既存の研究を踏まえつつ複数の視角から検討する批判的な思考力を養うこと。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はありません。
●**レポート**　80%　　レポートの提出期限と詳細については授業内で案内します。
●**平常点**　20%　　各回のコメントの積極性や授業全体への貢献を評価します。
●**その他**　0%　　その他は特に想定していませんが、変更があった場合には授業内で通知します。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。
暴力や性にかかわる内容や表現を扱うことがあります。
授業の進捗状況や受講者の関心・状況に応じて、授業計画を適宜変更することがあります。

科 目 名	中東・イスラーム基礎研究　スーフィズム概論							
担当者名	丸山　大介							
イスコース	2単位	秋学期	金曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本講義は、スーフィズム（イスラーム神秘主義）を軸に、イスラームにおける神と人との関係、一神教的世界観と預言者・聖者の存在、儀礼と集団などに焦点を当てる。具体的には、スーフィズムがなぜ成立し、どのような経緯を経てイスラーム思想における重要な位置付けを有するようになったのか、スーフィズムがいかに社会に浸透していったのかについて検討しながら、スーフィズムの思想的・社会的意義を考察する。

授業の到達目標

①スーフィズム（イスラーム神秘主義）の成立から発展までの経緯を説明できるようになる。
②イスラームにおける神と人、そして社会の関係を考察するための基本的な視座を身に付ける。
③スーフィズムの社会への浸透につい理解し、イスラーム思想と社会との関係を理解する。
②イスラームにおける神と人、そして社会の関係を考察するための基本的な視座を身に付ける。

成績評価方法

●**試験**　50%　　授業で論じた内容に関する筆記試験を実施する。
●**レポート**　30%　　授業時に課す小レポート（3回）の内容を評価する。
●**平常点**　20%　　授業中にご提出いただくリアクション・ペーパーの内容で評価する。
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	中東・イスラーム前近代史　前近代のアラブ・イスラーム史							
担当者名	五十嵐　大介							
イスコース	2単位	春学期	火曜日	1時限	3年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本講義は、文学部の中東・イスラーム研究コースの3年時必修講義であり、本コースの学生が専門的な知識を深め、中東・イスラーム研究を体系的に深く学び、時代の波に翻弄されることなく、確かな視点から人間の本質にアプローチするために必要な学力を会得することを目的とします。7世紀のイスラーム共同体の成立と発展は、人類社会の政治・社会・文化の多方面に大きな影響をもたらした、世界史上の重要な事件であった。本講義では、前近代イスラーム時代の中東・西アジアの歴史を学びます。

授業の到達目標

・中東地域におけるイスラームの成立と発展の歴史を理解するとともに、その特徴を理解し、説明できるようになる。
・前近代イスラーム史の重要テーマについて、その特徴を理解し、説明できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　70%　　理解度の確認の回に試験を実施します。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　30%　　毎回の授業終了後、コメントペーパーを提出してもらいます。また、テキスト講読の課題を出すこともあります。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	ポストコロニアル思想文化論　思想としてのパレスチナ							
担当者名	岡　真理							
イスコース	2単位	秋学期	火曜日	4時限	3年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

2023年10月7日、ハマース主導によるガザのパレスチナ人戦闘員が、イスラエル領内に越境奇襲攻撃を敢行、これに対するイスラエルの報復によって、ガザのパレスチナ人は、以後、15か月以上にわたり、ジェノサイドと呼ぶべき大量殺戮と大量破壊に見舞われることとなりました。10月7日の攻撃はなぜ、起きたのか。それは、イスラエル政府が世界に喧伝したような、イスラーム原理主義組織ハマスの反ユダヤ主義による残忍なテロなのか、ガザとは何なのか、パレスチナ問題と呼ばれる問題の根源とは何なのか。日本では、国際政治の枠組みで論じられることの多いパレスチナ問題ですが、本授業では、映画や文学作品などを通して、現代世界に生きる人間の思想的課題として、《パレスチナ》とは何か、それが私たちに提起するものとは何かを、東アジアの歴史的、今日的状況との往還のなかで考えます。

授業の到達目標

・パレスチナ問題の Root Cause（根っこにある原因）を理解する。
・ポストコロニアルの視座から、世界の歴史と現代世界、人間の生を理解する。
・近現代における世界の歴史のなかにパレスチナを位置づけ、東アジアにおける日本の近現代史との連関のなかで、これを理解する。
・現代世界に生きる世界市民のひとりとして、自分のなすべき課題を見つける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　70%　　授業を通して、さまざまな問いを提起します。授業中にそれについて議論したり、その週の課題として課したりするものもありますが、そうでないものもあります。それら一連の問いのなかから、自分自身で取り組むべき、「思想としてのパレスチナ」の問いを見つけて、論じてください。
●**平常点**　30%　　毎回、出席をとります。また、ほぼ毎回、課題を課します。授業および課題に真摯に取り組んでいるかどうかを評価します。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	イラン・トルコ研究　イランとトルコの立憲政							
担当者名	長谷部　圭彦							
イスコース	2単位	春学期	木曜日	5時限	3年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本講義では、イランとトルコの歴史について、とくに立憲政に焦点をあてて検討する。講義の都合上、トルコから扱う。トルコ共和国（1923-）の歴史的前提であるオスマン帝国（ca.1300-1922）の支配組織やナショナリズムなどについて概観した後、オスマン帝国憲法（1876）およびトルコ共和国憲法（1924）を実際に講読する。同様に、イラン・イスラーム共和国（1979-）の歴史的前提であるサファヴィー朝（1501-1736）やガージャール朝（1796-1925）などについて概観した後、イラン憲法（1906-07）およびイラン・イスラーム共和国憲法（1979）を実際に講読する。教員による講義を主としつつ、受講生による読解とグループワークも適宜実施する。上記の四憲法は日本語訳を配布するので、トルコ語（オスマン語）やペルシア語を習得している必要はない。

授業の到達目標

イランとトルコについて、歴史的な背景を踏まえて理解し、それを論理的な文章で表現できること。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　40%　　本学の基準に基づく。とくに以下の「生成AIなどの利用について」を参照すること。
https://www.waseda.jp/top/news/89507

●**平常点**　60%　　毎回質問用紙を配布するので、講義に関する質問・意見・感想等を記入してほしい。それらには、翌週可能な限り回答する。

●**その他**　0%

講義

科 目 名	南・東南アジアやアフリカのムスリム社会　東南アジアにおけるイスラームの展開							
担当者名	土佐林　慶太							
イスコース	2単位	秋学期	火曜日	3時限	3年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

世界の国別でムスリム人口の多い国を見ると、約2億3000万人のムスリム人口を持つインドネシア共和国が世界第1位、パキスタン・イスラム共和国が第2位、インド共和国が第3位となっている。東南アジアと南アジアの国々が上位3カ国を占めており、これらの地域に多くのムスリムが暮らしていることがわかる。本講義では、世界最大のムスリム人口を抱えるインドネシア（1942年まではオランダ領東インド）の事例を中心に、東南アジアにおけるイスラームの受容と展開を歴史的に検討する。特に、19世紀以降の東南アジア・ムスリムの動向について、1）広いイスラーム世界と現地社会、2）植民地支配とムスリム、3）民族主義運動とイスラーム、4）イスラーム指導者の4点から考察する。

授業の到達目標

東南アジア・ムスリムの歴史について、基礎的な知識を習得する。同地の秩序原理とイスラームが現地社会において、どのように接合し、展開されてきたかを考える。その上で、受講生が、現地社会やムスリムと接する時に、本授業で得た知識や視点を通して、より多角的に考えられるようになることを目指す。

成績評価方法

●**試験**　60%　　第14回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います（試験の解説も同時間内に行います）。

●**レポート**　0%

●**平常点**　40%　　授業への出席と、配布する用紙に記述された授業内容へのリスポンスを評価対象にします。

●**その他**　0%

備考・関連URL

・性や暴力にかかわる内容・表現を扱うことがあります。
・状況に応じて一部の回をオンラインで行うことがあります。
・授業の進捗状況や受講者の関心・状況に応じて、授業計画を適宜変更することがあります。

科 目 名	アラブ文化研究1　―アラブを知り、アラブを通して世界を見る―							
担当者名	師岡　カリーマ・エルサムニー							
イスコース	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

「アラブ」と聞いて真っ先に浮かぶイメージは？「石油」、「砂漠」、「イスラーム」、「テロ」、「戦争」・・・でもこれらは、時にメディアなどによって作られたイメージであり、アラブ世界の一面しか語りません。アラブの人々は、何を創り、何を食べ、どのような言葉で語り、何に感動したり涙したり笑ったりするのか。彼らは世界をどのように見つめているのか。アラブ人の視点に立った時、見えてくる世界とは？このコースでは、アラブの詩、文学、映画、芸能、風俗、生活習慣に触れ、メディアからは見えてこないアラブ人の真の姿に迫ります。

授業の到達目標

アラブ・イスラーム世界に対して皆さんが持っているステレオタイプから脱却することが第一の目的です。そこから出発し、アラブのみならず、あらゆる事柄についてメディアの報道などを鵜呑みにせず、自らの想像力と探求力で世界を知り、理解する「批判的な目」を育んでほしいと思います。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。

●**レポート**　60%　　期末レポートとして、なるべく全講義を網羅するような形で、また各自の学びと考えも絡めて総括し、提出してもらいます。アングルは自由ですが、「アラブを知り、理解する上で、イスラームというファクターとどのように向き合うべきか」というテーマを含むようにしてください。

●**平常点**　40%　　ディスカッションに積極的に参加してください。出席回数もここに含まれます。

何週間かに1度、授業の最後にリアクション・ペーパーを提出してもらいます。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	アラブ文化研究2　―アラブを知り、アラブを通して世界を見る―							
担当者名	師岡　カリーマ・エルサムニー							
イスコース	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	―	合併科目	フル【対面】

授業概要
「アラブ」と聞いて真っ先に浮かぶイメージは？「石油」、「砂漠」、「イスラーム」、「テロ」、「戦争」・・・でもこれらは、時にメディアなどによって作られたイメージであり、アラブ世界の一面しか語りません。アラブの人々は、何を創り、何を食べ、どのような言葉で語り、何に感動したり涙したり笑ったりするのか。彼らは世界をどのように見つめているのか。アラブ人の視点に立った時、見えてくる世界とは？このコースでは、アラブの詩、文学、映画、芸能、風俗、生活習慣に触れ、メディアからは見えてこないアラブ人の真の姿に迫ります。

授業の到達目標
アラブ・イスラーム世界に対して皆さんが持っているステレオタイプから脱却することが第一の目的です。そこから出発し、アラブのみならず、あらゆる事柄についてメディアの報道などを鵜呑みにせず、自らの想像力と探求力で世界を知り、理解する「批判的な目」を育んでほしいと思います。

成績評価方法
●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　60%　　授業を総括する期末レポート。アングルは自由ですが、全講義を網羅し、各自の学びや考えを絡めて、アラブの文化について書いてください。
●**平常点**　40%　　ディスカッションに積極的に参加してください。出席回数もここに含まれます。
数週間に1度、リアクション・ペーパーを提出してもらいます。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	中東・イスラームの宗教と思想1　イスラーム思想論1							
担当者名	小林　春夫							
イスコース	2単位	春学期	金曜日	3時限	2年以上	―	合併科目	フル【対面】

授業概要
イスラームについての基礎知識を確認しながら、思想や学問にかんするやや専門的な内容について考察する。

授業の到達目標
イスラーム思想の多面性について正確に理解する。

成績評価方法
●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　60%　　期末レポート。講義内容を踏まえ、発展的な内容になっていることを評価する。
●**平常点**　40%　　授業への積極的参加を評価する。また毎回のリアクションペーパーにより内容の理解度を確認する。
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	中東・イスラームの宗教と思想2　イスラーム思想論2							
担当者名	小林　春夫							
イスコース	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	―	合併科目	フル【対面】

授業概要
イスラーム思想史の諸問題について、やや専門的に考察する。

授業の到達目標
イスラーム思想の特徴について多角的な理解を深める。

成績評価方法
●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　50%　　講義を踏まえ発展的な内容になっていることを評価する
●**平常点**　30%　　毎回リアクションペーパーの提出を求め、講義内容の理解度を確認する
●**その他**　20%　　関連資料を提示し、読解力を評価する

科 目 名	中東の移民とイスラームの拡大　在日ムスリムの社会学							
担当者名	子島　進							
イスコース	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	―	合併科目	フル【対面】

授業概要
本講義では、日本で暮らすムスリム、とりわけ大塚モスクに集う人々の生活の諸側面について取り扱う。2000年に東京都豊島区南大塚に開設されて以来、大塚モスクは在日ムスリムのリーダー的な役割を果たしてきた。その活動は国内外でのボランティア活動、宗教教育と幼稚園・インターナショナルスクールの創設、ハラール認証、墓地の確保、メディアを通じての広報的役割など多彩である。これらの活動を、イスラーム実践の根幹である五行と結び付けながら説明していくこととする。また、海外のムスリム移民コミュニティとの比較を通じて、在日ムスリムの特徴（ならびに他のコミュニティとの共通点）を明らかにしていく。

授業の到達目標
在日ムスリムの生活を、イスラーム実践の根幹である五行と結び付けながら説明することができる。

成績評価方法

●**試験**　80%　　講義目標に十分到達している場合は90%以上、基本的な概念や論理をおおむね理解していると見られる場合は80%以上、部分的な理解に留まる場合は70%以上、講義理解の努力が認められない場合はそれ未満とする。講義内容の基本を把握せず、あるいは出席を著しく欠く場合は50点未満とする。

●**レポート**　0%　　特になし。

●**平常点**　20%　　講義中の積極的な発言を評価する。

●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

特になし。

科 目 名	中東・イスラームの社会研究　ジェンダーをめぐる諸問題							
担当者名	村上　薫							
イスコース	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

日本では中東やそこに暮らすイスラーム教徒（ムスリム）について、女性に抑圧的な文化をことさらに強調し、一面的にとらえる、歪んだ見方が存在してきた。本講義では、トルコを中心に中東地域におけるジェンダーにまつわる諸事象を解説するとともに、様々な制度や現象をジェンダーの視点から検討し、同地域の多角的な理解につなげる。具体的には、歴史的背景、社会文化的要因、政治経済的要因がジェンダー秩序やジェンダー規範に与える影響を考察するとともに、地域ごとのジェンダーに関する政策や運動にも触れる。

授業の到達目標

中東地域におけるジェンダー状況について基本的な知識を得る。ジェンダーの視点をとおして社会を見る方法を身につける。

成績評価方法

●**試験**　60%　　第14回で理解度の確認を行う。

●**レポート**　0%　　なし。イレギュラーの小レポート等を課した場合は平常点に含める。

●**平常点**　40%　　授業後に毎回コメントの提出を求めます。

●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

受講者と協議のうえ、臨機応変に進めます。対面授業です。

科 目 名	中東・イスラームの政治経済							
担当者名	保坂　修司							
イスコース	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

現代中東地域、とくにアラビア半島の政治・経済について歴史的流れを含め、概観します。

授業の到達目標

現代の中東地域の政治・経済体制について包括的な知識を身につけ、それによって、現代中東で起きているさまざまな事象を、日本へのインプリケーションを含め、より深く理解できるようにします。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　50%　　テーマは講義で取り上げたもの、できるかぎり1次資料を使用する。

●**平常点**　50%　　出席と授業中の積極度（発言等）。

●**その他**　0%

科 目 名	中東・イスラームの芸術と文学　イスラーム世界の文学と造形芸術～イラン、イラク、エジプトを中心とした文学・美術史							
担当者名	小林　一枝							
イスコース	2単位	秋学期	水曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

講義実施方法

教室での対面講義10回、オンデマンド動画講義 4回、合計14回

初回のガイダンスはオンデマンド動画。基本的にコース最後の部分はオンデマンド動画講義にする予定（インターネットを利用し海外の図書館所蔵の画像データベースを参照しながら考察していくため）。 また、教室内で一度紙や画材のプチ展示とカリグラフィーの小規模ワークショップを実施予定

＊講義内容やスケジュールの詳細は初回のガイダンスにて公表する。

講義内容

サウジアラビア政府は2024年、日本の「ドラゴンボール」のアニメを主題としたテーマパークを建設すると発表した。サウジアラビアのみならず、中東では日本他のコミックやアニメの人気は高い。一方で、イスラームの教義から人間や天使、動物などの造形表現の禁忌は広く知られている。伝統的なイスラーム美術で人間や動物は描かれなかったのか？

今学期は、物語の視覚化を大きなテーマとして、『アラビアン・ナイト』と、イランの民族叙事詩である『王書（シャー・ナーメ）』という2つの文学作品を主に取り上げる。その中でイラク、シリア、エジプトを中心としたアラブ美術、および中央アジアやムガル時代のインドを含むペルシア語文化圏の芸術と文学（テキスト）の視覚化を中心に概説していく。本の芸術のみならず、建築や工芸の装飾にも物語は表されている。したがって、絵画だけではなく、建築や工芸の基礎知識も講義内容に含まれる。また、時事問題であるイスラエル紛争と「神殿の丘」の問題もイスラーム美術史最初の作品である岩のドームの問題と併せて考察する。

授業の到達目標

最近の研究は、細分化された各国美術史を扱うことが多いが、本コースでは地域・時代を超えて偏在するイスラーム美術の特質を理解することを第一義とする。

生物描写の禁忌の実態やその影響を、イラン・イラクを中心とした東方イスラーム世界における建築装飾や工芸の絵付け、絵画を概観することによって考察し、学期末には各自が問題意識をもってレポートを作成する。

また、ミクロの絵画芸術である写本挿絵は、文学とも密接な関連をもつので、挿絵史を通してアラブ・ペルシア文学に親しみ、視覚芸術と併せて基礎知識を習得することを目標とする。同時に、絵画化された代表的な文学作品『マカーマート』『カリーラとディムナ』『王書』を素材とし、それらの考察に必要な海外の美術館・図書館の画像データベースのアクセス方法や利用方法を学び、それに習熟することも本コースの目標の一つである。

成績評価方法

［評価方法に2024年からの変更あり］

積極的な授業参加点　　10点

学期末レポート　　50点

授業時間内に実施する理解度確認小テスト（本年度は、1－2回のみ実施。各回10分程度）　　40%

＊受験時ワークシート参照可能。正誤問題、選択肢のある問題が中心。数行程度の記述式問題も含む

備考・関連URL

授業形態は、ハイブリッド。教室で対面講義とオンデマンド動画による講義の両方

オンデマンドの場合、講義ビデオや講義資料などは、本来の講義時間に公開開始。

講義日の前日に「ワークシート(PPTスライドの簡略版PDF)」、参考資料などは、Moodle上にアップロードする。講師側では印刷しないので各自、事前に準備すること。「ワークシート」は空欄穴埋め式になっており、講義を受講することで全部が埋まるように構成されている。空欄部分は重要なキーワードとなるので各回の要点がこれによって明白となる。

教室での対面､オンデマンド動画による講義ともに出席は講義中にMoodleで行うのでネットに接続できるスマホ､タブレット､PCなどの通信機器の持参は必須。

［2024年度との変更点］

今学期は理解度確認小テストは毎回は実施しない。学期中に1-2度、10分程度で受験できるワークシートの参照が可能な小テストを授業時間内に実施する。講義内容や評価方法については初回のガイダンスにて、詳細を伝達する。

また、学期末に講義内容に関連した課題のレポート（2000字－3000字程度）を提出してもらう。

＊講義内容に大きな変更はないが、今後の状況に応じて細かな変更はありえる。登録学生の希望があれば美術館見学会を実施する。

科 目 名	中東・イスラームのフィールドワーク							
担当者名	砂井　紫里							
イスコース	2単位	秋学期	火曜日	2時限	2年以上	―	合併科目	フル【対面】

授業概要

本科目では、フィールドワークとは何か、その意義や実践手法、データ分析・考察、調査倫理などについて概説する。事例としてアジアのイスラームを対象としたフィールドワークを紹介しながら、フィールドワークの意義と課題を考える。 履修者は各自ミニ課題を行い、少人数のチームで意見交換をする。

調査企画（可能であれば調査報告を含めて）を成果物としてまとめ発表し、意見交換を通してブラッシュアップする。

授業の到達目標

1）フィールドワークの基本概念、手法、意義と課題を理解し、自分のことばで説明できる。

2）みずからテーマを設定し、文献調査を踏まえた調査を計画、準備することができる。

3）一次資料、二次資料を分析・考察し、その成果をまとめわかりやすく他者に説明することができる。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　60%　　内容を示す適切なタイトル、語句の正確な使用、引用・出典の明示、比較や多角的な視点、学生同士の意見交換・相互評価を踏まえたプレゼンテーション資料からのアップデートなどの観点についてルーブリック評価を行う。

●**平常点**　40%　　毎回のミニッツペーパー、ミニ課題等の提出状況、発表資料および相互評価の内容ほか。

●**その他**　0%

備考・関連URL

履修人数、進捗状況に応じて授業計画の順番や内容の一部を変更する可能性がある。

講 義 内 容

選　択　英　語

科 目 名	Academic Skills (Writing) Ms A							
担当者名	J. チャールズ							
英語	2単位	春学期	月曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン]リアルタイム配信

授業概要

This course will develop intermediate writing skills for students in academic writing in English.
[CEFR level C1]

授業の到達目標

Structuring essay types.
Writing powerful introductions.
Evaluating sources.
Using academic language.

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40% There will be 4 written assignments graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active online class participation will be assessed.
●**その他** 0%

備考・関連URL

All classes will be conducted online in real time.

科 目 名	Academic Skills (Writing) Ms B							
担当者名	D. J. ウェブスター							
英語	2単位	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン]リアルタイム配信

授業概要

This course will develop intermediate writing skills for students in academic writing in English.
[CEFR level C1]

授業の到達目標

Structuring essay types.
Writing powerful introductions.
Evaluating sources.
Using academic language.

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40% There will be 4 written assignments graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active online class participation will be assessed.
●**その他** 0%

備考・関連URL

All classes will be conducted online in real time.

科 目 名	Academic Skills (Writing) Ms C							
担当者名	馬　玉晶							
英語	2単位	春学期	火曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン]リアルタイム配信

授業概要

This course will develop intermediate writing skills for students in academic writing in English.
[CEFR level C1]

授業の到達目標

Structuring essay types.
Writing powerful introductions.
Evaluating sources.
Using academic language.

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40% There will be 4 written assignments graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active online class participation will be assessed.
●**その他** 0%

備考・関連URL

All classes will be conducted online in real time.

科 目 名	Academic Skills (Writing) Ms D							
担当者名	斎藤　寿葉							
英語	2単位	春学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン]リアルタイム配信

授業概要

This course will develop intermediate writing skills for students in academic writing in English.
[CEFR level C1]

授業の到達目標

Structuring essay types.
Writing powerful introductions.
Evaluating sources.
Using academic language.

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　There will be 4 written assignments graded as part of the final grade.
●**平常点**　60%　　Active online class participation will be assessed.
●**その他**　0%

備考・関連URL

All classes will be conducted online in real time.

科 目 名	Academic Skills (Writing) Ms E							
担当者名	榊原　春水							
英語	2単位	春学期	木曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン]リアルタイム配信

授業概要

This course will develop intermediate writing skills for students in academic writing in English.
[CEFR level C1]

授業の到達目標

Structuring essay types.
Writing powerful introductions.
Evaluating sources.
Using academic language.

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　There will be 4 written assignments graded as part of the final grade.
●**平常点**　60%　　Active online class participation will be assessed.
●**その他**　0%

備考・関連URL

All classes will be conducted online in real time.

科 目 名	Academic Skills (Writing) Ms F							
担当者名	P. R. マッキネス							
英語	2単位	春学期	木曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン]リアルタイム配信

授業概要

This course will develop intermediate writing skills for students in academic writing in English.
[CEFR level C1]

授業の到達目標

Structuring essay types.
Writing powerful introductions.
Evaluating sources.
Using academic language.

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　There will be 4 written assignments graded as part of the final grade.
●**平常点**　60%　　Active online class participation will be assessed.
●**その他**　0%

備考・関連URL

All classes will be conducted online in real time.

科 目 名	Academic Skills (Writing) Ms G							
担当者名	塚本　瑞香							
英語	2単位	春学期	木曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン]リアルタイム配信

授業概要

This course will develop intermediate writing skills for students in academic writing in English.
[CEFR level C1]

授業の到達目標

Structuring essay types.
Writing powerful introductions.
Evaluating sources.
Using academic language.

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　40%　　There will be 4 written assignments graded as part of the final grade.
●**平常点**　60%　　Active online class participation will be assessed.
●**その他**　0%

備考・関連URL
All classes will be conducted online in real time.

科 目 名	Academic Skills (Writing) Ms H							
担当者名	P. R. マッキネス							
英語	2単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン]リアルタイム配信

授業概要
This course will develop intermediate writing skills for students in academic writing in English.
[CEFR level C1]

授業の到達目標
Structuring essay types.
Writing powerful introductions.
Evaluating sources.
Using academic language.

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　There will be 4 written assignments graded as part of the final grade.
●**平常点**　60%　　Active online class participation will be assessed.
●**その他**　0%

備考・関連URL
All classes will be conducted online in real time.

科 目 名	Academic Skills (Writing) Ms I							
担当者名	柳下　恵美							
英語	2単位	春学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン]リアルタイム配信

授業概要
This course will develop intermediate writing skills for students in academic writing in English.
[CEFR level C1]

授業の到達目標
Structuring essay types.
Writing powerful introductions.
Evaluating sources.
Using academic language.

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　There will be 4 written assignments graded as part of the final grade.
●**平常点**　60%　　Active online class participation will be assessed.
●**その他**　0%

備考・関連URL
All classes will be conducted online in real time.

科 目 名	Academic Skills (Writing) Ms J							
担当者名	阿部　敬子							
英語	2単位	春学期	水曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン]リアルタイム配信

授業概要
This course will develop intermediate writing skills for students in academic writing in English.
[CEFR level C1]

授業の到達目標
Structuring essay types.
Writing powerful introductions.
Evaluating sources.
Using academic language.

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　There will be 4 written assignments graded as part of the final grade.
●**平常点**　60%　　Active online class participation will be assessed.
●**その他**　0%

備考・関連URL
All classes will be conducted online in real time.

科 目 名	Academic Skills (Writing) Ms K							
担当者名	J. チャールズ							
英語	2単位	春学期	金曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン]リアルタイム配信

授業概要

This course will develop intermediate writing skills for students in academic writing in English.
[CEFR level C1]

授業の到達目標

Structuring essay types.
Writing powerful introductions.
Evaluating sources.
Using academic language.

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40% There will be 4 written assignments graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active online class participation will be assessed.
●**その他** 0%

備考・関連URL

All classes will be conducted online in real time.

科 目 名	Academic Skills (Writing) Mf A							
担当者名	J. チャールズ							
英語	2単位	秋学期	月曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン]リアルタイム配信

授業概要

This course in academic writing is suitable for intermediate writers. The course will focus on paragraph writing.
[CEFR level B1-B1+]

授業の到達目標

Develop skills in constructing paragraphs
Learn functions, grammar and mechanics of academic writing
Learn different types of paragraph: descriptive, listing, opinion

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40% 4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active online class participation will be assessed.
●**その他** 0%

備考・関連URL

All classes will be conducted online in real time.

科 目 名	Academic Skills (Writing) Mf B							
担当者名	D. J. ウェブスター							
英語	2単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン]リアルタイム配信

授業概要

This course in academic writing is suitable for intermediate writers. The course will focus on paragraph writing.
[CEFR level B1-B1+]

授業の到達目標

Develop skills in constructing paragraphs
Learn functions, grammar and mechanics of academic writing
Learn different types of paragraph: descriptive, listing, opinion

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40% 4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active online class participation will be assessed.
●**その他** 0%

備考・関連URL

All classes will be conducted online in real time.

科 目 名	Academic Skills (Writing) Mf C							
担当者名	馬 玉晶							
英語	2単位	秋学期	火曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン]リアルタイム配信

授業概要

This course in academic writing is suitable for intermediate writers. The course will focus on paragraph writing.
[CEFR level B1-B1+]

授業の到達目標

Develop skills in constructing paragraphs

Learn functions, grammar and mechanics of academic writing
Learn different types of paragraph: descriptive, listing, opinion

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40% 4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active online class participation will be assessed.
●**その他** 0%

備考・関連URL

All classes will be conducted online in real time.

科 目 名	Academic Skills (Writing) Mf D							
担当者名	斎藤 寿葉							
英語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン]リアルタイム配信

授業概要

This course in academic writing is suitable for intermediate writers. The course will focus on paragraph writing. [CEFR level B1-B1+]

授業の到達目標

Develop skills in constructing paragraphs
Learn functions, grammar and mechanics of academic writing
Learn different types of paragraph: descriptive, listing, opinion

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40% 4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active online class participation will be assessed.
●**その他** 0%

備考・関連URL

All classes will be conducted online in real time.

科 目 名	Academic Skills (Writing) Mf E							
担当者名	榊原 春水							
英語	2単位	秋学期	木曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン]リアルタイム配信

授業概要

This course in academic writing is suitable for intermediate writers. The course will focus on paragraph writing. [CEFR level B1-B1+]

授業の到達目標

Develop skills in constructing paragraphs
Learn functions, grammar and mechanics of academic writing
Learn different types of paragraph: descriptive, listing, opinion

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40% 4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active online class participation will be assessed.
●**その他** 0%

備考・関連URL

All classes will be conducted online in real time.

科 目 名	Academic Skills (Writing) Mf F							
担当者名	P. R. マッキネス							
英語	2単位	秋学期	木曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン]リアルタイム配信

授業概要

This course in academic writing is suitable for intermediate writers. The course will focus on paragraph writing. [CEFR level B1-B1+]

授業の到達目標

Develop skills in constructing paragraphs
Learn functions, grammar and mechanics of academic writing
Learn different types of paragraph: descriptive, listing, opinion

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40% 4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active online class participation will be assessed.
●**その他** 0%

備考・関連URL

All classes will be conducted online in real time.

科 目 名	Academic Skills (Writing) Mf G							
担当者名	塚本　瑞香							
英語	2単位	秋学期	木曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン]リアルタイム配信

授業概要

This course in academic writing is suitable for intermediate writers. The course will focus on paragraph writing. [CEFR level B1-B1+]

授業の到達目標

Develop skills in constructing paragraphs
Learn functions, grammar and mechanics of academic writing
Learn different types of paragraph: descriptive, listing, opinion

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点**　60%　Active online class participation will be assessed.
●**その他**　0%

備考・関連URL

All classes will be conducted online in real time.

科 目 名	Academic Skills (Writing) Mf H							
担当者名	P. R. マッキネス							
英語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン]リアルタイム配信

授業概要

This course in academic writing is suitable for intermediate writers. The course will focus on paragraph writing. [CEFR level B1-B1+]

授業の到達目標

Develop skills in constructing paragraphs
Learn functions, grammar and mechanics of academic writing
Learn different types of paragraph: descriptive, listing, opinion

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点**　60%　Active online class participation will be assessed.
●**その他**　0%

備考・関連URL

All classes will be conducted online in real time.

科 目 名	Academic Skills (Writing) Mf I							
担当者名	柳下　恵美							
英語	2単位	秋学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン]リアルタイム配信

授業概要

This course in academic writing is suitable for intermediate writers. The course will focus on paragraph writing. [CEFR level B1-B1+]

授業の到達目標

Develop skills in constructing paragraphs
Learn functions, grammar and mechanics of academic writing
Learn different types of paragraph: descriptive, listing, opinion

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点**　60%　Active online class participation will be assessed.
●**その他**　0%

備考・関連URL

All classes will be conducted online in real time.

科 目 名	Academic Skills (Writing) Mf J							
担当者名	阿部　敬子							
英語	2単位	秋学期	水曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン]リアルタイム配信

授業概要

This course in academic writing is suitable for intermediate writers. The course will focus on paragraph writing. [CEFR level B1-B1+]

授業の到達目標

Develop skills in constructing paragraphs
Learn functions, grammar and mechanics of academic writing

Learn different types of paragraph: descriptive, listing, opinion

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40% 4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active online class participation will be assessed.
●**その他** 0%

備考・関連URL

All classes will be conducted online in real time.

科 目 名	Academic Skills (Writing) Mf K							
担当者名	J. チャールズ							
英語	2単位	秋学期	金曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン]リアルタイム配信

授業概要

This course in academic writing is suitable for intermediate writers. The course will focus on paragraph writing.
[CEFR level B1-B1+]

授業の到達目標

Develop skills in constructing paragraphs
Learn functions, grammar and mechanics of academic writing
Learn different types of paragraph: descriptive, listing, opinion

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40% 4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active online class participation will be assessed.
●**その他** 0%

備考・関連URL

All classes will be conducted online in real time.

科 目 名	Academic Skills (Writing) Mf L							
担当者名	馬 玉晶							
英語	2単位	秋学期	火曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン]リアルタイム配信

授業概要

This course in academic writing is suitable for intermediate writers. The course will focus on paragraph writing.
[CEFR level B1-B1+]

授業の到達目標

Develop skills in constructing paragraphs
Learn functions, grammar and mechanics of academic writing
Learn different types of paragraph: descriptive, listing, opinion

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40% 4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active online class participation will be assessed.
●**その他** 0%

備考・関連URL

All classes will be conducted online in real time.

科 目 名	Academic Skills (Writing) Us A							
担当者名	D. J. ウェブスター							
英語	2単位	春学期	火曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン]リアルタイム配信

授業概要

This course will develop upper-intermediate and advanced writing skills for students in academic writing in English.
[CEFR level C2]

授業の到達目標

Developing logical paragraphs
Paraphrasing, summarizing, and quotation
Writing strong, descriptive sentences
Using intensifiers and transitional words and phrases

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40% There will be 4 written assignments graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active online class participation will be assessed.
●**その他** 0%

備考・関連URL

All classes will be conducted online in real time

科 目 名	Academic Skills (Writing) Us B							
担当者名	カーリン　オマール							
英語	2単位	春学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン]リアルタイム配信

授業概要

This course will develop upper-intermediate and advanced writing skills for students in academic writing in English.
[CEFR level C2]

授業の到達目標

Developing logical paragraphs
Paraphrasing, summarizing, and quotation
Writing strong, descriptive sentences
Using intensifiers and transitional words and phrases

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　There will be 4 written assignments graded as part of the final grade.
●**平常点**　60%　Active online class participation will be assessed.
●**その他**　0%

備考・関連URL

All classes will be conducted online in real time

科 目 名	Academic Skills (Writing) Us C							
担当者名	デルヴェッキオ　アンソニー							
英語	2単位	春学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン]リアルタイム配信

授業概要

This course will develop upper-intermediate and advanced writing skills for students in academic writing in English.
[CEFR level C2]

授業の到達目標

Developing logical paragraphs
Paraphrasing, summarizing, and quotation
Writing strong, descriptive sentences
Using intensifiers and transitional words and phrases

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　There will be 4 written assignments graded as part of the final grade.
●**平常点**　60%　Active online class participation will be assessed.
●**その他**　0%

備考・関連URL

All classes will be conducted online in real time

科 目 名	Academic Skills (Writing) Us D							
担当者名	カラン　ポール							
英語	2単位	春学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン]リアルタイム配信

授業概要

This course will develop upper-intermediate and advanced writing skills for students in academic writing in English.
[CEFR level C2]

授業の到達目標

Developing logical paragraphs
Paraphrasing, summarizing, and quotation
Writing strong, descriptive sentences
Using intensifiers and transitional words and phrases

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　There will be 4 written assignments graded as part of the final grade.
●**平常点**　60%　Active online class participation will be assessed.
●**その他**　0%

備考・関連URL

All classes will be conducted online in real time

科 目 名	Academic Skills (Writing) Uf A							
担当者名	D. J. ウェブスター							
英語	2単位	秋学期	火曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン]リアルタイム配信

授業概要

This course in academic writing is suitable for higher level, upper-intermediate writers. The course will focus on essay writing.
[CEFR level B1-B2]

授業の到達目標

Develop skills in creating and organizing essays
Acquire high-level academic vocabulary
Develop skills in editing writing

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40% 4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active online class participation will be assessed.
●**その他** 0%

備考・関連URL

All classes will be conducted online in real time.

科 目 名	Academic Skills (Writing) Uf B							
担当者名	カーリン　オマール							
英語	2単位	秋学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン]リアルタイム配信

授業概要

This course in academic writing is suitable for higher level, upper-intermediate writers. The course will focus on essay writing.
[CEFR level B1-B2]

授業の到達目標

Develop skills in creating and organizing essays
Acquire high-level academic vocabulary
Develop skills in editing writing

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40% 4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active online class participation will be assessed.
●**その他** 0%

備考・関連URL

All classes will be conducted online in real time.

科 目 名	Academic Skills (Writing) Uf C							
担当者名	デルヴェッキオ　アンソニー							
英語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン]リアルタイム配信

授業概要

This course in academic writing is suitable for higher level, upper-intermediate writers. The course will focus on essay writing.
[CEFR level B1-B2]

授業の到達目標

Develop skills in creating and organizing essays
Acquire high-level academic vocabulary
Develop skills in editing writing

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40% 4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active online class participation will be assessed.
●**その他** 0%

備考・関連URL

All classes will be conducted online in real time.

科 目 名	Academic Skills (Writing) Uf D							
担当者名	カラン　ポール							
英語	2単位	秋学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン]リアルタイム配信

授業概要

This course in academic writing is suitable for higher level, upper-intermediate writers. The course will focus on essay writing.

[CEFR level B1-B2]

授業の到達目標

Develop skills in creating and organizing essays
Acquire high-level academic vocabulary
Develop skills in editing writing

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40% 4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active online class participation will be assessed.
●**その他** 0%

備考・関連ＵＲＬ

All classes will be conducted online in real time.

科 目 名	Academic Skills (Reading) Ms A							
担当者名	阿部　敬子							
英語	２単位	春学期	月曜日	５時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for intermediate students.
[CEFR level B1-B2]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験** 30% 2 written tests, each worth 15 points
●**レポート** 0%
●**平常点** 70% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Ms B							
担当者名	斎藤　寿葉							
英語	２単位	春学期	月曜日	５時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for intermediate students.
[CEFR level B1-B2]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験** 30% 2 written tests, each worth 15 points
●**レポート** 0%
●**平常点** 70% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Ms C							
担当者名	棚橋　サンドラ							
英語	２単位	春学期	火曜日	４時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for intermediate students.
[CEFR level B1-B2]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験** 30% 2 written tests, each worth 15 points
●**レポート** 0%

●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Ms D							
担当者名	鈴木　貴子							
英語	2単位	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for intermediate students.
[CEFR level B1-B2]

授業の到達目標
Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法
●**試験**　30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Ms E							
担当者名	赤間　勇雄							
英語	2単位	春学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for intermediate students.
[CEFR level B1-B2]

授業の到達目標
Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法
●**試験**　30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Ms F							
担当者名	榊原　春水							
英語	2単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for intermediate students.
[CEFR level B1-B2]

授業の到達目標
Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法
●**試験**　30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Ms G							
担当者名	赤間　勇雄							
英語	2単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for intermediate students.
[CEFR level B1-B2]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験** 30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Ms H							
担当者名	鈴木　貴子							
英語	2単位	春学期	金曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for intermediate students.
[CEFR level B1-B2]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験** 30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Ms I							
担当者名	柳下　恵美							
英語	2単位	春学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for intermediate students.
[CEFR level B1-B2]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験** 30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Mf A							
担当者名	阿部　敬子							
英語	2単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for intermediate students.
[CEFR level B2]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between comparison and contrast
Understand use of metaphors

成績評価方法

●**試験** 30%　2 written tests, each worth 15 points.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active class participation will be assessed.

●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Mf B							
担当者名	斎藤　寿葉							
英語	2単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for intermediate students.
[CEFR level B2]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between comparison and contrast
Understand use of metaphors

成績評価方法

●**試験**　30%　2 written tests, each worth 15 points.
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Mf C							
担当者名	棚橋　サンドラ							
英語	2単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for intermediate students.
[CEFR level B2]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between comparison and contrast
Understand use of metaphors

成績評価方法

●**試験**　30%　2 written tests, each worth 15 points.
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Mf D							
担当者名	鈴木　貴子							
英語	2単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for intermediate students.
[CEFR level B2]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between comparison and contrast
Understand use of metaphors

成績評価方法

●**試験**　30%　2 written tests, each worth 15 points.
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Mf E							
担当者名	赤間　勇雄							
英語	2単位	秋学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for intermediate students.
[CEFR level B2]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between comparison and contrast
Understand use of metaphors

成績評価方法

●**試験** 30%　2 written tests, each worth 15 points.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Mf F							
担当者名	榊原　春水							
英語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for intermediate students.
[CEFR level B2]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between comparison and contrast
Understand use of metaphors

成績評価方法

●**試験** 30%　2 written tests, each worth 15 points.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Mf G							
担当者名	赤間　勇雄							
英語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for intermediate students.
[CEFR level B2]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between comparison and contrast
Understand use of metaphors

成績評価方法

●**試験** 30%　2 written tests, each worth 15 points.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Mf H							
担当者名	鈴木　貴子							
英語	2単位	秋学期	金曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for intermediate students.
[CEFR level B2]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between comparison and contrast
Understand use of metaphors

成績評価方法

●**試験** 30%　2 written tests, each worth 15 points.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active class participation will be assessed.

●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Us A							
担当者名	J. チャールズ							
英語	2単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for upper-intermediate students. [CEFR Level B2-C1]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験**　30%　2 written tests, each worth 15 points.
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Us B							
担当者名	小林　亜紀子							
英語	2単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for upper-intermediate students. [CEFR Level B2-C1]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験**　30%　2 written tests, each worth 15 points.
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Us C							
担当者名	カラン　ポール							
英語	2単位	春学期	金曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for upper-intermediate students. [CEFR Level B2-C1]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験**　30%　2 written tests, each worth 15 points.
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Us D							
担当者名	J. チャールズ							
英語	2単位	春学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for upper-intermediate students. [CEFR Level B2-C1]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験** 30%　2 written tests, each worth 15 points.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Uf A							
担当者名	J. チャールズ							
英語	2単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for upper-intermediate students.
[CEFR level C1]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between causes and effects
Understand use of analogies

成績評価方法

●**試験** 30%　2 written tests, each worth 15 points.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Uf B							
担当者名	小林　亜紀子							
英語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for upper-intermediate students.
[CEFR level C1]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between causes and effects
Understand use of analogies

成績評価方法

●**試験** 30%　2 written tests, each worth 15 points.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Uf C							
担当者名	カラン　ポール							
英語	2単位	秋学期	金曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for upper-intermediate students.
[CEFR level C1]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between causes and effects
Understand use of analogies

成績評価方法

●**試験** 30%　2 written tests, each worth 15 points.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active class participation will be assessed.

●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Uf D							
担当者名	J. チャールズ							
英語	2単位	秋学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for upper-intermediate students.
[CEFR level C1]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between causes and effects
Understand use of analogies

成績評価方法

●**試験**　30%　2 written tests, each worth 15 points.
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Ms A							
担当者名	中尾　照代							
英語	2単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.
[CEFR level B1]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing.

成績評価方法

●**試験**　30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Ms B							
担当者名	赤間　勇雄							
英語	2単位	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.
[CEFR level B1]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing.

成績評価方法

●**試験**　30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Ms C							
担当者名	鈴木　貴子							
英語	2単位	春学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and

discussion. This course is for intermediate students.
［CEFR level B1］

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing.

成績評価方法

●**試験** 30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Ms D							
担当者名	阿部　敬子							
英語	2単位	春学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.
［CEFR level B1］

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing.

成績評価方法

●**試験** 30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Ms E							
担当者名	赤間　勇雄							
英語	2単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.
［CEFR level B1］

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing.

成績評価方法

●**試験** 30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Ms F							
担当者名	ローソン　アンドリュー							
英語	2単位	春学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.
［CEFR level B1］

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials

Note-taking and reviewing.

成績評価方法

●**試験** 30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Ms G							
担当者名	鈴木　貴子							
英語	2単位	春学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.
[CEFR level B1]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing.

成績評価方法

●**試験** 30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Ms H							
担当者名	ローソン　アンドリュー							
英語	2単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.
[CEFR level B1]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing.

成績評価方法

●**試験** 30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Ms I							
担当者名	デルヴェッキオ　アンソニー							
英語	2単位	春学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.
[CEFR level B1]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing.

成績評価方法

●**試験** 30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Ms J							
担当者名	柳下　恵美							
英語	2単位	春学期	金曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.
[CEFR level B1]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing.

成績評価方法

●**試験**　30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Mf A							
担当者名	中尾　照代							
英語	2単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.
[CEFR level B1]

授業の到達目標

Develop listening skills
Develop note-taking skills
Develop academic discussion skills
Develop presentation skills

成績評価方法

●**試験**　30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Mf B							
担当者名	赤間　勇雄							
英語	2単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.
[CEFR level B1]

授業の到達目標

Develop listening skills
Develop note-taking skills
Develop academic discussion skills
Develop presentation skills

成績評価方法

●**試験**　30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Mf C							
担当者名	鈴木　貴子							
英語	2単位	秋学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.
[CEFR level B1]

授業の到達目標

Develop listening skills
Develop note-taking skills
Develop academic discussion skills
Develop presentation skills

成績評価方法

●**試験** 30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Mf D							
担当者名	阿部　敬子							
英語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.
[CEFR level B1]

授業の到達目標

Develop listening skills
Develop note-taking skills
Develop academic discussion skills
Develop presentation skills

成績評価方法

●**試験** 30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Mf E							
担当者名	赤間　勇雄							
英語	2単位	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.
[CEFR level B1]

授業の到達目標

Develop listening skills
Develop note-taking skills
Develop academic discussion skills
Develop presentation skills

成績評価方法

●**試験** 30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Mf F							
担当者名	ローソン　アンドリュー							
英語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.
[CEFR level B1]

授業の到達目標

Develop listening skills
Develop note-taking skills
Develop academic discussion skills
Develop presentation skills

成績評価方法

●**試験** 30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Mf G							
担当者名	鈴木　貴子							
英語	2単位	秋学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.
[CEFR level B1]

授業の到達目標

Develop listening skills
Develop note-taking skills
Develop academic discussion skills
Develop presentation skills

成績評価方法

●**試験**　30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Mf H							
担当者名	ローソン　アンドリュー							
英語	2単位	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.
[CEFR level B1]

授業の到達目標

Develop listening skills
Develop note-taking skills
Develop academic discussion skills
Develop presentation skills

成績評価方法

●**試験**　30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Mf I							
担当者名	デルヴェッキオ　アンソニー							
英語	2単位	秋学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.
[CEFR level B1]

授業の到達目標

Develop listening skills
Develop note-taking skills
Develop academic discussion skills
Develop presentation skills

成績評価方法

●**試験**　30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Us A							
担当者名	ローソン　アンドリュー							
英語	2単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for upper-intermediate students.
[CEFR level B2]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills

Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing

成績評価方法

●**試験** 30% Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70% Active participation will be expected for each class.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Us B							
担当者名	馬　玉晶							
英語	2単位	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for upper-intermediate students.
[CEFR level B2]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing

成績評価方法

●**試験** 30% Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70% Active participation will be expected for each class.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Us C							
担当者名	小林　亜紀子							
英語	2単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for upper-intermediate students.
[CEFR level B2]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing

成績評価方法

●**試験** 30% Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70% Active participation will be expected for each class.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Us D							
担当者名	デルヴェッキオ　アンソニー							
英語	2単位	春学期	金曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for upper-intermediate students.
[CEFR level B2]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing

成績評価方法

●**試験** 30% Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0%

●**平常点**　70%　　Active participation will be expected for each class.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Uf A							
担当者名	ローソン　アンドリュー							
英語	2単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for upper-intermediate students.
[CEFR level B2]

授業の到達目標

Develop listening skills
Develop note-taking skills
Develop academic discussion skills
Develop presentation skills

成績評価方法

●**試験**　30%　　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　　Active participation will be expected for each class.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Uf B							
担当者名	馬　玉晶							
英語	2単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for upper-intermediate students.
[CEFR level B2]

授業の到達目標

Develop listening skills
Develop note-taking skills
Develop academic discussion skills
Develop presentation skills

成績評価方法

●**試験**　30%　　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　　Active participation will be expected for each class.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Uf C							
担当者名	小林　亜紀子							
英語	2単位	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for upper-intermediate students.
[CEFR level B2]

授業の到達目標

Develop listening skills
Develop note-taking skills
Develop academic discussion skills
Develop presentation skills

成績評価方法

●**試験**　30%　　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　　Active participation will be expected for each class.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Uf D							
担当者名	デルヴェッキオ　アンソニー							
英語	2単位	秋学期	金曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for upper-intermediate students.

[CEFR level B2]

授業の到達目標

Develop listening skills
Develop note-taking skills
Develop academic discussion skills
Develop presentation skills

成績評価方法

●**試験** 30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他** 0%

科 目 名	Intensive Studies 2 (Philosophy 2) Exploring Aristotle's Nicomachean Ethics							
担当者名	リーブズ　クリストファー							
英語	2単位	秋学期	金曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

【注意】 この授業は英語で行うもので、母語話者なみの英語力を前提としている。各回の宿題は英文20-30ページ程度。英語に自信のない学生は履修することをご遠慮ください。

NOTE: This course will be taught exclusively in English, for which reason students are required to have more-or-less native-like English ability. Homework for each session will be about 30-40 pages of English reading. Students who are not confident in their English ability should refrain from registering for this course.)

This course will be dedicated to a close, sincere reading and discussion of Aristotle's *Nicomachean Ethics*, going through the text book by book. There are a total of ten books in this work, each book being about 20 pages long, so we will need at least 10 sessions to get through the whole thing together. We will read the text via the 1941 English-language translation by W. D. Ross. We will NOT be reading anything in Greek. Absolutely NO knowledge of either Aristotle of any Greek philosophy is required. I will assume, for the sake of this course, that no one has ever read any philosophy, and that everyone is approaching this material for the very first time.

READ BEFORE REGISTERING: Be sure to carefully read over the attached document, found under 関連資料 (below), entitled "The Aim of Education & Important Classroom Practices (Reeves revised 3.1.2025)." You will be expected to have understood the content of this document before coming to class.

授業の到達目標

Students will, I hope, come away from this course with an appreciation of the profound depth and moving beauty of Aristotle's views on perennial ethical questions. A close, careful, sincere reading of his Nicomachean Ethics is sure to give you a foundation upon which to establish your own position in relation to some of these questions--questions, it should be noted, which are still as pertinent today as they were more than 2500 years ago..

成績評価方法

As the attached document indicates, you will be evaluated primarily on your in-class oral performance. This means that your preparation before each session, along with your active participation in class, namely your ability to ask and answer questions and engage in intelligent in-class discussions, will count towards your final mark. There is NO final paper or final examination required for this course.

科 目 名	Intensive Studies 5 (Literature 1) Ideas and Thinkers 1							
担当者名	ダルグリーシュ　ブレガム							
英語	2単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

Thought is the means by which we elaborate who we are, justify our political systems, design our economic architecture, assert our membership of a culture, authorise institutions within society, and make ethical claims upon each other. Indeed, without any philosophical reflection upon these matters, life would have neither any sense nor articulated meaning. It is thus precisely at the cross-roads between our daily practices and taken for granted ideas that this course is situated. This course provides instruction and practice in the art of philosophical reflection and the skill of critical argument through the study of some of the core (Western) texts in the humanities and social sciences. While the focus is on analytical reading and critical thinking, there is an equal emphasis on expressing and presenting one's ideas in writing, as well as engaging in dialogue on how to interpret and explain concepts and the practices they capture.

授業の到達目標

The purpose of the course is for students to:
1) read critically by asking pertinent questions and evaluating ideas in a text;
2) recognise core assumptions and wider implications of a text;
3) read texts of different genres and disciplines in the humanities and social sciences.
4) ascertain the meaning of a passage by identifying evidence and narrative sequences;
5) recognise the implicit assumptions and values underlying a written work;
6) assess ideas in terms of the rhetorical structures used to persuade readers;
7) distinguish between facts and opinions in a text;
8) identify the tone, mood and voice of a text through an analysis of its linguistic features, context of production

and literary devices.

成績評価方法

40% Final Class Test
30% Participation
30% Presentations

備考・関連URL

This course is best suited to students with a TOEFL score of 500 or more and/or who relish and enjoy engaging in active class discussion and debate with a view to thinking differently. Please note that Ideas and Thinkers 1 (Spring Semester) and Ideas and Thinkers 2 (Winter Semester) are two separate courses. They have the same structure and format but the content - the authors studied - is different.

科 目 名	Intensive Studies 6 (Literature 2) Ideas and Thinkers 2							
担当者名	ダルグリーシュ　ブレガム							
英語	2単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

Thought is the means by which we elaborate who we are, justify our political systems, design our economic architecture, assert our membership of a culture, authorise institutions within society, and make ethical claims upon each other. Indeed, without any philosophical reflection upon these matters, life would have neither any sense nor articulated meaning. It is thus precisely at the cross-roads between our daily practices and taken for granted ideas that this course is situated. This course provides instruction and practice in the art of philosophical reflection and the skill of critical argument through the study of some of the core (Western) texts in the humanities and social sciences. While the focus is on analytical reading and critical thinking, there is an equal emphasis on expressing and presenting one's ideas in writing, as well as engaging in dialogue on how to interpret and explain concepts and the practices they capture.

授業の到達目標

The purpose of the course is for students to:
1) read critically by asking pertinent questions and evaluating ideas in a text;
2) recognise core assumptions and wider implications of a text;
3) read texts of different genres and disciplines in the humanities and social sciences.
4) ascertain the meaning of a passage by identifying evidence and narrative sequences;
5) recognise the implicit assumptions and values underlying a written work;
6) assess ideas in terms of the rhetorical structures used to persuade readers;
7) distinguish between facts and opinions in a text;
8) identify the tone, mood and voice of a text through an analysis of its linguistic features, context of production and literary devices.

成績評価方法

40% Final Class Test
30% Participation
30% Presentations

備考・関連URL

This course is best suited to students with a TOEFL score of 500 or more and/or who relish and enjoy engaging in active class discussion and debate with a view to thinking differently. Please note that Ideas and Thinkers 1 (Spring Semester) and Ideas and Thinkers 2 (Winter Semester) are two separate courses. They have the same structure and format but the content - the authors studied - is different.

科 目 名	Intensive Studies 7 (American Studies 1) Popular Culture and Globalization Part 1							
担当者名	アラバスター　ジェイ　フェリックス							
英語	2単位	春学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course will explore ways in which popular culture has become globalized. Topics for the spring semester will include advertising, art, attitudes, beverages, celebrity icons, cyberculture, dancing, fashion, foodways, and leisure (see course schedule for specific examples). Topics for the fall semester will include language, literature, movies, music, slang, sports, technology, toys, television, and video games. The course will be conducted entirely in English. Students should be prepared to actively participate in class discussion. Active participation means that each student will be expected to speak in English about her or his ideas and understanding of readings and presentations every week.

授業の到達目標

Through intensive use of various English language skills (reading, listening, speaking, presenting, and writing), students will practice their English usage. Students will also learn about academic approaches to popular culture.

成績評価方法

Reading quizzes (10 x 5 points) 50%
Group presentation 15%
Individual presentation (paper for graduate students) 15%
Participation / In-class activities 20%
TOTAL 100 %

科 目 名	Intensive Studies 8 (American Studies 2) Globalization and Popular Culture Part 2							
担当者名	チャン　エドワード　ケイ							
英語	2単位	秋学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course will explore ways in which popular culture has become globalized, with particular reference to the United States. Topics for the spring semester will include advertising, art, attitudes, beverages, celebrity icons, cyberculture, dancing, fashion, foodways, and leisure (see specific examples in the course schedule). Topics for the fall semester will include language, literature, movies, music, sports, technology, tourism, toys, television, and video games. The course will be conducted entirely in English, and each student will be expected to speak in English about her or his ideas and understanding of readings and presentations every week.

授業の到達目標

Through intensive use of various English language skills (reading, listening, speaking, presenting, and writing), students will practice their English usage. Students will also learn about academic approaches to popular culture.

成績評価方法

(subject to change)
Reading quizzes (10 x 5 points): 50%
Group presentation: 15%
Individual presentation (or final paper for graduate students): 20%
Participation / In-class activities: 15%
TOTAL: 100 %

備考・関連URL

Graduate students may be assigned additional work.

科 目 名	Intensive Studies 9 (Survey of Japanese Literature 1) Premodern Japanese Literature							
担当者名	フィットレル　アーロン							
英語	2単位	秋クォーター	火3時限	金3時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

The course will cover a part of the history of Japanese Literature, from beginnings to the first part of the Medieval times. After a short survey of the major developments and genres, the course will focus on the most representative texts and cultural phenomena. A special emphasis will be made on the literature of the Heian period, which is considered to be "the Golden Age" of Japanese Literature one of the ages when Japanese characteristics of the literature are remarkable.

We will refer to western and Chinese literature incorporating comparative perspectives.

Some changes will be possible according to the interest of the students enrolled in the course.

The working language is English and the literary works will be read in English translation referring to the original texts too. The final reports will be accepted both in English and in Japanese, with an abstract in English.

授業の到達目標

1. To acquire basic knowledge of classical Japanese literature and to stimulate students' interest in it
2. To consider about classical Japanese literature and Japanese culture from a comparative perspective
3. To enhance students' critical thinking

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　60%　　Final project (a report on one literary work or one topic including a considering on multiple works from the aspect of comparison with literature of abroad)
●**平常点**　40%　　Responses at the end of classes: 20%
Attendance and class participation: 20%
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	Intensive Studies 10 (Survey of Japanese Literature 2) Colonialism, Gender, and Race in Japanese Society through Literature							
担当者名	追田　好章							
英語	2単位	冬クォーター	火3時限	金3時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

The objective of this course is to develop the skills necessary for critically analyzing Japanese society. Through the analysis of literary works, the course specifically discusses three key issues—colonialism, gender, and race, each of which is an important facet for understanding current issues of Japanese society. Literature serves as both a vibrant reflection of societal conditions and a means of revealing and critiquing the underlying problems within society. Furthermore, literature sheds light on the lives of people and non-human beings marginalized by prevailing ideologies and societal norms. Over the course of this semester, we will explore how colonialism has functioned in Japanese society, and how gender and racial minorities confront various challenges in Japan, all through the lens of literary analysis.

授業の到達目標

1. Students will become acquainted with social problems in Japan.
2. Students will gain a basic understanding of theories that are useful for critically thinking Japanese society.
3. Students will effectively apply the covered theories to the specific I

成績評価方法

●**試験** 0% None.

●**レポート** 50% For the final assignment, students are required to write an essay on one or more literary works discussed in class, or on works of their own choosing, applying the knowledge and concepts acquired throughout the course. Essays will be evaluated on: 1）the

●**平常点** 50% Attendance and participation（20%）

Weekly reaction papers（30%）

●**その他** 0% None.

科 目 名	Intensive Studies 11（Survey of Japanese Literature 3） Modern Japanese Diaries							
担当者名	チン ロ							
英語	２単位	春クォーター	火３時限	金３時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This is a writing-intensive course. In addition to doing the readings for every session, you will be expected to submit weekly writing assignments throughout the quarter.

In this course, we will read representative works of modern Japanese diaries in translation. Through our collective analysis of the readings, we will pursue two main objectives. First, we will examine the personal perspectives of the authors on their countries and abroad, their cultures, and the range of sentiments they express, from delight to disillusionment. Second, we will explore how Japanese writers use diaries as a form of expression, focusing on the rhetorical techniques used to create meaning. Our aim is to understand how these two dimensions—thematic and formal—interact and enrich each other, and how they help the writers make sense of the world in which they live(d).

All readings are in English translation, and no knowledge of Japanese is required. However, final essays may be submitted in either English or Japanese (with an abstract in English).

授業の到達目標

1. Read some of the most representative Japanese literary written since the Meiji era.
2. Situate specific works in their historical and cultural contexts.
3. Use the tools of literary analysis to interpret the readings.

成績評価方法

30% Active engagement in class

10% Reading Comprehension Quizzes

30% Critical Responses to readings

30% Final Written Exam

備考・関連ＵＲＬ

You will need passing grades in ALL categories (Exams / Attendance & Class Engagement / Responses & Presentations) in order to obtain a grade for the course.

科 目 名	Intensive Studies 12 (Introduction to Japanese Culture and Civilization 1) Japanese Culture, Thought and Aesthetics							
担当者名	フィットレル アーロン							
英語	２単位	秋クォーター	火４時限	金４時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

The course will cover the history of Japanese culture and thought from ancient times to the medieval times with references to the later periods. We will look at Japanese culture and aesthetics from a comparative perspective considering their characteristics. We will take up especially the relationship between nature and humans, and the role of the four seasons in culture, which are some of the most representative features of Japanese culture.

Some changes will be possible according to the interest of the students enrolled in the course.

The working language is English and Japanese texts will be read in English translation referring to the original texts too. Final reports will be accepted both in English and in Japanese with an abstract in English.

授業の到達目標

1. To acquire basic knowledge on the history of Japanese culture and aesthetics
2. To discern the universal aspects and specific characteristics of Japanese Culture
3. To enhance students' critical thinking and understanding of cultural diversity

成績評価方法

●**試験** 0% なし

●**レポート** 60% Final project (a report on an optional issue on Japanese culture or aesthetic)

●**平常点** 40% Responses at the end of classes: 20%

Attendance and class participation: 20%

●**その他** 0% 特になし

科 目 名	Intensive Studies 13 (Introduction to Japanese Culture and Civilization 2) Japanese History from the Warring States to the Early Meiji Period							
担当者名	ブルチャー ミヒャエル							
英語	２単位	冬クォーター	火４時限	金４時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This class will consider Japan's emergence as a modern state with a focus on the "early modern" (Sengoku to

Tokugawa) period and the transition from the Tokugawa to the Meiji era. In studying societal and political change from the sixteenth to the nineteenth century, particular attention will be paid to conceptual shifts in the political and intellectual lexicon of the Japanese language.

授業の到達目標

The purpose of this class is to serve as an introduction to the history and political culture of early modern to modern Japan. Proceeding roughly chronologically in laying the narrative groundwork, each lecture will apply a topical focus designed to bring larger questions into view. While this class will study the emergence of new ways of thinking in response to the impact of Western encroachments and ideas, it will also emphasize the extent to which this response could draw on preexisting conceptual resources. A further focus of this class will be on the role of the imperial institution in attempts at defining, or contesting, Japanese culture in national terms.

Students will not only arrive at a deepened understanding of the historical origins of modern Japan, but also gain new perspectives on early modern and modern state formation in general, on linguistic dimensions of politics and "culture," varieties of "nationalism," and the historically formative role of international exchange.

成績評価方法

Three Quizzes (20% each) 60%
Take-home Assignment 30%
Attendance and participation 10%

科 目 名	Intensive Studies 14 (Introduction to Japanese Culture and Civilization 3) Introduction to Modern Japanese History							
担当者名	アコスタ　アリエル　キャサリン							
英語	２単位	春クォーター	火４時限	金４時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course is a survey of Japanese modern history, beginning with the Meiji Restoration in the 19th century and ending with the turn of the 21st century. While covering the major political, cultural, and social trends of the modern era, we will investigate questions about what constitutes "Japanese-ness," and Japan's place in the world, and consider how answers to these questions have changed over time. Students will gain an overview of major areas of modern Japanese history, including the ideology of nation building in the Meiji period, tensions between country and city in the interwar period, colonization and imperialism, postwar economic expansion and environmental issues, among many other topics.

授業の到達目標

At the end of the course, students will have an understanding of the major events of modern Japanese political, economic, social, and cultural history. Students will learn to use a variety of sources, not just history textbooks, including print media, music, and film and popular culture, as a means of telling and understanding history. We will discuss the use of primary source documents, fiction, mass media, print culture, and visual culture in understanding and analyzing the past. The course will be conducted in English, and all readings will be in English but students are encouraged to seek out and consult sources in Japanese or other languages as well. This class emphasizes a critical approach to Japanese history, and asks students to interrogate their own pre-conceptions of Japanese history, Japanese identity, and Japanese culture.

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 50% The final writing assignment is worth 40% percent of the grade, and the preparatory Assignments for the final are worth 10%
●**平常点** 50% Class participation includes attendance and active participation in class and the submission of required reading responses on Moodle
●**その他** 0%

科 目 名	Intensive Studies 15 (Introduction to Japanese Thought and Religion 1) Religion, State, and Self in Modern Japan							
担当者名	アコスタ　アリエル　キャサリン							
英語	２単位	冬クォーター	火２時限	金２時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

The word "shûkyô" to designate the category of "religion" emerged in the 19th century, as the result of long-standing debates within Japan about the roles that Buddhism, Confucianism, Christianity, and various indigenous practices should have within the rubric of the state and society. There was no over-arching term to incorporate all of these various beliefs, practices, and institutional structures. The creation of this word was further impacted by the translations of treaties written by Western powers who wanted guarantees of religious freedom. This course begins with an exploration of how the category of religion, and thus the term "shûkyô" was created, and why this term and category were important. We will then investigate how the nascent Meiji state regarded the role of religion as part of the construction of a modern national identity, the formation of state Shintô and later the religious freedom clause in the Meiji Constitution. What was the relationship between state and religion under the Meiji Constitution? Finally, we will also explore how more syncretic ideas about spirituality developed in the late 19th and early 20th century, especially within literary and artistic milieu. Here, we'll learn about the influence of Leo Tolstoy's spiritual teachings on Japanese writers, artists, and commune builders, as well as the friendship between Okakura Tenshin and Indian religious thinkers like Swami Vivekananda and Rabindranath Tagore, and how they considered the idea of an "Asian spirituality" that could counter the excesses

of Western modernity.

授業の到達目標

Rather than a deep dive into any particular religious tradition, this course will investigate how the categories of religion and spirituality impacted the modern Japanese nation, modern culture, and modern identity. Students will engage deeply with major historiographical questions, and learn how to understand ongoing debates within the field of Japanese history. Students will learn how to discuss multiple perspectives within their academic writing.

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 50% Total of four short papers written throughout the quarter
●**平常点** 50% Active participation in in-class discussions
●**その他** 0%

科 目 名	Intensive Studies 16 (Introduction to Japanese Thought and Religion 2)							
担当者名	眞野　新也							
英語	2単位	冬クォーター	月6時限	木5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course provides an introduction of Japanese Buddhist doctrine, and devotes attention to various themes, such as art and ritual. This class will involve interactive lectures, and seminar-like discussions. Students are expected to participate actively, express their thoughts and critically evaluate the sources they study.

本科目は、日本仏教教学の基礎を学びつつ、美術や儀礼に関する諸問題にも注目していく。ティーチングスタイルは講義とセミナー形式のディスカッションとを採用する。学生には授業で用いるテキストを批判的に評価することや、授業に積極的に参加し自分の考えを表明することなどが求められる。

授業の到達目標

At the end of the course, students will acquire;
1) a basic knowledge of Japanese Buddhist Doctrine
2) skills for describing Japanese Buddhism in English
3) an understanding of English necessary for post-graduate studies (for MA students)

本コースの終了時までに、
1) 日本仏教教学の基礎知識
2) 英語で日本仏教思想を解説する技術
3) 大学院レベルの英語力（修士の学生）
を習得することが見込まれる。

成績評価方法

Final Essay 60%
Attendance 40%

科 目 名	Intensive Studies 17 (Introduction to Japanese Thought and Religion 3) Japanese Religion and Thought: Its Representation in Literature and Art							
担当者名	フィットレル　アーロン							
英語	2単位	春クォーター	火5時限	金5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

The course will cover the history of Japanese religion and thought from ancient times to the medieval times with references to the later periods. On the one hand, the course will provide basic knowledge on Japanese religion, its history and basic philosophy, whereas on the other, it will especially focus on literature and art which are some of the most conspicuous representations of peoples' thoughts.

Some changes will be possible according to the interest of the students enrolled in the course.

The working language is English and texts will be read in English translation referring to the original texts too. Final reports will be accepted both in English and in Japanese with an abstract in English.

授業の到達目標

1. To acquire basic knowledge on the history of Japanese religion
2. To understand the philosophical background of Japanese thought
3. To acquire basic knowledge on and consider about connection between Japanese thought, religion, literature and art

成績評価方法

●**試験** 0% なし
●**レポート** 60% Final project (a report on an optional issue on Japanese thought, religion and its connection with literature or art)
●**平常点** 40% Responses at the end of classes: 20%
Attendance and class participation: 20%
●**その他** 0% 特になし

科 目 名	Intensive Studies 18 (Introduction to Japanese Visual and Performing Arts 1) Introduction to Japanese Visual and Performing Arts 1							
担当者名	ウォーラー　ローレン　デイビッド							
英語	２単位	秋学期	火曜日	１時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course is an introduction to Japanese visual and performing arts spanning from ancient ritual to modern film, with special attention paid to kagura, noh, bunraku, and kabuki. This broad survey will allow us to examine the transformation of narratives as they are adapted from one genre into another, and to consider how content and reality relate to performance and re/presentation. We will start with an overview of performative ritual as seen in ancient sources, allowing us to see how aspects of early Japanese myths (such as the spirit possession of Ame no Uzume) inspired later performing arts. We will also examine adaptations of *The Tale of Genji* as represented visually in illustrated scrolls, particularly the spirit possession of Aoi no Ue. We will then look at how spirit possession themes from *Genji* are represented in noh performance, while comparing such performances to the theoretical treatises of Zeami. Moving into the early modern period, we will study bunraku and kabuki, comparing how *Love Suicides at Sonezaki* was performed with puppets and with live actors. This will in turn be compared to accounts of how contemporary news sources--often sensationalized--described the events that the performances were based on. At the end of the semester, we will examine the relationship between traditional performance and film, looking how the narrative trope of the lovers' suicide was adapted for film and used to provide a critique of modern social issues.

Although the course focuses more on traditional performing arts, students are free to select their own final project topics upon consultation with the professor. Modern and contemporary topics are encouraged, and we will use the last two classes for students' presentations on their selected topics.

The final presentations will be on the same topic selected for the final 4-6 page paper, presented as work-in-progress.

Students are expected to write weekly responses (200+ words) on Moodle about assigned materials.

授業の到達目標

Through discussion and written work, students will demonstrate an understanding of Japanese performing arts, providing a critical analysis of selected texts and films.

成績評価方法

●**試験**　0%　　N/A

●**レポート**　50%　　A 4-6 page paper (in English, double spaced) on a related topic selected upon consultation with the professor.

●**平常点**　40%　　Students are expected to write weekly responses and contribute to discussion every class.

●**その他**　10%　　Short presentation on final projects at the end of the semester.

備考・関連ＵＲＬ

Students are expected to come to every class, and should contact the professor when they need to be absent. Please do the readings and write a response even when you need to be absent.

科 目 名	Intensive Studies 19 (Introduction to Japanese Visual and Performing Arts 2) Japanese Cinema							
担当者名	ノルドストロム　K.　ヨハン							
英語	２単位	秋クォーター	火１時限	金１時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course will explore the development of the Japanese cinema from the pre-war period to contemporary times, through the lens of canonical films and filmmakers. The course will draw on a rich body of texts as well as screenings of films to highlight the Japanese cinema's artistic as well as industrial development, while situating these in the context of the sociopolitical and economic issues. Special emphasis will be given to issues of modernity, genre formation, nationalism, cinema as propaganda, the post-war period, urbanity, as well as more recent developments during the late Showa- and Heisei-period. The students will develop their critical understanding of the films through close analysis of the films as well as the course readings. The class will be conducted in English, and all films screened will be with English subtitles.

授業の到達目標

- Acquire exposure to major works of Japanese cinema.
- Cultivate the tools to critically analyze cinematic texts.
- Develop an understanding of the historical, cultural, and social backgrounds.
- Situate Japanese cinema in a global context.

成績評価方法

Presentations (30%)

Each student is required to give two to three (depending on class size) 5-10 minute oral presentation on that week's text/film(s), addressing the issues raised by the assigned material and proposing topics for class discussion. The presentation should be focused on your interpretation of the relevant material, based on an in-depth reading of the text/film(s) as well as further issues or questions you would like to discuss. Please select specific theoretical issues or parts of the text/film(s) that you deem suitable for discussion and can act as springboards for discussion.

Response Papers (30%)

You will be required to write a weekly response paper (at least 350 words) that reflect a thoughtful engagement with the assigned films and readings. The instructor will suggest a starting question for the

students to respond to, but students are also encouraged to pose and address further questions related to the relevant material. Each response paper is to be submitted after the subsequent weeks class.

Final Paper（40%）

In the final essay paper, the student will analyze a historical event, and its representation in a Japanese film and/or novel. Your essay should include a main argument, which needs to made through detailed analysis of the textual and visual material, which in turn needs to be fully documented（Chicago style is preferred, but other formats accepted）. The essay should be 2000-3000 words long（12pt Times New Roman, double- spaced, 1-inch margins）. Indicate the word count on your paper. Actively/critically use at least 3 different written sources (texts discussed in class are okay to use). Late papers will be downgraded at the discretion of the instructor.

科 目 名	Intensive Studies 20 (Introduction to Japanese Visual and Performing Arts 3) Seeing, Thinking and Talking about Japan through Visual Culture							
担当者名	土金　康子							
英語	2単位	春クォーター	月2時限	木2時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This class requires a high-level degree of English speaking in class（group discussion and class oral presentations）, frequent writing in English to summarize historical information, providing visual analyses and the presentation of ones' own cultural thinking, and weekly reading comprehension in English (often, but not always, supplemented by Japanese translated materials). The course is an introduction of the history of art and visual culture, dealing with Japan as a changing and expanding idea and definition. The class will be conducted in person but may involve a few meetings that require online participation via Zoom（scheduled to be no more than 3 meetings, such as for guest speakers' appearance via Zoom）. This class is designed to encourage our collective and individual visual experiences, exploring the diversity ofJapanese visual cultures through the students' active participation in museum visits on campus and off-campus (via assignments on their own) as well as international "visits" through multiple online museum sources. Students are encouraged to focus on specific objects/images/sites to observe them and think about the following questions that each artwork/visual material may raise from art historical points of view. What（if anything）is specifically"Japanese" about a style, material, manner of creation, appreciation and practice, regarding each work that exists within and outside of Japan? Is such a national framework of Japan applied to visual art universally fixed or fluid? Our class will explore this set of large questions regarding various media of visual art, such as painting, graphic art, design, sculpture,calligraphy, ceramics, architecture, gardens, photography and fashion through the following two venues: 1）an introductory historical survey of the rise of new artistic tendencies of such a visual culture from the prehistoric period to the present within the current geopolitical territory of Japan, with some major considerations on how Japan's visual culture has interacted with the rest of the world over time; and 2）a thematic approach, highlighting selected visual conventions in Japanese society across time that privilege certain materials, aesthetics, beliefs, and collecting and displaying customs, such as tea ceremony and Zen meditation.

授業の到達目標

1）Learn the basic methods of art history to visually examine artworks through exploring museums on campus via our short visits to Aizu Museum during our class meetings; individual museum visits outside of the classroom for one written assignment (about a page) and one short class oral presentation (about 5 minutes); and various domestic and international museum websites also for another written assignment (about a page) and short class oral presentation (about 5 minutes). Also to train ourselves, via class discussion and these written assignments mentioned above, how to integrate the visual information about the works with their historical backgrounds we study from our class readings and some individual research for the written assignments.

2）Acquire basic knowledge of the major artistic phenomena from Japan's prehistoric to modern/contemporary periods through class reading assignments and class lectures

3）Be able to discuss major works, sites, individuals, and institutions within the large historical context of Japanese visual culture through our class readings, lectures and discussions (the emphasis is on analysis given by class lectures and points of view exchanged through students' class discussions, not on the memorization of dates and names)

4）Be able to analyze major typologies and visual strategies from historical, artistic and conceptual points of view, articulated by class lectures and class readings

5）Be able to examine the historical background of various notions of "Japan" in visual culture available in Japan and elsewhere by referring to examples from both premodern and modern/contemporary periods through collective class discussions and individual assignments

6）Cultivate cultural sensitivity toward premodern examples of Japanese visual culture (before the beginning of the Meiji period in 1868）and compare it with modern/contemporary developments through collective class discussions and individual assignments

成績評価方法

●**試験**　10%　2 Short Take-Home Quizzes（short essays）. The criteria for grading are based primarily on understanding the contents of the readings, class lectures and discussions, not on the memorization of dates and names. Questions will be given in class and we will discuss the contents of the quizzes ahead of time.

●**レポート**　30%　5 Short Pre-Class Comments and 5 Short Post-Class Response Reports: they will be given to test how much intellectual engagement students achieve with reading and class materials on their own. 2 Reports based on the 2 Oral Presentations (see below) on individual website viewings and museum visits outside of regular class meetings. These reports will be given to measure how much students can proactively and independently develop their own interests and thoughts in art and culture through selecting their own favorite

images or objects and discussing the historical and artistical backgrounds of their chosen works. The criteria for grading are based primarily on the clarity, soundness of logic, the depth of historical understanding demonstrated in students' writings about selected artworks, which desirably integrate the fruit of learning from class contents about Japanese visual cultures. The effort demonstrated in students' individual thinking, careful viewing and some research will be also considered for evaluation.
●**平常点** 50% Attendance and Class Discussions (which include very short writings during class sessions). Since the course emphasizes the importance of proactive participation in collective class activities, being on time for every class and actively taking part in class discussions (usually in small groups made up of 5-8 people) will be vital.
●**その他** 10% 2 Short Oral Presentations on individual website viewings and museum visits outside of class meetings. The criteria for grading are based mainly on the clarity and individual thinking demonstrated in the presentations (not on the sophistication of the style of presentation).

備考・関連ＵＲＬ

The first day of our class meeting will be on April 14, Monday, from 10:40 to 12:20. Please make sure to attend this introductory meeting, if you are interested, which will articulate the level of English (which is high) required for students to have meaningful learning experiences by taking this course. It is required that students frequently check and use Waseda Moodle for all the assignments right before and after each class meeting to obtain class readings and submit assignments on time. Please make sure that you are ready to participate in several on-campus visits to Aizu Museum during our class meetings.
https://www.waseda.jp/culture/aizu-museum/home/
Also, make sure that you would like to visit at least one museum on your own to write one of the two reports and give one short oral presentation.The class will introduce some major art museums and exhibitions around Waseda and Tokyo and the instructor can consult with students about which one to visit.

科目名	Intensive Studies 21 (Education 1) Culture and Society							
担当者名	ホサイン　タニア							
英語	２単位	春学期	金曜日	４時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

Every society has its culture, how people live and express themselves, and how theyvalue objects and thoughts. This course aims to discuss the cultures ofdifferent societies,, including Japan. It will also focus on communication patterns, taboos, and other social norms. This course examines the service of language in society andits relationship to its speakers' culture(s). The course studies languagevariation across regions, ethnicity, social class, gender, age, religion, levelof education, etc. The course will be activity-based and encourage students toobserve language as it is used around them. This course will teach how languagereflects and creates thought, culture, identity, and power relations. Studentswill also learn to apply their study concepts to everyday language experiences.We all use language daily through conversation, reading, or writing. We alsouse it to define our identities, social relations, and interpretations ofothers' behavior. Language is one of the features unique to our species, andmeaning-making through language is a central human history project. At the sametime, it will focus on how cultures are changing with globalization.

授業の到達目標

Students will develop their academic speaking, listening, reading, and writing skills in this course by studying and discussing English lectures of varying lengths. The focus would be on education and culture in different countries. Activities will include listening to lectures in class, taking structured notes, discussing, answering questions, and writing summaries. Students will also develop communication skills through pair, group, and class activities. Emphasis will be placed on developing a deep understanding of sentence and text structure and micro-and macro-reading skills. Students will learn how to get the text's main points quickly and effectively, without the need for translation into the native language. They will also be encouraged to read related material from the referred textbook to understand the topics covered better. Students will also develop writing skills in English. In addition, students must master academic words, including their meaning and collocations, by studying the words from the textbook. Students are expected to do 60 minutes of homework on weekly assignments.

成績評価方法

In-class short test/participation……30%
Paper……40%
Final Assessment/ Presentations……30%

科目名	Intensive Studies 22 (Education 2) Globalization and Intercultural Communication							
担当者名	ホサイン　タニア							
英語	２単位	秋学期	金曜日	４時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

People from different cultural backgrounds have been interacting with each other formany millennia. This course discusses what makes intercultural communication inour current times different from other historical periods. The amount andintensity of intercultural interactions, the degree of interculturalinterdependence, the patterns of movement of people, goods, and capital, andthe conditions that shape and constrain our intercultural interactionsdistinguish our current context—the context of globalization—from other periodsin history. At the same time, it will focus on how cultures are changing withglobalization.

授業の到達目標

1. Identify the opportunities and challenges of intercultural communication in the context of globalization.
2. Describe three definitions of culture that influence intercultural communication globally.
3. Explain how our social location and standpoint shape how we see, experience, and understand the world differently.

In this course, students will develop their academic speaking, listening, reading, and writing skills by studying and discussing English lectures of varying lengths. The main focus would be education and culture in different countries. Activities will include listening to lectures in class, taking structured notes, discussing, answering questions, and writing summaries. Students will also develop communication skills through pair, group, and class activities. Emphasis will be placed on developing a deep understanding of sentence and text structure and micro-and macro-reading skills. Students will learn how to get the text's main points quickly and effectively, without the need for translation into the native language. They will also be encouraged to read related material from the referred textbook to understand the topics covered better. Students will also develop writing skills in English. In addition, students must master academic words, including their meaning and collocations, by studying the words from the textbook. Students are expected to do 60 minutes of homework on weekly assignments.

成績評価方法

In-class short test……20%
Paper……40%
Final Assessment/ Presentations……30%
Attendance -10%

科 目 名	Intensive Studies 23（Applied Linguistics 1） Introduction to Applied Linguistics							
担当者名	マーチャンド　ティム　ルイ							
英語	2単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

Language is a fundamental part of human interaction, yet its role in society, education, and culture is often overlooked. Applied linguistics bridges the gap between linguistic theory and real-world problems, offering insights into how language shapes and is shaped by our lives. This introductory course provides a foundation in applied linguistics, exploring its core concepts, methods, and applications. Students will engage with the practical relevance of language study in education, communication, and social interaction.

授業の到達目標

At the end of this course, students should be able to:
1. Define applied linguistics and identify its primary fields.
2. Analyse real-world linguistic issues using basic concepts in linguistics.
3. Understand the processes involved in language use, and relate them to their own experiences in learning languages.

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　Individual research paper
●**平常点**　40%　Active participation in class and online
●**その他**　20%　Group Project

備考・関連URL

Please note that the timing and contents of the schedule may change according to the needs of the class.

科 目 名	Intensive Studies 24（Applied Linguistics 2） Current issues in Applied Linguistics							
担当者名	マーチャンド　ティム　ルイ							
英語	2単位	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

As society becomes increasingly globalised and interconnected, the complexity of language-related issues continues to grow. Building on foundational knowledge from *Applied Linguistics 1（completion of which is recommended but not required)*, this course delves into advanced topics, focusing on how linguistic theory and research address challenges in education, communication, policy, and technology. Students will critically engage with contemporary issues and apply their knowledge to analyse language use in various contexts.

授業の到達目標

At the end of this course, students should be able to:
1. Apply linguistic theory to analyse complex language issues.
2. Evaluate current trends and challenges in applied linguistics.
3. Conduct informed research on specialised topics.

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　Individual research paper
●**平常点**　40%　Combination of in-class and online participation
●**その他**　20%　Group Project

備考・関連URL

Please note that the timing and contents of the schedule may change according to the needs of the class.

科 目 名	Intensive Studies 25 (Critical Theory)							
担当者名	マッキン　ゼイン　ディーン　リバー							
英語	２単位	秋学期	金曜日	４時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course introduces literary and cultural critical theory from the 20th century to the present. This course is organized around 4 main themes: Text, World, Technology, and Gender. Each week, we look at a key-text relevant to the theme and discuss its ideas, concepts and background. Students will be encouraged to think critically and creatively about any theoretical arguments or issues that emerge in the course of our readings and discussions.

All readings for this course will be in English.

The classes will be onsite. Students participate in interactive discussions, have their understanding checked through online assignments, take part in question-and-answer sessions, and exchange opinions with other enrolled students.

授業の到達目標

Students should:

(1) Build reading skills in analytical texts;

(2) Achieve a general understanding of problematics of literary and cultural theory;

(3) Be able to discuss and express opinions on these problematics.

成績評価方法

●**試験**　20%　Writing during classes. Every session will start with a short writing exercise based on the content of that day's readings.

●**レポート**　60%　Three essays of around 600 words on a topic that will be announced in class, to be submitted online on Week 5, 9, and14.

●**平常点**　20%　Regular attendance and active participation in class discussions.

●**その他**　0%　0

科 目 名	Intensive Studies 26 (Japanese Culture and Society 1)　How Africa views Japan							
担当者名	大平　和希子							
英語	２単位	春学期	水曜日	３時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

To understand Japanese culture and society, viewing Japan from an outsider's viewpoint is sometimes helpful. In this course, students explore different course materials to understand how Africa—the continent physically and psychologically far from Japan—views Japan and understand Japanese society from various perspectives.

授業の到達目標

By successfully completing this course, students will be able to:

1. critically examine Japanese culture and society through an African point of view
2. have a broader understanding of their own culture
3. express their ideas and opinions

成績評価方法

●**試験**　30%　Attendance and participation

●**レポート**　30%　Reflection paper

●**平常点**　40%　Presentations

●**その他**　0%　特になし

科 目 名	Intensive Studies 27 (Japanese Culture and Society 2)　Rural Space in a Cosmopolitan Time: The Countryside in 20th Century Japan							
担当者名	アコスタ　アリエル　キャサリン							
英語	２単位	夏クォーター	火３時限	金３時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

What does the countryside mean in modern and contemporary Japan? Is it a site of agricultural production, a place for rustic retreat from the busy urban center, a nostalgic repository of local and national tradition? What is the relationship between art, literature, and the rural? This course begins by investigating the discourses around the rural Japan in pre-war Japan, when ultra-nationalists argued that agricultural production was intricately tied to Japan's emperor system, while leftists argued that the rural village could be a site of revolutionary community, and artists and writers created utopian communes to bring together art and agriculture. We will then look into the role of the rural during the era of high-economic growth in the postwar, especially through the lens of film and photography that explored the relationship between the cosmopolitan city and provincial areas, and the exploration of landscape in Japanese art, via 'landscape theory.' Finally, we will look at contemporary meanings of the countryside, including back-to-the-land movements, 'datsu-sara' (escaping salaryman life) trends, and post-disaster art and media. We will read examples of peasant literature, essays on the countryside and culture, academic articles, and critical theory that explores the relationship between the urban and the rural. Additionally, we will watch one to two films that are related to these issues, and deeply engage with photographic representations of the Japanese countryside.

授業の到達目標

Students will learn to use a variety of sources as a means of telling and understanding history, critical theory, and cultural studies. We will use primary source documents, fiction, mass media, print culture, and visual culture in

understanding and analyzing the past. The course will be conducted in English, but as this course emphasizes primary source documents, students are encouraged to seek out and consult sources in Japanese as well. Students will hone their analytical and descriptive skills through in-depth class discussions, and work on academic writing and research skills.

成績評価方法

●**試験** 0%

●**レポート** 50% Students will write one final research paper on a topic of their choice, to be decided in consultation with the professor, worth 30% of the grade. The weekly written response papers will be worth 20% of the grade.

●**平常点** 40% Class participation includes both regular attendance of class sessions, as well as active participation in class and small-group discussions and in-class presentations. This seminar will be discussion-intensive, and this portion of the grade reflects attendance, preparedness, and active participation.

●**その他** 10% Students will give a short (10-15 minute) presentation on one reading. The presentation schedule will be decided in the beginning of the class.

科 目 名	Intensive Studies 28 (Japanese Culture and Society 3) Sociolinguistic dynamics in Japanese languages							
担当者名	吉田 健二							
英語	2単位	冬クォーター	火5時限	金5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

In this course, we will review and discuss current issues in socio-linguistics. In each class meeting, we focus on one topic about language and society (as listed in the class schedule). The instructor introduces the issues and problems in the Japanese languages and dialects and discusses their theoretical implications. One of the students will be assigned a presentation on the topic.

授業の到達目標

This course will help the students to gain a solid understanding of socio-linguistic theory and analysis and to deepen their insight into the important and interesting issues related to language and society. The course also provides us with opportunities for cross-linguistic and cultural comparisons.

成績評価方法

●**試験** 0% .

●**レポート** 50% A term paper up to 5 pages (double space) on any aspects of language(s)

●**平常点** 50% Two in-class presentations will be assigned.

1) Introduction of your linguistic background, the socio-linguistic situation of your country (or the countries you have been in), and discussion on the topic of the day (presentation material required)

2) A progress report of the term paper (oral only)

●**その他** 0% .

備考・関連URL

Contact: kenjiyo.work@gmail.com

科 目 名	Intensive Studies 29 (Japanese Visual Culture and Media 1) Japanese Visual Culture and Media 1							
担当者名	ハートマン ナン							
英語	2単位	夏クォーター	火2時限	金2時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course examines the cultural history of family, courtship, marriage, and the generation gap through a selection of Japanese films from the postwar period to contemporary times. We will look closely at how social, political, and economic transformations influence family structure, personal relationships, parental images, and gender dynamics.

授業の到達目標

1. practice discussing film with reference to story, character, image, and narration
2. learn about some of the major directors of Japanese cinema and auteurism
3. improve analytical skills by reading primary texts and critical essays on films viewed
4. improve writing skills, particularly description, analysis, and refining of arguments about films/stories in question

成績評価方法

Classroom participation & Weekly Quizzes: 40%

This component includes attendance of class and participation in discussion.

*Missing more than 3 discussion classes will result in failing the class.

Five written responses (250 - 300 words): (5 x 12) 60%

Students are expected to address the readings and the film, and raise issues/questions for class discussion. Postings should be submitted on Moodle by Wednesday 5PM.

備考・関連URL

N/A

科 目 名	Intensive Studies 30 (Japanese Visual Culture and Media 2) Anime: The Face of Japanese Popular Culture							
担当者名	ケルツ　ローランド　ノゾム							
英語	２単位	夏クォーター	無フルOD	無フルOD	１年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

This course provides a critical perspective on Japanese animation ('anime') and its relationship to postwar Japanese history and popular culture. The focus of this course is to develop a nuanced understanding of anime, not only as an aesthetic discipline and form of expression, but also as a cultural product informed by native economic and societal conditions. Through screenings, readings, lectures, discussions and collaborative projects, students will gain a broader and deeper awareness of what lies behind the curtain of such a profoundly hybridized and influential medium — and how it may evolve in the future.

授業の到達目標

- Acquire exposure to major works in the history of anime.
- Cultivate the tools to critically analyze anime narratives and visuals.
- Develop an understanding of historical, cultural and social backgrounds.
- Situate anime in a global context.

成績評価方法

1. Class Participation 30%
2. Homework/Class Preparation 30%
3. Presentations 20%
4. Papers 20%

備考・関連URL

*If you miss more than 5 classes, the university will not grant you credit for the course.

* Student presentations will be PRE-RECORDED and POSTED TO MOODLE in video/audio format. The presentations will be reviewed and assessed on MOODLE for grading

科 目 名	Intensive Studies 31 (Japanese Visual Culture and Media 3) Understanding Contemporary Japanese Fantasy: A Transmedial and Transcultural Phenomenon.							
担当者名	エスカンド　ジェシ							
英語	２単位	春クォーター	火４時限	金４時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course provides a transdisciplinary exploration of contemporary Japanese fantasy, defined as the renewed, transmedial (encompassing novels, manga, anime, games, and more) fantasy genre that emerged in Japan since the 1980s.

We will approach this genre as a complex cultural phenomenon, characterized by uniquely Japanese traits as well as significant connections to cultures worldwide.

To achieve this, students will gain foundational knowledge in various disciplines, including comparative culture, textual analysis, genre studies, information studies, and semiotics.

The course will focus on understanding how the genre evolved across the media landscape and through the reception of foreign cultures.

Equal emphasis will be placed both on exploring the genre as an art form and on analyzing the economic, technological, and societal factors that influenced its evolution.

Given the genre's nature, particular attention will be directed toward games as cultural brokers—agents of foreign cultural influence.

授業の到達目標

- Develop an understanding of the cultural history of modern Japanese fantasy.
- Understand the economic, technological, and societal contexts that have shaped the genre's development, up to its current popularity.
- Acquire the needed foundational knowledge in disciplines such as comparative culture, textual analysis, genre studies, information studies, and semiotics.
- Gain insight into the complexity of factors and actors involved in modern popular cultural phenomena.

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　40%　　A paper on a subject that is relevant to or adjacent to the class.

For example, while science fiction will not be covered during this course, related topics could be appropriate.

●**平常点**　60%　　Class participation includes both in-class and online contributions, with an expectation of balanced engagement across in-class discussions and Moodle activities.

Presentations will be expected and will account for one-third of class participation (20% out of the total 60%)

●**その他**　0%

備考・関連URL

Details regarding the presentations format will be discussed during the orientation and students' preferences heard.

科 目 名	Intensive Studies 32 (Comparative Perspectives in Japanese Literature) Eyes meeting in the rear-view mirror: Points of Reception between Japan and the West							
担当者名	カライスル　アントニア							
英語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

Comparing two different cultures is often an exercise of Apples and Oranges – and often enough, the two sides might not even agree on what constitutes a poignant difference between them. Different customs in clothes, food or architecture may be obvious as that; yet the reception of the more intimate habits is often coloured by the tacit assumptions grown on one's home ground – conversely, the view of one's own culture tends to be blindsided by what is taken for granted. As a result, a foreign eye might not only misunderstand another person's culture; it might also discern something noteworthy in something said culture conceives as trivial.

This course will take a look at select original sources from Europe and Japan in order to trace such tacit assumptions by means of comparison and contrast. The chosen texts either document to a direct cultural exchange or a deliberate form of reception, or represent similar tropes in Japan and the West.

Each week will begin with a lecture; the second half of the session will be either group work or students' presentation. The majority of the set texts will be from the Early Modern Period – that is, the Edo period. In their presentation, students are not confined to this timeframe but welcome to pick texts from any period.

授業の到達目標

The objective of this course is an exercise in critical reading, whereby the phenomena described in the texts will be discussed from the perspective of either side. Students will get an experience reading original texts from various points in time and sharpen their analytical skills interpreting these texts against their historic and cultural backdrop.

The course has a strong focus on group work and interaction, and students should get a chance to hone their presentation and discussion skills.

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　In-class performance is assessed on the basis of attendance, quality of assignments submitted and in-class participation.
●**その他**　50%　Individual Presentations

科 目 名	Intensive Studies 33 (Creative Writing) WRITING, READING, & EDITING CREATIVE NONFICTION							
担当者名	カール　スティーブン・ロドニー							
英語	2単位	秋学期	木曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

Creative nonfiction is one of the most prevalent modes of discourse in the 21st century.It is everywhere from literary magazines to newspapers, books, blogs and websites. In this course, students will read, write, and investigate an array of creative nonfiction writing such as personal narrative/memoir, profile, essays on popular culture, and the lyric essay. Students will read a diverse range of works from various national traditions for their craft and technique.This course will expose students to read and write in forms ranging from popular, literary, and experimental. Some of the authors we will read are: Zadie Smith, Maggie Nelson, Rebecca Brown, Eula Biss, Hanif Abdurraqib, Virginia Woolf and others. Students will learn the core elements of prose writing: voice, scene, description, and structure. The final portfolio will consist of three original revised essays or a video essay.

A key component of the course is the workshop--where you will be asked to provide detailed and constructive feedback on peer work. Workshop participation is required by all students enrolled in the course.

The will be in-class writing prompts, discussions of readings and workshops so class participation is essential.

*This class is taught entirely in English. All of the required readings, class discussions, workshop, and writing will be in English.

授業の到達目標

By the end of the course you will have produced a significant body of writing in the form of:
1) three revised essays of around 2,500 words
2) various drafts of the following essays: personal narrative, pop culture, and lyric essay
3) written responses to weekly assignments. Approx. 500 words
4) written responses to peer work: Approx. 800 words
5) other writing generated through exercises assigned in-class

成績評価方法

20% Essays (drafts and final version)
15% Writing Assignments (response papers and writing exercises)
15% Class discussions and in-class writing prompts
20% Workshop Feedback/Peer Review
30% FINAL (Portfolio: 3 revised essays + Author's essay)
*Late submission of assignments will not be accepted.
*The expectation is that students will attend every class. Please note that (due to the strong emphasis placed on attendance/participation) absences and poor participation (coming to class unprepared, etc.) will have a significant effect on your final grade.

備考・関連ＵＲＬ

Please also note that in this course:

- You will be responsible for submitting your essays via Moodle & having hard-copies for in-class workshops
- Students who miss class are responsible for taking the initiative of contacting the instructor regarding make-up work, assignments, deadlines, etc.
- Given the high priority placed on peer-feedback, failure to provide feedback on a consistent level will make it difficult to receive a grade higher than satisfactory.
- Please note schedule, assignments, etc., are subject to change depending on the size of the class, needs of students, and availability of guest speakers.

科 目 名	Intensive Studies 51 (Seminar: Topics in Japanese Literature 1) Introduction to Classical Japanese							
担当者名	ウォーラー　ローレン　デイビッド							
英語	２単位	秋学期	火曜日	２時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This class provides a systematic introduction to classical Japanese, primarily focusing on Heian and medieval texts. During the periodic "Reading and Review" sessions, we will read classical texts chosen according to students' interest. Translations will be done into English. Although knowing modern Japanese will be a benefit, it is not necessarily a prerequisite for the class. Some students may choose to take this class while also learning modern Japanese. Students are expected to attend all classes. If it is necessary to be absent, the student should contact the professor and make up the work from the missed class.

授業の到達目標

Students will be able to demonstrate foundational skills necessary to read classical literature with a dictionary.

成績評価方法

●**試験**　40%　Final exam
●**レポート**　0%
●**平常点**　60%　Weekly participation (30%) and quizzes (30%)
●**その他**　0%

科 目 名	Intensive Studies 52 (Seminar: Topics in Japanese Literature 2) Reading and Translating Classical Japanese Waka Poetry							
担当者名	フィットレル　アーロン							
英語	２単位	夏クォーター	火４時限	金４時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

In this class students will attempt to translate classical Japanese literary works into English. In the first seven lessons, lectures are given on various problems in translating classical Japanese waka poems into foreign languages through some examples of earlier translations, then, followed by a group discussion, from the ninth lesson onwards, students translate waka poems into English and discussing about the various methods and innovations in their translation.

The working language is English. Final reports will be accepted both in English and in Japanese with an abstract in English.

授業の到達目標

1. Understand the translation methods of classical Japanese waka poetry into foreign languages and various aspects of the transmission of traditional Japanese culture.
2. Improve the ability to produce accurate translations of classical Japanes

成績評価方法

●**試験**　0%　なし
●**レポート**　40%　Final Project（A report on the translation of one waka poem and an explanation of its ingenuity.）
●**平常点**　60%　Weekly Responses and Presentations: 40%
Attendance and Class Participation: 20%
●**その他**　0%　特になし

科 目 名	Intensive Studies 53 (Seminar: Topics in Japanese Literature 3) Becoming Intimately Acquainted with Okakura Kakuzo							
担当者名	リーブズ　クリストファー							
英語	２単位	冬クォーター	火４時限	金４時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

【注意】 この授業は英語で行うもので、母語話者なみの英語力を前提としている。各回の宿題は英文30-40ページ程度。英語に自信のない学生は履修することをご遠慮ください。

IMPORTANT: This course will be taught exclusively in English, for which reason students are required to have more-or-less native-like English ability. Homework for each session will be about 30-40 pages of English reading. Students who are not confident in their English ability should refrain from registering for this course.

In this course, we will be focusing on the writings of Okakura Kakuzo 岡倉覚三. We will take our time with his texts and see what we can learn from him.

READ BEFORE REGISTERING: Be sure to carefully read over the attached document, found under 関連資料 (below), entitled "The Aim of Education & Important Classroom Practices (Reeves revised 3.1.2025)." You will be

expected to have understood the content of this document before coming to class.

授業の到達目標

This course will provide students with an opportunity to acquaint themselves with, and actively discuss, a variety of texts, as well as a variety of (hopefully) new ideas. It is hoped that students will come away from this course with a broader and more creative understanding of Japanese literature, culture, and intellectual history.

成績評価方法

As the attached document indicates, you will be evaluated primarily on your in-class oral performance. This means that your preparation before each session, along with your active participation in class, namely your ability to ask and answer questions and engage in intelligent in-class discussions, will count towards your final mark. There is NO final paper or final examination required for this course.

備考・関連ＵＲＬ

Please be aware that my courses generally require **a fair amount of close reading**. If you are not keen on reading, you had better choose a different course. All of the reading material will be in English, unless otherwise noted. All lecturing and in-class discussions will be conducted in English.

科 目 名	Intensive Studies 54 (Seminar: East Asian Cultures in Global Perspective 1) Food cultures through the art of fermentation in Japan, Korea and China							
担当者名	パルナス　アナト							
英語	２単位	冬クォーター	火１時限	金１時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

How does different cooking methods can reflect on cultural differences? How food culture became a prominent connector in the era of globalization?

In this course we will explore different methods of fermentation（in food and beverage）in Japan, Korea and China. Through a comparative approach we will discuss these neighboring countries cultural differences and similarities, and the reciprocity between food, geography, climate and people. “Food culture”—the way food is made, consumed, eating habits and manners—can also be viewed as a language. A language that is fundamental for communication; that is shaped by and shapes a culture; and attests about its people.

In our course we will read different articles and books, both academic and journalistic, as well as related audio-visual materials related to the subject. In addition, each student is expected to take part in at least one hands-on workshop（for example, making your own miso or kōji or visiting a sake brewery or rice vinegar artisan place or alike）and submit a written report about their experience.

We will also think of “ food culture ” from a historical perspective, as a local, transnational and global phenomenon, and consider its shifts in today’s growing popularity of food shows and workshops, social media accounts dedicated to food and “food travelling”.

授業の到達目標

By the end of the course students will be able to:

1. Refer to a place and its people through its unique food culture.
2. Develop an understanding of food as an international connector for different cultures from local, regional and global perspectives.
3. Gain knowledge and develop a practical skill regarding at least one fermentation method.

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　40%　Students need to submit a word report as well as to powerpoint presentation of their theme in class .

●**平常点**　30%　How actively students participate in discussions, as well as their engagements while other students presented their works in class, is evaluated as well.

●**その他**　30%　Presentation:

Mid-term presentation on a topic selected from assigned papers and a short presentation.

科 目 名	Intensive Studies 55 (Seminar: East Asian Cultures in Global Perspective 2) Ideas of Asia in Modernity and Postmodernity							
担当者名	アコスタ　アリエル　キャサリン							
英語	２単位	春クォーター	月４時限	木４時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

Japan’s relationship to conceptions of "Asia" has always been complex. After the Meiji Restoration, Fukuzawa Yukichi opined that Japan should "leave Asia" in order to modernize, while some years later Okakura Tenshin declared that "Asia is One." This course will explore various aspects of intra-Asian political and cultural exchange from the late 19th to early 21st century.

In the first part of this class we ’ll read accounts of anti-colonial Vietnamese students studying in turn-of-the-century Tokyo, Japanese thinkers visiting India, Miyazaki Toten ’s long friendship with Chinese revolutionary Sun Yat-sen, pan-Asian supporters from across the political spectrum, and Korean and Chinese authors living in the heart of imperial Japan to get a sense of sense of the complexities of "Asia" during a time of modernity and modernization, colonialism, imperialism, and war. In the second part of the class, we’ll consider how pop culture such music, film and manga has both shifted and reinforced ideas of "Asia" in the late 20th and early 21st century.

A detailed syllabus will be available before the start of the semester.

授業の到達目標

Students will encounter a variety of texts, including primary source historical documents（in English translation), works of literature, cultural creations and academic articles, with the aim of understanding

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　Final research paper
●**平常点**　30%　Class attendance and participation
●**その他**　30%　Weekly reading response posting

科 目 名	Intensive Studies 56 (Seminar: East Asian Cultures in Global Perspective 3)　Consumer society and popular culture							
担当者名	マルティネス　オリベル　リサンデル							
英語	２単位	秋クォーター	月４時限	木４時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This is a student-centered seminar where students are encouraged to participate actively in oral discussions and activities. Each session will include a short lecture by the professor but the main focus will be group discussions or debates.

The class will provide a general overview of the interplay between contemporary consumer society and popular culture. We will critically analyze the current organization and hierarchization of culture by studying the circuits of production, distribution, reception, and (re)interpretation of a selection of commodities. The case studies will be introduced mainly through Japan but will also take into account other examples from Asian countries. Additionally, students are encouraged to bring their own examples to further enrich the conversation.

授業の到達目標

• Develop critical ways of thinking about culture and contemporary consumer society.
• Aquire the basic theoretical tools to analyze popular culture.
• Become acquainted with issues of gender, identity, and nationalism as presented through popular culture.

成績評価方法

Eval:
小レポート
Short report 【割合　30 %】
ディスカッションに参加
Engagement in discussions 【割合　30 %】
期末発表
Final presentation 【割合　40 %】

備考・関連ＵＲＬ

Some contents of the class might change once the course starts. Students will be duly notified if that is the case.

科 目 名	Academic Skills (Integrated) s A							
担当者名	スミス　ガイ　アントニー							
英語	２単位	春学期	木曜日	４時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

In this course, you will experience what it is like to work in the global community e.g. a company or organization where English is generally used. The ability to work professionally in English will make you more competitive when applying for various career opportunities and increase your options for being considered for various exciting work-related tasks.

Through various hands-on activities, you will learn how to better participate in a variety of global community related situations and challenges.

授業の到達目標

You will become more:
•Familiar with English vocabulary and expressions relevant to working in the global community.
•Familiar with various situations and activities that take place in the global community world and their typical procedures.
•Able to read and listen to and understand relevant content in English.
•Able to write, talk about new products in English.
•Able to give effective presentations using visual and oral elements, in English.

成績評価方法

30% - 2 in-class reports.
30% - Participation.
You will be expected to actively participate in and contribute to a variety of activities in class. More details will be shared in class
40% - Presentations and other in-class tasks.

科 目 名	Academic Skills (Integrated) s B							
担当者名	スミス　ガイ　アントニー							
英語	2単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

In this course, you will experience what it is like to work in the global community e.g. a company or organization where English is generally used. The ability to work professionally in English will make you more competitive when applying for various career opportunities and increase your options for being considered for various exciting work-related tasks.

Through various hands-on activities, you will learn how to better participate in a variety of global community related situations and challenges.

授業の到達目標

You will become more:

•Familiar with English vocabulary and expressions relevant to working in the global community.

•Familiar with various situations and activities that take place in the global community world and their typical procedures.

•Able to read and listen to and understand relevant content in English.

•Able to write, talk about new products in English.

•Able to give effective presentations using visual and oral elements, in English.

成績評価方法

30% - 2 in-class reports.

30% - Participation.

You will be expected to actively participate in and contribute to a variety of activities in class. More details will be shared in class

40% - Presentations and other in-class tasks.

科 目 名	Academic Skills (Integrated) f							
担当者名	スミス　ガイ　アントニー							
英語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course is for students who want to improve their skills in communicating in English in the academic domain and in general educational contexts. The course will cover a range of useful skills including how to conduct professional action research in the academic context and learning how to deliver different types of academic presentations more effectively and clearly, for example definition and process presentations.

授業の到達目標

Students will be better able to:

•Deliver different types of effective academic presentations in English. E.g. Definition Presentations, Process Presentations, Presentation and Discussion Style Presentations

•Develop an educational related research question, conduct original research and write an analysis

•Analyze their communication style

:Critically discuss educational issues in contemporary Japan

成績評価方法

30% - 2 in-class reports.

30% - Participation.

You will be expected to actively participate in and contribute to a variety of activities in class. More details will be shared in class

40% - Academic related presentations and other tasks.

科 目 名	Academic Skills (Online) s A							
担当者名	エセックス　ジェームス							
英語	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン]フルオンデマンド

授業概要

This fully online course is designed for students to develop their general English skills using 'real life' English language examples found on the internet. Each class will be based around a single topic and each class will have three parts: listening, reading, and online discussion. Students must complete all parts of each class before moving on to the next class. There will be two short tests: one in the middle of the course and one at the end of the course.

授業の到達目標

Students will work on each unit independently, following the course schedule. Evaluation will be based on performance on answers to the reading and listening questions, together with participation in the online discussion. Students should:

•Practice summarizing ideas and giving simple opinions

•Develop a variety of reading strategies

•Improve listening

•Develop the ability to learn independently

成績評価方法
●**試験**　30%
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%
●**その他**　0%

備考・関連URL
受講方法については、初回の授業で説明します。この指示に必ず従ってください。

科 目 名	Academic Skills (Online) s B							
担当者名	高杉　キャサリン　リン							
英語	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要
This fully online course is designed for students to develop their general English skills using 'real life' English language examples found on the internet. Each class will be based around a single topic and each class will have three parts: listening, reading, and online discussion. Students must complete all parts of each class before moving on to the next class. There will be two short tests: one in the middle of the course and one at the end of the course.

授業の到達目標
Students will work on each unit independently, following the course schedule. Evaluation will be based on performance on answers to the reading and listening questions, together with participation in the online discussion. Students should:
•Practice summarizing ideas and giving simple opinions
•Develop a variety of reading strategies
•Improve listening
•Develop the ability to learn independently

成績評価方法
●**試験**　30%
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%
●**その他**　0%

備考・関連URL
受講方法については、初回の授業で説明します。この指示に必ず従ってください。

科 目 名	Academic Skills (Online) s C							
担当者名	大江　公樹							
英語	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要
This fully online course is designed for students to develop their general English skills using 'real life' English language examples found on the internet. Each class will be based around a single topic and each class will have three parts: listening, reading, and online discussion. Students must complete all parts of each class before moving on to the next class. There will be two short tests: one in the middle of the course and one at the end of the course.

授業の到達目標
Students will work on each unit independently, following the course schedule. Evaluation will be based on performance on answers to the reading and listening questions, together with participation in the online discussion. Students should:
•Practice summarizing ideas and giving simple opinions
•Develop a variety of reading strategies
•Improve listening
•Develop the ability to learn independently

成績評価方法
●**試験**　30%
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%
●**その他**　0%

備考・関連URL
受講方法については、初回の授業で説明します。この指示に必ず従ってください。

科 目 名	Academic Skills (Online) s D							
担当者名	リアン　チ　ヤン　リッキー							
英語	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要
This fully online course is designed for students to develop their general English skills using 'real life' English language examples found on the internet. Each class will be based around a single topic and each class will have

three parts: listening, reading, and online discussion. Students must complete all parts of each class before moving on to the next class. There will be two short tests: one in the middle of the course and one at the end of the course.

授業の到達目標

Students will work on each unit independently, following the course schedule. Evaluation will be based on performance on answers to the reading and listening questions, together with participation in the online discussion. Students should:

•Practice summarizing ideas and giving simple opinions
•Develop a variety of reading strategies
•Improve listening
•Develop the ability to learn independently

成績評価方法

●**試験**　30%
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%
●**その他**　0%

備考・関連URL

受講方法については、初回の授業で説明します。この指示に必ず従ってください。

科 目 名	Academic Skills (Online) f A							
担当者名	エセックス　ジェームス							
英語	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

This fully online course is designed for students to develop their general English skills using 'real life' English language examples found on the internet. Each class will be based around a single topic and each class will have three parts: listening, reading, and online discussion. Students must complete all parts of each class before moving on to the next class. There will be two short tests: one in the middle of the course and one at the end of the course.

授業の到達目標

Students will work on each unit independently, following the course schedule. Evaluation will be based on performance on answers to the reading and listening questions, together with participation in the online discussion. Students should:

•Practice summarizing ideas and giving simple opinions
•Develop a variety of reading strategies
•Improve listening
•Develop the ability to learn independently

成績評価方法

●**試験**　30%
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%
●**その他**　0%

備考・関連URL

受講方法については、初回の授業で説明します。この指示に必ず従ってください。

科 目 名	Academic Skills (Online) f B							
担当者名	高杉　キャサリン　リン							
英語	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

This fully online course is designed for students to develop their general English skills using 'real life' English language examples found on the internet. Each class will be based around a single topic and each class will have three parts: listening, reading, and online discussion. Students must complete all parts of each class before moving on to the next class. There will be two short tests: one in the middle of the course and one at the end of the course.

授業の到達目標

Students will work on each unit independently, following the course schedule. Evaluation will be based on performance on answers to the reading and listening questions, together with participation in the online discussion. Students should:

•Practice summarizing ideas and giving simple opinions
•Develop a variety of reading strategies
•Improve listening
•Develop the ability to learn independently

成績評価方法

●**試験**　30%
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%

●**その他**　0%

備考・関連URL

受講方法については、初回の授業で説明します。この指示に必ず従ってください。

科 目 名	Academic Skills (Online) f C							
担当者名	大江　公樹							
英語	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

This fully online course is designed for students to develop their general English skills using 'real life' English language examples found on the internet. Each class will be based around a single topic and each class will have three parts: listening, reading, and online discussion. Students must complete all parts of each class before moving on to the next class. There will be two short tests: one in the middle of the course and one at the end of the course.

授業の到達目標

Students will work on each unit independently, following the course schedule. Evaluation will be based on performance on answers to the reading and listening questions, together with participation in the online discussion. Students should:

•Practice summarizing ideas and giving simple opinions
•Develop a variety of reading strategies
•Improve listening
•Develop the ability to learn independently

成績評価方法

●**試験**　30%
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%
●**その他**　0%

備考・関連URL

受講方法については、初回の授業で説明します。この指示に必ず従ってください。

科 目 名	Academic Skills (Online) f D							
担当者名	リアン　チ　ヤン　リッキー							
英語	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

This fully online course is designed for students to develop their general English skills using 'real life' English language examples found on the internet. Each class will be based around a single topic and each class will have three parts: listening, reading, and online discussion. Students must complete all parts of each class before moving on to the next class. There will be two short tests: one in the middle of the course and one at the end of the course.

授業の到達目標

Students will work on each unit independently, following the course schedule. Evaluation will be based on performance on answers to the reading and listening questions, together with participation in the online discussion. Students should:

•Practice summarizing ideas and giving simple opinions
•Develop a variety of reading strategies
•Improve listening
•Develop the ability to learn independently

成績評価方法

●**試験**　30%
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%
●**その他**　0%

備考・関連URL

受講方法については、初回の授業で説明します。この指示に必ず従ってください。

講 義 内 容

選 択 外 国 語

科 目 名	フランス語を読む1（文学1）							
担当者名	福山　智							
仏語	２単位	春学期	金曜日	５時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

フランス語既修者（2年生以上）が対象となります。

特に2年生は文法事項を修めたばかりで実際に読むためにその知識を運用した経験がほとんどないでしょう。また3年生以上でもしばらくブランクがある場合も考えられます。したがって前期は、文字数の少ない韻文詩を読みましょう（だからといって簡単に読めるとは限りませんが）。

前半は比較的読みやすい20世紀の作品をいくつか取り上げます。それから、せっかく韻文を読む機会なので、後半は、フランス詩法のイロハにも目くばせしつつ、19世紀近代詩の幕開けを告げる詩人たち、ボードレール、ランボー等の代表的な韻文作品を読みます。時には、実際に読んだ作品とゆかりのある映像なども観る予定です。

どれも知っておいて損のない作品ばかりです。フランス語力のみならず知識としても還元できればと思います。

フランス語を読む楽しみ、原文でしかわからない味わいを感じること、またそれだけではなく、作品の背後にある、それぞれの歴史、文化にもふれることでより豊かにテキストに接すること、これが当講義の主眼となります。従って、2年生のみならず、3年生、4年生、さらに上の学生の受講も、もちろん歓迎です。またオープン科目でもあります。他学部からの受講生もおおいに歓迎します。このようにダイレクトにひたすら文学的な作品を読むという講義は他学部ではなかなかお目にかかれるものではないかもしれません。そうした機会を逃さずに、臆することなく参加してください。

今年度2025年度からは課題をやめることにしました。**教場にて「辞書持ち込み可」の和訳の期末試験をおこないます。おおよそ半分は授業でおこなったテクスト、残り半分は実力で訳してもらいます。**

授業の到達目標

フランス語で読む楽しみ、継続して読もうという意欲を感じるようになること。また文化一般にも興味を抱くようになること。

成績評価方法

●**試験**　80%　　仏文和訳（授業及び実力問題）。
辞書持ち込み可。
●**レポート**　0%　　特になし。
●**平常点**　20%　　授業での積極性。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	フランス語を読む2（哲学）【オンライン授業（リアルタイム配信）】ベンサムとラカンから考えるフィクション論							
担当者名	立花　史							
仏語	２単位	春学期	火曜日	５時限	２年以上	—	合併科目	フル【オンライン】リアルタイム配信

授業概要

本講座では、フランスで近年刊行されたフィクション論をひもといて、現代の認知科学に向かってゆくフィクション論の動向を学習する一環として、ジャック・ラカンの現実界の概念とともに、1960年代以降のフランスの論壇や文壇におけるフィクションの位置づけの分析を読んでゆこうと思います。

二十数頁の内容です。1回の授業で、だいたい1頁、予習すればよい感じになります。ゆっくり読んで、内容を楽しみましょう。春学期は、内容の重要性や面白さで選んでいます。平易なテクストを講読したい人は、秋学期の方を検討してみてください。

中級者を主な対象としていますが、学部生から院生まで、学年や所属は幅広く歓迎します。

準備・環境がととのえば、視聴覚教材も利用したいと思います。

授業の到達目標

本講座の到達目標は、論述のフランス語に慣れることです。論述文は、初級のフランス語からすると、堅苦しく見えますが、一人の書き手に特化した場合、語彙、熟語、文構造はかなり限定されているので、読んでいるうちに、パターンがつかめてくると思います。

もちろん本講座は、フランス語圏の思想・哲学その他の学問に関する教養を深め、さまざまなテーマに関して自主的に考える機会を提供する場となることも目指しています。（ただし学問内容そのものを専門的に講ずる授業ではないのであしからず。）

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　最終週の前週に、課題を提示します。既習箇所と未習箇所から一箇所ずつ。最終週の当日までに、課題としてオンラインで提出してもらうと同時に、最終週のなかで、課題箇所の訳をオンラインで確認します。
●**平常点**　50%　　普段から参加している方が、授業やレポートで求められる講読上の注意点がよくわかるかと思います。
●**その他**　0%

備考・関連URL

本講座は、リアルタイム配信でおこないます。

オープン科目なので、いろんな学部の人が集まります。

初回は事前か当日に配布したテクストを見ながら、授業の進め方を説明します。登録を検討している人は、接続環境の確認もあるので、なるべく初回から参加してもらえると助かりますが、もちろん二次、三次登録からの参加も歓迎します。

昨年度も少し読んだので、オリエンテーションで解説の上、途中から詠み進める形になります。

科 目 名	フランス語を読む3（芸術・文化）　フランスの文学作品をとにかく読んでいくうちに、フランス語が自力で読めるようになる							
担当者名	中島　万紀子							
仏語	２単位	春学期	火曜日	３時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

フランスの、おもに文学のテクストをとりあげて、とにかく辞書さえあれば自力でフランス語の本格的な文章を読むことができるようになる。

フランス文学の有名な作品を、読むにたやすいものから順に取り上げて、数多く読んでいくので、フランス文学の名作について知る機会も兼ねている。
フランス語をひととおり学習した人を対象としているが、フランス語に少々自信のない人でも、文法事項も復習しながらフランス語読解のコツをおさえていくので、じっさいのフランス語の文章を自分で読めるようになる……はずである。
取りあげるテーマに関しては、学期の初めにアンケートをおこなうので、可能な限り皆さんの希望にも添いたいと考えている。
毎回短めの文章を読みきりというかたちで取りあげる。新型コロナウイルスの感染状況によるが、基本的には対面で授業をおこなう予定である。

授業の到達目標

じっさいのフランス語の文章を、自分で辞書をひいて読めるようになること。
名作に触れるうちに、フランス文学・文化への興味も増すことが期待される（というか、当方はそれを大いに期待している！）。

成績評価方法

●**試験**　60%　　学期末に、その学期に授業で読んだ文章の日本語訳を、辞書なしでおこなう試験を課す。1文2点として30文の日本語訳を出題して60点満点とする。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。
●**平常点**　40%　　出席点を1回2点として30点、そのほか課題（次の週に読む文章の日本語訳）提出を1回2点、上限を5回提出10点として合わせて40点とする。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

新型コロナウイルスの感染が拡大した場合には、オンデマンドビデオ視聴によるオンライン授業に切り替える。その場合は成績評価については、課題（日本語訳）提出の配点を高くし、学期末の試験の代わりにフランス文学作品の読後感想文提出を課すこととする。

科 目 名	フランス語を読む4（現代社会） 極右の台頭とグローバリズム							
担当者名	梶田　裕							
仏語	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

フランスに限らず、世界中で、極右の台頭が叫ばれるようになって、久しい年月が経っています。この現象は、しばしばグローバリゼーションに対する反動として説明されます。グローバリゼーションの中で激化する競争や「階級落ち」の脅威が、その想定された原因としての「移民」や「外国人」に対する嫌悪を生み出し、この「下からの」人種差別感情に呼応して、自国民第一主義や移民排斥などを唱える極右政党への支持が広がり、そしてまた、そうした政党の支持層からの票を狙った既存の政党が右傾化していくというわけです。しかし、アメリカにおけるドナルド・トランプの再選とイーロン・マスクをはじめとするテック企業の経営者によるトランプ支持は、極右的勢力とグローバル資本主義が利害を共有していることを明らかにしました。実際、格差、失業、治安の悪化や国の借金の増大の原因として「外国人」を名指す言説は、グローバリズムが資本主義の変革を行なっていく過程で、批判の矛先をよそへと向けるために「上から」押し付けられたものです。したがって、今日世界中で顕著となっている極右の台頭という現象は、グローバリズムに対する反動としてではなく、むしろその帰結として考えられる必要があります。この授業では、Stefano Palombariniの論考« L'extrême droite ou les métamorphoses du néolibéralisme »（「極右、あるいはネオリベラリズムの変容」）を読み、極右が、グローバリズムの根底にあるネオリベラリズムと同じ思想を共有していることを確認したいと思います。

授業の到達目標

中級から上級程度のフランス語を読むための語学力・読解力を身につけること。また、現代社会が抱えている様々な問題をより深く理解すること。

成績評価方法

毎回の予習や授業への参加50%、筆記試験50%で評価する。

備考・関連URL

初回の授業の際、仏和辞書を持参すること。

科 目 名	フランス語を読む5（高度な読解力の養成）							
担当者名	小出石　敦子							
仏語	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

このクラスは、高度なフランス語の読解力を身につけることを目的としています。原則、1年以上のフランス語学習歴があれば履修できます。とはいえ、初級文法の教科書に出てくるような短い文ではなく、ある程度まとまりのある、難度をもったフランス語の文章が読めるようになることを目指します。授業で扱う予定のテクストも中級以上のものになります。初級文法では出てこない文法事項も出てくると思いますが、解説プリント等を使って適宜説明していきますので安心してください。大学院受験にそなえたい人、将来的にフランス語を使って仕事をしたい人、フランス語の文献を読みたい人、フランス留学を考えている人、フランス語検定試験対策をしたい人など、それぞれのニーズに合わせてこの授業を活用してもらえると思います。
テクストは前もって毎回こちらで配布します。予習をしてきてもらい、授業で訳を行い、文法を確認していくという流れになります。一つの作品をじっくり読むのではなく、毎回さまざまに異なったジャンルのテクストを取り上げる予定です。古典から現代にいたる小説の一編、文学評論の一節、社会や文化についての評論文、随筆等、多くのフランス語のテクストと接することで、フランス人特有の感性や考え方についての知見を広げることができると思います。また、入試対策も考えて主要大学院の過去問題も積極的に取り上げていきます。
テクストあるいは作品など、学期の初めに参加者の意見を聞いて詳しいことを決めるつもりです。また授業中の質問も大歓迎です。

授業の到達目標

ある程度まとまりのあるフランス語の文章を読んで、文脈に沿った語彙、表現の使い方、文法の内容を理解し、日本語に訳す

ことができるようになること。

成績評価方法

●**試験**　50%　　学期末の記述試験の内容が評価対象。
●**レポート**　0%　　レポートは実施しません。
●**平常点**　50%　　出席状況と予習の状況が評価対象。
●**その他**　0%　　特にありません。

備考・関連URL

毎回必ず辞書を携行してください。

科 目 名	フランス語を読む6（文学1）							
担当者名	福山　智							
仏語	2単位	秋学期	金曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

前期（春期）での自信や興味を糧に、後期はより多くのフランス語を読むことを目指します(とはいえ、後期(秋期)からの履修でもまったく問題ありません)。

散文詩や小説作品を中心に徐々に難易度の高いテクストへとステップ・アップしていきましょう。名文の誉れ高い作品や、原文で読んでこそ魅力が伝わる文章を取り上げます。時には作品が引用されている映画、映像にも時間が許す限り目を通す予定です。当講義はテクストのつまみぐいのようなものです。フランス語力を培うのみならず、今後の個人的な興味や研究対象を選ぶヒントになるよう期待しています。

対象は、フランス語既修者（2年生以上)です。またオープン科目でもあります。文学作品を読むことに垣根は有りません。他学部からの受講生もおおいに歓迎します。

後期に関しては、カリキュラムが未定のところがあります。というのも、一部、受講者からのリクエストを優先してテクストを選定しているからです。あくまでも一部なので、全員のリクエストにこたえることはできませんが、どしどし読みたいテクストを提案してください。フランス人による作品ではないもの、フランス語「訳」作品を読むこともやぶさかではありません。必ず取り上げるテクストのみを授業計画欄に明記しています（授業計画欄を参考にしてください）が、リクエストが名案なら計画をかえたってかまわないとさえ思っています。

フランス語を読む楽しみ、原文でしかわからない味わいを感じること、またそれだけではなく、作品の背後にある、それぞれの歴史、文化にもふれることでより豊かにテキストに接すること、これが当講義の主眼となります。従って、2年生のみならず、3年生、4年生、さらに上の学生の受講も、もちろん歓迎です。またオープン科目でもあります。他学部からの受講生もおおいに歓迎します。このようにダイレクトにひたすら文学的な作品を読むという講義は他学部ではなかなかお目にかかれるものではないかもしれません。そうした機会を逃さずに、臆することなく参加してください。

今年度2025年度から課題は課しません。「辞書持ち込み可」のテスト（和訳）を期末におこないます。授業内であつかったテキストとおおよそ半分ぐらいを実力問題とします。

授業の到達目標

フランス語で読む楽しみ、継続して読もうという意欲を感じるようになること。また文化一般にも興味を抱くようになること。

成績評価方法

●**試験**　80%　　仏文和訳。
辞書持ち込み不可。
●**レポート**　0%　　特になし。
●**平常点**　20%　　授業での積極性。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

問題文は、文法的なウィークポイントから、またただ単純に面白い文章だからという観点で選択します。
評価は、クオリティーだけではなく、成長率もおおいに考慮したいと思っています。おそれずに、ひるまずに、めげずにチャレンジしてください。

科 目 名	フランス語を読む7（哲学）【オンライン授業（リアルタイム配信)】平易な論述文に慣れよう							
担当者名	立花　史							
仏語	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】リアルタイム配信

授業概要

本講座では、フランス語について一般向けに書かれた平易な解説書を読みます（春学期よりかなり平易です)。フランス語にかぎらず、欧州言語について、心理学の知見を用いた新しい情報を知ることができます。哲学味はかなり薄いかもしれませんが、ジェンダーに多少でも興味のある人には参考になる内容です。

（テキストの）著者にとってフランス語は第二言語くらいなのかなという感じで、シンプルな構文で論述されています。初級文法を終えたくらいの人でも、なんとかついていけるくらいで、中級の科目を取ったことのある人には、かなりやさしめの内容かもしれません。そのくらいの感じで、気楽に受講してください。

※春学期（フランス語をを読む2）のテクストがむずかしいと感じた人でも、こちらのテクストはだいぶ読みやすいと思うので、あきらめずに取り組んでみてください。

中級者を主な対象としていますが、学部生から院生まで、学年や所属は幅広く歓迎します。

授業の到達目標

本講座の到達目標は、論述のフランス語に慣れることです。一人の書き手に特化した場合、語彙、熟語、文構造はかなり限定されているので、読んでいるうちに、パターンがつかめてくると思います。

もちろん本講座は、フランス語圏の思想・哲学その他の学問に関する教養を深め、さまざまなテーマに関して自主的に考える機会を提供する場となることも目指しています。(ただし学問内容そのものを専門的に講ずる授業ではないのであしからず。)

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　50%　　最終週の前週に、課題を提示します。既習箇所と未習箇所から一箇所ずつ。最終週の当日までに、課題としてオンラインで提出してもらうと同時に、最終週のなかで、課題箇所の訳をオンラインで確認します。

●**平常点**　50%　　普段から参加している方が、授業やレポートで求められる講読上の注意点がよくわかるかと思います。

●**その他**　0%

備考・関連URL

本講座は、リアルタイム配信でおこないます。

オープン科目なので、いろんな学部の人が集まります。

初回はテクストの配布をおこないます。登録を検討している人は、接続環境の確認もあるので、なるべく初回から参加してもらえると助かりますが、もちろん二次、三次登録からの参加も歓迎します。

昨年度も少し読んだので、オリエンテーションで解説の上、途中の章から詠み進める形になります。

科 目 名	フランス語を読む8（芸術・文化）　フランスの文学作品をとにかく読んでいくうちに、フランス語が自力でサクサク読めるようになる							
担当者名	中島　万紀子							
仏語	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

基本的には、春学期の「フランス語を読む3（芸術・文化）」のつづきであるが、秋学期だけ単独で受講することもできる。（しかし、春学期のつづきではあるので、春学期から履修している人はレベルアップしているはずである。したがって、秋学期から履修する人は、周りのレベルに合わせて自助努力する必要が出てくるかもしれない。）

春学期と同様、フランスの、おもに文学のテクストをとりあげて、とにかく辞書さえあれば自力でフランス語の本格的な文章を読むことに慣れていく。フランス語の有名な作品を、できるだけ難易度順に数多く読んでいくので、フランス文学の名作について知る機会も兼ねている。

フランス語をひととおり学習した人を対象としているが、フランス語に少々自信のない人でも、文法事項も復習しながらフランス語読解のコツをおさえていくので、じっさいのフランス語の文章を自分で読めるようになる……はずである。

取りあげるテーマに関しては、学期の初めにアンケートをおこなうので、可能な限り皆さんの希望にも添いたいと考えている。

毎回短めの文章を読みきりというかたちで取りあげる。

新型コロナウイルスの感染状況によるが、基本的には対面で授業をおこなう予定である。

授業の到達目標

じっさいのフランス語の文章を、自分で辞書をひいて読むのに慣れること。

名作に触れるうちに、フランス文学・文化への興味も増すことが期待される（というか、当方はそれを大いに期待している！）。

成績評価方法

●**試験**　60%　　学期末に、その学期に授業で読んだ文章の日本語訳を、辞書なしでおこなう試験を課す。1文2点として30文の日本語訳を出題して60点満点とする。

●**レポート**　0%　　レポートは課さない。

●**平常点**　40%　　出席点を1回2点として30点、そのほか課題（次の週に読む文章の日本語訳）提出を1回2点、上限を5回提出10点として合わせて40点とする。

●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

新型コロナウイルスの感染が拡大した場合には、オンデマンドビデオ視聴によるオンライン授業に切り替える。

その場合は成績評価については、課題（日本語訳）提出の配点を高くし、学期末の試験の代わりにフランス文学作品の読後感想文提出を課すこととする。

科 目 名	フランス語を読む9（現代社会）　極右とメディア							
担当者名	梶田　裕							
仏語	2単位	秋学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

フランスでは、昨年のヨーロッパ議会選挙および国民議会選挙において、極右政党が多くの議席を獲得しました。そしてフランスに限らず、世界中で極右政党が勢力を拡大しています。この現象において、メディアが大きな役割を果たしていることは明らかです。フランスではボロレやアルノーをはじめとする数名の資本家の手に、90%のメディアが集中していると言われています。ドナルド・トランプとイーロン・マスクの同盟が示しているように、グローバル資本主義は今日、その支配を永続的なものにするために、極右的な主張を積極的に普及させようとしており、そのために様々なメディアを利用しています。この授業では、フランスにおいて、大手メディアがどのようにして極右の主張やテーマのプロモーションを行ってきたのかを、Pauline Perrenotの論考«Médias et extrême droite : de la banalisation à la promotion »（「メディアと極右：大衆化からプロモーションへ」）を読みながら考えたいと思います。

授業の到達目標

中級から上級程度のフランス語を読むための語学力・読解力を身につけること。また、現代社会が抱えている様々な問題をより深く理解すること。

成績評価方法

毎回の予習や授業への参加50%、筆記試験50%で評価する。

備考・関連URL

初回の授業の際、仏和辞書を持参すること。

科 目 名	フランス語を読む10（高度な読解力の養成）							
担当者名	小出石　敦子							
仏語	２単位	秋学期	火曜日	４時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

このクラスは、高度なフランス語の読解力を身につけることを目的としています。原則、1年以上のフランス語学習歴があれば履修できます。とはいえ、初級文法の教科書に出てくるような短い文ではなく、ある程度まとまりのある、難度をもったフランス語の文章が読めるようになることを目指します。授業で扱う予定のテクストも中級以上のものになります。初級文法では出てこない文法事項も出てくると思いますが、解説プリント等を使って適宜説明していきますので安心してください。大学院受験にそなえたい人、将来的にフランス語を使って仕事をしたい人、フランス語の文献を読みたい人、フランス留学を考えている人、フランス語検定試験対策をしたい人など、それぞれのニーズに合わせてこの授業を活用してもらえると思います。

テクストは前もって毎回こちらで配布します。予習をしてきてもらい、授業で訳を行い、文法を確認していくという流れになります。一つの作品をじっくり読むのではなく、毎回さまざまに異なったジャンルのテクストを取り上げる予定です。古典から現代にいたる小説の一編、文学評論の一節、社会や文化についての評論文、随筆等、多くのフランス語のテクストと接することで、フランス人特有の感性や考え方についての知見を広げることができると思います。また、入試対策も考えて主要大学院の過去問題も積極的に取り上げていきます。

テクストあるいは作品など、学期の初めに参加者の意見を聞いて詳しいことを決めるつもりです。また授業中の質問も大歓迎です。

授業の到達目標

ある程度まとまりのあるフランス語の文章を読んで、文脈に沿った語彙、表現の使い方、文法の内容を理解し、日本語に訳すことができるようになること。

成績評価方法

●**試験**　50%　　学期末の記述試験の内容が評価対象。
●**レポート**　0%　　レポートは実施しません。
●**平常点**　50%　　出席状況と予習の状況が評価対象。
●**その他**　0%　　特にありません。

備考・関連URL

毎回必ず辞書を携行してください。

科 目 名	フランス語で表現する1（会話初級）　A							
担当者名	クーショ　マリナ							
仏語	２単位	春学期	木曜日	５時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業では、現実的な状況や場面に即した会話表現を習い、実際に役立つフランス語を身につけていきます。各テーマの初めに短い動画を見て、理解します（言葉やジェスチャーなど）。その後、その例にならって、会話練習を行います。

授業の到達目標

フランス語の基礎的な知識を獲得し、フランス文化を目と耳で感じながら学ぶこと。
フランス語による初歩的なコミュニケーション能力を身につけること。

成績評価方法

60%：テスト　　各テーマについて、オリジナルなやりとりを考え、演じる。（ペアの評価＋個人評価）
40%：出席＋宿題＋グループワークにおける貢献度を評価します。

科 目 名	フランス語で表現する1（会話初級）　B							
担当者名	E. ヴィエル							
仏語	２単位	春学期	水曜日	５時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

次の二つのことを目指した授業です。

まずは効果的に気持ちを伝えるための初級レベルの表現を身に着けて、旅行でもそれほど困らず、フランス語話者とも関係を築けるくらいになることが目標です。ですから授業の方法は口頭表現を中心にしたものになります。

もう一つは、はっきりとした正確なフランス語の発音を身に着けることも目指します。発音とイントネーションについては、段階的にいろいろな練習をしていきましょう。フランスの演劇学校で使われている練習方法をやりやすい形にアレンジして、発音とイントネーションを鍛えるつもりです。音声を識別する現代的な道具なども使ってみたいと思います。

授業の到達目標

概要に書いた通り、初級レベルの実践的な会話能力と、正確なフランス語の発音を身に着けることが目標です。

成績評価方法

●**試験**　80%　　学期末に会話テスト
●**レポート**　0%
●**平常点**　0%
●**その他**　20%　　オンライン宿題の課題

科 目 名	フランス語で表現する2（会話中級） A 日常生活の表現から意見の発表までフランス語で言う							
担当者名	ヴァンシンテヤン　カティ							
仏語	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

フランス語の発音を個人的に上達しながら、教科書のヴィデオや他のヴィデオの教材に 基づいて、ロールプレーイングと自由の会話を実施する。

授業の到達目標

日常生活の言葉と表現を身につける中、言葉の自然度を高めることを目指す。

成績評価方法

●**試験**　20%　L'examen servira d'appoint.
●**レポート**　20%　Pas de devoir écrit mais quelques préparations de mini-exposés.
●**平常点**　60%　La notation sera essentiellement basée sur la présence, la participation active, la préparation des cours, et les tests de vocabulaire hebdomadaires.
●**その他**　0%　なし

科 目 名	フランス語で表現する2（会話中級） B フランス語で口頭表現 S'exprimer en français							
担当者名	F. ビゼ							
仏語	2単位	春学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

多くのグループ・ワークをこなすことで、フランス語の会話力を高めていこうとする授業です。文学的なテキストや新聞記事、ビデオなどさまざまな材料を用います。扱うトピックも多岐にわたり、教師が用意したリストから生徒自身が選ぶ。

Les étudiants seront invités tout au long de ce cours à participer à de nombreuses activités de groupe. Les supports des discussions seront diversifiés: textes littéraires, articles de presse, vidéos, court-métrages, chansons... Les thèmes abordés sont très variés et les élèves choisissent eux-mêmes parmi une liste préparée par l'enseignant.

授業の到達目標

Acquérir des automatismes de la langue orale
自動的な口語能力を身につける
Enrichir son vocabulaire par le jeu
遊びを通して語彙を増やす
Travailler sur des situations d'énonciation précises
具体的なスピーキングシチュエーションに取り組む
S'entraîner à l'élaboration d'exposés oraux
口頭発表の練習

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　Discussion finale
●**その他**　30%　Activité en classe

備考・関連URL

Nonなし

科 目 名	フランス語で表現する3（作文初級） A							
担当者名	山本　佳生							
仏語	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

フランス語の文法を一通り履修した学生が簡単な文章をフランス語で書けるようになるための授業です。いままで習い覚えた語彙や文法事項を再度確認しながら，フランス語で文章を組み立てる方法を学びます。また繰り返しの作文練習によって表現の型を身に着け，最終的には書くだけではなく読むことにおいても適用できるような綜合的なフランス語能力を養います。受講者のみなさんの求めるレベルに応じて進度を変えることがあります。

授業の到達目標

①文法事項を確認しながら短い文章をフランス語で書けるようになる
②教科書の例をさまざまに変奏させ，さらにはオリジナルの文章を組み立てられるようになる
③フランス語の文章の型や構造を見抜く力を養う

成績評価方法

●**試験**　50%　第14回目の授業時間内に試験を実施し，理解度の確認をおこないます。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　授業中の取り組みと出席率を総合的に判断します
●**その他**　0%

科 目 名	フランス語で表現する3（作文初級） B フランス語で発信しよう！							
担当者名	中野　茂							
仏語	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業では、すでにフランス語の初級文法を学んだ人を対象に、「フランス語で発信するテクニック」をクイズ形式も取り入れながら、楽しく学んでいきます。この科目の履修を通して幅広いトピックに対応できる外国語能力を身につけ、フランス人との日常的コミュニケーション能力や専門課程で活用できる能力を養います。

まず今までに習った文法事項の復習から始め、それらを実際に活用しながらフランス語で簡単な文章が作れるようになること、さらには辞書に頼ることなく日常生活（自分や家族、自分の住む街、趣味、日本の行事、クラブ活動、料理の作り方など）をフランス語で発信できるようになることをめざします。さらに、実際にフランス人生徒とのポストカードや手紙のやり取りを行うので、生きたフランス語を発見することになります。また、フランス語で表現する際にフランス文化の理解も不可欠になってくるため、フランス文化の紹介も行っていきます。

授業は以下の通り進めていきます。

・クイズ：基本的な日本語のフレーズをどのようなフランス語にするかをクイズを通して紹介
・穴埋め問題や並び替え問題を中心とした文法項目の復習
・文をつくる際に必要な基本重要語彙や表現をテーマごとに紹介
・受講生が書いた文の添削
・シャンソンなどを通したフランス文化の紹介およびフランス語基本語彙の紹介

単に日本語を直訳してもフランス語にならない場合が多くあります。日本語とは違う「フランス語のしくみや発想」を学び、直訳ではなく「フランス語らしい発想」で表現するテクニックを紹介していきます。

＊仏検の4級〜3級を目指している人向けのレベルです。

授業の到達目標

・フランス文化の理解
・フランス語初級文法の復習
・各テーマを語る際に必要な重要語彙および重要表現の習得
・日常生活や日本文化を「フランス語らしい発想」で発信できる能力の習得

成績評価方法

●**試験**　40%　　理解度の確認40%
●**レポート**　46%　　Waseda Moodleで提出してもらう課題46%
●**平常点**　14%　　出席点14%
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	フランス語で表現する4（作文中級） Traduire, écrire, composer							
担当者名	O. デュスッド							
仏語	2単位	春学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

Traduire, c'est-à-dire chercher l'équivalent　français le plus juste aux expressions japonaises, est spécialement intéressant　puisque cela vous permettra de découvrir votre langue maternelle sous un nouvel　angle.

Composer directement en français vous donnera　une expérience d'étrangeté et de　liberté en vous obligeant à vous détacher un moment des modes de pensée liés au　japonais.

翻訳すること、つまり日本語の表現に相当する最も正確なフランス語を探すことは、母語を新しい角度から発見できるという意味で、とりわけ興味深いものです。

また直接フランス語で書くことは、みなさんを日本語と結びついた考え方から引き離し、不可思議で自由な体験を与えてくれるに違いありません。

Deux types d'exercices seront alternativement proposés :

-la　traduction en français d'un court texte japonais

-la　rédaction d'un texte directement en français à partir d'un texte　français lu en classe.

Toutes les　deux semaines, nous reprendrons les traductions faites à la maison（exercices　de vocabulaire et exercices de grammaire portant sur des points spécifiques）. Un nouveau texte japonais sera donné. La traduction sera remise dix jours après.

La semaine suivante, les étudiants liront un texte français et commenceront à rédiger leur propre texte en français, d'après les consignes proposées. Ce texte sera remis dix jours plus tard.

2種類の演習が交互に提案されます。

-短い日本語テキストのフランス語への翻訳、

-クラスで読んだフランス語のテキストから直接フランス語で書かれたテキストを書くこと。

2週間ごとに、自宅での翻訳の課題を出します（語彙の訓練と特定のポイントに関する文法練習）。毎回新しい日本語テキストが提供され、その翻訳を10日後に提出してもらいます。

翌週、生徒はフランス語のテキストを読み、提案された指示に従ってフランス語で自分のテキストを書き始めます。このテキストは10日後に提出してもらいます。

この授業は作文のレベルⅢに当たる授業ですが、レベルⅡの授業（作文初級）を終えていないと受講できないわけではありません。レベルⅠ（基礎外国語）を終えた段階の人でも、集中的にフランス語力を伸ばしたい方は、 ぜひ積極的に受講してみてください。それぞれのレベルに合わせた参加のし方を提案できるように工夫するつもりです。

授業の到達目標

Révision des points de grammaire principaux
Entraînement à l'écriture et à la composition

成績評価方法

présence 30%
production écrite 70%

科 目 名	フランス語で表現する5（会話・作文総合） S'exercer à la discussion en français, dans des conversations ou par écrit.							
担当者名	O. デュスッド							
仏語	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

Apprendre à faire connaître à des Français la vie quotidienne, la culture et les préoccupations actuelles des Japonais, apprendre à connaître celles des Français par la presse, les actualités télévisées, ou la consultation de sites sur Internet.

Expliquer son point devue dans un exposé ou une discussion orale et l'écrire dans un texte composé.

Ce cours sera particulièrement profitable aux étudiants qui souhaitent faire un voyage ou un séjour dans un pays francophone ou encore discuter en français avec des correspondants.

「この授業は会話と作文のレベルⅣに当たる授業ですが、レベルⅢの授業（会話中級や作文中級）を終えていないと受講できないわけではありません。レベルⅡ（会話初級や作文初級）を終えた段階の人でも、集中的に会話や作文の力を伸ばしたい方は、ぜひ積極的に受講してみてください。それぞれのレベルに合わせた参加のし方を提案できるように工夫するつもりです。」

授業の到達目標

S'exercer à la conversation orale

S'exercer à lire des articles ou à regarder de petites vidéos francophones en comprenant l'essentiel.

Composer un texte écrit

Chaque thème abordé sera l'occasion de se familiariser avec le vocabulaire et les formes grammaticales qui lui sont le plus adaptés.

Trois devoirs écrits au cours du semestre.

成績評価方法

レポート40%
ディスカシオン60%

科 目 名	フランス語で表現する6（会話初級） A							
担当者名	クーショ　マリナ							
仏語	2単位	秋学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業では、現実的な状況や場面に即した会話表現を習い、実際に役立つフランス語を身につけていきます。各テーマの初めに短い動画を見て、理解します（言葉やジェスチャーなど）。その後、その例にならって、会話練習を行います。

授業の到達目標

フランス語の基礎的な知識を獲得し、フランス文化を目と耳で感じながら学ぶこと。
フランス語による初歩的なコミュニケーション能力を身につけること。

成績評価方法

60%：テスト　　各テーマについて、オリジナルなやりとりを考え、演じる。（ペアの評価＋個人評価）
40%：出席＋宿題＋グループワークにおける貢献度を評価します。

科 目 名	フランス語で表現する6（会話初級） B							
担当者名	E. ヴィエル							
仏語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

次の二つのことを目指した授業です。

まずは効果的に気持ちを伝えるための初級レベルの表現を身に着けて、旅行でもそれほど困らず、フランス語話者とも関係を築けるくらいになることが目標です。ですから授業の方法は口頭表現を中心にしたものになります。

もう一つは、はっきりとした正確なフランス語の発音を身に着けることも目指します。発音とイントネーションについては、段階的にいろいろな練習をしていきましょう。フランスの演劇学校で使われている練習方法をやりやすい形にアレンジして、発音とイントネーションを鍛えるつもりです。音声を識別する現代的な道具なども使ってみたいと思います。

授業の到達目標

概要に書いた通り、初級レベルの実践的な会話能力と、正確なフランス語の発音を身に着けることが目標です。

成績評価方法

- **試験**　80%　　学期末に会話テスト
- **レポート**　0%
- **平常点**　0%
- **その他**　20%　　オンライン宿題の課題

科 目 名	フランス語で表現する7（会話中級） A 日常生活の表現から意見の発表までフランス語で言う							
担当者名	ヴァンシンテヤン　カティ							
仏語	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

フランス語の発音を個人的に上達しながら、教科書のヴィデオや他のヴィデオの教材に 基づいて、ロールプレーイングと自由の会話を実施する。

授業の到達目標

日常生活の言葉と表現を身につける中、言葉の自然度を高めることを目指す。

成績評価方法

●**試験**　20%　　L'examen servira d'appoint.
●**レポート**　20%　　Pas de devoirs écrits, mais quelques préparations de mini-exposés,
●**平常点**　60%　　La notation sera essentiellement basée sur la présence, la participation active, la préparation des cours, et les tests de vocabulaire hebdomadaires.
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	フランス語で表現する7（会話中級） B フランス語で口頭表現 S'exprimer oralement en français							
担当者名	F. ビゼ							
仏語	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

多くのグループ・ワークをこなすことで、フランス語の会話力を高めていこうとする授業です。ディスカッションは主に映像で行われ、日本（溝口健二）、ベルギー（ダルデンヌ兄弟）、フランス（フィリップ・リオレ）の社会派映画がテーマとなる。

Les étudiants seront invités tout au long de ce cours à participer à de nombreuses activités de groupe. Les supports des discussions seront essentiellement visuels, et le sujet abordé sera: le film social au Japon (Mizoguchi Kenji), en Belgique (les frères Dardenne) et en France (Philippe Lioret).

授業の到達目標

口頭発表の練習をする。
S'entraîner à l'élaboration d'exposés oraux.
フィルム映像について話すことを学ぶ。
Apprendre à parler des images cinématographiques.

成績評価方法

40% de la note finale pour le premier exposé de mi-semestre
60% de la note finale pour le second exposé de fin de semestre
第1回中間発表の最終評価点の40
第2回学期末プレゼンテーション：期末点の60

備考・関連ＵＲＬ

Nonなし

科 目 名	フランス語で表現する8（作文初級） A フランス語の作文力向上を目指しましょう							
担当者名	井上　櫻子							
仏語	2単位	秋学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

フランス語の初級文法を既に習得したみなさん向けの和文仏訳の授業です。これまで培ってきた文法の知識を定着させるとともに、日常生活の出来事をフランス語で表現する語彙力を身につけることを目指します。

日本語とフランス語は本来異なる体系の言語です。日本語の表現とは必ずしも一対一対応していないフランス語独自の表現に目を向けることも、より高いフランス語運用能力を獲得する上で不可欠です。授業内では、「フランス語らしい表現とは何か」と考えるきっかけになる課題にも取り組んでもらう予定です。

授業の到達目標

仏検2級、DELF B1レベルの表現力を身につけることを第一の目標とし、さらに仏検準1級、DALF C1取得のための準備も進めます。

成績評価方法

●**試験**　60%　　中間、および期末試験を実施します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　出席状況と課題への取り組み方を総合して評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	フランス語で表現する8（作文初級） B フランス語で発信しよう！							
担当者名	中野　茂							
仏語	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業では、すでにフランス語の初級文法を学んだ人を対象に、「フランス語で発信するテクニック」をクイズ形式も取り入れながら、楽しく学んでいきます。この科目の履修を通して幅広いトピックに対応できる外国語能力を身につけ、フランス人との日常的コミュニケーション能力や専門課程で活用できる能力を養います。

まず今までに習った文法事項の復習から始め、それらを実際に活用しながらフランス語で簡単な文章が作れるようになること、

さらには辞書に頼ることなく日常生活（観光案内、日本のお土産の紹介、日本の習慣の発信、手紙の書き方、簡単なスピーチなど）をフランス語で発信できるようになることをめざします。さらに、実際にフランス人生徒とのポストカードや手紙のやり取りを行うので（場合によっては対面での交流も行います）、生きたフランス語を発見することになります。また、フランス語で表現する際にフランス文化の理解も不可欠になってくるため、フランス文化の紹介も行っていきます。

授業は以下の通り進めていきます

・クイズ：基本的な日本語のフレーズをどのようなフランス語にするかをクイズを通して紹介
・穴埋め問題や並び替え問題を中心とした文法項目の復習
・文をつくる際に必要な基本重要語彙や表現をテーマごとに紹介
・受講生が書いた文の添削
・シャンソンなどを通したフランス文化の紹介およびフランス語基本語彙の紹介

単に日本語を直訳してもフランス語にならない場合が多くあります。日本語とは違う「フランス語のしくみや発想」を学び、直訳ではなく「フランス語らしい発想」で表現するテクニックを紹介していきます。

＊仏検の4級～準2級を目指している人向けのレベルです。

授業の到達目標

・フランス文化の理解
・フランス語初級文法の復習
・各テーマを語る際に必要な重要語彙および重要表現の習得
・日常生活や日本文化を「フランス語らしい発想」で発信できる能力の習得

成績評価方法

●**試験**　40%　　理解度の確認40%
●**レポート**　46%　　Waseda Moodleで提出してもらう課題46%
●**平常点**　14%　　出席点14%
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	フランス語で表現する9（作文中級） Traduire, écrire, composer							
担当者名	O. デュスッド							
仏語	２単位	秋学期	木曜日	５時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

Traduire, c'est-à-dire chercher l'équivalent　français le plus juste aux expressions japonaises, est spécialement intéressant　puisque cela vous permettra de découvrir votre langue maternelle sous un nouvel　angle.

Composer directement en français vous donnera　une expérience d'étrangeté et de　liberté en vous obligeant à vous détacher un moment des modes de pensée liés au　japonais.

翻訳すること、つまり日本語の表現に相当する最も正確なフランス語を探すことは、母語を新しい角度から発見できるという意味で、とりわけ興味深いものです。

また直接フランス語で書くことは、みなさんを日本語と結びついた考え方から引き離し、不可思議で自由な体験を与えてくれるに違いありません。

Deux types d'exercices seront alternativement proposés :

-la　traduction en français d'un court texte japonais

-la　rédaction d'un texte directement en français à partir d'un texte　français lu en classe.

Toutes les　deux semaines, nous reprendrons les traductions faites à la maison (exercices　de vocabulaire et exercices de grammaire portant sur des points spécifiques). Un nouveau texte japonais sera donné. La traduction sera remise dix jours après.

La semaine suivante, les étudiants liront un texte français et commenceront à rédiger leur propre texte en français, d'après les consignes proposées. Ce texte sera remis dix jours plus tard.

2種類の演習が交互に提案されます。

-短い日本語テキストのフランス語への翻訳、

-クラスで読んだフランス語のテキストから直接フランス語で書かれたテキストを書くこと。

2週間ごとに、自宅での翻訳の課題を出します（語彙の訓練と特定のポイントに関する文法練習）。毎回新しい日本語テキストが提供され、その翻訳を10日後に提出してもらいます。

翌週、生徒はフランス語のテキストを読み、提案された指示に従ってフランス語で自分のテキストを書き始めます。このテキストは10日後に提出してもらいます。

この授業は作文のレベルⅢに当たる授業ですが、レベルⅡの授業（作文初級）を終えていないと受講できないわけではありません。レベルⅠ（基礎外国語）を終えた段階の人でも、集中的にフランス語力を伸ばしたい方は、 ぜひ積極的に受講してみてください。それぞれのレベルに合わせた参加のし方を提案できるように工夫するつもりです。

授業の到達目標

Reprise détaillée des révisions de grammaire et d'expression à l'aide de nouveaux thèmes et de nouveaux exercices de production.

成績評価方法

présence 30%
production écrite 70%

科 目 名	フランス語で表現する10（会話・作文総合） S'exercer à la discussion en français, dans des conversations ou par écrit.							
担当者名	O. デュスッド							
仏語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

Apprendre à faire connaître à des Français la vie quotidienne, la culture et les préoccupations actuelles des Japonais, apprendre à connaître celles des Français par la presse, les actualités télévisées, ou la consultation de sites sur Internet.

Expliquer son point de vue dans un exposé ou une discussion orale et l'écrire dans un texte composé.

Ce cours sera particulièrement profitable aux étudiants qui souhaitent faire un voyage ou un séjour dans un pays francophone ou encore discuter en français avec des correspondants.

「この授業は会話と作文のレベルⅣに当たる授業ですが、レベルⅢの授業（会話中級や作文中級）を終えていないと受講できないわけではありません。レベルⅡ（会話初級や作文初級）を終えた段階の人でも、集中的に会話や作文の力を伸ばしたい方は、ぜひ積極的に受講してみてください。それぞれのレベルに合わせた参加のし方を提案できるように工夫するつもりです。」

授業の到達目標

S'exercer à la conversation orale

S'exercer à lire des articles ou à regarder de petites vidéos francophones en comprenant l'essentiel.

Composer un texte écrit

Chaque thème abordé sera l'occasion de se familiariser avec le vocabulaire et les formes grammaticales qui lui sont le plus adaptés.

成績評価方法

レポート50%

ディスカシオン50%

科 目 名	フランス文化を知る1（時事フランス語）							
担当者名	後藤　渡							
仏語	2単位	春学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

フランス語で書かれた新聞記事では教科書や日常会話で使わないような表現を目にすることが多くあります。この授業では初級文法を一通り終えた学生が読みやすい新聞の記事から出発して、年度末には「ル・モンド」紙を辞書を引きながら、新聞の内容を理解するまでに到達してもらおうというものです。扱う内容は学期初めに受講者のみなさんにアンケートをとって決めていこうと思っております。

フランス語の文法への理解も重要ですが、政治的、文化的なコンテクストの理解も重要になってくるので、コンテクストの解説もしていきます。

せっかく少なくとも1年やってきたのですから、ニュースを聞いて聴解もやろうと思っています。1つのトピックについての読解、解説、聴解のセットで大体2回分の授業になります。

読解と聴解ときくと身構えるかもしれませんが、お受験ではないので教室で間違えたところで何もないですし、比較的簡単な読解と聴解から始めるので、気負わず受けてください。

授業の到達目標

ジャーナリスティックな文章における独特な表現を理解することを第一の目標とします。読解に加えて、記事のコンテクストを理解することも到達目標とします。

成績評価方法

●**試験**　60%　　初見の記事の抜粋の日本語訳を作ってください。辞書の持ち込みは可能ですが、スマートフォン、パソコンで辞書を参照することは禁止します。

●**レポート**　0%

●**平常点**　40%　　記事の読解や、ニュースの聴解に積極的に参加してください。

●**その他**　0%

科 目 名	フランス文化を知る2（フランスを旅する） パリだけがフランスじゃない―北部篇―							
担当者名	家山　也寿生							
仏語	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この科目では、フランスの地方に焦点を当てて、現地に暮らすのでもなければなかなか触れる機会のない全国津々浦々の地理的・歴史的・文化的な豊かさに迫ります。春学期はフランス北西部のブルターニュから旅を始め、英仏海峡に沿って北東部へと進み、東の国境から内陸部に入ってブルゴーニュまで巡ります。

授業の中軸となるのは指定教科書のテクスト講読です。テクストの内容を理解し、発音練習にも取り組みます。そのうえで関連する映像資料を視聴し、フランス各地の自然や文化、生活がより身近に感じられるコーナーも毎回あります。日本語の字幕がだいたい付いていて聞き取れそうな箇所ではフランス語の字幕さえ表示される映像を見て考えたこと、感じたことなどを（日本語で）述べあい、意見交換の場とします。

授業の到達目標

1. フランス語と日本語の文構造の違いに注意して、こなれた翻訳ができる。
2. 綴り字の正しい読み方を心がけ、たとえゆっくりでもテンポよく音読ができる。
3. 字幕付きの映像視聴を通して、フランス語の聞き取り能力を向上させる。
4. 毎回の授業で扱われる話題について意見や感想を述べる積極性を培う。
5. 各地方の知見を深め、フランスという国土のイメージを根本から変える。

成績評価方法

●**試験** 0%　なし
●**レポート** 0%　なし
●**平常点** 100%　訳読（30%）、音読（30%）、発言（30%）、練習問題（10%）
●**その他** 0%　欠席1回につき4点を総合得点から差し引く

科 目 名	フランス文化を知る3（映画・映像）							
担当者名	クーショ　マリナ							
仏語	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

Dans ce cours, grâce à la magie de l'image, on voyagera à travers le temps, de la Belle Époque à nos jours, en passant par celui propre au conte.

Ce sera l'occasion d'observer comment les artistes audiovisuels français s'emparent de sujets de société, et cela via différents supports: films d'animation, films « poèmes », comédies de mœurs, dramatiques ou musicales.

Le cours de ce semestre s'intéressera aussi aux images télévisées（promotion commerciale mais aussi sensibilisation à de grandes causes）.

この授業では映像の魔法で、「ベル・エポック」から現代まで、おとぎ話の特有の時間を経て、現代まで時間を旅します。

アニメ、「詩」映画、風俗、ドラマ、ミュージカルなど、さまざまな材料を通して、フランス人の芸術家たちがどのように社会問題に取り組んでいるのかを観察できる機会です。

この学期はテレビの映像、商業的だけなく、社会問題を意識させるような宣伝にも注目します。

授業の到達目標

Ce cours vise d'abord à développer sa curiosité, sa capacité à s'émerveiller.
- découvrir ou redécouvrir des figures et caractéristiques de la culture française.
- comprendre différents points de vues
- savoir formuler ses impressions
- savoir analyser des images

この授業の目的は、とりあえず、好奇心と驚きの感覚を養うこと。
それに：
- フランスの大事な人物や文化の特徴を発見、もしくは再発見すること。
- 異なる視点を理解すること。
- 自分の印象を表現すること。
- 映像・画像を分析することです。

成績評価方法

●**試験** 40%　Examen final . Présentation d'une séquence de film.
●**レポート** 30%　Rédaction d'un "reaction paper" et réponses à un quiz toutes les 2 séances.
●**平常点** 30%　-Présence
-Participation : réponses aux quiz
●**その他** 0%

科 目 名	フランス文化を知る4（美術・音楽）							
担当者名	マニゴ　ヴァンサン							
仏語	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル［オンライン］フルオンデマンド

授業概要

20世紀初頭のフォーヴィスムから、キュビスム、近年のリサイクルアートまで、フランスでは様々な芸術運動が生まれ、発展していきました。この授業では、20世紀フランスの美術に親しみながら、フランス語を学びます。毎回、ある芸術運動や代表的なアーティスト、作品を紹介します。これらのテーマについて書かれた簡単なフランス語のテキストを読み、語彙力を高めて読解力の向上を目指しましょう。美術についての様々な専門用語を学び、美術に関する知識を深めることができるだけでなく、同時に鑑賞や考察のために必要なフランス語力を養うことができるでしょう。また、実際にフランスの美術館へ足を運ぶ際にも、基礎的な知識を身に着けていれば理解度が高まり、さらに充実した時間を過ごすことができるでしょう。

テキストだけでなく、映像資料なども使い、現地での美術鑑賞を具体的にイメージできるように授業を行います。フランスの文化について知識を深めながらフランス語を身につける機会を楽しんでいただければと思います。

授業計画はあくまでも目安であり、多少変わる可能性があります。

授業の到達目標

・フランス語の文法や語彙に関する知識の上達だけでなく、フランスの美術についての考察を通して多様な視点を身につける。
・語彙を増やし、読解力を高める。

成績評価方法

各主題について、レポートを提出していただきます。
課題やレポートの提出状況などにより、総合的に評価を行います。

備考・関連ＵＲＬ

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	フランス文化を知る5（歴史・社会）							
担当者名	中嶋　美貴							
仏語	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業では、フランス語を使ってフランスの歴史を学びます。フランス語の固有名詞や専門用語を押さえつつ、フランスがどのような歴史を辿ってきたか学んでいきましょう。はじめにフランスの歴史を概観した後、いくつかのテーマについて発表してもらい、そのテーマについてフランス語で書かれたテキストを読んでいきます。フランス語で歴史を勉強してみると、これまでと少し異なる「内側からの」視点が持てるかもしれません。歴史上の主要な出来事を把握して、フランスという国への理解を深めていきましょう。実際にフランスを訪れる際にも、歴史の知識があればより有意義な時間を過ごせるでしょう。

初回はガイダンス及びアンケートを行います。第2回、第3回目にフランスの歴史の大きな流れをつかみましょう。その後、中世、16世紀（ルネサンス、宗教戦争）、17世紀（絶対王政）、18世紀（フランス革命）、19世紀（第一・第二帝政、政治体制の推移）、20世紀（二つの世界大戦、五月革命）といった時代・出来事からテーマを選んで、自由に発表をしてもらいます。自分の視点で歴史を語ってみましょう。

発表の後、各項目について書かれたフランス語のテキストを全員で読んでいきます。すでにフランス語の基礎を勉強したことがある学生さん向けの授業です。

授業の到達目標

フランスの歴史における主要な出来事を学ぶことによって現在のフランス社会をより深く理解し、多角的な視点を持てるようになりましょう。フランスの歴史を学ぶ上で必要な固有名詞や専門用語をフランス語で学習しましょう。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　出席、授業への参加度、訳読、発表など総合的に評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

フランスの中・高校生向けに作られている歴史の教科書を使います。それらの中ではどのような視点で歴史が語られているかを見ることができるでしょう。

科 目 名	フランス文化を知る6（時事フランス語）							
担当者名	後藤　渡							
仏語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

春学期に引き続き、フランス語で書かれた新聞記事の読解、聴解、コンテクストの理解を進めていきます。

授業の到達目標

ジャーナリスティックな文章における独特な表現を理解することを第一の目標とします。読解に加えて、記事のコンテクストを理解することも到達目標とします。

成績評価方法

●**試験**　60%　　初見の記事の抜粋の日本語訳を作ってください。辞書の持ち込みは可能ですが、スマートフォン、パソコンで辞書を参照することは禁止します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　記事の読解や、ニュースの聴解に積極的に参加してください。
●**その他**　0%

科 目 名	フランス文化を知る7（フランスを旅する）　パリだけがフランスじゃない―南部篇―							
担当者名	家山　也寿生							
仏語	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この科目は、春学期「フランス文化を知る2」の続きです。南フランスのプロヴァンスやコート・ダジュールから旅を始め、地中海沿岸を西へ進み、ピレネー山脈を横目にみながら大西洋側に出たあと、ロワール河をさかのぼってフランス中部へ入り、アルプス地方にまで至ります。

授業の中軸となるのは、春学期同様、指定教科書のテクスト講読です。テクストの内容を理解し、発音練習にも取り組みます。また関連する映像を毎回何本か見て、文章だけでは到底イメージできない現地の風景や日常にも触れ、考えたことや思ったことを述べあい意見を交わすのも同じです。

授業の到達目標

1. 綴り字の読み方を間違えずにテンポよく音読できる速度を上げる。
2. フランス語の字幕も頼りに、聞き取り能力をさらに向上させる。
3. 毎回の話題について、日本とも比較しながら意見や感想を述べる。
4. 各地方の知見を深め、フランスという国土のイメージを完全に塗り変える。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　訳読（30%）、音読（30%）、発言（30%）、練習問題（10%）
●**その他**　0%　　欠席1回につき4点を総合得点から差し引く

科 目 名	フランス文化を知る8（映画・映像）							
担当者名	クーショ　マリナ							
仏語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

Dans ce cours, à la suite du premier semestre, on se replongera dans l'univers du conte, des fables sociales et des comédies.

On y découvrira d'autres regards sur des problèmes sociaux et comment sont portées les valeurs de liberté, d'égalité et fraternité.

Le cours de ce semestre s'intéressera aussi aux images télévisées（promotion commerciale mais aussi sensibilisation à de grandes causes）.

この授業では、春学期に引き続き、おとぎ話、社会寓話、喜劇の世界を掘り下げていきます。

社会問題に対する別の見方や、自由、平等、友愛という価値観がどのように伝えられているかを発見します。

この学期もテレビの映像、商業的だけなく、社会問題に意識させるような宣伝にも注目します。

授業の到達目標

Ce cours vise d'abord à développer sa curiosité, sa capacité à s'émerveiller.

- découvrir ou redécouvrir des figures et caractéristiques de la culture française.
- comprendre différents points de vues
- savoir formuler ses impressions
- savoir analyser des images

この授業の目的は、とりあえず、好奇心と驚きの感覚を養うこと。

それに：

- フランスの大事な人物や文化の特徴を発見、もしくは再発見すること。
- 異なる視点を理解すること。
- 自分の印象を表現すること。
- 映像・画像を分析することです。

成績評価方法

●**試験**　40%　　Examen final . Présentation d'une séquence de film.

●**レポート**　30%　　Rédaction d'un "reaction paper" et réponses à un quiz toutes les 2 séances.

●**平常点**　30%　　-Présence

-Participation : réponses aux quiz

●**その他**　0%

科 目 名	フランス文化を知る9（美術・音楽）							
担当者名	マニゴ　ヴァンサン							
仏語	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

クラシックからポップまで、フランスの音楽は多様な歴史がありますが、そのなかでも興味深いのは、音楽にのせて表現される反抗精神でしょう。シャンソンといえば、現実世界の人間模様を歌い上げ、愛を歌う甘いイメージや、哀歌のイメージがあるかもしれません。実際、それらの中には時代を超えて胸を打つ歌詞やメロディーがあります。その証拠に、戦後の代表的な歌手として活躍したエディット・ピアフやシャルル・トレネの曲は、現在もなお歌い継がれています。

一方、フランスでは、社会批判として機能している音楽も数多くあります。例えば、セルジュ・ゲンズブールや、アンヌ・シルベストルの作品には、戦後のフランス社会を反映するような反抗精神が色濃く映し出されているでしょう。彼らの作品は、今日の日本では殆ど取り上げられることはありません。

この授業では、フランスのポピュラー音楽を扱います。それぞれの作品が奏でる音楽と、それらの歌詞にじっくり耳を傾けてみましょう。芸術は社会を映す鏡でもあり、音楽もそのひとつです。それらの作品がつくられた歴史的・社会的背景やそれらの問題を一緒に考えましょう。

フランス語それ自体のもつ音楽性に触れ、語彙を増やし、歌詞の翻訳などを通して、フランス語能力を高めましょう。

授業計画はあくまでも目安であり、多少変わる可能性があります。

授業の到達目標

・フランス語の文法や語彙に関する知識の上達だけでなく、フランスの文化についての考察を通して多様な視点を身につける。

・語彙を増やし、表現力を高める。

成績評価方法

歌詞の翻訳やレポートを適宜提出していただきます。

課題やレポートの提出状況などにより、総合的に評価を行います。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	フランス文化を知る10（歴史・社会）							
担当者名	中嶋　美貴							
仏語	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

美食の国フランス。フランスのガストロノミー（美食学とも訳されます）はユネスコの無形文化遺産にも登録されています。フランスの食文化とその歴史に触れることで、調理法など料理そのものの特性について学ぶことはもちろん、社会文化論的な視点を養うことができるでしょう。高級で繊細なイメージをもつフランス料理ですが、その美食神話が広まり、それを武器に国家

戦略が立てられるのは17世紀になってからです。フランス料理がどのように憧れの対象として語られるようになっていくか、その経緯を確認していきましょう。

この授業では、フランスの食にまつわる慣習や歴史的背景の重要性に注目したいと思います。具体的には、主要な歴史の出来事を参照しつつ、各時代のフランスの食についてのテキストを読んでいきます。「食」をとおして、フランスの歴史や社会についての知識を深めていきましょう。フランス語で書かれたテキストの訳読がありますので、フランス語をすでに学習したことがある学生さん向けの授業です。

毎回一人ずつフランスの歴史の主要な出来事について自由に発表してもらい、その後、フランス語で書かれたフランスの食の歴史についてのテキストを読んでいきます。

授業の到達目標

フランスの食の歴史を学ぶことで、フランスの文化と社会への理解を深めましょう。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　出席、授業への参加度、訳読、発表など、総合的に評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	フランス語の資格をめざす1（初級）　A　確かな文法知識＆語彙力で仏検3級合格							
担当者名	家山　也寿生							
仏語	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

フルオンデマンドで実施される本科目では、実用フランス語検定試験（いわゆる仏検）3級レベルの筆記問題に、コツコツと答えてゆきます。毎回の授業は二部構成です　第一部では、講義動画を見ながら、指定問題集の問題を解答＆自己添削してもらいます。今学期は語彙の強化と、動詞の活用や代名詞など、文法力が求められる問題を取り上げます。第二部では、各回のテーマに合わせて教員が作成した小テスト2つ（各10問）にチャレンジしてください。ですが、小テストの得点がそのまま成績に反映されるわけではありません。教員が評価するのはもっぱら継続的な学習姿勢ですから、自分の理解度と意欲とにしたがって、地道にしかし着実に取り組むことができるでしょう。

授業の到達目標

この授業の"目標"は仏検3級合格です。しかし本当の"目的"は他にあります。1年次に一通り学んだフランス語文法をより確実なものにすること、そして使用頻度の高い単語の数を増やすことです。ですから、3級に合格したからといってこの授業の役割が果たされてしまうわけでもなければ、年度内に仏検を受けて合格することが必須なわけでもありません。しっかりとした文法知識と語彙力という両面からの基礎固めがこの授業の主旨です。そうして、他に受講しているフランス語科目での理解を補えたり、次年度以降も自信をもってフランス語に接してゆけるようになりましょう。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　活動の完了具合（30%）、小テストの結果（70%）
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

このフルオンデマンド科目は2025年4月15日（火）より開講とし、各回の受講期間は原則、毎週火曜AM9:00からの2週間とします。講義動画を視聴完了すれば、その回の小テストが受験可能となります。小テストの点数をそのまま成績には反映させず、幅を設けた4段階のポイント制（たとえば、80～100点は4ポイント）で加点します。

科 目 名	フランス語の資格をめざす1（初級）　B　仏検4級合格講座							
担当者名	小幡　一雄							
仏語	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

6月におこなわれる実用フランス語技能検定試験4級の合格を目指します。
検定試験を受けない学生も、同程度の実力をつけることができます。
検定試験後は、秋の3級合格を目標として、勉強を続けます。

オンデマンド型の授業です。毎回、moodleの「課題」というコンテンツに、文章による解説および小テストをアップしますので、必ずチェックするようにしてください。それをペースメーカーにして勉強を続けてください。小テストは毎週出題されます。小テストの回答は、必ず下記のメールアドレスに、添付ではなく、メールの本文に入力してお送りください。moodleのコンテンツには返信しないでください。解説や小テストは毎週月曜日にmoodleの「課題」を通じて配信する予定です。回答の締め切りは配信日から3日後の木曜日15時までとします。回答を添削してできるだけ早く返信しますので復習してください。小テストの送信が出席の印となり、その内容が評価の基準になります。ご質問も下記のメールアドレス宛にお送りください。回答が未提出の回数と答案が不合格の回数の合計5回以上になると単位はあげられません。

メールアドレス : kaz.obata@nifty.com

授業の到達目標

実用フランス語技能検定試験4級合格を目標とします。
さらに、秋の3級合格に向けての土台を作ります。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　100%　　毎回行う小テストの結果の集積が評価の基準になります。答案が未提出の回数と答案が不合格の回数が合計5回以上になると単位はあげられません。

●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	フランス語の資格をめざす2（中級）　資格を受ける自信をつけましょう							
担当者名	ヴァンシンテヤン　カティ							
仏語	2単位	春学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

受講生のレベルはそれぞれなので、一応の基準として、春学期は仏検準3級、DELFのA2～B1というレベルを想定した授業を行う。

授業の到達目標

フランス語の資格をとる自信をつける。聞く・読む・書く・話すの4スキルを発展します。

成績評価方法

●**試験**　20%　　Le test final servira d'appoint.
●**レポート**　0%　　Il y aura des devoirs mais ceux-ci seront notés en contrôle continu.
●**平常点**　80%　　La présence, la participation et les devoirs rendus compteront pour la majorité de la note.
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

La notation est essentiellement basée sur la présence, la préparation au cours, les devoirs; l'examen comptera pour les reste.

科 目 名	フランス語の資格をめざす3（初級）　A　確かな文法知識＆語彙力で仏検3級合格							
担当者名	家山　也寿生							
仏語	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

春学期の授業に引き続き、実用フランス語検定試験（いわゆる仏検）3級レベルの筆記問題にどんどん答えてゆく科目です。秋学期もフルオンデマンドで実施される授業は毎回二部構成です。前半はさらなる語彙力と文法教科書では日陰者扱いされがちな前置詞、および会話文・長文の読解といった総合的な理解力が求められる問題の解答と答え合わせです。講義動画を視聴しながら問題集に取り組んだうえ、後半では教員が作成した小テスト2つ（各10問）にチャレンジしてください。ですが、小テストの得点がそのまま成績に反映されるわけではありません（備考欄参照）。学期末に実施する模擬試験も平常点扱いです。教員が評価するのはもっぱら継続的な学習姿勢ですから、自分の理解度と意欲とにしたがって練習問題にこつこつ取り組むことができるでしょう。

授業の到達目標

この授業の"目標"は仏検3級合格です。しかし本当の"目的"は他にあります。1年次に一通り学んだフランス語文法をより確実なものにすること、そして使用頻度の高い単語の数を増やすことです。ですから、3級に合格したからといってこの授業の役割が果たされてしまうわけでもなければ、年度内に仏検を受けて合格することが必須なわけでもありません。しっかりとした文法知識と語彙力という両面からの基礎固めがこの授業の主旨です。そうして、他に受講しているフランス語科目での理解を補えたり、次年度以降もさらに自信をもってフランス語に接してゆけるようになりましょう。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　活動の完了具合（30%）、小テスト＆模擬試験（70%）
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

このフルオンデマンド科目は2025年10月7日（火）より開講とし、各回の受講期間は原則、毎週火曜AM9:00からの2週間とします。講義動画を視聴完了すれば、その回の小テストが受験可能となります。小テストや模擬試験の点数をそのまま成績には反映させず、幅を設けた4段階のポイント制（たとえば、80～100点で4ポイント）で、ざっくりと加点します。

科 目 名	フランス語の資格をめざす3（初級）　B　仏検3級合格講座							
担当者名	小幡　一雄							
仏語	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

11月におこなわれる実用フランス語技能検定試験3級の合格を目指します。

検定試験を受けない学生も、それと同レベルの実力がつきます。検定試験後は、準2級への土台作りをします。オンデマンド型の授業です。毎回、moodleの「課題」というコンテンツに文章による解説と小テストをアップしますので、必ずチェックするようにしてください。それをペースメーカーにして勉強を続けてください。小テストの回答は下記のメールアドレスに、添付ではなく、メール本文に入力してお送りください。moodleには返信しないでください。配信は原則として毎週月曜日です。小テスト提出の締め切りは配信日から3日後の木曜日　15時までとします。回答をできるだけ速やかに添削して返信しますから復習してください。小テストの送信が出席の印となり、その結果の集積が評価の基準になります。ご質問も下記のメールアドレス宛にお送りください。小テスト未提出の回数と答案が不合格の回数の合計が5回以上になると単位はあげられません。

メールアドレス : kaz.obata@nifty.com

授業の到達目標

実用フランス語技能検定試験3級合格、あるいは、それと同レベルの実力を養成することを目指します。
試験後は、準2級相当の文法を身につけます。

成績評価方法
●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　100%　　毎回行う小テストの結果の集積が評価の基準になります。
小テスト未提出の回数と答案が不合格の回数の合計が5回以上になると、単位はあげられません。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL
本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	フランス語の資格をめざす4（中級）　資格を受ける自信をつけましょう							
担当者名	ヴァンシンテヤン　カティ							
仏語	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
受講生のレベルはそれぞれなので、一応の基準として、秋学期は仏検2級、DELFのB1というレベルを想定した授業を行う。

授業の到達目標
フランス語の資格をとる自信をつける。聞く・読む・書く・話すの4スキルを発展します。

成績評価方法
●**試験**　20%　　Le test final servira d'appoint.
●**レポート**　0%　　Il y aura des devoirs mais ceux-ci seront notés en contrôle continu.
●**平常点**　80%　　La présence, la participation et les devoirs rendus compteront pour la majorité de la note.
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL
La notation est essentiellement basée sur la présence, la préparation au cours, les devoirs; l'examen comptera pour les reste.

科 目 名	フランス語力を強化する1（留学準備）　フランスでの留学生活に備えるために							
担当者名	明石　伸子							
仏語	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要
フランスにおいてスムーズかつ充実した留学生活を送るためには、フランス語の能力のみでなく、フランスに関する全般的な知識をあらかじめ蓄えておくことが大切です。この授業では、ふたつのキャパシティーの向上をめざし、フランスの文化・社会に関するテキストに取り組みます。ひとつのテーマには2種類のテキストが用意されます。導入部のテキストでは、速読のトレーニングが行われます。①まずテーマに即したフランス人と日本人の会話の音声のみを聴いてどれくらい理解できるか試みる→②読み上げられたダイアログのトランスクリプションに目を通し、辞書なしでどれくらい理解できるか試みる→③ダイアログの対訳と照らし合わせてどれくらい理解できるか試みる（対訳を利用することで速読の能力を養い、節約された時間を多読に振り向けられるようにします）。発展部の長文テキストについては精読のトレーニングを行います。必要に応じて辞書を用いて内容について細かく取り組み、関連する単語や表現や構文などへと知識を膨らませて、フランス語を精読する楽しみを味わいます。フランス語会話については、本講義の目的に対応した「学校関連のフランス語」に触れる機会を持ちます。フランスの大学に正規留学する予定がある場合はもちろんですが、短期語学研修を希望する場合に役立つ情報も提供しますので、あらゆる学習者にとって有益な内容です。インターネットもふんだんに利用して、フランス語を学ぶモーチベーションを刺激します。担当教員による豊富な動画解説によるオンデマンド配信の授業です。課題の提出の締切は3日後ですので余裕を持って作業できます。※教材は金曜日の4限までに配信され、提出物の締切は日曜日の23:59となります。

授業の到達目標
フランス社会に関する興味を養い、簡易なテキストを読んで情報を吸収できる力を身につける。

成績評価方法
●**試験**　75%　　オンデマンド配信により、提出された毎回の課題の結果の合算が試験のかわりとなる。
●**レポート**　0%
●**平常点**　15%　　課題の提出回数（対面授業の出欠に値する）。
●**その他**　10%　　授業に対する提言など自発的な活動に対して評価します。

備考・関連URL
授業の詳細についてはガイダンスにてさらに詳しく追加します。

科 目 名	フランス語力を強化する3（発音の訓練）							
担当者名	小出石　敦子							
仏語	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
フランス語を話すために必要な、発話の基礎となる発音を学ぶクラスです。
この授業は、秋学期に開講する「フランス語力を強化する6（聞き取りの訓練）」クラスと連動しており、発話と聞き取りの両面の訓練を通じてフランス語の音に対する感覚を磨き発音の基礎を固めていくことで、フランス語コミュニケーション力養成への導入となるはずです。聞取りの訓練を受講した後でも、会話のクラスと並行して受講するのも可能です。
一年以上の学習経験を持つ学生で、発音の規則を最初に習ったものの理解が曖昧であるとか、まだ実践において使えるほど自信がない、身についていないという人を想定して授業を進めていきます。単語やいくらかのまとまりのある語句は読めるが、文の読み方（抑揚や強調箇所）を知らない人、会話で困らないように正しい発音を身につけたい人、1年時の語学の授業で出てきた発音の規則をより詳細に学習したい人、フランス語検定試験等の対策など、それぞれの動機に合わせてこの授業を活用してく

れることを望みます。今のところ、今年度は対面にて授業を行う予定です。ただし、4月の状況次第ではオンラインに変更になる可能性もあります。
毎回あらかじめ予習箇所を指定します。次の授業までに予習をしてきてもらい、答え合わせを授業で行うという流れになります。全員に発音の実践の機会をもうけ、発音の矯正をしていくつもりです。たくさん発音していきましょう！
また課題（発音に関するもの）も出す予定なので、意欲を持って取り組んでほしいと思います。

授業の到達目標

まずフランス語のつづりと音の関係をしっかり理解する。次に、単語、語句、文における発音の規則（リエゾン、アンシェヌマン、リズムグループ、抑揚、強調等）を身につける。会話や文章の朗読において、できるだけ自然なイントネーションで発音できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　50%　　学習のまとめと確認として、中間と期末に口述試験を行います。
●**レポート**　0%　　レポートは実施しません。
●**平常点**　50%　　中間・期末試験とともに、出席状況と授業への参加度を評価します。
●**その他**　0%　　特にありません。

備考・関連URL

教科書の練習文には和訳がついていませんので、辞書の携行をお願いします

科 目 名	フランス語力を強化する4（文法）							
担当者名	小幡　一雄							
仏語	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

フランス語力を強化するため、文法の分かりにくく重要な事項（特に動詞と代名詞）をゆっくりと解説します。オンデマンド型授業です。毎回、moodleの「課題」というコンテンツに文章による解説と小テストを配信しますので、必ずチェックするようにしてください。それをペースメーカーにして勉強を続けてください。小テストの回答は下記のメールアドレスに、添付ではなく、メール本文に入力してお送りください。moodleには返信しないでください。原則として毎週月曜日に配信します。小テスト回答の締め切りは配信日から3日後の木曜日　15時までとします。回答を添削してできるだけ速やかに返信しますので、復習してください。小テストの送信が出席の印となり、その結果の集積が評価の基準になります。ご質問も下記のメールアドレス宛にお送りください。小テストの答案が未提出の回数と答案が不合格の回数の合計が5回以上になると単位はあげられません。
メールアドレス：kaz.obata@nifty.com

授業の到達目標

文法の土台を確かなものにします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　100%　　毎回行う小テストの結果の集積が評価の基準になります。
小テストの答案が未提出の回数と答案が不合格の回数の合計が5回以上になると単位はあげられません。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	フランス語力を強化する5（語彙）　フランス語力のアップに大切なのは語彙力です！							
担当者名	明石　伸子							
仏語	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

基礎文法をひと通り学習したあと、語学力を高めるために最も肝心なのは語彙の力です。使いこなせる単語数を増やすこと、重要な定型表現やイデオムなどを身につけることで、「テキストを快適に読む」、「検定を取得する」、「コミュニケーションを楽しむ」などの充実した世界が広がります。この講座では、仏検3・2級レベルで用いられる単語・熟語・表現を対象とした学習を行います。単語や熟語のトレーニングだけでなく、まとまりある文章のディクテ（フランス語の書き取り）を試すことにより、聴いて理解する能力も育てながら、フランス語への学習意欲を立体的に刺激する授業をめざします。語彙に関するイラストいっぱいのフランス製教材は、フランス文化を知る楽しみを刺激してくれます。ひとりではなかなか根気が持続しにくい単語力アップをクラスメートと共に授業で実現させましょう。担当教員による動画解説が豊富なオンデマンド配信の授業です。課題の締切は3日後なので、自分にとって自由度が高い時間帯に、余裕を持って取り組めます。※教材は金曜日の4限までに配信され、提出物の締切は日曜日の23:59となります。

授業の到達目標

基礎的な語彙力を定着させ、自力で語彙力をさらに伸ばす方法を発見する。

成績評価方法

●**試験**　60%　　オンデマンド配信により、課題がレポート試験となる。
●**レポート**　20%　　課題内に実施されるコメント等の内容に応じて評価を与えます。
●**平常点**　10%　　授業への参加の姿勢を評価します。
●**その他**　10%　　授業に対する提言など自発的な活動に対して評価します。

備考・関連URL

オンライン授業にともなう授業の進め方や評価方法の変更点について：
1. オンデマンドのビデオ解説による学習：大学の学習支援サイトにアップされた動画を視聴して文法のポイントを理解し、指示にしたがって教科書の練習問題に取り組みます。
2. Zoomによるリアルタイムのネット授業：この機会はホームルームとして催される可能性があります。実施される場合は、

あらかじめ告知します。
3. オンラインを通して検定試験の試みをする可能性があります。これもまた実施される場合は、あらかじめ告知します。持ち込み自由のトライアルです。
※ 練習問題、質問に対する回答やコメントはワード・ファイルに入力して提出することになります。提出物により出席と評価が決まります。
単語についてはプリントにて配布します。
熟語については『仏検2級・3級対応　フランス語重要表現・熟語集』(駿河台出版社)を購入してください。
辞書を用意してくだい。

科 目 名	フランス語力を強化する6（聞き取りの訓練）							
担当者名	小出石　敦子							
仏語	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
この授業は、春期の「フランス語力を強化する3（発音の訓練）」で学んだことをベースにして、実践的な聞き取りの訓練を行うクラスです。発話の訓練に加えさらに聞き取りの訓練を通じて、フランス語の音に対する感覚を磨いていくことで、フランス語コミュニケーション力養成への導入となるはずです。会話のクラスと並行して受講するのも可能です。なるべく春期の「フランス語力を強化する3（発音の訓練）」を受講していることが望ましいのですが、そうでなくても一年以上の学習経験を持つ学生で、実践において聞き取る自信がないという人を想定して授業を進めていきます。ただし発音の規則に関してはある程度身につけておく（自分で復習しておく）必要があります。聞き取りには、発音とはまた違った要素が出てきます。耳に入ってくる音を正確に聞き取り再現できることが基本ですが、さらにその音に意味を与える作業（語句の認識）も必要になります。これは、発音の規則はもちろん、語彙力、動詞の活用規則等文法的知識、あるいは初めて聞く音（語句）も文脈を頼りにその意味を想像する能力にまで関係してきます。とはいえ最初からそこまでは望みません。とにかく正確に音を聞き取りそれを再現する（発音と記述）という訓練を、単語、語句、文レベルにおいて繰返し訓練します。その訓練を通じて、将来的には少し難しいフランス語の聞き取りに対する準備となればよいと考えます。またフランスの文化や社会についてのアクチュアルなニュース等も授業で取り上げていきたいと思っています。
会話で困らないように聞き取りの力を身につけたい人、フランスへの留学を考えている人、フランス語検定試験等の対策など、それぞれの動機に合わせてこの授業を活用してくれることを望みます。授業では毎回学生のみなさんに聞き取りの実践やさまざまな学習のための作業をしてもらいます。授業中は主体的に参加してください。また毎回の授業で簡単なディクテーション（dictée）課題も出す予定なので、意欲を持って取り組んでほしいと思います。

授業の到達目標
春期で学習した発音を、今度は聞くことにおいて確認・実践します。単語、語句、文における音の聞き取りの訓練を行い、最終的にさまざまなシチュエーションにおける会話等の聞き取りに挑戦し、主な内容を理解できるようにします。

成績評価方法
●**試験**　50%　　学習のまとめとして、中間と期末に聞き取り会話試験と簡単なディクテーション（dictée）試験を行います。
●**レポート**　0%　　レポートは実施しません。
●**平常点**　50%　　中間・期末試験とともに、出席状況と授業への参加度も合わせて評価します。
●**その他**　0%　　特にありません。

科 目 名	第三外国語としてのフランス語1　A							
担当者名	福山　智							
仏語	2単位	春学期	金曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
アルファベの読み方から始めます。したがって、対象者はフランス語未経験者となります。
既習者のなかでも自分の文法の知識を見直したいという人には門戸は開放しますが、後期からを推奨します(簡単すぎるかもしれないので)。
ただし、教科書の性格上、フランスの文学作品やフランス史に興味があるなら既修者でも楽しめるかもしれません。
教科書は　Apprenons le français par les belles expressions ! 『名句で学ぼう ! 初級フランス語』を用います。
各課ごとの練習問題は宿題として課すことになります。点数を付して、訂正コメントを付したうえで返却します。評価の50%となります。
随時、活用を中心にした小テストをおこないつつ進めます。
基本的には対面形式でおこないますが、進度次第では、何度かオンデマンドでおこなうかもしれません。すくなくとも5月9日・7月11日の回はオンデマンドとします。
また試験は定期試験を予定しています。
なかなかタイトなスケジュールになるかしれませんが、フランス語そのものの上達はもとより、フランス語圏の文化への興味がはぐくまれることを何よりも望みます。

授業の到達目標
フランス語、もしくはフランス語圏文化への興味を持ち継続して学ぶこと。

成績評価方法
●**試験**　50%　　試験
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　50%　　課題での得点
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	第三外国語としてのフランス語1　B　オンラインで学ぶ初級フランス語							
担当者名	立花　史							
仏語	2単位	春学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

本講座は、フランス語の初歩をいちから学んでみたいと思う学生を対象とするものです。授業はフルオンデマンドですが、試験のみ対面で定期試験の日におこないます。

まったくフランス語の予備知識のない人（例えば、第二外国語で別の言語を選択した人）が多いですが、それ以外にも、第二外国語でフランス語を選択したことのある人、高校時代にフランス語を少し習ったけれども忘れてしまった人など、毎年いろいろな人が登録しています。

教科書は『なびふらんせ1』を用います。紙媒体の教科書で授業を進めますが、『なびふらんせ1』は、無料のウェブ版の「なびふらんせ」と連動していて、ウェブ独自のコンテンツや小テストが付いていて、ポートフォリオで確認ができます。本講座を受講し終えた後も、自習用に利用可能です。オンライン授業にも対応しやすいシステムになっています。講師の知るかぎり、最先端の教科書です。

教科書には、フランスの社会や文化がわかるビジュアルがたくさん掲載されていますが、ウェブ版では関連の動画も閲覧できます。

進行方法ですが、教科書のはじめからゆっくりめにスタートして、なるべく2回の授業で一課ずつ進むことになります。

その他、教科書だけでは足りない場合には、別途、文法問題を配布したり、あるいは授業の内容と関連のある資料（映像や音源など）を見せたりすることもあります。

授業の到達目標

本講座の最大の目標は、フランス語のごく初歩的な運用能力を得ること、それを通じて、多少なりともフランス語圏の文化に触れることです。

ゆっくりめのペースで、春学期と秋学期で、『なびふらんせ1』の9課か10課あたりまでをやりおえる予定です。

成績評価方法

- **試験**　90%　　試験は対面でおこないます。筆記が中心になるかと思います。
- **レポート**　0%
- **平常点**　10%
- **その他**　0%

備考・関連URL

本講座は、授業はフルオンデマンド配信、学期末の定期試験は対面で実施となります。

登録を検討している人は、接続環境の確認もあるので、なるべく初回から参加してもらえると助かりますが、もちろん二次、三次登録からの参加も歓迎します。

フランス語を半期分程度の内容を学習した学生であれば、秋学期からの参加も歓迎します。

授業計画は、進行上大幅に前後する場合があります。あくまで目安と考えてください。

科 目 名	第三外国語としてのフランス語2　A							
担当者名	福山　智							
仏語	2単位	秋学期	金曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

春期からの継続です（Apprenons le français par les belles expressions！『名句で学ぼう！初級フランス語』 第11課～23課）。この秋期で基本的な文法事項全体をおさえることになります。

秋期から新規で履修しようとするフランス語未経験者は、不可能ではありませんし（そういう履修者も過去何人もいました）、心より歓迎はしますが、それなりの意欲が必要なのは言うまでもありません。既習者は文法の弱点強化として秋期から登録するのも有効でしょう。

授業の進めかたは前期と同じ要領となります。進捗状況に遅れが生じた場合も考慮して、11月7日と1月9日はオンデマンドとします。

各課ごとの練習問題は宿題制とします。

試験は定期試験日におこないます。

フランス語そのものの上達はもとより、フランス語圏の文化への興味がはぐくまれることを何よりも望みます。

授業の到達目標

フランス語、もしくはフランス語圏文化への興味を持ち継続して学ぶこと。

成績評価方法

- **試験**　50%　　試験
- **レポート**　0%　　特になし
- **平常点**　50%　　課題の提出や授業における積極性など
- **その他**　0%　　特になし

科 目 名	第三外国語としてのフランス語2　B　オンラインで学ぶ初級フランス語							
担当者名	立花　史							
仏語	2単位	秋学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

本講座は、フランス語の初歩をいちから学んでみたいと思う学生を対象とするものです。授業はフルオンデマンドですが、試験のみ対面で定期試験の日におこないます。

まったくフランス語の予備知識のない人（例えば、第二外国語で別の言語を選択した人）が多いですが、それ以外にも、第二外国語でフランス語を選択したことのある人、高校時代にフランス語を少し習ったけれども忘れてしまった人など、毎年いろい

ろな人が登録しています。
教科書は『なびふらんせ1』を用います。紙媒体の教科書で授業を進めますが、『なびふらんせ1』は、無料のウェブ版の「なびふらんせ」と連動していて、ウェブ独自のコンテンツや小テストが付いていて、ポートフォリオで確認ができます。本講座を受講し終えた後も、自習用に利用可能です。オンライン授業にも対応しやすいシステムになっています。講師の知るかぎり、最先端の教科書です。
教科書には、フランスの社会や文化がわかるビジュアルがたくさん掲載されていますが、ウェブ版では関連の動画も閲覧できます。
進行方法ですが、教科書のはじめからゆっくりめにスタートして、なるべく2回の授業で一課ずつ進むことになります。
その他、教科書だけでは足りない場合には、別途、文法問題を配布したり、あるいは授業の内容と関連のある資料（映像や音源など）を見せたりすることもあります。

授業の到達目標

本講座の最大の目標は、フランス語のごく初歩的な運用能力を得ること、それを通じて、多少なりともフランス語圏の文化に触れることです。
ゆっくりめのペースで、春学期と秋学期で、『なびふらんせ1』の9課か10課あたりまでをやりおえる予定です。

成績評価方法

●**試験**　90%　　試験は対面でおこないます。筆記が中心になるかと思います。
●**レポート**　0%
●**平常点**　10%
●**その他**　0%

備考・関連URL

本講座は、授業はフルオンデマンド配信、学期末の定期試験は対面となります。
登録を検討している人は、接続環境の確認もあるので、なるべく初回から参加してもらえると助かりますが、もちろん二次、三次登録からの参加も歓迎します。
フランス語を半期分程度の内容を学習した学生であれば、秋学期からの参加も歓迎します。
授業計画は、進行上大幅に前後する場合があります。あくまで目安と考えてください。

科 目 名	速習フランス語　A　フランス語初級文法を半期（週2回）で学ぶ							
担当者名	松村　悠子							
仏語	４単位	春学期	月５時限	木５時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

フランス語を一から学びたい人、一からやり直したい人を対象とする講座です。 半期週2回（計28回）の授業でフランス語の初級文法を大体一通り学習します。初級文法とは通常アルファベから接続法までです。この授業で接続法を扱えるかどうかは予め分かりません。ですが、条件法現在形か直説法単純未来形まではカバーする予定です。
基本的に、教員が文法の説明を行い、それを踏まえて受講者が練習問題を解くという方法で文法学習を行います。
文法中心、短期集中型の授業であり、短期間で初級文法全般を扱うため、授業の進め方はかなりスピーディーです。 詳細な文法事項や幅広い語彙の習得より、基礎的な文法事項の習得を優先します。
発音、動詞の活用、基本的な語彙、その他文法事項に関する小テストを度々行います。宿題もあります。
文学学術院が管理する定期試験（第15週目に実施）、あるいはそれに代わる「理解度の確認試験」（授業期間中の学期の終わり頃）を一度行います。
この授業での学習事項を8割以上習得して、少し自習を加えれば、翌学期には一つ上のレベルの授業に付いて行けるようになるような授業計画を考えています。
同時に、そこまでの習得度を目指せないが、とりあえずフランス語を始めてみたい、とお考えの方々も、平常点が良好かつ、大体複合過去形までの基本的な理解度を、学期末試験あるいは「理解度の確認」試験で証明できれば、最低限の評価を得られるように授業を構想しています。
受講者は予習・復習に力を入れてください。
文法学習に効果的な口頭での訓練も時々行います。ただし、フランス語を話せるようになるにはそれに特化した別の訓練が必要であり、通常この授業を受講しただけでは、話せるようにはなりません。この授業を学期の最後まで受けた後に会話クラスを受講するのがお勧めです。

授業の到達目標

フランス語初級文法の基礎を身につける。

成績評価方法

●**試験**　50%　　定期試験、あるいは学期の終わり頃に行う「理解度の確認」試験
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　50%　　授業参加度、宿題、小テスト
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

【単位取得と欠席・遅刻・早退について】 単位取得には3分の2以上の出席が必要です。遅刻1回、あるいは早退1回で欠席3分の1回、つまり遅刻・早退計3回で欠席1回とみなします。 授業開始から30分以上遅れて参加した場合、授業終了の30分以上前に早退した場合は欠席扱いです。
やむを得ない理由で欠席・遅刻・早退をし、かつ出席数についての配慮を希望する場合は、まずその理由の正当性を証明する書類が必要です（加えて、多くの場合は課題提出義務が生じます）。感染症等、大学が配慮願い発行の対象としている事由の場合は、大学からの正式な書類を提出してください。
ただし、理由の如何を問わず、欠席数が授業数の3分の1を越える場合は、配慮できない可能性があります。
学術院運営による未済試験制度が再開されない限り、定期試験（あるいは理解度の確認試験）時の欠席・遅刻・早退については、特に厳正に対応します。
【「理解度の確認」試験について】

「理解度の確認」試験は、第24～28回目授業の間に行います。第24回目授業での実施はなるべく避けたいところですが、社会状況、未済試験制度の有無等に鑑みて、試験実施が早期になる可能性はあります。また、その結果として、試験後に通常授業や小テストを行うことになる可能性もあります。

【その他注意事項】

仏和辞典と教科書を用意して授業に参加してください。

辞書に関しては、主要なものを初回授業で紹介します。

教科書の紹介ページ（朝日出版社HP）: https://text.asahipress.com/french/detail.php?id=1211

教科書の音声ダウンロード：http://text.asahipress.com/free/french/Revolutions1/index.html

何らかの理由で、初回授業に出席できない場合も、本科目受講上の注意点詳細などをよく理解しておいてください。

上記28回の授業計画は、社会状況、教務に関する大学の制度、クラスの人数や特性等、諸々の状況により変更になる場合があります。

科 目 名	速習フランス語　B　フランス語初級文法を半期（週2回）で学ぶ							
担当者名	松村　悠子							
仏語	４単位	秋学期	月５時限	木５時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

フランス語を一から学びたい人、一からやり直したい人を対象とする講座です。 半期週2回（計28回）の授業でフランス語の初級文法を大体一通り学習します。初級文法とは通常アルファベから接続法までです。この授業で接続法を扱えるかどうかは予め分かりません。ですが、条件法現在形か直説法単純未来形まではカバーする予定です。

基本的に、教員が文法の説明を行い、それを踏まえて受講者が練習問題を解くという方法で文法学習を行います。

文法中心、短期集中型の授業であり、短期間で初級文法全般を扱うため、授業の進め方はかなりスピーディーです。 詳細な文法事項や幅広い語彙の習得より、基礎的な文法事項の習得を優先します。

発音、動詞の活用、基本的な語彙、その他文法事項に関する小テストを度々行います。宿題もあります。

文学学術院が管理する定期試験第15週目に実施)、あるいはそれに代わる「理解度の確認試験」(授業期間中の学期の終わり頃)を一度行います。

この授業での学習事項を8割以上習得して、少し自習を加えれば、翌学期には一つ上のレベルの授業に付いて行けるようになるような授業計画を考えています。

同時に、そこまでの習得度を目指せないが、とりあえずフランス語を始めてみたい、とお考えの方々も、平常点が良好かつ、大体複合過去形までの基本的な理解度を、学期末試験あるいは「理解度の確認」試験で証明できれば、最低限の評価を得られるように授業を構想しています。

受講者は予習・復習に力を入れてください。

文法学習に効果的な口頭での訓練も時々行います。ただし、フランス語を話せるようになるにはそれに特化した別の訓練が必要であり、通常この授業を受講しただけでは、話せるようにはなりません。この授業を学期の最後まで受けた後に会話クラスを受講するのがお勧めです。

授業の到達目標

フランス語初級文法の基礎を身につける。

成績評価方法

●**試験**　50%　　定期試験、あるいは学期の終わり頃に行う「理解度の確認」試験

●**レポート**　0%　　なし

●**平常点**　50%　　授業参加度、宿題、小テスト

●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

【単位取得と欠席・遅刻・早退について】 単位取得には3分の2以上の出席が必要です。遅刻1回、あるいは早退1回で欠席3分の1回、つまり遅刻・早退計3回で欠席1回とみなします。 授業開始から30分以上遅れて参加した場合、授業終了の30分以上前に早退した場合は欠席扱いです。

やむを得ない理由で欠席・遅刻・早退をし、かつ出席数についての配慮を希望する場合は、まずその理由の正当性を証明する書類が必要です（加えて、多くの場合は課題提出義務が生じます)。感染症等、大学が配慮願い発行の対象としている事由の場合は、大学からの正式な書類を提出してください。

ただし、理由の如何を問わず、欠席数が授業数の3分の1を越える場合は、配慮できない可能性があります。

学術院運営による未済試験制度が再開されない限り、定期試験（あるいは理解度の確認試験）時の欠席・遅刻・早退については、特に厳正に対応します。

【「理解度の確認」試験について】

「理解度の確認」試験は、第24～28回目授業の間に行います。第24回目授業での実施はなるべく避けたいところですが、社会状況、未済試験制度の有無等に鑑みて、試験実施が早期になる可能性はあります。また、その結果として、試験後に通常授業や小テストを行うことになる可能性もあります。

【その他注意事項】

仏和辞典と教科書を用意して授業に参加してください。

辞書に関しては、主要なものを初回授業で紹介します。

教科書の紹介ページ（朝日出版社HP）: https://text.asahipress.com/french/detail.php?id=1211

教科書の音声ダウンロード：http://text.asahipress.com/free/french/Revolutions1/index.html

何らかの理由で、初回授業に出席できない場合も、本科目受講上の注意点詳細などをよく理解しておいてください。

上記28回の授業計画は、社会状況、教務に関する大学の制度、クラスの人数や特性等、諸々の状況により変更になる場合があります。

科 目 名	フランス語を読む11（文学2）							
担当者名	福山　智							
仏語	２単位	春学期	金曜日	３時限	２年以上	―	合併科目	フル【対面】

授業概要

当講座は、前半は批評文を中心に、残り5回でやや難解な文学作品を読んでいきます。 対象はフランス語既習者（2年生以上）です。

原文で読むことで、履修者のフランス語の読解力の向上を目指すのはもちろんですが、内容そのものも訳文で読む以上にしっかり根付いて血となり肉となってゆく、そんなスリルも体感してください。

レベル設定は「上級」となっていますが、最初は比較的読みやすいものからはじめて、じょじょにレベルアップを目指します。

最終的には、マラルメの初期散文詩（初期なのできっと大丈夫です）とプルースト『失われた時を求めて』（これはヤベェという状態になったとしても、それはそれで貴重な経験です。意外と読めるとなるならさらに良し。）にチャレンジしましょう。

レベル設定にひるむ必要はありません（じっさいに、これまでにフランス語歴1年という受講者もひとりやふたりではありませんし、結果的に向こう見ずな行為だとも思えません。フランス語力というより意欲の問題です）。

批評に、またはフランス語そのものに興味のある学生なら誰でも歓迎します。また当講座はオープン科目でもあります。他学部からも臆することなく参加してください。ともに学びましょう。

基本的にテキストはリクエスト制です。したがって、授業計画は大半が未定です。初回の授業でアンケートをとります。リクエストや所属の学部・コース・論系やそれぞれの興味を勘案してテキストを選定していきます。文学論だけではなく、絵画論、映画論等々、幅広く読めるようにします。すべてのリクエストにこたえることはできないかもしれませんが、名案を期待します。

また、**テストはおこないません。 そのかわり、2週に1度の割合で数行の仏文和訳問題を課題として出します。**これをおもな評価基準とします。とはいえ、フランス語歴が浅い受講者はハンディとなる恐れがあるので、成長度も加味した評価とします。課題文も大半は未定です（最初の2回分は比較的読みやすい文章を選びました。授業計画欄参照。）。最初のオリエンテーションで受講者の皆さんと話し合って授業の流れのなかでボチボチ決められればと思っています。

授業の到達目標

今後の考えるツールのひとつとして原文で読むことでよりしっかりと根付かせること。

成績評価方法

- **試験**　0%　　特になし
- **レポート**　0%　　特になし
- **平常点**　30%　　授業における積極性
- **その他**　70%　　課題

備考・関連URL

問題文は、文法的なウィークポイントから、またただ単純に面白い文章だからという観点で選択します。

評価は、クオリティーだけではなく、成長率もおおいに考慮したいと思っています。おそれずに、ひるまずに、めげずにチャレンジしてください。

科 目 名	フランス語を読む12（文学2）							
担当者名	福山　智							
仏語	２単位	秋学期	金曜日	３時限	２年以上	―	合併科目	フル【対面】

授業概要

後期も引き続き、文学的または美学的な批評文を中心に読みすすめたい。対象はフランス語既習者です。もちろん、後期（秋期）からの履修でも、まったく問題はありません。

（以下は、春期のシラバスとほぼ同文です。秋期からの履修を考えている学生用に再掲します。）

当講座は、前半は批評文を中心に、残り5回でやや難解な文学作品を読んでいきます。 対象はフランス語既習者（2年生以上）です。

原文で読むことで、履修者のフランス語の読解力の向上を目指すのはもちろんですが、内容そのものも訳文で読む以上にしっかり根付いて血となり肉となってゆく、そんなスリルも体感してください。

レベル設定は「上級」となっていますが、最初は比較的読みやすいものからはじめて、じょじょにレベルアップを目指します。

最終的には、マラルメの初期散文詩（初期なのできっと大丈夫です）とプルースト『失われた時を求めて』（これはヤベェという状態になったとしても、それはそれで貴重な経験です。意外と読めるとなるならさらに良し。）にチャレンジしましょう。

レベル設定にひるむ必要はありません（じっさいに、これまでにフランス語歴1年という受講者もひとりやふたりではありませんし、結果的に向こう見ずな行為だとも思えません。フランス語力というより意欲の問題です）。

批評に、またはフランス語そのものに興味のある学生なら誰でも歓迎します。また当講座はオープン科目でもあります。他学部からも臆することなく参加してください。ともに学びましょう。

基本的にテキストはリクエスト制です。したがって、授業計画は大半が未定です。初回の授業でアンケートをとります。リクエストや所属の学部・コース・論系やそれぞれの興味を勘案してテキストを選定していきます。文学論だけではなく、絵画論、映画論等々、幅広く読めるようにします。すべてのリクエストにこたえることはできないかもしれませんが、名案を期待します。

また、**テストはおこないません。 そのかわり、2週に1度の割合で数行の仏文和訳問題を課題として出します。**これをおもな評価基準とします。とはいえ、フランス語歴が浅い受講者はハンディとなる恐れがあるので、成長度も加味した評価とします。課題文も大半は未定です（最初の2回分は比較的読みやすい文章を選びました。授業計画欄参照。）。最初のオリエンテーションで受講者の皆さんと話し合って授業の流れのなかでボチボチ決められればと思っています。

授業の到達目標

今後の考えるツールのひとつとして原文で読むことでよりしっかりと根付かせること。

成績評価方法

- **試験**　0%　　特になし
- **レポート**　0%　　特になし
- **平常点**　30%　　授業における積極性

●**その他**　70%　　課題

備考・関連URL

問題文は、文法的なウィークポイントから、またただ単純に面白い文章だからという観点で選択します。
評価は、クオリティーだけではなく、成長率もおおいに考慮したいと思っています。おそれずに、ひるまずに、めげずにチャレンジしてください。

科 目 名	フランス文化を知る11（ファッション・料理） フランス文化。ファッションと料理							
担当者名	ヴァリエーヌ　コリーヌ							
仏語	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

このクラスでは、ファッションと料理にフランス文化を発見するでしょう。あなたは、店舗やレストランでの会話に必要な基本的な単語を学習します。

授業の到達目標

学生は、伝統的なフランス料理や飲み物、素晴らしいシェフ、有名なフランスのデザイナーやクチュリエを発見することができます。

成績評価方法

40% 宿題
60% 試験（理解度の確認）

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	フランス文化を知る12（ファッション・料理） フランス文化。ファッションと料理							
担当者名	ヴァリエーヌ　コリーヌ							
仏語	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

このコースでは、フランス語のみのテキストを通して、ファッションや料理などのフランス文化を発見することができます。

授業の到達目標

学生は、伝統的なフランス料理や飲み物、素晴らしいシェフ、有名なフランスのデザイナーやクチュリエを発見することができます。

成績評価方法

40% 宿題
60% 試験（理解度の確認）

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。 ※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	フランス語で表現する11（メディア・コミュニケーション） フランス語によるメディア・コミュニケーションで世界に飛び出そう！							
担当者名	明石　伸子							
仏語	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

みなさんは、これまでどのようにフランス語を学習されてきましたか？教科書、参考書、練習問題集、単語集、熟語集以外にも、デジタルメディアを利用して、みなさんの学習意欲を高める世界を発見しませんか？この授業ではPCを大いに利用して、フランス語の新しい扉を開くことに取り組みます。フランス語の入力技術を学びますが、教材は新しいシャンソンの歌詞なので、それは同時にフランスの歌手たちを発見する機会になります。フランスのテレビ局にアクセスして、フランスのニュースをながめながら、いまこのときのフランスに触れます。インターネット上の学習サイトでフランス語の腕試しをします。またフランスの文化財は、多くのバーチャル訪問サイトを製作しているので、日本にいながらフランスを旅する機会を持ちます。フランス語のメールの書き方を習いますが、これを練習することで、フランス人とメール交換もできますし、またもっと気軽にフランス人のSNSサイトへのコメントもつけやすくなることでしょう。アウト・プットの学習としては、このクラスの伝統として、グループによるフランス語のブログ記事の作成があります。ブログ記事のテーマは早稲田大学、そして早稲田界隈をフランス語で世界に発信しようということです。グループ作業ではお互いの実力が違っていたとしても、誰にも何かしらの適した役割が見つかり、助けたり助けられたりして素敵な記事が残されてきました。授業中に先輩たちの記事を紹介します。この授業は担当教員による豊富な動画解説が提供されるオンデマンド配信です。課題の締切は3日後なので自分にとって自由度が高い時間帯に余裕を持って取り組めます。講義内容は授業の進捗や時事的な要素の必要性から調整されることがあります。※教材は金曜日の3限までに配信され、提出物の締切は日曜日の23:59となります。

授業の到達目標

デジタルなメディアを通じて新しい発見をしながらフランス語の能力を磨く。

成績評価方法

●**試験**　60%　　オンデマンド配信により、課題がレポート試験となる。
●**レポート**　20%　　課題内に実施されるコメント等の内容に応じて評価を与えます。
●**平常点**　10%　　授業への参加の姿勢を評価します。
●**その他**　10%　　授業に対する提言など自発的な活動に対して評価します。

備考・関連URL

授業の詳細についてはガイダンスにてさらに詳しく追加します。

科 目 名	フランス語で表現する12（メディア・コミュニケーション） フランス語によるメディア・コミュニケーションで世界に飛び出そう！							
担当者名	明石　伸子							
仏語	２単位	秋学期	無	フルOD	２年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

前期に引き続き以下の内容を発展させます（秋学期にはボジョレー・ヌーヴォー、クリスマス、大晦日など、フランスでもご馳走の季節となりますので、食文化の注目度を高くします）。みなさんは、これまでどのようにフランス語を学習されてきましたか？教科書、参考書、練習問題集、単語集、熟語集以外にも、デジタルメディアを利用して、みなさんの学習意欲を高める世界を発見しませんか？この授業ではPCを大いに利用して、フランス語の新しい扉を開くことに取り組みます。フランス語の入力技術を学びますが、教材は新しいシャンソンの歌詞なので、それは同時にフランスの歌手たちを発見する機会になります。フランスのテレビ局にアクセスして、フランスのニュースをながめながら、いまこのときのフランスに触れます。インターネット上の学習サイトでフランス語の腕試しをします。またフランスの文化財は、多くのバーチャル訪問サイトを製作しているので、日本にいながらフランスを旅する機会を持ちます。フランス語のメールの書き方を習いますが、これを練習することで、フランス人とメール交換もできますし、またもっと気軽にフランス人のSNSサイトへのコメントもつけやすくなることでしょう。また、アウト・プットの学習としては、このクラスの伝統として、グループによるフランス語のブログ記事の作成があります。ブログ記事のテーマは早稲田大学、そして早稲田界隈をフランス語で世界に発信しようということです。グループ作業ではお互いの実力が違うこともありますが、誰にも何かしらの適した役割が見つかり、助けたり助けられたりして素敵な記事が残されてきました。授業中に先輩たちの記事を紹介します。この授業は担当教員による豊富な動画解説が提供されるオンデマンド配信です。課題の締切は3日後なので自分にとって自由度が高い時間帯に余裕を持って取り組めます。講義内容は授業の進捗や時事的な必要性から調整されることがあります。※教材は金曜日の3限までに配信され、提出物の締切は日曜日の23:59となります。

授業の到達目標

デジタルなメディアを通じて新しい発見をしながらフランス語の能力を磨く。

成績評価方法

●**試験**　60%　　オンデマンド配信により、課題がレポート試験となる。
●**レポート**　20%　　課題内に実施されるコメント等の内容に応じて評価を与えます。
●**平常点**　10%　　授業への参加の姿勢を評価します。
●**その他**　10%　　授業に対する提言など自発的な活動に対して評価します。

備考・関連URL

授業の詳細についてはガイダンスにてさらに詳しく追加します。

科 目 名	フランス語力を強化する2（文法）							
担当者名	小幡　一雄							
仏語	２単位	春学期	無	フルOD	２年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

フランス語力を強化するため、文法の分かりにくく重要な事項（特に動詞と代名詞）をゆっくりと理解し、確実に習得していきます。オンデマンド型の授業です。毎回、moodleの「課題」というコンテンツに、文章による解説と小テストをアップしますので、必ずチェックするようにしてください。それをペースメーカーにして勉強を続けてください。その回答は下記のメールアドレスに、添付ではなくメール本文に入力してお送りください。moodleのコンテンツには返信しないでください。原則として、配信は毎週月曜日、小テスト回答の締め切りは配信から3日後の木曜日　15時までとします。回答を添削してできるだけ速やかに返信します。小テストの送信が出席の印となり、その結果の集積が評価の基準になります。また、ご質問も下記のメールアドレス宛にお送りください。

メールアドレス : kaz.obata@nifty.com

授業の到達目標

文法の土台を確かなものにする。また、文章の構文を把握する能力も身につけます。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　100%　　毎回行う小テストの結果の集積が評価の基準になります。
回答が未提出の回数と回答が不合格の回数が合計5回以上になると、単位はあげられません。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	フランス文化を知る13（演劇・ミュージカル） フランス語で学ぶスペクタクルの世界―テクスト、歴史、鑑賞を通して							
担当者名	片山　幹生							
仏語	２単位	春学期	火曜日	５時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業では、フランス語圏の演劇と舞台芸術を題材に、作品の読解、背景の分析、そして実際の舞台や映像の鑑賞を通じて、言語と文化の結びつきを探求します。テクストの読解と翻訳だけでなく、作品の歴史的・文化的背景、演出意図について学び、フランス語圏の舞台芸術を包括的に理解します。

1. フランス語圏の演劇、ミュージカル、オペラなどの作品概説および舞台映像の鑑賞。仏語版と日本での翻訳・翻案舞台の比較など。

2. 戯曲、台本、ミュージカルのナンバーの歌詞などのテクストの読解と翻訳。

3. フランス語圏で開催される舞台芸術フェスティバルや公演、日本で公演されるフランス関連の舞台芸術の紹介（注目すべき舞台公演が授業期間中にある場合は、その作品を授業でとりあげ、舞台鑑賞に行く機会を作ることも考えています）。

授業の到達目標

1. 戯曲や台本を通じてフランス語の読解力と表現力を向上させる。
2. フランス語圏の舞台芸術の歴史的背景や文化的意義を理解する。
3. 鑑賞や議論を通じて、舞台作品に対する批評的な視点を養う。
4. 翻訳、朗読、演出案の立案を通じて、舞台芸術への実践的なアプローチを体得する。

成績評価方法

各作品ごとにWaseda Moodle上に課題を提出してもらいます。
コメントシート、課題、そして授業への積極的な参加の度合いを評価の材料とします。筆記試験は行いません。

備考・関連URL

フランス語を週2回程度1年間、大学等で学習したことのあることが受講の条件となります。
おおむね仏検4級ないし3級レベルの人を想定して、授業を行います。
授業で取り上げる作品は学生のレベルや嗜好等を考慮して変更される可能性があります。

科 目 名	フランス文化を知る14（演劇・ミュージカル） フランス語で学ぶスペクタクルの世界―テクスト、歴史、鑑賞を通して							
担当者名	片山　幹生							
仏語	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	―	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業では、フランス語圏の演劇と舞台芸術を題材に、作品の読解、背景の分析、そして実際の舞台や映像の鑑賞を通じて、言語と文化の結びつきを探求します。テクストの読解と翻訳だけでなく、作品の歴史的・文化的背景、演出意図について学び、フランス語圏の舞台芸術を包括的に理解します。

1. フランス語圏の演劇、ミュージカル、オペラなどの作品概説および舞台映像の鑑賞。仏語版と日本での翻訳・翻案舞台の比較など。
2. 戯曲、台本、ミュージカルのナンバーの歌詞などのテクストの読解と翻訳。
3. フランス語圏で開催される舞台芸術フェスティバルや公演、日本で公演されるフランス関連の舞台芸術の紹介（注目すべき舞台公演が授業期間中にある場合は、その作品を授業でとりあげ、舞台鑑賞に行く機会を作ることも考えています）。

授業の到達目標

1. 戯曲や台本を通じてフランス語の読解力と表現力を向上させる。
2. フランス語圏の舞台芸術の歴史的背景や文化的意義を理解する。
3. 鑑賞や議論を通じて、舞台作品に対する批評的な視点を養う。
4. 翻訳、朗読、演出案の立案を通じて、舞台芸術への実践的なアプローチを体得する。

成績評価方法

各作品ごとにWaseda Moodle上に課題を提出してもらいます。
コメントシート、課題、そして授業への積極的な参加の度合いを評価の材料とします。筆記試験は行いません。

備考・関連URL

フランス語を週2回程度1年間、大学等で学習したことのあることが受講の条件となります。
おおむね仏検4級ないし3級レベルの人を想定して、授業を行います。
授業で取り上げる作品は学生のレベルや嗜好等を考慮して変更される可能性があります。

科 目 名	フランス語を読む13（絵本・児童文学） 『星の王子さま』をフランス語の原書で読む							
担当者名	今関　奏子							
仏語	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	―	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業では、アントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリによって1943年にアメリカで発表（フランスでは1945年）され、今なお世界中で愛され続ける「星の王子さま」を講読します。かつて「おとな」がそうであった「こども」に捧げられた本書は、まさに「こども」が世界を見るように比較的やさしいフランス語で書かれています。しかし、戦禍の時代に描かれたこの作品の「こども」の視線はときに鋭く厳しくもあります。授業ではフランス語の読解を通じて、作品を原書で読むことのおもしろさや奥深さを感じてもらいたいと思います。

この授業は、フランス語の文法事項を一通り学習した学生を対象としていますが、実際のフランス語の文章を読みながら文法事項を復習していくため、文法に自信がない人でも意欲があれば歓迎します。また、より高いレベルを目指す学生にとっては、これまで出版されてきた複数の「星の王子さま」の日本語訳を読み比べることによって、AI翻訳が躍進する現代における翻訳行為の深みや意義を改めて考える機会ともなるでしょう。

授業では、作品を通読することを目指しますが、受講者と相談しながら無理のないペースで進めていきます。

成績評価は、テストを行いませんので、毎回の出席と音読・訳読（文法事項の説明も含め）への取り組みを重視します。状況によって、訳文の提出を求める場合もあります。

授業の到達目標

フランスの文学作品を辞書を引きながら読むことに慣れる。
読解力を養い、フランス語の文法の理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　平常点による評価。
●**レポート**　0%　　平常点による評価。
●**平常点**　100%　　毎回の音読・訳読発表（文法事項の説明も含む）で評価します（1回5点で約70%）。発表担当のない回は、訳文提出を必須とします。
出席・参加度を1回2点（約30%）とします。
履修者の人数次第で追加課題（訳文提出）を課す場合があります。
●**その他**　0%　　平常点による評価。

科 目 名	フランス語を読む14（絵本・児童文学） フランス語圏の絵本・児童文学を原書で読む							
担当者名	今関　奏子							
仏語	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業は「フランス語を読む13（絵本・児童文学）」の続きの科目ですが、秋学期のみ受講することもできます。秋学期は、フランス語圏の絵本や児童文学を読み進めながら、辞書を使ってフランス語の文章を読む力を養います。

授業では、みなさんに馴染みのある絵本から、古典的な挿絵本まで、児童文学の黎明期から現代の絵本に至るまでの幅広い作品を扱います。遊び心に満ちたフランス語から、格調高い教訓的な文章など、さまざまな時代の多様なスタイルの子ども向けのフランス語に一緒に触れていきましょう。また、映像作品も取り入れフランス語を聞く機会も設ける予定です。

さらに、各授業ではテーマやジャンルを設定し、教育、印刷技術や出版の発展とともに変遷してきた17世紀から21世紀までのフランス語圏の絵本・児童文学の歴史も学びます。扱うテキストは受講者の関心やリクエストに応じて変更する場合があります。

フランス語の文法事項を一通り学習した学生を対象していますが、文法を復習しながら読解を進めていきますので、文法に自信がない人でも意欲があれば歓迎します。成績評価は毎回の出席と訳読（文法事項の説明を含め）への取り組みを重視します。また、受講人数によっては、訳文の提出を求める場合があります。

授業の到達目標

フランス語の文章を辞書を引きながら読むことに慣れる。
読解力を養い、フランス語の語彙や表現の理解を深める。
フランス語圏の児童文学の歴史や文化的背景を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　平常点による評価。
●**レポート**　0%　　平常点による評価。
●**平常点**　100%　　毎回の音読・訳読発表（文法事項の説明も含む）で評価します（1回5点で約70%）。発表担当のない回は、訳文提出を必須とします。
出席・参加度を1回2点（約30%）とします。
履修者の人数次第で追加課題（訳文提出）を課す場合があります。
●**その他**　0%　　平常点による評価。

科 目 名	フランス文化を知る15（BD・マンガ） フランス語圏のマンガ「バンド・デシネ」の世界							
担当者名	原　正人							
仏語	2単位	春学期	金曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

フランス語圏のマンガを「バンド・デシネ（bande dessinée）」と呼びます。日本のマンガや北米のコミックスと同様に、バンド・デシネもまた長い歴史に根差した多様な広がりを有しています。この講義では、バンド・デシネの歴史や現状を学び、古典から最新作までさまざまな作品をフランス語で実際に読み、訳していきます。一部のバンド・デシネが日本のマンガに影響を与えてきた一方で、とりわけ1990年代以降、日本のマンガもまた、バンド・デシネに影響を与えてきました。バンド・デシネが日本でどのように紹介されてきたのか、逆に日本のマンガがフランスでどのように紹介されてきたのか、そういった文化の交流といった側面にも触れていく予定です。今や日本のマンガのフランス語訳もバンド・デシネの一部となっていますので、フランス語訳された日本のマンガも授業の中で取り上げます。フランス語をただ直訳するのと、読者を想定しながら、実際にフキダシの中に言葉を置いていくのは、かなり異なる作業です。最終的にはコマの中に言葉を置く実践もしてみたいと思います。

授業の到達目標

バンド・デシネをフランス語で読む自信がつく。バンド・デシネを通じてフランス文化とフランス語をより深く理解できるようになる。

成績評価方法

平常点評価（授業のなかで担当する翻訳と参加態度）：70%、課題：30%

科 目 名	フランス文化を知る16（BD・マンガ） フランス語圏のマンガ「バンド・デシネ」の世界							
担当者名	原　正人							
仏語	2単位	秋学期	金曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この講義は春学期「フランス文化を知る15（BD・マンガ）」の続きです。春学期同様、フランス語圏のマンガ「バンド・デシネ（bande dessinée）」の歴史や現状を学び、古典から最新作までさまざまな作品を実際にフランス語で読み、訳していきます。春学期とは異なる作品を扱います。通年の受講も秋学期だけの受講も可能です。一部のバンド・デシネが日本のマンガに影響を与えてきた一方で、とりわけ1990年代以降、日本のマンガもまた、バンド・デシネに影響を与えてきました。バンド・デシネが日本でどのように紹介されてきたのか、逆に日本のマンガがフランスでどのように紹介されてきたのか、そういった文化の交流といった側面にも触れていく予定です。今や日本のマンガのフランス語訳もバンド・デシネの一部となっていますので、フランス語訳された日本のマンガも授業の中で取り上げます。フランス語をただ直訳するのと、読者を想定しつつ、実際にコマの中に言葉を置いていくのは、かなり異なる作業です。最終的にはフキダシの中に言葉を置く実践もしてみたいと思います。

授業の到達目標

バンド・デシネをフランス語で読む自信がつく。バンド・デシネを通じてフランス文化とフランス語をより深く理解できるようになる。

成績評価方法

平常点評価（授業のなかで担当する翻訳と参加態度）：70%、レポート：30%

科 目 名	速習ドイツ語1							
担当者名	柳　勝己							
独語	２単位	春学期	金曜日	１時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

初めてドイツ語を学ぶ学生、あるいはもう一度基礎からやり直したい学生が対象で、基本的な文法の習得を目指します。半期で初級文法を一通り学ぶため、授業のスピードは速めです。対面授業が困難な場合は、Zoomを用いたリアルタイム配信型授業、あるいは Moodle を用いたオンデマンド授業として実施します。

授業の到達目標

ドイツ語文法の基礎（ドイツ語技能検定試験3級レベル）を身につけます。受講終了後、簡単なニュースや原文を読めるようになることを目標にします。

成績評価方法

●**試験**　50%　　第14回に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート**　0%　　特にありません。
●**平常点**　50%　　毎回行う小テスト、授業内演習と文章の音読、課題などを総合的に評価します。いわゆる「出席点」は付けません。
●**その他**　0%　　特にありません。

備考・関連URL

教科書の音声ダウンロードページ（https://www.ikubundo.com/related/90）

科 目 名	速習ドイツ語2							
担当者名	柳　勝己							
独語	２単位	秋学期	金曜日	１時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

初めてドイツ語を学ぶ学生、あるいはもう一度基礎からやり直したい学生が対象で、基本的な文法の習得を目指します。半期で初級文法を一通り学ぶため、授業のスピードは速めです。対面授業が困難な場合は、Zoomを用いたリアルタイム配信型授業、あるいは Moodle を用いたオンデマンド授業として実施します。

授業の到達目標

ドイツ語文法の基礎（ドイツ語技能検定試験3級レベル）を身につけます。受講終了後、簡単なニュースや原文を読めるようになることを目標にします。

成績評価方法

●**試験**　50%　　第14回に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート**　0%　　特にありません。
●**平常点**　50%　　毎回行う小テスト、授業内演習と文章の音読、課題などを総合的に評価します。いわゆる「出席点」は付けません。
●**その他**　0%　　特にありません。

備考・関連URL

教科書の音声ダウンロードページ（https://www.ikubundo.com/related/90）

科 目 名	ドイツ語をじっくり読む1　「女性亡命ユダヤ人作家の研究」							
担当者名	香田　芳樹							
独語	２単位	春学期	木曜日	３時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

ヘルダーは『人類歴史哲学考』の中で、ポグロムやディアスポラといった苦難の記憶に呪縛されたユダヤ人たちは西欧社会において「社会的炯眼」を養い、これが彼らが商売や聖書解釈において西欧から距離をおく理由となったと述べ、これに対して「教養あるユダヤ人」は「非歴史的」であり、自己の選民思想を捨ててヨーロッパ社会に資する民になるための条件は何かを模索し、ドイツ帝国への恭順や、ドイツ文化の吸収によって教養ある臣民になることができると説きました。

非歴史的であることがその後、ファシズムによる悲劇を倍加したことを思えば、ヘルダーの定式は素朴に過ぎる感がありますが、他方、過去の呪縛から解放されない一部のイスラエル人がパレスチナを不当に支配している現実を我々は日々目にしています。レッシングが『賢者ナータン』で描いたようにユダヤ的知性が「教養」に達するのか、あるいは「社会的炯眼」どまりなのかは、ユダヤ文化を研究する意味を真に問うものでもあります。

この演習では、ファシズムの時代のオーストリアに生きた二人のユダヤ人女性作家の作品を読むことで、彼女たちの非暴力への訴えが普遍的な意味をもっていることを明らかにしたいと思います。

授業の到達目標

ヴェーツァ・カネッティ（1897−1963）はユダヤ系オーストリア人としてウィーンに生まれ、恵まれた文学的才能を開かせ将来を嘱望される作家となりましたが、ファシズムの台頭とともにロンドンに亡命を余儀なくされ、戦後も母国には帰らず、そこで亡くなりました。『黄色い街』（邦訳あり）、『辛抱すればバラが咲く』、『オーガー』などすぐれた作品を残しましたが、作家としては忘れられ、彼女の名が再び世に知られるのは、夫のエリアス・カネッティが1981年にノーベル文学賞を受賞してからでした。しかしながら作家として生前は、夫エリアスよりも高い評価を受けていました。演習では、自伝的小説『亀たち』の一章を講読します。

テクストはコピーして配布します。

演習の後半では、ヴェーツァ同様オーストリアからロンドンに逃れた女性作家メーラ・ハルトヴィヒ（1893-1967）の短編小説『ウルムの奇蹟』を講読します。教養あるユダヤ人家庭に生まれたメーラは女優として活躍した後、文筆業に転じ、『わたしって余計者？』など多くの作品を残しましたが、それらは発表の機会に恵まれず、やがて忘れられました。ロンドンではヴァージニア・ウルフの知遇を得て、彼女の作品の翻訳をしています。ファシズムによる迫害を女性の視点から描いた『ウルムの

奇蹟』は時代の生き証人としての価値をもっています。
テクストはコピーして配布します。

成績評価方法

●**試験** 0%　試験はおこないません。
●**レポート** 40%　担当箇所の和訳をWord形式で提出していただきます。
●**平常点** 60%　2／3以上の出席を必要とします。
●**その他** 0%　ありません。

科 目 名	ドイツ語をじっくり読む2　ドイツ語の掌編小説を読む							
担当者名	村井　浩一							
独語	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

文学作品を味読しながらドイツ語の読解力の向上を目指す授業です。
短編作品の中でも特に短いもの（長くても4ページ程度、短いものは1ページで終わる「掌編」）を教材にします。19世紀から現代に至るまでの作家の小品から、趣向も文体も異なる何篇かを選んで読みます。Bertolt Brecht（1898-1956)のような有名作家の他、日本ではあまり馴染みのない作家の「名品」も取り上げたいと思っています。必要に応じて文法の復習もまじえながら、丁寧に読み進めていきます。

授業の到達目標

辞書を用いて一般的なドイツ語の文章をなんとか自力で読める力を身につける。

成績評価方法

●**試験** 60%　学期末（第14回）に筆記試験を実施し、理解度を確認します。
●**レポート** 0%
●**平常点** 40%　授業中に随時指名し、きちんと授業準備ができているかどうかを確認します。授業への真摯な取り組みを評価します。
●**その他** 0%

科 目 名	ドイツ語をじっくり読む3　ドイツ・ロマン派の画家フリードリヒの伝記を読む							
担当者名	戸嶋　匠　他／武田　利勝							
独語	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

2017年にNintendo Switchのソフトとして『ゼルダの伝説　ブレス・オブ・ザ・ワイルド』というゲームが発売されました。美術史家の松下哲也氏によれば、高山の岩の上に立ち険しい山々の頂を見据える主人公リンクを描いたこのゲームのパッケージイラストは、ドイツ・ロマン派の画家カスパー・ダーヴィット・フリードリヒの『雲海の上の旅人』を引用しており、このゲームはロマン主義的ピクチャレスクを体験するゲームであるといいます。フリードリヒの絵はこのほかにも多くのCDのジャケットや本の表紙に使われてきたので、どこかでご覧になった方も多いと思います。彼の孤独で静謐な風景画はどこか非現実的で、さながら死後の世界を描いているようでもあり、観る者を引き込まずにはいられません。 この授業では、ドイツの新書レーベルC. H. Beck Wissenの一冊であるフリードリヒの伝記を読みます。著者は美術史の専門家ですが、一般向けの新書であるので特に前提知識は必要ありません。

授業の到達目標

ドイツ語読解力を高めるとともに、ドイツ・ロマン派の美術について知る。

成績評価方法

●**試験** 52%　最終回に理解度の確認テスト（独文和訳）を行います。辞書持ち込み可。
●**レポート** 0%
●**平常点** 48%　授業に参加し、訳読すると4点獲得することができます。第2回から第13回まで12回全て出席すると48点。
●**その他** 0%

備考・関連URL

https://news.denfaminicogamer.jp/kikakuthetower/180330b

科 目 名	ドイツ語をじっくり読む4　堀辰雄と読むドイツ文学							
担当者名	戸嶋　匠							
独語	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

ハイソな軽井沢ムードの星菫派と見られることの多い堀辰雄ですが、あの戦争の時代に自分の文体を守って自分の描きたい世界だけを描いたのは、やはり本当の意味で「勁い」作家であったといえるでしょう。彼の代表作『風立ちぬ』は、フランス文学に学んだ彼らしくポール・ヴァレリーの詩の一節（「風立ちぬ、いざ生きめやも」）をエピグラフに掲げていますが、リルケの『レクイエム』とゲーテの『ファウスト』も引用しています。若くして亡くなった文学仲間・立原道造と同じくリルケを敬愛した堀は、旧制一高で第一外国語としてドイツ語を学んだこともあり、その作品にも時々ドイツ語が出てきます。たとえばシュティフターの小説とタイトルが同じ小品『晩夏』の中で彼は、妻と二人きりでいる寂しさをZweisamkeitという語で言い表わしています。 この授業では、堀と親交のあったドイツ文学者・富士川英郎のエッセイ「堀辰雄とドイツ文学」と岩波文庫の『立原道造・堀辰雄翻訳集』を参考に、堀辰雄（と立原道造）が翻訳、もしくは小説やエッセイの中で言及しているドイツ文学の作品を訳読したいと思います。

授業の到達目標

堀辰雄の文学を通じてドイツ文学に親しむ。ドイツ語の読解力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　52%　　最終回に理解度の確認テスト（独文和訳）を行います。辞書持ち込み可。
●**レポート**　0%
●**平常点**　48%　　授業に参加し、訳読すると4点獲得することができます。第2回から第13回まで12回全て出席すると48点。
●**その他**　0%

科 目 名	ドイツ語をじっくり読む5　ナチ＝ドイツと言語							
担当者名	村井　浩一							
独語	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

独裁的な政権が国民をコントロールしようとするとき効力を発揮するのは、物理的・身体的脅迫もさることながら、言葉の力です。言葉を通じて人々を煽り、「民族」としての一体感を演出し、単純な二者択一を迫って合理的判断力を奪い、特定のイデオロギーを個々人の内面にまで浸透させていく。そのような戦略は残念ながらいまなお「有効」なのかもしれません。だからこそ、おぞましい結果を招いた過去を検証することが、我々の変わらぬ課題としてあるのだとも言えます。

この授業では、ナチ統治下のドイツの人々を「魅了」してしまった様々な「言葉」も教材とします。たとえば、ナチ党大会を記録したリーフェンシュタール監督の映画『意志の勝利』の中でのヒトラーの演説などを取り上げます。一方でナチ政権に対する人々の距離感をうかがわせるようなジョークにも目を向けます。そのうえで、ナチ時代に独特の意味を付与されてしまった語彙を現代人がどう扱うべきかを論じた文章も読みたいと思っています。それらのテクストを訳読し、批判的な目で検証しながら、基本文法を学び終えた受講生を対象にドイツ語の読解力をさらに高めていこうというわけです。あくまで「ドイツ語の読解力」向上を第一目標とする授業ではありますが、プロパガンダに惑わされない、広い意味での「読む力」を養う一助になればと願います。

授業の到達目標

辞書を用いて一般的なドイツ語の文章をなんとか自力で読解する能力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　60%　　学期末（第14回）に筆記試験を実施し、理解度を確認します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　授業中に随時指名して授業準備をきちんとしてあるか確認します。授業への真摯な取り組みを評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	ドイツ語をじっくり読む6　ユダヤ人女性亡命作家の作品を読む　—ヴェーツァ・カネッティ、グレーテ・ヴァイル							
担当者名	香田　芳樹							
独語	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業では、ユダヤ人の女性亡命作家の作品を扱います。

ドイツ・オーストリア文学には、ファシズムに抵抗して、あるいはファシズムから逃れて亡命先で書かれた「亡命文学」というジャンルが存在します。トーマス・マンやベルトルト・ブレヒトがその代表格ですが、シュテファン・ツヴァイクやヨーゼフ・ロートやエリアス・カネッティといったユダヤ人作家もその中には多く含まれます。

しかし奇妙なのはその中に女性作家がほとんどいないことです。

ワイマール共和国時代には周囲の偏見にもかかわらず、多くの女性芸術家が活躍し、百花繚乱の様相を呈していました。その中には少なからずユダヤ人女性もいました。しかし国民社会主義運動の高まりによってナチ党が勢力を伸ばし、ユダヤ人が公民権を奪われると、彼女たちは夫と、あるいは一人で国を去り、亡命生活に入りました。

失われた生活基盤の上で、また不自由な外国語で彼女たちは文筆活動を続けようとしましたが、多くは断筆し、作品は忘れ去られ、失意のうちに外国で生涯を閉じた者も少なくありませんでした。文学史に名を残した「亡命作家」は国を去った作家のほんの一部ですが、その中でも特に女性作家は皆無だったということを知らなければなりません。

授業の到達目標

この授業の目的は、忘れられた二人のユダヤ人女性亡命作家に光を当て、忘却の淵から救い出すことです。

ヴェーツァ・カネッティ（1897−1963）はユダヤ系オーストリア人としてウィーンに生まれ、恵まれた文学的才能を開かせ将来を嘱望される作家となりましたが、ファシズムの台頭とともにロンドンに亡命を余儀なくされ、戦後も母国には帰らず、そこで亡くなりました。『黄色い街』（邦訳あり）、『辛抱すれば花が咲く』、『オーガー』などすぐれた作品を残しましたが、作家としては忘れられ、彼女の名が再び世に知られるのは、夫のエリアス・カネッティが1981年にノーベル文学賞を受賞してからでした。しかしながら作家として生前は、夫エリアスよりも高い評価を受けていました。

グレーテ・ヴァイル（1906−1999）はユダヤ系ドイツ人としてミュンヘンで生まれ、弁護士の家庭で高い教養を身につけました。戦争勃発と共にオランダに亡命し、そこで終戦まで潜伏生活を送りました。その間に夫は強制収容所で命を落としています。戦後はドイツに戻り作家活動を再開しましたが、その作品は日本ではほとんど知られていません。

授業ではこの二人の女性作家の生涯を解説しながら、短編小説を読んでいきます。

テクストは平易なドイツ語で書かれており、中級以上のドイツ語力で読み込めます。基礎文法を確認しながらじっくり読んで、作品を味わってみましょう！

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はおこないません。
●**レポート**　40%　　学期末に簡単なレポートを提出していただきます。
●**平常点**　60%　　2／3以上の出席が必要です。予習して授業に臨んでください。
●**その他**　0%　　ありません。

科 目 名	ドイツ語をじっくり読む7　ドイツ語で小咄を読む							
担当者名	武田　利勝							
独語	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

「逸話が三つあれば、一人の人間のイメージを作り上げるに十分」とは、ニーチェの言葉です。Anekdote、「逸話」あるいは「奇談」。歴史上の実在人物、あるいは歴史的事件を題材に、真偽のほどはさておいて…とはいってもウソだろうとは思いつつ、どこか本当らしく聞こえなくもない、そんな小咄のこと。近代初期のヨーロッパでは夜ごとの社交の席で欠かせないイベントでしたし、勃興期のマスメディアにおいてもまた、読者を引き付けるための必携アイテムでした。

この演習では、18世紀後半から20世紀前半にかけて書かれた珠玉のアネクドーテ、言い換えれば「ドイツ語版すべらない話」の数々をじっくり読んでいきます。

アネクドーテの名手として、以下の人々が登場する予定です。まず、ドイツ啓蒙主義を代表してリヒテンベルク。達人のひしめくロマン主義からは、何といってもハインリヒ・フォン・クライスト。ビーダーマイアー期を代表するのは、ヘッベルとシュティフターか。20世紀のアネクドーテといえば、ブレヒトにとどめを刺すでしょう（もっとも、この授業で20世紀の作家に到達できるかどうか、、、）

具体的にどれを読むかは未定ですが、多くのテクストが歴史的事件や実在の人物を扱ったもののはずですから、それらを通して、ヨーロッパの歴史や文化についての知識を広げ、深めることもできますね。当然、ドイツ語読解力に磨きをかけることもできるわけなので、まさに一石二鳥。しかも、過去の偉大な作家たちの「すべらない話」を学ぶことで、皆さん自身の「コミュニケーション・スキル」をさらに高めることだって期待されるとするならば、これは一石三鳥と言っても誇大広告にはならないはず。

授業の到達目標

独和辞典とじっくりにらめっこし、基本的な文法事項を思い出しながら、落ち着いてドイツ語原文の内容を理解できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　50%　　授業期間中に、理解度確認のためのテストを行います。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　毎回の予習など、授業への積極的な参加度を評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	ドイツ語をじっくり読む8　日本に関する最新の報道を精読する							
担当者名	伊藤　壮							
独語	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

日本をめぐる世界情勢はますます厳しさを増しています。このような時代だからこそ日本が世界からどのように見られているのかを知り、自らの位置を確かめることが重要になってきます。もちろん英語で書かれた報道を常にチェックすることが不可欠であることは言うまでもありません。現代の世界では基本的に英語での情報がスタンダードとなっているからです。しかし英語圏ばかりが世界でありません。中露や中東が別の世界観を持っているのは当然ですが、西側世界も決して一枚岩ではなく、その一極を占める西欧はまたアメリカとは別の立場に立っています。そしてEU諸国の中心の一つであるドイツから見える光景を垣間見ることで、我々はより一層この世界を多面的に把握することができます。今我々が暮らしている日本が彼らからはどのように見えているのか、それを詳しく観察することで、自分自身とその立脚点がさらに正確に実感できるのです。

また報道内容が日本の事物であっても、ドイツ語圏の読者を対象に書かれているテキストであるということは、それがどの分野のものであれ対応するドイツ・西欧の事物との比較が常に想定されているはずです。なので我々も間接的にドイツ語圏の社会や文化を知ることにもなります。

その存在感の低下に伴って日本に関する報道は少なくなる一方ではありますが、それでも全く報道が絶えてしまうということはありません。本講が行われている間の最新のニュースをテキストとして取り扱いましょう。政治・経済から文化・芸術、自然（災害）などの分野を最終的に広くバランスよく取り上げることとし、また報道機関に関してもさまざまなメディアを広く扱います。ただ日本に特派員を置いている Der Spiegel や Süddeutsche Zeitung あたりは中心的に取り上げることになるでしょう。ともあれ開講時になるべく良いニュースがあることをただ願いたいところです。

授業の到達目標

日本に関する報道を扱うということから、基本的に我々が知っている事柄についてのテキストを読むことになります。しかし我々が知りたいのは何が書かれているかではなく、「どのように」書かれているかということです。それを知るための精読であり、文体やニュアンスを読み取るためのツールが文法知識です。まずは1年時に学習した文法知識を復習しておきましょう。その上で初頭文法の教科書には載っていなかった文法項目を学習しなければいけない場面も出てきますから、それはその時点で習得することにしましょう。またこの機に語彙の知識も増すことができるはずです。

また扱う記事の内容に応じてその分野の知識もできる限り深めていきたいところです。そしてドイツやヨーロッパの社会や文化への理解も得られるようにしましょう。

成績評価方法

●**試験**　60%　　初見の独文テキストを辞書と文法教科書を使用し日本語に訳出する試験です。正確さを重視します。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　40%　　授業に臨む姿勢とドイツ語力を評価します。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

Deutsche Welle のドイツ語学習者向けのコンテンツ Langsam gesprochene Nachrichten はお勧めします。毎日更新され、その日のトップニュースが6つほど比較的平易な短い記事にまとめられ、それがゆっくりと読み上げられます。

科 目 名	テーマで読むドイツ語1　歴史ある都市を巡る							
担当者名	江口　陽子							
独語	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

ドイツの都市の歴史や文化、名所旧跡などについてドイツ語で書かれた文章を、映像資料も活用しながら読んでいきます。今学期は、リューベック、ベルン、アイゼナーハ、アウクスブルクのフッガーライ（社会福祉住宅）を取り上げます。教材は教室で配布する予定です。

ハンザ同盟の盟主リューベックは、現在でも重要な港湾都市です。ノーベル賞作家トーマス・マンの出身地であり、マジパン（アーモンドを使った甘い練り菓子）でも知られています。15世紀に建造されたホルステン門や独特の煉瓦造りの市庁舎を含む旧市街は、世界文化遺産に指定されています。スイスの首都ベルンも、旧市街が世界遺産に登録され、15世紀に砂岩で造られたアーケードのある建物群や、16世紀由来の泉（噴水）とユニークな像、アインシュタインが数年居住した家などが有名です。郊外には、スイス生まれの画家クレーの作品を集めたパウル・クレーセンターがあります。

アイゼナハは、作曲家バッハが生まれた街であり、1999年に世界文化遺産に登録されたヴァルトブルク城でも有名です。この城には、ローマ教会を破門されたルターが、聖書のドイツ語訳をした部屋が保存され、ドイツ史の1コマを証言するものです。アウクスブルクは、ロマンチック街道で最大の都市で、15-17世紀にフッガー家のもとで繁栄し、ルネサンス文化が花開きました。世界最古かつ現役の社会福祉住宅フッガーライの構内には、博物館や見学用住宅が併設されています。

テクストは、インターネット上の記事(Deutsche WelleのVideo-Thema[5分前後のビデオ付きテクスト])を中心に、比較的読み易いものを使います。初級クラスを修了した人を対象とする授業ですが、文法的な解説はもちろん、必要に応じ復習も行います。

これらの都市に関する文章を読むことを通して、ドイツの文化により一層接近してみましょう。

授業の到達目標

・標準的なレベルのドイツ語で書かれた文章を、辞書を使用しながら、自立的に読解するための技術を習得する。
・都市の歴史や特徴について知識を吸収することにより、ドイツ語圏の文化への理解と関心を深める。

成績評価方法

試験 50%：学期末に、理解度確認のテストを（通常授業と同様）対面で行います。

平常点評価 50%：宿題の実行度や授業に取り組む姿勢、遅刻率・出席率を総合的に判断。履修者の数や理解度などに応じて、課題提出を求めることがあります。

継続的な出席を前提とします。

*出席回数が全体の2／3に満たない場合は、成績評価の対象外となります。

備考・関連URL

一般的な紙の辞書または電子辞書の使用を前提とします（未入手の場合は必ず調達してください）。

『クラウン独和辞典』（三省堂）、『アクセス独和辞典』（三修社）、『アポロン独和辞典』（同学社）など、収録語彙数が5万語以上のものがおすすめです。

科 目 名	テーマで読むドイツ語2　モーツァルトの生涯							
担当者名	岡本　雅克							
独語	2単位	秋学期	水曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業では、初級で学習した文法事項を復習すると同時に、初級で扱えなかった文法事項を学習しながら、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトの生涯をドイツ語で読む。読章の中には、モーツァルトの書簡から取られた会話文、歌曲、オペラのアリア等も取り入れられており、モーツァルトの人となりや音楽の世界にも親しむことができる。

授業の到達目標

この授業は、「基礎外国語」の履修を通じて、専門課程で充分に活用でき、また様々な場面における幅広いトピックに対応できる外国語能力を身につけるというディプロマポリシーに対応する授業であり、初級よりも難易度の高い文章に慣れることによって、読解力を伸ばし、応用力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　70%　　授業最終回に理解度を確認する。
●**レポート**　0%　　レポート提出による評価はおこなわない。
●**平常点**　30%　　授業への参加度で評価する。授業への参加度はしっかり課題に取り組んだ形跡が認められることを標準とする。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	テーマで読むドイツ語3　『トーニオ・クレーガー』を読む							
担当者名	戸嶋　匠							
独語	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

トーマス・マンの小説『トーニオ・クレーガー』（1903）を読みます。自分はアウトサイダーであると子供の頃から感じ、そういう自分を誇りに思ってきた主人公トーニオ。大人になり文学者になった彼は滔々と芸術論を語っていたところ、それを聞いていた人に「あなたは道に迷った俗人にすぎない」と言われて動揺し、過去を振り返りつつ生き方を見直します。自分がクリエイティヴな人間であることを信じて疑わない人は、他人に何と言われようと気にすることはないでしょう。『アリとキリギリス』の働きアリである普通の生活者は、仕事の適性で悩むことはあっても、自分がアリかキリギリスかで悩むことはありません。それでもこの小説が広く読まれてきたのは、主人公の悩みの根底にあるのが、卑近かつ切実な問いであるからだと思います。トーニオは、父親のように折目正しい立派な市民として生きることは、性に合わないと思っている。しかし父親の価値観を受け継いでもいるため、芸術家肌の母親のように勝手気ままに生きることもできない。では自分はどう生きればよいのか。親のような生

き方ができないという思いで悩む人は、けして少なくないはずです。 この作家の後年の長編に比べれば読みやすい本作は、基礎文法を学んだばかりの方でも辞書を引きながら読むことができます。マンは語彙が豊富であるので、学習歴が長い方でも語彙を増やすのに打ってつけだと思います。

授業の到達目標

辞書を引きながらドイツ語の小説を読めるようになる。

成績評価方法

●**試験** 52%　最終回に理解度の確認テスト（独文和訳）を行います。辞書持ち込み可。
●**レポート** 0%
●**平常点** 48%　授業に参加し、訳読すると4点獲得することができます。第2回から第13回まで12回全て出席すると48点。
●**その他** 0%

科 目 名	テーマで読むドイツ語4　ワイマール共和国における『黄金の20年代』の華やかな大衆文化と民主主義的共和国の終焉について。							
担当者名	大宮　洋子							
独語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

ドイツの青少年に向けて平易なドイツ語で短くまとめられたテキスト、『ドイツ史』の中から『ワイマール共和国の終焉』の章を読み進め、大戦間の世界史を学びつつ、ドイツ語の文法事項を丁寧に復習しながらドイツ語読解力を伸ばしてゆきます。毎回読み進めるところまでの音声を聞き、聞き取りの練習をします。文字と音声から、第1次大戦後誕生した民主主義的ワイマール共和国が短期間で第2次世界大戦へと進んでいった時期の歴史を把握できるようにしましょう。ワイマール共和国の民主主義についても考察し、今の私たちの社会について考える機会があると思います。現在の私達が享受している文化や芸術の起源ともなる、この時代の大衆文化とその社会的背景などについて概観するとともに、ドイツ語の音声教材や映画を通してリスニングの練習もします。さらに12月には、ドイツのクリスマス文化や行事などについても画像、映像を通して知識の幅を広げてゆきたいと思います。

授業の到達目標

平易に書かれたドイツ語で、大戦間のワイマール共和国の歴史について読み、既習のドイツ文法を丁寧に復習しながらドイツ語の文章を精読する力をつけます。ドイツ語のテキストや音声教材、映画を通して、ドイツの文化や芸術についての知識を深めつつ、ヒアリングにも慣れることも目標となります。平易なドイツ語を速読する方法と少し複雑な構文のドイツ語をゆっくり精読する方法を身につけることによって日本語や英語など、他の言語の読解力も並行して高めてゆきましょう。現在私達が享受する文学、絵画、映画、音楽等の芸術が、この時代に花開いた大衆文化とどのような関係を持つのかを探りながら、第2次世界大戦へと進んでいった大衆の時代の社会をより深く知ることも目指します。それは現在の私たちの社会について、大衆社会、民主主義などについてもより深く考える機会になると思います。

成績評価方法

●**試験** 50%　授業中に読んだドイツ語の文章の中から範囲を指定して、そこから問題を出しますので、それを和訳し、テキストの内容や授業で考えたことについて短くまとめて書いていただきます。
●**レポート** 0%　特になし。
●**平常点** 50%　授業中に読解するドイツ語テキストの担当箇所の和訳やグループでの話し合いにおける質疑応答なども点数に加算します。
●**その他** 0%　特になし。

備考・関連URL

参加者一人一人のドイツ語の力に配慮して読む量や箇所を決めたり、グループで話し合って読み進めたりしながら、それぞれの読解力の向上を目指し、日本語による知識や考えを広げ深めてゆくことも重視しますので、受講者の皆さんが各々自分のドイツ語力や読解力、思考力を伸ばしてゆきましょう。

科 目 名	テーマで読むドイツ語5　ドイツ語ポピュラー音楽を精読する							
担当者名	伊藤　壮							
独語	2単位	春学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

1年次でのドイツ語の初等学習を終えたからには、まずは国内外での会話の実践なども積極的に試みるのも大変に有意義であることは言うまでもありませんが、ここでのもう一つの醍醐味と言うべきものこそは上質なドイツ語テキストを読むことです。ただ、それぞれの専門あるいは興味の対象に応じたものから取り掛かるにしても、いきなり長文・難文を正解も分からないままやみくもに読もうとするのも大変でしょうし、結果的にあまり有意義ではない場合も往々にあります。

しかし、そもそも英語を習得する際に、愛聴している英米のロックやポップスの歌詞を熟読し、時には暗記・暗唱するまでになると、語彙力のみならず文法理解も格段に進み、一挙に上達したという体験はなかったでしょうか。ならばこの手がドイツ語の学習にも適用できないはずがありません。

本講では、日本では比較的馴染みの薄いドイツ語圏のロックやヒップホップをはじめとするポピュラー音楽の歌詞に題材を限って、厳選の上そのテキストを精読玩味していきます。ドイツ語圏の社会的・時代的背景や、その作品の世界の音楽シーンにおける位置づけなどに関しても考証しつつ、テキストを含めた総体としての理解も大事にしたいところです。

音楽とりわけ歌は感性の領野に属するから、その詞も文法規則よりも感覚を研ぎ澄ませて読まれるべきものだ、などと考えるのならばそれは大いに間違いです。言語芸術とは、まず文法規則に基づき、その可能性を追求したところに成立するものなので、その読解にも初等文法を踏まえてのさらに高度な知識と応用力が必要となります。ここで受講者全員で講読していくことで、中・上級へ向けて力を伸ばしていく良い機会となるでしょう。

また、他の欧米諸国のものと同様、ドイツ語の歌詞はドイツ語詩文学の長く豊かな歴史を引き継いでいるものなので、まずは初めに目につく脚韻を取り掛かりに、音楽とも密接な関わりを持つ韻律学も検討していくことにしましょう。この際、折に触れ関連する古典文学の詩歌なども参照することでドイツ語文学への橋渡しも得られるようになります。

扱うことになる作品については、受講者の専門・興味などにも応じて柔軟に選ぶこととしますが、時代・ジャンルなど偏ることなく広範にカバーするようにします。なお、読後にそれぞれが何らかの形でそれを歌ってみるというアプローチも有り得るかも知れません。ともあれ、意欲的で主体的な参加が期待されます。

授業の到達目標

まずは、背景知識がなくとも、文法知識と辞書の語彙によってテキストを読めるようになること（ネイティブスピーカーでなくてもほぼ確実に読めます）。その上で背後の情報も補完しつつ、芸術作品・文学作品として詞を読めるようになります。

成績評価方法

- **試験** 60%　読解力の正確さを確かめます。
- **レポート** 0%　なし。
- **平常点** 40%　出席率だけではなく参加態度の主体性を問います。
- **その他** 0%　なし。

科 目 名	テーマで読むドイツ語6 ドイツ圏の時事的話題							
担当者名	江口　陽子							
独語	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

初級文法を一通り終えた学生を対象に、基本文法の定着と、読解力の養成を目指します。2024年を中心に、ドイツ語圏の人々の暮らしや社会についての最新の話題を取り上げます。

使用教科書では、東部ドイツの州議会選挙で極右が躍進、フードロスを減らすための活動、音楽のないクリスマスマーケットの理由などに関連した話題が中心ですが、注も施された比較的読み易いテクストとなっています。各章は2ページ半ほどにまとまっていますので、（クラス全体の様子を見ながらですが）できるだけテンポよく進みたいと思います。文法の説明はもちろん、必要に応じ復習も行います。

学期前半で読む章ははこちらで選び、後半については、皆さんの希望に応じて決めたいと思います。

前半はこの3章を読む予定です：Schwarz-Lila?（ザクセン、テューリンゲンの州議会選挙で極右が躍進、政権の行方に注目）、Too good to go（[タイトルは英語ですが、テクストはもちろんドイツ語]フードロスを減らすための取り組み：支援に回したり、アプリを活用して割安で販売したり）、Stille Nacht（音楽のない静かなクリスマスマーケット、その理由とは）。その他の話題については、授業計画の欄に付記してあります。

まとまった文の内容を理解するための第一歩は、ドイツ語文の形（構造）に慣れることです。初めのうちは、主語や述語の動詞（の組合せ）、目的語などをある程度意識して読むことが大事です。予習を前提としますが、範囲は毎回指示します。

授業の到達目標

・基本文法の知識の定着を図るとともに、読解の基礎的技術を高め、辞書を駆使しながら新聞・雑誌・ネット上の記事などの標準的なレベルの文章を読みこなせるようになること。

・様々な時事的話題のテクストを読むことを通じて、現代のドイツ語圏社会への理解と関心を深めること。

成績評価方法

試験 50%：学期末に、理解度確認のテストを（通常授業と同様）対面で行います。

平常点評価 50%：宿題の実行度や授業に取り組む姿勢、遅刻率・出席率を総合的に判断。履修者の数や理解度などに応じて、課題提出を求めることがあります。

継続的な出席を前提とします。

*出席回数が全体の2／3に満たない場合は、成績評価の対象外となります。

備考・関連URL

一般的な紙の辞書または電子辞書の使用を前提とします（未入手の場合は必ず調達してください）。『クラウン独和辞典』（三省堂）、『アクセス独和辞典』（三修社）、『アポロン独和辞典』（同学社）など、収録語彙数が5万語以上のものがおすすめです。

科 目 名	テーマで読むドイツ語7 推理小説を読みながら、文法知識に基づいた読解力を身につけよう							
担当者名	甲斐崎　由典							
独語	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

単語の意味を適当につなぎ合わせてあやふやな訳文をでっち上げるのではなく、文法的に文の構造を理解した上で正しく日本語に訳せるようになることをめざす。 そのために、様々な語彙や表現が散りばめられた（辞書引きの面倒な）情景描写は少なく、論理的に理解しやすい文だけで構成され、登場人物の役割やストーリーも明確なジャンルとして推理小説をとりあげる。そして各語の語形だけでなく、構文や語順もきちんと理解し、さらに前後の文とのつながりも意識しながら細かく読む練習を行う。

ただし難易度や時間数の制限があるので、うなるようなトリックの本格推理物というわけにはいかない。あくまで読解力向上のために、わかりやすい文体で書かれた短編推理小説を精読して、ドイツ語の文の作りに慣れることにしたい。

なお、本講義では翻訳機能にアクセスできるような端末（スマホ、タブレット、パソコン等）の使用は認めない。

授業の到達目標

ドイツ語の文章を、語順や修飾関係をきちんと理解しながら読めるようになる（語学なので明確な到達目標は設定しない）。

成績評価方法

理解度確認75%（期末に実施する理解度確認の得点）

平常点25%（訳読をどれだけきちんと準備してきたか（誤答そのものは減点とはならない））

予習がいい加減・不正（翻訳アプリ等使用）な場合は欠席扱いとする。

科 目 名	テーマで読むドイツ語8　モーツァルトの生涯							
担当者名	岡本　雅克							
独語	２単位	春学期	水曜日	４時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業では、初級で学習した文法事項を復習すると同時に、初級で扱えなかった文法事項を学習しながら、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトの生涯をドイツ語で読む。読章の中には、モーツァルトの書簡から取られた会話文、歌曲、オペラのアリア等も取り入れられており、モーツァルトの人となりや音楽の世界にも親しむことができる。

授業の到達目標

この授業は、「基礎外国語」の履修を通じて、専門課程で充分に活用でき、また様々な場面における幅広いトピックに対応できる外国語能力を身につけるというディプロマポリシーに対応する授業であり、初級よりも難易度の高い文章に慣れることによって、読解力を伸ばし、応用力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　70%　　授業最終回に理解度を確認する。
●**レポート**　0%　　レポート提出による評価はおこなわない。
●**平常点**　30%　　授業への参加度で評価する。授業への参加度はしっかり課題に取り組んだ形跡が認められることを標準とする。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	テーマで読むドイツ語9　ギリシア神話に触れよう							
担当者名	前川　一貴							
独語	２単位	秋学期	火曜日	４時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

ヨーロッパ文化の二大源流となっているのは、ひとつはキリスト教であり、もうひとつがギリシア神話です。古典古代の知識はゲーテやヘルダーリン、ニーチェらを理解するためにも欠かせませんし、今日ではアニメやゲームにもよく出てきます。これを機会に平易なドイツ語で、プロメテウスやヘラクレスなどの物語のあらましを読んでみましょう。

授業の到達目標

・ギリシア神話の概要を知る。
・ドイツ語で短い物語が読める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　出席：30%、日本語訳：70%
※受講者数によっては、毎回単語テストを実施するかもしれません。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

・単位を取得するには、合計で3分の2以上の出席が必要です。・授業計画、成績評価などは若干変更する可能性があります。

科 目 名	ドイツ語で表現する1（初歩の会話）　ドイツ語を話してみよう！							
担当者名	小笠原　能仁							
独語	２単位	春学期	月曜日	４時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本授業は対面授業を予定していますが、コロナの状況によってリアルタイム配信型授業に変更する場合があります。
この授業では、「ドイツ語で話す」「ドイツ語を聞きとる」ための力をのばすことに重点を置きます。教科書に沿って日常的に用いる表現を学び、ペアワークやグループワークを交えながら、会話と聞き取りの練習を重ねていきます。文法の解説も、適宜行います。

授業の到達目標

日常生活での基本的な表現を理解し、自分のことばで簡単な文を組み立てられる力を身につけることが目標です。ゼロからのスタートとなりますので、ドイツ語の基礎知識は必要ありません。
全12課からなるドイツ語テキストを用いて授業を進めていきます。授業の進捗状況により、スケジュール等は適宜変更されることがあります。

成績評価方法

●**試験**　50%　　授業最終日に実施。 コロナの感染がない人はテストで成績を付けます。
授業期間中でコロナやインフルエンザに感染して欠席しても内申点の減点はありません。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　50%　　出席・授業への参加。テストの当日、コロナやインフルエンザに感染して、テストを受けれなかった場合、出席点で成績を付けます。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

対面授業を予定していますが、
リアルタイム配信で授業をする場合は、
参加者にはzoomの招待状が届きます。
授業開始までに、waseda moodle のアナウンスメントからお知らせが届きます。

科 目 名	ドイツ語で表現する2（初歩の会話） ドイツ語を話してみよう！							
担当者名	小笠原　能仁							
独語	2単位	秋学期	月曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本授業は対面授業を予定していますが、コロナの状況によってリアルタイム配信型授業に変更する場合があります。

この授業では、「ドイツ語で話す」「ドイツ語を聞きとる」ための力をのばすことに重点を置きます。教科書に沿って日常的に用いる表現を学び、ペアワークやグループワークを交えながら、会話と聞き取りの練習を重ねていきます。文法の解説も、適宜行います。

春学期のドイツ語で表現する1と同一内容ですので、春学期のドイツ語で表現する1の単位を取得した人は参加できません。

春学期でドイツ語で表現する1に参加したが、単位を取得しなかった人は参加できます。

授業の到達目標

日常生活での基本的な表現を理解し、自分のことばで簡単な文を組み立てられる力を身につけることが目標です。ゼロからのスタートとなりますので、ドイツ語の基礎知識は必要ありません。

全12課からなるドイツ語テキストを用いて授業を進めていきます。授業の進捗状況により、スケジュール等は適宜変更されることがあります。

成績評価方法

●**試験**　50%　　授業最終日に実施。 コロナの感染がない人はテストで成績を付けます。
授業期間中でコロナに感染して欠席しても内申点の減点はありません。

●**レポート**　0%　　なし。

●**平常点**　50%　　出席・授業への参加。テストの当日、コロナに感染して、テストを受けれなかった場合、
出席点で成績を付けます。

●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

対面授業を予定していますが、
リアルタイム配信で授業をする場合は、
参加者にはzoomの招待状が届きます。
授業開始までに、waseda moodle のアナウンスメントからお知らせが届きます。

「ドイツ語で表現する1（初歩の会話）」とは同一科目になるので重複履修はできません。どちらか1科目のみ履修し、両方選択しないでください。

科 目 名	ドイツ語で表現する4（初歩の作文） ドイツ語を書いてみよう！							
担当者名	小笠原　能仁							
独語	2単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本授業は対面授業を予定していますが、コロナの状況によってリアルタイム配信型授業に変更する場合があります。

ごく初歩的な文法を終えた学生を対象にしたドイツ語作文の授業です。「ドイツ語の文を作るためには何がわかっていなければならないか」をやさしく解説します。まず講師がポイントを解説し、次に文法表を説明します。そのあと学生が練習問題としてドイツ語作文をします。その際ドイツ語の単語は添え書きされているので、文を作ることに専念できます。その後「自己紹介」などの発信型のテーマ別に、ドイツ語作文をして、語彙と表現を強化します。

作文のために授業中に時間を少々とりますが、予習で作文をしてくることを推奨します。授業中では作文してみて、不確かな点、理解できなかった点について、どしどし質問してください。

授業の到達目標

「名詞の格変化」「現在完了形」などの形を練習することが目的ではなく、「ドイツ語には主語が必要である」「定冠詞は特定できるものにつける」など、正しいドイツ語の文を作るために必要な「文法知識」をとらえなおし、練習問題を通して習得することが目的です。

成績評価方法

●**試験**　50%　　授業最終日に実施。 コロナの感染がない人はテストで成績を付けます。
授業期間中でコロナに感染して欠席しても内申点の減点はありません。

●**レポート**　0%　　なし。

●**平常点**　50%　　出席・授業への参加。テストの当日、コロナに感染して、テストを受けれなかった場合、
出席点で成績を付けます。

●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

対面授業を予定していますが、
リアルタイム配信で授業をする場合、
参加者にはzoomの招待状が届きます。
授業開始までに、waseda moodle のアナウンスメントからお知らせが届きます。

科 目 名	ドイツ語で表現する5（中級の会話・作文） ドイツ語で簡単な話をしよう、簡単な文章を書こう！							
担当者名	F. リースナー							
独語	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

履修者はドイツ語圏の文化を紹介する短い文章を読みます。これらのトピックについて自分の意見を口頭で述べたり、質問に文章で答えたりすることを学びます。 テキストに添えられた練習問題は、言語スキルや文の形成を練習するのに役立ち、ドイ

ツ語圏の知識とドイツ語の語彙を増やします。
ドイツ語のA2レベルの基礎固めをして、次のレベルへ進んでもらうのが目標です。地域知識を深めます。スピーキング、リーディング、ライティングの能力を鍛えます。

授業の到達目標

ドイツ語のA2レベルの基礎固めをして、次のレベルへ(B1)進んでもらうのが目標です。地域知識を深めます。スピーキング、リーディング、ライティングの能力を鍛えます。授業では以下のトピックを取り上げる：
1.Kleidung und Aussehen
服装と外見
2.Gesundheit
健康
3. Essen und Trinken
食べ物と飲み物
4. Schule und Ausbildung
学校と教育
5. Arbeit und Beruf
仕事と職業
語彙と文法は日本語で説明します。

成績評価方法

●**試験** 40%　授業最終回に理解度を確認する。
●**レポート** 0%
●**平常点** 60%　授業への参加度で評価する。
●**その他** 0%

備考・関連ＵＲＬ

対面授業を予定しています。

科 目 名	ドイツ語で表現する6（中級の会話・作文）							
担当者名	クラヴィッター　アルネ							
独語	２単位	秋学期	月曜日	２時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

Geübt wird das Bewältigen alltäglicher Kommunikationssituationen und das Abfassen einfacher Texte unterschiedlicher Textsorten auf mittlerem Niveau.
日常場面において、中級レベルのドイツ語で対応できるよう会話を学び、様々なタイプの簡単な作文練習を行う。

授業の到達目標

Die erworbenen Grundkenntnisse Niveau A1 werden gefestigt und erweitert.
Dazu werden alle vier Fähigkeiten Lesen, Hören, Sprechen und Schreiben ausgebaut.
Besonderes Gewicht wird darauf gelegt, dass die Studierenden mit Hilfe von Stichworten
(und ohne elektronische Wörterbücher) möglichst frei sprechen.
ドイツ語のA1（初級）レベルの基礎固めをして、次のレベルへ進んでもらうのが目標です。スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの能力を鍛えますが、特に会話力の養成に力を入れます。キーワードを与えられただけで、(辞書を使わずに）自由に会話を行えるようになることに重点がおかれています。

成績評価方法

●**試験** 40%　Ergebnis der Prüfung am Ende des Semesters
学期末に実施する試験の成績
●**レポート** 0%　no
●**平常点** 60%　Häufigkeit der Teilnahme (30%), aktive Teilnahme (30%)
出席率(30%)、授業への積極的参加(30%)
●**その他** 0%　no

科 目 名	ドイツ語で表現する7（中級の会話・作文）							
担当者名	クラヴィッター　アルネ							
独語	２単位	春学期	月曜日	２時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

Geübt wird das Bewältigen alltäglicher Kommunikationssituationen und das Abfassen einfacher Texte unterschiedlicher Textsorten auf mittlerem Niveau.
日常場面において、中級レベルのドイツ語で対応できるよう会話を学び、様々なタイプの簡単な作文練習を行う。

授業の到達目標

Die erworbenen Grundkenntnisse Niveau A1 werden gefestigt und erweitert.
Dazu werden alle vier Fähigkeiten Lesen, Hören, Sprechen und Schreiben ausgebaut.
Besonderes Gewicht wird darauf gelegt, dass die Studierenden mit Hilfe von Stichworten
(und ohne elektronische Wörterbücher) möglichst frei sprechen.
ドイツ語のA1（初級）レベルの基礎固めをして、次のレベルへ進んでもらうのが目標です。スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの能力を鍛えますが、特に会話力の養成に力を入れます。キーワードを与えられただけで、(辞書を使わずに）自由に会話を行えるようになることに重点がおかれています。

成績評価方法

●**試験** 40%　Ergebnis der Prüfung am Ende des Semesters

学期末に実施する試験の成績
●**レポート**　0%　　no
●**平常点**　60%　　Häufigkeit der Teilnahme (30%), aktive Teilnahme (30%)
出席率(30%)、授業への積極的参加(30%)
●**その他**　0%　　no

備考・関連URL

「ドイツ語で表現する6（中級の会話・作文）」とは同一科目になるので重複履修はできません。どちらか1科目のみ履修し、両方選択しないでください。

科 目 名	ドイツ語で表現する8（中級の会話・作文） ドイツ語で話をしよう、簡単な文章を書こう！							
担当者名	F. リースナー							
独語	2単位	秋学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

履修者はドイツ語圏の文化を紹介する短い文章を読みます。これらのトピックについて自分の意見を口頭で述べたり、質問に文章で答えたりすることを学びます。 テキストに添えられた練習問題は、言語スキルや文の形成を練習するのに役立ち、ドイツ語圏の知識とドイツ語の語彙を増やします。

ドイツ語のA2レベルの基礎固めをして、次のレベルへ進んでもらうのが目標です。地域知識を深めます。スピーキング、リーディング、ライティングの能力を鍛えます。

授業の到達目標

授業では以下のトピックを取り上げる：
1.Natur- und Umwelt
自然と環境
2. Verkehr
交通
3. Freizeit und Sport
レジャーとスポーツ
4. Feste
お祭り
5. Politik und Geschichte
政治と歴史
語彙と文法は日本語で説明します。

成績評価方法

●**試験**　40%　　授業最終回に理解度を確認する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　60%　　授業への参加度で評価する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

対面授業を予定しています。

科 目 名	ドイツ語で表現する9（中級の会話・作文） Konversation Deutsch							
担当者名	シュレンドルフ　レオポルト							
独語	2単位	春学期	木曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

Im vorliegenden Kurs steht die Verbesserung der kommunikativen Fähigkeiten der Studierenden im Vordergrund. Um dieses Ziel zu erreichen, werden vielfältige Methoden in Zusammenhang mit Video- und Hörübungen eingesetzt. Der Unterricht wird an die vorhandenen Kenntnisse der Studierenden angepasst, ein Mindestniveau von B1 wird jedoch empfohlen. Besonderer Wert wird auf die aktive Teilnahme an Gruppen- und Partnerarbeiten gelegt, die zum Teil auch im Rahmen von Hausarbeiten absolviert werden sollen. Thematisch werden dazu vor allem die Bereiche Alltag und Gesellschaft, Kreativität und Kultur sowie Freizeit und Hobbys behandelt.

授業の到達目標

Aufbau komplexer kommunikativer Fertigkeiten in Alltag, Studium und Beruf. Es wird aktive (verbale) Mitarbeit im Unterricht erwartet!

成績評価方法

●**試験**　50%　　Abschlusspräsentation
●**レポート**　0%　　none
●**平常点**　20%　　Mitarbeit
●**その他**　30%　　Hausaufgaben

科 目 名	ドイツ語で表現する10（中級の会話・作文） Konversation Deutsch							
担当者名	シュレンドルフ　レオポルト							
独語	2単位	秋学期	木曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

Der vorliegende Kurs fokussiert primär auf die Förderung kommunikativer Kompetenzen, mit besonderem

Augenmerk auf die Bereiche der auditiven Rezeption und der mündlichen Produktion. Zu diesem Zweck wird ein breites Spektrum audiovisueller Materialien zur Anwendung gebracht. Die Kursgestaltung erfolgt unter Berücksichtigung des Kompetenzniveaus der Teilnehmenden, wobei ein Mindestsprachniveau entsprechend der Stufe B1 empfohlen wird. Im Rahmen von Gruppen- und Partnerarbeiten sollen die erlernten Fertigkeiten eingeübt und reflektiert werden. Ein besonderer Schwerpunkt liegt auf Kurzpräsentationen, persönlichen Stellungnahmen sowie Diskussionen, mit dem Ziel, die mündliche Ausdrucksfähigkeit sowohl in alltäglichen als auch in akademischen Kontexten zu optimieren.

授業の到達目標

Aufbau komplexer kommunikativer Fertigkeiten in Alltag, Studium und Beruf. Es wird aktive (verbale) Mitarbeit im Unterricht erwartet!

成績評価方法

●**試験** 50% Präsentation
●**レポート** 0%
●**平常点** 20% Mitarbeit
●**その他** 30% Hausaufgaben

科 目 名	第三外国語としてのドイツ語1							
担当者名	村井　浩一							
独語	2単位	春学期	木曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

初めてドイツ語を学ぶ人のための入門コースです。週一回、通年の授業（春学期・秋学期連続）で基本文法を一通り習得し、今後さらに本格的に表現力や読解力を磨いていくための確かな基盤を築くことを目指します。春学期はアルファベートや挨拶の表現から始め、動詞の現在人称変化や冠詞の格変化、前置詞の用法等を中心に学習します。他の外国語を学習している皆さんに、深い奥行きを持ったドイツ語の世界にもぜひ触れていただきたいと思います。ドイツ語を自分の知っている他の外国語と比べることで、背景にある文化や発想の違いを発見することもできるでしょう。

授業の到達目標

ドイツ語の基礎的な文法事項を習得し、日常使われる平易な慣用表現を覚える。

成績評価方法

●**試験** 60% 学期末（第14回）に試験を実施し、理解度を確認します。
●**レポート** 0%
●**平常点** 40% 授業中に随時指名して、授業準備をきちんと行っているか確認します。授業への真摯な取り組みを評価します。
●**その他** 0%

科 目 名	第三外国語としてのドイツ語2							
担当者名	村井　浩一							
独語	2単位	秋学期	木曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

週一回、通年（春学期・秋学期連続）で学ぶドイツ語入門コースの後半です。基本文法を一通り習得し、今後さらに本格的に表現力や読解力を磨いていくための確かな基盤を築くことを目指します。春学期の「第三外国語としてのドイツ語1」を受講済みであるか、あるいはそれに相当する程度のドイツ語の基礎知識をすでに持っていることが授業参加の前提となります。秋学期は春学期に学んだ事項を土台に、教科書の後半部分（第8課から第15課）を学習します。

授業の到達目標

基本文法を一通り習得し、日常よく使われる言い回しを覚え、比較的平易な文章を辞書を用いて読解できるようにする。

成績評価方法

●**試験** 60% 学期末（第14回）に試験を実施し、理解度を確認します。
●**レポート** 0%
●**平常点** 40% 授業中に随時指名して、授業準備をきちんと行っているか確認します。授業への真摯な取り組みを評価します。
●**その他** 0%

科 目 名	ロシア語を読む1（読解のコツ）							
担当者名	南平　かおり							
露語	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業は、ロシア語の基礎文法を1年以上履修した方を対象にしています。文法、語彙を確認しつつ、基本的な文章の読解力をつけることを目指します。ロシア民話、ロシア文学作品、児童文学作品を始め、ロシア文化に関する様々なタイプのテキストを使用し、読解力を養います。

基礎的な文法の復習をしっかり行い、さらに1年次では学ばなかった文法事項についても学びます。

授業の到達目標

辞書を使用し、ある程度まとまったロシア語の文章を確実に読解できるようになることが目標です。

成績評価方法

●**試験** 50% 第14回目の授業内に理解度確認のテストを行います。
●**レポート** 0%

●**平常点**　50%　　出席回数、授業への積極的参加度などを総合的に判断します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

授業の内容に関しましては、進捗度により変更する可能性があります。

科 目 名	ロシア語を読む2（文学作品に挑戦）							
担当者名	安野　直							
露語	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本科目は、ロシア語の基礎的な文法を習得済みの学生（学習歴1年半程度を想定）を対象に、おもに文学作品を読むことを通して、①基本的な語彙の取得、②格変化や動詞のアスペクトの確認、③副動詞や形動詞、関係詞等やや複雑な文法事項の理解の深化を目的としています。授業においては、前半は格変化等の練習問題（おもにロシア語検定ないしはТРКИ等の問題）の演習、後半は実際の文学作品を使った読解の練習をおこないます。

授業の到達目標

①ロシア語の文の構造を正確に理解できるようになる。
②文学作品などで頻出する語彙や表現を身につける。

成績評価方法

●**試験**　60%　　授業で扱った内容が理解できているか、持ち込み不可の試験を実施。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　40%　　授業の参加度合いや意欲
（出席回数が2/3を下回る場合、評価対象外となります。）
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

受講者の語学レベルや関心に応じて扱うテクストの配分を変更する可能性があります。

科 目 名	ロシア語で表現する1（作文・エレメンタリー）							
担当者名	籾内　裕子							
露語	2単位	春学期	水曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

(I) 初級文法の学習を終えた学生を対象とし、中級程度のロシア語作文能力獲得を目指す「対面授業」です。教科書に沿って進行しますが、必要に応じて教員が補助教材（プリント・DVDなど）を用意します。この授業は和文露訳が中心となりますが、「書いた文章を読む」「他者の発話を聞く」訓練も合わせて行います。語学力をつけるためには地道なくり返しが何より重要です。単語を調べる、文章を書いてみる、スムースに発音出来るようにする、耳を慣らすといった訓練を一緒に重ねていきましょう。(II) 授業の途中で「トピック紹介」を行い、教科書から離れて少しリラックスできる時間を設けます。ロシアのSNSに挙げられた話題を紹介したり、簡単な動画を鑑賞します。(III) 感染症予防に留意して授業をすすめます：①場合によっては全員での発音練習を控えます。②配布資料は教員が紙媒体で用意しますが、Moodle にもアップします。手渡しを避けたい方は自分でプリントアウトし持参して下さい。

授業の到達目標

ロシアを旅行すると想定し、自分で用が足せる程度の表現を身につけることを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　90%　　60点以上を合格とします。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　10%　　語学の授業は出席が大前提となります（出席状況が悪い場合、試験の受験を認めない場合があります）。出席状況と取り組みも成績判定に含めます。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

必ず予習をした上で授業に臨んで下さい。欠席した場合でも、後日教科書の該当箇所を解いて提出すれば添削して返却します。模範解答を配布することはしません。

科 目 名	ロシア語で表現する2（会話・エレメンタリー）							
担当者名	岡野　エレナ							
露語	2単位	春学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】リアルタイム配信

授業概要

ロシア語基礎を学んだ学生を対象に、基本会話のさらなる向上を目指します。使用できる単語数を確実に増やす一方、聞き取り能力、自由会話力もバランスよく向上するよう授業を進めます。基本文法の理解度チェックも適宜行います。

具体的には様々な場面を設定し、①基本型の練習②関連の単語の習得③発音練習④文法の復習を行います。一通り基本をマスターした後に、実地で応用できるよう、一対一あるいは複数人で自由会話を行います。ビデオなども多用し、ゲーム感覚で楽しく進めます。なお、毎回関連の課題を出し、次回の授業で解説し、理解を深めます。

授業の到達目標

ロシア語圏での生活および旅行に十分対応できることを目標とします。そのために必要となる基本単語と基本的な言い回しをマスターするとともに、正しい発音と聞き取り能力を、一段と向上させます。

成績評価方法

●**試験**　0%　　期末試験的な試験はなし。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。

●**平常点**　100%　　出席状況、宿題・事前学習の状況、授業中の活動状況で評価。受け身でなく、積極的で活発な授業参加を期待。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

この授業はzoomによるリアルタイム配信授業になります。 また、上記「授業計画」はあくまで目安であり、会話力の向上を目指すというこうした授業の性質上、受講者数や受講者それぞれのロシア語力にしたがって、受講生にとってより良いかたちになるよう授業を運営したいと考えています。したがって、「計画」は臨機応変に変更される可能性があります。

科目名	ロシア語で表現する4（作文・ステップアップ）							
担当者名	籾内　裕子							
露語	2単位	秋学期	水曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

(I) 春学期に続いて中級程度のロシア語作文に取り組む「対面授業」です。教科書は同じですが、第Ⅱ部へ進み、より高度な文法を用いた文章表現を学びます。和文露訳が中心ですが、発音練習もあわせて行います。教科書に沿って進行し、必要に応じて教員が補助教材（プリント、DVDなど）を用意します。また時間に余裕がある場合は生活や時事問題からトピックを取り上げ、関連するロシア語動画を視聴します。(II) 感染症予防に留意して授業をすすめます：①場合によっては全員での発音練習を控えます。②配布資料は教員が紙媒体で用意しますが、Moodle にもアップします。手渡しを避けたい方は自分でプリントアウトし持参して下さい。

授業の到達目標

ロシアでの日常生活に必要なロシア語力獲得を目指します。

成績評価方法

●**試験**　90%　　60点以上を合格とします。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　10%　　語学の授業は出席することが大前提となります（出席状況が悪いと試験の受験を認めない場合があります）。出席状況と取り組み方を成績判定に組み込みます。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

必ず予習をして授業に臨んで下さい。欠席した場合でも、教科書の該当箇所を解いて提出すれば添削して返却します。模範解答を配布することはしません。

科目名	ロシア語で表現する5（会話・ステップアップ）							
担当者名	岡野　エレナ							
露語	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】リアルタイム配信

授業概要

ロシア語基礎を学んだ学生を対象に、基本会話のさらなる向上を目指します。使用できる単語数を確実に増やす一方、聞き取り能力、自由会話力もバランスよく向上するよう授業を進めます。基本文法の理解度チェックも適宜行います。

具体的には様々な場面を設定し、①基本型の練習②関連の単語の習得③発音練習④文法の復習を行います。一通り基本をマスターした後に、実地で応用できるよう、一対一あるいは複数人で自由会話を行います。ビデオなども多用し、ゲーム感覚で楽しく進めます。

なお、毎回関連の課題を出し、次回の授業で解説し、理解を深めます。

授業の到達目標

ロシア語圏の長期滞在や留学にも対応できることを目標とします。そのために必要となる基本単語と基本的な言い回しをマスターするとともに、正しい発音と聞き取り能力を、一段と向上させます。

成績評価方法

●**試験**　0%　　期末試験的な試験はなし。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。
●**平常点**　100%　　出席状況、宿題・事前学習の状況、授業中の活動状況で評価。受け身でなく、積極的で活発な授業参加を期待。
●**その他**　0%　　特になし。

科目名	ロシア語で鑑賞する1（演劇映画）							
担当者名	岡野　エレナ							
露語	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】リアルタイム配信

授業概要

ロシア語の基礎と基本ロシア語会話を学んだ学生を対象に、「読む・見る・話す・スピーチする」能力の一層の向上を図る。

授業は、毎回配布するロシアの著名な作家のロシア語短編小説のプリントと、その映画などを用いて行う。そしてロシア語のプリントを読むことにより読解力を向上させ、映画を見ることによりロシア語の聞き取り力を向上させる。さらに、見て聞いた内容についてロシア語で会話練習を実施し、会話力を向上させる。

ロシアに関係する幅広い分野を対象として毎回話題を変えて授業を行うので、ロシアに関する知識が増えるとともに、使用できる単語数も確実に増加していく。

授業の到達目標

ロシアでの日常生活やロシアの事物に関係する分野を話題として、ロシア語の読解力・会話力を高めるとともに作文力も高める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　期末試験的な試験はなし。
●**レポート**　0%　　レポートはなし。
●**平常点**　100%　　出席状況、宿題・事前学習の状況、授業中の活動状況で評価。受け身でなく、積極的で活発な授業参加を期待。
●**その他**　0%　　その他、特に評価に関係する事項はなし。

備考・関連URL

特になし。

科 目 名	ロシア語力を磨く2（上級会話）							
担当者名	岡野　エレナ							
露語	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】リアルタイム配信

授業概要

ロシア語の基本会話を修得したが、さらに磨きをかけたい人のためのクラスです。通じるだけでなく、周囲の人々に不快感を与えない、洗練された振る舞いに裏打ちされた会話を目指します。そのためには、ロシアの生活慣習や常識を十分に身に付けなければなりません。

最初にロシアの生活慣習や常識を、興味深い内容のビデオとテキストを用いて学びます。次にその知識を背景に、より洗練された実際的なロシア語会話を修得します。

一通りテキストを理解した後に、テキストの内容に沿った会話練習を行います。基本をマスターした後に、実地で応用できるよう一対一あるいは複数人で自由会話を行います。絵なども多用し、楽しく進めます。使用できる単語数を確実に増やす一方、聞き取り能力もバランスよく向上するよう授業を進めます。基本文法の理解度チェックも適宜行います。

なお、毎回関連の課題を出し、次回の授業で解説し、理解を深めます。

授業の到達目標

ネイティブにも違和感のない洗練されたロシア語をマスターします。ロシア語圏への留学やビジネスにも役立つことも目標とします。そのために必要となるロシアの慣習や常識を身に付け、関連の基本単語とより洗練した言い回しをマスターするとともに、正しい発音と聞き取り能力を一段と向上させます。

成績評価方法

●**試験**　0%　　期末試験的な試験はなし。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。
●**平常点**　100%　　出席状況、宿題・事前学習の状況、授業中の活動状況で評価。受け身でなく、積極的で活発な授業参加を期待。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

この授業はzoomによるリアルタイム配信授業になります。 また、上記「授業計画」はあくまで目安であり、会話力の向上を目指すというこうした授業の性質上、受講者数や受講者それぞれのロシア語力にしたがって、受講生にとってより良いかたちになるよう授業を運営したいと考えています。したがって、「計画」は臨機応変に変更される可能性があります。

科 目 名	ロシア語力を磨く4（上級会話）　コミュニケーション能力を鍛える							
担当者名	V. フィラトフ							
露語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

話す力、聞く力というレベルにおいて、コミュニケーション能力をより完璧なものへと導きます。モノローグ、ダイアローグの能力を鍛え、具体的なもの、抽象的なものについて叙述する方法、さらには互いの質問や意見交換の中で、判断したり、論証したり、評価したりする方法を学んでいきます。

授業の到達目標

受講者には、講義終了までにさまざまな場（家庭、職場、レジャー、私生活、親と子、男性と女性、芸術、政治、社会、自由時間、趣味、旅行）に対応できるコミュニケーション能力の獲得を目指します。

成績評価方法

●**試験**　50%　　教場での試験。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　授業への主体的な参加態度。
●**その他**　0%

科 目 名	入門ロシア語1　楽しく学ぼうロシア語！							
担当者名	長井　淳							
露語	2単位	春学期	土曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

ロシア語をゼロからスタートし、核になる部分――もっとも基本的な言葉、表現、文法を習得します。

ロシア語の習得は、ロシア語を話す人々、ロシアとスラヴの文化圏に開かれた大きな扉です。ロシアの社会、歴史、文化に興味を持ったとき日本語や英語からは知りえない知識や情報を得ることができますし、ロシアを専門的に研究する際ロシア語は必須です。ロシアとスラヴ世界が今なお激動の歴史を歩んでいる状況においてロシア語の知識はますます重要になっています。仕事やプライヴェートでロシア語を用いる可能性も十分あり、ロシア語の基礎を学ぶことはその土台作りとなります。

授業ではアルファベットからはじめ、ロシア語文法の基礎を学びますが、重要なのは文法を抽象的に理解することではありません。秋学期の「入門ロシア語2」と合わせ、基礎文法を習得するための40の表現を暗記してもらい、「読む・聞く・話す・書く」

すべての面で応用が利くよう、総合的に訓練します。目指すは「使える文法」のマスターです。ロシア語文法は緻密で美しい体系を持っています。一見複雑で難しく思われるかもしれませんが、文法の構造を論理的・体系的に捉える目を養い、かつ何度も反復練習することで、身につけてゆきましょう。
言語は文化的な土壌の中から生まれており、人々の暮らしや文化、歴史的・社会的背景の理解も不可欠です。各回、前半と後半の間に、映画や音楽を通して生きたロシア語を習得する機会を作ります。
反転授業の形態を一部取り入れ、Moodleにアップした予習動画（15～30分程度）であらかじめ勉強してきてもらう回もあります（この課題に取り組まないとペア練習で相手に迷惑をかけることになるので、くれぐれも注意してください）。また定期的に課す小テストで、自分の理解度・到達度をチェックできるようにします。
回数が限られているので、毎回の授業を大事にし（極力休まず）、復習を確実にしてもらうことが受講の最低条件です。
ロシア語は多くの人にとって未知の言語でしょう。それだけに新たな発見と驚きに満ちるはずです。見慣れないロシアの文字からどんな世界が見えてくるか、一緒に勉強しましょう！

授業の到達目標

ロシア語で用いられているキリル文字を読み、発音できるようになる。
基本語彙と基礎文法を習得し、ロシア語で書かれた簡単な文を読み、簡単な表現ができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　60%　　第14回の授業内で筆記試験を実施します。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　40%　　出席率、小テスト、課題、授業への取り組み
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	入門ロシア語2　さらに学ぼうロシア語！							
担当者名	長井　淳							
露語	2単位	秋学期	土曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

「入門ロシア語1」の後継授業です。春学期の学習を土台に、ロシア語を総合的に学びます。順調に勉強が進めば、語彙と表現が増え、ロシア語を読んだり話したりすることが少しずつできるようになる時期です。これまで習得したことを確認しながら、ステップアップしましょう。文法事項もより複雑になりますが、重要なところはゆっくり確実に押さえます。全体像をうまく把握し、ロシア語の森が大きく俯瞰できるように授業を進めます。
春学期同様、学習進度に応じて小テストやドリルをおこない、自分の到達度をチェックしつつ、理解を深めてもらいます。また、反転授業の形態を一部取り入れ、Moodleにアップした予習動画（20～35分程度）であらかじめ勉強してきてもらう回もあります（この課題に取り組まないとペア練習で相手に迷惑をかけることになるので、くれぐれも注意してください）。ロシア語の文化的土壌を理解するために、映画を見たり、歌を聴いたりする機会も毎回設けたいと思います。
入門ロシア語を1年間受講すると、ロシア語の主要な骨格がマスターできます。最終的には中級文法への橋渡しの段階まで進みたいと思います。

授業の到達目標

辞書を引けば簡単な文章が読めるようになる。
身近な会話表現ができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　60%　　第14回の授業内で筆記試験を実施します。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　40%　　出席率、小テスト、課題、授業への取り組み
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	ロシア語を読む3（ロシアのいまを知る）　最新のロシアを読む							
担当者名	高柳　聡子							
露語	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

ロシア語の講読の授業です。
ロシア語の初級文法を習得した学生を対象としています。既習の文法を復習しながら、中級以上の文法事項も学んでいきます。
講読するテキストは多様なジャンルのものを取り上げます。ニュース、エッセイ、ドキュメンタリー、文学作品（詩、散文）など、いまのロシアを知るために必要な語彙や文体に慣れることのできるテキストを選びます。
丁寧に読むことを身につけたら、迅速・正確な読解力を目標にトレーニングしてください。履修者は必ず（紙の）辞書を準備し、丹念に予習をし、訳を作って授業に臨むことが求められます。

授業の到達目標

辞書の引き方、ネットなどの活用の仕方、翻訳に必要な情報の入手法などを知り、正確にオリジナルのテキストを読むためのスキルを身につける。中級レベルを突破して、上級を目指すための基礎を固める。

成績評価方法

●**試験**　50%　　最終回に教場で試験を実施。授業内で読んだテキストからの出題＋初見の小さなテキストの翻訳。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　予習の状況を重視します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

必要に応じて教場やMoodleで指示します。

科 目 名	ロシア語を読む4（現代ロシアの文学） 現代ロシア小説読解入門							
担当者名	貝澤　哉							
露語	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業では、現代ロシアの小説作品をとりあげて精読します。読解に際しては、ロシア語文法や語彙の一般的確認とともに、小説読解の基礎となる語りの人称や視点のあり方、文体や語彙の特徴、レトリックやモチーフ・イメージの連関、時空間のジャンル的特性、人物造形やその身体の特性の捉え方を、ロシア語の小説テクストのなかから読み取る技術も学んでゆきます。あわせて、小説を書く際に世の作家たちがどのように細部に工夫を凝らし、読者に何をどう読んでもらおうとしているのか、という点も明らかにしていければよいと考えています。

授業の到達目標

最終的には、みずから自分の力でロシア語の小説作品を読み解くことのできるスキルを身につけることを目標とします。

成績評価方法

授業での達成度と試験（理解度の確認）の結果を総合的に評価します。

科 目 名	練習問題でマスターするロシア語1 語彙を増やすことも目指して							
担当者名	上野　理恵							
露語	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

ロシア語の初級文法の学習を終えた人を対象に、練習問題を解きながら、これまで習得した基本的な文法事項を復習し、知識の定着をはかります。初級文法では学ばなかった文法事項にも触れることになるので、初級文法では学ばなかった隙間を埋めていくことになります。

また、そうした学習と同時に、最重要単語の習得も目指します。そのために授業では単語テストを適宜行います。単語テストの範囲については前の週の授業で指定するので、覚えておくようにしてください。

授業は、基本的に、「単語テスト（20分）」＋「練習問題解答＋解説、あるいは文法事項の説明（80分）」というかたちで行います。

＊本授業は教室授業を基本とします。

授業の到達目標

ロシア語の初級文法を着実に身につけると共に、初級文法を学ぶ際には採り上げられることが少ない、細かい文法事項についても習得することを目指します。ロシア語能力検定に照準を合わせた授業ではありませんが、文法に関しては、4級・3級レベルは軽くこなせる程度の力をつけましょう。

成績評価方法

●**試験**　50%　　第14回の授業で実施する「理解度の確認」の結果から評価する。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　50%　　単語テスト、課題への取り組み、出席状況から評価する。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

受講者の語学のレベル・関心に応じて、上記内容は変更される可能性があります。

ただし、授業概要にも記してあるように、本授業で対象とするのは、基本的には、必修外国語科目としての1年生ロシア語を終えた学生、あるいはそのレベルのロシア語基礎文法を修得している学生です。授業はあくまでこのレベルに設定するので、それ以上の実力のある学生にとって生産的な効果が得られるとは思いません（もちろん、制度的には履修可能ですが）。その点はよく考えて、履修するようにしてください。

＊初回の授業はリアルタイム配信です。リアルタイム配信授業を実施する場合は、Moodleを通じてミーティングの招待リンクをお知らせしますので、授業開始時間になったら入室してください。

科 目 名	ロシア語力を磨く5（上級講読） 現代ロシアを読む							
担当者名	上田　洋子							
露語	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

ロシア語力を着実に高めたい人向けの授業です。文章を読んで意味が取れるだけでなく、その内容をしっかり把握し、それについて自分の言葉で考えられるようになることを目指します。

現代ロシアを捉えようとするとき、わたしたちは何を読めばよいのでしょうか。情報化社会において文学や言語は複雑化・多様化し、また、その社会における位置も変わってきています。この授業ではロシア語で読める現代の思想家、エッセイスト、ジャーナリスト、劇作家、作家らの文章を精読します。また、インターネット上で公開されている現代ロシアを考えるためのプロジェクトなども紹介し、それらを読んだり視聴したりする機会を設けます。

ロシアがウクライナに全面侵攻して3年以上が経過しました。ソ連崩壊後、あらたなアイデンティティを模索し続けるなかで、どんな思考がなされ、いまの戦争に至ったのか。また、厳しい言論弾圧のもとで、どのような反戦運動や市民同士の助け合いが行われているのか。戦後のロシア社会はどうなるのか。在外ロシア人の文化はいかに育つのか。そうしたことを探ることのできるテクストを読みたいと思います。

授業の到達目標

ロシア語のテクストを読みながら、論理や思考の流れを正確に追えるようになることが目標です。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はレポートになります。
●**レポート**　50%　　ロシア語が読めるか、日本語にできるか、内容を理解しているかの3点を確認します。
●**平常点**　50%　　予習をやってきているか、これまでに学んだことを理解しているかを確認します。

●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	ロシア語で表現する7（スピーチ）							
担当者名	岡野　エレナ							
露語	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] リアルタイム配信

授業概要

この授業では、ロシア語でうまく自分の意見を述べる力を伸ばし、緊張や恐怖心を克服しながら、オーディエンスを前にしてきれいなロシア語でスピーチできるような能力を養っていきます。毎回、スピーチ力をつけるトレーニングとなるようなさまざまな練習を行っていきます。また、特定のテーマや任意のテーマで、各自でスピーチを準備・発表してもらいます。

そうした授業の性質上、授業で行うほとんどの課題は、基本的には、事前に準備しておいてもらうかたちになります（もちろん、授業内の質疑応答のようなものは即興で行ってもらうことになりますが）。具体的には、「事前・事後学習の内容」に記してあるような事前準備が重要になってきますので、必ず準備をして授業に臨んでください。

また、そうして準備してきてもらったものはすべて、教員がチェックし、みなさんのロシア語スピーチがより良いものとなるようにアドバイスをしていきます。

授業の到達目標

ロシア語でうまく自分の意見を述べる力をつけ、臆することなく、オーディエンスを前できれいなロシア語でスピーチできるような能力をつけることを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　期末試験的な試験はなし。
●**レポート**　0%　　レポートはなし。
●**平常点**　100%　　出席状況、宿題・事前学習の状況、授業中の活動状況で評価。受け身でなく、積極的で活発な授業参加を期待。
●**その他**　0%　　その他、特に評価に関係する事項はなし。

備考・関連URL

この授業はzoomによるリアルタイム配信授業になります。 また、上記「授業計画」はあくまで目安であり、スピーチ力の向上を目指すというこうした授業の性質上、受講者数や受講者それぞれのロシア語力にしたがって、受講生にとってより良いかたちになるよう授業を運営したいと考えています。したがって、「計画」は臨機応変に変更される可能性があります。

科 目 名	ロシア語力を磨く6（上級講読） 20世紀～現代のロシア語文学を読む							
担当者名	高柳　聡子							
露語	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

この授業では、ロシア語で執筆された文学作品を原語で精読し、日本語に翻訳する実践を行います。アンドレイ・プラトーノフの短編や、ここ数年で目覚ましく成長しているジャンルであるオートフィクションの作品などを講読する予定です（作品は受講者のレベルによって変更する場合もあります）。多様なロシア語文学の世界を肌で感じながら、ロシア語力をあげ、文学的なテクストを正確に読み、適切な日本語に訳すトレーニングをします。必ずきちんとした辞書を用意する必要があります。

尚、この授業はフルオンデマンド授業です。毎週、課せられた範囲の翻訳を提出し、添削（文法の解説）を返却（必要ならば訳し直し再提出）という要領で進めていきます。毎回の分量は多くはありませんので早く読める必要はありません。ゆっくりと確実に読むトレーニングを行います。予習の仕方については初回の授業で解説します。手書きでしっかりとノートを作り、訳とともに提出してもらいます。自動翻訳機能などの使用は一切禁止します。了承のうえで受講してください。

履修は、これまでに中級レベルの講読の授業をきちんと受講した講読の経験がある学生に限ります（そうでなければ厳しいです）。学外や独学でロシア語学習を進めてきて判断に迷う場合はお問い合わせください。初回の授業開始前にMoodle上でアンケートをとります。それに回答した後に授業開始となりますので、見落としのないよう必ず確認してください。

※訳の提出は週に1回、決められた範囲のみです。数回分まとめての提出は認めません。提出がなければ欠席となります。また、上級に挑む実力がないとみなした場合は、途中で参加を断ることがあります。

授業の到達目標

洗練された芸術的な文体を原語で正確に読み解き、原文にふさわしい日本語へと訳出するスキルを身につけること、テクストに書かれた言葉と余白から、その背景にあるもうひとつの現実を読み取ることのできるロシア語力を磨きながら、ロシア文学独特の「余白」を読み取る意識をもつことを目指します。

初級・中級の文法事項を適宜復習しながら、まだ未習の文法についても学びます。副動詞・形動詞はもちろんのこと、物主形容詞や係り結び、また、語結合や造語を作る際のルールや、翻訳のコツと基本的なスキルなど、高度なテクストを正確に読み解くために必要な知識と姿勢を身につけることを目標とします。

「分からない」ことを楽しみながら、分かるまで調べ・考え抜く自分をみつけます。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　0%　　実施しない。
●**平常点**　100%　　毎回の授業の取り組みと訳の完成度、理解度の向上を見て総合的に評価する。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

この授業はフルオンデマンドです。

科 目 名	練習問題でマスターするロシア語2　聴く・話すロシア語を身につける							
担当者名	高柳　聡子							
露語	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

ロシア語の基礎文法を1年以上学び、中級・上級を目指す学生向けの授業です。春学期の「練習問題でマスターするロシア語1」に続く授業となります（春学期の授業を履修していれば尚良いですが、必須条件ではありません）。

この授業では、ロシア語のリスニングと、正しいリーディングのトレーニングに重きを置き、毎回、聴き取りと発音の練習を行います。自分の苦手なこと、癖を把握し、美しいロシア語の発音やイントネーション、正確なリスニング力の基礎固めをしていきましょう。最初はできなくてもかまいません。授業中に用いる練習問題やテキストは必ず事前に予習をしておくこと。出てくる文章や単語は、どれも実践で非常に役立つものばかりです。少しずつ暗記して、自分のものとしましょう。

初級文法を含め、必要となる文法はわかりやすく解説します。

授業の到達目標

見たこと、聞いたことのあるロシア語を確実に覚え、使えるようにする。ロシア語能力検定4級または3級レベルのリスニング、リーディング力をつける。

成績評価方法

●**試験**　40%　　授業最終日に学期末試験（リスニング、リーディング）を行う。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　60%　　予習、復習、暗記の課題への努力、授業への参加度などを総合的に評価する。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	速習中国語1							
担当者名	若林　ゆりん							
中語	4単位	春学期	水3時限	金3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業は週2回あります。（水、金）

中国語を初めて学ぶ人のために、中国語の基礎知識の習得を目標とします。学習システムTESTUDYを導入して学習していきます。授業内容は1課に付き4stepがあります。

水曜日はstep1-2を解説後、パソコンでドリルを行います。

金曜日はstep3-4を解説後、パソコンでドリルを行います。

授業の到達目標

春学期は、発音の基礎を定着させ、簡単な会話ができることをめざす。

秋学期は、春学期で習得した基礎を前提とし、中国語運用能力の基本となる文法の習得、リスニング、会話、作文力の向上をめざす。

成績評価方法

●**試験**　60%　　期末に筆記試験があります
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　40%　　学習システムの進捗、出席、授業態度などが評価の基準になる。
●**その他**　0%　　特になし

備考・関連URL

この授業はとても負担が大きいですが、続ければ必ず成果が得られます！毎回システムを使った予習復習は時間がかかりますが、効果的な学習にはとても大切な方法です。

頑張って、この学習ペースを維持すれば、きっと上達が実感できます！

科 目 名	オンデマンド中国語（中級）　A　中国を見る							
担当者名	張　恒悦							
中語	2単位	春学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

ナチュラルスピードで話される中国語を正確に理解し、平易な表現を用いてコミュニケーションが取れるようになることを目標とします。授業では、現代中国社会に関連する新聞や雑誌の記事を教材として使用し、会話と作文を中心に進めていきます。扱う内容は、身近なトピックから最新の社会問題に至るまで、可能な限り幅広い範囲を考慮しています。また、授業に加えて、受講者はオンデマンドシステムで提供されるコンテンツを事前に予習しておくことが必要です。

授業の到達目標

主たる目的は、ナチュラルスピードで話される中国語を聞き取れる能力を身につけることです。同時に、自分の意志を表現できる語学力の向上も目指します。

成績評価方法

●**試験**　70%　　学習した内容の中から出題する。授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　30%　　出席、普段の授業や課題に取り組む態度など
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	オンデマンド中国語（中級） B							
担当者名	南　勇							
中語	2単位	秋学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

一年生のとき学んだ単語・文法、またはこれから学ぶ単語と文法のすべてを「音声化」することを目指す。
つまり単なる「知識」として覚えるのではなく、耳で聞き取れる能力を身につける。
また、多様な場面設定で、「聴く」と「話す」をセットで練習することで、他の人と簡単な会話ができるようにしたい。

授業の到達目標

中国語検定試験4級、HSK3級相当のリスニング力をつける。

成績評価方法

●**試験**　60%　　第14回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　40%　　授業参与の積極性を評価する。また、様々な課題の完成度も評価のポイントにする。
例えば数回の理解度確認小テスト、毎課の朗読、授業中の会話練習など。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

履修する学生の実際レベルに合わせて授業内容と方法を調整することがある。

科 目 名	中国語会話（中級） A							
担当者名	小島　瑞紀							
中語	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル（オンライン）リアルタイム配信

授業概要

中級会話のテキストを使って授業を行うと、まるで講読の授業のようになりがちである。そこで、まずは初級の単語や文法を学びなおしつつ、速いスピードで初級会話ができるよう練習を重ねていく。
発音は会話の基礎であるため、厳しくチェックする。
会話がメインの授業ではあるが、テキストに沿った形で作文も少し取り入れる。
授業内容は「置き換え練習」、「ドリル4、5に取り組む」、「ドリル1～5の答え合わせ」、「ドリル6 グループセッション」、「問答練習」である。

授業の到達目標

極力美しい発音を心がける、少なくとも聞きやすい発音を身につけることを最低限の目標とする。
その上で、簡単な会話を流暢に進められることを最大の目標とする。

成績評価方法

●**試験**　60%　　第7回に実施する試験（口頭）　30%
期末到達度確認（口頭）　30%
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　40%　　課題の提出　30%
授業時の表現　10%
●**その他**　0%　　特になし

備考・関連URL

Moodleをマメにチェックすること。
春学期・秋学期あわせて受講することが望ましい。
必ず家庭学習の時間を設けること。
大声で単語やセンテンスを読む練習を欠かさないこと。

科 目 名	中国語会話（中級） B　中国文化に触れながら、自分の考え方を中国語で話してみましょう							
担当者名	胡　婉如							
中語	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本講義は初級中国語を履修した学生を対象に、基礎的な文法事項を再確認し、より高度な文法や表現を学習しながら、会話を中心に授業を進めます。中国人に特有の考え方、行動様式の紹介を主とした教材を使用します。さらに教材の内容に合わせて最新のネット用語を織り込む予定です。 1，対面授業　　①教材の朗読、内容の確認。文法の説明により、口頭で作文
②単語やフレーズを使って口頭による日中対訳、
③教材の内容に基づいてのペア練習と会話発表
一課ごとに書かれた口頭問答練習と会話原稿の添削によって中国語らしい表現の学習
2，WEBサポートサイトhttp://e-tiaozhan.com
このWEBサポートサイトを利用して、単語の学習やリスニングの訓練と　一課ごとにテストをしてもらいます。
3,進み度合い
受講者数とレベルにもよるが、2、3回で一課のようなペースで授業を進める予定

授業の到達目標

初級の学習内容を踏まえて、中国語の発音と基礎文法を復習しなら、より高度な文法や表現を学習します。
中国事情の学習や会話発表を通して、「聞く」、「話す」、「書く」能力を養成すると共に、中国語という言語背景にある文化をより理解し、中国語で中国人とコミュニケーションが少しでも取れるように、
次の3点を目標とします。
1,教材の内容を聞いて直ちに理解できます。

2,正確の発音及び自然なリズムで言えます。
3,本文にある表現を用いて、問答練習を支障なく行えます。
4,長文から会話文にする力が身に着きます。

成績評価方法

まとめテスト　　20%
各課小テスト　　30%
会話発表など　　40%
出席と授業態度　10%

備考・関連URL

1，本講義は年間計画なので、春学期と秋学期両方とも受講してほしいです。2，積極的に学ぶ意欲を持つ学生が大歓迎。3，ペア練習が多いので、開講時から意識的に会話の相手を見つけましょう。
4，授業形式、試験形式および評価方法に変更が生じることもあると予想されます。その際、事前にMoodleで履修者全員に知らせます。

科目名	中国語会話（中級） C							
担当者名	新田　小雨子							
中語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業は実用的かつ身近なトピックスについて中国語で会話する能力を高めることを目的としており、この授業を履修するには、中国語の基礎文法を習得した上、ある程度の「読む・書く・話す・聞く」力も必要です。授業中設定されたトピックスについて、中国語で意見を述べてもらう場合がよくあります。この授業ではスピーキングを重視します。トピックスによって使う表現も異なるので、この授業を通して物事について説明したり自分の意見を述べたりする能力の向上が期待されます。学期末にスピーキング能力アップの確認として、中国語によるプレゼンテーションも実施する予定です。スピーキング能力をアップさせると同時に、中国語によるライティング能力もアップさせるため、課ごとに教科書本文の内容を参考にしながら文章を作成し、授業中に発表してもらいます。講義中は中国語で説明や指示をしますが、日本語によるフォローも臨機応変に行います。本講義の授業に関する指示、資料、音声データの共有はMoodle及びSNS（LINE）で行います。

授業の到達目標

① 初級で習った基礎文法および中級で習った新しい文法を会話で応用できる。
② トピックに応じた表現を身に付け、会話能力を高める。
③ 中国語を聞く力を高める。

成績評価方法

●**試験**　50%　　期末目標言語によるプレゼンテーション
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　50%　　授業への参加度・取り組む姿勢・口頭発表など
●**その他**　0%　　なし

科目名	中国語作文（中級） A							
担当者名	小島　瑞紀							
中語	2単位	春学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】リアルタイム配信

授業概要

中国語の初級文法を、基礎から体系的に駆け足で復習しつつ、中級の表現にも触れていく。
作文がメインの授業ではあるが、テキストに沿った形でリスニングや簡単な会話も少し取り入れる。

授業の到達目標

作文時に犯しがちな簡単な間違いを、極力排除できるようにすることを最大の目標とする。
加えて、少しずつ中級レベルの作文力も身につけて、まとまった文章が書けるようにしたい。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はなし
●**レポート**　40%　　テキストとは関係のないテーマで作文を書く
●**平常点**　60%　　授業時の表現 20%、課題の提出　40%
●**その他**　0%　　特になし

備考・関連URL

Moodleをマメにチェックすること。
前後期あわせて受講することが望ましい。
必ず家庭学習の時間を設けること。

科目名	中国語作文（中級） B　翻訳と朗読							
担当者名	王　瑞来							
中語	2単位	秋学期	金曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】ハイブリッド（対面授業実施以上）

授業概要

まずは発音を重視する。ネイティブ・スピーカーという特長を最大限に生かして、学生諸君に生の中国語の響きを体感させ、とりわけ日本人に共通する中国語発音の間違えやすい箇所と声調に対する訓練に力を入れる。中国語の会話と文章の朗読法として、ほとんど見落とされたアクセントとリズムの方法を導入しており、中国人らしい上手な発音ができることを目標とする。聞き取り能力を高めるために、文字化・ビデオCD化した中国テレビニュース放送の精選を教材として、翻訳練習のほか、繰り返して見せ聞かせる予定もある。中国語の理解を深めるために、ビデオ・DVD・PCなどのメディアを利用して中国文化を紹介す

る。

授業の到達目標

理解力・翻訳力・朗読力を向上することを目指す。

成績評価方法

●**試験**　30%　.
●**レポート**　0%　なし
●**平常点**　40%　翻訳文と聞き取りによって評価を下す。
●**その他**　30%　出席率

備考・関連URL

講義方式：【対面】
評価：平常点と試験

科 目 名	中国語ヒアリング（中級）							
担当者名	張　宇博							
中語	2単位	春学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業は基礎中国語と中国語中級（前期）を学習した学生を対象とします。
初級で習った単語や文法を復習しつつ、中級レベル相当の「聴く」技能を向上させることを目標とします。
内容は身近な話題を中心とするもので、それにならって自身のことについて書いたり、語ったりする内容も設けます。
リスニング練習に重きを置く高めるため、質疑応答が多々あります。
中国、中国文化に関連する内容・映像も随時紹介します。

授業の到達目標

① トピックスに応じたリスニング能力を向上する。
②中国語での質疑に対する応答能力を高める。
③中国語を正確に聞き取り、平易な表現でコミュニケーションができるようになる。
④この授業を受講することによって、自分自身の経験を語るようになる。

成績評価方法

●**試験**　70%　第14回目の授業で試験を行います。
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　出席点と授業中の質疑応答の状況によって判断します。
●**その他**　0%

科 目 名	時事中国語（中級）　A　中国語でニュースを読もう！（入門編）							
担当者名	土屋　文子							
中語	2単位	春学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

ニュースから学術論文まで広く用いられる中国語の論説体（書面語）に触れ、読解力と文法知識を深めてゆくためのクラスです。

授業の到達目標

中国語の基礎的な文法知識と語彙のブラッシュアップ。
辞書およびネット上の資料の検索法に習熟する。
平易な論説体の文章をツールを用いて読解し、内容を的確に説明できる。

成績評価方法

（1）試訳の提出と内容(40%)
（2）授業参加(30%)
（3）理解度の確認(30%)
以上3点を評価対象とします。

備考・関連URL

読解作業は調べ物に始まり調べ物に終わるといっても過言ではありません。辞書はなるべく有償のものを用意し、丹念に引く習慣を身につけて下さい。またネットなどの参考資料も大いに活用して下さい。（資料の使い方・検索方法についての指導も行います）
春・秋両学期をあわせて受講することをお勧めします。
授業時間外の質問は、共有可能な内容についてはなるべくMoodleのフォーラムに投稿して下さい。それ以外のものはメッセージにて受けつけます。

科 目 名	中国現代文学に親しむ（中級）　21世紀の中国語小説							
担当者名	土屋　文子							
中語	2単位	春学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

近年SFやミステリの翻訳紹介により、その面白さが世界的に知られるようになってきた中国語（華文）小説。当クラスでは若手～中堅作家の短編を軸に幅広いジャンルの散文を取り上げ、読解を通じてその感性に触れ、また現代中国語の表現および解釈法について理解を深めてゆきます。

授業の到達目標

中国語の基礎的な文法知識と語彙のブラッシュアップ。

辞書およびネット上の資料の検索法に習熟する。
平易な文学作品をツールを用いて読解し、内容を的確に説明できる。

成績評価方法

（1）試訳の提出とその内容（30%）
（2）授業参加（25%）
（3）レポートの提出とその内容（45%）
以上3点を評価対象とします。

備考・関連URL

読解作業は調べ物に始まり調べ物に終わるといっても過言ではありません。辞書はなるべく有償のものを用意し、丹念に引く習慣を身につけて下さい。またネットなどの参考資料も大いに活用して下さい。（資料の使い方・検索方法についての指導も行います）
取り上げる課題文は担当教員が適宜選びますが、受講者の希望も可能な限り考慮します。
春・秋両学期をあわせて受講することをお勧めします。

科目名	映画で学ぶ中国語（中級） A　映画『夜店』で学ぶ中国語							
担当者名	山本　律							
中語	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】リアルタイム配信

授業概要

本授業は、中国語初級レベルを終了した学生を対象とします。本授業は、映画「夜店」を教材に中国語のレベルアップをはかり、また中国文化への理解を深めていきます。皆さんには毎回10分程度の長さの映画のセリフを訳してもらいます。

授業の到達目標

初級で学んだ中国語の定着とその活用力の強化をめざします。

成績評価方法

●**試験**　30%　　授業の理解度の確認
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　70%　　出席、予習、授業態度
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

学習者の進度に合わせレベルをあげていきます。春期秋期あわせて受講することをすすめます。
本授業はリアルタイムオンラインになります。

科目名	映画で学ぶ中国語（中級） B　中国語映画の世界を味わう							
担当者名	段　文凝							
中語	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】リアルタイム配信

授業概要

本授業は中国映画（第5世代～最新作の中から2本程度）を鑑賞し、中国語（リスニング、スピーキング、作文）のレベルアップを図るとともに、映画の背景にある中国の文化や風習、流行などについての理解も深めていきます。また、講義の後半以降では、出題されたテーマをもとに、自ら伝えたいことを考え、中国語を使ったミニ動画を作成し、発表します。

授業の到達目標

●映画に出て来る中上級レベルの口語フレーズを聞き取り、自らも使える。
●中国映画についての自分の意見を、中国語で述べることができる。
●中国語だけでなく、中国の文化や風習、流行への理解を深める。
●中国語を使って、自分の考えを伝える手段としての動画を作成できる。

成績評価方法

●**試験**　30%　　授業で学んだフレーズ、授業の内容の定着度を測ります。
●**レポート**　40%　　毎回の授業のミニレポート提出で出席をカウントします。しっかりと自分の意見や所見があるかどうかがポイントです。YouTubeなどを使った自撮り映像や、中国語を使って作成したミニ動画の提出を課す予定です。
●**平常点**　30%　　出席状況、授業中の発表内容、ディスカッションへの貢献度を測ります。
●**その他**　0%　　注意：剽窃行為、AI翻訳などの不正利用、カンニングには、大学・学部規定にのっとって厳正に対処します。

科目名	オンデマンド中国語（上級）1　中国と中国文化を語る							
担当者名	張　宇博							
中語	2単位	春学期	火曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

这节课基本使用汉语，希望每一位同学可以用汉语进行交流。不仅是简单的描述、概括、总结，还希望每一位同学可以用汉语表述自己的观点、意见。　身边的日常小事、中国国内的热点新闻、网络事件、中日关系、台湾香港、电影电视剧电视节目、美食旅行等等内容，都可以是我们的讨论对象。
授業の目的：
①今の中国の様子を理解する。中国の文学、文化、映画などさまざまな話題を取り上げながら、同時代の中国社会や文化についての理解がより深まります。
②履修者は中国語でのプレゼンテーションを一度行っていただきます。他の受講生との交流を通じて、よりよい口頭表現を身につけます。
③内容のある議論。中国語の語彙、文法と読解だけでなく、会話するとき、間違いやすい表現の使い方、上級者の伸び悩みなども解消していきます。

④履修者の希望に応じて、自由会話、中国語検定やHSKの質疑応答を講じることも可能です。

授業の到達目標

①現在の中国への知識と理解を深めること。
映画、文学、文化、社会問題などを通じて、現在の中国の状況について幅広い知識を身につける。
②中国語応用力（特に会話能力）を高めること。
・ 語彙・文法の習得だけでなく、実践的な会話力を強化する。
・ 自然で適切な表現を身につけ、議論やディスカッションにおいて自信を持って発言できるようにする。
③自己表現力の向上
・ 中国社会や文化について、自分なりの考えを持ち、論理的に表現できる力を養う。
・ 多角的な視点で物事を捉え、議論を通じて考えを深める。

成績評価方法

●**試験** 0%　試験なし。
●**レポート** 60%　中国語で授業中のプレゼンをレポートにしてください。
●**平常点** 40%　出席と授業参与の積極性を評価します。
●**その他** 0%　なし。

備考・関連URL

履修者の人数や報告回数に応じて、授業内容を適宜調整します。
受講者の参加状況や発表回数に合わせて、ディスカッションの時間を増やしたり、一部の内容を削除・変更する場合があります。授業の進行に柔軟に対応しながら、学習効果を最大化できるように進めていきます。
積極的に発言することが望みまれます。

科 目 名	中国語ヒアリング（上級）-ニュース・スピーチを聞く　記事、トークと会話を聞いて、ヒアリング力を高めよう							
担当者名	孫　国震							
中語	２単位	春学期	水曜日	４時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

外国人向けのヒアリング資料を用いて、内容を聞いて分かるように練習します。また、資料に出た言い回しなどを理解し、自分で使えるように練習します。それで、リスニング力の向上を目指します。听文章开始，记住要点，听懂

授業の到達目標

リスニングの内容を着てわかること、また、自分の口で大体の内容が言えるkと

成績評価方法

●**試験** 0%　50%
●**レポート** 0%
●**平常点** 0%　50%
●**その他** 0%

科 目 名	中国語作文（上級）-エッセイを書く　—エッセイを書く—							
担当者名	段　景子							
中語	２単位	春学期	火曜日	３時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】ハイブリッド【対面授業を半数以上】

授業概要

中国語によるセンテンス（を書く）からエッセイ作成の実践を通して、中国語・中国文化への理解をより深め、読者の心を動かし共鳴するような文章作成能力の向上を目指す。
また、SNS時代にも通用する即戦力を求めながら、その上で心を伝えられるような文章作成能力を鍛える。
対象：中国語上級者（中国語の一定の基礎学習を完了した方）

授業の到達目標

中国語での実戦的な文章作成能力および日中翻訳能力の向上を目指す。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 0%
●**平常点** 100%　・毎回の授業における文章作成の評価
・授業中のディスカッションへの貢献度も参考
●**その他** 0%

科 目 名	中国語翻訳1　中文翻訳の技法　レベル4							
担当者名	土屋　文子							
中語	２単位	春学期	木曜日	４時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

中文の基礎的な読解力（ツールを用いてニュース記事などが読めるレベル）がすでに身についており、そのうえで中日翻訳の具体的な技法を学びたい方を対象とするクラスです。小説・散文などさまざまなジャンルの文章を題材に、演習方式で読解と翻訳の訓練を行います。

授業の到達目標

単なる読解手法としての中文和訳を脱し、文意の正確な伝達と日本語として違和感のない表現の両立について、自分なりの方法論あるいはその端緒を見いだすこと。

成績評価方法

1.試訳提出

2.グループワークへの参加
3.ディスカッションへの参加
4.レポート（訳文の完成度・訳文作成時の工夫とグループワーク&ディスカッションについての総括）
1-3を平常点とし、平常点50%（1=25%、2+3=25%）：レポート50%にて評価を行います。

備考・関連URL

・中国語を第一言語としない場合、原則として学習歴2年以上または身近に中国語環境があることが履修条件の目安と考えて下さい。
・教室での作業はすべて日本語で行います。レポートは一部中国語可。
・1つめの課題は担当教員が用意しますが、2つめ以降は可能な限り履修者の希望を取り入れます。
第2週の授業で扱いたいジャンルや作家について伺いますので、それまでに考えておいて下さい。

科 目 名	中国語字幕翻訳1　中国語映画のセリフを翻訳する							
担当者名	樋口　裕子							
中語	2単位	春学期	無	フルOD	3年以上	—	合併科目	フル［オンライン］フルオンデマンド

授業概要

本授業は、フルオンデマンド（14回全回がオンデマンド）として実施され、教室での対面授業はありません。 定期配信として、原則、毎週月曜日にWaseda Moodleに掲載しますので、その週内（土曜日まで）に視聴してください。
講義動画は、毎回、解説と映像を合わせて7本～10本ほどWaseda Moodleに掲載されるので、
解説と映像を順番通り、交互に視聴し、解説動画に示された中国語を見て、
登場人物やシーンにふさわしい日本語訳を考えていきます。
中国語のセリフを自分で訳してみて、その後に、講師が示す参考字幕を確認します。
字幕翻訳のルールに則して日本語字幕を作る練習をします。
また、講師の実務経験に基づいた映画製作の裏話や新作映画の情報もお話します。
ただし、著作権上の制限があるため、新しい作品は教材として取り上げません。
また、中国架空時代劇のようなテレビドラマは本授業では取り扱う予定はありません。

授業の到達目標

字幕翻訳についての基礎知識を習得し、
登場人物に合ったこなれた日本語に訳す。
各地の方言から中国語の多様性に触れ、
中国の歴史や社会的背景を理解する。
教科書ではあまり触れることのないネイティブな会話を
映画のセリフから学びましょう。

成績評価方法

提出課題（字幕翻訳）を2回、作品の内容や字幕に対する感想文など1～2回、
および出席（指定週内での視聴）で総合評価します。
提出物＝80点、授業動画の視聴状況＝20点、 計100点満点で評価します。

備考・関連URL

留意事項： 春学期の「中国語字幕翻訳1」と秋学期の「中国語字幕翻訳2」は、教材にする映画は異なりますが、 翻訳ルールの説明など、重複は避けられません。ですので、「1」と「2」はどちらか1科目のみ履修し、
両方選択しないでください。

科 目 名	速習中国語2							
担当者名	若林　ゆりん							
中語	4単位	秋学期	水3時限	金3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

前期の授業を履修した方、また1年以上中国語の学習経験のある方に向きます。学習システムTESTUDYを導入して学習していきます。週2回（水、金）の授業があります。
授業内容は1課に付き4stepがあります。
火曜日はstep1-2を解説後、パソコンでドリルを行います。
金曜日はstep3-4を解説後、パソコンでドリルを行います。

授業の到達目標

秋学期は、春学期で習得した基礎を前提とし、中国語運用能力の基本となる文法の習得、リスニング、会話、作文力の向上をめざす。

成績評価方法

●**試験**　60%　　期末に筆記試験を行います
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　40%　　学習システムの進捗、出席、授業態度などが評価の基準になる
●**その他**　0%　　特になし

備考・関連URL

この授業はとても負担が大きいですが、続ければ必ず成果が得られます！毎回システムを使った予習復習は時間がかかりますが、効果的な学習にはとても大切な方法です。
頑張って、この学習ペースを維持すれば、きっと上達が実感できます！

科 目 名	オンデマンド中国語（中上級） A 中国を聞く							
担当者名	張 恒悦							
中語	2単位	秋学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本授業の目標は、ナチュラルスピードで話される中国語を正確に理解し、平易な表現を使ってコミュニケーションが取れるようになることです。春期に引き続き、授業では、現在の中国社会に関する新聞や雑誌の記事を教材として使用し、会話、作文を中心に進行します。扱う内容は、身近な話題から最新の社会問題に至るまで、幅広い範囲をカバーする予定です。また、授業のほかに、受講者はオンデマンドシステムで提供されるコンテンツを事前に必ず予習することが求められます。

授業は初級レベルの復習から始まり、限られた語彙を用いてナチュラルスピードの中国語の聞きとりと会話練習に重点を置きますが、長い文章の暗記も行います。春期には簡単な作文を通じて文法の理解を深めましたが、秋期ではこれまで学習した内容の定着を図りつつ、記事内容に基づく議論を取り入れる予定です。

授業の到達目標

本授業の目標は、自然な速さで話される中国語を聞き取る能力を身につけること、および教材として使用するインタビューの内容を理解し、それについて自分の意見を述べられるようにすることです。

成績評価方法

●**試験** 70% 学習した内容を中心に出題する。授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート** 0% 特になし
●**平常点** 30% 出席、課題に取り組む態度など
●**その他** 0% 特になし

科 目 名	オンデマンド中国語（中上級） B							
担当者名	南 勇							
中語	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

いままで学んだ単語・文法、またはこれから学ぶ単語と文法のすべてを「音声化」することを目指す。
つまり単なる「知識」として覚えるのではなく、耳で聞き取れる能力を身につける。多様な場面設定で、
「聴く」と「話す」をセットで練習することで、流暢な会話ができるようにしたい。

授業の到達目標

中国語検定試験3級、HSK4級相当のリスニング力をつける。

成績評価方法

●**試験** 60% 第14回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート** 0% なし。
●**平常点** 40% 授業参与の積極性を評価する。また、様々な課題の完成度も評価のポイントにする。
例えば3課ごとの理解度確認小テスト、毎課の朗読、授業中の会話練習など。
●**その他** 0% なし。

備考・関連URL

履修する学生の実際レベルに合わせて授業内容と難易度を調整することがある。

科 目 名	中国語会話（中上級） A							
担当者名	小島 瑞紀							
中語	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】リアルタイム配信

授業概要

春学期に使用したテキストの補完ができる授業を目指す。
1回目の授業で文法の数項目を進める。授業で取り上げられない項目については、できれば自習をしてほしい。
授業時に本文・例文の朗読、日文中訳の答え合わせ、質問文のリスニング、会話練習などを行う。
課題の提出は、「単語を覚えること」と「本文のディクテーション」である。
履修者の会話力によっては、グループ分けして授業を行う可能性がある。

授業の到達目標

正確な発音で、少し難しい言い回しができるようになることを最大の目標とする。

成績評価方法

●**試験** 60% 中間（口頭） 30%
期末（口頭） 30%
●**レポート** 0% なし
●**平常点** 40% 毎回の課題の提出 30%
授業時の表現 10%
●**その他** 0% なし

備考・関連URL

なるべく春学期・秋学期ともに履修してもらいたい。授業は初級の会話能力があることを前提に進む。
Moodleのアナウンスや配布資料を必ずチェックしてもらいたい。

科 目 名	中国語会話（中上級） B　中国文化に触れながら、自分の考え方を中国語で話してみましょう							
担当者名	胡　婉如							
中語	２単位	秋学期	水曜日	２時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

春学期に続き、中国人に特有の考え方、行動様式の紹介を主とした教材を使用します。基礎的な文法事項を再確認しながら、会話を中心に授業を進めます。基本的に受講者が主体になり、授業を仕上げていく予定です。さらに教材の内容に合わせて最新のネット用語を織り込む予定です。

1．対面授業

①教材の朗読、文法事項と本文の内容の確認、口頭による作文

②教材の内容によるペア練習と会話発表　　一課ごとに書かれた口頭問答練習と会話原稿の添削によって中国語らしい表現の学習

③自由トーク

授業中できるだけ中国語を使用

2．WEBサポートサイトhttp://e-tiaozhan.com

このWEBサポートサイトを利用して、単語の学習やリスニングの訓練と　一課ごとにテストをしてもらいます。

3．進み度合い

受講者数とレベルにもよるが、2、3回一課のようなペースで授業を進める予定

授業の到達目標

中国語の発音と基礎文法を復習しながら、より高度な文法や表現を学習します。

中国事情の学習や会話発表を通して、「聞く」、「話す」、「書く」能力を養成すると共に、中国語という言語背景にある文化をより理解し、中国語で中国人とコミュニケーションが少しでも取れるように、

次の3点を目標とします。

1,教材の内容を聞いて直ちに理解できます。

2,正確の発音及び自然なリズムで言えます。

3,本文にある表現を用いて、口頭問答練習を支障なく行えます。

4,長文から会話文にする力が身に着きます。

成績評価方法

まとめテスト　　20%

各課の小テスト　30%

会話発表など　　40%

出席と授業態度　10%

備考・関連ＵＲＬ

1．　積極的に学ぶ意欲を持つ学生が大歓迎。

2．　ペア練習が多いので、開講時から意識的に会話の相手を見つけましょう。

3．　授業形式、試験形式および評価方法に変更が生じることもあると予想されます。その際、事前にMoodleで履修者全員に知らせます。

科 目 名	中国語会話（中上級） C							
担当者名	新田　小雨子							
中語	２単位	春学期	水曜日	５時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業は身近なトピックスについて中国語でコミュニケーション能力を高めることを目的としており、この授業を履修するにはある程度の会話力が必要です。現代中国社会に関するトピックスが多く、この授業を通して中国の文化や風習への理解を深めることができます。この授業ではスピーキングを重視します。トピックスによって使う表現も異なるので、物事について説明したり自分の意見を述べたりする能力の向上が期待されます。学期末にスピーキング能力アップの確認として、中国語によるプレゼンテーションも実施する予定です。この授業を受けることによってスピーキング能力をアップさせると同時に、課ごとの練習問題を通して中国語検定の試験問題にも慣れることができるので、一石二鳥の学習効果が期待できます。講義中、中国語による説明や指示も多いですが、日本語によるフォローも臨機応変に行います。本講義の授業に関する指示、資料、音声データの共有はMoodle及びSNS（LINE）で行います。

授業の到達目標

① 既習文法を会話で応用できる。

② トピックスに応じた表現を身に付け、会話能力を高める。

③ リスニング力を高める。中国語検定試験4級・3級に合格する力を磨く。

成績評価方法

●**試験**　50%　　期末目標言語によるプレゼンテーション

●**レポート**　0%　　なし

●**平常点**　50%　　授業への参加度・取り組む姿勢・口頭発表など

●**その他**　0%　　なし

科 目 名	中国語作文（中上級） A							
担当者名	小島　瑞紀							
中語	２単位	秋学期	金曜日	３時限	２年以上	—	合併科目	フル【オンライン】リアルタイム配信

授業概要

春学期に使用したテキストの補完ができる授業を目指す。

1回の授業で文法の数項目を進める。授業で取り上げられない項目については、できれば自習をしてほしい。
課題の提出は、「単語を覚えること」、「本文の日文中訳」、「決められた文法項目に則した短文を作ること」である。
授業時はテキストの本文や例文を読んだり、日文中訳の答え合わせをしたり、添削した短文について説明を加えたりする。

授業の到達目標

作文時に犯しがちな間違いをなくす、少し難しいセンテンスが書けるようにすることを目標とする。

成績評価方法

試験/Exam　【割合　0%】　テキストに沿った試験は行わない。
レポート/Papers　【割合　40%】　期末レポート。何かのテーマについて中国語で感想文を書く。
平常点評価/Class Participation　【割合　60%】　授業時の表現　20%　/　課題　40%
その他/Others　【割合　0%】　特になし。

備考・関連URL

なるべく春学期・秋学期ともに履修してもらいたい。授業は初級単語と初級文法を身に着けていることを前提に進む。
Moodleのアナウンスや配布資料を必ずチェックしてもらいたい。

科目名	中国語作文（中上級）　B　ビジネス文書の作文							
担当者名	王　瑞来							
中語	2単位	春学期	金曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

中国語の勉強においては一定の基礎を築いた後に、文章作成能力の向上を目指した作文訓練が必要となる。この授業では実用性の高いビジネス文書を中心として、それらの種類やスタイルなどを紹介し、簡単な文章から複雑な文章まで、精選した文書の和訳・中訳を受講者全員が行う。これを通して作文能力を鍛える。

授業の到達目標

中国語での実用文章の翻訳能力や作文能力の向上を目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　70%　　作文の完成度
●**その他**　30%　　出席率

備考・関連URL

本授業は対面授業です。評価は平常点により評価します。

科目名	中国語ヒアリング（中上級）							
担当者名	張　宇博							
中語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業は基礎中国語と中国語中級（前期）を学習した学生を対象とします。
初級で習った単語や文法を復習しつつ、中級レベル相当の「聴く」技能を向上させることを目標とします。
内容は身近な話題を中心とするもので、それにならって自身のことについて書いたり、語ったりする内容も設けます。
リスニング練習に重きを置く高めるため、質疑応答が多々あります。
HSK5級、中国、中国文化に関連する内容・映像もあわせて紹介します。

授業の到達目標

日常に使用される中国語レベルの聴覚イメージを確実に定着すること。
HSK5級レベルの中国語音声の聞き取りを問題なくこなせるようになること。

成績評価方法

●**試験**　70%　　第14回目の授業時間中に試験を行います。
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　出席と授業参与の積極性によって評価する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

*受講者の学習状況によって、一部の内容に変更がある可能性がある。

科目名	時事中国語（中上級）　A　中国語でニュースを読もう！（実践編）							
担当者名	土屋　文子							
中語	2単位	秋学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

今や中華圏のみならずBBCやニューヨークタイムズなど世界中の大手メディアが"中文网"を持つ時代。中国語で切り取られる世界の様相も目まぐるしく多角化しています。当クラスでは中国の世相や最新事情が伺えるもの中心に、様々なメディアからピックアップした中文記事を読み、ネイティヴ向けに書かれた"生の"中国語文章表現に親しんでゆきます。

授業の到達目標

中国語の基礎的な文法知識と語彙のブラッシュアップ。
辞書およびネット上の資料の検索法に習熟する。
平易な論説体の文章をツールを用いて読解し、内容を的確に説明できる。

成績評価方法

（1）試訳の提出と内容（40%）

（2）授業参加（30%）
（3）理解度の確認（30%）
以上3点を評価対象とします。

備考・関連URL

読解作業は調べ物に始まり調べ物に終わるといっても過言ではありません。辞書はなるべく有償のものを用意し、丹念に引く習慣を身につけて下さい。またネットなどの参考資料も大いに活用して下さい。（資料の使い方・検索方法についての指導も行います）
取り上げる課題文は担当教員が適宜選びますが、履修者の希望も可能な限り考慮します。
春・秋両学期をあわせて受講することをお勧めします。
※授業時間外の質問は、共有可能な内容についてはなるべくMoodleのフォーラムに投稿して下さい。それ以外のものはメッセージにて受けつけます。

科目名	中国現代文学に親しむ（中上級） 21世紀の中国語小説							
担当者名	土屋　文子							
中語	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

近年SFやミステリの翻訳紹介により、その面白さが世界的に知られるようになってきた中国語（華文）小説。当クラスでは若手～中堅作家の短編を軸に幅広いジャンルの散文を取り上げ、読解を通じてその感性に触れ、また現代中国語の表現および解釈法について理解を深めてゆきます。
春学期の中級クラスに比べてやや長めの作品にも挑戦する予定。（※2024年度は刘慈欣《带上她的眼睛》を10週に分けて取り上げました）

授業の到達目標

中国語の基礎的な文法知識と語彙のブラッシュアップ。
辞書およびネット上の資料の検索法に習熟する。
平易な文学作品をツールを用いて読解し、内容を的確に説明できる。

成績評価方法

（1）試訳の提出とその内容（30%）
（2）授業参加（25%）
（3）レポートの提出とその内容（45%）
以上3点を評価対象とします。

備考・関連URL

読解作業は調べ物に始まり調べ物に終わるといっても過言ではありません。辞書はなるべく有償のものを用意し、丹念に引く習慣を身につけて下さい。またネットなどの参考資料も大いに活用して下さい。（資料の使い方・検索方法についての指導も行います）
取り上げる課題文担当教員が適宜選びますが、受講者の希望も可能な限り考慮します。
春・秋両学期をあわせて受講することをお勧めします。

科目名	映画で学ぶ中国語（中上級） A 映画『窈窕紳士』で学ぶ中国語							
担当者名	山本　律							
中語	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】リアルタイム配信

授業概要

本授業は、中国語初級レベルを終了した学生を対象とします。本授業は、映画「窈窕紳士」を教材に、中国語のレベルアップをはかり、また中国文化への理解を深めていきます。皆さんには毎回10分程度の映画のセリフを訳してもらいます。

授業の到達目標

初級で学んだ中国語の定着とその活用力の強化を目指します。

成績評価方法

●**試験**　30%　　授業の理解度の確認
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　70%　　出席、予習、授業態度
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

学習者の進度に合わせレベルを上げていきます。
本授業はリアルタイムオンラインで行います。

科目名	映画で学ぶ中国語（中上級） B 中国語映画の世界を味わう							
担当者名	段　文凝							
中語	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】リアルタイム配信

授業概要

本授業は中国映画（第5世代～最新作の中から2本程度）を鑑賞し、中国語（リスニング、スピーキング、作文）のレベルアップを図るとともに、映画の背景にある中国の文化や風習、流行などについての理解も深めていきます。また、講義の後半以降では、出題されたテーマをもとに、自ら伝えたいことを考え、中国語を使ったミニ動画を作成し、発表します。

授業の到達目標

●映画に出て来る中上級レベルの口語フレーズを聞き取り、自らも使える。
●中国映画についての自分の意見を、中国語で述べることができる。

●中国語だけでなく、中国の文化や風習、流行への理解を深める。
●中国語を使って、自分の考えを伝える手段としての動画を作成できる。

成績評価方法

●**試験**　30%　　授業で学んだフレーズ、授業の内容の定着度を測ります。
●**レポート**　40%　　毎回の授業のミニレポート提出で出席をカウントします。しっかりと自分の意見や所見があるかどうかがポイントです。YouTubeなどを使った自撮り映像や、中国語を使って作成したミニ動画の提出を課す予定です。
●**平常点**　30%　　出席状況、授業中の発表内容、ディスカッションへの貢献度を測ります。
●**その他**　0%　　注意：剽窃行為、AI翻訳などの不正利用、カンニングには、大学・学部規定にのっとって厳正に対処します。

科 目 名	オンデマンド中国語（上級）2　中国と中国文化を語る							
担当者名	張　宇博							
中語	2単位	秋学期	火曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

这节课基本使用汉语，希望每一位同学可以用汉语进行交流。不仅是简单的描述、概括、总结，还希望每一位同学可以用汉语表述自己的观点、意见。

身边的日常小事、中国国内的热点新闻、网络事件、中日关系、台湾香港、电影电视剧电视节目、美食旅行等等内容，都可以是我们的讨论对象。

授業の目的：

①今の中国の様子を理解する。中国の映画、文学、文化などさまざまな話題を取り上げながら、同時代の中国語、中国社会や文化についての理解がより深まります。

②内容のある議論を目指します。中国語の語彙、文法と読解だけでなく、会話するとき、間違いやすい表現の使い方、上級者の伸び悩みなども解消していきます。

③履修者の希望に応じて、自由会話、中国語検定やHSKの質疑応答を講じることも可能です。

④春学期・秋学期では授業内容が一部重複する場合があるが、両方を履修する学生がいる場合は適宜調整するので安心して受講できます。

授業の到達目標

①現在の中国への知識と理解を深めること。
映画、文学、文化、社会問題などを通じて、現在の中国の状況について幅広い知識を身につける。
②中国語応用力（特に会話能力）を高めること。
· 語彙・文法の習得だけでなく、実践的な会話力を強化する。
· 自然で適切な表現を身につけ、議論やディスカッションにおいて自信を持って発言できるようにする。
③自己表現力の向上
· 中国社会や文化について、自分なりの考えを持ち、論理的に表現できる力を養う。
· 多角的な視点で物事を捉え、議論を通じて考えを深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験なし。
●**レポート**　0%　　授業中の報告とその内容をレポートにしてください。
●**平常点**　40%　　出席と授業参与の積極性を評価します。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連ＵＲＬ

履修者の人数や報告回数に応じて、授業内容を適宜調整します。
受講者の参加状況や発表回数に合わせて、ディスカッションの時間を増やしたり、一部の内容を削除・変更する場合があります。授業の進行に柔軟に対応しながら、学習効果を最大化できるように進めていきます。
積極的に発言することが望みまれます。

科 目 名	中国語ヒアリング（上級）-バラエティ・トークショーを聞く　前期に続き、記事、トークと会話を聞いて、ヒアリング力をさらに高めよう							
担当者名	孫　国震							
中語	2単位	秋学期	水曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

取材や小説などのヒアリング資料を用いて、内容を聞いて分かるように練習します。また、資料に出た言い回しなどを理解し、自分で使えるように練習します。それで、リスニング力の向上を目指します。

授業の到達目標

要点をつかみ、聞いて分かること、大体の内容が言えること

成績評価方法

●**試験**　0%　　50%
●**レポート**　0%
●**平常点**　0%　　50%
●**その他**　0%

科 目 名	中国語作文（上級）-ビジネス文を書く							
担当者名	段　景子							
中語	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】/ハイブリッド【対面授業を特別に】

授業概要

中国語によるビジネス文章作成の実践を通して、中国語・中国文化への理解をより深め、伝達速度、明確さ、正確さなど、

ビジネスの現場で使える、SNS時代にも通用する即戦力を求めながら、その上で心を伝えられるような文章作成能力を鍛える。
対象：中国語上級者（中国語の一定の基礎学習を完了した方）

授業の到達目標

中国語での実戦的なビジネス文章作成能力および日中翻訳能力の向上を目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　・毎回の授業における文章作成の評価
・授業中のディスカッションへの貢献度も参考
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	中国語翻訳2　中文翻訳の技法　レベル4							
担当者名	土屋　文子							
中語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

中文の基礎的な読解力（ツールを用いてニュース記事などが読めるレベル）がすでに身についており、そのうえで中日翻訳の具体的な技法を学びたい方を対象とするクラスです。
小説・散文などさまざまなジャンルの文章を題材に、演習方式で読解と翻訳の訓練を行います。

授業の到達目標

単なる読解手法としての中文和訳を脱し、文意の正確な伝達と日本語として違和感のない表現の両立について、自分なりの方法論あるいはその端緒を見いだすこと。

成績評価方法

1.試訳提出
2.グループワークへの参加
3.ディスカッションへの参加
4.レポート（訳文の完成度・訳文作成時の工夫とグループワーク&ディスカッションについての総括）
1-3を平常点とし、平常点50%（1=25%、2+3=25%）：レポート50%にて評価を行います。

備考・関連URL

・中国語を第一言語としない場合、原則として学習歴2年以上または身近に中国語環境があることが履修条件の目安と考えて下さい。
・教室での作業はすべて日本語で行います。レポートは一部中国語可。
・1つめの課題は担当教員が用意しますが、2つめ以降は可能な限り履修者の希望を取り入れます。
第2週の授業で扱いたいジャンルや作家について伺いますので、それまでに考えておいて下さい。

科 目 名	中国語字幕翻訳2　中国語映画のセリフを翻訳する							
担当者名	樋口　裕子							
中語	2単位	秋学期	無	フルOD	3年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

本授業は、フルオンデマンド（14回全回がオンデマンド）授業として実施され、教室での対面授業はありません。 定期配信として、原則、毎週月曜日にWaseda Moodleに掲載しますので、その週内（土曜日まで）に視聴してください。
講義動画は、毎回、解説と映像を合わせて7本～10本ほどWaseda Moodleに掲載されるので、
解説と映像を順番通り、交互に視聴し、解説動画に示された中国語を見て、
登場人物やシーンにふさわしい日本語訳を考えていきます。
中国語のセリフを自分で訳してみて、その後に、講師が示す参考字幕を確認します。
字幕翻訳のルールに則して日本語字幕を作る練習をします。
また、講師の実務経験に基づいた映画製作の裏話や新作映画の情報もお話します。
ただし、著作権上の制限があるため、新しい作品は教材として取り上げません。
また、中国架空時代劇のようなテレビドラマを教材にする予定はありません。

授業の到達目標

字幕翻訳についての基礎知識を習得し、
登場人物に合ったこなれた日本語に訳す。
各地の方言から中国語の多様性に触れ、
中国の歴史や社会の背景を理解する。
教科書では触れることの少ないネイティブな会話を
映画のセリフで学びましょう。

成績評価方法

提出課題（字幕翻訳）を2回、作品の内容や字幕に対する感想文など1～2回、
および出席（指定週内での視聴）で総合評価します。
提出課題＝80点、視聴状況＝20点、計100点満点で評価します。

備考・関連URL

留意事項：
春学期の「中国語字幕翻訳1」と秋学期の「中国語字幕翻訳2」は、教材にする映画は異なりますが、
翻訳ルールの説明など、重複は避けられません。ですので、「1」と「2」はどちらか1科目のみ履修し、 両方選択しないでください。

科 目 名	中国語検定をめざす（中級） A ――3級の文法を中心に――							
担当者名	李 洵							
中語	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	―	合併科目	フル【対面】

授業概要

中国語検定試験3級の合格を目指します。
授業は演習の形で進め、文法を解説しつつ過去問題を解いていきます。

授業の到達目標

中検3級筆記の合格。

成績評価方法

●**試験** 70% 試験（理解度の確認）
●**レポート** 0% なし
●**平常点** 30% 出席と課題
●**その他** 0% なし

備考・関連URL

授業は対面で行う予定です。
欠席5回以上は評価を「不可」とする。

科 目 名	中国語検定をめざす（中級） B 中検3級への合格をま座しましょう							
担当者名	孫 国震							
中語	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	―	合併科目	フル【対面】

授業概要

模擬試験や過去問の解説を通して、リスニング、読解と日文中訳の実践的な訓練を行い、中検3級の対象となるピンイン。声調と、構文の並べ替えと文法的な要点を理解して、合格できるように指導します。また、基礎課程を固める復習としても利用できます、

授業の到達目標

中検3級に合格できるようにすること

成績評価方法

●**試験** 0% 50%
●**レポート** 0%
●**平常点** 0% 50%
●**その他** 0%

科 目 名	HSKをめざす（中級） A 中国語HSK5級に合格できるようにmがんばりしましょう							
担当者名	孫 国震							
中語	2単位	春学期	水曜日	3時限	2年以上	―	合併科目	フル【対面】

授業概要

模擬試験や過去問の解説を通して、リスニングや読解と作文などの実戦的な訓練を行い、5級に対応する文法ポイントなどを、作文の書き方も含めて説明します。基礎課程の復習としても活用できます
2,

授業の到達目標

中国語HSK5級に宇角できること

成績評価方法

●**試験** 0% 50%
●**レポート** 0%
●**平常点** 0% 50%
●**その他** 0%

科 目 名	HSKをめざす（中級） B							
担当者名	南 勇							
中語	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	―	合併科目	フル【対面】

授業概要

中国語文法を知識としてでなく、HSKの対策・攻略として再整理し、全体像の「文法地図」を作成する。そしてHSKの出題者の視点から、それぞれの文法ポイントはどのように出題されるか、その出題傾向と
常套手法を解明することで、解答のテクニックを磨き、正解率をアップする。

授業の到達目標

中国語文法の理解を深め、HSK4級の合格を目指す。

成績評価方法

●**試験** 60% 第14回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行う。
●**レポート** 0% なし。
●**平常点** 40% 学習態度と複数の小テスト・確認テストなど課題の完成度を評価のポイントにする。
●**その他** 0% なし。

備考・関連URL

履修する学生の実際レベルに合わせて授業内容と難易度を調整することがある。

科 目 名	中国語検定をめざす（中上級） A ――2級の文法を中心に――							
担当者名	李　洵							
中語	2単位	秋学期	月曜日	5時限	2年以上	―	合併科目	フル【対面】

授業概要

中国語検定試験2級の合格を目指します。
授業は演習の形で進め、文法を解説しつつ過去問題を解いていきます。

授業の到達目標

中検2級レベルの文法力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　70%　　試験（理解度の確認）
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　30%　　出席と課題
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

欠席5回からは失格となる。Zoom授業を行う予定。

科 目 名	中国語検定をめざす（中上級） B 中国語検定試験2級への合格をま座しましょう							
担当者名	孫　国震							
中語	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	―	合併科目	フル【対面】

授業概要

模擬試験や過去問の解説を通して、リスニング、読解と日文中訳の実践的な訓練を行い、中検2級で致傷となるピンイン、声調と構文の並べ替えと文法的な要点を理解して、合格できるように、指導します。基礎課程を固める復習としても利用できます。

授業の到達目標

中検2級に合格できること

成績評価方法

●**試験**　0%　　50%
●**レポート**　0%
●**平常点**　0%　　50%
●**その他**　0%

科 目 名	HSKをめざす（中上級） A HSK6級げび合格できるように頑張りましょう							
担当者名	孫　国震							
中語	2単位	秋学期	水曜日	3時限	2年以上	―	合併科目	フル【対面】

授業概要

模擬試験や過去問の解説などを通して、リスニングや読解と作文の実戦的な訓練を行い、6級で対象となるリスニングや読解と文法ポイントをまとめて説明し、作文の書き方も指導して、合格できるように目指します。基礎課程の復習としても活用できます。

授業の到達目標

HSK6級に合格すること

成績評価方法

●**試験**　0%　　50%
●**レポート**　0%
●**平常点**　0%　　50%
●**その他**　0%

科 目 名	HSKをめざす（中上級） B							
担当者名	南　勇							
中語	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	―	合併科目	フル【対面】

授業概要

まずHSK対策・攻略の視点から中国語文法体系を再構築する。そしてHSKでは、それぞれの文法ポイントがどのように出題されるか、
その出題傾向と常套手法を解明することによって、解答のテクニックを磨き、正解率をアップする。

授業の到達目標

中国語文法の理解を深め、HSK5～6級の合格を目指す。

成績評価方法

●**試験**　60%　　第14回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行う。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　40%　　学習態度と複数の小テスト・確認テストなど課題の完成度を評価のポイントにする。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

履修する学生の実際レベルに合わせて授業内容と難易度を調整することがある。

科 目 名	中国語スピーチレッスン1-自己アピールをしよう							
担当者名	張　恒悦							
中語	2単位	春学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本授業では、まず自己紹介から始め、面接などでの自己PRができるようなスピーチ能力の習得を目指します。この授業を通じて、発音、作文、聞き取り、朗読などの総合的なコミュニケーション能力を鍛えていきます。

授業の到達目標

動画教材を活用し、これまで1年間学んできた中国語の発音と声調をさらに磨き上げることを基本方針とします。特に、中国語の「声調」や「語調」の習得に重点を置きながら、効果的なトレーニングを行っていきます。

成績評価方法

●**試験**　40%　　スピーチ原稿による
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　60%　　授業態度、取り組み姿勢など
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	中国語スピーチレッスン2-スピーチコンテストをめざす							
担当者名	張　恒悦							
中語	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本授業は中上級レベルで、弁論大会のような場面を想定しています。特定の主題に基づいて、自分の考えや主張を述べるスピーチ能力の獲得を目指します。この目標を達成するために、発音、作文、聞き取り、朗読などの総合的言語能力を磨いていきます。

授業の到達目標

5分間のスピーチを暗記し、正確な中国語の発音と声調を用いて流暢に発表できるよう目指します。また、内容を魅力的に伝え、聞き手を引き込む表現力も求められます。

成績評価方法

●**試験**　40%　　発表の出来具合
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　60%　　出席、課題への取り組み
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	スペイン語上級（読む）1　Curso de lectura en español de nivel superior							
担当者名	トレナド　パロマ							
西語	2単位	春学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】リアルタイム配信

授業概要

Es un curso de lectura en español correspondiente al nivel B1 (DELE). Es una clase on line.

En cada clase se presentan lecturas relacionadas con la cultura y la sociedad de los países hispanohablantes a través de distintos tipos de textos (noticias, relatos, blogs, etc.).

Además de los ejercicios de comprensión lectora, se estudian nuevas estructuras gramaticales y el vocabulario específico de cada tema. También se hacen actividades comunicativas como conversaciones y presentaciones.

授業の到達目標

Los objetivos de esta clase son:

1) Mejorar la comprensión lectora y la capacidad comunicativa en español.
2) Ampliar el vocabulario y nuevas estructuras gramaticales del nivel B1 (DELE).
3) Conocer la cultura de los diferentes países de habla hispana.

成績評価方法

●**試験**　30%　　Exámenes y quizzes
●**レポート**　0%　　No.
●**平常点**　40%　　Actividades de clase y participación.
●**その他**　30%　　Presentaciones

備考・関連URL

Es una clase on-line. Se realiza a través de Zoom.

Es posible que haya cambios en el programa para presentar algún tema de actualidad en los países del mundo hispano.

El feedback se realizará en clase.

科 目 名	スペイン語上級（読む）2　Curso de lectura en español de nivel superior							
担当者名	トレナド　パロマ							
西語	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】リアルタイム配信

授業概要

Es un curso de lectura enespañol correspondiente al nivel B1 (DELE). Es una clase on line.

En cada clase se presentan lecturas relacionadas con la cultura y la sociedad de los países hispanohablantes a través de distintos tipos de textos (noticias, relatos, blogs, etc.).

Además de los ejercicios de comprensión lectora, se estudian nuevas estructuras gramaticales y el vocabulario específico de cada tema. También se hacen actividades comunicativas como conversaciones y presentaciones.

授業の到達目標

Los objetivos de esta clase son
1) Mejorar la comprensión lectora y la capacidad comunicativa en español.
2) Ampliar el vocabulario y nuevas estructuras gramaticales del nivel B1 (DELE).
3) Conocer la cultura de los diferentes países de habla hispana.

成績評価方法

●**試験** 30% Exámenes y quizzes.
●**レポート** 0% No
●**平常点** 40% Participación en las actividades de clase.
●**その他** 30% Presentaciones

備考・関連URL

Es una clase on-line. Se realiza a través de Zoom.
Es posible que haya cambios en el programa para presentar algún tema de actualidad en los países del mundo hispano.
El feedback se realizará en clase.

科 目 名	スペイン語中級（会話）1 Curso de conversación en español de nivel intermedio.							
担当者名	トレナド パロマ							
西語	2単位	春学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン]リアルタイム配信

授業概要

Es una clase práctica de conversación en español del nivel A2 (CEFR). Además de repasar los contenidos comunicativos de la clase de primero de conversación,se aprenden nuevas estructuras gramaticales, vocabulario y funciones comunicativas a través de variadas actividades: conversaciones, ejercicios de audio, vídeo, etc.
スペイン語での会話の実践 A2 (CEFR ヨーロッパ言語共通参照枠) 1 年生の会話クラスのコミュニケーション内容を復習することに加えて、会話、音声演習、ビデオなどのさまざまなアクティビティを通じて、新しい文法構造、語彙、コミュニケーション機能を学びます。スペイン語圏の文化を学ぶアクティビティも用意されています。

授業の到達目標

Los objetivos del curso son:
コースの目的は次のとおりです。
1) Mejorar la capacidad comunicativa en español.
スペイン語でのコミュニケーション能力を向上させる。
2) Conocer nuevas estructuras gramaticales y vocabulario del nivel A2.
A2新しい文法構造や語彙を学ぶ。
3) Conocer algunos aspectos de la cultura y sociedad de los países de habla hispana.
スペイン語圏の国々文化や社会のいくつかの側面を知る。

成績評価方法

●**試験** 40% Examen oral
口頭試験
●**レポート** 0% No
●**平常点** 40% Trabajo de clase y participación.
授業のコミニケーションアクテイビテイス。
●**その他** 20% Ejercicios complementarios.
Participación en clase.
補足練習
授業の参加。

備考・関連URL

Es una clase on-line y se realiza a través de Zoom.
オンラインクラスですのでZoomを利用して行います。
Es necesario participar activamente en la clase.
積極的に授業に参加することが必要です。
El feedback se realizará en clase.
フィードバックは授業で行われます。

科 目 名	スペイン語中級（会話）2 Curso de conversación en español de nivel intermedio 中級レベルのスペイン語会話コース							
担当者名	トレナド パロマ							
西語	2単位	秋学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン]リアルタイム配信

授業概要

Es una clase práctica de conversación en español del nivel A2 (CEFR) Además de repasar los contenidos comunicativos de la clase de primero de conversación, se aprenden nuevas estructuras gramaticales, vocabulario y funciones comunicativas a través de variadas actividades: conversaciones, ejercicios de audio, vídeo, etc.
スペイン語での会話の実践 A2 (CEFRヨーロッパ言語共通参照枠)。 1 年生の会話クラスのコミュニケーション内容を復習す

ることに加えて、会話、音声演習、ビデオなどのさまざまなアクティビティを通じて、新しい文法構造、語彙、コミュニケーション機能を学びます。スペイン語圏の文化を学ぶアクティビティも用意されています。

授業の到達目標

Los objetivos del curso son:コースの目的は次のとおりです。
1) Mejorar la capacidad comunicativa en español.
スペイン語でのコミュニケーション能力を向上させる。
2) Conocer nuevas estructuras gramaticales y vocabulario del nivel A2.
A2新しい文法構造や語彙を学ぶ。
3) Conocer algunos aspectos de la cultura y sociedad de los países de habla hispana.
スペイン語圏の国々文化や社会のいくつかの側面を知る。

成績評価方法

●**試験** 40% Examen oral.
口頭試験
●**レポート** 0% No
●**平常点** 40% Trabajo de clase y actividades comunicativas.
授業のコミニケーションアクテイビテイス。
●**その他** 20% Ejercicios complementarios.
Participación en clase.
強化練習。
授業の参加。

備考・関連URL

Es una clase on-line y serealiza a través de Zoom.
オンラインクラスですのでZoomを利用して行います。
Es necesario participaractivamente en la clase.
積極的に授業に参加することが必要です。
El feedback se realizará en clase.
フィードバックは授業で行われます。

科 目 名	初級スペイン語1 スペイン語の世界に飛び込もう！							
担当者名	中島 さやか							
西語	2単位	春学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

初めてスペイン語を学ぶ人を対象としています。ヨーロッパ言語共通参照枠A1-A2レベルの内容を中心に学習します。
4技能（話す、聞く、読む、書く）の獲得を目指した外国語習得の初期段階では、聞く、話す、読む、書くの順番を意識した学習が大切であるとの考えに基づき、A1-A2レベルのスペイン語を聞いて慣れることからスタートし、段階的に内容・文法理解、話すことに繋げていきます。

授業の到達目標

1. ヨーロッパ言語共通参照枠A1-A2レベルのスペイン語に耳を傾け、予想しながら理解に繋げていく外国語学習の態度を身に付ける。
2. 日常生活で頻繁に使われる基本語彙や表現を身に付ける。
3. 文法（動詞はser, estar, haber, tener 時制は直説法現在）を理解し、身近な内容の聞き取り、読み、作文、やりとりに応用できる。

成績評価方法

●**試験** 40% 中間テストと理解度の確認があります。中間テストと理解度の確認には短い口頭試験を含みます。
●**レポート** 0% レポートはありません。短い作文と演習課題がある予定です。
●**平常点** 60% 小テスト、授業参加度、課題の達成度などを総合的に判断します。
●**その他** 0% 平常点評価の項目を見てください。

備考・関連URL

外国語学習を週1回の授業で進めるには、事前事後学習の時間を有効活用する必要があります。特に、聞き取りと語彙・文法の復習は必須事項です。そのため、毎回短い課題と小テストがあります。事前・事後の学習をしっかり行って下さい。
事前事後学習を含む授業参加を重視する授業です。外国語学習に取り組む態度を評価します。
Moodleを使用するオンライン授業です。タイピングがスムーズにできるよう、できるだけスマホでなくPCから参加するようにしてください。
口頭試験は録音を通じて行います。詳しい試験方法については試験前にMoodleで説明がある予定です。
フィードバックはMoodleを通じて行います。
「1年スペイン語」科目を履修中、あるいは履修した人は内容に重複する項目が多いので、履修は望ましくありません。
授業の進度や内容は履修者の人数や理解度に合わせて変更があることがあります。
外国語の習得にはさまざまな場面で使って実際にみることが非常に重要です。LA(Learning Assistant)との練習、スペイン語を使った活動への参加、Duolingoなど外国語学習アプリの使用など、授業外で一定のスペイン語を使う活動を行ったことが証明できる場合にはプラスアルファの評価をします。

科 目 名	初級スペイン語2　スペイン語の世界に飛び込もう！							
担当者名	中島　さやか							
西語	２単位	秋学期	無	フルOD	１年以上	—	合併科目	フル[オンライン] フルオンデマンド

授業概要

スペイン語の基礎知識が少しある人を対象に、ヨーロッパ言語共通参照枠A1-A2レベルの内容を学習します（動詞の活用は直説法現在）。

4技能（話す、聞く、読む、書く）の獲得を目指した外国語習得の初期段階では、聞く、話す、読む、書くの順番を意識した学習が大切であるとの考えに基づき、A1-A2レベルのスペイン語を聞くことに慣れることからスタートし、段階的に内容・文法理解、話すことに繋げていきます。

授業の到達目標

1．ヨーロッパ言語共通参照枠A1-A2レベルのスペイン語に耳を傾け、予想しながら理解に繋げていく外国語学習の態度を身に付ける。

2．日常生活で頻繁に使われる基本語彙や表現を身に付ける。

3．A1-A2レベルの文法（動詞の時制は直説法現在のみ）を理解し、身近な内容の簡単な聞き取り、読み、作文、やりとりに応用できる。

成績評価方法

●**試験**　40%　　中間テストと理解度の確認（最終試験）があります。中間テストと理解度の確認には短い口頭試験を含みます。
●**レポート**　0%　　レポートはありません。短い作文と演習の課題がある予定です。
●**平常点**　60%　　小テスト、授業参加度、課題の達成度などを総合的に判断します。
●**その他**　0%　　平常点評価の項目を見てください。

備考・関連URL

外国語学習を週1回の授業で進めるには、事前事後学習の時間を有効活用する必要があります。特に、聞き取りと語彙・文法の復習は必須事項です。そのため、毎回短い課題と小テストがあります。事前・事後の学習をしっかり行って下さい。

事前事後学習を含む授業参加を重視する授業です。外国語学習に取り組む態度を評価します。

Moodleを使用するオンライン授業です。タイピングがスムーズにできるよう、できるだけスマホでなくPCから参加するようにしてください。

口頭試験は録音を通じて行います。詳しい試験方法については試験前にMoodleで説明がある予定です。

フィードバックはMoodleを通じて行います。

「1年スペイン語」科目を履修中、あるいは履修した人は内容に重複する項目が多いので、履修は望ましくありません。

授業の進度や内容は履修者の人数や理解度に合わせて変更があることがあります。

外国語の習得にはさまざまな場面で使って実際にみることが非常に重要です。LA(Learning Assistant)との練習、スペイン語を使った活動への参加、Duolingoなど外国語学習アプリの使用など、授業外で一定のスペイン語を使う活動を行ったことが証明できる場合にはプラスアルファの評価をします。

科 目 名	スペイン語中級（文法・実践）1　A　スペイン語力をアップしましょう！							
担当者名	アスティゲタ　ベルナルド							
西語	２単位	春学期	水曜日	３時限	２年以上	—	合併科目	フル[オンライン] リアルタイム配信

授業概要

「1年スペイン語」「初級スペイン語2」を終えた学習者を対象に、1年次に学習した基本的な文法を復習しながら「聞く・読む・書く・話す」の4技能の運用力を高める演習をする。この授業では特に、スペイン語が使用されていない環境で学ぶ日本人学生などが不得意な傾向にある聴く力と語彙・表現力アップを重視する。

課題や試験範囲などの指定・説明は日本語で行うが、授業は平易なスペイン語を使って行い、スペイン語でスペイン語を理解する訓練を実施する。文法の説明は必要に応じて英語も利用する。

授業の到達目標

・ヨーロッパ言語共通参照枠A2レベルの短文を場面に適切な形でアウトプットできるようになる。
・A2～B1レベルの文法項目が入っている聞き取りを日本語の逐語訳に頼らないで理解できるようになる。
・日常生活で使える表現を文脈の中から自分で獲得していく学習態度を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　Moodleで行われる小テスト（40%）、予習復習（20%）授業参加・課題など（40%）
●**その他**　0%　　-

備考・関連URL

本授業は**全回リアルタイム配信型授業**として実施する。

中級（文法・実践）1Bとは同一科目になるので重複履修は出来ない。

授業では毎回Wadesa Moodleを使用する。スマートフォンではなくPCから参加すること。

Moodleで指定された範囲の授業準備及び復習は必ず行うこと。

フィードバックは授業中に行うか、あるいはMoodleを通じて行う。

授業計画の内容は授業の進度によって変更する場合がある。

授業時間外に行う演習として、会話の練習をスペイン語ネイティブのラーニングアシスタントと行うことをお勧めします。また、<wbr style="color: rgb(34, 34, 34); font-family: Arial, Helvetica, sans-serif; font-size: small;">ライティングの添削とフィードバックを依頼することもできます。<wbr style="color: rgb(34, 34, 34); font-family: Arial, Helvetica, sans-serif; font-size: small;">ラーニングアシスタントと練習した学生には、<wbr style="color: rgb(34, 34, 34); font-family: Arial, Helvetica, sans-serif; font-size: small;">最終評価でボーナスポイントが加算されます。

科 目 名	スペイン語中級（文法・実践）1　B　ミュニケーション重視のスペイン語							
担当者名	ペレス・ガリド　フェデリコ・フランシスコ							
西語	2単位	春学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業では基本的かつ実践的なスペイン語の会話、文法、単語を学び、コミュニケーション能力の向上に重点を置き ます。また、日常生活を送ることができる、就職などに役立つ実践的なスペイン語の習得を目指します。

授業の到達目標

スペイン語の文法を理解しボキャブラリーを増やす事により:
- スペイン語圏の人と話すことができるようになる。
- スペイン語圏の社会・文化・歴史に関するテーマが分かる。
- 専攻言語で書かれた文章を読み書きできる。

成績評価方法

- 40%試験　（理解度の確認テスト）
- 15%宿題（授業で勉強した単語と表現をできるだけ多く使ってください -カンニングかGoogleTranslate や翻訳アプリ等のツールの使用は禁止です-）
- 45% 授業の態度（毎回、授業態度の点数がつきます。点数には、やる気、積極性、ペアワークや演習への参加度、遅刻がないか、宿題をきちんと行なっているかなどが反映されます）出席はが点数がありません。

大学のページにて評価のこの部分の詳細を確認することができます。教授が授業の最初の日にMoodleにアップロードするPDFファイルで説明され、プレゼンテーションの日に公に説明されます。

備考・関連URL

課題には授業で学習した表現を使って実力で書くこと。ボキャブラリー、会話の練習、文法の復習のどれかの課題を出すので、必ず提出すること。機械翻訳などを使用し、丸写したとみられるものは評価対象外とする。

積極的な授業への参加姿勢、教科書と辞書の必携。（授業内容はクラスによって異なる）

科 目 名	スペイン語中級（社会文化事情を知る）1　読んで観て聴いて、ラテンアメリカ諸国について学ぼう							
担当者名	杉守　慶太							
西語	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業は「基礎スペイン語」「初級スペイン語」を終えた学習者を対象にしています。既習のスペイン語の基礎文法事項の定着をはかるとともに、それを応用した読解力・リスニング力を養うことを目的にしています。また、読解力・リスニング力が身につくだけではなく、スペイン語圏（特にラテンアメリカ諸国）の社会文化事情についての理解を深めることができます。授業では、スペイン、ラテンアメリカ諸国に関する映像教材（映画、ニュース番組、音楽など）を毎回使用する予定です。

スペイン語力に自信がない人でも十分についていける授業です。スペイン語圏の社会文化事情に少しでも興味がある人は大歓迎です。スペイン語の読解力、リスニング力を少しずつ養っていきましょう！

授業の到達目標

1. スペイン語の文章の内容を正しく理解し、読めるようにする。
2. スペイン語圏（特にラテンアメリカ諸国）の社会文化事情について知る。
3. スペイン語の多様性を知る。
4. スペイン語のリスニング力を高める.

成績評価方法

- **試験**　0%　　なし。
- **レポート**　0%　　なし。
- **平常点**　100%　　予習、提出物、授業態度などを総合的に評価する。
- **その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

第1回「イントロダクション」にて授業を受ける上での注意事項を詳しく説明しますので、必ず出席すること。

授業の進行は学生の習熟度によって変更することがあります。

フィードバックは授業中、あるいはMoodleを通じて行います。

科 目 名	スペイン語中級（文法・実践）2　A　スペイン語力をアップしましょう！							
担当者名	アスティゲタ　ベルナルド							
西語	2単位	秋学期	水曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】リアルタイム配信

授業概要

「スペイン語中級（文法・実践1A」を終えた学習者を対象に、春学期で学習した基本的な文法を復習しながら「聞く・読む・書く・話す」の4技能の運用力を高める演習をする。この授業では特に、スペイン語が使用されていない環境で学ぶ日本人学生などが不得意な傾向にある聴く力と語彙・表現力アップを重視する。

課題や試験範囲などの指定・説明は日本語で行うが、授業は平易なスペイン語を使って行い、スペイン語でスペイン語を理解する訓練を実施する。文法の説明は必要に応じて英語も利用する。

授業の到達目標

・ヨーロッパ言語共通参照枠A2レベルの短文を場面に適切な形でアウトプットできるようになる。
・B1～B2レベルの文法項目が入っている聞き取りを日本語の逐語訳に頼らないで理解できるようになる。
・日常生活で使える表現を文脈の中から自分で獲得していく学習態度を身につける。

成績評価方法

- **試験**　0%　　なし

●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　Moodleで行われる小テスト（40%）、予習復習（20%）、授業参加・課題など（40%）
●**その他**　0%　　なし

備考・関連ＵＲＬ

本授業は**全回リアルタイム配信型授業**として実施する。
中級（文法・実践）2Bとは同一科目になるので重複履修は出来ない。
授業では毎回Wadesa Moodleを使用する。スマートフォンではなくPCから参加すること。
指定された範囲の授業準備及び復習は必ず行うこと。
フィードバックは授業中に行うか、あるいはMoodleを通じて行う。
授業計画の内容は授業の進度によって変更する場合がある。
授業時間外に行う演習として、会話の練習をスペイン語ネイティブのラーニングアシスタントと行うことをお勧めします。また、<wbr style="color: rgb(34, 34, 34); font-family: Arial, Helvetica, sans-serif; font-size: small;">ライティングの添削とフィードバックを依頼することもできます。<wbr style="color: rgb(34, 34, 34); font-family: Arial, Helvetica, sans-serif; font-size: small;">ラーニングアシスタントと練習した学生には、<wbr style="color: rgb(34, 34, 34); font-family: Arial, Helvetica, sans-serif; font-size: small;">最終評価でボーナスポイントが加算されます。

科 目 名	スペイン語中級（文法・実践）２　Ｂ　ミュニケーション重視のスペイン語							
担当者名	ペレス・ガリド　フェデリコ・フランシスコ							
西語	２単位	秋学期	木曜日	３時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業では基本的かつ実践的なスペイン語の会話、文法、単語を学び、コミュニケーション能力の向上に重点を置き ます。また、日常生活を送ることができる、就職などに役立つ実践的なスペイン語の習得を目指します。

授業の到達目標

スペイン語の文法を理解しボキャブラリーを増やす事により:
・スペイン語圏の人と話すことができるようになる。
・スペイン語圏の社会・文化・歴史に関するテーマが分かる。
・専攻言語で書かれた文章を読み書きできる。

成績評価方法

・40%試験　（理解度の確認テスト）
・15%宿題（授業で勉強した単語と表現をできるだけ多く使ってください -カンニングかGoogleTranslate や翻訳アプリ等のツールの使用は禁止です-）
・45% 授業の態度（毎回、授業態度の点数がつきます。点数には、やる気、積極性、ペアワークや演習への参加度、遅刻がないか、宿題をきちんと行なっているかなどが反映されます）出席はが点数がありません。
大学のページにて評価のこの部分の詳細を確認することができます。教授が授業の最初の日にMoodleにアップロードするPDFファイルで説明され、プレゼンテーションの日に公に説明されます。

備考・関連ＵＲＬ

課題には授業で学習した表現を使って実力で書くこと。ボキャブラリー、会話の練習、文法の復習のどれかの課題を出すので、必ず提出すること。機械翻訳などを使用し、丸写したとみられるものは評価対象外とする。
積極的な授業への参加姿勢、教科書と辞書の必携。（授業内容はクラスによって異なる）

科 目 名	スペイン語中級（社会文化事情を知る）２　読んで観て聴いて、さらにラテンアメリカについて知ろう。							
担当者名	杉守　慶太							
西語	２単位	秋学期	月曜日	５時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業は「基礎スペイン語」、「中級スペイン語」を終えた学習者を対象にしています。既習の文法事項を確認しながら、読解力・リスニング力をさらに養うことを目的にしています。スペイン語の新聞・雑誌記事を読めるようになることを目指します。また、様々な内容を扱ったテキストの読解を通じて、「読む」力が身につくだけではなく、スペイン語圏（特にラテンアメリカ）の社会文化事情についての理解を深めることができます。授業では、スペイン、ラテンアメリカ諸国に関する映像教材（映画、ニュース番組、音楽など）を毎回使用する予定です。
スペイン語力に自信がない人でも十分についていける授業です。スペイン語圏の社会文化事情に少しでも興味がある人は大歓迎です。スペイン語の読解力、リスニング力を少しずつ養っていきましょう。

授業の到達目標

1. スペイン語で新聞・雑誌の記事、論文を読めるようになる。
2. スペイン語圏（特にラテンアメリカ諸国）の社会文化について知る。
3. スペイン語の多様性を知る。
4. スペイン語のリスニング力を高める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　100%　　予習、提出物、授業態度などを総合的に評価する。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連ＵＲＬ

第1回「イントロダクション」にて授業を受ける上での注意事項を詳しく説明しますので、必ず出席すること。
授業の進行は学生の習熟度によって変更することがあります。履修者の希望をできるだけ取り入れて進めていく予定です。
フィードバックは授業中、あるいはMoodleを通じて行います。

科 目 名	スペイン語中級（コミュニケーション力アップ） 1 Clase de interacción por medio de juegos de rol							
担当者名	アラストゥルエイ　メリノ　ハビエル　サンティアゴ							
西語	2単位	春学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

Esta es una clase de interacción total entre los estudiantes, con ayuda del profesor. El medio que utilizamos para crear la interacción es un juego de rol: la clase（profesor y estudiantes）colabora para contar juntos una historia en la que cada capítulo es una sesión（una clase）. El profesor ayuda a crear la narrativa, y los estudiantes controlan las acciones y palabras de los personajes principales en la historia.

（教員の助けを借りて、履修者自身がコミュニケーション活動を主体的に行うクラスです。ストーリー作りなどの共同作業を通じてスペイン語力を鍛えていきます。各回のテーマと学習語彙は効果的学習につながるように配列にしています。）

授業の到達目標

Ampliar el vocabulario para poder realizar una interacción oral de nivel B1. Aprender a contar historias en español.

目的：B1レベルの口頭でのやりとりができるように語彙を増やすこと、スペイン語で物語を語れるようになること。

成績評価方法

La nota de la clase se divide en dos partes: 50 % para la interacción individual de cada estudiante, y 50 % para el trabajo de grupo.

授業の成績は2つに分けられ、生徒個人の相互作用が50%、グループワークが50%となります。

備考・関連ＵＲＬ

Se dará feedback directamente en la clase, o mediante Moodle.

Se requerirá la participación activa de todos los estudiantes en cada sesión.フィードバックは、授業かMoodleで行います。

単位を取得するため、毎週積極的な参加が必要です。

科 目 名	スペイン語中級（コミュニケーション力アップ） 2 Clase de interacción por medio de juegos de rol							
担当者名	アラストゥルエイ　メリノ　ハビエル　サンティアゴ							
西語	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

Esta es una clase de interacción total entre los estudiantes, con ayuda del profesor. El medio que utilizamos para crear la interacción es un juego de rol: la clase（profesor y estudiantes）colabora para contar juntos una historia en la que cada capítulo es una sesión（una clase）. El profesor ayuda a crear la narrativa, y los estudiantes controlan las acciones y palabras de los personajes principales en la historia.Los contenidos del curso de otoño（la historia, los personajes, los grupos léxicos...）son diferentes de los de primavera.

（教員の助けを借りて、履修者自身がコミュニケーション活動を主体的に行うクラスです。ストーリー作りなどの共同作業を通じてスペイン語力を鍛えていきます。各回のテーマと学習語彙は効果的学習につながるように配列にしています。）

秋季コースの内容（ストーリー、登場人物、語彙群...）は春季コースとは異なります。

授業の到達目標

Ampliar el vocabulario para poder realizar una interacción oral de nivel B1. Aprender a contar historias en español.

目的：B1レベルの口頭でのやりとりができるように語彙を増やすこと、スペイン語で物語を語れるようになること。

成績評価方法

La nota de la clase se divide en dos partes: 50 % para la interacción individual de cada estudiante, y 50 % para el trabajo de grupo.

授業の成績は2つに分けられ、生徒個人の相互作用が50%、グループワークが50%となります。

備考・関連ＵＲＬ

Se dará feedback directamente en la clase, o mediante Moodle.

Se requerirá la participación activa de todos los estudiantes en cada sesión.フィードバックは、授業かMoodleで行います。

単位を取得するため、毎週積極的な参加が必要です。

科 目 名	スペイン語中上級（ニュースで学ぶ）1 スペイン語中級 （ニュースで学ぶ）							
担当者名	高山　パトリシア　ベレン							
西語	2単位	春学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】リアルタイム配信

授業概要

En cada lección se presentará un tema de actualidad por medio de artículos de prensa, vídeos o audios. Una vez comprendido el contenido y adquirido el vocabulario, se realizarán ejercicios de práctica oral.

毎回よく話題に上る今日的テーマについて紹介します。新聞記事を読んだり、映像を見たり、音声を聞いたりして内容への理解を深め、用語を身に付けた後、会話活動を行います。

本授業は全回リアルタイム配信型授業として実施します。

授業の到達目標

El objetivo principal es mejorar la comprensión lectora y la capacidad comunicativa.

Los estudiantes se familiarizarán con el vocabulario básico de temas de actualidad（economía, política, medioambiente, deporte, etc.）y adquirirán las destrezas necesarias para explicar en español diversos temas.

読解力やコミュニケーション力を高める。

経済、政治、環境、スポーツ等よく話題に上るテーマの用語に慣れ親しむ。
様々なテーマを紹介するための技能を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　　授業内ワーク（40%）、課題（30%）
●**その他**　30%　　プレゼンテーション

備考・関連URL

Es importante tener interés en las noticias y participar activamente durante la clase. Es posible que haya cambios en el orden de los temas según el desarrollo de la clase.
ニュースに対して興味を持ち、積極的に授業に参加する学生が望ましい。
状況に応じて、扱うテーマの内容を調整していきます。
フィードバックは授業中、あるいはMoodleを通じて行います。

科目名	スペイン語中上級（ニュースで学ぶ）2　スペイン語中級　（ニュースで学ぶ）							
担当者名	高山　バトリシア　ベレン							
西語	2単位	秋学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】リアルタイム配信

授業概要

En cada lección se presentará un tema de actualidad por medio de artículos de prensa, vídeos o audios. Una vez comprendido el contenido y adquirido el vocabulario, se realizarán ejercicios de práctica oral.
毎回よく話題に上る今日的テーマについて紹介します。新聞記事を読んだり、映像を見たり、音声を聞いたりして内容への理解を深め、用語を身に付けた後、会話活動を行います。
本授業は全回リアルタイム配信型授業として実施します。

授業の到達目標

El objetivo principal es mejorar la comprensión lectora y la capacidad comunicativa.
Los estudiantes se familiarizarán con el vocabulario básico de temas de actualidad（economía, política, medioambiente, deporte, etc.）y adquirirán las destrezas necesarias para explicar en español diversos temas.
読解力やコミュニケーション力を高める。
経済、政治、環境、スポーツ等よく話題に上るテーマの用語に慣れ親しむ。
様々なテーマを紹介するための技能を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　　授業内ワーク（40%）、課題（30%）
●**その他**　30%　　プレゼンテーション

備考・関連URL

Es importante tener interés en las noticias y participar activamente durante la clase. Es posible que haya cambios en el orden de los temas según el desarrollo de la clase.
ニュースに対して興味を持ち、積極的に授業に参加する学生が望ましい。
状況に応じて、扱うテーマの内容を調整していきます。
フィードバックは授業中、あるいはMoodleを通じて行います。

科目名	スペイン語中級（文化を知る）1　ひとりでは響かない――スペイン語の木霊							
担当者名	豊田　唯							
西語	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

漫画『ぼっち・ざ・ろっく！』第1巻（西訳版）の冒頭数ページを読みながら基礎文法・構文を実践的なかたちで捉え、標準的な和文西訳で演習します。原書とも比較してみましょう。

授業の到達目標

1. スペイン語の基礎文法・構文を実践的なかたちで捉え、平易な日本語をスペイン語に訳せるようになる
2. 日本語特有の語彙や言い回しを外国語で表現する際の工夫、さらにはその背景にある文化的な差異を考察できるようになる

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　毎回、はじめに小テストをおこないます。なお、受講者として不適切な言動（私語、無断退出など）をとった場合、即座に不合格とします
●**その他**　0%

備考・関連URL

1. 授業は原則として対面で進めますが、教育効果に鑑みて一部はオンラインでおこないます
2. フィードバックは授業中あるいは Moodle 上でおこないます

科 目 名	スペイン語中級（文化を知る）２　スペイン語と美術――ベラスケスからゴヤまで							
担当者名	豊田　唯							
西語	２単位	秋学期	金曜日	４時限	２年以上	―	合併科目	フル【対面】

授業概要

国立プラド美術館（マドリード）が所蔵するスペイン絵画についての作品解説を読みながら基礎文法・構文を実践的なかたちで捉えなおし、読解力の向上を図ります。西洋絵画の一般的な見方も提示します。

授業の到達目標

1. スペイン語の基礎文法・構文を実践的なかたちで捉えなおし、読解力を養成する
2. 西洋絵画の一般的な見方を理解する

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　毎回、はじめに小テストをおこないます。なお、受講者として不適切な言動（私語、無断退出など）をとった場合、即座に不合格とします
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

1. 授業は原則として対面で進めますが、教育効果に鑑みて一部はオンラインでおこないます
2. フィードバックは授業中あるいは Moodle 上でおこないます

科 目 名	スペイン語中上級（検定試験をめざす）１							
担当者名	マルティネス　アストゥディリヨ　ヘスス　ミゲル							
西語	２単位	春学期	火曜日	５時限	２年以上	―	合併科目	フル【オンライン】リアルタイム配信

授業概要

1年スペイン語または初級スペイン語で培ったスペイン語力を基礎に、読む、聴く、書く、話す技能にもつながる学習を行い、主にDELE（Diploma de Español como Lengua Extranjera）のA2レベルのスペイン語力の取得を目指す。できるだけ多くの文章や音声に触れ、文脈から意味を理解し、会話や作文に応用できる自然な表現を選択的に習得していく訓練を行う。

DELE を意識した教材を使用し、DELEあるいはSIELE（Servicio internacional de evaluación de la lengua española）取得を目指す学生の試験対策にもなる

授業の到達目標

1. DELEのA2レベルのスペイン語ではどの程度の知識や技能が要求されるのかを把握する。
2. A2レベルのスペイン語を習得するには自分がどのような学習をどの程度行う必要があるのかを理解する。
3. DELEのA2レベルの問題でよく取り上げられるテーマに関連する基本語彙を習得し、運用できるようになる。
4. 演習を通じで1年スペイン語または初級スペイン語で培ったA2レベルの既習の文法事項をA2レベルの聞き取りや読み・作文に応用できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　50%　　確認チェックテスト
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　課題・提出物など
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

各回の授業で確認チェックがある。フィードバックは授業中に行うか。メールでの質問も随時受け付ける。
DELEの受験を予定していない人でも受講可能である。
本授業は全回リアルタイム配信型授業として実施する。
授業計画の内容は授業の進度によって変更する場合がある。

科 目 名	スペイン語中上級（検定試験をめざす）２							
担当者名	マルティネス　アストゥディリヨ　ヘスス　ミゲル							
西語	２単位	秋学期	火曜日	５時限	２年以上	―	合併科目	フル【オンライン】リアルタイム配信

授業概要

1年スペイン語または初級スペイン語で培ったスペイン語力を基礎に、読む、書く、話す技能にもつながる学習を行い、主にDELE（Diploma de Español como Lengua Extranjera）のA2～B1レベルのスペイン語力の取得を目指す。できるだけ多くの文章や音声に触れ、文脈から意味を理解し、会話や作文に応用できる自然な表現を選択的に習得していく訓練を行う。

DELE を意識した教材を使用し、DELEあるいはSIELE（Servicio internacional de evaluación de la lengua española）取得を目指す学生の試験対策にもなる。

授業の到達目標

1. DELEのA2-B1レベルのスペイン語ではどの程度の知識や技能が要求されるのかを把握する。
2. A2-B1レベルのスペイン語を習得するには自分がどのような学習をどの程度行う必要があるのかを理解する。
3. DELEのA2-B1レベルの問題でよく取り上げられるテーマに関連する基本語彙を習得し、運用できるようになる。
4. 演習を通じで基礎または初級スペイン語で培ったA2～B1レベルの既習の文法事項をA2-B1レベルの聞き取りや読み・作文に応用できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　50%　　確認チェックテスト
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　課題・提出物など

●**その他**　0%

備考・関連URL

各回の授業で確認チェックがある。フィードバックは授業中に行うか。メールでの質問も随時受け付ける。
DELEの受験を予定していない人でも受講可能である。
本授業は全回リアルタイム配信型授業として実施する。
授業計画の内容は授業の進度によって変更する場合がある。

科 目 名	Intermediate Spanish (Integrated Skills) 1							
担当者名	メンデス　ヴァスケス　マルセラ　イネス							
西語	2単位	春学期	木曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course is designed to help intermediate level students acquire communicative skills at the A2-B1 level of the CEFR (Common European Framework of Reference for Languages). While learning Spanish, the student's English language skills will be activated, prompting the student to use the acquired knowledge.

The course consolidates the grammar and the resources required to make the passage from Waystage (A2) to Threshold (B1). Cultural issues will also be covered, such as social networks and students' lifestyles in Spanish-speaking countries.

Grammar, vocabulary, and expressions will be taught through conversation, pair and group work, games, and tasks based on specific themes. For all this, an active steady participation in each session will ensure that students accomplish the learning outcomes upon completion of each thematic unit.

授業の到達目標

The goal of this course is threefold. Firstly, to enable students to communicate in Spanish more effectively and smartly than at the basic level. Secondly, to understand and apply grammar at the A2-B1 level to the production of oral and written texts (e.g. describing personalities and characteristics, writing a chronicle, compiling information, etc.). Finally, to acquire vocabulary and expressions at the A2-B1 level.

In conclusion, the course also aims to furnish students with learning methods and attitudes that will enable them to continue learning Spanish in the future as autonomous learners: as we work in a flipped classroom environment, the students will increase their autonomy, using the class to interact with their classmates while developing their skills as independent learners of a foreign language.

成績評価方法

●**試験**　40%　In-class final examination.
●**レポート**　0%　Not given.
●**平常点**　30%　Evaluated comprehensively on achievement of class participation and in-class performance (active attitude toward expressing one's own opinions, interests, and questions).
●**その他**　30%　Quizzes, tasks in each section of the textbook, essays, presentations, and other assignments given by the teacher. Composition assignments must be written on your own ability using the expressions learned in class.

Assignments that appear to have been copied using machine translation, AI, etc., will not be evaluated.
Students are expected to achieve at least 40% on each evaluation criterion.

備考・関連URL

Feedback will be given in class or via Moodle.

Students are expected to prepare well for each class, including vocabulary and materials, in order to ensure effective collaborative learning time in pairs and groups in the classroom.

A Learning Assistant of Spanish is available to support the students' endeavors (more information to be given in class).

科 目 名	Intermediate Spanish (Integrated Skills) 2							
担当者名	メンデス　ヴァスケス　マルセラ　イネス							
西語	2単位	秋学期	木曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course is designed to help intermediate level students acquire communicative skills at the A2-B1 level of the CEFR (Common European Framework of Reference for Languages). While learning Spanish, the student's English language skills will be activated, prompting the student to use the acquired knowledge.

The course consolidates the grammar and the resources required to make the passage from Waystage (A2) to Threshold (B1). Cultural issues will also be covered, such as cultural itineraries and body language in Spanish-speaking countries.

Grammar, vocabulary, and expressions will be taught through conversation, pair and group work, games, and tasks based on specific themes. For all this, an active steady participation in each session will ensure that students accomplish the learning outcomes upon completion of each thematic unit.

授業の到達目標

The goal of this course is threefold. Firstly, to enable students to communicate in Spanish more effectively and smartly than at the basic level. Secondly, to understand and apply grammar at the A2-B1 level to the production of oral and written texts (e.g. describing personalities and characteristics, writing a chronicle, compiling information, etc.). Finally, to acquire vocabulary and expressions at the A2-B1 level.

In conclusion, the course also aims to furnish students with learning methods and attitudes that will enable

them to continue learning Spanish in the future as autonomous learners: as we work in a flipped classroom environment, the students will increase their autonomy, using the class to interact with their classmates while developing their skills as independent learners of a foreign language.

成績評価方法

●**試験** 40% In-class final examination.
●**レポート** 0% Not given.
●**平常点** 30% Evaluated comprehensively on achievement of class participation and in-class performance (active attitude toward expressing one's own opinions, interests, and questions).
●**その他** 30% Quizzes, tasks in each section of the textbook, essays, presentations, and other assignments given by the teacher. Composition assignments must be written on your own ability using the expressions learned in class.

Assignments that appear to have been copied using machine translation, AI, etc., will not be evaluated.
Students are expected to achieve at least 40% on each evaluation criterion.

備考・関連URL

Feedback will be given in class or via Moodle.
Students are expected to prepare well for each class, including vocabulary and materials, in order to ensure effective collaborative learning time in pairs and groups in the classroom.
A Learning Assistant of Spanish is available to support the students' endeavors (more information to be given in class).

科 目 名	Advanced Spanish: Language in context 1							
担当者名	メンデス　ヴァスケス　マルセラ　イネス							
西語	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

Based on the basic knowledge acquired in the intermediate class, the course aims to acquire comprehensive communicative competence at the B1 level of the CEFR (Common European Framework of Reference for Languages).
The student's English language skills will be at play while learning Spanish, prompting the student to activate the acquired knowledge. Grammar, vocabulary, and expressions will be taught through conversation, pair and group work, and tasks based on specific themes. Active participation in class is therefore required.
The course will cover the past tenses, future tense, and the conditional. Cultural issues will also be covered, such as work and discussion styles in Spanish-speaking countries. The grammar and vocabulary relevant for B1 level communication will also be studied in sequence. For all this, a steady participation in each session will ensure that students acquire the vocabulary and expressions, while connecting already aprehended and new knowledge.

授業の到達目標

The goal of this course is to enable students to communicate more effectively and intelligently in Spanish at the CEFR B1 level. The specific goal is for students to be able to understand what others say, respond appropriately, and express their plans, opinions, and feelings.
Finally, the course also aims to equip students with learning methods and attitudes that will enable them to continue learning Spanish in the future as autonomous learners and cross-cultural bridge-building speakers.

成績評価方法

●**試験** 40% In-class final examination.
●**レポート** 0% Not given.
●**平常点** 30% Evaluated comprehensively on achievement of class participation and in-class performance (active attitude toward expressing one's own opinions, interests, and questions).
●**その他** 30% Quizzes, tasks in each section of the textbook, essays, presentations, and other assignments given by the teacher. Composition assignments must be written on your own ability using the expressions learned in class.

Assignments that appear to have been copied using machine translation, AI, etc., will not be evaluated.
Students are expected to achieve at least 40% on each evaluation criterion.

備考・関連URL

Feedback will be given in class or via Moodle.
Students are expected to prepare well for each class, including vocabulary and materials, in order to ensure effective collaborative learning time in pairs and groups in the classroom.
A Learning Assistant of Spanish is available to support the students' endeavors (more information to be given in class).

科 目 名	Advanced Spanish: Language in context 2							
担当者名	メンデス　ヴァスケス　マルセラ　イネス							
西語	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

Building on the knowledge acquired in the intermediate class, students will further develop their overall communicative competence at the B1 level of the CEFR (Common European Framework of Reference for Languages).

The student's English language skills will be at play while learning Spanish, prompting the student to activate the acquired knowledge. Grammar, vocabulary, and expressions will be taught through conversation, pair and group work, and tasks based on specific themes. Active participation in class is therefore required.

The course will cover the past tenses, future tense, and the introduction of the subjunctive. Cultural issues will also be covered, such as work and discussion styles in Spanish-speaking countries. The grammar and vocabulary relevant for B1 level communication will also be studied in sequence. For all this, a steady participation in each session will ensure that students acquire the vocabulary and expressions, while connecting already aprehended and new knowledge.

授業の到達目標

The goal of this course is to enable students to communicate more effectively and intelligently in Spanish at the CEFR B1 level. The specific goal is for students to be able to understand what others say, respond appropriately, and express their plans, opinions, and feelings.

Finally, the course also aims to equip students with learning methods and attitudes that will enable them to continue learning Spanish in the future as autonomous learners and cross-cultural bridge-building speakers.

成績評価方法

●**試験** 40% In-class final examination.
●**レポート** 0% Not given.
●**平常点** 30% Evaluated comprehensively on achievement of class participation and in-class performance (active attitude toward expressing one's own opinions, interests, and questions).
●**その他** 30% Quizzes, tasks in each section of the textbook, essays, presentations, and other assignments given by the teacher. Composition assignments must be written on your own ability using the expressions learned in class.

Assignments that appear to have been copied using machine translation, AI, etc., will not be evaluated.

Students are expected to achieve at least 40% on each evaluation criterion.

備考・関連URL

Feedback will be given in class or via Moodle.

Students are expected to prepare well for each class, including vocabulary and materials, in order to ensure effective collaborative learning time in pairs and groups in the classroom.

A Learning Assistant of Spanish is available to support the students' endeavors (more information to be given in class).

科目名	歴史で学ぶイタリア語 イタリア史への招待							
担当者名	三森 のぞみ							
伊語	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

都市や地域によって歴史の歩みが大きく異なるイタリア。1861年のイタリア王国成立まで、現在のイタリア共和国に相当するような統一国家はこの地に存在しませんでした。イタリアの文化や社会をより深く知るためには、こうしたイタリア史への理解が欠かせません。そのための一歩として、いくつか種類の異なるテキストを丁寧に読みながら、古代ローマ世界の伝統、中世都市社会の発展、ルネサンスの開花、そしてイタリアという「国家」がつくられる過程を学んでいきます。授業では、これまでのイタリア語の知識の応用、新たな文法事項（未来、遠過去、受動態、ジェルンディオなど）や語彙の習得に加え、イタリア語の文章に慣れ、読み方のコツを身につけていく訓練を行います。「読む」力を鍛えることで、「聞く」「話す」「書く」力も高めることができるでしょう。また、視覚資料なども用いつつ、できるだけ具体的に歴史を捉える作業をし、学期末にはイタリア史に関連する映画作品を観賞して、その時代背景を考えてみます。

授業の到達目標

「1年イタリア語」既習者あるいはそれと同等の語学力を持つ学生が、リーディングの効果的なトレーニングを行うことで総合的な語学能力を向上させること、また、「イタリア語を学ぶ」という単純な語学学習にとどまることなく、「イタリア語で学ぶ」ために必要なスキルを身につけ、イタリアの歴史や思想、文化、社会に対する理解を深めることを目的とします。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 30% 指定されたイタリア語テキストの和訳を学期末に提出して下さい（提出のない場合、単位を修得することはできません）。
●**平常点** 70% 通常の授業への参加度（出席、授業態度、予習など）によって評価します。
●**その他** 0%

備考・関連URL

イタリアの歴史、思想、文化、社会に関心を持ち、イタリア語を通してその理解を深めたいと思う人であれば、誰でも歓迎します。異なる分野を学ぶ人たちが集まり、楽しく活気にあふれた授業の場ができることを期待しています。

科目名	資格を目指すイタリア語 レベルA1～B2（初級～中級）ー 学ぶ、働く、遊ぶ。様々な局面での実践的イタリア語							
担当者名	マッジャ フェデリカ							
伊語	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

このクラスでは、入門レベルから中級レベルまで自分に合った水準の資格試験の練習を行います（14回の授業を通じて1つの水準の試験練習であり、全ての水準をこなすのではありません）。イタリア語検定試験CILS（シエナ外国人大学）または実用イタリア語検定（イタリア語検定協会）の受験準備が行われます。イタリア政府認定のイタリア語検定試験CILSは、外国語としてのイタリア語のコミュニケーション能力を証明する試験で、実用イタリア語検定は日本における代表的なイタリア語検定試

験です。この授業中に練習問題「レベルA1-A2」（初級）と「レベルB1-B2」（中級）の解答をし、必要に応じて試験項目を検証します。言語およびコミュニケーション能力に関するすべての試験内容についてレッスンを行います。検定試験を受けない方も受講可です。授業の始めにオリエンテーションを実施し、各人のレベルに合わせたワークショップに分類して授業を進めて行く（例：レベルA1、レベルA2等）ので、無理せずに自分の習熟度合いに合わせた学習が可能です。

＊この科目は主として実践的な教育が行われる科目です。

＊C1以上の資格試験を目指す学生さんも受講可能です。

【実務経験のある教員による実践的な授業科目】

※この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして実践的な教育を行う科目です。

授業の到達目標

イタリア語検定試験CILSと実用イタリア語検定試験は、イタリア語のコミュニケーションの能力を客観的に測る試験です。この授業では、CILS・実用イタリア語検定「レベルA1-A2-B1-B2」(*) の受験準備を目指し、語彙力の増強、文法事項の把握、聴き取り及び読解の能力の向上を図ります。必要があれば、基本的な文法や語法を復習するためのプリントを課題として配布します。

＊　この「A1-A2」及び「B1-B2」（初級/中級）レベルはEU（欧州連合）においての語学教育レベル基準と同等であり、詳しくは『ヨーロッパ言語共通参照枠』で参照できます。『ヨーロッパ言語共通参照枠』（CEFR）とはEU評議会が作成した、言語能力を測る共通の基準や枠組みです。

実用イタリア語検定は5級から1級までイタリア語検定協会の定めた基準で分類されており、5級から2級程度がCEFRの「A1-B2」に該当します。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　0%

●**平常点**　100%　　出欠席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。

●**その他**　0%

備考・関連URL

☆ 学習に役立つお奨めサイト：イタリア文化会館東京、イタリア語検定試験。 https://iictokyo.jp/italian-proficiency-test/

☆ イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味がある方は、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

科 目 名	イタリア文化を知る1（美術） ルネサンス、バロックの美術を中心に							
担当者名	高津　美和							
伊語	2単位	春学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

ルネサンス、バロック期のイタリアでは、現代の私たちをもなお魅了する、数々の華やかな美術作品が制作されました。授業では、イタリア語資料の講読を通じて、この時期を代表する美術家たちの生涯や作品について学びます。作品が制作された背景として、美術家とパトロンの関係や美術家の地位、作品の機能など、当時の社会と美術のあり方についても考えてみたいと思います。これまでに学んだイタリア語の語学力をもとに、受動態や遠過去などの新たな文法の知識や表現を習得して、イタリア語の文章を読み解く力をつけていきましょう。

授業の到達目標

この授業の到達目標は以下の三つです。

1．新しい単語、熟語表現の習得

2．既存の文法知識の応用、読解力の向上

3．ルネサンス、バロック期のイタリア美術に関する知識の習得

成績評価方法

レポート（40%）イタリア語の文章を日本語に翻訳する課題に取り組んでもらいます。

平常点評価（60%）出席や予習など授業への参加意欲によって評価します。

備考・関連URL

受講者数や進度に応じて授業内容を変更する場合があります。

科 目 名	イタリア文化を知る2（芸術・文化） 海の都の物語からルネサンス、イタリア語で旅してみよう							
担当者名	F. ウジッコ							
伊語	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

イタリア語を学ぶということは、ローマ帝国から続く西欧文化の根源でもあるイタリアの芸術、文化を学習の題材に使うという贅沢を堪能できます。言葉の学習の過程で息を呑むような思いをされることでしょう。

この講義では、魅惑的な作品とその背景説明を通し、イタリアの芸術と文化を探求し、その千年の歴史に夢中になることができます。

何故、どうやってラグーナ（潟）の中にヴェネツィアの町が誕生したのかから始まり、ローマやポンペイの遺跡、ヴィチェンツァの壮大な古代ローマ時代の建築物など、イタリアに溢れかえる芸術と文化を学んでいきます。歴史的名所や多くのユネスコ世界遺産は勿論、それに関わった貢献してきた多くの画家、彫刻家、建築家についても題材としていきます（ダ・ヴィンチ等）。

外国語の習得は多くの場合、好きな文化、自分の感性に訴えかける文化に近づきたいという気持ちがあることでしょう。言葉を学ぶのはコミュニケーションをとる手段を得るためですが、同時に知らなかった文化に触れ、学んでいく過程でもあります。

ビデオ教材・マルチメディア教材と講師配布資料の内容を中心に、学生が楽しく参加できる形で授業を行います。イタリア語の間違いを恐れず積極的に参加して下さい。

全14回で構成される授業は授業計画に沿って進めていきますが、進行状況と新たな題材の発掘等により一部修正する場合も

想定されます。

授業の到達目標

この講義では「A2」（初級）及び「B1」（準中級）レベルの教材を使用し、学習したイタリア語の基礎的な内容を土台にして常用表現と語彙を増やしながら、文法知識の活用をはかります。この授業の目標は以下の三点です。

1. 既習の文法事項の反復練習
2. 語彙の増強
3. イタリア語をとりまく文化的背景への理解

成績評価方法

●**試験** 20%　学習成果や理解度の確認のため、試験を実施します。詳細は授業内で説明します。
●**レポート** 0%
●**平常点** 80%　出欠席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。
●**その他** 0%

備考・関連URL

学習に役立つお奨めサイト：
イタリア文化会館 東京　https://iictokyo.esteri.it/iic_tokyo/ja/
イタリア文化会館は美術、音楽、映画、演劇、ダンス、ファッション、デザイン、写真等の多様な分野で文化催事を多数企画・開催しています（年間150以上のイベント）。また、日本の様々な大学や教育機関などとの長年にわたる協力関係のもとで、学術的な催事・講演会を共催し、日本の諸機関や企業などが主催するイタリア関連イベントの積極的な後援も行っています。

科 目 名	イタリア語準中級1（文法・実践） イタリア語の泉に飛び込んでみましょう。							
担当者名	F. ウジッコ							
伊語	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

「1年イタリア語」を受講された（及び初級レベルの）学生を対象とした準中級レベルのイタリア語講座です。週2コマ履修【春期・イタリア語準中級1（文法・実践）＋イタリア語準中級2（会話）】が可能です。

「読む」と「書く」ことを重視しますが、イタリア人講師により「聞く」と「話す」の能力養成も同時に狙います。文法等、授業中の説明、質問への回答は日本語で行いますので、まだイタリア語力に自信がなくても問題ありません。「質」を重視し、ビデオ教材・マルチメディア教材と講師配布資料の内容を中心に、学生が楽しく参加できる形で授業を行います。イタリア語の間違いを恐れず積極的に参加してみましょう。

実用的なコミュニケーションに必要な文法と表現を、段階を追いながら学びます。日常的な場面を想定した会話のトレーニングが主ですが、読解力とリスニングの能力の練習もします。また、ペアワーク、グループワークやスキット作りなど、学生が参加して作り上げる練習を行います。学習を通じてイタリアの社会的や文化的な知識も深まることでしょう。過去に基礎イタリア語の授業を履修し、その後イタリア語学習を中断していた方の本授業での勉強再開も歓迎します。

授業の到達目標

この講義では「A2」（初級）及び「B1」（準中級）レベルの教材を使用し、イタリア人講師のもとで特に文法、会話力、リスニング力と読解力等のステップアップを図ります。初級クラスで学習した文法事項・語彙と表現を復習しながら、より高度な語学力を養成します。

成績評価方法

●**試験** 20%　学習成果や理解度の確認のため、試験を実施します。詳細は授業内で説明します。
●**レポート** 0%
●**平常点** 80%　出欠席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。
●**その他** 0%

備考・関連URL

学習に役立つお奨めサイト：
イタリア文化会館 東京　https://iictokyo.esteri.it/iic_tokyo/ja/
イタリア文化会館は美術、音楽、映画、演劇、ダンス、ファッション、デザイン、写真等の多様な分野で文化催事を多数企画・開催しています（年間150以上のイベント）。また、日本の様々な大学や教育機関などとの長年にわたる協力関係のもとで、学術的な催事・講演会を共催し、日本の諸機関や企業などが主催するイタリア関連イベントの積極的な後援も行っています。

科 目 名	イタリア語準中級2（会話） 基本表現を使って、イタリア人に話してみましょう							
担当者名	マッジャ　フェデリカ							
伊語	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

「1年イタリア語」を受講された（及び初級レベルの）学生を対象とした準中級レベルのイタリア語講座です。週2コマ履修【春期・イタリア語準中級1（文法・実践）＋イタリア語準中級2（会話）】が可能です。

「イタリア語準中級」クラスは、特に現代イタリアの文化と日常生活に触れながらイタリア語能力の総合的な上達を希望する人、留学を考えている学生、そしてイタリア語の資格の取得を目指している人を対象とします。授業では、ペアでのロールプレイ、グループワークやマルチメディア教材などを通じてイタリア人講師のもとで、特に会話力とリスニング力のステップアップを図ります。また、イタリアの文化や思考様式について文化比較を通じて学びます。

授業の到達目標

この講義では「A2」（初級）および「B1」レベル（準中級）の教材を使用し、初級クラスで学習した文法事項や語彙、表現を復習しながら、より高度な語学力を養成します。

成績評価方法

●**試験** 20%　学習成果や理解度の確認のために、試験を実施します。
●**レポート** 0%

●**平常点**　80%　　出席、授業への参加意欲など総合的に評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

☆ 学習に役立つお奨めサイト：イタリア文化会館東京　https://iictokyo.esteri.it/iic_tokyo/ja/
イタリア文化会館は美術、音楽、映画、演劇、ダンス、ファッション、デザイン、写真等の多様な分野で文化催事を多数企画・開催しています。また、日本の様々な大学や教育機関などとの長年にわたる協力関係のもとで、学術的な催事・講演会を共催し、日本の諸機関や企業などが主催するイタリア関連イベントの積極的な後援も行っています
☆ イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味がある方は、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

科 目 名	イタリア語中級1（文法・実践）　イタリア語の泉に飛び込んでみましょう。							
担当者名	F. ウジッコ							
伊語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

「イタリア語準中級1・2」を受講された（及び同等レベルの）学生を対象とした中級レベルのイタリア語講座です。週2コマ履修【秋期・イタリア語中級1（文法・実戦）＋イタリア語中級2（会話）】が可能な授業です。
「読む」と「書く」ことを重視しますが、イタリア人講師により「聞く」と「話す」の能力養成も同時に狙います。文法等、授業中の説明、質問への回答は日本語で行いますので、まだイタリア語力に自信がなくても問題ありません。「質」を重視し、ビデオ教材・マルチメディア教材と講師配布資料の内容を中心に、学生が楽しく参加できる形で授業を行います。イタリア語の間違いを恐れず積極的に参加してみましょう。
実用的なコミュニケーションに必要な文法と表現を、段階を追いながら学びます。日常的な場面を想定した会話のトレーニングが主ですが、読解力とリスニングの能力の練習もします。また、ペアワーク、グループワークやスキット作りなど、学生が参加して作り上げる練習を行います。学習を通じてイタリアの社会的や文化的な知識も深まることでしょう。過去に基礎イタリア語の授業を履修し、その後イタリア語学習を中断していた方の本授業での勉強再開も歓迎します。

授業の到達目標

この講義では「B1」（準中級・中級）レベルの教材を使用し、イタリア人講師のもとで特に文法、会話力、リスニング力と読解力等のステップアップを図ります。

成績評価方法

●**試験**　20%　　学習成果や理解度の確認のため、試験を実施します。詳細は授業内で説明します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　80%　　出欠席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

学習に役立つお奨めサイト：
イタリア文化会館 東京　https://iictokyo.esteri.it/iic_tokyo/ja/
イタリア文化会館は美術、音楽、映画、演劇、ダンス、ファッション、デザイン、写真等の多様な分野で文化催事を多数企画・開催しています（年間150以上のイベント）。また、日本の様々な大学や教育機関などとの長年にわたる協力関係のもとで、学術的な催事・講演会を共催し、日本の諸機関や企業などが主催するイタリア関連イベントの積極的な後援も行っています。

科 目 名	イタリア語中級2（会話）　基本表現を使って、イタリア人に話してみましょう							
担当者名	マッジャ　フェデリカ							
伊語	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

「イタリア語準中級1・2」を受講された（及び同等レベルの）学生を対象とした中級レベルのイタリア語講座です。週2コマ履修【秋期・イタリア語中級1（文法・実戦）＋イタリア語中級2（会話）】が可能な授業です。「イタリア語中級」クラスは、特に現代イタリアの文化と日常生活に触れながらイタリア語能力の総合的な上達を希望する人、留学を考えている学生、そしてイタリア語の資格の取得を目指している人を対象とします。授業では、ペアでのロールプレイ、グループワークやマルチメディア教材などを通じてイタリア人講師のもとで、特に会話力とリスニング力のステップアップを図ります。また、イタリアの文化や思考様式について文化比較を通じて学びます。

授業の到達目標

「B1」レベル（準中級・中級）の教材を使用し、準中級クラスで学習した文法事項や語彙、表現を復習しながら、段階的に中級レベルに移行します。

成績評価方法

●**試験**　20%　　学習成果や理解度の確認のために、試験を実施します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　80%　　出席、授業への参加意欲など総合的に評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

☆ 学習に役立つお奨めサイト：イタリア文化会館東京　https://iictokyo.esteri.it/iic_tokyo/ja/
イタリア文化会館は美術、音楽、映画、演劇、ダンス、ファッション、デザイン、写真等の多様な分野で文化催事を多数企画・開催しています。また、日本の様々な大学や教育機関などとの長年にわたる協力関係のもとで、学術的な催事・講演会を共催し、日本の諸機関や企業などが主催するイタリア関連イベントの積極的な後援も行っています
☆ イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味がある方は、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

科 目 名	イタリア語中上級　イタリア語を自分の言葉として使えるようになりましょう							
担当者名	マッジャ　フェデリカ							
伊語	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

「イタリア語中級3・4」を受講された（及び同等レベルの）学生を対象とした中上級レベルのイタリア語講座です。

「読む」と「書く」ことを重視しますが、イタリア人講師により「聞く」と「話す」の能力養成も同時に狙います。文法等、授業中の説明、質問への回答は日本語で行いますので、まだイタリア語力に自信がなくても問題ありません。

「質」を重視し、ビデオ教材・マルチメディア教材と配布資料の内容を中心に、学生が楽しく参加できる形で授業を行います。イタリア語の間違いを恐れず積極的に参加してみましょう。

実用的なコミュニケーションに必要な文法と表現を、段階を追いながら学びます。日常的な場面を想定した会話のトレーニングが主ですが、読解とリスニングの練習もします。学習を通じてイタリアの社会的・文化的な知識も深まることでしょう。

授業の到達目標

この講義では「B1」および「B2」レベルの教材を使用します。ペアでのロールプレイやグループワークなどを通じて、イタリア人講師のもとで特に会話力、リスニング力、読解力などのステップアップを図ります。中級クラスで学習した文法事項・語彙と表現を復習しながら、より高度な語学力を養成し、楽しく、自分のイタリア語に少しずつ自信を持てるようになりましょう。

成績評価方法

●**試験**　20%　　学習成果や理解度の確認のため、試験を実施します。詳細は授業内で説明します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　80%　　出欠席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

☆ 学習に役立つお奨めサイト：イタリア文化会館東京　https://iictokyo.esteri.it/iic_tokyo/ja/

イタリア文化会館は美術、音楽、映画、演劇、ダンス、ファッション、デザイン、写真等の多様な分野で文化催事を多数企画・開催しています。また、日本の様々な大学や教育機関などとの長年にわたる協力関係のもとで、学術的な催事・講演会を共催し、日本の諸機関や企業などが主催するイタリア関連イベントの積極的な後援も行っています

☆ イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味がある方は、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

科 目 名	イタリア文化を知る3（都市を巡る）　イタリアの町のバーチャルツアー							
担当者名	L. トゥッチ							
伊語	2単位	春学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

イタリア都市の魅力は、その古く豊かで複雑な歴史にあります。古代イタリア民族、エトルリア人、フェニキア人、ギリシャ人、古代ローマ人など、様々な民族、言語、文化がイタリア文化の形成に貢献したのです。

その豊かさは多様性にあります。ミルフィーユのように、イタリアの都市にはその層が多く残されており、このバーチャルツアーで楽しむことができるのです。読み物、スライド、画像などで、歴史、芸術、食文化などのあまり知られていない側面を発見していきましょう。同時に、イタリア語の知識も深めていきます。

主要な活動は、ペアや小グループでの作業を中心に進められます。これらの活動では、イタリア語のリスニング、文章読解、読んだ内容を簡単なイタリア語で表現する練習、またイタリア語のウェブサイトを使って役立つ情報を検索することに焦点を当てます。語彙を増やし、これまで学習した文法を復習するだけでなく、中級レベルに適した新しい文法事項も簡単に紹介します。具体的には、代名詞の復習、未来形概要、受動態、関係代名詞、命令形、使役構文について取り扱います。

授業の到達目標

1. イタリア語の上達。
2. イタリアの歴史や文化に関する知識の習得。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　　授業への参加意欲（出席、積極的な参加）によって評価します。
●**その他**　30%　　最後の授業で学生はグループで都市のプレゼンをします。

備考・関連URL

毎回ペア又はグループで読解や会話練習をする機会があります。楽しみながら学ぶことが大切なので、文法はあまり気にせず、楽しいコミュニケーションツールとしてイタリア語を使いましょう。

資料配布などについてはWaseda Moodleを使用します。

科 目 名	イタリア文化を知る4（食文化を旅する）　イタリアの食の多様性と魅力							
担当者名	マッジャ　フェデリカ							
伊語	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

イタリアは食文化において世界的に有名であり、歴史や芸術とともにイタリアの魅力を構成しています。ロー マ帝国時代から続く食文化の中で、地域ごとの特産物や地形がそれぞれの料理に多大な影響を与えてきました。この講座では、食をめぐる旅行を通してイタリア全土からいくつかの都市を取り上げ、その土地に深く結びついた食材や郷土料理を通じてイタリア料理の多様性を学びます。イタリアの食文化について学びながら、文法事項（条件法、命令法、非人称表現、受動態など）や語彙、表現の学習をさらに掘り下げることができます。より多くの場面での会話の学得をめざして楽しくイタリア語を学べるように授業を進めていきます。授業では、ペアでのロールプレイ、グループワークやマルチメディア教材などを通じて、イタリア旅行などで

も役立つ表現を身につけます。
*履修者数及び進度の都合で、授業計画を変更することもあります。

授業の到達目標

この講座では、初級レベルで学んだ内容を異なる角度から学び直し、しっかりと定着させることでイタリア語の準中級（A2〜B1）レベルを目指します。この授業の到達目標は以下の三つです。
1. 語彙と表現の強化
2. 文法知識の上達
3. イタリア文化へのより深い理解

成績評価方法

●**試験** 20%　学習成果や理解度の確認のため、試験を実施します。詳細は授業内で説明します。
●**レポート** 0%
●**平常点** 80%　出欠席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。
●**その他** 0%

備考・関連URL

☆ 学習に役立つお奨めサイト：
イタリア文化会館東京　https://iictokyo.esteri.it/iic_tokyo/ja/
イタリア文化会館は美術、音楽、映画、演劇、ダンス、ファッション、デザイン、写真等の多様な分野で文化催事を多数企画・開催しています。また、日本の様々な大学や教育機関などとの長年にわたる協力関係のもとで、学術的な催事・講演会を共催し、日本の諸機関や企業などが主催するイタリア関連イベントの積極的な後援も行っています
☆ イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味がある方は、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

科 目 名	**第三外国語としてのイタリア語入門1**　チャオとひとこと、イタリア語を始めよう							
担当者名	F. ウジッコ							
伊語	2単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

初めてイタリア語を学ぶ学生のための入門コースです。週一回、通年の授業（春学期は「第三外国語としてのイタリア語入門1」、秋学期は「第三外国語としてのイタリア語入門2」で連続受講を推奨します）で文法の基礎を一通り習得します。
文法事項の学習と会話練習を行います。イタリア語の語学力を養うには文法知識の習得に加えて生きた言葉として実際に使う演習が重要です。授業では正確な文法知識に基づく会話の反復練習を通して、語彙力の向上と使える言葉としてのイタリア語の習得を目指します。また、さまざまなメディアを利用して、言葉と文化について学んでいきます。

授業の到達目標

入門レベルの文法を学びながら、語彙の拡充を図るとともに基礎的なコミュニケーション能力を養っていきます。
イタリア文化と触れあいながらイタリア語の習得を目指します。語彙力を高め文法を正しく学んだ上で、さまざまな場面を想定した会話練習を少人数グループで行います。会話練習を通してさらに語彙を増やし、学んだ知識の運用能力の向上を図りましょう。「旅行」「日常会話」の場で、自然な会話ができるようになることが、「第三外国語としてのイタリア語」の目標です。

成績評価方法

●**試験** 20%　学習成果や理解度の確認のため、試験を実施します。詳細は授業内で説明します。
●**レポート** 0%
●**平常点** 80%　出欠席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。
●**その他** 0%

備考・関連URL

学習に役立つお奨めサイト：
イタリア文化会館 東京　https://iictokyo.esteri.it/iic_tokyo/ja/
イタリア文化会館は美術、音楽、映画、演劇、ダンス、ファッション、デザイン、写真等の多様な分野で文化催事を多数企画・開催しています（年間150以上のイベント）。また、日本の様々な大学や教育機関などとの長年にわたる協力関係のもとで、学術的な催事・講演会を共催し、日本の諸機関や企業などが主催するイタリア関連イベントの積極的な後援も行っています。

科 目 名	**第三外国語としてのイタリア語入門2**　チャオとひとこと、イタリア語を始めよう（その2）							
担当者名	F. ウジッコ							
伊語	2単位	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

初めてイタリア語を学ぶ学生のための入門コースの続きです。週一回、通年の授業（春学期は「第三外国語としてのイタリア語入門1」、秋学期は「第三外国語としてのイタリア語入門2」で連続受講を推奨します）で文法の基礎を一通り習得します。
文法事項の学習と会話練習を行います。イタリア語の語学力を養うには文法知識の習得に加えて生きた言葉として実際に使う演習が重要です。授業では正確な文法知識に基づく会話の反復練習を通して、語彙力の向上と使える言葉としてのイタリア語の習得を目指します。また、さまざまなメディアを利用して、言葉と文化について学んでいきます。

授業の到達目標

入門レベルの文法を学びながら、語彙の拡充を図るとともに基礎的なコミュニケーション能力を養っていきます。
イタリア文化と触れあいながらイタリア語の習得を目指します。語彙力を高め文法を正しく学んだ上で、さまざまな場面を想定した会話練習を少人数グループで行います。会話練習を通してさらに語彙を増やし、学んだ知識の運用能力の向上を図りましょう。「旅行」「日常会話」の場で、自然な会話ができるようになることが、「第三外国語としてのイタリア語」の目標です。

成績評価方法

●**試験** 20%　学習成果や理解度の確認のため、試験を実施します。詳細は授業内で説明します。
●**レポート** 0%

●**平常点**　80%　　出欠席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

学習に役立つお奨めサイト：
イタリア文化会館 東京　https://iictokyo.esteri.it/iic_tokyo/ja/
イタリア文化会館は美術、音楽、映画、演劇、ダンス、ファッション、デザイン、写真等の多様な分野で文化催事を多数企画・開催しています（年間150以上のイベント）。また、日本の様々な大学や教育機関などとの長年にわたる協力関係のもとで、学術的な催事・講演会を共催し、日本の諸機関や企業などが主催するイタリア関連イベントの積極的な後援も行っています。

科 目 名	文学で学ぶイタリア語　言葉の壁を乗り越える							
担当者名	横山　修一郎							
伊語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

せっかくイタリア語の基礎を学んだのだから、何か読んでわかりたい。
本講座が皆さんに提供できることは、文学作品にふれることで「より深く言葉を知る」機会です。そして、その言葉とは、イタリア語と日本語。イタリア語から日本語へ、日本語からイタリア語へ。双方向から言葉を見つめていきます。
まず日本文学の古典の現代イタリア語訳を読みます。今イタリア語を学ぶ私たちにとって、先人たちの言葉に対する熱意や工夫を知ることは、「言葉を知る」ために有意義です。イタリア語翻訳文を通して、文学作品がどのようにして言葉の壁を乗り越えるのか見てみましょう。
けれど読むことばかりでは疲れます。オペラ・アリアなどイタリア語の歌の映像や音声を鑑賞しながら、その詩を読み解く機会も設けます。
また、読むために必要な文法事項（直説法大過去、遠過去、受動態、ジェルンディオなど）についても、適宜レジュメを配布し再確認及び説明を行います。

授業の到達目標

1. 文章を読みながら、映像・画像を見ながら、書き手・作り手の思いやその世界に没頭する。
2. 言葉の音色や韻律などにも注目して、作品を味わう。
3. 言語の基礎学力を再確認しつつ、文法知識や語彙力のさらなる向上をめざす。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　出席、宿題課題への取り組み、授業への参加意欲。
●**その他**　60%　　授業内発表（第7回及び第14回授業における）

備考・関連URL

資料配布、課題配信などについてはWaseda Moodleを使用します。
グループで話し合う機会も多々あります。知るも知らぬも互いに力合わせる気持ちで授業に参加して下さい。
また、履修者数及び進度の都合で、授業計画を変更することもあります。

科 目 名	ニュースで学ぶイタリア語　イタリア、そして世界への窓							
担当者名	M. カマンドーナ							
伊語	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

イタリア語で世界のニュースを一緒に読んでいく中級レベルの授業です。マスコミで使われるイタリア語を通して、さまざまな形式の文章表現を学びつつ、語彙を増やします。その時々で半過去や関係代名詞che、未来形や条件法など、必要な文法にも触れていきます。イタリアのオンラインメディア「Il POST」（政治的に中道・信頼性のあるニュースメディア）の記事を基にしたオリジナル教材を用いながら、最新の出来事、文化、スポーツといった様々なジャンルについて読解力を強化します。1つの記事を2〜3回に分けて読解・意見交換をします。

授業の到達目標

時事イタリア語に触れながら、イタリアの近現代の社会や文化についてより深い知識を身につけることを目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　出欠席、授業への参加意欲、提出物による総合評価とします。特に授業態度を重視します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

Il POST: www.ilpost.it

科 目 名	基礎から学ぶイタリア語会話1　イタリア語の世界へようこそ！イタリア語を学びながら、国際感覚を身につける							
担当者名	マッジャ　フェデリカ							
伊語	2単位	春学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

イタリア語をゼロから始める学生のための入門コースです。週一回の授業で、実践的なコミュニケーションアプローチを通じて会話の基礎を学びます。「旅行」「日常生活」「文化」などの話題に必要な表現と文法を習得しながら、コミュニケーション能力を高めることを目指します。ペアでのロールプレイ、グループワークやゲームを通じて、特に会話力とリスニング力を向上させます。ビデオ（スキットや文化紹介の映像）、スライドショーなどのマルチメディアを活用し、楽しく日常イタリア語を学び

ながら、イタリアの文化についての知識も深めます。
大学で第二外国語以外の言語も学び、世界観を広げたい学生におすすめです。
* 秋学期の「基礎から学ぶイタリア語会話2」と連続受講することをお勧めします。

授業の到達目標

挨拶や自己紹介の基本から始まり、イタリア料理や旅行に役立つ表現まで、幅広く楽しみながら学んでいきます。様々なシチュエーションで使える実用的な表現を習得し、基本的な会話をマスターすることを目指します。
教科書に沿って授業を進めます。春学期は、第3課まで、秋学期は第6課まで進む予定です。

成績評価方法

●**試験** 20%　学習成果や理解度の確認のため、試験を実施します。詳細は授業内で説明します。
●**レポート** 0%
●**平常点** 80%　出欠席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。
●**その他** 0%

備考・関連URL

☆ 学習に役立つお奨めサイト：イタリア文化会館東京　https://iictokyo.esteri.it/iic_tokyo/ja/
イタリア文化会館は美術、音楽、映画、演劇、ダンス、ファッション、デザイン、写真等の多様な分野で文化催事を多数企画・開催しています。また、日本の様々な大学や教育機関などとの長年にわたる協力関係のもとで、学術的な催事・講演会を共催し、日本の諸機関や企業などが主催するイタリア関連イベントの積極的な後援も行っています。

科 目 名	基礎から学ぶイタリア語会話2　イタリア語の世界へようこそ！イタリア語を学びながら、国際感覚を身につける（その2）							
担当者名	マッジャ　フェデリカ							
伊語	2単位	秋学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

「基礎から学ぶイタリア語会話1」を学習し終えた学生及びすでにいくらかイタリア語を学習した学生のための入門クラスです。週一回の授業で、実践的なコミュニケーションアプローチを通じて会話の基礎を学びます。「旅行」「日常生活」「文化」などの話題に必要な表現と文法を習得しながら、コミュニケーション能力を高めることを目指します。ペアでのロールプレイ、グループワークやゲームを通じて、特に会話力とリスニング力を向上させます。ビデオ（スキットや文化紹介の映像）、スライドショーなどのマルチメディアを活用し、楽しく日常イタリア語を学びながら、イタリアの文化についての知識も深めます。
大学で第二外国語以外の言語も学び、世界観を広げたい学生におすすめです。

授業の到達目標

様々なシチュエーションで使える実用的な表現を習得し、基本的な会話をマスターすることを目指します。
教科書に沿って授業を進めます。秋学期は第4課から第6課まで進む予定です。

成績評価方法

●**試験** 20%　学習成果や理解度の確認のため、試験を実施します。詳細は授業内で説明します。
●**レポート** 0%
●**平常点** 80%　出欠席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。
●**その他** 0%

備考・関連URL

☆ 学習に役立つお奨めサイト：イタリア文化会館東京　https://iictokyo.esteri.it/iic_tokyo/ja/
イタリア文化会館は美術、音楽、映画、演劇、ダンス、ファッション、デザイン、写真等の多様な分野で文化催事を多数企画・開催しています。また、日本の様々な大学や教育機関などとの長年にわたる協力関係のもとで、学術的な催事・講演会を共催し、日本の諸機関や企業などが主催するイタリア関連イベントの積極的な後援も行っています。

科 目 名	イタリア語上級1（文法・実践）　イタリア語を自分の言葉として使えるようになりましょう							
担当者名	マッジャ　フェデリカ							
伊語	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

「イタリア語中上級」を受講された（及び同等レベルの）学生を対象とした上級レベルのイタリア語講座です。
「読む」と「書く」ことを重視しますが、イタリア人講師により「聞く」と「話す」の能力養成も同時に狙います。文法等、授業中の説明、質問への回答は日本語で行いますので、まだイタリア語力に自信がなくても問題ありません。「質」を重視し、ビデオ教材・マルチメディア教材と教科書の内容を中心に、学生が楽しく参加できる形で授業を行います。イタリア語の間違いを恐れず積極的に参加してみましょう。実用的なコミュニケーションに必要な文法と表現を、段階を追いながら学びます。文法力の練習が主ですが、日常的な場面を想定した会話のトレーニングもします。また、ペアワーク、グループワークやスキット作りなど、学生が参加して作り上げる練習を行います。学習を通じてイタリアの社会的・文化的な知識も深まることでしょう。
*「イタリア語上級1（文法・実践）」・「イタリア語上級2（会話）」は隔年開講であり、秋学期のみ開講します。上級科目を両方受講すると、イタリア語コースの科目を卒業まで4年間継続して受講することができ、上級レベル(CEFR B2)の取得およびイタリア文化への深い理解を得ることが期待されます。
履修モデル: 3年目→「イタリア語上級1（文法・実践）」又は「イタリア語上級2（会話）」、4年目→「イタリア語上級2（会話）」又は「イタリア語上級1（文法・実践）」。

授業の到達目標

この講義では「B2」レベルの教材を使用し、イタリア語の運営能力をさらに向上させ、イタリア文化の理解を一層深めることを目的としています。ビデオ教材・マルチメディア教材と配布資料を使い、上級レベルの語学能力の獲得を目指します。クラスでは、テキスト読解と内容把握の訓練（読解力の強化）を行った後、語彙や文の構造などを確認します（語彙・文法力の強化）。また、作文（扱ったテーマについての自身の意見など）や練習問題を課することで、書く能力の向上にも力を入れます。中上級クラスで学習した文法事項・語彙と表現を復習しながら、より高度な語学力を養成し、楽しく、自分のイタリア語に自信を持てるようになりましょう。

成績評価方法

●**試験**　20%　　学習成果や理解度の確認のため、試験を実施します。詳細は授業内で説明します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　80%　　出欠席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

☆ 学習に役立つお奨めサイト：イタリア文化会館東京　https://iictokyo.esteri.it/iic_tokyo/ja/
イタリア文化会館は美術、音楽、映画、演劇、ダンス、ファッション、デザイン、写真等の多様な分野で文化催事を多数企画・開催しています。また、日本の様々な大学や教育機関などとの長年にわたる協力関係のもとで、学術的な催事・講演会を共催し、日本の諸機関や企業などが主催するイタリア関連イベントの積極的な後援も行っています
☆ イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味がある方は、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

科 目 名	朝鮮語中級　A							
担当者名	貝森　時子							
朝語	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

春学期の「朝鮮語中級」に続き、中上級前半レベルの学習を行います。授業はプリントを用いて中級の文法と会話を中心に行いますが、授業内の活動や課題を通して、文法・語彙・読解・聞き取り・作文・発音などバランスよく韓国語能力を向上させることを目指します。
理解確認のための小テストや課題があるため、自宅学習が多く求められます。

授業の到達目標

ハングル能力検定3級レベルの文法の習得を目指します。

成績評価方法

●**試験**　60%　　中間・期末理解度の確認（各30%）
●**レポート**　0%　　無し。
●**平常点**　40%　　出席、授業への参加度、小テスト、課題などで総合的に判断します。
●**その他**　0%　　無し。

備考・関連URL

受講者のレベルによって、上記の授業計画は変更になることがあります。
本授業のほか、「朝鮮語会話中上級1」または「朝鮮語作文中上級」、レベルが上の人は「朝鮮語会話中上級3」の授業を合わせて受講することをお勧めします。
＜留意点＞
3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象になりません。

科 目 名	朝鮮語中級　B							
担当者名	山崎　玲美奈							
朝語	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

週4回の授業を1年（週2回の授業を1年半）程度学習した人を対象に、中級レベルの学習を行います。授業はプリントを用いて中級の文法と会話を中心に行いますが、授業内の活動や課題を通して、文法・語彙・読解・聞き取り・作文・発音などバランスよく韓国語能力を向上させることを目指します。
理解確認のための小テストや課題があるため、自宅学習が多く求められます。【全ての回は基本的に対面で実施します。ペアワークや発表有。以下同じ。】
※「A」と「B」では、担当教師が異なるので、登録時に注意してください。同じ曜日の同じ科目を、春学期・秋学期続けて受講することが望ましいです。

授業の到達目標

ハングル能力検定3級前半レベルの文法の習得を目指します。

成績評価方法

●**試験**　60%　　中間・期末理解度の確認（各30%）。両方の試験を受けていない場合は単位認定の対象となりません。
●**レポート**　0%　　無し
●**平常点**　40%　　出席、授業への参加度、小テスト、課題などで総合的に判断します。
●**その他**　0%　　無し

備考・関連URL

受講者のレベルによって、上記の授業計画は変更になることがあります。 本授業のほか、「朝鮮語会話中級」または「朝鮮語作文中級」、レベルが上の人は「朝鮮語会話中上級2」の授業を合わせて受講することをお勧めします。 ＜留意点＞ 3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象になりません。※「A」と「B」では、テキストと担当教師が異なるので、登録時に注意してください。同じ曜日の同じ科目を、春学期・秋学期続けて受講することが望ましいです。【全ての回は基本的に対面で実施します。ペアワークや発表有。以下同じ。】
受講者のレベルによって上記の授業計画は変更になることがあります。
本授業は、「対面」を基本とし、数回のオンライン授業を含む可能性があります。

科 目 名	朝鮮語中上級　A							
担当者名	貝森　時子							
朝語	２単位	秋学期	水曜日	２時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

春学期の「朝鮮語中級」に続き、中上級前半レベルの学習を行います。授業はプリントを用いて中級の文法と会話を中心に行いますが、授業内の活動や課題を通して、文法・語彙・読解・聞き取り・作文・発音などバランスよく韓国語能力を向上させることを目指します。

理解確認のための小テストや課題があるため、自宅学習が多く求められます。

授業の到達目標

ハングル能力検定3級レベルの文法の習得を目指します。

成績評価方法

●**試験**　60%　　中間・期末理解度の確認（各30%）
●**レポート**　0%　　無し。
●**平常点**　40%　　出席、授業への参加度、小テスト、課題などで総合的に判断します。
●**その他**　0%　　無し。

備考・関連ＵＲＬ

受講者のレベルによって、上記の授業計画は変更になることがあります。

本授業のほか、「朝鮮語会話中上級1」または「朝鮮語作文中上級」、レベルが上の人は「朝鮮語会話中上級3」の授業を合わせて受講することをお勧めします。

＜留意点＞

3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象になりません。

科 目 名	朝鮮語中上級　B							
担当者名	山崎　玲美奈							
朝語	２単位	秋学期	木曜日	２時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

春学期の「朝鮮語中級」に続き、中上級前半レベルの学習を行います。授業はプリントを用いて中級の文法と会話を中心に行いますが、授業内の活動や課題を通して、文法・語彙・読解・聞き取り・作文・発音などバランスよく韓国語能力を向上させることを目指します。

理解確認のための小テストや課題があるため、自宅学習が多く求められます。

※「A」と「B」では、担当教師が異なるので、登録時に注意してください。同じ曜日の同じ科目を、春学期・秋学期続けて受講することが望ましいです。

【全ての回は基本的に対面で実施します。ペアワークや発表有。以下同じ。】

授業の到達目標

ハングル能力検定3級レベルの文法の習得を目指します。

成績評価方法

●**試験**　60%　　第7回と第14回に試験を実施します。両方の試験を受けていない場合は，単位認定の対象となりません。
●**レポート**　0%　　無し
●**平常点**　40%　　出席、授業への参加度、小テスト、課題などで総合的に判断します。
●**その他**　0%　　無し

備考・関連ＵＲＬ

受講者のレベルによって、上記の授業計画は変更になることがあります。

本授業のほか、「朝鮮語会話中上級1」または「朝鮮語作文中上級」、レベルが上の人は「朝鮮語会話中上級3」の授業を合わせて受講することをお勧めします。

＜留意点＞

3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象になりません。

【全ての回は基本的に対面で実施します。ペアワークや発表有。以下同じ。】

※「A」と「B」では、担当教師が異なるので、登録時に注意してください。同じ曜日の同じ科目を、春学期・秋学期続けて受講することが望ましいです。受講者のレベルによって上記の授業計画は変更になることがあります。 本授業は、「対面」を基本とし、数回のオンライン授業を含む可能性があります。

科 目 名	朝鮮語上級1							
担当者名	山崎　玲美奈							
朝語	２単位	春学期	木曜日	４時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本授業は「朝鮮語中上級」履修を終えた者、韓国短期留学経験者など中上級レベルの文法事項の習得を終えた学習者を対象に、上級レベルの韓国語運用能力の向上を目指します。

授業では文法事項の習得とペアワーク，発表を中心に行い、読解や作文の課題を通して、文法項目の定着と表現の幅を広げます。

毎回、小テストやテキストの題材と関連した予習・復習の課題と、読解・作文や発表などの課題があり、自宅学習が多く求められます。 **韓国語を母語とする場合や，それと同等レベルの方は，履修を控えてください。**

授業の到達目標

ハングル能力検定準2級前半レベルの文法事項の習得を目指します。

成績評価方法
●**試験** 60%　第7回と第14回に試験を実施します。両方の試験を受けていない場合は，単位認定の対象となりません。
●**レポート** 0%
●**平常点** 40%　出席、授業への参加度、小テスト、課題などで総合的に判断します。
●**その他** 0%

備考・関連URL
受講者のレベルによって上記の授業計画は変更になることがあります。 本授業は、「対面」を基本とし、数回のオンライン授業を含む可能性があります。
最初の授業で受講者のレベル判定を行いテキストを決めますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。
3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象になりません。
本授業は対話型・問題発見・解決型教育の手法を導入しており、Waseda Moodleなどを利用した自律学習を促しています。
Waseda Moodleなどを使った資料の閲覧と事前・事後学習が必要となります。授業ではハングルタイピングが必要な場合があります。

科 目 名	朝鮮語上級2							
担当者名	山崎　玲美奈							
朝語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
本授業は、「朝鮮語上級1」履修者、韓国短期留学経験者など上級前半レベルの習得を終えた学習者を対象に、上級後半レベルの韓国語運用能力の向上を目指します。
授業では文法事項の習得とペアワーク，発表を中心に行い、読解や作文の課題を通して、文法項目の定着と表現の幅を広げます。
毎回、テキストの題材と関連した予習・復習の課題と、読解・作文や発表などの課題があり、自宅学習が多く求められます。
韓国語を母語とする場合や，それと同等レベルの方は，履修を控えてください。

授業の到達目標
ハングル能力検定準2級後半レベルの文法事項の習得を目指します。

成績評価方法
●**試験** 60%　第7回と第14回に試験を実施します。両方の試験を受けていない場合は，単位認定の対象となりません。
●**レポート** 0%　無し
●**平常点** 40%　出席、授業への参加度、小テスト、課題などで総合的に判断します。
●**その他** 0%　無し

備考・関連URL
受講者のレベルによって上記の授業計画は変更になることがあります。 本授業は、「対面」を基本とし、数回のオンライン授業を含む可能性があります。
受講希望者は、レベルを確認しますので初回の授業に必ず出席してください。
3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象になりません。
本授業は対話型・問題発見・解決型教育の手法を導入しており、Waseda Moodleなどを利用した自律学習を促しています。
Waseda Moodleなどを使った資料の閲覧と事前・事後学習が必要となります。授業ではハングルタイピングが必要です。

科 目 名	朝鮮語会話中級							
担当者名	印　省熙							
朝語	2単位	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要
本授業は、週4回の授業を1年（週2回の授業を1年半）程度学習した人を対象に、中級レベルの学習を行います。授業は中級前半の文法（初級文法の復習とやや易し目の文法）を取り入れた会話を中心に行いますが、事前学習や課題を通して文法理解、作文、読解など読み・書き能力の向上を目指します。
授業ではアウトプットを中心に行うため、毎回授業内容についての事前学習と準備が必要で、課題、内容理解確認のための小テストがあるなど、題材と関連した予習・復習や提出課題があるため、自宅学習が多く求められます。

授業の到達目標
ハングル能力検定4級～3級前半レベルの文法の習得を目指します。

成績評価方法
●**試験** 50%　理解度の確認
●**レポート** 0%
●**平常点** 50%　出席、課題、授業への参加度、小テストなどで総合的に判断します。
●**その他** 0%

備考・関連URL
受講者のレベルによって、上記の授業計画は変更になることがあります。本授業は、「対面」を基本とし、数回のオンライン授業を含む可能性があります。
本授業のほか、文法中心に学びたい人は、「朝鮮語中級」を、作文は「朝鮮語作文中級」を、レベルが上の人は「朝鮮語会話中上級2」の授業を合わせて受講することをお勧めします。 外国語として韓国語を学ぶ人のための授業です。韓国語母語話者向けの授業ではありません。
＜留意点＞
3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象になりません。なお初回の授業で授業の進め方についての説明があるので、必ず出席してください。 本授業は対話型・問題発見・解決型教育の手法を導入しており、Waseda Moodleなどを利用した自律学習を促しています。

毎回、Waseda Moodleなどを使った資料の閲覧と事前・事後学習が必要となります。授業ではハングルタイピングが必要です。

科 目 名	朝鮮語会話中上級1							
担当者名	印　省熙							
朝語	2単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本授業は、春学期の「朝鮮語会話中級」に続き、中上級前半レベルの学習を行います。授業は中級後半の文法（やや易し目の文法）を取り入れた会話を中心に行いますが、事前学習や課題を通して文法理解、作文、読解など読み・書き能力の向上を目指します。授業ではアウトプットを中心に行うため、毎回授業内容についての事前学習と準備が必要で、課題、内容理解確認のための小テストがあるなど、題材と関連した予習・復習や提出課題があるため、自宅学習が多く求められます。

授業の到達目標

ハングル能力検定3級レベルの文法の習得を目指します。

成績評価方法

●**試験**　50%　　理解度の確認
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　出席、課題、授業への参加度、小テストなどで総合的に判断します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

受講者のレベルによって、上記の授業計画は変更になることがあります。本授業は、「対面」を基本とし、数回のオンライン授業を含む可能性があります。

本授業のほか、文法中心に学びたい方は、「朝鮮語中上級」を、作文は、「朝鮮語作文中上級」を、レベルが上の人は「朝鮮語会話中上級3」の授業を合わせて受講することをお勧めします。 外国語として韓国語を学ぶ人のための授業です。韓国語母語話者向けの授業ではありません。

＜留意点＞　3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象になりません。なお初回の授業で授業の進め方についての説明があるので、必ず出席してください。 本授業は対話型・問題発見・解決型教育の手法を導入しており、WasedaMoodleなどを利用した自律学習を促しています。

毎回、Waseda Moodleなどを使った資料の閲覧と事前・事後学習が必要となります。授業ではハングルタイピングが必要です。

科 目 名	朝鮮語会話中上級2							
担当者名	金　牡蘭							
朝語	2単位	春学期	金曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

「朝鮮語中上級」や「朝鮮語会話中上級1」履修者、韓国短期留学経験者など中級レベル（ハングル能力検定3級）の文法事項の習得を終えた学習者を対象に、中級から上級への実力向上を目指す。授業はテクストの内容に沿った会話の練習および韓国の社会・文化に関する討論活動で構成される。それを通じて、日常生活におけるコミュニケーション能力を伸ばすとともに、韓国の社会・文化に関する理解を深めることを目標とする。授業中の活動に積極的に参加することが求められる。授業の一部（3回程度）をオンラインのオンデマンド配信で行う可能性がある。

授業の到達目標

中上級レベルの語彙・表現を理解し、実際のコミュニケーションにおいてそれらを駆使できる。

成績評価方法

平常点（授業での活動、各種テストおよび課題）で評価する。

備考・関連URL

＜留意点＞
・受講希望者は最初の授業に必ず出席すること。
・3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象としない。
・受講者の朝鮮語運用能力が本授業の想定レベルより著しく高い場合、別の評価基準を適用する。
・本授業は授業回の一部（3回程度）をオンラインのオンデマンド配信で行う可能性がある。

科 目 名	朝鮮語会話中上級3							
担当者名	金　牡蘭							
朝語	2単位	秋学期	金曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

「朝鮮語中上級」や「朝鮮語会話中上級2」履修者、韓国短期留学経験者など中級レベル（ハングル能力検定3級）の文法事項の習得を終えた学習者を対象に、中級から上級への実力向上を目指す。授業はテクストの内容に沿った会話の練習および韓国の社会・文化に関する討論活動で構成される。それを通じて、日常生活におけるコミュニケーション能力を伸ばすとともに、韓国の社会・文化に関する理解を深めることを目標とする。授業中の活動に積極的に参加することが求められる。授業の一部（3回以下）をオンラインのオンデマンド配信で行う可能性がある。

授業の到達目標

中上級レベルの語彙・表現を理解し、実際のコミュニケーションにおいてそれらを駆使できる。

成績評価方法

平常点（授業での活動、各種テストおよび課題）で評価する。

備考・関連URL

・受講希望者は最初の授業に必ず出席すること。
・3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象としない。
・受講者の朝鮮語運用能力が本授業の想定レベルより著しく高い場合、別の評価基準を適用する。
・本授業は一部（3回程度）をオンラインのオンデマンド配信で行う可能性がある。

科目名	朝鮮語会話上級1							
担当者名	林　周禧							
朝語	2単位	春学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

授業はすべて韓国語で行い、韓国人との会話に自信が持てるようにしたい。
会話はもちろん韓国の文化や社会についても学ぶ。

授業の到達目標

韓国語の語彙を増やし、会話力を高める。

成績評価方法

●**試験**　50%
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%
●**その他**　0%

備考・関連URL

出席及び授業中の態度も評価対象になる。

科目名	朝鮮語会話上級2							
担当者名	林　周禧							
朝語	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

授業はすべて韓国語で行い、韓国人との会話に自信が持てるようにしたい。
会話及び韓国の文化や社会について学ぶのはもちろん、ビジネスでも使える高度の韓国語を学ぶ。

授業の到達目標

様々なジャンルについて自然な韓国語で話せるようになる。

成績評価方法

●**試験**　50%
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%
●**その他**　0%

備考・関連URL

出席及び授業中の態度も評価対象になる。

科目名	朝鮮語作文中級　総合的な韓国語スキル（書く・読む・理解する）を高める							
担当者名	李　和貞							
朝語	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン]リアルタイム配信

授業概要

本講義では多種類の教材を通してナチュラルな韓国語の文章に触れ、自分の考えを文にする力を身につけることを目標とする。そのため韓国の社会や文化に関する内容の資料を中心にリーディングをしながら、具体的な表現を学習し、文章の読み方、書き方、言い回しなどの表現について学ぶ。その上、自分の考えや意見について作文・個人発表をし、実践的な語学力の向上を促す。（本授業は全面オンラインで実施します）

授業の到達目標

授業では毎回作文学習を行うが、必要に応じて履修者の作文課題を授業で紹介し、間違いやすい表現や言い回しや細かい部分について授業教材として利用することもある。授業では履修者のモチベーションを重要視しつつ履修者の関心・興味のある分野の様々の題材を活用しながら授業を進める。ニュース、会話、アナウンス、音楽、映画など、多種類の教材に触れながら、自然な韓国語に翻訳・表現することを学ぶ。また文の表現力の幅を広げると同時に、授業で学習した内容を中心にペア学習、個人発表の実践を促し、受講者の実用的な韓国語コミュニケーション力の向上に主力したい。

成績評価方法

試験：　40点　　小テスト、中間テスト及び期末の理解度の確認
提出物と活動：　30点　　各種課題の提出、グループ活動の参加度
発表と平常点：　20点　授業で行う作文の発表、音読練習、ノートの作成
その他：　10%　　授業への貢献度、コミュニケーションカードの提出、授業参加報告書の提出（グループ活動はカメラONを基本とする）
（上記の評価基準は、履修者のレベル及び履修者数などの状況に応じて変更の可能性があります）

備考・関連URL

※授業への積極的な参加を重要視します。※授業計画・成績評価は、履修人数及び履修者のレベルによって変更される可能性があります。
※授業内課題及び各種作文課題は原稿用紙を使用しますので授業開始までに原稿用紙を準備して下さい。、

科 目 名	朝鮮語作文中上級　作文を通して総合的なスキル（書く・読む・話す）を高める							
担当者名	李　和貞							
朝語	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン]リアルタイム配信

授業概要

本講義では多種類の教材を通してナチュラルな韓国語の文章に触れ、自分の考えを文にする力を身につけることを目標とする。授業では、履修者のモチベーションを高めるため、履修者の関心・興味のある分野の様々の題材を活用する。例えば、ニュース、会話、アナウンス、音楽、映画など、多種類の教材に触れながら自然な韓国語に翻訳・表現することを学ぶ。また必要に応じて履修者の作文を授業で紹介し、間違いやすい表現や言い回しなど細かい部分について学習する。そのほか、授業では韓国の社会や文化に関する様々な内容の資料を中心としたリスニング＆リーディング練習にも力を入れる。（本授業は全面オンラインで実施します）

授業の到達目標

自分の意見や考えを論理的に書くことができる。（レポートやプレゼンのための学術的な文章の書き方について学び、スピーチの原稿の作成及び発表を行う。作文を中心とした実践的な語学力の向上を目指す）

成績評価方法

試験：　40点　　中間及び期末の理解度の確認
提出物と発表：　30点　　各種課題の提出、個別発表、グループ・ペア発表
平常点：　20点　授業で行う作文の発表、音読、ノートの作成、グループ・ペア活動と積極さ
その他：　10%　　コミュニケーションカードの提出、授業参加報告書の提出（グループ活動はカメラONを基本とする）
（上記の評価基準は、履修者のレベル及び状況に応じて変更可能性があります）

備考・関連URL

・学期に1回ぐらいは韓国の大衆文化映像を鑑賞し、韓国文化および生きた朝鮮語の表現について学びます。
・スキルアップのため卒業まで韓国語スピーチコンテストへの参加を心がけて下さい（12月に行われる早稲田大学朝鮮語スピーチコンテストにも積極的に参加しましょう）
※授業への積極的な参加を重要視します。
※授業計画・成績評価は、履修人数及び履修者のレベルによって変更される可能性があります。
※授業内課題及び各種作文課題は原稿用紙を使用しますので授業開始までに原稿用紙を準備して下さい。、

科 目 名	時事朝鮮語1							
担当者名	印　省熙							
朝語	2単位	春学期	水曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル[オンライン]リアルタイム配信

授業概要

本授業は、韓国のニュースを通して時事関連内容を習得し、時事韓国語の習得を目指します。毎回、事前学習が必要で、時事関連の発表や課題のクリアが必要です。
授業では討論も多く、積極的な参加が求められます。

授業の到達目標

韓国のニュース記事を中心に時事内容を学びながら、上級レベルのリスニング・スピーキング能力の習得を目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　出席、授業への参加度、小テスト、課題、中間発表、期末レポートなどで総合的に判断します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

受講者のレベルや参加者によって、上記の授業計画は変更になることがあります。
秋学期に「時事朝鮮語2」を続けて受講することをお勧めします。
本授業は対話型・問題発見・解決型教育の手法を導入しており、Waseda Moodleを利用した自律学習を促しています。課題などWaseda Moodleに提出することが求められます。
＜留意点＞　本授業は、基本的にオンライン（リアルタイム配信）で実施します。オンライン授業では「video on、マイクon, PCで静かな環境で受講」する必要があります。なお、必要に応じて対面授業を実施することがありますが、受講者と相談して決めます。 受講希望者は最初の授業からは課題が出るので、出席してください。
授業ではハングルタイピングが必要です。
3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象になりません。

科 目 名	第三外国語としての朝鮮語初級1　A　~はじめて韓国語を学ぶ人を対象に~【今年度より科目名が変更になっています。昨年度の"入門1"に該当する授業です】							
担当者名	岸　加那子							
朝語	2単位	春学期	木曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	フル[オンライン]リアルタイム配信

授業概要

第三外国語としての朝鮮語（韓国語）の授業です。**授業は全ての回に於いてオンライン（ZOOM）で実**施します。この科目は**朝鮮語を初めて勉強する学生を対象**としています。週1回の授業でハングル文字の読み方、書き方、初級文法等、朝鮮語の基礎内容を学んでいきます。**事前学習として動画視聴が必須**となります。授業では学んだ内容をドリルなどで復習し、学習内容の確認などを行っていきます。随時、韓国文化の紹介なども行い、韓国という国についての理解も深めていきます。
この授業は朝鮮語以外の他言語を第二外国語として選択した学生を対象としています。過去に早稲田大学での朝鮮語学習歴がない学生に第三外国語として朝鮮語を学ぶ機会を提供する科目です。より多くの学生が朝鮮語を学ぶ機会を得られるよう、**週4の第二外国語で朝鮮語を選択した学生は受講を控えるようにしてください。**

授業の到達目標

ハングル文字が読めるようになる。
韓国語で簡単な挨拶、自己紹介ができる。
初級文法を使って簡単な文章を作ることができる。

成績評価方法

●**試験** 50%　中間・期末テストを実施します。
●**レポート** 10%　場合によって小テストやレポートを課す場合があります。
●**平常点** 30%　出席、小テスト、課題などを総合的に評価します。
●**その他** 10%　授業態度、参加度などを総合的に評価します。

備考・関連URL

＜留意点＞　本授業は"**初めて韓国語、ハングル文字を学ぶ人**"のための授業です。レベルに合わないと判断された人は、学期の途中でもお断りすることがありますので科目登録の際はくれぐれもご注意ください。
・授業計画は履修者及び履修者のレベルによって変更することがあります。
・受講者は、3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象になりません。なお初回の授業で授業の進め方についての案内がありますので必ず出席してください。
・本授業は毎回、Waseda Moodleなどを使った資料の閲覧と事前・事後学習が必要となります。
・授業中にZOOMのブレイクアウトルーム機能を使い、グループワークを行う場合があります。
・ZOOM授業中に、画面共有やホワイトボード機能などを使用する関係上、**PCからの受講**を推奨しています。
・この授業は教室配置はありません。**全ての回に於いてZOOMオンライン**で実施されます。・本授業は、秋学期の「第三外国語としての朝鮮語初級2A」に続くので、合わせて受講することをお勧めします。「第三外国語としての朝鮮語初級1B」とはテキストや授業内容が異なるので注意してください。

科 目 名	第三外国語としての朝鮮語初級1　B　～はじめてハングルを学ぶ人のために～							
担当者名	印　省熙							
朝語	2単位	春学期	水曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本授業は、初めて朝鮮語（韓国語）を学ぶ人を対象にする入門講座で、週1回の授業で、ハングル文字と発音変化について学びます。
授業では発音練習・理解の確認のための小テストやアウトプットを中心に行うため、毎回授業内容についての事前学習や課題の提出が必要です。課題は書き方の練習と理解の確認のための手書きの課題の提出と、Moodleへの音声の録音が必要です。

授業の到達目標

ハングル文字の読み書き、発音変化を理解し、簡単なあいさつができるようになる。

成績評価方法

●**試験** 50%　理解度の確認
●**レポート** 0%
●**平常点** 50%　出席、課題、授業への参加度、小テストなどで総合的に判断します。
●**その他** 0%

備考・関連URL

受講者のレベルによって、上記の授業計画（進度）は変更になることがあります。本授業は、「対面」を基本とし、数回のオンライン授業を含む可能性があります。
本授業は、秋学期に「第三外国語としての朝鮮語初級2B」に続くので、合わせて受講することをお勧めします。 この授業のほか、入門として、「第三外国語としての朝鮮語初級1A」がありますが、テキストや授業内容が異なるのでご注意ください。
＜留意点＞
本授業は「初めてハングルを学ぶ人」のための授業です。入門を終えていると判断される人は、学期の途中でもお断りすることがありますのでご注意ください。
受講者は、3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象になりません。なお初回の授業で授業の進め方についての説明があるので、必ず出席してください。 本授業は対話型・問題発見・解決型教育の手法を導入しており、Waseda Moodleなどを利用した自律学習を促しています。
毎回、Waseda Moodleなどを使った資料の閲覧と事前・事後学習が必要となります。

科 目 名	第三外国語としての朝鮮語初級2　A　～はじめて韓国語を学ぶ人を対象に～【今年度より科目名が変更になっています。昨年度の"入門2"に該当する授業です】							
担当者名	岸　加那子							
朝語	2単位	秋学期	木曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	フル【オンライン】リアルタイム配信

授業概要

春学期の「第三外国語としての朝鮮語初級1A」に引き続き行う朝鮮語（韓国語）の授業です。**授業は全ての回に於いてオンライン（ZOOM）で実**施します。
この科目は半年程度の学習を経て**ハングル文字の読み書きができ、朝鮮語で簡単な挨拶や基本名詞文、自己紹介などができるレベルの学生を対象**として授業を進めていきます。
週1回の授業でハングル文字の読み方、書き方、初級文法等、朝鮮語の基礎内容を学んでいきます。**事前学習として動画視聴が必須**となります。授業では学んだ内容をドリルなどで復習し、学習内容の確認などを行っていきます。随時、韓国文化の紹介なども行い、韓国という国についての理解も深めていきます。
この授業は朝鮮語以外の他言語を第二外国語として選択した学生を対象としています。過去に早稲田大学での朝鮮語学習歴がない学生に第三外国語として朝鮮語を学ぶ機会を提供する科目です。より多くの学生が朝鮮語を学ぶ機会を得られるよう、**週4の第二外国語で朝鮮語を選択した学生は受講を控えるようにしてください。**

授業の到達目標

初級文法を使って朝鮮語の文章を作ることができる。

成績評価方法

●**試験**　40%　　中間・期末テストを実施します。
●**レポート**　10%　　場合によってレポート課題を課す場合があります。
●**平常点**　40%　　出席、小テスト、課題などを総合的に評価します。
●**その他**　10%　　授業態度、参加度を総合的に評価します。

備考・関連URL

＜留意点＞　本授業は二外では他言語を選択し、"**第三外国語として朝鮮語を学習する人**"のための授業です。既に朝鮮語初級学習を終えていると判断される人は、学期の途中でもお断りすることがありますので科目登録の際はくれぐれもご注意ください。

・本授業は、春学期の「第三外国語としての朝鮮語初級1A」の内容に引き続き学習していきます。
・授業計画は履修者及び履修者のレベルによって変更することがあります。
・受講者は、3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象になりません。なお初回の授業で授業の進め方についての案内がありますので必ず出席してください。
・本授業は毎回、Waseda Moodleなどを使った資料の閲覧と事前・事後学習が必要となります。
・授業中にZOOMのブレイクアウトルーム機能を使い、グループワークを行う場合があります。
・ZOOM授業中に、画面共有やホワイトボード機能などを使用する関係上、**PCからの受講**を推奨しています。
・この授業は教室配置はありません。**全ての回に於いてZOOMオンライン**で実施されます。・「第三外国語としての朝鮮語初級2B」とはテキストや授業内容が異なるので注意してください。

科 目 名	**第三外国語としての朝鮮語初級2　B**　～ハングル文字と発音変化が分かり、はじめて入門レベルの文法を学ぶ人を対象に～							
担当者名	印　省熙							
朝語	２単位	秋学期	水曜日	２時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本授業は、「ハングル文字と発音変化を理解」していて、初めて朝鮮語（韓国語）の入門レベルの文法を学ぶ人を対象に週1回の授業で、入門レベルの文法と会話を学びます。

授業では発音練習・理解の確認のための小テストやアウトプットを中心に行うため、毎回授業内容についての事前学習や課題の提出が必要です。課題は書き方の練習と理解の確認のための手書きの課題の提出と、Moodleへの音声の録音が必要です。

授業の到達目標

朝鮮語（韓国語）の入門レベルの文法を用いて、すらすらと読み書きができ、簡単な会話ができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　50%　　理解度の確認
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　出席、課題、授業への参加度、小テストなどで総合的に判断します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

受講者のレベルによって、上記の授業計画（進度）は変更になることがあります。本授業は、「対面」を基本とし、数回のオンライン授業を含む可能性があります。

本授業は、春学期の「第三外国語としての朝鮮語初級1B」に続くものです。春学期に、「第三外国語としての朝鮮語初級1A」を受講した人は、テキストが異なるので、ご注意ください。　＜留意点＞

本授業は「初めて朝鮮語（韓国語）を学び、ハングル文字と発音変化が理解できている人」のための授業です。発音変化に合わせてハングル文字がスラスラ読み書きできない人は、学期の途中でもお断りすることがありますのでご注意ください。

受講者は、3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象になりません。なお初回の授業で授業の進め方についての説明があるので、必ず出席してください。 本授業は対話型・問題発見・解決型教育の手法を導入しており、Waseda Moodleなどを利用した自律学習を促しています。

毎回、Waseda Moodleなどを使った資料の閲覧と事前・事後学習が必要となります。

科 目 名	**第三外国語としての朝鮮語初級3　A**　～二外で朝鮮語以外の言語を選択した学生を対象に～【今年度より科目名が変更になっています。昨年度の"初級1"に該当する授業です】							
担当者名	岸　加那子							
朝語	２単位	春学期	木曜日	２時限	１年以上	—	合併科目	フル【オンライン】リアルタイム配信

授業概要

この授業は、過去に朝鮮語を1年程度履修、または相応の韓国語能力を保持し、**ハングル文字の読み書き、及び韓国語の基礎文法を理解している学生**を主な対象としています。**授業は全ての回に於いてオンライン（ZOOM）で実施**します。 この授業は**第二外国語で朝鮮語以外の他言語を選択した学生を対象**としています。より多くの学生が朝鮮語を学ぶ機会を得られるよう、第二外国語として週4の朝鮮語を選択した学生は受講を控えるようにしてください。

この授業は"第三外国語としての朝鮮語初級2"の学習内容に続いています。半年～1年程度の学習・独学経験があり、**ハングル文字の読み書き、簡単な挨拶、自己紹介などができることを前提**として授業を進めていきますので自身の言語能力を確認した上で登録してください。**ハングル文字の読み書きができない学生は受講できません。**

本講義は週1回の授業で重要な文法内容を学習していくため一人一人の積極的な参加や取り組みが非常に重要になってきます。毎回の授業では初級文法・文型を解説し、練習問題を通じ、半年をかけ韓国語の文法能力を伸ばしていきます。随時、韓国文化の紹介なども行い、韓国という国についての理解も深めていきます。

授業の到達目標

朝鮮語の初級文法が理解でき、ある程度の文章を作って韓国語を使って話をすることができることを目標に授業を進めます。

成績評価方法

●**試験**　50%　　試験（理解度の確認1・2）を実施します。

●**レポート**　10%　　場合によって小テストやレポートを課す場合があります。
●**平常点**　30%　　出席及び授業への参加度。
●**その他**　10%　　課題提出、授業での態度、欠席、遅刻などを総合的に評価します。

備考・関連ＵＲＬ

＜留意点＞本授業は"**第二外国語で朝鮮語以外の他言語を学習した人**"のための授業です。より多くの学生が朝鮮語を学ぶ機会を得られるよう、第二外国語で朝鮮語を選択している人は受講を控えるようにしてください。なお、初級レベルの学習を終えていると判断される人は、学期の途中でもお断りすることがありますので科目登録の際はくれぐれもご注意ください。

・授業計画は履修者及び履修者のレベルによって変更することがあります。

・受講者は、3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象になりません。なお初回の授業で授業の進め方についての案内がありますので必ず出席してください。

・本授業は毎回、Waseda Moodleなどを使った資料の閲覧と事前・事後学習が必要となります。

・授業中にZOOMのブレイクアウトルーム機能を使い、グループワークを行う場合があります。

・ZOOM授業中に、画面共有やホワイトボード機能などを使用する関係上、**PCからの受講**を推奨しています。

・この授業は教室配置はありません。**全ての回に於いてZOOMオンライン**で実施されます。・本授業は、秋学期の「第三外国語としての朝鮮語初級2A」に続いています。

科 目 名	第三外国語としての朝鮮語初級3　B「第二外国語としての朝鮮語初級1，2」を履修したレベル（ハングルを読むことができ，基本的な文法事項を理解している）の授業です。ハングルが読めない方や，はじめて学習するという場合には「第二外国語としての朝鮮語初級1，2」を履修してください。							
担当者名	山崎　玲美奈							
朝語	２単位	春学期	月曜日	２時限	１年以上	―	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業は、過去に朝鮮語入門を履修、または相応の韓国語能力を保持し、ハングル文字の読み書き、及び韓国語の基礎文法を理解している学生を主な対象としています。原則として授業は対面で実施し，ペアワークや発表を含みます。

この授業は，第二外国語で朝鮮語以外の他言語を学習している学生を主な対象としています。第二外国語として週4回の朝鮮語を選択している学生、または過去に1年で必修朝鮮語を受講した学生の受講は控えるようにしてください。

この授業は既に"第三外国語としての朝鮮語初級1，2"を1年間受講したレベルの学生を対象としています。ハングルの読み書き、簡単な挨拶、自己紹介などができることを前提として授業を進めていきますので自身の朝鮮語能力を確認した上で登録してください。

本講義は週1回の授業で重要な文法内容を学習していくため一人一人の積極的な参加や取り組みが非常に重要になってきます。毎回の授業では初級文法・文型を解説し、練習問題を通じ、半年をかけ韓国語の文法能力を伸ばしていきます。随時、韓国文化の紹介なども行い、韓国という国についての理解も深めていきます。

※「A」と「B」では、テキストと担当教師が異なるので、登録時に注意してください。同じ曜日の同じ科目を、春学期・秋学期続けて受講することが望ましいです。

授業の到達目標

朝鮮語の初級文法が理解でき、ある程度の文章を使いこなすことができるようになることを目標に授業を進めます。

成績評価方法

●**試験**　60%　　第7回と第14回に試験を実施します。両方の試験を受けていない場合は，単位認定の対象となりません。
●**レポート**　20%　　適宜小テストやレポートを課します。
●**平常点**　10%　　出席及び授業への参加度。
●**その他**　10%　　課題提出、授業での態度、欠席、遅刻などを総合的に評価します。

備考・関連ＵＲＬ

この授業は第二外国語で朝鮮語以外の他言語を学習している学生を主な対象としています。より多くの学生が朝鮮語を学ぶ機会を得られるよう、第二外国語で朝鮮語を選択している学生は受講を控えるようにしてください。

この授業は"第三外国語としての朝鮮語初級1，2"を1年間受講したレベルの学生を対象としています。ハングルの読み書き、簡単な挨拶、自己紹介などができることを前提として授業を進めていきますので自身の朝鮮語能力を確認した上で登録してください。

授業計画は履修者及び履修者のレベルによって変更することがあります。

※「A」と「B」では、テキストと担当教師が異なるので、登録時に注意してください。同じ曜日の同じ科目を、春学期・秋学期続けて受講することが望ましいです。

教材のHP　https://text.asahipress.com/text-web/korean/kimchisyocyukyu/index.html

科 目 名	第三外国語としての朝鮮語初級4　A　～二外で朝鮮語以外の言語を選択した学生を対象に～【今年度より科目名が変更になっています。昨年度の"初級2"に該当する授業です】							
担当者名	岸　加那子							
朝語	２単位	秋学期	木曜日	２時限	１年以上	―	合併科目	フル【オンライン】リアルタイム配信

授業概要

この授業は、過去に朝鮮語1～3を履修、または**1年～1年半程度の韓国語学習歴のある学生を主な対象**としています。自身の言語能力を確認した上で登録してください。

授業は全ての回に於いてオンライン（ZOOM）で実施します。

この授業は**第二外国語で朝鮮語以外の他言語を選択した学生を対象**としています。より多くの学生が朝鮮語を学ぶ機会を得られるよう、**第二外国語として週4の朝鮮語を選択した学生は受講を控えるようにしてください。**

この授業は春学期の"第三外国語としての朝鮮語初級3A"の学習内容に続いています。

本講義は週1回の授業で重要な文法内容を学習していくため一人一人の積極的な参加や取り組みが非常に重要です。事前の動画視聴が必須となります。毎回の授業では練習問題を通じ、韓国語の文法能力を伸ばしていきます。随時、韓国文化の紹介なども行い、韓国という国についての理解も深めていきます。

授業の到達目標

初級文法を確実に使いこなし、朝鮮語で自分の意見や意思を伝えられることを目標に授業を進めます。

成績評価方法

●**試験**　40%　　第6回と第14回に試験を実施します。
●**レポート**　10%　　場合によって小テスト、レポートを課す場合があります。
●**平常点**　40%　　出席及び授業への参加度。
●**その他**　10%　　課題提出、授業での態度、欠席、遅刻などを総合的に評価します。

備考・関連URL

＜留意点＞

本授業は"**第二外国語で朝鮮語以外の他言語を学習した人**"のための授業です。より多くの学生が朝鮮語を学ぶ機会を得られるよう、第二外国語で朝鮮語を選択している人は受講を控えるようにしてください。なお、初級レベルの学習を終えていると判断される人は、学期の途中でもお断りすることがありますので科目登録の際はくれぐれもご注意ください。

・春学期の"第三外国語としての朝鮮語初級3"を履修した学生、または1年程度独学したレベルの学生であれば履修可能です。**ハングル文字の読み書きができない学生は受講できません。**

・授業計画は履修者及び履修者のレベルによって変更することがあります。

・受講者は、3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象になりません。なお初回の授業で授業の進め方についての案内がありますので必ず出席してください。

・本授業は毎回、Waseda Moodleなどを使った資料の閲覧と事前・事後学習が必要となります。

・授業中にZOOMのブレイクアウトルーム機能を使い、グループワークを行う場合があります。

・ZOOM授業中に、画面共有やホワイトボード機能などを使用する関係上、**PCからの受講**を推奨しています。

・この授業は教室配置はありません。**全ての回に於いてZOOMオンライン**で実施されます。

科目名	第三外国語としての朝鮮語初級4　B「第三外国語としての朝鮮語初級1，2」を履修したレベル（ハングルを読むことができ，基本的な文法事項を理解している）の授業です。ハングルが読めない方や，はじめて学習するという場合には「第三外国語としての朝鮮語初級1，2」を履修してください。							
担当者名	山崎　玲美奈							
朝語	2単位	秋学期	月曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

この授業は、**春学期の「第三外国語としての朝鮮語初級3」を履修した学生**、及び過去に他学部の朝鮮語初級を履修し基礎文法を理解している学生を対象としています。原則として授業は全ての回に於いて対面で実施します。毎回の内容には，ペアワークや発表を含みます。 本講義は週1回の授業で重要な文法内容を学習していくため一人一人の積極的な参加や取り組みが非常に重要になってきます。毎回の授業では初級文法・文型をしっかり理解してもらい、応用のための会話練習も取り入れていきます。随時、韓国文化の紹介なども行い、韓国という国についての理解も深めていきます。

この授業は、過去に「第三外国語としての朝鮮語初級1，2，3」、他学部の「朝鮮語入門」を履修、または**相応の韓国語能力を保持し、ハングル文字の読み書きはもとより、韓国語の基礎文法を理解している学生を主な対象**としています。自身の朝鮮語能力を確認した上で登録してください。

この授業は第二外国語で朝鮮語以外の他言語を学習している学生を主な対象としています。第二外国語として週4回の朝鮮語を選択している学生、または過去に1年で二外として朝鮮語を受講した学生の受講は控えるようにしてください。

※「A」と「B」では、テキストと担当教師が異なるので、登録時に注意してください。同じ曜日の同じ科目を、春学期・秋学期続けて受講することが望ましいです。

授業の到達目標

初級文法を確実に使いこなし、朝鮮語で自分の意見や意思を伝えられることを目標に授業を進めます。

成績評価方法

●**試験**　60%　　第7回と第14回に試験を実施します。両方の試験を受けていない場合は，単位認定の対象となりません。
●**レポート**　20%　　適宜小テストやレポートを課します。
●**平常点**　10%　　出席及び授業への参加度。
●**その他**　10%　　課題提出、授業での態度、欠席、遅刻などを総合的に評価します。

備考・関連URL

教材のHP　https://text.asahipress.com/text-web/korean/kimchisyocyukyu/index.html

この授業は第二外国語で朝鮮語以外の他言語を学習している学生を主な対象としています。

春学期の"第三外国語としての朝鮮語初級1，2，3"を履修した学生、または1年程度独学したレベルの学生であれば履修可能です。**ハングル文字の読み書きができない学生は受講できません。**

より多くの学生が朝鮮語を学ぶ機会を得られるよう、1年次に第二外国語で週4回の朝鮮語授業を受講した場合は受講を控えるようにしてください。

1年次に朝鮮語を受講していた学生で、やむを得ずこの授業を登録したいという学生は必ず事前に相談してください。

※「A」と「B」では、テキストと担当教師が異なるので、登録時に注意してください。同じ曜日の同じ科目を、春学期・秋学期続けて受講することが望ましいです。

授業計画は履修者及び履修者のレベルによって変更することがあります。

科目名	時事朝鮮語2							
担当者名	印　省熙							
朝語	2単位	秋学期	水曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	フル【オンライン】リアルタイム配信

授業概要

本授業は、「時事朝鮮語1」に続き、韓国のニュースを通して時事関連内容を習得し、時事韓国語の習得を目指します。

毎回、事前学習が必要で、時事関連の発表や課題のクリアが必要です。

授業では討論も多く、積極的な参加が求められます。

授業の到達目標

韓国のニュース記事を中心に時事内容を学びながら、上級レベルのリスニング・スピーキング能力の習得を目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　出席、授業への参加度、小テスト、課題、中間発表、期末レポートなどで総合的に判断します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

受講者のレベルや参加者によって、上記の授業計画は変更になることがあります。
春学期に「時事朝鮮語1」を受講しておくことをお勧めします。
本授業は対話型・問題発見・解決型教育の手法を導入しており、Waseda Moodleを利用した自律学習を促しています。課題などWaseda Moodleに提出することが求められます。
＜留意点＞　本授業は、基本的にオンライン（リアルタイム配信）で実施する予定です。オンライン授業では「video on、マイク　on, PCで静かな環境で受講」する必要があります。なお、必要に応じて対面授業を実施することがありますが、受講者と相談して決めます。
受講希望者は最初の授業から課題が出るので、出席してください。 授業ではハングルタイピングが必要です。
3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象になりません。

科 目 名	アラビア語で表現する（中級会話・作文）1							
担当者名	スライマーン　アラーエルディーン							
アラ語	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本授業は会話と作文を中心に行います。基本的に1年でアラビア語（Step1）と（Step2）を受講した学生だけでなく、アラビア語の基本的な文法と語彙の知識があり、語彙力や作文の能力を向上させたい人も大歓迎です。 授業の進み方：語彙や表現力を向上させるために一つのテーマを取り上げ、必要な語彙と表現を学び、授業中の会話と作文の練習を通じて、スピーキングとライティングの能力を向上させます。
この授業での「質問」はあくまでも「アラビア語を話すための手段」なので、本当のことを言わなくても良いし、自分はそう思っていなくても良いです。アラビア語を使って積極的に話したり、作文を書いたりすることが重要です。
※本授業は会話と作文を中心に行います。読解力の向上には「アラビア語中級（読解・作文)」、音読・聴解・表現力の向上には「アラビア語中級（時事アラビア語)」を併せて履修することで、全体としてのアラビア語能力の向上につながることが期待されます。

授業の到達目標

自分や他人の経験・行為・習慣・趣味・今後の予定や周囲に存在する物や場所などについての必要な語彙と表現を習得し、それらの事柄について会話と文章で表現することができるようになります。

成績評価方法

●**試験**　0%　　各期末に理解度を確認します。
●**レポート**　50%　　取り上げたテーマの中から一つを選び、それについて作文を書く。
●**平常点**　50%　　出欠席、授業への参加意欲などをもとに総合的に判断します。
●**その他**　0%　　評価はレポートと平常点で行います。

科 目 名	アラビア語で表現する（中級会話・作文）2							
担当者名	スライマーン　アラーエルディーン							
アラ語	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本授業は会話と作文を中心に行います。基本的に1年でアラビア語（Step1）と（Step2）を受講した学生だけでなく、アラビア語の基本的な文法と語彙の知識があり、語彙力や作文の能力を向上させたい人も大歓迎です。 授業の進み方：語彙や表現力を向上させるために一つのテーマを取り上げ、必要な語彙と表現を学び、授業中の会話と作文の練習を通じて、スピーキングとライティングの能力を向上させます。
この授業での「質問」はあくまでも「アラビア語を話すための手段」なので、本当のことを言わなくても良いし、自分はそう思っていなくても良いです。アラビア語を使って積極的に話したり、作文を書いたりすることが重要です。
※本授業は会話と作文を中心に行います。読解力の向上には「アラビア語中級（読解・作文)」、音読・聴解・表現力の向上には「アラビア語中級（時事アラビア語)」を併せて履修することで、全体としてのアラビア語能力の向上につながることが期待されます。

授業の到達目標

自分や他人の経験・行為・習慣・趣味・今後の予定や周囲に存在する物や場所などについての必要な語彙と表現を習得し、それらの事柄について会話と文章で表現することができるようになります。

成績評価方法

●**試験**　0%　　各期末に理解度を確認します。
●**レポート**　50%　　取り上げたテーマの中から一つを選び、それについて作文を書く。
●**平常点**　50%　　出欠席、授業への参加意欲などをもとに総合的に判断します。
●**その他**　0%　　評価はレポートと平常点で行います。

科 目 名	アラビア語を読む（中級）1							
担当者名	杉本　悠子							
アラ語	2単位	春学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

初級文法を学んだ学生を対象とした授業です。本授業では、テキストの読解を主に行います。現代の短編小説、新聞記事、エッセイ、物語や教科書等様々なジャンルのテキストの読解と共に基本的な文法事項の復習も行ないます。

各テキストに関し、単語と文法事項を中心に練習問題を出題します。

*本授業は読解を中心です。会話のアウトプット能力を向上させるには「アラビア語中級（会話）」、音読・聴解・表現力の向上には「アラビア語中級（時事アラビア語）」を併せて履修することで、全体としてのアラビア語能力の向上につながることが期待されます。

授業の到達目標

①辞書を引いて独力で単語の意味を調べられるようになる
②CEFR A2レベルの語彙力を身に着ける
③読解した文章の内容を端的に要約できるようになる

成績評価方法

●**試験**　50%　　第14回目の授業内で実施する理解度確認テスト：30%
授業内で実施する小テスト（練習問題）：20%
●**レポート**　20%　　課題の提出状況と内容で評価
●**平常点**　30%　　授業への参加度、予習状況等を総合的に評価
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	アラビア語を読む（中級）2							
担当者名	杉本　悠子							
アラ語	2単位	秋学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

アラビア語を読む中級（1）に引き続き、様々なジャンルのテキスト読解を行ないます。読解が主ですが、必要に応じて文法事項の解説も行ないます。

アラビア語を読む中級（1）と比較すると長いテキストの読解を行なうため、授業は輪読形式が主となります。

（基本的に毎回予習が必要です）

テキストは、物語やエッセイ、短編小説、現地学学校のテキスト等の他、新聞の論説・コラムも扱い、現在中東およびイスラーム圏で起こっている出来事に

対して知見を広める機会の提供を行います。

また、テキストの内容の理解度の確認問題と単語テストをテキスト毎に出題します。

*本授業は読解を中心に行います。会話のアウトプット能力を向上させるには「アラビア語中級（会話）」、音読・聴解・表現力の向上には「アラビア語中級（時事アラビア語）」を併せて履修することで、全体としてのアラビア語能力の向上につながることが期待されます。

授業の到達目標

①辞書を使いながら、一人である程度の長さのテキストを読解できるようになる
②CEFR A2レベルの語彙力を身に着ける

成績評価方法

●**試験**　50%　　第14回の授業時間内に実施する理解度確認テスト：30%
授業内で行う練習問題：20%
●**レポート**　20%　　練習問題・課題の提出状況・内容で評価
●**平常点**　30%　　授業への参加度、予習状況等を総合的に評価
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	ニュース・メディアで学ぶアラブ世界（時事アラビア語）1							
担当者名	冨永　正人							
アラ語	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

1. アラビア語メディアの見出しの読解。記事の概要をまとめ、背景について調べて日本語で発表。
2. アラブ世界の時事や文化に関するアラビア語の動画の視聴。語彙や文型の応用練習。

授業の到達目標

1. 自分が関心あるテーマについて、アラビア語のテクストから必要な情報を取り出すことができる。（CEFR A2レベル）
2. 映像と音声による説明が重なる動画を視聴して、要点が理解できる。（CEFR A2レベル）
3. アラブ世界の時事や文化への関心を高め、理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　30%　　見出しや動画で学んだアラビア語が身についたか確認する試験を行います。
●**レポート**　20%　　アラブ世界の時事や文化に関し、自らテーマを選んで日本語でまとめ、発表してもらいます。
●**平常点**　20%　　毎回の小テストや授業への参加状況、貢献度をもとに評価します。
●**その他**　30%　　動画のスクリプトや見出しを音読した音声ファイルを提出してもらいます。

備考・関連ＵＲＬ

授業計画は、あくまでも扱うテーマの目安です。世間の耳目を集める最新の時事問題をタイムリーに扱い、履修生の興味関心に応えられるよう、随時変更を加えていきます。

科 目 名	ニュース・メディアで学ぶアラブ世界（時事アラビア語）2							
担当者名	冨永　正人							
アラ語	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

1. アラビア語メディアの見出しや記事の読解。背景について調べて日本語で発表。2. アラブ世界の時事や文化に関するアラビア語の動画の視聴。語彙や文型の応用練習。

授業の到達目標

1. 自分が関心あるテーマについて、アラビア語のテクストから必要な情報を取り出すことができる。（CEFR A2レベル）
2. 映像と音声による説明が重なる動画を視聴して、要点が理解できる。（CEFR A2レベル）
3. アラブ世界の時事や文化への関心を高め、理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　30%　　見出しや動画で学んだアラビア語が身についたか確認する試験を行います。
●**レポート**　20%　　アラブ世界の時事や文化に関し、自らテーマを選んで日本語でまとめ、発表してもらいます。
●**平常点**　20%　　毎回の小テストや授業への参加状況、貢献度をもとに評価します。
●**その他**　30%　　動画のスクリプトや見出しを音読した音声ファイルを提出してもらいます。

備考・関連URL

授業計画は、あくまでも扱うテーマの目安です。世間の耳目を集める最新の時事問題をタイムリーに扱い、履修生の興味関心に応えられるよう、随時変更を加えていきます。

科 目 名	アラビア語で表現する（上級会話・作文）1							
担当者名	スライマーン　アラーエルディーン							
アラ語	2単位	春学期	金曜日	3時限	3年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本授業は会話と作文を中心に行います。授業の進み方：語彙や表現力を向上させるために一つのテーマを取り上げ、必要な語彙と表現を学び、授業中の会話と作文の練習を通じて、スピーキングとライティングの能力を向上させます。※本授業は会話を中心に行います。「アラビア語上級（読解）」の授業を併せて履修することで、全体としてのアラビア語能力の向上が期待されます。

授業の到達目標

抽象的なことや具体的なことと出来事について詳細に語ったり、自分の意見や理由を説明したり、他人の意見に対して自分はどのように考えているのかを表現できるレベルを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　ありません。
●**レポート**　50%　　授業で取り上げたテーマの中から一つを選び、それについて作文を書きます。
●**平常点**　50%　　出欠席、授業への参加意欲などをもとに総合的に判断します。
●**その他**　0%　　評価はレポートと平常点で行います。

科 目 名	アラビア語で表現する（上級会話・作文）2							
担当者名	スライマーン　アラーエルディーン							
アラ語	2単位	秋学期	金曜日	3時限	3年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本授業は会話と作文を中心に行います。授業の進み方：語彙や表現力を向上させるために一つのテーマを取り上げ、必要な語彙と表現を学び、授業中の会話と作文の練習を通じて、スピーキングとライティングの能力を向上させます。※本授業は会話を中心に行います。「アラビア語上級（読解）」の授業を併せて履修することで、全体としてのアラビア語能力の向上が期待されます。

授業の到達目標

抽象的なことや具体的なことと出来事について詳細に語ったり、自分の意見や理由を説明したり、他人の意見に対して自分はどのように考えているのかを表現できるレベルを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　ありません。
●**レポート**　50%　　授業で取り上げたテーマの中から一つを選び、それについて作文を書きます。
●**平常点**　50%　　出欠席、授業への参加意欲などをもとに総合的に判断します。
●**その他**　0%　　評価はレポートと平常点で行います。

科 目 名	アラビア語を読む（上級）1							
担当者名	中野　さやか							
アラ語	2単位	春学期	水曜日	3時限	3年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

アラビア語初級文法を学んだ学生を対象とします。授業は文章読解を中心的に行います。

文章は「古典作品」「現代文学」「報道」「オンライン上の文章」の4種類を用意し、クルアーンから現代文学までの有名作品のハイライトシーンや最新のニュース、アラビア語のウィキペディアを取り上げ、多様な文章を読み慣れるようにします。 講師が用意する文章以外にも、受講生が希望する文章がある場合、他の受講生の同意を得られたら講読します。和訳や英訳が存在するアラビア語作品の講読も受け付けます。その場合は日本語訳や英訳と自分たちの翻訳を比較し、相違点を確認します。

講読する文章は原則として母音記号のないものであり、担当を決めて輪読します。担当は文章に母音記号を振り和訳を作成し

ます。
担当箇所の和訳や母音記号の正確さはあまり求めません。授業で文法や文脈に沿った読み方を指導し、間違えた箇所に関連する課題を出すので、「間違えて訂正を受け、練習問題を行う」ことを繰り返してアラビア語読解能力を向上させていくことを目指します。
また読解に役立つ文法事項の解説動画をムードルに上げるので（視聴は自由）、希望者には文法問題の課題を出します。
※本授業は読解を中心に行います。会話力の向上には「アラビア語上級（会話）」を併せて履修することで、全体としてのアラビア語能力の向上につながることが期待されます。

授業の到達目標

多様なアラビア語の文章を辞書や文法解説書を使いながら読めるようにする。
重要な語彙や頻出表現を用いた作文をできるようにする。（CEFR　B1レベル）

成績評価方法

●**試験**　20%　　学期末に課題を出し、それを試験とみなします。読解してきた文章に関連する課題です。
●**レポート**　20%　　読解する文章のシャクルと和訳をレポートとみなします。
●**平常点**　10%　　授業への参加度。
●**その他**　50%　　授業毎に出す課題の提出。

科 目 名	アラビア語を読む（上級）２							
担当者名	中野　さやか							
アラ語	２単位	秋学期	水曜日	３時限	３年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

アラビア語初級文法を学んだ学生を対象とします。読解力と表現力を延ばすために、文章読解と、読解した文章に関連した課題を出します。
文章は「古典作品」「現代文学」「報道」「オンライン上の文章」の4種類を用意し、クルアーンから現代文学までの有名作品のハイライトシーンや最新のニュース、アラビア語のウィキペディアを取り上げ、多様な文章を読み慣れるようにします。 講師が用意する文章以外にも、受講生が希望する文章がある場合、他の受講生の同意を得られたら講読します。和訳や英訳が存在するアラビア語作品も受け付けます。その場合は日本語訳や英訳と自分たちの翻訳を比較し、相違点を確認します。
講読する文章は原則として母音記号のないものであり、担当を決めて輪読します。担当は文章に母音記号を振り和訳を作成します。 授業中に講読した文章の表現を利用した作文や同じ文章構造の短文の和訳を課題として全員に出します。
担当箇所の和訳や母音記号の正確さはあまり求めません。授業で文法や文脈に沿った読み方を指導し、間違えた箇所に関連する課題を出すので、「間違えて訂正を受け、練習問題を行う」ことを繰り返してアラビア語読解能力を向上させていくことを目指します。
また読解に役立つ文法事項の解説動画をムードルに上げるので（視聴は自由）、希望者には文法問題の課題を出します。※本授業は読解を中心に行います。会話力の向上には「アラビア語上級（会話）」を併せて履修することで、全体としてのアラビア語能力の向上につながることが期待されます。

授業の到達目標

多様なアラビア語の文章を辞書や文法解説書を使いながら読めるようにする。
頻出表現を用いた作文をできるようにする。（CEFR B1レベル）

成績評価方法

●**試験**　20%　　学期末に行う課題をテストとみなします。
●**レポート**　20%　　読解する文章の担当箇所に振った母音記号と和訳をレポートと見なします。
●**平常点**　10%　　授業への参加度。
●**その他**　50%　　授業毎に出す課題の提出。

講 義 内 容

専　門　演　習

科 目 名	多元文化論系演習（古典中国の史学思想） 中国正史に記された日本							
担当者名	渡邉　義浩							
多元	２単位	春学期	木曜日	４時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

中国の二十四史と総称される正史には、日本に関する記述があります。最も有名な魏志倭人伝をはじめ、それらの資料は日本をどのように描いているのでしょうか。『漢書』から始まる、日本の記録を時代を追って、白文から読んでいきます。

例年の「楽タン」とは異なり、白文から漢文を読んでいくので、漢文読解の知識、ならびに東アジアの国際関係への興味が必要です。レポートなどで評価をせず、毎時間、出席していただき、漢文を輪読して、そのときの読みにより評価をしますので、毎回の出席が難しい方は、受講を控えてください。 わたしの専門は中国なので、日本史に詳しくありません。日本史専攻者が受講してくれることは、とても歓迎しますので、よろしくお願いいたします。

授業の到達目標

中国史における日本への理解を深めます。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はいたしません。
●**レポート**　0%　　レポートの提出は求めません。
●**平常点**　100%　　輪読（白文の訓読、翻訳などを出席者に当てて読んでもらいます）の読め方により評価する。
●**その他**　0%　　その他はありません。

備考・関連ＵＲＬ

ありません。

科 目 名	多元文化論系演習（中国現代文化）							
担当者名	高屋　亜希							
多元	２単位	秋学期	金曜日	５時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

現代中国についてさまざまな情報が溢れていますが、政治や経済などの情報に比べ現代文化について触れる機会は限られているのではないでしょうか？映画や文学、アートなど、現代中国が生み出してきた文化の中には世界的に評価されているものがたくさんあります。近年ではSFやアニメなどにも注目が集まっています。本演習では中国現代文化の実践、その社会的背景や歴史的経緯、文化を支える社会制度やその改革、海外文化との関係などについて、具体的例に即してさまざまな視点から検討していきます。

本演習は、受講者の発表を中心に進めます。扱うジャンルはメディア・映画・建築・美術・文学など、受講者の興味・関心に応じて相談し決めていく予定です。

授業の到達目標

本演習の目標は、中国現代文化の具体的な作品や現象に触れ、その社会的背景や歴史的経緯について理解を深めることです。またそれを踏まえた上で、個々の文化事象や作品を社会的にどう位置づけたらよいのか、考える力を養うことを目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　授業内で発表したアウトラインを修正し、レポート（2000字以上）にまとめてもらいます。幅広く資料調査を行った上で、独自の視点から考察してあるものを評価します。
●**平常点**　50%　　出席を重視する他、発表（レポートのアウトライン）の内容、質疑応答など授業への積極性を評価します。3分の2以上の出席が評価の対象となる他、授業内で必ず1回発表してもらいます。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連ＵＲＬ

中国語の知識は特に求めませんが、日本語で読める中国現代文化の資料は限られています。中国語資料を積極的に利用することを期待しています。

科 目 名	多元文化論系演習（現代英語圏フィクション） 20世紀初頭のイギリス小説を精読する							
担当者名	大江　公樹							
多元	２単位	春学期	月曜日	５時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

イギリス人作家D. H ロレンス（1885~1930）により1914年に書かれた短篇小説 “The Shadow in the Rose Garden”（「薔薇園の影」）、同じく1914年に出版されたジェイムズ·ジョイス（1882-1941）の*Dubliners*（『ダブリン市民』）より “The Dead”（「死せる者たち」）の章を精読して、考へたことを発表する。若い男女の間の亀裂を徹底的に見つめようとした “The Shadow in the Rose Garden”、同じく若い男女の亀裂を扱ひつつも異なる展開を見せる “The Daad”、さらに終盤で扱ふ予定のT. S. エリオットによる批評を読むことは、イギリス文化、アイルランド文化の多様性と本質について思索する上での一助になるであらう。

本演習の軸は精読とディスカッション・発表である。軸の前者に関していへば、本演習は特に中盤まで、わづか十数頁の短編を毎回一、二頁づつ、じつくりと予習してもらふことになる。「タイパ」、「コスパ」が重視される現代であるが、それに真向から反する営みである精読に挑戦し、時間をかけて何ものかを発見する体験をして欲しい。後者については、授業前にグループごとにMoodleでディスカッションをして、授業では各グループごとに発表してもらふ。

授業の到達目標

物事に対してじつくり向き合ふ態度を養ふこと。イギリス文学を読み、自らの生き方を考へること。

成績評価方法

●**試験**　60%　　12回目の授業の日に試験をして、理解度を確認します。
●**レポート**　0%　　なし

●**平常点**　40%　　グループ発表、ディスカッションなどの activity を総合的に判断します。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	多元文化論系演習（現代ヨーロッパの諸問題）　ホロコーストと現代							
担当者名	武井　彩佳							
多元	２単位	春学期	金曜日	３時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要
ホロコーストは、戦後世界の形成に大きな影響を与えた。それは中東における「ユダヤ人国家」の建国と現代まで続くイスラエル=パレスチナ問題のみならず、国際法の発展、文化・芸術における過去の表象、歴史認識、ヨーロッパ社会内での移民同士の関係など、実に多岐にわたる。こうした戦後世界の様相を、ホロコースト後の世界という切り口で読み取り、これにより現在生じているねじれや歪みについても考える。

授業の到達目標
自らテーマを設定し報告を行うことを通して、ホロコーストの余波が現代世界の構造にどのような影響を与えてきたのか理解する。

成績評価方法
●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　30%　　自身で設定したテーマでの報告をその内容によって評価する。自分で文献を検討できているか、どのような情報に寄与しているかが氷解基準となる。
必ず初回の授業でのテーマ設定に参加すること。
●**平常点**　42%　　授業参加に対する平常点評価。1回の出席につき3点。遅刻者は出席点は半分。
●**その他**　28%　　毎回のリアクションペーパーを0〜2点で採点。

備考・関連ＵＲＬ
初回の授業で報告のテーマを選び、役割分担を決定します。何らかの理由により初回に出席できない人は報告の機会がなくなる可能性があるため留意すること。

科 目 名	多元文化論系演習（北欧文化）　北欧史及び北欧言語文化入門							
担当者名	成川　岳大							
多元	２単位	秋学期	月曜日	４時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要
本演習では、受講者が北欧について研究するための基礎的な知識及び分析方法を学び、社会、政治、文化などさまざまな観点から検討する。これまで「北欧」は、あたかも定まらないイデオロギーのモデルのようにイメージ先行で語られてきたが、現状の把握に努めた上で、北欧諸国が乗り越えてきた歴史的課題から現在抱えている問題までを実態に即して理解する。

授業の到達目標
履修者が、北欧前近代史から現代の北欧史、社会、文化などについて、既存のイメージから脱却して体系的に分析する視座を養うことを目標とする。

成績評価方法
●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　30%　　- 国内および英語における研究水準を踏まえた上で、当該テーマについての動向を適切に整理できているか。
●**平常点**　70%　　- 購読対象文献の要約を適切に行えているか（50%）
- 教室内での議論に積極的に参加、コメントできているか（20%）
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	多元文化論系演習（西洋古典研究）　ギリシア・ローマの歴史家と歴史書							
担当者名	井上　文則							
多元	２単位	春学期	水曜日	１時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要
古代ギリシアは、歴史学発祥の地であり、数多くの歴史書が書かれた。またギリシアの影響を受けてた古代ローマにおいても歴史書は多数著された。本演習では、ギリシア・ローマの代表的な歴史家と歴史書を各回のテーマとして設定し、受講生にはそのテーマに関連した報告をしてもらい、討論する。

授業の到達目標
西洋古典全般についての知見を深めるとともに、ギリシア・ローマ史についての知見を深める。

成績評価方法
●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　40%　　4000字程度のレポートを課し、その内容によって評価する。
●**平常点**　60%　　発表・討論内容によって評価する。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	多元文化論系演習（経書研究）　魏晋期の注釈を読む							
担当者名	伊藤　涼							
多元	２単位	秋学期	水曜日	２時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要
中国古典は、注釈を通じて読解することでその内容を深く理解することができる。本授業では、魏晋期の思想家である何晏、

王弼、郭象の注釈、すなわち『論語集解』『老子』注、『荘子』注を精読して、その思想的背景と解釈の特徴を詳細に検討する。これらの注釈は、単なる原典の解釈にとどまらず、注釈者自身の思想や時代背景を反映して体系的な内容が構築されており、中国思想史の展開において重要な意義を持つ。本授業では、これらの注釈を通じて、中国古典における注釈の役割を理解するとともに、何晏・王弼・郭象の思想内容やその思想史的意義を探究することを目指す。

授業の到達目標

1.中国古典における注釈の重要性とその役割を理解する。
2.何晏・王弼・郭象の注釈に記された思想の内容と特徴を正確に理解する。
3.魏晋期の思想が中国思想に与えた影響を考察し、思想史的意義を論じる力を養う。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません。
●**レポート**　80%　　レポートの提出を求めます。詳しい内容は授業中に指示します。
●**平常点**　20%　　授業中にコメントペーパーの記入をしてもらいます。また、漢文訓読をしてもらう場合があるのでそれで判断します。
●**その他**　0%　　その他はありません。

備考・関連URL

ありません。

科 目 名	多元文化論系演習（超領域的伝統形成）『伝習録』を読む―陽明学の世界―							
担当者名	永冨　青地							
多元	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	―	―	フル【オンライン】リアルタイム配信

授業概要

陽明学は明代中期に誕生し、明代後期、そして江戸期の日本の思想界に大きな刺激を与えた。
本演習では、江戸期に刊行された和刻本によって、陽明学の基本的文献である『伝習録』の下巻を読んでいく。
本演習の内容は、中国思想および江戸期の思想に興味を有する学生にとって有用であると信じる。
意欲のある学生諸君の参加を得れば幸いである。

授業の到達目標

和刻本とそれに付された注釈とによって、思想的文献の読解を可能とすることを目指す。

成績評価方法

授業中の応答に、出欠および遅刻（遅刻及び早退は、二分の一欠席の扱いとする）などを加味して評価を行う。予習は必須である。従って、予習していない学生は欠席扱いとする。欠席および欠席扱いの回数が授業回数（十四回）の三分の一以上の学生は成績評価の対象としない。

備考・関連URL

授業は原則としてズームで行う。 アドレスなどは、ムードルのアナウンスメント機能で連絡する。 本科目は演習形式で行うため、ズームでの画面は必ずミュートを解除しておくこと。画面がミュートにしてある場合には、常時予告なしに減点する
（音声は指名されたときのみミュートを解除）。
教科書欄に記入した画像データを必ずダウンロードし、
『新字源』（改訂新版、角川書店）で予習すること（一回、6ページ程度を予定）。予習していない学生は警告なしに欠席扱いとする。

科 目 名	多元文化論系演習（東アジアの伝統と宗教文化）							
担当者名	原　信太郎　アレシャンドレ							
多元	2単位	春学期	金曜日	1時限	2年以上	―	―	フル【対面】

授業概要

朱子学は近代以前の東アジアにおいて正統かつ規範的な教学として学ばれ、絶大な影響力を持った。本科目では、朱子学の基本構成を概観した上で、その祖である朱熹（1130～1200）が著した『大学』の注釈書である『大学章句』を精読する。『大学』は経書のなかでも最初に読み解かれるべきとされ、個人の修養が、やがて「治国平天下」を実現するまでのプロセス――いわば学問の全体図を示したものである。朱熹はその注釈書『大学章句』を死の直前まで改稿していたとされ、朱熹畢生の著作といっても過言ではない。この授業では古典中国語（漢文）で書かれた訓点付きの原典を読んでいくが、履修にあたっては漢文の知識は必須ではなく、授業や予習・復習のなかで習得してほしい。

授業の到達目標

本授業では、以下の項目を到達目標とする。
（1）東アジアの知的基盤の1つとなってきた朱子学について、理解を深める。
（2）それにより、われわれの価値観に影響を与えている儒教的なるものを自覚化する。
（3）古典中国語（漢文）の原典を読解する力を養う。

成績評価方法

●**試験**　20%　　第7回もしくは第8回に小テストを実施、理解度を確認する。
●**レポート**　40%　　授業で取り扱った朱子学もしくは儒教に関連するテーマを各自で設定、レポートを出してもらう。
●**平常点**　40%　　授業中の発言や授業参加度等を総合的に勘案する。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	多元文化論系演習（日本宗教の伝統と変容） 日本古代・中世の神社縁起を読む							
担当者名	吉原　浩人							
多元	２単位	秋学期	火曜日	４時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

《注意》

本演習は、一人一回の発表を義務づけており、発表日程は10月の第2回授業時に決定します。発表の直前になって就職活動などのため、日程変更を申し出る学生が時折います。二週間以上前ならば対応できますが、直前の申し出には対応できません。そのような可能性のある学生は、登録を遠慮してください。

《内容》

本演習では、日本宗教の伝統と、その変容に関しての、さまざまな事象を取りあげます。本年度は、日本古代・中世の神社縁起を対象に、神道の展開について考えるための演習とします。中世の神道と文学を考える上で最も重要なのは、神社の創建伝承を記した縁起類です。特に、異常な出自を持つ主人公が、様々な艱難辛苦を経て、神仏の加護により救済され、やがて神として祝われるという、霊格の始原と現在の霊験のあらたかさを語る共通構造を持った物語群は、「中世神話」とも称されます。

こういった物語群は、『神道集』という書物に多く収載されています。それ以外にも、個別の寺社縁起はもとより、軍記物語や、お伽草子・説経・幸若といったジャンルの作品にも含まれています。

古代から中世にかけて、日本人はどのように宗教に接してきたのでしょうか。異なる成立の背景を持った宗教や思想に対して、前近代の人々はどのように対処していったのでしょうか。その形成過程をたどることで、現代に生きる我々に繋がる、精神の歴史を探っていきたいと思います。

具体的には、以下の方法で演習を進めていきます。まず、【仏教の基本―輪廻転生と解脱―】【神道とは何か①】【神道と何か②】というオンデマンドコンテンツを視聴して、本演習を受講する上での基礎知識を身につけてもらいます。さらに、八幡と天神という、日本を代表する神格の由来や物語について、紹介していきます。

これらを前提として、学生の皆さんには、自らが興味を持つ神社の由緒や縁起について、詳しく調べて発表してもらいます。想定しているのは、伊勢信仰・春日信仰・稲荷信仰・熊野信仰など、諸社に対する古文献や縁起などに関するものですが、地元の神社について詳しく調べることを希望するなど、他に積極的な興味の対象があれば、適宜対応いたします。毎回の学生の皆さんによる発表と、全員参加の質疑・討論により授業を進めていくため、積極的に授業に参加することが必要になります。出席者全員に発言を求めることを理解した上で、登録してください。

なおオンデマンド講義により、日本思想・仏教・文学に関連する辞書の使用法、インターネットと図書館を利用した参考文献の検索、レポートの書き方のコンテンツを視聴してもらいます。これらは授業開始時から随時参照できるように設定します。

授業の到達目標

本演習は、学生が自ら調査したことを発表することによって、出自や国籍を問わず、それぞれのアイデンティティを確認し、広く日本の前近代の宗教世界を知ることを目的としています。日本古代・中世の神社の縁起を深く読むことで、日本人が過去に何を考えてきたか知り、あるいは自らの郷土の信仰についても深く探求する契機になるでしょう。

成績評価方法

レポート60%：各自の発表についての4,000字程度のレポート1回を課します。詳細は、Waseda Moodleによって指示します。

平常点評価40%：毎回、学生の発表についての感想文提出を義務づけます。発表内容を重視しますが、質問を積極的に行い、授業に参加する態度も採点に加味します。オンデマンド講義視聴を含め、三分の二（9回）以上の出席が、単位授与の必要条件となります。

備考・関連ＵＲＬ

原典を提示して読解するので、高等学校卒業程度の古文・漢文の基礎知識が必要です。しかし、初学者でも不安を持つ必要はありません。意欲ある学生の受講を望みます。例年、発表の義務を果たさず、他の学生に迷惑をかける学生が一定数いるため、勉学に対する意欲を持つ学生のみ、登録してください。

科 目 名	多元文化論系演習（南蛮史料論） 南蛮史料学入門							
担当者名	伊川　健二							
多元	２単位	春学期	火曜日	４時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

日本にはじめてポルトガル人が到達したのは1540年代の前半のことである。それから江戸時代となりポルトガル船の入港が禁止されるまでの約100年間を、研究の世界ではしばしば「キリシタンの世紀」とよぶ。ヨーロッパ史の文脈からは、「拡張史」といわれることもある。日本史の視覚からは、あえて「南蛮」の時代とよぶことにしたい。本演習では、この時代を本格的に研究するために必要な基礎を、原則として日本語にて、平易に解説し、関係文献を解説とともに読んでいく。内容は、授業計画欄記載のとおり、16世紀を中心として、鉄砲（炮）伝来やザビエル来日など、高校までの学習でなじみ深いものから、海外における史料所在状況などの専門的な内容におよぶ予定である。本シラバスの記載内容は、受講者数、希望などにより変更することがありうる。

授業の到達目標

概要および授業計画において記載した内容に関連する文献を、少人数の受講者とともに日本語で読み、問題点について議論をし、主体的に検索する経験をすることで、本領域を研究する基礎を醸成する。当領域に強い関心を有する、とくに2年生の受講を歓迎する。受講者は少人数であることを想定しているが、多人数に及んだ場合には口頭発表を割り当てるなどの方法に変更することがありうる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　70%　　演習における口頭発表および配布資料
●**平常点**　30%　　参加度
●**その他**　0%　　※ただし、授業の到達目標において「多人数に及んだ場合」と規定する状況となった際、以下の条件にひとつでも当てはまる者は、原則として事情の如何を問わず不合格とする。「多人数」とは10名程度を超える人数とする。

・初回の割振りに欠席した者
・発表担当回のうち1回でも欠席、あるいは出席しても発表できなかった者

備考・関連URL

・本科目は、コロナ禍により不可能と判断される場合を除いて、すべての回を対面により実施する。
・授業初回以降の受講登録が可能な場合は、初回で割振りを確定させるため、割当て人数の少ない日程のみが発表日の選択肢となることがありうる。この場合に限り、前項の不合格要件のうち「初回の割振りに欠席した者」は適用しない。
・出席はMoodleへの登録のみにより確認する。教室内でインターネットに接続可能な環境を各自で整えること。当該時間中に登録しなかった／できなかった場合の補填措置は、事情の如何に関わらずおこなわない。
・授業当日（0時以降）の問い合わせには、原則として応対しない。

科 目 名	多元文化論系演習（東アジアの国際秩序） 遼・宋・西夏・金時代の多国体制							
担当者名	鄒　笛							
多元	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

【趣旨】
国際秩序は、国家と国家との関係を反映する一方、その形成・維持、及び変化は、それぞれの国家の政治・経済・軍事などの様々な要素が働いた結果でもある。この演習では、東アジア地域において遼・宋・西夏・金などの諸政権が共存する時期（10～13世紀）に焦点を当て、多国体制の形成・継続・変化を観察する。
具体的には、「華と夷：制度・文化・軍事」、「多国共存体制」、「国際秩序の維持と変化」の3つのサブテーマを立てて、それぞれのテーマにかかわる代表的な先行研究の講読を行う。それを出発点にし、近世以降の東アジアの歴史の推移、特に現在の東アジアの国際関係のあり方について考える。
【進め方】
各受講者が配布されるテキストを参照・利用しつつ適当な論題を設定して発表を行い、それをもとに質疑応答・討論を行う。
この科目は、「ディプロマポリシー」および「カリキュラムポリシー」にいう「専門演習」に該当する。

授業の到達目標

近世以降の東アジアにおける国際秩序の実相を、ダイナミックに変化する過程として理解し、現在の国際秩序に対する認識につながることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　50%　　期末に授業時の発表内容を基礎としたレポートを提出してもらう。テーマ設定の明確さ、テキスト・先行研究の読み込みの程度、論理構成、オリジナリティを総合的に評価する。
●**平常点**　50%　　授業時の発表内容、討論への参加度等による。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

日程や発表のトピックスは、受講者数や各人の希望などに応じて適宜調整していく。

科 目 名	多元文化論系演習（仏教文化交流） 『今昔物語集』天竺部巻三と巻四を読む							
担当者名	櫻本　香織							
多元	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

【注意】
本演習は、一人一回の発表を義務づけており、発表日程は4月に決定します。発表の直前になって就職活動などのため、日程変更を申し出る学生が時折います。二週間以上前ならば対応できますが、直前の申し出には対応できません。そのような可能性のある学生は、登録を遠慮してください。
【校外学習】
本演習は、多元文化論系の「文化交流創成コーディネーター資格」認定制度2025の選択科目として指定されています。仏教文化交流を、仏像や絵画、茶道具などの文物を鑑賞することによって体感してもらうため、東京国立博物館などにおいて二回の、校外学習（フィールドワーク）を実施します。座学の演習に振り替える形で、多くの学生が参加できる時間帯に設定します。指定日時に授業などで参加できない学生は、その週の都合のよい時間に参観してもらいます。早稲田大学学生は、「東京国立博物館キャンパスメンバーズ」となっており、特別展以外は無料のため、参観の際には学生証を忘れないでください。
【内容】
本演習では、大陸と日本の仏教文化交流についての、さまざまな事象を取りあげます。本年度は、仏教あるいは中国の文化が、どのように日本に受容されたかを探るため、『今昔物語集』天竺部（巻三・巻四）のうちの何話かを、担当を決めて輪読していきます。
日本最大の説話集『今昔物語集』は全三十一巻からなり、天竺・震旦・本朝の三部構成で、エピソードで綴る世界仏教史といった趣きを持っています。そのうち天竺部は、仏陀の伝記に始まり、仏在世中の仏教の展開、仏の前生譚、仏教のインドにおける展開までが語られます。巻三は巻一・巻二とともに、仏の生涯と教化を説き、仏伝の終結にあたるものです。一方、巻四は仏滅後のインド仏教の広がりを述べ、加えて三宝霊験功徳譚や仏法帰依供養譚などを収載する、巻三にはなじまない話が見られます。これらの性格が異なる内容と、それがどのように各巻に説話として収められ、形成されたかを学びます。また、本集を一話一話精読することによって、平安後期のインド仏教や中国仏教の理解の実態に迫っていきたいと考えます。
本講では、まず『今昔物語集』の基礎知識について概説し、調査・発表の方法についても指示します。その際に、いくつかの話を提示した上で、担当希望箇所を決めていきます。毎回の学生の皆さんによる発表と、全員参加の質疑・討論により授業を進めていくため、積極的に授業に参加することが必要になります。出席者全員に発言を求めることを理解した上で、登録してください。
また、本講義の前提となる仏教の世界観について概説します。さらに、日本思想・仏教・文学に関連する辞書の使用法、イン

ターネットと図書館を利用した参考文献の検索、論文の書き方について講義します。

授業の到達目標

『今昔物語集』天竺部の精読によって、仏教史の基礎知識を身につけ、平安時代における大陸と日本の文化交流の具体相を知ることができます。また、東京国立博物館の所蔵品などを通して、中国・日本の文物を参観し、その背景について学習します。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　60%　　校外学習小レポート2回、各自の発表についての4,000字程度のレポート1回を課します。小レポートを期限までに提出しない場合は、以後の出席資格がなくなります。詳細は、Waseda Moodleのアナウンスメント機能によって指示します。

●**平常点**　40%　　発表内容を重視しますが、質問を積極的に行い、授業に参加する態度も採点に加味します。三分の二（9回）以上の出席が、単位授与の必要条件となります。

●**その他**　0%

備考・関連URL

原典を提示して読解するので、高等学校卒業程度の古文・漢文の基礎知識が必要です。しかし、初学者でも不安を持つ必要はありません。意欲ある学生の受講を望みます。例年、発表の義務を果たさず、他の学生に迷惑をかける学生が一定数いるため、勉学に対する意欲を持つ学生のみ、登録してください。

なお、本演習は「文化交流創成コーディネーター資格」認定制度2025の選択科目として指定されています。

科 目 名	多元文化論系演習（アジア地域文化交流）　ルイス・フロイス『日本史』を日本語でよむ・第11期							
担当者名	伊川　健二							
多元	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

ルイス・フロイスは1563年に来日し、1597年に没するまでの多くの期間を日本布教に従事したイエズス会士で、その著作『日本史』により広く知られている。

その一方で、『日本史』の柳谷武夫訳は第3部まであるなかの第1部のみの重訳であり、松田毅一、川崎桃太訳は原書の秩序を再構成しており、第1部から第3部までを原秩序に沿って読むことができる邦訳は存在しない。

本演習では、既存の邦訳に依拠しつつ、それを原秩序に並べ替えて読み進めていく。報告者は、担当箇所の要約を作成するとともに、追加情報を補い、書面で共有することで、フロイス『日本史』への理解を深める。フロイス『日本史』は3部304章にわたる大著であり、この学期では、第3部第13章から第3部第37章まで（1588～1591年頃の出来事）を講読範囲として予定している。この範囲は、受講者数等により適宜変更することがありうる。

授業の到達目標

フロイス『日本史』が描き出す、戦国から織豊期にかけての日本を、可能な限り日本側の情報を照合することで、虚実にせまり、異文化理解の複雑さを理解する。

口頭発表に使用した書面の資料は、保存してフロイス『日本史』を主たる素材とする他の演習や、出版にも使用することがありうる。

以下の具体的内容はあくまで予定であり、受講者との相談によるなどの事情により変更される可能性がある。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない

●**レポート**　70%　　演習における口頭発表および配布資料（2回）

●**平常点**　30%　　参加度

●**その他**　0%　　※ただし、以下の条件にひとつでも当てはまる者は、原則として事情の如何を問わず不合格とする。

・初回の割振りに欠席した者

・発表担当回（2回を予定）のうち1回でも欠席、あるいは出席しても発表できなかった者

備考・関連URL

・本科目は、コロナ禍により不可能と判断される場合を除いて、すべての回を対面により実施する。

・授業初回以降の受講登録が可能な場合は、初回で割振りを確定させるため、割当て人数の少ない日程のみが発表日の選択肢となることがありうる。この場合に限り、前項の不合格要件のうち「初回の割振りに欠席した者」は適用しない。

・出席はMoodleへの登録のみにより確認する。教室内でインターネットに接続可能な環境を各自で整えること。当該時間中に登録しなかった／できなかった場合の補填措置は、事情の如何に関わらずおこなわない。

・授業当日（0時以降）の問い合わせには、原則として応対しない。

科 目 名	多元文化論系演習（東アジアの言葉と書物）　日本に伝来した漢籍をめぐって							
担当者名	河野　貴美子							
多元	2単位	春学期	火曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

中国、韓国、ベトナム、日本など、東アジアの国々では、今でこそ異なる言語、文字が用いられているが、かつては広く漢字を共通の表記文字として使用していた。漢字で書かれた書物は、国を越え、海をわたり、文化の伝播に大きな役割を果たしたのである。しかし、それらの書物は、すべての地域においてひとしく中国語で読まれたわけではない。同じ書物であっても、それぞれの地域ごとに、それぞれの言葉や文化背景のもとに読み解かれていったのである。

本演習では、このいわゆる漢字文化圏における言葉と書物の問題にせまる手がかりとして、日本に伝えられた中国の古典籍（漢籍）をとりあげる。はじめに、日本に伝来した漢籍に関する基本事項や研究史、研究の対象となりうるテーマなどについて概説し、その後、各人の関心にしたがって分担調査して発表を行っていく。

たとえば、中国古典を代表する作品である『論語』は、『古事記』に既に日本への伝来記事がみえる。それでは、古代日本で『論語』はどのように読まれたのであろうか。中国語で読まれたのか。訓読はいつから行われたのか。そして、どのような人々が何を目的としてどのように『論語』を学んだのか。また、かつて『論語』はどのような姿の書物であったのか。現代の注釈書や日

本語訳は何に基づいて作られているのか。また、日本人の著作に『論語』の影響はどのように現れてくるのか。さらには、現代を生きる我々にとって『論語』とはいかなる存在なのか。

書物の伝播は、さまざまな文化的事象を伴い、新たな変化をも引き起こす。中国、日本、そして東アジアの言葉と書物をめぐる文化の諸問題について、さまざまな角度から切り込み、考察を試みていきたい。

授業の到達目標

漢籍の伝来がもたらした日本語や日本文化への影響を多面的に検討することによって、東アジアに展開した漢文化の特質を理解することをめざす。また、各自の興味関心を出発点として資料を調査、収集、整理、分析し、学術的な口頭発表を行うことにより、文化を対象とする研究の方法とスキルを身につける。

成績評価方法

●**試験**　30%　　理解度の確認
●**レポート**　0%　　行わない
●**平常点**　70%　　発表（40%）、授業への主体的な参加度（30%）
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

漢文資料を含むさまざまな文献に触れることになろうが、調査・発表を通じてそうした文献の取り扱いにも習熟できるよう配慮しながら進めていきたい。

科 目 名	多元文化論系演習（遊牧・オアシス文化論） モンゴル帝国建国前史に関する史料の講読							
担当者名	赤坂　恒明							
多元	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

今期の授業では遊牧を取り上げます。モンゴル帝国の建国者チンギス・ハンの前半生の事績と、彼の族祖伝承について、四種の基本史料、モンゴル文の『モンゴル秘史（元朝秘史）』（日本語訳を使用）、漢文の『聖武親征録』『元史』、ペルシア文の『集史』（日本語訳を使用）の記載にもとづいて、歴史学・文化人類学の視点から検討します。本演習を履修することによって、史料の読み方と分析方法、歴史・文化研究の問題設定を、具体的に学びます。

授業の到達目標

・モンゴルの族祖に関する三つの伝承の具体的な検討を通じて、族祖伝承における歴史的・文化人類学的背景を理解する。
・モンゴル帝国建国以前のモンゴル諸集団の動態を知り、遊牧民の歴史・文化・社会に関する認識を深める。
・モンゴル史の重要史料に関する概略を知り、史料の読み方と分析方法を学ぶことを通じて、歴史・文化研究の問題設定をおこなう能力を身に着ける。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　00%　　レポートは課しません。
●**平常点**　100%　　演習で講読した史料の解釈の程度を基準に評価します。
●**その他**　00%　　上記以外の成績評価方法はありません。

科 目 名	多元文化論系演習（歴史の遺産と表現） 映画に見る江戸落語の人情							
担当者名	池澤　一郎							
多元	2単位	秋学期	木曜日	3時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本演習では、落語の趣向をふんだんに取り入れた山田洋次監督の映画作品における江戸的滑稽味と人情味について考察することを主眼とする。山田洋次監督は当初黒澤明監督のスペクタクルロマンを尊崇し、やがて小津安二郎監督や成瀬己喜男監督の日常生活の細部のきらめきを掬い取る作風の作品に傾倒する。山田洋次監督は、先輩の監督たちの手法を継承発展させようと試みた伝統重視の姿勢を堅持した人といってよい。参加者には山田洋次監督作品に影響を及ぼした落語をまず鑑賞してもらい、それについての報告を分担して行ってもらう。次に最も落語的要素に富む映画作品の鑑賞をしてから、落語的要素をいかに摂取しているかを具体的に指摘する報告を行ってもらう。次に小津安二郎、黒澤明、成瀬巳喜男といった名匠の映画作品の中に現れるヒューモアについて具体的事例を列挙説明する報告を分担して行ってもらい、山田洋次監督への影響を具体的に指摘してもらう。最後に山田洋次監督の落語的滑稽の析出を総合的に行う報告をなしていただく。余裕あらば、ビリー・ワイルダーやアレフレッド・ヒッチコック監督の映画作品におけるヒューモアの効果についても報告を行っていただく予定である。

授業の到達目標

まず参加者には、江戸・明治伝来の落語が決して表層的、ポップな笑いを醸すだけでなく、悲喜こもごもの複雑な人間心理を土台とするものであることを認識してもらう。落語についての一家言を備えてもらいたい。日本人はおおまかにいって、深刻な事件や悲劇的要素を扱った藝術を重視し、滑稽笑いの要素を軽視する傾向にあるが、それは大きな誤りであることにも気づいてもらいたい。次に現存する日本の映画監督の中で、いかに伝統性重視の山田洋次が優れているかを把握してもらう。そしてそのヒューモアを重視する演出が日本映画黄金時代の小津安二郎、黒澤明、成瀬巳喜男の監督作品をよく学び、それを消化吸収した上でなされていることを把握したい。余力あらば、ビリー・ワイルダー監督やアレフレッド・ヒッチコック監督がいかにイギリス的センス・オブ・ヒューモアに満ちた脚本を書いた人であったかの認識を深めてもらうことを目途とする。

成績評価方法

毎回の分担報告の事前の調査準備の質如何と発表時の熱意や創意工夫、毎回の課題や学期末レポートの文章の明晰さや演習参加時の情況がいかにビビッドに反映されているかなどによって評価する。

備考・関連URL

音声付き映像を教材に利用するので、ズームによる対面式演習を基本としたい。ただし、個別の事情により、定期的な出席がかなわぬ参加者にも、参加者と同じ内容の資料掲示を行い、数次に亘るレポートを課するので、それに対応していただきたい。

科 目 名	多元文化論系演習（海外華人文化）							
担当者名	高屋　亜希							
多元	２単位	春学期	金曜日	５時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

中国の移民の歴史は長く、移住先も東南アジアを中心に世界各国に広がっています。大量の移民が流出するようになったのは近代、とりわけ文革が終わった1970年代末以降のことで、現在もその流れは続いています。その一方で、1990年代後半に入ってからは、発展めざましい中国に将来性を見いだし、香港や台湾などの出身者を含む多くの華人が、中国のさまざまな場面で活躍するようになってきました。こうした国境や国籍に縛られることなく移動・連携する海外華人の問題は、グローバル化が進む今日において、私たち自身の問題でもあるのではないでしょうか？

本演習では、海外華人が抱える社会的事情や歴史的背景について概観した上で、彼らが果たしている社会的・文化的役割などを、受講者の発表を通して具体的事例に沿って考えていく予定です。

授業の到達目標

本演習は2つの目標を設けています。1つは、海外華人の歴史的変遷、移民先の社会で移民が抱える問題や果たしてきた文化的役割などについて、基本的な理解を得ることです。もう1つは、その基本的理解を踏まえた上でそれぞれ資料調査等を行い、具体的な事例の分析に応用する力を養うことです。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし

●**レポート**　50%　　発表で扱ったテーマを更に発展させたレポート（2000字以上）を提出してもらいます。先行研究を丁寧に調査し、それを踏まえて独自の考察をしているものを評価します。

●**平常点**　50%　　出席の他、発表(レポートのアウトライン)、および発表に対する質疑など、授業への積極性を評価します。3分の2以上の出席を評価の対象とする他、授業内で必ず1回発表してもらう予定です。

●**その他**　0%　　なし

備考・関連ＵＲＬ

中国語など外国語の知識は特に求めません。ただし日本語で読める資料は限られているので、積極的に外国語資料を利用することを期待しています。

科 目 名	多元文化論系演習（ヨーロッパとアジアの接触）							
担当者名	高木　小苗							
多元	２単位	秋学期	水曜日	４時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

「異文化接触」は、ある文化が、ほかの文化と接触しながら、どのようにして多元的・多層的な構造を形成していくかを考える手がかりとなりえます。

この授業では、各自が興味・関心のあるヨーロッパとアジアの国・社会・集団・ヒト・モノ・情報などの「接触」と、その「接触」がもたらした（、または、もたらす可能性のある）「影響」、具体的には、事件や社会現象などについて、調査・検討・考察した内容を口頭発表してもらいます。

また、それについてグループで意見交換・討論しながら、その歴史的・文化史的な意味を考察していきます。

発表テーマは、「ヨーロッパ」と「アジア」に関わるトピックを自由に設定してもらいます。考察対象、その時代・地域などは問いません。

発表者は、可能な範囲で、その「接触」とその「影響」に関する実証的資料・客観的根拠を示しながら、自分の見解を導き出してください。

授業の到達目標

・「異文化接触」について自分の興味・関心にもとづきテーマを設定し、必要な調査・検証を進め、発表資料を作成する。

・聴き手の興味をひき出す発表を行ない、自分や他者の発表について意見交換・討論を通じて、自分自身の考察を深め、レポートを作成する。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　50%　　・各自、授業での発表にもとづき、他の履修者との意見交換・討論、追加調査を参考にしながら、レポートを作成し、学期末に提出してください。

・とくに発表内容に対して、レポートの内容・考察が深められている度合いを重視して評価します。

●**平常点**　50%　　・授業中の各自の口頭発表の内容、意見交換・討論の実践、授業後に提出してもらうレビューシートの内容、出席率にもとづき総合的に評価します。

●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

・履修者は、各自、授業での発表2回と、学期末のレポート提出を行なうことになります。・発表は基本的に8名程度のグループに分かれて行うこととします。

・発表回の授業の流れは、（1）個人の発表、（2）グループ内の意見交換・自由討論、（3）最後に教室全体への簡単な報告、となります。

科 目 名	多元文化論系演習（ミュージアムにみる「ヨーロッパ」-文化触変の形跡を探る-）　文化触変の形跡を探る							
担当者名	渡辺　愛子							
多元	２単位	集春	火１時限	土その他	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

「ヨーロッパ」という言葉を聞くと、なにやら統一された一地域のようなイメージをもつ者も少なくないだろう。それはヨーロッパ各国が協調、議論を重ねて作り上げた欧州連合(EU)に付随する印象かもしれないし、その申し子ともいえる同一通貨ユー

口の影響かもしれない。しかし、近年のEUは、ユーロ圏北部と南部の大きな経済格差や地域的な諸問題を全世界に露呈したかたちとなり、数十年発展をともにしたイギリスは離脱の道を選んだ。ヨーロッパとはやはり、あくまで異種雑多な国々がひしめき合う場所でしかないのであろうか。それとも、多様ななかに、なにか普遍的な共通性を保持した存在なのだろうか。

この授業では、そんな「ヨーロッパ」が形成されるにいたった文化史を、ミュージアムのなかに見出していく。たとえば、古代ギリシアやペルシアでの文化的対照要素がいかに融合していったのか、宗教改革によりカトリックとプロテスタントに分岐したキリスト教の影響とはどのようなものだったのか、さらには人文主義や啓蒙思想、そして戦争が、ヨーロッパ文明と呼ばれるものをどのように変容させたのだろうか。ミュージアムとは、有史以来の多様な文化が収集・保存された、いわば「タイム・カプセル」である。そこに所蔵された工芸品や美術品を実地調査することにより、いま述べたような「文化触変」が概念や実体としての「ヨーロッパ」の文化芸術をいかに生み出していったのかを、あらためて考えてみたい。

本授業では、校外学習の時間を設けることで、都内の主要ミュージアムでフィールドワークを行う機会が生まれる。早稲田大学は「東京国立博物館キャンパスメンバーズ」および「国立美術館キャンパスメンバーズ（関東3館）に加入していることから、これら主要ミュージアムに無料入館できるメリットを最大限に活用したい。

授業の到達目標

・フィールドワーク（校外学習）を通じて、ミュージアムの機能と役割を理解し、「ヨーロッパ」を形成するにいたった多様な文化の混交を実感する。

・校外実習の事前リサーチを入念に行い、実習の成果を効果的にプレゼンする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし

●**レポート**　50%　　下記の出席点を満たしていること。

※別に設けるオンデマンド授業で、すべての小テストに合格しないとレポートを提出することができない。

●**平常点**　50%　　平常点は、授業時の発表成果と出席点で評価される。

※教場授業の出席は3分の2以上。校外学習への参加は必須である。（よって、二度の校外学習に欠席した場合は、たとえ教場授業で3分の2以上の出席を満たしていても、単位は与えられない。）

●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

◆本演習は、多元文化論系で取得できる資格制度「文化創成コーディネーター（ICCO）」のフィールドワーク科目である。本資格を取得したい学生は、必ず履修しなければならない。

◆本科目を履修する際には、当該クォーター（場合によっては当該セメスター）の1時限・6時限以外の土曜日科目を履修することができなくなるので、注意すること。

※当科目は春クオーター期間において、平日週1回の授業7回と、特定の土曜日2日間（ふたつの校外学習は各3.5回分）の組み合わせにより計14回の授業を実施します。当科目で土曜日の授業を行うのは2回のみですが、科目登録においては、曜日時限がひとつでも重複する複数科目の登録は認められないため、土曜日に同時限で授業を実施する他の春学期科目・春クオーター科目を、当科目と併せて履修することはできません。他の科目との曜日時限重複について、特に土曜日には注意してください。

科目名	多元文化論系演習（ギリシア世界）　アリストテレス『ニコマコス倫理学』を読む							
担当者名	岩田　圭一							
多元	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

古代ギリシア哲学には人間を神に似たものとみなす考え方がある。人間は他の動物と異なり、知性をもっており、知性に従った生き方を選ぶことができる。社会共同体の中で倫理的によく生きる人は、人間の欲望的な部分を統制する優れた知性をもち、これを働かせる人である。知性はまた、理論的な領域の事柄にも適用される。この場合、知性は理論的な知性として働き、これによって人間は学問的な探究に従事したり、神的なものを観想したりする。理論的な知性は神的とみなされ、しばしば神の知性との比較において説明される。この授業では、アリストテレスの『ニコマコス倫理学』を取り上げ、知性の役割に注意しながら人間の幸福について考えることにしたい。この授業は基本的に、学生による発表形式の授業である。発表で取り上げるテクストは授業計画のとおりとする。発表と質疑応答を通じて各回のテクストについて理解を深める。

授業の到達目標

アリストテレスの倫理学を学び、哲学的な思考の基礎を身につけることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　50%　　教場での論述試験によって評価する。

●**レポート**　0%

●**平常点**　50%　　発表、主体的な授業参加度によって評価する。

●**その他**　0%

備考・関連URL

出席状況は毎回の出席カード提出によって確認する。

発表授業の各回で取り上げるテクストの箇所は履修者数によって変更することがありうる。、

科目名	多元文化論系演習（ローマ世界）							
担当者名	井上　文則							
多元	2単位	秋学期	水曜日	1時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

紀元前8世紀半ばにイタリア半島の一都市国家として誕生したローマは、やがて地中海周辺を支配する巨大帝国へと成長した。そして、2世紀に最盛期を迎えた後、4世紀末には東西に分裂、西ローマ帝国は5世紀後半に滅亡した。本演習では、ローマの建国から西ローマ帝国滅亡までの1200年以上に及ぶローマ史の様々なテーマを設定し、受講生にはテーマに沿った報告をしてもらい、歴史上の諸問題について討論する。

授業の到達目標

古代ローマの歴史についての知見を深めるだけでなく、広く歴史を考える力を養う。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　40%　　学期末に4000字程度のレポートを求める。
●**平常点**　60%　　発表・討論内容によって評価する。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	多元文化論系演習（ヨーロッパの芸術）							
担当者名	小石　絵美							
多元	2単位	春学期	火曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

「ヨーロッパの芸術」について履修者それぞれが関心を持っているテーマを選び、その特徴や歴史などについて文献資料などの調査を行い、その魅力を他の履修者に伝えるプレゼンテーションを行なうことを内容とします。

研究対象の芸術は、美術、音楽、演劇など、とくに分野・時代を限定しませんが、「ヨーロッパの芸術」に含まれる範囲でお願いします。

プレゼンテーションは最初に少人数のグループで行ないます。最後に、成果発表として演習受講者全体にむけて個人でプレゼンテーションを行います。

授業の到達目標

自分で興味を持った芸術作品（あるいはその創作者）について、「なぜその作品（創作者）が素晴らしいのか？」「なぜ自分は魅力的に思ったのか？」を、第三者に伝えるためのコミュニケーション能力を磨くことを目標とします。

成績評価方法

・各自の発表をもとに、他の履修者から得られた意見などを取り入れ、学期末までにレポートを作成してもらいます（50%）。
・口頭発表の内容やディスカッションの実践を評価します（50%）。
【注意】プレゼンテーションとディスカッションが中心の授業のため、学期末レポート受理には 2/3以上の出席が最低限必要です。また、同じ理由から出席も重視されます。

科 目 名	多元文化論系演習（ロシア文化論）							
担当者名	八木　君人							
多元	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この授業は、映画、美術、パフォーマンス、音楽、バレエ、アニメーション、文学、宗教、歴史、（諸）民族、政治、経済といった、ロシア·旧ソ連邦におけるあらゆる文化事象の中で、受講者の興味·関心にあわせて、グループによる課題図書の輪読と、その内容およびそれを展開した発表を行ってもらいます。また、希望者には、グループ発表をしてもらった上で、上記のテーマに沿ったかたちで、希望者には、自身の関心のあるテーマで個人発表をしてもらいます。

教員による講義も行いますが、講義部分で扱うテーマは「ソ連時代」を中心に採り上げます（もちろん、必要に応じて、他の時代についても触れます）。ロシア・ウクライナ戦争を挙げるまでもなく、現在のロシアを考える上でもソ連を知ることは有益ですし、また、現在、われわれが生きている社会と比較し、類似点と相違点とを見出すことにより、今後、みなさんが、社会や世界のオルタナティブな在り方を構想するための糸口になるかもしれません。

もう少し身近な話でいえば、ロシアやソ連を学ぶことは、多元文化論系に席をおくみなさんにとって、これからのご自分の研究のテーマとして、あるいは、ロシアやソ連を主題にするのではないにせよ、「多元」を構成する一つのヴァリアントとして、有益なものになるのではないかと思います。

授業の到達目標

教員による講義も行いますが、基本的には演習形式の授業ですので、受講者には積極的な課題への取り組みが求められます。

課題図書の正確な読解、グループ内での適切なディスカッション、その結果を他のグループに属する受講者の前で「発表」する、そうした能力を獲得するのが一つの目標です。

また、他の受講者の報告を聴き、それに対して的確な応答・生産的な議論ができるような力もつけていきましょう。

最後に、この授業全体を通して、「ロシア」に関する知識や理解を深め、文化の多様性を学ぶことのみならず（「ロシア」はやはり「多元」うちの一つにすぎません）、それらを通して、「別の仕方で思考する」という習慣を獲得していくことを目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　期末までに4000字程度のレポートを作成してもらいます。
内容は、グループで扱った課題図書の内容を発展させるかたちでもいいですし、課題図書とは関係なく、ご自身の興味・関心にそったロシアや旧ソ連圏、あるいはソ連時代の文化事象に関するものでもかまいません。
●**平常点**　50%　　「演習」なので、グループ内外で自らの発表等を行うことが義務なのはいうまでもありませんが、ご自分（たち）が中心にならないときにも、ディスカッション等、積極的な授業への参加が求められます。
●**その他**　0%

備考・関連URL

演習の授業ですので、上に記した「授業計画」や授業スタイル、内容は大きくかわってきます。基本的には「概要」や「シラバス」に記したかたちで授業を行いますが、履修者の顔ぶれやモチベーションに応じて、臨機応変に授業運営を行いたいと思っています。その上で、週二回授業をおこなうクォーター科目の特性の活かし方も考えていきます。みなさんもそのつもりで履修してください。

そうしたスタイルの授業になりますので、初回のオリエンテーション（と2回目の授業）は必ず出席するようにしてください。

なお、履修にあたっては、ロシア語の知識があるにこしたことはありませんが、必要とはしません。

科 目 名	多元文化論系演習（東欧の歴史から） 中・東欧史研究の基礎を学ぶ							
担当者名	阿南　大							
多元	２単位	秋学期	火曜日	４時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本演習で対象とする「中・東欧」とは、現在の国名で言えば西はオーストリア、東はウクライナ、北はエストニア、南はギリシアに及ぶ中小国家群の乱立する地域を指す。当該地域の特徴は、古くはドイツ帝国、ハプスブルク帝国、オスマン帝国、ロシア帝国の四大帝国に統治され、20世紀にはナチス・ドイツとソ連という擬似「帝国」による角逐の舞台となる中で、数多のネイション形成が展開されてきたことであろう。

その際重要なのは、当該地域における諸ネイションと諸「帝国」の存在が決して二項対立的に説明可能なものではなく、時に互恵関係を築きながら存在してきたことである。したがって本演習の受講者に体得してほしいのは、当該地域の研究にとって最も重要な二本柱であるナショナリズム研究と帝国論の方法論である。

本演習では、受講者が興味のある地域、時代、主題についての報告を二回行う。その際、主に上記二つの方法論に照らす形で教員がその都度助言を付し、全員が一度目の報告を終えたところで総括的な講義も行う。また演習参加者には授業中に積極的な発言を期待するとともに、毎回報告者へのコメントを提出課題として課す（それらのコメントは報告者に送付する）。そして各報告者は上記を参考にする形で、二度目の報告に臨むという流れで授業を進めたい。

なお、本演習での報告対象とする主題は上記地域に限定する。時代については、四大帝国が当該地域を統治し始めた初期近世（15-16世紀）以降とする。また本演習は時事分析ではなく、今日の諸問題の淵源を探る歴史学的アプローチを重視するため、1989年以降の現代史を主題として選ぶことは推奨しない。

授業の到達目標

（1）中・東欧地域は複数の帝国とネイションがせめぎ合う「破砕帯」と呼ばれ、二度の世界大戦から近年のユーゴスラヴィア紛争や今日のロシア・ウクライナ戦争に至るまで、世界史的な係争地となってきた。またそうした激動の歴史の中で当該地域のネイション形成から多くのユダヤ系住民が除外されたことが、今日のパレスチナ問題の遠因の一つにもなっている。したがって当該地域の諸問題を理解することで、今日の国際問題に対して立体的な視野を培うことが、本演習の第一の到達目標である。

（2）しかしながら、かつてオーストリアの作家クラウスが中・東欧地域を指して「世界破壊の実験場」と名付けたように、ナショナリズムと帝国の問題は世界中のあらゆる地域に共通の問題系であり、当該地域はいわばこの世界全体の縮図、「極端な典型」なのである。このことを踏まえ、当該地域の歴史を良き実践材料として、人類の歴史全般に対する定見を養うことが、本演習の第二の到達目標である。

（3）また中・東欧地域は20世紀前半に枢軸圏、後半に共産圏に組み込まれた歴史的経緯から、当該地域の歴史研究をめぐるバイアスが時代とともに著しく変化した地域でもある。ゆえに当該地域の歴史は、本演習の第三の到達目標である「研究史」の整理能力、すなわち歴史学的分析対象に対する時代ごとのバイアスを相対的なものとして整理する能力を培うのに格好の材料と言えるだろう。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　二回の研究報告。
●**平常点**　50%　　授業中の発言。毎回の報告に対するコメント。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	多元文化論系演習（イスラーム社会論）							
担当者名	佐藤　尚平							
多元	２単位	秋学期	木曜日	１時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この演習では、中東やイスラーム教徒の歴史と社会について、知識と考察を深めます。グループワークを中心とした演習形式で行いますので、受講者の積極的な参加が求められます。一部の回では、オンデマンドや反転授業などの形式も取り入れます。

授業の到達目標

中東やイスラーム教徒の歴史と社会について、基礎的を知識を得て、考察を深めることを目標にします。さらに、自分で調べるための基礎的な情報源と調べ方に親しむことも目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　グループワークや発表を含む教室全体での授業への貢献を評価します。
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

一部の回では、オンデマンドや反転授業などの形式も取り入れます。
グループワークを中心とした演習形式の授業であり、受講者の積極的な参加が求められます。
授業の進捗状況や受講者の関心・状況に応じて、授業計画を適宜変更することがあります。
暴力や性にかかわる内容や表現を扱うことがあります。

科 目 名	多元文化論系演習（アメリカ文化史） Since 1950							
担当者名	チャン　エドワード　ケイ							
多元	２単位	夏クォーター	火５時限	金４時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

This course will provide a survey of American cultural history in the second half of the twentieth century, including the beginning of the twenty-first century. We will try to understand the historical, social, economic, political, and creative forces that shaped American culture during the second half of the twentieth century. The

course will be conducted entirely in English, and students should be prepared to speak in English each week.

授業の到達目標

Students will learn about significant events, people, and trends that occurred in the United States during the second half of the twentieth century and beginning of the twenty-first century. Students will also develop their English-language reading, writing, listening, and discussion skills.

成績評価方法

Two exams 60%
Presentation 20%
Participation/In-class activities 20%
TOTAL 100 %

科 目 名	多元文化論系演習（思想の文化史） 書物の歴史とインターテクスチュアリティ（間テクスト性）～パピルスから剽窃まで～							
担当者名	渡辺　愛子							
多元	2単位	秋学期	火曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

文明の源は「記録」である。人類は培った知識を記録する方法を見つけ、それを保存して後世に伝えたからこそ、現在のわれわれが存在する。そうした記録の確実な手段こそが文字であった。口承伝承ではここまで固定された情報を確保できなかったのだ。

本授業では、「書物」を単なる物理的な書籍に限定せず、文字の集合体としての記録メディア全般と捉え、その歴史をたどる。古代のパピルス文書から、写本文化、活版印刷、そして現代のデジタルテキストに至るまで、書物がどのように複製・変容され、知識を伝達してきたのかを探究する。

そこで重要となるのは、「インターテクスチュアリティ（間テクスト性）」という概念である。人は先人から知識や思想を継承する際に、彼らからどのような影響を受け、また後世へどんな影響を残すのだろうか。独創性あふれる文学作品を書いたと自負する作家も、実は過去の作品の影響から逃れることはできない。近代演劇の代表格、シェイクスピアすら「パクリのプロ」だったのである。

これは他者の文章の引用と剽窃の問題にもつながる興味深い視点であり、さらには原作者の権威の所在にも疑問を投げかける。本授業では、検閲や表現の自由が抑圧された環境で生まれた「地下出版物（サミズダート文学）」の意義や、書物のもつ「権威」と「抵抗」の役割についても考察していく。

第1回のイントロダクションにおいて、発表担当者を決める。自分の関心のあるテーマを選び、教員のほうでテーマの概要と発表のためのリサーチクェスチョンを提示するので、それを参考に各自がリサーチを行い、＜翌週＞発表するというサイクルでやってみたい。履修者数によっては個人ではなくグループ発表になることもある。

※なお、本授業は基本的に西洋世界（＋古代のエジプトや中東）の書物の発展を中心に進行するが、演習の発表テーマについてはこの限りではなく、学生はアジア諸国の状況を含めてリサーチすることが可能である。

最終回で理解度の確認を行う。現時点では授業内容を把握しているかの選択式テストと論述テストを予定している。

授業の到達目標

・書物にまつわる諸問題を研究する視点を養う。
・とくに書物と書物をつなぐ、インターテクスチュアリティの機能に自覚的になる。
・効果的なプレゼンテーションを行う。

成績評価方法

●**試験**　50%　　授業内容の把握と論述問題
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　50%　　※出席2/3以上で学期末試験の受験資格あり。
担当箇所のプレゼン発表と授業における貢献度・リアクションペーパーを総合的に評価。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

★Waseda Moodleを利用して様々な連絡・告知を行うため、メールを受信できるように各自設定しておくこと。

※近年とくに安易かつ無責任な学生の当日欠席（例：どういうわけか発表日に限って高熱が出る学生＜多発＞）によって、授業の進行に支障をきたすというゆゆしき事態が起きている。真面目に出席している学生への配慮から、原則として、割り当てられた発表日・発表時間に欠席した場合、単位の取得はほぼ不可能となることを銘記したうえで、履修するかどうか決断いただきたい。病気の場合は後日診断書、インフルエンザは事務所からの書類、忌引も当該箇所からの書類が提出されれば「セカンドチャンス」は与えるが、その場合には新たな担当箇所が指定される可能性が高くなることを、あらかじめ断っておく。

科 目 名	多元文化論系演習（英語圏の言語政策） Language Policy in Australia and New Zealand							
担当者名	ホサイン　タニア							
多元	2単位	春学期	月曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

This coursefocuses on the impact of English on the language policies of Australia and NewZealand. We will examine how language has been or continues to be used todivide societies and consider the prestige associated with English compared toindigenous languages. We will read three main articles which will provideinsight into the structure and culture of different societies. These articleswill help us understand globalization's demands and the need to preservenational identities actively. Sometimes, English is linked with anti-Westerncultural identities, sometimes with global capitalism, and sometimes withindividual opportunity. Finally, we will learn what roles language policieshave played in different countries in the ongoing process of globalization.

授業の到達目標

We will read three main articles that provide insight into different societies. These articles will help us

understand the educational systems, successes, and problems within a variety of countries. We will also learn about the positions of pidgin and creole languages and how education creates inequalities in society. This course will enable you to understand global realities and the considerable impact of language.

成績評価方法

- **試験** 30% Presentations 30%
- **レポート** 40% Paper 40%
- **平常点** 20% In-class 20%
- **その他** 10% Attendance 10%

科 目 名	多元文化論系演習（英語の構造） A Cognitive-Linguistic Approach							
担当者名	ポッペ・クレメンス							
多元	2単位	秋学期	火曜日	1時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

In this course, we will study the structure of English phonology, grammar, and the meaning of English words and sentences. We will pay special attention to the question of how general cognitive abilities like perception, memory, and categorization are related to language use.

Students are expected to participate in group and class discussions about each week's exercises.

Classes will be conducted in English, but students are allowed to ask questions and conduct discussions in Japanese.

授業の到達目標

- To improve one's knowledge and understanding of English sound structure, word structure, sentence structure, and meaning
- To develop one's understanding of the relation between language cognition

成績評価方法

- **試験** 100% Attendance/participation, homework assignments, final assignment/test
- **レポート** 0%
- **平常点** 0%
- **その他** 0%

備考・関連URL

This syllabus may be subject to change.

科 目 名	多元文化論系演習（英語教育の諸問題） English as a Global Language							
担当者名	ホサイン　タニア							
多元	2単位	秋学期	月曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

No official definition of"Global" or "World" language exists. Still, it essentially refers to a language that is learned and spoken internationally and is characterized not only by the number of native and second language speakers but also by its geographical distribution and its use in international organizations and diplomatic relations. A global language acts as a"lingua franca," a common language that enables people from diverse backgrounds and ethnicities to communicate equitably. This course examines English language issues at societal and global levels. It will discuss the historical context of the worldwide development of English, the status of English as a first and second language, and issues involving English currently developing in and across diverse societies.

Learning a language is a very complex phenomenon. One must move from grammar to logic and to the philosophy of language to overcome the complexities. Currently, English is not viewed as something imposed from the outside but as belonging to becoming an intrinsic part of the national culture. Therefore, people are encouraged to express matters that are important to their lives and confidently and effectively communicate their concerns, cultural viewpoints, and personal interests by taking ownership of English and using it as a meaningful interchange with people of other countries and to relate what it means to be a member of their specific societies and cultures in a positive way to others in the world community. In addition, students will understand how English varieties are available according to social context, including class, gender, and culture.

In this class, you will practice reading critically, organizing your ideas, and writing clear, concise, and academic prose. We will be using readings from articles to launch our inquiries. From there, we will draw on various media to help us explore these questions. Research and the collection of ideas and materials will be significant. Students will use texts from the class and follow their interests, which will help explain and expand our points. Students will refer to film, newspapers, magazines, journals, articles, books, and – of course – the Internet. They will learn to use such sources to advance their thinking and ideas, cite them correctly, and use them in creatively written argumentation, evaluations, and explanations.

授業の到達目標

This course aims to show why English is known as a global language and how people from different backgrounds express their culture in English. Language is indissolubly linked with the members of the society in which it is spoken, and social factors are inevitably reflected in their speech. Language can be studied as a social phenomenon. English is currently regarded as the world's principal international language. It performs a useful function in a multilingual society. People are not forced to master English at all costs. Some people adopt English and use it alongside their own culture and combine it with. This class will look at how English varies worldwide and issues that affect language usage such as age, gender, and class. The difference among countries as well as

within countries will be considered. Additional topics will include the treatment of bilingualism in the English-speaking world and language standards. People often talk about English as a global language or lingua franca. With more than 350 million people worldwide speaking English as a first language and more than 430 million speaking it as a second language, there are English speakers in most countries around the world.

成績評価方法

Presentation =30%
Paper=40%
In-class/take-home exam= 20%
Attendance and class participation/online discussion=10%

科 目 名	多元文化論系演習（外国語学習者の心理）							
担当者名	ライアン　スティーブン							
多元	2単位	秋学期	月曜日	4時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

This seminar considers why some people are able to learn a foreign language more quickly and to a higher level than others. We will discuss topics such as personality, identity, emotions, and motivation, and think about how they affect learning. The seminar will help students' understand the important role of psychological factors in successful language learning and encourage students to think about their own experiences as language learners.

授業の到達目標

At the end of this course students should be able to:
1) Understand the importance of psychology in language learning
2) Have a knowledge of some of the most important ideas from psychology and their role in language learning
3) Discuss how these ideas connect to their own learning experience

成績評価方法

●**試験**　0%　No examination
●**レポート**　40%　Final written report and presentation in English.（Details to be explained in introductory class）
●**平常点**　40%　Participation: Online and in-class
●**その他**　20%　Group project

備考・関連URL

The course will be a blend of in-person classes and online discussion.

科 目 名	Contemporary Japanese Fiction in English Translation (TCS quarter seminar)							
担当者名	由尾　瞳							
多元	2単位	春クォーター	火2時限	金2時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course offers students an opportunity to read contemporary Japanese fiction in English translation, published in a variety of international print and online venues. We will read a range of authors including Haruki Murakami, Hiromi Kawakami, Aoko Matsuda, and Natsuko Imamura, as well as essays by translators. Through a close study of the fiction, the translation, as well as the publication venues, we will explore the diverse themes and styles of contemporary Japanese literature and how selected works have been introduced and circulated in the global literary market.

The course will be conducted in English. The readings will be offered both in English translation and in the original Japanese version. While there is no prerequisite level for Japanese, we will consider issues of translation and editing by comparing the English translation with the original Japanese text.

授業の到達目標

1)　Acquire exposure to contemporary Japanese fiction in English translation.
2)　Become familiar with international literary journals and publishers.
3)　Situate contemporary Japanese literature in a global context.
4)　Share reflections on translation challenges and processes.

成績評価方法

1. Attendance & Participation (25%)
2. Assignments (25%)
3. Final Paper (50%)

備考・関連URL

Final Paper (Undergrad: 1,000-2,000 words & Graduate: 2,000-3,000 words)
For the final paper, you will have the following choices:
- Compare two works we read in class by two different authors.
- Compare a work we read in class and another work of your choice.
- Compare the original Japanese text & the English translation by one author.

Creative options
- Creative essay on translation (e.g. Polly Barton's Fifty Sounds)
- Your own translation of a literary text + Self-Analysis

The final paper provides students with the opportunity to take a deeper look at the texts discussed in previous

classes in relation to their publication venue. You should explore themes, issues, motifs, or literary devices that you see as being important. Make sure that close analysis is the central part of your paper in order to support your argument.

科 目 名	Women's Coming-of-Age Narratives (TCS quarter seminar)							
担当者名	由尾　瞳							
多元	２単位	秋クォーター	金２時限	無フルOD	２年以上	—	合併科目	フル【対面】/ハイブリッド【対面授業実施以上】

授業概要

This class will explore coming-of-age narratives by a diverse group of women writers and artists from around the world. Through a close analysis of short stories, vignettes, novella, graphic novel, and film, we will address themes such as gender roles, puberty, sexuality, socialization, romance, marriage, and family. We will consider how some themes are shared across cultures, while other are tied to their cultural contexts. Through the course, we will explore how coming-of-narratives have represent women's lives, construct or deconstruct ideals of girlhood and womanhood, and play a role in the development of feminism.

The course will be conducted in English. Although the readings will be offered in English, you are encouraged to consult the material in the original languages whenever available.

授業の到達目標

1) Acquire exposure to coming-of-age narratives written by women.
2) Critically analyze works by exploring issues of gender, sexuality, identity, and race.
3) Understand how literary works have critiqued or shaped women's gender roles.
4) Situate the coming-of-age narratives in their local and global contexts.

成績評価方法

1. Attendance & Class Participation (30%)
2. Weekly Assignments (25%)
3. Final Project (45%)

科 目 名	Global Tokyo (TCS quarter seminar)							
担当者名	マルティネス　オリベル　リサンデル							
多元	２単位	夏クォーター	月４時限	木４時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

This is a student-centered course with a mixed lecture-seminar format. Each week, the professor will lead a main lecture, followed by a shorter lecture complemented with a group discussion session. In each group discussion session, the groups will turn in a report with the results of each activity.

The course is focused on showcasing Tokyo's cultural diversity by studying the interplay between the local and the global. We will take as a point of departure a selection of Tokyo neighborhoods to analyze the depiction of Tokyo's cultural landscape in different pieces of media (animation, literary texts, documentaries, films, etc.) produced inside and outside Japan.

授業の到達目標

- Explore the cultural diversity of Tokyo.
- Develop critical ways of thinking about the globalization of culture through a comparative approach.
- Gain the necessary tools to critically analyze media works that depict Tokyo.

成績評価方法

Eval:
小レポート
Short report 【割合　30 %】
ディスカッションに参加
Engagement in discussions 【割合　30 %】
期末発表
Final presentation 【割合　40 %】

備考・関連URL

Some contents of the class might change once the course starts. Students will be duly notified if that is the case.

科 目 名	Ghosts and the Supernatural in Japanese Culture (TCS quarter seminar) Mysteries of the Heart--Explorations into the Neo-Confucian Thought of Wanbg Yangming							
担当者名	リーブズ　クリストファー							
多元	２単位	夏クォーター	月２時限	木２時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

【注意】 この授業は英語で行うもので、母語話者なみの英語力を前提としている。各回の宿題は英文30-40ページ程度。英語に自信のない学生は履修することをご遠慮ください。

IMPORTANT: This course will be taught exclusively in English, for which reason students are required to have more-or-less native-like English ability. Homework for each session will be about 30-40 pages of English reading. Students who are not confident in their English ability should refrain from registering for this course.

In this course, we will be exploring the relationship between human beings and the cosmos, the nature of truth and morality, as well as a handful of other metaphysical issues, especially as these have been discussed in early

Confucian and later Neo-Confucian texts by continental (Chinese) thinkers. Neo-Confucian philosophy formed the foundation of Japanese thought and religion for much of the premodern and early-modern period. A close reading of representative Confucian and Neo-Confucian texts will lay the foundations for a deeper appreciation of this rich East-Asian intellectual tradition.

Here are a few of the questions we will be considering together:

READ BEFORE REGISTERING: Be sure to carefully read over the attached document, found under 関連資料 (below), entitled "The Aim of Education & Important Classroom Practices (Reeves revised 3.1.2025)." You will be expected to have understood the content of this document before coming to class.

授業の到達目標

This course will provide students with an opportunity to acquaint themselves with, and actively discuss, a variety of texts belonging to the incredibly rich and influential tradition of East Asian philosophy known nowadays as Neo-Confucianism, or the "New Confucianism." After completing this course, students should be competent enough to read and understand Neo-Confucian texts written by East Asian authors, including Chinese, Korean, and Japanese thinkers--at least they should be able to grasp the main concepts they employed as well as the perennial questions these profound thinkers explored with one another. It is hoped that students will come to internalize some of these ideas and be able to enrich their own souls through a sincere engagement with our authors.

成績評価方法

As the attached document indicates, you will be evaluated primarily on your in-class oral performance. This means that your preparation before each session, along with your active participation in class, namely your ability to ask and answer questions and engage in intelligent in-class discussions, will count towards your final mark. There is NO final paper or final examination required for this course.

備考・関連ＵＲＬ

Please be aware that my courses generally require a fair amount of very close reading. If you are not keen on reading, you had better choose a different course. All of the reading material will be in English, unless otherwise noted. All lecturing and in-class (or on-line) discussions will be conducted in English.

科 目 名	Adaptations of Classical Japanese Literature (TCS quarter seminar)							
担当者名	ノルドストロム　K.　ヨハン							
多元	２単位	冬クォーター	火２時限	金２時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This class examines the rich cultural history of cinematic adaptations of classical works of Japanese literature and theater, giving special attention to how the past is revisited and reimagined across a multitude of genres and for various purposes. While paying close attention to historical specificities of the literary and cinematic works discussed, the class will explore themes such as genre conventions, authorship, modes of reception, and various theories from the field of adaptation studies.

授業の到達目標

- Acquire exposure to major works of Japanese literature and cinema.
- Cultivate the theoretical tools to critically analyze cinematic adaptations of literary texts.
- Develop an understanding of the historical, cultural, and social background of the texts being analyzed.

成績評価方法

COURSE REQUIREMENTS

Grading for the course will be based on short weekly presentations, class discussions, and an extended final essay, based on a topic of your choice from the material that we covered during the class.

- Presentations (40%)

Each student is required to give two to three (depending on class size) 5-10 minute oral presentation on that week's text/film(s), addressing the issues raised by the assigned material and proposing topics for class discussion. The presentation should be focused on your interpretation of the relevant material, based on an in-depth reading of the text/film(s) as well as further issues or questions you would like to discuss. Please select specific theoretical issues or parts of the text/film(s) that you deem suitable for discussion and can act as springboards for discussion. The students that are not presenting should actively contribute to the class discussion.

- Final Paper (2,000-2,500 words) (60%)

In the final essay paper, the student will analyze a historical event, and its representation in a Japanese film and/or novel. Your essay should include a main argument, which the student needs to make through detailed analysis of the textual and visual material, which in turn needs to be fully documented (Chicago style is preferred, but other formats accepted). The essay should be 2000-3000 words long (12pt Times New Roman, double-spaced, 1-inch margins). Indicate the word count on your paper. Actively/critically use at least 3 different written sources (texts discussed in class are okay to use). Late papers will be downgraded at the discretion of the instructor.

科 目 名	Japan's Living Theater (TCS quarter seminar)							
担当者名	高井　詩穂							
多元	２単位	春クォーター	月４時限	木４時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

In this course, we will consider the representations of different types of women depicted in Japanese theater from the fourteenth through nineteenth centuries, mainly focusing on the three major traditional Japanese theatrical forms, nō, jōruri, and kabuki, and how they are adapted into modern stories, movies, and contemporary performances. The class will be conducted in English.

授業の到達目標

By the end of the course, students will be able to:

1) Understand the key elements of the three major traditional Japanese theatrical forms, nō, jōruri, and kabuki, through exploring the issues of gender and women in these theatrical traditions.

2) Become familiar with the transformations of major topical themes across genre and time.

3) Appreciate traditional Japanese theater as a living art that inspired modern Japanese literature and art, and is still appreciated in theaters today.

成績評価方法

30% Final Project
30% Attendance and Class Participation
40% Weekly Assignments and Presentations

備考・関連ＵＲＬ

We may incorporate one off-campus excursion (kabuki viewing, museum visit, etc.) at your cost (up to about 6500 yen). The excursion may take place outside of the class time (night or weekend). There will be an alternative assignment for those who cannot make it to the excursion. I will notify about the excursion before the beginning of the quarter via Moodle.

There is a strict "No Electronic Devices Policy" for this class. No use of electronic devices is allowed during the class. Please keep all of your electronic devices (computers, smartphones, tablets, etc.) in your bag. All the readings will be provided in hard copy.

科 目 名	Storytelling and Media (TCS quarter seminar)							
担当者名	ピタルク　パウ							
多元	２単位	冬クォーター	月３時限	木３時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

This course will explore how storytelling works in different media such as prose, film, comics, audio and games, among others. Starting from a thorough grounding in Narratology, we will work together to identify what narrative structures and techniques are common across media, and understand how they are developed uniquely in each medium.

All readings, writing, lecturing and class discussion are in English.

授業の到達目標

1. Acquire the basic concepts of narratological analysis and be able to deploy them.
2. Understand the specificities of storytelling in the different media of text, comic, film, interactive text.
3. Become aware of the cognitive, psychological, and cultural dimensions of narrative beyond fiction.

成績評価方法

20% Active engagement in class.
20% Quizzes and In-Class Writing.
10% Essay Text Proposal
10% Essay Abstract
40% 2,000-word Final Essay

備考・関連ＵＲＬ

You will need passing grades in all categories (Exams / Attendance & Participation / Responses & Presentations) in order to obtain a grade for the course.

科 目 名	Imagination and Morality in East Asian Culture (TCS quarter seminar) East Asian Aesthetics and Philosophy Across the Early-Modern/Modern Divide							
担当者名	アコスタ　アリエル　キャサリン							
多元	２単位	夏クォーター	月４時限	木４時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

This class explores how thinkers, writers, poets and artists in the modern era used premodern/early modern aesthetic approaches and philosophy in their creative process. Some topics we may cover include the creation of Nihonga painting, the revitalization of tanka poetry in the turn of the century, the influence of 15th century Chinese philosopher Wang Yangming on both the Chinese revolution and political movements Japan, the role of Zen Buddhism in 20th century Japanese philosophy. While the exact texts we'll read have yet to be determined, this list should give an idea of the approach of the class- to explore how modern artists and thinkers were in conversation with aesthetics and philosophies of past centuries.

A more detailed syllabus will be available before the start of the semester.

授業の到達目標

Students will encounter East Asian texts, literature and art from both the premodern and modern era, and consider both the continuities and ruptures of the ideas and aesthetics between the premodern and modern eras.

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　Written work includes a final paper and a short mid-term essay.
●**平常点**　50%　　Attendance and active participation in class discussion
●**その他**　0%

科 目 名	複合文化論系演習（芸術思潮の越境）　展覧会から見る芸術作品の越境							
担当者名	和田　佐知子							
複合	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

私たちはインターネットを介して古今東西無数の芸術作品を気軽に観ることができますが、それでもなお、人々は作品と「生」で出会うために展覧会に足を運びます。世界には数多くの美術館が存在し、そこではコレクションの展示に加え、多様なテーマで構想された企画展が開催されています。キュレーターは現代社会への提言となるテーマや、歴史の中で見落とされていた思想を拾い上げ、新たな視座を提唱するために世界中から作品を集めます。それまで散在していた芸術作品を一堂に会して並置することにより、作品や思想に意味を付与していきます。展覧会とはまさに時代を映し出す鏡といえるでしょう。

本講義では、芸術思潮を越境する「場」として展覧会を考察します。また、制作された時空を超えて現代の鑑賞者に受け入れられるためには、作品についてよく知ることが不可欠で、その手掛かりのひとつが美術史といえるでしょう。作品が移動し、鑑賞者の眼に触れられるまでには実に様々な業界が介在しますが、美術史の知識なくしては十分に運用することはできません。講義では展覧会をスタディケースに、美術史という学問を活用しながら、物体としての芸術作品が現実社会の多様な領域と結びつく様子を考察します。

授業の到達目標

芸術作品の新しい見方や意味を提唱した「展覧会」という場について理解を深めながら、社会とアートの結びつきについて考察します。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　グループディスカッションで発表したもの、講義内で記述したレポートにより判断します。
●**平常点**　60%　　出席、発表内容、ディスカッション等の授業への積極的な関わり方から総合的に判断します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

※授業の進度等に応じて、取り上げる内容が変わる可能性はあります。

科 目 名	複合文化論系演習（時代の刻印）　文学における異文化受容：冒険物語，怪奇小説，SF小説，英雄伝説，少年少女文学とその影響							
担当者名	宮城　徳也							
複合	2単位	春クォーター	木3時限	無フルOD	2年以上	—	—	フル【対面】ハイブリッド【対面授業を原則とし】

授業概要

今年度この授業は，春クォーターに，教室授業七回，オンデマンド授業七回の形式で実施されます．以下の「授業計画」では，奇数回をオンデマンド，偶数回を教室授業とします．オンデマンドの回では，授業の概要とオリエンテーションを行ない，授業内容の講義を行ないます，教室では最初の二回は関連映像を見て，三回目から最終回まで，受講生による発表を行ないます．授業内容としては，たとえば「冒険物語」（AdventureStory）とは，主人公が，偶然，もしくは必然によって，あるいは自ら求めて，日常性を離れた場所で苦難を味わい，それを運と努力と才覚によって克服し，帰るべき場所に帰り，もしくは達成すべき目的を達成する物語のことであると定義することができ，古代から「ギルガメシュ叙事詩」，ホメロスの『オデュッセイア』などが知られています．これらの影響により，ヘレニズム時代，ローマ時代，中世，ルネサンス期，近現代に多くの，「冒険物語」もしくは，その関連作品が映像作品，少年少女文学，ゲームも含めて創作されました．代表的なものにダニエル・デフォーの『ロビンソン・クルーソーの生涯と冒険（1719年)』があります．『オデュッセイア』と『ロビンソン・クルーソー』には共通点も多く，後者は前者の何らかの影響を間違いなく受けていますが，2500年の時代差がある以上，その意味するところや，読後感は自ずから異なります．個々の作家の資質，個性が異なることは言うまでもありませんが，それらが創作された時代背景が大きな意味を持っていると思われます．このように「冒険物語」に限っても，その中に異文化の受容と変容が見られ，これをできるだけ多くの分野について確認しながら，幾つかの作品を取り上げ，その背景となる文化，思想，価値観がどのように影響したかを考えたいと思います．

授業の到達目標

ギリシア，ローマ，キリスト教中世，ルネサンス，近現代の，異文化受容による，芸術創作から，地域，時代に固有の文化，思想，価値観を考察し，作品の独創性を支えるものとして，異文化を受容しながら，それを変容させて，独自の視点を生み出す姿勢があることを理解して行きたいと思います．

成績評価方法

●**試験**　0%　　レポートと平常点で評価します
●**レポート**　40%　　授業で発表した内容を，学期末にレポートとして，Waseda Moodleで提出してもらいます（2000字程度以上）
●**平常点**　60%　　授業内容に関連して，調査，考察の結果を授業で発表してもらいます．また，毎回授業内容の，もしくは発表内容の要約，感想を書いたものを提出（Moodle提出）してもらい，平常点とします．
●**その他**　0%　　その他は特にありません．

備考・関連URL

http://www.f.waseda.jp/tokuyam/index.htm

科 目 名	複合文化論系演習（主題系の研究）「主題」としてのルネサンス							
担当者名	宮城　徳也							
複合	２単位	夏クォーター	木３時限	無フルOD	２年以上	—	—	フル(対面) ハイブリッド(対面授業実施以上)

授業概要

今年度この授業は，夏クォーターに，教室授業七回，オンデマンド授業七回の形式で実施されます，以下の「授業計画」では，奇数回をオンデマンド，偶数回を教室授業とします．オンデマンドの回では，授業の概要とオリエンテーションを行ない，授業内容の講義を行ないます，教室では最初の二回は関連映像を見て，三回目から最終回まで，受講生による発表を行ないます．授業内容としては，絵画、彫刻、建築、映画、音楽、詩、思想に現れた「人文主義」（ヒューマニズム）について、中世、イタリア・ルネサンスから現代まで続くその影響を考察します。遠い日本の現代の日常にも「人文主義」は見られます。できるだけ多くの題材を取り上げていきたいと思っています。イタリア・ルネサンスを支えた理念は「人文主義」（ヒューマニズム）と言われます。キリスト教中心の中世に、ギリシャ・ローマの人間中心の価値観が復活して、近代の芽生えであるルネサンスが花開いたとされ、実際にその通りである面は確かにあると思われます。しかし、現代に至るまでヨーロッパではキリスト教中心の価値観が維持され、宗教改革を経て、プロテスタントのキリスト教も大きな力を持っていますが、ローマ・カトリックの影響力は決して小さくありません。さらに、イタリアのルネサンスを芸術方面から考察するとき、現代のベルギーなどがある北方のフランドル地方の影響が大きかったことに気づかされます。そもそも中世初期のゲルマン的要素や、中期の南仏の影響も無視することはできません。ルネサンスにおけるギリシャ・ローマの影響（ヘレニズム）に関する知識を整理して、なおかつそれ以外の要素を点検して、その上でルネサンスの現代における意義を考えたいと思います。

授業の到達目標

文化史に現れる、主題としてのルネサンスの文化・芸術を通じて、その変容と展開を考察します。

成績評価方法

●**試験**　0%　　レポートと平常点で評価します

●**レポート**　40%　　学期末に、2000字程度以上で，授業で発表した内容を報告を求めます（Waseda Moodle提出）

●**平常点**　60%　　授業や、発表の内容をまとめ、それに対する要約，感想をまとめた報告を，Moodle での課題提出として求め、必ず一回行う発表（発表のパワーポイントを必ず提出）と合わせて平常点として評価します。

●**その他**　0%　　その他は特にありません.

備考・関連URL

http://www.f.waseda.jp/tokuyam/index.htm

科 目 名	複合文化論系演習（国民文学から世界文学へ） 山下智久研究 —— 2025年、彼の〈現在地〉をよむ							
担当者名	柿谷　浩一							
複合	２単位	秋学期	金曜日	５時限	２年以上	—	—	C

授業概要

日本だけでなく世界にも活動の幅をひろげ、「国民的アイドル」から「世界的アーティスト・役者」へ。本格的に舵をきった山下智久。 そんな彼を追いかけるように、この10年ほど、いくつかの授業で彼を集中的に取り上げ、学際的観点から考察を試みてきた。最後に扱ったのは、2021年度の秋学期。それ以降も、国内では、大反響を呼んだ『正直不動産』（つい先日、来年の映画化も発表されてそれも期待が高まっている）などの意欲的なドラマ活動のほか、海外の音楽トレンドの摂取と習得した英語力を活かした英詞が光る、独立後初となるアルバム『Sweet Vision』のリリース。一方で、ハリウッド共作ドラマ『TOKYO VICE』（2022年）、第52回国際エミー賞を受賞した、日米仏共同制作の主演ドラマ『神の雫/Drops of God』（2023年）、日韓共同製作映画『SEE HEAR LOVE～見えなくても聞こえなくても愛してる』（同）といった、グローバルな映像作品でのキャリアと評価もめざましい。

このクラスでは、いま一度、彼の新たな挑戦（とりわけ言語に関わる表現活動）を対象にして、アイドル（という存在や概念）と「国民／世界」の関わり、またそれを捉えるために求められる視点や研究方法を含めて、多角的な検討を皆さんと一緒に試みてみます。 俳優としての演技（台詞）、自作による歌詞表現、常にトレンドを賑わすinstagramの投稿メッセージ。最初にして最後と銘打たれた『山下智久写真集 CIRCLE』の言葉なき表現。あるいは『0409』や『P's style』の連載に限らず、各種取材記事やコメントの言葉のありようや、ドキュメンタリー『ルート66～たった一人のアメリカ』等でもみせる異文化・言語接触の経験や視野を語る言葉たち。そうしたもろもろに隔たりを作らず、柔軟かつ横断的な視座でもって、彼の言語表現とそのエッセンスに近づくことができたら、よろこばしい。そして、日本のアイドルが世界へ羽ばたき、世界へ拡張していく時、「国内／世界」からは、どういったまなざしが寄せられ、何が求められ、それに彼は応じようとしているか。またそうした中で、私たちは（日本から）何をすることが出来るか、また必要か。言語や地域をこえた様々な点検・検証も大事になってくると思われます。

「山P」から「Tomohisa Yamashita」へ。彼の近年の動向と軌跡を追いかけながら、考察をしてみましょう。取り上げる具体的な作品や事象は、受講生の関心も考慮しながら決めていきますが、最新の作品・活動は外せません。その点で、容易に調べて読める国内の情報や文章だけでなく、できれば海外記事の参照であったり、英語等の原語での作品鑑賞なども積極的にしてもらえたら、と願います。もちろん別のアイドルにも関心があって、それを絡ませた考究も歓迎です。

【授業の具体的な進め方】

☆授業スタイルは、リアルタイム配信型授業を基本とします。そこに数回の対面授業を挟むかもしれません。詳細は開講前の秋頃に「備考」で示します。

・受講人数にもよりますが、「個人報告＋ディスカッション」の形式を中心とします。

・順番に考えてみたいトピック、調べてみたいテーマなどを報告し合っていきます。それを受けて、毎回、受講者全員でディスカッションを行います。学期末に、その成果（体験）をふまえて「自分なりの授業のまとめ」に相当する短い文章を、レポート代わりに書いてもらいます。

・講義回以外は、私もディスカッションの参加者のひとりです。日本文学・文化、ポップカルチャーの観点から報告に対してコメント等はもちろんしますが、それ以降は一緒に考える「仲間」でありたいというのが願いです。活発に、対等に、対話をし合えたら素敵じゃないですか。

授業の到達目標

グローバルに活動展開するアーテイスト、またアイドルをめぐる言語活動・表現を学際的に検証できる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　10%　　自分なりの「授業のまとめ」を提出（字数自由）。
●**平常点**　90%　　個人報告と毎回のディスカッションへの取り組み。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

・毎回のディスカッションへの参加をもって、出席とします。その回のミニ講義または他の人の報告に積極的に反応し「声」を発して下さい。（例年、最初はなかなか全員の声は出てきません。その気持ちもよく分かります。オンラインとなるといっそう難しい部分も否めません。ですが「無理のない、楽しく、充実したディスカッションの場」を目指したいと思っています。そのために、私も教室・雰囲気作りに工夫を凝らしますし、オンラインも入れた学修環境の中で、この授業時間が少しでも特有の“孤独”感を軽減させることにもなればとも考えます）

・平常点メインですので、欠席は単位に影響してきます。どうにも出られない時は、しっかりと礼節とルールを守り、事前に連絡をするようにして下さい。

・発表が充実していない（しっかり作品を鑑賞し、あるいは調べていない）と判断した場合、やり直しを指示することもあります（これまではいませんでしたが）。だからといって、凝り固まって悪い意味での「ちゃんと」したレジュメをきって報告しなければ、と窮屈になることはありません。むしろ、ディスカッションの土台やきっかけを提供するような報告が望まれます。

☆受講者数や学生の関心、授業の展開、さらには2025年のカルチャーシーンの動向によって、内容や計画の一部を変更する場合があります。少人数の場合は、発表主体というよりは「問い」や「視点」を持ちよった対話メインになるでしょう。予め了解のうえ、履修して下さい。

https://tomohisayamashita.com

科 目 名	複合文化論系演習（現代日本語研究1）　類義語の意味の違いを分析する							
担当者名	石川　創							
複合	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

「あがる」と「のぼる」のような類義語は，日本語に多く存在しますが，この2語は何が異なるのでしょうか。「山にあがる」とは言えないのは，「のぼる」と決定的な違いがあるからです。この演習では，語の意味を根本から深く追究することを目指します。研究資料や辞書などの記述を参考にするのはもちろん，多くの用例を採集し，類義語の意味の違い，ひいては語の意味そのものを詳細に論じられるようになることを目指します。

授業の到達目標

1　ことばの意味について，学問的に分析・考察ができるようになる。
2　先行研究や辞書類を根拠として，論理的に研究内容をまとめ，発表できるようになる。
3　他の履修者の研究発表に対して，積極的に質問や意見を出せるようになる。また発表者も，その意見を踏まえて，自分の研究内容についてさらに考察を深められるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　30%　　研究発表の成果，ならびに履修者・教員からのフィードバックに基づいたレポートを執筆できる。
●**平常点**　30%　　他の履修者の研究発表への質疑
●**その他**　40%　　研究発表の構成・発表内容

備考・関連URL

出席が3分の2に満たない場合には授業評価の対象としない。

科 目 名	複合文化論系演習（現代日本語研究2）　表記のゆれを分析する							
担当者名	石川　創							
複合	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

社会生活においては，「正しい日本語を使いましょう」と言われます。「書く」ことに目を向けると，例えば「漢字には正しい書き分けが存在する」という思い込みにとらわれがちです。しかし実際には，日本語とは異なる言語から取り入れた漢字を，和語（やまとことば）に完全にあてはめるのは無理なことですし，そもそもその書き分けも常用漢字という指針に基づくものです。また漢字以外でも，「キャンディー」と「キャンディ」のような表記が混在していますが，一方を「あやまり」とみなすことはないでしょう。この演習では，社会における多様な表記を観察し，「正しい／あやまり」を越えた「ゆれ」の実情を論じることを目指します。

授業の到達目標

1　日本語の表記のゆれについて，辞書の記述や実際の用例を観察することによって，多様なあり方を理解することができる。
2　国語辞書を活用したり，先行研究を参照したりして，現代社会における表記のゆれについて把握することができる。
3　コーパス等を利用し，大量の言語資料を調査・分析できるようになる。
4　他の履修者の研究発表に対して，積極的に質問や意見を出せるようになる。また発表者も，その意見を踏まえて，自分の研究内容についてさらに考察を深められるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　30%　　研究発表の成果，ならびに履修者・教員からのフィードバックに基づいたレポートを執筆できる。
●**平常点**　30%　　他の履修者の研究発表への質疑
●**その他**　40%　　研究発表の構成・発表内容

備考・関連URL

出席が3分の2に満たない場合には授業評価の対象としない。

科 目 名	複合文化論系演習（日本地域言語研究1） 地域言語研究の概略的な方法論を身につける							
担当者名	加藤　大鶴							
複合	2単位	春学期	木曜日	5時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

地域に存在している（存在していた）現実の言語を、春学期では言語そのものの地域分布と言語変化から捉える視点から光を当て、地域言語研究の学問的トピックスと方法論の基礎を修得する。各回の授業では、事前に班分けされた学生がトピックスと方法論に応じた論文を解説し、ディスカッション後に、それを参加者達が持参したノートPC等でWEB上にNINJALが公開している『日本言語地図』『方言文法全国地図』『方言談話資料』『方言録音資料シリーズ』、および日本語諸方言コーパス等で可能なかぎりデータを確認し、グループレポートを作成していく方法を採る。

授業の到達目標

地域言語研究に関わるトピックスと方法論を、具体的な言語データと結びつけ、学問を生きた形で理解できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　授業で扱った基礎的な概念やキーワードがきちんと理解できていて、発展的な問題を自身で設定しその分析・考察が妥当であるか。
●**平常点**　50%　　毎回の授業への参加状況、グループごとの小レポートの達成度など。
●**その他**　0%

科 目 名	複合文化論系演習（日本地域言語研究2） 地域言語研究の概略的な方法論を身につける							
担当者名	加藤　大鶴							
複合	2単位	秋学期	木曜日	5時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

地域に存在している（存在していた）現実の言語を、秋学期では言語を用いる人間や社会から捉える視点から光を当て、地域言語研究の学問的トピックスと方法論の基礎を修得する。各回の授業では、事前に班分けされた学生がトピックスと方法論に応じた論文を解説し、ディスカッション後に、それを参加者達が持参したノートPC等でWEB上にNINJALが公開している『日本言語地図』『方言文法全国地図』『方言談話資料』『方言録音資料シリーズ』、および日本語諸方言コーパス等で可能なかぎりデータを確認し、グループレポートを作成していく方法を採る。

授業の到達目標

地域言語研究に関わるトピックスと方法論を、具体的な言語データと結びつけ、学問を生きた形で理解できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　授業で扱った基礎的な概念やキーワードがきちんと理解できていて、発展的な問題を自身で設定しその分析・考察が妥当であるか。
●**平常点**　50%　　毎回の授業への参加状況、グループごとの小レポートの達成度など。
●**その他**　0%

科 目 名	複合文化論系演習（比較言語学研究） 言語を比較するとは、どう言うことか。言語の変化とはどのようにして起こるか。							
担当者名	森田　彰							
複合	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

設置学部のディプロマポリシーに基づき、講座を運営します。碩学高津春繁は、『比較言語学入門』で「およそいかなる科学といえどもそれが実証的・帰納的であるかぎり、比較方法を使用せずには成立しえない。」と言っています。その比較方法が言語の探求にどう用いられてきたか、また用いるのかを学びながら、曰く全ての科学・学問に通ずる比較の方法論を学びます。もちろん、科学的ものの見方とは、どんなものかも考えていくことになります。

言語を比較することには、当然いくつかの目的、対象、方法があります。しかし、これとは別に、「比較文法」と言い、同系統の複数の言語を比較し、その言語間の関係を探ったり、それらの共通の祖先（祖語）や元の形を想定しようとする学問分野が、伝統的に「比較言語学」とほぼ同義で用いられて来ました。そこで、本演習では、言語における「比較」の原点であった比較文法の概要を理解した上で、さらにそこから発展した言語の通時的（歴史的）研究、特に言語変化の様相を見ていきます。また、比較を重要な研究の手法とする言語接触についてもその要点を学びます。一つの言語の中の変種 variation と標準化 standardization についても可能な限り触れたいと思います。

教科書（2）については、希望をとり、個人またはグループによる**発表を行ってもらいます**。もちろん、これは履修者の人数によって柔軟に考えざるを得ませんから、その具体的方法については、講座の中で説明・協議します。

授業の到達目標

・全ての科学に通ずる比較の方法論を言語を例にして学ぶ。
・科学的ものの見方とはどんなことかを理解できる。
・似ていないものが（も）似ていることを知る。
・ヒトの営みとしての言語活動について理解を深める。
・言語の変化とその様相について理解を深める。
・言語の変化とその要因について理解を深める。

成績評価方法

一応、理解度を測るテストを20%程度、発表を60%程度、演習への貢献（所謂平常点）を20%程度と考え、総合的に評価

します。受講者の人数により、テストの比重を高めたり、発表の比重を高めたりすることもあります。また、発表とレポートによる評価にする場合もあります。人数が多くなれば、別にテストを行う可能性もあります。評価の割合も、レポートになった場合などにはまた変化するので、事前に提示するともりですが、いずれにせよ、これらは履修を全うした場合のものであって、累積的なものではないので、注意してください。なお、演習への参加度は、「理解度の確認」、「レポート」などの設問によっても問われます。受講者数によって登録者確定後に正式に決定しますから、第1回、第2回の授業には必ず出てください。

備考・関連URL

比較文法の何たるかを、特に印欧（インド・ヨーロッパ）語比較文法を本当の意味で知るには、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などの西欧諸語の複数に関する深い知識、さらに言えば、ラテン語、古典ギリシャ語、サンスクリット語の知識が必要です。しかしながら、言語間の比較は、比較文法の範囲に留まるものではありません。それを理解し、中途半端に言語を比べてみる、と言うことではなくしっかりとした方法論と資料の収集と活用を身につけてください。学生の発表に関しては他の学生も受け身にならず、積極的に討議に参加してください。また、受講者の人数によって、討議にかける時間（授業回数）と学ぶ内容と方法については、調整が必要になります。この調整への対応も含め演習は、受講者の参加度、積極性も重要な評価の基準になります。欠席は極力しないように。100分授業になるので、発表の回数を調整し、予備日をもう1日設けるかも知れません。また、履修者の人数によってペアやグループでの発表になります。この点、十分考えて履修してください。

科 目 名	複合文化論系演習（言語と文化）							
担当者名	酒井　智宏							
複合	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

「言語を学ぶとはすなわち文化を学ぶことである。」これまでみなさんは何度となくこのような話を聞いたことがあると思います。しかし、これらの主張は、雰囲気としてはなんとなく分かるような気もしますが、「いったいどういうことなのか具体的に説明してください」と言われると困ってしまうのではないでしょうか。この講義では、こうした主張の起源と発展をたどり、その妥当性を検討することを通じて、その正しい解釈について考察します。

授業の到達目標

1.「言語の違いにかかわらず、人間がもつ概念は普遍的である」とする普遍主義の考え方を理解する。
2.「言語が異なれば概念（さらには世界観）も異なる」とする相対主義の考え方を理解する。
3. 極端な普遍主義・極端な相対主義に陥ることなく、言語と概念、言語と文化の関係を正しく捉えられるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　学期末のレポートを評価対象とします。一学期の学修を通じて知識と思考力がどれだけ伸びたかを重視します。
●**平常点**　50%　　講読する論文の内容についての事前投稿・毎回100分にわたる議論への参加を評価の対象とします。
●**その他**　0%

備考・関連URL

・提出された訳文・解説等は、授業中に一字一句に至るまで検討対象とされます。
・言語学は突き詰めて考えることにより少しずつ面白さがわかってくる学問分野です。結論を急がず、文献を丁寧に読みながら、論理的に一歩一歩思考を進める厳しさと楽しさをこの演習で身につけていただきたいと思います。

科 目 名	複合文化論系演習（日常言語の論理学）							
担当者名	峯島　宏次							
複合	2単位	春学期	金曜日	5時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

「人間の言葉を形式的に分析する」という考え方は、G.フレーゲ、N.チョムスキー、R.モンタギューらの研究を経て、形式文法・形式意味論という分野に発展し、現在では論理学・哲学・言語学の境界領域で活発に研究されています。この講義では、現代的な観点からその成果の重要な部分を見通しよく提示し、主に日本語と英語を対象にして、私たちがふだん使っている言葉（自然言語）を論理的手法によって分析することの意義について考えます。これは形式意味論の分野で現在標準的な考え方の基本を学ぶと同時に、その基礎を問い直す試みでもあります。

論理学や言語学の特別な知識は仮定せず、授業と平行して、言語分析への応用を念頭に置きつつ、現代論理学の基礎を学ぶ予定です。

授業の到達目標

(1)現代論理学の考え方に基づく言語分析の基本的な方法を学ぶ。
(2)その背景にある言語学・言語哲学の主要な課題、言語学者・哲学者の間で論じられてきた主要な言語現象について概観を得る。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%
●**平常点**　50%
●**その他**　0%

備考・関連URL

自然言語の文法・意味論に興味のある人、形式言語・論理学に興味のある人、言語一般について哲学的な興味を持っている人など、幅広い背景・専門をもつ人を含めて、言語に関心のある学生の参加を期待します。

科 目 名	複合文化論系演習（意味と文脈）							
担当者名	酒井　智宏							
複合	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

「ことばの意味」を研究する学問分野には「意味論」のほかに「語用論」があります。「意味論」はその名のとおりですが、どうしてこれとは別に「語用論」なる分野が存在するのでしょうか。それは、言語表現が実際の文脈中で用いられることにより、プラスαの意味が伝わることがあるためです。そこで従来、「意味論 = 言語表現の辞書的意味（文脈独立的意味）を扱う分野」、「語用論 = 言語表現が文脈中で使用されたことによって伝わるプラスαの意味を扱う分野」という棲み分けが行われてきました。しかし、近年の語用論では、文脈中でプラスαの意味が生まれるだけでなく、辞書的意味自体が変容することがある（あるいは常に変容する）ことが指摘され、意味論と語用論の棲み分けは従来考えられてきたほどすっきりしたものではないと考えられるようになっています。さらに、1980年代に成立した認知言語学では、意味論と語用論の間に明確な境界線を引こうとすること自体に意味がないと考えられています。この演習では、意味論と語用論の関係についての議論を読み解き、日常なんとなく言われる「ことばの意味は前後の文脈に依存する」ということが具体的に何を意味するのかを考えます。

授業の到達目標

1. ことばの意味に対する多面的な見方を身につける。
2. 「ことばの意味は文脈に依存する」という言い方が何を意味するかを厳密に理解する。
3. 論理的に書かれた英語文献を正確に読むスキルを身につける。
4. 人間の言語理解とAIの言語理解の異同を説明できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　学期末のレポートを評価対象とします。一学期の学修を通じて知識と思考力がどれだけ伸びたかを重視します。
●**平常点**　50%　　講読する論文の内容についての事前投稿・毎回100分にわたる議論への参加を評価の対象とします。
●**その他**　0%

備考・関連URL

・提出された訳文・解説等は、授業中に一字一句に至るまで検討対象とされます。
・言語学は突き詰めて考えることにより少しずつ面白さがわかってくる学問分野です。結論を急がず、文献を丁寧に読みながら、論理的に一歩一歩思考を進める厳しさと楽しさをこの演習で身につけていただきたいと思います。

科 目 名	複合文化論系演習（文化人類学入門）　自分のあたりまえを切り崩すためのレッスン							
担当者名	箕曲　在弘							
複合	2単位	春学期	月曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本演習では、文化人類学の基本的なテーマについての理解を深め、その思考法を習得し、自分の身の回りの現象を文化人類学の視点から分析できるようにすることを目指す。文化人類学は異文化の奇妙な慣習や風習を調査する学問だと思われている節があるのだが、実際には様々な形の異文化理解を通じて、人間とは何かを問うことに主眼がおかれる。私たちはこれまで生きてきたなかで様々な常識を身につけている。だが、文化人類学を学ぶとそうした常識が決して人間存在にとって普遍的なものではないということに気づくことになる。 本演習では、文化人類学がこれまでの蓄積してきた知の遺産をもちいて、私たちの常識を相対化し、自己の暗黙の前提を切り崩す体験をしてもらう。そのために重要なのは教室内でのディスカッションである。本演習では教科書『東南アジアで学ぶ文化人類学』をもちいた「反転授業」を行う。すなわち、授業を受ける前に教科書の割り当てられた章を読んできてもらい、あるていど知識をつけたうえで、授業内では班ごとのディスカッションをメインに据える。ディスカッションのトピックも教科書の各章末に記してあるので、事前に何を話すか考えてきてもよい。

文化人類学の学習にとって、そのなかで使われる概念を覚えるは手段ではあるが目的ではない。むしろその目的は、文化人類学者が生み出してきた概念をさまざまな現象に当てはめて、その現象の見え方を変えていくことにある。14回の授業を終えたのちに、皆さんの世界の見え方が大きく変わっていることを願う。

授業の到達目標

・文化人類学が扱う諸テーマについて、学説史的背景を踏まえて理解する。
・文化人類学が得意とする思考法を身につけ、自分の身の回りの現象を分析できるようにする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　0%　　期末に課すレポートの内容をもって評価する。
●**平常点**　100%　　各回のディスカッションを踏まえて自分の考えをMoodle上に提出。各回8点満点とする。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	複合文化論系演習（フィールドワーク入門）							
担当者名	軽部　紀子							
複合	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本演習では、文化人類学の基礎を成す「フィールドワーク」について学びます。文化人類学は、文化を中心に据えた目線から他者を理解する学問の1つですが、フィールドワークは、その研究において必須の工程の1つです。研究者自らが現地に赴き、研究対象とする人々が構成する集団を外から眺めるのではなく、実際にその構成員となりながら調査・研究をする手法です。そのため、フィールドワークによって得られるデータは、時に外からは知ることのできない「中の声」を反映する大変貴重な情報となり得るため、現在では、文化人類学だけではなく、多くの学問やビジネスでも採用されるようになり、大変応用範囲が広く、有効な手法と言えます。

しかし同時に、フィールドワークは研究者と研究対象者との緊密な信頼関係の上にのみ成立しますので、研究者には、綿密な計画、マナー、常識、現地への配慮など、様々な要素が求められます。また、研究者自身がトラブルから身を守るためにも、入念な準備が必要になります。

そのため、本演習では、まずは教室内で教材を使って「フィールドワークとは何か」のを様々な角度から学びます。その後、実際にフィールドワークを行なっていただき、データ分析をし、発表を行なっていただきます。

授業の到達目標

・フィールドワークの意義、方法論を理解する
・実践を通じてフィールドワークを経験する
・フィールドワークで得られたデータを分析、まとめ、発表する力を身につける

成績評価方法

●**試験** 0% 試験は行いません。
●**レポート** 40% 学期末にレポートを提出してもらいます。
●**平常点** 60% 授業への出席率、授業・ディスカッションへの参加度などを総合的に評価します。
●**その他** 0% なし。

備考・関連URL

本演習では、履修者に積極的な授業参加が求められます。それは授業内での発言だけではなく、グループワークにおける協調性、そしてフィールドワークに対する姿勢も含みます。

授業内容は履修生の数や理解度、社会情勢などに応じ、適宜変更が生じる可能性があります。

科 目 名	複合文化論系演習（文化人類学学説史）							
担当者名								
複合	2単位	秋学期	日曜日	7時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

※担当者未定につきシラバス内容は2025年7月までに更新される予定です。
以下の内容は参考として2024年度の内容を掲載していますのでご注意ください。

本授業は、基本と応用の二つの構成からなる。

基本：人類学はどのような学問なのか、大まかな学問的経緯を理解した上で、各トピックについて書かれた文化人類学のテキストを読みながら、文化人類学的な考え方や主要ないくつかの学説を学んでいく。

まずは、大航海時代以降のヨーロッパ世界の「未開」へのまなざし、近代化と人類学の誕生、ダーウィンの進化論の影響、植民地主義と人類学などについて学ぶ。その後、いろんなトピックを扱うなかで、文化相対主義、構造主義、オリエンタリズム、ポストコロニアルなどを理解していく予定である。各回に扱うトピックについては、受講者の文化人類学の受講経験や前知識の有無、関心領域などを確認した上で柔軟に対応していく。そのため、授業計画の内容やトピックは変更する可能性がある。変更した際は、授業時およびMOODLE上でお知らせする。

発表者は課されたリーディングの内容をまとめる。また、それをもとに、応用・発展して考えたことについて述べ、クラス全体に3つほどの問いを提示してもらう。しばらくグループで話し合い、のちにグループ代表者がグループワークの成果を発表し、クラス全体でのディスカッションを行う。

応用：

各自【私のエスノグラフィ】のプロジェクトを作成してもらう。文化人類学的研究にふさわしいリサーチトピック,調査対象をまずは大まかに設定し、オンライン文献を見つけ、目を通しながらプロジェクトを具体化していく。実際に調査は行わなくてもよいが、どのような視座から調査対象にアプローチするか、どの考え方や学説が参考になりそうかなど考えていく。

毎回ではないが授業時、数人の受講者が自らのプロジェクトの進行を報告し、他の受講者からコメントや質問をもらう。そこでの議論をもとに、さらにプロジェクトをより実現可能性の高いものにブラシュアップしていく。参考にする学説について理解し、最終的には、自分のプロジェクトの人類学的な意義について明確に答えられるようになることを目指す。個人のプロジェクトは最終的に提出が求められる。

アクティブラーニングの形式で授業を進める。単位を取得するためには、しっかりとテキストを読んで、活発に議論に参加することが求められる。基本的に、授業時に発言せずに授業が終わることはないと思ってください（もちろん、事情がある場合は配慮します）。受講者の人数にもよるが、個人およびグループ内での発表は最低2回以上となる。

授業の到達目標

①文化人類学の基礎的視座と知見の理解
②実現性の高い文化人類学的研究の計画づくり

成績評価方法

●**試験** 30% 7回目、14回目の授業時に試験を行い、内容理解度の確認を行います。
●**レポート** 30% 期末レポート（MYエスノグラフィのプロジェクト提出を含む）
●**平常点** 20% 積極的授業態度（自主的な発言、グループ活動時の積極性など）
●**その他** 20% プレゼンテーション（クラス全体）、リアクションペーパー

備考・関連URL

授業前に必ずWASEDA MOODLEを確認してください。ただ出席しているだけで与えられる点数はありません。

科 目 名	複合文化論系演習（ジェンダー人類学） ジェンダーに関する通文化的な比較研究							
担当者名	國弘 暁子							
複合	2単位	秋クォーター	月2時限	無フルOD	2年以上	—	—	フル/対面/ハイブリッド/対面授業特別以上

授業概要

この授業では、フィールドワーク調査に基づいた人類学のジェンダー研究論文を読み、その内容についてのディスカッションを授業で行います。人類学におけるジェンダー研究の射程を把握し、さらに、それらの研究が現代社会を生きる私たちにとっていかなる意味を持つのかについて考えることを目的とします。この授業は、教室での対面授業（7回）とオンデマンド配信型授

業（7回）の組み合わせで実施します。各回で扱う英論文を事前に読み込んでからオンデマンド配信型授業を受講し、その上で、教室での対面授業におけるディスカッションに参加することが求められます。

授業の到達目標

この授業で使用する論文は全て英文になります。英文読解を通じて、人類学におけるジェンダー研究の動向について学ぶことに加えて、英語で書かれたものを日本語に翻訳する作業を通じて、ゼミ論・卒論執筆で必要となる文章力を鍛えることも目標としている。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　30%　　与えられた課題を授業内容の視点と絡めて深く考察しているかどうかを評価します。
●**平常点**　70%　　テキスト論文の理解度、ディスカッションへの参加度、リアクションペーパーの提出状況について評価します。

対面授業の出席回数が2／3以下の場合は平常点評価の対象外となります。

●**その他**　0%　　なし

備考・関連ＵＲＬ

履修者の関心や授業の進み具合に応じて、各回の授業で扱う論文を適宜変更します。

科 目 名	複合文化論系演習（グローバリゼーションと人間の経済）「仕事」の人類学							
担当者名	松前　もゆる							
複合	２単位	春学期	金曜日	４時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

経済活動は人間にとって欠かすことができない営みであり、各地の生業などの分析は文化人類学を学ぶ者にとって必須となってきました。一方で、グローバリゼーションが進行する今日の世界では、経済は、市場経済に特化するかたちで、文化やくらしとは切り離して語られがちです。しかし、世界各地でのフィールドワークから明らかにされてきたように、グローバリゼーションは各地域で個別に、ローカルなかたちで（も）立ち現れるのであって、人々が実際にグローバリゼーションをどう生きているのかにもっと目を向ける必要があるでしょう。 本演習では、とくに「仕事」や「働くこと」に焦点をあて、文化人類学および隣接分野でどのような議論がなされてきたかを学びます。ここで重視されるのは、グローバル経済の只中にあって、実際に人々がなにを「仕事」とし、どのように働いているのかということです。人間のくらしに根ざした経済（＝人間の経済）、つまり、人が生きる中での「仕事」や「働くこと」を見つめ直し、その現状と課題について、参加者とともに考えることを目指します。

なお、本演習では「仕事」に関する文化人類学分野の文献（今学期は主に、中谷文美・宇田川妙子編『仕事の人類学―労働中心主義の向こうへ』世界思想社、2016年、を購読予定）から学んだ後、参加者に関連するトピックについて調べ報告してもらう時間をとる予定です。

授業の到達目標

①世界各地における「仕事」や「働くこと」について、文化人類学および隣接分野でこれまでどのような議論がなされてきたか、その一端を理解する。

②経済のグローバル化が進行するなかで人々がなにを「仕事」とし、どのように働いているのかを知り、自分たちの仕事観・労働観を再考することができる。

③「仕事」や「働くこと」をめぐる現状と課題について、具体的な事例から検討できるようになる。そのうえで、自らの考えを説明できるようになるとともに、意見交換を通じ、考えを深めることができる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません。
●**レポート**　40%　　学期末にレポートを提出してもらいます。授業内容を充分に理解した上で考察し、正確で論理的な記述がなされているかを評価の対象とします。
●**平常点**　60%　　授業での発表内容と、ディスカッションへの参加状況や出席率により、授業への参加度・貢献度を総合的に評価します。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	複合文化論系演習（植民地主義と人類学）　東南アジアの植民地研究							
担当者名	海老澤　圭							
複合	２単位	冬クォーター	月２時限	無フルOD	２年以上	—	—	フル【対面】ハイブリッド（対面授業特別以上）

授業概要

本授業では、東南アジアの植民地研究に関する論考・エッセイ（英文）を読んで、その内容理解を深めるためのディスカッションを毎回行います。東南アジアの植民地研究の射程を把握することが現代社会を生きる私たちにとってどのような意義をもたらすのかを共に考えることを目的とします。この授業は、教室での対面授業（7回）とオンデマンド配信型授業（7回）の組み合わせで実施します。各回で扱う英語のテキストを事前に読み込んでからオンデマンド配信型授業を受講した上で、教室での対面授業におけるディスカッションに参加することが求められます。

授業の到達目標

本授業の到達目標は、東南アジアの植民地研究について学ぶことと同時に、英語で書かれたものを日本語に翻訳する作業を通じて、ゼミ論文や卒業論文を執筆する際に必要となる文章力を鍛えることも目標としています。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　30%　　与えられた課題を授業内容の視点と絡めて深く考察しているかどうかを評価します。
●**平常点**　70%　　テキストの理解度、ディスカッションの参加度、リアクションペーパーの提出状況について評価します。対面授業の出席回数が2/3以下の場合、平常点評価の対象外となります。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

授業で扱うテキストについては、授業の進行具合や受講者の興味・関心に応じて適宜入れ替える予定です。

科 目 名	複合文化論系演習（民族文化論）							
担当者名	寺崎　秀一郎							
複合	２単位	春学期	火曜日	２時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

文化や民族という概念はア・プリオリに存在するものではなく、それらを担う人間集団によって歴史的に形成されたものであり、自己と他者との差異に基づく分類ということになる。この差異、すなわち、文化や民族を規定するものは何だろうか。たとえば、言語は文化や民族集団を識別する手がかりとはなるが、現実には、同一民族集団としての認識を持ちつつも、異なる言語を使用している例、あるいはその逆、なども知られていることから、言語は自らの文化や民族と他と識別する「アイデンティティ」としては不十分である。

そこで、本演習では、文化や民族を規定する「アイデンティティ」として世界認識の方法に着目し、その歴史的背景や自然環境、場合によっては隣接する他集団との関係、あるいは、世界の秩序を説明するためのマニュアルとしての神話などについて、各地の事例を比較検し、「アイデンティティ」の生成と受容について文化人類学的なアプローチによって明らかにする。

授業の到達目標

「私たち」と「彼ら」の間にはどのような異同が存在するのか。多様な人類社会のあり方について、自ら問題を設定し、読み解くための文化人類学の手法を学ぶ。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない

●**レポート**　0%　　実施しない

●**平常点**　100%　　出席状況，研究報告の達成度、討議への参加状況等、総合的に判断する。なお、受講生は受講後、Waseda Moodle上のフォーラム機能を活用して，研究報告に対する質問や意見を投稿してもらう。この投稿をもって出席とする。

●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	複合文化論系演習（カルチュラル・スタディーズと人類学）							
担当者名	松平　俊久							
複合	２単位	秋学期	火曜日	３時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

カルチュラル・スタディーズは、学問的に等閑視されがちであったテレビや広告、映画、ポップミュージック、ファッション、アニメ、ゲームなどの大衆文化（ポピュラー・カルチャー）や若者文化を主たる対象として、さまざまな学問の理論・概念・方法を借用して理解・考察し、文化の問題にとり組むことを基本としてきた研究領域です。そのスタンスは、いろいろな民衆の文化を対象とし、調査結果から実証的にアプローチしていく先行学問である文化人類学とけっして無関係ではなく、むしろ両者には相互性がみられるといえます。本授業では、そうした関係をもつカルチュラル・スタディーズと文化人類学双方の基本的な特徴・性格を踏まえて、文化（の多様性）の見方・考え方をともに学び、考えていきます。

導入として数回講義を実施しますが、演習であることを踏まえて、履修者には関心をもつ身近な対象・テーマについてグループワークおよびグループ発表を、発表後には質疑応答・議論（Waseda MoodleのBBSも使用）を、最終的には発表内容をレポートとして文章化する作業を、それぞれおこなってもらいます。以上のように、本授業は履修者主体の実践的な内容になります。なお、発表に対してはフィードバックとして講師からコメントを出します。

授業の到達目標

導入の講義内容を参考・意識しつつ、関心のある身近な対象・テーマについていろいろと調査をして考えを巡らし、その内容を発表すること、さらに他の発表でとりあげられるいくつもの対象・テーマに触れ、履修者間の質疑応答・議論ならびに講師からのフィードバックをも介することで、カルチュラル・スタディーズと文化人類学双方の立ち位置からの文化（の多様性）の見方・考え方を多角的かつ経験的に身につけることを目標とします。

また、学術的な思考法や発表構成の組み立て方をはじめとして、発表の仕方（pptのスライドの作り方などを含む）や発表内容の文章化といった、自身の考えを的確にアウトプットする能力を身につけることも目標に設定しています。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　35%　　発表内容を的確に文章化できているか、質疑応答・議論や講師からのコメントで指摘されたことが検討され、発表時よりも内容がさらによくなっているかなどを評価基準とします。

●**平常点**　65%　　発表を35%、質疑応答・議論とBBSへの参加度を15%、出席状況を15%とします。

発表の評価については、構成が論理的に考えられているか、限られた時間のなかで的確に内容を伝えられているか、独自の考察が展開できているか、質疑応答で質問に答えられているか、レジュメやpptが適切に作成されているかなどを基準とします。

●**その他**　0%

備考・関連URL

発表のグループは3〜4名1組となる予定です。発表に対するフィードバック（コメント）は、基本的にWaseda MoodleのBBSでおこないます。

第1回のオリエンテーションでは上記のとおり発表に関する詳しい説明やグループ分け・発表日の割当もおこないますので、欠席しないようにしてください。なお、履修者数などの都合により、授業内容・計画が多少変更となる場合があります。また、授業計画にある時間配分は目安になります。

科 目 名	複合文化論系演習（開発人類学）							
担当者名	早川　公							
複合	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本科目は、開発人類学と呼ばれる文化人類学のサブ領域について演習形式で学びます。学修を通じて、私たちは開発人類学とはどのような方法論的特徴をもつ学問であるかを理解し、現実社会にどのように関わるかを考えられるようになることを目指します。また本授業は演習科目であるため、一方向的な講義は必要最小限とし、対話型・参加型の方法をとりいれて進めます。とくに今年度は、人文社会系にとって必須の「本の読み方」に焦点を当てた授業を予定しています。

授業の到達目標

・開発人類学の考え方や理論的枠組みを説明することができる
・開発人類学の観点から考察したケースを学術的な形式（レポートやポスター）で表現できる
・「開発」に向き合う態度を言語化できる

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　30%　　中間および最終レポート（30%）
●**平常点**　70%　　・各授業回のワークへの参加およびその態度（40%）
・各授業回後に提出するリフレクションシート（30%）
を目安として総合的に評価します。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

本科目では、授業目標に掲げたとおり知識修得にとどまらずに学習者のありかたについて省察できるようになることを大切にしています。ついては、第1回と第14回を重視していますので、特に受講に注意して参加してください。
第1回欠席者は必ず第1回のワークを事後に実施してください。なお、授業内容は受講生の理解度をみながら調整します。

科 目 名	複合文化論系演習（物質文化論）　ヒトとモノの文化誌							
担当者名	寺崎　秀一郎							
複合	2単位	秋学期	火曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

私たち人類はこの地球上に誕生以来、周囲の環境に働きかけ、石器や骨角器、果ては外宇宙に飛び出す無人探査機までさまざまな道具＝モノを造り出してきた。貧弱な肉体しか持ち得ない人類はそれらを用いて他の強力な生物との競争に打ち勝ち、今では私たちの身の回りはモノで溢れかえっている。多くの人びとはそれらのモノがどのような必要から、どうやって生み出されてきたのかを問うことすらしないだろう。しかし、モノは単に私たちの生活を豊かにし、彩るだけではなく、私たちヒトの社会/文化のあり方とも深く関わっている、ということも忘れてはならない。本演習では、私たちの身の回りにあるモノの起源、機能や形態の変化などを通じて、社会/文化がどのようにそれらを受け入れ、あるいは社会/文化そのものの変化を引き起こしたのか等々、さまざまな角度からヒトとモノの関わりを考察していくことにしたい。受講生の人数にもよるが、個人、もしくはグループでの研究報告を主とする予定である。

授業の到達目標

モノを通じて、周囲の世界への理解とヒトの文化の多様性と普遍性について学ぶことを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　0%　　実施しない
●**平常点**　100%　　出席状況，研究報告の達成度、討議への参加状況等、総合的に判断する。なお、受講生は受講後、Waseda Moodle上のフォーラム機能を活用して，研究報告に対する質問や意見を投稿してもらう。この投稿をもって出席とする。
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	複合文化論系演習（医療人類学）							
担当者名	高橋　絵里香							
複合	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この授業では、依存・人口・スペキュレーションという3つのキーワードからエイジング（老いていくこと）について考えていきます。文化人類学は近年、スペキュレイティブ・フィクション（SF）と思考のベクトルにおいて接近しつつあります。それは、現在から直線的に伸びた先にある未来とは別の物語を構想するSF的営みが、近代的な世界秩序に異を唱えてきた文化人類学と呼応するからです。そして、老いについて考えることは、過去から未来へと広がっていく時間軸の中で私たちの世界を捉えていくことに他なりません。そこで、この授業ではスペキュレーションという思考実験を通して、他者と共に生きる未来を模索していきます。

授業の到達目標

① 文化人類学の存在論的転回について理解する。
② エイジズムと人口問題について、依存／自立という二項対立的な発想とは異なる捉え方を模索する。
③ スペキュレイティブな思考力を養う。

成績評価方法

●**試験**　30%　　知識ではなく理解を問う記述問題を出します。
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　70%　　授業への出席回数、参加態度（発言の頻度と内容を含む）、発表内容から総合的に評価します。

●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	複合文化論系演習（コミュニティとナショナリズム）　現代世界におけるナショナリズムとコミュニティ							
担当者名	軽部　紀子							
複合	２単位	秋学期	水曜日	２時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

ナショナリズムは近代と強く結びつく現象ですが、現代のグローバル化の時代にあって、再びこうした動きが世界各地で目立つようになってきたと言われます。とりわけ近年では、移民や難民に対し、あるいは、外部に由来すると考えられる理念や価値観に対し、「われわれ」－われわれの利益や価値観、あるいは「われわれのコミュニティ」－を守ろうとする動きとして現れているように思われます。他方、「コミュニティ」という言葉も、さまざまなレベルの多様な集団をさすことがある多義的なものでありながら、昨今「地域コミュニティの再生」がめざされたり、「移民コミュニティ」に目が向けられたりと社会的に注目されていると言えるでしょう。

こうした状況にアプローチするため、本演習では、まず、ベネディクト・アンダーソンの『想像の共同体』を中心に文献購読をし、「コミュニティ」や「ナショナリズム」、「ネイション」といった概念をしっかりと学びます。次に、現代社会におけるナショナリズムの一例として、一部のハワイ先住民によって長く訴えられている主権回復運動について考えます。授業の後半では、履修生の皆さんにそれぞれ「コミュニティ」と「ナショナリズム」に関する事例を選んでいただき、グループ発表もしくは個人発表という形で調べたことを発表してもらいます。お互いの報告を照らし合わせ、また全体でのディスカッションを通して、このテーマへの理解を深めることがこの授業の目指すところです。

授業の到達目標

・「コミュニティ」および「ナショナリズム」という現代においても注目される概念に関し、基本的な知識を得る。

・現代世界における「コミュニティ」や「ナショナリズム」に関わる様相について知るとともに、意見交換を通じて自らの考えを深めることができる。

・「コミュニティ」と「ナショナリズム」をめぐる問題系について、自ら調べて理解を深め、自分なりにアプローチする力を身につける。その上で、自らの考えを説明できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません。
●**レポート**　40%　　学期末にレポートを提出してもらいます。
●**平常点**　60%　　授業への出席率、授業・ディスカッションへの参加度などを総合的に評価します。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連ＵＲＬ

本演習では、履修者に積極的な授業参加が求められます。授業内容は履修生の数や理解度、社会情勢などに応じ、適宜変更が生じる可能性があります。

科 目 名	複合文化論系演習（多文化社会論）　グローバル世界とダイバーシティ（多様性）							
担当者名	高橋　利枝							
複合	２単位	春学期	木曜日	５時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

移民が多い国、たとえば、カナダ、オーストラリアなどに、それぞれの移民が以前にいた国、地域の文化を背負い、別の地域から人々の異なる文化と共存する「多文化」という現象が見られます。歴史的経緯の中で、それらが融合して、別の文化を形成していく傾向も見られますが、その一方で、それぞれの異なる文化を尊重して、それらを保持したまま、もしくはその変化は自然な経過に委ね、積極的に共存を模索する動きもあります。例えば今日では、衛星放送やインターネット、YouTubeなどの動画共有サイト、ソーシャルメディアなどによって日常生活において絶えず母国とつながり、文化的アイデンティティを再創造している若者たちもいます。そうした、ひとつの国もしくは地域に属する社会に見られる、「多文化」という現象に関して、幾つかの具体的なケースについて検討しながら、考察して行きたいと思います。その際に、私たちが「国」や「民族」という枠組みにとわられているので、一民族もしくは一民族に一様な一つの文化と思いがちですが、実は一つの文化について詳しく学べば学ぶほど、それらの中に「多文化」の要素があることがわかる、ということを常に意識したいと思います。本演習では、アメリカやカナダ、フランス、イギリス、オーストラリア、日本などにおけるダイバーシティ（多様性）を受講者のそれぞれの関心に応じて、文献講読やリサーチ、グループワークやディスカッションなどを通じて理論的かつ経験的に理解を深めていきたいと思います。

授業の到達目標

1.「多文化」という現象を考察することにより、「文化」のありかたと「社会」について、可能な限り、深く理解していく端緒としたいと思っています。

2. グループワークやプレゼンテーションなどを通して、コミュニケーション能力を身に付けることを目標としています。

成績評価方法

●**試験**　0%　　—
●**レポート**　0%　　—
●**平常点**　100%　　出席、授業におけるディスカッションなどへの参加度と貢献度、プレゼンテーションによる総合評価。
●**その他**　0%　　—

備考・関連ＵＲＬ

本演習は、プロジェクト型授業であり、受講者による調査、グループ発表を中心として授業を進めるため、受講者の興味とテーマ設定によって変更する場合があります。授業計画は変更する場合がありますので、Moodleを参照してください。

科 目 名	複合文化論系演習（近代文化の相互交流） 越境するモダニズム							
担当者名	上野　理恵							
複合	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

20世紀初頭の産業社会の成熟や大衆文化の形成は、世界各都市のモダニズムに新たな展開をもたらしました。絵画、彫刻、文学、音楽、演劇といった既存の芸術ジャンルを越えて、それまで誰も見たことがなかったような実験的な作品をつぎつぎに生み出していったのです。芸術に生産性や実用を求める動きは、工業的素材や複製技術の利用を促し、さらにデザインという新たな分野を確立しました。また作品に対する観者の一方向的な関係の否定は、パフォーマンスという身体表現を生み、舞台芸術にも変革をもたらしました。こうした現象はイタリアの未来主義、ロシアの未来主義や構成主義、ドイツのダダやバウハウス、そして日本の〈マヴォ〉や〈三科〉に共通するものです。舞踊の世界に目を向けると、フランスではバレエ・リュスがピカソやコクトーをはじめさまざまな国籍の芸術家たちを引き入れてクラシック・バレエを刷新し、ドイツやロシアではイサドラ・ダンカンのフリー・ダンスやエミール・ジャック＝ダルクローズのリトミックの受容からモダン・ダンスの新たな潮流が形成されています。

ジャンルの枠や国境を越えた芸術家たちの活動は、各都市のモダニズムを刺激し合い、革新的作品を産む原動力となりました。授業ではモダニズムを担った芸術家たちの活動や作品を「越境」をキーワードに読み解き、その歴史的・現代的意義を考えます。

＊本授業は教室授業を基本とし、一部リアルタイム配信型授業で7回まで実施します。

授業の到達目標

文化研究の方法を実践的に学び、専門研究に取り組むための基礎的な能力を養います。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　30%　　自分の考えを述べていることを重視します。
●**平常点**　30%　　出席状況、授業への参加度。
●**その他**　40%　　口頭発表の内容。

備考・関連URL

リアルタイム配信授業を実施する場合は、Moodleを通じてミーティングの招待リンクをお知らせしますので、授業開始時間になったら入室してください。

科 目 名	複合文化論系演習（メディアと異文化コミュニケーション） AI(人工知能)時代におけるリテラシー							
担当者名	高橋　利枝							
複合	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

グローバル化やAI(人工知能)化が急速に進む現代社会において、人々は対面的コミュニケーションとインターネットや携帯電話などのメディア・コミュニケーション、AIやロボットとのコミュニケーションによって、多様な「他者」や文化と稠密な相互作用を行なっています。ユネスコはこのようなAI社会を生きる若者を「ジェネレーションAI」と名付け、「AIリテラシー」の世界的な普及に取り組んでいます。本演習では、このような現代の「異文化コミュニケーション」と「AI/デジタル・リテラシー」に関して、文献講読やリサーチ、グループワークやディスカッションなどを通じて、理論的かつ経験的に理解を深めていきます。受講者の関心に合わせたグループプロジェクトを通して、現代のグローバル社会、AI(人工知能)社会における好機とリスクを理解し、新たなコスモポリタン文化の創造の可能性を考察していきたいと思います。

授業の到達目標

1. さまざまな文献、フィールドワークを通して、デジタル時代の「異文化コミュニケーション」について理解を深めましょう。
2. AI/デジタル・リテラシーについて理解し、実践することによって、新たな文化を創造する力を身につけましょう。
3. グローバル人材・AI人材に必要なコミュニケーション能力を身に付けることを目標としています。

成績評価方法

●**試験**　0%　　—
●**レポート**　0%　　—
●**平常点**　100%　　出席、授業におけるディスカッションなどへの参加度と貢献度、プレゼンテーションによる総合評価。
●**その他**　0%　　—

備考・関連URL

本演習は、プロジェクト型授業であり、受講者による調査、グループ発表を中心として授業を進めるため、受講者の興味とテーマ設定によって変更する場合があります。授業計画は変更する場合がありますので、Moodleを参照してください。

科 目 名	複合文化論系演習（創造の交流点） 美術に見る異文化交流の問題							
担当者名	坂上　桂子							
複合	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

異文化交流の問題を、美術の視点から学びます。モネやドガ、ロートレックは、浮世絵や陶磁器など日本の美術品と出会うことで独自の作風を生み出しました。ピカソはアフリカ美術に触れることで、「キュビスム」という美術の歴史を大きく塗り替える前衛的なアートを生み出しました。ミュシャやガレに代表される19世紀末のデザイン様式は、東洋の美術や中世の美術など、国境や時代を超越して多彩な美術を参照することで、これまでになかった、まさに「新しい美術（Art Nouveauアール・ヌーヴォー）」スタイルを創出しました。アートの歴史を見てみると、こうした例は枚挙にいとまがありません。新しい偉大な創造は、異質な文化が出会い交流するところでこそ生み出されてきたと言えます。ここでは美術の創造が、しばしば自身に固有の伝統や社会的背景からだけではなく、さまざまな異文化との接触によって生まれてきたことを視点とし、それについて考えていきます。そのためには、日本、東洋、西洋といった地域性、あるいは時代や時間を超越し、よい広い視野のもと、横断的にイメージ（図像）の創造を見渡す必要があります。異文化の出会いとは何か、他者に学ぶとは何かといった問題を、創造の交流する地点に立って

考察していきます。異文化接触と美術という、二つの問題について学びます。

授業の到達目標

美術の創造が、異文化との接触により創造されてきた問題を具体的な例によって知り、それについて考えることが目的です。まずは①異文化接触や交流により、何が生まれてきたのか、具体的に自分で見出してみることが一つ目の目的です。同時に、②美術史や美術作品、イメージ（図像）の見方を身に着けることが二つ目の目的です。授業は発表形式としますので、図像を用いたプレゼンテーションができるようになることも必要です。

成績評価方法

発表（プレゼンテーション）、レポート（発表内容をレポートとしたもの）、毎回のコメント、その他課題などをもって、総合的に評価します。

備考・関連URL

本演習と同時に、「西洋近代美術」など、美術やアートに関連した講義科目を幅広く受講し、基礎的知識を得ることが望まれます。

科 目 名	複合文化論系演習（若者、メディア、グローバリゼーション） ソーシャルグッドのためのAI（人工知能）							
担当者名	高橋　利枝							
複合	２単位	秋学期	木曜日	４時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

私たちはこれまで経験したことがないような変動する世界に生きています。加速するグローバル化やデジタル化によって、日常生活は好機とリスクに満ちています。第4時産業革命と呼ばれているように、AI（人工知能）やロボット、モノのインターネット（IoT）、AR（拡張現実）、VR（仮想現実）など新たな技術の発展によって、多様な形式の「メディア」が私たちの日常生活に入り込んできています。特に子どもや若者たちは、様々な調査結果から多くの時間をスマートフォンやソーシャルメディア、ゲームなどのデジタル・メディアに費やしていることが明らかになっています。そのため、「デジタル・ネイティブ」や「AIネイティブ」、「ジェネレーションAI」などと呼ばれています。

本演習では、グローバル社会、デジタル社会、AI化における好機とリスクについて注目していきたいと思います。文献や、調査およびフィールドワークなどから好機とリスクを明らかにし、グループプロジェクトによって、マテリアルを企画・作成することによって、AI時代における新たな文化を創造するためのスキルを高めていきたいと思います。

授業の到達目標

1．さまざまな文献、フィールドワークを通して、現代社会における好機とリスクを理解し、その対処法を提示することによって、デジタル・リテラシーを高めていきましょう。

2．グループワークやプレゼンテーションなどを通して、グローバル人材・AI人材に必要なコミュニケーション能力を身に付けることを目標としています。

成績評価方法

●**試験**　0%　　—

●**レポート**　0%　　—

●**平常点**　100%　　出席、授業におけるディスカッションなどへの参加度と貢献度、プレゼンテーションによる総合評価。

●**その他**　0%　　—

備考・関連URL

本演習は、プロジェクト型授業であり、受講者による調査、グループ発表を中心として授業を進めるため、受講者の興味とテーマ設定によって変更する場合があります。授業計画は変更する場合がありますので、Moodleを参照してください。

科 目 名	複合文化論系演習（広告にみる異文化コミュニケーション） ジャパン・ブランドのグローバル戦略							
担当者名	高橋　利枝							
複合	２単位	春学期	金曜日	４時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

今日私たちは、携帯電話やソーシャルメディアなどによるメディア・コミュニケーションによって「異文化」とつながり、映画やテレビ、ラジオ、新聞、雑誌などのマス・メディアや、広告、観光ビジネスなどが与える「文化」のイメージを受容しています。このようにデジタル社会において、衛星放送やインターネット、YouTubeなどの動画共有サイト、携帯電話やソーシャルメディアなどによって、私たちは日常生活において、様々な文化とつながり、「異文化」を体験しているのです。「グローカリゼーション」という概念が表しているように、グローバル企業は各国の文化的・社会的規範に応じた「広告文化」を創造しています。ソーシャルメディア時代において「クロスメディア広告」を通じて様々な文化とつながり、異文化接触を行なっています。そのため広告の国際比較は、文化的特殊性を際だたせるだけではなく、研究対象国のメディア政策や社会問題の理解を深めるでしょう。本演習では、文献購読やリサーチ、グループワークやディスカッション、広告マテリアルの企画・製作などを通して、グローバル社会における異文化コミュニケーションについて理論的かつ経験的に理解を深めて行きましょう。

授業の到達目標

1．さまざまな文献、フィールドワークを通して、文化としての広告、コミュニケーションとしての広告を国際比較することによって、グローバル社会における異文化コミュニケーションについて理解を深めていきましょう。

2．グループワークやプレゼンテーションなどを通して、コミュニケーション能力を身に付けることを目標としています。

3．実際に日本および日本に関する商品と対象国を設定してCMを企画・製作することによって、企画力、分析力、表現力、発信力を身につけましょう。

成績評価方法

●**試験**　0%　　—

●**レポート**　0%　　—

●**平常点**　100%　　出席、授業におけるディスカッションなどへの参加度と貢献度、プレゼンテーションによる総合評価。

●**その他**　0%　　—

備考・関連URL

本演習は、プロジェクト型授業であり、受講者による調査、グループ発表を中心として授業を進めるため、受講者の興味とテーマ設定によって変更する場合があります。授業計画は変更する場合がありますので、Moodleを参照してください。

科 目 名	複合文化論系演習（ギリシア思想の伝播） 古代ギリシア哲学における人間理解							
担当者名	岩田　圭一							
複合	2単位	秋学期	金曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この授業では、古代ギリシア哲学を取り上げ、人間とは何か、人間はいかに生きるべきかといった、人間の存在の本質にかかわる問題について考えます。人間を欲求的な部分と知性的・理性的な部分に分けて、知性や理性に従うことの重要性を説く考え方は、古代ギリシアの哲学者プラトンに由来する、西洋の伝統的な思考です。この伝統的な思考によれば、人間の本質的な部分は知性や理性であり、知的な能力を発揮して生きることが幸福な生き方であるとされます。プラトンにおいては、イデアという理想的な範型的存在との関係で幸福な生き方が追求されますが、その弟子のアリストテレスにおいては、イデアは否定され、知性や感覚・欲求などに関する詳細な研究（魂に関する研究）を前提にした独自の幸福論が提示されます。続くヘレニズム・ローマ、中世の哲学者たちは、プラトン、アリストテレスの哲学を基礎にして、哲学のさまざまな問題に取り組み、哲学的思考を発展させました。この授業は、テクスト（邦訳）を講読する回と、学生による発表形式の回からなります。授業で取り上げるテクストは授業計画のとおりです。質疑応答を通じて各回のテクストについて理解を深めます。

授業の到達目標

西洋の伝統的な思考方法を学び、哲学的な問題を考える力を養うことを目標とします。

成績評価方法

- **試験**　50%　　教場での論述試験によって評価する。
- **レポート**　0%
- **平常点**　50%　　発表、主体的な授業参加度によって評価します。
- **その他**　0%

備考・関連URL

出席状況は毎回の出席カード提出によって確認します。

科 目 名	複合文化論系演習（世界の造形芸術） 現代社会とアート							
担当者名	坂上　桂子							
複合	2単位	春学期	月曜日	4時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

インスタグラムの流行に見られるように、現代社会において「造形」は、文字とは異なる表現手段として、時には文字以上に大きな力となって私たちにさまざまなことを訴えかけてきます。そもそも「造形」は古代のラスコーやアルタミラの洞窟壁画に見出せるように、人々が表現手段としてもっとも古くから創造してきたものです。この授業では、世界各地で生み出されてきた多様な造形を対象に、文字ではなく形として表現されたものが、いかに、何を表現してきたかを幅広く考え、造形の持つ力や可能性について考察していきます。対象となるのは絵画や彫刻といった美術館に所蔵されるような美術作品はもとより、ファッションやインテリア、工芸など日常生活とより密接したもの、建築や都市といった空間的な広がりを持つもの、あるいは、写真やインスタグラム、ウェブなどITの発達により現代社会において欠かすことのできなくなった表現によるものまで、各メディアで表現されたあらゆる「造形」を含みます。現代社会において造形芸術は、環境問題はじめ政治的・社会的動向と深くかかわることも多く、コロナ禍では、とりわけウェブにおける発信力が高まったことなども視野に入れ、現代的文脈において着目してみたいと思います。地域や時代を超え、「世界の造形芸術」の未来について考えていきます。

授業の到達目標

自分自身が触れる造形の範囲は生活様式や個人の趣味の範囲に限られていますが、ここでは、他の受講生たちが関心を抱くさまざまな造形芸術についてもともに見ていくことで、自分がこれまで知らなかった世界についても発見し、少しでも多くを知り考えるきっかけを持てるようにします。現代社会において芸術が持つ意味とは何か、世界を視野に、さまざまな造形作品を見ることで、造形芸術がこれまでに果たしてきた役割、さらには未来における可能性について考えることができるようにします。

成績評価方法

発表（プレゼンテーション）、レポート（発表内容をレポートとしたもの）、毎回のコメント、その他課題などをもって、総合的に評価します。

備考・関連URL

本演習と同時に、「西洋近代美術」など、美術やアートに関連した講義科目を幅広く受講し、基礎的知識を得ることが望まれます。

科 目 名	複合文化論系演習（世界の都市とアート）							
担当者名	坂上　桂子							
複合	2単位	秋学期	月曜日	4時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

都市空間は私たちの生活における基本であるにもかかわらず、通常、とくに目を向けることもなく何気なく過ごすことも多いかもしれません。ここでは、自分たちに身近な都市環境に着目し、平時はもとより、災害などを想定したとき、私たちに安全な暮らしはどのように保持されているのかといった基本的問題を考慮しつつ、同時に、生活をより豊かにするための要素として、都市におけるアートの可能性を考えていきます。実際、世界の各都市では、地域の歴史的・社会的・政治的・文化的背景を活かしつつ、美術館やパブリック・アート、その他文化施設や空間を創出・充実することで、人々の生活に文化をもたらし、生活を豊かにする試みがなされています。各都市において、芸術的要素がいかに存在し、人々に提供され、享受されているか、その現状を具体的に見出すことで、生活における芸術文化の在り方の一端を考察していきます。世界を視野に、都市を比較検討するこ

とで、東京をはじめとする自分たちの身近な都市環境における問題をより明らかにしていきます。

授業の到達目標

都市における暮らしについて、都市環境にかかわる問題をしっかり認識したうえで、アートを核として、より良い未来に向けての展望を見出せるようになるのが目標です。まずは大学のある東京、あるいは自身がこれまで暮らしたことのある都市について考察することからはじめますが、他の受講生がよく知るほかの都市と互いに比較検討することで、多角的視野をえられるようにします。授業を通し、文化やアートを活用した将来の都市の在り方について、それぞれヴィジョンが持てるようにします。

成績評価方法

発表（プレゼンテーション）、レポート（発表内容をレポートとしたもの）、毎回のコメント、その他課題などをもって、総合的に評価します。

備考・関連ＵＲＬ

講義科目「芸術と社会―都市と美術」を同時に受講することが望まれます。

科 目 名	複合文化論系演習（感性文化基礎論） 香りと感性							
担当者名	宮崎　薫							
複合	２単位	春学期	金曜日	２時限	２年以上	―	―	フル【対面】

授業概要

香りは、日本の文化や芸術に大きく関わる感性です。日本では、仏教とともに伝来した香りを、貴族社会、武家社会の中で育み、香道という独特の香りの文化を構築しました。本演習では、香りを哲学、文学、美術、生活美学の各領域で、日本と西洋を比較しながら検証します。香りにまつわるさまざまな作品や資料を紹介します。

本演習は、ディプロマポリシーの中の「多様な学問・文化・言語・価値観の交流」に対応し、
文化の様相を理解し、人間と社会の本質に迫り、新しい時代にふさわしい文化を構想し、
学問領域を乗り越えて、広領域的・学融合的アプローチを実践する力を身に付けることを目指します。
本授業は教室対面授業とし、一部、オンライン（リアルタイム配信型1回、オンデマンド配信1回）実施します。

授業の到達目標

この演習で、発表や議論することを通じて、香りに対する理解を深め、その結果を言語化し表現する力が高まることを目指します。関心の所在が様々な他者との意見交換を通じ、自分自身の考えを深めることができます。参加者自身が日本の文化や芸術、生活における香りと感性の関わりについて検証し、各々の研究テーマにつなげることを目指します。哲学、文学、美術、生活美学など、学問の広がりを体験し、自らの独創的な研究を構想する視野を得ることを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　-　-　-
●**レポート**　0%　　-　-　-
●**平常点**　100%　　毎回の授業終了後に、Waseda Moodleにコメントや感想を入力してもらい、その評価を集積して総合的に成績を判断します。その際、授業内容の理解度、自己の見解の有無、記述の的確さ等を評価基準とします。また、授業内での課題の発表、出席状況、議論への参加度等も考慮します。
*試験（授業内の理解度の確認テスト）・レポートはありません
●**その他**　0%　　-　-　-

備考・関連ＵＲＬ

ゲスト等の招聘で、授業計画を変更する場合があります。Waseda Moodleを使用します。（連絡、授業終了後のコメント入力）【教室対面授業】とし、一部、オンライン（リアルタイム配信・オンデマンド配信）の形式とします。
教室では、毎回、香りに関わる資料を展示し、リアルな感覚体験を提供します。

科 目 名	複合文化論系演習（感性哲学）							
担当者名	小林　信之							
複合	２単位	夏クォーター	火３時限	無フルOD	２年以上	―	―	フル【対面】ハイブリッド【対面授業特別以上】

授業概要

この演習科目は、感性にかんするさまざまな考察にとって重要な基礎資料を紹介するとともに、その資料の解釈をふまえた諸問題にみちびくことを主眼としています。

わたしたちは「感性」をつうじて世界に開かれています。見、聞き、ふれることによって、わたしたちのまえに世界の風景がひろがり、わたしたちは世界の肌理にふれます。この講義は、視覚や聴覚や痛みなど身体的次元から、感情や気分や情緒など心の状態の感受にいたるまで、広範な感性の働きを理論的に考察することをめざしています。そしてそこからさらに、現代社会のなかで感性がどのような意味を担わされているか、また現代アートとしてであれ、さまざまな文化現象としてであれ、感性はどのように表現されているかといったテーマも展望したいと思っています。

一例をあげれば「触れる（feel）」ということについて。もっともプリミティヴな感覚である触覚と、感情（feeling）との関係をめぐって考えること、そしてわたしたちが世界に触れる感触を意識化することが、ひとつの課題となります。

あるいは、わたしたちの感覚の固有性（クオリア）と他者との関わりについて。たとえばわたしたちの「痛み」の経験はどこまでも伝達不可能であるのに、どうして他者への共感やコミュニケーションがなりたつのでしょうか。

このように哲学的な議論が中心になりますが、しかし抽象的な思弁におちいることは避けて、近現代アートなどのスライドや映像を交えつつ、できるかぎり具体的な表現を通じて考えていきたいと思います。あつかわれる個別テーマとしては、エポケーについて、知覚の問題（現象学の知覚論、印象派以降の絵画表現について）、言葉と感覚、聴くことの可能性（サウンドスケープ論）、痛みと他者、感情とクオリア、現代アートと皮膚感覚、現代感性論などです。

授業の到達目標

（1）　哲学的に深く「考える」力を身につけること。
（2）　美的なものをつうじて「感じる」ことの意味を探求すること。

成績評価方法

レポートおよび教場での論述など：　60%　研究テーマにたいする理解度、自己の見解の有無、説明の的確さ等を評価基準

とします。
平常点評価：　40%　出席状況、議論への参加度等より判断します。評価基準は、研究内容への習熟度、自己の見解の有無、論述の的確さ等です。

備考・関連URL

煩瑣な哲学的議論もふくまれますが、それにとどまらず、直接感じとることの魅力を知ってもらえればと思っています。授業中の質疑をふくめ、能動的な参加が必要です。

科 目 名	複合文化論系演習（日本の美意識） 日本の古典文化における「美」の観念							
担当者名	陣野　英則							
複合	2単位	春学期	木曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

日本の美意識に関係のありそうな観念をとりあげてみる。とはいっても、日本古来のそうした観念が日本の中で生みだされたとは限らない。たとえば、十世紀初頭、『古今和歌集』の仮名序と真名序などは、はやくも美的な理念を示していたとも見なしうる。しかし、それらは中国古典（『毛詩』大序など）にかなり依拠しているものでもあった。そもそも、抽象的な「美」もしくは「美意識」をあらわす和語が、平安時代中期あたりまではまったくなかったというべきであろう。「みやび」という古語はあったものの、それは理念とよべるものではなかった。『源氏物語』の「もののあはれ」にしても、近世の本居宣長が『源氏物語』（特に「蛍」巻の物語論）をもとにしてあらたにつくりだした理念である。『源氏物語』の成立した時代にそういう理念があったわけではない。

一方、中世以降の日本で用いられるようになった「幽玄」「わび」「さび」などは、抽象度の高い美的観念たりえているだろう。ただし、用いられるコンテクストによってその観念の内実は相当にひらきがある。このように、個々の言葉に即してみてゆくと、簡単にはとらえにくい面が多い。

この授業では、上記のようないくつかの問題点を確認した上で、「美」に関わる理念がどのようにしてつくりだされたのかということをさまざまな例にもとづいて考えてみたい。あわせて、そうした理念がつくりだされる以前の「美」的なもののありかについても考えてもらいたいとおもう。

受講者には、授業計画に掲げるテーマの中から一つを選択して発表に取り組んでもらう。あわせて、こうした問題に関わる課題図書を示し、それらについても各自に学んでもらう機会をつくる。詳細は第1回めのオリエンテーションで説明する。

授業の到達目標

千数百年前から今日までの長い時間の中で、「美」そのものに関わりうる抽象的な言葉がどのようにあみだされたのかを意識することで、日本の藝術・文化に関するステレオタイプな見方を排し、自分の頭と心でそれらに向きあい、考えるための下地づくりをめざす。

成績評価方法

●**試験**　50%　　最終回の授業中に行う理解度の確認テストによる。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　授業での発表内容、および質疑の時間における主体的な授業参加度による。
●**その他**　0%

備考・関連URL

※授業は基本的に対面形式で行いますが、感染症の状況などによりオンラインに切り替えることがありえます。
※第7回のみ、オンデマンドの講義とします。

科 目 名	複合文化論系演習（日本古典文化の受容と変容） 物語の受容と変容							
担当者名	小泉　咲							
複合	2単位	秋学期	金曜日	5時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この演習では、日本古典文化の受容と変容を考える上で、物語を中心的に取り上げる。特に『源氏物語』は千年以上読み継がれ、様々な形に加工されて受容されてきた。また、その物語の枠組みには日本古典の世界にとどまらない普遍性あるいは特異性を見ることができるだろう。授業では、まず、『源氏物語』及び周辺の物語作品について概説する。その上で、受講者の関心を踏まえつつ、漫画化・映画化された『源氏物語』や、『源氏物語』と他の作品の類似点・相違点などについて、複合的な視点をもって検討する。

授業内では、原則として一人一回の発表を担当してもらう。

授業の到達目標

・『源氏物語』をはじめとした物語の様々なあり方を、現代に照らしながら捉えられるようになること。
・複合的な視点で検討対象に向き合う経験を積むこと。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　50%　　14回の授業時に提出するレポートの内容によって評価する。
●**平常点**　50%　　・授業での発表内容によって評価する。
・質疑の時間における主体的な授業参加の具合によって評価する。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

・国文学研究資料館　http://www.nijl.ac.jp
・JapanKnowledge Lib　https://japanknowledge.com/library/
※古典作品の読解能力については、高等学校の国語科(古典)で学んだ程度の基礎的な知識があれば差支えありません。
※受講者の人数、また各人の発表テーマに関する希望により、授業計画を変更する可能性があります。
※授業は基本的に対面形式で行いますが、感染症の状況などによりオンラインに切り替える可能性があります。

科 目 名	複合文化論系演習（集合的アイデンティティ論） グローバル現代社会論							
担当者名	山田　真茂留							
複合	２単位	春学期	木曜日	２時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

個人主義化、個人化の進展する現代社会では、個人のアイデンティティも集合的なアイデンティティもさまざまなゆらぎをきたしている。またその反動として、エスニック文化やナショナリズムへの志向も強く見られるようになった。そしてそうした傾向は、グローバル化が進めば進むほど顕著なものとなってくる。そこでこの演習では、指定するテキストを講読・検討しながら、このグローバル時代にあたって眼前に広がる多様で流動的な現代社会のありようを深く見据え、さらに今日的なアイデンティティをめぐる諸問題にもアプローチしていきたい。

用いるテキストは『グローバル現代社会論』（担当教員編、文真堂刊、2600円＋税）で、これは参加者全員必携となる。各回は、担当となった章の要約ならびに独自の探究の結果を小グループで発表してもらう予定。また各発表の回には、必ず討論者群を付けることとする。刺激的な発表ならびに活発な討議が期待される。科目の性質上、毎回の演習への出席ならびに主体的な探究姿勢が肝要になる。

（上述のように教科書を使用することになりますので、その点承知しておいてください。）

授業の到達目標

グローバル社会における集合的アイデンティティ現象の豊かさに触れること、グローバル化に関連する主要なトピックを見極めること、社会学をはじめとする学術的な探究法に馴れ親しむこと、学際的なアプローチの仕方の基礎を身につけること、グローバル化の進む現代社会の諸問題に対して独自の視点からアプローチできるようになること。

成績評価方法

演習への参加状況を総合的に勘案して評価する。なお通常の発表の他にレポートを提出してもらう可能性もある。

備考・関連ＵＲＬ

教科書を必要とする授業。

科 目 名	複合文化論系演習（視覚文化論） イメージと記憶の文化論							
担当者名	港　千尋							
複合	２単位	春学期	火曜日	２時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

地球規模でのIT社会の実現によって、現代文化におけるイメージの役割は日増しに大きくなっています。特に写真はその発明からおよそ2世紀を経て、社会インフラと言えるほどあらゆる分野に利用され、イメージと記憶の文化に深い影響を与えています。この講義ではイメージと記憶の関係を、アートをはじめさまざまな分野を横断しながら体験的に学び、個人と社会の記憶について考えてみたいと思います。

授業の到達目標

現代のイメージ文化について現代写真やコンテンポラリーアートを通して学びながら、高度情報化社会における社会的記憶への視座を得る。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　50%　　課題のリサーチと発表を含む。
●**平常点**　50%　　授業への出席と議論への貢献度を総合的に評価する。全授業回数の3分の2以上の出席が成績評価の必須要件となる。
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	複合文化論系演習（現代哲学の諸相） メレオロジー序説							
担当者名	齋藤　暢人							
複合	２単位	春学期	金曜日	３時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

現代形而上学の一分野であるメレオロジーmereologyへの導入的授業を行う。メレオロジーは全体部分関係に関する形式理論であり、分析的形而上学の主要なツールのひとつになっている。全体、部分に関連する諸概念を論理的に正確に操作する手法を解説し、メレオロジーにもとづき存在論、形而上学を展開する方法を実践的に示す。また、関連する思想的背景であるフッサール、ホワイトヘッドらの哲学について解説し、今後の展望について論じる。

授業の到達目標

メレオロジーの諸概念について理解を深め、現代形而上学における存在の形式的分析の技術を身に着ける。また、発展的分野としてのメレオトポロジーの諸概念についても知見を得ることを目標とする。

成績評価方法

平常点、レポートによる。

科 目 名	複合文化論系演習（現代フランス思想） フーコー『言葉と物』から言語の可能性を考える							
担当者名	西山　達也							
複合	２単位	秋学期	木曜日	１時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

フランスの哲学者ミシェル・フーコーの『言葉と物　人文科学の考古学』は、狭い意味での思想史の著作であるにとどまらず、「語りうるもの」と「語りえないもの」の関係に翻弄される人間たちの歴史を描いた書物です。本演習では、この著作から出発して、「言語の可能性」とは何かを考えるとともに、文学、芸術、宗教、科学にまたがる様々な領域を複眼的に見るための視点を獲得することを目指します。何か知識を詰め込むのではなく、難解な文章のなかから、ふと気になる言葉を拾うことができる

面白さを共有したいと考えています。（※今学期は『言葉と物』第1部第3章「表象すること」を読解する予定です。）

授業の到達目標

現代フランス思想の普遍性と特殊性を学び、現代社会や文化のなかでの意義を理解する。

成績評価方法

演習への定期的・積極的な参加および期末レポートを総合的に評価する。

科 目 名	複合文化論系演習（美学研究） インガルデン『文学的芸術作品』読解							
担当者名	峯尾　幸之介							
複合	２単位	春学期	水曜日	５時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

インガルデン（Roman Ingarden, 1893–1970）はポーランド出身の哲学者・美学者であり、『文学的芸術作品（Das literarische Kunstwerk）』（1931年）はかれの主著のひとつである。インガルデンは、現象学の創始者E・フッサールの初期の弟子であり、この『文学的芸術作品』において、現象学を応用して文学作品の存在論的研究を行っている（ここではハイデガーのそれのような存在論を期待してはならない）。かれは、文学作品の本質が、それが4つの層、すなわち、言語的音声形成物の層、意味統一の層、描写された対象性の層、図式化された現れの層から成り、それらの諸層が多声楽を構成していることのうちにあると主張している（より詳しく知りたい場合は、大学図書館などで実際に目を通してみること）。この演習では履修者とともに、この『文学的芸術作品』を日本語で読解していく（そのため、ドイツ語の能力や知識は必要ない）。美学を研究したいひとばかりでなく、文学やその他の芸術に関心をもつひとも受け容れる。ただし、**この書物は非常に難解であり、かつ、（履修者の人数にもよるが）多数回のレジュメ発表を要求するため、それなりの心構えをもって履修してほしい。**

授業の到達目標

・インガルデン『文学的芸術作品』の内容を理解し、説明できるようになる。
・『文学的芸術作品』を応用して、みずからの力で文学作品やその他の芸術作品について分析できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　20%　　どれほど授業に積極的に参加しているかを評価する。
●**その他**　80%　　レジュメ発表の内容や仕方を評価する。

備考・関連ＵＲＬ

The Open Commons of Phenomenologyのインガルデンのページ：https://ophen.org/pers-100323

科 目 名	複合文化論系演習（サブカルチャーにみる異文化コミュニケーション） クールジャパンのグローバル戦略							
担当者名	高橋　利枝							
複合	２単位	秋学期	金曜日	４時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

現代のデジタル社会において、若者はメディアと多様に関わり、中でも「参加型文化（participatory culture）」の生成が注目されています。YouTubeなどの動画共有サイトやソーシャルメディアによって、アニメ、ゲーム、音楽、ファッションなどの領域のどれをとってみても、グローバル化が進んでいます。日本のアニメ、ファッション、ゲーム、初音ミク、アプリ等はクールジャパンと呼ばれ、海外での高い人気から、官民主導でグローバル戦略が推し進められています。本演習では、グローバルな地平におけるサブカルチャーを対象とし、その変容と重層性、文化の生成、グローバル戦略を複合的な観点から検討していきたいと思います。この演習の目的は、現在、急速に進んでいるグローバル化やデジタル化、AI化がもたらす新たなリスクを解決するために、実際にプロジェクトを立案することによって理解を深めることです。グループワークでは、受講生の関心に合わせて、気候変動など世界の人と協働が必要な課題に対して、日本のサブカルチャーを用いた解決策を提案してもらいたいと思います。

授業の到達目標

1. 本演習では、学術的な文献の講読、経産省や企業などの資料やデータ、フィールドワークやリサーチなどを通して、グローバル社会における異文化コミュニケーションについて理論的かつ経験的に理解を深めて行きましょう。
2. グループワークやディスカッション、プレゼンテーションマテリアル（動画を含む）の製作などを通して、コミュニケーション能力を身に付けることを目標としています。
3. 世界に配信すべき日本のコンテンツや対象国を設定して、実践的なプロジェクトを企画することによって、企画力、分析力、表現力、発信力を身につけましょう。

成績評価方法

●**試験**　0%　　—
●**レポート**　0%　　—
●**平常点**　100%　　出席、授業におけるディスカッションなどへの参加度と貢献度、プレゼンテーションによる総合評価。
●**その他**　0%　　—

備考・関連ＵＲＬ

本演習は、プロジェクト型授業であり、受講者による調査、グループ発表を中心として授業を進めるため、受講者の興味とテーマ設定によって変更する場合があります。授業計画は変更する場合がありますので、Moodleを参照してください。

科 目 名	複合文化論系演習（世界のなかの日本のイメージ） ヴィジュアルカルチャーにみる日本							
担当者名	坂上　桂子							
複合	２単位	秋学期	火曜日	３時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

日本について、表象されたイメージ、すなわちヴィジュアルカルチャーから考える授業です。近年日本ではクール・ジャパンとして、アニメや「かわいい」文化、「おもてなし」文化などを日本独自の「良い」イメージとして積極的に世界にアピールし、

売り出そうとしてきました。こうした動きに影響されて、私たちは自分たち自身、しばしば日本の「良い」イメージばかりに関心を寄せ、日本社会を表層的に捉えがちです。政府が積極的に観光立国を押し出すようになってからは、観光者にアピールするための政策が前面に打ち出されることによって、そうした傾向がとりわけ強くなったように思われます。しかしジェンダーギャップや環境問題など、日本の実態が「良い」面ばかりではないように、海外からみた日本のイメージも、必ずしも「良い」ものばかりではありません。実際、原発、環境、歴史認識問題にまつわるものなど、日本をとりまくイメージは、なかでもアジアの隣国においては、「悪い」ものが決して少なくないといえるでしょう。しかし私たちはしばしばそうした状況には目をつぶりがちで、なかなか積極的に知ることはありません。そこで本授業では、今日のイメージ戦略によって「作られた」日本のイメージと、日本の実態との乖離を発見し、日本から見た日本のイメージと海外から見た日本のイメージの両者を客観的に把握することで、これからの日本社会について見据え、考えていきます。具体的な考察にあたっては、美術館の芸術作品から食文化、ファッションまで幅広く多様なヴィジュアルカルチャーを出発点とし、世界のなかで日本や日本人がどのような存在であり、どのように捉えられているかを見い出していきます。

授業の到達目標

世界を視野に入れたとき日本がどのように見えているのか、受講生には、まず自分が一番関心のもてる具体的テーマをヴィジュアルカルチャーのなかから見いだし、これを手がかりとして問題を考察してもてもらいます。すなわち、ここでの一つのねらいは、テキストだではなく、視覚的図像から何かを考察する手法を学んでもらうことにあります。またその成果を、図像を使ったパワーポイントにまとめ、発表してもらいます。ほかの受講生がとりあげたテーマについて積極的に意見を述べ問題を共有することで、つねに大きな視点で日本と世界の関係を捉えられる問題意識をもてるようになることを目標とします。

成績評価方法

発表（プレゼンテーション）、レポート（発表内容をレポートとしたもの）、毎回のコメント、その他課題などをもって、総合的に評価します。

備考・関連URL

本演習と同時に、「西洋近代美術」など、美術やアートに関連した講義科目を幅広く受講し、基礎的知識を得ることが望まれます。

科 目 名	複合文化論系演習（アートコミュニケーション）							
担当者名	宮崎　薫							
複合	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本演習では、アートを介した新たな関係性や創造的なコミュニケーションについて共に考えます。人と作品、人と作家、人と人、人と地域、人と社会といったアートを介して生まれるさまざまな関係性を探ります。

アートディレクター、キュレーター、ギャラリスト、作家等、アートの最前線の専門家とも交流します。

本演習は、ディプロマポリシーの中の「多様な学問・文化・言語・価値観の交流」に対応し、

文化の様相を理解し、人間と社会の本質に迫り、新しい時代にふさわしい文化を構想し、

学問領域を乗り越えて、広領域的・学融合的アプローチを実践する力を身に付けることを目指します。

本授業は教室対面授業とし、一部、オンライン（リアルタイム配信）実施します。

授業の到達目標

この演習での議論や発表を通じて、参加者自身がアートに対する理解を深め、その結果を言語化し表現する力が高まることを目指します。関心の所在が様々な他者との意見交換を通じ、自分自身の考えを深めることができます。アートを切り口に、学問の広がりを体験し、自らの独創的な研究を構想するための視野を得ることを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　-　-　-

●**レポート**　0%　　-　-　-

●**平常点**　100%　　授業終了後に,Waseda Moodleに、コメントや感想を入力してもらい、その評価を集積して総合的に成績を判断します。その際、授業内容の理解度、自己の見解の有無、記述の的確さ等を評価基準とします。また、授業内での課題の発表、出席状況、議論への参加度等も考慮します。

＊試験（授業内の理解度の確認テスト）・レポートはありません

●**その他**　0%　　-　-　-

備考・関連URL

ゲスト等の招聘、履修者の関心・要望により、授業計画を変更する場合があります。

Waseda Moodleを使用します。（連絡、授業終了後のコメントの入力）【教室対面授業】とし、一部、オンラインの形式とします。

教室では、多様なアート体験・交流を提供します。

科 目 名	複合文化論系演習（聴覚文化論）							
担当者名	小沼　純一							
複合	2単位	春学期	月曜日	4時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

日常生活において、視覚が圧倒的に重要な地位を占めているのはあらためて強調するまでもありません。

では、聴覚はどうでしょう？

ここでは、日常における聴覚のありようや、日常からはなれたところでもはたらいている聴覚的なことどもについてみていきます。

音楽を含めますが、これについては二次的かとおもいます。

それはまた、視覚・聴覚「いがい」の諸感覚（嗅覚・味覚・触覚）への関心を促すことにもなるはずです。

授業の到達目標

じぶんの生活のなかにおける聴覚の位置を（再）確認する。とくに意識していなくても、聴覚にかかわっているものが多いこ

と。
多くのことどもに、カラダは自動的に反応している、そのことの多さに気づいてほしい。
「ひとりひとりが異なっている」ことをよいこととして掲げる一方で、「授業の到達目標」が画一化されているのは、矛盾ではないだろうか。扱う内容は幅広く、個々人の関心も異なっているはずであるため、各人の「到達目標」はおのずと異なってくる。外国語学習で受動態が扱えるようになったり、理系科目で何等かの実験がおこなえるようになるのとは異なっていることを、承知しておいていただければ、とおもう。

成績評価方法

演習への参加度とコメント・シートやレポートなどをあわせて判断します。

備考・関連URL

とくにありません。

科 目 名	複合文化論系演習（英米哲学への導入） 分析哲学入門							
担当者名	伊藤　遼							
複合	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

現在、英語圏を中心に広く受け入れられている「分析哲学（analytic philosophy）」について、著名な分析哲学史研究家による入門書（*Analytic Philosophy: A Very Short Introduction*）を輪読形式で読み進めることで、一定の理解を得る。

授業の到達目標

・分析哲学の基礎に関わる、さまざまな哲学的諸問題、および、それらをめぐる諸議論を正確に理解する
・このことを通じて、分析哲学という営みに対する一定の理解を得る

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　担当するレジュメ、各回のディスカッションへの貢献、各回の課題への取り組みによって評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	複合文化論系演習（音声／文字文化研究）							
担当者名	小沼　純一							
複合	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

音声と文字。ちょっとおもいうかべるだけで、いろいろなことが考えられるとおもいます。
文字は音声のうつしだ。音声の補助だ。でも、（ほんとうに）そうなのでしょうか。音声と文字について、ひとつの結論や思想に集中・収斂させるのではなく、さまざまなありようがあることに気づいていただければとおもっています。

授業の到達目標

鋭敏になること。生きている実感を、いいこともわるいこともあわせて、抱けるようになること。
みずからが身をおいていることばや文化の環境が、世界的にみてどうなのか、特殊なのかそうでないのか、そもそも特殊かそうでないかを問うことが奇妙ではないのか、気づけるようになること。そうしたことは、ふだんの生活のなかで蓄積されるものであり、これをしたからこうなる、というものではない。そうしたことじたいが腑に落ちること、こうした「到達目標」が掲げられていることが矛盾であることが「到達目標」であるといえる。

成績評価方法

演習への参加度と、何らかの課題とであわせて評価します。

科 目 名	複合文化論系演習（声と文学）							
担当者名	小沼　純一							
複合	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

文学、というと、瞬間、ぼんやりと小説を連想するひとが多いかもしれません。ちょっと落ち着いてみると、詩も、エッセイも、と気づいたりする（かもしれない）。いまでこそ小説も詩も文字として読まれるのが主流ですが、声にされることは大事なことでした。義務教育期には、朗読もあったのではないでしょうか。ここでは、古くから現在まで、声と文学のさまざまなかたちやあらわれをみたいとおもっています。

授業の到達目標

身をおいている世界を、ただやりすごすだけでなく、微細な肌理として感じとれるようにすること（かならずしも生きやすくはならないかもしれないが）。

成績評価方法

演習への参加度と、何らかの課題とであわせて評価します。

科 目 名	表象・メディア論系演習（言葉とイメージ1） 文学と映画							
担当者名	谷　昌親							
表象	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

文学と映画は、異なるジャンルでありながら、たがいに影響を与えあってきました。後発のメディアである映画は、当初こそドキュメンタリー的に現実をほぼありのままに映す場合が多かったものの、やがて物語を映像で語る形式が主流になっていくにつれて、文学を模範と仰ぐようになります。最も早い例のひとつが、ジュール・ヴェルヌの小説を翻案したメリエスの『月世界

旅行』（1902）でしょう。以後、文学作品の映画化が頻繁におこなわれるようになっていきます。
一方、文学の側も、それこそ映画が誕生する以前から、映画的とも言える表現を模索してきました。たとえば、19世紀に書かれたフローベールの『ボヴァリー夫人』には、映画を思わせる描写が散見されます。そして19世紀末にリュミエール兄弟が映画を発明して以来、文学はこの新しいメディアから少なからぬ刺激を受け、それまでになかった表現のかたちを見つけ出してきたのです。
しかしながら、文学と映画は、たんに影響しあうだけでなく、一種の葛藤の場を形成することもありました。1950年代にフランスの映画雑誌『カイエ・デュ・シネマ』に集い、のちに自身も映画制作を始め、ヌーヴェル・ヴァーグと呼ばれる映画史上きわめて重要な運動の中心となっていったゴダール、トリュフォー、シャブロル、リヴェット、ロメールといった若き映画批評家たちは、脚本が重視されるなか、文学的な内容や雰囲気のある作品が求められていた当時のフランス映画のあり方に反発し、映画独自の表現を求め、監督を映画の作者とみなす「作家主義」を標榜しました。
このように、文学と映画のあいだに緊張関係が生じ、それぞれのメディア特有の表現の探求に向かう場合も存在するのです。そうした例は、フランスにかぎらず世界の各地に見られるでしょうし、現代にまで続く問題でもあります。たとえば、最近の例を探してみた場合、フランク・ハーバートのSF小説をドゥニ・ヴィルヌーヴが映画化した『DUNE/デューン 砂の惑星』、辺見陽の小説をもとに石井裕也監督が映画化した『月』などでも、小説と映画の緊張関係が、それぞれのメディアの表現について再考させる契機になっていたと言えるでしょう。
この授業では、最初に映画における「作家主義」の成立過程で浮上してきた、文学と映画のあいだの問題点を紹介した上で、おもに文学作品の映画化という観点から、具体的な作品を例にあげつつ、文学と映画におけるそれぞれ固有の表現形式を探っていきたいと思います。演習の授業ですので、学期の後半は学生による発表が中心となりますが、そこで取り上げる作品については、こちらで候補を絞ったうえで、教室で相談して決めていく予定です。ただ、文学と映画の緊張関係を維持した作品を選ぶという意味では、もともと映画的な表現が入りやすいエンターテイメント系の小説ではなく、原則として、いわゆる純文学系の小説を原作にしたケースを主に取り上げたいと思います。

授業の到達目標

文学と映画の関係を見ていく授業ですが、たんに影響関係を見るだけでなく、両者の比較をとおして、それぞれのメディアでの独自の表現、そして各々の作家の個性を見極めるようになれればと考えています。
さらには、そうした文学と映画の違いをとおして、世界を見つめる視線のあり方、そしてその延長上に生じる表現のあり方についても考えてみたいものです。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　授業での発表とは別に、新たに自分なりに作品を選び、文学作品の映画化という観点から学期末レポートを書いてもらいます。口頭発表の経験を踏まえたうえで、新たな対象についてどれだけ真摯に取り組み、どれだけ論理的に考え、説得力のあるかたちでまとめているか、といった点がおもに評価の対象となります。また、口頭発表の時点で出てきた問題点をどれだけ解決しているか、ということも重要な要素になります。
●**平常点**　20%　　演習の授業ですので、単に出席するだけでなく、議論などにどれだけ積極的に参加したかが問われます。
●**その他**　30%　　口頭発表において、自分の選んだ作品についてどれだけ調べ、また自分なりに考え、それをどのように論理的にまとめたかが大事になってきます。また、発表におけるプレゼンテーションの仕方の工夫なども評価の対象となります。

備考・関連URL

・授業は毎回対面でおこないます。　・学生のみなさんに発表で取り上げてもらう作品は、アクセスのしやすを考慮して、ここ1，2年のうちに公開された映画とその原作の小説にする予定です。ただ、古い小説や映画にも接してもらいたいので、1，2作はそうしたものも入れようかと考えています。
・学生による発表が始まるまでの学期前半の授業では、授業内に観た映画とその原作の小説について、グループに分かれてディスカッションし、そのディスカッションの内容、また各自が考えたことなどを、次回の授業までにMoodleのフォーラムで報告してもらいます。

科 目 名	表象・メディア論系演習（ジェンダーとイメージ1）「親密な関係」はどのように描かれるか／描かれないか							
担当者名	関根　麻里恵							
表象	2単位	春学期	水曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

表象（Representation）とは、現実にある「何か」をことばや視覚情報といった「記号」を通じて再現して伝えることを意味します。わたしたちは、誰かによって「創造」された表象を経由することで複雑な「何か」をそのまま伝えたり知覚することができ、さらにそうした表象が流通していくことによってある程度共通した「想像」が共有されていきます。しかし、その表象が偏ったメッセージを再生産し続けているとしたらどのようなことが起こるでしょうか。
本演習では、おもにジェンダーとセクシュアリティの視点から、「親密な関係」の表象がどのように表現され、どんな影響を与えているかについて一緒に考えていきます。「親密な関係」とはしばしば（異性間の）恋愛関係として描かれることが多いですが、すべての「親密さ」がそれに結びつくわけではありません。現実にはさまざまな「親密な関係」のヴァリエーションがあり、それがいかに表象されてきた／こなかったかを、映像（映画、ドラマ、アニメーション）や漫画、小説などの表象を例に検討していく予定です。学期の前半では、知っておくべき基礎的な用語を概説しつつ、具体例を用いながらどんな「親密な関係」の表象が受容されてきたのかについて紹介・議論していきます。学期の後半では、受講者が興味・関心のあるテーマについて、学期の前半で得た知識を援用しながら口頭発表をしてもらいます。また、発表内容とそこでの質疑応答を踏まえた期末レポートを授業最終日に提出してもらいます。

授業の到達目標

・ジェンダーとセクシュアリティの視点から、わたしたちの周りに溢れているさまざまなイメージを読み解く力を身につける。
・「当たり前」を疑い、諸事象の背後にある構造を自ら見抜く力を養う。
・各自の興味・関心を他者に適切に伝える発表スキルと、建設的にコメントする能力を養う。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しません。
●**レポート**　50%　　授業最終日に提出する期末レポート（文字数：2000字以上）で評価します。

●**平常点**　50%　　出席状況および授業への貢献度（各回のコメントシートやグループワーク）、口頭発表で評価します。
※欠席状況によって成績評価の対象にならない場合もあります。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

・履修予定者は、初回授業に必ず参加してください。
・個別相談希望者（授業に関する内容のみ）は、初回授業で示す講師のメールアドレスへ事前に連絡してください。
・口頭発表およびレポートの内容に剽窃が認められた場合は、成績評価の対象から除外します。
・授業中に他の履修者の学習を妨げる者がいた場合、退室を求めることがあります。

科目名	表象・メディア論系演習（表象文化の政治経済学1）　エマニュエル・レヴィナスを読む							
担当者名	小林　嶺							
表象	2単位	春学期	水曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この演習では、20 世紀フランスの哲学者エマニュエル・レヴィナスのテクストの購読を行ないます。ユダヤ人として第二次世界大戦を経験したレヴィナスは、戦後、一元論的な西欧の哲学的伝統を相手取り、「他者」の思想を練り上げたことで知られています。80 年代以降、日本でも精力的に紹介・研究されてきた思想家であり、戦争責任論や他者への配慮（＝ケア）の理論など、さまざまな領域で注目されてきました。その一方で、レヴィナスのテクストは非常に難解なことでも有名です。とりわけ、参照を明確に指示することなく先行する理論を前提に議論を進めるスタイルは、読者に相応の負荷を与えます。しかし、それは実のところ、多かれ少なかれ西洋哲学の古典全般に言えることでもあります。そこで、レヴィナスのテクストを読むことを通じて、哲学的文献の読み方に慣れ親しむことがこの授業の目標です。授業の最初の数回では講義形式でレヴィナスの理論の概説や文献紹介を行ない、その後の回ではテクストを指定したうえで、受講者に毎回レジュメを作成・発表してもらい、それをもとに参加者全員でディスカッションを行ないます。扱うテクストや発表形式（個人かグループか）は、受講者数や受講者の関心を考慮しつつ決めていきます。

授業の到達目標

・レヴィナス哲学に関する基本的な議論を理解する。
・レヴィナスを読むことを通して哲学的なテクストの読み方を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　学期末にレポートを提出してもらいます。詳細は授業内で指示します。
●**平常点**　50%　　リアクションペーパー、発表内容、授業に参加する積極性によって総合的に評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

授業計画は受講者数や受講者の関心に応じて調整することがあります。

科目名	表象・メディア論系演習（映画文化論1）							
担当者名	川崎　佳哉							
表象	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この演習では、映画史上の名作とされる作品を鑑賞し、映画を批評するための多角的な見方を学びます。英国映画協会が発行する『サイト&サウンド』誌は、十年に一度、各国の映画監督や批評家らによる投票を集計し、史上最高の映画（The Greatest Films of All Time）を発表しています。2022年に実施された現時点での最新の投票結果では、前回はトップテンにも入っていなかったシャンタル・アケルマン監督の『ジャンヌ・ディエルマン ブリュッセル1080、コメルス河畔通り23番地』（1975年）が第1位に選ばれ、世界の映画ファンたちを驚かせました。この授業では、同ランキングの上位に位置するいくつかの映画を鑑賞し、それぞれの作品について論じたテクストをあわせて読むことによって、なぜそれらの映画が高く評価されているのかを考えます。こうしたランキングを絶対的な権威として考える必要はもちろんありませんが、世界では現在どのような映画が評価され、いかにして論じられているかを学ぶことは、映画を見るということの意味を考えるうえで大きなヒントを与えてくれるはずです。

授業では、グループ発表をおこなってもらいます。取り上げる映画は、『ジャンヌ・ディエルマン』に加えてランキング上位の『東京物語』（小津安二郎監督、1953年）、『花様年華』（ウォン・カーウァイ監督、2000年）、『ゲームの規則』（ジャン・ルノワール監督、1939年）などを考えています。また、それぞれの作品について、作家論、主題論、精神分析学、ポストコロニアリズム、といった様々なアプローチから論じたテクストをあわせて読む予定です。以上が予定ですが、受講生の人数や関心に応じて変更する可能性があります。

授業の到達目標

作品の分析と資料の精読を通して、映画を批評するための多角的な見方を身につけることを目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　授業の内容や先行研究を踏まえた上で、自分の意見を書けているかを評価します。
●**平常点**　50%　　出席、発表、ディスカッションへの参加度などを総合的に評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

・上記の内容と予定は、受講生の人数や関心に応じて変更する可能性があります。
・映画作品によっては、過激な映像が含まれている可能性があるため、その点を了承した上で受講してください。

科 目 名	表象・メディア論系演習（映画文化論2） 映画批評入門							
担当者名	廣瀬　純							
表象	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

映画作品を鑑賞し、教員の指導の下でそれについての発表、発表をもとにしたディスカッションを行い、各作品ごとに、授業で学んだことを踏まえ、批評文を作成する。

授業の到達目標

映像を見る力、音声を聴く力、見たもの及び聴いたものを分析・綜合し言葉にする力を身につける。

成績評価方法

発表またはレポート（批評文）100%

科 目 名	表象・メディア論系演習（写真論） 写真に写らないもの							
担当者名	笠間　悠貴							
表象	2単位	春学期	水曜日	4時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この講義では、「写真に写らないもの」というタイトルのもとに、写真制作と写真史を学ぶ。

アメリカの哲学者スタンリー・カヴェルは、著書『眼に映る世界』の中で、「写真が切り取られるとき、世界の残りの部分はこの切りとりによって外に排除される。世界の残部の暗黙の現前と世界からはっきりと排除されたものは、写真にはっきり現前しているものと同じくらい写真においては重要である。」と述べている。つまり、世界に依拠して像を得る写真には、必ず被写体となる対象があり、さらに、フレーミングによって切り分けられて、写らなかった外部の存在もある。そして、そうした性質を持つ写真を見て知ろうとする際には、写ることのなかったフレームの外部をも含めて考察する必要があるという主張だろう。現在でも、作者の意図に沿って切り取りをおこない編集し、意味を違えて伝えることが、問題化することは少なくない。メディアアートの原点ともいうべき写真に対するリテラシーを、今一度問い直したい。 この講義を通して、受講生それぞれに、実際に写真作品を制作してもらう。制作は、この講義では美的な仕上がりよりもむしろ、実践をおこなうプロセスを重視する。実践と理論の両方を往復することで、写真に対する理解を深めることを目的とする。

授業の到達目標

1.写真家の活動を知り、写真制作の具体的な手順を知る。

2.表現することは、批評行為でもある。よって、この講義でおこなう制作や議論を通じて、写真や美術の作品を解読する方法を身につける。

3.写真がプロパガンダに利用されてきた歴史を踏まえ、写真や映像が今できることについて議論できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし。
●**レポート**　50%　　演習授業のため、授業の中で何度かレポートや写真制作を課し、その取り組みの方法と内容を評価する。
●**平常点**　50%　　出席と授業態度をもとに評価する。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	表象・メディア論系演習（テレビ文化論） 過去と現在が交錯するドラマ							
担当者名	岡室　美奈子							
表象	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

過去の時間と現在の時間が交錯するドラマは多い。こうしたドラマは構造が複雑になることから視聴者にとっては理解しづらい面もある。しかし、現在が決して点ではなく過去から連綿と繋がった線上にあることを示し、豊かなフィクションの世界を開示してくれる傑作ドラマが多いことも事実だ。2025年度は、複数の時間が交錯するドラマを取り上げ、それぞれの作品において過去の時間が現在にいかに作用するかを分析する。

対象とするのは、野木亜紀子脚本『海に眠るダイヤモンド』（2024年）、奥寺佐渡子・清水友佳子脚本『最愛』（2021年）、『Nのために』（2014年）、宮藤官九郎脚本『ごめんね青春！』（2014年）の4作品を予定している。この中で『ごめんね青春！』以外の3作品を演出している塚原あゆ子は、映画『ファーストキス　1ST KISS』でも過去と現在の交錯を描き、時間構造の複雑な作品に慣れていると言える。塚原らの演出にも着目しつつ、時間構造を中心に精緻な分析を行う。

★毎回授業後にMoodle上でコメントシートを提出してもらう。締め切りまでに必ず提出すること。

授業の到達目標

テレビドラマの詳細な分析を通して、ドラマの研究方法を身につけるとともに、現実と密接に関連しつつもフィクションとして提示されるテレビドラマの意義について、各自が自分の見解を持つことを目標とする。

また、それぞれのドラマは作り手たちが意図した以上に多くの情報を含んでいるが、私たちは多くの場合1回しか出会わないため、たくさんの情報を受け取り損ねている。この演習では、一つの作品と何度も出会い直すことによって、一つの作品が別のものに見えてくるという体験を受講者にしてもらうことを目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　70%　　作品の理解度に加えて、独自の視点と分析の緻密さ、論理性の有無等を判断材料とする。
●**平常点**　30%　　研究発表、出席、発言の量と質、貢献度等を総合的に判断する。なお、毎回Moodle上にコメントシートを提出してもらう。コメントシートの提出が出席の要件となる。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

◆毎回Moodle上でコメントシートを提出してもらう。コメントシートの提出を出席の要件とする。
◆授業は原則として【対面】とする。

◆地上波で放送されたテレビドラマを取り上げるが、ときには性的、あるいは暴力的な表現を含む場合もありえることを了承した上で受講してほしい。
◆配信サービスは料金がかかるので、その点を了承した上で受講してほしい。

科 目 名	表象・メディア論系演習（芸能文化論）「変身」と日本の伝統芸能							
担当者名	和田　修							
表象	2単位	秋学期	月曜日	5時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要
「変身」というとウルトラマンや仮面ライダーのそれを思い浮かべる人が多いと思いますが、観客の目の前で「変身」するシーンは特撮ヒーローに限ったものではありません。
日本の伝統芸能は、「変身」を舞台上で表現するためのものといえ、また、ひろく演劇が役者と役という関係を前提とする以上、「変身」なしには成り立たないのです。
特撮ヒーローの「変身」を生み出した日本の文化的基盤を考えてみたいと思います。

授業の到達目標
「変身」をキーワードに、日本の伝統芸能から現代に至る、日本文化の特色について理解する。

成績評価方法
●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　70%　　古典芸能をふまえ、日本文化における変身の表象についてのレポートで評価します。
●**平常点**　30%　　出席と発表内容で評価します。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	表象・メディア論系演習（ポピュラー音楽論1）　ポピュラー音楽の偉人たち							
担当者名	佐々木　敦							
表象	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要
講師の私的観点により選んだ「ポピュラー音楽の偉人たち」総勢12組を紹介・解説する。

授業の到達目標
12の固有名詞を通してポピュラー音楽史を概観したい。

成績評価方法
●**試験**　0%　　試験は行わない
●**レポート**　50%　　期末レポートは必須とする
●**平常点**　50%　　出席
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	表象・メディア論系演習（ポピュラー音楽論2）							
担当者名	原　雅明							
表象	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要
未知の音楽を発見して、聴くことを掘り下げる。
音楽を見つけること、音楽について調べること、発表してシェアすることを課題として扱う。
音楽の現場で起きている事象も適宜取り上げ、音楽と社会、生活、コミュニティとの関係を知り、多様な聴取体験をもたらす契機を作る。

授業の到達目標
音楽を聴く耳を育て、より豊かな聴取体験を得られるようにする。

成績評価方法
●**試験**　0%　　試験はなし
●**レポート**　50%　　コメントシートの評価
●**平常点**　50%　　課題の発表の評価
●**その他**　0%　　その他の評価基準はなし

科 目 名	表象・メディア論系演習（デザイン論）　デザインの理論と歴史							
担当者名	河村　彩							
表象	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要
現在のライフスタイルの基礎は大衆文化と都市文化が誕生した20世紀初頭に形成されました。この授業では、家具や道具、建築物、グラフィックなど、さまざまなデザインを対象とし、その理論と歴史を考察します。授業は講義と文献講読を交互に行う予定です。講義では欧米の代表的なデザイン運動を取り上げ、理論および実践面から考察します。講読では読むべき文献をあらかじめ決定し、担当者にレジュメを作成して発表してもらいます。講読の回では参加者全員文献を読んで来ることを前提とし、ディスカッションを行います。

授業の到達目標
20世紀のデザインに関する基本的知識を身につける。
イメージや造形を分析できるようになる。
美術やデザインの理論を理解し、卒論執筆の際に参照できるようになる。

成績評価方法

授業への参加50%　レポート50%

備考・関連URL

授業の前に不明な点やトラブルがある場合には、kawamura.aya@ila.titech.ac.jpまで連絡してください。

科 目 名	表象・メディア論系演習（メディア・アート論） 表現をキュレーションする							
担当者名	チェン　ドミニク							
表象	2単位	春学期	木曜日	1時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この演習では、メディア・アートや現代美術の作品をリサーチしながら「表現」とは何かという問いと向き合い、架空の展示・イベントの企画を作成し、そのカタログ（印刷＋ウェブ）を制作、そしてプレゼンテーションを個人で行う。

表現作品とは単に、メディア技術を作品制作に利用したアート作品と同義ではないし、デジタル技術の使用を意味するものでもない。メディアの歴史的変遷や現在の情報メディア社会に対する問題意識を踏まえた上で、作者のコンセプトを作品あるいはプロジェクトという形で展開するものである。そこではメディア技術は、メディアのありよう、メディアの意味に着目して意識的に用いられる。インターネットやスマホなど情報メディア技術が生活の基盤となっている現在、メディアアートや現代美術は「美術館や劇場で鑑賞する」古典的な芸術よりむしろ、日常生活に隣接するもの、もしくは埋め込まれたものになってきた。

TV、コンピュータ、インターネット、ゲーム、バーチャルリアリティなどのように、商業的に利用され、社会的に大きな影響を持つメディア技術を、アーティストたちはどのように異なる視点から切り取って見せるのか？　そこから我々は何を読み取ることができるだろうか？　メディアアートの成立過程や存在理由は？「メディアアート」と日本型の「メディア芸術」とはどう異なり、どのような関係にあるのか？　デジタル技術がもたらした複製・編集可能性は映像・音楽表現に何をもたらしたか？考えるべきテーマは多い。

この演習では、パブリックアート、ネットプロジェクト、デザイン、ポップカルチャー など、関連領域との関係性を視野に入れつつ、メディアアートや現代美術について理解を深め、その社会的・文化的な意味について考える。

演習の最終課題は、これらに関連したテーマに関する「空想の展覧会」の企画作成とプレゼンテーションである。個々人がテーマを決定し、その成果をまとめ、発表する。また、そのプロセスにおいてメディア・リテラシーを身につけ、調査・研究の手法、グループワークの方法、プレゼンテーションの方法を学ぶ。

授業の到達目標

表現作品について、歴史と現在の両面から理解し、その表現と社会的役割、今後の方向性について考えるだけでなく、オリジナルなアプローチから企画し、発信する力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。

●**レポート**　50%　　個人でテーマを決めてバーチャル展示企画のカタログ制作と発表を行う。期末課題としてこの発表内容をレポートにまとめる。中間課題として展示見学レポートを提出する。

●**平常点**　50%　　所定の回数以上の出席、ディスカッションへの積極的な参加、他の人の発表に対するフィードバックを重視する。

●**その他**　0%

科 目 名	表象・メディア論系演習（ダンス論） ダンスと批評理論							
担当者名	中島　那奈子							
表象	2単位	秋学期	月曜日	5時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この授業では、ダンスを批評理論（Critical Theory）とともに考えるのが主題です。1960年代以降に「ダンスとは何か」を探求した振付家や作品、プロジェクトに沿ってそれぞれの理解を深めながら、批評理論を用いてダンスをダイナミックに分析していきます。受講生の発表で取り上げていく関連テクストや資料は、バレエ・リュス、ドイツ・タンツテアターの振付家ピナ・バウシュ、米国ポストモダンダンス、タイの振付家・ダンサーのピチェ・クランチェン、英国の振付家アクラム・カーン、舞踏の土方巽と大野一雄、日本のコンテンポラリーダンスから提供します。また、批評理論ではテーマとして、文化における排除と抑圧の構造、眼差しと権力の問題、ジェンダーや障がい、ダンスのアーカイブ化と継承、伝統と現代、オリエンタリズム、文化の盗用・コピー、を取り上げます。

授業の到達目標

自分と社会や環境との関わりや、現在おこっているアイデンティティにまつわる政治的な問題を意識化し、他者への理解に繋げていくことを目指します。欧米と日本、アジアのダンス的なものを概観しつつ、それを理論的に議論し分析する過程で、近年舞台制作の現場に登用され、理論と実践を横断する、ダンスドラマトゥルクが果たす役割への理解も深めます。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし

●**レポート**　50%　　授業で発表した内容をどこまで深化させているか。

●**平常点**　50%　　担当する発表の中で、該当するテーマについて調べ、ダンスの批評理論と作品をどこまで説得力をもって繋ぎ合わせているか。また、交代で担当する司会では、他の受講者との議論をまとめ、どれだけ積極的に関わっているか。

●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

授業は、基本的に対面授業で実施しますが、Zoomによるリアルタイム配信も行う予定です。履修者は、Wasedaメールアドレスによる Zoomアカウントを
取得し、またZoomアカウントは、正確な氏名を記入してください。

科 目 名	表象・メディア論系演習（サブカルチャー論1） サブカルチャーについての理論と分析を学ぶ							
担当者名	石岡　良治							
表象	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

インターネット環境が普及し、デジタルプラットフォームにおける文化消費が日常化した現代において、サブカルチャーはかつてない影響力を持つようになっている。とりわけアドルノの文化産業論以降、サブカルチャーをめぐる批評的言説は様々な展開を見せてきたが、現代における文化状況は新たな理論的検討を要するものとなっている。本演習では、受講生による具体的な作品分析と理論的考察を通じて、サブカルチャーについての批評的な理解を深めていく。とりわけ重要となるのは、文化における「転覆性」の問題である。サブカルチャーはしばしば既存の文化秩序への異議申し立てとして理解されてきたが、その「侵犯性」は今日、新たな文脈のもとで捉え直される必要があるだろう。過去の文化が並列化されるデジタルプラットフォームの環境のもとでは見えにくくなる歴史的文脈を意識しつつ、具体的な分析を進めることで、現代文化の批評的可能性を探ることを目指す。

授業の到達目標

各自が関心をもつサブカルチャーについて、理論と歴史を踏まえつつ分析すること

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　学期末レポート
●**平常点**　40%　　発表やコメントシートの内容を加味する
●**その他**　0%

備考・関連URL

本演習は必要に応じてリアルタイムのオンライン配信となります。そのときにはお知らせします。

科 目 名	表象・メディア論系演習（サブカルチャー論2） サブカル的身体の諸相							
担当者名	菊地　浩平							
表象	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

サブカルチャーとは何を指すのか。「オタク」という、ある時代に蔑称しかなかったタームが、既に形骸化し、誰もが気軽に自任出来るポップな一属性へと変容して久しい昨今、サブカルチャーというタームもまた、ほとんど全てのジャンルでメイン／サブという区分けが困難になっている今日においては、あまり意味をなさなくなってきているかもしれません。しかし、そうした現状があるとはいえ、かつてサブカル／サブカルチャーと呼ばれたものの痕跡に目を凝らしたり、残響に耳を澄ましたりすることには、一定の意義がある（し結構楽しい）はずです。

そこでこの演習では、かつてサブカルチャー／サブカルと呼ばれていたもの（かつてのヴィレッジ・ヴァンガードや『クイック・ジャパン』でもてはやされていたもの、と言い換えてもよいかもしれません）を取り上げ、特に身体や身体的なるものに着目し、その今日的意義（または意義のなさ）を、映像をよく見て、またはそれを自分なりに「再現／表象」することを通じて考えてみたいと思います。

2025年度は、国内外の幾つかの長編アニメーション映画を題材にします。

本演習では、作品の分析、グループ発表、ディスカッションを行い、それぞれの作品で多様な「アニメ的身体」や「サブカル的身体」がどのように描かれているか、それが当時、以後、現在どのような意義を持ったか／持つか考えます。なおグループ発表の際は、作品の一部を受講者が自由に抜粋、脚色、演出し、教室で再現する「実演」を盛り込むことを条件とし、それぞれが作品について、自身の身体を使って能動的に考える機会を設けたいと思います。

取り扱う予定の作品は、ルネ・ラルー『ファンタスティック・プラネット』（1973）、大友克洋『AKIRA』（1988）、ヘンリー・セリック／ティム・バートン『ナイトメアー・ビフォア・クリスマス』（1993）、湯浅政明『マインド・ゲーム』（2004）などです。

※受講者数や受講者の希望などによって、扱う作品や日程が変更となる可能性は大いにあります。また、受講者全員が授業外の時間に課題作品を視聴し、また発表に向けかなりの準備の必要が生じますので、その点を了解できる意欲のある方のみ受講するようにしてください。

授業の到達目標

サブカルチャーを学術的に考察するための基礎的な視座を身につける

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　30%　　期末にレポートを課します。（1,200字から2,000字程度を予定）。
●**平常点**　70%　　授業への出席状況、グループ発表の完成度、ディスカッションへの貢献度を加味して評価します。
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	表象・メディア論系演習（広告イメージ論）							
担当者名	加藤　裕治							
表象	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本授業では、社会に遍在する各種の広告イメージについて考察する。主に社会学・メディア論の枠組みを議論のベースとしながら、商業性、歴史（時代）性、文化性といった観点から広告イメージを多元的に理解することを目的とする。なお演習のため、教員からのレクチャーだけでなく、受講学生の報告とそれに基づくディスカッションを交えながら授業を進める。

授業の到達目標

広告領域の多様性を理解する。
商業的な広告の役割だけでなく、社会や文化との関係性において存立する広告イメージを理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　70%　　授業内での報告、学期末のまとめレポート（レポート内容については授業内にて説明する）。
●**平常点**　30%　　各回授業に対する感想（短いコメント）、授業内での報告に対する評価。詳細については授業内にて説明する。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	表象・メディア論系演習（スポーツ文化論） 歴史的・社会的構築物としてのスポーツ							
担当者名	石井　昌幸							
表象	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この演習では、スポーツを人文・社会科学の研究対象として扱うことを試みる。たとえば、何らかのスポーツの歴史をより大きな時代の変化と対応させて社会史的に考察する、近代社会におけるスポーツの意味や位置を、ひとつの近代社会論として展開するなどの試みが可能であろう。あるいは、ある社会におけるスポーツに共通する諸特質やそれが映し出している地域文化（アメリカにおけるとか、日本におけるとか）などについて論じることもできるかもしれない。また、「○○とスポーツ」のような課題設定も可能である。○○のなかに、ナショナリズム（国民意識）、ジェンダー表象、マスメディア、階級、人種、政治、マンガ、芸術などの語句を入れてみよう。このようなテーマ設定を通してスポーツを「文化」として考えてみる。

授業の到達目標

スポーツというものを歴史的・社会的構築物としてとらえ、現代スポーツを相対化する視点を獲得すること。また逆に、スポーツをとおして私たちの暮らす（近代）社会の特質について考える力も磨くこと。

成績評価方法

最低1回の発表および学期末のレポートを中心に、授業への参加態度・貢献度などを加味して総合的に判断する。

備考・関連URL

受講者数の多寡により多少の内容変更を加えることがあります。

科 目 名	表象・メディア論系演習（言葉とイメージ2）							
担当者名	川崎　佳哉							
表象	2単位	春学期	水曜日	5時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本演習では、映画の古典時代から現代に至るまでの重要な映画論＝言葉と、そこで扱われている作品＝イメージにあわせて触れることで、映画について語るという実践が持つ意義を探ります。映画の誕生以来、世界中で映画について膨大な数の文章が書かれてきました。それらのなかでも、映画批評や研究において広く読まれ続けているものは、映画論の重要文献として認識されています。しかし、多くの人が知る有名な映画論であるからといって、それらが初学者にとって読みやすいものであるとは限りません。また、飛躍や妄想が入り混じっていると思われるものも少なくありません。それらを含めて、映画のイメージに言葉が刺激され、さらにその言葉に刺激されて映画が作られる、というサイクルが映画史において持ってきた意義について考察します。

授業では、文献をいくつか取り上げ、それらについてグループ発表をおこなってもらいます。取り上げるのは、アンドレ・バザンや蓮實重彦の映画批評からフェミニズム（ローラ・マルヴィ）や認知科学（デイヴィッド・ボードウェル）といった学問領域に影響を受けた研究に至るまで、国や時代もさまざまな映画論を想定しています。以上が予定ですが、受講生の人数や関心に応じて変更する可能性があります。

授業の到達目標

映画論の読解を通して、言葉とイメージの関係について思考する力を身につけることを目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　授業の内容や先行研究を踏まえた上で、自分の意見を書けているかを評価します。
●**平常点**　50%　　出席、発表、ディスカッションへの参加度などを総合的に評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

・上記の内容と予定は、受講生の人数や関心に応じて変更する可能性があります。
・映画作品によっては、過激な映像が含まれている可能性があるため、その点を了承した上で受講してください。

科 目 名	表象・メディア論系演習（ジェンダーとイメージ2） ポピュラーカルチャーにおける表象／現実／ファンタジー							
担当者名	溝口　彰子							
表象	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

どんな表象も誰かの現実がそのまま反映されているものはなく、必ず何らかのファンタジー（ドリーム、思い込み、偏見などとも言い換えられる）が関与しているという基本的な認識のもとに、ポピュラーカルチャーを分析、考察していく。とくに、「現実」におけるジェンダー（社会、文化的な性差）がどう作用しているのかについて、それを攪乱し、そこから逃避しているケースも含め、注意を払う。学期の冒頭に基本理論およびケース・スタディの講義を行うが、本演習のメインは学生による研究発表と、質疑応答である。つまり、学生が相互に学び合うセッションを講師が調停しつつ導いていく。（毎週、登場した論点に応じて、追加して参考文献や用語説明をWaseda Moodleにて配布する）

なお、本授業におけるポピュラーカルチャーとは、今日、大衆が消費者として比較的容易にアクセスし楽しむことができるもの――映画、マンガ（BL、少女、少年、青年…）、アニメ、アイドル、スポーツ、宝塚、ミュージカル、ファッション――など、必ずビジュアル要素を持つものとする。分析にあたっては、何が（what）描かれているかだけではなく、どのように（how）描かれているかについて、例えば映画であれば具体的な場面におけるカメラワークや編集の分析などを含めることが求められる。（視

覚要素のある作品や現象に限るため、小説のみの分析は本授業の課題としては適さない）
　発表とレポートで扱う内容については、以上をふまえて受講者が自由に選ぶが、第2回授業で申告した上で、必要に応じて講師と相談し調整する。（授業計画は変更になる場合がある）

授業の到達目標

　ポピュラーカルチャーにおける表象／現実／ファンタジーの関連性についての先行研究を理解し、自らの分析に応用できる力を身につける。
　ジェンダーについて精神分析的主観性と社会的主体の違いと関係を理解し、自らの分析に応用できる力を身につける。
　自らが愛好家しているか、あるいは強い興味を持つポピュラーカルチャーについて、主観的な熱意と客観的な分析眼をもって、他者に対して適切かつ具体的な分析を発表するスキルを身につける。
　学術論文を書くためのトレーニングとして、先行論文や評論の戦略的な読解能力、適切な調査能力と資料参照、引用能力を身につける。
　他者の発表に対して、即興的に生産的な質問やコメントをする能力を養う。

成績評価方法

　授業内発表（20%）
　学期末レポート（40%）
　授業貢献（40%）質疑やコメントの回数および内容的な貢献度を見る。

備考・関連URL

　1週目（第1&2回）の授業には必ず出席すること。
　　発表予定日に無断で欠席した場合は自動的に20%がマイナスとなる。
　　発表およびレポートの内容に剽窃が認められた場合は成績評価の対象から外す。15分以上の遅刻者は、正当な理由がない限り入室できません。

科 目 名	表象・メディア論系演習（表象文化の政治経済学2） 翻訳と哲学、翻訳の哲学							
担当者名	小林　嶺							
表象	2単位	秋学期	水曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

　翻訳は人間の生や思考から切り離すことのできないものです。それはたんに英語を日本語に翻訳するとか、フランス語を中国語に翻訳するといったふつうの意味での「翻訳」に限りません。たとえば英語 translation の語源に遡れば、それは「超えて - 」＋「 - 運ぶ」ことを原義とし、一つの体系から別の体系への輸送の運動一般を幅広く含意します。だから、たとえば比喩を使ってひとつの事柄を別様に言い換えることも、絵画を見てその情景を言葉で説明することも、もっと言えば自分の頭の中の考えを口に出すこともそれだけですでに広い意味では「翻訳」だと言えます。この演習では、翻訳という概念に関わる哲学的なテクスト（例：ベンヤミン、ブロッホ、シュライアマハー、デリダ……）を読み、それを起点として人間の営みについての考察を深めることを目標とします。授業の最初の数回では講義形式で翻訳にまつわる哲学文献の紹介や解説を行ない、その後の回ではテクストを指定したうえで、受講者に毎回レジュメを作成・発表してもらい、それをもとに参加者全員でディスカッションを行ないます。扱うテクスト（場合によっては作品）や発表形式（個人かグループか）は、受講者数や受講者の関心を考慮しつつ決めていきます。

授業の到達目標

・「翻訳」を主題とする哲学の理論に触れ、「翻訳」概念に対する多角的な視点を得る。
・「翻訳」にまつわる文献を読むことを通じて、哲学的なテクストの読み方を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　学期末にレポートを提出してもらいます。詳細は授業内で指示します。
●**平常点**　50%　　リアクションペーパー、発表内容、授業に参加する積極性によって総合的に評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

　授業計画は受講者数や受講者の関心に応じて調整することがあります。

科 目 名	表象・メディア論系演習（ゲームデザインの考現学） キャラクターデザインと世界構築をクリティカルに考える							
担当者名	エスカンド　ジェシ							
表象	2単位	春学期	水曜日	4時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

　ゲームの定義が現在も議論され続けるほどに多種多様なものである。この授業では、物語性の強いゲームに着目する。ディジタル（ビデオゲーム）であれ、アナログ（ボードゲームやテーブルトップロールプレイングゲーム）であれ、RPG、アドベンチャー、ミステリー系など、ゲームが独自な世界観を提供し、あらゆるキャラクターを登場させることで、プレイヤーの想像を刺激する。シナリオが控えめであっても、キャラクターデザインと世界構築自体が物語っていることがある。
　キャラクターデザインと世界構築はもちろんゲームに限らないが、ゲームならではの要素も多い。例えば、時代によってグラフィックなどの技術的な制限に伴う可能な表現方法が異なること。プレイヤーの選択によって物語の展開が変わること。収益化戦略（例えば、ガチャ系）によって変わるコンテンツ生産の方針。ゲームの世界構築やキャラクターデザインとゲームプレイの相互接続なども取り上げられる。
　また、ゲームにおける表象の変容も注目に値する。ゲームが提供するコンテンツの無限な可能性と共に、問題視することも欠かせない。ゲーム市場のグローバル化と共に、人間キャラクターにおけるダイバーシティの有無や描写に反映されるステレオタイプ、またはモンスターキャラクターの着想源をクリティカルに考える必要が増している。そのために、本授業ではキャラクターデザインや世界構築はいかに行われ、どのような芸術性や問題を見せるのかを考えていく。授業担当者が行う事例紹介と資料紹介に基づき、履修生がゲームのキャラクターデザインや世界構築について独自のクリティカルな視点を涵養することを目的とする。

授業担当者は自身の研究に基づき、ファンタジー系ビデオゲーム関連の事例を主に紹介するが、履修生はそれに限らなくても構わない。可能なテーマの事例にすぎないが、ゲーム発祥のモンスター（例えば、スライム）の時代的変容、具体例に見る多様性の取り組み（LGBTQや人種・性別の多様性など）、ゲームにおける暴力の表象、キャラクターデザインにおけるファッション、日本のRPG系ビデオゲームにおける古代文明像、特定の国・市場の要請によるキャラクターデザインの修正など、多様なテーマを歓迎する。共通するのは、受動的に消費されがちなゲームコンテンツを能動的に考えることである。

授業の到達目標

・ゲームにおける表象に対するクリティカルな視野の涵養。
・時代的・文化的なコンテクストを考慮したゲームデザインの理解。
・人文学的なゲーム研究のための基礎知識を身に着ける。

成績評価方法

レポート：　50%
授業最終日に提出する期末レポート（文字数：2000字以上）で評価する。
口頭発表と同じテーマでも、新しいテーマでも構わない。
平常点評価：50%
出席状況および授業への貢献度で評価する。
口頭発表は、全体の半分（25%）としてカウントされる。口頭発表はクラス内での発表に限らず、Moodleへの動画提出（Zoomなどでの制作を推奨）も可能である。

備考・関連URL

初回のガイダンスでは、口頭発表の希望に関するアンケートを行う。履修を検討している学生は、このガイダンスに必ず参加するようお願いする。

科 目 名	表象・メディア論系演習（メディア原論1） メディアの脱構築、脱構築的メディア論（1）							
担当者名	藤本　一勇							
表象	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

ジャック・デリダの脱構築をもとにしながら、メディア論のさまざまな問題や様相を論じます。メディアとは何か？　身体やイメージとどうかかわるのか？　そこに潜む社会的、文化的、経済的、政治的な問題はなにか？　こうした諸問題を、文字や映像、テレビやインターネット、電話やスマフォ、AIといった表面的なメディアツールのあり方を超えて考察します。

マクルーハンやベンヤミンといったメディア論の基礎知識から、フーコー、ドゥルーズ、ラカンらのフランス現代思想の入門、バトラー、ハラウェイ、プレシアドらのトランスセクシュアル理論、カーツワイルのポストヒューマン論・シンギュラリティ論、AI哲学・AI倫理学まで、幅広く議論し、これらを広い意味での「脱構築メディア理論」として提示します。

メディア論の入門からもう一歩進んで、さらに本格的にメディアを考えたい人に向けて授業をしますが、まったくメディア論や現代思想を知らない人でも理解できるように、初歩から話をしていきます。メディア論の基本文献をそのつどコピーして配り、それを講読してゆきます。

授業の到達目標

メディア思想の基礎を学び、さらに脱構築的なメディア論の可能性を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　中間レポートと学期末レポートと2回提出します。
●**平常点**　30%　　平常点とは、出席、授業姿勢、コメントシートの内容などを総合した評価を指します。出席は、毎回の授業コメントシートの提出をもって出席とします。
●**その他**　0%

科 目 名	表象・メディア論系演習（複製メディア論1）							
担当者名	長谷　正人							
表象	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

映画、写真、レコード、活版印刷物といった複製メディアの大量の普及が19世紀後半から20世紀前半の人びとの社会生活を大きく変化させた。例えば写真という機械の視線によって自分自身の姿を客観的に眺めることを人類はそこで初めて学んだわけである。最初多くの人々は写真に写った自分の姿が自分の想像しているイメージと違っているために、自分であるとは理解できなかったという。むろん現代の私たちは、もはや写真を伝達や記録の道具として使いこなしているつもりになってはいる。たとえばパスポートや学生証や免許証の証明写真を自分であると認めて持ち歩いている。しかし実は、それを笑いの種にするとき、感受性の深いところで私たちは、それが自分でないように思えるという19世紀の人々と同じ感覚にも捉えられているのではないか。こうしたメディアによる世界の知覚様式の変化の問題をもっとも深く考えた論考が、ヴァルター・ベンヤミンの「複製技術時代の芸術作品」であろう。この授業はこの論文を読みこなせるようになることを目指しつつ、複製メディア時代の具体的な芸術文化現象を取り上げて、複製メディアの歴史的意味に少しづつ馴染んでいく作業を行いたい。

授業の到達目標

ベンヤミンの提起している複製技術時代の芸術作品という問題を現代社会を生きる自分の問題として考えられるようになること

成績評価方法

授業への出席、報告、授業内容にかかわるレポートを総合的に判断する

科 目 名	表象・メディア論系演習（メディア作品分析） 核をめぐる表象――『ゴジラ』から『オッペンハイマー』まで							
担当者名	岡室　美奈子							
表象	２単位	春学期	火曜日	４時限	２年以上	―	―	フル【対面】

授業概要

この演習は、演劇、映画、テレビドラマ、小説、漫画など多様なジャンルの作品を分析し、各メディアの特性に留意しながら深く味わうことを目的とするものである。

2025年度は、原爆や水爆など、核兵器が多様なジャンルの作品においてどのように描かれ、どのように警鐘を鳴らしてきたかを分析し、世界各地で戦争が行われている現在、改めて核の脅威について作品をとおして考える。

具体的な作品としては、昨年賛否両論を巻き起こしたクリストファー・ノーラン監督の映画『オッペンハイマー』（2023年）、日本における原爆開発を描いた黒崎博監督『太陽の子』（ドラマは2020年、映画は2021年）、アメリカの軍事コンピューターが誤ってソ連への核攻撃指令を出してしまうシドニー・ルメット監督の映画『未知への飛行』（1964年）、間接的に核に言及する本多猪四郎監督の映画『ゴジラ』（1954年）を取り上げたいと考えている。異なる時代の作品を時代背景を視野に入れつつ分析することで、それぞれの作品への理解を深めたい。なお、『太陽の子』については、映画版を取り上げる予定。

★毎回Moodle上でコメントシートを提出してもらう。提出し忘れないよう注意すること。

授業の到達目標

映画・演劇・テレビドラマ・小説等のジャンルにかかわらず、それぞれの作品は、作者が意図した以上に多くの情報を含んでいる。しかし私たちは多くの場合作品と1回しか出会わないため、たくさんの情報を受け取り損ねている。この演習では、一つの作品と何度も出会い直すことによって、一つの作品が別のものに見えてくるという体験を受講者にしてもらうことを目指す。

また、ジャンルの異なる作品それぞれの分析の手法を身につけることを目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　70%　　作品の理解度に加えて、独自の視点と分析の緻密さ、論理性の有無等を判断材料とする。
●**平常点**　30%　　研究発表、出席、発言の量と質、貢献度等を総合的に判断する。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

◆受講者には授業時間外にも配信サービスやDVD等を利用して、映像資料や図書を視聴することを求めることになる。配信サービスを利用する際には料金がかかるので、それを了承の上で受講してほしい。

◆作品によっては性的、あるいは暴力的な表現を含む場合もありうるので、その点を了承した上で受講されたい。

◆毎回Moodle上にコメントシートを提出してもらう。それが出席の要件になる。

科 目 名	表象・メディア論系演習（消費社会とメディア1） 機械×プリミティブな身体≒ハイブリッドな私							
担当者名	中村　理恵子							
表象	２単位	春学期	水曜日	３時限	２年以上	―	―	フル【対面】

授業概要

いま技術がわたしたちにもたらしているもの、それは正確な知識や高速な思考ではなく、プリミティブな私の身体そのものの変革です。この講座は、AI、VRなどを遊びきることで、既存の環境によって作られた「わたし」とは違う「わたし」をそれぞれが会得するワークショップです。

ここは（魔窟状態の）アート工房でもあります。一本の木炭、一本の棒を持つこと、AIをプロンプトで操ること、そこにあらわれる想定外のわたしと向き合います。「わたし」を表現するのではなく、楽しみもだえ苦しみながら「わたし」が変化すること自体を体験します。

ワークショップでは、たんなる参加者として体験を受け取るだけでなく、体験を作る側の当事者性が要求されます。

表現に関心があり、創作の幅、自分自身の領域を広げたい人を特に歓迎します。

※なお、世界の状況や社会情勢に対峙するために、都度、状況に応じて授業計画を変更することがあります。柔軟に対応していただく必要があります。

授業の到達目標

・ワークショップを通して、アーティストの思考と方法を学ぶ。
・多様な画材、技術、道具をじゃぶじゃぶと使いながら、新たなアートの兆しをつかまえ作品を生み出す。
・グループワークやコラボレーションアートのなかで、自分のアイデアを表現し伝達する技能を磨く。

成績評価方法

試験は、ありません。授業参加点（30%）課題に対する取組み、グループワークへの貢献、発言、発想力、個人の作品・成果物（40%）、レポート・リアクションペーパーの内容（30%）

※ 毎回の講義を「座＝セッション」と考え、コラボレーションやワークショップへの貢献度を総合的に評価します。

備考・関連URL

※ virtualスタジオも開設します。参照 「メディアワークショップ@早稲田」 http://rieko.jp/lab/?page_id=4752
※各自ノートPCを必ず準備してください（スマホのみは不可）。
※ワークショップ及び作品制作に必要な画材や道具を個人で準備いただきます。
※遅刻厳禁。
※動きやすい服装で参加すること。
※アートイベントなどへの参加や体験を、学外課題として出すことがあります。
※ワークショップ、講義内容及び成果物を、インターネットやほかで公開することがあります。

科 目 名	表象・メディア論系演習（メディア原論2） メディアの脱構築、脱構築的メディア論（2）							
担当者名	藤本　一勇							
表象	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

ジャック・デリダの脱構築をもとにしながら、メディア論のさまざまな問題や様相を論じます。

「メディア原論1」と同じ分野ですが、扱うテーマや内容が変わります。「1」を聞いていない人でも大丈夫です（「1」の復習や要約もおこないます）。

メディアとは何か？　身体やイメージとどうかかわるのか？　そこに潜む社会的、文化的、経済的、政治的な問題はなにか？こうした諸問題を、文字や映像、テレビやインターネット、電話やスマフォ、AIといった表面的なメディアツールのあり方を超えて考察します。

マクルーハンやベンヤミンといったメディア論の基礎知識から、フーコー、ドゥルーズ、ラカンらのフランス現代思想の入門、バトラー、ハラウェイ、プレシアドらのトランスセクシュアル理論、カーツワイルのポストヒューマン論・シンギュラリティ論、AI哲学・AI倫理学まで、幅広く議論し、これらを広い意味での「脱構築メディア理論」として提示します。

メディア論の入門からもう一歩進んで、さらに本格的にメディアを考えたい人に向けて授業をしますが、まったくメディア論や現代思想を知らない人でも理解できるように、初歩から話をしていきます。メディア論の基本文献をそのつどコピーして配り、それを講読してゆきます。

授業の到達目標

メディア思想の基礎を学び、さらに脱構築的なメディア論の可能性を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　70%　　中間レポートと学期末レポートと2回提出します。

●**平常点**　30%　　平常点とは、出席、授業姿勢、コメントシートの内容などを総合した評価を指します。出席は、毎回の授業コメントシートの提出をもって出席とします。

●**その他**　0%

科 目 名	表象・メディア論系演習（複製メディア論2） 映像文化の社会学							
担当者名	長谷　正人							
表象	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

長谷正人編『映像文化の社会学』有斐閣をテキストにして映像文化について多角的に分析する。

授業の到達目標

映像文化に対する批判的視点を身につけること。

成績評価方法

出席、授業での報告、授業に関わるレポートで総合的に評価する

科 目 名	表象・メディア論系演習（消費社会とメディア2） ハッカー視点で垣間見る、消費社会に対抗する草の根カルチャー・ムーブメント							
担当者名	菅野　創							
表象	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

消費社会とグローバル企業は世界中何処に行ってもみんな似たようなものを消費する面白みのない世界を作ってしまっているが、この授業では私が見てきたテクノロジーにまつわる興味深い、草の根なカウンタームーブメントやカルチャーを紹介していく。

授業は対面とオンラインのハイブリッドで行う。

授業の到達目標

オルタナティブなものが入る隙間が減ってきている気がする東京で、その萌芽を見つける力をつける一助になれば幸いである。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　50%　　最終的にワークショップ課題をレポートにまとめてもらい、評価します。

●**平常点**　50%　　授業への参加、貢献度を総合的に評価します。

●**その他**　0%

備考・関連URL

担当教員紹介：

菅野創、メディアアーティスト

武蔵野美術大学デザイン情報学科卒業、情報科学芸術大学院大学(IAMAS)修了

群生動物の振る舞いを模倣した群ロボットインスタレーションやドローイングマシン、音が出る機械などを多く制作。世界各地で展覧会に参加。2013年より拠点をベルリンに移す。2023年から愛知県立芸術大学メディア映像専攻特任教授。春夏は欧州に、秋冬は日本の二拠点で活動中。

Website: https://www.kanno.so/

「ハッカー」という言葉に良い印象を抱く人は決して多くないかもしれない。その言葉の意味するところには議論があるが、ハッカーという言葉はそもそもコンピュータやデータの扱いに長け、クリエイティブにそれらを扱う人を指していたものとされる。

さて私は2013年からドイツはベルリンに住んでいるが、ドイツでは年末にハッカーの祭典、Chaos Communication Congressが開催される。ハッカーが集まり、プレゼンテーションしたり、展示したり、集まって開発してたり、クラブエリアもあったりする。その紹介を起点に、インターネットの巨大監視システムを暴露したスノーデン、ベルリンで活動するセキュリ

ティやプライバシーをテーマに扱うコレクティブ、ネットカルチャー、P2Pによるファイル共有からブロックチェーンにNFT、オープンソースのソフトウェアにハードウェアからメイカームーブメントなど、全てが一辺倒に向かっていく消費社会の影に埋もれてしまいそうなテクノロジーと文化に関わる草の根ムーブメントを、私の個人的な経験と独断と偏見でセレクトし、ワークショップを交えながら、数珠つなぎに紹介していく。

***

ワークショップ「Aliexpress Archaelogy」の詳細

あなたはAliexpressで買い物をしたことがありますか？

Amazonで買い物をしたことがない人は数少ないと思われますが、もし大量の電子部品が作品の素材として必要になる場合、Aliexpressは合理的な判断です。私はそのようにしてAliexpressの扉を開きました。

いざAliexpressのジャングルに飛び込むとそこにはAmazonを超えるカオスが待っています。時にはあなたがバックしたけど、まだ届いていないKickstarterのプロジェクトの製品が既に売られていたり、著作権問題等を絶対にクリアしていないキャプテン・アメリカ仕様のBB-8などを見つけることができます。これらの倫理に反することはなぜ起きるのでしょうか。

Aliexpressからは中国・深センの電子部品製造カルチャーなどの様々な背景が透けて見えます。そこには時折、商業的合理性にとどまらない創造性を発見することができます。

本ワークショップでは第一フェーズとして、様々な事例を紹介するレクチャーで始まります。それからAliexpressのウェブサイトを探し回り、興味深い商品を見つけ出し、その成り立ちを文化的・考古学的に因数分解・解析・考察し、実際に予算上限¥3,000程度で購入してみます。

第二フェーズでは届いた商品を使って、実際に使用・分解・利用することで習作として発表できる形態に昇華を試みます。

***

第6回ゲスト講師：加藤明洋

Akihiro Kato

科 目 名	表象・メディア論系演習（デザイン・フィクション・ワークショップ） 未だ見ぬメディアを構想する							
担当者名	チェン　ドミニク							
表象	２単位	秋学期	木曜日	１時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

現代社会においては、多様な快楽や苦痛が浮遊する膨大な情報の海のなかで、様々な問題が複雑に絡み合っている。この授業では、複雑な社会との適切な距離感を取り、自己の創造性を最大化するために、個人的な動機を基に、その物語（narrative）の中で未知の情報技術の姿を浮かび上がらせるデザイン・フィクション（サイエンス・フィクションを参照しながら、架空のメディア・テクノロジーに注目する方法）やスペキュラティブ・デザイン（問題解決ではなく、議論を喚び起こすためのデザイン）の手法を用いた一連のワークショップを行う。

ペイン（ストレスや苦痛と感じること）を掘り下げ、その解決策=ペインキラーを考えたり、好き過ぎること＝偏愛・妄想を深掘りながらそれを支援する技術を考えたりしながらプロトタイプ（試作品）を構想し、「自分の物語」を社会に接続する方法を身に付けていく。多様な経験や背景の学生の参加を歓迎する。

※ 受講者全員が参加するグループ発表やディスカッションなどを多く含むので、主体的な参加を臨む方のみ受講すること。

授業の到達目標

個人的なペインを認識し、そのペインキラーとしての未来の技術を構想し、そのかたちをデザインする力を育む。

具体的には以下を行う：

・当事者としての研究テーマの探求

・課題のリサーチと代替案のデザイン

・提案のプレゼンテーション

成績評価方法

出席、積極的な参加と発言、最終発表プレゼンテーションの完成度の総合的な評価を行う。

備考・関連ＵＲＬ

その時々の新型コロナウィルスの感染状況を鑑みて、対面とオンラインのハイブリッドもしくはオンラインのみで行います。オンライン授業ではZoomを使った「リアルタイム配信」で行い、ブレイクアウトルームを用いた学生同士のディスカッションを多めに実施する予定です。また、発表は個人・グループ共に、Zoomの画面共有機能を使って、スライドや資料を学生自身で映し出して行なってもらいます。

科 目 名	表象・メディア論系演習（身体原論1） 戯曲を読む：書かれたテクストから、演じられる舞台へ							
担当者名	坂内　太							
表象	２単位	春学期	火曜日	１時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この演習では、言葉と身体の芸術が豊かに発展してきたアイルランドの現代演劇を取り上げ、書かれたテクストとしての戯曲、及び、それが俳優・演出家・舞台美術家・衣装／照明デザイナーなどによって舞台上に（あるいはその他の演技空間に）作り上げられたパフォーマンスについて分析・検討する。受講生による戯曲の音読と担当教員による作品解説と講義、舞台記録映像の視聴や、劇評などの関連資料の読解などを組み合わせて授業を行う。

授業の到達目標

上記の概要に沿って展開される授業内容を十分に理解した上で、戯曲とその上演、及びテクストに基づく身体的パフォーマンスに関して様々な作品・事象に関し、独自の観察・批評が出来るようになることを、受講生の各々が目指して欲しい。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。

●**レポート**　0%　　実施しない。

●**平常点**　100%　　授業への出席と、毎回の授業への貢献度や作品の理解度などから総合的に判断する。なお、出席回数が全体の3分の2に満たない者は、評価の対象とせず、単位を付与しない。

●**その他**　0%　　とくになし。

備考・関連URL

対面授業を基本とするが、扱う内容や授業の進行に応じてオンデマンド授業を併用する可能性がある。また、扱う作品の中には、過去のトラウマや暴力的な表現を含むものがあるので、受講に際して留意すること。

科 目 名	表象・メディア論系演習（音声身体論）　傷ついたキャラクターの出す声							
担当者名	鶴田　裕貴							
表象	2単位	春学期	金曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この授業では、主にマンガのキャラクターについて、身体の描かれ方と喋り方を関連させながら検討することで、私たち人間と架空のキャラクターとの関係性について考える。

キャラクターについての批評や研究は、しばしばキャラクターが傷つく姿に注目してきた。死にうる身体によってキャラクターが内面を獲得するとするもの（大塚英志）、情動的な強度こそがキャラクターの現前性の源泉とするもの（伊藤剛）、キャラクターに対する虐待に消費社会の神話を読み取ろうとするもの（シアン・ンガイ）などが例として挙げられる。これらの言説はまた、それぞれの仕方でキャラクターの喋り方（内面から発せられる声、類型化された移民訛り、幼児化＝無力化された喃語的なことば etc.）と関わっている。

この授業では、1900前後の米国コミックスにおけるキャラクターと、現代日本マンガにおけるキャラクター、それぞれの事例を比較検討することで、歴史的・国際的視野からキャラクターについて理解することを目指す。それはまた、架空の存在でありながらあたかも現実のように扱われるという、私たちとキャラクターとのある種オカルト的な関係性について、広い視野から思考することにもなるだろう。

希望者がいれば、授業終盤に口頭発表を担当してもらう。発表担当者は、発表でもって最終レポートとしてもよい。

授業の到達目標

・マンガ史のさまざまな表現を比較できるようになる。
・キャラクター表現とその成立過程について、歴史的・国際的視野から議論できるようになる。
・キャラクターと現実の人間との関係性について、多角的に分析できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　40%　　最終レポートを課す。課題は講義中に紹介する。授業内で発表を担当した者は、その発表でもって最終レポートに代えてもよい。
●**平常点**　0%　　特になし
●**その他**　60%　　レスポンス・小レポート: 2-3回に一度の割合で、レスポンス・ペーパーもしくは小レポートの提出を課す。

備考・関連URL

授業内容として、どうしても差別的・暴力的な表現を紹介しなければならない場合がある。特に人種・民族的ステレオタイプに関して、現代的な価値観からは許容しがたい表現を表示する可能性がある。むろんこうした表現を肯定する意図はないが、分析の中で辛い気持ちになる人がいるかもしれない。各々の判断で受講の可否を決定すること。

科 目 名	表象・メディア論系演習（身体文化論1）　鬼の表象―日本の伝統芸能を中心に―							
担当者名	和田　修							
表象	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

「鬼滅の刃」の人気もさすが下火になったようですが、この授業では「鬼」について考えます。
童話「泣いた赤鬼」（浜田廣介作）でも、鬼は悪者というのが前提ですが、
近代以前の日本の鬼は、地獄で亡者を責める恐ろし存在というだけでなく、
強い力を持つ神や、時に猛威をふるう自然現象の表象でもあって、
必ずしも退治されるべき存在ではありませんでした。
そして、鬼の表現方法は、民俗芸能や能などの日本の伝統芸能では、非常に重要な意味をもっていました。
この授業では、日本の伝統芸能などを中心に、絵画・彫刻なども視野に入れ、
現在に至る鬼の表象をたどってみたいと思います。

授業の到達目標

鬼の表象を取り上げることで、近代以前から現代に至る日本の身体表現の特色を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　70%　　鬼を通して、日本の表現芸術の特色を理解しているかどうかを評価します。
●**平常点**　30%　　授業での出席や発表の内容によって評価します。
●**その他**　0%　　とくになし。

科 目 名	表象・メディア論系演習（身体原論2）　戯曲を読む：書かれたテクストから、演じられる舞台へ							
担当者名	坂内　太							
表象	2単位	秋学期	火曜日	1時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この演習では、言葉と身体の芸術が豊かに発展してきたアイルランドの現代演劇を取り上げ、書かれたテクストとしての戯曲、及び、それが俳優・演出家・舞台美術家・衣装／照明デザイナーなどによって舞台上に（あるいはその他の演技空間に）作り上げられたパフォーマンスについて分析・検討する。受講生による戯曲の音読と担当教員による作品解説と講義、舞台記録映像の視聴や、劇評などの関連資料の読解を組み合わせて授業を行う。

授業の到達目標

上記の概要に沿って展開される授業内容を十分に理解した上で、戯曲とその上演、及びテクストに基づく身体的パフォーマンスに関して様々な作品・事象に関し、独自の観察・批評が出来るようになることを、受講生の各々が目指して欲しい。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　0%　　実施しない。
●**平常点**　100%　　授業への出席と、毎回の授業への貢献度や作品の理解度などから総合的に判断する。なお、出席回数が全体の3分の2に満たない者は、評価の対象とせず、単位を付与しない。
●**その他**　0%　　とくになし。

備考・関連ＵＲＬ

対面授業を基本とするが、扱う内容や授業の進行に応じてオンデマンド授業を併用する可能性がある。また、扱う作品の中には、過去のトラウマや暴力的な表現を含むものがあるので、受講に際して留意すること。

科 目 名	表象・メディア論系演習（身体行為分析）							
担当者名	牧野　遼作							
表象	２単位	春学期	金曜日	２時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

我々の日常生活の多くは他者と関わる相互行為によって構成されている。本授業では、人々の相互行為をビデオ収録し、つぶさに記述することで分析を進める相互行為分析について学ぶ。具体的には、基礎的な概念およびに実際の分析事例を紹介し、授業内で収録したビデオデータに対して相互行為分析を実際に行い、相互行為分析が実施できるようになることを目標に授業を進める。

授業の到達目標

・相互行為分析に必要な発話や身体動作の見方、および基礎的概念について学ぶ。
・ビデオ収録したコミュニケーション場面に対して相互行為分析を実施できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　期末発表およびレポート
●**平常点**　50%　　毎回の授業のリフレクション
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	表象・メディア論系演習（人形文化論）　人形文化への学術的アプローチの探究							
担当者名	菊地　浩平							
表象	２単位	秋学期	金曜日	４時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

人形とは何でしょうか？

漢字だと「ひと」の「かたち」と書きますが、我々がニンギョウと呼ぶ対象は必ずしも「ひと」の「かたち」はしていません。つまり外見はニンギョウと呼ばれるそれらを構成するほんの一要素に過ぎないということです。では人形の大きさや素材や衣装、来歴や持主との関係や表情、はたまた内面（中身）こそが重要なのか…（そもそも人形の内面ってなんだ？）と、少し思考を巡らせるだけでもなんだか怪しい世界が仄見えてきます。しかし何を隠そう、専門家であるはずの私にも「人形とは何か」なんてことはよくわからないのです。

そこでこの演習では、様々な人形について受講者それぞれが個人発表を行い、その後の質疑やディスカッションを通じて徹底的に考察します。取り扱い候補となり得る人形は人形劇、ぬいぐるみ、ドール、フィギュア、アクリルスタンド、ラブドール、おもちゃ、ロボット、アンドロイド、AI、VR、VTuber、マネキン、ひな人形、市松人形、腹話術人形、蝋人形、（巨）像、着ぐるみ、アイドル、またはホラー、ファンタジー、SF、コメディといったフィクション上のあらゆる人形的存在、などです。なお個人発表の際には各自が何らかの形で"外出"し、取材した内容を盛り込むことを条件とします。それでは人形に並々ならぬ関心がある方はもちろん、人形文化研究という未踏の世界に飛び込む勇気を持つ方の受講をお待ちしております！

※受講者の希望や状況に応じてシラバス掲載の内容は適宜変更となる可能性があります。なお充実した個人発表やそれに伴う外出、授業内での質疑やディスカッションを行なうために各自が尽力する必要がありますので、その点を了解し、意欲のある方のみ受講するようにしてください。

授業の到達目標

様々な人形文化に対する、学術的／批評的な視座を獲得すること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　30%　　期末に個人発表した内容を踏まえてのレポート（字数は受講者数による。1,200～2,000字程度を予定）を提出してもらう。
●**平常点**　70%　　個人発表の評価、質疑応答、ディスカッションへの貢献度。
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	表象・メディア論系演習（イメージ原論1）　マンガ・アニメ作品についての、文献を用いた発表演習							
担当者名	石岡　良治							
表象	２単位	春学期	火曜日	３時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

マンガ・アニメは現代日本を代表する表現メディアとして国内外で広く認知されており、2020年代に入り産業構造や市場規模といった側面からの考察が顕著に増加している。また作品分析にあたっては、ストーリーテリングやキャラクター造形に注目

するものが多く、ネットミームなどを媒介にしたファンダムの観点からの受容研究も進展を見せている。しかしながら、こうした傾向は日本のマンガ・アニメの独創性を過度に強調する結果をもたらしやすく、グローバルなメディア環境におけるマンガ・アニメの位置付けを適切に把握するうえで、再検討されるべき事柄が多く残されているように思われる。

本演習は、以上のような問題意識に基づき、マンガ・アニメの表現や技法に着目しつつ、その歴史的系譜やジャンルなどの展開を分析する。ここで重要なのは、従来の分析を単に否定するのではなく、より多層的な理解を深めていくことである。とりわけ注目したいのは、ウェブ環境で完結することなく文献や映像を参照すること、そしてAIなどによる「概要」が広く流布する中にあって、各自なりの独自の視点を確立することにある。

具体的な演習の進め方としては、まず担当講師がアニメとマンガそれぞれについて異なる観点からの検討事例を提示する。その後、受講者による作品分析の発表を通じて、マンガ・アニメ表現の多様な分析手法を探求していく。

授業の到達目標

マンガ・アニメ作品の表現分析を行う
表現の系譜や歴史を踏まえつつ、ウェブのみに依拠しない仕方で文献・映像資料を参照する

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　学期末レポート
●**平常点**　40%　　発表やコメントシートの内容を加味する
●**その他**　0%

科 目 名	表象・メディア論系演習（図像学1）　図像の言葉							
担当者名	石井　香絵							
表象	２単位	春学期	木曜日	３時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

絵や文様、立体などの造形物は、各々の感覚で自由に見ればよい、というだけのものではない。自由な視覚は、ものが伝えようとしていることがらの理解を土台にしてはじめて成立する。「鳩」は何を表わす、と問えば、多くは「平和」とこたえるだろう。しかし中世やルネサンス期の絵画に描かれた「鳩」は「平和」ではなく「聖霊」の象徴である。日本のアジア・太平洋戦争期の作品に表現された「鳩」は「兵士」を意味する。狭い範囲の知識に依りながら図像を目にすることは、そこに託された意味内容の理解の妨げとなる。この演習では、時代や地域・文脈によって異なるさまざまな図像を例示しながら、多岐にわたる図像イメージの基本的理解をうながす。

授業の到達目標

図像による伝達言語の理解をうながし、さまざまな図像の読解の基礎的態度を培うこと。

成績評価方法

平常点、レポートによる。

備考・関連URL

毎時間スライドを使用

科 目 名	表象・メディア論系演習（ヴィジュアル・カルチャー論2）　ドローイング ── 手がきのノートから、都市空間のグラフィティまで							
担当者名	関　直子							
表象	２単位	秋学期	金曜日	３時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

デジタル化が日常となった現在、身体的行為を伴うドローイングの意義は逆に深まっている。線を核とするさまざまな表現を、現代におけるドローイングと捉えるなら、常に変化していく過程にある、ひとや社会のありようそのものを示すものとしてこれを再考することが意味を持ってくるだろう。この演習では、イメージだけでなく手がきの文字や記号も含めて、ドローイングとして捉え、両者の関係を探る。また、紙の上にかく方法は、揺らぎ、ときに途絶え、そして飛翔する思考や感覚の展開を克明に記すものだが、このような平面のうえでひろがる線だけでなく、硬い支持体の内部にまで刻まれるものや、空間のなかで構成される線も視野に入れ、空間へのまなざしという観点から、彫刻家や建築家によるドローイングの実践を紹介する。更に、現実を超える想像力の中で、画家たちを捉えて離さなかった、流動的で変容を続ける水をめぐるヴィジョンが、ドローイングの主題として取り上げられてきた点にも注目する。このようなアートとしての表現者による試みだけでなく、日常生活の中で今も行われるノートやメモをとる行為、手帳や日記帳の枠組みを活用してアイディアを記録すること、さらに都市空間の中のグラフィティまでを視野に入れ、線をひくという最も根源的でシンプルな表現行為について、現代におけるその意味を具体例を通して考える。

＊授業は対面での実施を予定しています。　＊アーティストの方がゲスト講師として参加される回を予定しています。

授業の到達目標

線をひくという行為が、現代の視覚文化の中で持つ意味とその可能性を考える。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　20%　　発表の概要をまとめる
●**平常点**　80%　　授業への参加態度と、発表およびディスカッション
●**その他**　0%　　特記事項なし

備考・関連URL

この演習は、教室での対面授業を予定しています。どうぞよろしくお願い致します。

科 目 名	表象・メディア論系演習（キュレーション）							
担当者名	関　直子							
表象	２単位	春学期	木曜日	４時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

キュレーションという言葉は、日常の場でも散見されるようになっているが、この演習では、美術館をはじめとする展示空間における作品や資料の編集的行為について考えていく。作品や資料というかたちあるものと、鑑賞する人、そして場合によっては展示に関わったアーティストやキュレーターが、同一の空間のなかで出会い、何かしらの接触が行われる場というのが、これまでの展示のあり方だったが、近年は展示室や収蔵庫、資料室も、蓄積されたデジタル・アーカイブの検索機能と並存することで、建物の壁を越えた世界とのネットワークの中で意味を持つものとなっている。また、展示空間においても、目の前にある作品とスマホの画面とを同時に見つめたり、個人的な眼差しを拡散することも容易である。2020年代は、展示室とウエッブ空間やヴァーチャルな空間との並存は進んだが、一方で実空間での身体的体験の重要性はもとより、これらの新たな関係のあり方が再考されている。さらに、作品の制作者も、また鑑賞する人も、そのバックグラウンドは広がり続けており、地球環境や経済格差、ジェンダー、紛争など、創造活動の主題や、AIの活用をはじめその表現のありようも変容している。本演習では、現在、どのようなキュレーションが意味を持ってくるのか、これまでの重要な展覧会と近年のプロジェクトのキュレーションの実例を通して、その課題と可能性を探る。授業では、現在開催中の展覧会もとりあげ、そのコンセプトや作品、その展示方法などについてのディスカッションを行う。

＊この演習は対面での授業を予定しています。

※【実務経験のある教員による授業科目】

この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

授業の到達目標

2020年代のキュレーションのための思考を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない

●**レポート**　20%　　課題に基づき提出物を作成する。

●**平常点**　80%　　授業への積極的な参加と、発表内容およびディスカッション

●**その他**　0%　　なし

備考・関連ＵＲＬ

授業では現在開催中の展覧会もとりあげていく。

科 目 名	表象・メディア論系演習（デジタルコンテンツ技術1）　デジタルと音楽							
担当者名	和田　修							
表象	２単位	春学期	火曜日	５時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

デジタルとは何か。そして、デジタルは万能なのだろうか。

この授業では、デジタルとアナログの基本的な違いをわきまえたうえで、さまざまなデジタルコンテンツを支える技術の基礎を体験する。

春学期は、主としてデジタル音声と画像について取り上げる。グループまたは個人で、実際に音楽・音声を録音して編集すること、画像を編集することの基本を学ぶ。

音声はCDに焼き、画像をそのジャケットとしてプリントアウトして提出する。

授業の到達目標

デジタルコンテンツ技術について、基本的な知識を学ぶと同時に、実際に音声・画像の編集を体験し、コンテンツ運用方法を身につけることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。

●**レポート**　60%　　デジタルという概念と技術の変遷を正しく理解できたかどうかを評価する。

●**平常点**　40%　　授業の出席およびデジタル音声・画像の編集技術が身についているかどうかを提出物で評価する。

●**その他**　0%　　なし。

備考・関連ＵＲＬ

デジタル編集について、テクニカルな興味がないとついて行くのが厳しいでしょう。秋学期は動画とWebページを作成する予定です。

科 目 名	表象・メディア論系演習（デジタルコンテンツ技術2）　動画とWebページの作成							
担当者名	和田　修							
表象	２単位	秋学期	火曜日	５時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

デジタルとは何か。そして、デジタルは万能なのだろうか。

この授業では、デジタルとアナログの基本的な違いをわきまえたうえで、さまざまなデジタルコンテンツを支える技術の基礎を体験する。

秋学期は、主として動画編集とWebページの作成について取り上げる。グループまたは個人で動画を撮影し、Webページを作って編集した動画を掲載する。

授業の到達目標

デジタルコンテンツ技術について、基本的な知識を学ぶと同時に、実際に映像編集・Webページ作成などを体験し、コンテンツ運用方法を身につけることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　60%　　デジタルという概念と技術の変遷を正しく理解できたかどうかを評価する。
●**平常点**　40%　　出席および動画・Webページの編集技術が身についているかどうかを評価する。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

デジタル編集について、テクニカルな興味がないとついて行くのが厳しいでしょう。春学期の履修を前提とするわけではありませんが、継続している方が理解はしやすいと思います。

科 目 名	表象・メディア論系演習（視覚イメージの読み方1）　美術作品を「見る」ことを問う							
担当者名	岡添　瑠子							
表象	2単位	春学期	月曜日	4時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

20世紀後半から現代までの美術を中心に、絵画・彫刻・写真・インスタレーションなどの様々な作品を取り上げ、イメージ読解に必要な理論を学びながら、作品を「見る」とはどういうことかを考えていきます。芸術作品はアーティスト個人の表現でありながら、制作方法や様式、描く対象は同時代の文化や社会状況の影響を少なからず受けており、はたまた完成した作品の評価も時代や場所によって変わってくるでしょう。そして作品を見る私たちは、自らの知識や経験、記憶を手がかりに作品を理解しようとします。1960-70年代には、主に欧米の前衛美術のなかで、作品と鑑賞者の関係の複合的な構造に目を向けるアーティストたちが現れました。かれらの実践は、そもそも制作し発表すること、作品が「見られる」こと、それらを成り立たせている美術館などの諸制度を問うものでもありました。

この授業では、ゲルハルト・リヒターやクリスチャン・ボルタンスキーなど写真イメージを用いた作品に加え、行為や実践、概念自体を扱った芸術についても考えていきます。

授業は講義、履修者による口頭発表、ディスカッションによって進めていきます。口頭発表は、一人ずつ美術作家やグループを取り上げ、パワーポイントなどを用いて行ってもらいます。

授業の到達目標

現代美術の多様な表現を理解し、視覚イメージに対する批評的な視座を得ることによって、自分なりの問いを深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行いません
●**レポート**　50%　　発表をもとに学期末レポートを提出。
●**平常点**　50%　　口頭発表とレビューシートを含む、授業への積極的な参加を評価の対象とします。
●**その他**　0%　　行いません

備考・関連URL

授業内容は、履修者の人数や興味に応じて調整・変更する場合があります。授業に関するアナウンスは、Waseda Moodleを通じて行います。

科 目 名	表象・メディア論系演習（視覚イメージの読み方2）　複数の主体による創造的活動――アート、デザイン、音楽							
担当者名	関　直子							
表象	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

近年、複数のアーティストがグループ活動を展開する、アーティスト・コレクティヴは内外で漸増している。20世紀前半の未来派などモダン・アートのグループが、前衛的な造形思考に基づく運動体を志向し、その多くが短期間で終熄したのとは異なり、緩やかな関係を保ちつつ、メンバーは得意とする分野を受け持ち、制作と発表を持続させている。同時に個人としての活動を続けていることもある。構想と実現を対話によって練り上げていく点に特質があり、その過程を自主運営するスペース等で開示したり、ウェッブ空間で公開するなど、コミュニティにおける課題をめぐるプロジェクトなどを通して、社会との複数の回路の構築を重視する傾向にある。さらに、研究と教育とキュレーションといった複合的な機能を持った組織体において、流動的なメンバー構成によってプロジェクトが進められることも、コレクティブの一つのあり方として見逃せない。本演習では、多様な分野での創造的な活動を、そのような複数の主体の営為という視点から読みとき、現代におけるその意味を考察する。その際に、女性アーティストにとってのコレクティヴとしての活動の重要性にも着目する。

＊授業は対面での実施を予定しています。

授業の到達目標

創造的な活動の多様なあり方とその可能性を考察する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しません
●**レポート**　20%　　発表の概要をまとめる
●**平常点**　80%　　授業への参加態度、発表とディスカッション
●**その他**　0%　　特記事項なし

備考・関連URL

関連する展覧会が開催されている場合には、状況が許せば見学を予定しています。

科 目 名	表象・メディア論系演習（メディア演劇論）							
担当者名	辻　佐保子							
表象	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この演習では、いくつかのアメリカン・ミュージカルを取り上げて、いかに歌い踊る行為がキャラクターや関係性を媒介する

ものとして機能しているかを、作品を精緻に分析し、考えていきます。 アメリカン・ミュージカルにおける歌やダンスを考えるにあたってしばしば、歌詞やメロディによって表現されることと、歌い踊る行為によって表現されることが混同され、両者の間に生じる連携や齟齬がどのように作用しているかという論点は見落とされがちです。

その歌や踊りは、誰が誰に（何に）向けたものなのでしょうか。それは誰かとともに行うものでしょうか。途中で誰か加わるでしょうか。はたまた一人きりでしょうか。あるいは、最初から加われないキャラクターはいるでしょうか。歌う人・踊る人は作品のどこに位置づけられているのでしょうか。作品の物語世界の中でしょうか、劇中劇の中でしょうか、それとも別の位相でしょうか。歌い踊る行為はどのようなタイミングで作品に挿入されているでしょうか。歌や踊りの前後で作品に何か変化は生じているでしょうか。歌やダンスという表現をとることは、作品においてどのような意味を持つのでしょうか。

本演習では、歌詞やメロディ、ダンスのスタイルへの注目からは少し距離をとり、作品の進展において歌うこと・踊ることがどのような働きを担っているかを分析し考察していきます。特に、キャラクターの関係性の構築や変化を歌・ダンスが媒介している作品に焦点をあてて、テクストの精読・映像分析・グループ発表・ディスカッションを通して歌い踊る行為のダイナミックな働きを徹底的に考察していきます。 今年度は特に、「歴史、身体、痛み」をキーワードに授業を組み立てます。取り上げる作品の候補としては、『ショー・ボート』（演劇：1927年、映画：1936年）、『若草の頃』（映画：1944年）、『王様と私』（演劇：1951年、映画：1956年）、『日曜日に公園でジョージと』（演劇：1986年）、『ヘドウィグ・アンド・アングリーインチ』（演劇：1998年、映画：2001年）などを考えていますが、受講生からの提案も聴きながら3作品を決めていきます。 なお、状況に即して授業の進行や内容は変更する可能性があります。

授業の到達目標

ミュージカルは誕生から現在に至るまで隆盛を誇る演劇ジャンルであるものの、批評的な分析・考察を抜きに好悪で判断がくだされる傾向にあります。本演習を通して、受講生全員がミュージカルを学術的に分析・考察する方法論を獲得することを目標とします。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　60%　　作品の理解度に加えて、独自の視点と分析の緻密さ、論理性を判断する。
- **平常点**　40%　　研究発表の質、ディスカッションでの発言の量と質、授業への貢献度、出席日数を総合的に判断する。
- **その他**　0%

科 目 名	表象・メディア論系演習（戦争の視覚文化論）							
担当者名	増野　恵子							
表象	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

近現代の戦争はメディアを通じて伝えられるが、画像や動画などの視覚的イメージは日常生活の中に浸食し、人々の感覚に直接訴えかけて社会における「戦争」観を形成する。本演習では主に日本近代の戦争に関するイメージを取り上げ、戦争はいかに形象化されてきたかを考える。それらの戦争イメージは、それぞれの時代において戦争が人々にどのように理解されていたか（あるいはどう理解されるべきだったのか）を伝えている。歴史・美術・メディアをまたいで戦争の視覚イメージの様々なあり方を見つめ、現代の我々はそれらにどのように対峙し、そこから何を読み取っていくかを考えたい。授業は履修者の発表を中心とし、質疑応答やディスカッションを随時交えて進めていく。

授業の到達目標

視覚的なイメージの読み解きを通じて、イメージを分析する多角的な視点を身につける。

成績評価方法

発表　25%　授業内で行う口頭発表の内容を評価する。
期末課題　25%　期末に課す課題を評価対象とする。
平常点　50%　毎回の授業で提出するレビューシートを元にして授業への参加態度を総合的に判断する。

備考・関連URL

授業内容は、履修者数や発表スケジュールなどの諸事情によって変更される場合がある。授業に関するアナウンスやフィードバックなどはWaseda Moodleを通じて適宜行う。

科 目 名	表象・メディア論系演習（モダニズム論）　批評理論の展開とモダニティの問い：フレドリック・ジェイムソンを手がかりに							
担当者名	石岡　良治							
表象	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

「モダニズム（modernism）」という「イズム」のドグマ性が批判されるようになって久しい。だがモダニズム批判として現れた「ポストモダニズム」もまた、現在ではしばしば「1980年代の消費文化」や「バブル文化」と結びつけられ揶揄されるようになっている。このような状況において、アメリカの思想家フレドリック・ジェイムソン（1934-2024）の理論的営為は、モダニティ（modernity）という観点からモダニズムを問い直すための重要な視座を提供している。

本演習では「モダニズム」を、「モダニティ」すなわち「近代という状況」ないしは「現代性」をめぐる問いの構造から考察する。その際、ジェイムソンが提唱した「歴史化すること」という方法を手がかりとしつつ、テクストを社会的・歴史的文脈において読み解く実践を試みたい。ジェイムソンによるとモダニズムは、先行するリアリズムと後続するポストモダニズムとの緊張関係において把握される必要があり、その歴史性をふまえた読解演習を行う。

全体を三部構成とする。

第一部ではジェイムソンをはじめとした批評理論における「モダニズム」理解を検討する。キーワードは「構造主義と記号論」。

第二部では批評理論が初期の「文学理論」としての性格から、対象を造形芸術や映画、ポピュラーカルチャーへと広げ、広く表象や文化をめぐる研究に至る過程を検討する。

第三部ではジェイムソンの『未来の考古学』におけるSF批評を手がかりに、ユートピアとディストピアについての分析を読解することで、「アメリカ」についての彼の診断を再検討する。

随時受講者のリクエストも受け付けたい。

授業の到達目標

1「モダニズム」を批評理論の歴史とともに学び、その魅力と陥穽を学ぶ。
2「モダニズム」を狭隘なドグマとしてではなく、「モダニティ」をめぐる問いかけとして見出す。
3　フレドリック・ジェイムソンのテクストの「可能性の中心」を探る

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　学期末レポート
●**平常点**　40%　　コメントシートと発表
●**その他**　0%

備考・関連URL

本演習は必要に応じて配信など対面とは異なる形態となることがあります。その際には事前に告知します。

科 目 名	表象・メディア論系演習（イメージ文化のポリティクス）							
担当者名	溝口　彰子							
表象	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

エリザベス1世お気に入りの美少年、36歳の女性、360歳の両性具有者、やり手の大使、社交界のレディ、詩人……ヴァージニア・ウルフによる小説『オーランドー(Orlando)』(1928）は、主人公が16世紀末から20世紀初頭まで、性を超え時代を超え、恋愛遍歴を重ね、変化する時代精神を乗りこなしながら存在し続けるという奇想天外な小説である。作者ウルフのメタ伝記とも評される。1993年には、ティルダ・スウィントン主演で映画化もされた（『オルランド』サリー・ポッター監督/脚本)。本授業では、ゼロから立ち上げられたテキスト（小説）が実写映像となるまでのプロセスを深く考察するため、原作小説（英語および和訳版）および脚本（英語のみ）と映像の、詳細な比較検討を行う。また、フェミニスト批評の古典ともされるウルフのエッセー『自分だけの部屋』(1929)や、ポッター監督やスウィントンのインタビューなども参照し、立体的に考察していく。演習であるため、ガイダンス以外のすべての回において、学生が能動的に発表をする。

授業の到達目標

小説、脚本、映像を比較精査する力をつける。
小説における言語による描写がどのように映像表現に置き換わっているかを見抜く。
「何が(what)」映っているかだけでなく「どのように(how)」かについて、分析する力をつける。
映像分析の基本的用語が使いこなせるようになる。
脚本、とくにト書きを読むことに慣れる。
小説の翻訳がどのように論文や報道記事の翻訳とは異なるのかをつかむ。

成績評価方法

授業貢献(80%)（個別発表を含む）
学期末ミニ・レポート（20%）

備考・関連URL

初回授業には必ず出席してください。15分以上遅れた方は、正当な理由がない場合、入室できません。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（小説表現1）　小説表現を通して〈戦後80年〉を考える							
担当者名	友添　太貴							
文ジャ	2単位	春学期	金曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この授業では、アジア太平洋戦争における戦争体験と戦争記憶の問題を多様な小説表現を通して考えたいと思います。具体的には帝国日本が敗戦した1945年から1960年代頃までの日本近代文学の代表的な小説作品を取り上げ、そこに描かれる戦争体験やその記憶が小説における想像力といかに関わったのかを考えます。授業で扱う作家は、石川淳、大江健三郎、野坂昭如、大城立裕など。なるべく多くの作品を皆さんと深く読み、議論し、考えたいと思っています。なお、授業では積極的な議論への参加を求めます。

授業の到達目標

日本近代の小説の歴史を理解する。
文学作品・芸術作品を同時代のさまざまな言説を通して検討する力を身につける。
先行研究を批判的に検討しながら作品を読む力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　学期末にレポートが課されます。
●**平常点**　50%　　出席および発表内容・ディスカッションへの参加度をもとに評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

授業内容は履修者数や理解度に応じて一部変更となる場合があります。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（小説表現3）							
担当者名	堀　千晶							
文ジャ	2単位	春学期	木曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

近代文学は、「男性中心」的な社会制度のもとで生まれたものです。かつての文芸誌や思想誌では、書き手がほとんど全員「男性」であるというのは、よくある光景でした。こうした「男性中心」的な制度が相対化され、それとして名指され、批判的に検

証され、問い直されてきたのが20世紀だといえるでしょう。少なくとも日本語文学にかぎっていえば、現代は「女性作家の時代」といってもよい状況になっています。
本演習では、「女性作家」たちの作品を読み、議論することにします。時代は問いません。翻訳文学ももちろん歓迎です。マイナーな作品も、クィアな作品も歓迎です。
冒頭の数回は教室全体で文献を読み、全員で議論します。そのうえで、履修者がみずから作品を決めて、発表してもらいます。
全体で読みたい作品がありましたら、ぜひ積極的にご提案ください。

授業の到達目標

よく知られていない作家・作品も含めて読みながら、文学史や文学の評価基準を批判的に書き換えるまなざしをもつこと。

成績評価方法

発表と期末レポート。くわえて、授業内での議論における発言を評価対象とします。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（小説表現4） 吉本ばななの世界							
担当者名	草野　慶子							
文ジャ	2単位	春学期	火曜日	1時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

吉本ばななの作品を読む演習です。今年度は、吉本ばななの長いキャリアのなかから、旅が重要な要素となっている作品を各執筆年代から3つピックアップし、全員で読んでいきます。これが授業の前半で行うことです。
具体的には、文庫本2冊分の長編『アムリタ（上下）』1994　文庫本1冊の長編『虹』2002　そして短編集『ミトンとふびん』2021　です。
上記3作品については全員にお読みいただき、それに関するグループディスカッションを行ないます。担当教員も各作品について短い講義をします。
その後、個人発表に移ります。吉本ばななの任意の作品を選び、各自の自由な視点で考察する発表を行なっていただきます。
登録は、少しでもいいから吉本ばななの作品を読んでみて、自分に合うかどうか確かめてみてからにしてください。どうしても合う合わないはあり、合わない場合は辛い思いをさせてしまうように思います。いきなり超能力とか無理！という方はやめておくのが無難です。
いずれにしても、1限に大学に来ようという方は少数でしょう。親密であたたかい演習となるよう努めます。

授業の到達目標

文学作品の学術的な読解に習熟すること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　『アムリタ』「虹」『ミトンとふびん』のうち1作品以上を選んで考察する期末レポートを課します。
●**平常点**　60%　個人発表への評価、ディスカッションへの取組み、他の受講生へのフィードバック、出欠状況等を総合的に評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（小説表現6） 犬と／犬の文学							
担当者名	草野　慶子							
文ジャ	2単位	秋学期	火曜日	1時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

犬が登場する、あるいは犬をモチーフにした作品を読みながら、犬という「言葉を持たない重要な他者」と文学について考えます。最初に担当教員による導入的講義、続いて、指定された文学作品の一部、あるいは犬と文学を論じる文献を受講者全員に読んでいただき、ディスカッションを行う回を数度設けます。
その後、受講者各人の個人発表を行っていきます。時代や言語圏は問いませんので、犬と／犬の文学をめぐる具体的作品をひとつ以上挙げ、論じてください。
さて。犬は人間の友、ということになっているし、実際そうだと思いますが、なんでそうなのでしょうね？
犬って人の手が入っていますよね？　でなければあそこまで足が短かったり、放っておくと毛が無際限に伸びていくだけ、みたいな生き物になるわけがないですし。
犬は自然と文化の愛おしいキメラ、境界領域です。このことを文学を通して考えたいのですが、単純に犬（と小説や詩）が好きという方もぜひ受講してみてください。
犬が怖い、生理的にだめ、という方は登録しないでください。
1限に大学に来ようという方は少数でしょう。親密であたたかい演習となるよう努めます。

授業の到達目標

文学作品の学術的な読解に習熟する。文化と自然の関係について一定の知見を持つ。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　期末レポートを課します。
●**平常点**　60%　各自1回の個人発表への評価、ディスカッションへの取組み、他の受講生へのフィードバック、出欠状況等。
●**その他**　0%

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（小説表現7） 書く・読む・改稿する							
担当者名	重松　清							
文ジャ	2単位	春学期	水曜日	5時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

一編の小説を書き上げたときのよろこびは、何にも替えがたいものだろう。担当講師も実作者の端くれとして、それはよくわ

かっているつもりである。けれど、そのよろこびをひととき噛みしめたあとで、自らにこんなふうに問いかけてみてはどうだろう。「手直しをしたら、さらによくなるんじゃないか？」。本演習では、学生諸君に小説の改稿を繰り返しやってもらう。テキスト（というより、徹底的に書き直されるための「元ネタ」のような存在）は、担当講師の掌編小説である。すでに一冊の書物に収められ、「確定」したかのような既存の小説も、じつは、さまざまな角度から改稿することでまったく別の相貌を見せる可能性を秘めている。視点を変えたり、場面に出てくる人物を一人増やしたり、エピソードを追加したり、登場人物のその後を想像したり……。10人の書き手がいれば、10通り（もしくはそれ以上）の可能性が広がる。それを肌で感じ取って、学生諸君自身の創作の、もしくは小説を読む際の糧にしてもらいたい。 教室では、小説表現をめぐるレクチャーをして、受講生同士のディスカッションもおこなう。

授業の到達目標

既存の小説の改稿を通じて、小説を書くことや読むことへの理解を深める。

成績評価方法

●**試験** 0% おこなわない
●**レポート** 50% 期末に提出する課題の内容（詳細は教場で指示する）
●**平常点** 50% 出席状況と学期内に課すメイン課題、ミニ課題の提出状況。メイン課題の内容や、授業への参加度など。なお、出席回数は、原則として授業回数の3分の2以上が必要である。
●**その他** 0% なし

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（小説表現8） 書く・読む・改稿する							
担当者名	重松 清							
文ジャ	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

一編の小説を書き上げたときのよろこびは、何にも替えがたいものだろう。担当講師も実作者の端くれとして、それはよくわかっているつもりである。けれど、そのよろこびをひととき噛みしめたあとで、自らにこんなふうに問いかけてみてはどうだろう。「手直しをしたら、さらによくなるんじゃないか？」。本演習では、学生諸君に小説の改稿を繰り返しやってもらう。テキスト（というより、徹底的に書き直されるための「元ネタ」のような存在）は、担当講師の掌編小説である。すでに一冊の書物に収められ、「確定」したかのような既存の小説も、じつは、さまざまな角度から改稿することでまったく別の相貌を見せる可能性を秘めている。視点を変えたり、場面に出てくる人物を一人増やしたり、エピソードを追加したり、登場人物のその後を想像したり……。10人の書き手がいれば、10通り（もしくはそれ以上）の可能性が広がる。それを肌で感じ取って、学生諸君自身の創作の、もしくは小説を読む際の糧にしてもらいたい。 教室では、小説表現をめぐるレクチャーをして、受講生同士のディスカッションもおこなう。

授業の到達目標

既存の小説の改稿を通じて、小説を書くことや読むことへの理解を深める。

成績評価方法

●**試験** 0% おこなわない
●**レポート** 50% 期末に提出する課題の内容（詳細は教場で指示する）
●**平常点** 50% 出席状況と学期内に課すメイン課題、ミニ課題の提出状況。メイン課題の内容や、授業への参加度など。なお、出席回数は、原則として授業回数の3分の2以上が必要である。
●**その他** 0% なし

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（短詩型表現1） 日本の近現代詩を読む(1)							
担当者名	菊池 有希							
文ジャ	2単位	春学期	月曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本演習では、日本の近現代詩のアンソロジーから詩作品を選び、丁寧に精読する。テクストとして、池澤夏樹（編）『近現代詩』（河出文庫）を使用し、受講者には自身が選んだ作品について、作者紹介、作品の書誌情報、語釈、先行研究、鑑賞・解釈から成るレジュメを作成し、それに基づいて発表してもらう。発表の回数は受講者の人数の如何によって決まるが、最低一回は発表を行なってもらう。発表の形態は個人発表を考えている。

本科目は「短詩型表現」と副題がつけられているが、狭義の短詩型文学（短歌・俳句など）に限定しない。さまざまな詩作品を味わいながら読み、論理的に分析し、他者の意見に耳を傾けつつ読みの精度を上げてゆく愉しみを感じてもらえればと考えている。

授業の到達目標

・日本の近現代詩の代表的な書き手・作品についての理解を深める。
・ことばの手ざわりを大事にしながら詩作品を読み解く作法を修得する。
・詩作品の解釈を主体的に展開し、自身のことばでそれを表現する力を修得する。

成績評価方法

●**試験** 0% なし
●**レポート** 40% 学期末レポート。
学期末レポートは発表を行なった者のみ提出することができる。
●**平常点** 60% 出席状況を確認した上で、発表課題への取り組み、討議への参加度で評価を行う。
討議への参加度は、質疑応答の際の発言の頻度・内容で評価するため積極的な発言が求められる。
出席しただけで加点することはしない。
●**その他** 0% なし

備考・関連URL

本演習は基本的に対面で行うが、社会状況その他の事情でオンライン授業の形態をとることもあり得る。その際はMoodleで告知を行う。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（短詩型表現2） 日本の近現代詩を読む⑵							
担当者名	菊池　有希							
文ジャ	2単位	秋学期	月曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本演習では、日本の近現代詩のアンソロジーから詩作品を選び、丁寧に精読する。テクストとして、池澤夏樹（編）『近現代詩』（河出文庫）を使用し、受講者には自身が選んだ作品について、作者紹介、作品の書誌情報、語釈、先行研究、鑑賞・解釈から成るレジュメを作成し、それに基づいて発表してもらう。発表の回数は受講者の人数の如何によって決まるが、最低一回は発表を行なってもらう。発表の形態は個人発表を考えている。

本科目は「短詩型表現」と副題がつけられているが、狭義の短詩型文学（短歌・俳句など）に限定しない。さまざまな詩作品を味わいながら読み、論理的に分析し、他者の意見に耳を傾けつつ読みの精度を上げてゆく愉しみを感じてもらえればと考えている。

※春期の「文芸・ジャーナリズム論系演習（短詩型表現1）」と同じ教科書を使用するが、重複を避けるため、春学期に扱った詩人は秋学期では扱わない。また、春学期と授業の進め方は同じだが、春学期の受講を前提としない。

授業の到達目標

・日本の近現代詩の代表的な書き手・作品についての理解を深める。
・ことばの手ざわりを大事にしながら詩作品を読み解く作法を修得する。
・詩作品の解釈を主体的に展開し、自身のことばでそれを表現する力を修得する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　40%　　学期末レポート。
学期末レポートは発表を行なった者のみ提出することができる。
●**平常点**　60%　　出席状況を確認した上で、発表課題への取り組み、討議への参加度で評価を行う。
討議への参加度は、質疑応答の際の発言の頻度・内容で評価するので、積極的な発言が求められる。
出席しただけで加点することはしない。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

本演習は基本的に対面で行うが、社会状況その他の事情でオンライン授業の形態をとることもあり得る。その際はMoodleで告知を行う。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（シナリオ表現2） 日本の近現代演劇とアダプテーション							
担当者名	赤井　紀美							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本演習では日本の近現代演劇の作品について、特にアダプテーションの視点から読解することを目指します。

古典芸能とよばれる近世以前に生まれた演劇との地続きの歴史も踏まえたうえで、演劇作品が含有する様々な要素を理解し、作品を読む力を養います。

また、アダプテーションという切り口を用いるため、演劇だけではなく、小説や映画、放送など他のメディアとの関わりについても視野に入れて議論を行いたいと思います。

個人またはグループにて発表を行ってもらいます。

対象作品は受講者の希望を優先します（幅広い対象を希望していただいて構いません）。

特にない場合はこちらが指定した演劇作品を対象とします。

授業の到達目標

⑴日本の近現代演劇について理解を深める。小説、映画、放送などの他のメディアの特性と差異についても理解したうえで、個々の作品について主体的な分析が行えるようになる。

⑵アダプテーションという視座から作品を読む意義や、論じる際に必要な手続きを獲得する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし。
●**レポート**　40%　　発表をふまえたレポートを提出。
●**平常点**　60%　　出席状況、発表課題への取り組み、討議への参加度で評価を行う。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（翻訳表現1） ロシア文学、銀の時代の作品を読む							
担当者名	奈倉　有里							
文ジャ	2単位	春学期	火曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

ロシア文学の「銀の時代」と呼ばれる19世紀末から20世紀初頭にかけての文学作品の日本語訳を比較しながら読解し、さまざまな翻訳の表現を学びます。

かつて「革命前文学」とも呼ばれていた「銀の時代」は、ロシア革命までの激怒の時代でありながらモダニズム文学が花開き、西欧の文学や、他の芸術ジャンルとも共鳴しながら発展した時代でした。

ロシア文学もこの時期、象徴主義、印象主義、未来派などさまざまな潮流が出現します。その多様な文学作品を日本語訳で読み、翻訳表現を学んでいきます。

※授業は基本的に対面でおこなわれます。

授業の到達目標

翻訳された文学作品におけるさまざまな表現を学び、読解力と表現力を身につけます。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　期末にレポートを提出します。
●**平常点**　40%　　毎回リアクションペーパーを配布しますので、必ず提出してください。
●**その他**　0%

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（翻訳表現3）　文芸翻訳ワークショップ							
担当者名	小野　正嗣							
文ジャ	2単位	春学期	金曜日	2時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

※基本的に対面授業です。新型コロナウィルスの感染の拡大など、状況によりオンラインに切り替えることもあります。英語で書かれた短篇小説を毎回1編、翻訳します。そのため、毎回翻訳課題が課されます。
受講者の提出した翻訳から訳文を抜粋してサンプルを作成し、それをもとに全員で議論します。
基本的には、受講者をいくつかのグループに分け、まずグループごとににサンプルを検討し、その後全体で議論します。
そのような授業の性質上、以下のことができる学生だけが参加してください。
1）ワークショップで扱われる課題の短篇小説（1〜2頁程度）を翻訳し、授業日の3日前の18時までに、Moodle上に提出する。
2）毎回出席し、積極的に発言すると同時に、他の受講者の意見に真摯に耳を傾け、受講者全員での議論に参加する。

授業の到達目標

1）ある程度の長さの英文を翻訳することになれる。
2）英文を緻密に読解し、それにふさわしい日本語にすることができる。
3）よい翻訳とは何かについて、翻訳の実践を通して学ぶ。
4）自分の訳文を、批判的に検討し、よりよいものにする技術を身につける。
5）他の受講生の訳文について、建設的な意見を表明できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　課題への取り組み、授業での発言内容から総合的に判断する。 課題については、提出が1日遅れるごとに10点減点され、3日以上遅れた場合は受けつけません。また病気やご身内の不幸などで課題の提出が間に合わない事情が生じた場合は、授業担当者にMoodleを通じて至急ご連絡ください。すぐに連絡ができない場合は、遅くとも締切から5日以内にお知らせください。
●**その他**　0%

備考・関連URL

受講者が提出した翻訳課題から訳文を抜粋して翻訳サンプルを作成します。以下の点は注意してください。
授業の性質上、受講者は毎回必ず出席し、課題を提出し、授業に積極的に参加することが求められます。
1）正当な理由があって欠席する場合、正当な理由があって課題を期限内に提出できない場合は、すぐに授業担当者に連絡をして代替の課題などについて尋ねること。
（正当な理由とは、病気や忌引きなどであって、就職活動やインターンシップは含まれません。）
2）課題をMoodle上に期限内に提出できないことが複数回ある場合は、C以下の評価になります。
3）20分以上の遅刻は、欠席とみなします。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（翻訳表現4）　翻訳表現の可能性を探る（ロシア文学を中心に）							
担当者名	奈倉　有里							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	2時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

ロシア・東欧の文学作品の翻訳を通じ、翻訳表現の歴史と可能性を探ります。
毎回、複数の日本語訳のある短い作品（掌編や詩など）を用意し、テキストを配布しますので、その比較を通して原文の意図を探ります。
※ロシア語ができる必要はありません。
※授業は基本的に対面方式でおこないます。

授業の到達目標

翻訳の歴史をもとに訳語の変遷を辿り、これからの翻訳文学の可能性について考察する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　60%　　期末にレポートを提出します。
●**平常点**　40%　　毎回リアクションペーパーを配布しますので必ず提出してください。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（近代からの日本の文学1）　文学と東京の来歴を読む							
担当者名	清水　智史							
文ジャ	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本演習では、近代における日本の文学作品を読解していきます。その際、東京を舞台とした作品を扱うことで、日本の近代化の来歴を振り返っていきます。

明治時代以降、東京は近代化の中心地としてめまぐるしく変化をしてきました。文化の中心地としても、出版の中心地としても存在感を示しており、数多くの文学作品が生まれてきたことは事実です。一方、急速な近代化ゆえに様々なひずみもまた生まれ、東京への一極集中、地方との格差もまた生じてきました。加えて、関東大震災や東京大空襲といった悲劇的出来事が起きた場であったのです。そうした東京という場を文学がいかに描いて来たのかを考えていきたいと思います。担当者によるレクチャーを経たのち、受講者のみなさまによる発表とディスカッションを中心に進めていきます。その際、以下の作品を扱うことを予定しております。

樋口一葉「十三夜」・泉鏡花「夜行巡査」・国木田独歩「窮死」・森鷗外「普請中」・芥川龍之介「魔術」・永井荷風「監獄署の裏」・川端康成「招魂祭一景」・江戸川乱歩「押絵と旅する男」・岡本かの子「鮨」・志賀直哉「灰色の月」・安岡章太郎「ジングルベル」・三島由紀夫「橋づくし」

授業の到達目標

発表を通して作品読解の手法を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　学期末にレポート提出
●**平常点**　50%　　出席とディスカッションへの参加
●**その他**　0%

備考・関連URL

授業内容、構成については受講者の人数などによって変更となる場合があります。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（近代からの日本の文学2） 戦争と植民地台湾・朝鮮、そして「戦後日本」における記憶の問題をめぐって							
担当者名	李　珠姫							
文ジャ	２単位	秋学期	木曜日	５時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

日本の時代区分では、第二次世界大戦における敗戦以降の時期を「戦後」と呼ぶことが多いかと思います。敗戦によって日本は、植民地・占領地を抱えていた「戦前」の帝国から、「戦後」の国民国家に移行したと言われています。しかし帝国の歴史とその遺産を考えると、「戦前」と「戦後」を断絶的に区分すること、そしてその分節線をどこかの時点に見いだすことは実はそれほど簡単なことではないかもしれません。最近では「戦前」と「戦後」を連続性において捉えようとする視点から、「貫戦史」という用語を使うこともあります。

この授業では、「戦前」と「戦後」をその連続性において捉える視点を重視し、日中戦争以降の植民地台湾・朝鮮における皇民化政策、および言語政策が被植民者に呼び起こしたアイデンティティの問題について分析した文化テクストの研究書、また、戦後日本における国民国家の形成、その過程における戦争記憶の問題に関する研究書を読みます。取り上げる研究書は以下の3冊です。

・ レオ・チン『ビカミング〈ジャパニーズ〉: 植民地台湾におけるアイデンティティ形成のポリティクス』菅野敦志訳（勁草書房、2017）
・ Christina Yi, Colonizing Language: Cultural Production and Language Politics in Modern Japan and Korea（言語の植民地化：日本と朝鮮における文化的生産と言語の政治学）（Columbia University Press, 2018）
　→ （原文のテクストとともに、自動翻訳機を用いた日本語テクストを共有する予定）
・ 五十嵐惠邦『敗戦の記憶――身体・文化・物語1945-1970』（中央公論新社、2007）

〈進行方法〉

各回ごとに発表担当者を決めます。
発表者は、自身が担当する章を精読し、要旨と論理構成の流れを整理して授業で詳細に説明します。
そのうえで、論文の主張や分析についての意見を開陳し、討論のための問題提起を行います。
論文で分析されているテクストを可能な限り実際に確認してください。そのテクストについて論文の著者とは異なる視点を提示することも可能でしょう。
また、発表者のほかに、各回の授業で討論を率いるディスカッサントを複数人指定します（一人2回）。
ディスカッサントには、発表者の発表に応答する形で、論文と分析テクストに関する意見を述べていただきます。
事前にディスカッションペーパを用意してください。

授業の到達目標

1. 文化研究のアプローチ方法を身に付ける。
2. 文学・文化テクストに関する論文作成の方法を身に付ける。
3. 論文の論理構成と調査・分析方法を学ぶ。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　20%　　ディスカッサントを担当した論文の内容を要約し、自身の意見を添えたレポートを提出（各1000字×2編）。発表担当のテクストは除く。
●**平常点**　80%　　発表（50%）、討論への貢献度（2回のディスカウント担当（ペーパーを用意）：20%、討論への積極的な参加10%）
●**その他**　0%

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（同時代文学論2） 太宰治の短篇・中篇を読む							
担当者名	友添　太貴							
文ジャ	２単位	秋学期	金曜日	３時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この演習では太宰治の短篇・中篇を発表・ディスカッション形式で読み解いていきます。戦前・戦中・戦後にまたぐ約15年の活動期間に発表された作品をなるべく満遍なく取り上げ、作品発表当時の同時代状況を視野に入れながら太宰の実践を考えた

いと思います。なお、文献調査や研究発表などのアカデミックスキルも演習を通して身につくようにしたいと思っています。

授業の到達目標

先行研究を批判的に検討し、自分なりの考察が行えるようになる。
同時代の言説を調査し、分析に活かすことができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　授業中の発表をもとに、学期末にレポートを提出していただきます。
●**平常点**　50%　　出席および発表内容・ディスカッションへの参加度をもとに評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

授業内容は履修者数や理解度に応じて一部変更となる場合があります。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（同時代文学論3）　観光と文学――明治から昭和戦前期を中心に――							
担当者名	清水　智史							
文ジャ	2単位	春学期	水曜日	5時限	2年以上	―	―	フル【対面】

授業概要

本演習では、文学作品を歴史的な視座から読み解くために、観光というトピックに着目します。前近代から繰り返し行われてきた「旅」は、近代以降、インフラの整備と資本主義の発達によって商品としての旅＝「観光」へと変化していきます。それによって、人々は徐々に容易に遠方へと赴くことが可能になっていき、作家たちもまた、想像力を拡張させました。しかし、観光地が商品として消費されるようになると、想像力はむしろ単一のものに収斂していくことも事実です。人々の間に観光という営みが浸透し、生活に不可欠となっていく時代のなかで、作家たちはどのように観光という文化を描いたのでしょうか。本演習ではその歴史的な経緯を確認しながら、受講者のみなさまにも観光という視点から作品を分析してもらいたいと思います。前半では担当者によるレクチャーを行い、後半では受講者のみなさまによる発表を予定しています。

授業の到達目標

文学作品を歴史的な視座から読み解くテクニックを身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　学期末にレポート提出
●**平常点**　50%　　出席とディスカッションの参加
●**その他**　0%

備考・関連URL

授業内容、構成については受講者の人数などによって変更となる場合があります。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（同時代文学論4）　観光と文学――戦時期から現代へ――							
担当者名	清水　智史							
文ジャ	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	―	―	フル【対面】

授業概要

本演習では、文学作品を歴史的な視座から読み解くために、観光というトピックに着目します。前近代から繰り返し行われてきた「旅」は、近代以降、インフラの整備と資本主義の発達によって商品としての旅＝「観光」へと変化していきます。それによって、人々は徐々に容易に遠方へと赴くことが可能になっていき、作家たちもまた、想像力を拡張させました。しかし、観光地が商品として消費されるようになると、想像力はむしろ単一のものに収斂していくことも事実です。人々の間に観光という営みが浸透し、生活に不可欠となっていく時代のなかで、作家たちはどのように観光という文化を描いたのでしょうか。本演習ではその歴史的な経緯を確認しながら、受講者のみなさまにも観光という視点から作品を分析してもらいたいと思います。前半では担当者によるレクチャーを行い、後半では受講者のみなさまによる発表を予定しています。

授業の到達目標

文学作品を歴史的な視座から読み解くテクニックを身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　学期末にレポート提出
●**平常点**　50%　　出席とディスカッションへの参加
●**その他**　0%

備考・関連URL

授業内容、構成については受講者の人数などによって変更となる場合があります。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（メディアと文芸1）　文芸作品と映像のかかわりを読む							
担当者名	清水　智史							
文ジャ	2単位	春学期	水曜日	4時限	2年以上	―	―	フル【対面】

授業概要

本演習では、文芸作品と映像の関係性について学びます。両者の関係は、小説の映像化などがすぐに想起されますが、それだけではなく、映像からインスピレーションを受けた文芸作品も多くあります。特に、日本の近代文学においては、映画から多大な影響を受けた作品も多く、二つのジャンルは互いに交流しながら変遷してきました。また、映画だけではなくドラマやアニメーションもそうした交流の一翼を担ってもいるでしょう。両者の間の影響関係を文芸作品のなかから見出し、文芸作品のなかに止まらない、より広い読解の方法を身につけてもらいたいと思います。学期の前半は担当者によるレクチャーを行います。小説と映画の交流のケーススタディとして、谷崎潤一郎の作品を扱います。谷崎は近代文学の作家の中でも、映画に強い関心を示した

作家であり、その成果は多くの作品に結実しています。また、谷崎作品を原案とした映画も多く、評価の高い作品もあります。谷崎作品のレクチャーをとおして、文芸作品と映像の交流をお示しできればと思います。
後半では、受講者による発表を予定しています。各自の興味・関心にそって作品を選んでいただき、分析を行ってもらいます。

授業の到達目標

文芸作品と映像の交流を分析することで、両メディアの特質について理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　学期末にレポートを提出
●**平常点**　50%　　出席およびディスカッションへの参加
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

授業内容、構成については受講者の人数などによって変更となる場合があります。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（テクスト論1（イメージと批評）） メディアの中の写真							
担当者名	橋本　一径							
文ジャ	２単位	春学期	木曜日	３時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

19世紀前半に発明された写真は、それ自体が独自のメディアであるとともに、小説や演劇、映画などの他のメディアの中にも数多く登場し、重要な役割を演じてきた。時として実際の写真とは異なる姿をした、そのような「メディアの中のメディア」としての写真は、私たちが写真をどのようなものとして考えているのかを表しているのだと言えるだろう。本演習は様々なメディアの中に表象される写真を追い求めることで、私たちの脳裏にある「写真のイメージ」がどのようなものであるのか、その輪郭を浮かび上がらせることを目指す。

授業の到達目標

様々なメディアに登場する写真がどのようなものであるのかを考察することで、現代において「写真」が単なる技術の範疇を超えた文化的な広がりを持つことを理解する。新聞のデータベースの活用して口頭発表やレポートの執筆を行えるようになる。ディスカッションを通じて執筆したレポートのブラッシュアップを行えるようになる。他の学生が執筆したレポートに目を通し、適切な意見が述べられるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　最終レポートにより評価を行う。
●**平常点**　50%　　グループ発表の内容やディスカッションへの貢献度等を総合的に評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（テクスト論2（表象論）） 文学を読むこと（必修基礎演習から文芸・ジャーナリズム論系での学び、ゼミ論文、卒業論文への接続）							
担当者名	岩川　ありさ							
文ジャ	２単位	春学期	月曜日	４時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この演習では小平麻衣子『小説は、わかってくればおもしろい　文学研究の基本15講』（慶應義塾大学出版会、2019年）を読み、言語芸術や表象文化の研究方法について学びます。その際、フェミニズム批評やクィア批評の観点についても紹介します。また、レポート、ゼミ論文、卒業論文を書くにあたって、必修基礎演習で学んだことをもとにしながら、アカデミック・スキルの基礎についても説明します。それらを通じて、文芸・ジャーナリズム論系での学び、ゼミ論文、卒業論文への接続を行います。

授業の到達目標

(1)文学研究についての基礎的な知識や理論を学び、文学テクストを分析できるようになる。
(2)論点を整理してディスカッションを行うことができるようになる。
(3)必修基礎演習を踏まえて、レポート、ゼミ論文、卒業論文の書き方の復習を行う。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　40%　　学期末レポート40%。広義の言語芸術ひとつ（2つ以上を比較したいなどの場合は2つ以上でも構わない）を対象として、授業で学んだ調査方法や方法論を踏まえて、表象分析を行なってください。その際、参考文献を5つ以上調べ、参考文献一覧をつくってください。参考文献は、書籍、論文、新聞記事などにかぎり、まとめサイトなどは不可とします。また、発表のレジュメとは異なり、論述を行うようにしてください。
文字数　4,000文字以上
締切、2025年7月31日(木)23:59
wordかPDFにてmoodleから提出。
●**平常点**　60%　　平常点評価:60%　平常点評価として、第1回、第2回をのぞき、12回×2点でグループワークへの参加を評価します（合計24%）。また、発表：36%(十分に調べているか、レジュメを適切につくれているかを評価基準とします)。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連ＵＲＬ

・ディスカッションのとき、グループにわかれて意見をまとめるグループワークがあります。
・グループワークにおいては、さまざまなバックグラウンドを持つ人が参加しているという前提で、他者を尊重するやりとりをしてください。
・ディスカッションのとき、マイクロアグレッションやハラスメントがないように初回授業で説明します。相互尊重（アサーティブ）な対話を目指し、ハラスメントの基礎的な知識、マイクロアグレッション、ヘイトスピーチ、アウティングなどについて学びます。それらについてしっかりと知ったうえで授業をはじめます。繰り返し注意を促しても、差別的な発言が続く場合は

受講を認めません。
以下を確認してください。
・世界人権宣言（国際連合広報センター）
https://www.unic.or.jp/activities/humanrights/document/bill_of_rights/universal_declaration/
・LGBTの権利について（国際連合広報センター）
https://www.unic.or.jp/activities/humanrights/discrimination/lgbt/
・東京大学における性的指向と性自認の多様性に関する学生のための行動ガイドライン
https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/actions/sogi.html

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（テクスト論3（生成論））〈発生〉をめぐって							
担当者名	澤　直哉							
文ジャ	2単位	春学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本演習では、文学作品ないし芸術の〈生成〉ないし〈発生〉に関わるテクストを熟読し、議論してもらう。
客観的な作品分析や批評理論において、発生論的観点はしばしば益のないものないし夾雑物として退けられる。そこで議論されるのは人為的構成物、文化的生産物、いわばすでに完成した〈物〉としての芸術である。
しかし、多くの芸術家や批評家、理論家たちはたびたび、自身の芸術の〈発生〉や〈生成〉について書いてこざるを得なかったように思われる。これは認識や思考を含む〈行為〉あるいは〈出来事〉に関わる事柄である。
本演習においては、後者の〈出来事＝発生・生成〉の在り方を問う。それはときに一種の実証研究に接近することもあれば、芸術をめぐる普遍的な理論に似たものとなることもあるだろう。
上述の通り、この演習で重視するのはあくまで実践者、実作者たちのテクストであるから、研究・批評のみならず実作に関心のある者の受講も大いに歓迎する。
履修者数等により変更があり得るが、取り扱う予定のテクストは以下の通りである。
玉城徹「詩的態度について」
平出隆『破船のゆくえ』『光の疑い』
堀江敏幸『書かれる手』
正岡子規『墨汁一滴』
パウル・ツェラン「ハンス・ベンダーへの手紙」「ハンザ自由都市ブレーメン文学賞受賞の際の挨拶」
ユーリー・トゥイニャーノフ『詩的言語とは何か』
ミハイル・バフチン「行為の哲学に寄せて」「美的活動における作者と主人公」
ポール・ヴァレリー「人と貝殻」
オーシプ・マンデリシターム『言葉と文化』

授業の到達目標

実証力と想像力を同時に鍛えることで、単なる消費・受容・鑑賞に終わらない、芸術行為に対する主体性を獲得すること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行なわない。
●**レポート**　50%　　発表と議論を経たうえでの発展を特に評価する。
●**平常点**　50%　　①出席、②発表の完成度、③議論への積極的な参加を評価する。特に③を重視する。
●**その他**　0%　　特にない。

備考・関連URL

＊誠に遺憾なことに、明らかに授業と関係のない作業をしている履修者が少なくないため、授業時間中のスマートフォン、タブレット、PC等個人デヴァイスの使用は禁止とする。
＊自身の発表など授業の運営に関わる回、あるいは流行感染は別として、欠席連絡は不要である。
＊授業計画は、受講者数やその興味と理解度に応じて変更となる場合がある。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（テクスト論4（相関論））翻訳で読むロシア語詩：オーシプ・マンデリシタームを中心に							
担当者名	澤　直哉							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

私が誰かと話しているとき――私は自分が誰と話しているのか分からず、
それを知ろうと願うことはないし、知ろうと願うことはできない。
オーシプ・マンデリシターム

本演習では、毎週1篇から2篇のロシア語詩と、場合によっては併せて散文作品を翻訳で読み、議論をしてもらう。
文学作品はしばしば、引喩やパロディといった手法により、先行する他作品との相関関係を有している。こうした高度な文脈への依存が、とりわけ詩という芸術を近づき難いものにしているかもしれない。
だが単なる約束事や高踏技術に堕すことのない相関関係もまた、存在すると思われる。ロシア語詩においては、過去の他作品の参照が、一種の〈対話〉関係をかたちづくっていることが少なくない。
本演習においては、20世紀を代表するロシア語詩人オーシプ・マンデリシタームを中心に、必ずしも双方向的でない、詩の〈対話圏〉の在り方を問うてゆく。
詩は短い。意味を引き出すには読み手の言葉が必要である。受講に際しては、積極的な議論を心掛けてほしい。
なお、ロシア語能力は必要ない。最小限の例外を除き、課題テクストは既存の日本語訳を用いる。例外については、講師による未公刊訳を共有する。
また、詩は原文で読まねばほとんどの意味が失われてしまうこともあり、講師は解説や補足のなかでロシア語原文に触れることもあるので、そのつもりでいてほしい。
履修者数等により変更があり得るが、主に取り扱う予定の詩人は以下の通りである。

オーシプ・マンデリシターム
エヴゲーニイ・バラトゥインスキイ
ミハイル・レールモントフ
アンナ・アフマートワ
アルセーニイ・タルコフスキイ
ナターリヤ・ゴルバネフスカヤ

授業の到達目標

必ずしも双方向的な意思疎通である必要のない、文学、詩の〈対話性〉を学ぶ。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行なわない。
●**レポート**　50%　　発表と議論を経たうえでの発展を特に評価する。
●**平常点**　50%　　①出席、②発表の完成度、③議論への積極的な参加を評価する。特に③を重視する。
●**その他**　0%　　特にない。

備考・関連URL

＊誠に遺憾なことに、明らかに授業と関係のない作業をしている履修者が少なくないため、授業時間中のスマートフォン、タブレット、PC等個人デヴァイスの使用は禁止とする。
＊授業計画は、受講者数やその興味と理解度に応じて変更となる場合がある。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（同時代文学論5）　現代ミステリを学ぶ							
担当者名	小松　史生子							
文ジャ	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

現代においてミステリ・ジャンルはポップカルチャー・コンテンツとして定着し普及しているが、そのルーツはどこにあるのか。このルーツを探索することは、日本近現代文学史および比較文学史の捉え直しにつながり、翻訳／翻案／アダプテーションの理論的視座からテクスト変遷の動態を見据えるリテラシーを獲得することになる。

本演習は、1980年代にミステリ界に大きな意識変革をもたらした綾辻行人「十角館の殺人」（1987年）と、「十角館の殺人」のインターテクストであるアガサ・クリスティー「そして誰もいなくなった」（1939年）を分析対象とする。両テクストを比較研究しながら、文学におけるインターテクスチュアリティの動態を理論的に捉え、それを時代・社会世相に流通する言説のモードと絡めて世界文学の視座で理解することを目的とする。また、サブテクストとして横溝正史「獄門島」も扱う予定である。

発表の回数や、個人発表か協同発表かについては、受講者の数を見て決める。協同発表の場合は、担当作品をこちらで割り当てる場合もある。

授業の到達目標

①文学作品が言説コードによって成立していることを深く理解し、その言説コードの形成には、その当時の社会構造・認識概念が関わっていることを具体的に説明できるようになる。
②ミステリ・ジャンルのインターテクスチュアリティの動態を通して、同時代の様々な社会現象を人々がどのように咀嚼し、物語構造に投影して享受しているかを洞察できるようになり、各方面の言説場におけるリテラシーを養うことができる。
③ポップカルチャー・ジャンルを成立させるメディアの介在についての洞察を得ることができる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　30%　　期末レポート
●**平常点**　70%　　出席状況、発表課題への取り組み、討議への参加度で評価を行う。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

・本演習は、発表を担当しないと単位が出ません。
・教科書は2点ともかなりの分量なので、授業開始前に各自で計画的に読み始めておくことをお勧めします。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（同時代文学論6）　現代ホラーを学ぶ							
担当者名	小松　史生子							
文ジャ	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

現代においてホラー・ジャンルはポップカルチャー・コンテンツとして定着し普及しているが、そのルーツはどこにあるのか。このルーツを探索することは、日本近現代文学史および比較文学史の捉え直しにつながり、翻訳／翻案／アダプテーションの理論的視座からテクスト変遷の動態を見据えるリテラシーを獲得することになる。

本演習は、1990年代のJホラー・ブーム幕開けとなった鈴木光司「リング」（1991年）と、「リング」のインターテクストであるブラム・ストーカー「ドラキュラ」（1897年）を分析対象とする。両テクストを比較研究しながら、文学におけるインターテクスチュアリティの動態を理論的に捉え、それを時代・社会世相に流通する言説のモードと絡めて世界文学の視座で理解することを目的とする。

発表の回数や、個人発表か協同発表かについては、受講者の数を見て決める。協同発表の場合は、発表担当回をこちらで割り当てる場合もある。

授業の到達目標

①文学作品が言説コードによって成立していることを深く理解し、その言説コードの形成には、その当時の社会構造・認識概念が関わっていることを具体的に説明できるようになる。
②ホラー小説を比較文化的に読む視点を通して、同時代の様々な社会現象を大衆読者がどのように咀嚼し、物語構造に投影して享受いるかを洞察できるようになり、各方面の言説場におけるリテラシーを養うことができる。
③ポップカルチャー・ジャンルを成立させるメディアの介在についての洞察を得ることができる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　30%　　期末レポート
●**平常点**　70%　　出席状況、発表課題への取り組み、討議への参加度で評価を行う。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

・本演習は、発表を担当しないと単位が出ません。・教科書は2点ともかなりの分量なので、各自で計画的に読み始めておくことをお勧めします。
・本演習で分析対象とする「リング」「ドラキュラ」には、今日の観点からみて倫理的問題を孕む箇所があります。その点を念頭に置いた視座で分析を行うようにします。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（読者認識論1） コンテンツとその鑑賞から考える「複合現実（クロスリアリティ）」							
担当者名	市川　真人							
文ジャ	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	—	フル（対面）ハイブリッド（対面授業実施以上）

授業概要

拡張現実（AR）や仮想現実（VR）という言葉が誕生していくばくかの時間が経過し、それらは「XR（クロスリアリティ）」と総称されるようになりました。 それと歩調を合わせるかのように、「聖地巡礼」という言葉も、コミックやアニメーションなど物語コンテンツに関連深い場所を訪れるという、もともとは異なる使用法が日常のものとなりつつあります。

しかし考えてみれば、「拡張現実」という用語やそのデバイス・環境が誕生するはるか以前から、人々の想像力は、ここではないどこかで起きたことを「いまこの私」に重ねさせ、あるいは、現実には起きていない出来事や現実とは異なるエンコードのなされた記述を「いまここ」に重ね合わせる、という営みをとうに持っていました。

近年でいえば、SF作家チャイナ・ミエヴィルの『都市と都市』や、テッド・チャンの「あなたのための物語」などの作品は、私たちが感知する「現実」があくまで限定的なものでしかないことを前提に、その感知が異なることがなにを意味するかを実験的に描いています。古くは、ミシェル・ビュトールの「合い間」や「時間割」も、空間や時間の拡張性や複数性をテーマとしていました。他方、日本文学においても、永井荷風の描く「東京」や「墨東」、なんなれば宮沢賢治がイーハトーヴとして描く岩手まで、は現実の光景と微妙に重なり、そして偏光をかけられディフォルメされた「トポス」があります。

それらは、私たちが「現実」をどのように認識しているか、それが実際の現実とどう一致し、どう異なるかという、「リアリズム」ともつながる問題です。

「現実のその場所」は、コンテンツ内でどのように描かれるのか。それはどのように変化するのか。拡張現実の構造をあらかじめ踏まえたうえで、「新宿」「渋谷」はじめさまざまな場所が登場するコンテンツを探し、その描かれ方を検証してゆくとともに、コミックやアニメーションまで「文学」の概念を拡張したうえで、今後のコンテンツにいかなる可能性がありうるかを探ってゆきます。

授業の到達目標

・読者や観客の「コンテンツ認知」について、そのメカニズムを知り、自身の「鑑賞」を論理的に理解できるようになる。
・ディスカッションや発表作成を通じ、他者の「コンテンツ認知」を論理的に観察する。
・実在の場所を描いたコンテンツを例に、21世紀におけるコンテンツと「現実」の多層化する現状を把握する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　学期末にレポートが課されます。
●**平常点**　50%　　出席および発表内容が評価対象となります。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

【実施方法について】

1．フィールドワーク的な学習を現実空間と仮想空間上で行うため、感染症などの外的環境が許せば、学期中に1回程度、グループに分かれてキャンパス周辺の探訪を行うことを計画しています。2．感染症対応とともに生じた社会システムの変動、ならびに本演習のテーマも鑑み、本演習は対面ハイフレックス方式で行います。収録のうえmoodleにアップロードするほか、あらかじめ用意した動画を授業時間外に履修者全員があらかじめ参照したうえで授業に参加してもらう反転形式の回をふくめ、学期中に最大で7回程度をオンラインで行います。

3．履修者は、回ごとに対面受講とリアルタイムオンライン受講を選択することができますが、授業内容によって「対面受講を原則とする」「オンライン受講を推奨する」などの回があります。上記のような場合は、事前に授業内やアナウンスメントでお知らせします。

4．卒業単位への参入の規定から、オンラインでの出席は7回（教員からの指示回を含む）を上限とします。

5．各回の授業は、zoomの録画機能を用いて記録されます。欠席者は事後的に録画を参照可能です。

6．．上記授業録画は、復習にも用いることができます。

7．初回授業は教室で行いますが、体調などの理由でリアルタイムオンラインでの出席を希望する人は事前にmoodleのメッセージ機能から担当省員に連絡してください。二回目以降、いつどの回をオンラインや事前収録で行うかは、レクチャーと、各グループのディスカッション等の進捗にあわせて、適宜教場で指示します）。

8．授業中1回程度、学外での実習を行います（その回は、原則として対面での実施となります）。詳しくは授業内でお知らせします。

【改正障碍者差別解消法に基づく合理的配慮について】

1．授業内容の事後的な確認が容易となるよう、録画視聴機能を使用します。再生速度調節もご利用ください。

2．授業内容を、AIによって要約した記録を提供可能です。（ただし自動生成のため、要約生成に影響しない範囲でのAIの聞き取り違いなどが多々ありますので、原則として大学の学習支援サービスを利用してください）

3．演習科目のため、履修者によるディスカッションが複数回ありますが、チャットによる参加が可能です。

4．フィールドワークへの物理参加が困難な場合は、VRでのフィールドワークに変更することができます（個人フィールドワークとなるかグループ参加が可能かは、履修者の構成によります）。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（エディター文学論2） 文学の「コード進行」、あるいは「イメージを描出する／イメージから描出する」							
担当者名	和久田　頼男							
文ジャ	２単位	秋学期	土曜日	３時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

2020～21年度は「藤井風のMV＋クリストファー・ノーランの映画」を、
2022年度は村上春樹の短篇小説が原作の映画『ドライブ・マイ・カー』を演習テーマとしましたが、
映画や演劇やテレビなどで「実写化される原作」をめぐり、
編集という観点から考える力を身につける授業です。
出版社の編集者として実務経験をもつ教員が、実践的教育を行なう授業科目です。
ノベライゼーション（小説化）という文学のあり方についての学びでもありますが、
戯曲や脚本やシナリオと、原作小説や原作漫画とを「比較文学研究」したい人にもおすすめです。
まずは、テキスト・マイニングと計量文献学の最新技術にふれながら、読者や観客を魅了する「秘密のDNA」にアプローチします。
そして、感情グラフに基づいたインフォグラフィックスの作成により、人気作における「時制のマネジメント」を身につけましょう。
「イメージを描出する／イメージから描出する」ということを考えるにあたっては、
Stable DiffusionやDALL・E、ChatGPTなど、AIの技術についても触れてもらいます。
学生による発表／ワークショップが軸となるため、
①文学作品を深く読み込み、
②自発的にディスカッションに参加することが求められます。
③人工知能に「呪文」を唱える好奇心が必要です。
④「動画」をノベライズする能力も必要となります。
個人／グループ発表に加えて、ワークショップ（ノベライズなど）の課題提出もあります。
映画や演劇やTVなどの第一線で活躍しているゲスト講師によるレクチャーの場も設けるつもりですので、プロフェッショナルの流儀というものを知ることもできるでしょう。
宗教や神話をはじめ、文学作品はもちろん、映画や演劇やTVのナラティブ、音楽のトラックメイクなどについて、編集という観点から実践的に学んでもらいたいと思います。
NetflixやAmazon Primeなど同時代における物語のあり方や、音楽の「薬としての効能」などに関心がある人に。
※この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。
※この科目は主として実践的な教育が行われる科目です。

授業の到達目標

実写化される「作品」を読みこみ、時制のマネジメントを身につける。（世界文学の「コード進行」を探究し、「物語る」という能力を身につける）

成績評価方法

30%レポート
20%発表
20%課題
30%出席・参加度

備考・関連ＵＲＬ

演習科目のため、授業計画は受講者の人数・水準・関心などに合わせて変動する可能性があります。
※この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行なう科目です。
※この科目は主として実践的な教育が行なわれる科目です。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（ノンフィクション表現1）							
担当者名	重松　清							
文ジャ	２単位	春学期	水曜日	３時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

ノンフィクションの要諦とは、「なに」を「どう（虚構をまじえずに）」伝えるかに尽きるだろう。その「なに」の見つけ方と、「どう」のバリエーションを考える演習である。
SNSの時代は、誰もが情報の受け手であると同時に送り手でもある。当演習もまた、「読む」と「書く」の両輪で進行する。
まず「読む」については、教室でのレクチャーや受講生同士のディスカッションを中心にする。フェイクやプロパガンダに翻弄されることなく、より良い情報の受け手になるにはどうすればいいか、ともに考えていきたい。生成AIの問題や匿名報道の是非など、「いま」を意識した問題提起を続けるつもりなので、「いま」に対するアンテナは常に張っておいてもらいたい。
一方、「書く」については、複数回提出してもらう課題作品をレジュメとして全員に共有し、担当講師のフィードバックをつけていく。
ただし、「読む」でも「書く」でも、エッセイや随想は扱わない。当演習では、「誰が＝書き手」ではなく、「誰に＝読み手」を意識して、「なにを、誰に、どう伝えるか」に取り組んでいただく。それはすなわち、読まれるためにはどうすればいいのかを考えつつ、書き手の「私」に頼らない、客観的な裏付けを持った文章を書くことである。事実に基づくデータを、どう処理するか。小論文ではなく、広い意味でのエンタメの読み物として、読者をどうやって惹きつけていくのか。そういうことを、ともに考えていきたい。念を押して繰り返すが、当演習はエッセイや随想の演習ではないので、そちらを期待する人には不向きかもしれない。

授業の到達目標

誰もが情報の受け手であり送り手であるSNSの時代、フェイクやプロパガンダも含む情報の海に溺れないよう、正しく情報を読み取る力と、発信する力とを持つ

成績評価方法

●**試験**　0%　　おこなわない
●**レポート**　50%　　期末に提出する課題の内容（詳細は教場で指示する）
●**平常点**　50%　　出席状況と学期内に課すメイン課題、ミニ課題の提出状況。メイン課題の内容や、授業への参加度など。なお、出席回数は、原則として授業回数の3分の2以上が必要である。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（ノンフィクション表現2）							
担当者名	重松　清							
文ジャ	2単位	秋学期	水曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

ノンフィクションの要諦とは、「なに」を「どう（虚構をまじえずに）」伝えるかに尽きるだろう。その「なに」の見つけ方と、「どう」のバリエーションを考える演習である。

SNSの時代は、誰もが情報の受け手であると同時に送り手でもある。当演習もまた、「読む」と「書く」の両輪で進行する。

まず「読む」については、教室でのレクチャーや受講生同士のディスカッションを中心にする。フェイクやプロパガンダに翻弄されることなく、より良い情報の受け手になるにはどうすればいいか、ともに考えていきたい。生成AIの問題や匿名報道の是非など、「いま」を意識した問題提起を続けるつもりなので、「いま」に対するアンテナは常に張っておいてもらいたい。

一方、「書く」については、複数回提出してもらう課題作品をレジュメとして全員に共有し、担当講師のフィードバックをつけていく。

ただし、「読む」でも「書く」でも、エッセイや随想は扱わない。当演習では、「誰が＝書き手」ではなく、「誰に＝読み手」を意識して、「なにを、誰に、どう伝えるか」に取り組んでいただく。それはすなわち、読まれるためにはどうすればいいのかを考えつつ、書き手の「私」に頼らない、客観的な裏付けを持った文章を書くことである。事実に基づくデータを、どう処理するか。小論文ではなく、広い意味でのエンタメの読み物として、読者をどうやって惹きつけていくのか。そういうことを、ともに考えていきたい。念を押して繰り返すが、当演習はエッセイや随想の演習ではないので、そちらを期待する人には不向きかもしれない。

授業の到達目標

誰もが情報の受け手であり送り手であるSNSの時代、フェイクやプロパガンダも含む情報の海に溺れないよう、正しく情報を読み取る力と、発信する力とを持つ

成績評価方法

●**試験**　0%　　おこなわない
●**レポート**　50%　　期末に提出する課題の内容（詳細は教場で指示する）
●**平常点**　50%　　出席状況と学期内に課すメイン課題、ミニ課題の提出状況。メイン課題の内容や、授業への参加度など。なお、出席回数は、原則として授業回数の3分の2以上が必要である。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（メディアと文芸2）　ロシア文学と映画化作品							
担当者名	奈倉　有里							
文ジャ	2単位	春学期	水曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この授業では19世紀のロシア文学を中心に、それらが現代までにどのように映像化・映画化されてきたのかを学びます。
※授業は基本的に対面でおこなわれます。

授業の到達目標

文学作品の映像化を通して、その背景にある社会状況や課題などについて理解を深める。

成績評価方法

出席、課題、授業参加などをもとに総合的に判断します。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（書物の経済学）『書物』概念の未来について、経済をはじめとする多方向から考える							
担当者名	市川　真人							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	—	フル【対面】/ハイブリッド【対面授業実施以上】

授業概要

知識の源であり愉悦の泉である私たちの「書物」。けれども同時にそれは、情報の刻み込まれた「媒体」であり、価格がつけられ流通する「商品」であり、さまざまな原価やそれにかかわる人たちの労働価値の注ぎ込まれた「製品」でもあります。

「書く」ことと「読む」ことの狭間にある、書物の「媒体／製品／商品」としての側面を浮かび上がらせ、それを解体-再構築することで、未来の「書物」概念について考える演習です。過去から現在に至る「書物」の歴史を概観しつつ、書物を構成するさまざまな要素に着目し、「書物」という記録・伝達メディアの構造を知るとともに、それらが作ってきた文化の過去・未来について考えます。

とりわけ、タブレットデバイスの登場により何度目かの「電子書籍元年」と呼ばれた2010年から10年以上が経過し、主としてコミックや雑誌を中心に電子書籍やその流通システムが普及した今日では、「書物の（と）経済」や「製品（商品）としての書物」について考えることは、電子書籍とそれも含めたサービス産業について考えることであり、「印刷技術の時代」としてのこの五百年が終わった後の「読むこと」「書くこと」について考えることでもあります。

「電子で読めないということは、畢竟、ただ「読まれない」ことを意味する」――そんな時代を目の前に控えて、「本」はどう変化してゆくのか。その結果、社会はどのように変化してゆくのか。そのことを、いまなお残る「紙の本」の時代のシステムの現状とともに学び、考えてゆきます。

授業の到達目標

・「本の歴史」の概略を理解し、歴史的に「書物」が唯一無二でもなければ、不変の形式でもないことを論理的に理解する。

・そのうえで、「書物」が今日の社会や文化の礎となった理由を社会構造とともに理解し、「媒体／製品／商品としての書物」の過渡期としての現在を観察する。

・それらのデジタル環境における再構築を考えながら、そこから逆算して書物を書き／読むことにもういちど辿り着ける俯瞰的な視野を身につけるとともに、そうした「読む／書く」行為をふくんだ「ポスト近代」の社会像についての考察を深める。

成績評価方法

発表やレジュメ・ディスカッションへの参加度合や発言内容、レポートなど。

備考・関連ＵＲＬ

【実施方法について】

1．感染症対応とともに生じた社会システムの変動、ならびにデジタルデバイスの進化を扱う本演習のテーマも鑑み、本演習は対面ハイフレックス方式で行います。収録のうえmoodleにアップロードするほか、あらかじめ用意した動画を授業時間外に履修者全員があらかじめ参照したうえで授業に参加してもらう反転形式の回をふくめ、学期中に最大で7回程度をオンラインで行います。2．履修者は、回ごとに対面受講とリアルタイムオンライン受講を選択することができますが、授業内容によって「対面受講を原則とする」「オンライン受講を推奨する」などの回があります。上記のような場合は、事前に授業内やアナウンスメントでお知らせします。

3．卒業単位への参入の規定から、オンラインでの出席は7回（教員からの指示回を含む）を上限とします。

4．各回の授業は、zoomの録画機能を用いて記録されます。欠席者は事後的に録画を参照可能です。

5．上記授業録画は、復習にも用いることができます。

6．初回授業は教室で行いますが、体調などの理由でリアルタイムオンラインでの出席を希望する人は事前にmoodleのメッセージ機能から担当省員に連絡してください。（2回目以降、いつどの回をオンラインや事前収録で行うかは、レクチャーと、各グループのディスカッション等の進捗にあわせて、適宜教場で指示します）。

【改正障碍者差別解消法に基づく合理的配慮について】

1．授業内容の事後的な確認が容易となるよう、録画視聴機能を使用します。再生速度調節もご利用ください。

2．授業内容を、AIによって要約した記録を試験的に提供可能です。（ただし自動生成のため、要約生成に影響しない範囲でのAIの聞き取り違いなどが多々ありますので、原則として大学の学習支援サービスを利用してください）

3．演習科目のため、履修者によるディスカッションが複数回ありますが、チャットによる参加が可能です。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（ジャーナリズム論1）							
担当者名	重松　清							
文ジャ	２単位	春学期	土曜日	３時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

新聞やテレビといったオールドメディアの存在感が目に見えて低下し、ネット空間には真偽定かでない情報が氾濫するなか、情報の受け手（そしてSNSの時代においては、受け手は同時に送り手にもなる）には、よりいっそうの冷静さが求められるだろう。

本演習は、ジャーナリズムの存在意義と課題、限界と可能性を探りつつ、受講生の皆さんが世の中と向き合う視野を拡げることを目指して開講した。演習なので、授業の主役はあくまでも皆さんである。教場でのディスカッションや、課題の発表・討議、レポートの執筆など、語ったり書いたりすることが中心になるものの、重松が開講している別の演習『ノンフィクション表現』とは異なり、本演習では、文章の技法以上に着眼点や問題意識を重んじる。「しっかり見る」、そして「しっかり考える」ことを鍛えてもらいたい。

授業の到達目標

社会に対する視野を拡げ、一面的な熱狂や陶酔に押し流されないための知見を得ることで、情報の受け手／送り手としてのレベルを高めていく。

成績評価方法

●**試験**　0%　　おこなわない

●**レポート**　50%　　期末課題。評価にあたっては、文章表現の技巧以上に、着眼点や展開のほうを重視する。

●**平常点**　50%　　課題のプレゼンやレジュメの内容、授業後の課題の提出状況、ディスカッションへの参加度、出席などを総合的に評価する。なお、出席回数は原則として三分の二以上が必要である。

●**その他**　0%　　なし

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（ジェンダーの視点からみた世界文学）　野崎歓・阿部公彦編『世界文学への招待〔新訂〕』(2022年）を読む							
担当者名	岩川　ありさ							
文ジャ	２単位	秋学期	火曜日	４時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

これまで、世界文学の「正典（カノン）」は、日本文学、イギリス文学、アメリカ文学、フランス文学、ドイツ文学というように、国別、言語別で編纂されることが多かった。しかし、一つの国、一つの言語に限定される文学の捉え方ではなく、世界の中で文学を共有し、幅広く捉える「世界文学」という概念はますます重要になってくる。この演習では、ジェンダーの視点からみた世界文学をテーマにして、世界文学についての基礎的な知識を学び、ジェンダーの視点から世界文学を問い直す視点を身につける。また、レポート、ゼミ論文、卒業論文を書くにあたって、必修基礎演習で学んだことをもとにしながら、アカデミック・スキルの基礎についても説明する。

授業の到達目標

(1)世界文学についての基礎的な知識や理論を学び、文学テクストを分析できるようになる。

(2)ジェンダーという概念について学び、世界文学を問い直す視点をえることができる。

(3)論点を整理してディスカッションを行うことができるようになる。

(4)必修基礎演習を踏まえて、レポート、ゼミ論文、卒業論文の書き方の復習を行う。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし

●**レポート**　40%　　学期末レポート40%：学期末レポートでは、野崎歓・阿部公彦編『世界文学への招待〔新訂〕』（放送大学教育振興会、放送大学教材、2022年）に収録された論文のうち、自分が発表を担当した以外の論文を1つ（比較したかったり、2つ以上取り上げたい場合はそれでもかまわない）について分析し、その方法論や議論を踏まえて、ご自身がとりあつかいたい講義の言語芸術を1つ選び、論じてください。また、発表のレジュメとは異なり、論述を行うようにしてください。（4,000文字以上、締め切りは2026年1月31日（土）23:59厳守）

その際、参考文献を5つ以上調べ、参考文献一覧をつくってください。参考文献は、書籍、論文、雑誌の書評、同時代評、新聞記事などにかぎり、まとめサイトなどは不可とします。

＊詳しくはmoodleで発表します。

●**平常点**　60%　　平常点評価として、ディスカッションへの参加（第1回、第2回をのぞき、12回×2点で合計24%）、発表36%(レジュメを適切に作れているか、議論をリードできるレジュメを作れているかを評価基準とします)。

●**その他**　0%　　なし

備考・関連ＵＲＬ

・ディスカッションのとき、グループにわかれて意見をまとめるグループワークがあります。・グループワークにおいては、さまざまなバックグラウンドを持つ人が参加しているという前提で、他者を尊重するやりとりをしてください。

・ディスカッションのとき、マイクロアグレッションやハラスメントがないように初回授業で説明します。相互尊重（アサーティブ）な対話を目指し、ハラスメントの基礎的な知識、マイクロアグレッション、ヘイトスピーチ、アウティングなどについて学びます。それらについてしっかりと知ったうえで授業をはじめます。繰り返し注意を促しても、差別的な発言が続く場合は受講を認めません。

以下を確認してください。

・世界人権宣言（国際連合広報センター）

https://www.unic.or.jp/activities/humanrights/document/bill_of_rights/universal_declaration/

・LGBTの権利について（国際連合広報センター）

https://www.unic.or.jp/activities/humanrights/discrimination/lgbt/

・東京大学における性的指向と性自認の多様性に関する学生のための行動ガイドライン

https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/actions/sogi.html

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（現代文芸・文化2）　物語の力――リファト・アルアライール編著『物語ることの反撃』を読む							
担当者名	岡　真理							
文ジャ	２単位	秋学期	月曜日	４時限	２年以上	―	―	フル【対面】

授業概要

2023年12月、ガザ・イスラーム大学の英文学の教師、リファト・アルアライールは、イスラエル軍によって殺されました。彼はなぜ、殺されたのか。彼が遺した、ガザの若者たちの手による英語の短篇小説のアンソロジー『物語ることの反撃』を読む手掛かりに、ガザについて、パレスチナについて、そして、「物語の力」について考えます。

授業の到達目標

・パレスチナ問題とガザについて知識を得る。

・「ポストコロニアル」「トランスナショナル」ということばが意味するところを、人間の生きられた経験の具体相を通して理解する。

・「物語」なるものについて、ひとつの理解を得る。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はおこないません。

●**レポート**　70%　　授業全体を通して提起された論点のなかで、自身がもっとも興味をもったテーマについて、授業で扱った作品だけでなく、さらに関連するさまざまな作品を参照して、考察を展開してください。

●**平常点**　30%　　毎回の授業における議論への積極的参加、課題への真摯な取り組み

●**その他**　0%　　特にありません。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（現代文芸・文化3）　文学を通して触れる中世ヨーロッパ社会と文化							
担当者名	竹田　千穂							
文ジャ	２単位	春学期	水曜日	４時限	２年以上	―	―	フル【対面】

授業概要

中世世界のイメージは、現代において映画やアニメーション、ゲームなどの娯楽作品の舞台として私たちに様々なインスピレーションを与えてくれます。「中世」と一言で言っても、通念としてローマ帝国分裂の4世紀末頃から15世紀の東ローマ帝国の滅亡の頃、あるいは16世紀のルネサンスおよび宗教改革に至る頃までという長大な期間を含んでいますが、本授業では文学史的な区切り、すなわち文字で書かれた作品が現れる11世紀から、人文主義者たちが活躍し、神を中心とする文化から人間を中心とする文化への転換がおこる手前の15世紀までを主な対象としています。授業では「中世における死生観・武勲・驚異と愛・笑い」というそれぞれのテーマに沿っていくつかの中世フランス文学を取り上げ、そこに描かれるこの時代独特の風習に触れ、中世の想像世界を作り上げた当時の人びとの心性・感性について考察していきます。西洋中世という馴染みのない時代に成立した作品に触れる訳ですから、取り上げるそれぞれの作品については、まず講読の回として、講師がその作品の成立や時代背景について紹介し、その翌週に、オリエンテーションで割り振られる担当に基づき、取り上げる作品の紹介、あるいはその作品に関連するあらかじめ設定されたテーマについて、それぞれの担当者から発表していただくという形で授業を進めていきます。取り上げる作品（短編・あるいは抜粋）や資料のコピーについては、随時Moodleへアップする予定です。学期末には、授業で扱った作品を読了していただいた上で、授業の内容や様々な資料を踏まえつつ、中世社会独特の思考やイメージについてレポートで考察していただきます。

授業の到達目標

西洋中世の時代精神を理解すること
異文化へ触れることで、現代社会を見直す視点を得ること
自分で問題を設定し、考察・議論する力を磨くこと

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　学期末に提出されるレポートの内容を評価
●**平常点**　50%　　出席（3分の2以上）・授業での発表内容
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

授業計画は、受講者数や興味に応じて一部変更になることがあります。
5回以上の欠席は単位取得となりませんのでご注意ください。 やむを得ず欠席する場合は、前日までに連絡を入れてください。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（現代文芸・文化4） 中世の騎士物語を読む							
担当者名	竹田　千穂							
文ジャ	２単位	秋学期	水曜日	４時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

アーサー王を筆頭に、円卓の騎士ランスロやペルスヴァル、イズーと狂おしい恋に陥るトリスタンなど中世の騎士物語の登場人物は、現代においても映画やアニメーション、ゲームなど様々な娯楽作品に当世風にアレンジされたキャラクターとして使われ人気を博しています。この授業では、それらのキャラクターの原点である中世フランスの騎士物語を取り上げ、そこに描かれる中世独特の風習や、騎士・王・貴婦人の姿、物語の核となる宮廷風の恋愛を通して、中世の物語世界が伝えてくれる当時の人びとの心性・感性について、受講者のみなさんと共に考察していきたいと思います。取り上げる作品の中には、騎士文化の理解の助けとなる別のジャンルや、騎士物語の本流から外れているとみなされるような作品、あるいは騎士物語のパロディ的作品等も含める予定です。中世社会が是認する行為や思考・人物像などが、近・現代の西洋社会の価値観へどのようにつながっていくのか、或いはどのような点において中世社会が特異であると感じられるのか、それぞれの作品を通して考察していきます。西洋中世という馴染みのない時代に成立した作品に触れる訳ですから、取り上げるそれぞれの作品については、まず講師がその作品の成立や時代背景について紹介し、その後オリエンテーションで割り振られる担当に基づき、作品紹介と、その作品に関連するあらかじめ設定されたテーマについて、それぞれの担当者から発表していただくという形で授業を進めていきます。取り上げる作品（短編・あるいは抜粋）や資料のコピーはMoodleへアップする予定です。学期末には、授業で扱った作品を読了の上、授業の内容や様々な資料を参照しつつ、中世社会独特の思考やイメージについてレポートで考察していただきます。

授業の到達目標

西洋中世の時代精神を理解すること
異文化へ触れることで、現代社会を見直す視点を得ること
自分で問題を設定し、考察・議論する力を磨くこと

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　学期末に提出されるレポートの内容を評価
●**平常点**　50%　　出席（3分の2以上）・授業での発表内容
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

授業計画は、受講者数や興味に応じて一部変更になることがあります。
5回以上の欠席は単位取得となりませんのでご注意ください。 やむを得ず欠席する場合は、前日までに連絡を入れてください。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（現代文芸・文化5） 極限体験と文学（強制絶滅収容所の文学をめぐって）1							
担当者名	安原　伸一朗							
文ジャ	２単位	春学期	水曜日	２時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この授業では、第二次大戦期のヨーロッパにおける強制絶滅収容所などでの虐殺や迫害を扱った文学や証言作品を取り上げ、極限体験を語ることの異議や困難、歴史を前にした個人の存在を考えるとともに、「ことば」や「文学」の力や不思議さを検討していく予定です。

なお、参加者数などによって、以下のシラバスは順序などが変更になる可能性があります。変更がある場合には、授業時やMoodleにてお知らせします。

※ 原則として対面授業です。

授業の到達目標

極限状況に置ける人間を描いた作品を読むことを通じて、人間という存在の揺るがせにできないぎりぎりの「一線」を見極めること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　レポートのテーマは参加者と相談して決める予定です
●**平常点**　30%　　発表の準備や議論への参加
●**その他**　0%

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（現代文芸・文化6） 極限体験と文学（強制絶滅収容所の文学をめぐって）2							
担当者名	安原　伸一朗							
文ジャ	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この授業では、第二次大戦期のヨーロッパにおける強制絶滅収容所などでの虐殺や迫害、また「レーベンスボルン計画」などを扱った文学や証言作品を取り上げ、極限体験を語ることの異議や困難、歴史を前にした個人の存在を考えるとともに、「ことば」や「文学」の力や不思議さを検討していく予定です。

なお、参加者数などによって、以下のシラバスは順序などが変更になる可能性があります。変更がある場合には、授業時やMoodleにてお知らせします。

※ 原則として対面授業です。

授業の到達目標

極限状況に置ける人間を描いた作品を読むことを通じて、人間という存在の揺るがせにできない「生政治」上の「一線」を見極めること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　レポートのテーマは参加者と相談して決める予定です
●**平常点**　30%　　発表の準備や議論への参加
●**その他**　0%

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（21世紀と文学の古典1） アダプテーションという、新しい文芸作品を生み出すプロセス。シェイスクピアの作品とマルチメディアを中心に							
担当者名	アスアヘアラモ　マヌエル							
文ジャ	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本講義では、アダプテーションとはどのようなプロセスであるかについて受講生と考えたい。特に、古典を新しい時代のために再構築するというプロセスの存在意義とは何なのか。これを考えるために、本講義では英語文学の最高峰として不動の位置にあるウィリアム・シェイクスピアの劇作品の映画化を受講生と観賞し、考えたい。シェイクスピア作に基づいた映画アダプテーションの数はなんと400本以上に及んでいる。この授業ではシェイクスピアの原文を読んでから、同じ作品からインスピレーションされた映画を鑑賞し、分析する。取り上げる映画は、アメリカ、イギリス、インド、そして日本で制作されたアダプテーションである。講義の後半では視野を広げて、アメリカ文学や日本文学の作品の映画化も取り上げる。

授業の到達目標

アダプテーション論(Adaptation Studies)についての基礎知識を取得した上、黒澤明におけるシェイスクピアの影響を確認するとともに、映画化というプロセスを文学的な創作行為として読み解く力を身につけてほしい。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　35%　　期末レポートがあります。講義内容の理解を反映したレポートを与えられるテーマに沿って執筆します。
●**平常点**　30%　　出席して、積極的に授業に参加すること。映画鑑賞の課題をしてくること。
●**その他**　35%　　プレゼン：本授業で鑑賞する映画作品での関心を惹かれた点についての感想を述べる発表。

備考・関連URL

黒澤明以外の海外映画は日本語字幕のものを提供しますが、鑑賞自体は授業時間外に行う必要がある。(オンラインファイルのリンクなどを提供する)。したがって、1学期に映画20本くらいを鑑賞し、ディスカッションする演習だと思ってください。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（21世紀と文学の古典2） 21世紀の世界文学の観点からガルシア=マルケスの『百年の孤独』を読む。							
担当者名	アスアヘアラモ　マヌエル							
文ジャ	2単位	秋学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

いまや言わずと知れた、ラテンアメリカ文学の代表作『百年の孤独』を原作に、2024年にNETFLIXによる映像化が決定した。この大手動画配信サイトを通して世界中で視聴されるだろうこのドラマを念頭に置きながら、ポストコロリニアリズム、フェミニズム、多様性など、21世紀の文芸批評において頻繁に用いられる観点から1967年に出版された原作の日本語訳を読む。この演習では受講生たちとひと学期をかけてゆっくりとガブリエル・ガルシア=マルケスの『百年の孤独』(原文1967/ 鼓直訳1972、新潮社）を読みながら、この作品が影響を受けている世界文学の作品（つまり1967年以前の作品）と、この作品が影響を与えた作品（つまり1967年後に書かれた作品）を読み、この作品を楽しく精読していく。ガルシア=マルケスの架空領域「マコンド」に関連した作品も視野に入れながら、ガルシア=マルケス文学の特徴に迫る。

授業の到達目標

20世紀の世界文学の中のラテンアメリカ文学についての基礎知識を身につけてほしい。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　35%　　期末レポートがあります。講義内容の理解を反映したレポートを与えられるテーマに沿って執筆します。
●**平常点**　30%　　出席して、積極的に授業に参加すること。リアクションとして積極的に参加すること。
●**その他**　35%　　プレゼンテーション：授業で扱う作品を読み、その感想を批評的に発表すること。

備考・関連URL

『百年の孤独』映像化決定
https: //about. netflix. com/ja/news/celebrating-the-40th-anniversary-of-garcia-marquezs-nobel-prize-with-the
NETFLIX『百年の孤独』 予告編

https://youtu.be/p2_QybaXvJo

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（思想と文学1）							
担当者名	堀　千晶							
文ジャ	2単位	秋学期	木曜日	5時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

「思想と文学」という問題設定は、たいへん広大な領域をカバーするものです。いわゆる「思想」というかたちを取っていなくとも、小説そのものが一箇の思想です。というのも、「その」語りかたでしか表現できない「考えかた」や「感じかた」があるからで、語りかたそのもののうらに、思想の表現はぴたりと貼りついています。たとえば、「小説」で表現されている微妙なニュアンスをもつ複雑な状況を、「哲学的」な「語りかた」に翻訳したとき、とりこぼしはないのか、などを想像していただければ、なんとなく分かるとおもいます。哲学的な語りかただけが、「思想」なのではありません。

そのいっぽうで、いわゆる「批評的／批判的」に作品を読む際の切り口にはさまざまなものがあります――作中人物がどのように世界を経験しているのか（実存／現象学）、物語がどのように語られているのか（ナラトロジー）、視点がどこに置かれ誰が語っているのか（語り手／焦点人物の問題）、譬喩がどのように用いられているのか（比喩論）、作品内の細部がどのように作品を動かしてゆくのか（主題論批評）、身体／情動がどのように作動しているのか（情動論）、記憶を含む時間や空間がどのようになっているのか（時間論・空間論）、ジェンダーがいかに表象されているのか（ジェンダー論）、作品がいかなる歴史的・社会的な文脈で書かれたものなのか（社会批評）などが、着眼点として思い浮かぶはずです。ほかの観点も、もちろん沢山あります。

文学を読む際には、作品を輝かせるような引きだしを、じぶんの側でもっておくことが重要です。どの方法をどの作品に適用してもいいわけではなく、ある作品を魅力的に見せるアプローチというのが、一定ていどあります。つまり、その方法を適用することで、作品がいっそう興味深いもの、特徴的なものになるのかどうか、ということです。

本演習では冒頭の数回程度で、ナラトロジー（いわゆるテクスト論）などの共有事項を簡単に確認します。そのうえで履修者よる発表に移っていく予定です。

発表の際の要件は、（1）作品を丁寧に読むこと（その語りかたでしか表現できないものへとまなざしを向けること）、（2）作品の歴史的・社会的な文脈を調べること、とします。

授業の到達目標

作品を内容ばかりでなく語りかたまで含めて丁寧に読む習慣を身につけること。

成績評価方法

発表と期末レポート。くわえて、授業内での議論における発言を評価対象とします。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（思想と文学2） 文学作品の実践的な読解にむけて							
担当者名	清水　智史							
文ジャ	2単位	秋学期	水曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本演習では、文学作品の実践的な読解の仕方を学びます。文学作品を読み解くうえでは、作品の精緻な読解だけではなく、思想や歴史といったより広い文脈への展開も期待されます。そこで、受講者のみなさまには、文学作品を読むだけでなく、その評論や批評、論文を併せて読んでもらい、それをプレゼンすることで、読み方のモデルケースを学んでもらいたいと思います。実際に扱う作品は以下のようなものを想定していますが、受講者の希望により変更することもあります。・夏目漱石「夢十夜」「三四郎」

・中島敦「山月記」
・安部公房「人魚伝」
・金井美恵子「兎」
・村上春樹「ノルウェイの森」
・多和田葉子「無精卵」

授業の到達目標

文学作品を多角的に分析する視点を学び、実践的な読解を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　学期末にレポートを提出
●**平常点**　50%　　出席およびディスカッションへの参加
●**その他**　0%

備考・関連URL

授業内容、構成については受講者の人数などによって変更となる場合があります。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（横断文学論） 20世紀の世界文学をどう読むか？							
担当者名	アスアヘアラモ　マヌエル							
文ジャ	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この演習では、近年の西洋文学研究で再び物議を醸している問い、つまり「世界文学とは何か」という問いの答えを学生たちと突き止めようとしたい。この質問が一見簡単に見えることと裏腹に、文学の本質に触れるため難問である。アメリカの比較文学者デヴィッド・ダムロッシュの著書『世界文学とは何か』において、次の答えを出したことがよく知られている。ダムロッシュいわく、世界文学は、次の3つの定義を持ちうる文学である。1）「世界文学とは、諸国民文学を楕円状に屈折させたものである」2）「世界文学とは、翻訳を通して豊かになる作品である」 3）「世界文学とは、正典（カノン）のテクスト一式ではなく、一つの読みのモードである」、という。

この演習では上記3つの定義に当てはまる複数の文学作品をそれぞれの定義別に分けて、学生たちと楽しく読み進めていきた

い。つまり、授業の初めでは、「屈折させた文学」として読める作品を読み、次に「翻訳を通して豊かになった」代表的な作品を読み、そして最後に「読みのモードとして楽しめる」作品を順番に読みながら進みたい。
長編小説からの抜粋と短編小説を中心に次の作家を読んでいく。アルゼンチン出身のホルヘ・ルイス・ボルヘスとフリオ・コルターサル、トリニダード＝トバゴ出身のV.S. ナイポール、アイルランド出身のサミュエル・ベケット、ロシア出身のウラジミール・ナボコフ、チェコ出身のミラン・クンデラ、トルコ出身のオルハン・パムク、ドイツ出身のW.G.セバルド、フランス出身のミシェル・ウエルベック、チリ出身のロベルト・ボラーニョ、そして日本出身の村上春樹の作品を読み、それぞれの作品に見える世界文学的な要素について一緒に考えていきたい。

授業の到達目標

21世紀の日本に住んでいるという我々の立場を念頭に置きながら、世界各地域の作品を読むにつれてそれぞれの地域の理解に必要な基礎知識を得ながら、現代の世界文学に頻繁に扱われている諸テーマ（戦争と亡命、国家とアイデンティティ、歴史と記憶等々）について考察してほしい。こうした世界文学ツアーを経験した学期末には、受講生各自にグローバル時代における世界文学の概念を理解し、広く知れ渡っている現代文学作品の基礎知識を身につけていただきたい。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　35%　　期末レポートがあります。本授業で読んできた作家たちから二人を選んで比較し、自分の感想を述べる。
●**平常点**　30%　　授業参加や、受講生のプレゼン内容確認の質問への応答。
●**その他**　35%　　プレゼンテーション：
本授業で扱う作家たちやそれらの作品について、指定されるテーマに沿って発表する。(5-6分程度、1学期に1回)

備考・関連ＵＲＬ

授業で読む短編作品、小説からの抜粋はどれも基本的に邦訳で読みますが、原文が英語とフランス語、スペイン語の作品に限って希望があれば原文のPDFも提供可能。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（比較翻訳論） 動画共有サービスを活用した映画字幕制作実習							
担当者名	橋本　一径							
文ジャ	２単位	秋学期	木曜日	３時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

著作権切れを迎えてパブリックドメイン入りをした映画作品の多くが、YouTubeなどの動画共有サービス上で、無料で視聴できるようになっている。本演習では、そのような映画作品に日本語字幕をつけることを試みる。まずは無声映画作品から出発し、最終的には長編映画作品に日本語字幕をつけることを目指したい。

授業の到達目標

映画作品の字幕制作に必要な英語翻訳力を身に着けるとともに、動画共有サービスを利用した字幕制作を実践することで、ソーシャルメディアによる知の共有の可能性を理解し、活用できるようになる。

成績評価方法

担当した字幕の完成度、および授業での貢献度を総合的に評価する。

備考・関連ＵＲＬ

以下のアカウントなどによりYoutube上にアップされたパブリックドメイン動画を利用する。Timeless Classic Movies

科 目 名	現代人間論系演習（現代人のアイデンティティーの心理）							
担当者名	三好　昭子							
人間	２単位	春学期	金曜日	２時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

青年期は一生の中でもっともアイデンティティに関心が高まる時期である。抽象的思考が可能になり，身体的な成熟をとげ，家族の中での自分，学校での自分，そして地域社会における自分など，過去から現在にいたる様々な自分の役割や意味が，未来や社会に向けて問い直される。この演習では伝記資料を用い，人間の一生をEriksonの漸成発達理論（アイデンティティ概念）から考察し，アイデンティティ概念の本質を解説する。アイデンティティ概念によって歴史上の人物の態度・行動・感情をより深く理解し，人間の生涯発達という視点から，現代人のアイデンティティについて議論していく。

授業の到達目標

1. 歴史上の人物がどのようなアイデンティティをもっていたかを伝記資料から列挙して説明することができる。
2. 歴史上の人物がなぜそのようなアイデンティティを形成したのかという「問い」に対して「仮説」を立て，検証することができる。
3. アイデンティティ概念を使って現代人の特徴や現代の社会現象について考察することができる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　70%　　1回目のレポート30%，2回目のレポート40%
●**平常点**　30%　　リアクションペーパーの内容，プレゼンやディスカッションへの参加度・貢献度
●**その他**　0%　　特になし

備考・関連ＵＲＬ

歴史上の人物1名の伝記を1冊以上読み，レポートを2回提出する必要があります。また，第8回と第14回には，提出したレポートに基づいてグループにわかれてプレゼンテーションを行います。自分が取り上げた人物のアイデンティティやアイデンティティ形成について，グループディスカッションを通してさらに深く考察してください。他にも授業の中では適宜グループディスカッション，リアクションペーパーなどが予定されています。基本的には対面ですが，オンデマンド教材を用いることもあるため，Wasada Moodleの確認をお願いします。

科 目 名	現代人間論系演習（死生学と現代社会） 人間の生死の場面における技術的介入に関する倫理的考察							
担当者名	小出　泰士							
人間	２単位	秋学期	水曜日	４時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この演習は、人間に対する技術的介入の是非に関して、倫理的観点から取り上げます。

人間に対する技術的操作が問題となるのは、とりわけ生と死の場面においてです。望み通りの子どもを持ちたい、あるいは、老・病・死を克服したい、という古くからの人間の欲望が、医療技術を発達させ、現代の飛躍的な発展によりある程度その願いが叶えられるようになった時代だからこそ、技術の力でどこまで人間の生命を操作してよいのか、という倫理問題が鋭く提起されているのです。そうした問題に真剣に取り組んでみたいと思います。

授業の到達目標

1)問題把握：人間を対象とする技術に関する基本的知識、および、技術を人間に対して使用する際の倫理問題を正確に把握できること。

2)理解力：人間に対する技術的介入の倫理問題について考えることで、科学・技術の根底にある態度と、生命と精神を備えた人間との本質的な違いについて、哲学的に理解することができる。

3)思考力：問題を多角的な観点から考察し、状況を踏まえて判断する、倫理的な思考力と判断力を身に着けることができる。

4)表現力：自分の考えをまとめて発表する表現力、および、質疑応答による論理的討論の技

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし

●**レポート**　60%　　学期末にそれまでの成果として、レポートを課します。

テーマを一つ選び、技術、規制、倫理的問題点等について論じる。

●**平常点**　40%　　全員に発表してもらいます。出席状況、口頭発表内容、授業中の発言、議論参加など、総合的に評価します。

●**その他**　0%　　特になし

備考・関連ＵＲＬ

最初の2回は講義です。3回目からは発表授業となります。

原則として、授業は対面授業です。

人間に対する技術的介入の倫理問題に関心が高く、授業に積極的に参加する意欲のある学生を求めています。

こうした問題は、決して他人事ではなく、いずれ直接自分や近親者や友人の問題となることでもあります。一度真剣に考えておくことは、必ずや今後の人生の糧となることでしょう。

科 目 名	現代人間論系演習（宗教実践と身体性） 宗教実践と身体性							
担当者名	中西　恭子							
人間	２単位	春学期	水曜日	３時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

人間が人間の力を超える存在とかかわるとき、儀礼や修行など、身体をもってその場に参与する実践が何らかのかたちで実感を伴って出現します。それらはいったいどのような現象であるのかを深く観察するきっかけをつかみ、受講生のみなさん自身がそれぞれに説明できるようになる演習です。この演習では、最初の5回で講義を通して問題関心を共有します。宗教学の観点からみた宗教実践と身体性の諸相について、死生観・祈りと修行・聖地論・祝祭論の視点から概観します。また、宗教実践の場におけるパフォーミング・アーツと身体のかかわりや、世俗の空間において「宗教的なもの」と隣接する現象と身体のかかわりについても考察し、意見の交換を行う機会を設けます。

第6回から第12回の授業では、受講生のみなさんに演習のテーマと関連するかたちでそれぞれの問題関心に応じた内容での発表を課します。受講生のみなさんにはこの発表を深めた内容での学期末レポートを課し、第13回・第14回に講評を行います。

授業の到達目標

①宗教学における儀礼論・聖地論・祝祭論・死生観の基本概念を理解する。

②宗教実践とパフォーミング・アーツの関係についての知識を得る。

③世俗と「宗教的」なものと身体性の関係について考察と知見を深める。

④「宗教実践と身体性」にかかわる内容で、テーマを設定して調査し、発表を行ってレポートを書く技術を鍛える。

成績評価方法

授業中での発表　45%

学期末レポート　45%

リアクションペーパーの内容・ディスカッションへの参加　10%

備考・関連ＵＲＬ

①この演習では毎回リアクションペーパーを課します。前半の講義篇でもリアクションペーパーへのフィードバックタイムを設けます。発表の当番でないときにも演習に主体的に関わるきっかけをつかんでまいりましょう。

②この授業に関連する資料の配付と連絡はWaseda Moodle上で行います。

科 目 名	現代人間論系演習（道徳意識の研究） 遺伝子操作と人間理解							
担当者名	村松　聡							
人間	２単位	春学期	木曜日	４時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この演習は「人間」を倫理的な観点から、考察します。

今年は、生命倫理の問題の一つである遺伝子操作をとりあげて、人間の生と身体について考えていきます。

遺伝子操作は治療のみならず、現在、人間の身体的あるいは知的能力をエンハンスメント（強化）する

応用も考えられています。

治療ではなく、能力の強化のために遺伝子操作をすることは許されるのか。許されるとすれば、どこまで許されるか。

こうした問題を取り上げ、考えて行きます。
テキストは複数使用します。

授業の到達目標

人間とは何か」を生命倫理の観点から深く理解する問題意識を育てます。その際3つの目標を設定します。
1）理解力：　まず正確にテキストの内容を理解する力を養います。
2）問題意識：　理解した内容に基づき、何が問題なのか、どこに困難な点があるのか、把握する力を養います。
3）発表（Presentation）：理解し、問題意識をもつとともに、
　発表から、討論、レポートの作成にいたるPresentationのための一連の技法を身に着け、表現する力を養います。

成績評価方法

レポート：60パーセント　学期末にそれまでの成果として、レポートを課します。
平常点評価：40パーセント　一度は、全員に口頭発表をしてもらいます。口頭発表と、日常の発言、議論を含めて総合的に評価します。

備考・関連ＵＲＬ

最初の予備的説明を除いて、授業は、発表者の発表に続いて、
グループに分かれて議論することが中心となります。
授業は基本的に対面で行う予定ですが、状況によってはオンライン（zoomを使用する）になる可能性もあります。
その旨予定しておいてください。
演習は、学生の熱意、勉強度にその正否がかかっています。積極的に授業に参加する学生を求めています。
汗をかいて手に入れた知のみが、皆さんのこれからの経験値をあげる知的アイテムとして、一生の血となり肉となります。
頑張って知的な汗をかいてください。

科 目 名	現代人間論系演習（実存と他者の倫理） 自己・他者・身体・実存							
担当者名	村松　聡							
人間	２単位	秋学期	木曜日	２時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この演習は「人間とは何か」を実存理解から考えます。
私たちは、単に生物学的ヒトではなく、人間としてそれ以上の存在です。
それを「実存哲学」は、実存と呼んでいます。
演習では、実存としての人間に固有な特徴を考察するとともに、
身体理解、他者の影響、他者への感情などを考えていきます。
今年は、他者とはどのような存在か、また、感情や身体などの問題などを考えていきます。
本年度は、メルロ=ポンティの「幼児の対人関係」を読みながら、身体とは何か、他者とはどのような存在か、
感情とは他者、身体とどのように関係するか、などを考えていきます。

授業の到達目標

人間存在に対する理解を深めることから、私たちの現代社会が抱える問題を考えていくための土台、
礎石を手に入れることが目的の一つです。
また、テキストを正確に読み、偏見なく批判的に吟味する姿勢を身につけることが、もう一つの重要な目的です。

成績評価方法

レポート：60パーセント
平常点評価：40パーセント
全員に一度は、口頭発表をしてもらいます。
口頭発表と、日常の発言、議論を含めて総合的に評価します。

備考・関連ＵＲＬ

演習は、学生の熱意、勉強度にその正否がかかっていますので、積極的に授業に参加する学生を求めています。
授業は、グループに分かれて議論することが中心となります。皆さん頑張って背のびをしても発言し、議論しましょう。
汗をかいて手に入れた知のみが、皆さんのこれからの経験値をあげる知的アイテムとして、一生の血となり、肉となります。
そういうつもりでがんばりましょう。

科 目 名	現代人間論系演習（生命・医療の論理と倫理） 生命医療の領域における人間の生と死							
担当者名	小館　貴幸							
人間	２単位	秋学期	月曜日	２時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

医療の進歩は人間の生命の保持を確実なものにし、現代社会の繁栄をもたらした。しかしその一方で、これまで存在しえなかった人間の生と死を巡る新たな課題を私たちに突きつけることとなったのも事実である。これは単に技術的な事柄に留まらず、人間そのものや人間の尊厳を問う事柄に他ならない。私たちは誰もがこの世に生まれて自らの死を死にゆくことはもちろんのこと、その生の歩みにおいて患者となりうる存在であることを鑑みるならば、生命医療における課題は決して専門家だけに委ねられる事柄ではなく、今を生きる私たち自身が向き合うべき事柄となるのである。 本講義では、生命や医療という観点から人間の生と死にまつわる諸問題を取り上げ、論理と倫理という観点を念頭に置きつつ、各当事者の視点に配慮しながら多角的に問題の本質に迫っていく予定である。

授業形式としては、最初の数回はディスカッションの土台となる生命倫理の基本的諸事項や概略について、講義を行っていく。5回目以降から発表やディスカッションを交えた本格的な演習を行っていく。具体的には、基本的に一つのテーマに対して「発表・ディスカッションの回」と「解説の回」という二回に分けて、じっくりと問題の本質に切り込んでいく。

授業の到達目標

（1）「生命倫理」の諸原則を理解し、医療の視点と患者の視点の相違を論理的・倫理的に把握することができる。
（2）生と死をめぐる生命倫理の諸問題について、問題の所在や倫理的ジレンマを指摘することができる。

（3）各当事者の思いを理解でき、善悪の基準や価値の相対性を踏まえつつ、自分の意見を述べることができる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　20%　　授業のまとめとして、最終講義に「学期末レポート」を出題します。
●**平常点**　20%　　出席状況（授業内での書記）と授業内での積極的発言
●**その他**　60%　　口頭発表20%（受講者には一度発表してもらう予定です。）
小テスト20%（一問5点の小テストを4回実施します。）
課題20%（課題やリアクションペーパー等です。）

備考・関連ＵＲＬ

・本授業で取り上げる人間の生と死を巡る諸テーマは、私たち自身の問題に他なりません。机上の空論として捉えずに、自分のこととして脳に汗をかくほど考えて、心が燃えるほどに感じて下さい。
・演習では積極的に発言することを心掛けて下さい。それが実りある議論へと結実します。
・様々な問題を身近に感じてもらうために、実際の映像資料を多く活用していく予定です。
・授業内容は、受講者の興味関心に応じて、一部を臨機応変に変更していく予定です。
・授業全体に要素を詰め込みすぎて窮屈にならないように工夫していきます。

科 目 名	現代人間論系演習（環境問題の論理と倫理）「生物多様性」から「ファッション倫理」まで							
担当者名								
人間	２単位	秋学期	月曜日	４時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

※担当者未定につきシラバス内容は2025年7月ころに更新される予定です。
以下の内容は参考として2024年度の内容を掲載していますのでご注意ください。
地球環境問題は時代のキーワードであり、環境問題対策は、一般に「総論賛成」という性格をもちます。しかし、いったん具体的な場面、さらに言えば、各人自身が環境問題対策として推奨されることを実行する段階となると、「各論反対」とも言える困難が姿を表します。そうした状況に対して向かい合い、言葉を紡ごうと努力するのが環境倫理学です。この分野の理解を深めるために、今年度は、「生物多様性」と「ファッション倫理」にかんする書物を検討します。「生物多様性」はもちろん、皮革にかかわるファッションは環境問題とは密接な関係をもっているからです。このようなさまざまな問題を見つめることで地球環境問題を考えてみましょう。 なお、この授業は演習ですので、受講生が担当箇所をレジュメにまとめ、発表し、それに基づいて討議を行います。

授業の到達目標

この演習の到達目標は、環境問題を引き起こした人間、環境問題対策への懐疑を語る人間など、さまざまな人間像に対峙することで、そもそも「多様な生物とともに生きる」とは何か、という問いを自分のものにして、それを自分のことばで語れるようになることです。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません。
●**レポート**　50%　　二冊のテキストにかんするレポートを作成してもらいます。
●**平常点**　50%　　討論に積極的に参加したかどうかを評価の対象とします。
●**その他**　0%　　授業回数の三分の二以上の出席を成績評価の条件とします。

備考・関連ＵＲＬ

この授業は、教室で実施される予定です。

科 目 名	現代人間論系演習（親密圏の論理と倫理）							
担当者名	大槻　茂実							
人間	２単位	春学期	月曜日	２時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

現代社会を生きていく上で、親密なつながりや良好な人間関係の構築が重要な課題となっています。社会の流動化や多様化の進展に伴い顕在化する人々の孤立や社会的分断はその最たる例といえるでしょう。本授業では、社会学の視点から日常的な人々の関係性に注目し、人々のつながりの実態を明らかにしていきます。その上で、コミュニティの再構築や社会的包摂といった課題解決の可能性について考察を深めていきます。なお、以下の計画は履修者の人数や授業の進行具合に応じて適宜変更する可能性があります。

授業の到達目標

身の回りの親密な関係について社会学的視点から考察を深めることを目標とします。

成績評価方法

ディスカッション、報告、レポート、授業参加状況をもとに総合的に評価する。

備考・関連ＵＲＬ

本授業では、学生の能動的な参加が不可欠です。各回、学生による報告とディスカッションを基に展開していきます。授業内容は前回までの学習を前提としているため、十分な準備と復習が重要となります。報告準備はもちろんですが、ディスカッションに向けた準備も重要であることを自覚して授業に臨んでください。
本授業は現在進行形の社会的な課題と解決について社会学的な視点から議論をしていきます。「社会的課題について、大学での学びがどのように貢献できるのか」といった問に関心がある学生の参加も歓迎します。
なお、授業の進め方は履修者数や進行状況に応じて柔軟に調整します。

科 目 名	現代人間論系演習（サイバー空間の論理と倫理）							
担当者名	北嶋　健治							
人間	２単位	秋学期	木曜日	４時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

今日のSNS利用をめぐる固有の論理と倫理をテーマに、非行・逸脱、監視と管理、アイデンティティと個人情報、文化と表現、炎上とリスク、差別とポリティカル・コレクトネス、法と規範、レギュレーションとコンプライアンス等の問題について、社会学・社会情報学の観点から検討を行う。

毎回のテーマに関する文献や資料を基に、全体で議論を行うとともに、各自が関心を深めたテーマについて報告し、期末レポートの作成につなげる。

受講にあたり社会学や社会情報学についての前提知識は必要としない。また受講生の関心や人数に合わせて授業計画を変更していく場合がある。

授業の到達目標

情報社会・サイバー空間の論理と倫理についての理解を深める。

自身で調べたことに基づいて議論を展開できるようになる。

成績評価方法

出席やリアクションペーパーの提出、また各回の議論への参加等の平常点と、個別の報告の内容、期末レポートの内容に基づいて総合的に評価を行う。

備考・関連ＵＲＬ

受講生の関心や人数に合わせて議論や報告の計画・形式を柔軟に変更していく。

科 目 名	現代人間論系演習（身体の実践と科学）　心と身体の心理学と実践を学ぶ							
担当者名	宮田　裕光							
人間	２単位	秋学期	月曜日	３時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

現代においては、SNSによるコミュニケーションやAI（人工知能）などの情報技術が発達し、私たちの人間関係や社会との関わり方が大きく変容している一方で、ストレスやトラウマなどの精神疾患、医療と健康、ジェンダーなどをめぐる心の問題も複雑化、多様化しています。こうした時代の中で、心と身体の関係やそのウェルビーイング（健康と幸福）はどのように捉えられるべきでしょうか。

本演習では、心と身体の心理学やボディワーク（身体的実践）などに関わるテーマの文献講読を行い、心身に関連する学問分野への理解を深めていきます。心と身体についての研究は、複数の学問分野を横断する学際的な性質を持っています。そのため、演習で具体的に取り上げられるテーマは、心と身体の心理学（身体心理学、ソマティック心理学）、臨床心理学・心理療法、脳神経科学、マインドフルネスとウェルビーイング（健康と幸福）、ボディワーク、哲学、仏教、東洋医学、生命科学など、人文学、社会科学、自然科学を幅広く包む予定です。

授業では、グループに分かれて講読文献を選定し、レジュメによる発表とグループ討論、および全体討論を行います。心理学以外の幅広い関心を持つ履修者も含まれることを考慮し、予備知識は前提とせず、必要に応じて補完資料や解説を加え、全体の理解が進むように授業を行います。また授業に身体的実践（ボディワーク）を取り入れる場合は、事前経験に関わらず安全、簡便に参加できる内容とし、任意参加とするなどの適切な配慮を行います。

授業の到達目標

（1）心と身体に関連するテーマについて、文献講読を通して理解を深める。

（2）講読する文献について、その要旨と各自の論点を的確に伝え、内容についての議論ができるようになる。

（3）みずからの研究に必要な文献を検索できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし

●**レポート**　0%　　なし

●**平常点**　100%　　発表資料、プレゼンテーション、討論を含む、演習参加への積極的態度を総合的に評価します。授業実施回の2/3以上の出席を成績評価の前提とします。

●**その他**　0%　　なし

備考・関連ＵＲＬ

本演習の内容は、現代人間論系演習（心身の健康と幸福）（春学期）と連動し、応用、発展させたものと位置づけられますが、どちらかの事前の履修は必須ではありません。

講読文献の選定、授業中に行うワークの内容、外部講師を招聘しての授業回など、各回の内容は授業概要の趣旨に沿った範囲で更新する場合があります。必要事項がある場合は、授業中およびWaseda Moodleを通して周知しますので、周知内容をよく確認してください。

本演習の関連内容をさらに深く学習する意欲のある方には、講義「心身論」（春学期）、講義「生活世界と身体」（秋学期）、講義「現代人の身体」（春学期）、現代人間論系演習（心身の健康と幸福）（春学期）、現代人間論系演習（ボディワークの理論と実践）（春学期）などと合わせての履修を推奨します。

研究室HP：https://miyata-lab.labby.jp/

教員紹介：http://www.waseda.jp/gendainingen/miyata.html

https://www.wasedapsychology.jp/teacher.html

科 目 名	現代人間論系演習（心身の健康と幸福） 心理学とウェルビーイングを学ぶ、体験する							
担当者名	宮田　裕光							
人間	２単位	春学期	月曜日	４時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

現代においては、SNSによるコミュニケーションやAI（人工知能）などの情報技術が発達し、私たちを取り巻く人間関係や社会との関係のあり方が大きく変容している一方で、ストレスやトラウマなどの精神疾患、医療と健康、幸福感、ジェンダーなどをめぐる心の問題も複雑化、多様化しています。こうした時代の中で、人間の心と身体の関係やそのウェルビーイング（望ましいあり方）は、どのように捉えられるべきでしょうか。

本演習では、心と身体のつながりや調和、統合に関連する研究分野について、基礎的な知識を概観します。具体的には、心身のウェルビーイング（健康と幸福）と深く関連しているマインドフルネス（気づき、観察、受容）、東洋医学と心身の健康、身体を基礎として心を理解しようとする身体心理学・ソマティック心理学、修行・人生・科学などをテーマにした文献を取り上げて、講読を行います。また、これらの分野に関連するいくつかの実践（ボディワーク）やその研究についても、実際に取り上げて行う予定です。これらにより、心理学の研究と身体的実践の実際に触れ、理論的・実践的理解を深めます。

以上により、予備知識は前提とせず、関連分野を基礎から概観するとともに、心理学および実践の内容を日常にも活かせるようになることを目指します。授業に取り入れるボディワークないし実践はいずれも、事前経験に関わらず安全、簡便に参加できる内容とし、任意参加とするなどの適切な配慮を行います。

授業の到達目標

（1）心と身体のつながりや統合について、心理学や実践を含む関連分野を広く概観し、見取り図を得る。
（2）心と身体に関わる心理学の研究や実践を実際に体験し、理論的・実践的理解を得る。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　発表資料、プレゼンテーション、討論、課題提出を含む、授業参加への態度を総合的に評価します。授業実施回の2/3以上の出席を成績評価の前提とします。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

講読文献の選定、ワークの内容、外部講師を招聘しての授業回など、各回の内容は授業概要の趣旨に沿った範囲で更新する場合があります。必要事項がある場合は、授業中およびWaseda Moodleを通して周知しますので、周知内容をよく確認してください。

本演習の関連内容をさらに学習する意欲のある方には、講義「心身論」（春学期）、講義「生活世界と身体」（秋学期）、現代人間論系演習（身体の実践と科学）（秋学期）、現代人間論系演習（ボディワークの理論と実践）（春学期）などと合わせての履修を推奨します。

研究室HP：https://miyata-lab.labby.jp/
教員紹介：http://www.waseda.jp/gendainingen/miyata.html
https://www.wasedapsychology.jp/teacher.html

科 目 名	現代人間論系演習（生きづらさの論理と倫理） 生きづらさと現代社会							
担当者名	草柳　千早							
人間	２単位	秋学期	火曜日	２時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

現代社会で生きることは容易ではない。いわゆる「社会問題」として広く知られている事柄から、個々人が日々の生活で感じるさまざまな困難、不満、不安や違和感まで、私たちの日常には問題が山積している。各人にとって直面する問題の内実や原因はそれぞれ様々でも、その違いをこえて共通の問いが立てられよう。私たちの生きづらさは社会のあり方とどのようにつながっているのだろうか。私たちは自分や他者の生きづらさといかに向き合い、それに対していかにふるまいうるのだろうか。そこからいかによりよく生きることへと向かうことができるのだろうか。

本演習では、現代社会における生きづらさを考察している文献、主に社会学の文献を読みながら、上の問いについて考えていきたい。とても大きな問いであり、正解があるような問いではないが、皆で共に考えていくことに意味があると考えている。

毎回の演習は出席者が「いまここ」を共にする相互作用である。他の人と相互作用することで自分1人では得られないことが得られる。1回1回大切に参加して下さい。

授業の到達目標

各自の生活上の諸問題・生きづらさを現代社会のあり方と結びつけて捉え、1人1人の問題・生きづらさを、個人的な課題としてのみならず社会的な文脈の中に位置付けられる課題として多様な角度から考えていく、そのための視点・思考を身につける。

成績評価方法

平常点：70%：毎回の演習への積極的な参加状況
レポート：30%：学期末の個人レポート

備考・関連URL

グループ単位で文献講読・報告・ディスカッションを行います。毎回の出席、報告、ディスカッションへの参加を重視します。
なお、授業は、授業期間中の状況によりますが、原則として対面、またはリアルタイムのオンライン授業で行います。

科 目 名	現代人間論系演習（子ども文化と社会病理） 子ども・若者の生活世界の把握と課題・困難に処する方策の展望							
担当者名	阿比留　久美							
人間	２単位	秋学期	木曜日	１時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

人は社会の影響を受けつつ生きていくが、特に自分で生きる環境を選べない子どもが社会・家庭・学校から受ける影響は非常

に大きいものとなる。現代の日本社会では、無縁社会などと呼ばれるよう“つながり”の希薄化が指摘されるなかで、さまざまな社会病理が存在している。子ども・若者が育っていく上で直面する課題や困難にも社会病理の影響を受けているものは少なくない。

そこで、この演習では、子どもが育っていく上で直面する課題について、子どもたちの生きる文化と社会病理という視点から検討し、考察を加えていく。それによって、子ども・若者の生活世界を見る視点をつちかい、子ども・若者が直面する課題・困難に処する方策を展望していく。

授業の到達目標

・子ども・若者の直面する課題・困難の現状を把握する。
・子ども・若者の直面する課題・困難と社会病理とを結びつけてとらえられるようになる。
・子ども・若者の生活世界を見る視点をつちかう。
・子ども・若者が直面する課題・困難に処する方策を具体的に提案できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しません。
●**レポート**　40%　　テーマを選んでレポートを作成していただきます。またレポート報告もします。
●**平常点**　60%　　授業での議論への積極的な発言を期待します。また、授業内外の時間を使ってグループ作業なども共同してすすめていってください。
●**その他**　0%　　特にありません。

科 目 名	現代人間論系演習（現代人と人生）							
担当者名	石田　光規							
人間	2単位	春学期	金曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

「現代人と人生」では、人生で直面する多様な問題を扱い、大学生が“今の社会”を生きることを深く考察することを目論む。人生課題を包括的に扱う当科目は、リスク社会と呼ばれる現代においてこそ、学ばれるべきものである。授業は、今の社会を生きる人びとが直面する課題について、担当教員のライフコースをたどる形で検討・考察する。具体的には、大学受験、就職活動、企業生活、家族、挫折などを扱う。後半は履修者の報告をもとに議論を深めてゆく。

14回の演習のなかではゲストスピーカーを交えた討論も予定している。なお、履修人数により予定を変更することもある。

授業の到達目標

現代社会で人生を送ることへの理解を深め、社会と人生について深く考える。

成績評価方法

授業内報告、授業内レポート、出席状況を総合的に検討する。

備考・関連URL

1）履修者の人数、授業の進行状況により予定は柔軟に変更する。
2）グループ課題と討論が中心となるため、きちんと出席できる自信のあるものが履修すること。

科 目 名	現代人間論系演習（若者の生活世界と移行）							
担当者名	阿比留　久美							
人間	2単位	春学期	木曜日	1時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

人は社会の影響を受けつつ生きていくが、子どもから大人への移行期にあたる若者期には、子ども期から蓄積してきたものがよきにつけ悪しきにつけ、表面化していくことが多い。また、たとえ、それまでの時期に困難を有していないと感じていた若者であっても、移行期には（具体的に言えば特に就職期に）実存がゆるがされる体験をすることは少なくない。

現代の日本社会では、若者の生きる生活世界や移行過程は階層・ジェンダー・出身地域などの影響をうけつつ、社会関係資本をはじめとした諸資本の不平等・不均衡な分配と、社会から求められるコードに応えやすいか否かによって、異なる様相をみせつつ推移しているが、困難を有する若者とそうではない（ように見える）若者との相違点と共通点を探りつつ、若者の移行に起きている事象とその本質がどのようなものであるかを捉えることが必要であろう。

そこで、この演習では、若者がどのような生活世界で生きているのかを検討しつつ、その生活世界の中でどのように移行が可能でありうるのか、ということを社会権という視点を位置づけながら検討していく。

授業の到達目標

・若者の生活世界の実情を把握する。
・若者が移行を遂げるとはどのようなことなのかを捉え、社会構造が若者に与える影響をつかむ。
・若者の移行支援としてどのようなものがあるのかを知る。
・若者の移行の「あってほしい姿」とそのための方途を構想する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しません
●**レポート**　40%　　テーマを選んでレポートを作成していただきます。またレポート報告もします。
●**平常点**　60%　　授業での議論への積極的な発言を期待します。また、授業内外の時間を使ってグループ作業なども共同してすすめていってください。
●**その他**　0%　　特にありません

備考・関連URL

若者の生活世界と移行を関連づけて具体的に考えるために、小説やマンガ、映画などにもふれていきます。研究書、一般書のみでなく、幅広い文化に関心をもって授業にあたってください。

科 目 名	現代人間論系演習（現代社会における死の諸相）							
担当者名	久保田　治助							
人間	２単位	秋学期	火曜日	４時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

超高齢社会において、生と死についての学習を深めることは必須にも関わらず、学校教育において生と死について学習する機会とその教育方法や実践についての深まりはこれからであると言える。「命の教育」についても、特別の教科道徳や特別活動、総合的な学習の時間、その他各教科において学ぶこととなるが、それぞれが連携し体系的に学ぶことは難しい。また、生と死についての学習領域について考えると、出産・老死だけでなく、過労死や自死・他殺、災害などによる災害死など様々であり、さらに、個人の死と身の回りの家族や動物・植物の死、そして生きることの意味、イジメや差など、多岐に渡っている。多岐に亘っている。

そこで、これまで「生」と「死」に関わる思想の歴史的変遷について文献を紐解きながら理解しつつ、これまで学校のなかでどのように生と死の教育がなされてきたのかについて、全国の授業実践を参考にしながら理解する。その際に、自己と他者の価値観の違いについて理解し、発達段階に即してどのような学びを行なってゆくのかについて検討する。さらに、高齢期の学習に関して、地域社会において生と死がどのように語られてきたのかについて、地域の文化や慣習・生活経験に即して考えながら、高齢期特有の学習である老いと死の教育の学習内容と学習方法について理解する。

そのうえで、自分で生と死の教育実践について学習内容を検討し、主体的に学習計画を立案する。特に、演習では、講義科目「生と死の教育」の授業で行った概論をもとに、レポートを作成し、発表を行いながら、話し合いを行い深めてゆく。**＊本演習は、グループワークとディズカッションを毎回行います。また随時発表も行うため、合理的配慮が必要な場合は、事前にメールで相談をしてください。**

授業の到達目標

・生と死についてどのように理解されてきたのかについて歴史的変遷を踏まえて考える力を養う。
・学校において命の教育や死生観・高齢者理解がどのようになされてきたのかについて理解する。
・現代の社会的課題と実践について理解し、自分で生と死の教育について発信できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　50%　　テーマを選び、レポートを作成し、発表を行ってもらう
●**平常点**　50%　　授業での議論やグループ討議への積極的な参加で評価を行う
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	現代人間論系演習（老いを生きる）							
担当者名	久保田　治助							
人間	２単位	春学期	火曜日	４時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

生と死についての学習を深めることは必須にも関わらず、学校教育において生と死について学習する機会とその教育方法や実践についての深まりはこれからであると言える。「命の教育」についても、特別の教科道徳や特別活動、総合的な学習の時間、その他各教科において学ぶこととなるが、それぞれが連携し体系的に学ぶことは難しい。また、生と死についての学習領域について考えると、出産・老死だけでなく、過労死や自死・他殺、災害などによる災害死など様々であり、さらに、個人の死と身の回りの家族や動物・植物の死、そして生きることの意味、イジメや差など、多岐に渡っている。多岐に亘っている。

そこで、これまで「生」と「死」に関わる思想の歴史的変遷について文献を紐解きながら理解しつつ、これまで学校のなかでどのように生と死の教育がなされてきたのかについて、全国の授業実践を参考にしながら理解する。その際に、自己と他者の価値観の違いについて理解し、発達段階に即してどのような学びを行なってゆくのかについて検討する。さらに、高齢期の学習に関して、地域社会において生と死がどのように語られてきたのかについて、地域の文化や慣習・生活経験に即して考えながら、高齢期特有の学習である老いと死の教育の学習内容と学習方法について理解する。

そのうえで、自分で生と死の教育実践について学習内容を検討し、主体的に学習計画を立案する。特に、演習では、講義科目「高齢社会とコミュニティ」の授業で行った概論をもとに、レポートを作成し、発表を行いながら、話し合いを行い深めてゆく。**＊本演習は、グループワークとディスカッションを毎回行います。また随時発表も行うため、合理的配慮が必要な場合は、事前にメールで相談をしてください。**

授業の到達目標

・生と死についてどのように理解されてきたのかについて歴史的変遷を踏まえて考える力を養う。
・学校において命の教育や死生観・高齢者理解がどのようになされてきたのかについて理解する。
・現代の社会的課題と実践について理解し、自分で生と死の教育について発信できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　50%　　テーマを選び、レポートを作成し、発表を行ってもらう
●**平常点**　50%　　授業での議論やグループ討議への積極的な参加で評価を行う
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	現代人間論系演習（ボディワークの理論と実践）　身体的実践を学ぶ、体験する							
担当者名	丸山　貴彦　他／鈴木　孝信／高田　佳子							
人間	２単位	春学期	金曜日	２時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

ボディワークは、身体や呼吸の観察、気づきを基礎にして、心身の統合と調和（心身一如）を目指し、ホリスティック（全体的）に健康やより良い人生を目指す技法を指しています。東洋の伝統に起源を持つ、武道、ヨーガ、マインドフルネス瞑想などの技法がその代表例です。ボディワークには、心身の健康改善やパフォーマンスの向上、治療的介入などの目的で私たちが有益に取

り入れられる、豊かな内容が含まれています。
本演習では、武道、笑い、身体心理療法を専門とする各教員が、実践の理論的背景に関する授業を行うとともに、実際にボディワークを体験する機会を提供します。これらを通して、それぞれの成立背景や目標を持ちつつも、共通の基礎に基づくボディワークの全体像を理論的、実践的に理解し、日常にも活かせるようになることを目指します。実践の内容はいずれも、事前経験や予備知識に関わらず、初めてでも安全、簡便に参加できるものとします。
具体的には、(1) 武道と瞑想：身体の観察を通して心身の鍛錬や人格の向上を目指す武道思想と瞑想法について学びます（丸山貴彦)。(2) 笑い学実践エクササイズ：「笑うから楽しくなる」という理論に基づく笑いの体操（笑トレ）の実践方法を学び、社会課題への笑いの効用の展開方法について考察します（高田佳子)。(3) 身体心理療法：過去の傷つけられた体験（トラウマ）に起因する心身症状を緩和するための、ブレインスポッティング（BSP）などの身体的アプローチに基づく心理療法について学びます（鈴木孝信)。

授業の到達目標

複数のボディワークについて、理論的背景を学ぶとともに、実際に体験することで理解を深める。また、授業で学んだ内容を各自の日常生活に活かすことができる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しません。
●**レポート**　60%　　各教員の授業内容に関して、1,200字程度のレポート（計3本）を課します。課題内容は授業内で指示します。
●**平常点**　40%　　各回の授業後にレスポンスシートを記入してもらい、それを出席記録とします。授業実施回の2/3以上の出席を成績評価の前提とします。
●**その他**　0%　　特にありません。

備考・関連URL

授業実施上の必要事項がある場合は、前週までに履修者の方に周知します。授業回によって会場を変更する可能性があるので、授業中およびWaseda Moodleを通しての周知内容をよく確認してください。
本授業の関連内容をさらに学習する意欲のある方には、講義「心身論」（春学期)、講義「生活世界と身体」（秋学期)、講義「現代人の身体」（春学期)、現代人間論系演習（心身の健康と幸福）（春学期)、現代人間論系演習（身体の実践と科学）（秋学期）などと合わせての履修を推奨します。

科 目 名	現代人間論系演習（マクロコスモスとミクロコスモス） 占星術と自己							
担当者名	小村　優太							
人間	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

現代に生きる私たちは、つねに「自分とは何か」という問いに追われている。「そこには何もないという」のもひとつの答えであろうが、時に応じて自己を振り返る営為はきわめて重要でもある。この演習では占星術を手掛かりにして、「自分とは何か」という問いに幾ばくかの答えを与える試みを行う。そのため、授業では様々な占星術の種類のうち出生占星術を中心に取り扱い、受講生が自らのホロスコープを分析し、自己を分析するさいの足掛かりを得る。
17世紀に至るまで、占星術と天文学のあいだに明確な差異は存在しなかった。天の運行を測定するのが天文学であれば、その意味を読み取るのが占星術であった。また占星術には、人類の長い歴史にわたって蓄積されたシンボルや神話などが織り込まれており、ホロスコープを読むためにはこのようなシンボルについて一通りの知識を得ることも欠かせない。そのため演習の前半では、ホロスコープを読むための前提知識として必要なシンボルや神話を学ぶ。その後、ホロスコープ読解についての基礎知識を習得し、受講生によるホロスコープ読解の発表を行う。

授業の到達目標

ホロスコープ読解を手掛かりにして、「自己」を学ぶ
占星術を通じてさまざまなシンボルや神話を学ぶ

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　授業への参加によって評価する
●**その他**　0%

科 目 名	現代人間論系演習（精神と物質） ラカン『エクリ』を読む							
担当者名	小村　優太							
人間	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この授業ではジャック・ラカン（1901-1981）の著作『エクリ』に収められている論考を読む。ラカンの影響は多岐にわたり、現代思想を読むうえでは欠かすことのできない前提知識のひとつとなっている。しかしラカンの思想はきわめて難解なことでも知られており、初学者が独力で読み通すのはきわめて困難である。とくに『エクリ』はラカン自身が推敲を重ね、表現を圧縮している側面もあり、それぞれの論考のベースになっている『セミネール』に当たる必要があるなど、参照すべきテクストは厖大な数になる。この授業では、そのような『エクリ』のなかから、とりわけ重要な論考を2本ほど選び出し、周辺資料を参考にしながらテクストを精読する。
受講生への注意：ラカンの『エクリ』は難解なことで知られているが、邦訳は更に輪をかけて読解が困難なことでも知られる。そのため『エクリ』を読むためにはフランス語、またはBruce Finkによる英訳を参照する必要がある。このような言語的制約もあるため、受講生は邦訳だけで済まそうとせず、願わくばフランス語原典、それが不可能な場合は英訳を参照するだけのやる気が必要である。

授業の到達目標

・具体的なテクストを読み解くことにより、ラカンの思想の概要を理解する。

・多様な分野を横断する複眼的思考の読解力を身に着ける。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　授業での発表および議論への参加。（備考参照）
●**その他**　0%

備考・関連URL

この演習ではテクスト読解をおこなうため、各回で担当者を選び、その担当者による発表をもとに授業を進めてゆく。受講人数によっては発表の担当がない学生も出てくるため、発表を行わない場合は任意でレポートを執筆すること。発表の上レポートを執筆することはとくに問題ない。

発表は以下の様式にて行う。

1. 要約：検討するテクストの内容を箇条書きでまとめ、全体像を明らかにする。
2. 解説：テクストで取り扱われている内容を、外部資料などを参考にして解説する。
3. 考察：上記の作業をおこなった後に、発表者自身の考察を述べる。

科 目 名	現代人間論系演習（現代社会とAI）　人工知能から考える倫理の問題							
担当者名	谷辺　哲史							
人間	2単位	春学期	木曜日	5時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

人工知能技術の発展は、人間の操作をほとんど必要とせず複雑な判断や行動を行なう自律的な機械を実現させた。このことは、行為者性とは何か、道徳とは何かといった古くからある問題を考察するための手がかりを私たちに与えてくれるかもしれない。本授業では、人工知能と倫理をキーワードとして、①人工知能の問題を通じて考察できる倫理学の基本的問題、②人工知能の利用にともなって生じる具体的な問題の2つについて考察する。

授業の各回で書籍の1章分の内容を取り上げる。3〜6名程度のグループで1つの章を担当し（人数は受講者数に応じて変動する）、文献の内容および追加で調べた情報を報告する。その後、受講者全員で疑問点やさらに考察を深めるべき問題を出し合い、議論を行う。

授業の到達目標

・科学技術と社会の関係について考察するための理論的枠組みを獲得する。
・文献講読によって適切に情報を得る技術、また自身の理解した情報を他者にも理解しやすい形で発信する技術を習得する。
・他者との対話を通じて多様な意見に触れ、自身の意見や価値観を客観的にみる視点を獲得する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　授業後のミニレポート
●**平常点**　50%　　授業での発表および議論への参加（備考参照）
●**その他**　0%

備考・関連URL

この授業ではテクストの読解と議論を行うため、各回で担当者を選び、担当者による発表をもとに授業を進めていく。ただし受講者数によっては全員が発表を行わないこともあり得る。発表を行わない受講者はレポート執筆によって評価を行う。また、発表を行わない場合でも、授業では積極的な発言を期待する（発表やレポートだけでなく、授業中の活動全体が成績評価の対象である）。

発表は以下の内容で行う。

1. 要約： テクストの概要をまとめる。他の受講生にテクストの内容をレクチャーし、その後の議論の前提を共有する。
2. 解説： テクストを読むだけでは理解が難しい部分や、前提知識が必要な部分について、他の資料も参照して説明を加える。
3. 考察： 上記の内容に加えて、発表者自身の考察を述べる。

発表の内容に基づいて、他の受講者からの質問、意見を求める。

科 目 名	現代人間論系演習（現代人と情報科学）　科学技術に対する社会的受容							
担当者名	谷辺　哲史							
人間	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

・情報科学や生命科学といった科学技術の発達は、私たちの生活を豊かにしてくれる一方で、新たな問題も引き起こしている。本授業では、人文・社会科学的な視点から科学技術を扱った文献を講読し知識を習得するとともに、受講者どうしで議論を行い、科学技術と社会の関係について考察する。・科学技術に関する一般市民の態度を扱った心理学研究の論文をいくつか紹介した後、受講者はその研究結果を踏まえて新たな研究のアイディアを提案する。3〜6人程度のグループに分かれ（人数は受講者数に応じて変化する）、新たな研究計画を1つ作成する。

・「先行研究の紹介→研究計画の作成」のセットを3回程度行う予定である（実際にその研究を行うわけではない）。卒業論文・ゼミ論文執筆で最初の作業となる「研究計画の立案」だけを集中的に練習することで、実際に研究を行う際に必要な「独自の問い」を設定する能力を身に付けることを目標とする。

授業の到達目標

・科学技術と社会の関係について考察するための理論的枠組みを獲得する。
・先行研究の知見に基づいて新たな問いを立て、研究計画を立案する技術を習得する。
・他者との対話を通じて多様な意見に触れ、自身の意見や価値観を客観的にみる視点を獲得する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%

●**平常点**　100%　　授業での発表および議論への参加
●**その他**　0%

備考・関連URL

本授業で紹介する文献は心理学分野の実証研究である。
授業では、まず教員が先行研究の論文を解説し、その後グループに分かれて議論を行う。そのため、受講にあたって心理学の研究手法についての前提知識は不要である。

科 目 名	現代人間論系演習（身体とエンハンスメント） 身体的・認知的な能力の増強と倫理的問題							
担当者名	谷辺　哲史							
人間	2単位	秋学期	月曜日	5時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

生命科学や情報科学の発展によって、人間の能力を増強（エンハンス）する技術が開発されている。たとえば、身体の一部を機械化したり、薬物によって認知能力を高めたりするといったものである。これらの技術は私たちの生活の質を向上させてくれる可能性があるが、一方で倫理的な問題を引き起こすかもしれない。
本授業では身体、認知などさまざまな領域での能力増強（エンハンスメント）に焦点を当て、それらに関わる倫理的問題についてどう考えればよいかを議論する。
授業の各回で書籍の1章分の内容を取り上げる。2〜3名程度のグループで1つの章を担当し（人数は受講者数に応じて変動する）、文献の内容および追加で調べた情報を報告する。その後、受講者全員で疑問点やさらに考察を深めるべき問題を出し合い、議論を行う。

授業の到達目標

・身体的・認知的なエンハンスメントの倫理的問題について考察するための理論的枠組みを獲得する。
・文献講読によって適切に情報を得る技術、また自身の理解した情報を他者にも理解しやすい形で発信する技術を習得する。
・他者との対話を通じて多様な意見に触れ、自身の意見や価値観を客観的にみる視点を獲得する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　授業後のミニレポート
●**平常点**　50%　　授業での発表および議論への参加（備考参照）
●**その他**　0%

備考・関連URL

この授業ではテクストの読解と議論を行うため、各回で担当者を選び、担当者による発表をもとに授業を進めていく。ただし受講者数によっては全員が発表を行わないこともあり得る。発表を行わない受講者はレポート執筆によって評価を行う。また、発表を行わない場合でも、授業では積極的な発言を期待する（発表やレポートだけでなく、授業中の活動全体が成績評価の対象である）。
発表は以下の内容で行う。
1. 要約： テクストの概要をまとめる。他の受講生にテクストの内容をレクチャーし、その後の議論の前提を共有する。
2. 解説： テクストを読むだけでは理解が難しい部分や、前提知識が必要な部分について、他の資料も参照して説明を加える。
3. 考察： 上記の内容に加えて、発表者自身の考察を述べる。
発表の内容に基づいて、他の受講者からの質問、意見を求める。

科 目 名	現代人間論系演習（ケーススタディの方法）							
担当者名	三枝　高大							
人間	2単位	春学期	金曜日	3時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本演習では、個人・コミュニティ・組織など特定の社会単位に焦点を当てて行われるケーススタディの理論と実践を総合的に学ぶ。ケーススタディは、個別の事例や現象を文脈的・深層的に理解し、そこから多面的な洞察を得ることを重視する個性記述的アプローチを取ることから、質的研究方法が主に用いられる。質的研究方法は研究対象との相互作用に基づいて行われることが多く，収集するデータの性質をも踏まえた細心の倫理的配慮が求められる。
上記の点をふまえ、本演習は、主に心理学や社会学の視点からケーススタディの特色を理解するとともに、ケーススタディで用いられる質的方法論を習得することを目的とする。
なお、受講者の人数や理解度、研究関心に応じて、各回の内容・進度を柔軟に変更する場合がある。

授業の到達目標

ケーススタディの理論を理解し、研究に適した質的方法を選択する知識を身につけ、具体的な計画を立案できる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　期末レポートを課す。
●**平常点**　60%　　演習内で実施する小課題や毎回のリアクションペーパーの内容による評価を行う。
●**その他**　0%

科 目 名	現代人間論系演習（現代人と家族）							
担当者名	平井　美佳							
人間	2単位	春学期	水曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

家族を理解するには，家族を1つのシステムと捉える家族システム論の考え方が役に立つ。家族システムは，夫婦や親子など複数のサブシステムから成り，また，より大きな社会システムの中に埋め込まれている。この視点に立つと，家族システムが変

化する家族ライフサイクルの移行期において危機が生じやすいことや，現代の多様な家族や家族に起こる問題についても理解が深まるはずである。
本演習では臨床心理学と発達心理学，特に家族療法や家族心理学の観点から，家族が個人に与える影響や個人が家族に与える影響について家族システム論の観点から学び，考察する。また，家族システムと社会システムの相互関係についても考えていく。
前半では，家族心理学や家族療法の基礎について講義形式で学ぶとともに，テーマに関するグループディスカッションを行う。後半ではグループで家族を描く物語（小説。映画，ドラマ，漫画など）を選び，その内容を紹介するとともに，家族心理学の観点から考察した内容についてプレゼンテーションを行う。

授業の到達目標

1. 家族が個人に与える影響と個人が家族に与える影響について理解し，システム論的に関係を見ることができる。
2. 家族ライフサイクルにおける家族システムの変化について説明できる。
3. 現代の家族に起こる多様な問題について，家族がおかれている文脈と関連づけて考えることができる。

成績評価方法

●**試験** 0%　特になし
●**レポート** 30%　講義内容について正しく理解し，自分なりの考察を深めていること。
●**平常点** 50%　授業後のコメント，および，議論への参加
●**その他** 20%　グループ発表をメンバーと協力して行い，発表内容が学んだことを活かして考察していること。

科 目 名	現代人間論系演習（現代社会と心の機能）「非認知能力」について考える							
担当者名	小塩　真司							
人間	2単位	春学期	火曜日	1時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この授業では，書籍を読み進めながら，現代社会において重要な概念の理解を深めることを目的とする。2025年度は非認知能力の研究を取り上げ，授業をすすめる。現代社会では，知能や学力よりも，それらでは説明できない個人の特徴が人生において役立つという考え方が広まっている。中高一貫校や幼稚園などでも非認知能力の育成を謳う施設が増えている。果たして，心理学でこのような問題に対してどのようなアプローチが可能なのであろうか。本演習では，非認知能力の問題について各研究を行っている第一線の研究者たちが書いた章をまとめた書籍を利用しながら，心理学や周辺領域の知識を深め，非認知能力およびその周辺にある問題を考察する。授業においては，数名のグループを作り，発表ではなく「講義」をしてもらう。テキストの内容だけではなく，現実の問題も交えながら，非認知能力や教育に関連するそれぞれの内容について理解を深める。毎回の予定の詳細はMoodle上で確認すること。

授業の到達目標

現代社会において重要だとされる心理学的構成概念や研究について理解を深める。
何が「望ましい心理特性」とされるのか，その枠組について理解を深める。
これらを通じて，文化構想学部におけるディプロマ・ポリシーにおける「人と情報が地球規模で交流し，文化が複雑に絡まりあい，多面的な様相がみられる時代を生き抜くための幅広い教養」を深める。

成績評価方法

●**試験** 0%　なし
●**レポート** 50%　最終レポートを評価対象とする。
●**平常点** 50%　授業への参加, 発表内容, ディスカッションへの参加状況, 毎回のディスカッションテーマに関する小レポートを評価対象とする。
●**その他** 0%　なし

備考・関連URL

小塩研究室：https://oshio.kinsta.cloud

科 目 名	現代人間論系演習（発達の生得性と環境効果） 遺伝と環境の相互作用							
担当者名	新屋　裕太							
人間	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

私たちの心と身体の発達における「生まれか育ちか（nature or nurture）」という問いは、哲学や心理学、教育学などにおける中心的な問題として古くから議論されてきました。しかし、その後の科学・技術の進展とともに、現在では「生まれも育ちも」重要であることが明らかになっています。さらに近年は、胎児期・周産期の環境が、私たちの遺伝子の発現や心身の発達に長期的な影響を与えていることも指摘されています。
本授業では、発達早期（胎児期～乳幼児期）からの心身の発達プロセスや、発達環境がその多様性や障害とどのように関わるのかを学ぶことで、「遺伝と環境の相互作用」に関する理解を深めることを目的とします。また、グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、子どもの発達における子育てや教育、社会環境の役割や課題について考察する力を身につけます。

授業の到達目標

1. 発達早期からの心身の発達プロセスや発達の生得性と環境効果についての理論や知見を学び、「遺伝と環境の相互作用」についての理解を深める
2. 「遺伝と環境の相互作用」の観点から、子育てや教育、社会の役割やそれらの現代的課題について、多面的かつ批判的に考察・議論する力を身につける

成績評価方法

●**試験** 0%　なし
●**レポート** 0%　なし
●**平常点** 40%　各回のミニレポート提出、ディスカッションへの参加
●**その他** 60%　グループプレゼンテーション

備考・関連URL

・本演習はディスカッションやグループワークの時間を多く設ける予定です。受講生には積極的な参加を期待しています。
・すべての授業を対面で実施する予定ですが、必要に応じて、一部オンラインもしくはオンデマンドで実施する場合があります。

科 目 名	現代人間論系演習（心をみる） 心理学の研究方法を学ぶ							
担当者名	石橋　美香子							
人間	2単位	春学期	月曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

心理学では，人の心を科学的に調べるための様々な方法が確立されてきました。本授業ではその中でも，特に観察法を取り上げます。観察を通して，心理学の研究方法を体系的に学ぶことを目的とします。また，実際に乳幼児のビデオを観察し，フリーソフトウェアELANを用いて，分析を行います。

授業の到達目標

観察を含む測定技法を学ぶことで，心理学の研究方法を習得することを到達目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　60%　　観察に基づいたレポートの作成。詳細は口頭にて説明します。日本心理学会が公開している「心理学研究」のマニュアルに準じて，A41枚のサマリーを作成していただきます。
●**平常点**　40%　　グループワークへの参加，演習への参加。積極的に発言をし，主体的にディスカッションに参加することを求めます。
●**その他**　0%　　特になし

備考・関連URL

PCは必携です。必ず持参してください。また，ソフトウェアELANは，PC内の容量が重いと上手く動作しない場合があるため，可能な限り容量を軽くしておくとよいでしょう。

科 目 名	現代人間論系演習（現代の子育てを考える）							
担当者名	大久保　圭介							
人間	2単位	秋学期	月曜日	4時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この授業では，「現代の子育て」のうち，父親による子育てに着目し，講義と研究発表を行う。現代の父親は「New Fathers」と言われる。厳格な性格で，働いてお金を稼いでくることが美徳とされていた時代とは異なり，温厚な性格であり，積極的に育児に関わる父親像が求められている。ただ，イクメンが当たり前という社会の風潮の中で，育児も仕事もどちらも頑張らなければならないという現代ならではの父親のジレンマも生じていることも事実である。この授業では，**「なぜ父親も育児をしなければならないのか」**という問いに対して，賛否を含め，自分たちなりに考える機会を提供したい。将来，もしくはすでに結婚して子どもを持つことを考えている人はもちろん考えておかなければならないことであり，子どもを育てることを考えていない人でも，社会の中で，子育てをしている父親と接することなしにこの先過ごしていくことは難しいだろう。そうした意味でも，今の段階で，現代における父親の子育てについて学び，そして自分たちなりに考えることには意義があるだろう。父親の育児について知ることで，人の子育て全体についての理解も深まることが期待される。
授業の前半は，男性の子育てについて，進化的な背景，ジェンダー・性役割，父子関係の個人差，などの観点から講義を行う。講義の内容について，こちらで用意したテーマについて，グループディスカッションを行う。授業の後半では，父親による子育てに関連するテーマについて研究発表を行う。具体的には，まず，前半の内容を踏まえて，受講生が興味関心に応じてテーマを決める（例えば，育休取得など）。そして，選んだテーマについて，グループで文献や統計などを調べ，問題提起や解決策の提案などについて発表し，それに対するディスカッションを行う。

授業の到達目標

現代における父親の育児に関する現状と諸問題について理解することができる。
父親の育児について，自ら主体的に考えることができる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　0%　　レポート課題は実施しない。
●**平常点**　60%　　講義や研究発表への質問やディスカッションへの参加などを総合的に評価する。
●**その他**　40%　　担当する研究発表

備考・関連URL

・身近なテーマだと思いますので，興味関心のある方はぜひ受講してください。
・本演習では，ディスカッションやグループワークの時間を多く設ける予定です。受講生には積極的な参加を期待しています。授業の形態は受講人数によって柔軟に調整します。・全ての授業を対面で実施する予定ですが，必要に応じて，一部オンラインで実施する可能性があります。

科 目 名	現代人間論系演習（心をしらべる・心理学実験）							
担当者名	下司　忠大							
人間	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

心理学の多くの領域では調査や実験を通して「心」を定量的に測定し，統計的に分析をすることで心理学的な仮説を検討します。この演習では，心理学的な仮説を検討するための統計分析を実行し，理解し，記述するために必要なスキルを演習形式で学びます。具体的には，Excelのマクロ上で操作することのできるフリーの心理統計ソフトウェアHADを用いて，操作方法の解説

と演習問題によってユーザーとしての心理統計の利用方法について学びます。

授業の到達目標

・心理統計の結果の出力を読み取れるようになる。
・心理学的仮説に応じた統計手法の選択と実行ができる。
・心理統計の結果を論文の形式で適切に記述することができる。

成績評価方法

●**試験**　70%　　15週目の定期試験日に実施します。本演習で学んだ内容についての理解度を評価します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　演習および課題への取り組み姿勢を評価します。
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

本演習では心理統計学の仕組みや数式，背景などについては最小限に留め，ユーザーとしての統計分析の実行方法に焦点をあてて学びます。したがって，心理統計学の具体的な数学的背景については別途他の授業の履修をしたり，心理統計学に関する書籍を自習することが求められます。また，本演習はゼミ論文などで心理学に関わる研究を行い，統計分析に基づいて結果の報告を行う学生を想定して演習を進めていきます。本演習の目的や狙いを十分に理解した上で履修するようにしてください。

科 目 名	現代人間論系演習（現代人と孤独）							
担当者名	市村　美帆							
人間	２単位	秋学期	水曜日	２時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

現代人が感じる「孤独」には、様々な形があると考えられる。孤独でいることに対して、不安や悲しみを感じるなどのネガティブな捉え方もできる一方で、何かを優先したり、自身が何かを楽しむために孤独（ひとり）でいることを好むといったポジティブな捉え方もできる。

本演習では、「孤独」について、社会心理学的アプローチから取り上げる。授業前半では、「孤独」について考えるワークを体験したり、各受講生が「孤独」に関する書籍や論文などを参考に理解を深め、レジュメを作成し、受講生間で「孤独」に関する理解を共有する。授業後半では、孤独を感じる場面や友人や家族、職場などの人間関係などに注目したり、孤独でいることを優先する場面、敢えて孤独に楽しむことなどの中から、個人もしくはグループで各テーマを設定し、様々な知見を調べたり、検証した成果から、「孤独とどのように向き合えばいいのか」についてプレゼンテーションを行い、ディスカッションをして理解を深める。

授業の到達目標

「孤独」に関する理解を深めると同時に、現代社会の「孤独」について、自身で調べたり、検証したりするプロセスを通して、人の心理について科学的に捉える視点を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし。
●**レポート**　40%　　最終レポートを評価対象とする。
●**平常点**　60%　　授業への参加、発表内容、ディスカッションへの参加状況、リアクションペーパーの提出等を評価対象とする。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	現代人間論系演習（現代人と社交）　社会心理学の視点から現代人の社交の礎となる心のメカニズムを学ぶ							
担当者名	中村　真							
人間	２単位	春学期	月曜日	３時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

社会心理学は，他者・集団・規範・慣習などとの関わり合いに伴って生じる社会的行動がどのようにして生起するのかを科学的に探究する心理学の一分野です。その研究領域は、対人認知や原因帰属など，自分や他者，社会的事象を理解・判断するしくみを探求する「個人レベルの研究」，説得や援助など社会的文脈の中で人が特定の他者に対してとる行動を対象とする「対人レベルの研究」，集団内での個人の行動とその一般的法則を解明する「集団レベルの研究」，流行や流言など不特定多数の人々が影響し合うことによって生じる現象の生起過程を対象とする「社会レベルの研究」など多岐に及びます。この授業では，人間の社会的行動の基礎となる多くの諸概念を紹介するとともに，対人場面や集団事態において社会的行動が生起する過程とその心理的・社会的規定要因を具体例に即して分かりやすく解説します。受講学生は，事前に配信する各回の資料に目を通したうえで授業に参加することを必須とし，授業前半に行われる担当教員による解説を聴講することで授業概要を整理するとともに，授業後半に行われる討論を通して，自らが実際に経験した社会的行動に照らし合わせながら現代人の社交の礎となる心のメカニズムに関する理解を深めます。そして，各回の最後に実施する小テストにより，授業内容の理解度を査定します。社会心理学の研究を通して得られる知識は，人間関係や集団心理への理解を導くとともに，良好な対人関係を導き，組織や集団への適応を促す支柱となるものです。社会心理学は，多くの人と関わり合いながら生きていく現代人にとって必要とされる知識・教養ともいえるでしょう。この科目は，文化構想学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「専門演習の履修を通じて，文化研究の方法を実践的に学び，専門研究に取り組むための基礎的な能力」を育成する科目です。

授業の到達目標

この授業の到達目標は，社会心理学の目的，研究方法，研究領域に関する知識を習得するとともに，社会心理学の視点から対人場面や集団事態における人間の心理と行動の基本的なしくみを理解することによって，現代人の社交の礎となる心のメカニズムを説明できるようになることを目指します。具体的には，各回の授業前半に行われる担当教員による解説の聴講および授業後半に行う他者との意見交換を通じて，「社会的動機」「対人認知」「原因帰属」「社会的態度」「説得」「社会的自己」「対人魅力」「攻撃行動」「援助行動」「集団行動」「リーダーシッ

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし

●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　100%　　社会心理学の視点から対人場面や集団事態における人間の心理と行動の基本的なしくみを理解するとともに，現代人の社交の礎となる心のメカニズムを説明できるかを問う授業内小テスト（理解度の確認）により評価を行います。授業内小テストは、各回の授業内容の理解度を査定します。具体的な内訳は，第1回授業内小テストと第14回授業内小テストが各8%（各8点満点×2=16点満点），第2回授業内小テスト～第13回授業内小テストが各7%（各7点満点×12=84点満点）です。最終成績は、小テストの合計点（100点満点）で評価します。
●**その他**　0%　　特になし

備考・関連URL

授業各回に実施する小テストの採点結果は，各回ごとに受講学生に個別にお知らせします。

科 目 名	現代人間論系演習（心の回復と成長）							
担当者名	西村　多久磨							
人間	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

心の回復や成長に対してポジティブ感情が果たす役割は大きい。本授業のターゲットは、このポジティブ感情である。特に、内発的動機づけや興味に関する感情に注目し、人を元気づける方法や、人のポジティブな感情を喚起させる理論や方法について学習していく。本授業で自分自身や他者の心の成長に関する理論や知見を学ぶことは，現代社会での生活（例：自身の生き方など）を深く考える上での新たな視点の獲得に繋がるだろう。

授業の到達目標

① 内発的動機づけや興味とは何かを説明できる。
② 内発的動機づけや興味を促進させる方法を説明できる。
③ 内発的動機づけや興味を促進させるようなプレゼンテーションを考案し、実際にそのプレゼンテーションを行うことができる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　50%　　授業中の態度から総合的に評価します。具体的には、授業中に課される課題への取り組みやディスカッションへの参加態度を評価の対象とします。
●**その他**　50%　　第12回目、13回目、14回目の授業で予定されているプレゼンテーションでは、受講生全員に発表をしてもらいます。授業で学んだことが活かされているかどうかを評価します。

備考・関連URL

授業では、毎回，グループディスカッションを予定しています。
受講者の人数に応じて、授業で扱うテーマや日程等を調整する場合があります。
なお、成績は毎回の授業に出席することを前提に算出しますので、極力、欠席や遅刻等はしないように心がけてください。

科 目 名	現代人間論系演習（人間関係の生涯発達）　青年期の人間関係を理解する							
担当者名	中井　大介							
人間	2単位	秋学期	水曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

青年期は「児童期」と「成人期」の間に位置し，子どもから大人への「移行期」とされています。青年期は心身の発達や性ホルモンの影響等により，心理・社会面，健康面，進路面，学習面に様々な変化が起こります。そのため，青年期は自己を模索する時期でもあり，その重要さとともに動揺がみられる時期でもあります。本演習では，青年期の基礎的な知識を理解し，複雑な現代社会に生きる青年期の自己理解や他者理解に役立つ知見を獲得することを目的とします。具体的には，①青年期の人間関係の特徴，②青年期の認知，情動，行動の特徴，③青年期の発達課題の特徴，等について，理解を深めることを目指します。

授業の到達目標

人の生涯発達において，青年期の人間関係がいかに構築され，その中で青年はどのようにふるまうのか，理解・説明できるようになること。具体的には以下の4点を目指します。
①青年期の人間関係の特徴を説明できる。
②青年期の認知，情動，行動の特徴を説明できる。
③青年期の発達課題の特徴を説明できる。
④現代の青年期の特徴を心理学の観点から自分なりに考え，論じることができる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　各回のテーマに関する小レポートを評価対象とします。
●**平常点**　40%　　自身が担当する文献を十分理解・咀嚼した上で適切に発表できているかを評価します。
●**その他**　20%　　質疑応答やディスカッションの参加の程度を評価します。

科 目 名	現代人間論系演習（現代社会における心理学の意義）　遺伝と環境の影響力から社会を考える							
担当者名	小塩　真司							
人間	2単位	秋学期	火曜日	1時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

「○○の遺伝率は×%」という言説は，少し調べれば世の中にあふれていることが分かる。しかし，何をもって「×%」という研究知見を得ているのだろうかということは，大多数の人々は知らないままに「×%」という言説を受け入れている。また「知能の遺伝率は80%」という話を聞くと，「両親の知能が子に80%伝わる」と「誤解」することも頻繁に生じる。しかし，心理

的な様々な特性や能力の個人差に対して，遺伝の影響力は無視できるわけではない。では，このような現状をどのように理解すればよいのだろうか。また，社会においてどのような対処をすることができるのだろうか。この演習では，2冊の書籍を通じて，心理的な諸特性（知能，学力，パーソナリティなど）に対する遺伝と環境の影響力とはどのようなものであるのかを理解し，社会ではどのような対応が可能であるのかを考える。授業は基本的に対面で行い，グループに分かれてテキストの内容を「講義」してもらう。グループ分けや発表準備の回はオンラインで行う場合がある。具体的な指示はMoodleに示すので，必ず確認すること。

授業の到達目標

世の中で広まっている遺伝と環境の言説についての問題点を理解する。
心理特性に対する遺伝と環境の影響力について，正しく理解する。
これらを通じて，文化構想学部におけるディプロマ・ポリシーにおける「人と情報が地球規模で交流し，文化が複雑に絡まりあい，多面的な様相がみられる時代を生き抜くための幅広い教養」を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない
●**レポート**　50%　　最終レポートの内容の適切さ，議論の内容を評価する。
●**平常点**　50%　　発表の内容やディスカッションの参加を評価する。
●**その他**　0%　　特になし

備考・関連URL

小塩研究室：https://oshio.kinsta.cloud

科 目 名	現代人間論系演習（心の理解とケア・心理演習）							
担当者名	越川　房子							
人間	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本演習では、心の理解に関する理論とケアの技法について学ぶ。具体的には、状況と行動の理解に基づく理論・技法として、行動療法、応用行動分析、認知行動療法、マインドフルネスなどを取り上げる。これらの理論と技法の学習においては、ロールプレイング、コミュニケーション技術、心理検査の利用の仕方、支援を要する者の心理、対象者のニーズの把握、適切なフィードバックの方法、支援計画のたてかた、チームアプローチの心得等についての学習が含まれる。 尚、本演習は、公認心理師の国家試験受験資格に関わる演習科目であるため、定員が15名に設定されている。備考欄を必ず確認して下さい

授業の到達目標

心の問題のアセスメント方法、主要な精神疾患、および臨床心理学の主要理論とその技法について理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　60%　　60点：日常生活への応用も含めて、学習した内容をよく理解している、50点：学習した内容をよく理解している、40点：学習した内容をかなり理解している、
30点：学習した内容をある程度理解している、20点：学習した内容の理解が不十分である、10点：学習した内容を全く理解していない、0点：試験を欠席した
●**平常点**　40%　　出席回数と出席カードに自由に記入するコメントを基に評価する。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

本演習の履修を希望する場合は、2025年3月31日までに科目担当者（kfusako@waseda.jp）に、メールで下記の事項をお知らせ下さい。 その際のメールのタイトルは必ず　心の理解とケア・心理演習の受講希望届　　として下さい。
学籍番号
氏名
受講理由　公認心理師（国家資格）受験を予定している／内容に興味がある／曜日時限の都合がよい　など　（複数可）
基本的に対面授業を予定していますが、オンデマンド教材による学習を併用する可能性があります。諸連絡はWaseda Moodle のアナウンスメントを利用して行いますので、適宜確認をお願いします。
受講生に臨むこと
授業中に担当教員から質問が出され、周囲の学生と一緒にその回答を考え、発表を求められる場合があります。パス（回答しない）を認めていますが、積極的に取り組むことを希望します。 また授業では、ペアになって、セラピストとクライエントのロールプレイを行う場合があります。積極的に取り組むことを期待します。

科 目 名	現代人間論系演習（クィア・スタディーズ）							
担当者名	井芹　真紀子							
人間	2単位	春学期	水曜日	5時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本演習では、ジェンダーやセクシュアリティをめぐるさまざまな規範に対して批判的介入を行ってきたクィア・スタディーズという学問領域が、どのような社会的背景から、どのようなテーマを、どのような視点によって論じてきたかを包括的に学ぶ。その創成期にあたる1990年代から現在にかけて、クィア理論における中心的な論点を示してきた重要文献の講読を行うとともに、それらを用いて具体的な文化的・社会的事象について批判的に考察するための視座を養う。
演習を通じて、クィア・スタディーズの「広領域的・学融合的アプローチ」（ディプロマポリシーより）を学び、社会や文化を理解する上で欠くことのできないジェンダー、セクシュアリティに関する議論を適切に理解するための学問的基礎を身につける。

授業の到達目標

・ジェンダー・セクシュアリティに関する議論を理解する上で必要となる、基本的な用語や概念、トピックを理解する。
・ジェンダーやセクシュアリティについて議論を行う際に不可欠な基本姿勢と批評的アプローチを身につける。

・クィア理論が展開してきたさまざまな批評実践を、それぞれの歴史的・社会的文脈に位置づけながら正確に読解する。また、それらの視座を適切に用いて、現在のジェンダー・セクシュアリティをめぐる社会的・文化的事象について批判的に分析・考察することができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　40%　　・形式
・論理構成
・理解度
・独創性
を総合的に評価します。
●**平常点**　20%　　授業への参加・貢献度
（授業の3分の2以上の出席がない場合、成績評価対象となりません）
●**その他**　40%　　・課題論文の発表：20%
・期末レポートの構想発表およびピアレビュー：20%

備考・関連URL

・本演習は、ジェンダー・セクシュアリティに関する議論の学修を目的として、多くの性的なイシューや表現を扱い、論じるものであるため、履修の際は十分に留意すること。
・授業中（moodleの投稿も含む）、意図的に差別発言を繰り返す・嫌がらせを行うなどの悪質な言動を、講師の警告を受けてもなお続ける受講者がいた場合、退室を求める、あるいは授業への出席を認めない可能性がある。その場合、授業の単位は与えられない。
・授業内容については、履修者の人数などに応じて進度や内容、成績評価の割合が多少変更される可能性がある。・初回のオリエンテーションで文献講読の発表担当者を決めるので、履修を考えている学生は必ず出席してください。

科目名	現代人間論系演習（福祉社会の臨界）							
担当者名	岡部　耕典							
人間	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

社会の構成員がケアや再分配について十分な配慮をもっている社会が〈福祉社会〉である。権力的で中央集権的な〈福祉国家〉＝「大きな政府」から、私たちひとり一人の生が毀損されない〈福祉社会〉＝「分配する最少国家」への移行が求められている。しかし、グローバリズムと金融資本主義の進展は、能力主義・私的所有・自己責任論に裏打ちされた「小さな政府」へと私たちを追い立て、そのせめぎあうところに解かねばならない様々なアポリアを現出させている。

本演習は、以下の7つのアポリアにかんする講義及び関連映像視聴の回とそれを踏まえてディスカッションと発表を行う回を交互に繰り返す反転授業の形式で行われる。また、演習テーマに関連する時事問題も適宜織り込んでいく予定である。

・新型出生前検査と「命の選別」
・脳死と臓器移植
・「尊厳」死と終末期医療のエコノミー
・〈認知症〉と社会的入院
・マイノリティと／の〈貧困〉
・ヘイトスピーチ　規制とカウンターのはざまで
・「社会的企業」は解答となるのか

授業の到達目標

福祉社会の臨界にせめぎあうさまざまな課題の検討を通じて、生き方の自由が生存の平等を棄損しない社会の在り方の構想を、自らの生き方の問い直しへと接続し、専門研究に取り組むための基礎的な力を培う。

成績評価方法

Moodleフォーラムの小レポート及びディスカッションへの参画姿勢により総合的に評価する。（期末レポートは実施しない）

備考・関連URL

・本演習は、講義を中心とする回とディスカッションを中心とする回を交互に繰り返す反転授業を基本とする対面授業である。
・小レポートの投稿締切は初回を除き**授業から4日後（授業翌週月曜日）**となる。
・出席は教場で確認する。
・質問は授業終了後やMoodleのメール機能を使って随時応答する。
岡部耕典研究室　https://k-okabe.w.waseda.jp/

科目名	現代人間論系演習（エスノメソドロジーの方法）　相互行為における行為と身体							
担当者名	西阪　仰							
人間	2単位	春学期	水曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この授業では，エスノメソドロジー的相互行為分析，とくに「会話分析」と呼ばれる分析法の基本的な考え方と方法を紹介する．社会のの基盤である社会的相互行為がどのように組織されているかを考察する．会話分析は，実際の会話の録音・録画を，発話の重なりやわずかな沈黙を見逃さずに，詳細に検討する．そのような詳細な分析がなぜ必要なのか，人間の行為にとって，そのような細かなことがらはどのような意味があるのかなどを，考える．本年度は，とくに身体の動きと行為の構成の関係をいろいろな角度から考えたい．

授業の到達目標

「会話分析」の分析手法を学習する．その過程において，そもそも人間の相互行為とはどのように成り立っているのかについての，様々な洞察を獲得する．

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　100%　　毎回の課題および授業時での発言により評価する。(課題は，一つでも未提出のものがあると，不合格となる。)
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

・初回欠席者は、下の授業ホームページを必ず確認し、第2回のための課題を行なうこと.
・授業ホームページを（http://www.augnishizaka.com/waseda/2024ca1.html）3月に公開する．重要な注意も記載されているので，必ず事前に見ておくこと.
・遅刻・欠席厳禁.（遅刻・欠席は本人の不利益であるだけでなく，遅刻者・欠席者のために議論の重複の必要などが出来し，全体の進行の遅延につながることを，よくよく自覚してほしい．4回欠席した者には，単位は認めない．無断欠席・無断遅刻が2回あった場合，単位を認めない.）
・成績評価は，平常点（出席・発言・毎週の課題）によりおこなう．ただし，課題は，一つでも未提出のものがあった場合は，不合格となるので注意すること.

科 目 名	現代人間論系演習（相互承認の技法）「悪い言葉」を考える							
担当者名	森山　至貴							
人間	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本演習では、言語哲学の分野において近年重要なトピックとされている、嘘、ミスリード、蔑称などの「悪い言葉」についての文献を購読する。 日常の相互行為における不適切な言語使用について討論をはさみつつ学習を深めることで、相互行為によって成り立つ人間社会の本質に迫る(ディプロマ・ポリシー)営為を反照的におこなうことを目的とする。

授業の到達目標

・「悪い言葉」の内実についての哲学的な説明を理解できるようになる
・他者との間の具体的な言語行為について、言語哲学の枠組みを用いて議論できるようになる
・言葉による差別の諸相を知った上で、望ましい社会のあり方について構想できるようになる

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　・学期末にレポートを課します。詳細については授業中にお知らせします。
●**平常点**　50%　　・担当回におけるレジュメおよび発表
・授業中の議論における発言
などを総合的に判断して成績を評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	現代人間論系演習（日常動作の社会学）							
担当者名	鈴木　南音							
人間	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

社会学者アーヴィング・ゴッフマンが主張したように、わたしたちの日常生活における振る舞いは、その社会的状況において適切な振る舞い方があるという点で、演技をすることに似ています。
この演習では、社会学のエスノメソドロジー・会話分析の知見を逐次参照しつつ、コミュニケーションのなかで現れる間合いや視線の動きなどの微細な現象を検討しながら、日常生活における振る舞い（会話や身振りなど）や、テレビやラジオ番組などを、社会学の立場から分析することについて学びます。そのことを通して、いわば、日常生活という舞台が、どう形作られているのかを社会学的に検討していきます。なお、授業の進捗具合によっては、各週の内容を調整することがあります。

授業の到達目標

・社会学的な視点から、日常生活における相互行為を分析できるようになる。
・会話データに対する分析の妥当性を、批判的に吟味・議論ができるようになる。
・自分自身で会話データを収集し、会話分析の方法を用いて、基礎的な分析ができるようになる。
・会話データの分析に関して、他者と議論し、協働して一つの知見を提示できるようになる。

成績評価方法

・各回のリアクションペーパーへの回答
・授業中の議論参加への積極性
・中間課題（レポートまたは読書課題）の質
・グループワークの成果・貢献度
以上を総合的に評価します。
とくにグループワークについては、議論をリードできたかだけではなく、グループの発表に各々の得意分野を活かしながら、円滑な議論にどう貢献したのかを評価します。
（リアクションペーパーを除いて）1つでも課題の提出がない場合は、単位を認めませんので注意してください。
また、出席に関して、遅刻・欠席は減点としますので注意してください。
4回以上の欠席、または、2回以上の無断欠席を行なった場合、（やむをえぬ特別な事情があった場合を除いて）単位を認めません。
欠席にあたっては、必ず、ご自身で、メールで連絡をするようにしてください。

備考・関連URL

・受講者の関心・理解度に応じて、シラバスの内容を若干変更することがあります。また、受講者の関心に応じて、招聘講師

を呼ぶ可能性があります。・議論や発言をする機会の多い授業です。・グループワーク遂行にあたっては、事前準備にそれなりの時間がかかると思います。このことに留意し、履修登録するようにしてください。

科 目 名	現代人間論系演習（福祉文化の理論と実践） 福祉を文化の「メガネ」で分析する							
担当者名	馬場　清							
人間	２単位	春学期	金曜日	１時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本講義では、福祉の現場で起きている事象を「文化」というフィルターを通して見ることで見えてくる「福祉文化」を取り上げ、そのあり方を問い直し、新たな福祉文化創造のための方向性を、様々な演習を通して考える。

授業の到達目標

日本固有の「福祉文化」（特に負の福祉文化）について、その実態や背景、さらには課題解決の方向性について、自分なりに意見を持つことができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　100%　　出席、授業ごとに行われる演習への参加態度をもとに評価する。
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	現代人間論系演習（ダイバーシティ研究の実践） エスノグラフィー入門							
担当者名	深田　耕一郎							
人間	２単位	秋学期	月曜日	２時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本授業は、エスノグラフィーを作成することを通して、人びとが生きる現場の単独性に接近することを目標とする。エスノグラフィーとは、社会学や文化人類学の分野で実践されてきた調査技法であり、調査者自身が、対象世界に入り込み、その現場のリアリティを内側から理解する調査・研究の技法である。

そのようにエスノグラフィーは、第1には「調査の技法」として説明することができる。第2には「生の技法」としても理解することができる。というのは、エスノグラフィーを通じて、調査者は対象世界の人びとと深く交流し、その出会いの以前と以後とでは、同じ人間ではなくなってしまったといえるくらい、調査者自身が変化を遂げるからである。そしてその変化じたいを表現の一部に組み込み、考察の対象とするところがエスノグラフィーの大きな特徴である。エスノグラフィーは自身の生の一部を構成することとなり、気がつけば、その人はそれなしには生きることができなくなってしまうのである。

エスノグラフィーにおいては、個人・集団の単独性（singularity）をつかむことに価値が置かれる。単独性とは、他でもない「この人」「このもの」の固有性（this-ness）をいう。

一般性との比較において生じる個体性を特殊性（particularity）と定義するならば、単独性とは、その人から立ち上がってくる代替不可能で比較不可能な個体性である。たとえば、「障害」は「健常」という「一般性」に照らしたときに認識される「特殊性」だが、その人が発する、障害も含めた独特の雰囲気、空気感、関係性といったものは、「その人その世界の何か」としかいいようのない「単独性」として理解されるのである。

なお、担当者はこれまで、次のような個人・集団に魅了され、エスノグラフィックな記述を実践してきた。個人では、横塚晃一、新田勲、小田政利、海老原宏美、きだみのる、柳澤寿男といった人物、また集団では、自立生活センター（CIL）、自立援助ホーム、だめ連といったグループである。

人びとの単独性に接近するということは、その人その世界をリスペクトをもってかかわることであり、おのずと世界の多様性を認識することに通じる。エスノグラフィーという研究実践によって、他者理解を深め、その照り返しとしての自己理解を深める。こうした取り組みは、文化構想学部のカリキュラム・ポリシーが明示する「学生同士が互いに刺激し合い切磋琢磨する環境」を意味しており、相互の研究発表やディスカッションを通じて認識の新たな地点に到達することを目ざす。

授業の到達目標

本授業の目標は、「調査技法としてのエスノグラフィー」を理解し、それを実践できるようになることである。具体的には、特定の集団にかかわり、そのなかの諸個人の生活世界を観察し、観察した事柄を記述できるようになる。この過程においては他者との繊細なコミュニケーションが求められ、自己に対しても反省的な態度が重要になる。こうした一連の過程を通じて「生の技法としてのエスノグラフィー」の一端を経験することも本授業の目標である。

以上の到達目標は、文化構想学部が掲げるディプロマ・ポリシーの「人間と社会の本質に迫ることに

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　50%　　作成したエスノグラフィーの内容
●**平常点**　50%　　演習におけるディスカッションや研究発表の内容
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	現代人間論系演習（ひきこもりからみる社会）							
担当者名	石川　良子							
人間	２単位	春学期	水曜日	２時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

「ひきこもり」に関連する文献を取り上げ、個人発表もしくはグループ発表と、ディスカッションを行います。当事者にとって「ひきこもり」とはどういう経験なのか、「ひきこもり」が問題になる社会とはどのような社会か。この問いをスタート地点としますが、受講者一人ひとりが自分なりの問いを見つけ、それに対して一定の見解を得ることを目指します。また、「ひきこもり」を"特殊・特別なあの人たちの問題"として自分と隔たったものとして捉えるのではなく、自分自身の人生・暮らし・生き方に引きつけるようにしてください。

授業の到達目標

当事者にとって「ひきこもり」とはどういう経験なのか、「ひきこもり」が問題になる社会とはどのような社会なのか理解するとともに、自分なりに立てた問いに対して一定の見解を得ること。

成績評価方法

授業内の報告、議論への貢献、最終レポート、出席状況などを総合的に検討します。

備考・関連URL

・授業計画は履修者の関心、進行状況などに応じて柔軟に変更します。・毎回の課題・授業を通じて思考を積み重ね、深めていくことが大切です。したがって、報告を担当するときだけ出席するようなことはやめてください。

科 目 名	現代人間論系演習（エイジングと生活文化）							
担当者名	辻　浩							
人間	2単位	春学期	火曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

人間は年齢を重ねることでどのような生活文化をつくりだしていくのかを、高齢者が生きてきた時代と高齢期の課題を通して考える。

授業の到達目標

エイジングと生活文化について、課題を見つけ、それを調べ、他者との意見交換を通じて、自身の考える深め、それを他者に説明できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　50%　　設定されたテーマについて自分で調べたことと授業で出された意見を反映しているか（70%）、適切な文章表現になっているか（30%）
●**レポート**　30%　　担当することになったテーマについて集めた情報の質と量（70%）、発表の仕方（30%）
●**平常点**　20%　　出席状況（50%）、討議への参加具合（50%）
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	現代人間論系演習（地域福祉論）							
担当者名	辻　浩							
人間	2単位	秋学期	火曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

地域福祉が今日の社会福祉の基本的なかたちになってきた背景を知るとともに、地域福祉の仕組みを学ぶ。

授業の到達目標

地域福祉の考え方や仕組みについて、自分で調べ、課題を考え、他者との意見交換を通じて、自分の考えを深めるとともに、自分の考えを他者に説明できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　50%　　テーマについて自分で調べたことと授業で話し合われたことを反映しているか（70%）、適切な文章であるか（30%）
●**レポート**　30%　　課題について自分で集めた情報の質と量（70%）、適切な発表であるか（30%）
●**平常点**　20%　　出席状況（50%）、討議への参加状況（50%）
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	現代人間論系演習（ケアリングの諸相）　フェミニズムの観点からケアの倫理について考える							
担当者名	中村　香住							
人間	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

ケアの倫理やケア労働に関する文献を皆で輪読する、文献講読の授業です。
特にフェミニズムの観点からケアについて執筆された文献を扱う予定です。
具体的にどの文献を講読するかは、初回授業で受講生と相談して決めます（よって、初回までに文献を購入・入手する必要はありません）。
講師が想定している文献候補は、「参考文献」の欄に示しましたので、参考にしてください。受講生の興味関心によっては、これ以外の文献を講読することも可能です。

授業の到達目標

（1）フェミニズムの観点から書かれたケアの倫理やケア労働についての基礎的な文献を読み解けるようになること。
（2）文献を読んで得た知識や理論を用いて、具体的な社会現象やポピュラーカルチャーについて分析できるようになること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　レポートの論理構成、説得力、授業で学んだ視点が生かされているか
●**平常点**　50%　　出席、ディスカッションなどにおける授業への貢献度
●**その他**　0%

備考・関連URL

こちらは講師のresearchmapです。講師がどんな研究関心を持っているか知りたい人は見てみてください。 https://researchmap.jp/kasuminakamura もし受講前に質問があれば、 rero70@gmail.com までメールをお送りください。

科 目 名	現代人間論系演習（調査データ　収集・分析の手法）							
担当者名	吉野　伸哉							
人間	２単位	秋学期	金曜日	２時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本授業では，量的データの収集から分析・解釈，そしてそれらをまとめるための基礎的な知識や技能を学ぶ。

心理学や社会学などの分野では量的データの分析を基に研究が遂行されることが多い。量的データの取り扱いには，統計を含めた一連の知識と経験が必要である。本授業はそのエッセンスを可能な限り抽出して解説するものであり，同時に受講者にはデータの分析にも取り組んでもらう。これらを通じて，研究論文を読んだり，自ら研究をおこなったりするための土台を築いてほしい。

本授業の序盤では調査やデータの収集に関する概要を学ぶ。中盤ではデータ分析で用いる統計の知識と技能について，講義と実習を通じて学ぶ。終盤では実際のデータを用いて自身で分析を実施し，結果をまとめる。

なお，本授業では統計ソフトのHAD（統計解析が可能なExcelのプログラム）もしくはSPSSを利用する。そのため，毎回PCを持参する必要がある。

授業の到達目標

量的データの利用方法や収集手続きについて理解する。

量的データの分析に必要な基礎的な知識や技能を習得する。

量的データから示された結果を適切に解釈し，記述する。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　50%　　第12回から第14回の授業内でデータ分析に取り組み，これらの結果をまとめたレポートを学期末に提出してもらいます。

●**平常点**　50%　　毎回の授業において授業の感想や理解度をWaseda Moodle を通じて報告してもらいます。

●**その他**　0%　　理由なく4回以上欠席（大幅な遅刻を含む）した方は不合格となります。

備考・関連ＵＲＬ

・本授業では「心理統計」がベースになりますが，受講者が他分野でも共通する知識や技能を習得できるように努めます。

・受講者の人数や理解度に応じて各回の内容を変更する場合があります。

科 目 名	現代人間論系演習（近代的人間観の論理と倫理）　ジョン・ステュアート・ミル『自由論』を読む							
担当者名	田原　彰太郎							
人間	２単位	春学期	月曜日	２時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この演習では、ジョン・ステュアート・ミル『自由論』を読みます。近代的人間観を考えるうえで「自由」という概念は不可欠の概念です。ミルのこの著作は、近代以降の自由を考えるうえでの重要な論点や議論を提供してくれています。私たちはこの著作を精読することによって、ミルがこの著作を書いた時代からいまに至るまで続く自由を巡る問題群、すなわち、マイノリティの抑圧、寛容、表現の自由、個性、自由の重要性、自由と他者に対する危害といった問題群をともに考えていくことになるはずです。この演習は、学生の発表とそれに続くクラス全体での議論を中心に進んでいきます。また、毎回の授業でコメントカードを書いてもらう予定です。そのコメントカードはこの演習の参加者全員に公開する予定です。

授業の到達目標

近代的人間観を理解するための手掛かりとして、ミルが提示した自由に関する問題群とそれに関する議論を十分に理解し、その議論を批判的に検討できることを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しません。

●**レポート**　50%　　期末レポートを課し、それを評価対象とします。

●**平常点**　50%　　演習への参加度（口頭発表や授業中の積極的な発言など）を評価対象とします。

●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連ＵＲＬ

・ミルの『自由論』には複数の翻訳が出版されていますが、授業の進行上、参加者全員が同じ翻訳をもっていることが望ましいので、上で指定している岩波文庫の翻訳を手許に置くようにしてください。・第一回目の授業で発表者の割り当てを行いますので、できるだけ第一回目の授業から出席するようにしてください。やむを得ず第一回目を欠席する方は、発表日に関して自分から教員に相談をするようにしてください。

・受講生の人数や受講生の関心によって、授業計画が変更になる場合があります。

科 目 名	現代人間論系演習（生きて働くことの臨界）　生きて働く、と／の福祉							
担当者名	岡部　耕典							
人間	２単位	春学期	木曜日	３時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

生きて在るために働き、そこで稼ぐ／“生きがい”を得ることについて考える。就活や非正規雇用の“生きづらさ”、若者の労働運動、能力主義や分配的正義、生活保護バッシングなどの福祉社会のイシューを参照しつつ、働くことを含む生き方の自由が生存の平等を棄損しない社会の在り方やそのために必要なシステムを構想する。

本演習は以下の7つのテーマに基づく講義及び関連映像視聴の回とそれを踏まえてディスカッションと発表を行う回を交互に繰り返す反転授業の形式で行われる。また、演習テーマに関連する時事問題についても適宜織り込んでいく予定である。

・コロナ禍と生存格差

・生きて働くこと

・労働／参加／所得保障

・就活・大学・奨学金
・再分配・分配的正義
・グローバリゼーションと資本主義

授業の到達目標

働くことを含む生き方の自由が生存の平等を棄損しない社会の在り方の構想を、自らの生き方の問い直しへと接続し、専門研究に取り組むための基礎的な力を培う。

成績評価方法

Moodleフォーラムの小レポート及びディスカッションへの参画姿勢により総合的に評価する。（期末レポートは実施しない）

備考・関連URL

・本演習は、講義を中心とする回とディスカッションを中心とする回を交互に繰り返す反転授業を基本とする対面授業である。
・小レポートの提出締切は初回を除き**授業から4日後（授業翌週月曜日）**となる。
・出席は教場で確認する。
・質問は授業時間後やMoodleのメール機能を使って随時応答する。
岡部耕典研究室　https://k-okabe.w.waseda.jp/

科目名	現代人間論系演習（フェミニズム理論）　フェミニズム現象学とは？							
担当者名	森山　至貴							
人間	２単位	秋学期	火曜日	２時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本演習では、現実の経験に根差すことを使命とする現象学の立場がフェミニズムの議論に投げかける問いとその意義について、文献を購読しながら検討する。日本でも急速に議論が深化しつつあるフェミニズム現象学の議論を知ることで、相互行為によって成り立つ人間社会の本質に迫る（ディプロマ・ポリシー）営為を反照的におこなうことを目的とする。

授業の到達目標

・フェミニスト現象学についての一般的な知識を身につけ説明できる
・フェミニズム理論にとっての現象学的立場の意義について理解する
・女性差別の具体的な諸相を知った上で、望ましい社会のあり方についてその理念を学術的議論に基づいて構想できる

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　・学期末にレポートを課します。詳細については授業中にお知らせします。
●**平常点**　50%　　・担当回におけるレジュメおよび発表
・授業中の議論における発言
などを総合的に判断して成績を評価します。
●**その他**　0%

科目名	社会構築論系総合演習2　フィールドワーク、インタビュー調査の方法論を身につける							
担当者名	高野　孝子　他／金　敬黙							
構築	４単位	秋学期	金３時限	金４時限	２年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本授業は髙野孝子先生と金敬黙先生による合同／分担形式で進みます。また学部における「社会構築論系総合演習2」は大学院修士課程の「社会構築論特論2」と合同で展開されます。大学院生と学部生に求める課題や調査は履修者の経験や知識に基づいて異なる場合がありますので、詳しくは教場で説明します。

初回を含む最初の6〜7回（秋クォーター期間）の主な担当は金敬黙先生によって行われます。そして、最終回を含む後半の6〜7回（冬クォーター期間）は髙野孝子先生によって授業が行われます。

初回と最終回そして、授業の途中で合同指導または分担指導が行われる可能性があります。これらについては授業の履修者の数やテーマによって調整が行われますので、授業の最初の1−2回をはじめMoodleでのアナウンスなどを必ず参照してください。

授業の到達目標

・質的研究のいくつかの方法論を身につけることを到達目標にします。その中にはインタビュー調査のトレーニング、参与観察、エスノグラフィックリサーチ、フィールドワーク、アクション・リサーチ、オーラルヒストリーなどの似て非なるまたは重なり合う方法論が導入されます。
・質的研究の方法論は、量的調査との補完関係におかれた場合にその意味や効果をさらに発揮します。言い換えると、量的調査と質的調査は相互排他的なものではなく相互補完的なものであることをご理解ください。
・具体的な社会的課題や自然と人間社会の課題に着目した実践知の探究ならびに社会的な貢献につながり得る学問の探究を重視します。
・事前事後学習の内容は、具体的には担当教員が授業ならびにMoodleなどで別途アナウンスします。
・フィールドワークのための実践的な方法論を修得し、それに基づくエッセイやルポ、エスノグラフィーやフォト・動画ドキュメンタリーの制作と発表を行う予定です。
・ジャーナリズムやノンフィクション、ドキュメンタリー的な手法に限らず、文芸作品や芸術表象につながる表象のあり方を含めた学びを視野に入れます。言い換えると、単なるレポートや論文などの手法に限らない人文学、社会科学等の学問領域の分析と記述、表象を含めた学びを求めます。

成績評価方法

演習への参加と議論（40%）
中間課題の発表（30%）
最終的な成果物（30%）

備考・関連URL

対面授業を基本にしますが、最大7週以内でオンライン（Zoom）を活用する場合もあります。

大学の近辺や都内でのフィールドワークや調査を繰り返し行う可能性があります。
また、任意での野外フィールドワークや合宿などを行う可能性がありますので積極的な参加を求めます。

科 目 名	社会構築論系総合演習1　SRHRと性教育							
担当者名	豊田　真穂　他／森山　至貴							
構築	4単位	春学期	金3時限	金4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

「セクシュアル・リプロダクティブ・ライツ／ヘルス」（SRHR: Sexual and Reproductive Health and Rights）という新しい人権概念をご存知でしょうか。性と生殖に関する健康と権利と訳されるSRHRとは、自分の身体や性／生殖に関して十分な情報を得られ、自分の望むものを選んで決められること。言い換えれば、自分の人生は自分のもので、どのような人生を歩むかについて、自由に決められることです。そんな当たり前のことが、「新しい人権概念」として世界的に認められるようになったのは、ざっくりいうと1990年代以降と言えます。2000年代以降になると、SRHRはすべての人が生まれながらにもつ「基本的人権」のひとつと考えられ、2015年国連で採択されたSDGsのターゲット3.7や5.6にも掲げられています。

この人権を保障するためには、知識や技術、医療やケアなどの支援も必要になります。なかでも、「十分な情報を得る」ことにつながる性教育は、SRHRを保障していく上で非常に重要な要素です。世界的には、国際セクシュアリティ教育ガイダンスに基づく「包括的性教育」がスタンダードとされてきましたが、日本ではさまざまな要因からいまだ課題が山積の状態です。

そこで本演習では、こうした日本の現状と世界のスタンダードを検討し、最終的には受講生のみなさんが性教育の「授業」をつくることを課題とします。

＊本演習では、性的事象を扱います。暴力的な事象を扱う回もあります。

＊授業内で、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、グループ・プレゼンなど、グループで行う課題が多く課される予定です。

授業の到達目標

・現状に対する批判的視点をもつことができるようになる
・SRHRとは何かを説明できるようになる
・SRHRを保障するための知識を身につける
・自分の身体と人生について自由に決められるようになる

成績評価方法

出席、グループ・ワーク、プレゼン等の平常点（60%）と期末レポート（40%）で総合的に評価します。

科 目 名	社会構築論系共通演習（フィールドワーク論）							
担当者名	田中　李歩							
構築	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

フィールドワークとは、調査対象が存在する場（フィールド）に身をおき、そこで一次資料を収集する調査方法である。調査票調査、インタビュー調査、参与観察、文書館等での文献調査などさまざまな手法による調査が、地域研究、社会学、人類学、歴史学、言語学等の多様な学問分野において、研究活動の一環として行われている。

本演習では、フィールドワークの基本を文献講読を通して学びながら、各自関心のあるテーマとその先行研究を検討したうえで、（原則として）都内で実施可能なフィールドワーク計画を策定し、その計画に沿ってフィールドワークを実施する。最終的にはフィールドワークの成果を口頭発表ならびに論文の形にまとめることを目指す。

授業の到達目標

（1）フィールドワークとそこで用いられる手法を理解することができる。
（2）自身の関心に沿って先行研究を検討し、フィールドワーク計画を策定することができる。
（3）計画に沿ってフィールドワークを実施することができる。
（4）フィールドワークの成果を口頭発表および論文の形でまとめることができる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　50%　　フィールドワークの成果を論文形式のレポートとしてまとめる。
●**平常点**　50%　　授業への出席、フィールドワーク、発表。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

フィールドワークの実施を前提にした演習であるが、授業展開や社会情勢などによって授業スケジュールやフィールドワークの内容に変更が生じることもある。また受講生数に応じて中間発表・最終発表の日程に変更が生じることもある。これらの変更がある場合は授業内・Moodle内で指示する。 第2回以降、複数回をオンラインで実施する可能性がある（具体的なオンライン実施回は、第1回授業時に相談して決定する）。

なお、授業回ごとの担当者は以下のとおり。
第1回：田畑・田中
第2回～第14回：田中

科 目 名	社会構築論系共通演習（フィールド基礎演習1）　農と地域							
担当者名	高野　孝子							
構築	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

自然科学や社会科学の様々な学問分野の調査研究において、「フィールド」すなわち「現場」から一次データを収集することは極めて重要だ。人や社会を関心事とする研究では、文献調査などと組み合わせ、物事が起きている現場に身を置き、観察や聞

専門演習

き取りをすることによって探求し、理解に努め、考察を展開していくことが多い。本演習では、フィールドに出るための基礎を身につける。

授業ではフィールドワークに関する基本を学んだ後、新潟県南魚沼市に向かう。これは6月上旬の土日を一度利用するので、その1泊2日確実に参加できる人のみが本演習を履修できる。また交通費を合わせて2万円から3万円の費用がかかることを理解して履修すること。詳細は備考を参照。

南魚沼では、農村に滞在し、無農薬の米作りを学びの場としてきたNPOの取り組みを材料に、少子高齢化や農村の可能性について考えるきっかけとする。同時にその田んぼでの作業を体験し、生産、食と生態系について身体的にも理解を深める。農村で暮らす人たちの声に耳を傾け、地域について考える。互いに気づきを共有しあうことで、さまざまな視点を得ることを意識する。

フィールドに出ていくためのプロセスを体験的に学ぶ観点から、文献調査をして問を立て、研究倫理を確認し、インタビューでの質問を考える。現場では、参与観察とインタビュー／対話を実施し、戻ってからそれらを分析、考察していく。現場から得られるデータを、より正確に捉え、かつ深く考察するとはどういうことかを経験的に理解する。成果は文章と口頭でアウトプットする。

＊履修生の人数や理解度に応じて、授業計画を適宜変更する。

授業の到達目標

1） 多様なフィールドワークと手法について理解する
2） フィールドに向かう前の準備としての調査や計画を立てることができる
3） インタビューや観察、体験からデータを収集することができる
4） グループワークによって、深い考察に関する気づきを得る
5） フィールドワークの結果をアウトプットする力を身につける

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 20%　最終的なアウトプットに関し、論理性、具体性、オリジナルな学びの軌跡などで判断する
●**平常点** 80%　フィールドワークや授業への準備を含めた参加、毎回のフィードバックの記入内容、小課題への取り組みを元に評価する
●**その他** 0%

備考・関連URL

24年度と同じ場所に向かう。昨年度は数名の学生による自分本位な行動で訪問先に多大な迷惑をかけ、再訪は危ぶまれたが、大きな学びがあったという学生たちの声から、宿泊先に改めてお願いして可能になった。よって今年度は早大生として、フィールドワーカーとして特に試されると思ってよいだろう。

向かうフィールドは新潟県南魚沼市樺の沢集落（最寄駅は上越線上越国際スキー場前）。日程は、6月7-8日（土日）を予定している。1週間前後する可能性があるが、4月上旬には決定する。確実にこのフィールドワークに参加できることが履修の条件となる。実習参加の費用は履修者数によって変わるが、現地受け入れ先の経費として1人16,000円程度が想定される。交通費は手段によって変わるが、一人6,000円から13,500円ほどとなる。

感染症の状況などによっては授業のやり方やフィールドワークの場所に変更が生じることがある。

担当教員は、社会人類学、環境学、教育学、地理学などの学際的な視点で、グリーンランドや北アメリカなどの先住民族や、日本国内の農山村でのインタビュー調査などを多く手掛けてきた。キャリア初期は新聞記者やフリーライターとしても取材を重ねた。フィールドに出る基礎を学ぶことは、さまざまな局面で役に立つだろう。

科 目 名	社会構築論系共通演習（質的調査） 聞き取り調査の方法を学び、実践する							
担当者名	鬼嶋　淳							
構築	２単位	春学期	月曜日	４時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

インタビュー、参与観察、文書史料や映像記録などの分析は、数字で示された統計データなどに基づく「量的調査」と対比して、「質的調査」と呼ばれています。この授業では「質的調査」のなかでも聞き取り調査、オーラル・ヒストリーという研究方法について学びます。

他者から話を聞けば「聞き取り調査」となるわけではありません。なぜ他者に話を聞くのだろうか、どのようにしたら話を聞いたことになるのだろうか、話を聞くことは聞き手、話し手にとってどのような行為なのかなど、聞き取り調査をすることの意義について考えたうえで、受講者の皆さんにグループにわかれて聞き取り調査を実践してもらいます。

授業の到達目標

（1）聞き取り調査をする意義を理解し、グループメンバーと協力して調査を実施できる。
（2）聞き取り調査の結果を発表し、議論をふまえてレポートにまとめることができる。

成績評価方法

●**試験** 0%　なし。
●**レポート** 40%　学期末に調査報告をレポートとして提出してもらいます。
●**平常点** 60%　授業への参加状況、調査・発表・討論への貢献度で評価します。
●**その他** 0%　なし。

備考・関連URL

授業の計画、調査の実施方法・実施日は、受講者数と受講者の関心によって変更する場合があります。また、調査対象者の都合で、調査の実施日が授業時間外になる可能性があります。その場合でも本演習の目標が聞き取り調査の実践であるため、原則として「調査の実施」は必須となります。

科 目 名	社会構築論系演習（国家の成り立ちと形成1） 天皇制を読み解く							
担当者名	川尻　秋生							
構築	２単位	秋学期	火曜日	３時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本演習は、天皇制について、参加者の皆さんと議論しながら、理解を深めることを目的とします。天皇については、日本国民の誰もが知っていながら、その内実となるとあまり関心が無い、あるいは触れてはならない（タブー）のような感情を抱いている方が多いのではないでしょうか。あるいは、知りたいと思っても、実際にどのようにしたらよいのかよくわからないという場合もあるでしょう。

そこで、本演習では、様々な角度から、天皇制について考え、皆さんと討論したいと考えています。例えば、天皇の歴史（古代・中世・近世・近現代など）、女性天皇の歴史や是非、海外の皇室との比較、軍隊と天皇など、いろいろなテーマが考えられます。

もちろん、「正解」はありません。皆で考え、討論することが重要なのです。

発表方法は、5･6人を目安としてグループに分け、グループのテーマを決め、各人が調べ発表する型式です。受講者は、グループの一員として、責任を持って参加して下さい。

授業の到達目標

自分自身で参考文献を見つけ、調べ、発表することを目的とします。

授業計画　　最初に授業の概要・進め方をお話しした後、班分けを行います。その後、グループ内で検討対象を設定し、検討・発表に移ります。

なお、グループとして、2回ほどの発表になるかと思います。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　期末のレポートによる。
●**平常点**　50%　　出席・発表による。
●**その他**　0%

科 目 名	社会構築論系演習（国家の成り立ちと形成2） 論文と史料から読みとく前近代日本社会の国家と宗教・支配イデオロギー							
担当者名	徳永　健太郎							
構築	２単位	秋学期	木曜日	３時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

前近代日本社会における国家と宗教や支配イデオロギーについて、論文講読と史料講読から考えていきます。

前近代日本社会においては、宗教が大きな社会的影響力と独自の存在感をもち、さらに支配イデオロギーとしても機能していたと考えられています。特にその存在の大きかった時代が中世です。戦後歴史学では、中世成立期の宗教的な動きのなかに民衆の発展だけでなく支配イデオロギーをも見出しました。そこでこの演習では、中世成立期において宗教やその支配イデオロギーのあり方などを明らかにしようとした論文を講読し、またそうした研究が生み出された研究史的な時代状況なども加味しつつ、改めて日本中世における宗教的支配や支配イデオロギーといった問題を考えていきます。

その上で、中世成立期の宗教や支配にかかわる歴史的な文献史料を講読し、前近代日本社会における宗教と国家や社会のあり方を、具体的に、そして動態的にとらえていきます。

またこの講読を通じて、先行研究や史料から論点が導き出され議論を構築していくという、歴史学的な思考や議論のあり方も学んでもらいたいと思います。

授業の到達目標

論文講読では歴史学の研究論文に触れ、それを分析的に読解していく能力を身につけます。また講読を通じて、中世の権力と社会についての主要な先行研究とその論点を把握することを目指します。史料講読では、まず文書・記録といった中世の史料に触れ、その史料としての特質を理解します。また講読を通じて、中世史料の基本的な読み方、史料を解釈していくのに必要な辞書類、辞典類の使い方を習得します。さらに、論文や史料から論点を導き出し考察を加えるという歴史学的な議論の構築の基礎を身につけることをめざします。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　演習時の質疑・議論への参加・コメントの提出
●**その他**　70%　　講読担当部分の報告

科 目 名	社会構築論系演習（国家の拡張と成熟2） 前近代の戦争と社会							
担当者名								
構築	２単位	秋学期	水曜日	３時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

※担当者未定につきシラバス内容は2025年7月ころに更新される予定です。
以下の内容は参考として2024年度の内容を掲載していますのでご注意ください。

日本前近代の戦争について、その社会との関わりや及ぼした影響について、具体的な戦争の事例を取り上げながら、歴史的な視点から多角的に検討していく。中心となるのは前近代のなかでも最も戦争が頻発した中世とする。参加者は報告を分担し、その報告について全員で討論を行うのが授業の軸となる。

授業の到達目標

日本前近代の戦争についての理解を深め、自分なりに歴史的位置づけができるようになることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし

●**平常点**　100%　　授業で担当した報告の内容や、質疑などへの参加姿勢
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	社会構築論系演習（国家の成り立ちと形成3）　東南アジアにおける国家の形成と展開							
担当者名	深山　絵実梨							
構築	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本演習では、東南アジアの国家の形成と展開について主に考古学的な視点をもとに考えていきます。

授業では東南アジアのいくつかの地域・時代を取り上げ、講師が幾度かの講義をおこないます。また、関連するキーワードをいくつか提示しますので、受講生は選択したキーワードに関連する各地域の国家出現以前・以後の社会の様相について調べ、発表してもらいます。発表はグループまたは個人（履修人数による）で2回ほどになる予定です。

各講義や発表の後には、受講生全体で質疑応答とディスカッションをおこないます。また、各授業のはじめには、前回授業に関連する小テストを実施し、理解度を確認します。

本演習では、「文化研究の方法を実践的に学び、専門研究に取り組むための基礎的な能力を養」うことを目指します。質疑やディスカッションには積極的に参加してください。

授業の到達目標

・東南アジアの国家と考古学についての基本的な知識を獲得する。
・自身で文献を見つけ、理解し、まとめ、資料を作成し、発表できるようになる。
・質疑応答とディスカッションを通して、適切な意見表明や論理的な思考ができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　第14回の授業時間内にレポートを作成してもらいます。

レポートは与えられた課題について、授業内容を正確に参照し、質疑やディスカッションの内容を踏まえた上で論理的に議論できているかどうかによって評価します。

●**平常点**　60%　　・質疑やディスカッションに積極的に参加しているかどうかによる評価
・各人に割り当てられた発表内容の評価
・前回授業の質疑・ディスカッションを踏まえた補足資料の作成による評価
・前回授業の復習小テストによる評価
●**その他**　0%

科 目 名	社会構築論系専門演習2　「感情労働」から現代産業社会をとらえる							
担当者名	清水　拓							
構築	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

現代社会では、産業化の高度な進展とともに、第三次産業の就業者割合が非常に高くなっている。とくに対人サービス労働では、かつて第二次産業において生産技術・管理技術の進展が疎外労働をもたらしたように、資本が労働者の感情を用具化し、自己感情の疎外をもたらしている。それを「感情労働」と名づけ、この事態を問題視したのがアーリー・ホックシールドであった。本演習では、ホックシールドが「感情労働」概念を提起した古典的文献である『管理される心』の講読を中核に、関連する論文にも目を通し、感情労働から現代の産業社会のありようについて考える。

授業の到達目標

（1）「感情規則」「感情作業」等のキーワードとともに「感情労働」概念について理解する。
（2）現代の産業社会のありようについて多角的にとらえ、批判的に検討できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない
●**レポート**　40%　　期末レポート
●**平常点**　60%　　授業参加の積極度・課題提出。単位取得には全授業回数の3分の2以上の出席を必要とする。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	社会構築論系演習（国家の拡張と成熟1）							
担当者名	永島　育							
構築	2単位	春学期	火曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

【趣旨】中東は、紛争・難民に代表されるように、現代の国際社会の矛盾を引き受けている地域です。この地域の国家について知ることは、われわれの生きている現代という時代の抱える問題について考察を深めることにつながります。

【進め方】ところで私は、生成AIが世に出てからというもの、AIと授業や研究をするにはどうしたらいいだろうかと考えてきました。そこで本演習は、『中東・イスラーム研究概説』（参考文献の項目を参照）の各章を題材に、①AIがレポートを生成する、②各報告者が分析を通じてAIのレポートを批評・評価するという流れで進めていきます。この演習を通じて、みなさんとAIを使う方法や生成物の妥当性について議論したいです。

授業の到達目標

・国家をめぐる諸問題を理解する。
・近現代中東のかかえる諸問題を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　50%　　期末レポート（詳細は授業内で発表します）

●**平常点**　50%　　授業への積極的な参加、および研究報告
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	社会構築論系演習（国家の構造と変容2）							
担当者名	土田　千愛							
構築	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

グローバル化という世界的な社会変動により、既存の社会科学の方法論では分析が難しい社会現象が頻出している。たとえば、難民志願者の殺到、極右・ポピュリズムの台頭、テロリズムの頻発、移民・外国人をめぐる不平等や格差の拡大などの社会現象に、社会科学は挑戦を余儀なくされている。そのうち本演習では、移民・難民と国家の関係に焦点をあて、前半は教科書を中心に、移民・難民を取り巻く状況や様々な枠組みについて理解を深める。続いて、受講生自身に移民・難民と国家の関係に関する自由発表をしていただくことにする。この過程を通じて、受講生は自らの興味のある社会現象を分析する方法論を学ぶことを期待されている。なお、授業の内容と構成は受講生の反応により柔軟に対応することに留意されたい。

授業の到達目標

移民・難民と国家はどのような関係にあるのか、なぜ移民・難民の受け入れが容易だったり難しかったりするのかを考えることで、社会現象の分析方法を習得することが到達目標である。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施せず。
●**レポート**　60%　　学期末に自由発表に基づいた最終レポートを提出していただく。
●**平常点**　40%　　通常授業時のレポートおよびコメント、ディスカッションへの参加度合いにより判断する。
●**その他**　0%　　該当せず。

備考・関連URL

本授業は対面授業を基本とする予定だけれども、状況によりオンラインに全面的にまたは部分的に移行する場合がある。いずれにしても、授業に出席し積極的に参加する者のみが履修のこと。

科 目 名	社会構築論系演習（地域社会と国家）　地方自治の現状から考える国家と市民のあり方							
担当者名	熊本　博之							
構築	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

国家による様々な領域への介入が常態化し、そのような国家のあり方に対して疑問に思う感覚も薄れつつある現代日本社会において、そこにどのような問題が生じているのか、地方自治の現状を通して考えていきます。キーワードは在日米軍基地と沖縄、南西諸島の軍事基地建設、国土計画、自己決定権、NIMBYなどです。

秋クォーターと冬クォーターをあわせて全14回で構成します。最初の4回は前半を講義ないし解説、後半をディスカッションで進めていくことを想定しています。残りの10回は受講生の報告をベースに進めていきます。最後の回に総合討論を行う予定です。

この演習を通して、文化研究の方法を実践的に学び、専門研究に取り組むための基礎的な能力を養ってください。

授業の到達目標

・文献や資料を深く読み解き、その内容を他人にも理解可能なように説明できるようになる。
・他人の発表を偏りなく聴いた上で、主体的にコメントやディスカッションができるようになる。
・複眼的に社会の仕組みを捉え、既存の自分の価値観の再検討を行えるようになる。
・国家と市民のあるべき姿を、個々の受講生が内面化することで、主体性をもった市民として様々な意思表明ができるようになる。

成績評価方法

50%は発表の充実度を元に評価します。
残りの50%はディスカッションへの寄与度やリアクションペーパーを元に評価します。

備考・関連URL

・各回の冒頭で、提出されたリアクションペーパーのいくつかに対して応答します。そこからディスカッションに展開することもあるでしょう。・極力、全ての回に出席することを要望します。やむを得ない事情があったとしても、開講される全ての回のうち2/3以上の回に出席することは前提とします。

科 目 名	社会構築論系演習（国家の交流と対立1）　アジアにおける国際関係の近代的再編							
担当者名	柳澤　明							
構築	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

【趣旨】

「近代とは何か」という問題は、さまざまな角度から論ずることができるが、本演習では、アジアにおける前近代から近代への移行のダイナミズムと、そこに見られる諸特徴を探ることを大きな目標とし、具体的には、「国家の交流と対立」という観点から、近代における中国（清朝）の日本の関係を取り上げる。

今年度は、1871年の「日清修好条規」に焦点を当てる。この条約の締結は、それまで国交を持たなかった両国が、はじめて条約に基づく国交を樹立した、画期的なできごとであった。しかし、条約の内容に、欧米起源の近代国際法に基づく条約の単なる模倣ではない独自の要素が多く見られること、締結後、解釈や運用をめぐって種々の問題が発生したことも指摘されている。演習では、この条約に関連する3つのサブテーマ（「授業計画」参照）を立てて、それぞれのテーマにかかわるテキスト（史料）を手がかりに、近代黎明期における両国関係の実相を探る。

【進め方】

各受講者がテキスト（史料）を参照・利用しつつ適当な論題を設定して発表を行い、それをもとに質疑応答・討論を行う。テキストは事前に配布し、英語・日本語以外のテキストについては、あらかじめ日本語訳したものを使用する。なお、配布されたテキスト以外の史料を使用することも推奨する。

この科目は、「ディプロマポリシー」および「カリキュラムポリシー」にいう「専門演習」に該当する。

授業の到達目標

アジアにおいて現代につながる「近代」的な国家・社会の枠組みが成立してきた過程を、現在の視点・価値基準から描いた物語としてではなく、同時代のテキストを通じて理解することを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。

●**レポート**　50%　　期末に授業時の発表内容を基礎としたレポートを提出してもらう。テーマ設定の明確さ、テキスト・先行研究の読み込みの程度、論理構成、オリジナリティを総合的に評価する。

●**平常点**　50%　　授業時の発表内容、質疑応答・討論への主体的参加度による。

●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連ＵＲＬ

※日程や発表のトピックスは、受講者数や各人の希望などに応じて適宜調整します。※授業時の質疑応答・討論以外に、Waseda Moodle上にも質問・討論用の「フォーラム」を設置する予定です。

科 目 名	社会構築論系演習（国家の構造と変容3）							
担当者名	吉田　公記							
構築	２単位	秋学期	火曜日	４時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本科目では、移民の受け入れ社会における移民排斥を中心とする「排外主義」の問題を主題として扱う。具体的にはアメリカ、イギリス、フランス、ドイツなどの欧米諸国と、日本などの東アジア諸国における排外主義について論じた文献（教科書欄に記載）を講読し、各国の排外主義の様相や、右派政党などの排外主義勢力が台頭した背景について理解を深める。また、排外主義と同時に見られることが多いポピュリズムについても、視野を広げて検討する。

なお、授業の進め方は、章ごとの担当者による発表、および受講者間でのディスカッションなど、アクティブラーニングが主となる。

また、授業計画欄の各回の内容の実施順は、状況に応じて変更する可能性がある。

授業の到達目標

欧米と東アジアの排外主義について、国ごとの特徴を説明できるようになること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし

●**レポート**　30%　　内容：授業内で発表を担当した章の書評を作成し、学期末に提出する。

●**平常点**　70%　　内訳：①文献の担当章の発表に対する評価：40% + ②ディスカッションへの貢献やリアクションペーパーの記述内容などに対する総合的評価：30%

●**その他**　0%　　特になし

備考・関連ＵＲＬ

質問の受付や発表に対するフィードバックは、基本的に授業内で行う。

科 目 名	社会構築論系演習（国家の構造と変容4）							
担当者名	高橋　誠							
構築	２単位	秋学期	月曜日	２時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

私たちの人生の多くは「国家」の制度や国家間の関係を定める制度に規定されています。それでも多くの人は「国家」とは何かについてあまり深く考えたことはないと思います。それは「国家」において生きることを自明視させることが「国家」の力だからかもしれません。本講義では履修者とともに「国家」の成り立ち、特性、変容について考えます。そうすることは、近年世界中で観察される「国家」を超えた機関や「国家」を越えた人の移動への反発の要因を探る一助となると考えます。

本講義では、履修者にテキストの要約とテキストの内容に関する問題提起をおこなう発表をしてもらい、そのあとでクラス内議論をおこなうという形式で進めます。テキストを読み終えたあとは、担当者による「国家」に関する補足説明と、担当者の研究地域である「国家なきネイション」としてのスコットランドから「国家」を考える講義をおこなう予定です。

授業の到達目標

発表、クラス内議論を通してテキストを正確かつ批判的に読む力を身につける。

「国家」の成り立ち、特性、変容について自分の言葉で説明できるようにする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しません。

●**レポート**　60%　　講義内容を踏まえたうえで自身の考えをまとめる期末レポートを課します。

●**平常点**　40%　　テキストの1～2章分の要約・問題提起をおこなう発表。発表者による問題提起にもとづくクラス内議論。コメントシート。

●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	社会構築論系専門演習1　戦後日本石炭産業の盛衰と労働・生活・地域社会							
担当者名	清水　拓							
構築	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この授業では戦後日本の石炭産業の盛衰のプロセスと、そこで営まれていた労働・生活・地域社会について検討する。石炭産業は、その発展から衰退に至るまでのプロセスを追うことができる数少ない産業のひとつであり、かつその労働・生活・地域社会のありようは産業特性と密接に結びついていた。今日の地域社会が抱える様々な課題について考えるうえで、産業の発展・衰退を他産業に先んじて経験した石炭産業の事例から得られる知見は多い。本演習は、各テーマについて講義、映像資料視聴、文献講読、解説を組み合わせて進行する。

授業の到達目標

（1）産業の発展・衰退の過程が、労働・生活・地域社会にどのような影響をもたらすのかを理解する。
（2）地域社会が抱える課題を、当該の地域・産業に固有の文脈から理解できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　40%　　期末レポート
●**平常点**　60%　　授業参加の積極度・課題提出。単位取得には全授業回数の3分の2以上の出席を必要とする。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	社会構築論系演習（国家の拡張と成熟3）　グローバリゼーションと現代社会							
担当者名	森田　貴子							
構築	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

今日、政治・経済・文化・社会の多様な側面において、地域や国家の枠を越えた、地球規模での活動が注目されるようになってきている。世界経済がグローバル化する中で、日本企業もグローバル経営を必要とされている。

本演習は、経済活動のグローバル化を取り上げ、日本企業をテーマに、企業の成立と経営の特徴、発展過程について明らかにし、日本の未来へ向けてのあり方を考察する。

主な企業とテーマは第1回目に提示する。受講者は関心のある企業を選び、第3回目以降、担当した企業についてテーマを設定し、文献・資料を調査し、論点を発展させて報告する。特に関心のある企業があれば、相談の上、取り上げても良い。

授業の到達目標

経済活動のグローバル化を取り上げ、日本企業をテーマに、企業の成立と経営の特徴、発展過程について明らかにし、日本の未来へ向けてのあり方を考察する能力を習得する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　—
●**レポート**　30%　　学期末のレポート1回
●**平常点**　70%　　研究報告の内容と演習への主体的な参加度（発言やレビューシートの提出など）を総合的に評価する。
●**その他**　0%　　—

備考・関連URL

第1回目は、本演習のオリエンテーションと報告担当者を決める。

科 目 名	社会構築論系演習（国家の構造と変容1）　軍事郵便から考える日清戦争							
担当者名	小薗　崇明							
構築	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

日清戦争期の一兵士の軍事郵便（戦地と銃後の手紙）を解読しながら、近代日本史上、本格的な最初の対外戦争について学びます。本資料は徴兵・演習・出兵・帰国等の様子がわかるものであり、戦争を経験するなかで国民意識がいかに形成されるかその過程を学びます。また、手紙はエゴ・ドキュメントと呼ばれる資料の一つですが、それはいかなるもので、そこから何を調べ、どのような読解が可能かを実践的に学ぶことを目指します。前半は資料に何が書かれているか学び、後半に調べたことを発表してもらいます。

授業の到達目標

1）日清戦争について、軍事郵便をもとに理解する。
2）エゴ・ドキュメントの性質を理解し、それをふまえた文献調査の方法、読解方法を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　60%　　論理性、独創性、事実の正確性、思考力。グループでの発表・討論をふまえてさらに調査できているか。
●**平常点**　40%　　発表（質疑も含め）。
●**その他**　0%

備考・関連URL

受講人数や学生の理解度・関心などにより、内容に一部変更がでる可能性もあります。本演習は対面で行います。毎回グループでのディスカッションや共同作業があります。

科 目 名	社会構築論系演習（国家の交流と対立2） 人の移動と移民							
担当者名	村雲　和美							
構築	2単位	秋学期	水曜日	1時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

国際的な人の移動や移民政策を主体的に考えようとする人を対象とする。現代の日本社会をみれば、外国人労働者や移民・難民に関するニュースを見聞きする機会が増えている。そのため、この授業では、「移民と多文化共生」をキーワードに関連文献を輪読し、国際的な労働力移動に関わる事柄を通じて、グローバリゼーションの進行や多文化共生について理解を深めることを目的とする。教科書は『インタラクティブゼミナール 新しい多文化社会論: 共に拓く共創・協働の時代』を使用し、発表者が担当文献をまとめるとともに、その内容から興味を持った事柄や論説をさらに取り上げ、授業内で報告する形式をとる。

本科目は「ディプロマポリシー」および「カリキュラムポリシー」の「専門科目」にあたり、授業内での発表を通して、履修生個々人がこれから専門研究に取り組むための基礎的な能力を養うことを目指している。

授業の到達目標

・議論に参加するなかで、自らの意見を、その背景もふまえながら論理的に述べる力を養う。
・文献を読み、まとめる経験を積む。
・自分の関心に引き付けながら議論を展開したり、ディスカッションテーマを考える。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　0%　　実施しない。
●**平常点**　40%　　授業中のディスカッションへの積極性から評価する。
●**その他**　60%　　発表と報告レジュメの提出を必須とし、その内容から評価する。

科 目 名	社会構築論系演習（国際社会と国家） 両大戦間期における「満洲」をめぐる日中関係と国際社会							
担当者名	松重　充浩							
構築	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本授業では、1910年代から30年代初頭に至る所謂「両大戦間期」を中心とした日中関係に関連する諸史料、とりわけ東アジア国際社会の重要な争点となった「満洲」に関連する諸史料を対象としつつ、時々の日中両国の「国家」的特徴と国際社会との関連性をふまえて読み解きながら、当該期の東アジア世界がもった特徴を歴史学的に明らかにしていく。

また、史料読解に際しては、歴史学のみならず、政治学、経済学、社会学、地理学、文化人類学などの隣接諸科学の成果も取り入れながら広領域的・学融合的アプローチを図りつつ、当該期の東アジア社会の特徴を、そこでの実践的可能性と共に把握することに努める。

なお、本授業は教室授業（対面式）にて実施し、「50分×2回」型を基本として、必要に応じてグループワーク、ディスカッションを導入して行います。

授業の到達目標

両大戦間における日中関係の歴史的特徴を理解すると共に、各種史料から必要情報を摘出・再構成してく能力と、そこに内包された可能性を創造的に発見していく能力を身につけることができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません。
●**レポート**　60%　　課題は、第10回授業で提示します。与えられた課題を講義内容の視点と絡めて深く考察しているかどうかを評価します。
●**平常点**　40%　　授業中に教員側から配布史料に関する質問を、事前に指定した受講生に行い、その回答内容について評価します。また、グループワーク。ディスカッションでの積極的な役割分担や発言に関しても加点対象といたします。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

・事前配布史料の配布は、Waseda Moodleを利用します。受講者は、授業参加に際してダウンロード等により、授業時間内に閲覧可能な状態にしておいてください。
・レポート課題に対するフィードバックは、第14回の授業で行います。
・また、本授業は教員からの講義のみならず、学生間グループワーク・ディスカッションと学生と教員との質疑応答により構成される演習形式となっております。このため、当日の無断欠席がないようにお願いします。

科 目 名	社会構築論系演習（地域・都市形成史1） 石碑から考える関東大震災							
担当者名	小薗　崇明							
構築	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

石碑を解読しながら、関東大震災やその記憶について学びます。石碑は災害の被害だけではなくて、何を後世に伝えようとしているのか、メッセージ性の強い資料です。それらを読み解きながら、建立時の時代状況や地域の特性について考えたいと思います。また、石碑は文献資料とは異なる資料ですが、それはいかなるもので、そこから何を調べ、どのような読解が可能かを実践的に学ぶことを目指します。前半は石碑の調査・分析方法を学び、後半に調べたことを発表してもらいます。

授業の到達目標

1）関東大震災について、石碑をもとに理解する。
2）石碑の性質を理解し、それをふまえた文献調査の方法、読解方法を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　60%　　論理性、独創性、事実の正確性、思考力。グループでの発表・討論をふまえてさらに調査できているか。

●**平常点**　40%　　発表（質疑も含め）。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

受講人数や学生の理解度・関心などにより、内容に一部変更がでる可能性もあります。本演習は対面で行います。毎回グループでのディスカッションや共同作業があります。

科 目 名	社会構築論系演習（地域・都市形成史2）							
担当者名	渡邊　隼							
構築	2単位	秋学期	木曜日	5時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本演習では、都市・地域を対象とする社会学の研究知見に対する理解を深めるとともに、歴史的な視点から都市・地域を読み解く能力の習得を目的とする。とくに本演習では、都市・地域を歴史的な手法にもとづいて検討した研究・文献を中心に講読し、受講者全員で議論する。本演習のねらいは、現代社会の都市・地域をめぐる問題を歴史的な観点から考察するうえで有用な学術的知見を提供することにある。

授業の到達目標

（1）都市・地域に関連する社会学を中心とした学術領域の研究知見を理解し、他者と議論できる。
（2）日本や諸外国の社会で歴史的にみられた都市・地域に関連する問題を理解し、他者と議論できる。
（3）都市・地域に関連する歴史的な研究知見と手法の習得から、これからの社会で求められる都市・地域のありかたを検討できる。

成績評価方法

文献報告の内容、議論への参加・貢献度、受講態度など、演習での取り組み全般を総合的に評価する。（評価割合：100%）

備考・関連URL

・演習の授業内容、成績評価方法の詳細については第1回で説明する。履修希望者は必ず出席すること。・履修者の人数によっては授業内容や授業実施方法を一部変更する可能性がある。

科 目 名	社会構築論系演習（コミュニティ構造論1）　ボランタリーな行為と贈与・想像力を考える							
担当者名	富井　久義							
構築	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

「社会的課題解決のため、対価を期待せず自発的に活動する」ボランティア活動は、その活動の対象となる他者に対する贈与関係を想像力によって像を結ぶという側面をもつ。
本演習では、ボランティア活動をめぐる贈与関係や想像力に焦点を当てて、関連する文献講読や事例検討のためのグループワークに取り組むことで、ボランティア活動・NPOのありかたを多角的に検討することをめざす。

授業の到達目標

・講読する文献の内容についての読解力を養う
・ボランティア活動・NPOやボランタリーな行為についての調査・分析手法を習得する
・文献報告や事例報告をもとにした討論能力を養う

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　40%　　最終課題のレポート評価。
●**平常点**　60%　　演習での質疑応答・討論への貢献
演習後のコメント。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	社会構築論系演習（地域・都市形成史3）　歴史的積層としての地域・都市構造（古代ギリシアの文化遺産を事例に）							
担当者名	川津　彩可							
構築	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

現代に生きる私たちが見ている地域・都市は、長い時間を通して、自然環境、信仰、産業、技術、異文化との関係性、人々との認識など、さまざまな要素が積み重なり、現在の姿が形成されてきました。この授業では、ギリシアの歴史的地域・都市の構造をグループワークを通して共に考察します。具体的には、始めに複数回にわたり、古代ギリシア建築・都市の形成、異文化や諸外国からのまなざし、形成された歴史遺産に対する後の時代の対応について、時代をおって紹介します。その後、履修者がグループごとにギリシアもしくはギリシアと関係する地域・都市の事例を取り上げ、発表準備・発表・ディスカッションを行います。

授業の到達目標

地域・都市の歴史的構造を多角的に知り、コミュニティの創出について理解し、他の人に伝えられるようになることを目標としています。また、発表とディスカッションを通して、履修者ひとりひとりが積極的に議論に参加することを目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しません。
●**レポート**　60%　　授業内で行われる発表内容とそれに対する議論・レビューシートにより評価が行われます。
●**平常点**　40%　　授業への出席、各回の授業後に提出する感想文、議論への積極性により評価が行われます。
●**その他**　0%　　グループ発表の参考文献はきちんと記載すること。

備考・関連URL

＊グループワークの初回に、発表のグループ決めを行いますので、必ず出席するようにしてください。

＊履修者数により、グループ発表は個人発表となる可能性もあります。
＊日本語の資料のほかに、場合によって外国語の資料を用いることがあります。
＊外部の先生をお招きした特別レクチャーを実施する場合があります。

科 目 名	社会構築論系演習（コミュニティ構造論2） 都市・地域・環境社会学におけるコミュニティ							
担当者名	西城戸　誠							
構築	2単位	春学期	月曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

「コミュニティ」は都市社会学、地域社会学、環境社会学だけではなく、政治学や行政学、社会福祉学、地理学や都市計画学などの多様な学問領域で用いられている。また、コミュニティ政策といった政策用語でもあり、「人と人の集まりや、その関係性が維持されている地理的空間」といったニュアンスで、社会学の用語では「アソシエーション」とされる対象も、日常生活の中では「コミュニティ」と使用される場合もある。

本演習では、都市社会学、地域社会学、環境社会学における「コミュニティ」やコミュニティに関わる人々に関わる実証的な研究や、社会学以外におけるコミュニティ論の研究論文、書籍の講読を行うことで、多様なコミュニティ像の理解を深めることにしたい。演習参加者は各自で文献購読を行い、サブグループで討議し、報告グループとの討論を行い、対象研究の評価を行う。

授業の到達目標

都市社会学、地域社会学、環境社会学における「コミュニティ」に関する論文、著作の内容に関する理解力を養うこと。
「コミュニティ」に関わる社会現象に対する分析手法を習得すること。
上記の論文、著作に関する内容についての討論能力を養うこと。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　40%　　最終課題のレポート評価。
●**平常点**　60%　　演習への出席及び質疑応答・討論、演習後のコメント。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

担当者による「コミュニティ創造論」を履修することによって、内容に対する理解が深めると思われます。本演習は基本的に対面授業で実施します。

科 目 名	社会構築論系演習（コミュニティ構造論3） 震災と地域再生、社会運動							
担当者名	西城戸　誠							
構築	2単位	秋学期	月曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

東日本大震災による福島第一原発事故が発生して13年が経過した。この間にも自然災害が相次ぎ、私たちは「災間」の時代に生きているといえる。本演習では、東日本大震災を起因とする福島第一原発事故による被害と、被害者による抗議活動、地域再生の動きに関する社会学的な議論を行う。演習参加者は各自で文献購読を行い、サブグループで討議し、報告グループとの討論を行い、対象研究の評価を行う。

授業の到達目標

東日本大震災、福島第一原発事故に対する社会学的な実証研究に関わる論文、著作の内容に関する理解力を養い、震災と地域再生にかかわる社会現象に対する分析手法を習得すること。
上記の論文、著作に関する内容についての討論能力を養うこと。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　40%　　最終課題のレポート評価。
●**平常点**　60%　　演習への出席及び質疑応答・討論、演習後のコメント。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

担当者による「環境変容と地域・都市の社会変動」と一部内容が重複しますが、本演習ではより深い内容の理解を目指します。

科 目 名	社会構築論系演習（文化遺産論1） 危機に瀕する文化遺産							
担当者名	山田　綾乃							
構築	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

文化遺産がその国や地域のコミュニティの歴史・文化・伝統などを象徴する存在であり、相互理解や共生といった社会の基礎を育むうえで重要であると考えられ、したがって文化遺産の保護と保全に対する努力を継続することが必要となります。

しかし、一部の文化遺産は、自然的・人為的を問わず何らかの原因で消滅の危機に瀕しています。自然災害や生物被害、環境変化による劣化はもちろん、担い手や理解者の不足、不適切な修復・環境、紛争や盗難など文化遺産を生み出す側が自らの遺産を危機にさらしている事例も少なくなく、社会的な諸問題とも連関しています。

この授業では、過去の人々によって生み出された文化的所産やその場所、技術、伝統といった文化遺産そのものではなく、文化遺産を取り巻く多様な社会・制度・施策・議論について理解を深めることを目指します。まず、基本文献の講読を通じて国内外の文化遺産保護に関する制度と現状を学びます。続いて、危機に瀕した文化遺産とそれを守ろうとする事例を取り上げ、背景や具体的な取り組みの成果、その後の評価や議論を学習します。この授業では、自然的、人為的、社会的のいずれの「危機」も対象とし、日本と海外の双方を扱います。履修者はその中から自らの関心を定め、文化遺産を一つ選んで現状と課題を調査し、発表の中で問題を提起し、ディスカッションを行ってもらいます。

授業の到達目標

この授業では、文化遺産保護の歴史と制度を理解すること、文化遺産保護の様々なケースを理解すること、文化遺産に関わる組織やコミュニティを把握すること、文化遺産を歴史的財産としてだけではなく多面的に捉える視点を養うことを目指します。また多様な立場や状況を理解し、議論を通じた課題解決能力や、文化遺産保護のあり方についての自分なりの考えや意見もつための思考力を向上させます。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません。

●**レポート**　30%　　発表に対して寄せられた意見を踏まえて、レポートの形に整えたものを提出します。レポートテーマは発表時よりも内容が深まっているかを重視し、評価を与えます。

●**平常点**　70%　　出席率および、演習・発表に対する準備、内容、質疑応答への積極性を総合的に評価します。

講義前後に出されるミニアンケートや教場での履修生同士の意見交換も評価に含めます。

●**その他**　0%　　.

備考・関連ＵＲＬ

・履修者数によっては資料講読の回が増えることもあります。一部の回をオンライン授業とする場合があります。

・発表資料は発表日当日の午前中までに所定の方法で講師に提出してください。所定の方法は教場で指示をします。資料の準備も含めて、平常点評価に含まれます。

・発表資料やレポートを作成する際には、出典や引用のルールを遵守するようにしてください。資料検索や作成で不明な点がある場合は、教場で質問し解決するようにしてください。

科 目 名	社会構築論系演習（文化遺産論2）　文化遺産と社会							
担当者名	白石　華子							
構築	２単位	秋学期	金曜日	３時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

ユネスコの世界遺産に代表されるように、現代社会では有形・無形の様々なモノ・コトが「文化遺産」として価値づけられ、保護の対象となっています。近年、文化遺産保護のあり方としては、地域社会に根ざした取り組みが重視されています。しかし文化遺産は、観光産業や環境問題、自然災害、紛争など国際・国家レベルの多様な事象とも関わりあう存在です。

本授業では、文化遺産の保護とそれを取り巻く社会の関係性について、いくつかの文献を読んで理解を深めたのち、履修者各自で特定の文化遺産について、その保護の現状と課題を調べて発表してもらいます。そして質疑応答やディスカッションを通じて、文化遺産と社会の関係性について多面的な考察を深めていきます。

授業の到達目標

文化遺産の保護に関する基本知識を身につけ、文化遺産と社会の関係性についての理解を深めることを目指します。また発表を通じて調査やプレゼンテーションの技術を磨き、ディスカッションで思考力を養うことなども目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　30%　　発表でのディスカッションをふまえ、レポートを作成してもらいます。発表時より内容が深まっているか、レポートの体裁が整っているかという点を重視して評価します。

●**平常点**　70%　　文献購読と発表の準備と内容、および各回の質疑応答やディスカッションへの参加度合いなどから総合的に評価します。

●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

・初回に授業の概要説明や発表のグループ、日程決めをおこないますので、必ず出席してください。やむを得ない理由なく欠席した場合、履修を認めないこともあります。

・履修者の人数や授業進行の都合により、文献購読や発表の回数を変更する場合があります。

・レポートの内容、注意事項については初回授業で説明します。

・発表内容やレポートの作成時には、出典や引用のルールを遵守してください。

科 目 名	社会構築論系演習（文化遺産論3）　文化資源の“発見”と利活用−エコ・ミュージアムを構想する−							
担当者名	寺崎　秀一郎							
構築	２単位	秋学期	月曜日	２時限	２年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

「文化財」と称した場合、たとえば、日本の文化財保護法第2条に定義されているが、その対象となるものは多岐にわたる。なかでも過去における人類の活動の所産である「遺跡」とされるものは、近年、観光資源として世界的に注目されている。

従来、1987年に「環境と開発に関する世界委員会」で示された「持続可能な開発」という概念が、とりわけ、発展途上国においては、観光産業の振興、特にエコツーリズムとして注目を浴びてきたが、その延長線上に遺跡観光を「持続可能な開発」としてとらえ、新たな外貨獲得手段として認識されるようになってきた。日本国内においても同様の傾向があり、遺跡観光を含む歴史的景観などの「文化財」が重要な地域振興のファクターとなっている例も珍しくない。また，近年では，「町おこし」にも関心が集まっている。

しかし、同時に資源としての「文化財」の活用には未だ幅広い議論が必要である。単に保存修復、景観保存に留まらず、その成果をどのように地域にフィードバックしていくのか、あるいは、どのように次世代に継承していくのか課題は多い。本演習では、受講生は各自の関心に基づき，研究対象地域を選定し，その地域が有する広義の文化財（＝有形無形の文化資源）の過去と現在を明らかにし，そこから見える将来像等について知見を深めて欲しい。そのためには，自身で対象地域に足を運ぶことが必須となるが，その上で、現在に生きる私たちになし得ることは何かについて、広い視野からの議論を期待したい。 具体的には、地域全体を博物館として構想するエコ・ミュージアムの概念を用いて、研究対象地域を設定し、そのテリトリーにまつわるテーマに基づくコアとサテライト、それらを結ぶディスカバリー・トレイルを提示する。

授業の到達目標

「文化財」とは守るべきもの、と考えられがちだが、なぜ守らなければならないのか、あるいは、ただ保存すればそれで十分なのだろうか。現代に生きる私たちが過去の営為の結果である「文化財」にどのように向き合うことが求められているのか、「文化財」を取り巻くさまざまな社会状況を考慮し、「文化財」の未来を考える。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　0%　　実施しない
●**平常点**　100%　　出席状況、ならびに研究報告の達成度、討議への参加状況等によって総合的に判断する。なお、受講生は受講後、コースナビまたはWaseda Moodle上のレビューシートに記入すること。レビューシートへの記入をもって出席とする。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	社会構築論系演習（コミュニティ構造論4）　東京の歴史を歩く							
担当者名	袁　甲幸							
構築	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

みなさんは東京都新宿区にある早稲田大学戸山キャンパスに通っていますが、どれだけ東京の歴史を知っていますか？ ふだん見過ごしている東京の風景も、よく観察すると、歴史的な痕跡が残っていて、時間の奥行きを感じることができます。自らの立っている土地がどのような歴史で構成されているのか、どこに・誰の・どのような記憶が刻まれていて、何を・誰のために・どのように未来に継承すればよいのか。この点を考えることが本演習の〈目的〉になります。街をただ歩くだけでは、必ずしも歴史は見えてきません。「都市を見る眼」を磨く必要もありますし、同時代の文献を読みこむ必要もあります。その土地で生活し、コミュニティに関わってきた人の話をじっくり聴くことも重要です。それらのすべてをこなして、上記の目的にアプローチすることが、本演習の〈方法〉になります。

なお、授業はグループワークが中心となります。

授業の到達目標

・指定の文献を読み、授業での指導や履修者同士との議論を通じて、東京を読み解く視点・方法を身につけること
・興味のある地域を実際に歩いてみる。歴史的な痕跡を見つけ出し、写真撮影、文献調査、街の人びとからの聞き取り調査などを行い、その成果を授業で報告すること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　40%　　観察力、調査力、まとめる／他人に伝える能力、グループワークへの各自の貢献
●**平常点**　60%　　出席状況、講読文献に対する理解度、授業での発言
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	社会構築論系演習（コミュニティ変動論1）　市町村合併から考える地方自治の未来							
担当者名	袁　甲幸							
構築	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

少子化の進行により、多くの自治体が深刻な人口減少問題に直面しています。東京一極集中の陰で、数十年内に「消滅」の危機に瀕する自治体や、限界集落が増加しています。学校や鉄道駅の閉鎖が相次ぎ、効率化の名のもとに公共サービスの広域的な統合が進められています。しかし、この「効率化」の動きは日本の近現代史において繰り返されてきたテーマでもあります。過去には、自治体の大規模な合併が何度も行われました。この授業では、これらの合併がどのような背景で発生し、どのような教訓を与えてくれるのかを皆さんと一緒に探ります。さらに、履修生自身が地元や縁のある地域の合併の歴史を調べることで、地方自治に関する基本的な知識を学び、「効率化」と「多様化」をいかに共存させるべきかというテーマについても深く考えていただきます。本授業を通して、地方自治や地域社会に対する理解を深め、自分なりの視点を養うことを目指します。

授業の到達目標

・指定の文献を読み、授業での指導や履修者同士との議論を通じて、地方自治に関する基礎的な知識や論点を知ること
・文献調査の方法を、実践してみること
・調査の結果を授業で分かりやすく説明すること

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　40%　　文献の調査力、問題の発見力、報告の伝わりやすさなどで判定する
●**平常点**　60%　　出席（20%）、文献講読（30%）、授業中の発言（10%）を加味して評価する
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	社会構築論系演習（コミュニティ変動論2）　コンピュータを用いて社会統計を学ぶ							
担当者名	森　元孝							
構築	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	—	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

いわゆる統計計算を、コンピュータを自由に駆使して行うことは、順序を踏んで学んでいけば、まったく難しいことではない。そして、みなさんが、これから生きていく過程で、絶対に必要なスキルである。講義で、一方的に知識の伝授を受けるのは、たいていの場合、先生の教え方が面白くなく、授業も退屈でつまらない。そうではなく、目の前にあるコンピュータを用いて、自らデータを分析し加工していくスキルを身につけていくトレーニングを積んでいく。

これまでに統計学関係の授業を取ったことがない、まったくの初心者でも、また高校卒業とともに数学と縁を切ってきた人で

も、興味をもってデータ分析のスキルを身に着けることに積極的な意志のある人、そしてこの種の分析はグループワークで行っていくことが重要であるので、グループワークをすることが得意、あるいはこの演習を機会にやっていこうと思う人であれば、十分にやっていくことができるように各回、順序を踏んで進めていく。

授業の到達目標

ソフトウェアのスキル習得とともに、社会現象を観察し分析していく根本的な興味・関心を高めていくことが、この演習の到達目標である。

統計学の基礎知識を学びながら、実際にデータを整理し分析する基礎的技法を習得する。加えて社会調査の基本から少々難しい多変量解析までひととおり習得していく。表計算ソフトウェアExcel、統計計算ソフトウェアSPSS（Statistical Package for the Social Sciences）について、その基本を習熟する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　.特にない。
●**レポート**　20%　　最終課題レポートの内容。
●**平常点**　80%　　各回の課題への積極性。
●**その他**　0%　　.特にない。

備考・関連URL

この演習は、フル・オンデマンドで進めていきます。 なお、使用している動画において、科目名が 「社会構築論系演習（共生社会論4）」とありますが、カリキュラム改革で名称が変更となりました。「社会構築論系演習（コミュニティ変動論2）」として読み換えてください。「社会構築論系演習（コミュニティ変動論2）」として成績がつきます。

なお、SPSSは、早稲田大学が、みなさんにライセンス使用を認めていますから、みなさんのPCにダウンロードをして使っていただくことができますし、早稲田大学内のPCルームのPCには基本装備されていますから、それを使っていただくのもよいです。

ここから、指示に従いダウンロードすることができます。Windows版のみならず、Mac版も提供されています。 SPSS Statistics - Waseda IT Service Portal

科 目 名	社会構築論系演習（グローバル社会1）「グローバル化」を質的に研究する							
担当者名	鄭　康烈							
構築	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本演習は、質的研究の基本的な手法を学び、グローバル化という社会的現象に関する研究を通じて、社会学的な問いの立て方、データ収集、データ分析、報告書執筆のスキルを実践的に身につけることを目的としています。授業では、実際に「問いの提起」から「報告書の執筆」に至るまでの研究過程を体験してもらいます。少人数のグループで協働して研究テーマを設定し、フィールドワーク（データ収集）を行い、調査結果を分析して最終的に報告書を完成させます。

グローバル化を「人、モノ、資本、文化などの国境を越えた移動の増大」と広くとらえるなら、私たちの生活をとりまく様々な現実がこの概念によって照射されることに気づくでしょう。具体的な研究テーマとして、たとえば、国際化する大学、エスニック・タウン化する都市、外国人労働者の生活、国際結婚と外国にルーツをもつ子どもたち、排外主義ナショナリズムと反人種主義、SNSと海外文化、多国籍企業などが考えられるかもしれません。

演習は講義、文献講読、ディスカッション、チーム作業、フィールドワークなどで構成される参加型の授業です。各回、一人ひとりの積極的な「参加」で授業をつくっていきましょう。ほかの履修者と交流し、それぞれの発言やその背後にある問題意識に関心をもち、調整・協力し合うことを求めます。教室外学習（フィールドワークやグループ作業）およびグループ発表、レポート執筆を行います。

授業の到達目標

・質的研究の基本的なアプローチと方法を理解する。
・グローバル化に関連する社会的問題について研究課題を設定し、問いを立てる。
・問いに基づき、インタビュー、参与観察、文献分析などの質的データ収集を行う。
・収集したデータを分析し、結果を導き出す。
・研究結果を論理的に発表し、報告書としてまとめる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　・社会科学的な問いが提起されているか
・問いに応答するための方法が選択されているか
・データの収集・分析が適切になされているか
・結論に至るまでの流れが説得的かつ論理的に展開されているか
・引用が適切な形でなされているか
●**平常点**　50%　　・毎回の出席（コメントペーパー）
・グループ発表
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

・対面形式を前提としますが、最大7回以内でオンライン（Zoom）で実施する可能性があります。
・学習状況をみつつ、知識定着のため授業内で確認テストなどを行う場合があります。

科 目 名	社会構築論系演習（コミュニティ変動論3）　貨幣の社会変動論　―経済社会学と社会経済学の視点を身につける							
担当者名	森　元孝							
構築	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

経済とは、媒体「貨幣」をが結ぶ行為連鎖の体系である。これが、社会科学における「経済」の定義である。経済を知るには、

貨幣が、いったいどのようなものであり、どのような機能をしているのかを十分に知る必要がある。本演習は、この問題を、日本社会が1980年代末、その絶頂に達し、その後20年、「第二の敗戦」とまで言われ、世界での地歩を失っていくことになった、そもそもの原因を直視して考え、みなさんの世代に、この種の愚かな失敗を二度としないようにするための生きる力、生きる指針を身につけることを目的としたものである。

毎回、社会経済学、経済社会学的な視点を学問的にトレーニングしながら、かつ新聞記事を適宜参照しながら、今、現在について考えることができる能力を身につけていく。とくに基礎知識、準備知識は必要ない。ただし、1回でも欠席すると、ついていくことができまくなるので、欠席と遅刻の癖のある人は受講が難しく、単位取得は無理。

学問の領域ということで言えば、社会経済学の基礎知識と、経済社会学の考え方についてその基本を学ぶ。この分野は、日本では社会学者がほとんど専門にしている人がおらず、私がその第一人者である。私と学ぶことは、日本の経済社会を、十分に見通せる力を身につけ、さらに貨幣が持っている、さまざまな機能の中から、実は、社会を変えていくこともできることを理解できるはずである。社会学者や、たいていの場合、お金が実は好きなくせに、貨幣については研究をしていない。むしろ、社会は、人のつながりだと言うのが常だが、つながりをつける最たるものは、実はお金である。これを悪いものだと言うことは簡単であるが、社会学者のみならず、政治家、大学教授、実はみんなお金が大好きなのに、それがいったい何なのかについては言わない。このこともなぜか、みなさんと考えていきたい。

授業の到達目標

社会経済学の基礎知識と、経済社会学の基本発想について学びながら、貨幣とはいったいどのような機能を持つものであるのかを、正確に理解する。

成績評価方法

●**試験** 0% .
●**レポート** 20% 最終レポートの得点
●**平常点** 80% 各回の演習での報告、参加状況.。ただし、欠席および遅刻は、1回につき（マイナス10点。したがって4回欠席すると、レポートで満点を取って、ようやく評価「C」に終わる。
●**その他** 0% .

備考・関連URL

森 元孝のウェブページ 「ウィーンの森」の物語
社会構築論系 森ゼミのウェブページ Prof. Mori's Seminar
大学生協 大学生協のオンライン書籍注文サイト（univ.coop）

科 目 名	社会構築論系演習（人権論1） 人権尊重の文化を創造する～歴史ミュージアムの事例から							
担当者名	石岡 史子							
構築	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

すべての人間は「尊厳と権利とについて平等である」と謳う世界人権宣言は、第二次世界大戦とホロコーストの惨禍を経て生まれました。人権を尊重する共生社会の実現を目指すために、歴史から学ぶ、過去と向き合う、という取り組みはどのような可能性を持っているのでしょうか。本演習では、前半はドイツ、ポーランド、オランダ、デンマークなどにおける、ナチズムとホロコースト、ジェノサイドなどの記憶の継承・教育に取り組むミュージアムなどを事例として取り上げ、その役割や限界、可能性について学び考えます。問いづくり（Question Formulation Technique）や対話などのアクティブラーニングを取り入れて実施します。受講生はグループ毎に国内の歴史ミュージアムを訪問し、リサーチおよび発表を行います。

授業の到達目標

①歴史を教材とした人権教育の様々な事例を知り、その限界や可能性について自分の考えを展開できる
②問いを立て、思考し、身近な課題について自ら探求できるようになる
③異なる意見を尊重しながら、対話や議論に主体的に参加できる
④レジュメの作成、プレゼン、対話や議論のファシリテーションの方法を習得する

成績評価方法

●**試験** 0% なし
●**レポート** 40% 期末レポート
●**平常点** 60% 授業の出席と参加度、毎回の提出物（事前課題やリアクションペーパー、Waseda Moodlemも活用予定）
●**その他** 0% なし

備考・関連URL

・本授業は対面を基本とします。
・履修登録者の数やテーマ及びグループ分けにより扱うトピックとその回数には、変更の可能性があります。

科 目 名	社会構築論系演習（人権論2） 優生保護法と強制不妊手術							
担当者名	豊田 真穂							
構築	2単位	秋学期	金曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

2024年7月、最高裁判所大法廷が「旧優生保護法は憲法違反だ」とする初の判断を示した。国の法律規定を最高裁が憲法違反としたのは、戦後13例目という。戦後最大の人権侵害と言われたこの法律の違憲性を最高裁がついに認め、損害賠償請求権が消滅する「除斥期間」を適用して国が責任を免れることは「著しく正義、公平の理念に反する」と指摘し、国に賠償を命じた。この判決にいたる最初の訴えは、2018年1月、旧優生保護法に基づき強制的な「優生手術」（断種／不妊手術）を受けたとする宮城県の佐藤由美さん（仮名）によって起こされたものだった。その後、各地方裁判所で当事者やその家族による国家賠償請求訴訟が相次いだ。各地の地裁・高裁では優生保護法が憲法に違反するとの判決が続くなか、国は控訴・上告をつづけており、原告の全39人のうち、すでに6人が提訴後に亡くなっている。 でも、それよりずっと以前から、この問題を問い続けてきた人たちがいた。優生保護法は1996年に改正され、母体保護法に変わったが、その翌1997年には、「優生手術に謝罪を求める会」が設立され、厚生省に実態解明と謝罪、補償を求めて要望書を提出していた。飯塚淳子さん（活動名）の名乗りもあったし、日

本政府に対して国連自由権規約委員会からも勧告が出されていたにもかかわらず、国側は「当時は合法」として取り合わなかった。
2024年判決で最高裁は「立法当時の状況を考えても正当でないのは明らか」とし、議員立法で全会一致で成立したことに対しても、法改正後の国の不誠実な対応に対しても、政府と国会の責任を指摘している。
そもそも、なぜ、このような法律が、基本的人権を不可侵で永久に保障すると謳った新憲法の成立後すぐに、戦後の日本で成立できたのだろうか。今こそ、この問いを改めて考える必要があるだろう。
そこで本演習では、優生保護法がどのような法律であったのかを理解することを目的とする。その際、特に優生保護法が、基本的人権や法の下の平等を定めた新憲法、およびアメリカによる占領のもとで制定されたことに注目したい。参照点としてハンセン病の国賠訴訟（2001年）や家族訴訟（2019年）を基点とし、ハンセン病政策の歴史などについても学ぶ。
＊性的事象や暴力的事象を取り上げることがあります。
＊授業内でグループディスカッション、グループワークなど、グループで行うことが数回あります。
＊ハンセン病資料館などにおける見学も計画しています。

授業の到達目標
1）人権の視点で議論できるようになる。
2）過去を見据えた上で現在の問題を知ることができる。

成績評価方法
出席、グループ・ワーク、プレゼン等の平常点（60%）と期末レポート（40%）で総合的に評価します。

科 目 名	社会構築論系演習（平和論1）「平和学」を通して平和を考える							
担当者名	小松　寛							
構築	2単位	春学期	金曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要
平和を研究対象として発展してきた学問は平和学と呼ばれる。平和学は広範な議論を網羅する学問分野である。冷戦期に発展した平和学は、グローバル化を迎えた今日においても戦争のみならず、貧困や環境問題、テロリズムなど多様な地球的問題群を課題としている。その特徴は政治学、法学、経済学、社会学といった従来の学問的枠組みにとらわれない学際的アプローチにある。
本演習では、初学者向けのテキスト『平和学入門1』をもとに平和学が構築してきた知見を理解し、それを基盤としながら現代の平和に関わる問題を議論する。

授業の到達目標
現代社会の「平和」とは何かを考察する基本的知識を獲得する。
今日の世界における「平和」への課題を発見し、その解決策を論理的に議論する能力を身につける。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　演習への出席、プレゼンテーションの内容、議論への貢献度
●**その他**　0%

科 目 名	社会構築論系演習（グローバル社会3）「国際情勢とその背景」							
担当者名	桃井　和馬							
構築	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要
世界は激動の時代を迎えています。絶えることのない紛争や戦争、環境問題も限界に近づきつつあるようです。私たち人間は、今、地球上で何をしているのでしょうか？
喫緊の国際情勢を考える上で重要となる地球的要因「土地（領土）、食糧、水、資源」と、文化的要因「民族、国家、宗教、文化」を基に、歴史を振り返りながら、諸問題が様々な形で関係していることを理解すると共に、原因に迫ります。
今という時代はどのように動いているのでしょうか？
なぜ、人間は戦いを続けているのでしょうか？
民族や宗教といった要因は、戦争とどのように関係しているのでしょうか？
報道されているニュースの背景を、現地取材で得られた知見や多数の写真、ニュース＆ドキュメンタリー映像から探ります。
※最新の国際情勢の変化を授業に取り入れるため、授業計画が変更されることがあります。

授業の到達目標
1／国際報道をチェックする習慣を通して、国際社会がどのように動いているかを理解する。
2／人間理解の向上。
3／メディア・リテラシーを養い、ロジカル＆クリティカル・シンキングを習慣づける。
4／平和構築のためにそれぞれができることを考える。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　授業毎のリアクション・ペーパー　100%
（毎回の授業において、自身の理解度や授業の感想を簡単に書き、その上で、授業から得られた知見なども参考にして、自分なりに授業テーマを深掘りする）
●**その他**　0%

備考・関連URL
・出欠の留意点・5回以上の欠席で評価は不可となります。3回の遅刻、または早退で1回の欠席とします。
・Waseda Moodleに提出するレビューシートは、5段階評価とし、合計得点（70点満点）を1.43倍して100点満点に換算

したものを最終評価とします。

科 目 名	社会構築論系演習（サステナビリティ論2） 食とゴミの日本文化							
担当者名	李　珠姫							
構築	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この授業では、近代以降の日本文化の中で食とゴミという二つのテーマがどのように扱われてきたのかを検討する。『放浪記』を始めとする林芙美子の一連の著作や、赤瀬川原平の美術作品、桐野夏生の『OUT』などの作品を取り上げ、食べるということ、または棄てるということの持つ意味が日本文化の中でどのような変遷を辿ってきたのかを考察する。食とゴミという、身体や日常生活に深く関わるテーマを通して社会とその境界をどのように想像してきたのか、また、大量廃棄を伴う大量生産・大量消費社会の問題についてどのような学際的アプローチが可能であるかを探求する。

授業の到達目標

1）近現代の日本文化史を食とゴミの観点から眺められるようになる。
2）食とゴミ、身体表象に関する批評言説に慣れる。
3）持続可能な社会の実現に向けて、大量生産・消費・廃棄の文化について再考できるようになる。
4）論文作成に必要な調査スキールを身に付ける。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　リーディング課題の提出（30%）、自由発表（30%）
●**平常点**　40%　　出席（28%）、討論への積極的な参加（12%）
●**その他**　0%

科 目 名	社会構築論系演習（サステナビリティ論3） 環境と地域の持続性を考える							
担当者名	西城戸　誠							
構築	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本演習では連字符社会学としての環境社会学だけではなく、「環境と社会」学として広く環境と社会の関わりやその持続性（サステイナビリティ）、さらにSDGsに関する議論を扱う。脱炭素・食糧と水・海洋汚染・ゲノム編集の現状に関する動画教材から、SDGsマップ作りを通して、SDGsとサステイナビリティとの関連について議論を行う。また、再生可能エネルギーを中心としたエナジートランジッションについての文献講読、ディスカッションを行う。演習全体としてサブグループに分かれてディスカッション、作業を行い、最後に演習全体で討議を行う。

授業の到達目標

自然環境や地域社会の持続性に関する実証研究に関わる論文、著作の内容に関する理解力を養い、サステイナビリティにかかわる社会現象に対する分析手法を習得すること。
上記の論文、著作に関する内容についての討論能力を養うこと。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　40%　　最終課題のレポート評価。
●**平常点**　60%　　演習への出席及び質疑応答・討論、演習後のコメント。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

担当者による「グローバルイシューとコミュニティ」を履修することによって、内容に対する理解が深めると思われます。

科 目 名	社会構築論系演習（平和論2） 核からみる世界、核からみえる世界							
担当者名	畠山　澄子							
構築	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

核の歴史について、特に被害者の視点や声に着目しながらグローバルな観点から学びます。広島・長崎への原爆投下を出発点に、世界中で行われた核実験に目を向け、またウラン採掘や各種核施設で繰り返されてきた核被害を取り上げます。この過程で、「安全保障」「植民地主義」「フェミニズム」「資本主義」などについても議論を深めていきます。
【実践的な授業科目】
※この科目は主として実践的な教育が行われる科目です。

授業の到達目標

核をひとつの事例とし、特定のテーマについて、複数の国や地域の経験を結びながら社会や世界の構造の問題として理解できる力をはぐくむことを目指します。その過程で、①資料や情報を批判的に分析する力、②自分の意見をまとめ、伝える力、③異なる意見を理解したり、その背景にある境遇や環境を想像したりする力、④様々な視点をもとにビジョンを描く力を鍛えます。

成績評価方法

●出席と各回の授業のおわりに時間を設けて取り組む「振り返りシート」の提出《20%》
●グループワークやディスカッションへの貢献度《20%》
●各問いに関するミニレポート《20%×3=60%》

備考・関連URL

対面授業を基本としますが、オンライン（Zoom）を活用しての授業を最大7週以内で展開する場合もあります。

科 目 名	社会構築論系演習（人権論3） 先住民族の権利を考える							
担当者名	小松　寛							
構築	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

世界各地に先住民族は存在しており、その多くはマジョリティによる法に基づいて土地や資源を剥奪されたり、自らの文化や言語を禁止されたりするなどしてきた。しかし現代では、国際人権法、特に「先住民族における権利に関する国連宣言」に依拠しながら、先住民族が自ら法形成に参加したり、法解釈を発展させることによって権利回復や権利主張を行うようになってきた。本演習では、世界各地における先住民族の権利回復運動が国際人権法とどのような関係にあり、いかに相互に作用しているのかに着目しながら議論する。

授業の到達目標

世界各地の先住民族をめぐる課題を把握する
先住民族の権利と国際人権法の関係について考察する能力を身につける

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　プレゼンテーションの内容および議論への貢献度から評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	社会構築論系演習（平和論3） アジアにおける越境と共生、和解をもとめる							
担当者名	金　敬黙							
構築	2単位	秋学期	金曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

批判的な視座に基づく平和研究に触れます。実践知を大切にしつつ現場主義を学びます。
ジャーナリズムやNGOの現場、学術的視点が共鳴し合う視座からの学びを進めます。
実践的な平和研究の現状と課題、グローバルなイシューなどについて総合的な討論を含めて学びます。

授業の到達目標

平和研究、アジア研究、グローバル研究の視座から、リベラルピース論の批判的な視座に取り組みます。

成績評価方法

事前学習レポート30%
出席30%
期末レポート40%

備考・関連URL

教材の目次は以下の通りです。chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcglclefindmkaj/https://www.hou-bun.com/15mokuji/04031-2_mk.pdf

科 目 名	社会構築論系演習（グローバル社会2） 絵本から多文化共生を考える							
担当者名	小野寺　美奈							
構築	2単位	春学期	金曜日	2時限	2年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

皆さんは、最後に絵本を読んだのはいつ頃でしょうか。絵本は必ずしも子どものためだけのものではありません。文字情報のみならず豊かな視覚情報を含む絵本は、子どもから大人までの幅広い年齢の人々が共に読みあい語りあうことができるメディアです。

近年、海外の絵本を中心として、社会的な問題を取り上げた絵本が数多く出版されるようになっています。

本演習では、多文化共生に関連する様々なトピックの絵本をグループでじっくりと読みあい語りあうワークショップを通して、ホリスティックに多文化共生を考えます。また、絵本を通した学びの意義や方法について検討します。

第1回目～第5回目の授業は、絵本の読みあい・語りあいワークショップを行います。第6回～第7回授業では絵本を通して多文化共生にアプローチする教育実践・社会実践について学びながら、絵本の教材としての可能性について議論します。第8回目以降は、各々の問題関心に基づきグループ分けをし、共同研究・発表を行います。

※履修生の人数や理解度、興味関心に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

授業の到達目標

・多文化共生の各トピックに対して理解を深め、自分なりの意見を持ち表現することができる。
・言語情報のみならず、絵などの非言語的情報からも情報を収集できる洞察力や感性を養い、ホリスティックに理解を深められるようになる。
・異なる意見を尊重しながら対話・議論できるようになる。
・聴く力を育む。
・授業後にも持続する問題関心のアンテナを育てる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　30%　　最大4,000字程度の学期末レポートもしくは制作物を提出していただきます。
●**平常点**　70%　　出席、リアクションペーパー、授業内での取り組みの積極性、グループ発表の内容等に基づき総合的に評価します。

4回を超える欠席に対しては単位を与えません。また、30分以上の遅刻は、授業内のワークショップの進行の妨げとなるため欠席とみなします。

●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

学外でのフィールドワークを行う予定です（参加必須）。フィールドワークの具体的な日時や場所については授業内で相談をしますが、5月下旬～6月初旬（第6回授業の頃）を想定しています。 履修者の本授業前後のコマの履修状況により、フィールドワークを土曜日もしくは日曜日に実施する可能性があります。こうした学外での活動にも参加可能な学生の履修を望みます。

科 目 名	社会構築論系演習（サステナビリティ論1） 教育と環境 ― 持続可能な社会の文脈で							
担当者名	高野　孝子							
構築	2単位	春学期	金曜日	2時限	2年以上	―	―	フル【対面】

授業概要

さまざまな課題に直面する現代、持続可能な社会への模索が国内外で続いている。

教育はどんな役割を果たせるのか。

価値観に影響を与え、社会変革のために重要だとされる「教育」について、イリイチやフレイレ、ソベルなどの批判的な見方を含めて、多角的に検討する。持続可能な社会を求める中で発生してきた、環境教育や「持続可能な開発のための教育」の流れを概観する。「場」の概念を掘り下げ、「地域に根ざした教育」「場の教育」と教育を通した地域づくりの可能性について議論する。

「教育は社会を変えることができる」のか、それとも「主流の価値観や体制を維持する道具」なのか。持続可能な社会を目指し、2050年の教育はどうあるべきか、文献や自分たちの経験も踏まえて考察し、グループごとまたは個々人でアウトプットする。互いの評価とディスカッションでフィードバックを行う。

授業は参加型で実施し、「教わる」のではなく「調べて共有」し、「討論で掘り下げる」。履修生たちが、文献を批判的に読み込み、自分たちの経験に照らし合わせ、かつ想像力も駆使して考察し、発表し、意見交換しながら授業が進行していく。文献には英文も含まれる。

「サステナビリティ」の理解を前提として進めるので、すでにサステナビリティに関する授業を履修していることが望ましい。

授業の到達目標

1）持続可能な社会を目指した教育の流れについて説明できる。
2）身近である「教育」について多角的視点で捉え、可能性と課題について表現できる。
3）「場」への認識を深め、サステナビリティとの関連づけができる。
4）多角的なものの見方、読解力と思考力、それを踏まえた討議力、表現力を養う。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない
●**レポート**　20%　　自分の言葉で明快に思考を表現できているか
●**平常点**　80%　　授業への積極的参加、発表と討議の内容など、総合的に判断
●**その他**　0%

備考・関連URL

履修を希望する場合は、積極的に関わる意欲を持っていること。英語を含む文献を読み、グループワークするための時間をきちんと作り、かつマネジメントできる人であること。4回以上の欠席は単位を認めない。

5－6月に任意で、都市農村交流の現場参加か、体験学習や「場」についての思考を深めるための機会がある。

科 目 名	社会構築論系演習（グローバル社会4） 多文化共生とことば―ことばに内在する文化の視点から―							
担当者名	小野寺　美奈							
構築	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	―	―	フル【対面】

授業概要

グローバル化により、人・モノ・カネ・情報の移動がますます活発化する今日、世界的に地域社会の多文化化・多言語化が進んでいます。日本においても、在留外国人数は年々増加傾向にあり、2024年6月末には過去最高を更新し358万8,956人にも達しています（出入国在留管理庁統計）。日本には、アジア圏にルーツを持つ人々をはじめとし、まさに多種多様な言語的文化的背景をもつ人々が暮らしているのです。こうした社会状況の中、例えば言語的マイノリティへの理解不足やそれに伴う偏見・差別や「英語熱」とも表現される英語教育偏重の言語教育の風潮、方言への意識など、ことばにまつわる問題は様々顕在化してきています。

本演習では、まず、ことばを取り巻く諸問題を取り上げます。また、ことばは単なる道具ではないという立場からことばに内在する文化に着目し、「ことば―人間―文化」の関係性について改めてとらえなおしつつ、ことばを取り巻く諸問題の核心について理解を深めます。 以上の学びをふまえ、ことばの切り口から多文化共生の実現に向けた方策を思考し議論することがこの授業のねらいです。

なお、第1回目～第7回目の授業は、講師が話題提供を行い、それに対して議論やグループワークを行うという形式で進めます。ワークショップを行う場合もあります。

第8回目以降は、各々の問題関心に基づきグループ分けをし、共同研究・発表を行います。

※履修生の人数や理解度等に応じて、授業計画を適宜変更する可能性があります。

授業の到達目標

・ことばにまつわる多文化共生の問題について理解し、要点や意見を自分の言葉で表現できるようになる。
・異なる意見を尊重しながら対話・議論できるようになる。
・適切な問いの設定、情報収集、分析・検討、発表に関する技術や方法を習得する。
・授業後も持続する問題関心のアンテナを育てる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　40%　　最大4,000字程度の学期末レポートを提出していただきます。
テーマ等詳細は授業内で説明します。
●**平常点**　60%　　リアクションペーパー（毎授業、自身の理解度や意見等を記入・提出）やグループ発表の内容等に基づき総合的に評価します。

4回を超える欠席に対しては単位を与えません。また、30分を過ぎての遅刻は欠席とみなします。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

本授業は対面での実施を基本とします。但し、状況に応じてZoomによるリアルタイムのオンライン授業を行う場合があります（最大7週以内）。必要が生じた場合には、授業内で事前にアナウンスします。

講 義 内 容

論　系　ゼ　ミ

科 目 名	中東・イスラーム文化論ゼミ （春学期）							
担当者名	佐藤　尚平							
多元	２単位	春学期	木曜日	４時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

ゼミ論文の執筆に向けて、中東あるいはイスラームの文化・社会・歴史についての理解を深めます。そのために教員による講義、共通テクストの輪読、参加者自身による調査と発表、討議を行います。このことを通じて、多様な学問・文化・言語・価値観の交流を育み、地球社会に主体的に貢献するための素養を身につけて頂きます。

授業の到達目標

この授業の目標は、中東あるいはイスラームの文化・社会・歴史についての知識を深めるとともに、参加者自身による調査に基づくゼミ論文を執筆するための能力を養うことです。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はしません。
●**レポート**　50%　　提出物により評価します。
●**平常点**　50%　　グループワークや発表を含む教室全体への貢献を評価します。
●**その他**　0%　　その他は特に想定していませんが、変更がある場合には授業内で通知します。

備考・関連ＵＲＬ

上の授業計画はモデルケースです。
受講者のテーマや関心、進捗状況に応じて変更することがあります。
性や暴力にかかわる内容を扱うことがあります。
状況に応じて一部の回をオンラインで行うことがあります。
遅刻3回で欠席1回とみなします。
30分以上の遅刻は欠席とみなします。

科 目 名	中東・イスラーム文化論ゼミ （秋学期）							
担当者名	佐藤　尚平							
多元	２単位	秋学期	木曜日	４時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

ゼミ論文の執筆に向けて、中東あるいはイスラームの文化・社会・歴史についての理解を深めます。そのために教員による講義、共通テクストの輪読、参加者自身による調査と発表、討議を行います。このことを通じて、多様な学問・文化・言語・価値観の交流を育み、地球社会に主体的に貢献するための素養を身につけて頂きます。

授業の到達目標

この授業の目標は、中東あるいはイスラームの文化・社会・歴史についての知識を深めるとともに、参加者自身による調査に基づくゼミ論文を執筆するための能力を養うことです。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　提出物により評価します。
●**平常点**　50%　　グループワークと発表を含む教室全体への貢献を評価します。
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

上の授業計画はモデルケースです。
受講者のテーマや関心、進捗状況に応じて変更することがあります。
性や暴力にかかわる内容を扱うことがあります。
状況に応じて一部の回をオンラインで行うことがあります。
遅刻3回で欠席1回とみなします。
30分以上の遅刻は欠席とみなします。

科 目 名	異文化受容論ゼミ （春学期）							
担当者名	菅野　素子							
多元	２単位	春学期	火曜日	５時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本演習クラスは、ゼミ生各自が「異文化受容」をテーマにした各自のプロジェクトを策定し、研究します。研究とはすなわち、事例や文献を調査し、調査した内容をもとに考えて、考えた内容を授業内で発表・討論し、課題レポートにまとめて発表する一連の営みのことです。

「異文化」という言葉を『広辞苑』で確認すると「生活様式や宗教などが自分の生活圏と異なる文化」とあります。また、『広辞苑』の定義からは明確ではありませんが「自分の生活圏」から異なるものとしては、外国や地域などの地理的な差異だけではなく、時代や年代などの時間的な差異も含まれると考えられますし、少々強引ではありますが、小説が映画化される場合などのようなメディアの差異を含めてもよいかもしれません。

「異文化」を受容する過程で、自文化もしくは異文化は何等かの形で「変容」します。どのように変容するのか、そこにはどのような力関係が働いているのか、受容する側にどのような創意工夫がみられるか、に注目していきましょう。さらには、自文化の中にも異文化が含まれているという気づき、つまり自文化が決して一枚岩的ではないという点にも目を向けていきましょう

ところで、自分のプロジェクトを推進する創造的な問（リサーチクエスチョン）を手に入れるのは、それほど簡単なことではありません。もしかすると「好奇心」や「思い入れ」だけではなく「違和感（どうもしっくりしない）」や「異論」の方が役に立つかもしれません。そこで助けになるのがゼミの仲間です。教室では対話的な方法を通じて、各自の意見や気づきを共有することが可能です。協働的な場としていきましょう。

授業の到達目標

最終的に研究成果をゼミ論にまとめる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行いません。
●**レポート**　20%　　作成の決まりを守って期日までに提出してください。
●**平常点**　80%　　授業への参加貢献度。BBSへの参加を含む。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

教科書や参考文献を特にあげることはしませんが、各自読むべき文献や見るべき資料などのリストの提出を求めます。

科 目 名	異文化受容論ゼミ　（秋学期）							
担当者名	菅野　素子							
多元	２単位	秋学期	火曜日	５時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本演習クラスは、ゼミ生各自が「異文化受容」をテーマにした各自のプロジェクトを策定し、研究します。研究とはすなわち、事例や文献を調査し、調査した内容をもとに考えて、考えた内容を授業内で発表・討論し、課題レポートにまとめて発表する一連の営みのことです。

「異文化」という言葉を『広辞苑』で確認すると「生活様式や宗教などが自分の生活圏と異なる文化」とあります。また、『広辞苑』の定義からは明確ではありませんが「自分の生活圏」から異なるものとしては、外国や地域などの地理的な差異だけではなく、時代や年代などの時間的な差異も含まれると考えられますし、少々強引ではありますが、小説が映画化される場合などのようなメディアの差異を含めてもよいかもしれません。

「異文化」を受容する過程で、自文化もしくは異文化は何等かの形で「変容」します。どのように変容するのか、そこにはどのような力関係が働いているのか、受容する側にどのような創意工夫がみられるか、に注目していきましょう。さらには、自文化の中にも異文化が含まれているという気づき、つまり自文化が決して一枚岩的ではないという点にも目を向けていきましょう

ところで、自分のプロジェクトを推進する創造的な問（リサーチクエスチョン）を手に入れるのは、それほど簡単なことではありません。もしかすると「好奇心」や「思い入れ」だけではなく「違和感（どうもしっくりしない）」や「異論」の方が役に立つかもしれません。そこで助けになるのがゼミの仲間です。教室では対話的な方法を通じて、各自の意見や気づきを共有することが可能です。協働的な場としていきましょう。

授業の到達目標

最終的に研究成果をゼミ論にまとめる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行いません。
●**レポート**　20%　　作成の決まりを守って期日までに提出してください。
●**平常点**　80%　　授業への参加貢献度。BBSへの参加を含む。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

教科書や参考文献を特にあげることはしませんが、各自読むべき文献や見るべき資料などのリストの提出を求めます。どの程度読み進めているのか、折に触れて報告してもらいます。

科 目 名	現代中国文化論ゼミ　（春学期）							
担当者名	高屋　亜希							
多元	２単位	春学期	月曜日	３時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本ゼミは、現代中国の社会や文化に関心があり、これに関連するテーマに取り組む学生を対象とします。大陸だけでなく、台湾・香港・日本・東南アジア・欧米など、中国から移住した人々が移住先の諸地域で果たしてきた社会的役割や文化的営為も視野に入れながら、現代中国をさまざまな視点から考え、理解を深めていきます。

授業は、一つは共通のテクストの読解と議論、もう一つは受講者の発表と議論によって進めます。前者については、3年生が中心となります。共通のテクストについては、受講者の関心や語学力等を考慮した上で具体的な内容を決めます。後者については、おもに4年生が中心で、各自の関心に基づき資料を読解し、要約する作業を繰り返すことを通じて、ゼミ論文の構想を練り、完成させます。

授業の到達目標

3年生については、現代中国の社会や文化、歴史的背景について基本的な知識、資料収集の方法を身につけることを目標とします。4年生については、基本的な知識を踏まえた上で、ゼミ論の準備および発表を通じてさまざまな論点に触れ、より幅広い視野から現代中国を語る視点を獲得することを目標とします。最終的に春学期中にゼミ論のアウトラインを完成させます。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　3年生は春学期に講読した資料を出発点にして、グループごとにテーマを設定して追加調査を行い、発表にまとめてもらいます。またゼミ論執筆に向けて、参考文献の簡単なリストを作成してもらいます。4年生はゼミ論のアウトラインを提出、修正を経た上でアウトラインを確定させていく予定です。
●**平常点**　50%　　出席を重視する他、発表、質疑応答など授業への積極性を評価します。3分の2以上の出席が評価の対象となります。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	現代中国文化論ゼミ （秋学期）							
担当者名	高屋　亜希							
多元	２単位	秋学期	月曜日	３時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本ゼミは、現代中国の社会や文化に関心があり、これに関連するテーマに取り組む学生を対象とします。大陸だけでなく、台湾・香港・日本・東南アジア・欧米など、中国から移住した人々が移住先の諸地域で果たしてきた社会的役割や文化的営為も視野に入れながら、現代中国をさまざまな視点から考え、理解を深めていきます。

授業は受講者の発表と議論によって進めます。3年生はゼミ論作成に向けて、各自テーマを見つけ、関連の参考資料を探していきます。テーマについて概略を把握し、自分がどういう視点、問題意識を持って考察するかを考え、ゼミ論計画書としてまとめてもらいます。4年生は春学期に作成したアウトラインをもとに、追加調査なども行いながら、ゼミ論文の完成を目指します。

授業の到達目標

3年生については、現代中国の社会や文化、歴史的背景について基本的な知識を身につけるとともに、ゼミ論執筆に向けて各自のテーマを見つけ、調査に着手することを目標とします。秋学期中にゼミ論計画書を完成させます。4年生については、ゼミ論の準備や経過報告でさまざまな意見や論点に触れることを通じて、現代中国を語る視野を広げ、ゼミ論の完成を目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし

●**レポート**　50%　　3年生は各自のゼミ論計画書と参考文献リスト、調査の途中報告などを作成してもらう予定です。4年生はゼミ論完成に向けて草稿を段階的に提出してもらいます。

●**平常点**　50%　　出席を重視する他、発表の内容、質疑など授業への積極性を評価します。3分の2以上の出席が評価の対象となります。3年生は各自のゼミ論の準備を進め、授業での発表や議論を踏まえ、ゼミ論計画書を完成させます。4年生は草稿および完成稿について発表してもらいます。

●**その他**　0%　　なし

科 目 名	古典中国ゼミ （春学期）『三国志』を読む							
担当者名	渡邉　義浩							
多元	２単位	春学期	木曜日	３時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

『三国志』巻二十七を読みながら、漢文訓読を学び、中国学についての基本知識を学ぶことを目的とします。

授業の到達目標

辞書を引きながら白文を読めることを目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はいたしません。

●**レポート**　0%　　提出いただきません。

●**平常点**　100%　　精読の考察・討論の際、積極的な発言を求めます。

●**その他**　0%　　その他はありません。

備考・関連ＵＲＬ

ありません。

科 目 名	古典中国ゼミ （秋学期）『三国志』を読む							
担当者名	渡邉　義浩							
多元	２単位	秋学期	木曜日	３時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

『三国志』巻二十七を読みながら、漢文訓読を学び、中国思想、とりわけ儒教についての基本知識を学ぶことを目的とします。

授業の到達目標

辞書を引きながら白文を読めることを目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はいたしません。

●**レポート**　0%　　提出いただきません。

●**平常点**　100%　　精読の考察・討論の際、積極的な発言を求めます。

●**その他**　0%　　その他はありません。

備考・関連ＵＲＬ

ありません。

科 目 名	東アジアの生命観と倫理ゼミ （春学期） 東洋で「哲学」しよう！							
担当者名	垣内　景子							
多元	２単位	春学期	月曜日	４時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本ゼミは、東洋の伝統的な思想を読み解くことを通して、現代の東アジアに生きる自分たちのものの見方や考え方、倫理観や価値観を支えているものを見つめ直し、これからの時代に向けて新たな世界観を模索すること、すなわち「哲学」することを目標とする。ここにいう「哲学」とは、過去の様々な思想や世界観を知ることを通して、自分自身が当たり前だと思っているものを見つめ直し、未来に向けてより良く快適に生きていくための新たな考え方を創り出していくことである。

本ゼミは3年生・4年生の合同で実施する。4年生には各自のゼミ論に向け計画的に研究を進めるよう定期的に報告をしてもらい、3年生にはそれらを参考に自分の研究テーマを模索し、適宜報告してもらう。

授業の到達目標

各自の素朴な興味を出発点とし、それをゼミ論文に結実させていくための作業を通じて、学問研究の道筋を学ぶ。

履修者同士の討論を通じて、自分の考えを他人に伝えること、他人の考えを受け止めること、お互いに批判し合えること等の力を養うことも期待したい。

また、ゼミ全体のテーマを定め、それに関連する理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　30%　　ゼミ論文の途中経過をまとめて期末に提出する。
●**平常点**　70%　　ゼミ論計画・進捗報告、授業の討論における積極性などから総合的に評価する。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

ゼミ論に向けた各自の研究については必要に応じて個別に指導するので、次の5限を空けておいてほしい。

科目名	東アジアの生命観と倫理ゼミ　（秋学期）　東洋で「哲学」しよう！							
担当者名	垣内　景子							
多元	2単位	秋学期	月曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本ゼミは、東洋の伝統的な思想を読み解くことを通して、現代の東アジアに生きる自分たちのものの見方や考え方、倫理観や価値観を支えているものを見つめ直し、これからの時代に向けて新たな世界観を模索すること、すなわち「哲学」することを目標とする。ここにいう「哲学」とは、過去の様々な思想や世界観を知ることを通して、自分自身が当たり前だと思っているものを見つめ直し、未来に向けてより良く快適に生きていくための新たな考え方を創り出していくことである。

本ゼミは3年生・4年生の合同で実施する。4年生には各自のゼミ論に向け計画的に研究を進めるよう定期的に報告をしてもらい、3年生にはそれらを参考に自分の研究テーマを模索し、適宜報告してもらう。

授業の到達目標

各自の素朴な興味を出発点とし、それをゼミ論文に結実させていくための作業を通じて、学問研究の道筋を学ぶ。

履修者同士の討論を通じて、自分の考えを他人に伝えること、他人の考えを受け止めること、お互いに批判し合えること等の力を養うことも期待したい。

また、ゼミ全体のテーマを定め、それに関連する理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　30%　　ゼミ論文の途中経過をまとめて期末に提出する。
●**平常点**　70%　　ゼミ論計画・進捗報告、授業の討論における積極性などから総合的に評価する。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

ゼミ論に向けた各自の研究については必要に応じて個別に指導するので、次の5限を空けておいてほしい。

科目名	思想文化論ゼミ　（春学期）　漢字文化圏の古典研究							
担当者名	吉原　浩人							
多元	2単位	春学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本ゼミは、日本もしくは中国・台湾・韓国・ベトナムなど、漢字文化圏における前近代の思想・宗教・文学・美術などに興味を持つ学生を対象に設置します。3年生は、まず漢字文化圏のあらゆる文献を読解するための基礎となる、古典を正しく読むための訓練から入ります。本年とりあげる『今昔物語集』は、日本最大の説話集です。全三十一巻からなっており、天竺・震旦・本朝の三部構成で、エピソードで綴る世界仏教史といった趣きを持っています。本年はそのうち本朝世俗部巻二十二〜三十一のうちから、学生の希望に応じて一つの巻を選び、輪読していきます。ただし、昨年度読解した、巻二十七と巻三十は除きます。

最初に、オンデマンド講義により、『今昔物語集』の基礎知識について概説し、調査・発表の方法についても指示します。その際に、いくつかの話を提示した上で、担当希望箇所を決めていきます。毎回の学生の皆さんによる発表と、全員参加の質疑・討論により授業を進めていくため、積極的に授業に参加することが必要になります。

なおオンデマンド講義により、本講義の前提となる仏教の世界観について概説します。さらに、日本思想・仏教・文学に関連する辞書の使用法、インターネットと図書館を利用した参考文献の検索、論文の書き方のコンテンツを視聴してもらいます。これらは授業開始時から随時参照できるように設定します。

夏期には、3・4年生合同のゼミ合宿を実施し、東洋文化についての見聞と理解を深めます。また、希望者に対しては漢字文化圏への海外研修旅行も実施します。また、大学院進学希望者に対しては、必要なアドバイスを与えます。

授業の到達目標

『今昔物語集』の読解を通じて、東アジア文化全般についての理解を深めます。また、ゼミ論執筆に向けての個別指導を行います。

成績評価方法

表内容60%：発表の際には、詳細な資料とレジュメを作成して、全員に配布しなければなりません。これらの発表資料とレジュメが評価の対象になります。

平常点評価40%：発表は、何回か続く場合が多いので、追加資料も必要になります。また教場における学生や教員とのやり取りで、新しい方向性が見える場合が多くあります。発表内容ばかりでなく、質問を積極的に行い、授業に参加する態度も採点に加味します。オンデマンド講義視聴を含め、三分の二（10回）以上の出席が、単位授与の必要条件となります。

備考・関連URL

月曜6限に、ゼミ論文の個別指導を行う場合があるため、他の授業や予定などを入れないようにしてください。

新型コロナ禍が終息した場合は、適当な時期に中国・台湾・韓国のいずれかを訪れ、現地大学生との交流などを中心にした研

修旅行を実施したいと考えますが、参加を強制するものではありません。夏期に実施する予定の国内合宿については、全員参加を原則とします。

科 目 名	思想文化論ゼミ （秋学期） 漢字文化圏の古典研究							
担当者名	吉原　浩人							
多元	２単位	秋学期	月曜日	５時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

春学期に同じ。

授業の到達目標

春学期に同じ。

成績評価方法

発表内容60%：発表の際には、詳細な資料とレジュメを作成して、全員に配布しなければなりません。これらの発表資料とレジュメが評価の対象になります。

平常点評価40%：発表は、何回か続く場合が多いので、追加資料も必要になります。また教場における学生や教員とのやり取りで、新しい方向性が見える場合が多くあります。発表内容ばかりでなく、質問を積極的に行い、授業に参加する態度も採点に加味します。オンデマンド講義視聴を含め、三分の二（10回）以上の出席が、単位授与の必要条件となります。

備考・関連ＵＲＬ

春学期に同じ。

科 目 名	漢字・漢文文化ゼミ （春学期） A							
担当者名	河野　貴美子							
多元	２単位	春学期	月曜日	４時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本ゼミが掲げる「漢字・漢文文化」とは、中国を中心として朝鮮、日本など東アジア諸地域に及んだ、漢字・漢文を基として展開してきた学術・文化全般を指していうものです。本ゼミでは、既成の学問の枠組みにとらわれず、古代から現代に至るまでの日本、中国、朝鮮など東アジア各地域におけるさまざまな文化現象を漢字・漢文文化への視点を軸にして考察し、魅力ある新たな東アジア文化論を構築していきたいと考えています。東アジア地域は、かつて漢字・漢文を共有したことにより、世界的にみても独自の文化圏を形成してきたといえます。授業では、日本を含む東アジア地域共通の文化基盤となっている「漢字・漢文文化」について、その本質、特質、意義、問題点をさまざまな角度から考察していきます。具体的には、漢字・漢文文化に関する先行研究を読み深めると同時に、実際の作品・文献の輪読も合わせて行います。また、ゼミ論文に向けての準備を進め、構想発表を行います。

授業の到達目標

漢字・漢文文化を中心に、東アジア文化研究を進めていくために必要な知識や方法の習得を目指します。基本的な参考文献の利用法や、情報の収集方法を身につけるとともに、実際の作品・文献を通して基本的な読解作業、資料の活用にも取り組みます。また、各自のテーマにしたがってゼミ論文の構想に向けての調査、研究を合わせて進めていきます。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　30%　　内容、構成、資料の使い方などを総合的に評価します。
●**平常点**　70%　　授業への主体的な参加度および討論の内容。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	漢字・漢文文化ゼミ （春学期） B							
担当者名	河野　貴美子							
多元	２単位	春学期	月曜日	５時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

漢字・漢文文化に関する先行研究への理解を深めるとともに、作品・文献の輪読を行います。また、ゼミ論文の執筆、提出に向けて具体的な作業を進め、中間報告などを行っていきます。

授業の到達目標

東アジア文化研究に関わる知識を深め、広い視野で情報を収集し、分析検討する力を身につけます。漢字・漢文による作品・文献の読解にも習熟するとともに、より発展的な思考に展開できる応用力の獲得を目指します。そのうえで、各自のゼミ論文の中間報告を行い、ゼミ論文の完成に向けて執筆を進めます。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　0%　　行わない。
●**平常点**　100%　　授業への主体的な参加度、発表等。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	漢字・漢文文化ゼミ （秋学期） A							
担当者名	河野　貴美子							
多元	２単位	秋学期	月曜日	４時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本ゼミが掲げる「漢字・漢文文化」とは、中国を中心として朝鮮、日本など東アジア諸地域に及んだ、漢字・漢文を基として展開してきた学術・文化全般を指していうものです。本ゼミでは、既成の学問の枠組みにとらわれず、古代から現代に至るまで

の日本、中国、朝鮮など東アジア各地域におけるさまざまな文化現象を漢字・漢文文化への視点を軸にして考察し、魅力ある新たな東アジア文化論を構築していきたいと考えています。東アジア地域は、かつて漢字・漢文を共有したことにより、世界的にみても独自の文化圏を形成してきたといえます。授業では、日本を含む東アジア地域共通の文化基盤となっている「漢字・漢文文化」について、その本質、特質、意義、問題点をさまざまな角度から考察していきます。具体的には、漢字・漢文文化に関する先行研究を読み深めると同時に、実際の作品・文献の輪読も合わせて行います。また、ゼミ論文に向けての準備を進め、構想発表を行います。

授業の到達目標

漢字・漢文文化を中心に、東アジア文化研究を進めていくために必要な知識や方法の習得を目指します。基本的な参考文献の利用法や、情報の収集方法を身につけるとともに、実際の作品・文献を通して基本的な読解作業、資料の活用にも取り組みます。また、各自のテーマにしたがってゼミ論文の構想に向けての調査、研究を合わせて進めていきます。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　30%　　内容、構成、資料の使い方などを総合的に評価します。
●**平常点**　70%　　授業への主体的な参加度および討論の内容。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	漢字・漢文文化ゼミ （秋学期） B							
担当者名	河野　貴美子							
多元	２単位	秋学期	月曜日	５時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

漢字・漢文文化に関する先行研究への理解を深めるとともに、作品・文献の輪読を行います。また、ゼミ論文の執筆、提出に向けて具体的な作業を進め、中間報告などを行っていきます。

授業の到達目標

東アジア文化研究に関わる知識を深め、広い視野で情報を収集し、分析検討する力を身につけます。漢字・漢文による作品・文献の読解にも習熟するとともに、より発展的な思考に展開できる応用力の獲得を目指します。そのうえで、各自のゼミ論文の中間報告を行い、ゼミ論文の完成に向けて執筆を進めます。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　0%　　行わない。
●**平常点**　100%　　授業への主体的な参加度、発表等。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	日本文化史ゼミ （春学期）							
担当者名	伊川　健二							
多元	２単位	春学期	木曜日	５時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本ゼミは、日本史、とりわけ文化史の諸問題を広範に探求、議論し、ゼミ論文完成に到達するための場所である。ここにいう「文化」は芸術や文学などの狭義の内容はいうまでもなく、特定の社会で共有される生活様式一般を含んでいる。受講者は極力自由に問題を設定し、発表や議論を通じて考察を深めていく。それらの活動を通じて、学問としての歴史学の方法論に触れ、ゼミ論文の完成を目指す。

テーマは基本的に受講者の希望により設定されるが、本ゼミにふさわしいものであることのほか、受講者の生年以前（生年を含まない）の出来事であることを要件とする。また、外国との関係史、比較史を観点とする研究を歓迎する。

【3年生】

春学期：歴史学の出発点となる史料について、『日本史史料論』に基づく口頭報告により概観する。

秋学期：春期の学習内容や夏季休暇期間中の学習を踏まえて、各自の研究テーマを設定し、先行研究などについて報告をする。

【4年生】

春学期：前学期に設定したテーマについて、春期休暇などの時間を使用して論文の全体構想を練り、発表し、その適否を議論する。

秋学期：夏期休暇などの時間を使用して、論文の独自性を打ち出し、発表し、ゼミ論文提出にむけての最終的な準備をする。

【その他】

木曜6限を次の用途に使用することがありうる。

・3年生・4年生のうち大学院進学希望者などがいる場合、論文の執筆方法、和製漢文の読解などの高度な研究・学習の場とする。

・4年生秋学期には、論文指導に使用することがありうる。

・外部の講師を招聘する際に、講演時間に使用することがありうる。

授業計画における「研究発表」の一部を、現地見学などの活動に振り替えることがありうる。

授業の到達目標

ゼミ論文完成を最終目標として、各段階における内容を着実に消化することで、その準備を進める。

以上および以下の具体的内容はあくまで予定であり、受講者との相談によるなどの事情により変更される可能性がある。

成績評価方法

●**試験**　0%　　-
●**レポート**　60%　　ゼミにおける報告内容
●**平常点**　40%　　参加度
●**その他**　0%　　※ただし、以下の条件にひとつでも当てはまる者は、原則として不合格とする。

・主として欠席または遅刻により、初回授業終了時点で割振りが未定である者

・当該学期の発表担当回のうち1回でも、欠席、あるいは出席しても発表ができなかった者

備考・関連URL

・本科目は、コロナ禍により不可能と判断される場合を除いて、すべての回を対面により実施する。
・出席はMoodleへの登録のみにより確認する。教室内でインターネットに接続可能な環境を各自で整えること。当該時間中に登録しなかった／できなかった場合の補填措置は、事情の如何に関わらずおこなわない。
・授業当日（0時以降）の問い合わせには、原則として応対しない。

科 目 名	日本文化史ゼミ （秋学期）							
担当者名	伊川　健二							
多元	2単位	秋学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本ゼミは、日本史、とりわけ文化史の諸問題を広範に探求、議論し、ゼミ論文完成に到達するための場所である。ここにいう「文化」は芸術や文学などの狭義の内容はいうまでもなく、特定の社会で共有される生活様式一般を含んでいる。受講者は極力自由に問題を設定し、発表や議論を通じて考察を深めていく。それらの活動を通じて、学問としての歴史学の方法論に触れ、ゼミ論文の完成を目指す。

テーマは基本的に受講者の希望により設定されるが、本ゼミにふさわしいものであることのほか、受講者の生年以前（生年を含まない）の出来事であることを要件とする。また、外国との関係史、比較史を観点とする研究を歓迎する。

【3年生】
春学期：歴史学の出発点となる史料について、『日本史史料論』に基づく口頭報告により概観する。
秋学期：春期の学習内容や夏季休暇期間中の学習を踏まえて、各自の研究テーマを設定し、先行研究などについて報告をする。
【4年生】
春学期：前学期に設定したテーマについて、春期休暇などの時間を使用して論文の全体構想を練り、発表し、その適否を議論する。
秋学期：夏期休暇などの時間を使用して、論文の独自性を打ち出し、発表し、ゼミ論文提出にむけての最終的な準備をする。
【その他】
木曜6限を次の用途に使用することがありうる。
・3年生・4年生のうち希望者がいる場合、論文の執筆方法、和製漢文の読解などの高度な研究・学習の場とする。
・4年生秋学期には、論文指導に使用することがありうる。
・外部の講師を招聘する際に、講演時間に使用することがありうる。
授業計画における「研究発表」の一部を、現地見学などの活動に振り替えることがありうる。

授業の到達目標

ゼミ論文完成を最終目標として、各段階における内容を着実に消化することで、その準備を進める。
以上および以下の具体的内容はあくまで予定であり、受講者との相談によるなどの事情により変更される可能性がある。

成績評価方法

●**試験**　0%　　-
●**レポート**　60%　　ゼミにおける報告内容
●**平常点**　40%　　参加度
●**その他**　0%　　※ただし、以下の条件にひとつでも当てはまる者は、原則として不合格とする。
・主として欠席または遅刻により、初回授業終了時点で割振りが未定である者
・当該学期の発表担当回のうち1回でも、欠席、あるいは出席しても発表ができなかった者

備考・関連URL

・本科目は、コロナ禍により不可能と判断される場合を除いて、すべての回を対面により実施する。
・出席はMoodleへの登録のみにより確認する。教室内でインターネットに接続可能な環境を各自で整えること。当該時間中に登録しなかった／できなかった場合の補填措置は、事情の如何に関わらずおこなわない。
・授業当日（0時以降）の問い合わせには、原則として応対しない。

科 目 名	ヨーロッパ文化論ゼミ （春学期） なぜ人びとは国民や民族の名のもとに争うのか？争えるのか？争わねばならないのか？①							
担当者名	中澤　達哉							
多元	2単位	春学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

なぜ二つの世界大戦はヨーロッパで始まったのか？ なぜ近現代ヨーロッパの人びとは国民や民族（ネイション）のために命を賭してまで戦いあえたのか？ このような問いをたてるとき、必ず議論となるのが、そもそもヨーロッパの国民/民族は太古の昔から存在する共同体なのかどうか、あるいは、近代以降に創られた人工物なのかどうか、という論題である。現在の学説はふたつに割れている。前者は、国民/民族の起源を古代に置き血縁的・社会的連続性を重視する「原初論系本質主義」であり、後者は、18世紀の産業革命に際して国民/民族が構築ないしは捏造されたと理解する「近代論系構築主義」である。

近現代ヨーロッパ史研究において最大のテーマの一つとされる、近代国民/民族とそのナショナリズムの根源に関する研究方法（主にE・ゲルナー、B・アンダーソン、E・ホブズボーム、A・スミスの学説）を学び、近世後期以降のヨーロッパ文化を考察する際に必要な観点や諸学説の整理の仕方など、総合的な分析力を高める。

授業の到達目標

ヨーロッパ近現代史に関する日本語・欧語の著書や論文が、はたして原初論に依拠して書かれているのか、それとも近代論に基づき書かれているのか、しっかりと読解できるようになること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　50%　　レジュメ発表、パワーポイント発表を、提出レポートとして理解し、総合的に判断する。
正確かつ論理的な研究発表をすることができる。

●**平常点**　50%　　授業内容を理解し、質問などを通して、授業に積極的に参加している。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

対面授業：ハイブリッドあるいはリアルタイム配信で実施する日もあるので、教員からの連絡に注意してください。中澤達哉のX（旧Twitter）@NakazawaTatsuya
早稲田大学ナショナリズム・エスニシティ研究所のX（旧Twitter）@WineWaseda

科 目 名	ヨーロッパ文化論ゼミ （秋学期） なぜ人びとは国民や民族の名のもとに争うのか？争えるのか？争わねばならないのか？②							
担当者名	中澤　達哉							
多元	2単位	秋学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

1980年代以降のヨーロッパ・ナショナリズム研究は、近代論（modernization theory）と原初論（primordialism theory）ないしはエスノ象徴主義（ethnosymbolism）という図式のもとで論争が繰り広げられ、文化人類学・社会人類学・民族学・政治学・社会学・歴史学の領域を超えて世界レベルで深化した。なかでも「近代論系構築主義」の文化研究には、カルチュラル・スタディーズやポストコロニアル・スタディーズも加わり、2010年前後まで国民国家に関する論壇は活況を呈していた。しかし現在では、こうした盛況もいささか昔日のものとなった。なによりも注視しなければならないのは、原初論・近代論ともに理論的な限界が指摘されはじめていることである。

本ゼミでは、両学説の内実を詳細に検証し、その利点と問題点を史料分析も交えながら把握する。これによって、文献を解読する際に必要な実証力や諸学説の整理の仕方など、総合的な研究力をさらに高める。そのうえで、ナショナリズムのほか、愛国主義・自民族中心主義・排他主義・難民問題・移民問題・地域主義・EUの今後まで考えたい。

授業の到達目標

学説整理のうえでナショナリズムに関する実証的な論文を書くことができるようになること。簡潔で的確なプレゼンテーションができるようになること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　50%　　レジュメ発表、パワーポイント発表を、提出レポートとして理解し、ゼミ論文とあわせて総合的に判断する。
正確かつ論理的な研究発表をすることができる。
●**平常点**　50%　　授業内容を理解し、質問などを通して、授業に積極的に参加している。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

対面授業：ハイブリッドあるいはリアルタイム配信で実施する日もあるので、教員からの連絡に注意してください。中澤達哉のX（旧Twitter）@NakazawaTatsuya
早稲田大学ナショナリズム・エスニシティ研究所のX（旧Twitter）@WineWaseda

科 目 名	ユーラシア文化論ゼミ （春学期）							
担当者名	松本　隆志							
多元	2単位	春学期	金曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

さまざまな興味・関心を持つ学生が集まることが予想されるので、まずはひとりひとりがどのような関心と知的背景を持つのかをお互いに知るための発表を行なってもらいます。

とくに3年生は、この発表をとおして、自分が興味を持っていること、「おもしろい」と思っていることを、前提知識を持たない他者と分かち合うための基礎的なスキルと身につけましょう。

4年生は、3年生の発表に対する助言を行うとともに、自身のゼミ論文執筆に向けて資料収集などの準備を進めます。

授業の到達目標

3年生：自分が関心を持つテーマについての基礎的な知識を獲得すること。また、自分の興味・関心を他者と分かち合うためのプレゼンテーションのスキルを身につけること。

4年生：ゼミ論文のテーマを絞り込み、必要な資料を収集すること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　ディスカッションへの参加度、発表資料の完成度などから総合的に評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	ユーラシア文化論ゼミ （秋学期）							
担当者名	松本　隆志							
多元	2単位	秋学期	金曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

3年生は、それぞれの研究テーマの基礎文献を読解し、その成果を発表してもらいます。先行研究をどのように読み、それを自分の研究にどうやって活用するのか、その方法を身につけましょう。基礎文献に触れることで、自分の研究テーマを絞り込むための道筋も見えてくるでしょう。

4年生は、秋学期が始まる時点でゼミ論文の目次を整えて、論文全体の構想を発表します。その後は個別指導を受けつつ、途中経過をゼミで発表し、ゼミ論文の完成を目指します。

授業の到達目標

3年生：次年度のゼミ論文執筆に向けて、大まかなテーマ設定を行なうこと。
4年生：ゼミ論文を完成させること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　ディスカッションへの参加度、発表資料の完成度などから総合的に評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	イギリス・アイルランド・英連邦諸国ゼミ （春学期） A　イギリス諸地域に関する通時的な知識を身につけよう							
担当者名	渡辺　愛子							
多元	2単位	春学期	火曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

前期はイギリス通史として、なんと新石器時代(!)から最近の出来事までを網羅したDargieの*A History of Britain*を扱う。大きな本ではあるが、さまざまな歴史項目をコンパクトに見開きでまとめ読みやすい体裁づくりを目指した"A"History'に仕上がっている。ゼミ生一人ひとり（あるいはグループ）が担当の時代区分をまずは時系列的に概説した上で、関心のある歴史事象についてさらにリサーチを行い発表する（最低一回は英語による発表を予定)。その際、プレゼンの体裁やスピーチ技術の向上にも留意してもらいたい。

なお、一年を通じ授業のはじめには、毎回ウォーミングアップとして欧米に古くから伝わる伝承童謡('nursery rhymes' or 'Mother Goose')を紹介する。まずは解釈を行い童謡の内容を把握した後、発音やメロディーに注意しながら暗記・暗唱してもらう。こちらに関しては予習の必要はないが、履修者の積極的なコミットメントが期待される（独唱、合唱、輪唱などなど…)。

※授業内では、日本語・英語を「公用語」として、積極的に発言してもらいたい。<英語によるプレゼンテーション>もトレーニングの一環に含まれることになるだろう。

授業の到達目標

ゼミ要項にも記したとおり、このゼミでは、イギリス、アイルランドという地理的に近接した地域だけでなく、英連邦諸国、すなわち「イギリス帝国の旧植民地」という、歴史上で政治的に構築された諸地域を扱い、小説、詩、戯曲、映画、サブカルチャーなどに表れた国や地域、時代、政治、民俗、思想などを映し出す文化的表象に関する知識を深めることが目的である。

また、「ナーサリーライムズ」に親しむことによって、欧米の民衆文化だけでなく、文学をはじめ、映画、新聞など、現在でも数多くの場面に顔を出す、さまざまな伝承童謡の現代的意義や歴史性についても考える。

成績評価方法

●**試験**　10%　　授業の冒頭で行う「ナーサリーライムズ」に関するテスト
●**レポート**　40%　　学期末課題論文
●**平常点**　50%　　出席を重視するほか、原則として、個人発表と授業における貢献度を評価基準とする。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

Waseda Moodleを利用して様々な連絡・告知を行うため、メールを受信できるように各自設定しておくこと。
あらゆる場面での積極的参加をとくに重視する。また、授業への出席と担当部分の発表を規定回数以上行うことが期末課題論文提出の最低条件である。

科 目 名	イギリス・アイルランド・英連邦諸国ゼミ （春学期） B　論文作成の基礎を身につけ、独創的な「自分だけの」ゼミ論を構想しよう							
担当者名	渡辺　愛子							
多元	2単位	春学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

4年生対象のこの「発展ゼミ」では、3年次の「基礎ゼミ」で培った基礎知識をふまえ、論文の形式や情報収集方法を学んだ上で自分自身のテーマに取り組み、最終的にゼミ論文としてまとめる。前期は論文執筆のための基礎能力育成と研究の経過報告を行う。

しかし、このゼミは、必ずしも「結果」としての論文や、それを執筆する行為だけを求めているわけではない。むしろ、(1)テーマの設定、(2)本や雑誌論文などの資料の収集・整理、(3)資料の正確な理解とその批判的考察、(4)収集した情報と各自の考察の報告と討論、(5)調査内容や自分の考えを論文として適切な構成と形式の文章にまとめあげる、といった「過程」を重視する。

イギリス・アイルランド・英連邦諸国を扱うゼミであるため、当然のことながら資料は日本語のもの（翻訳も含む）だけでなく英語のもの（原典）にもあたることが要求される。また、トピックや先行研究の紹介だけでなく執筆者自身の独創的な視点や解釈が求められることにも留意すること。

授業の到達目標

イギリス・アイルランド・英連邦諸国に関連するトピックから、論文として適切なテーマを設定し、十分な情報収集を行い、自分の考えをまとめ、論を組立て、それを文章および口頭で発信する能力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　出席、提出物（※ゼミ論文自体は別評価)、発表と討論における貢献度により評価する。ゼミ論文の内容については、テーマと調査方法の適切さ、収集資料とその理解度、論理構成、論文形式、独創性などについて評価する。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

Waseda Moodleを利用して様々な連絡・告知を行うため、メールを受信できるように各自設定しておくこと。
あらゆる場面での積極的参加をとくに重視する。また、授業への出席と担当部分の発表を規定回数以上行うことが期末課題論文提出の最低条件である。

科 目 名	イギリス・アイルランド・英連邦諸国ゼミ （秋学期） A イギリス諸地域に関する共時的な知識を身につけよう							
担当者名	渡辺　愛子							
多元	2単位	秋学期	火曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

後期はおもに、多くの学生が関心を寄せている現在のイギリス社会を中心に、ナショナリズム、人種、階級、ジェンダーなどに関する現代的問題を扱った諸論文を読んでいく。まずは正確な英文読解をめざし、問題意識を培ったうえで、各自がリサーチを行う。学期の後半では、次年度に控えたゼミ論文の構想を練る段階まで到達したい。

なお、前期同様、授業のはじめには、毎回ウォーミングアップとして欧米に古くから伝わる伝承童謡('nursery rhymes' or 'Mother Goose')を紹介する。まずは解釈を行い童謡の内容を把握した後、発音やメロディーに注意しながら暗記・暗唱してもらう。こちらに関しては予習の必要はないが、履修者の積極的なコミットメントが期待される（独唱、合唱、輪唱などなど…）。

※授業内では、日本語・英語を「公用語」として、積極的に発言してもらいたい。<英語によるプレゼンテーション>もトレーニングの一環に含まれることになるだろう。

授業の到達目標

ゼミ要項にも記したとおり、このゼミでは、イギリス、アイルランドという地理的に近接した地域だけでなく、英連邦諸国、すなわち「大英帝国の旧植民地」という、歴史上で政治的に構築された諸地域を扱い、小説、詩、戯曲、映画、サブカルチャーなどに表れた国や地域、時代、政治、民俗、思想などを映し出す文化的表象に関する知識を深めることが目的である。

また、「ナーサリーライムズ」に親しむことによって、欧米の民衆文化だけでなく、文学をはじめ、映画、新聞など、現在でも数多くの場面に顔を出す、さまざまな伝承童謡の現代的意義や歴史性についても考える。

成績評価方法

●**試験**　10%　　授業の冒頭で行う「ナーサリーライムズ」に関するテスト
●**レポート**　40%　　ゼミ論文構想
●**平常点**　50%　　出席を重視するほか、原則として、発表と授業における貢献度を評価基準とする。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

Waseda Moodleを利用して様々な連絡・告知を行うため、メールを受信できるように各自設定しておくこと。

あらゆる場面での積極的参加をとくに重視する。また、授業への出席と担当部分の発表を規定回数以上行うことが期末課題論文提出の最低条件である。

科 目 名	イギリス・アイルランド・英連邦諸国ゼミ （秋学期） B 論文作成の基礎を身につけ、独創的な「自分だけの」ゼミ論を書き上げよう							
担当者名	渡辺　愛子							
多元	2単位	秋学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

4年生対象のこの「発展ゼミ」では、3年次の「基礎ゼミ」で培った基礎知識をふまえ、論文の形式や情報収集方法を学んだ上で自分自身のテーマに取り組み、最終的にゼミ論文としてまとめる。後期は中間発表を通じて検討をかさねながら、ゼミ論完成を目指す。しかし、このゼミは、必ずしも「結果」としての論文や、それを執筆する行為だけを求めているわけではない。むしろ、(1)テーマの設定、(2)本や雑誌論文などの資料の収集・整理、(3)資料の正確な理解とその批判的考察、(4)収集した情報と各自の考察の報告と討論、(5)調査内容や自分の考えを論文として適切な構成と形式の文章にまとめあげる、といった「過程」を重視する。

イギリス・アイルランド・英連邦諸国を扱うゼミであるため、当然のことながら資料は日本語のもの（翻訳も含む）だけでなく英語のもの（原典）にもあたることが要求される。また、トピックや先行研究の紹介だけでなく執筆者自身の独創的な視点や解釈が求められることにも留意すること。

授業の到達目標

イギリス・アイルランド・英連邦諸国に関連するトピックから、論文として適切なテーマを設定し、十分な情報収集を行い、自分の考えをまとめ、論を組立て、それを文章および口頭で発信する能力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　出席、数回ある草稿の期限内提出の達成度により評価する（※ゼミ論文自体は別評価）。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

Waseda Moodleを利用して様々な連絡・告知を行うため、メールを受信できるように各自設定しておくこと。あらゆる場面での積極的参加をとくに重視する。

また、授業への出席と担当部分の発表を規定回数以上行うことが期末課題論文提出の最低条件である。

科 目 名	グローバリゼーション・文化・英語教育ゼミ （春学期） Globalization, Culture, and English Education (GCEE))							
担当者名	ホサイン　タニア							
多元	2単位	春学期	金曜日	3時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

No official definition of " "Global" or "World" language exists. Still, it essentially refers to a language that is learned and spoken internationally and is characterized not only by the number of native and second language speakers but also by its geographical distribution and its use in international organizations and diplomatic relations. A global language acts as a " "lingua franca," a common language that enables people from diverse backgrounds and ethnicities to communicate equitably. This course examines English language issues at societal and global levels. It will discuss the historical context of the worldwide development of English, the

status of English as a first and second language, and issues involving English currently developing in and across diverse societies.

Learning a language is a very complex phenomenon. One must move from grammar to logic and to the philosophy of language to overcome the complexities. Currently, English is not viewed as something imposed from the outside but as belonging to becoming an intrinsic part of the national culture. Therefore, people are encouraged to express matters that are important to their lives and confidently and effectively communicate their concerns, cultural viewpoints, and personal interests by taking ownership of English and using it as a meaningful interchange with people of other countries and to relate what it means to be a member of their specific societies and cultures in a positive way to others in the world community. In addition, students will understand how English varieties are available according to social context, including class, gender, and culture.

No official definition of " "global" or "world" language exists. Still, it essentially refers to a language that is learned and spoken internationally and is characterized not only by the number of native and second language speakers but also by its geographical distribution and its use in international organizations and diplomatic relations. A global language acts as a " "lingua Franca," a common language that enables people from diverse backgrounds and ethnicities to communicate more or less equitably. This course examines English language issues at societal and global levels. It will discuss the historical context of the worldwide development of English, the status of English as a first and second language, and issues involving English currently developing in and across diverse societies.

Learning a language is a very complex phenomenon. One has to move from grammar to logic and to the philosophy of language to overcome the complexities. Currently, English is not viewed as something imposed from the outside but as belonging to becoming an intrinsic part of the national culture. Therefore, people are encouraged to express essential matters and confidently and effectively communicate their concerns, cultural viewpoints, and personal interests by taking ownership of English. Using English is a meaningful interchange with people of other countries, and relating what it means to be a member of their specific societies and cultures positively to others in the world community. Students will, and every society has its culture, how people live and express themselves, and how they value objects and thoughts. This class will focus on how cultures are changing with globalization.

Globalization is a process that connects different countries with different cultures, castes, and heritage. Globalization has brought significant changes. People's People's mentality has changed their food habits, culture, languages, and place. It has both positive and negative impacts on society. Some people argue that globalization is an enriching process; it opens the minds and views of the people. Others argued that it takes tradition and culture. This course aims to show how globalization has occurred in every society and different communities and its positive and negative impacts. This course will also focus on English language education policy in Asia. You will read several articles about Asian language policy and glimpse different societies. These articles will help you understand other educational policies, successes, and problems. You will also learn how English language education creates inequalities in society. Thus, this course will enable you to understand global realities. The focus of this term would be cross-cultural and intercultural communication.

授業の到達目標

This course aims to give the students an idea of the existing cultural patterns that are unknown to them. Students will learn various aspects of different cultures and heritages, and at the same time, they will understand the inequalities in society. This course examines cultural issues at societal and global levels. It discusses the impact of globalization on Indian culture and identity. Students will think critically and write analytically, which will help them become global citizens.

In this class, you will practice reading critically, organizing your ideas, and writing clear, concise, and academic prose. We will be using tasks from articles to launch our inquiries. From there, we will draw on various media to help us explore these questions. Research and the collection of ideas and materials will be fundamental. You will be allowed to use our texts from the class and follow your interests, which will help explain and expand the points that we are making. You will be referring to film, newspapers, magazines, journals, articles, books, and – of course – the Internet. We will learn to use such sources to advance our thinking and ideas, cite them correctly, and use them in creatively written argumentation, evaluation, and explanation. This course examines cultural issues at societal and global levels. It discusses the impact of globalization on Indian culture and identity. Students will think critically and write analytically, which will help them become global citizens.

成績評価方法

- **試験** 30% presentation
- **レポート** 40% Final paper
- **平常点** 20% In-class test
- **その他** 10% Attendance

科 目 名	グローバリゼーション・文化・英語教育ゼミ （秋学期） Globalization, Culture, and English Education (GCEE))							
担当者名	ホサイン タニア							
多元	２単位	秋学期	金曜日	３時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

No official definition of "global" or "world" language exists. Still, it essentially refers to a language that is learned and spoken internationally and is characterized not only by the number of its native and second language speakers but also by its geographical distribution and its use in international organizations and diplomatic relations. A global language acts as a "lingua franca," a common language that enables people from diverse

backgrounds and ethnicities to communicate more or less equitably. This course examines English language issues at societal and global levels. It will discuss the historical context of the worldwide development of English, the status of English as a first and second language, and issues involving English currently developing in and across diverse societies. Learning a language is a very complex phenomenon. One has to move from grammar to logic and to the philosophy of language to overcome the complexities. Currently, English is not viewed as something imposed from the outside but as belonging to and becoming an intrinsic part of the national culture. Therefore, people are encouraged to express essential matters in their lives and confidently and effectively communicate their concerns, cultural viewpoints, and personal interests by taking ownership of English. Using English is a meaningful interchange with people of other countries, and relating what it means to be a member of their specific societies and cultures positively to others in the world community. Students will know that every society has its culture, how people live and express themselves, and how they value objects and thoughts. This class will focus on how cultures are changing with globalization.

Globalization is a process that connects different countries of different cultures, castes, and heritage. Globalization has brought significant changes. People's mentality has changed their food habits, culture, and languages, also replaced. It has both positive and negative impacts on society. Some people argue that globalization is an enriching process; it opens the minds and views of the people. Others have argued that it takes tradition and culture. This course aims to show how globalization has taken place in every society and the positive and negative impacts on different communities. This course will also focus on the education policy on English language use in Asia. You will read several articles about the language policy in Asia from which you will have a glimpse of different societies. These articles will help you understand other countries' educational policies, successes, and problems. You will also learn how English language education creates inequalities in society. Thus, this course will enable you to understand global realities.

授業の到達目標

This course aims to give the students an idea of the existing cultural patterns unknown to them. Students will learn about various aspects of different cultures and heritages, and at the same time, they will learn about the inequalities that exist in society. This course examines cultural issues at societal and global levels. It discusses the impact of globalization on Indian culture and identity. Students will think critically and write analytically, and that will help them to become global citizens.

In this class, you will practice reading critically, organizing your ideas, and writing clear, concise, and academic prose. We will be using tasks from articles to launch our inquiries. From there, we will draw on various media to help us explore these questions. Research and the collection of ideas and materials will be fundamental. You will be allowed to use our texts from the class and follow your interests, which will help explain and expand the points that we are making. You will be referring to film, newspapers, magazines, journals, articles, books, and – of course – the Internet. We will learn to use such sources to advance our thinking and ideas, cite them correctly, and use them in creatively written argumentation, evaluation, and explanation. This course examines cultural issues at societal and global levels. It discusses the impact of globalization on Indian culture and identity. Students will think critically and write analytically, and that will help them to become global citizens.

成績評価方法

Assessment will be based on the following aspects:
: Attendance, Homework, Short tests, Opinion paper, Group projects, and report

備考・関連ＵＲＬ

MultilingualEducation in South Asia（Routledge Series in Language and Content IntegratedTeaching & Plurilingual Education）Paperback – January 29, 2024
English Edition by Lina Adinolfi (Editor), Usree Bhattacharya (Editor), Prem Phyak (Editor)

科 目 名	地中海文化論ゼミ （春学期）							
担当者名	井上 文則							
多元	２単位	春学期	水曜日	２時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

ギリシア・ローマ文化を初めとする地中海文化の諸問題について考える。受講生各自が設定したテーマを報告し、参加者で討論する。「ゼミ論文」」を完成させることを目指す。

授業の到達目標

ゼミ論文の作成および、地中海地方の諸文化についての知見を深める。

成績評価方法

●**試験** 0% なし
●**レポート** 0% なし
●**平常点** 100% 出席・報告・討論内容によって総合的に評価する。
●**その他** 0% なし

科 目 名	地中海文化論ゼミ （秋学期）							
担当者名	井上 文則							
多元	２単位	秋学期	水曜日	２時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

ギリシア・ローマ文化を初めとする地中海文化の諸問題について考える。受講生各自が設定したテーマを報告し、参加者で討論する。「ゼミ論文」」を完成させることを目指す。

授業の到達目標

ゼミ論文の作成および、地中海地方の諸文化についての知見を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　出席・報告・討論内容によって総合的に評価する。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	アメリカ文化論ゼミ （春学期）							
担当者名	チャン　エドワード　ケイ							
多元	2単位	春学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

3rd-year students （ Spring): The seminar will be an introduction to American studies, which is an interdisciplinary field of study focused on various aspects of American culture. We will organize our study of America around key topics (many of which are overlapping), such as national identity, race and ethnicity, class, gender, sexual orientation, globalization, immigration, regionalism, foodways, consumerism, countercultures, and so on. The seminar will emphasize "active learning," meaning students are expected to actively contribute to the class through participation, discussion based on homework assignments and presentations, among other things. The course will be conducted entirely in English, and students should be prepared to speak in English during class every week.

4th-year students (Spring): The main focus of this course is to conduct research and produce a preliminary draft of the Graduation Thesis (4,000 words) to prepare for the final version (final version: 8,000 words) in the fall semester. Students will conduct research for the graduation thesis each week and do informal status reports and a presentation on their research to both 3rd-year and 4th-year students during the semester. The class format will be research/writing workshops meeting with 3rd-year students. The course will be conducted entirely in English, and students should be prepared to speak in English during class every week.

授業の到達目標

3rd-year students: Students will learn about various aspects of American culture and how to analyze culture from an academic perspective. They will also develop critical thinking, analytical skills, and English-language discussion skills. The main objective is to prepare students for researching and writing the graduation thesis during the fourth year.

4th-year students: Students will learn and practice academic research and writing skills for the main objective: to produce the graduation thesis.

成績評価方法

(subject to change)
Evaluation for 3rd-year students:
Weekly quizzes (10 x 5 points)　50%
Presentations (2 x 10 points)　20%
Final paper　10%
Participation/In-class activities　20%
TOTAL　100 %
Evaluation for 4th-year students:
Annotations (4 x 10 points)　40%
Bibliography　10%
Preliminary draft of thesis　20%
Status reports (2 x 10 points)　20%
Participation/In-class activities　10%
TOTAL　100 %

科 目 名	アメリカ文化論ゼミ （秋学期）							
担当者名	チャン　エドワード　ケイ							
多元	2単位	秋学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

3rd-year students: Students will begin doing research for the Graduation Thesis. The class format will be workshops. The course will be conducted entirely in English, and students should be prepared to speak in English during class every week.

4th-year students: The main focus of this course is to conduct research and produce the Graduation Thesis. Each week, students will conduct research for the Graduation Thesis and share their research with the other students. The class format will be workshops. The course will be conducted entirely in English, and students should be prepared to speak in English during class every week.

授業の到達目標

3rd-year students: Students will learn about various aspects of American culture and how to analyze culture from an academic perspective. They will also develop critical thinking, analytical skills, and English-language discussion skills. The main objective is to prepare students for researching and writing the Graduation Thesis during the fourth year.

4th-year students: Students will learn and practice academic research and writing skills for the main objective: to produce the graduation thesis.

成績評価方法

(subject to change)
3rd-year students:
Final paper 40%
Research reports (2 x 20 points) 40%
Participation/In-class activities 20%
TOTAL 100 %
4th-year students:
First complete draft 60% (all or nothing)
Second complete draft (required to pass course)
Final draft (required to pass course)
Participation/In-class activities 40%
TOTAL 100 %

科 目 名	Seminar on Global Japanese Culture and Media III (Spring) A Japanese popular culture and Media							
担当者名	アコスタ　アリエル　キャサリン							
多元	2単位	春クォーター	火3時限	金3時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

This course introduces key themes, ideas, and methodologies in the study of media texts and platforms, with special attention paid to issues relevant to contemporary Japanese popular culture. Students will be encouraged to think critically about the theoretical arguments that emerge in the course of our readings and discussions, and to apply these findings productively to their individual areas of interest within the field of media studies.

授業の到達目標

Students will familiarize themselves with the main methods to study media and popular culture, and start exploring ideas to eventually choose their graduation thesis topics in the following semester.

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　Final Project
●**平常点**　30%　Attendance and Class Engagement
●**その他**　30%　Weekly Responses and Presentations

科 目 名	Seminar on Global Japanese Culture and Media III (Spring) B Japanese Popular Culture and Media							
担当者名	アコスタ　アリエル　キャサリン							
多元	2単位	春クォーター	火2時限	金2時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

This seminar will offer a space for students to delve into Japanese popular culture (fiction, music, animation, games, etc.) and its expressions in various media, considering not only their formal features but also their social and historical implications, as well as their role in the global circulation of ideas and entertainment. Comparative approaches within East Asia or a global context are also very welcome.

授業の到達目標

Students will start the process of writing their graduation theses.

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　Final Project
●**平常点**　30%　Attendance and Class Engagement
●**その他**　30%　Weekly Responses and Presentations

科 目 名	Seminar on Global Japanese Culture and Media III (Fall)							
担当者名	ピタルク　パウ							
多元	2単位	秋学期	金曜日	3時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

This seminar will offer a space for students to delve into Japanese popular culture (fiction, music, animation, games, etc.) and its expressions in various media, considering not only their formal features but also their social and historical implications, as well as their role in the global circulation of ideas and entertainment. Comparative approaches within East Asia or a global context are also very welcome.

授業の到達目標

3rd-year students will formulate and develop a research question that will guide the writing of their graduation theses in during the following year.
4th-year students will complete their graduation theses.

成績評価方法

40% Final Project
30% Attendance and Class Participation

30% Weekly Responses and Presentations

備考・関連URL

You will need passing grades in all categories（Exams / Attendance & Participation / Responses & Presentations）in order to obtain a grade for the course.

科 目 名	Seminar on Global Japanese Culture and Media II（Spring）							
担当者名	高井　詩穂							
多元	2単位	春クォーター	火3時限	金3時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

In this zemi, we approach classical to contemporary Japanese culture from a global perspective, through aspects of visual culture, performance, and performing arts. "Performing arts" here are not limited to only performing arts in a narrow sense, such as Japanese theater, film, dance, music, festivals, etc., but also include literature, religion, folklore, art, history, thought, customs, contemporary society and popular culture. Students with similar interest will be forming subgroups to work together to deepen their understanding of the topic and research methods. The content of the class will be adjusted according to the needs and interests of the students.

This class is taught in-person.

授業の到達目標

In the Spring quarter, the third year students will focus on reading together basic primary and secondary works of the related topic in order to acquire basic knowledge and research methodology to find their own theme for the graduation thesis. By the end of the quarter, students will have a more focused research topic for their senior thesis to start doing their research. The fourth year students will start writing their senior theses, presenting their work-in-progress and receive peer reviews to refine and revise their theses.

成績評価方法

- **試験** 0%　N/A
- **レポート** 30%　Larger writing assignments
- **平常点** 30%　Attendance and participation
- **その他** 40%　Presentations, quizzes, and per-class assignments

科 目 名	Seminar on Global Japanese Culture and Media II（Fall）							
担当者名	チン　ロ							
多元	2単位	秋学期	木曜日	3時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

In this zemi, we approach classical to contemporary Japanese culture from a global perspective, through aspects of visual culture, performance, and performing arts. "Performing arts" here are not limited to only performing arts in a narrow sense, such as Japanese theater, film, dance, music, festivals, etc., but also include literature, religion, folklore, art, history, thought, customs, contemporary society and popular culture. Students with similar interest will be forming subgroups to work together to deepen their understanding of the topic and research methods. The content of the class will be adjusted according to the needs and interests of the students.

This class is taught in-person.

授業の到達目標

In the Fall semester, the third year students will focus on refining their own theme for the senior thesis. By the end of the semester, the students will have a working thesis statement and bibliography, and have started writing their senior theses. The graduating students will focus on writing their theses. In December, the 4th year students will submit their theses, and, in January, there will be a thesis defense.

成績評価方法

- **試験** 0%　There is no exam
- **レポート** 30%　Larger writing assignments
- **平常点** 30%　Attendance and participation
- **その他** 40%　Presentations and per-class assignments

科 目 名	Seminar on Global Japanese Culture and Media I （Spring） A							
担当者名	由尾　瞳							
多元	2単位	春クォーター	火3時限	金3時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

In this zemi, students will explore various aspects of Japanese culture in areas of study such as literature, film, art, society, media, and popular culture. The zemi seeks to complicate the view of Japanese culture and tradition as exclusively unique and uniform, and instead aims to uncover the complexity of Japanese culture and its connections with other cultures and traditions. Furthermore, students will learn to challenge the myth of Japan as a monolingual and homogeneous country, and discover instead a heterogeneous and culturally diverse Japan, consisting of a wide range of multilingual, multicultural, and multiethnic communities.

The zemi invites a diverse approach to the graduation thesis, so students should feel encouraged to explore unique and creative topics that go beyond Japanese culture to incorporate comparative and global perspectives.

授業の到達目標

Year One of the zemi will be a preparation period to write a graduation thesis during Year Two. Emphasis will be placed on working collaboratively to explore shared topics together with your classmates. Students will be expected to complete a zemi thesis proposal of their chosen topic by the end of Year One.

- Read scholarly works to understand key issues of the zemi.
- Explore a range of topics and methodology in preparation for choosing a zemi thesis.
- Work collaboratively and develop individual and group presentation skills.
- Produce a Literature Review (Spring) & Zemi Thesis Proposal (Fall).

成績評価方法

1. Attendance & Class Participation (20%)
2. Assignments (20%)
3. Group Work & Presentations (20%)
4. Final Project (40%)

科 目 名	Seminar on Global Japanese Culture and Media I （Spring） B							
担当者名	由尾　瞳							
多元	２単位	春クォーター	火４時限	金４時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

In this zemi, students will explore various aspects of Japanese culture in areas of study such as literature, film, art, society, media, and popular culture. The zemi seeks to complicate the view of Japanese culture and tradition as exclusively unique and uniform, and instead aims to uncover the complexity of Japanese culture and its connections with other cultures and traditions. Furthermore, students will learn to challenge the myth of Japan as a monolingual and homogeneous country, and discover instead a heterogeneous and culturally diverse Japan, consisting of a wide range of multilingual, multicultural, and multiethnic communities.

The zemi invites a diverse approach to the graduation thesis, so students should feel encouraged to explore unique and creative topics that go beyond Japanese culture to incorporate comparative and global perspectives.

授業の到達目標

In Year Two, students will delve into researching their chosen topics and writing their zemi theses. Students will give presentations on their progress, and give and receive feedback to and from their classmates. Year Two students will also be paired with Year One students to give encouragement and advice on their progress.

- Design and implement an effective writing plan to produce a zemi thesis.
- Find and incorporate relevant secondary sources in their own writing.
- Effectively use digital technology and resources to present the zemi thesis to the class.
- Draft, edit, peer-review, and polish a zemi thesis.

成績評価方法

1. Attendance & Class Participation (15%)
2. Presentation (20%)
3. Thesis Workshop & Assignments (15%)
4. Final Project: Draft of Zemi Thesis (50%)

科 目 名	Seminar on Global Japanese Culture and Media I （Fall）							
担当者名	由尾　瞳							
多元	２単位	秋学期	火曜日	３時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

In this zemi, students will explore various aspects of Japanese culture in areas of study such as literature, film, art, society, media, and popular culture. The zemi seeks to complicate the view of Japanese culture and tradition as exclusively unique and uniform, and instead aims to uncover the complexity of Japanese culture and its connections with other cultures and traditions. Furthermore, students will learn to challenge the myth of Japan as a monolingual and homogeneous country, and discover instead a heterogeneous and culturally diverse Japan, consisting of a wide range of multilingual, multicultural, and multiethnic communities.

The zemi invites a diverse approach to the graduation thesis, so students should feel encouraged to explore unique and creative topics that go beyond Japanese culture to incorporate comparative and global perspectives.

授業の到達目標

【Zemi A: Year One】- 3rd year JS, 2nd-3rd year OS

Year One of the zemi will be a preparation period to write a graduation thesis during Year Two. Emphasis will be placed on working collaboratively to explore shared topics together with your classmates. Students will be expected to choose their zemi thesis topics by the end of Year One.

- Read and acquire familiarity with scholarly works to understand key issues of the zemi.
- Explore a range of topics and methodology in preparation for choosing a thesis topic.
- Work collaboratively and develop individual and group presentation skills.

【Zemi B: Year Two】- 4th year JS, 3rd-4th year OS

In Year Two, students will delve into researching their chosen topics and writing their zemi theses. Students will give presentations on their progress, and give and receive feedback to and from their classmates.

- Design and implement an effective writing plan to produce a zemi thesis.
- Find relevant secondary sources and interpret and incorporate them in their own writing.

- Effectively use digital technology and resources to present the zemi thesis to the class.
- Draft, edit, peer-review, and polish a zemi thesis.

成績評価方法

1. Attendance & Class Participation (15%)
2. Group Work (15%)
3. Individual Presentation (20%)
4. Final Project (50%)

備考・関連ＵＲＬ

< Final Project >
Zemi A: Thesis Proposal (2,000 - 3,000 words)
Zemi B (March graduates): Completed Thesis
Zemi B (September graduates): Revised Outline & Thesis Draft

科 目 名	Seminar on Global Japanese Culture and Media IV (Spring) Sincere interpretation and sensible argumentation--how to read carefully and argue intelligently							
担当者名	リーブズ　クリストファー							
多元	２単位	春クォーター	月２時限	木２時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

【注意】 この授業は英語で行うもので、母語話者なみの英語力を前提としている。各回の宿題は英文30-40ページ程度。英語に自信のない学生は履修することをご遠慮ください。

IMPORTANT: This course will be taught exclusively in English, for which reason students are required to have more-or-less native-like English ability. Homework for each session will be about 20-40 pages of English reading. Students who are not confident in their English ability should refrain from registering for this course.

Our *zemi* will focus primarily on TWO things:

1. Very close readings and in-depth discussions of selected texts; AND
2. Peer-reviews of samples of your own writing (for your graduation thesis)

READ BEFORE REGISTERING: Be sure to carefully read over the attached document, found under 関連資料 (below), entitled "The Aim of Education & Important Classroom Practices (Reeves revised 3.1.2025)." You will be expected to have understood the content of this document before coming to class.

授業の到達目標

This course will provide students with an opportunity to acquaint themselves with, and actively discuss, a variety of texts, as well as a variety of (hopefully) new ideas. It is hoped that students will come away from this course with a broader and more creative understanding of Japanese literature, culture, and intellectual history.

Very generally speaking, our approach in this seminar may be summarized as follows:

1. We will explore Japanese culture, literature, intellectual history, mythology, and other related topics, in the broader context of East Asia and the world.
2. We will strive to cultivate a comparative perspective, bringing in material from other cultures and different historical periods.
3. We will consider the effects of translation on our own understanding of the materials and ideas discussed in class.

成績評価方法

As the attached document indicates, you will be evaluated primarily on your in-class oral performance. This means that your preparation before each session, along with your active participation in class, namely your ability to ask and answer questions and engage in intelligent in-class discussions, will count towards your final mark. There is NO final paper or final examination required for this course.

備考・関連ＵＲＬ

Please be aware that my courses generally require a fair amount of close reading. If you are not keen on reading, you had better choose a different course. All of the reading material will be in English, unless otherwise noted. All lecturing and in-class (or on-line) discussions will be conducted in English.

科 目 名	Seminar on Global Japanese Culture and Media IV (Fall) Sincere interpretation and sensible argumentation--how to read carefully and argue intelligently							
担当者名	リーブズ　クリストファー							
多元	２単位	秋学期	金曜日	２時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

【注意】 この授業は英語で行うもので、母語話者なみの英語力を前提としている。各回の宿題は英文30-40ページ程度。英語に自信のない学生は履修することをご遠慮ください。

IMPORTANT: This course will be taught exclusively in English, for which reason students are required to have more-or-less native-like English ability. Homework for each session will be about 20-40 pages of English reading. Students who are not confident in their English ability should refrain from registering for this course.

Our *zemi* will focus primarily on TWO things:

1. Very close readings and in-depth discussions of selected texts; AND
2. Peer-reviews of samples of your own writing (for your graduation thesis)

READ BEFORE REGISTERING: Be sure to carefully read over the attached document, found under 関連資料 (below), entitled "The Aim of Education & Important Classroom Practices (Reeves revised 3.1.2025)." You will be expected to have understood the content of this document before coming to class.

授業の到達目標

This course will provide students with an opportunity to acquaint themselves with, and actively discuss, a variety of texts, as well as a variety of (hopefully) new ideas. It is hoped that students will come away from this course with a broader and more creative understanding of Japanese literature, culture, and intellectual history.

Very generally speaking, our approach in this seminar may be summarized as follows:

1. We will explore Japanese culture, literature, intellectual history, mythology, and other related topics, in the broader context of East Asia and the world.

2. We will strive to cultivate a comparative perspective, bringing in material from other cultures and different historical periods.

3. We will consider the effects of translation on our own understanding of the materials and ideas discussed in class.

成績評価方法

As the attached document indicates, you will be evaluated primarily on your in-class oral performance. This means that your preparation before each session, along with your active participation in class, namely your ability to ask and answer questions and engage in intelligent in-class discussions, will count towards your final mark. There is NO final paper or final examination required for this course.

備考・関連ＵＲＬ

Please be aware that my courses generally require a fair amount of close reading. If you are not keen on reading, you had better choose a different course. All of the reading material will be in English, unless otherwise noted. All lecturing and in-class (or on-line) discussions will be conducted in English.

科 目 名	言語文化ゼミ（ことばの科学・ことばの哲学）（春学期） A							
担当者名	酒井　智宏							
複合	２単位	春学期	木曜日	４時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

捉えどころのない言語という複雑な対象物を、それでもなんとか捉えてやろうと思う人たちのためのゼミです。現代の言語学は科学の一分野であるとされます。そのため、どんなテーマを選ぶにせよ、科学的な問いの立て方・科学的な議論の仕方をしっかりと身につける必要があります。そのうえで、異なるテーマを研究する人とでも科学的な議論を戦わせることのできる技術を身につけます。他方で、科学はときに暴走することがあります。それは、科学自体の問題である場合もあれば、科学を使う人の問題である場合もあるでしょう。いずれの場合も、科学の暴走を止めるのは広い意味での哲学です。このゼミでは、言語への科学的アプローチのほかに、近代ヨーロッパの哲学的言語論、20世紀以降の言語哲学、科学哲学の思考法も重視し、「科学としての言語学」を醒めた目で眺める視点を養成します。

授業の到達目標

このゼミでは、(1) どの言語の、(2) どんな側面を、(3) どんなアプローチで捉えるのか、各自の問題意識を明確にしたうえで、研究の経過を発表し、その際に受け取ったコメントをふまえつつ、真に論じるべき問題を絞り込んでいきます。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　50%　　研究の途中経過についてのレポートを評価対象とします。
- **平常点**　50%　　発表（複数回）・ディスカッションへの参加度・レビューシートを評価対象とします。
- **その他**　0%

科 目 名	言語文化ゼミ（ことばの科学・ことばの哲学）（春学期） B							
担当者名	酒井　智宏							
複合	２単位	春学期	木曜日	５時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

捉えどころのない言語という複雑な対象物を、それでもなんとか捉えてやろうと思う人たちのためのゼミです。現代の言語学は科学の一分野であるとされます。そのため、どんなテーマを選ぶにせよ、科学的な問いの立て方・科学的な議論の仕方をしっかりと身につける必要があります。そのうえで、異なるテーマを研究する人とでも科学的な議論を戦わせることのできる技術を身につけます。他方で、科学はときに暴走することがあります。それは、科学自体の問題である場合もあれば、科学を使う人の問題である場合もあるでしょう。いずれの場合も、科学の暴走を止めるのは広い意味での哲学です。このゼミでは、言語への科学的アプローチのほかに、近代ヨーロッパの哲学的言語論、20世紀以降の言語哲学、科学哲学の思考法も重視し、「科学としての言語学」を醒めた目で眺める視点を養成します。

授業の到達目標

このゼミでは、(1) どの言語の、(2) どんな側面を、(3) どんなアプローチで捉えるのか、各自の問題意識を明確にしたうえで、研究の経過を発表し、その際に受け取ったコメントをふまえつつ、真に論じるべき問題を絞り込んでいきます。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　50%　　研究の途中経過についてのレポートを評価対象とします。
- **平常点**　50%　　発表（複数回）・ディスカッションへの参加度・レビューシートを評価対象とします。
- **その他**　0%

科 目 名	言語文化ゼミ（ことばの科学・ことばの哲学）（秋学期） A							
担当者名	酒井　智宏							
複合	2単位	秋学期	木曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

捉えどころのない言語という複雑な対象物を、それでもなんとか捉えてやろうと思う人たちのためのゼミです。現代の言語学は科学の一分野であるとされます。そのため、どんなテーマを選ぶにせよ、科学的な問いの立て方・科学的な議論の仕方をしっかりと身につける必要があります。そのうえで、異なるテーマを研究する人とでも科学的な議論を戦わせることのできる技術を身につけます。他方で、科学はときに暴走することがあります。それは、科学自体の問題である場合もあれば、科学を使う人の問題である場合もあるでしょう。いずれの場合も、科学の暴走を止めるのは広い意味での哲学です。このゼミでは、言語への科学的アプローチのほかに、近代ヨーロッパの哲学的言語論、20世紀以降の言語哲学、科学哲学の思考法も重視し、「科学としての言語学」を醒めた目で眺める視点を養成します。

授業の到達目標

このゼミでは、（1）どの言語の、（2）どんな側面を、（3）どんなアプローチで捉えるのか、各自の問題意識を明確にしたうえで、研究の経過を発表し、その際に受け取ったコメントをふまえつつ、真に論じるべき問題を絞り込んでいきます。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　研究の途中経過についてのレポートを評価対象とします。
●**平常点**　50%　　発表（複数回）・ディスカッションへの参加度・レビューシートを評価対象とします。
●**その他**　0%

科 目 名	言語文化ゼミ（ことばの科学・ことばの哲学）（秋学期） B							
担当者名	酒井　智宏							
複合	2単位	秋学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

捉えどころのない言語という複雑な対象物を、それでもなんとか捉えてやろうと思う人たちのためのゼミです。現代の言語学は科学の一分野であるとされます。そのため、どんなテーマを選ぶにせよ、科学的な問いの立て方・科学的な議論の仕方をしっかりと身につける必要があります。そのうえで、異なるテーマを研究する人とでも科学的な議論を戦わせることのできる技術を身につけます。他方で、科学はときに暴走することがあります。それは、科学自体の問題である場合もあれば、科学を使う人の問題である場合もあるでしょう。いずれの場合も、科学の暴走を止めるのは広い意味での哲学です。このゼミでは、言語への科学的アプローチのほかに、近代ヨーロッパの哲学的言語論、20世紀以降の言語哲学、科学哲学の思考法も重視し、「科学としての言語学」を醒めた目で眺める視点を養成します。

授業の到達目標

このゼミでは、（1）どの言語の、（2）どんな側面を、（3）どんなアプローチで捉えるのか、各自の問題意識を明確にしたうえで、研究の経過を発表し、その際に受け取ったコメントをふまえつつ、真に論じるべき問題を絞り込んでいきます。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　研究の途中経過についてのレポート・他の履修者のレポートへのコメントを評価対象とします。
●**平常点**　50%　　発表（複数回）・ディスカッションへの参加度・レビューシートを評価対象とします。
●**その他**　0%

科 目 名	言語文化ゼミ（ことばと歴史・ことばと地理）（春学期） ことばの変化を捉える							
担当者名	加藤　大鶴							
複合	2単位	春学期	金曜日	3時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この授業ではことばの変化を捉え、その要因を言語に内在する体系や類推の力、言語に外在する社会や文化の力から読み解く。扱う言語は日本語（およびその地域言語）を基本とするが、ことばの変化を捉えるために海外の言語との交流の視点や、比較対照を行うことも視野に入れる。ことばの変化はいわゆる歴史言語学的な長い歴史的射程を扱うものでもよいし、現代において進行中の短い射程だが文化･社会の影響が大きい話題を扱うものでもよい（ただしあくまでも言語学的な方法に基づくことが条件）。またことばの変化を捉えるために、実際に受講者がデータを収集・整理していく方法も共有していく。3年生は輪読形式で指定した文献の発表を行い、4年生はゼミ論の構想発表を行うことが中心となる。

授業の到達目標

3年生はゼミ論を構想していくための文献の読解方法、及び内容に関わる問いの設定を通して、ゼミ論作成の準備を整える。2025年度以降、4年生はテーマを具体的に設定し、それをどう調査し分析するかという見通しを明確に得ることを目標とする。

成績評価方法

ゼミ内発表と学期末のレポートを総合的に評価する。

科 目 名	言語文化ゼミ（ことばと歴史・ことばと地理）（秋学期） ことばの変化を捉える							
担当者名	加藤　大鶴							
複合	2単位	秋学期	金曜日	3時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この授業ではことばの変化を捉え、その要因を言語に内在する体系や類推の力、言語に外在する社会や文化の力から読み解く。扱う言語は日本語（およびその地域言語）を基本とするが、ことばの変化を捉えるために海外の言語との交流の視点や、比較対照を行うことも視野に入れる。ことばの変化はいわゆる歴史言語学的な長い歴史的射程を扱うものでもよいし、現代において進

行中の短い射程だが文化･社会の影響が大きい話題を扱うものでもよい（ただしあくまでも言語学的な方法に基づくことが条件）。またことばの変化を捉えるために、実際に受講者がデータを収集・整理していく方法も共有していく。3年生はアンケート形式による言語調査をゼミ単位で行い、その分析と考察をグループで行う。4年生はゼミ論の完成に向けて進捗状況を報告する。

授業の到達目標

3年生はゼミ論を構想していくための文献の読解方法、及び言語調査の経験を通して、ゼミ論作成の準備を整える。2025年度以降、4年生は質の高いゼミ論を完成させることを目標とする。

成績評価方法

ゼミ内発表と学期末のレポートを総合的に評価する。

科 目 名	人間文化ゼミ（文化ツーリズム論）（春学期） A							
担当者名	寺崎　秀一郎							
複合	2単位	春学期	火曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本ゼミは文化ツーリズム論と銘打っているが、いわゆる観光学研究とは異なる。グローバリゼーションのもと、文化が越境し、文化の多様性が消失したり、混淆する今日的状況の最前線として文化ツーリズムを位置づけ、資源としての文化、という側面に重点を置く。受講生は学期開始前に配布する予定の文献リストを参照にしながら、各自の問題意識を実体化し、春学期中に具体的なフィールドを選定する。そのプロセスについては、研究報告という形で発表し、その内容について討議をおこなう。その結果に基づき、夏期休業期間を中心に各自でフィールドワークをおこなう。

なお、夏期休業中にゼミ合宿を予定している。詳細な日程等については、授業中に指示する。

授業の到達目標

ゼミ論文のテーマ設定、予備調査のための計画立案と実施。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　0%　　実施しない
●**平常点**　100%　　出席状況、研究報告の達成度、討議への参加状況などを総合的に評価する。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	人間文化ゼミ（文化ツーリズム論）（春学期） B							
担当者名	寺崎　秀一郎							
複合	2単位	春学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本ゼミは文化ツーリズム論と銘打っているが、いわゆる観光学研究とは異なる。グローバリゼーションのもと、文化が越境し、文化の多様性が消失したり、混淆する今日的状況の最前線として文化ツーリズムを位置づけ、資源としての文化、という側面に重点を置く。受講生は、3年次の研究計画に基づき、各自のフィールドワーク、文献調査を継続し、ゼミ論文の完成を目指す。途中経過については逐次研究報告をし、その内容についてはゼミ参加者による討議の上、修正等をおこなう。

授業の到達目標

ゼミ論文の完成。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　0%　　実施しない。
●**平常点**　100%　　出席状況、研究報告の達成度、討議への参加状況などを総合的に判断する。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	人間文化ゼミ（文化ツーリズム論）（秋学期） A							
担当者名	寺崎　秀一郎							
複合	2単位	秋学期	火曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本ゼミは文化ツーリズム論と銘打っているが、いわゆる観光学研究とは異なる。グローバリゼーションのもと、文化が越境し、文化の多様性が消失したり、混淆する今日的状況の最前線として文化ツーリズムを位置づけ、資源としての文化、という側面に重点を置く。受講生は学期開始前に配布する予定の文献リストを参照にしながら、各自の問題意識を実体化し、各自の調査を継続するとともに、詳細かつ具体的な本調査に向けての研究計画書の作成に向けて準備を進め、1月末には、各自、研究計画書（レポート）を提出する。

授業の到達目標

各自の調査に基づく研究報告と討議を経て、ゼミ論文計画書としてのレポート（8000字）を提出。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　0%　　実施しない
●**平常点**　100%　　出席状況、研究報告の達成度、討議への参加状況などを総合的に評価する。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	人間文化ゼミ（文化ツーリズム論）（秋学期） B							
担当者名	寺崎　秀一郎							
複合	２単位	秋学期	火曜日	５時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本ゼミは文化ツーリズム論と銘打っているが、いわゆる観光学研究とは異なる。グローバリゼーションのもと、文化が越境し、文化の多様性が消失したり、混淆する今日的状況の最前線として文化ツーリズムを位置づけ、資源としての文化、という側面に重点を置く。受講生は、3年次の研究計画に基づき、各自のフィールドワーク、文献調査を継続し、ゼミ論文の完成を目指す。途中経過については逐次研究報告をし、その内容についてはゼミ参加者による討議の上、修正等をおこなう。

授業の到達目標

ゼミ論文の完成。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　0%　　実施しない
●**平常点**　100%　　出席状況、研究報告の達成度、討議への参加状況などを総合的に判断する。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	人間文化ゼミ（宗教への人類学的アプローチ）（春学期）							
担当者名	國弘　暁子							
複合	２単位	春学期	月曜日	３時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

宗教をキーワードとするこのゼミでは、祝祭、治癒、巡礼、呪い、弔いといった、人間の多様な営為に焦点をあてる。授業期間中はテキストの講読を通じて、人類学が射程とする問題群の理解に努め、さらにゼミ合宿では、テキストから得た知見を活用することを目的とした合同フィールドワークを実施する。そこから各自の関心を導き出して、最終的には、宗教なるものについての独自の考察を行うことを目的とする。

授業の到達目標

社会文化人類学の射程をつかむと同時に、各自の研究テーマを絞り込み、ゼミ論文の完成を目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　50%　　研究計画書を対象とします。授業内容の視点と絡めて深く考えているかどうかを評価します。
●**平常点**　50%　　研究計画発表、および、グループワークやディスカッションでの貢献度を総合的に評価します。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	人間文化ゼミ（宗教への人類学的アプローチ）（秋学期）							
担当者名	國弘　暁子							
複合	２単位	秋学期	月曜日	３時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

宗教をキーワードとするこのゼミでは、祝祭、治癒、巡礼、呪い、弔いといった、人間の多様な営為に焦点をあてる。授業期間中はテキストの講読を通じて、人類学が射程とする問題群の理解に努め、さらにゼミ合宿では、テキストから得た知見を活用することを目的とした合同フィールドワークを実施する。そこから各自の関心を導き出して、最終的には、宗教なるものについての独自の考察を行うことを目的とする。

授業の到達目標

社会文化人類学の射程をつかむと同時に、各自の研究テーマを絞り込み、ゼミ論文の完成を目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　50%　　研究レポートを対象とします。授業内容の視点と絡めて深く考えているかどうかを評価します。
●**平常点**　50%　　ディスカッションへの貢献度を評価します。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	人間文化ゼミ（移動・移住の人類学）（春学期）							
担当者名	松前　もゆる							
複合	２単位	春学期	木曜日	３時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

人々の移動・移住は今日の世界における顕著な社会現象のひとつであると同時に、難民や移民と受け入れる側との摩擦など、社会的「問題」として捉えられる傾向にあります。しかし、人の移動・移住は今に始まったことではなく、また、国境を越える移動のみならず国内での人の移動も考えられます。さらに、コロナ禍による行動規制等は、逆説的に、私たちの生活がいかに人やモノの移動によって支えられているかを明らかにしたように思えます。こうしたことを背景に本ゼミでは、移動・移住をキーワードとして日本を含む現代世界をとらえ直し、移動・移住がうつし出す文化や社会のありようと諸課題について、文献購読と（状況が許せば）フィールド調査から多角的・実証的に検討することを目指します。 春学期には、3年生はまず、移動・移住に関わる文化人類学および隣接分野の基礎研究を購読します。その過程で各自が研究テーマを絞り、学期の最後には今後（ゼミ論文）の調査研究に向けた計画を立て、提出してもらう予定です。4年生は、3年次に立てた研究計画にもとづき、文献調査、フィールドワーク（聞き取り）、執筆を進めるとともに、進捗状況を報告してもらいます。そして、全員でのディスカッション等から適宜内容を修正し、論文の完成を目指します。

授業の到達目標

3年生：

①移動・移住という現象に関して、文化人類学や隣接領域でこれまでどのような議論がなされてきたのか文献から学び、基本的な知識を得る。

②関連する文献調査やフィールド調査を通じて移動・移住の実証的な研究の可能性を探り、各自の研究テーマを絞って研究計画を作成する。

4年生：

①自身の設定したテーマにもとづき必要な文献調査とフィールドワークを計画し、実施できる。

②調査内容を学術論文の形式にのっとってまとめ、論文を完成させる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません。

●**レポート**　30%　　学期末に、3年生にはゼミ論文に向けた調査計画、4年生には夏季の調査計画と中間論文に加筆修正したものを提出してもらいます。

●**平常点**　70%　　授業での報告内容に加え、ディスカッションへの参加状況や出席率により、授業への参加度・貢献度を総合的に評価します。

●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	人間文化ゼミ（移動・移住の人類学）（秋学期）							
担当者名	大坪　玲子							
複合	2単位	秋学期	金曜日	3時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

人々の移動・移住は今日の世界における顕著な社会現象のひとつであると同時に、難民や移民と受け入れる側との摩擦など、社会的「問題」として捉えられる傾向にあります。しかし、人の移動・移住は今に始まったことではなく、また、国境を越える移動のみならず国内での人の移動も考えられます。さらにコロナ禍による行動規制等は、逆説的に、私たちの生活がいかに人やモノの移動によって支えられているかを明らかにしたように思えます。こうしたことを背景に本ゼミでは、移動·移住をキーワードとして私たちの暮らす日本を含む現代世界をとらえ直し、移動・移住がうつし出す文化や社会のありようと諸課題について、文献購読と（状況が許せば）フィールド調査から多角的・実証的に検討することを目指します。

秋学期には、3年生は各自の関心にそってさらに関連文献を購読し報告・討議を行うとともに、ゼミ論文に向けて研究テーマを絞り込み、それぞれの調査研究を開始する予定です。4年生は各自、論文完成に向けて必要な補充調査（文献調査およびフィールドワーク）を実施したうえで論文を執筆し、ゼミでの報告とディスカッションを通じて内容を適宜修正しながら、論文を完成させます。

授業の到達目標

3年生：

①各自が選んだテーマについて、文化人類学や隣接領域でこれまでどのような議論がなされてきたのか文献を調べ、基本的な知識を得る。

②関連するフィールド調査を通じ移動・移住の実証的な研究の可能性を探り、最終的には各自の関心を明確にして、ゼミ論文完成に向けた調査研究を開始する。

4年生：

①自身の設定したテーマにもとづき必要な文献調査とフィールドワークを計画し、実施できる。

②調査内容を学術論文の形式にのっとってまとめ、論文を完成させる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし。

●**レポート**　40%　　3年生は学期末にゼミ論文に向けた中間論文（8000字程度）によって評価する。

4年生はゼミ論文によって評価する。

●**平常点**　60%　　授業での報告内容に加え、ディスカッションへの参加状況や出席率により、授業への参加度・貢献度を総合的に評価する。

●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	人間文化ゼミ（環境と開発の人類学）（春学期）　A							
担当者名	箕曲　在弘							
複合	2単位	春学期	月曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

このゼミでは、広く「環境」と「開発」に関する諸現象について、文化人類学の観点から学びます。文化人類学の観点とは、すなわち身近な生活空間から離れた場所において得られる「異和感」をもとに立ち上がる知を指します。つまり、自分の馴染みの人間関係から切り離された場所において駆動する思考であるといえます。したがって、このゼミでは基本的な文献購読だけでなく、フィールドワークを重視します。

具体的には、日本国内の農山漁村における人々と自然環境の相互関係（地域振興やコミュニティ開発、資源の利用や管理を含む）、発展途上国における開発問題（教育や衛生、ジェンダーといった社会開発やSDGs関連）といったテーマを設定し、各自フィールドワークを実施し、教室内での議論を経て、ゼミ論を完成させます。

適宜、ゼミ生の希望や意見を踏まえながら、柔軟にゼミを運営していきたいと思います。

授業の到達目標

1．環境と開発に関する文化人類学の基本的な視座を習得すること。

2．フィールドワークの方法を習得すること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません。

●**レポート**　40%　　春学期は研究計画書を対象とします。
●**平常点**　60%　　発表内容とディスカッションへの参加度を対象とします。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	人間文化ゼミ（環境と開発の人類学）（春学期） B							
担当者名	箕曲　在弘							
複合	２単位	春学期	月曜日	５時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

このゼミでは、広く「環境」と「開発」に関する諸現象について、文化人類学の観点から学びます。文化人類学の観点とは、すなわち身近な生活空間から離れた場所において得られる「異和感」をもとに立ち上がる知を指します。つまり、自分の馴染みの人間関係から切り離された場所において駆動する思考であるといえます。したがって、このゼミでは基本的な文献購読だけでなく、フィールドワークを重視します。

具体的には、日本国内の農山漁村における人々と自然環境の相互関係（地域振興やコミュニティ開発、資源の利用や管理を含む）、発展途上国における開発問題（教育や衛生、ジェンダーといった社会開発やSDGs関連）といったテーマを設定し、各自フィールドワークを実施し、教室内での議論を経て、ゼミ論を完成させます。

適宜、ゼミ生の希望や意見を踏まえながら、柔軟にゼミを運営していきたいと思います。

授業の到達目標

1．環境と開発に関する文化人類学の基本的な視座を習得すること。
2．フィールドワークの方法を習得すること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません。
●**レポート**　40%　　春学期は研究計画書を対象とします。
●**平常点**　60%　　発表内容とディスカッションへの参加度を対象とします。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	人間文化ゼミ（環境と開発の人類学）（秋学期） A							
担当者名	箕曲　在弘							
複合	２単位	秋学期	月曜日	４時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

このゼミでは、広く「環境」と「開発」に関する諸現象について、文化人類学の観点から学びます。文化人類学の観点とは、すなわち身近な生活空間から離れた場所において得られる「異和感」をもとに立ち上がる知を指します。つまり、自分の馴染みの人間関係から切り離された場所において駆動する思考であるといえます。したがって、このゼミでは基本的な文献購読だけでなく、フィールドワークを重視します。

具体的には、日本国内の農山漁村における人々と自然環境の相互関係（地域振興やコミュニティ開発、資源の利用や管理を含む）、発展途上国における開発問題（教育や衛生、ジェンダーといった社会開発やSDGs関連）といったテーマを設定し、各自フィールドワークを実施し、教室内での議論を経て、ゼミ論を完成させます。

適宜、ゼミ生の希望や意見を踏まえながら、柔軟にゼミを運営していきたいと思います。

授業の到達目標

1．フィールドでえた情報を整理し、文献の情報と重ね合わせつつ、自分の論点を明確にできること。
2．ミニエスノグラフィーが書けるようになること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はしません。
●**レポート**　40%　　期末に提出してもらう8000字程度のミニエスノグラフィを対象とします。
●**平常点**　60%　　フィールドワークの結果の口頭での報告とディスカッションを対象とします。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	人間文化ゼミ（環境と開発の人類学）（秋学期） B							
担当者名	箕曲　在弘							
複合	２単位	秋学期	月曜日	５時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

このゼミでは、広く「環境」と「開発」に関する諸現象について、文化人類学の観点から学びます。文化人類学の観点とは、すなわち身近な生活空間から離れた場所において得られる「異和感」をもとに立ち上がる知を指します。つまり、自分の馴染みの人間関係から切り離された場所において駆動する思考であるといえます。したがって、このゼミでは基本的な文献購読だけでなく、フィールドワークを重視します。

具体的には、日本国内の農山漁村における人々と自然環境の相互関係（地域振興やコミュニティ開発、資源の利用や管理を含む）、発展途上国における開発問題（教育や衛生、ジェンダーといった社会開発やSDGs関連）といったテーマを設定し、各自フィールドワークを実施し、教室内での議論を経て、ゼミ論を完成させます。

適宜、ゼミ生の希望や意見を踏まえながら、柔軟にゼミを運営していきたいと思います。

授業の到達目標

1．フィールドでえた情報を整理し、文献の情報と重ね合わせつつ、自分の論点を明確にできること。
2．ミニエスノグラフィーが書けるようになること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はしません。
●**レポート**　40%　　期末に提出してもらう8000字程度のミニエスノグラフィを対象とします。

●**平常点**　60%　　フィールドワークの結果の口頭での報告とディスカッションを対象とします。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	超域文化ゼミ（都市と美術）（春学期） A							
担当者名	坂上　桂子							
複合	2単位	春学期	火曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

都市と美術の諸問題を多角的に考えていきます。私たちの暮らす都市が、安全で便利であることは穏やかで安心できる暮らしを支える重要な要件です。しかし、質の高い、豊かな生活を実現するためには、ただ、安全で便利である、ということだけでは十分とはいえません。美術やアートの力は、美しい街並みや環境を創造し、私たちの暮らしや生活の質を高め、私たちの人生を豊かにしてくれる重大な要素です。都市のなかにおける美術や美的な力について、ここでは皆で一緒に見つけ、考察していきます。具体的には、都市のなかの街並み、建築、美術館、ギャラリー、パブリックアート、アートイベントなどを中心に、都市を総合的に俯瞰してみていきます。授業では、こうした問題を具体例に探るべく、見学会などを実施しつつ、グループ学習を中心に進めます。

授業の到達目標

都市と美術を研究する基本的アプローチの手法を身につけることを目標とします。パワーポイントによる発表や、他の受講生の発表に対する質問、議論などができるようになることもここでの目的です。

成績評価方法

授業における発表・議論、およびレポートなどに応じて評価します。

備考・関連URL

・授業時間について
4・5限を通して行う授業があるため、必ず両時限をあけておいてください。
・オンライン授業について
対面が基本ですが、他学部との合同授業など、必要に応じてとオンライン授業となり、5限以降に実施する場合もあります。
・韓国合宿、国内合宿について
韓国での交流授業、および国内合宿については、状況により、実施時期を定めます。
・美術館見学について
見学授業を必要に応じて実施します。

科 目 名	超域文化ゼミ（都市と美術）（春学期） B							
担当者名	坂上　桂子							
複合	2単位	春学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

都市と美術の諸問題を多角的に考えていきます。私たちの暮らす都市が、安全で便利であることは穏やかで安心できる暮らしを支える重要な要件です。しかし、質の高い、豊かな生活を実現するためには、ただ、安全で便利である、ということだけでは十分とはいえません。美術やアートの力は、美しい街並みや環境を創造し、私たちの暮らしや生活の質を高め、私たちの人生を豊かにしてくれる重大な要素です。都市のなかにおける美術や美的な力について、ここでは皆で一緒に見つけ、考察していきます。具体的には、都市のなかの街並み、建築、美術館、ギャラリー、パブリックアート、アートイベントなどを中心に、都市を総合的に俯瞰してみていきます。各自、こうした問題意識を養い、自身の研究テーマを見いだし、ゼミ論執筆に向けての準備を進めます。

授業の到達目標

ゼミ論執筆に向けてテーマの設定を行います。続いて、文献の準備、内容の構成、執筆へと、自身のテーマに基づき進め、ゼミ論が書けるようにします。

成績評価方法

授業における発表・議論、およびレポートなどに応じて評価します。

備考・関連URL

・授業時間について
4・5限を通して行う授業があるため、必ず両時限をあけておいてください。
・オンライン授業について
対面が基本ですが、他学部との合同授業など、必要に応じてとオンライン授業となり、5限以降に実施する場合もあります。
・韓国合宿、国内合宿について
韓国での交流授業、および国内合宿については、状況により、実施時期を定めます。
・美術館見学について
見学授業を必要に応じて実施します。

科 目 名	超域文化ゼミ（都市と美術）（秋学期） A							
担当者名	坂上　桂子							
複合	2単位	秋学期	火曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

春学期に引き続き、都市と美術の諸問題を考えます。秋学期においては、まちあるきワークショップが一つの中心的課題となります。まちあるきワークショップでは、早稲田大学創造理工学部建築学科、および文学学術院の他コース、他論系の教員・学生とともに、建築、歴史、街並み、パブリックアート、美術館などのテーマを設定し、グループごとに課題と取り組んでもらいます。その成果については、最終的に研究会における発表、ならびに報告書にまとめてもらいます。美術館見学、さらには合宿も行う予定です。

授業の到達目標

交流授業やワークショップを通じ、私たちの生活や社会におけるアートのあり方について問題意識をもち、考えることができるようにします。また、こうしたゼミの活動を通して、各個人のゼミ論のテーマについて設定ができるようにします。

成績評価方法

授業における発表・議論、およびレポートなどに応じて評価します。

備考・関連URL

・授業時間について
4・5限を通して行う授業があるため、必ず両時限をあけておいてください。
・オンライン授業について
対面が基本ですが、他学部との合同授業など、必要に応じてとオンライン授業となり、5限以降に実施する場合もあります。
・韓国合宿、国内合宿について
韓国での交流授業、および国内合宿については、状況により、実施時期を定めます。
・美術館見学について
見学授業を必要に応じて実施します。

科 目 名	超域文化ゼミ（都市と美術）（秋学期） B							
担当者名	坂上　桂子							
複合	2単位	秋学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

春学期に引き続き、都市と美術の諸問題を考えます。ゼミ論のテーマに沿った研究を各自進めつつ、同時に、まちあるきワークショップがひとつの核となります。ワークショップでは、早稲田大学創造理工学部建築学科、および文学学術院の他論系、他コースの教員・学生も参加して、建築、歴史、街並み、パブリックアート、美術館などテーマを設定し、グループごとに課題と取り組んでもらいます。課題の最終成果についてはレポートとして提出してもらい、ウエッブ上にアップします。また研究会における発表もする予定です。美術館見学、国内合宿も織り交ぜで進めます。

授業の到達目標

2年間ゼミで学んできたことを総合的にまとめ、それぞれのテーマに応じたゼミ論として完成します。

成績評価方法

授業における発表・議論、およびレポートなどに応じて評価します。

備考・関連URL

・授業時間について
4・5限を通して行う授業があるため、必ず両時限をあけておいてください。
・オンライン授業について
対面が基本ですが、他学部との合同授業など、必要に応じてとオンライン授業となり、5限以降に実施する場合もあります。
・韓国合宿、国内合宿について
韓国での交流授業、および国内合宿については、状況により、実施時期を定めます。
・美術館見学について
見学授業を必要に応じて実施します。

科 目 名	超域文化ゼミ（文化変容論）（春学期） 文化の伝播、接触、変容、そして創造							
担当者名	宮城　徳也							
複合	2単位	春学期	木曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

過去と現在に接触を持ち、それによって相互または一方的な影響を通じて変容した文化の有り方について、多様な興味のメンバーによる発表と討議を通じて、様々な文化の変容について学んで行きたいと思います。担当教員の興味はヘレニズムとルネサンスにありますが、受講者の皆さんとともに、古今東西の文化、教養、芸術について考えながら、それぞれが興味を持っている文化のあり方の接点を探り、その関係性を考察し、論じ合い、それらについてまとめて行こうと考えています。「言語と文化」、「宗教と文化」、「絵画、彫刻、建築、音楽、映画、思想、文学に見られる文化の変容と影響」などをテーマとして授業を進めていきます。

授業の到達目標

異文化との接触と変容による創造行為を通して、比較文学を含む文化活動について広い視野から学んでいいきます。

成績評価方法

●**試験**　0%　　平常点で評価します.
●**レポート**　20%　　授業で発表した内容をレポートして学期末に提出してもらいます.
●**平常点**　80%　　ゼミ発表と討論への参加度，Moodleでの課題提出を平常点として評価します.
●**その他**　0%　　その他は特にありませんが，ゼミへの積極的な参加をお願いします.

備考・関連URL

http://www.f.waseda.jp/tokuyam/index.htm

科 目 名	超域文化ゼミ（文化変容論）（秋学期） 文化の伝播、接触、変容、そして創造							
担当者名	宮城　徳也							
複合	2単位	秋学期	木曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

過去と現在に接触を持ち、それによって相互または一方的な影響を通じて変容した文化の有り方について、多様な興味のメンバーによる発表と討議を通じて、様々な文化の変容について学んで行きたいと思います。担当教員の興味はヘレニズムとルネサ

ンスにありますが、受講者の皆さんとともに、古今東西の文化、教養、芸術について考えながら、それぞれが興味を持っている文化のあり方の接点を探り、その関係性を考察し、論じ合い、それらについてまとめて行こうと考えています。「言語と文化」、「宗教と文化」、「絵画、彫刻、建築、音楽、映画、思想、文学に見られる文化の変容と影響」などをテーマとして授業を進めていきます。

授業の到達目標

異文化との接触と変容による創造行為を通して、比較文学を含む文化活動について広い視野から学んでいきます。

成績評価方法

●**試験** 0%　平常点で評価します.
●**レポート** 20%　業で発表した内容をレポートして学期末に提出してもらいます.
●**平常点** 80%　ゼミ発表と討論への参加度，Moodleでの課題提出を平常点として評価しますが、3年生はゼミ論の計画書を提出し、それも評価の対象とします.
●**その他** 0%　その他は特にありませんが，ゼミへの積極的参加をお願いします.

備考・関連ＵＲＬ

http://www.f.waseda.jp/tokuyam/index.htm

科 目 名	感性文化ゼミ（メディア・コミュニケーション論）（春学期） グローバリゼーションとメディア・AI(人工知能)							
担当者名	高橋　利枝							
複合	２単位	春学期	金曜日	５時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

私たちはこれまで経験したことがないような変動する世界に生きています。加速するグローバル化とデジタル化、AI(人工知能)化によって、日常生活はチャンスとリスクに満ちています。このゼミでは、このような時代を生きるゼミ生のために、①グローバル化、デジタル化、AI化された社会におけるチャンスとリスクについて理解を深めるとともに、②コミュニケーション能力を身に付けることを目標としています。

現代社会においてメディア（ソーシャルメディアやAIを含む）は、ビジネス、政治、経済、教育、医療、スポーツなど至る所に入り込んでいます。スマートフォンやインターネットは私たちの日常生活において様々な人や文化を結びつけ、グローバル化を推し進めています。このゼミでは共同プロジェクトを通じて、現代のグローバル社会において、科学コミュニケーション技術の発展によってもたらされる、新たなチャンスとリスクについて明らかにしていきます。

今年度は、人を幸せにするAI社会を創造するために、「若者とAI/ロボット」に関するプロジェクトを行います。具体的には、AIやロボット工学の研究者と「AI/ロボットのエンゲージメント」に関する調査や、ハーバード大学、ケンブリッジ大学、スタンフォード大学などと「若者とAI」や「仕事の未来」に関する国際比較調査など、国内外の研究者と多様なプロジェクトを行う予定です。

授業ではまず、グローバル化された現代社会を理解するためにグローバリゼーションに関する文献、またデジタル化やAI化を理解するためにメディア・コミュニケーションやAIに関する主要な文献の講読やリサーチを行います。そしてゼミ生各々の関心分野によってグループにわかれ、プレゼンテーションを行います。この時、ゼミ生全員は積極的にディスカッションに参加することが期待されます。グループワークによって基礎的な知識を習得し共有すると同時に、スマートフォンやソーシャルメディア、AIやロボットの利用に関するインタビュー調査やビデオ製作、メディアやIT関係者とのディスカッション、企業とのコラボレーションや他大学との合同ゼミなど様々な実践的な活動も行なっていきたいと考えています。

このように本ゼミでは理論的かつ実践的にグローバル社会におけるメディアやAIの社会・文化的役割について理解し、グループワークやプレゼンテーションを通じて各々のコミュニケーション能力に磨きをかけることを目標としています。

3年生はグループワークによる共同プロジェクトを行います。前期は文献講読やリサーチ、ビデオ製作などによって基礎的な知識の習得を目標とします。後期はフィールドワークなどの結果をゼミ生全員で一つの報告書にまとめていきます。共同プロジェクトに参加して知識や方法論を共有しながら、自分の関心にあったテーマを見つけ、来年度のゼミ論に備えましょう。4年生は、3年生との様々なゼミ活動や共同プロジェクトに参加しながら、それぞれが立ち上げた個人プロジェクトを積極的かつ自立した姿勢で遂行し、ゼミ論を完成させていきましょう。

授業の到達目標

1.「若者とメディア/AIロボット」に関する共同プロジェクトを通して、グローバル化、AI化された現代社会における好機とリスク、メディアの役割について理解を深めましょう。
2. 映像マテリアルの作成などデジタル・リテラシーを実践することによって、新たな文化を創造する力を培いましょう。
3. グローバル人材・AI人材に必要とされる「他者」への理解とコミュニケーション能力を身に付けることを目標としています。

成績評価方法

●**試験** 0%　—
●**レポート** 30%　レポート内容で評価
●**平常点** 70%　ゼミにおけるプレゼンテーション、ディスカッション、フィールドワークなどへの参加度と貢献度などの総合評価
●**その他** 0%　—

科 目 名	感性文化ゼミ（メディア・コミュニケーション論）（秋学期） グローバリゼーションとメディア・AI(人工知能)							
担当者名	高橋　利枝							
複合	２単位	秋学期	金曜日	５時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

私たちはこれまで経験したことがないような変動する世界に生きています。加速するグローバル化とデジタル化、AI(人工知能)化によって、日常生活はチャンスとリスクに満ちています。このゼミでは、このような時代を生きるゼミ生のために、①グローバル化、デジタル化、AI化された社会におけるチャンスとリスクについて理解を深めるとともに、②コミュニケーション能力を身に付けることを目標としています。

現代社会においてメディア（ソーシャルメディアやAIを含む）は、ビジネス、政治、経済、教育、医療、スポーツなど至る所に入り込んでいます。スマートフォンやインターネットは私たちの日常生活において様々な人や文化を結びつけ、グローバル化を推し進めています。このゼミでは共同プロジェクトを通じて、現代のグローバル社会において、科学コミュニケーション技術の発展によってもたらされる、新たなチャンスとリスクについて明らかにしていきます。

今年度は、人を幸せにするAI社会を創造するために、「若者とAI/ロボット」に関するプロジェクトを行います。具体的には、AIやロボット工学の研究者と「AI/ロボットのエンゲージメント」に関する調査や、ハーバード大学、ケンブリッジ大学、スタンフォード大学などと「若者とAI」や「仕事の未来」に関する国際比較調査など、国内外の研究者と多様なプロジェクトを行う予定です。

授業ではまず、グローバル化された現代社会を理解するためにグローバリゼーションに関する文献、またデジタル化やAI化を理解するためにメディア・コミュニケーションやAIに関する主要な文献の講読やリサーチを行います。そしてゼミ生各々の関心分野によってグループにわかれ、プレゼンテーションを行います。この時、ゼミ生全員は積極的にディスカッションに参加することが期待されます。グループワークによって基礎的な知識を習得し共有すると同時に、スマートフォンやソーシャルメディア、AIやロボットの利用に関するインタビュー調査やビデオ製作、メディアやIT関係者とのディスカッション、企業とのコラボレーションや他大学との合同ゼミなど様々な実践的な活動も行なっていきたいと考えています。

このように本ゼミでは理論的かつ実践的にグローバル社会におけるメディアやAIの社会・文化的役割について理解し、グループワークやプレゼンテーションを通じて各々のコミュニケーション能力に磨きをかけることを目標としています。

後期は、前期並びに夏休み中に行った「若者とメディア/AIロボット」に関する調査の結果を参加者全員で共有し、分析し、プレゼンテーションやディスカッションを通して、最終的に一つの報告書の形にまとめていきます。報告書の作成を通して、テーマの設定、概念装置の抽出、調査項目の作成、フィールドワーク、データ分析、理論化など、ゼミ論執筆に必要な基礎能力を身につけましょう。一年間の共同プロジェクトに参加し知識や方法論を共有しながら、自分の関心にあったテーマを見つけ、ゼミ論に向けて個人プロジェクトを立ち上げます。学年末には参加者は全員、ゼミ論に関するテーマに関するプレゼンテーションを行い、プロポーザルを提出します。

4年生は、ゼミ論発表会を行います。個人プロジェクトの発表によって、プレゼンテーションスキルを磨くと共に、参加者から得られたフィールドワークをもとに論文の書き直しや推敲を行い、よりよいゼミ論を完成させていきましょう。

授業の到達目標

1.「若者とメディア/AIロボット」に関する共同プロジェクトを通して、グローバル化、AI化された現代社会における好機とリスク、メディアの役割について理解を深めましょう。

2. 映像マテリアルの作成などデジタル・リテラシーを実践することによって、新たな文化を創造する力を培いましょう。

3. グローバル人材・AI人材に必要とされる「他者」への理解とコミュニケーション能力を身に付けることを目標としています。

成績評価方法

●**試験** 0% —

●**レポート** 30% レポート内容で評価

●**平常点** 70% ゼミにおけるプレゼンテーション、ディスカッション、フィールドワークなどへの参加度と貢献度などの総合評価

●**その他** 0% —

科 目 名	感性文化ゼミ（現代の文化哲学）（春学期） 美／死／エロス							
担当者名	小林 信之							
複合	2単位	春学期	火曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

わたしたちは生身の身体をもち、衣服を身にまとい、生きとし生けるものを食し、この大地に住まいを定めます。わたしたちは、見、聴き、味わい、触れることによってこの世界を生きるのです。しかしそれは、わたしたち個人の閉ざされた身体の出来事ではありません。わたしたちは、他者と関わり「共生」することで初めてこの世界へと開かれた存在となります。他者を愛し憎み、共感しあい、やがて死にゆく存在、それがわたしたち人間です。このゼミでは、このように生身の身体とともに生き、この世界を他者と共有し、有限な存在であらざるをえないわたしたち自身の有り方を問題にします。具体的なテーマとしては、以下のテーマ系があげられます。いずれも哲学的な基本テーマですが、同時にわたしたち自身の身近な具体的問題にかかわっています。すなわち、「自己と他者」「時間と物語」「空間と身体」「エロスとタナトス」「美と創造性」「日本の美学」といったテーマ系です。

授業の到達目標

なにか実利的な到達目標が設定されているわけではありません。多様な表現にふれ、理論的・哲学的思考と感受性を鋭敏に働かせることによって、いっそう深くものごとを見つめるための訓練として考えてください。

成績評価方法

研究発表： 50% 研究テーマにたいする理解度、自己の見解の有無、説明の的確さ等を評価基準とします。

平常点評価： 50% 出席状況、議論への参加度等より判断します。評価基準は、研究内容への習熟度、自己の見解の有無、論述の的確さ等です。

備考・関連URL

哲学的思考によって深く考える力を養成すると同時に、具体的な芸術文化現象に触れることで、文字通り感性を研ぎ澄ますことをめざしています。なにより、「学ぶことの喜び」が感じられるようなゼミにしていきたいと思います。美術館やギャラリー、劇場などを実際に尋ねたり、また遠隔地へのゼミ旅行等も企画していく予定です。

科 目 名	感性文化ゼミ（現代の文化哲学）（秋学期） 美／死／エロス							
担当者名	小林　信之							
複合	2単位	秋学期	火曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

わたしたちは生身の身体をもち、衣服を身にまとい、生きとし生けるものを食し、この大地に住まいを定めます。わたしたちは、見、聴き、味わい、触れることによってこの世界を生きるのです。しかしそれは、わたしたち個人の閉ざされた身体の出来事ではありません。わたしたちは、他者と関わり「共生」することで初めてこの世界へと開かれた存在となります。他者を愛し憎み、共感しあい、やがて死にゆく存在、それがわたしたち人間です。このゼミでは、このように生身の身体とともに生き、この世界を他者と共有し、有限な存在であらざるをえないわたしたち自身の有り方を問題にします。具体的なテーマとしては、以下のテーマ系があげられます。いずれも哲学的な基本テーマですが、同時にわたしたち自身の身近な具体的問題にかかわっています。すなわち、「自己と他者」「時間と物語」「空間と身体」「エロスとタナトス」「美と創造性」「日本の美学」といったテーマ系です。

授業の到達目標

なにか実利的な到達目標が設定されているわけではありません。多様な表現にふれ、理論的・哲学的思考と感受性を鋭敏に働かせることによって、いっそう深くものごとを見つめるための訓練として考えてください。

成績評価方法

研究発表：　50%　研究テーマにたいする理解度、自己の見解の有無、説明の的確さ等を評価基準とします。
平常点評価：　50%　出席状況、議論への参加度等より判断します。評価基準は、研究内容への習熟度、自己の見解の有無、論述の的確さ等です。

備考・関連URL

哲学的思考によって深く考える力を養成すると同時に、具体的な芸術文化現象に触れることで、文字通り感性を研ぎ澄ますことをめざしています。なにより、「学ぶことの喜び」が感じられるようなゼミにしていきたいと思います。美術館やギャラリー、劇場などを実際に尋ねたり、また遠隔地へのゼミ旅行等も企画していく予定です。

科 目 名	言語文化ゼミ（ことばと文学・ことばと美意識）（春学期）							
担当者名	陣野　英則							
複合	2単位	春学期	火曜日	2時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この言語文化ゼミであつかう対象は、前近代から近現代にかけてのことば、文学、藝能、藝術、思想などはもとより、近年のサブカルチャーなどにまでわたる。アプローチのしかたも多岐にわたってよいのだが、特に次の(1)～(3)の点を重視しながら、各人の研究テーマを明確なものにしてゆく。

(1) 前近代のことば、文学、文化に留意する。
(2) 近代以降において、西欧のことば、観念などとの接触がもたらしたものを意識する。
(3) 日本のことば、文学、文化が海外でどのようにみられ、また受容されているのかをとらえる。

春学期は、特に(1)と(2)を重視しつつ、理論に関わる文献をとりあげ、3年生に発表してもらう。また、4年生についてはゼミ論の構想発表、中間発表などが課される。

授業の到達目標

ステレオタイプな見方を排し、自分の頭と心を真にはたらかせるようになることと、煩をいとわずに参照すべき文献にあたる習慣をつけることをめざす。

4年生は、以上に加えて自身のテーマに基づいたゼミ論の構想を明確なものとし、12月の完成に向けて一部の章を完成に近づけることをめざす。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　ゼミでの発表内容、および討議の時間における主体的な授業参加度による。
●**その他**　0%

備考・関連URL

8月末か9月上旬あたりにゼミ合宿を実施したい。ただし、感染症などの状況次第で困難な場合は、2022年度までと同様、9月に研究発表会をオンラインで開催する。

※授業は基本的に対面形式で行いますが、感染症の状況などによりオンラインに切り替えることがありえます。

科 目 名	言語文化ゼミ（ことばと文学・ことばと美意識）（秋学期）							
担当者名	陣野　英則							
複合	2単位	秋学期	火曜日	2時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この言語文化ゼミであつかう対象は、前近代から近現代にかけてのことば、文学、藝能、藝術、思想などはもとより、近年のサブカルチャーなどにまでわたる。アプローチのしかたも多岐にわたってよいのだが、特に次の(1)～(3)の点を重視しながら、各人の研究テーマを明確なものにしてゆく。

(1) 前近代のことば、文学、文化に留意する。
(2) 近代以降において、西欧のことば、観念などとの接触がもたらしたものを意識する。
(3) 日本のことば、文学、文化が海外でどのようにみられ、また受容されているのかをとらえる。 秋学期は、特に(2)と(3)を重視して関係する文献をとりあげ、3年生に発表してもらう。また、4年生についてはゼミ論の中間発表と草稿(一部)の提出が課される。

授業の到達目標

ステレオタイプな見方を排し、自分の頭と心を真にはたらかせるようになることと、煩をいとわずに参照すべき文献にあたる習慣をつけることをめざす。

また、3年生は次年度のゼミ論執筆に備え、自身の研究テーマを明確なものにしてゆくことをめざす。4年生は、質の高いゼミ論の完成をめざす。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　ゼミでの発表内容、討議の時間における主体的な授業参加度、およびゼミ論の構想に関わる提出物（3年のみ）などによる。
●**その他**　0%

備考・関連URL

※授業は基本的に対面形式で行いますが、感染症の状況などによりオンラインに切り替えることがありえます。

科 目 名	超域文化ゼミ（集合的アイデンティティの諸相）（春学期） A							
担当者名	山田　真茂留							
複合	2単位	春学期	火曜日	2時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

近代化ならびに現代化が進展するにつれ、伝統的な共同体志向は次第に稀薄化し、一般に個人主義化ないし個人化の流れが浸透することになった。しかしながらその一方、一人ひとりの生は身の周りの文化や組織や集団の影響を強く受ける。そこでこのゼミでは文化の力、集合体の力を十二分に見据えつつ、現代社会における集合的アイデンティティについて多角的に探究していく。そこでは国民文化、地域文化、世代文化、性別文化、宗教文化、組織文化などさまざまな文化と、そしてそれにまつわる集合的アイデンティティの諸相が俎上に載せられよう。

集団、文化、アイデンティティをキーワードに現代社会の集合的諸現象に挑んでいくにあたって、このゼミで主として依拠する学問は社会学である。しかし本ゼミでは社会学に留まらず、他の学問領域との協働も図りながら学際的な視座をもって集団現象のはらむさまざまな側面にアプローチしていきたい。

演習形式で授業を進めるため、各回は、参加者各人による報告と討議が中心となる。グループ活動（サブゼミ活動）を併用する可能性もある。春期は主に文献講読を通じて学術的なアプローチの基礎を鍛錬していく予定。

科目の性質上、毎回の演習への出席が欠かせないのはもちろんのこと、教場を離れた独自の探究にそれなりの時間とエネルギーをつぎこむことになる。なお3年生は火曜日の2時限、4年生は火曜日の3時限に登録されるが、合同で授業を行う可能性があるので、2時限・3時限の時間帯を通しで空けておくことが望まれる。

授業の到達目標

社会学の基礎的な方法論ならびに方法を習得すること、学際的なアプローチの仕方の基礎を身につけること、集合的な諸現象に対して学問的に切り込む術を体得すること、文化現象・集団現象に関して知的理解とともに感性的洞察を深めること。

成績評価方法

ゼミへの参加状況を総合的に勘案して評価する。

備考・関連URL

ゼミ関連で意味のある履修を行うため、ゼミ教員担当の講義を半期2単位分×2つ、またそれとは別に誰の担当でもいいので（他学部等でも可）社会学的な演習ないし講義を半期2単位分×2つ、2年間のゼミ在籍中に必ず履修すること（3年次終了時までの履修完了を強く推奨する）。なお、この数の中には2年次までに履修済みのものを繰り入れることを可とする。

科 目 名	超域文化ゼミ（集合的アイデンティティの諸相）（春学期） B							
担当者名	山田　真茂留							
複合	2単位	春学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

近代化ならびに現代化が進展するにつれ、伝統的な共同体志向は次第に稀薄化し、一般に個人主義化ないし個人化の流れが浸透することになった。しかしながらその一方、一人ひとりの生は身の周りの文化や組織や集団の影響を強く受ける。そこでこのゼミでは文化の力、集合体の力を十二分に見据えつつ、現代社会における集合的アイデンティティについて多角的に探究していく。そこでは国民文化、地域文化、世代文化、性別文化、宗教文化、組織文化などさまざまな文化と、そしてそれにまつわる集合的アイデンティティの諸相が俎上に載せられよう。

集団、文化、アイデンティティをキーワードに現代社会の集合的諸現象に挑んでいくにあたって、このゼミで主として依拠する学問は社会学である。しかし本ゼミでは社会学に留まらず、他の学問領域との協働も図りながら学際的な視座をもって集団現象のはらむさまざまな側面にアプローチしていきたい。

演習形式で授業を進めるため、各回は、参加者各人による報告と討議が中心となる。グループ活動（サブゼミ活動）を併用する可能性もある。春期は主に文献講読を通じて学術的なアプローチの基礎を鍛錬していく予定。

科目の性質上、毎回の演習への出席が欠かせないのはもちろんのこと、教場を離れた独自の探究にそれなりの時間とエネルギーをつぎこむことになる。なお3年生は火曜日の2時限、4年生は火曜日の3時限に登録されるが、合同で授業を行う可能性があるので、2時限・3時限の時間帯を通しで空けておくことが望まれる。

授業の到達目標

社会学の基礎的な方法論ならびに方法を習得すること、学際的なアプローチの仕方の基礎を身につけること、集合的な諸現象に対して学問的に切り込む術を体得すること、文化現象・集団現象に関して知的理解とともに感性的洞察を深めること。

成績評価方法

ゼミへの参加状況を総合的に勘案して評価する。

備考・関連URL

ゼミ関連で意味のある履修を行うため、ゼミ教員担当の講義を半期2単位分×2つ、またそれとは別に誰の担当でもいいので（他

学部等でも可）社会学的な演習ないし講義を半期2単位分×2つ、2年間のゼミ在籍中に必ず履修すること（3年次終了時までの履修完了を強く推奨する）。なお、この数の中には2年次までに履修済みのものを繰り入れることを可とする。

科 目 名	超域文化ゼミ（集合的アイデンティティの諸相）（秋学期） A							
担当者名	山田　真茂留							
複合	2単位	秋学期	火曜日	2時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

近代化ならびに現代化が進展するにつれ、伝統的な共同体志向は次第に稀薄化し、一般に個人主義化ないし個人化の流れが浸透することになった。しかしながらその一方、一人ひとりの生は身の周りの文化や組織や集団の影響を強く受ける。そこでこのゼミでは文化の力、集合体の力を十二分に見据えつつ、現代社会における集合的アイデンティティについて多角的に探究していく。そこでは国民文化、地域文化、世代文化、性別文化、宗教文化、組織文化などさまざまな文化と、そしてそれにまつわる集合的アイデンティティの諸相が俎上に載せられよう。

集団、文化、アイデンティティをキーワードに現代社会の集合的諸現象に挑んでいくにあたって、このゼミで主として依拠する学問は社会学である。しかし本ゼミでは社会学に留まらず、他の学問領域との協働も図りながら学際的な視座をもって集団現象のはらむさまざまな側面にアプローチしていきたい。

演習形式で授業を進めるため、各回は、参加者各人による報告と討議が中心となる。グループ活動（サブゼミ活動）を併用する可能性もある。秋期は主に各人ないし各グループが独自に行った探究の成果を報告していく予定。

科目の性質上、毎回の演習への出席が欠かせないのはもちろんのこと、教場を離れた独自の探究にそれなりの時間とエネルギーをつぎこむことになる。なお3年生は火曜日の2時限、4年生は火曜日の3時限に登録されるが、合同で授業を行う可能性があるので、2時限・3時限の時間帯を通しで空けておくことが望まれる。

授業の到達目標

社会学の基礎的な方法論ならびに方法を習得すること、学際的なアプローチの仕方の基礎を身につけること、集合的な諸現象に対して学問的に切り込む術を体得すること、文化現象・集団現象に関して知的理解とともに感性的洞察を深めること。

成績評価方法

ゼミへの参加状況を総合的に勘案して評価する。

備考・関連URL

ゼミ関連で意味のある履修を行うため、ゼミ教員担当の講義を半期2単位分×2つ、またそれとは別に誰の担当でもいいので（他学部等でも可）社会学的な演習ないし講義を半期2単位分×2つ、2年間のゼミ在籍中に必ず履修すること（3年次終了時までの履修完了を強く推奨する）。なお、この数の中には2年次までに履修済みのものを繰り入れることを可とする。

科 目 名	超域文化ゼミ（集合的アイデンティティの諸相）（秋学期） B							
担当者名	山田　真茂留							
複合	2単位	秋学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

近代化ならびに現代化が進展するにつれ、伝統的な共同体志向は次第に稀薄化し、一般に個人主義化ないし個人化の流れが浸透することになった。しかしながらその一方、一人ひとりの生は身の周りの文化や組織や集団の影響を強く受ける。そこでこのゼミでは文化の力、集合体の力を十二分に見据えつつ、現代社会における集合的アイデンティティについて多角的に探究していく。そこでは国民文化、地域文化、世代文化、性別文化、宗教文化、組織文化などさまざまな文化と、そしてそれにまつわる集合的アイデンティティの諸相が俎上に載せられよう。

集団、文化、アイデンティティをキーワードに現代社会の集合的諸現象に挑んでいくにあたって、このゼミで主として依拠する学問は社会学である。しかし本ゼミでは社会学に留まらず、他の学問領域との協働も図りながら学際的な視座をもって集団現象のはらむさまざまな側面にアプローチしていきたい。

演習形式で授業を進めるため、各回は、参加者各人による報告と討議が中心となる。グループ活動（サブゼミ活動）を併用する可能性もある。秋期は主に各人ないし各グループが独自に行った探究の成果を報告していく予定。

科目の性質上、毎回の演習への出席が欠かせないのはもちろんのこと、教場を離れた独自の探究にそれなりの時間とエネルギーをつぎこむことになる。なお3年生は火曜日の2時限、4年生は火曜日の3時限に登録されるが、合同で授業を行う可能性があるので、3時限・4時限の時間帯を通しで空けておくことが望まれる。

授業の到達目標

社会学の基礎的な方法論ならびに方法を習得すること、学際的なアプローチの仕方の基礎を身につけること、集合的な諸現象に対して学問的に切り込む術を体得すること、文化現象・集団現象に関して知的理解とともに感性的洞察を深めること。

成績評価方法

ゼミへの参加状況を総合的に勘案して評価する。

備考・関連URL

ゼミ関連で意味のある履修を行うため、ゼミ教員担当の講義を半期2単位分×2つ、またそれとは別に誰の担当でもいいので（他学部等でも可）社会学的な演習ないし講義を半期2単位分×2つ、2年間のゼミ在籍中に必ず履修すること（3年次終了時までの履修完了を強く推奨する）。なお、この数の中には2年次までに履修済みのものを繰り入れることを可とする。

科 目 名	感性文化ゼミ（音＝音楽文化論）（春学期）							
担当者名	小沼　純一							
複合	2単位	春学期	木曜日	3時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

音はいたるところにあります。そばにいるひとのちょっとしたしぐさがたてる音、となりの部屋で家族が、ネコがたてる音、窓の外の葉ずれの音。とくに意識しないでも、いろいろなことに気づいたりします。音楽はどうでしょう？　足をはこぶ場所、カフェ、レストラン、駅、ホテル、それぞれに異なった音楽がなっています。どう違うのでしょうか？　映画のなかでひびく音

は、音楽は？　芝居のなかでは？
　音・音楽、サウンドアート、サウンドスケープ論など、聴覚文化全般にかかわる諸テーマを中心に、（あなたが）感じとっている心身をとらえなおしてみたら――これが前提でしょうか。音楽はどこからが音楽なのか。音と音楽はどう違うのか。そうした問いがベースとなります。ひいては日常的な音への、音がひびいている時間への、さらには空間への感覚であり認識を思考（志向）することになるでしょう。その意味で、「（ある特定の）音楽が好き」であるより、音楽への距離を持っている、音楽よりも音（サウンド）に関心が高いほうがよいかもしれません。音・音楽はまた、ほかの感覚や情報と結びついており、つまりは感覚をめぐることどもから、隣接する諸分野（映画・演劇・文学・美術・自然科学・政治社会・環境・料理etc）へとつながるはずです。

授業の到達目標

日々の生活がより生き生きとしたものとなるように。

成績評価方法

ゼミへの参加度とレポートをあわせて、です。

備考・関連ＵＲＬ

とくにありません。

科 目 名	感性文化ゼミ（音＝音楽文化論）（秋学期）							
担当者名	小沼　純一							
複合	２単位	秋学期	木曜日	３時限	３年以上	―	―	フル【対面】

授業概要

　音はいたるところにあります。そばにいるひとのちょっとしたしぐさがたてる音、となりの部屋で家族が、ネコがたてる音、窓の外の葉ずれの音。とくに意識しないでも、いろいろなことに気づいたりします。音楽はどうでしょう？　足をはこぶ場所、カフェ、レストラン、駅、ホテル、それぞれに異なった音楽がなっています。どう違うのでしょうか？　映画のなかでひびく音は、音楽は？　芝居のなかでは？
　音・音楽、サウンドアート、サウンドスケープ論など、聴覚文化全般にかかわる諸テーマを中心に、（あなたが）感じとっている心身をとらえなおしてみたら――これが前提でしょうか。音楽はどこからが音楽なのか。音と音楽はどう違うのか。そうした問いがベースとなります。ひいては日常的な音への、音がひびいている時間への、さらには空間への感覚であり認識を思考（志向）することになるでしょう。その意味で、「（ある特定の）音楽が好き」であるより、音楽への距離を持っている、音楽よりも音（サウンド）に関心が高いほうがよいかもしれません。音・音楽はまた、ほかの感覚や情報と結びついており、つまりは感覚をめぐることどもから、隣接する諸分野（映画・演劇・文学・美術・自然科学・政治社会・環境・料理etc）へとつながるはずです。
　春学期からのつづきとなります。

授業の到達目標

日々の生活がより生き生きとしたものとなるように。

成績評価方法

ゼミへの参加度とレポートをあわせて、です。

備考・関連ＵＲＬ

とくにありません。

科 目 名	メディア社会論ゼミ　（春学期）　A							
担当者名	長谷　正人							
表象	２単位	春学期	月曜日	４時限	３年以上	―	―	フル【対面】

授業概要

　写真、映画、テレビという視覚的なメディアを中心にして、メディアが「社会」にどのように影響を与えてきたのかを、メディア史・メディア論の文献を中心にして考察する。その後で、メディア研究に関する共通の研究目的をたてて、共同で調査・研究を行い、報告書を作成する。社会がメディアとして構成され、メディアが社会そのものと化すような事例を取り上げる予定である。

授業の到達目標

社会がメディア的に構成されていることを批判的に理解すること。

成績評価方法

ゼミへの出席と参加度などで総合的に評価する

科 目 名	メディア社会論ゼミ　（春学期）　B							
担当者名	長谷　正人							
表象	２単位	春学期	月曜日	５時限	３年以上	―	―	フル【対面】

授業概要

　3年生で学んだメディア社会学的思考を自分で試すため、自ら決めた研究テーマに沿ってゼミ論を書く。したがってゼミは各自の中間報告と議論を中心に展開される。

授業の到達目標

各自が自分のテーマを自主的に立ててゼミ論を完成させること。

成績評価方法

授業への参加度で評価する。

科 目 名	メディア社会論ゼミ （秋学期） A							
担当者名	長谷 正人							
表象	2単位	秋学期	月曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

写真、映画、テレビという視覚的なメディアを中心にして、メディアが「社会」にどのように影響を与えてきたのかを、メディア史・メディア論の文脈から考える。メディア研究に関する共通の研究目的をたてて、共同で調査・研究を行い、報告書を作成する。

授業の到達目標

メディア研究のアイロニーを理解すること。

成績評価方法

授業への参加度で評価する。

科 目 名	メディア社会論ゼミ （秋学期） B							
担当者名	長谷 正人							
表象	2単位	秋学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

各自のゼミ論を報告して、議論する。

授業の到達目標

各自がゼミ論を完成させること。

成績評価方法

授業への参加度で評価する。

科 目 名	幻影論ゼミ （春学期） A 多様なメディアの作品を分析する							
担当者名	岡室 美奈子							
表象	2単位	春学期	木曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

幻影論ゼミでは、テレビドラマ、演劇、映画、小説、漫画等、広範なジャンルの作品を研究し、作品を鋭く考察する分析力、深く豊かに味わう想像力を養う。必要な文献を読み、知識を身につける。

対象とする作品は、教員とゼミ生が推薦するものから合議の上決定する。

尚、春期は4年生以上と合同で行う。

★基本的に5限も他の授業を入れないこと。

★ゼミのスケジュールは、その都度相談しながら決める。観劇やゲストトークも条件が整えば行いたい。

授業の到達目標

作品分析の技法を学び、知識と想像力を駆使して一つの作品を深く考察することの喜びを味わう。また、グループ発表とディスカッションを通じて、プレゼンテーション能力とディスカッション能力を養う。

成績評価方法

●**試験** 0% なし。

●**レポート** 60% 作品の理解度に加えて、独自の視点と分析の緻密さ、論理性の有無等を判断材料とする。

●**平常点** 40% 研究発表の内容、出席率、ディスカッションでの発言等、授業への貢献度を総合的に判断する。

●**その他** 0% なし。

備考・関連URL

■夏合宿で映像作品を制作する。春期の間に脚本を検討する。

■5限も2学年合同で行う場合もあるので、5限は原則として授業をとらず空けておくこと。

■上記の予定は変更の可能性があるので、必ず教室等で確認すること。

科 目 名	幻影論ゼミ （春学期） B 質の高いゼミ論完成を目指して							
担当者名	岡室 美奈子							
表象	2単位	春学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

幻影論ゼミでは、テレビドラマ、演劇、映画、小説、漫画等、広範なジャンルの作品を研究し、作品を鋭く考察する分析力、深く豊かに味わう想像力を養う。必要な文献を読み、知識を身につける。

また、グループ発表とディスカッションを通じて、プレゼンテーション能力とディスカッション能力を養う。

幻影論ゼミBでは、満足のいくゼミ論の完成に向けて、経過発表を行ない、問題点を共有し、ディスカッションをとおして解決しながら進める。

★春学期は4限・5限合同で行うので、4限も他の授業を入れないこと。

★ゼミのスケジュールは、その都度相談しながら決める。

授業の到達目標

内容・表現ともに充実したゼミ論を完成させる。

成績評価方法

●**試験** 0% なし。

●**レポート** 50% ゼミ論の計画と序論の内容を見る。作品の理解度に加えて、独自の視点と分析の緻密さ、論理性の有無等を判断材料とする。

●**平常点** 50% 研究発表の内容、出席率、ディスカッションでの発言等、授業への貢献度を総合的に判断する。

●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

春期は4限に3・4年生合同で作品研究ゼミを行ない、5限を4年生のみのゼミ論指導とする。

科 目 名	幻影論ゼミ　（秋学期）　A　多様なメディアの作品を分析する							
担当者名	岡室　美奈子							
表象	2単位	秋学期	木曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

幻影論ゼミでは、テレビドラマ、演劇、映画、小説、漫画等、広範なジャンルの作品を研究し、作品を鋭く考察する分析力、深く豊かに味わう想像力を養う。必要な文献を読み、知識を身につける。

また、グループ発表とディスカッションを通じて、プレゼンテーション能力とディスカッション能力を養う。

秋期は基本的に3年生のみで行う。

★基本的に5限も他の授業を入れないこと。 ★ゼミのスケジュールは､その都度相談しながら決める。観劇やゲストトークは､条件が整えば入れたい。

授業の到達目標

作品研究の技法を学び、知識と想像力を駆使して一つの作品を深く考察することの喜びを味わう。ゼミ論集に収録できるレベルの小ゼミ論を完成させる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　60%　　作品の理解度に加えて、独自の視点と分析の緻密さ、論理性の有無等を判断材料とする。
●**平常点**　40%　　研究発表の内容、出席率、ディスカッションでの発言等、授業への貢献度を総合的に判断する。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

■上記シラバスはあくまで予定であり、教室で話し合って決めるので、常に予定を確認すること。

科 目 名	幻影論ゼミ　（秋学期）　B　質の高いゼミ論の完成に向けて							
担当者名	岡室　美奈子							
表象	2単位	秋学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

幻影論ゼミでは、テレビドラマ、演劇、映画、小説、漫画等、広範なジャンルの作品を研究し、作品を鋭く考察する分析力、深く豊かに味わう想像力を養う。必要な文献を読み、知識を身につける。

ゼミ論完成に向けて、指導を行う。ジャンルごとにグループに分かれ、ゼミの時間に各自がプレゼンテーションを行い、教員と他のメンバーによる批評を受けるほか、グループ間で相互批評を行ない、ブラッシュアップする。

また、提出後には3年生、4年生以上合同で合評会を行う。

★4限も他の授業を入れないこと。

★ゼミのスケジュールは、その都度相談しながら決める。

授業の到達目標

密度が濃く、オリジナリティに富み、作品を深く考察したゼミ論を完成させる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　100%　　研究発表の内容、出席率、ディスカッションでの発言等、授業への貢献度を総合的に判断する。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

優れたゼミ論には、岡室賞、投票による幻影論ゼミ賞、デザイン賞等が授与される。

科 目 名	発酵メディア研究ゼミ　（春学期）　A　メディア技術と文化のデザイン・ラボラトリー							
担当者名	チェン　ドミニク							
表象	2単位	春学期	火曜日	2時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

昨今のメディアテクノロジーは私たちにどのような影響を与えているのでしょうか。日常的に触れ合う情報技術は、AI技術などの発展により常に変化を遂げていますが、その一方で、SNSなどを通じて社会的分断が可視化され、個人情報が広告マーケティングの対象となるほか、個々人の価値観形成やウェルビーイングにも重要な位置を占めるようになっています。近年ではメタヴァース、NFT、仮想通貨など新たなプラットフォームも注目を集めていますが、それらの新規性や可能性を問うだけでなく、メディア環境の与える影響がいかなる想像力や身体性を育むのか、またそこで見過ごされていくものは何かについて考える必要もあるでしょう。さらに深刻な環境課題が迫るいま、人間中心主義の世界を脱却し、なおかつ従来の資本主義モデルとは異なる経済・文化システムが求められてもいます。

自分たちが本当にほしい未来について多角的に思考し続けること、また差別や搾取、格差など、現在の社会において自分たち自身が「見過ごしていること・見なかったにしているもの」に想像をめぐらせること、それらの思考と想像力を誘発する手段として、また自分と社会・世界をつなぐ媒介として新たな「メディア」を開発していくことがこのゼミの目的です。

こうしたメディア環境を考察するメタファーとして、ゼミでは「発酵」に着目します。目に見えない微生物たちのはたらきによって、さまざまな有機物から栄養を取り出し、別の物質を代謝していく「発酵」のように、多様な生物たちが共生する生態系としてメディアを捉えたとき、現代社会では見えにくかった構造やシステムが見えてくるでしょう。人間中心主義から環境志向――人間・動物・植物・微生物・死者・AI・ロボットといったあらゆる関係者たちと共に生きる世界へ、短期的な成果ではなく、

長期的かつ持続可能な関係構築とは何か。このゼミでは、古今東西のメディア・思想・カルチャーを参照しながら、ゼミ生一人ひとりが自分ごととして社会を捉え、新たなメディアを構想し、また実際に制作によるアウトプットを続けることで、最終的に制作＋論文のセットでゼミ論を完成させます。新しい技術を自ら身につける学習意欲と、手を動かしながら試行錯誤し、他者と協働していく制作意欲が求められます。

授業の到達目標

3年次の春期には、「課題と方法論のリサーチ・自分の興味の拡張」に特化します。まずはさまざまな情報を吸収すること、自分たちが関心のあるカルチャー・メディア（ネットサービス、アート、文学、映画、音楽、マンガなど）に対して考察・議論することのほか、理系・美術系など異分野の学生やクリエイターらとの接点をつくることを課題とします。秋期からのアウトプット段階を準備していきます。

具体的には以下の能力を鍛えることを目標にします：

・未知の情報とツールの学習
・自分の興味・関心のある分野の掘り下げ、考察、議論
・異分野とのコミュニケーション
・ゼミメンバーとのコミュニケーション
・課題のリサーチ

成績評価方法

ゼミ活動全体への主体性と当事者意識をもった参加を評価します

・講義や発表時の自発的なコミュニケーション（発言、他のメンバーへのコメント）
・課題に対する取り組みの熱量（潜在能力の発揮の度合い）
・好奇心を持って、新たな関心軸を見つけること

備考・関連URL

これまでのゼミ展示の事例は、以下のウェブサイトを観ておいてください:
http://exhibition.ephemere.io/

科 目 名	発酵メディア研究ゼミ （春学期） B メディア技術と文化のデザイン・ラボラトリー							
担当者名	チェン ドミニク							
表象	2単位	春学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

昨今のメディアテクノロジーは私たちにどのような影響を与えているのでしょうか。日常的に触れ合う情報技術は、AI技術などの発展により常に変化を遂げていますが、その一方で、SNSなどを通じて社会的分断が可視化され、個人情報が広告マーケティングの対象となるほか、個々人の価値観形成やウェルビーイングにも重要な位置を占めるようになっています。近年ではメタヴァース、NFT、仮想通貨など新たなプラットフォームも注目を集めていますが、それらの新規性や可能性を問うだけでなく、メディア環境の与える影響がいかなる想像力や身体性を育むのか、またそこで見過ごされていくものは何かについて考える必要もあるでしょう。さらに深刻な環境課題が迫るいま、人間中心主義の世界を脱却し、なおかつ従来の資本主義モデルとは異なる経済・文化システムが求められてもいます。

自分たちが本当にほしい未来について多角的に思考し続けること、また差別や搾取、格差など、現在の社会において自分たち自身が「見過ごしていること・見なかったにしているもの」に想像をめぐらせること、それらの思考と想像力を誘発する手段として、また自分と社会・世界をつなぐ媒介として新たな「メディア」を開発していくことがこのゼミの目的です。

こうしたメディア環境を考察するメタファーとして、ゼミでは「発酵」に着目します。目に見えない微生物たちのはたらきによって、さまざまな有機物から栄養を取り出し、別の物質を代謝していく「発酵」のように、多様な生物たちが共生する生態系としてメディアを捉えたとき、現代社会では見えにくかった構造やシステムが見えてくるでしょう。人間中心主義から環境志向——人間・動物・植物・微生物・死者・AI・ロボットといったあらゆる関係者たちと共に生きる世界へ、短期的な成果ではなく、長期的かつ持続可能な関係構築とは何か。このゼミでは、古今東西のメディア・思想・カルチャーを参照しながら、ゼミ生一人ひとりが自分ごととして社会を捉え、新たなメディアを構想し、また実際に制作によるアウトプットを続けることで、最終的に制作＋論文のセットでゼミ論を完成させます。新しい技術を自ら身につける学習意欲と、手を動かしながら試行錯誤し、他者と協働していく制作意欲が求められます。

授業の到達目標

3年次の春期には、「課題と方法論のリサーチ・自分の興味の拡張」に特化します。まずはさまざまな情報を吸収すること、自分たちが関心のあるカルチャー・メディア（ネットサービス、アート、文学、映画、音楽、マンガなど）に対して考察・議論することのほか、理系・美術系など異分野の学生やクリエイターらとの接点をつくることを課題とします。秋期からのアウトプット段階を準備していきます。

具体的には以下の能力を鍛えることを目標にします：

・未知の情報とツールの学習
・自分の興味・関心のある分野の掘り下げ、考察、議論
・異分野とのコミュニケーション
・ゼミメンバーとのコミュニケーション
・課題のリサーチ

成績評価方法

ゼミ活動全体への主体性と当事者意識をもった参加を評価します

・講義や発表時の自発的なコミュニケーション（発言、他のメンバーへのコメント）
・課題に対する取り組みの熱量（潜在能力の発揮の度合い）
・好奇心を持って、新たな関心軸を見つけること

備考・関連URL

これまでのゼミ展示の事例は、以下のウェブサイトを観ておいてください:
http://exhibition.ephemere.io/

科 目 名	発酵メディア研究ゼミ （秋学期） A メディア技術と文化のデザイン・ラボラトリー							
担当者名	チェン ドミニク							
表象	2単位	秋学期	火曜日	2時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

昨今のメディアテクノロジーは私たちにどのような影響を与えているのでしょうか。日常的に触れ合う情報技術は、AI技術などの発展により常に変化を遂げていますが、その一方で、SNSなどを通じて社会的分断が可視化され、個人情報が広告マーケティングの対象となるほか、個々人の価値観形成やウェルビーイングにも重要な位置を占めるようになっています。近年ではメタヴァース、NFT、仮想通貨など新たなプラットフォームも注目を集めていますが、それらの新規性や可能性を問うだけでなく、メディア環境の与える影響がいかなる想像力や身体性を育むのか、またそこで見過ごされていくものは何かについて考える必要もあるでしょう。さらに深刻な環境課題が迫るいま、人間中心主義の世界を脱却し、なおかつ従来の資本主義モデルとは異なる経済・文化システムが求められてもいます。

自分たちが本当にほしい未来について多角的に思考し続けること、また差別や搾取、格差など、現在の社会において自分たち自身が「見過ごしていること・見なかったにしているもの」に想像をめぐらせること、それらの思考と想像力を誘発する手段として、また自分と社会・世界をつなぐ媒介として新たな「メディア」を開発していくことがこのゼミの目的です。

こうしたメディア環境を考察するメタファーとして、ゼミでは「発酵」に着目します。目に見えない微生物たちのはたらきによって、さまざまな有機物から栄養を取り出し、別の物質を代謝していく「発酵」のように、多様な生物たちが共生する生態系としてメディアを捉えたとき、現代社会では見えにくかった構造やシステムが見えてくるでしょう。人間中心主義から環境志向へ――人間・動物・植物・微生物・死者・AI・ロボットといったあらゆる関係者たちと共に生きる世界とは何か、短期的な成果ではなく、長期的かつ持続可能な関係構築とは何でしょうか。このゼミでは、古今東西のメディア・思想・カルチャーを参照しながら、ゼミ生一人ひとりが自分ごととして社会を捉え、新たなメディアのありようを構想し、また実際に制作によるアウトプットを続けることで、最終的に制作＋論文のセットでゼミ論を完成させます。新しい技術を自ら身につける学習意欲、あらゆる創作物やカルチャーへの好奇心、そして手を動かしながら試行錯誤し、他者と協働していく制作意欲が求められます。

3 年生は主に研究テーマの発掘、4 年生はゼミ論制作に重点を置きます。前期は自身の興味関心を拡張するとともに、世界に無数にあるカルチャーへの愛や関心を他者と共有し、また議論や考察の糧とすること、そして文学部という属性に閉じず、理系・美術系、その他まだ自分の知らぬ分野に属する人々と積極的に交流していくことなどを目標に、自由研究プロジェクトと制作発表を3年・4年のグループでおこないます。

後期では、4年生はゼミ論を仕上げながら、3年生が主体となった学外展示も行います。他者の異質な価値観・感性を大切にしながら、自分の枠を飛び越え、自分自身や環境の変化を肯定的に楽しもうとする人を歓迎します。

授業の到達目標

3年次の秋期には、「クリエイティブ・メディアのデザイン」に特化して、春期で摂取した情報を表現へと代謝・還元していく過程に入ります。

秋期では具体的には以下の能力を鍛えることを目標にします：

・課題に基づいた表現全般
・メディアやプラットフォームの開拓
・文章表現、エディトリアル表現
・ビジュアル／サウンド表現
・アーキテクチャ（構造）の表現
・アルゴリズム（論理）の表現
・ゼミメンバーとのコミュニケーション
・作品制作と展示（メディアプラットフォーム、ネットサービス、アート作品、アプリ、プロダクトなど）

成績評価方法

ゼミ活動全体への主体性と当事者意識をもった参加を評価します

・講義や発表時の自発的なコミュニケーション（発言、他のメンバーへのコメント）
・課題に対する取り組みの熱量（潜在能力の発揮の度合い）
・好奇心を持って、新たな関心軸を見つけること

備考・関連URL

これまでのゼミ展示の事例は、以下のウェブサイトを観ておいてください:
http://exhibition.ephemere.io/

科 目 名	発酵メディア研究ゼミ （秋学期） B メディア技術と文化のデザイン・ラボラトリー							
担当者名	チェン ドミニク							
表象	2単位	秋学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

昨今のメディアテクノロジーは私たちにどのような影響を与えているのでしょうか。日常的に触れ合う情報技術は、AI技術などの発展により常に変化を遂げていますが、その一方で、SNSなどを通じて社会的分断が可視化され、個人情報が広告マーケティングの対象となるほか、個々人の価値観形成やウェルビーイングにも重要な位置を占めるようになっています。近年ではメタヴァース、NFT、仮想通貨など新たなプラットフォームも注目を集めていますが、それらの新規性や可能性を問うだけでなく、メディア環境の与える影響がいかなる想像力や身体性を育むのか、またそこで見過ごされていくものは何かについて考える必要もあるでしょう。さらに深刻な環境課題が迫るいま、人間中心主義の世界を脱却し、なおかつ従来の資本主義モデルとは異なる経済・文化システムが求められてもいます。

自分たちが本当にほしい未来について多角的に思考し続けること、また差別や搾取、格差など、現在の社会において自分たち自身が「見過ごしていること・見なかったにしているもの」に想像をめぐらせること、それらの思考と想像力を誘発する手段として、また自分と社会・世界をつなぐ媒介として新たな「メディア」を開発していくことがこのゼミの目的です。

こうしたメディア環境を考察するメタファーとして、ゼミでは「発酵」に着目します。目に見えない微生物たちのはたらきによって、さまざまな有機物から栄養を取り出し、別の物質を代謝していく「発酵」のように、多様な生物たちが共生する生態系

としてメディアを捉えたとき、現代社会では見えにくかった構造やシステムが見えてくるでしょう。人間中心主義から環境志向へ――人間・動物・植物・微生物・死者・AI・ロボットといったあらゆる関係者たちと共に生きる世界とは何か、短期的な成果ではなく、長期的かつ持続可能な関係構築とは何でしょうか。このゼミでは、古今東西のメディア・思想・カルチャーを参照しながら、ゼミ生一人ひとりが自分ごととして社会を捉え、新たなメディアのありようを構想し、また実際に制作によるアウトプットを続けることで、最終的に制作＋論文のセットでゼミ論を完成させます。新しい技術を自ら身につける学習意欲、あらゆる創作物やカルチャーへの好奇心、そして手を動かしながら試行錯誤し、他者と協働していく制作意欲が求められます。

3 年生は主に研究テーマの発掘、4 年生はゼミ論制作に重点を置きます。前期は自身の興味関心を拡張するとともに、世界に無数にあるカルチャーへの愛や関心を他者と共有し、また議論や考察の糧とすること、そして文学部という属性に閉じず、理系・美術系、その他まだ自分の知らぬ分野に属する人々と積極的に交流していくことなどを目標に、自由研究プロジェクトと制作発表を3年・4年のグループでおこないます。

後期では、4年生はゼミ論を仕上げながら、3年生が主体となった学外展示も行います。他者の異質な価値観・感性を大切にしながら、自分の枠を飛び越え、自分自身や環境の変化を肯定的に楽しもうとする人を歓迎します。

授業の到達目標

3年次の秋期には、「クリエイティブ・メディアのデザイン」に特化して、春期で摂取した情報を表現へと代謝・還元していく過程に入ります。

秋期では具体的には以下の能力を鍛えることを目標にします：

・課題に基づいた表現全般
・メディアやプラットフォームの開拓
・文章表現、エディトリアル表現
・ビジュアル／サウンド表現
・アーキテクチャ（構造）の表現
・アルゴリズム（論理）の表現
・ゼミメンバーとのコミュニケーション
・作品制作と展示（メディアプラットフォーム、ネットサービス、アート作品、アプリ、プロダクトなど）

成績評価方法

ゼミ活動全体への主体性と当事者意識をもった参加を評価します

・講義や発表時の自発的なコミュニケーション（発言、他のメンバーへのコメント）
・課題に対する取り組みの熱量（潜在能力の発揮の度合い）
・好奇心を持って、新たな関心軸を見つけること

備考・関連ＵＲＬ

これまでのゼミ展示の事例は、以下のウェブサイトを観ておいてください:
http://exhibition.ephemere.io/

科 目 名	身体表象論ゼミ （春学期） A							
担当者名	坂内 太							
表象	２単位	春学期	火曜日	２時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

身体表象論ゼミでは、「身体」及び「身体の表象」をキーワードに、文学/演劇/パフォーマンス・スタディーズ/写真/映画/絵画/漫画/アニメ等々の多領域を横断しながら、様々な芸術作品を分析・考察する。扱う対象が表象・メディア論系の他のプログラムの内容とも密接に関わるため、身体論・メディア論・イメージ論の基本文献を読み進める作業をゼミ生共通の課題として掲げ、各自の特定テーマに関するリサーチ/発表と併せて毎回のゼミを展開する。

なお、文献購読に関して、英語圏の著作は全て原書を読み進める。毎週の文献購読が相当量に及ぶこと、また、最終的な成果として提出するゼミ論は、英語での執筆を義務づけることから、英語の読み書きに自信のない者の受講は勧めない。基本的に授業は日本語で行うが、必要に応じて英語で行うこともある。ゼミ論に対する評価は厳しいので、受講者は相応の覚悟をすること。斬新な視点と熱意とを併せ持つ学生を期待する。

授業の到達目標

上記の概要に沿って展開されるゼミの内容を十全に理解した上で、身体表象論の対象となりうる様々な作品・事象に関し、独自の観察・批評が出来るようになることを、ゼミ生の各々が目指して欲しい。

成績評価方法

●**試験** 0% 実施しない。
●**レポート** 50% ゼミの内容を十全に理解した上で、自分独自のテーマ設定・観察・分析を行っているかどうか。なお、レポートにおける不正行為に対しては、大学のルールに従って厳しい処分がなされるので注意すること。
●**平常点** 50% 出席回数が全体の3分の2に達している者のみを、学期末レポートの採点対象とする。
●**その他** 0% とくになし。

備考・関連ＵＲＬ

対面授業を基本とするが、扱う内容や授業の進行に応じてオンデマンド授業を併用する可能性がある。

科 目 名	身体表象論ゼミ （春学期） B							
担当者名	坂内 太							
表象	２単位	春学期	火曜日	３時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

身体表象論ゼミでは、「身体」及び「身体の表象」をキーワードに、文学/演劇/パフォーマンス・スタディーズ/写真/映画/絵画/漫画/アニメ等々の多領域を横断しながら、様々な芸術作品を分析・考察する。扱う対象が表象・メディア論系の他のプログラムの内容とも密接に関わるため、身体論・メディア論・イメージ論の基本文献を読み進める作業をゼミ生共通の課題として掲げ、各自の特定テーマに関するリサーチ/発表と併せて毎回のゼミを展開する。

なお、文献購読に関して、英語圏の著作は全て原書を読み進める。毎週の文献購読が相当量に及ぶこと、また、最終的な成果として提出するゼミ論は、英語での執筆を義務づけることから、英語の読み書きに自信のない者の受講は勧めない。基本的に授業は日本語で行うが、必要に応じて英語で行うこともある。ゼミ論に対する評価は厳しいので、受講者は相応の覚悟をすること。斬新な視点と熱意とを併せ持つ学生を期待する。

授業の到達目標

上記の概要に沿って展開されるゼミの内容を十全に理解した上で、身体表象論の対象となりうる様々な作品・事象に関し、独自の観察・批評が出来るようになることを、ゼミ生の各々が目指して欲しい。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　50%　　ゼミ論の執筆計画・概要をレポートとして課す。ゼミの内容を十全に理解した上で、自分独自のテーマ設定・観察・分析を行っているかどうか。なお、レポートにおける不正行為に対しては、大学のルールに従って厳しい処分がなされるので注意すること。
●**平常点**　50%　　出席回数が全体の3分の2に達している者のみを、学期末レポートの採点対象とする。
●**その他**　0%　　とくになし。

備考・関連ＵＲＬ

対面授業を基本とするが、扱う内容や授業の進行に応じてオンデマンド授業を併用する可能性がある。

科 目 名	身体表象論ゼミ （秋学期） A							
担当者名	坂内　太							
表象	２単位	秋学期	火曜日	２時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

身体表象論ゼミでは、「身体」及び「身体の表象」をキーワードに、文学/演劇/パフォーマンス・スタディーズ/写真/映画/絵画/漫画/アニメ等々の多領域を横断しながら、様々な芸術作品を分析・考察する。扱う対象が表象・メディア論系の他のプログラムの内容とも密接に関わるため、身体論・メディア論・イメージ論の基本文献を読み進める作業をゼミ生共通の課題として掲げ、各自の特定テーマに関するリサーチ/発表と併せて毎回のゼミを展開する。

なお、文献購読に関して、英語圏の著作は全て原書を読み進める。毎週の文献購読が相当量に及ぶこと、また、最終的な成果として提出するゼミ論は、英語での執筆を義務づけることから、英語の読み書きに自信のない者の受講は勧めない。基本的に授業は日本語で行うが、必要に応じて英語で行うこともある。ゼミ論に対する評価は厳しいので、受講者は相応の覚悟をすること。斬新な視点と熱意とを併せ持つ学生を期待する。

授業の到達目標

上記の概要に沿って展開されるゼミの内容を十全に理解した上で、身体表象論の対象となりうる様々な作品・事象に関し、独自の観察・批評が出来るようになることを、ゼミ生の各々が目指して欲しい。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　50%　　1年間の学修成果として小ゼミ論をレポートとして課す。ゼミの内容を十全に理解した上で、自分独自のテーマ設定・観察・分析を行っているかどうか。なお、レポートにおける不正行為に対しては、大学のルールに従って厳しい処分がなされるので注意すること。
●**平常点**　50%　　出席回数が全体の3分の2に達している者のみを、学期末レポートの採点対象とする。
●**その他**　0%　　とくになし。

備考・関連ＵＲＬ

対面授業を基本とするが、扱う内容や授業の進行に応じてオンデマンド授業を併用する可能性がある。

科 目 名	身体表象論ゼミ （秋学期） B							
担当者名	坂内　太							
表象	２単位	秋学期	火曜日	３時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

身体表象論ゼミでは、「身体」及び「身体の表象」をキーワードに、文学/演劇/パフォーマンス・スタディーズ/写真/映画/絵画/漫画/アニメ等々の多領域を横断しながら、様々な芸術作品を分析・考察する。扱う対象が表象・メディア論系の他のプログラムの内容とも密接に関わるため、身体論・メディア論・イメージ論の基本文献を読み進める作業をゼミ生共通の課題として掲げ、各自の特定テーマに関するリサーチ/発表と併せて毎回のゼミを展開する。

なお、文献購読に関して、英語圏の著作は全て原書を読み進める。毎週の文献購読が相当量に及ぶこと、また、最終的な成果として提出するゼミ論は、英語での執筆を義務づけることから、英語の読み書きに自信のない者の受講は勧めない。基本的に授業は日本語で行うが、必要に応じて英語で行うこともある。ゼミ論に対する評価は厳しいので、受講者は相応の覚悟をすること。斬新な視点と熱意とを併せ持つ学生を期待する。

授業の到達目標

上記の概要に沿って展開されるゼミの内容を十全に理解した上で、身体表象論の対象となりうる様々な作品・事象に関し、独自の観察・批評が出来るようになることを、ゼミ生の各々が目指して欲しい。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　0%　　実施しない。
●**平常点**　50%　　出席回数が全体の3分の2に達している者のみを、採点対象とする。
●**その他**　50%　　2年間のゼミ学修の成果としてのゼミ論を評価の対象とする。ゼミの内容を十全に理解した上で、自分独自のテーマ設定・観察・分析を行っているかどうか。なお、ゼミ論における不正行為に対しては、大学のルールに従って厳しい処分がなされるので注意すること。

備考・関連URL
対面授業を基本とするが、扱う内容や授業の進行に応じてオンデマンド授業を併用する可能性がある。

科 目 名	身体行為論ゼミ （春学期） A							
担当者名	牧野　遼作							
表象	2単位	春学期	木曜日	3時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要
我々の日常生活の大半は他者との相互行為によって構成されている。そのような相互行為は人々によって、どのように構築されているのか？そして相互行為を通して人々はどのように社会実践を達成しているのか？を明らかにする手法が相互行為分析である。このゼミでは、相互行為分析についての基礎を文献および演習を通して学んでいく。

授業の到達目標
・声と身体の観察に基づき、わたしたちの実際の生活で行われる行為について考察することができるようになる。
・音声と動画を記録するための基本的な作業を行えるようになる。
・音声と動画を扱うための基本的な分析ツールを扱えるようになる。

成績評価方法
ゼミでの発言、レポートにより評価する。

科 目 名	身体行為論ゼミ （春学期） B							
担当者名	山本　敦							
表象	2単位	春学期	木曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要
4年生前期にあたるこのゼミでは、各人が卒論のテーマを決定し、取り組んでいく。まず、卒論で取り上げようと考えているテーマについて各人が簡単なプレゼンテーションを行い、研究可能な方向へと修正した上で、実際のデータ分析に入る。中盤では、各人が扱うテーマについていくつか局所的な事例分析を行い、発表を行う。後半では、先行研究の紹介を各自が行う。

授業の到達目標
・長期間取り組むべき課題を自身で決定できるようになる。
・自身の関心を研究可能なリサーチ・クエスチョンとして更新することができるようになる。
・長期的な取り組みを始めるための簡単な事例を見つけることができるようになる。

成績評価方法
ゼミでの発言、プレゼンテーションにより評価する。

科 目 名	身体行為論ゼミ （秋学期） A							
担当者名	牧野　遼作							
表象	2単位	秋学期	木曜日	3時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要
我々の日常生活の大半は他者との相互行為によって構成されている。そのような相互行為は人々によって、どのように構築されているのか？そして相互行為を通して人々はどのように社会実践を達成しているのか？を明らかにする手法が相互行為分析である。このゼミでは、相互行為分析についての基礎を文献および演習を通して学んでいく。

授業の到達目標
・相互行為分析を進めるための基本的な文献について理解する。
・相互行為分析を進めるためのツールの応用的な使い方について学ぶ。

成績評価方法
ゼミ内での発言およびレポートで評価する

科 目 名	身体行為論ゼミ （秋学期） B							
担当者名	山本　敦							
表象	2単位	秋学期	木曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要
4年生後期にあたるこのゼミでは、各人が卒論の核となるデータ分析を完成させ、先行研究を踏まえた論文執筆に取り組む。

授業の到達目標
・先行研究に基づき、自身の立てたリサーチ・クエスチョンに答えることができるようになる。
・自身でデータ分析を行い、その結果をまとまった論考として表現できるようになる。

成績評価方法
ゼミでの発言、プレゼンテーション、卒論により評価する。

科 目 名	身体表現論ゼミ （春学期） 舞踊学ゼミ							
担当者名	中島　那奈子							
表象	2単位	春学期	火曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要
2025年度は3年生のみのゼミとなるので、基礎文献講読とダンス映像を使った分析を中心におこないます。受講生の関心に即して柔軟に文献と映像は選定しますが、基礎的な知識の取得のため、講読文献は「ダンス」「パフォーマンス」「テクニック」「文化批評」「理論」に関するものを担当教員が指定します。また、秋期には個人の研究発表も柔軟に設定します。ゼミ全体を通じて、

ダンス研究が体現する広領域的・学融合的アプローチを受講生が体得することを重視します。また、パフォーマンス創作の過程に入って学ぶ経験をしたり、舞台芸術現場のドラマトゥルクやアーティスト、制作者を招いて話を聞く回も設けます。

授業の到達目標

理論的文献購読と、ダンスの上演分析を中心とした、ダンス研究に関する基礎的な知識を、発表や議論、レポート作成を通して習得し実践します。先行研究を批判的に読解し、自分の考えの足場にするテクニックを習得します。対話を中心とした、論破を目指すだけではない、お互いの視点や議論を深めるための生産的な議論のスタイルを習得します。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　期末レポートを実施します。
●**平常点**　50%　　ゼミ発表や通常の議論にどれほど積極的に参加しているかで判断します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

ダンスドラマトゥルギーウェブサイト：http://www.dancedramaturgy.org/
授業は、基本的に対面授業で実施しますが、Zoomによるリアルタイム配信も行う予定です。履修者は、Wasedaメールアドレスによる Zoomアカウントを取得し、またZoomアカウントは、正確な氏名を記入してください。

科 目 名	身体表現論ゼミ （秋学期） 舞踊学ゼミ							
担当者名	中島　那奈子							
表象	2単位	秋学期	火曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

2025年度は3年生のみのゼミとなるので、基礎文献講読とダンス映像を使った分析を中心におこないます。受講生の関心に即して柔軟に文献と映像は選定しますが、基礎的な知識の取得のため、講読文献は「ダンス」「パフォーマンス」「テクニック」「文化批評」「理論」に関するものを担当教員が指定します。また、秋期には個人の研究発表も柔軟に設定します。ゼミ全体を通じて、ダンス研究が体現する広領域的・学融合的アプローチを受講生が体得することを重視します。また、パフォーマンス創作の過程に入って学ぶ経験をしたり、舞台芸術現場のドラマトゥルクやアーティスト、制作者を招いて話を聞く回も設けます。

授業の到達目標

理論的文献購読と、ダンスの上演分析を中心とした、ダンス研究に関する基礎的な知識を、発表や議論、レポート作成を通して習得し実践します。先行研究を批判的に読解し、自分の考えの足場にするテクニックを習得します。対話を中心とした、論破を目指すだけではない、お互いの視点や議論を深めるための生産的な議論のスタイルを習得します。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　期末レポートを提出してもらいます。
●**平常点**　50%　　ゼミ発表と通常の議論にどれだけ積極的に参加しているかで判断します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

ダンスドラマトゥルギーウェブサイト：http://www.dancedramaturgy.org/
授業は、基本的に対面授業で実施しますが、Zoomによるリアルタイム配信も行う予定です。履修者は、Wasedaメールアドレスによる Zoomアカウントを取得し、またZoomアカウントは、正確な氏名を記入してください。

科 目 名	人工身体論ゼミ （春学期） 人工身体論への招待							
担当者名	菊地　浩平							
表象	2単位	春学期	木曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

人工身体論ゼミは、2025年度に新設されたゼミである。よって詳しいゼミの概要については、ゼミ生たちと逐一相談のうえ決める。 基本的には、作品分析、文化研究、資料調査、ディスカッションを通じて、われわれはなぜ人工的な身体に惹かれ、恐怖し、惑わされ、癒されるのかを明らかにしようと考えている。ここでいう人工的な身体とは、埴輪や土偶、ひな人形、市松人形、球体関節人形、人形劇、着せ替え人形、着ぐるみ、ぬいぐるみ、ドール、（バーチャル）アイドル、自動人形、ロボット、アンドロイド、サイボーグ、アバター等、とても広い対象を指す。これらはテレビやラジオ、新聞、ネットで度々話題になり、演劇、映画、アニメ、小説、漫画、ゲームにおいても関連作品が絶えず生まれ続けている。つまり人工的な身体とはわれわれにとって極めて身近な存在でもあるわけだが、その一方で様々な要因によりあまり学術研究が進んでこなかった分野でもある。そこで本ゼミでは、人工的な身体の学術的なポテンシャルを引き出すことで、「人工身体論」という新たな研究領域の開拓を試みたいと思う。

授業の到達目標

ゼミ論執筆のための基礎的なノウハウを身につけること、良いゼミの基礎をつくること

成績評価方法

ゼミへの貢献度、出席状況、発表やディスカッション等の内容を踏まえて総合的に評価する。

備考・関連URL

論文指導等で延長することがあるので、木5限も出席可能な体制を取ること

科 目 名	人工身体論ゼミ （秋学期） 人工身体論への入門							
担当者名	菊地　浩平							
表象	2単位	秋学期	木曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

人工身体論ゼミは、2025年度に新設されたゼミである。よって詳しいゼミの概要については、ゼミ生たちと逐一相談のうえ

決める。 基本的には、作品分析、文化研究、資料調査、ディスカッションを通じて、われわれはなぜ人工的な身体に惹かれ、恐怖し、惑わされ、癒されるのかを明らかにしようと考えている。ここでいう人工的な身体とは、埴輪や土偶、ひな人形、市松人形、球体関節人形、人形劇、着せ替え人形、着ぐるみ、ぬいぐるみ、ドール、（バーチャル）アイドル、自動人形、ロボット、アンドロイド、サイボーグ、アバター等、とても広い対象を指す。これらはテレビやラジオ、新聞、ネットで度々話題になり、演劇、映画、アニメ、小説、漫画、ゲームにおいても関連作品が絶えず生まれ続けている。つまり人工的な身体とはわれわれにとって極めて身近な存在でもあるわけだが、その一方で様々な要因によりあまり学術研究が進んでこなかった分野でもある。そこで本ゼミでは、人工的な身体の学術的なポテンシャルを引き出すことで、「人工身体論」という新たな研究領域の開拓を試みたいと思う。

授業の到達目標

ゼミ論執筆のための基礎的なノウハウを身につけること、良いゼミの基礎をつくること

成績評価方法

ゼミへの貢献度、出席状況、発表やディスカッション等の内容を踏まえて総合的に評価する。

備考・関連ＵＲＬ

論文指導等で延長することがありますので、木5限も出席可能な体制を取ること

科 目 名	メディア思想ゼミ （春学期） A メディアの思想文化							
担当者名	藤本 一勇							
表象	２単位	春学期	木曜日	４時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

現代のメディア社会における人間や文化のあり方を考えます。そのために、人類が蓄積してきた言葉やアイディアのツールを縦横無尽に活用し、政治や経済、科学や芸術、歴史や倫理といった多種多様な視点から物事を複眼的に思考する術を学びます。

最終的には、表象・メディア論系の三つのプログラムである「メディア」「イメージ」「身体」を包括するような総合的なメディア文化論を構築することを目指します。

授業はテキスト講読、学生による研究発表、映像分析発表を中心に進めます。

多様なメディア文化とその社会的・思想的基盤に触れることで、ゼミ生が自分の問題意識や研究テーマを発見し、来たるべき先端メディア・先端テクノロジー時代を生き抜く力を身につけられるようにします。

授業の到達目標

メディア社会やメディア文化に関する多様な思考ツールを身につけ、今後到来する情報メディア時代と先端テクノロジー時代を生き抜き、自己と他者や世界との新しい可能性を切り開く土台を構築すること。

3年生は自分の研究テーマを見つけ、ゼミ論の土台となるプレゼミ論を作成すること。

4年生はゼミ論を完成させること。

成績評価方法

ゼミへの出席・参加姿勢、課題の出来などから総合的に判断します。

科 目 名	メディア思想ゼミ （春学期） B メディアの思想文化							
担当者名	藤本 一勇							
表象	２単位	春学期	木曜日	５時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

現代のメディア社会における人間や文化のあり方を考えるゼミです。そのために、人類が蓄積してきた言葉やアイディアのツールを縦横無尽に活用し、政治や経済、科学や芸術、歴史や倫理といった多種多様な視点から物事を複眼的に思考する術を学びます。

最終的には、表象・メディア論系の三つのプログラムである「メディア」「イメージ」「身体」を包括するような総合的なメディア文化論を構築することを目指します。

授業はテキスト講読、学生による研究発表、映像分析発表を中心に進めます。

多様なメディア文化とその社会的・思想的基盤に触れることで、ゼミ生が自分の問題意識や研究テーマを発見し、来たるべき先端メディア・先端テクノロジー時代を生き抜く力を身につけられるようにします。

授業の到達目標

メディア社会やメディア文化に関する多様な思考ツールを身につけ、今後到来する情報メディア時代と先端テクノロジー時代を生き抜き、自己と他者や世界との新しい可能性を切り開く土台を構築すること。

3年生は自分の研究テーマを見つけ、ゼミ論の土台となるプレゼミ論を作成すること。

4年生はゼミ論を完成させること。

成績評価方法

ゼミへの出席・参加姿勢、課題の出来などから総合的に判断します。

科 目 名	メディア思想ゼミ （秋学期） A メディアの思想文化							
担当者名	藤本 一勇							
表象	２単位	秋学期	木曜日	４時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

現代のメディア社会における人間や文化のあり方を考えます。そのために、人類が蓄積してきた言葉やアイディアのツールを縦横無尽に活用し、政治や経済、科学や芸術、歴史や倫理といった多種多様な視点から物事を複眼的に思考する術を学びます。

最終的には、表象・メディア論系の三つのプログラムである「メディア」「イメージ」「身体」を包括するような総合的なメディア文化論を構築することを目指します。

授業はテキスト講読、学生による研究発表、映像分析発表を中心に進めます。

多様なメディア文化とその社会的・思想的基盤に触れることで、ゼミ生が自分の問題意識や研究テーマを発見し、来たるべき

先端メディア・先端テクノロジー時代を生き抜く力を身につけられるようにします。

授業の到達目標

メディア社会やメディア文化に関する多様な思考ツールを身につけ、今後到来する情報メディア時代と先端テクノロジー時代を生き抜き、自己と他者や世界との新しい可能性を切り開く土台を構築すること。

3年生は自分の研究テーマを見つけ、ゼミ論の土台となるプレゼミ論を作成すること。

4年生はゼミ論を完成させること。

成績評価方法

ゼミへの出席・参加姿勢、課題の出来などから総合的に判断します。

科 目 名	メディア思想ゼミ （秋学期） B メディアの思想文化							
担当者名	藤本 一勇							
表象	2単位	秋学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

現代のメディア社会における人間や文化のあり方を考えるゼミです。そのために、人類が蓄積してきた言葉やアイディアのツールを縦横無尽に活用し、政治や経済、科学や芸術、歴史や倫理といった多種多様な視点から物事を複眼的に思考する術を学びます。

最終的には、表象・メディア論系の三つのプログラムである「メディア」「イメージ」「身体」を包括するような総合的なメディア文化論を構築することを目指します。

授業はテキスト講読、学生による研究発表、映像分析発表を中心に進めます。

多様なメディア文化とその社会的・思想的基盤に触れることで、ゼミ生が自分の問題意識や研究テーマを発見し、来たるべき先端メディア・先端テクノロジー時代を生き抜く力を身につけられるようにします。

授業の到達目標

メディア社会やメディア文化に関する多様な思考ツールを身につけ、今後到来する情報メディア時代と先端テクノロジー時代を生き抜き、自己と他者や世界との新しい可能性を切り開く土台を構築すること。

3年生は自分の研究テーマを見つけ、ゼミ論の土台となるプレゼミ論を作成すること。

4年生はゼミ論を完成させること。

成績評価方法

ゼミへの出席・参加姿勢、課題の出来などから総合的に判断します。

科 目 名	イメージ分析ゼミ （春学期） ファッションのイメージ分析							
担当者名	橋本 一径							
表象	2単位	春学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

広い意味での「ファッション」を題材として取り上げながら、グループワークや文献講読を通じて、ゼミ論執筆のための準備を行う。

授業の到達目標

ファッションについて考えるための多様な視点を身に着け、歴史的な観点から現代のファッションを相対化し、習得した知識をもとに論文を執筆できるようになる。

成績評価方法

発表の内容やグループディスカッションへの貢献度などを総合的に評価する。

科 目 名	イメージ分析ゼミ （秋学期） ゼミ論執筆（4年）／イメージ分析ゼミ論集作成（3年）							
担当者名	橋本 一径							
表象	2単位	秋学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

ゼミ論の執筆に向けてのZoomなどを利用した個別面談が中心になります。12月の提出後、1月のゼミでは提出したゼミ論についてのプレゼンテーションを行ってもらいます。

授業の到達目標

ゼミ論を完成させ、その内容についてプレゼンテーションを行う。

成績評価方法

ゼミ論の内容や執筆過程、プレゼンテーションなどを総合的に評価します。

科 目 名	イメージ批評ゼミ （春学期） イメージ批評の基礎を学ぶ							
担当者名	石岡 良治							
表象	2単位	春学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

イメージ理論の古典を学びつつ、それらを具体的かつ個別作品の批評的分析と結びつけていく。

まず講師が実例として発表を行った後、ゼミ生の関心領域に応じた様々な領域の作品を、ミクロマクロ両面から分析していく技法を身につけるようつとめる。

授業の到達目標

個別作品のトータルな印象を、いったん微細な構成要素にまで解体することで捉え直し、作品が他の作品と取り結ぶ多様な文脈のうちに再配置していくことができるようになること。

成績評価方法

出席・レジュメの作成・演習への貢献を総合的に判断する。

科 目 名	イメージ批評ゼミ （秋学期） イメージ批評の基礎を学ぶ							
担当者名	石岡　良治							
表象	２単位	秋学期	月曜日	５時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

イメージ理論の古典を学びつつ、それらを具体的かつ個別作品の批評的分析と結びつけていく。

まず講師が実例として発表を行った後、ゼミ生の関心領域に応じた様々な領域の作品を、ミクロマクロ両面から分析していく技法を身につけるようつとめる。

授業の到達目標

個別作品のトータルな印象を、いったん微細な構成要素にまで解体することで捉え直し、作品が他の作品と取り結ぶ多様な文脈のうちに再配置していくことができるようになること。

成績評価方法

出席・レジュメの作成・演習への貢献を総合的に判断する。

科 目 名	視覚イメージ論ゼミ （春学期）							
担当者名	関　直子							
表象	２単位	春学期	金曜日	４時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

このゼミでは、さまざまな視覚表象を、多角的な視点から議論し考察します。前期は、研究や方法論の多様な蓄積のあるアートを中心に、講義や文献の輪読と発表を行います。

2020年代の創造的な活動は変化の過程にあり、さまざまな視覚表象についても現在の視点から批評的に分析を進めることが重要になっています。そこで、授業では既存の理論だけでなく、美術館や都市空間において、現在進行形で展開している創造活動を実見し、具体的な作品について分析し、ディスカッションを通して鑑賞を深めていくことを目指します。

昨年度は、戦争とイメージの関係について、一昨年は言葉とイメージの関係について、その前の年は、絵画という古典的とも言える表現方法と新しいメディアとの関係を共通テーマとして、文献の輪読を行いました。本年度は、ゼミ生の研究対象や関心などを踏まえ、テキストを決定します。後期はその議論を踏まえた上で、各自が研究対象を見つけ、発表を行い、論文にまとめていきます。

＊論文指導のため、5限に他の授業を入れないこと。＊この授業は対面で実施します。

＊授業やゼミ旅行では、美術館や展覧会の見学などを予定しています。

授業の到達目標

＊ディスカッションと発表を通して、視覚表象を中心に、その課題と可能性を自らの言葉で分析できるようにすること。

成績評価方法

授業への参加態度（ディスカッションでの発言、出席）、口頭発表内容、レポートなどを総合的に評価します。

科 目 名	視覚イメージ論ゼミ （秋学期）							
担当者名	関　直子							
表象	２単位	秋学期	金曜日	４時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

このゼミでは、アートを中心に、さまざまな視覚表象を、多角的な視点から議論し考察します。2020年代の創造的な活動は変化の過程にあり、視覚表象についても現在の視点から批評的に分析を進めることが重要になっています。そこで、授業では既存の理論だけでなく、美術館や都市空間において、現在進行形で展開している創造活動を実見し、具体的な作品について分析し、ディスカッションを通して鑑賞を深めていくことを目指します。

基礎的な文献の輪読を中心とした春学期のディスカッションを踏まえた上で、秋学期は、研究対象を中心とした発表を通して、調査に基づく分析力を身につけます。

3年生は、春学期にとりあげた共通テーマを展開して、研究対象について発表、ディスカッションを行います。

4年生は、ゼミ論の完成に向けて、研究発表を行い、課題についての議論を深めます。

＊論文指導等のため、5限に他の授業を入れないこと。 ＊この授業は対面での実施を予定しています。

＊授業やゼミ旅行では、美術館や展覧会の見学などを予定しています。

授業の到達目標

＊3年次の冬にはレポート、4年次の12月にゼミ論を完成するため、各自が研究テーマを決め、調査、分析を行う。

成績評価方法

授業への参加態度（ディスカッションでの発言、出席）、口頭発表内容、レポートなどを総合的に評価します。

科 目 名	イメージ文化ゼミ （春学期） ビューアー(viewer)として表象/現実/ファンタジーの交差とジェンダーとセクシュアリティの表現を考える							
担当者名	溝口　彰子							
表象	２単位	春学期	火曜日	４時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

私たちが暮らしている世界は、視覚的なイメージに満ちあふれている。私たち個人個人は日常生活を送るなかで、映画（実写、アニメーション）や演劇（の記録映像を含む）、テレビやネット動画、マンガやイラスト付き小説、広告、美術（の複製を含む）などのイメージ文化に触れている。私たちがある特定のイメージ文化を経験する時、それは単独では起こりえない。たとえば、とあるオンライン動画を見る時、そこから得られる意味や快楽は、すでに受容したテレビ番組や広告やマンガや美術などとの連

関から引き出されているだろう。本授業の言うビューアー（viewer）とは、そのような重層的なイメージ文化の受容者のことである。このビューアーという視点でジェンダーとセクシュアリティを考えるとき、それはイメージ文化のなかで表象されるジェンダーとセクシュアリティの問題であり、なおかつそうしたイメージ文化を受容するビューアー自身のジェンダーとセクシュアリティの問題でもある。

本ゼミでは、その問題意識をもとに、（1）英語圏の大学生向けの視覚文化入門書をベースに基本理論を学ぶこと、（2）ジェンダーやセクシュアリティについての基礎的知識を身につけること、（3）ジェンダーやセクシュアリティをテーマの軸とする現代アート作品や映画などに触れることで、実作品分析の解像度を上げること、また、作り手をゲストにお招きして制作背景を学ぶこと、（4）4年生はゼミ論文の執筆、3年生はゼミ論文のテーマを考えること。

なお、（3）については美術展参加や「1日映画会」（いずれも土曜日帰り）、（4）については適宜研究発表なども行なっていきます。授業計画は目安であり、柔軟に運用します。

授業の到達目標

イメージ文化における表象／現実／ファンタジーの関連性について理解し、自らの分析に応用できる力を身につける。

イメージ文化をジェンダーの観点から考察する力を身につける。

ジェンダーについて精神分析的主観性と社会的主体の違いと関係を理解し、自らの分析に応用できる力を身につける。

自らが愛好しているか、強い興味を持つイメージ文化について、主観的な熱意と客観的な分析眼をもって対峙することが可能になる。

「何が描かれているか(what)」だけでなく「どのように描かれているか(how)」について、映像分析用語を用いて考察することができる。

視覚文化研究の基礎理論を入門書にて概観し、それぞれの興味によって理論家の書にあたる準備がととのう。

成績評価方法

平常点 100%（授業参加、発言貢献、コメントシートなどを総合的に評価します）

備考・関連URL

4年生については、ゼミ論文執筆のスケジュールを別途、指示します。

科 目 名	イメージ文化ゼミ （秋学期） ビューアー(viewer)として表象/現実/ファンタジーの交差を考える							
担当者名	溝口 彰子							
表象	2単位	秋学期	火曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

私たちが暮らしている世界は、視覚的なイメージに満ちあふれている。私たち個人個人は日常生活を送るなかで、映画（実写、アニメーション）や演劇（の記録映像を含む）、テレビやネット動画、マンガやイラスト付き小説、広告、美術（の複製を含む）などのイメージ文化に触れている。私たちがある特定のイメージ文化を経験する時、それは単独では起こりえない。たとえば、とあるオンライン動画を見る時、そこから得られる意味や快楽は、すでに受容したテレビ番組や広告やマンガや美術などとの連関から引き出されているだろう。本授業の言うビューアー（viewer）とは、そのような重層的なイメージ文化の受容者のことである。このビューアーという視点でジェンダーとセクシュアリティを考えるとき、それはイメージ文化のなかで表象されるジェンダーとセクシュアリティの問題であり、なおかつそうしたイメージ文化を受容するビューアー自身のジェンダーとセクシュアリティの問題でもある。

本ゼミでは、その問題意識をもとに、（1）英語圏の大学生向けの視覚文化入門書をベースに基本理論を学ぶこと、（2）ジェンダーやセクシュアリティについての基礎的知識を身につけること、（3）ジェンダーやセクシュアリティをテーマの軸とする現代アート作品や映画などに触れることで、実作品分析の解像度を上げること、また、作り手をゲストにお招きして制作背景を学ぶこと、（4）4年生はゼミ論文の執筆と完成、3年生はゼミ論文のテーマを考えること。

なお、（3）については美術展参加や「まる1日映画会」（土曜日帰り）、（4）については適宜研究発表なども行なっていきます。授業計画は目安であり、柔軟に運用します。

授業の到達目標

イメージ文化における表象／現実／ファンタジーの関連性について理解し、自らの分析に応用できる力を身につける。

イメージ文化をジェンダーの観点から考察する力を身につける。

ジェンダーについて精神分析的主観性と社会的主体の違いと関係を理解し、自らの分析に応用できる力を身につける。

自らが愛好しているか、強い興味を持つイメージ文化について、主観的な熱意と客観的な分析眼をもって対峙することが可能になる。

「何が描かれているか(what)」だけでなく「どのように描かれているか(how)」について、映像分析用語を用いて考察することができる。

視覚文化研究の基礎理論を入門書にて概観し、それぞれの興味によって理論家の書にあたる準備がととのう。

成績評価方法

平常点（100%）授業貢献、リアクションコメント、発表など総合的に評価します。

備考・関連URL

4年生は、お互いのゼミ論のピア・レビューを土曜日に1回、実施する予定。（日程は相談の上で決定します）

科 目 名	批評・創作実践ゼミ1 （春学期） A 読み、書く。							
担当者名	友添 太貴							
文ジャ	2単位	春学期	金曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

論系ゼミ要項に記した通り、ゆっくり、丁寧に読み、書くことを反復します。前半、既成作家の短篇合評で雰囲気を摑んでから、3年生のゼミ選考課題作品を全作合評します。後半は短篇小説・批評・エッセイを読み、自由作品による応答を行います。「書く」ために「読む」ことの重要性を再認識していきます。

授業の到達目標

他者の言葉に耳を傾け、作品に対して作品で応える自由な発想を養う。また、ゼミ機関誌「L'Atelier304」に向けての創作

を行います。

成績評価方法

平常点（出席、発言、発表）と、作品（自由レポート、創作作品）を総合的に評価する。

備考・関連URL

本演習は対面で行いますが、出席確認と資料のやりとり等、Moodle および Zoomを活用します。不測の事態が生じた場合は、オンラインによるリアルタイム配信に切り替える場合があります。

科 目 名	批評・創作実践ゼミ1 （春学期） B 読み、書く。							
担当者名	友添 太貴							
文ジャ	2単位	春学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

論系ゼミ要項に記した通り、ゆっくり、丁寧に読み、書くことを反復します。前半、既成作家の短篇合評で雰囲気を摑んでから、3年生のゼミ選考課題作品を全作合評します。後半は短篇小説・批評・エッセイを読み、自由作品による応答を行います。「書く」ために「読む」ことの重要性を再認識していきます。

授業の到達目標

他者の言葉に耳を傾け、作品に対して作品で応える自由な発想を養う。また、ゼミ機関誌「L'Atelier304」に向けての創作を行います。

成績評価方法

平常点（出席、発言、発表）と、作品（自由レポート、創作作品）を総合的に評価する。

備考・関連URL

本演習は対面で行いますが、出席確認と資料のやりとり等、Moodle および Zoomを活用します。不測の事態が生じた場合は、オンラインによるリアルタイム配信に切り替える場合があります。

科 目 名	批評・創作実践ゼミ1 （秋学期） A 読み、書く。							
担当者名	友添 太貴							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

論系ゼミ要項に記した通り、ゆっくり、丁寧に読み、書くことを反復します。グループによる作品解題・発表とディスカッションを反復し、その成果をレスポンス作品として提出、さらにその作品の合評を行います。

またゼミ誌掲載作の校正と合評を行います。ゼミ誌合評ではMoodle のフォーラムを活用します。

授業の到達目標

ゼミ誌「L'Atelier304」のための作品を10月末までに仕上げ（400字詰め原稿用紙30枚程度）、11月から1月にかけて合評します。

成績評価方法

平常点（出席、発言、発表）と、作品（自由レポート、創作作品）を総合的に評価する。

備考・関連URL

本演習は対面で行いますが、出席確認と資料のやりとり等、Moodle および Zoomを活用します。不測の事態が生じた場合は、オンラインによるリアルタイム配信に切り替える場合があります。

科 目 名	批評・創作実践ゼミ1 （秋学期） B 読み、書く。							
担当者名	友添 太貴							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

論系ゼミ要項に記した通り、ゆっくり、丁寧に読み、書くことを反復します。グループによる作品解題・発表とディスカッションを反復し、その成果をレスポンス作品として提出、さらにその作品の合評を行います。

またゼミ誌掲載作の校正と合評を行います。ゼミ誌合評ではMoodle のフォーラムを活用します。

授業の到達目標

ゼミ誌「L'Atelier304」のための作品を10月末までに仕上げ（400字詰め原稿用紙30枚程度）、11月から1月にかけて合評します。

成績評価方法

平常点（出席、発言、発表）と、作品（自由レポート、創作作品）を総合的に評価する。

備考・関連URL

本演習は対面で行いますが、出席確認と資料のやりとり等、Moodle および Zoomを活用します。不測の事態が生じた場合は、オンラインによるリアルタイム配信に切り替える場合があります。

科 目 名	テクスト読解・批評ゼミ2 （春学期）							
担当者名	小沼 純一							
文ジャ	2単位	春学期	木曜日	2時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

読む（聴く、や、観るも含む）こと、書くこと、語ること、それぞれを何らかの対象への自らのふるまいとして提出すること。

その実践の場として、ゼミを捉えたい。

さまざな表現のありようにふれ、自らを多様体とすること。

以上をゼミのシラバスとしてきましたが、のこりが1学年となったので、以下をつけくわえておきます。

3年次に学んだ「読解」を踏まえ、テクストをじぶんなりに読みとき、テーマを設定して、ゼミ論執筆へと進めます。その補助的作業を、何らかにテクストを読み、書いてみる作業をつづけてもらいます。
春学期はゼミ生が選択した［ゼミ論の題材とする］作品をあつかいます。
秋学期は［ゼミ論の題材とする作品に関連するべつの］作品をあつかいます。

授業の到達目標

幅広い視野を持ち、「読む」「書く」「考える」ことのバランスをとりながら、生きる実践へとつなげられるようなものとする。

成績評価方法

参加度が成績に反映します。

備考・関連ＵＲＬ

ゼミ生という生身が介在してこそゼミは成り立つため、毎回内容は微妙に変化する。基本、学生主体であることも強調しておきたい。

科 目 名	テクスト読解・批評ゼミ２ （秋学期）							
担当者名	小沼　純一							
文ジャ	２単位	秋学期	木曜日	２時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

読む（聴く、や、観るも含む）こと、書くこと、語ること、それぞれを何らかの対象への自らのふるまいとして提出すること。
その実践の場として、ゼミを捉えたい。
さまざな表現のありようにふれ、自らを多様体とすること。
以上をゼミのシラバスとしてきましたが、のこりが1学年となったので、以下をつけくわえておきます。
3年次に学んだ「読解」を踏まえ、テクストをじぶんなりに読みとき、テーマを設定して、ゼミ論執筆へと進めます。その補助的作業を、何らかにテクストを読み、書いてみる作業をつづけてもらいます。
春学期はゼミ生が選択した［ゼミ論の題材とする］作品をあつかいます。
秋学期は［ゼミ論の題材とする作品に関連するべつの］作品をあつかいます。

授業の到達目標

幅広い視野を持ち、「読む」「書く」「考える」ことのバランスをとりながら、生きる実践へとつなげられるようなものとする。

成績評価方法

参加度が成績に反映します。

備考・関連ＵＲＬ

ゼミ生という生身が介在してこそゼミは成り立つため、毎回内容は微妙に変化する。基本、学生主体であることも強調しておきたい。

科 目 名	文芸研究・批評ゼミ２ （春学期） Ａ 近代日本の文学・メディア・ジャーナリズム							
担当者名	十重田　裕一							
文ジャ	２単位	春学期	火曜日	２時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この授業では、「近代日本の文学・メディア・ジャーナリズム」というテーマのもと、受講者が各自の問題意識に即した研究課題を設定し、ゼミ参加者とのあいだで議論を重ねながら、ゼミ論文を完成させることを目的とします。四年次に行うべきことは、各自の研究テーマに関する問題設定を明確にし、収集した資料とその読解・分析を踏まえて考察を深めていくことです。授業では、この成果をゼミのメンバーに向けて発表し、全員での議論を重ねながら、ゼミ論文の完成を目指します。なお、本科目は「文芸研究・批評ゼミ2A」（現3年生対象）と2時間続きで設定されており、4年生は3時間目のこちらの授業が登録されます。

授業の到達目標

この授業では、受講生が様々な研究方法を学びながら各自の研究テーマを定め、論文にまとめるスキルを身につけることを目的とする。

成績評価方法

ゼミ発表の内容と、授業への取り組みを重視します。

科 目 名	文芸研究・批評ゼミ２ （春学期） Ｂ 近代日本の文学・メディア・ジャーナリズム							
担当者名	十重田　裕一							
文ジャ	２単位	春学期	火曜日	３時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この授業では、「近代日本の文学・メディア・ジャーナリズム」というテーマのもと、受講者が各自の問題意識に即した研究課題を設定し、ゼミ参加者とのあいだで議論を重ねながら、ゼミ論文を完成させることを目的とします。四年次に行うべきことは、各自の研究テーマに関する問題設定を明確にし、収集した資料とその読解・分析を踏まえて考察を深めていくことです。授業では、この成果をゼミのメンバーに向けて発表し、全員での議論を重ねながら、ゼミ論文の完成を目指します。なお、「文芸研究・批評ゼミ2A」と二時間続きで、四年生は三時間目のこの授業が登録されます。

授業の到達目標

受講生が、様々な研究方法を学びながら各自の研究テーマを定め、論文にまとめるスキルを身につけることを目的とする。

成績評価方法

ゼミ発表の内容と、授業への取り組みを重視します。

科 目 名	文芸研究・批評ゼミ2 （秋学期） A 近代日本の文学・メディア・ジャーナリズム							
担当者名	十重田 裕一							
文ジャ	2単位	秋学期	火曜日	2時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この授業では、「近代日本の文学・メディア・ジャーナリズム」というテーマのもと、受講者が各自の問題意識に即した研究課題を設定し、ゼミ参加者とのあいだで議論を重ねながら、ゼミ論文を完成させることを目的とします。三年次のあいだに行って欲しいのは、授業内外の学習を通じて自らのゼミ論のテーマとなる対象を見出すことと、その対象に対する独自の問いを立てて検証してみることです。授業では、これらの成果をゼミのメンバーに向けて発表し、全員での議論を重ねながら、ゼミ論文の準備を段階的に進めていきます。なお、「文芸研究・批評ゼミ2B」と二時間続きで、三年生は二時間目のこの授業が登録されます。

授業の到達目標

受講生が、様々な研究方法を学びながら各自の研究テーマを定め、論文にまとめるスキルを身につけることを目的とする。

成績評価方法

ゼミ発表の内容と、授業への取り組みを重視します。

科 目 名	文芸研究・批評ゼミ2 （秋学期） B 近代日本の文学・メディア・ジャーナリズム							
担当者名	十重田 裕一							
文ジャ	2単位	秋学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

この授業では、「近代日本の文学・メディア・ジャーナリズム」というテーマのもと、受講者が各自の問題意識に即した研究課題を設定し、ゼミ参加者とのあいだで議論を重ねながら、ゼミ論文を完成させることを目的とします。四年次に行うべきことは、各自の研究テーマに関する問題設定を明確にし、収集した資料とその読解・分析を踏まえて考察を深めていくことです。授業では、この成果をゼミのメンバーに向けて発表し、全員での議論を重ねながら、ゼミ論文の完成を目指します。なお、本科目は「文芸研究・批評ゼミ2A」（現3年生対象）と2時間続きで設定されており、4年生は3時間目のこちらの授業が登録されます。

授業の到達目標

この授業では、受講生が様々な研究方法を学びながら各自の研究テーマを定め、論文にまとめるスキルを身につけることを目的とする。

成績評価方法

ゼミ発表の内容と、授業への取り組みを重視します。

科 目 名	翻訳・批評ゼミ1 （春学期） A 翻訳論・翻訳史を学ぶ							
担当者名	松永 美穂							
文ジャ	2単位	春学期	金曜日	3時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

前期のゼミでは、指定した題材を使って3年生に発表をしてもらい、翻訳とはどういう行為であるか、翻訳が与える社会的影響にはどのようなものがあるか、などのテーマについて考えます。また、3年生には夏休みに訳す絵本、4年生にはゼミ論で使う本を前期のあいだに選んでもらいます。ゲストの来訪も予定しています。（何回目の授業にゲストが来るかについては、ゲストの予定に合わせて変更になる可能性があります）

授業の到達目標

翻訳という概念の理解。どのような翻訳を「最適」と判断すべきかについて、さまざまな基準を学びます。また、日本の翻訳史や、比較翻訳などの視点も取り入れていきます。さらに、書籍の翻訳出版の流れについて、ゲストの話などを聞いて理解を深めます。

成績評価方法

●**試験** 0% 試験は行いません。
●**レポート** 0% レポートの提出は必要ありませんが、自分の発表のときにはレジュメを作って下さい。
●**平常点** 100% 出席プラス授業への参加度（3年生の場合は課題発表を必ず行ってもらいますが、全体的な出席も重視します）
●**その他** 0% なし

科 目 名	翻訳・批評ゼミ1 （春学期） B 翻訳論・翻訳史を学ぶ							
担当者名	松永 美穂							
文ジャ	2単位	春学期	金曜日	2時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

前期のゼミでは、指定した題材を使って3年生に発表をしてもらい、翻訳とはどういう行為であるか、翻訳が与える社会的影響にはどのようなものがあるか、などのテーマについて考えます。また、3年生には夏休みに訳す絵本、4年生にはゼミ論で使う本を前期のあいだに選んでもらいます。ゲストの来訪も予定しています。（何回目の授業にゲストが来るかについては、ゲストの予定に合わせて変更になる可能性があります）

なお、金曜3限を3年生との合同授業とし、2限は勉強会とゼミ論に関する説明や報告のために使います。

授業の到達目標

翻訳という概念の理解。どのような翻訳を「最適」と判断すべきかについて、さまざまな基準を学びます。また、日本の翻訳史や、比較翻訳などの視点も取り入れていきます。さらに、書籍の翻訳出版の流れについて、ゲストの話などを聞いて理解を深めます。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません。

●**レポート**　50%　　自分がゼミ論で翻訳を行う場合は翻訳する本について、概要と試訳を提出してください。（概要、試訳ともそれぞれA4で2枚程度。）ゼミ論で翻訳に関する論文を執筆する場合は、論文のテーマと要旨を提出してください。

●**平常点**　50%　　出席プラス授業への参加度

●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

授業は基本的に3年生と合同で3限に行い、2限はゼミ論の相談や絵本の勉強会などを行います。

科 目 名	翻訳・批評ゼミ1 （秋学期） A 翻訳実践と、その批評							
担当者名	松永　美穂							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	3時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

後期のゼミは夏休みの成果発表が中心となります。絵本訳の完成に向けて、お互いの訳文について気づいたことを指摘しあいます。最終的には、出版社の方に絵本訳を見てもらいます。4年生はゼミ論として未邦訳のテクストの翻訳をするか、翻訳についての論文を執筆します。後期も出版について、講演会などを予定しています。なお、シラバスの予定は、ゲストの都合などにより変更の可能性があります。

授業の到達目標

お互いの訳文を検討しつつ、自分の翻訳作品を完成させる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません。

●**レポート**　0%　　レポートではありませんが、翻訳などの課題を提出してもらいます（3年は絵本の翻訳、4年生はゼミ論）。

●**平常点**　100%　　出席プラス授業への参加度。

●**その他**　0%　　なし

科 目 名	翻訳・批評ゼミ1 （秋学期） B 翻訳実践と、その批評							
担当者名	松永　美穂							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	2時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

後期は成果発表が中心となります。合同授業は金曜3限に行い、金曜2限にゼミ論に関する報告会や面談を行っていきます。4年生はゼミ論として未邦訳のテクストの翻訳をするか、翻訳についての論文を執筆します。提出は12月の予定です。後期も翻訳出版について、講演会などを予定しています。なお、シラバスの予定は、ゲストの都合などにより変更の可能性があります。

授業の到達目標

3年生の訳文検討に参加することで、翻訳に関する判断力を磨きます。また、4年生はゼミ論完成が大きな目標です。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません。

●**レポート**　0%　　レポートではありませんが、翻訳などの課題を提出してもらいます（3年は絵本の翻訳、4年生はゼミ論）。

●**平常点**　100%　　出席プラス授業への参加度。

●**その他**　0%　　なし

科 目 名	テクスト読解・批評ゼミ3 （春学期）							
担当者名	澤　直哉							
文ジャ	2単位	春学期	木曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

履修者の関心に従った発表に基づき、諸芸術（文学・美術・音楽・映画・漫画・建築・デザイン等）に関する議論をしてもらう。

なお、ゼミは教員が教壇から何かを教えるのでなく、履修者の発言によって作られる場であるから、積極的な発言と議論を求める。

また、ゼミは3年生と4年生合同で4・5限に行なうので、4限にゼミを開始し、終了時間はその都度異なることを諒とされたい。

授業の到達目標

・安易な「感情移入」と「共感」を排し、「消費者」「受容者」から「批評者」「研究者」になる。
・芸術を単に楽しむための娯楽でなく「認識」や「思考」として受けとめ、かつ歴史的な形成物として深く吟味する。
・議論や執筆など、他者や対話へ向かう言語活動を通じて、みずからの言葉と文体を獲得する。
・ただ「好き」なだけの対象でなく、自身にとって、そして客観的に「重要」な問題として、ゼミ論のテーマを見つける。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　50%　　論理の明証性、文章の論理性、引用・参照の手続きの正確性、文書の形式的配慮によって評価する。

●**平常点**　50%　　3分の2以上（10回）出席を単位取得の最低条件とする。出席回数の問い合わせには応じないので、各自で管理すること。なお、就職活動などによる欠席に対する配慮措置は行なわない。

また、出席が多ければよいということではない。評価については、自身の感覚・認識・思考を言葉にする努力、その言葉で他者と対話しようとする意欲を評価する。

●**その他**　0%

備考・関連URL

＊誠に遺憾なことに、明らかに授業と関係のない作業をしている履修者が少なくないため、授業時間中のスマートフォン、タ

ブレット、PC等個人デヴァイスの使用は禁止とする。
＊発表の際に自身のレジュメとスマホを持つのみという者が散見されるが、それでは発表する意味がない。筆記用具を持つことを必須とする。
＊自身の発表など授業の運営に関わる回、あるいは流行感染は別として、欠席連絡は不要である。

科 目 名	テクスト読解・批評ゼミ3 （秋学期）							
担当者名	澤　直哉							
文ジャ	2単位	秋学期	木曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要
春学期にひきつづき、芸術作品の鑑賞、批評、読解と研究を行なってゆく。 受動的な認識や体験を、議論や本といった他者の言葉の助けを借りながら、考え、書くという積極的行為へ繋げてゆく。
ゼミという場を作るのは履修者の言葉である。各位の主体性と発言を求める。

授業の到達目標
・安易な「感情移入」と「共感」を排し、「消費者」「受容者」から「批評者」「研究者」になる。
・芸術を単に楽しむための娯楽でなく「認識」や「思考」として受けとめ、かつ歴史的な形成物として深く吟味する。
・議論や執筆など、他者や対話へ向かう言語活動を通じて、みずからの言葉と文体を獲得する。
・ただ「好き」なだけの対象でなく、自身にとって、そして客観的に「重要」な問題として、ゼミ論のテーマを見つける。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　論理の明証性、文章の論理性、引用・参照の手続きの正確性、文書の形式的配慮によって評価する。
●**平常点**　50%　　3分の2以上（10回）出席を単位取得の最低条件とする。出席回数の問い合わせには応じないので、各自で管理すること。なお、就職活動などによる欠席に対する配慮措置は行なわない。
また、出席が多ければよいということではない。評価については、自身の感覚・認識・思考を言葉にする努力、その言葉で他者と対話しようとする意欲を評価する。
●**その他**　0%

備考・関連URL
＊誠に遺憾なことに、明らかに授業と関係のない作業をしている履修者が少なくないため、授業時間中のスマートフォン、タブレット、PC等個人デヴァイスの使用は禁止とする。
＊発表の際に自身のレジュメとスマホを持つのみという者が散見されるが、それでは発表する意味がない。筆記用具を持つことを必須とする。
＊自身の発表など授業の運営に関わる回、あるいは流行感染は別として、欠席連絡は不要である。

科 目 名	編集と批評ゼミ （春学期） A							
担当者名	市川　真人							
文ジャ	2単位	春学期	土曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】/ハイブリッド【対面授業を特別以上】

授業概要
「読むこと」が誰もに開かれたのが〝近代〟の特徴であったのに対し、「書くこと（作ること）」と「編むこと」が誰にも開かれつつあるのが「訪れつつある〝近代以後〟」の特徴であることは、みなさんも、実感していることでしょう。「書くこと（作ること）」も「編むこと」も単にそれ自体として特別なことではもはやありえず、構造的にあらゆる言説が短い期間で浮き沈みする――そのような環境下で、なお抜きんでた「書かれたもの（作られたもの）」と「編まれたもの」はいかにありうるのか、そのようなものがありうる環境はそもそも構築できるのか、できるとすればどのように、などについて考えるゼミです。
過去の価値観を検証し、それらの有意味な点をただしく受け継ぎながら、現在時に適合したかたちにリファインし新たなものを付け加えつつ、それが受容される環境じたいをつくりあげてゆくこと。そこにおいては「創作」と「批評」と「編集」とは分割不可能なもの、そのいずれでもあってどれでもないものとなります。
具体的には、批評理論を学び、それを援用して批評を書き、ときに先行して第一線で活躍する書き手／作り手／広げ手たちの話を聞き、ときにそれらの結果としての創作を行い、紙の、あるいは電子の媒体を作り、それを広めるための手段についてフィールドワーク的に街を、あるいは電子の世界を歩く……ということになります。
もちろん、二十歳そこそこのみなさんに、そのすべてが可能な予備条件を求めることなどできはしません（担当教員だってむろんすべてを持ってなどいませんし）。ゼミの二年間でそれらがすべて手に入り、達成されることも九分九厘ないでしょう。しかし／だからそれは、ゼミを終え、大学生活を終えても続く、十年単位の、あるいはみなさんの人生の全期間の、もしかするとそれぞれの人生ひとつでは収まらないスパンの歩みの、最初の一歩となる二年間だと捉え、そのつもりできてくれるひとを求めます。
4限配当のゼミAでは、各自の興味に応じた発表をもとに、現代思想や哲学を参照しながら、メディアを通して人間と社会の本質を考えるための思考力や知識をつけてゆきます。
※メディアを扱うゼミの性質を最大限に活用するため、原則として全授業をリアルタイム配信も併用した対面ハイフレックスで行います。また、最大で7回のオンライン授業を行います。

授業の到達目標
・「思考」とはなにか、「編集」とはなにか、「批評」とはなにか、を理念と知識の両方の層において会得する。
・自身の興味が何に由来しているのかを、認識構造や社会構造などとリンクして観察し、より抽象化した卒業論文につなげてゆく。
・AIをはじめとする最新の「メディア」にも関心を持ち、従来の文化や芸術との接合と切断について考える。

成績評価方法
出席・発表と、それらをもとにしたレポートで評価。

備考・関連URL
・5限の「編集と批評ゼミBと合同で、4～5限連続となります。教職等のあるひとは別途相談してください。

・また、メディアを扱うゼミの性質を最大限に活用するため、原則として全回を　ハイフレックス（オンラインオフライン併用）またはオンライン授業で行います。オンラインでの環境はzoomと、別途ブラウザを利用するホワイトボードアプリケーションを用います。
・ゼミ志望者は、1・2年時に担当教員の「現代文芸・文化論1／2」いずれかを受講ないしは聴講していることが望まれます。

科 目 名	編集と批評ゼミ　（春学期）　B							
担当者名	市川　真人							
文ジャ	2単位	春学期	土曜日	5時限	3年以上	—	—	フル 対面 ハイブリッド 対面回数半数以上

授業概要
4限配当の3年次ゼミAでの学習を踏まえ、各自のゼミ論文のための発表や指導を行います。
また、「理想のメディア」とはなにかを考えることをはじめ、諸ジャンルのレクチャーを随時行います。
※メディアを扱うゼミの性質を最大限に活用するため、教室授業に加えて、最大で7回のオンライン授業を行います。

授業の到達目標
「思考」とはなにか、「編集」とはなにか、「批評」とはなにか、を理念と知識の両方の層において会得する。

成績評価方法
出席・発表と、それらをもとにしたレポートで評価。

備考・関連URL
・4限の「編集と批評ゼミA」と合同で、4〜5限連続となります。教職等のあるひとは別途相談してください。
・また、メディアを扱うゼミの性質を最大限に活用するため、原則として全回を　ハイフレックス（オンラインオフライン併用）またはオンライン授業で行います。オンラインでの環境はzoomと、別途ブラウザを利用するホワイトボードアプリケーションを用います。
・ゼミ志望者は、1・2年時に担当教員の「現代文芸・文化論1／2」いずれかを受講していることが望まれます。

科 目 名	編集と批評ゼミ　（秋学期）　A							
担当者名	市川　真人							
文ジャ	2単位	秋学期	土曜日	4時限	3年以上	—	—	フル 対面 ハイブリッド 対面回数半数以上

授業概要
「読むこと」が誰もに開かれたのが〝近代〟の特徴であったのに対し、「書くこと（作ること）」と「編むこと」が誰にも開かれつつあるのが「訪れつつある〝近代以後〟」の特徴であることは、みなさんも、実感していることでしょう。「書くこと（作ること）」も「編むこと」も単にそれ自体として特別なことではもはやありえず、構造的にあらゆる言説が短い期間で浮き沈みする――そのような環境下で、なお抜きんでた「書かれたもの（作られたもの）」と「編まれたもの」はいかにありうるのか、そのようなものがありうる環境はそもそも構築できるのか、できるとすればどのように、などについて考えるゼミです。
過去の価値観を検証し、それらの有意味な点をただしく受け継ぎながら、現在時に適合したかたちにリファインし新たなものを付け加えつつ、それが受容される環境じたいをつくりあげてゆくこと。そこにおいては「創作」と「批評」と「編集」とは分割不可能なもの、そのいずれでもあってどれでもないものとなります。
具体的には、批評理論を学び、それを援用して批評を書き、ときに先行して第一線で活躍する書き手／作り手／広げ手たちの話を聞き、ときにそれらの結果としての創作を行い、紙の、あるいは電子の媒体を作り、それを広めるための手段についてフィールドワーク的に街を、あるいは電子の世界を歩く……ということになります。
もちろん、二十歳そこそこのみなさんに、そのすべてが可能な予備条件を求めることなどできはしません（担当教員だってむろんすべてを持ってなどいませんし）。ゼミの二年間でそれらがすべて手に入り、達成されることも九分九厘ないでしょう。しかし／だからそれは、ゼミを終え、大学生活を終えても続く、十年単位の、あるいはみなさんの人生の全期間の、もしかするとそれぞれの人生ひとつでは収まらないスパンの歩みの、最初の一歩となる二年間だと捉え、そのつもりできてくれるひとを求めます。
4限配当のゼミAでは、各自の興味に応じた発表をもとに、現代思想や哲学を参照しながら、メディアを通して人間と社会の本質を考えるための思考力や知識をつけてゆきます。
※メディアを扱うゼミの性質を最大限に活用するため、原則として全授業をリアルタイム配信も併用した対面ハイフレックスで行います。また、最大で7回のオンライン授業を行います。

授業の到達目標
「思考」とはなにか、「編集」とはなにか、「批評」とはなにか、を理念と知識の両方の層において会得する。

成績評価方法
出席・発表と、それらをもとにしたレポートで評価。

備考・関連URL
・5限の「編集と批評ゼミBと合同で、4〜5限連続となります。教職等のあるひとは別途相談してください。
・また、メディアを扱うゼミの性質を最大限に活用するため、原則として全回をハイフレックス（オンラインオフライン併用）またはオンライン授業で行います。オンラインでの環境はzoomと、別途ブラウザを利用するホワイトボードアプリケーションを用います。
・ゼミ志望者は、1・2年時に担当教員の「現代文芸・文化論1／2」いずれかを受講していることが望まれます。

科 目 名	編集と批評ゼミ　（秋学期）　B							
担当者名	市川　真人							
文ジャ	2単位	秋学期	土曜日	5時限	3年以上	—	—	フル 対面 ハイブリッド 対面回数半数以上

授業概要
同ゼミ春期を継続するので、これを参照のこと。

授業の到達目標
同ゼミ春期と同じなので、これを参照のこと。

成績評価方法
同ゼミ春期を参照のこと。

備考・関連ＵＲＬ
・4限の「編集と批評ゼミAと合同で、4～5限連続となります。教職等のあるひとは別途相談してください。
・また、メディアを扱うゼミの性質を最大限に活用するため、原則として全回を　ハイフレックス（オンラインオフライン併用）またはオンライン授業で行います。オンラインでの環境はzoomと、別途ブラウザを利用するホワイトボードアプリケーションを用います。

科 目 名	ノンフィクション・創作ゼミ （春学期） 街を読み、街を歩き、街を描く							
担当者名	重松　清							
文ジャ	２単位	春学期	土曜日	４時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要
2025年初夏の東京を、さまざまなアプローチで描いていく。そのためには街をしっかり歩かなければならないし、過去の「東京本」――東京を描いた小説やノンフィクションの精読も欠かせない。副題どおり、「読む」「歩く」「描く」を組み合わせたゼミとなる。

授業の到達目標
東京や周辺の街を舞台に、「いま」がたちのぼる文芸作品（小説、ノンフィクション、シナリオ、エッセイなど）を仕上げる。

成績評価方法
●**試験**　0%　　おこなわない
●**レポート**　50%　　教場で指示する
●**平常点**　50%　　出席、教場での発表、授業への参加度などを総合的に評価する。なお、出席回数は三分の二が必要。就職活動も「欠席」として扱うので、ご注意を。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	ノンフィクション・創作ゼミ （秋学期） 街を読み、街を歩き、街を描く							
担当者名	重松　清							
文ジャ	２単位	秋学期	土曜日	４時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要
2025年秋から冬にかけての東京を、さまざまなアプローチで描いていく。そのためには街をしっかり歩かなければならないし、過去の「東京本」――東京を描いた小説やノンフィクションの精読も欠かせない。副題どおり、「読む」「歩く」「描く」を組み合わせたゼミとなる。

授業の到達目標
東京や周辺の街を舞台にして、「いま」がたちのぼる文芸作品（小説、ノンフィクション、シナリオ、エッセイなど）を仕上げる。

成績評価方法
●**試験**　0%　　おこなわない
●**レポート**　50%　　教場で指示する
●**平常点**　50%　　出席、教場での発表、授業への参加度などを総合的に評価する。なお、出席回数は三分の二が必要。就職活動も斟酌なしの「欠席」として扱うので、ご注意を。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	翻訳・批評ゼミ２ （春学期） 翻訳について考える。							
担当者名	小野　正嗣							
文ジャ	２単位	春学期	金曜日	３時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要
※基本的に対面授業です。新型コロナウィルスの感染の拡大など、状況によりオンラインに切り替えることもあります。
指定したテクストの翻訳を受講生全員で行ないます。担当者の訳文をもとに、よりよい翻訳とは何か、それを実現するには何が必要かを考えます。

授業の到達目標
翻訳という行為について、自らそれを行なうことで、理解を深める。
他者の意見に真摯に耳を傾けながら、よりよい翻訳を実現する。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　課題への取り組み、発表内容、発言を総合的に判断します。
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ
授業の性質上、受講者は毎回必ず出席し、課題を提出し、授業に積極的に参加することが求められます。
1）正当な理由があって欠席する場合、正当な理由があって課題を期限内に提出できない場合は、すぐに授業担当者に連絡をして代替の課題などについて尋ねること。
（正当な理由とは、病気や忌引きなどであって、就職活動やインターンシップは含まれません。）
2）課題をMoodle上に期限内に提出できないことが複数回ある場合は、C以下の評価になります。

3）20分以上の遅刻は、欠席とみなします。

科 目 名	翻訳・批評ゼミ2 （秋学期） 翻訳について考える							
担当者名	奈倉　有里							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	3時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

課題となる作品を読み、翻訳のありかたについて考えます。
※授業は基本的に対面方式でおこなわれます。

授業の到達目標

各自の学習状況にあわせて進め、翻訳について理解を深めます。
他者の意見に耳を傾け、よりよい翻訳をめざします。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　課題への取り組み、発表内容、発言を総合的に判断する。
●**その他**　0%

科 目 名	文芸研究・批評ゼミ1 （春学期） フェミニズム批評、クィア批評の視点からゼミ論文を書く							
担当者名	岩川　ありさ							
文ジャ	2単位	春学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

このゼミでは、フェミニズム批評やクィア批評の理論や分析方法について学び、広義の言語芸術（小説、詩歌、マンガ、アニメーション、ドラマ、ゲームなど）の研究を行います。

フェミニズムやクィア・スタディーズは、性、身体、欲望の規範的なあり方を問い、ある人々に暴力や死の危機がより多く配分されるのはなぜなのかについて考えてきました。ジェンダー・マイノリティ、セクシュアル・マイノリティ、人種的・民族的マイノリティ、障がいを持った人びと、貧困のただ中にある人びとなど、声を持たなかった人々が研究や批評、文学・文化の製作に携わるようになり、これまでの言葉を刷新し、新しい表現が必要とされています。このゼミから、フェミニズム、クィア批評の視点に立った研究や批評を基礎とした様々な実践を行う方が生まれることを願っています。

春学期には、文学や文化を分析的に読むための方法や理論について学びます。

秋学期には、それらを発展させて、各自の興味関心やゼミ論文でとりあげたいテーマにあわせた文献を読んでゆきます。

最後になりますが、このゼミでは、フェミニズムが目指してきた、平等で、ジェンダー差別がなく、安心して、すべての学生が学べる学習環境を整えるための努力を行います。すべての学生が、ハラスメントにさらされることなく、学習、研究に打ち込める環境を整備します。

＊言語芸術のテクスト分析が中心のゼミです。アンケート調査や質的調査（インタビュー調査）などの指導はできませんのでご注意ください。

＊2025年度からは火5限にゼミを行いますので、ご注意ください。

授業の到達目標

(1)必修基礎演習、論系演習を踏まえて、発表やレポートの書き方など基礎的なアカデミック・スキルを身につける。
(2)資料を正確に読み、レジュメを作成し、論点を整理して発表を行える。
(3)ゼミ論文に向けて構想を発表し、フィードバックをもとにして報告レポートにまとめる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　学期末レポート50%。
2025年7月31日（木）23:59締め切り
wordかPDFで提出。
次の2問両方に答えてください。ファイルは一つのファイルにまとめてください。
1、林香里・田中東子編『ジェンダーで学ぶメディア論』世界思想社、2023年に収録された論文で、春学期に読んだ章のうち、自分が発表を担当した以外の論文を1つ（比較したかったり、2つ以上とり上げたい場合はそれでもかまわない）についてとりあげ、その背景についてよく調べ、論旨を簡潔にまとめてください。その上で、自分が研究しようとしている領域、作家、作品と重ねて、何か具体的な作品について分析してください。作品は、小説、詩歌、映画、演劇、漫画、アニメーション、歌、ゲームなどジャンルを問いません。ただし、言葉に着目したレポートにしてください。また、自分が研究している領域、作家、作品と繋げることができないと思った場合、それと異なるものをとりあげても構いません。(3,000文字以上)
2、自身のゼミ論文について、自分の研究の概要（3年生）や進展(4年生以上)について、3,000文字以上でまとめてください。箇条書きやメモではなく、自分の構想をしっかりと言語化してください。
両方とも、オーバーする分には構いません。
●**平常点**　50%　　文献講読、ゼミ論の発表50%。レジュメを適切に作り、発表できているかを評価基準とします。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

・ディスカッションのとき、マイクロアグレッションやハラスメントがないように初回授業で説明します。相互尊重（アサーティブ）な対話を目指し、ハラスメントの基礎的な知識、マイクロアグレッション、ヘイトスピーチ、アウティングなどについて学びます。それらについてしっかりと知ったうえで授業をはじめます。繰り返し注意を促しても、差別的な発言が続く場合は受講を認めません。
以下を確認してください。
・世界人権宣言（国際連合広報センター）
https://www.unic.or.jp/activities/humanrights/document/bill_of_rights/universal_declaration/

・LGBTの権利について（国際連合広報センター）
https://www.unic.or.jp/activities/humanrights/discrimination/lgbt/
・東京大学における性的指向と性自認の多様性に関する学生のための行動ガイドライン
<p class="MsoNormal" <a="" fref="" style="margin: 0mm; font-family: "MS UI Gothic", "ヒラギノ角ゴ Pro W3", Arial, sans-serif; font-size: 12.8px; text-align: justify;">https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/actions/sogi.html

科 目 名	文芸研究・批評ゼミ１ （秋学期） フェミニズム批評、クィア批評の視点からゼミ論文を書く							
担当者名	岩川　ありさ							
文ジャ	２単位	秋学期	火曜日	５時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

このゼミでは、フェミニズム批評やクィア批評の理論や分析方法について学び、広義の言語芸術（小説、詩歌、マンガ、アニメーション、ドラマ、ゲームなど）の研究を行います。

フェミニズムやクィア・スタディーズは、性、身体、欲望の規範的なあり方を問い、ある人々に暴力や死の危機がより多く配分されるのはなぜなのかについて考えてきました。ジェンダー・マイノリティ、セクシュアル・マイノリティ、人種的・民族的マイノリティ、障がいを持った人びと、貧困のただ中にある人びとなど、声を持たなかった人々が研究や批評、文学・文化の製作に携わるようになり、これまでの言葉を刷新し、新しい表現が必要とされています。このゼミから、フェミニズム、クィア批評の視点に立った研究や批評を基礎とした様々な実践を行う方が生まれることを願っています。

春学期には、文学や文化を分析的に読むための方法や理論について学びます。秋学期には、それらを発展させて、各自の興味関心やゼミ論文でとりあげたいテーマにあわせた文献を読んでゆきます。

最後になりますが、このゼミでは、フェミニズムが目指してきた、平等で、ジェンダー差別がなく、安心して、すべての学生が学べる学習環境を整えるための努力を行います。すべての学生が、ハラスメントにさらされることなく、学習、研究に打ち込める環境を整備します。

＊言語芸術のテクスト分析が中心のゼミです。アンケート調査や質的調査（インタビュー調査）などの指導はできませんのでご注意ください。

＊2025年度からは火5限にゼミを行いますので、ご注意ください。

授業の到達目標

(1)ゼミ論文を書くために必要なアカデミック・スキルを身につける。
(2)ゼミ論文に向けて、批評や研究の方法を学ぶ。
(3)ゼミ論文に向けて発表し、フィードバックをもとにして論文やレポートにまとめる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　学期末レポート50%。
2026年1月31日（土）23:59締め切り。
wordかPDFで提出。
次の2問両方に答えてください。ファイルは一つのファイルにまとめてください。
1、林香里・田中東子編『ジェンダーで学ぶメディア論』世界思想社、2023年に収録された論文で、秋学期に読んだ章のうち、自分が発表を担当した以外の論文を1つ（比較したかったり、2つ以上とり上げたい場合はそれでもかまわない）についてとりあげ、その背景についてよく調べ、論旨を簡潔にまとめてください。その上で、自分が研究しようとしている領域、作家、作品と重ねて、何か具体的な作品について分析してください。作品は、小説、詩歌、映画、演劇、漫画、アニメーション、歌、ゲームなどジャンルを問いません。ただし、言葉に着目したレポートにしてください。また、自分が研究している領域、作家、作品と繋げることができないと思った場合、それと異なるものをとりあげても構いません。(3,000文字以上)
2、
3年：ゼミ論文についてまとめたレポート（4,000文字以上）：論文概要、先行文献の一覧、目次、現在の進展についてまとめてください。自身のゼミ論文について、自分の研究の概要がわかるようにしてください。箇条書きやメモではなく、自分の構想をしっかりと言語化してください。
4年：ゼミ論報告会の資料を提出してください。ゼミ論文の要約、A4、1枚程度。また、ゼミ論文を書くさい、やってよかったこと、やればよかったことなど、話せるようにしておいてください。
＊文字数がオーバーする分にはいくらオーバーしても構いません。
●**平常点**　50%　　文献講読の発表（3年）、コメント（4年）、ゼミ論文についての発表を総合的に評価します。
3年：林香里・田中東子編『ジェンダーで学ぶメディア論』世界思想社、についての発表。自身のゼミ論文の構想についての発表。
4年：3年の発表へのコメント。12/23（火）までにゼミ論文をmoodleにアップロードしてください。3年生、4年がそれを読めるようにしてください。1月末に、自身のゼミ論文の概要、ゼミ論文をこう進めた、こう進めればよかったということについて報告してください。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連ＵＲＬ

・ディスカッションのとき、マイクロアグレッションやハラスメントがないように初回授業で説明します。相互尊重（アサーティブ）な対話を目指し、ハラスメントの基礎的な知識、マイクロアグレッション、ヘイトスピーチ、アウティングなどについて学びます。それらについてしっかりと知ったうえで授業をはじめます。繰り返し注意を促しても、差別的な発言が続く場合は受講を認めません。
以下を確認してください。
・世界人権宣言（国際連合広報センター）
https://www.unic.or.jp/activities/humanrights/document/bill_of_rights/universal_declaration/
・LGBTの権利について（国際連合広報センター）
https://www.unic.or.jp/activities/humanrights/discrimination/lgbt/

・東京大学における性的指向と性自認の多様性に関する学生のための行動ガイドライン
https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/actions/sogi.html

科 目 名	世界文学研究ゼミ （春学期） 副題:『20世紀の世界文学』と『世界文学とは何か？』を読む							
担当者名	アスアヘアラモ　マヌエル							
文ジャ	２単位	春学期	月曜日	３時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

このゼミでは、 文芸誌『新潮』の『この一冊でわかる・20世紀の世界文学』（平成3年4月臨時増刊号）と秋草俊一郎ら編『世界文学アンソロジー: いまからはじめる』（2019年）所収の作品を読みながら、デイヴィッド・ダムロッシュ著書『世界文学とは何か？』と『世界文学講義: 日本文学を世界に開く』を生徒たちと一年かけてゆっくり読みながら、20世紀における世界文学の流れを把握し、世界文学を「読みのモード」として考える練習をします。その中、＜世界文学＞を特徴づける諸問題、すなわち翻訳、文学の流通、作家同士の間の影響などといったテーマを念頭に置きながら、世界文学について再考察します。

授業の到達目標

20世紀の世界史について学びながら、世界文学の作品を読むとはどういう問いに生徒たちと考えます。2年間かけて生徒たちの読書量を増やすとともに、文学を体系的に読むこと、歴史と社会と結びつけて読むこと、文学とジャーナリズムの境界線について考えることを目指していきたいと思います。文学を楽しく読みつつ、批評的にも読むという習慣と能力を培うように努力します。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　35%　　期末レポートがあります。読んできた作家たちから二人を選んで比較し、自分の感想を述べる。
●**平常点**　30%　　平常点評価 30%
授業参加や、他の受講生のプレゼン内容確認の質問への応答。
●**その他**　35%　　プレゼンテーション：
本授業で扱う作家たちやそれらの作品について、指定されるテーマに沿って発表する。(5-6分程度、1学期に1回)

備考・関連URL

・3 年生と4 年生と共同で授業を行います。
・基本的に授業で読む世界文学の作品の全ては邦訳での作品になりますが、生徒の言語能力に応じて、フランス語、スペイン語、ポルトガル語、英語、中国語、韓国語で書かれたテクストについての発表、報告、レポートなどの提出も可にするだけではなく、むしろ大歓迎します。できるだけ世界中の様々な文学に関心のある生徒たちの履修を希望します。

科 目 名	世界文学研究ゼミ （秋学期） 副題:『20世紀の世界文学』と『世界文学とは何か？』を読む							
担当者名	アスアヘアラモ　マヌエル							
文ジャ	２単位	秋学期	月曜日	３時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

このゼミでは、 文芸誌『新潮』の『この一冊でわかる・20世紀の世界文学』（平成3年4月臨時増刊号）と秋草俊一郎ら編『世界文学アンソロジー: いまからはじめる』（2019年）所収の作品を読みながら、デイヴィッド・ダムロッシュ著書『世界文学とは何か？』と『世界文学講義: 日本文学を世界に開く』を生徒たちと一年かけてゆっくり読みながら、20世紀における世界文学の流れを把握し、世界文学を「読みのモード」として考える練習をします。その中、＜世界文学＞を特徴づける諸問題、すなわち翻訳、文学の流通、作家同士の間の影響などといったテーマを念頭に置きながら、世界文学について再考察します。

授業の到達目標

20世紀の世界史について学びながら、世界文学の作品を読むとはどういう問いに受講生と考えます。2年間かけて受講生の読書量を増やすとともに、文学を体系的に読むこと、歴史と社会と結びつけて読むこと、文学とジャーナリズムの境界線について考えることを目指していきたいと思います。文学を楽しく読みつつ、批評的にも読むという習慣と能力を培うように努力します。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　35%　　期末レポートがあります。読んできた作家たちから二人を選んで比較し、自分の感想を述べる。
●**平常点**　30%　　授業参加や、他の受講生のプレゼン内容確認の質問への応答。
●**その他**　35%　　プレゼンテーション：
本授業で扱う作家たちやそれらの作品について、指定されるテーマに沿って発表する。(5-6分程度、1学期に1回)

備考・関連URL

3 年生と4 年生と共同で授業を行います。
・基本的に授業で読む世界文学の作品の全ては邦訳での作品になりますが、生徒の言語能力に応じて、フランス語、スペイン語、ポルトガル語、英語、中国語、韓国語で書かれたテクストについての発表、報告、レポートなどの提出も可にするだけではなく、むしろ大歓迎します。できるだけ世界中の様々な文学に関心のある生徒たちの履修を希望します。

科 目 名	世界文学研究ゼミ２ （春学期） A							
担当者名	草野　慶子							
文ジャ	２単位	春学期	月曜日	３時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

ゼミAは3年生を中心とするゼミですが、4年生にも参加を推奨します。
授業ではまず、 文学作品を「読む」レッスンを反復します。具体的には、毎週こちらが指定したテクスト、短編小説やエッセイ、評論の一部等々を、教員があらかじめ提示した論点にそってリサーチ、読解いただきます。ときには、指定テクストで使われている手法を模倣した上で「書く」実践もしていただきます。

後半の日程では、3年生の皆さんに個々に発表いただきます。任意の文学作品を取り上げて考察していただく予定です。

授業の到達目標

ゼミ共通のテーマにそくして文献を読み、学術調査を進める。テーマに関する考察の深化を経験する。さらに、創作に関する気づきを得る。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　出席状況、各自の発表の内容、ディスカッションへの取り組み、他のゼミ生の発表へのフィードバックを総合的に評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	世界文学研究ゼミ2 （春学期） B ゼミ論文指導							
担当者名	草野　慶子							
文ジャ	2単位	春学期	月曜日	2時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

ゼミBは4年生のためのゼミです。ゼミ論文の指導を行います。春学期はゼミ生の皆さんに論文の構想を2回発表いただきます。1回目は、春休みの課題に基づき使用する資料の紹介を中心に、2回目は予定されるゼミ論文の構成を中心に発表いただきます。

＊なお、ゼミ3年生の参加を歓迎します。

授業の到達目標

ゼミ論文執筆に向けて、文献を収集しつつ構想を練る。夏休み開始前には論文の全体に関する展望を得る。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　出席状況、各自の発表の内容、ディスカッションへの取り組み、他のゼミ生の発表へのフィードバックを総合的に評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	世界文学研究ゼミ2 （秋学期） A							
担当者名	草野　慶子							
文ジャ	2単位	秋学期	月曜日	3時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

ゼミAは3年生を中心とするゼミですが、4年生にも参加を推奨します。

春学期と同じく、授業ではまず、 文学作品を「読む」レッスンを反復します。具体的には、毎週こちらが指定したテクスト、短編小説やエッセイ、評論の一部等々を、教員があらかじめ提示した論点にそってリサーチ、読解いただきます。ときには、指定テクストで使われている手法を模倣した上で「書く」実践もしていただきます。

後半の日程では、3年生の皆さんに個々に発表いただきます。ゼミ論文で取り組みたいテーマや作品に関する発表を行なっていただきます。

授業の到達目標

ゼミ共通のテーマにそくして文献を読み、学術調査を進める。テーマに関する考察の深化を経験する。さらに、創作に関する気づきを得る。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　出席状況、各自の発表の内容、ディスカッションへの取り組み、他のゼミ生の発表へのフィードバックを総合的に評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	世界文学研究ゼミ2 （秋学期） B ゼミ論文指導							
担当者名	草野　慶子							
文ジャ	2単位	秋学期	月曜日	2時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

ゼミBは4年生のためのゼミです。ゼミ論文の指導を行います。秋学期もゼミ生の皆さんに論文の構想を発表いただきます。教室でゼミ生全員の前で1回発表をいただき、その後の、完成までの執筆プロセスにおいては教員による個人指導を予定しています。

＊なお、ゼミ3年生の参加を歓迎します。

授業の到達目標

ゼミ論文完成に向けて、引き続き文献を収集しつつ構想を固める。ゼミ論文を無事に提出する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　出席状況、各自の発表の内容、ディスカッションへの取り組み、他のゼミ生の発表へのフィードバックを総合的に評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	世界文学研究ゼミ3 （春学期） 世界に介入する文学――あるいは、思想としてのパレスチナ							
担当者名	岡　真理							
文ジャ	2単位	春学期	月曜日	5時限	3年以上	―	―	フル【対面】

授業概要

ゼミのテーマは「思想としてのパレスチナ」ですが、本ゼミで扱う問題の射程は、パレスチナ問題やパレスチナ地域に限定されるものではありません。「ヒューマニズムとは、人間の歴史を歪める非人間的な実践や不正義に対する唯一の抵抗である」（エドワード・サイード）という思想を分有する人文学的営みは、すべて「思想としてのパレスチナ」であるとして、狭義の文学作品だけでなく、映画やアート、音楽その他、世界に批判的に介入することを意図する表象全般を対象に、個々の作品を読み解き、その批評を試みます。

「世界に介入する」とは、一言で言えば、今日とは違う世界を想像/創造すること。世界の支配的なありように掉さすのではなく、それに逆らい、抗い、異議申し立て、私たちに別の世界を構想させること。このゼミでとりあげるのは、そうした作品たちです。それらに触れ、学び、理解し、さらにそれらの作品について私たちが文章化し論じることで、世界に批判的に介入するという作家の営為を補完します。私たち自身が、批評という営為によって世界に介入するのです。

作品を私たちが理解し、論じるためには、文学作品ないしアート作品を文学/アートとして理解する感性と同時に、そうした作品が生み出されるう歴史的トポスの意味とそこで起きていることを普遍的な人文学的パースペクティヴのなかで捉える「知」が求められます。最終的に作品論を書くという一連のプロセスのなかで、そうした知を養うことが目論まれています。

授業は研究発表と議論を中心に展開します。 4年生は、ゼミ論執筆に向けて、テーマ発表と研究の中間発表、3年生には、課題発表をおこなっていただきます。

授業の到達目標

・アートや文学作品を通して、それらの作品が創作されることとなった、パレスチナの歴史と現在について知り、理解を深め、そうした知や理解に基づき、作品について語り、そこに込められた作家の思想を自分の言葉で表現することができる。

・「世界」に抗して、今日とは違う明日を創造するためのアート・文学に対する感性を養う。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はおこないません。

●**レポート**　50%　　毎回のゼミでの議論を踏まえて、世界に介入するアート/文学の具体的事例を挙げて、期末レポートにまとめてください。

●**平常点**　50%　　課題への取り組み、授業での発表、議論への積極的参加。

●**その他**　0%　　特にありません。

備考・関連URL

教室で対面授業をおこないます。

科 目 名	世界文学研究ゼミ3 （秋学期） 世界に介入するアート/文学							
担当者名	岡　真理							
文ジャ	2単位	秋学期	月曜日	5時限	3年以上	―	―	フル【対面】

授業概要

ゼミのテーマは「思想としてのパレスチナ」ですが、本ゼミで扱う問題の射程は、パレスチナ問題やパレスチナ地域に限定されるものではありません。「ヒューマニズムとは、人間の歴史を歪める非人間的な実践や不正義に対する唯一の抵抗である」（エドワード・サイード）という思想を分有する人文学的営みは、すべて「思想としてのパレスチナ」であるとして、狭義の文学作品だけでなく、映画やアート、音楽その他、世界に批判的に介入することを意図する表象全般を対象に、個々の作品を読み解き、その批評を試みます。

「世界に介入する」とは、一言で言えば、今日とは違う世界を想像/創造すること。世界の支配的なありように掉さすのではなく、それに逆らい、抗い、異議申し立て、私たちに別の世界を構想させること。このゼミでとりあげるのは、そうした作品たちです。それらに触れ、学び、理解し、さらにそれらの作品について私たちが文章化し論じることで、世界に批判的に介入するという作家の営為を補完します。私たち自身が、批評という営為によって世界に介入するのです。

作品を私たちが理解し、論じるためには、文学作品ないしアート作品を文学/アートとして理解する感性と同時に、そうした作品が生み出されるう歴史的トポスの意味とそこで起きていることを普遍的な人文学的パースペクティヴのなかで捉える「知」が求められます。最終的に作品論を書くという一連のプロセスのなかで、そうした知を養うことが目論まれています。

秋学期は、3年生はゼミ・レポート執筆に向けて、4年生はゼミ論の完成に向けて、取り組みます。

授業の到達目標

世界において、作家たちがどのように世界への介入を試みているか、その実践の考察を通して、現代世界、とりわけ中東イスラーム世界とそこに生きる人間の諸状況について基本的な知識と理解を深め、それについて、自分自身のことばで論じることができるようになることを目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はありません。

●**レポート**　50%　　授業での発表や議論、そこで得た知見を踏まえ、自身で、世界に介入するアート/文学の適切な事例を見出し、それについて、その作品が生まれることとなった「状況」について深く理解し、その作品に込められた作家の思想や、作品がいかなる形で世界に抗しているのか、適切に論じられているか。

●**平常点**　50%　　課題への取り組みと議論への積極的参加。ゼミでの発表。

●**その他**　0%　　特にありません。

備考・関連URL

教室での対面授業を予定しています。

科 目 名	文芸研究・批評ゼミ3 （春学期）「詩」を読み解き、自己を表現する(1)							
担当者名	菊池　有希							
文ジャ	2単位	春学期	火曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本ゼミは、「詩的なテクスト」を読み、それについて研究・批評するゼミである。ここで言う「詩的なテクスト」（以下、「詩」）とは、散文詩や詩劇、短歌や俳句、翻訳詩や歌詞などを含む、詩的言語によって表現された文芸作品一般のことを指す。

文学テクストを読む作法を表す用語に、エクスプリカシオン・ド・テクストというものがある。この語は「文章の解釈法」や「原典腑分けの法」などと訳されたりしするが、要は、一語一語のことばの手ざわりにこだわりながらテクストの意味を精確に捉え解釈する営みのことを指している。あらゆるジャンルの文学テクストにおいて言えることだが、「詩」の読み解きにおいては特に、明示的な意味のみならず、何がしか読み手の意識のうちに暗示されるものにまで知性と感性を行き届かせて解釈を行うことが求められる。このように読み手の積極的な関与が特に求められるという意味で、「詩」の読み解きは、単なる説明のことばを超えて、読み手自身の自己表現の場ともなる。

本ゼミでは、テクストの空白部分や深みにまで想像力を馳せつつ、テクストをめぐる社会状況や文化的背景を押さえながら、「詩」を読み解く作法を修得することを目指す。そして最終的には、「詩」のことばと対話することを通じて闊達に自己を表現することができるようになることを目指す。

春学期においては、始めに、エクスプリカシオン・ド・テクストのいくつかの実践例を通して評釈の方法を学ぶ。そののち、教員が用意したいくつかの「詩」について全体で討議しながら、「詩」を読み解く作法についての理解を深める。それと同時に、文献の調べ方や集め方など、専門的な学びを進めてゆく上で不可欠なスキルについても学ぶ。春学期の最後では、各自の学びの方向性についての構想発表もできればと考えている。

授業の到達目標

「詩」のたくらみを立論という手続きを通して解き明せるようになることを最終的な到達目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　30%　　学期末レポート
●**平常点**　70%　　出席状況、発表の内容、ゼミ時に随時課す課題への取り組み具合、討議への姿勢などで評価する。
出席しただけで加点することはしない。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

本ゼミは基本的に対面で行うが、社会状況その他の事情でオンライン授業の形態をとることもあり得る。その際はMoodleで告知を行う。

科 目 名	文芸研究・批評ゼミ3 （秋学期）「詩」を読み解き、自己を表現する(2)							
担当者名	菊池　有希							
文ジャ	2単位	秋学期	火曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本ゼミは、「詩的なテクスト」を読み、それについて研究・批評するゼミである。ここで言う「詩的なテクスト」（以下、「詩」）とは、散文詩や詩劇、短歌や俳句、翻訳詩や歌詞などを含む、詩的言語によって表現された文芸作品一般のことを指す。

文学テクストを読む作法を表す用語に、エクスプリカシオン・ド・テクストというものがある。この語は「文章の解釈法」や「原典腑分けの法」などと訳されたりしするが、要は、一語一語のことばの手ざわりにこだわりながらテクストの意味を精確に捉え解釈する営みのことを指している。あらゆるジャンルの文学テクストにおいて言えることだが、「詩」の読み解きにおいては特に、明示的な意味のみならず、何がしか読み手の意識のうちに暗示されるものにまで知性と感性を行き届かせて解釈を行うことが求められる。このように読み手の積極的な関与が特に求められるという意味で、「詩」の読み解きは、単なる説明のことばを超えて、読み手自身の自己表現の場ともなる。

本ゼミでは、テクストの空白部分や深みにまで想像力を馳せつつ、テクストをめぐる社会状況や文化的背景を押さえながら、「詩」を読み解く作法を修得することを目指す。そして最終的には、「詩」のことばと対話することを通じて闊達に自己を表現することができるようになることを目指す。

秋学期は、ゼミ生各自が関心を持つ「詩」をそれぞれ持ち寄り、それについての発表をしてもらう。発表を受けて全体討議となるが、そこでは聴講者にも疑問や意見を積極的に出してもらい、全体で読み解きの精度を上げてゆくことが期待される。3年生には、「詩」の鑑賞・評釈から批評・論文にまで段階的に発展させてゆくための基礎力を涵養し、来るべき課題としてあるゼミ論文執筆に向けて一定の方向性を得てもらいたいと考えている。また、4年生には、これまでの学びの集大成としてゼミ論文執筆に取り組んでもらいたいと考えている。

授業の到達目標

「詩」のたくらみを立論という手続きを通して解き明かせるようになることを最終的な到達目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　30%　　学期末レポート
●**平常点**　70%　　出席状況、発表の内容、ゼミ時に随時課す課題への取り組み具合、討議への姿勢などで評価する。
出席しただけで加点することはしない。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

本ゼミは基本的に対面で行うが、社会状況その他の事情でオンライン授業の形態をとることもあり得る。その際はMoodleで告知を行う。

科 目 名	テクスト読解・批評ゼミ1 （春学期） 近現代文学のパラダイムシフトとミステリ							
担当者名	小松　史生子							
文ジャ	2単位	春学期	木曜日	3時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本ゼミでは、ミステリとそれに関連するジャンルの作品分析を通して、20〜21世紀の人文系テクストにおけるパラダイムシフトを考察していきます。

アメリカの作家E・A・ポーによる「モルグ街の殺人」（1841年）の発表以降、ミステリは極めて批評的姿勢をもって宗教／科学、芸術／娯楽、社会／個人、正常／異常、モラル／インモラルなどといった対立的概念構図を戦略的に物語構造に取り込み、また多くのメディア記号を生み出して現代のポップカルチャー・コンテンツに甚大な影響を与えてきました。1900年代にポーやコナン・ドイルの作品を翻訳・翻案の形で受容した日本の近現代文学においても、江戸川乱歩や横溝正史、松本清張らの作品例が示すように、その影響は計り知れません。

しかし、それぞれの国家および社会を構成する概念コードの差異は、同じミステリ・ジャンルであっても微妙な解釈の違いをそのテクストに刻み込んでいるはずです。

本ゼミでは、そうした概念コードの差異をテクスト読解の作業過程で抽出し、世界文学的視野からもテクスト批評することを目指します。

人文系言説のパラダイムシフトにいち早く自覚的に反応することの多いミステリを分析対象にすることによって、文学という領域を支持している様々な位相の研究方法を修得し、更に今日の現代文学が展開しているポピュラー・コンテンツとの接続をも見通していきます。

授業の到達目標

①ミステリのテクストを通して、物語構造や言説の記号体系の歴史的形成過程を理解できるようになる。

②翻訳／翻案／アダプテーションといった、テクスト派生と普及の過程の分析を通して、異文化コミュニケーションにおける言説作用について理解できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　30%　　学期末レポート
●**平常点**　70%　　出席状況、発表、ゼミ時に随時課す課題への取り組み具合、討議への姿勢などで評価する。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	テクスト読解・批評ゼミ1 （秋学期） 近現代文学のパラダイムシフトとミステリ							
担当者名	小松　史生子							
文ジャ	2単位	秋学期	木曜日	3時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本ゼミでは、ミステリとそれに関連するジャンルの作品分析を通して、20〜21世紀の人文系テクストにおけるパラダイムシフトを考察していきます。

アメリカの作家E・A・ポーによる「モルグ街の殺人」（1841年）の発表以降、ミステリは極めて批評的姿勢をもって宗教／科学、芸術／娯楽、社会／個人、正常／異常、モラル／インモラルなどといった対立的概念構図を戦略的に物語構造に取り込み、また多くのメディア記号を生み出して現代のポップカルチャー・コンテンツに甚大な影響を与えてきました。1900年代にポーやコナン・ドイルの作品を翻訳・翻案の形で受容した日本の近現代文学においても、江戸川乱歩や横溝正史、松本清張らの作品例が示すように、その影響は計り知れません。

しかし、それぞれの国家および社会を構成する概念コードの差異は、同じミステリ・ジャンルであっても微妙な解釈の違いをそのテクストに刻み込んでいるはずです。

本ゼミでは、そうした概念コードの差異をテクスト読解の作業過程で抽出し、世界文学的視野からもテクスト批評することを目指します。

人文系言説のパラダイムシフトにいち早く自覚的に反応することの多いミステリを分析対象にすることによって、文学という領域を支持している様々な位相の研究方法を修得し、更に今日の現代文学が展開しているポピュラー・コンテンツとの接続をも見通していきます。

授業の到達目標

①ミステリのテクストを通して、物語構造や言説の記号体系の歴史的形成過程を理解できるようになる。

②翻訳／翻案／アダプテーションといった、テクスト派生と普及の過程の分析を通して、異文化コミュニケーションにおける言説作用について理解できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　30%　　期末レポート
●**平常点**　70%　　出席状況、発表、ゼミ時に随時課す課題への取り組み具合、討議への姿勢などで評価する。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	テクスト読解・批評ゼミ4 （春学期） 連続ドラマの読解と批評							
担当者名	橋本　一径							
文ジャ	2単位	春学期	月曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

ネットフリックスなどの「プラットホーム」の興隆とともに、連続ドラマがかつてないほど私たちの身近なものになっているが、文学研究や映画研究とは異なり、連続ドラマの研究というのは、世界的に見ても意外なほど進んでいない。映画などと比べて、連続ドラマの研究を困難にしている要素とは、いったい何なのだろうか？　最大の要因が連続ドラマの「長さ」であるのは間違いない。文学であれば、ある作家の書いた作品のすべてを読むこと、あるいは映画であれば、ある監督の監督作すべてを見

ることが、研究を着手する際の当然の前提であったのに対して、連続ドラマの場合は、その「長さ」が、「すべてを見る」という前提を共有することを困難にする。8時間の映画であれば歴史的な超大作だが、連続ドラマの場合は、1時間以上のエピソードが10話以上続くのは珍しいことではないし、さらには「シーズン2」「シーズン3」と続くことも日常茶飯事だ。そもそも連続ドラマの場合、「監督」あるいは「作家」の概念が、映画や文学ほど明確ではないので、何をもって「すべて」としてよいのかすら曖昧である。

このような状況の中で、いったいどうすれば連続ドラマの研究に着手することができるのだろうか？　しかし視点を変えてみれば、広い世界の中にあっては、「すべて」を網羅することができるものなど、たかが知れている。地球のすべての生物を、宇宙のすべての星を網羅することが不可能なように、連続ドラマを網羅することも困難である。連続ドラマとは、言わば世界そのものである。このように連続ドラマを、単なるフィクションの1ジャンルに押し込めることなく、私たちの世界と地続きのものとして考察することが、このゼミの目標である。幸いにしていくつかの先行研究は出始めているので、それらを手掛かりとしつつも、あまりそれらに頼りすぎることなく、フロンティア精神をもって、連続ドラマという世界に立ち向かいたい。

授業の到達目標

連続ドラマの特性を理解し、映画や小説の分析の方法論を応用することの限界を理解する。複数のドラマを横断する「要素」に着目したドラマ分析を実践できるようになる。ドラマの面白さや魅力についてプレゼンを行い、他人に伝えられるようになる。他のゼミ生のプレゼンに対して積極的に自分の意見を述べられるようになる。

成績評価方法

プレゼンテーションの内容やディスカッションへの貢献度を総合的に評価する。

科 目 名	テクスト読解・批評ゼミ4　（秋学期）　連続ドラマの読解と批評							
担当者名	橋本　一径							
文ジャ	2単位	秋学期	月曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

ネットフリックスなどの「プラットホーム」の興隆とともに、連続ドラマがかつてないほど私たちの身近なものになっているが、文学研究や映画研究とは異なり、連続ドラマの研究というのは、世界的に見ても意外なほど進んでいない。映画などと比べて、連続ドラマの研究を困難にしている要素とは、いったい何なのだろうか？　最大の要因が連続ドラマの「長さ」であるのは間違いない。文学であれば、ある作家の書いた作品のすべてを読むこと、あるいは映画であれば、ある監督の監督作すべてを見ることが、研究を着手する際の当然の前提であったのに対して、連続ドラマの場合は、その「長さ」が、「すべてを見る」という前提を共有することを困難にする。8時間の映画であれば歴史的な超大作だが、連続ドラマの場合は、1時間以上のエピソードが10話以上続くのは珍しいことではないし、さらには「シーズン2」「シーズン3」と続くことも日常茶飯事だ。そもそも連続ドラマの場合、「監督」あるいは「作家」の概念が、映画や文学ほど明確ではないので、何をもって「すべて」としてよいのかすら曖昧である。

このような状況の中で、いったいどうすれば連続ドラマの研究に着手することができるのだろうか？　しかし視点を変えてみれば、広い世界の中にあっては、「すべて」を網羅することができるものなど、たかが知れている。地球のすべての生物を、宇宙のすべての星を網羅することが不可能なように、連続ドラマを網羅することも困難である。連続ドラマとは、言わば世界そのものである。このように連続ドラマを、単なるフィクションの1ジャンルに押し込めることなく、私たちの世界と地続きのものとして考察することが、このゼミの目標である。幸いにしていくつかの先行研究は出始めているので、それらを手掛かりとしつつも、あまりそれらに頼りすぎることなく、フロンティア精神をもって、連続ドラマという世界に立ち向かいたい。

授業の到達目標

連続ドラマの特性を理解し、映画や小説の分析の方法論を応用することの限界を理解する。複数のドラマを横断する「要素」に着目したドラマ分析を実践できるようになる。ドラマの面白さや魅力についてプレゼンを行い、他人に伝えられるようになる。他のゼミ生のプレゼンに対して積極的に自分の意見を述べられるようになる。

成績評価方法

プレゼンテーションの内容やディスカッションへの貢献度などを総合的に評価する。

科 目 名	「多様性を生きる人間」論ゼミ（クィア・スタディーズ）（春学期）　A							
担当者名	森山　至貴							
人間	2単位	春学期	木曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

4限は3年生のみのゼミとなるので、文献講読を中心におこなう（ただし、春学期は3年生は5限にも参加してください）。

受講生の興味・関心に即して柔軟に文献は選定するが、基礎的な知識の取得のため、講読文献は「ジェンダー」「セクシュアリティ」「クィア」「差別」に関するものを担当教員が指定する。

また、受講生の希望に応じて、個人の研究発表も柔軟に設定することとする。

ゼミ全体を通じて、クィア・スタディーズが体現する広領域的・学融合的アプローチ（ディプロマポリシーより）を受講生が体得することを重視する。

授業の到達目標

・クィア・スタディーズに関する基礎的な知識を、議論やレポート作成で「使える」レベルで習得する。
・先行研究を批判的に読解し、自身の研究の足場にするテクニックを習得する。
・「（自称）論破」ではなく、互いの議論を高めるための生産的な議論のスタイルを習得する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　・指定された文献についての発表
・個人研究の発表
・ディスカッションへの積極的な参加
などを通じて、各学生の授業貢献度・知識理解度を総合的に判断する。

●**その他**　0%

科 目 名	「多様性を生きる人間」論ゼミ（クィア・スタディーズ）（春学期）　B							
担当者名	森山　至貴							
人間	２単位	春学期	木曜日	５時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

5限は4年生対象のゼミとなる（ただし、春学期は3年生が5にも出席する）。ゼミ論執筆に向けての個人発表をおこなう。テーマは興味・関心に即して受講生自身が自由に内容を決定してよいが、必要に応じて他の受講生や教員と相談をおこなう。

ゼミ全体を通じて、クィア・スタディーズが体現する広領域的・学融合的アプローチ（ディプロマポリシーより）を受講生が体得することを重視する。

授業の到達目標

・クィア・スタディーズに関する知識を用いて、各自の研究をおこなう。
・先行研究を批判的に読解し、自身の研究の足場にするテクニックを習得する。
・「（自称）論破」ではなく、互いの議論を高めるための生産的な議論のスタイルを習得する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　・個人研究の発表
・ディスカッションへの積極的な参加
などのポイントを通じて、各学生の授業貢献度・知識理解度を総合的に判断する。
●**その他**　0%

科 目 名	「多様性を生きる人間」論ゼミ（クィア・スタディーズ）（秋学期）　A							
担当者名	森山　至貴							
人間	２単位	秋学期	木曜日	４時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

4限は3年生対象のゼミとなる（ただし、秋学期は4年生が4限にも出席する）。先行研究に関するレビュー（個人発表）をおこなう。各レビューは興味・関心に即して受講生自身が自由に内容を決定してよいが、必要に応じて他の受講生や教員と相談をおこなう。

また、学年末課題としてレビュー論文（ゼミ論文の一部となる）の提出を課す。

ゼミ全体を通じて、クィア・スタディーズが体現する広領域的・学融合的アプローチ（ディプロマポリシーより）を受講生が体得することを重視する。

授業の到達目標

・クィア・スタディーズに関する知識を用いて、各自の研究をおこなう。
・先行研究を批判的に読解し、自身の研究の足場にするテクニックを習得する。
・「（自称）論破」ではなく、互いの議論を高めるための生産的な議論のスタイルを習得する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　授業中におこなった個人発表を、授業での議論を踏まえて改稿し期末課題として提出する。詳細については授業中に述べる。
●**平常点**　50%　　・個人研究の発表
・ディスカッションへの積極的な参加
などのポイントを通じて、各学生の授業貢献度・知識理解度を総合的に判断する。
●**その他**　0%

科 目 名	「多様性を生きる人間」論ゼミ（クィア・スタディーズ）（秋学期）　B							
担当者名	森山　至貴							
人間	２単位	秋学期	木曜日	５時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

5限は4年生対象のゼミとなる（ただし、秋学期は4年生は4限にも積極的に出席すること）。ゼミ論執筆に向けての個人発表をおこなう。テーマは興味・関心に即して受講生自身が自由に内容を決定してよいが、必要に応じて他の受講生や教員と相談をおこなう。

ゼミ全体を通じて、クィア・スタディーズが体現する広領域的・学融合的アプローチ（ディプロマポリシーより）を受講生が体得することを重視する。

授業の到達目標

・クィア・スタディーズに関する知識を用いて、各自の研究をおこなう。
・先行研究を批判的に読解し、自身の研究の足場にするテクニックを習得する。
・「（自称）論破」ではなく、互いの議論を高めるための生産的な議論のスタイルを習得する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　・個人研究の発表
・ディスカッションへの積極的な参加
などのポイントを通じて、各学生の授業貢献度・知識理解度を総合的に判断する。

●**その他**　0%

科 目 名	「心身を生きる人間」論ゼミ（超越と人間）（春学期）　人間を超えたものと向き合う宗教哲学							
担当者名	小村　優太							
人間	２単位	春学期	火曜日	３時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

現代において我々は、物質的な世界に生きていると言っても過言ではない。目で見て、手で触ることのできる、堅固な「モノ」に取り囲まれて日々暮らしている。自然科学や科学技術の発展に伴い、物質的な世界に収まり切らないものは迷信や不合理として切り捨てられてきた。しかし一方で、我々は人間を超えたもの、目に見えないものへの憧れをいまだにもち続けている（魂であったり、精神的（スピリチュアル）なものであったり、はたまた神であったり…）。このゼミでは、そういった「目に見える世界を超えたもの」にたいする人間の営みを幅広く取り扱う。

人間を超えた存在とどう向き合うかという問題は、宗教だけでなく哲学においても古くから大きな問題とされてきた。「善のイデア」、「不動の動者」、「一者」、「能動知性」、「世界の魂」等々。古来から人間は、自らを超えたものを何とかして言葉によって（ときには言葉を捨てて）表現しようと努力してきた。また一方で、物理学者や数学者のなかには、「普遍」や「数」や「無限」といった問題と取り組むうちに、人間を超えた存在を取り扱わざるを得なくなった者たちもいる。コペルニクスの地動説は彼の新プラトン主義的世界観に基づいており、ニュートンは錬金術を研究し、20世紀の数学者ゲーデルは「神の存在証明」に挑戦した。

以上のようなことを踏まえながら、このゼミでは「宗教と哲学」「超越と人間」「神秘思想」「スピリチュアリティ」「普遍者」といったテーマを参加者と共に学んでゆく予定である。

授業の到達目標

・四年次のゼミ論文を完成させる。
・文献、テクストに触れることにより、学問的文章の読解および執筆ができるようになる。
・物質的な世界のなかで生きる人間として、精神的な世界への眼差しを得る。
・世界における人間の立ち位置について考察する力を得る。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　普段のゼミへの参加によって評価する
●**その他**　0%

科 目 名	「心身を生きる人間」論ゼミ（超越と人間）（秋学期）　人間を超えたものと向き合う宗教哲学							
担当者名	小村　優太							
人間	２単位	秋学期	火曜日	３時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

現代において我々は、物質的な世界に生きていると言っても過言ではない。目で見て、手で触ることのできる、堅固な「モノ」に取り囲まれて日々暮らしている。自然科学や科学技術の発展に伴い、物質的な世界に収まり切らないものは迷信や不合理として切り捨てられてきた。しかし一方で、我々は人間を超えたもの、目に見えないものへの憧れをいまだにもち続けている（魂であったり、精神的（スピリチュアル）なものであったり、はたまた神であったり…）。このゼミでは、そういった「目に見える世界を超えたもの」にたいする人間の営みを幅広く取り扱う。

人間を超えた存在とどう向き合うかという問題は、宗教だけでなく哲学においても古くから大きな問題とされてきた。「善のイデア」、「不動の動者」、「一者」、「能動知性」、「世界の魂」等々。古来から人間は、自らを超えたものを何とかして言葉によって（ときには言葉を捨てて）表現しようと努力してきた。また一方で、物理学者や数学者のなかには、「普遍」や「数」や「無限」といった問題と取り組むうちに、人間を超えた存在を取り扱わざるを得なくなった者たちもいる。コペルニクスの地動説は彼の新プラトン主義的世界観に基づいており、ニュートンは錬金術を研究し、20世紀の数学者ゲーデルは「神の存在証明」に挑戦した。

以上のようなことを踏まえながら、このゼミでは「宗教と哲学」「超越と人間」「神秘思想」「スピリチュアリティ」「普遍者」といったテーマを参加者と共に学んでゆく予定である。

授業の到達目標

・四年次のゼミ論文を完成させる。
・文献、テクストに触れることにより、学問的文章の読解および執筆ができるようになる。
・物質的な世界のなかで生きる人間として、精神的な世界への眼差しを得る。
・世界における人間の立ち位置について考察する力を得る。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　普段のゼミへの参加によって評価する
●**その他**　0%

科 目 名	「関係を生きる人間」論ゼミ（プラクティカル・エシックス）（春学期）　現代社会問題の倫理的性質を把握する							
担当者名	御子柴　善之							
人間	２単位	春学期	木曜日	３時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

私たちは、ともに生きている。すなわち、他の人間と関係をもち、関係を構成しながら生きている。そこに人間関係（自分自身への関係を含む）を規制する行為規範（「きまり」）が生まれ機能することになるが、この行為規範に対して問いを向け、その

根拠に対して問い抜くのがこのゼミの内容である。
さて、行為規範は日常的には明確に意識されていない。それが意識されるのは、往々にして私たちが自分の生きる社会に道徳的問題（環境問題、医療問題、介護問題など）を見出したときである。この観点から、行為規範への問いは、「私たちの社会はどうあるべきか」という問いを誘発するだろう。他方、道徳的問題の意識は、そもそも行為規範とは何で、その正当性・妥当性はどうやって保証できるのか、という問いをも生み出す。したがって、このゼミは、一方で、現代社会の固有の性格ならびにその道徳的問題を的確に把握し、その解決の方向性を目がけて考え抜く研究と、他方で、道徳的問題の抽象的な根拠を考え抜いて、哲学的思惟の蓄積に接続する研究の二面をもつことになる。春期は、一冊の著作を輪読するとともに、ゼミ生の要望に基づいて、いくつかのグループ研究を組織し、グループ発表を準備・実施する。（秋期も同様の作業を行う場合がある。）また、参加者が海外文献・新聞記事から見つけた倫理問題の紹介を紙面で行う。4年生には、授業時間外にゼミ論文指導を行う。全体として、学生相互の討論などを通じて、ゼミ生が自らの研究テーマを確立し、それを追及することを課題とする。 ゼミ活動においては、時事的倫理問題を見つけること、それに対する「問い」を立てること、グループでその「問い」について議論することが求められる。

授業の到達目標

このゼミの到達目標に関しては、3年生は倫理学的「問い」をしっかり問えるようになること、4年生はそうした問いに基づいたゼミ論文の研究を前進させることである。最も重要なのは、日々、私たちの周囲に起きる「問題」を、自分自身で立ち止まって考えられるようになること、さらには、気づかれていない「問題」を見いだせる力を涵養することである。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　50%　　三年生は春学期に扱ったテーマから一つを選んでレポートを作成する。四年生以上はゼミ論文を目掛けて、レポートを書く。
●**平常点**　50%　　授業回数の三分の二以上の出席を成績評価の条件とする。討議への積極的参加が求められる。
●**その他**　0%　　時事的倫理問題を提出したゼミ生については、それを加点材料とします。

備考・関連ＵＲＬ

各回100分では時間が不足する。そこで、参加者にはサブ・ゼミ（研究会・読書会）を充実させることを心がけてもらいたい。そのためには、授業前の休み時間にグループで集合し、研究を進めることが必要となる。なお、この授業は教室で実施される予定である。

科 目 名	「関係を生きる人間」論ゼミ（プラクティカル・エシックス）（秋学期） 現代社会問題の倫理的性質を把握する							
担当者名	御子柴　善之							
人間	２単位	秋学期	木曜日	３時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

私たちは、ともに生きている。すなわち、他の人間と関係をもち、関係を構成しながら生きている。そこに人間関係（自分自身への関係を含む）を規制する行為規範（「きまり」）が生まれ機能することになるが、この行為規範に対して問いを向け、その根拠に対して問い抜くのがこのゼミの内容である。
さて、行為規範は日常的には明確に意識されていない。それが意識されるのは、往々にして私たちが自分の生きる社会に道徳的問題（環境問題、医療問題、介護問題など）を見出したときである。この観点から、行為規範への問いは、「私たちの社会はどうあるべきか」という問いを誘発するだろう。他方、道徳的問題の意識は、そもそも行為規範とは何で、その正当性・妥当性はどうやって保証できるのか、という問いをも生み出す。したがって、このゼミは、一方で、現代社会の固有の性格ならびにその道徳的問題を適確に把握し、その解決の方向性を目がけて考え抜く研究と、他方で、道徳的問題の抽象的な根拠を考え抜いて、哲学的思惟の蓄積に接続する研究の二面をもつことになる。また、要望がある場合、いくつかのグループ研究を組織し、グループ発表を準備・実施・発表する。さらに、参加者が海外文献・新聞記事から見つけた倫理問題の紹介を紙面で行う。さらに、4年生に対してはゼミ論文執筆の指導が行われる。全体として、学生相互の討論などを通じて、ゼミ生が自らの研究テーマを確立し、それを追求することを課題とする。 ゼミ活動においては、時事的倫理問題を見つけること、それに対する「問い」を立てること、グループでその「問い」について議論することが求められる。

授業の到達目標

このゼミの到達目標に関しては、3年生は倫理学的「問い」をしっかり問えるようになること、また、ゼミ論文のテーマを見定めること、4年生は自分の問いに基づいたゼミ論文を完成させることである。最も重要なのは、日々、私たちの周囲に起きる「問題」を、自分自身で立ち止まって考えられるようになること、さらには、気づかれていない「問題」を見いだせる力を涵養することである。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　50%　　3年生のレポートは論文形式を採用します。4年生はゼミ論文（修正版）の提出をもって代替します。
●**平常点**　50%　　授業回数の三分の二以上の出席を成績評価の条件とする。討議への積極的参加が求められる。
●**その他**　0%　　時事的倫理問題を提供したゼミ生については、それを加点材料にします。

備考・関連ＵＲＬ

各回100分では時間が不足します。特に、4年生は積極的に担当教員にアポイントメントをとって、ゼミ論文指導を受けるよう心掛けて欲しい。この授業は教室で実施されます。

科 目 名	「心身を生きる人間」論ゼミ（生命と人格）（春学期） こころとからだを生きる人間を考える							
担当者名	村松　聡							
人間	２単位	春学期	金曜日	４時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

現代人間論系、「心身を生きる人間」論プログラムの一つに位置づけられるゼミです。
人間の身体、コミュニケーションのあり方など現代の倫理が直面する具体的問題を取り上げながら、
人間とはなにか、深く考えていくための倫理的、哲学的視点と方法を身につけます。

授業の到達目標

倫理学、思想についてのSpecialistとしての一面をもつとともに、
Generalistとしての判断力、問題解決能力を身につけることが、このゼミの目的です。
理念的な観点と現実の問題解決の両面が要請されるGeneralistの育成を図ります。
次の三点が目的です。
哲学的、倫理学的な基本的知識と視点、考え方を身につけ深くものを考える姿勢を養うこと。
資料の収集の仕方を学ぶこと。
適切で効果的な発表とPresentationの能力を養うこと。

成績評価方法

レポート：60パーセント　学期末にそれまでの成果として、レポートを課します。
平常点評価：40パーセント　一学期に一度は、ゼミ生全員に口頭発表をしてもらいます。口頭発表と、日常の発言、議論を含めて総合的に評価します。
その他：試験は目下のところ考えていません。

備考・関連ＵＲＬ

とにかく、積極的に自ら取り組むこと。ゼミレベルでは、もはや「お勉強」ではなく、
自分で情報を集めて自分で課題を見つけ、自分で解決していくことが求められています。
ゼミ生は、現代人間論系演習「道徳意識の研究」、「現代的人間観の論理と倫理」などもとってみてください。
講義の「応用倫理学」、「生命倫理」、二つの講義での内容は、ゼミでは既知のものとして前提します。
状況によって授業は対面で行う場合とオンラインで行う場合があります。

科 目 名	「心身を生きる人間」論ゼミ（生命と人格）（秋学期） こころとからだを生きる人間を考える							
担当者名	村松　聡							
人間	２単位	秋学期	金曜日	４時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

現代人間論系、「心身を生きる人間」論プログラムの一つに位置づけられるゼミです。
人間の身体、コミュニケーションのあり方など現代の倫理が直面する具体的問題を取り上げながら、
人間とはなにか、深く考えていくための倫理的、哲学的視点と方法を身につけます。

授業の到達目標

倫理学、思想についてのSpecialistとしての一面をもつとともに、
Generalistとしての判断力、問題解決能力を身につけることが、このゼミの目的です。
理念的な観点と現実の問題解決の両面が要請されるGeneralistの育成を図ります。
次の三点が目的です。
哲学的、倫理学的な基本的知識と視点、考え方を身につけ深くものを考える姿勢を養うこと。
資料の収集の仕方を学ぶこと。
適切で効果的な発表とPresentationの能力を養うこと。

成績評価方法

レポート：60パーセント　学期末にそれまでの成果として、レポートを課します。
平常点評価：40パーセント　一学期に一度は、ゼミ生全員に口頭発表をしてもらいます。口頭発表と、日常の発言、議論を含めて総合的に評価します。
その他：試験は目下のところ考えていません。

備考・関連ＵＲＬ

とにかく、積極的に自ら取り組むこと。ゼミレベルでは、もはや「お勉強」ではなく、
自分で情報を集めて自分で課題を見つけ、自分で解決していくことが求められています。
ゼミ生は、現代人間論系演習「道徳意識の研究」、「現代的人間観の論理と倫理」などもとってみてください。
講義の「応用倫理学」、「生命倫理」、二つの講義も履修を考えてください。
状況によって授業は対面で行う場合とオンラインで行う場合があります。

科 目 名	「関係を生きる人間」論ゼミ（社会の変化と人間関係）（春学期） Ａ 社会の変化と人間関係							
担当者名	石田　光規							
人間	２単位	春学期	月曜日	３時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

私たちの人間関係は社会の変化とともに大きく姿を変えてゆきます。戦後の高度経済成長とともに、その希薄化が長い間指摘されてきました。このゼミでは社会の変化と人間関係をテーマに、今後の関係構築、関係形成、善き社会のあり方について考察してゆきます。そのさい、特定の領域に絞り実証的に調査をしつつ、問題に迫るアプローチをとります。2017年度のテーマは授業のなかで検討してゆきます。

授業の到達目標

生活の個人化と関係の再生という社会に横たわる大きなテーマについて理解を深める。

成績評価方法

個別の報告、グループ課題、議論への参加、出席状況を総合的に評価する。

備考・関連ＵＲＬ

3、4限の時間を使って授業を実施することがあるので、両時間帯とも空けておいてください。
夏休みには合宿を行います。日程については授業の最初に調整します。

科 目 名	「関係を生きる人間」論ゼミ（社会の変化と人間関係）（春学期） B 社会の変化と人間関係							
担当者名	石田 光規							
人間	２単位	春学期	月曜日	４時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

私たちの人間関係は社会の変化とともに大きく姿を変えてゆきます。戦後の高度経済成長とともに、その希薄化が長い間指摘されてきました。このゼミでは社会の変化と人間関係をテーマに、今後の関係構築、関係形成、善き社会のあり方について考察してゆきます。そのさい、特定の領域に絞り実証的に調査をしつつ、問題に迫るアプローチをとります。4年生中心の本講義はゼミ論文の歓声を目標とします。

授業の到達目標

生活の個人化と関係の再生という社会に横たわる大きなテーマについて理解を深める。

成績評価方法

個別の報告、グループ課題、議論への参加、出席状況を総合的に評価する。

備考・関連ＵＲＬ

3、4限の時間を使って授業を実施することがあるので、両時間帯とも空けておいてください。
夏休みには合宿を行います。日程については授業の最初に調整します。
4年生は5限まで指導を延長することがあります。なるべく当該の時間帯は空けてください。詳細はゼミ内で説明します。

科 目 名	「関係を生きる人間」論ゼミ（社会の変化と人間関係）（秋学期） A 社会の変化と人間関係							
担当者名	石田 光規							
人間	２単位	秋学期	月曜日	３時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

私たちの人間関係は社会の変化とともに大きく姿を変えてゆきます。戦後の高度経済成長とともに、その希薄化が長い間指摘されてきました。このゼミでは社会の変化と人間関係をテーマに、今後の関係構築、関係形成、善き社会のあり方について考察してゆきます。そのさい、特定の領域に絞り実証的に調査をしつつ、問題に迫るアプローチをとります。なお、設定すべき課題、テーマの進行具合に応じて柔軟に計画を変更します。秋期は合同ゼミを実施する予定です。

授業の到達目標

生活の個人化と関係の再生という社会に横たわる大きなテーマについて理解を深める。

成績評価方法

グループ課題、討論、個別課題、出席状況などで総合的に評価します。

備考・関連ＵＲＬ

3、4限の時間を使って授業を実施することがあるので、両時間帯とも空けておいてください。

科 目 名	「関係を生きる人間」論ゼミ（社会の変化と人間関係）（秋学期） B 社会の変化と人間関係							
担当者名	石田 光規							
人間	２単位	秋学期	月曜日	４時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

私たちの人間関係は社会の変化とともに大きく姿を変えてゆきます。戦後の高度経済成長とともに、その希薄化が長い間指摘されてきました。このゼミでは社会の変化と人間関係をテーマに、今後の関係構築、関係形成、善き社会のあり方について考察してゆきます。そのさい、特定の領域に絞り実証的に調査をしつつ、問題に迫るアプローチをとります。

授業の到達目標

生活の個人化と関係の再生という社会に横たわる大きなテーマについて理解を深める。

成績評価方法

個別の報告、グループ課題、議論への参加、出席状況を総合的に評価する。

備考・関連ＵＲＬ

3、4限の時間を使って授業を実施することがあるので、両時間帯とも空けておいてください。
4年生は5限まで指導を延長することがあります。なるべく当該の時間帯は空けてください。関係を生きる人間論プログラムで合同ゼミを実施する予定です。詳細はゼミ内で説明します。

科 目 名	「心身を生きる人間」論ゼミ（心身論）（春学期） A 心理学から学ぶウェルビーイング（健康と幸福）							
担当者名	宮田 裕光							
人間	２単位	春学期	金曜日	４時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

（1）ゼミの概要

現代においては、SNSによるコミュニケーションやAI（人工知能）、ビッグデータ、ICT、IoT などの情報技術が発達し、私たちを取り巻く人間関係や社会との関わり方が多様な変容を遂げていますが、私たちはやはり生身の身体を持ち、それに影響される存在です。心の健康や幸福感、マインドフルネスや心理療法などをめぐる心の問題への関心の高まりにもみられるように、心身から人間を捉える試みは、むしろますます重要性を増しているといえます。こうした観点からこのゼミでは、心理学や脳神経科学といった心を探求する学問を学び、人間の心身のさまざまなあり方を研究します。またそれらと並行して、主に東洋の身体的な実践や思想も参照し、統合的で調和した「心身一如」の人間理解について考察します。

（2）ゼミで扱うテーマ

現代の私たち自身の諸問題から、哲学的な人間の問題まで、幅広い内容が含まれます。これまでのゼミで扱ったテーマの具体例として、表情、幸福感、ストレス、笑い、SNS、読書、ヨガ、マインドフルネス、武道、禅、トラウマ治療、東洋医学などがあります。これら以外にも、自分自身の生活体験や他者、社会との関わりを含めて、現代を生きる人間の心や身体の多様なあ

り方に興味があれば、自身の関心を手掛かりに学びを進め、興味を拡げていくことができるでしょう。
（3）ゼミ活動について
3年生では、基本となる文献を講読したうえで、グループで心理学の実際の研究を体験します。また、日本語ないし英語での論文講読や、表計算・統計ソフトなどの活用に馴染めるよう、基礎から要点を学習します。また授業内で、身体的実践のいくつかを、事前経験を問わず実際に体験する機会を設けます。それらを通して、心身に関する実践的理解を深めるとともに、ゼミ生相互の親睦を図っていきます。

授業の到達目標

（1）心と身体に関する心理学や実践についての理解を深める。
（2）それらの主題についてのみずからの関心と着眼点を明確化し、調査、研究を計画立案できるようになる。
（3）研究に必要な論文、書籍等の文献を検索できるようになる。
（4）論文執筆と資料作成、プレゼンテーションにより、各自が学んだ内容とみずからの考えを的確に伝えられるようになる。

成績評価方法

各自の発表での作成資料とプレゼンテーション、およびゼミ参加と研究活動に対する受講態度を総合的に評価します（100%）。
授業実施回の2/3以上の出席を成績評価の前提とします。

備考・関連URL

本ゼミの履修希望者は、ゼミ教員の担当科目である講義「心身論」（春学期）、講義「生活世界と身体」（秋学期）、現代人間論系演習（心身の健康と幸福）（春学期）、現代人間論系演習（身体の実践と科学）（秋学期）をできるだけ受講し、心身論の基本的な考え方を理解しておくことが望まれます。また、心理学関連分野の知識、技術を補完するため、以下の科目の履修を推奨します。
講義（ブリッジ科目）：「心理学概論1, 2」「心理統計学1, 2」「現代人の身体」「認知科学」「神経心理学」「臨床心理学」「学習心理学」など
現代人間論系演習：「ボディワークの理論と実践」「心をしらべる・心理学実験」「ケーススタディの方法」「調査データ　収集・分析の手法」「自己形成と無我」など
研究室HP：https://miyata-lab.labby.jp/
教員紹介： http://www.waseda.jp/gendainingen/miyata.html
https://www.wasedapsychology.jp/teacher.html

科 目 名	「心身を生きる人間」論ゼミ（心身論）（春学期） B　心理学から学ぶウェルビーイング（健康と幸福）							
担当者名	宮田　裕光							
人間	2単位	春学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

（1）ゼミの概要
現代においては、SNSによるコミュニケーションやAI（人工知能）、ビッグデータ、ICT、IoT などの情報技術が発達し、私たちを取り巻く人間関係や社会との関わり方が多様な変容を遂げていますが、私たちはやはり生身の身体を持ち、それに影響される存在です。心の健康や幸福感、マインドフルネスや心理療法などをめぐる心の問題への関心の高まりにもみられるように、心身から人間を捉える試みは、むしろますます重要性を増しているといえます。こうした観点からこのゼミでは、心理学や脳神経科学といった心を探求する学問を学び、人間の心身のさまざまなあり方を研究します。またそれらと並行して、主に東洋の身体的な実践や思想も参照し、統合的で調和した「心身一如」の人間理解について考察します。
（2）ゼミで扱うテーマ
現代の私たち自身の諸問題から、哲学的な人間の問題まで、幅広い内容が含まれます。これまでのゼミで扱ったテーマの具体例として、表情、幸福感、ストレス、笑い、SNS、読書、ヨガ、マインドフルネス、武道、禅、トラウマ治療、東洋医学などがあります。これら以外にも、自分自身の生活体験や他者、社会との関わりを含めて、現代を生きる人間の心や身体の多様なあり方に興味があれば、自身の関心を手掛かりに学びを進め、興味を拡げていくことができるでしょう。
（3）ゼミ活動について
4年生では、3年生までの学習を踏まえて、各自のゼミ論文に取り組みます。ゼミ論文は、ゼミでの学びのまとめや文献を踏まえた論考や、心理学の調査、実験に基づくものを含め、可能な限り各自の関心を反映させる方針で指導します。また授業内で、身体的実践のいくつかを、事前経験を問わず実際に体験する機会を設けます。それらを通して、心身に関する実践的理解を促すとともに、ゼミ生相互の親睦を図っていきます。

授業の到達目標

（1）心と身体に関する心理学や実践についての理解を深める。
（2）それらの主題についてのみずからの関心と着眼点を明確化し、調査、研究を計画立案できるようになる。
（3）研究に必要な論文、書籍等の文献を検索できるようになる。
（4）論文執筆と資料作成、プレゼンテーションにより、各自が学んだ内容とみずからの考えを的確に伝えられるようになる。

成績評価方法

各自の発表での作成資料とプレゼンテーション、およびゼミ参加と研究活動に対する受講態度を総合的に評価します（100%）。
授業実施回の2/3以上の出席を成績評価の前提とします。

備考・関連URL

本ゼミの履修希望者は、ゼミ教員の担当科目である講義「心身論」（春学期）、講義「生活世界と身体」（秋学期）、現代人間論系演習（心身の健康と幸福）（春学期）、現代人間論系演習（身体の実践と科学）（秋学期）をできるだけ受講し、心身論の基本的な考え方を理解しておくことが望まれます。また、心理学関連分野の知識、技術を補完するため、以下の科目の履修を推奨します。
講義（ブリッジ科目）：「心理学概論1, 2」「心理統計学1, 2」「現代人の身体」「認知科学」「神経心理学」「臨床心理学」「学習心理学」など
現代人間論系演習：「ボディワークの理論と実践」「心をしらべる・心理学実験」「ケーススタディの方法」「調査データ　収集・

分析の手法」「自己形成と無我」など
研究室HP：https://miyata-lab.labby.jp/
教員紹介： http://www.waseda.jp/gendainingen/miyata.html
https://www.wasedapsychology.jp/teacher.html

科 目 名	「心身を生きる人間」論ゼミ（心身論）（秋学期） A 心理学から学ぶウェルビーイング（健康と幸福）							
担当者名	宮田 裕光							
人間	2単位	秋学期	金曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

（1）ゼミの概要

現代においては、SNSによるコミュニケーションやAI（人工知能）、ビッグデータ、ICT、IoT などの情報技術が発達し、私たちを取り巻く人間関係や社会との関わり方が多様な変容を遂げていますが、私たちはやはり生身の身体を持ち、それに影響される存在です。心の健康や幸福感、マインドフルネスや心理療法などをめぐる心の問題への関心の高まりにもみられるように、心身から人間を捉える試みは、むしろますます重要性を増しているといえます。こうした観点からこのゼミでは、心理学や脳神経科学といった心を探求する学問を学び、人間の心身のさまざまなあり方を研究します。またそれらと並行して、主に東洋の身体的な実践や思想も参照し、統合的で調和した「心身一如」の人間理解について考察します。

（2）ゼミで扱うテーマ

現代の私たち自身の諸問題から、哲学的な人間の問題まで、幅広い内容が含まれます。これまでのゼミで扱ったテーマの具体例として、表情、幸福感、ストレス、笑い、SNS、読書、ヨガ、マインドフルネス、武道、禅、トラウマ治療、東洋医学などがあります。これら以外にも、自分自身の生活体験や他者、社会との関わりを含めて、現代を生きる人間の心や身体の多様なあり方に興味があれば、自身の関心を手掛かりに学びを進め、興味を拡げていくことができるでしょう。

（3）ゼミ活動について

3年生では、基本となる文献を講読したうえで、グループで心理学の実際の研究を体験します。また、日本語ないし英語での論文講読や、表計算・統計ソフトなどの活用に馴染めるよう、基礎から要点を学習します。また授業内で、身体的実践のいくつかを、事前経験を問わず実際に体験する機会を設けます。それらを通して、心身に関する実践的理解を深めるとともに、ゼミ生相互の親睦を図っていきます。

授業の到達目標

（1）心と身体に関する心理学や実践についての理解を深める。
（2）それらの主題についてのみずからの関心と着眼点を明確化し、調査、研究を計画立案できるようになる。
（3）研究に必要な論文、書籍等の文献を検索できるようになる。
（4）論文執筆と資料作成、プレゼンテーションにより、各自が学んだ内容とみずからの考えを的確に伝えられるようになる。

成績評価方法

各自の発表での作成資料とプレゼンテーション、およびゼミ参加と研究活動に対する受講態度を総合的に評価します（100%）。

授業実施回の2/3以上の出席を成績評価の前提とします。

備考・関連URL

本ゼミの履修希望者は、ゼミ教員の担当科目である講義「心身論」（春学期）、講義「生活世界と身体」（秋学期）、現代人間論系演習（心身の健康と幸福）（春学期）、現代人間論系演習（身体の実践と科学）（秋学期）をできるだけ受講し、心身論の基本的な考え方を理解しておくことが望まれます。また、心理学関連分野の知識、技術を補完するため、以下の科目の履修を推奨します。

講義（ブリッジ科目）：「心理学概論1, 2」「心理統計学1, 2」「現代人の身体」「認知科学」「神経心理学」「臨床心理学」「学習心理学」など

現代人間論系演習：「ボディワークの理論と実践」「心をしらべる・心理学実験」「ケーススタディの方法」「調査データ　収集・分析の手法」「自己形成と無我」など

研究室HP：https://miyata-lab.labby.jp/
教員紹介： http://www.waseda.jp/gendainingen/miyata.html
https://www.wasedapsychology.jp/teacher.html

科 目 名	「心身を生きる人間」論ゼミ（心身論）（秋学期） B 心理学から学ぶウェルビーイング（健康と幸福）							
担当者名	宮田 裕光							
人間	2単位	秋学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

（1）ゼミの概要

現代においては、SNSによるコミュニケーションやAI（人工知能）、ビッグデータ、ICT、IoT などの情報技術が発達し、私たちを取り巻く人間関係や社会との関わり方が多様な変容を遂げていますが、私たちはやはり生身の身体を持ち、それに影響される存在です。心の健康や幸福感、マインドフルネスや心理療法などをめぐる心の問題への関心の高まりにもみられるように、心身から人間を捉える試みは、むしろますます重要性を増しているといえます。こうした観点からこのゼミでは、心理学や脳神経科学といった心を探求する学問を学び、人間の心身のさまざまなあり方を研究します。またそれらと並行して、主に東洋の身体的な実践や思想も参照し、統合的で調和した「心身一如」の人間理解について考察します。

（2）ゼミで扱うテーマ

現代の私たち自身の諸問題から、哲学的な人間の問題まで、幅広い内容が含まれます。これまでのゼミで扱ったテーマの具体例として、表情、幸福感、ストレス、笑い、SNS、読書、ヨガ、マインドフルネス、武道、禅、トラウマ治療、東洋医学などがあります。これら以外にも、自分自身の生活体験や他者、社会との関わりを含めて、現代を生きる人間の心や身体の多様なあり方に興味があれば、自身の関心を手掛かりに学びを進め、興味を拡げていくことができるでしょう。

（3）ゼミ活動について

4年生では、3年生までの学習を踏まえて、各自のゼミ論文に取り組みます。ゼミ論文は、ゼミでの学びのまとめや文献を踏まえた論考や、心理学の調査、実験に基づくものを含め、可能な限り各自の関心を反映させる方針で指導します。また授業内で、身体的実践のいくつかを、事前経験を問わず実際に体験する機会を設けます。それらを通して、心身に関する実践的理解を促すとともに、ゼミ生相互の親睦を図っていきます。

授業の到達目標

（1）心と身体に関する心理学や実践についての理解を深める。
（2）それらの主題についてのみずからの関心と着眼点を明確化し、調査、研究を計画立案できるようになる。
（3）研究に必要な論文、書籍等の文献を検索できるようになる。
（4）論文執筆と資料作成、プレゼンテーションにより、各自が学んだ内容とみずからの考えを的確に伝えられるようになる。

成績評価方法

各自の発表での作成資料とプレゼンテーション、およびゼミ参加と研究活動に対する受講態度を総合的に評価します（100%）。

授業実施回の2/3以上の出席を成績評価の前提とします。

備考・関連ＵＲＬ

本ゼミの履修希望者は、ゼミ教員の担当科目である講義「心身論」（春学期）、講義「生活世界と身体」（秋学期）、現代人間論系演習（心身の健康と幸福）（春学期）、現代人間論系演習（身体の実践と科学）（秋学期）をできるだけ受講し、心身論の基本的な考え方を理解しておくことが望まれます。また、心理学関連分野の知識、技術を補完するため、以下の科目の履修を推奨します。

講義（ブリッジ科目）：「心理学概論1, 2」「心理統計学1, 2」「現代人の身体」「認知科学」「神経心理学」「臨床心理学」「学習心理学」など

現代人間論系演習：「ボディワークの理論と実践」「心をしらべる・心理学実験」「ケーススタディの方法」「調査データ　収集・分析の手法」「自己形成と無我」など

研究室HP：https://miyata-lab.labby.jp/

教員紹介： http://www.waseda.jp/gendainingen/miyata.html
https://www.wasedapsychology.jp/teacher.html

科 目 名	「関係を生きる人間」論ゼミ（子ども・若者文化と居場所）（春学期） A							
担当者名	阿比留　久美							
人間	２単位	春学期	火曜日	２時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

このゼミでは、子ども・若者にかかわる社会の文化的状況やその状況に抗する文化がどのように生成し、展開していっているのかをとらえていきます。そして、多様な角度から子ども・若者の文化に焦点をあてつつ、現代を生きる子ども・若者の「育ち」や居場所、それを支える社会のあり方を考えていくのがこのゼミの内容です。

子ども・若者（にかぎらずあらゆる人々）は現代の社会状況・価値・規範の影響を受けつつ、現代社会の文化のなかを生き、文化をつくって生きています。たとえば「子どもの貧困」「ゆとり世代・さとり世代・Z世代」などの子どもや若者を表象する言葉や、「格差社会」「自立」といった社会の規範や枠組みは、すべて現代社会の影響を受けて生み出された文化の一側面といえますし、その文化を規定し、強化する役割を果たしています。

たとえば、21世紀の現代では未就学児がひとりで家の外で遊ぶことなどは「常識」的に考えられませんが、数十年前までは家の前の路地で小さな子どもが遊ぶことはよくみられる光景でした。そのように、現在わたしたちが「あたりまえ」だと捉えていることは必ずしも普遍的な「あたりまえ」ではありません。また、子どもは秘密基地をつくったり、スマホゲームやyoutubeに熱中したり、LINEやインスタグラムで友だちとつながったりと様々な文化のなかを生きており、子ども・若者の文化的状況はけっして一面的に語ることはできず、多面的で、重層的なものです。子どもの文化を支える大人のありようも、テレビのキャラクターをもちいたおもちゃやお菓子といった消費社会的なものもあれば、それぞれの地域に根ざした文化をつくろうとするNPOや地域組織の活動もあります。

子ども・若者の文化の多面性・重層性に関心をもち、社会や自分のなかの「あたりまえ」を問い直しつつ、子ども・若者はどのような文化を生き、つくっているのか、そもそも子ども・若者が「育つ」ということはどういうことなのか、子ども・若者が生き、育つために社会のどのようなあり方が求められるのかを探求していきます。その際、現代社会を理解していくための視点として、ジェンダーや社会的正義(social justice)の視点をとりいれて考えていく予定です。

そのため、授業では、子ども・若者の文化について①現状を文献によって幅広く把握する、②実際に現地におもむき子ども・若者の生きる場を体感する（フィールドワーク）、③現状を分析するための道具（理論）を身につける、④枠組みをもって分析・探求する、⑤3・4年生合同ゼミ、他ゼミとの合同ゼミによって多様なものの見方・考え方にふれていくことをおこなっていきます。

また、自治的にゼミを運営していくことも目指していますので、積極的にゼミの運営や活動にかかわっていってください。

方法論としては、教育学、福祉学、社会学などの方法論を柔軟に採用しつつ授業を実施していきます。

文献検討をして、3年生・4年生合同グループ発表、文献をベースとした課題別グループ研究を実施する予定です。3、4時間目の両方をあけておくようにしてください。

授業の到達目標

①子ども・若者の文化の多面性・重層性への関心を高める。
②子ども・若者はどのような文化を生き、つくっているのか、実際の状況を把握する。
③そもそも子ども・若者が「育つ」、「生きる」ということはどういうことなのかといった根源的問題を深く考えられるようになる。
④社会や自分のなかの「あたりまえ」を問い直し、求められる社会のあり方を自分なりに構想できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　おこないません
●**レポート**　20%　　学期末に自分の問題関心についてまとめていただきます。
●**平常点**　80%　　授業への参加度、文献講読やグループ報告、研究（計画）報告での内容をもとに評価します

●**その他**　0%　　ありません

科 目 名	「関係を生きる人間」論ゼミ（子ども・若者文化と居場所）（春学期） B 文化・教育・福祉を架橋して子ども・若者の「育ち」を考える							
担当者名	阿比留　久美							
人間	2単位	春学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

このゼミでは、子ども・若者にかかわる社会の文化的状況やその状況に抗する文化がどのように生成し、展開していっているのかをとらえていきます。そして、多様な角度から子ども・若者の文化に焦点をあてつつ、現代を生きる子ども・若者の「育ち」や居場所、それを支える社会のあり方を考えていくのがこのゼミの内容です。

子ども・若者（にかぎらずあらゆる人々）は現代の社会状況・価値・規範の影響を受けつつ、現代社会の文化のなかを生き、文化をつくって生きています。たとえば「子どもの貧困」「ゆとり世代・さとり世代・Z世代」などの子どもや若者を表象する言葉や、「格差社会」「自立」といった社会の規範や枠組みは、すべて現代社会の影響を受けて生み出された文化の一側面といえますし、その文化を規定し、強化する役割を果たしています。

たとえば、21世紀の現代では未就学児がひとりで家の外で遊ぶことなどは「常識」的に考えられませんが、数十年前までは家の前の路地で小さな子どもが遊ぶことはよくみられる光景でした。そのように、現在わたしたちが「あたりまえ」だと捉えていることは必ずしも普遍的な「あたりまえ」ではありません。また、子どもは秘密基地をつくったり、スマホゲームやyoutubeに熱中したり、LINEやインスタグラムで友だちとつながったりと様々な文化のなかを生きており、子ども・若者の文化的状況はけっして一面的に語ることはできず、多面的で、重層的なものです。子どもの文化を支える大人のありようも、テレビのキャラクターをもちいたおもちゃやお菓子といった消費社会的なものもあれば、それぞれの地域に根ざした文化をつくろうとするNPOや地域組織の活動もあります。

子ども・若者の文化の多面性・重層性に関心をもち、社会や自分のなかの「あたりまえ」を問い直しつつ、子ども・若者はどのような文化を生き、つくっているのか、そもそも子ども・若者が「育つ」ということはどういうことなのか、子ども・若者が生き、育つために社会のどのようなあり方が求められるのかを探求していきます。その際、現代社会を理解していくための視点として、ジェンダーや社会的正義(social justice)の視点をとりいれて考えていく予定です。

そのため、授業では、子ども・若者の文化について①現状を文献によって幅広く把握する、②実際に現地におもむき子ども・若者の生きる場を体感する（フィールドワーク）、③現状を分析するための道具（理論）を身につける、④枠組みをもって分析・探求する、⑤3・4年生合同ゼミ、他ゼミとの合同ゼミによって多様なものの見方・考え方にふれていくことをおこなっていきます。

また、自治的にゼミを運営していくことも目指していますので、積極的にゼミの運営や活動にかかわっていってください。

方法論としては、教育学、福祉学、社会学などの方法論を柔軟に採用しつつ授業を実施していきます。

文献検討をして、3年生・4年生合同グループ発表、文献をベースとした課題別グループ研究を実施する予定です。3、4時間目の両方をあけておくようにしてください。

授業の到達目標

①子ども・若者の文化の多面性・重層性への関心を高める。

②子ども・若者はどのような文化を生き、つくっているのか、実際の状況を把握する。

③そもそも子ども・若者が「育つ」、「生きる」ということはどういうことなのかといった根源的問題を深く考えられるようになる。

④社会や自分のなかの「あたりまえ」を問い直し、求められる社会のあり方を自分なりに構想できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しません
●**レポート**　0%　　実施しません
●**平常点**　50%　　授業への参加度をもとに評価します
●**その他**　50%　　ゼミ論構想発表およびグループ発表の内容をもとに評価します

科 目 名	「関係を生きる人間」論ゼミ（子ども・若者文化と居場所）（秋学期） A 文化・教育・福祉を架橋して子ども・若者の「育ち」を考える							
担当者名	阿比留　久美							
人間	2単位	秋学期	火曜日	2時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

このゼミでは、子ども・若者にかかわる社会の文化的状況やその状況に抗する文化がどのように生成し、展開していっているのかをとらえていきます。そして、多様な角度から子ども・若者の文化に焦点をあてつつ、現代を生きる子ども・若者の「育ち」や居場所、それを支える社会のあり方を考えていくのがこのゼミの内容です。

子ども・若者（にかぎらずあらゆる人々）は現代の社会状況・価値・規範の影響を受けつつ、現代社会の文化のなかを生き、文化をつくって生きています。たとえば「子どもの貧困」「ゆとり世代・さとり世代・Z世代」などの子どもや若者を表象する言葉や、「格差社会」「自立」といった社会の規範や枠組みは、すべて現代社会の影響を受けて生み出された文化の一側面といえますし、その文化を規定し、強化する役割を果たしています。

たとえば、21世紀の現代では未就学児がひとりで家の外で遊ぶことなどは「常識」的に考えられませんが、数十年前までは家の前の路地で小さな子どもが遊ぶことはよくみられる光景でした。そのように、現在わたしたちが「あたりまえ」だと捉えていることは必ずしも普遍的な「あたりまえ」ではありません。また、子どもは秘密基地をつくったり、スマホゲームやyoutubeに熱中したり、LINEやインスタグラムで友だちとつながったりと様々な文化のなかを生きており、子ども・若者の文化的状況はけっして一面的に語ることはできず、多面的で、重層的なものです。子どもの文化を支える大人のありようも、テレビのキャラクターをもちいたおもちゃやお菓子といった消費社会的なものもあれば、それぞれの地域に根ざした文化をつくろうとするNPOや地域組織の活動もあります。

子ども・若者の文化の多面性・重層性に関心をもち、社会や自分のなかの「あたりまえ」を問い直しつつ、子ども・若者はどのような文化を生き、つくっているのか、そもそも子ども・若者が「育つ」ということはどういうことなのか、子ども・若者が生き、育つために社会のどのようなあり方が求められるのかを探求していきます。その際、現代社会を理解していくための視点

として、ジェンダーや社会的正義(social justice)の視点をとりいれて考えていく予定です。
そのため、授業では、子ども・若者の文化について①現状を文献によって幅広く把握する、②実際に現地におもむき子ども・若者の生きる場を体感する（フィールドワーク）、③現状を分析するための道具（理論）を身につける、④枠組みをもって分析・探求する、⑤3・4年生合同ゼミ、他ゼミとの合同ゼミによって多様なものの見方・考え方にふれていくことをおこなっていきます。
また、自治的にゼミを運営していくことも目指していますので、積極的にゼミの運営や活動にかかわっていってください。
方法論としては、教育学、福祉学、社会学などの方法論を柔軟に採用しつつ授業を実施していきます。
文献検討をして、3年生・4年生合同グループ発表、文献をベースとした課題別グループ研究を実施する予定です。3、4時間目の両方をあけておくようにしてください。

授業の到達目標

①子ども・若者の文化の多面性・重層性への関心を高める。
②子ども・若者はどのような文化を生き、つくっているのか、実際の状況を把握する。
③そもそも子ども・若者が「育つ」、「生きる」ということはどういうことなのかといった根源的問題を深く考えられるようになる。
④社会や自分のなかの「あたりまえ」を問い直し、求められる社会のあり方を自分なりに構想できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しません
●**レポート**　30%　　個人レポートあるいはグループ論文を執筆していただきます
●**平常点**　70%　　授業への参加度、個人発表での内容をもとに評価します。
●**その他**　0%　　特にありません

科 目 名	「関係を生きる人間」論ゼミ（子ども・若者文化と居場所）（秋学期） B 文化・教育・福祉を架橋して子ども・若者の「育ち」を考える							
担当者名	阿比留　久美							
人間	２単位	秋学期	火曜日	３時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

このゼミでは、子ども・若者にかかわる社会の文化的状況やその状況に抗する文化がどのように生成し、展開していっているのかをとらえていきます。そして、多様な角度から子ども・若者の文化に焦点をあてつつ、現代を生きる子ども・若者の「育ち」や居場所、それを支える社会のあり方を考えていくのがこのゼミの内容です。
子ども・若者（にかぎらずあらゆる人々）は現代の社会状況・価値・規範の影響を受けつつ、現代社会の文化のなかを生き、文化をつくって生きています。たとえば「子どもの貧困」「ゆとり世代・さとり世代・Z世代」などの子どもや若者を表象する言葉や、「格差社会」「自立」といった社会の規範や枠組みは、すべて現代社会の影響を受けて生み出された文化の一側面といえますし、その文化を規定し、強化する役割を果たしています。
たとえば、21世紀の現代では未就学児がひとりで家の外で遊ぶことなどは「常識」的に考えられませんが、数十年前までは家の前の路地で小さな子どもが遊ぶことはよくみられる光景でした。そのように、現在わたしたちが「あたりまえ」だと捉えていることは必ずしも普遍的な「あたりまえ」ではありません。また、子どもは秘密基地をつくったり、スマホゲームやyoutubeに熱中したり、LINEやインスタグラムで友だちとつながったりと様々な文化のなかを生きており、子ども・若者の文化的状況はけっして一面的に語ることはできず、多面的で、重層的なものです。子どもの文化を支える大人のありようも、テレビのキャラクターをもちいたおもちゃやお菓子といった消費社会的なものもあれば、それぞれの地域に根ざした文化をつくろうとするNPOや地域組織の活動もあります。
子ども・若者の文化の多面性・重層性に関心をもち、社会や自分のなかの「あたりまえ」を問い直しつつ、子ども・若者はどのような文化を生き、つくっているのか、そもそも子ども・若者が「育つ」ということはどういうことなのか、子ども・若者が生き、育つために社会のどのようなあり方が求められるのかを探求していきます。その際、現代社会を理解していくための視点として、ジェンダーや社会的正義(social justice)の視点をとりいれて考えていく予定です。
そのため、授業では、子ども・若者の文化について①現状を文献によって幅広く把握する、②実際に現地におもむき子ども・若者の生きる場を体感する（フィールドワーク）、③現状を分析するための道具（理論）を身につける、④枠組みをもって分析・探求する、⑤3・4年生合同ゼミ、他ゼミとの合同ゼミによって多様なものの見方・考え方にふれていくことをおこなっていきます。
また、自治的にゼミを運営していくことも目指していますので、積極的にゼミの運営や活動にかかわっていってください。
方法論としては、教育学、福祉学、社会学などの方法論を柔軟に採用しつつ授業を実施していきます。
文献検討をして、3年生・4年生合同グループ発表、文献をベースとした課題別グループ研究を実施する予定です。3、4時間目の両方をあけておくようにしてください。

授業の到達目標

①子ども・若者の文化の多面性・重層性への関心を高める。
②子ども・若者はどのような文化を生き、つくっているのか、実際の状況を把握する。
③そもそも子ども・若者が「育つ」、「生きる」ということはどういうことなのかといった根源的問題を深く考えられるようになる。
④社会や自分のなかの「あたりまえ」を問い直し、求められる社会のあり方を自分なりに構想できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しません
●**レポート**　50%　　ゼミ論を執筆していただきます
●**平常点**　50%　　授業への参加度、個人発表での内容をもとに評価します。
●**その他**　0%　　特にありません

科 目 名	「関係を生きる人間」論ゼミ（高齢社会の生と死）（春学期） A 高齢社会に必要な生き方と、高齢社会に隣り合う死の問題							
担当者名	久保田　治助							
人間	２単位	春学期	木曜日	３時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

このゼミでは、高齢社会における老いと高齢者の生き方、青年や若者、高齢者など様々な人の死と健康について考えることを目的としています。

すでに超高齢社会に突入している日本では、大都市圏や地方都市だけでなく、限界集落や様々な地域で高齢者率の増加は加速しています。この高齢化の問題は日本だけではなく、先進国や経済発展途上の国でも進んでいる状況にあり、これからの高齢社会をどのように対応するのか、社会保障だけでなく、企業や政治制度、「老害」と呼ばれるような世代間問題など多くの課題が山積しています。

さらに、今日の社会的問題となっている生と死に感する問題も取り上げます。生と死の問題は高齢者だけではなく、様々な人が直面します。たとえば、若者の自殺や老化による死、病死、孤独死、戦争や暴力による他者からの死など、死はすべての人が関わる問題です。これらの死について、これまでどのように考えられてきたのかの歴史的・思想的な考えや、どのような対策や対応が取られてきたのかの政治制度、そして現状ではどのような実践や政策、ボランティア支援など行われているのかなど、具体的な事例や実践をできる限り触れながら自分ごととして捉えながら深めます。

これからの社会をどのようにすれば良いのかを、現状分析や歴史、思想など様々観点で検討します。**＊社会教育学が中心となっており、アクションリサーチを中心として、直接実践に関わります。そのため、授業以外にも課外活動が多くなります。**

＊授業は木曜3限ですが、木曜4限の授業も合同で行うことがあるので、木曜4限を空けることが重要である。

授業の到達目標

・少子高齢社会の現代的課題について関心を高める
・生と死についての多用的側面を理解する
・少子高齢社会の問題について、どのように対応してゆけば良いのかについての政策・活動・組織化について考える
・地域福祉が広がってゆくために、多くの人たちが参加・参画するための手立てを考えることができるようになる

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない
●**レポート**　30%　　グループでレポートを作成
●**平常点**　70%　　授業の参加度、個人発表の内容で評価
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	「関係を生きる人間」論ゼミ（高齢社会の生と死）（春学期） B 高齢社会に必要な生き方と、高齢社会に隣り合う死の問題							
担当者名	久保田　治助							
人間	２単位	春学期	木曜日	４時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

このゼミでは、高齢社会における老いと高齢者の生き方、青年や若者、高齢者など様々な人の死と健康について考えることを目的としています。 特に、4年生を対象としたゼミです。

すでに超高齢社会に突入している日本では、大都市圏や地方都市だけでなく、限界集落や様々な地域で高齢者率の増加は加速しています。この高齢化の問題は日本だけではなく、先進国や経済発展途上の国でも進んでいる状況にあり、これからの高齢社会をどのように対応するのか、社会保障だけでなく、企業や政治制度、「老害」と呼ばれるような世代間問題など多くの課題が山積しています。

さらに、今日の社会的問題となっている生と死に感する問題も取り上げます。生と死の問題は高齢者だけではなく、様々な人が直面します。たとえば、若者の自殺や老化による死、病死、孤独死、戦争や暴力による他者からの死など、死はすべての人が関わる問題です。これらの死について、これまでどのように考えられてきたのかの歴史的・思想的な考えや、どのような対策や対応が取られてきたのかの政治制度、そして現状ではどのような実践や政策、ボランティア支援など行われているのかなど、具体的な事例や実践をできる限り触れながら自分ごととして捉えながら深めます。

これからの社会をどのようにすれば良いのかを、現状分析や歴史、思想など様々観点で検討します。

＊社会教育学が中心となっており、アクションリサーチを中心として、直接実践に関わります。そのため、授業以外にも課外活動が多くなります。

＊授業は木曜4限ですが、木曜3限の授業も合同で行うことがあるので、木曜3限を空けることが重要である。

授業の到達目標

・少子高齢社会の現代的課題について関心を高める
・生と死についての多用的側面を理解する
・少子高齢社会の問題について、どのように対応してゆけば良いのかについての政策・活動・組織化について考える
・地域福祉が広がってゆくために、多くの人たちが参加・参画するための手立てを考えることができるようになる

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない
●**レポート**　30%　　グループでレポートを作成
●**平常点**　70%　　授業の参加度、個人発表の内容で評価
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	「関係を生きる人間」論ゼミ（高齢社会の生と死）（秋学期） A 高齢社会に必要な生き方と、高齢社会に隣り合う死の問題							
担当者名	久保田　治助							
人間	２単位	秋学期	木曜日	３時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

このゼミでは、高齢社会における老いと高齢者の生き方、青年や若者、高齢者など様々な人の死と健康について考えることを

目的としています。
すでに超高齢社会に突入している日本では、大都市圏や地方都市だけでなく、限界集落や様々な地域で高齢者率の増加は加速しています。この高齢化の問題は日本だけではなく、先進国や経済発展途上の国でも進んでいる状況にあり、これからの高齢社会をどのように対応するのか、社会保障だけでなく、企業や政治制度、「老害」と呼ばれるような世代間問題など多くの課題が山積しています。
さらに、今日の社会的問題となっている生と死に感する問題も取り上げます。生と死の問題は高齢者だけではなく、様々な人が直面します。たとえば、若者の自殺や老化による死、病死、孤独死、戦争や暴力による他者からの死など、死はすべての人が関わる問題です。これらの死について、これまでどのように考えられてきたのかの歴史的・思想的な考えや、どのような対策や対応が取られてきたのかの政治制度、そして現状ではどのような実践や政策、ボランティア支援など行われているのかなど、具体的な事例や実践をできる限り触れながら自分ごととして捉えながら深めます。
これからの社会をどのようにすれば良いのかを、現状分析や歴史、思想など様々観点で検討します。**＊社会教育学が中心となっており、アクションリサーチを中心として、直接実践に関わります。そのため、授業以外にも課外活動が多くなります。**
＊授業は木曜3限ですが、木曜4限の授業も合同で行うことがあるので、木曜4限を空けることが重要である。

授業の到達目標
・少子高齢社会の現代的課題について関心を高める
・生と死についての多用的側面を理解する
・少子高齢社会の問題について、どのように対応してゆけば良いのかについての政策・活動・組織化について考える
・地域福祉が広がってゆくために、多くの人たちが参加・参画するための手立てを考えることができるようになる

成績評価方法
●**試験** 0%　試験は実施しない
●**レポート** 30%　グループでレポートを作成
●**平常点** 70%　授業の参加度、個人発表の内容で評価
●**その他** 0%　特になし

科 目 名	「関係を生きる人間」論ゼミ（高齢社会の生と死）（秋学期） B 高齢社会に必要な生き方と、高齢社会に隣り合う死の問題							
担当者名	久保田　治助							
人間	２単位	秋学期	木曜日	４時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要
このゼミでは、高齢社会における老いと高齢者の生き方、青年や若者、高齢者など様々な人の死と健康について考えることを目的としています。 特に、4年生を対象としたゼミです。
すでに超高齢社会に突入している日本では、大都市圏や地方都市だけでなく、限界集落や様々な地域で高齢者率の増加は加速しています。この高齢化の問題は日本だけではなく、先進国や経済発展途上の国でも進んでいる状況にあり、これからの高齢社会をどのように対応するのか、社会保障だけでなく、企業や政治制度、「老害」と呼ばれるような世代間問題など多くの課題が山積しています。
さらに、今日の社会的問題となっている生と死に感する問題も取り上げます。生と死の問題は高齢者だけではなく、様々な人が直面します。たとえば、若者の自殺や老化による死、病死、孤独死、戦争や暴力による他者からの死など、死はすべての人が関わる問題です。これらの死について、これまでどのように考えられてきたのかの歴史的・思想的な考えや、どのような対策や対応が取られてきたのかの政治制度、そして現状ではどのような実践や政策、ボランティア支援など行われているのかなど、具体的な事例や実践をできる限り触れながら自分ごととして捉えながら深めます。
これからの社会をどのようにすれば良いのかを、現状分析や歴史、思想など様々観点で検討します。
＊社会教育学が中心となっており、アクションリサーチを中心として、直接実践に関わります。そのため、授業以外にも課外活動が多くなります。
＊授業は木曜4限ですが、木曜3限の授業も合同で行うことがあるので、木曜3限を空けることが重要である。

授業の到達目標
・少子高齢社会の現代的課題について関心を高める
・生と死についての多用的側面を理解する
・少子高齢社会の問題について、どのように対応してゆけば良いのかについての政策・活動・組織化について考える
・地域福祉が広がってゆくために、多くの人たちが参加・参画するための手立てを考えることができるようになる

成績評価方法
●**試験** 0%　試験は実施しない
●**レポート** 30%　グループでレポートを作成
●**平常点** 70%　授業の参加度、個人発表の内容で評価
●**その他** 0%　特になし

科 目 名	「心身を生きる人間」論ゼミ（科学技術と社会）（春学期） A 人々は科学技術をどのように受け入れるのか							
担当者名	谷辺　哲史							
人間	２単位	春学期	火曜日	４時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要
情報科学、生命科学などのさまざまな科学技術の発達は、いつの時代も人々の生活に変化をもたらしてきた。新たな技術は私たちの生活の質を向上させてくれる一方で、予期せぬ問題を引き起こすこともある。近年は、研究開発の段階から法的・倫理的・社会的な観点を取り入れ、社会に受容されるような科学研究を進めるべきだという議論も行われている。このゼミでは主に社会心理学の手法を用いて、科学技術と社会の関係を、人々の認知という観点から議論する。
ゼミで題材として取り上げる科学技術は、人工知能、ロボット、臓器培養などを想定しているが、受講者の関心に応じて対応する。

授業の到達目標

・科学技術と社会の関係について、自らの関心に応じて問いを設定し、考察を深める。
・設定した問いに取り組むために必要な文献を検索できるようになる。収集した資料を適切にまとめる。
・調査を計画し、データを分析する手法を習得する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　議論への参加、受講態度などによって、授業への貢献を評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	「心身を生きる人間」論ゼミ（科学技術と社会）（春学期） B　人々は科学技術をどのように受け入れるのか							
担当者名	谷辺　哲史							
人間	2単位	春学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

情報科学、生命科学などのさまざまな科学技術の発達は、いつの時代も人々の生活に変化をもたらしてきた。新たな技術は私たちの生活の質を向上させてくれる一方で、予期せぬ問題を引き起こすこともある。近年は、研究開発の段階から法的・倫理的・社会的な観点を取り入れ、社会に受容されるような科学研究を進めるべきだという議論も行われている。このゼミでは主に社会心理学の手法を用いて、科学技術と社会の関係を、人々の認知という観点から議論する。

ゼミで題材として取り上げる科学技術は、人工知能、ロボット、臓器培養などを想定しているが、受講者の関心に応じて対応する。

授業の到達目標

・科学技術と社会の関係について、自らの関心に応じて問いを設定し、考察を深める。
・文献収集や調査、実験などの手法を適切に選択し、自身の設定した問いに答えられるようになる。
・論文執筆とプレゼンテーションによって、研究成果を的確に発信する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　議論への参加、受講態度などによって、授業への貢献を評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	「心身を生きる人間」論ゼミ（科学技術と社会）（秋学期） A　人々は科学技術をどのように受け入れるのか							
担当者名	谷辺　哲史							
人間	2単位	秋学期	火曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

情報科学、生命科学などのさまざまな科学技術の発達は、いつの時代も人々の生活に変化をもたらしてきた。新たな技術は私たちの生活の質を向上させてくれる一方で、予期せぬ問題を引き起こすこともある。近年は、研究開発の段階から法的・倫理的・社会的な観点を取り入れ、社会に受容されるような科学研究を進めるべきだという議論も行われている。このゼミでは主に社会心理学の手法を用いて、科学技術と社会の関係を、人々の認知という観点から議論する。

ゼミで題材として取り上げる科学技術は、人工知能、ロボット、臓器培養などを想定しているが、受講者の関心に応じて対応する。

3年の秋学期はグループに分かれて実際に調査を実施する。調査の立案・実施・データ分析を行い、その成果をプレゼンテーションおよび論文執筆によって報告する。

授業の到達目標

・科学技術と社会の関係について、自らの関心に応じて問いを設定し、考察を深める。
・設定した問いに取り組むために必要な文献を検索できるようになる。収集した資料を適切にまとめる。
・調査を計画し、データを分析する手法を習得する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　議論への参加、受講態度などによって、授業への貢献を評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	「心身を生きる人間」論ゼミ（科学技術と社会）（秋学期） B　人々は科学技術をどのように受け入れるのか							
担当者名	谷辺　哲史							
人間	2単位	秋学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

情報科学、生命科学などのさまざまな科学技術の発達は、いつの時代も人々の生活に変化をもたらしてきた。新たな技術は私たちの生活の質を向上させてくれる一方で、予期せぬ問題を引き起こすこともある。近年は、研究開発の段階から法的・倫理的・社会的な観点を取り入れ、社会に受容されるような科学研究を進めるべきだという議論も行われている。このゼミでは主に社会心理学の手法を用いて、科学技術と社会の関係を、人々の認知という観点から議論する。

ゼミで題材として取り上げる科学技術は、人工知能、ロボット、臓器培養などを想定しているが、受講者の関心に応じて対応する。

授業の到達目標

・科学技術と社会の関係について、自らの関心に応じて問いを設定し、考察を深める。

・文献収集や調査、実験などの手法を適切に選択し、自身の設定した問いに答えられるようになる。
・論文執筆とプレゼンテーションによって、研究成果を的確に発信する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　議論への参加、受講態度などによって、授業への貢献を評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	「発達を生きる人間」論ゼミ（現代人の心理）（春学期）　現代の様々な課題に対し心理学からアプローチする							
担当者名	小塩　真司							
人間	2単位	春学期	火曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

現代人特有の心理的発達とはどのようなものなのだろうか。このゼミでは人びとの心理的個人差（性格・パーソナリティ的側面や認知的側面）を重視しつつ，現代社会を生きる人びとに共通する発達的変化について検討する。発達時期に関しては青年期以降の時期に注目する。

人間の性格にはどのような次元があるのか，どのように把握されるのか，どこにその起源があるのか，どのように変化していくのか，なぜ特定の性格の持ち主が適応・不適応状態に陥るのか。ゼミでは大きくこのような問題意識を持ちつつ，より詳細な個別の問題に取り組みたい。

授業の到達目標

人間の発達に関して理解を深める
必要な文献を検索することができるようになる
適切に各種資料をまとめることができるようになる
調査を計画し実施・分析することができるようになる
これらを通じて，文化構想学部におけるディプロマ・ポリシーにおける「人と情報が地球規模で交流し，文化が複雑に絡まりあい，多面的な様相がみられる時代を生き抜くための幅広い教養」を深める。

成績評価方法

授業内での課題の取り組み方を総合的に判断する（100%）

備考・関連URL

小塩研究室：https://oshio.kinsta.cloud/

科 目 名	「発達を生きる人間」論ゼミ（現代人の心理）（秋学期）　現代の様々な課題に対し心理学的にアプローチする							
担当者名	小塩　真司							
人間	2単位	秋学期	火曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

現代人特有の心理的発達とはどのようなものなのだろうか。このゼミでは人びとの心理的個人差（性格・パーソナリティ的側面や認知的側面）を重視しつつ，現代社会を生きる人びとに共通する発達的変化について検討する。発達時期に関しては青年期以降の時期に注目する。

人間の性格にはどのような次元があるのか，どのように把握されるのか，どこにその起源があるのか，どのように変化していくのか，なぜ特定の性格の持ち主が適応・不適応状態に陥るのか。ゼミでは大きくこのような問題意識を持ちつつ，より詳細な個別の問題に取り組みたい。

秋期ではそれぞれの問題意識に基づき，研究プロジェクトを進めることで人間の発達と個人差を理解する。全授業は対面で行われる。

授業の到達目標

人間の発達に関して理解を深める
必要な文献を検索することができるようになる
適切に各種資料をまとめることができるようになる
調査を計画し、実施・分析することができるようになる
これらを通じて，文化構想学部におけるディプロマ・ポリシーにおける「人と情報が地球規模で交流し，文化が複雑に絡まりあい，多面的な様相がみられる時代を生き抜くための幅広い教養」を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない
●**レポート**　50%　　各自の問題意識に基づき、調査・考察をまとめたレポートを提出する。適切にまとめられているかどうかを評価の対象とする。
●**平常点**　50%　　各個人やグループに割り当てられたテーマに関する発表姿勢やその内容を評価の対象とする。また、授業への積極的態度も評価の対象とする。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

小塩研究室：https://oshio.kinsta.cloud

科 目 名	「発達を生きる人間」論ゼミ（現代人の心の発達）（春学期）　A							
担当者名	石橋　美香子							
人間	2単位	春学期	月曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

実験や行動観察に基づいた研究手法により子どもの発達過程や子どもを取り巻く環境要因の影響を明らかにすることを目指

す。
発達心理学についての専門書を輪読することを通して，発達心理学の研究について理解し，さらには文献収集の仕方，論文の基本的な読み方を学ぶ。各自，担当章の内容についてのレジュメを作成，発表し，全員でディスカッションを行う。

授業の到達目標

発達心理学についての理論や研究方法を学び，卒業研究を行うための知識や技術の習得を目指すとともに，自らの研究テーマの方向性を明確にすることを目標とする。前期の終わりには，自らの研究テーマを明確にし，関連する文献収集・輪読を行う。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　20%　　夏休み中に取り組むレポート（20%）
●**平常点**　80%　　文献講読への取り組みに対する評価（50%），ディスカッションへの参加状況（30%）
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

原則欠席・遅刻は認めない。やむを得ない場合は，必ず担当教員に事前に連絡すること。
質問やディスカッションには積極的に参加し，建設的な意見交換を求める。
・授業時に，研究の進捗状況の報告と研究ノートを提出してください。
・また，文献検索の仕方はゼミでも学びますが，習得後は，各自で文献を集め，その内容をノートにまとめていってください。適宜，確認します。
授業に関する質問はメールにて受け付ける。

科 目 名	「発達を生きる人間」論ゼミ（現代人の心の発達）（春学期） B							
担当者名	石橋　美香子							
人間	２単位	春学期	月曜日	５時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

発達心理学の視点において卒業研究を行うために必要とされる知識および技法の習得をはかることを目的とする。発達心理学の研究方法を概観し，発達心理学の研究方法を詳細に検討する。先行研究（文献）の検索，実験および調査についての計画と実施，収集したデータの統計解析，結果の解釈，考察に必要なスキルを身につける。
卒業研究ならびに卒業論文の執筆を行う。具体的には、各自が興味・関心のある研究テーマを選び、当該テーマに関する先行研究を整理し、問題点や疑問点をまとめる。そして、それらを検討するための調査あるいは実験を心理学の研究方法に則して計画・実施し，得られたデータを分析して考察する。最終的に，研究の目的から結論に至る経過を執筆して卒業論文を完成させる。本授業では，卒業論文作成に関わる一連の過程を各自の進捗状況に合わせて個別に指導する。

授業の到達目標

主に発達心理学の領域における実証的データに基づく卒業論文（問題と目的、方法、結果、考察から構成され，かつ，科学論文としての要件を満たした論文）の作成を行う。
発達心理学の研究方法に関する理解を深め，各自興味・関心のあるテーマを卒業研究に発展させることを到達目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　論文執筆のために必要となる知識および技術をどの程度習得できたかに基づき評価を行う。先行研究の収集やそれに基づく批判的検討（40%）、調査や実験を行うために必要となる技術やデータ分析の習得（30%）、卒業研究に関わるライティングやプレゼンテーション技能の習得（30%）の観点から総合的に評価する。
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

原則欠席・遅刻は認めない。やむを得ない場合は，必ず担当教員に事前に連絡すること。
質問やディスカッションには積極的に参加するし，建設的な意見交換を求める。
・授業時に，研究の進捗状況の報告と研究ノートを提出してください。
・また，文献検索の仕方はゼミでも学びますが，習得後は，各自で文献を集め，その内容をノートにまとめていってください。適宜，確認します。
授業に関する質問はメールにて受け付ける。

科 目 名	「発達を生きる人間」論ゼミ（現代人の心の発達）（秋学期） A							
担当者名	石橋　美香子							
人間	２単位	秋学期	月曜日	４時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

実験や行動観察に基づいた研究手法により子どもの発達過程や子どもを取り巻く環境要因の影響を明らかにすることを目指す。
先行研究を踏まえ，自らの研究テーマについて検討・決定し，研究計画の立案及びデータ収集の準備を行う。各自関心のあるテーマについての先行研究（論文など）を収集し，それをもとにレジュメを作成し，発表し，全員でディスカッションする。

授業の到達目標

発達心理学についての理論や研究方法を学び，卒業研究を行うための知識や技術の習得を目指すとともに，自らの研究テーマの方向性を明確にすることを目標とする。関連する文献収集・輪読を行い，後期の終わりには，目的と具体的な方法を明確にし，データ収集の準備をすることを目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　20%　　冬休み中に取り組むレポート（20%）
●**平常点**　80%　　文献講読への取り組みに対する評価（50%），ディスカッションへの参加状況（30%）

●**その他**　0%

備考・関連URL

原則欠席・遅刻は認めない。やむを得ない場合は，必ず担当教員に事前に連絡すること。
質問やディスカッションには積極的に参加するし，建設的な意見交換を求める。
・授業時に，研究の進捗状況の報告と研究ノートを提出してください。
・また，文献検索の仕方はゼミでも学びますが，習得後は，各自で文献を集め，その内容をノートにまとめていってください。適宜，確認します。
授業に関する質問はメールにて受け付ける。

科 目 名	「発達を生きる人間」論ゼミ（現代人の心の発達）（秋学期） B							
担当者名	石橋　美香子							
人間	2単位	秋学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

発達心理学の視点において卒業研究を行うために必要とされる知識および技法の習得をはかることを目的とする。
発達心理学の研究方法を概観し，発達心理学の研究方法を詳細に検討する。先行研究（文献）の検索，実験および調査についての計画と実施，収集したデータの統計解析，結果の解釈，考察に必要なスキルを身につける。

授業の到達目標

主に発達心理学の領域における実証的データに基づく卒業論文（問題と目的、方法、結果、考察から構成され，かつ，科学論文としての要件を満たした論文）の作成を行う。
発達心理学の研究方法に関する理解を深め，各自興味・関心のあるテーマを卒業研究に発展させることを到達目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　80%　　卒業論文の完成度および発表内容から総合的に評価する：問題と目的(20%)、方法(20%)、結果(20%)、考察(20%)
●**平常点**　20%　　発表内容（20%）
●**その他**　0%

備考・関連URL

原則欠席・遅刻は認めない。やむを得ない場合は，必ず担当教員に事前に連絡すること。
質問やディスカッションには積極的に参加するし，建設的な意見交換を求める。
・授業時に，研究の進捗状況の報告と研究ノートを提出してください。
・また，文献検索の仕方はゼミでも学びますが，習得後は，各自で文献を集め，その内容をノートにまとめていってください。適宜，確認します。
授業に関する質問はメールにて受け付ける。

科 目 名	「多様性を生きる人間」論ゼミ（ディスアビリティと現代）（春学期）							
担当者名	岡部　耕典							
人間	2単位	春学期	金曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

異なる心身と文化をもつ人々が、その差異を毀損されずに生きて働く／参加することのできる社会を構想することがこのゼミのテーマです。障害（インペアメント／ディスアビリティ）だけでなく、ジェンダーやセクシュアリティ、エスニシティなどの多元的・複合的な差異を切り口としつつ、読み／調べ／考え、その実現のために必要なシステム（政策・制度）、家族やコミュニティ、人々の営みや想い（運動・思想・規範）の在り方を検討します。
3年春学期には、文献講読や映像の視聴とディスカッションを通じて、研究をすすめるうえで必要な概念やパースペクティブを身につけます。そこで獲得された問題意識に基づき各人が夏休みに自由研究を行い、秋学期の報告とディスカッションを通じて互いの問題意識と関心領域を交差させることで、領域横断／重層的に学習を進めます。
4年進級前の春休みにゼミ論文の研究・執筆計画案を作成し、4年春学期に練り上げていきます。秋期に執筆したゼミ論文を合評会において吟味し、ゼミ論集及び研究室ホームページに掲載する最終稿を作成します。2年間のゼミでの学びを通じて、まなざすことなく聴き発する問いが〈自足する明晰の世界〉を突き崩し、自らの〈生き方の窓〉をひらくことを期待しています。
キーワード：分配する最少国家と福祉社会、非差別アプローチと障害の社会モデル、ケアの社会化と再分配、依存の絆と自由の平等　など

授業の到達目標

3年次に醸成した各人の問題意識に基づきゼミ論執筆の予備的研究を進め、研究計画を完成させる。

成績評価方法

ゼミ論文計画の作成と予備研究の遂行及び毎回のゼミへの出席及びMoodleフォーラムへの投稿等により総合的に評価する。

備考・関連URL

岡部耕典研究室　https://k-okabe.w.waseda.jp/

科 目 名	「多様性を生きる人間」論ゼミ（ディスアビリティと現代）（秋学期）							
担当者名	岡部　耕典							
人間	2単位	秋学期	金曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

異なる心身と文化をもつ人々が、その差異を毀損されずに生きて働く／参加することのできる社会を構想することがこのゼミのテーマです。障害（インペアメント／ディスアビリティ）だけでなく、ジェンダーやセクシュアリティ、エスニシティなどの多元的・複合的な差異を切り口としつつ、読み／調べ／考え、その実現のために必要なシステム（政策・制度）、家族やコミュ

ニティ、人々の営みや想い（運動・思想・規範）の在り方を検討します。
4年進級前の春休みにゼミ論文の研究・執筆計画案を作成し、4年春学期に練り上げていきます。秋期に執筆したゼミ論文を合評会において吟味し、ゼミ論集及び研究室ホームページに掲載する最終稿を作成します。2年間のゼミでの学びを通じて、まなざすことなく聴き発する問いが〈自足する明晰の世界〉を突き崩し、自らの〈生き方の窓〉をひらくことを期待しています。
キーワード：分配する最少国家と福祉社会、非差別アプローチと障害の社会モデル、ケアの社会化と再分配、依存の絆と自由の平等　など

授業の到達目標
研究計画に基づき着実に研究を進め、ゼミ論を執筆／完成させる。合評会を開催し、ゼミ論集及び研究室ホームページ掲載稿を作成し、2年間のゼミでの学びを完成させる。

成績評価方法
ゼミ論文への取り組み、出席を含むゼミへの参画姿勢、Moodleフォーラムへの投稿等により総合的に評価する。

備考・関連ＵＲＬ
岡部耕典研究室　https://k-okabe.w.waseda.jp/index.html

科 目 名	国家−ダイナミクスゼミ1（日本社会の成り立ちを考える）（春学期）　歴史学から見た日本社会							
担当者名	川尻　秋生							
構築	２単位	春学期	木曜日	５時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要
歴史学的方法を基軸に据えて、日本社会の成り立ち、そしてその特質について、検討すること目的とします。本年度のテーマ（大テーマ）については、ゼミ員との話し合いによって、設定する予定です。手順としては、本年度のゼミの共通テーマを決めてからゼミ員の班分けを行い、各班が大テーマに沿った小テーマを設定します。そして、班ごとに報告していただき、教員・ゼミ員相互が討論を行い、大テーマの理解を深めます。なお、4年生についてはゼミ論の準備報告をし、3年生も報告を聞き討論に参加して、ゼミ論に備えます。グループワークも行います。

授業の到達目標
日本の歴史を通史的にとらえるとともに、各自の関心ある時代・分野についての基本的知識を身につけた上で、さらにゼミ論文に仕上げるための専門的技術・知識を身につけることを目指します。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　出席・発表による。
●**その他**　0%

科 目 名	国家−ダイナミクスゼミ1（日本社会の成り立ちを考える）（秋学期）　歴史学から見た日本社会							
担当者名	川尻　秋生							
構築	２単位	秋学期	木曜日	５時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要
歴史学的方法を基軸に据えて、日本社会の成り立ち、そしてその特質について、検討すること目的とします。本年度のテーマ（大テーマ）については、ゼミ員との話し合いによって、設定する予定です。手順としては、本年度のゼミの共通テーマを決めてからゼミ員の班分けを行い、各班が大テーマに沿った小テーマを設定します。そして、班ごとに報告していただき、教員・ゼミ員相互が討論を行い、大テーマの理解を深めます。なお、4年生についてはゼミ論の準備報告をし、3年生も報告を聞き討論に参加して、ゼミ論に備えます。グループワークも行います。

授業の到達目標
日本の歴史を通史的にとらえるとともに、各自の関心ある時代・分野についての基本的知識を身につけた上で、さらにゼミ論文に仕上げるための専門的技術・知識を身につけることを目指します。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　出席・発表による。
●**その他**　0%

科 目 名	国家−ダイナミクスゼミ4（近現代日本経済史）（春学期）　A　近現代日本経済史							
担当者名	森田　貴子							
構築	２単位	春学期	月曜日	３時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要
近現代日本の社会構造について、歴史学と経済学の観点から研究することを目標とする。
テキスト講読と、日本経済に関する共通テーマに関連した参加者の研究発表を行う。各自、担当部分に関連する代表的な文献を読み、資料を用いつつ、その時代の社会を理解し、研究史を正確に把握した発表を行う。発表に基づき、参加者全員で討議を行う。

授業の到達目標
①テキスト講読を行い、関連する文献を読み、文献の趣旨を正確に読みとり、研究史を理解する能力、②資料を自力で収集し、論点を構成する技術、③発表能力、を習得する。

成績評価方法
●**試験**　0%　　—
●**レポート**　0%　　—

●**平常点**　100%　　ゼミ活動への主体的な参加度と報告内容
●**その他**　0%　　—

科 目 名	国家−ダイナミクスゼミ4（近現代日本経済史）（春学期）　B　近現代日本経済史							
担当者名	森田　貴子							
構築	2単位	春学期	月曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

近現代日本の社会構造について、歴史学と経済学の観点から研究することを目標とする。
ゼミ論文執筆に向けて、研究発表を行う。研究テーマに関連する代表的な文献を読み、資料を用いつつ、その時代の社会を理解し、研究史を正確に把握した発表を行う。発表に基づき、参加者全員で討議を行う。

授業の到達目標

①研究テーマに関連する文献を読み、文献の趣旨を正確に読みとり、研究史を理解する能力、②資料を自力で収集し、論点を構成する技術、③発表能力、を習得する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　—
●**レポート**　0%　　—
●**平常点**　100%　　ゼミ活動への主体的な参加度と報告内容
●**その他**　0%　　—

科 目 名	国家−ダイナミクスゼミ4（近現代日本経済史）（秋学期）　A　近現代日本経済史							
担当者名	森田　貴子							
構築	2単位	秋学期	月曜日	3時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

近現代日本の社会構造について、歴史学と経済学の観点から研究することを目標とする。 テキスト講読と、日本経済に関する共通テーマに関連した参加者の研究発表を行う。各自、担当部分に関連する代表的な文献を読み、資料を用いつつ、その時代の社会を理解し、研究史を正確に把握した発表を行う。発表に基づき、参加者全員で討議を行う。

授業の到達目標

①テキスト講読を行い、関連する文献を読み、文献の趣旨を正確に読みとり、研究史を理解する能力、②資料を自力で収集し、論点を構成する技術、③発表能力、を習得する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　—
●**レポート**　30%　　学期末のレポート1回
●**平常点**　70%　　ゼミ活動への主体的な参加度と報告内容
●**その他**　0%　　—

科 目 名	国家−ダイナミクスゼミ4（近現代日本経済史）（秋学期）　B　近現代日本経済史							
担当者名	森田　貴子							
構築	2単位	秋学期	月曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

近現代日本の社会構造について、歴史学と経済学の観点から研究することを目標とする。
ゼミ論文完成に向けて、研究発表を行う。発表に基づき、参加者全員で討議を行う。

授業の到達目標

①研究テーマに関連する文献を読み、文献の趣旨を正確に読みとり、研究史を理解する能力、②資料を自力で収集し、論点を構成する技術、③発表能力、を習得する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　—
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　ゼミ活動への主体的な参加度と報告内容
●**その他**　0%　　—

科 目 名	国家−ダイナミクスゼミ2（近代アジア社会の形成）（春学期）							
担当者名	柳澤　明							
構築	2単位	春学期	月曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

このゼミでは、アジアの伝統社会が「近代的」に再編されていく過程と、そこに見られる諸特徴を、歴史的に検討することを目標とする。
アジアの近代は、それぞれの国・地域の内発的な発展の結果ではなく、西洋によって他律的にもたらされた面が大きいことは、否定できない。ヨーロッパにおける近代への移行が長期にわたる漸進的な変化であったのに対して、アジア諸地域の近代化は、おおむね19世紀後半から比較的急速に進行した。そこで生じた大きな変化は、政治制度・法律・経済・社会慣習・教育・芸術などさまざまな面で、現代に大きな影響を及ぼしている。したがって、現代アジア社会の成り立ちを理解するためには、近代直前の時期（近世）を起点として、その後の変化の実相を歴史的にあとづけていく必要がある。
もちろん、アジア諸地域の近代化のプロセスは、それぞれの伝統社会のありかたや、近代化の過程での諸条件（植民地支配を受けたかどうかなど）によって、一律ではない。そうした地域固有の特徴や、各地域の相互関係を視野に入れることも重要であ

る。
　このゼミで扱う地域は、日本以外の東アジア――中国とその周辺――が主となるが、他の地域を取り上げてもかまわない。日本の中だけで完結するようなテーマは想定外だが、アジアの他地域と日本との比較・交流という視点での取り組みは妨げない。時代の範囲も明確には定めがたいが、だいたい17世紀頃から20世紀前半までが中心となるだろう。
　本科目は、「ディプロマポリシー」および「カリキュラムポリシー」にいう「論系ゼミ」に該当する。

授業の到達目標

【3年生】ゼミ生各自の関心に応じた調査・発表、グループワークへの参加、それらに関する質疑応答・討論を通じて、近代アジア社会の形成過程に関する理解を深め、ゼミ論文執筆へ向けての基礎知識と視座を獲得する。
【4年生以上】
　前学期までの調査・発表内容を踏まえて、ゼミ論文の問題設定を確立する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　0%　　期末レポート等は特に課さない。
●**平常点**　100%　　授業時の発表内容、質疑応答・討論への主体的参加度などによる。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

　日程は状況に応じて随時調整します。各自の発表に対する他の学生や教員からの質問・コメントを次のステップに生かせるよう、留意してください。

科 目 名	国家-ダイナミクスゼミ2（近代アジア社会の形成）（秋学期）							
担当者名	柳澤　明							
構築	2単位	秋学期	月曜日	4時限	3年以上	―	―	フル【対面】

授業概要

　このゼミでは、アジアの伝統社会が「近代的」に再編されていく過程と、そこに見られる諸特徴を、歴史的に検討することを目標とする。
　アジアの近代は、それぞれの国・地域の内発的な発展の結果ではなく、西洋によって他律的にもたらされた面が大きいことは、否定できない。ヨーロッパにおける近代への移行が長期にわたる漸進的な変化であったのに対して、アジア諸地域の近代化は、おおむね19世紀後半から比較的急速に進行した。そこで生じた大きな変化は、政治制度・法律・経済・社会慣習・教育・芸術などさまざまな面で、現代に大きな影響を及ぼしている。したがって、現代アジア社会の成り立ちを理解するためには、近代直前の時期（近世）を起点として、その後の変化の実相を歴史的にあとづけていく必要がある。
　もちろん、アジア諸地域の近代化のプロセスは、それぞれの伝統社会のありかたや、近代化の過程での諸条件（植民地支配を受けたかどうかなど）によって、一律ではない。そうした地域固有の特徴や、各地域の相互関係を視野に入れることも重要である。
　このゼミで扱う地域は、日本以外の東アジア――中国とその周辺――が主となるが、他の地域を取り上げてもかまわない。日本の中だけで完結するようなテーマは想定外だが、アジアの他地域と日本との比較・交流という視点での取り組みは妨げない。時代の範囲も明確には定めがたいが、だいたい17世紀頃から20世紀前半までが中心となるだろう。
　本科目は、「ディプロマポリシー」および「カリキュラムポリシー」にいう「論系ゼミ」に該当する。

授業の到達目標

【3年生】ゼミ生各自の関心に応じた調査・発表とそれらに関する質疑応答・討論を通じて、近代アジア社会の形成過程に関する理解を深め、ゼミ論文執筆へ向けての基礎知識と視座を獲得することを目標とする。
【4年生以上】
　前学期までに収集した資料に基づく分析・論証を進め、ゼミ論文を完成させる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　0%　　期末レポート等は特に課さない。
●**平常点**　100%　　授業時の発表内容、討論への主体的参加度などによる。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

　日程は状況に応じて随時調整します。各自の発表に対する他の学生や教員からの質問・コメントを次のステップに生かせるよう、留意してください。

科 目 名	国家-ダイナミクスゼミ3（国際移民とヨーロッパの比較社会分析）（春学期） A							
担当者名	人見　泰弘							
構築	2単位	春学期	月曜日	3時限	3年以上	―	―	フル【対面】

授業概要

　グローバル化という世界的な社会変動の中、社会現象が国境を超えることは当然となった。その結果、難民志願者の殺到、極右・ポピュリズムの台頭、テロリズムの頻発、移民・外国人をめぐる不平等や格差の拡大など様々な問題が世界各地で噴出している。それらに伴い、これまでの国民国家的枠組みは変容を余儀なくされている。すなわち、分析視点や理論、手法などが国民国家を超えたものが必要とされてきた。本ゼミではヨーロッパ社会を中心に取りあげ、他の社会と比較しつつ1990年代以降急速に発展してきた脱国境・超国家的な社会現象を対象として社会学など社会科学的な分析法を学ぶ。特に国境を越える人々の移動と、それに伴う社会問題を理解することを糸口にしつつ、ゼミ論文集の執筆を学ぶ。討論の時間を中心に据え、受講生の学修意欲を刺激するゼミを目指す。

授業の到達目標

　最終目標は、自らの興味ある社会現象を自由に分析できるようになり、ゼミ論文を完成させることである。

成績評価方法
●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　0%　　特になし
●**その他**　100%　　通常授業と課題の成果により総合的に判断する。

備考・関連URL
本授業は基本的に対面で行う予定だけれども、状況によりオンラインに部分的に移行する場合がある。いずれにしても、授業に出席し積極的に参加する者のみが履修のこと。

科 目 名	国家-ダイナミクスゼミ3（国際移民とヨーロッパの比較社会分析）（春学期） B							
担当者名	人見　泰弘							
構築	2単位	春学期	月曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要
グローバル化という世界的な社会変動の中、社会現象が国境を超えることは当然となった。その結果、難民志願者の殺到、極右・ポピュリズムの台頭、テロリズムの頻発、移民・外国人をめぐる不平等や格差の拡大など様々な問題が世界各地で噴出している。それらに伴い、これまでの国民国家的枠組みは変容を余儀なくされている。すなわち、分析視点や理論、手法などが国民国家を超えたものが必要とされてきた。本ゼミではヨーロッパ社会を中心に取りあげ、他の社会と比較しつつ1990年代以降急速に発展してきた脱国境・超国家的な社会現象を対象として社会学など社会科学的な分析法を学ぶ。特に国境を越える人々の移動と、それに伴う社会問題を理解することを糸口にしつつ、ゼミ論文集の執筆を学ぶ。討論の時間を中心に据え、受講生の学修意欲を刺激するゼミを目指す。

授業の到達目標
最終目標は、自らの興味ある社会現象を自由に分析できるようになり、ゼミ論文を完成させることである。

成績評価方法
●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　0%　　特になし
●**その他**　100%　　通常授業と課題の成果により総合的に判断する。

備考・関連URL
本授業は基本的に対面で行う予定だけれども、状況によりオンラインに部分的に移行する場合がある。いずれにしても、授業に出席し積極的に参加する者のみが履修のこと。

科 目 名	国家-ダイナミクスゼミ3（国際移民とヨーロッパの比較社会分析）（秋学期） A							
担当者名	人見　泰弘							
構築	2単位	秋学期	月曜日	3時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要
グローバル化という世界的な社会変動の中、社会現象が国境を超えることは当然となった。その結果、難民志願者の殺到、極右・ポピュリズムの台頭、テロリズムの頻発、移民・外国人をめぐる不平等や格差の拡大など様々な問題が世界各地で噴出している。それらに伴い、これまでの国民国家的枠組みは変容を余儀なくされている。すなわち、分析視点や理論、手法などが国民国家を超えたものが必要とされてきた。本ゼミではヨーロッパ社会を中心に取りあげ、他の社会と比較しつつ1990年代以降急速に発展してきた脱国境・超国家的な社会現象を対象として社会学など社会科学的な分析法を学ぶ。特に国境を越える人々の移動と、それに伴う社会問題を理解することを糸口にしつつ、ゼミ論文集の執筆を学ぶ。討論の時間を中心に据え、受講生の学修意欲を刺激するゼミを目指す。

授業の到達目標
最終目標は、自らの興味ある社会現象を自由に分析できるようになり、ゼミ論文を完成させることである。

成績評価方法
●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　0%　　特になし
●**その他**　100%　　通常授業と課題の成果により総合的に判断する。

備考・関連URL
本授業は基本的に対面で行う予定だけれども、状況によりオンラインに部分的に移行する場合がある。いずれにしても、授業に出席し積極的に参加する者のみが履修のこと。

科 目 名	国家-ダイナミクスゼミ3（国際移民とヨーロッパの比較社会分析）（秋学期） B							
担当者名	人見　泰弘							
構築	2単位	秋学期	月曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要
グローバル化という世界的な社会変動の中、社会現象が国境を超えることは当然となった。その結果、難民志願者の殺到、極右・ポピュリズムの台頭、テロリズムの頻発、移民・外国人をめぐる不平等や格差の拡大など様々な問題が世界各地で噴出している。それらに伴い、これまでの国民国家的枠組みは変容を余儀なくされている。すなわち、分析視点や理論、手法などが国民国家を超えたものが必要とされてきた。本ゼミではヨーロッパ社会を中心に取りあげ、他の社会と比較しつつ1990年代以降急速に発展してきた脱国境・超国家的な社会現象を対象として社会学など社会科学的な分析法を学ぶ。特に国境を越える人々の移動と、それに伴う社会問題を理解することを糸口にしつつ、ゼミ論文集の執筆を学ぶ。討論の時間を中心に据え、受講生の学修意欲を刺激するゼミを目指す。

授業の到達目標
最終目標は、自らの興味ある社会現象を自由に分析できるようになり、ゼミ論文を完成させることである。
成績評価方法
●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　0%　　特になし
●**その他**　100%　　通常授業と課題の成果により総合的に判断する。
備考・関連URL
本授業は基本的に対面で行う予定だけれども、状況によりオンラインに全面的または部分的に移行する場合がある。いずれにしても、授業に出席し積極的に参加する者のみが履修のこと。

科 目 名	国家-ダイナミクスゼミ5（前近代日本の国家・地域・戦争）（春学期）							
担当者名	糟谷　幸裕							
構築	2単位	春学期	木曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要
日本の前近代を多角的に検討し、現代につながる問題を見いだしていく。春学期は国家・地域・戦争に関わる文献を読み、それについての口頭報告を交え、議論をしながら進める。
授業の到達目標
日本の前近代に関する研究テーマを自分なりに設定し、それを深める方法を習得する。
成績評価方法
●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　0%　　課さない。
●**平常点**　100%　　授業に取り組む姿勢、および発言・報告内容から判断する。
●**その他**　0%

科 目 名	国家-ダイナミクスゼミ5（前近代日本の国家・地域・戦争）（秋学期）　日本の前近代を多角的に見る							
担当者名								
構築	2単位	秋学期	木曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要
※担当者未定につきシラバス内容は2025年7月ころに更新される予定です。
以下の内容は参考として2024年度の内容を掲載していますのでご注意ください。
日本の前近代を多角的に検討し、現代につながる問題を見いだしていく。秋学期は春学期に設定した自己のテーマに関わる文献を中心に読み、それについての口頭報告を交え、議論をしながら進める。
授業の到達目標
日本の前近代に関する多角的検討を維持しつつ、自己の研究テーマを深め、現代につながる問題を明らかにする。あわせてゼミ論文執筆のための技能・知識を身につける。
成績評価方法
●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　0%　　課さない。
●**平常点**　100%　　授業に取り組む姿勢、および発言・報告内容から判断する。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	コミュニティ-創造ゼミ3（文化遺産論）（春学期）							
担当者名	瀧本　めぐみ							
構築	2単位	春学期	月曜日	3時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要
3年・4年の合同ゼミとし、文化遺産を保全する意義や、文化遺産に関する現代的な諸問題（開発、気候変動、災害、人権など）を取り扱います。3年生は春学期はグループワークで文化遺産のリサーチスキルを身につけます。秋学期からは自分のテーマを決め、ゼミ論の執筆を開始します。4年生は12月提出のゼミ論文完成にむけ、個人の研究をすすめ、ゼミで発表します。ゼミでは、他の人の発表についての質問・コメントを必ずしてください。必須です。
授業の到達目標
ゼミ論文の完成
成績評価方法
●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　50%　　出席、ゼミへの参加態度（質問の積極性、コメントの妥当性）
●**その他**　50%　　課題の提出
3年生：グループワークのリサーチと発表、学期末のレポート
4年生：12月提出のゼミ論文完成に向け、調査、ゼミ発表

科 目 名	コミュニティ-創造ゼミ3（文化遺産論）（秋学期）							
担当者名	瀧本　めぐみ							
構築	2単位	秋学期	月曜日	3時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

3年・4年の合同ゼミとし、文化遺産に関する現代的な諸問題を取り扱います。3年生は春学期はグループワークで文化遺産のリサーチスキルを身につけます。秋学期からは自分のテーマを決め、ゼミ論の執筆を開始します。4年生は12月提出のゼミ論文完成にむけ、個人の研究をすすめ、ゼミで発表します。ゼミでは、他の人の発表についての質問・コメントを必ずしてください。必須です。

授業の到達目標

ゼミ論文の完成

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　50%　　出席、ゼミへの参加態度（質問・ディスカッション参加への積極性、コメントの妥当性など）
●**その他**　50%　　提出課題を期限内に、適切な様式で提出しているか、内容は妥当か。

科 目 名	コミュニティ-創造ゼミ1（コミュニティ論）（春学期）　A　持続可能な地域社会の創造に向けたフィールドワーク							
担当者名	西城戸　誠							
構築	2単位	春学期	月曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

このゼミではフィールドワークを通じて、持続可能な地域社会、サステイナブルなコミュニティの創造に向けたさまざまな実践を学んでいきます。具体的なイシューとしては、農業、再生可能エネルギー、地域福祉といった観点からの持続可能な地域社会の創造に資する人々の実践に着目し、フィールド調査を行います。受講学生が自由に調査テーマを設定し、1年を通して自らが調査を行い、論文としてまとめることを行います（3年生はグループでフィールド調査、4年生は個人でフィールド調査を実施）。本年度は、夏休みなどに3,4年生が共同して地域コミュニティにかかわる調査を行います。春学期は、フィールドワークの方法論を学び、調査テーマの設定、テーマに関連した文献講読を行い、共同調査に向けた準備も行います。

授業の到達目標

持続可能な地域社会の創造に向けたコミュニティにおける諸実践の実態を把握する。
持続可能な地域社会の創造に向けたコミュニティにおける諸実践に関わる社会調査を実施し、一連の社会調査の方法論と、実践的な研究の方法を学ぶ。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　ゼミへの出席、フィールドワークへの参加姿勢、プレゼンテーションや調査報告書の内容
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

本ゼミでは、学生が主体となり、意義のある課題を探し、調査、発表をするというプロセスを通して、「自分で調べ、考えて、実行する」という能力を身につけることを狙いとしています。
課外活動として、都市－農村交流を通じた関係人口の担い手になるフィールド経験や、過疎地域におけるまちづくりの実態と実践をフィールド調査によって学びます。このように本ゼミでは「フィールドから学ぶ」というスタンスで、地域社会のさまざまな課題に取り組むことができる実践知を獲得できるようなゼミを目指しています。
2025年度は青森県つがる市、五所川原市、中泊町へのフィールド調査、フィールド実践を実施するほか、岩手大学寒冷フィールドサイエンス教育研究センターとの協力で、岩手大学演習林において、岩手大学教員による東北の農林業や自然環境、震災復興、再生可能エネルギーに関する講義とフィールド実習を実施する予定です。

科 目 名	コミュニティ-創造ゼミ1（コミュニティ論）（春学期）　B　持続可能な地域社会の創造に向けたフィールドワーク							
担当者名	西城戸　誠							
構築	2単位	春学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

このゼミではフィールドワークを通じて、持続可能な地域社会、サステイナブルなコミュニティの創造に向けたさまざまな実践を学んでいきます。具体的なイシューとしては、農業、再生可能エネルギー、地域福祉といった観点からの持続可能な地域社会の創造に資する人々の実践に着目し、フィールド調査を行います。参加学生が自由に調査テーマを設定し、1年を通して自らが調査を行い、論文としてまとめることを行います（3年生はグループでフィールド調査、4年生は個人でフィールド調査を実施）。本年度は、夏休みなどに3,4年生が共同して地域コミュニティにかかわる調査を行うため、共同調査のための準備も行います。

授業の到達目標

持続可能な地域社会の創造に向けたコミュニティにおける諸実践の実態を把握する。
持続可能な地域社会の創造に向けたコミュニティにおける諸実践に関わる社会調査を実施し、一連の社会調査の方法論と、実践的な研究の方法を学ぶ。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　ゼミへの出席、フィールドワークへの参加姿勢、プレゼンテーションや調査報告書の内容
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

本ゼミでは、学生が主体となり、意義のある課題を探し、調査、発表をするというプロセスを通して、「自分で調べ、考えて、実行する」という能力を身につけることを狙いとしています。 課外活動として、都市－農村交流を通じた関係人口の担い手になるフィールド経験や、過疎地域におけるまちづくりの実態と実践をフィールド調査によって学びます。このように本ゼミでは「フィールドから学ぶ」というスタンスで、地域社会のさまざまな課題に取り組むことができる実践知を獲得できるようなゼミを目指しています。

2025年度は青森県つがる市、五所川原市、中泊町へのフィールド調査、フィールド実践を実施するほか、岩手大学寒冷フィールドサイエンス教育研究センターとの協力で、岩手大学演習林において、岩手大学教員による東北の農林業や自然環境、震災復興、再生可能エネルギーに関する講義とフィールド実習を実施する予定です。学年末には、宮城県石巻市で、震災伝承と地域再生を学ぶ実習を行います。

科 目 名	コミュニティ-創造ゼミ1（コミュニティ論）（秋学期） A 持続可能な地域社会の創造に向けたフィールドワーク							
担当者名	西城戸　誠							
構築	2単位	秋学期	月曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

このゼミではフィールドワークを通じて、持続可能な地域社会、サステイナブルなコミュニティの創造に向けたさまざまな実践を学んでいきます。具体的なイシューとしては、農業、再生可能エネルギー、地域福祉といった観点からの持続可能な地域社会の創造に資する人々の実践に着目し、フィールド調査を行います。参加学生が自由に調査テーマを設定し、1年を通して自らが調査を行い、論文としてまとめることを行います（3年生はグループでフィールド調査、4年生は個人でフィールド調査を実施）。秋学期は、グループでフィールド調査を実施し、報告書の作成を行います。また、合同調査の報告書の作成、発表会を行います。

授業の到達目標

持続可能な地域社会の創造に向けたコミュニティにおける諸実践の実態をより把握する。

持続可能な地域社会の創造に向けたコミュニティにおける諸実践に関わる社会調査を実施し、一連の社会調査の方法論と、実践的な研究の方法を理解し、実践できること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　ゼミへの出席、フィールドワークへの参加姿勢、プレゼンテーションや調査報告書の内容
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

本ゼミでは、学生が主体となり、意義のある課題を探し、調査、発表をするというプロセスを通して、「自分で調べ、考えて、実行する」という能力を身につけることを狙いとしています。

課外活動として、都市－農村交流を通じた関係人口の担い手になるフィールド経験や、過疎地域におけるまちづくりの実態と実践をフィールド調査によって学びます。このように本ゼミでは「フィールドから学ぶ」というスタンスで、地域社会のさまざまな課題に取り組むことができる実践知を獲得できるようなゼミを目指しています。

2025年度は青森県つがる市、五所川原市、中泊町へのフィールド調査、フィールド実践を実施するほか、岩手大学寒冷フィールドサイエンス教育研究センターとの協力で、岩手大学演習林において、岩手大学教員による東北の農林業や自然環境、震災復興、再生可能エネルギーに関する講義とフィールド実習を実施する予定です。

科 目 名	コミュニティ-創造ゼミ1（コミュニティ論）（秋学期） B 持続可能な地域社会の創造に向けたフィールドワーク							
担当者名	西城戸　誠							
構築	2単位	秋学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

このゼミではフィールドワークを通じて、持続可能な地域社会、サステイナブルなコミュニティの創造に向けたさまざまな実践を学んでいきます。具体的なイシューとしては、農業、再生可能エネルギー、地域福祉といった観点からの持続可能な地域社会の創造に資する人々の実践に着目し、フィールド調査を行います。参加学生が自由に調査テーマを設定し、1年を通して自らが調査を行い、論文としてまとめることを行います（3年生はグループでフィールド調査、4年生は個人でフィールド調査を実施）。秋学期は、フィールド調査を実施し、報告書（ゼミ論文）の作成を行います。また、合同調査の報告書の作成、発表会を行います。

授業の到達目標

持続可能な地域社会の創造に向けたコミュニティにおける諸実践の実態をより把握する。

持続可能な地域社会の創造に向けたコミュニティにおける諸実践に関わる社会調査を実施し、一連の社会調査の方法論と、実践的な研究の方法を理解し、実践できること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　ゼミへの出席、フィールドワークへの参加姿勢、プレゼンテーションや調査報告書の内容
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

本ゼミでは、学生が主体となり、意義のある課題を探し、調査、発表をするというプロセスを通して、「自分で調べ、考えて、実行する」という能力を身につけることを狙いとしています。また、ゼミ合宿（複数回実施）では、都市－農村交流を通じた関係人口の担い手になるフィールド経験を通じて、過疎地域におけるまちづくりの実態と実践を学びます。このように本ゼミでは「フィールドから学ぶ」というスタンスで、地域社会のさまざまな課題に取り組むことができる実践知を獲得できるようなゼミを目指しています。 2025年度は青森県つがる市、五所川原市、中泊町へのフィールド調査、フィールド実践を実施するほか、岩手大学寒冷フィールドサイエンス教育研究センターとの協力で、岩手大学演習林において、岩手大学教員による東北の農林業や自然環境、震災復興、再生可能エネルギーに関する講義とフィールド実習を実施する予定です。学年末には、宮城県石巻市で、

震災伝承と地域再生を学ぶ実習を行います。

科 目 名	コミュニティ-創造ゼミ2（歴史実践とコミュニティ）（春学期） A							
担当者名	藤野　裕子							
構築	2単位	春学期	火曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

「歴史実践」という観点から、おもにオーラル・ヒストリーの手法を使って、過去の経験を聴く主体・語る主体の相互関係のなかで、コミュニティの歴史をどのように紡ぎ、継承していけばよいかを考えていきます。春学期は、まずオーラル・ヒストリーの方法論を学びます。次に、自らの研究テーマを確定するための文献調査と中間報告、討論を繰り返します。

授業の到達目標

（1）「歴史実践」「パブリック・ヒストリー」という概念について理解し、自らの見解を持つ。
（2）オーラル・ヒストリーの手法を理解する。
（3）自らの関心にしたがって、文献を調査し、読解する能力を身につける。

成績評価方法

授業への参加度／討論での貢献度／ゼミ運営での積極性／調査の妥当性／レポートのまとまりなどをもとに、総合的に評価します。

備考・関連URL

授業は対面で行います。ほぼ毎回、グループでのディスカッションや共同作業を含みます。

科 目 名	コミュニティ-創造ゼミ2（歴史実践とコミュニティ）（春学期） B							
担当者名	藤野　裕子							
構築	2単位	春学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

「歴史実践」という観点から、おもにオーラル・ヒストリーの手法を使って、過去の経験を聴く主体・語る主体の相互関係のなかで、コミュニティの歴史をどのように紡ぎ、継承していけばよいかを考えていきます。この授業では、ゼミ論文の作成にむけて、各自の研究テーマに関する報告を繰り返し行い、調査を進めていきます。

授業の到達目標

（1）ゼミ論文のテーマを確定する。
（2）テーマに即した文献調査・聞き取り調査を進める。
（3）自らの関心にしたがって、文献を調査し、読解する能力を身につける。

成績評価方法

授業への参加度／討論での貢献度／ゼミ運営での積極性／調査の妥当性／レポートのまとまりなどをもとに、総合的に評価します。

備考・関連URL

授業は対面で行います。ほぼ毎回グループでのディスカッションや共同作業があります。

科 目 名	コミュニティ-創造ゼミ2（歴史実践とコミュニティ）（秋学期） A							
担当者名	藤野　裕子							
構築	2単位	秋学期	火曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

春学期に学んだ知見をもとに、実際にグループで文献調査と聞き取り調査をスタートさせます。その成果をもとに議論して、さらなる文献調査や聞き取り調査を実施します。その中間的な成果を、報告書（レポート）にまとめます。これも構成段階から議論し、草稿のピュアレビューを行います。

授業の到達目標

（1）各グループの研究テーマに即して調査を進め、何らかの成果を得る。
（2）調査で得られた成果を口頭で発表し、文章で表現する。

成績評価方法

授業への参加度／討論での貢献度／ゼミ運営での積極性／調査の妥当性／レポートのまとまりをもとに、総合的に評価します。

備考・関連URL

授業は対面で行います。毎回グループでの議論や共同作業を含みます。

科 目 名	コミュニティ-創造ゼミ2（歴史実践とコミュニティ）（秋学期） B							
担当者名	藤野　裕子							
構築	2単位	秋学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

春学期に学んだ知見をもとに、実際に各自で文献調査と聞き取り調査をさらに進めます。その成果をもとに議論して、さらなる文献調査や聞き取り調査を実施します。その中間的な成果を、ゼミ論文にまとめます。これも構成段階から議論し、草稿のピュアレビューを行います。

授業の到達目標

（1）各自の研究テーマに即して調査を進め、何らかの成果を得る。
（2）調査で得られた成果を口頭で発表し、文章で表現する。

成績評価方法

授業への参加度／討論での貢献度／ゼミ運営での積極性／調査の妥当性／レポートのまとまりをもとに、総合的に評価します。

備考・関連URL
授業は対面で行います。ほぼ毎回グループでのディスカッションや共同作業があります。

科 目 名	コミュニティ-創造ゼミ4（メディアとシステム）（春学期） 理論社会学から未来社会学へ							
担当者名	森　元孝							
構築	2単位	春学期	月曜日	3時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要
最新の理論社会学の基本を学び、未来社会を構想していくための準備演習である。
今、そしてこれから生きていく社会が、どんな形をしていて、どんな形になっていくのかについて、透徹した眼を養っていくために、課題を11回提供し、それに対してグループで各回、研究報告をしていく形式で進めていく。それらの一連のプロセスをもとにして、発展課題を6月に提示する。7月初旬の夏合宿（3年生は全員参加）に、それについてグループ報告を行い、全体で深い議論をする。さらに7月、夏休み前までに、一連の活動を、プロシーディングスの形としてまとめ、pdf版を公表する。

授業の到達目標
変貌する社会を精確に捉える視点を身につけることが到達目標である。そのためには最新の理論社会学を身につけることが必要であり、それは、社会学の基本思考を徹底的に学び取るということである。

成績評価方法
●**試験**　0%　.
●**レポート**　50%　プロシーディングスの制作と完成。
●**平常点**　50%　各回のゼミへの積極性。
●**その他**　0%　.

備考・関連URL
森　元孝のウェブページ　「ウィーンの森」の物語
社会構築論系　森ゼミのウェブページ　Prof. Mori's Seminar

科 目 名	コミュニティ-創造ゼミ4（メディアとシステム）（秋学期） 未来社会学の応用展開							
担当者名	森　元孝							
構築	2単位	秋学期	月曜日	3時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要
最新の理論社会学の基本をもとに、未来社会について構想していく演習である。
今、そしてこれから生きていく社会が、どんな形をしていて、どんな形になっていくのかについて、透徹した眼を養っていくために、春学期に習得した基礎知識をもとに、理論的に、また経験的、実験的に構想をしていく。、それらの一連のプロセスをもとにして、発展課題を11月に提示する。12月中旬の冬合宿（3年生は全員参加）に、それについてグループ報告を行い、全体で深い議論をする。そして1月、学期終了までに、一連の活動を、プロシーディングスの形としてまとめ、pdf版を公表する。

授業の到達目標
理論的・論理的思考を養う。

成績評価方法
●**試験**　0%　.
●**レポート**　50%　プロシーディングスの作成と、その内容。
●**平常点**　50%　各回のグループワークによるレポートと議論の状況。
●**その他**　0%　.

備考・関連URL
森　元孝のウェブページ　「ウィーンの森」の物語
社会構築論系　森ゼミのウェブページ　Prof. Mori's Seminar

科 目 名	グローバル社会-共生ゼミ1（優生思想とジェンダー）（春学期）　A							
担当者名	豊田　真穂							
構築	2単位	春学期	火曜日	2時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要
このゼミでは、優生思想は、現在のわたしたちがいまなお抱えている問題であり、現代の日本社会において、例えば出生前診断やマッチングアプリなど、個々人のレベルにおいても生き続けているということを考えます。その際、特に、優生思想の歴史をひもときながらジェンダーの視点から考察します。最終的には、現代社会をいきるわたしたちひとりひとりが抱える問題を、歴史的な経緯を知った上で理解すること、その上で、自分のなかにある優生思想に気づくこと、そしてそこから「共生社会」を展望することを目指します。 具体的な内容は春休みに行われるゼミ合宿で決定します。 基本的にゼミは対面で実施し、毎回の出席は必須です。

授業の到達目標
現代社会をいきるわたしたちひとりひとりが抱える問題を歴史的な経緯を知った上で理解すること、その上で、自分のなかにある優生思想に気づくこと、そしてそこから「共生社会」を展望できるようになること。

成績評価方法
レポート内容、グループワーク／ディスカッションへの貢献度、ゼミ論文に関するプレゼンテーション内容等により、総合的に判断する。

科 目 名	グローバル社会-共生ゼミ1（優生思想とジェンダー）（春学期） B							
担当者名	豊田　真穂							
構築	2単位	春学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

4年次のゼミ生は春学期には、2限（グローバル社会-共生ゼミ1（優生思想とジェンダー）春学期A）と3限（本科目）の両方への出席が求められています。本科目においては、個人のゼミ論文発表（春学期の成果報告、および研究中間発表、夏休みの研究計画）などを行います。

基本的にゼミは対面で実施し、毎回の出席は必須です。

授業の到達目標

現代社会をいきるわたしたちひとりひとりが抱える問題を歴史的な経緯を知った上で理解し、「共生社会」が展望できるようになること。

成績評価方法

レポート内容、グループワーク／ディスカッションへの貢献度、ゼミ論文に関するプレゼンテーション内容等により、総合的に判断する。

科 目 名	グローバル社会-共生ゼミ1（優生思想とジェンダー）（秋学期） A							
担当者名	豊田　真穂							
構築	2単位	秋学期	火曜日	2時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

秋学期は、関連文献の購読を進めつつ、ゼミ論文執筆のためのレッスンを中心にゼミ活動を行います。文献検索実習や文献リスト、引用方法を修得しつつ、論理的な思考力や相手に正確に伝わる表現力などを学びます。最終的には、論文執筆の第一ステップとして書評を書くことを目指します。 基本的にゼミは対面で実施する計画です。同時並行で、共通文献を読みつつディスカッションをします。

授業の到達目標

現代社会をいきるわたしたちひとりひとりが抱える問題を歴史的な経緯を知った上で理解すること、その上で、自分のなかにある優生思想に気づくこと、そしてそこから「共生社会」を展望できるようになること。

成績評価方法

レポート内容、グループワーク／ディスカッションへの貢献度、ゼミ論文に関するプレゼンテーション内容等により、総合的に判断する。

科 目 名	グローバル社会-共生ゼミ1（優生思想とジェンダー）（秋学期） B							
担当者名	豊田　真穂							
構築	2単位	秋学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

秋学期は、ゼミ活動のほとんどの部分をゼミ論文執筆にむけて注力します。各自が執筆をすすめつつ、相互添削をすすめていきます。 基本的にゼミは対面で実施し、毎回の出席は必須です。1月には、3年4年合同のゼミ論文講評会を2-3限連続で実施します。

授業の到達目標

現代社会をいきるわたしたちひとりひとりが抱える問題を歴史的な経緯を知った上で理解し、「共生社会」を展望できるようになること。

成績評価方法

レポート内容、グループワーク／ディスカッションへの貢献度、ゼミ論文に関するプレゼンテーション内容等により、総合的に判断する。

科 目 名	グローバル社会-共生ゼミ4（グローバル・アジア研究）（春学期） A　アジアにおける越境、共生、和解							
担当者名	金　敬黙							
構築	2単位	春学期	木曜日	2時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

このゼミはアジアと世界に関する諸事象についてグローバルな視点、平和研究の視点、さらに日本との関係性から多角的、総合的に探求する複合的なアプローチを導入します。そのため、グローバル・アジア・研究という三つの概念が用いられています。

授業の到達目標

このゼミを通じて、グローバルな視点（日本、アジア圏内に限らず、世界におけるアジア研究の動向把握など）とローカルな視点からアジア（の特殊かつ地球的な課題）を探求します。すなわち、グローバル化時代におけるアジアの役割と課題などについて地域研究ならびにトランスナショナルな分析枠組みから探求し、私たちが暮らす足元の課題にも着目します。その過程を通じて、卒業研究などの成果作成に発展させることが期待されます。

成績評価方法

ゼミの出席や参加、そしてアウトプットの作業を通じて評価します。

備考・関連URL

https://ci.nii.ac.jp/author/DA16107579

科 目 名	グローバル社会-共生ゼミ4（グローバル・アジア研究）（春学期） B アジアにおける越境、共生、和解							
担当者名	金　敬黙							
構築	2単位	春学期	木曜日	3時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

このゼミはアジアと世界に関する諸事象についてグローバルな視点、平和研究の視点、さらに日本との関係性から多角的、総合的に探求する複合的なアプローチを導入します。そのため、グローバル・アジア・研究という三つの概念が用いられています。

授業の到達目標

このゼミを通じて、グローバルな視点（日本、アジア圏内に限らず、世界におけるアジア研究の動向把握など）とローカルな視点からアジア（の特殊かつ地球的な課題）を探求します。すなわち、グローバル化時代におけるアジアの役割と課題などについて地域研究ならびにトランスナショナルな分析枠組みから探求し、私たちが暮らす足元の課題にも着目します。その過程を通じて、卒業研究などの成果作成に発展させることが期待されます。

成績評価方法

ゼミの出席や参加、そしてアウトプットの作業を通じて評価します。

備考・関連URL

https://ci.nii.ac.jp/author/DA16107579

科 目 名	グローバル社会-共生ゼミ4（グローバル・アジア研究）（秋学期） A アジアにおける越境、共生と和解							
担当者名	金　敬黙							
構築	2単位	秋学期	木曜日	2時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

このゼミはアジアと世界に関する諸事象についてグローバルな視点、平和研究の視点、さらに日本との関係性から多角的、総合的に探求する複合的なアプローチを導入します。そのため、グローバル・アジア・研究という三つの概念が用いられています。

授業の到達目標

このゼミを通じて、グローバルな視点（日本、アジア圏内に限らず、世界におけるアジア研究の動向把握など）とローカルな視点からアジア（の特殊かつ地球的な課題）を探求します。すなわち、グローバル化時代におけるアジアの役割と課題などについて地域研究ならびにトランスナショナルな分析枠組みから探求し、私たちが暮らす足元の課題にも着目します。その過程を通じて、卒業研究などの成果作成に発展させることが期待されます。

成績評価方法

ゼミの出席や参加、そしてアウトプットの作業を通じて評価します。

備考・関連URL

https://ci.nii.ac.jp/author/DA16107579

科 目 名	グローバル社会-共生ゼミ4（グローバル・アジア研究）（秋学期） B アジアにおける越境、共生、和解							
担当者名	金　敬黙							
構築	2単位	秋学期	木曜日	3時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

このゼミはアジアと世界に関する諸事象についてグローバルな視点、平和研究の視点、さらに日本との関係性から多角的、総合的に探求する複合的なアプローチを導入します。そのため、グローバル・アジア・研究という三つの概念が用いられています。

授業の到達目標

このゼミを通じて、グローバルな視点（日本、アジア圏内に限らず、世界におけるアジア研究の動向把握など）とローカルな視点からアジア（の特殊かつ地球的な課題）を探求します。すなわち、グローバル化時代におけるアジアの役割と課題などについて地域研究ならびにトランスナショナルな分析枠組みから探求し、私たちが暮らす足元の課題にも着目します。その過程を通じて、卒業研究などの成果作成に発展させることが期待されます。

成績評価方法

ゼミの出席や参加、そしてアウトプットの作業を通じて評価します。

科 目 名	グローバル社会-共生ゼミ5（自然・社会・サステナビリティ）（春学期） A 豊かさとは何か							
担当者名	高野　孝子							
構築	2単位	春学期	木曜日	4時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

人類社会は、持続可能でしょうか。このゼミでは、サステナビリティとは何かをあらためて問います。グローバル社会の共通課題に着目し、構造的な視野からそれらが自分自身の暮らしや価値観とどのようにつながっているかを具体的に理解していきます。サステナビリティの基礎となる「人と自然の関係」についての理解を体験的に育み、環境と開発または自然と社会の共生について文献と討議を交えて考察を深めます。どのような社会を目指すのか、自分が貢献できることは何かを個人ではなくグループで掘り下げ、実践のスタートラインに着くことを目標とします。豊かさとは、幸福とは、生き方、共同体といった、哲学、思想、世界観に触れていくことになるでしょう。

「サステナビリティ」はある意味で当たり前な考え方であり、極めて広範な概念です。テーマは多岐に渡りますが、その中で何かに絞って探求することで、個々人の価値観を問い直す作業になります。

前期は基礎研究とし、後期のアクションにつながるテーマを決定します。後期は、ゼミ論につながる個々人のテーマ設定と計画立ても考えます。

変化の激しい時代です。身につけておくべきものは知識そのものよりも、何が問題かに気づき、何を知るべきかを知る力であり、その知識や技術を獲得する力です。本質を見抜く力や多角的に捉える力も必要です。それらは経験を通して獲得することが

でき、観察力と想像力が土台にあります。よって、このゼミは体験を重視します。

授業の到達目標

1）「サステナビリティ」に関して、深い理解を獲得する。
2）どのような社会を目指すのか、どうやって近づくのかについて、自分なりに今の考えを語れるようになる。
3）多様な人たちとの共同作業の進め方や相互理解、自分についての理解を進める。
4）社会に生きる人として成長する。
5）観察力、想像力、多角的なものの味方を獲得する。

成績評価方法

授業内外や実習中の活動状況、グループワーク／ディスカッション、レポート内容などにより、総合的に判断します。

備考・関連ＵＲＬ

未だ「サステナビリティ」について勉強したことがない人は、春学期でサステナビリティ関連の授業を履修してください。フィールドワークに関連する社構の演習も履修して、理論や手法を獲得するようにしてください。 社構またはそれ以外の演習や授業科目も、サステナビリティと関係づけ、新しい視点と知識を取り込むことにつながるので、自分の興味関心が動くものを取ってください。

24年度は9月に佐渡において、実習を予定しています。一部においては新潟大学佐渡自然共生科学センターの協力のもと、新潟大学の教職員に指導いただきます。

科 目 名	グローバル社会-共生ゼミ5（自然・社会・サステナビリティ）（春学期） B 豊かさとは何か							
担当者名	高野　孝子							
構築	２単位	春学期	木曜日	５時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

人類社会は、持続可能でしょうか。このゼミでは、サステナビリティとは何かをあらためて問います。グローバル社会の共通課題に着目し、構造的な視野からそれらが自分自身の暮らしや価値観とどのようにつながっているかを具体的に理解していきます。サステナビリティの基礎となる「人と自然の関係」についての理解を体験的に育み、環境と開発または自然と社会の共生について文献と討議を交えて考察を深めます。どのような社会を目指すのか、自分が貢献できることは何かを個人ではなくグループで掘り下げ、実践のスタートラインに着くことを目標とします。豊かさとは、幸福とは、生き方、共同体といった、哲学、思想、世界観に触れていくことになるでしょう。

「サステナビリティ」はある意味で当たり前な考え方であり、極めて広範な概念です。テーマは多岐に渡りますが、その中で何かに絞って探求することで、個々人の価値観を問い直す作業になります。

春秋学期を通して、個人としてはゼミ論に取り組みます。ゼミ全体としては、春期は3年生とともに共同研究。できれば後期につながるテーマを決定します。それぞれの経験から蓄えた知見やスキルによって、3年生のサポートを意識、実行し、自分の学びと成長につなげます。

変化の激しい時代です。身につけておくべきものは知識そのものよりも、何が問題かに気づき、何を知るべきかを知る力であり、その知識や技術を獲得する力です。本質を見抜く力や多角的に捉える力も必要です。それらは経験を通して獲得することができ、観察力と想像力が土台にあります。よって、このゼミは体験を重視します。

授業の到達目標

1）「サステナビリティ」に関して、深い理解を獲得する。
2）どのような社会を目指すのか、どうやって近づくのかについて、自分なりに今の考えを語れるようになる。
3）多様な人たちとの共同作業の進め方や相互理解、自分についての理解を進める。
4）社会に生きる人として成長する。
5）観察力、想像力、多角的なものの味方を獲得する。

成績評価方法

授業内外や実習中の活動状況、グループワーク／ディスカッション、レポート内容などにより、総合的に判断します。

備考・関連ＵＲＬ

24年度は9月に佐渡において、実習を予定しています。一部においては新潟大学佐渡自然共生科学センターの協力のもと、新潟大学の教職員に指導いただきます。

科 目 名	グローバル社会-共生ゼミ5（自然・社会・サステナビリティ）（秋学期） A 豊かさとは何か							
担当者名	高野　孝子							
構築	２単位	秋学期	木曜日	４時限	３年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

世界共通の最大の課題である「サステナビリティ」を理解し、体験的に考察していきます。持続可能な社会とはどのようなもので、そのために何が必要で、かつ私たちひとりひとりに何ができるかを考えるゼミです。おぼろげながらも姿が見えるよう、全員で議論し、考えたいと思います。幸福とは、豊かさとは、生き方、共同体といった、哲学、思想、世界観に触れていくことになるでしょう。個人の価値観を問い直す機会にもなると考えます。

秋学期は、春学期の基礎研究を土台に計画した共同研究を継続します。何らかの社会的アクションに繋げていきます。またゼミ論につながる個々人のテーマ設定と計画立ても考えます。

授業の到達目標

1）「サステナビリティ」に関して、深い理解を獲得する。
2）どのような社会を目指すのか、どうやって近づくのかについて、自分なりに今の考えを語れるようになる。
3）多様な人たちとの共同作業の進め方や相互理解、自分についての理解を進める。
4）社会に生きる人として成長する。
5）観察力、想像力、多角的なものの味方を獲得する。

成績評価方法

授業内外や実習中の活動状況、グループワーク／ディスカッション、レポート内容などにより、総合的に判断します。

科 目 名	グローバル社会-共生ゼミ5（自然・社会・サステナビリティ）（秋学期） B 豊かさとは何か							
担当者名	高野　孝子							
構築	2単位	秋学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

世界共通の最大の課題である「サステナビリティ」を理解し、体験的に考察していきます。持続可能な社会とはどのようなもので、そのために何が必要で、かつ私たちひとりひとりに何ができるかを考えるゼミです。おぼろげながらも姿が見えるよう、全員で議論し、考えたいと思います。幸福とは、豊かさとは、生き方、共同体といった、哲学、思想、世界観に触れていくことになるでしょう。個人の価値観を問い直す機会にもなると考えます。

個人研究を進め、ピアチェックを通してゼミ論を完成させます。ゼミ全体としては、秋学期は共同研究の一環として、社会的アクションを目指します。

変化の激しい時代です。身につけておくべきものは知識そのものよりも、何を知るべきかを知る力であり、その知識や技術を獲得する力です。本質を見抜く力や多角的に捉える力も必要です。それらは経験を通して獲得することができ、観察力と想像力が土台にあります。よって、このゼミは体験を重視します。

授業の到達目標

1）「サステナビリティ」に関して、深い理解を獲得する。
2）どのような社会を目指すのか、どうやって近づくのかについて、自分なりに今の考えを語れるようになる。
3）多様な人たちとの共同作業の進め方や相互理解、自分についての理解を進める。
4）社会に生きる人として成長する。
5）観察力、想像力、多角的なものの味方を獲得する。

成績評価方法

授業内外や実習中の活動状況、グループワーク／ディスカッション、レポート内容などにより、総合的に判断します。

科 目 名	グローバル社会-共生ゼミ2（民族的マイノリティと平和）（春学期） 国家と民族の関係から平和をめぐる問題を考える							
担当者名	小松　寛							
構築	2単位	春学期	月曜日	2時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本ゼミでは国際関係論や政治学、平和研究の視点から「民族的マイノリティと平和」の問題について考える。世界には「少数民族」や「先住民」と呼ばれる人々が多数存在しており、それぞれが独自の文化や言語、そしてアイデンティティを有している。当然ながら日本も例外ではなく、日本政府はアイヌを先住民として認めているほか、沖縄の人々を民族と捉える議論もある。

本ゼミでは安全保障、人権、民主主義、経済格差、環境問題といった現代世界における様々な問題を、民族的マイノリティというパースペクティブを通して考察する。それにより現実的な解決策はもとより、多数派による支配的な見方を相対化することで、「民族とは何か」「国家とは何か」「民族と国家はどのような関係にあるべきか」と根源的な問いまで思考を深めながら、より平和な社会を構築するためには何が必要なのかを議論する。

春学期は学術的な文章（ゼミ論文）を書くことの意義や必要なスキル、国際関係論や政治学、平和研究の分析の視座、そして民族的マイノリティと平和に関する学術的な知見を学ぶ。

授業の到達目標

学術書を読み、その内容を理解した上で、より発展的な議論ができるようになる。
民族的マイノリティと平和をめぐる諸問題について理解を深める。
学術的な文章を書くために必要な基礎的な能力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　プレゼンテーションの内容、ゼミでの議論への貢献、提出課題の内容、などから総合的に評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	グローバル社会-共生ゼミ2（民族的マイノリティと平和）（秋学期） 国家と民族の関係から平和をめぐる問題を考える							
担当者名	小松　寛							
構築	2単位	秋学期	月曜日	2時限	3年以上	—	—	フル【対面】

授業概要

本ゼミでは国際関係論や政治学、平和研究の視点から「民族的マイノリティと平和」の問題について考える。民族的マイノリティは帰属する国家に対してより高度な自治を求めたり、さらには国家からの独立を求めたりすることもある。そのためにマジョリティによる国家と対立し、場合によっては紛争にまで至るケースもある。民族的マイノリティが自治もしくは独立を求める理由は、単に独自の文化やアイデンティティを保持するためだけではなく、マジョリティによる社会よりもより民主的で公正な社会の実現を目指すための場合もある。

秋学期は春に学んだ内容を踏まえて、研究を行う上で大切な「ものの見方や考え方」を共有した上で、「少数民族」「先住民」「ナショナリズム」「アイデンティティ」と「平和」「安全保障」「人権」「自治」といったキーワードから、ゼミ全体で論究する「問い」を設定し、論究していく。

授業の到達目標

民族的マイノリティと平和をめぐる諸問題について理解を深める。
学術的な「問い」を設定し、その「問い」を論究するための研究チームづくりができるようになる。
研究報告を行うための必要な基礎的な能力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%

●**平常点**　100%　　プレゼンテーションの内容、ゼミでの議論への貢献、提出課題の内容、などから総合的に評価する。
●**その他**　0%

講 義 内 容

卒　業　研　究

科目名	卒業研究	曜日時限	無
コーディネーター	卒業研究指導教員		

授　業　概　要

卒業研究は、2年次秋学期に卒業研究を選択した学生が、4年次に履修する科目です。卒業研究では、担当教員の指導のもとで各自が研究テーマを設定し、計画的に論文を執筆・完成させます。ゼミとは異なり、毎週授業があるわけではありませんので、Waseda Moodleなどを活用しながら、定期的に教員と連絡を取るようにしてください。なお、論系や指導教員が認めた場合は、論文ではなく作品などを卒業研究として提出することもできます。

授業の到達目標

担当教員の指導を受けながら、個別に研究テーマを設定し、専門演習や講義などで深めた専門的な学修の成果としての卒業研究を作成・提出します。

教　科　書

担当教員の指示に従ってください。

参　考　文　献

担当教員の指示に従ってください。

成績評価方法

卒業研究完成までの指導状況、完成した卒業研究の内容、口述試験を行う場合にはその結果などが、総合的に評価されます。

備考・関連ＵＲＬ

以上のシラバスはあくまで一般的な卒業研究の進め方を記したものです。それぞれの担当教員と連絡を取り、進め方を各自で確認してください。

講 義 内 容

自由科目（講義算入可）

科 目 名	憲法　A　さまざまな社会問題から《憲法の基本のルール》を学ぶ							
担当者名	志田　陽子							
共通	２単位	春学期	金曜日	３時限	２年以上	―	合併科目	フル[オンライン]リアルタイム配信

授業概要

憲法上保障されている「人権」と「統治（国の仕組み）」について総合的に学ぶ、講義形式の授業です。

日本国憲法の中でも人権に関する内容は、将来、各人が社会や教育現場に立ったときに実際に直面する問題を多々含んでいます。また、「統治（国の仕組み）」について基礎知識をもっておくことは、教員や公務員を目指す人にとっては必ず必要になることです。この講義では、社会の中で発生する憲法問題をできるだけ具体的に取り上げながら、常に「見失ってはならない基本」に立ち返る、という授業を行います。

この授業の形態は、オンライン授業（オンデマンド・リアルタイム併用型）です。

授業の到達目標

①　これから社会人となる学生に考えてほしい憲法テーマについて、まず問題への気づきを目標として、講義や映画・文献の紹介をします。

②　問題の法的構成と解決思考の実践。各自が関心を持った問題についてエッセイを作成します。（中間レポート課題）

③　解決のための《論》を組む。各人が問題解決思考をもって課題に接し、論説のルールを実践して、自分の論説を組むことを課題とします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わず、レポートで評価します。

●**レポート**　60%　　期末レポートを評価の中心とします。課題の内容とルールは、授業内で解説します。

●**平常点**　35%　　出席確認と理解度確認を兼ねた「出席コメント課題」を3回から4回、提出してもらいます。

●**その他**　5%　　原則は「期末レポート課題」と平常点（出席コメント提出）を合算して総合評価をしますが、授業参加についてとくに評価すべき点があった場合（有益な質問や資料提供をしてくれた場合など）には、若干の加算をする場合があります。

備考・関連ＵＲＬ

本講義は【リアルタイムとオンデマンドの併用による授業】です。メルマガ風解説テキストに解説動画リンクをセットしたオンラインレジュメを基本教材とし、教科書による予習復習を必須とします。

新聞報道や裁判で授業に役立つ事例が出てきたときには、シラバス上の予定をずらすか、オンライン・リアルタイム授業でその話題についてお話しし、その記録動画をオンデマンド教材として共有することがあります。

以下のYahoo！に個人ブログのページで、人権に関する時事問題について、論説を投稿していますので、折に触れて参照してみてください。

https://news.yahoo.co.jp/profile/author/shidayoko/comments/

※授業の実施方法は、状況により変更となる場合があります。

科 目 名	憲法　B　さまざまな社会問題から《憲法の基本のルール》を学ぶ							
担当者名	志田　陽子							
共通	２単位	秋学期	金曜日	４時限	２年以上	―	合併科目	フル[オンライン]リアルタイム配信

授業概要

憲法上保障されている「人権」と「統治（国の仕組み）」について総合的に学ぶ、講義形式の授業です。

日本国憲法の中でも人権に関する内容は、将来、各人が社会や教育現場に立ったときに実際に直面する問題を多々含んでいます。また、「統治（国の仕組み）」について基礎知識をもっておくことは、教員や公務員を目指す人にとっては必ず必要になることです。この講義では、社会の中で発生する憲法問題をできるだけ具体的に取り上げながら、常に「見失ってはならない基本」に立ち返る、という授業を行います。

この授業の形態は、オンライン授業（オンデマンド・リアルタイム併用型）です。

授業の到達目標

①　これから社会人となる学生に考えてほしい憲法テーマについて、まず問題への気づきを目標として、講義や映画・文献の紹介をします。

②　問題の法的構成と解決思考の実践。各自が関心を持った問題についてエッセイを作成します。（中間レポート課題）

③　解決のための《論》を組む。各人が問題解決思考をもって課題に接し、論説のルールを実践して、自分の論説を組むことを課題とします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わず、レポートで評価します。

●**レポート**　60%　　期末レポート課題を中心的な評価対象とします。課題内容、課題条件は授業内で告知します。
各人が問題解決思考をもって課題に接しているか、論説のコンプライアンスを実践しているかを評価基準とします。

●**平常点**　35%　　出席確認と理解度確認のための「出席コメント課題」を3回～4回、出題します。

●**その他**　5%　　原則は「期末レポート課題」と平常点（出席コメント提出）を合算して総合評価をしますが、授業参加についてとくに評価すべき点があった場合（有益な質問や資料提供をしてくれた場合など）には、若干の加算をする場合があります。

備考・関連ＵＲＬ

本講義は【リアルタイムとオンデマンドの併用による授業】です。基本的に、Zoomを使ったリアルタイム授業を40分、オンデマンド型授業を60分の割合で進めていきます。

（メルマガ風解説テキストに解説動画リンクをセットしたオンラインレジュメを基本教材とし、教科書による予習復習を必須とします）。

新聞報道や裁判で授業に役立つ事例が出てきたときには、シラバス上の予定をずらすか、オンライン・リアルタイム授業でその話題についてお話しし、その記録動画をオンデマンド教材として共有することがあります。

以下のYahoo！に個人ブログのページで、人権に関する時事問題について、論説を投稿していますので、折に触れて参照してみてください。

https://news.yahoo.co.jp/profile/author/shidayoko/comments/

（自由科目／講義入力可）

※授業の実施方法は、状況により変更となる場合があります。

科 目 名	書道（書写）１　A							
担当者名	城間　圭太							
共通	２単位	春学期	金曜日	１時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本授業は、教育職員免許法に対応するものであり、実務経験のある教員による授業科目である。

授業の到達目標

・毛筆および硬筆の基本的な技能に習熟し、規範的な文字が書け指導することができる。
・中学校の国語科書写における指導内容について理解している。
・漢字の書体の変遷や仮名の発生とその展開について理解し、各書体の書法の特徴をふまえて書くことができる。

成績評価方法

●**試験**　20%　　第14回の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います（試験の解説についても同時間内に行います）。
●**レポート**　0%　　特になし。
●**平常点**　80%　　各回の取り組み状況を総合的に評価します。主に各回の毛筆や硬筆による成果物の内容を基に評価します。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	書道（書写）１　B							
担当者名	城間　圭太							
共通	２単位	春学期	金曜日	２時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

本授業は、教育職員免許法に対応するものであり、実務経験のある教員による授業科目である。
漢字、ひらがな、カタカナからなる日本語は、「かく」ことによって多種多様な文字の形体美が生み出されてきた。
本授業においては、その文字の形体美の多様性を確認しつつ、規範的な文字の形（字形）およびその指導法について学ぶ。
とりわけ、中学校国語科書写の時間を想定した規範的な文字に指導法を学び、自身のコミュニケーションツールとしての書写力の向上も図りたい。加えて、漢字の書体の変遷や仮名の発生について理解した上で、各書体の名跡の書法についても学んでいく。

授業の到達目標

・毛筆および硬筆の基本的な技能に習熟し、規範的な文字が書け指導することができる。
・中学校の国語科書写における指導内容について理解する。
・漢字の書体の変遷や仮名の発生と展開について理解し、各書体の書法の特徴を理解した上で書くことができる。

成績評価方法

●**試験**　20%　　第14回の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います（試験の解説についても同時間内に行います）。
●**レポート**　0%　　特になし。
●**平常点**　80%　　各回の取り組み状況を総合的に評価します。主に各回の毛筆や硬筆による成果物の内容を基に評価します。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連ＵＲＬ

初回授業では書道道具は使用しません。書道道具の詳細は第一回目の授業内でお伝えします。

科 目 名	書道（書写）２　A							
担当者名	宮崎　肇							
共通	２単位	秋学期	土曜日	３時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

書は、美と実用の一致する文字の芸術であると同時に、日常生活に欠くことの出来ない技術である。今日まで日本の文化を下支えしてきた「文字を書く」という行為について、実習と講義を通して考察する。
毎回の授業ごとに実習を行う。また、適宜講義も行う。
実習では、日本・中国の古典の臨書を中心に、書道の基礎的技術の修養を目指したい。またそれを通じて、自分なりに書を学び楽しむ方途を追求していきたい。
講義では、書の歴史的変遷について概観する。学書においては、とかく名筆・優品ばかりに目が行きがちだが、その背後にある社会、無名の数多の書の存在を意識し、その文字・書風のもつ意味についても考察する。
書は手習いと同時に目習いも重要である。時に展覧会見学を課し、大学所蔵古典籍の鑑賞も併せて行う。
古典の学書を通じて、ひとくちに楷書・行書・草書とはいっても、それぞれの書体の中には書き手によって或いは遺品によってさまざまな書風があり、それぞれ特有の魅力をもっていることに気付かされるだろう。つまり、書の“お手本”は一様ではないのである。本授業において最も重視したいのがこの点であり、書字に対する受講者個々人の意識である。“お手本”は与えられるものではなく、自らが選びとるものだという意識をもつことが大切である。

授業の到達目標

兼好法師は『徒然草』の中で「古人の書に接することは見ぬ世の人を友とする思いがする」と述べているが（第13段）、本授業を通して、そうした古人との出会いを楽しみ、それぞれの感性に任せて、書の古典の豊かな世界を追体験してほしい。そして、自分の好きな書跡を見つけるきっかけ、文字を書くことを好きになるきっかけ、自分自身の手跡を見つめ直すきっかけを得てほしい。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　20%　　学期末のレポート。
●**平常点**　80%　　各回課題への取り組み状況により評価する。提出された臨書作の巧拙にはよらない。

●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

書道具を用意のこと。道具は手持ちのもので構わない。持っていない人については、初回の授業時に指示する。

科 目 名	書道（書写）２　B							
担当者名	宮崎　肇							
共通	２単位	秋学期	土曜日	４時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

書は、美と実用の一致する文字の芸術であると同時に、日常生活に欠くことの出来ない技術である。今日まで日本の文化を下支えしてきた「文字を書く」という行為について、実習と講義を通して考察する。

毎回の授業ごとに実習を行う。また、適宜講義も行う。

実習では、日本・中国の古典の臨書を中心に、書道の基礎的技術の修養を目指したい。またそれを通じて、自分なりに書を学び楽しむ方途を追求していきたい。

講義では、書の歴史的変遷について概観する。学書においては、とかく名筆・優品ばかりに目が行きがちだが、その背後にある社会、無名の数多の書の存在を意識し、その文字・書風のもつ意味についても考察する。

書は手習いと同時に目習いも重要である。時に展覧会見学を課し、大学所蔵古典籍の鑑賞も併せて行う。

古典の学書を通じて、ひとくちに楷書・行書・草書とはいっても、それぞれの書体の中には書き手によって或いは遺品によってさまざまな書風があり、それぞれ特有の魅力をもっていることに気付かされるだろう。つまり、書の"お手本"は一様ではないのである。本授業において最も重視したいのがこの点であり、書字に対する受講者個々人の意識である。"お手本"は与えられるものではなく、自らが選びとるものだという意識をもつことが大切である。

授業の到達目標

兼好法師は『徒然草』の中で「古人の書に接することは見ぬ世の人を友とする思いがする」と述べているが（第13段）、本授業を通して、そうした古人との出会いを楽しみ、それぞれの感性に任せて、書の古典の豊かな世界を追体験してほしい。そして、自分の好きな書跡を見つけるきっかけ、文字を書くことを好きになるきっかけ、自分自身の手跡を見つめ直すきっかけを得てほしい。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　20%　　学期末のレポート。
●**平常点**　80%　　各回課題への取り組み状況により評価する。提出された臨書作の巧拙にはよらない。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

書道具を用意のこと。道具は手持ちのもので構わない。持っていない人については、初回の授業時に指示する。

科 目 名	自然地理学１　－ 地球表層部の成立ちと地震被害 －							
担当者名	渡辺　満久							
共通	２単位	春学期	木曜日	５時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

我々が生活の場としている、地球表層部の成立ちを解説し、日本列島の特徴を明確にします。本授業では、人間・社会の基盤となる地表の特性を解説し、地震被害と社会との関係にも踏み込みます。まず、宇宙を概観して地球の特徴を明らかにし、地球の歴史の視点から現在の気候環境を解説します。次いで、地球表層部では大規模な水平移動が起こっており、そのことによって地震が発生していることを紹介します。地球における日本列島の位置や特徴を明らかにし、日本で地震が多い理由を解説します。最後に、地震被害を軽減するための基礎的な資料を提示します。日本の原子力関連施設の安全性評価に関わる問題にも言及する予定です。いずれの授業においても、多数の具体的な事例をスライド等で提示します。

授業の到達目標

この授業は、社会現象や社会問題の背景にある自然現象や防災に関わる講義ですから、以下の到達目標を設定しています。

（1）地球表層部の特徴を説明できる。
（2）日本列島の特徴を述べることができる。
（3）活断層の性質・地震被害発生の要因を説明できる。
（4）地震被害軽減策を説明することができる。

成績評価方法

●**試験**　100%　　試験（理解度の確認）は3回行います。それらの採点結果を総合（第1回目：30%、第2回目：30%、第3回目：40%）して評価します。いずれの試験問題も、2〜3題の論述問題から構成されます。暗記してきた内容を箇条書きにしたような答案や、数行程度の短い答案は評価対象とはなりません。何故そう考えられるのか、どうしてそうなるのかなど、知らない人に説明するつもりで丁寧に記述する必要があります。回答における問題点や適切な回答例などを紹介し、講評を加えます。
●**レポート**　0%　　－
●**平常点**　0%　　－
●**その他**　0%　　－

備考・関連URL

（1）本講義は教室で実施します。私語を繰り返す学生は、単位を取得できません。
（2）第1回講義の終了後、説明した内容を整理したものを提出していただきます。
（3）講義に必要な図表・写真は、Waseda Moodle から入手してください。
（4）試験に関する講評は、Waseda Moodle において提示します。

科 目 名	自然地理学2 － 土砂災害、自然環境変化と人類の活動・地形形成 －							
担当者名	渡辺　満久							
共通	2単位	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

地形形成と土砂災害などの自然災害、自然環境変化と地形形成との関係などを解説します。本授業では、人間・社会の基盤となる地表の特性を解説し、土砂災害や風土と人間との関係についても踏み込みます。まず、地形の特徴と概要を解説します。その上で、山の浸蝕・土砂の運搬がどのように起こり、その結果としてどのような地形が形成されるかを解説します。地形形成過程をもとに、自然災害は普遍的な現象であることを述べ、どこにどのような自然災害が発生するのか、その予測についても紹介します。次に、現在の気候環境の特徴とその成因を明らかにしたうえで、過去から現在までの環境変遷の様子を紹介し、環境変化と人類との関係を考察します。最後に、気候環境の変化の様子は、土地の起伏に記録されていることを述べます。いずれの授業においても、多数の具体的な事例をスライドなどで紹介するほか、授業と作業を組み合わせて解説します。

授業の到達目標

この科目は、社会現象や人間活動の場となっている土地の特徴や土砂災害を解説し、自然環境の変化と人類の活動などを紹介する講義ですから、以下の到達目標を設定しています。

（1）地形形成と自然災害の関係を説明できる。
（2）現在の自然環境の地域性を説明できる。
（3）自然環境変化と人類の活動を述べることができる。
（4）自然環境変化と地形形成の関係を説明できる。

成績評価方法

●**試験**　100%　　試験（理解度の確認）は2回行います。それらの採点結果を総合（第1回目：50%、第2回目：50%）して評価します。いずれの試験問題も、2〜3題の論述問題から構成されます。暗記してきた内容を箇条書きにしたような答案や、数行程度の短い答案は評価対象とはなりません。何故そう考えられるのか、どうしてそうなるのかなど、知らない人に説明するつもりで丁寧に記述する必要があります。回答における問題点や適切な回答例などを紹介し、講評を加えます。
●**レポート**　0%　　－
●**平常点**　0%　　－
●**その他**　0%　　－

備考・関連URL

（1）本講義は教室で実施します。私語を繰り返す学生は、単位を取得できません。
（2）第1回講義の終了後、説明した内容を整理したものを提出していただきます。
（3）講義に必要な図表・写真は、Waseda Moodle から入手してください。
（4）試験に関する講評は、Waseda Moodle において提示します。

科 目 名	人文地理学1　日本の都市問題							
担当者名	高柳　長直							
共通	2単位	春学期	水曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	フル(対面)/ハイブリッド(対面授業実施以上)

授業概要

我々の社会や経済は，国境の垣根を越えて，ますますグローバル化しようとしている。その結果，地球は相対的にますます小さくなり，地理の終焉といったことも言われている。しかし，果たしてそうであろうか。人文地理学は、位置・場所・地域・空間など土地に関する知識の体系化を行なってきた学問分野である。本講義では最初に，地理学の基礎的な考え方を提示する。それをふまえ，都市をテーマに具体的な課題を考察していく。

授業の到達目標

日本の都市問題をみていく場合の視点を理解する。
論理的な思考を醸成する。
地理学的方法論の基礎を理解する。

成績評価方法

●**試験**　70%　　授業内容に即して理解しているか。論理的な説明であるか。一定以上のボリュームがあるか。
●**レポート**　20%　　課題に即しているか。テーマの設定が妥当であるか。論理的な説明であるか。自分で調査したものであるか。
●**平常点**　10%　　小テスト。
●**その他**　0%　　とくになし。

備考・関連URL

教職科目の一つとして履修する場合は、3年次までに行うことが望ましい。

科 目 名	人文地理学2　アメリカ合衆国の人文地理							
担当者名	高柳　長直							
共通	2単位	秋学期	火曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	フル(対面)/ハイブリッド(対面授業実施以上)

授業概要

日本で最もよく知られている外国の一つはアメリカであるが，意外と誤解していることも少なくない。日本に伝えられるアメリカ像は画一的なものが多いが，実は地域に多様性をもっている。本講義では，人間の諸活動の場所的差違形成の論理や地域問題に対する視点をアメリカ合衆国を事例に提示していくことにする。具体的には，自然環境と人間生活，人口と民族問題，都市問題，政治と地理との関係，食料と健康などのサブテーマに関して人文地理学的考察を行なっていく。

授業の到達目標

世界の中のアメリカ合衆国の位置づけを理解する。
日本（日本人）とアメリカ合衆国（アメリカ人）の相違を理解する。

アメリカ合衆国の地域的多様性を理解する。
地理学的方法論を理解する。

成績評価方法

●**試験**　70%　　授業内容に即して理解しているか。論理的な説明であるか。一定以上のボリュームがあるか。
●**レポート**　30%　　課題に即しているか。テーマが妥当であるか。論理的な説明であるか。自分で調査したものであるか。
●**平常点**　0%　　なし
●**その他**　0%　　なし

備考・関連ＵＲＬ

アメリカ合衆国に興味のある方や将来留学等を考えている方の受講も歓迎する。
教職科目の一つとして履修する場合は、3年次までに行うことが望ましい。

科 目 名	地誌1							
担当者名	佐々木　智章							
共通	２単位	春学期	月曜日	５時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】ハイブリッド【対面授業実施以上】

授業概要

私たち1人ひとりにそれぞれ特徴（個性）があるように、地域にもそれぞれ特徴（個性）があります。それらは、地域にある自然、歴史、産業、文化・風習、宗教、社会制度など様々な事象から成り立っています。こうした様々な事象を明らかにし、それぞれがどのように関わり合っているかを捉え、地域を総合的に理解することが地誌学であり、自然や歴史など特定の事象で地域を見ていく系統地理学とともに、地理学の2大部門を形成しています。本授業では、まず東日本を中心に日本の様々な地域について理解を深めた後、いくつかの海外の地域を取り上げます。受講者にとって身近な地域や、国内外のいくつかの地域を比較できるようにしながら地誌学についての理解を深めていきます。

地誌学の源流の1つには探検があるといわれています。知らない地域を知ってみたい、観光も含めて他の地域に行ってみたいと思っている人は少なくないでしょう。教員志望者だけでなく、そのような地域に対して興味・関心を持つ人の受講も歓迎します。また、地域を総合的に理解することは、中学や高校の地理学習において全ての人が経験していることでもあります。中学や高校時代に地理に興味・関心を持っていた人の受講も歓迎します。受講者が地域についてさらに興味・関心を持ち、本授業で学んだことを活用して地域にある新しい、そして多様な価値を発見してくれることを期待します。

授業の到達目標

1）地域を構成している様々な地理的事象を構造的に理解する。
2）広い視野から地域が持つ様々な価値を発見する。
3）中学校や高校で学んだ地理学習の意義を再認識する。

成績評価方法

●**試験**　30%　　授業内容に基づいたテーマについて記述し提出します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　各回の授業において、指示されたテーマについて200字～400字程度のまとめ、または小レポートを提出します。
●**その他**　30%　　第8回授業において、それまでの授業内容に基づいたテーマについて記述し提出します。

科 目 名	地誌2　アジアの中心と周縁							
担当者名	齋藤　正憲							
共通	２単位	秋学期	金曜日	４時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

ひとは環境と向き合い、その強い規制を受けつつも、独自の生活文化を築き、固有の歴史を紡いできました。環境との関わりのなかで醸成される「風土」は、だから、地域ごとにじつにさまざまな相貌をみせます。そのような地域性／地域らしさを、自然地理学と人文地理学の両面から読み解こうとするのが、地誌というアプローチになります。ここに、目下、担当者が強い関心を寄せている宗教人類学的な考察も交えたいと思います。それぞれの地域文化の特性（歴史的背景を含む）にも配慮し、相互に比較・検討することで、地域性を踏まえた異文化理解への道筋が示されるでしょう。一定の文化観（アジア観や日本文化観など）が受講生のみなさんの裡に像を結ぶなら、これに勝る喜びはありません。 本講義を通じて、人間・世界を深く探り、人間・社会の歴史的究明への糸口を掴み、人間・文化の本質を手繰り寄せる確固たる視点を獲得してほしいと考えています。

授業の到達目標

自然環境との関わりのなかで、ひとはどのように暮らしているのでしょうか？　そこに見出されるのは、どのような戦略なのか？　社会の変化は地域の文化伝統にどのような変容を強いるのでしょう？　さまざまなアジアについて、その素顔に迫りたいと考えています。その際には、各地の呪術実践事例を取り上げつつ、宗教／信仰文化にも注目したいと思います。この試みを通じて、目まぐるしく変化する世界情勢を理解するための怜悧な観点を培ってもらいえれば幸いです。なお、本講義では、とくにアジアに焦点をあてます。受講生のみなさんの裡に、日本文化をも視野におさめた、それぞれの「アジア観」が涵養されんことを強く期待しています。

成績評価方法

●**試験**　80%　　「理解度の確認」を重要視します。講義内容を踏まえ、自身の地誌観を論述で説明する形式を考えています。
●**レポート**　0%　　レポートを課すことは考えておりません。
●**平常点**　20%　　授業への積極的参加を勘案したいと思います。
●**その他**　0%　　とくになし。

科 目 名	法学原論　A							
担当者名	奥田　喜道							
共通	２単位	春学期	無	フルOD	１年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

本科目は大学で学ぶ法学各分野の入門的学習を通じて，社会における法の役割や法制度の仕組みを学習するとともに，国の最高法規である日本国憲法とそれぞれの法分野がいかなる関係があるかをそれぞれ確認する。この科目は文化構想学部のディプロマ・ポリシー「人と情報が地球規模で交流し、文化が複雑に絡まりあい、多面的な様相がみられる時代を生き抜くための幅広い教養をもった人材を育成する」ことを目的としつつ，他方で文学部のディプロマ・ポリシーの「伝統的な学問分野を深く学ぶことによって、時代の波に翻弄されることなく、確かな視点から人間の本質を理解できる人材を育成する」ことも目的としている。つまり，近代以降の法学の基礎を身につけるとともに現代社会の諸問題について扱う予定である。

授業の到達目標

1．各法分野の思考法や基本原則を理解し，近代法の価値観や法的思考方法を身につける。
2．身近な事例を通じて，法的な問題について分析し，解決方法を身につける。
3．表現者あるいは文化構想を担う者として必要は法的知識を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特になし
●**レポート**　50%　　論述式の問題and/orレポート式の課題を期末課題として出題する。レポート式の場合は出典表示の適切性，論理的構成，出題趣旨との一致等を評価項目とする。
●**平常点**　0%　　特になし
●**その他**　50%　　各回Moodleで出題する小テストの成績を期限内に提出すること。

備考・関連ＵＲＬ

《受講上の注意》六法の購入は不要である。法令の検索方法については初回に説明する。

科 目 名	法学原論　B							
担当者名	菅谷　麻衣							
共通	２単位	秋学期	無	フルOD	１年以上	—	合併科目	フル【オンライン】フルオンデマンド

授業概要

本授業では前半に法学の考え方や基本的な知識を扱い、後半で憲法の基本原理や論点を取り上げる予定である。授業の内容は入門程度を予定しているが、受講者に高校程度の政治・経済の知識があることが望ましい。授業では毎回レジュメを配布し、基本的にはレジュメに沿って授業を進める。詳しい授業の受け方（ノートのとり方・教科書の使い方等）については初回の授業で説明する。なお、以下の授業計画は暫定的なものであり、時事問題を取り上げるために順序や項目を変更することもある。

※本講義は全回オンデマンド授業である。

授業の到達目標

①法学の基本的な知識について習得すること。
②日本国憲法の基本原理と各条文の関係・内容を理解すること。
③日本国憲法に関わる諸問題について知識を深め、自分なりの見解を持てること。

成績評価方法

●**試験**　80%　　第14回目の授業時間中に試験を行い、理解度を確認する。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　20%　　授業内レポート、小テスト等から授業への積極性を評価する。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連ＵＲＬ

本授業はオンライン授業（Waseda Moodleにてオンデマンド方式）で行う。

科 目 名	政治学原論　A　現代政治理論入門							
担当者名	金田　耕一							
共通	２単位	春学期	月曜日	２時限	１年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

一般に、政治学では各国政治の権力構造や行政組織、その国の政治の歴史、あるいは国家間の政治外交関係の問題などが扱われます。これらは、いうなれば「政治という現象」に関する研究です。これに対して本講義では、暴力と権力とは何か、自由や平等は何を意味しているのか、公正な社会とはどのような社会か、これらの問いをめぐる原論的説明を主題としています。前者の「現象」に関する研究を「経験的・実証的研究」とすれば、「原論」では「規範的・原理的研究」をおこなうことになります。

現在、私たちはさまざまな政策課題に直面しています。おおくの人にとって最も関心があるのは、私たちの毎日の生活にかかわる問題かもしれません。それらは簡単に解決できるような問題ではありません。しかし、政治においては簡単に解決できるような問題はないのです。

しかし、具体的な政策課題にとりくむうえですべての市民が知っておくべき前提的な知識があります。なぜ私たちは、一方では激しく対立・競争しながら他方では協力し、助け合わなければならないのか。デモクラシー的な方法は社会的問題を解決するうえで最善の方法なのか。なぜデモクラシーはつねにうまく「機能していない」ように見えるのか。　ただ事実を列挙したところで、政治的問題の本質・原理を理解することはできません、できるだけ、政治について「深く考える」ことができるようにするために、まず政治の前提的知識について学ぶことが、本講義の目的です。

授業の到達目標

暴力と権力とは何か、自由や平等は何を意味しているのかなどについて、現代の政治理論の諸主題の概要を理解し、それをつかって現代の政治的問題について規範的・理念的に考えることhができるようにする。また、政治と経済、政治と倫理の関係についての歴史的理解を振り返って、私たちの政治に欠けているもの、について考えることができるようにする。

成績評価方法

毎回、アンケートを実施して、授業の理解度、授業への取り組み、問題関心について評価する。この評価を28点満点とする。さらに、学期末にレポート試験を実施する。この評価を72点満点とする。合計100点として評価する。

科 目 名	政治学原論　B　現代政治理論入門							
担当者名	金田　耕一							
共通	2単位	秋学期	月曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

一般に、政治学では各国政治の権力構造や行政組織、その国の政治の歴史、あるいは国家間の政治外交関係の問題などが扱われます。これらは、いうなれば「政治という現象」に関する研究です。これに対して本講義では、暴力と権力とは何か、自由や平等は何を意味しているのか、公正な社会とはどのような社会か、これらの問いをめぐる原論的説明を主題としています。前者の「現象」に関する研究を「経験的・実証的研究」とすれば、「原論」では「規範的・原理的研究」をおこなうことになります。

現在、私たちはさまざまな政策課題に直面しています。おおくの人にとって最も関心があるのは、私たちの毎日の生活にかかわる問題かもしれません。それらは簡単に解決できるような問題ではありません。しかし、政治においては簡単に解決できるような問題はないのです。

しかし、具体的な政策課題にとりくむうえですべての市民が知っておくべき前提的な知識があります。なぜ私たちは、一方では激しく対立・競争しながら他方では協力し、助け合わなければならないのか。デモクラシー的な方法は社会的問題を解決するうえで最善の方法なのか。なぜデモクラシーはつねにうまく「機能していない」ように見えるのか。　ただ事実を列挙したところで、政治的問題の本質・原理を理解することはできません、できるだけ、政治について「深く考える」ことができるようにするために、まず政治の前提的知識について学ぶことが、本講義の目的です。

授業の到達目標

暴力と権力とは何か、自由や平等は何を意味しているのかなどについて、現代の政治理論の諸主題の概要を理解し、それをつかって現代の政治的問題について規範的・理念的に考えることhができるようにする。また、政治と経済、政治と倫理の関係についての歴史的理解を振り返って、私たちの政治に欠けているもの、について考えることができるようにする。

成績評価方法

毎回、アンケートを実施して、授業の理解度、授業への取り組み、問題関心について評価する。この評価を28点満点とする。さらに、学期末にレポート試験を実施する。この評価を72点満点とする。合計100点として評価する。

科 目 名	経済学原論　ミクロ経済学とマクロ経済学の初歩							
担当者名	熊谷　善彰							
共通	2単位	秋学期	金曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

経済学の体系の概要を説明するとともに、我々が日常接する経済の現実問題について経済学的理解を深める。経済問題が、我々の日常生活にいかに密接に結びついているか、そしてそれらを理解するための道具として経済学がいかに有効か、いかなる制約の下にあるかについて明らかにする。ミクロ経済学、マクロ経済学のそれぞれについての基礎的な部分を扱う。

授業の到達目標

ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎的な部分を理解する

成績評価方法

●**試験**　40%　　経済学の基礎的な理論に対する理解を確認するため、内容の区切り毎に複数回実施します。

●**レポート**　20%　　経済学の基礎的な理論に対する理解。知識を現実問題に適用する能力を評価するため、内容の区切り毎に複数回実施します。

●**平常点**　40%　　課題、レビューシート等の提出状況。

●**その他**　0%

備考・関連URL

各回、資料をMoodleにアップロードしますので、各自印刷してご持参いただくか、授業中、適宜PC等でご参照ください。（原則、紙での配布は致しません）

課題・レポートは、Moodle上に提出して頂く場合もあります（内容の区切り毎に複数回実施します）。試験は教場で3回小テスト（30分程度）を実施します、オンライン上にアップした問題に解答して頂くものもあります。

科 目 名	生涯学習支援論1　参加体験型学習と支援者の役割							
担当者名	新井　浩子							
共通	2単位	春学期	金曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

近年、学校教育では、対話や問題発見、問題解決型の教育が注目され、学習者が主体的にテーマについて探求する学習や主体的な学習能力の育成を目的とするアクティブラーニングが導入されるようになりました。一方、生涯学習・社会教育では以前から「学習者が主人公となる学び」が重視されており、そのための学習支援の方法が開発されてきました。この授業ではそうした学習方法の一つである、参加体験型学習（ワークショップ）を取り上げ、その構造や支援者（ファシリテーター）の役割について学びます。 授業では、生涯学習・社会教育で実施されているワークショップを実際に体験してもらい、それをもとに、学習としての構造や支援の在り方について解説します。また、学習者の多様な特性に応じた学習のデザインや学習支援（ファシリテーション）技法についても学びます。

当事者同士が互いに学びあう生涯学習・社会教育には、学校教育のような"教師"はおらず、"正解"もありません。「学習者が主人公となる学び」とはどのようなものか、どうしたら実現するのか、支援者はどのような役割をはたすのか、一緒に考えましょう。

※【実務経験のある教員による実践的な授業科目】

この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして実践的な教育を行う科目です。

授業の到達目標

1. 参加体験型学習の学習構造および理論を理解する。
2. 参加体験型学習における支援者の役割を理解する。
3. 基礎的な学習プログラム編成とファシリテーションができるようになる。
4. 生涯学習とその支援について自分なりの考えをもつ。

成績評価方法

・授業で学んだことをふり返り、学ぶ人が主人公となる学習のデザインについて考察するレポート（評価割合70%）。
・ワークショップ企画（評価割合20%）。
・グループワークや授業への参加・貢献度（評価割合10%）

備考・関連URL

全ての回で話し合いなどのグループワークを実施しますので、積極的に参加してください。

科 目 名	生涯学習支援論2　学習支援の方法と支援者の役割							
担当者名	新井　浩子							
共通	2単位	秋学期	金曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	フル【対面】

授業概要

近年では、学校を卒業しても学び続ける人が多くなっています。地域には、図書館・博物館・公民館・青少年施設・大学やNPOの公開講座など様々な学習の場があり、子どもから高齢者まで多様な年齢の人が生涯学習を実践しており、学習者が主人公となる学習の場づくりが行われています。この授業では、そうした学習の場をつくる人＝学習支援者、に焦点をあて、学ぶ人自身が主人公になれる学習の場づくりについて、講義だけでなく、現場訪問、支援者へのインタビュー等のフィールドワークを通じて考察します。

当事者同士が互いに学びあう生涯学習・社会教育には、学校教育のような“教師”はおらず、“正解”もありません。生涯学習の内容や方法は地域や時代によって変化しますが、現在は大きな転換期にあります。今人びとは何をどのように学ぼうとしているのか、生涯学習の現場はどのような課題に直面しているのかを具体的に理解し、生涯学習の発展のためにどのような支援が必要なのか一緒に考えましょう。

※【実務経験のある教員による実践的な授業科目】

この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして実践的な教育を行う科目です。

授業の到達目標

自治体やNPO、関係団体等による多様な学習の場づくりの実際を知り、
1、生涯学習支援の実際と課題を具体的に理解できるようになる。
2. 学習ニーズの把握、地域の学習資源の活用など、学習支援者の多様な役割を具体的に理解できるようになる。
3、現代における生涯学習支援の重要性と課題、学習支援者の役割について、自分なりの考えを述べることができるようになる。

成績評価方法

・授業で学んだことをふり返り、生涯学習支援の方法と支援者の役割について考察するレポート（評価割合50%）
・フィールドワークの成果発表（評価割合40%）
・話し合いやグループワークへの参加・貢献度（評価割合10%）

備考・関連URL

・授業では、少人数に分かれてのディスカッションなどのグループワークを実施します。